

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第336集

長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業関連遺跡発掘調査

〈第一分冊〉



(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

ながくら
長倉Ⅰ遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業関連遺跡発掘調査

〈第一分冊〉



遺跡全景（東側上空から）



遺跡全景（上空から、上方が西）



K11住居跡（晩期の大形住居、14～16m）



大形の柱穴状土坑（底面に変色した部分が見られる）



東部捨て場作業風景



噴砂（東部捨て場内、G26～F26グリッド附近）



彩色注口土器



注口土器（後期）



単孔土器（後期）



香炉形土器（後期）



土偶の顔



土偶（後期）



大形の土偶（後期、全長29.8cm、幅14.8cm、厚さ4.7cm）



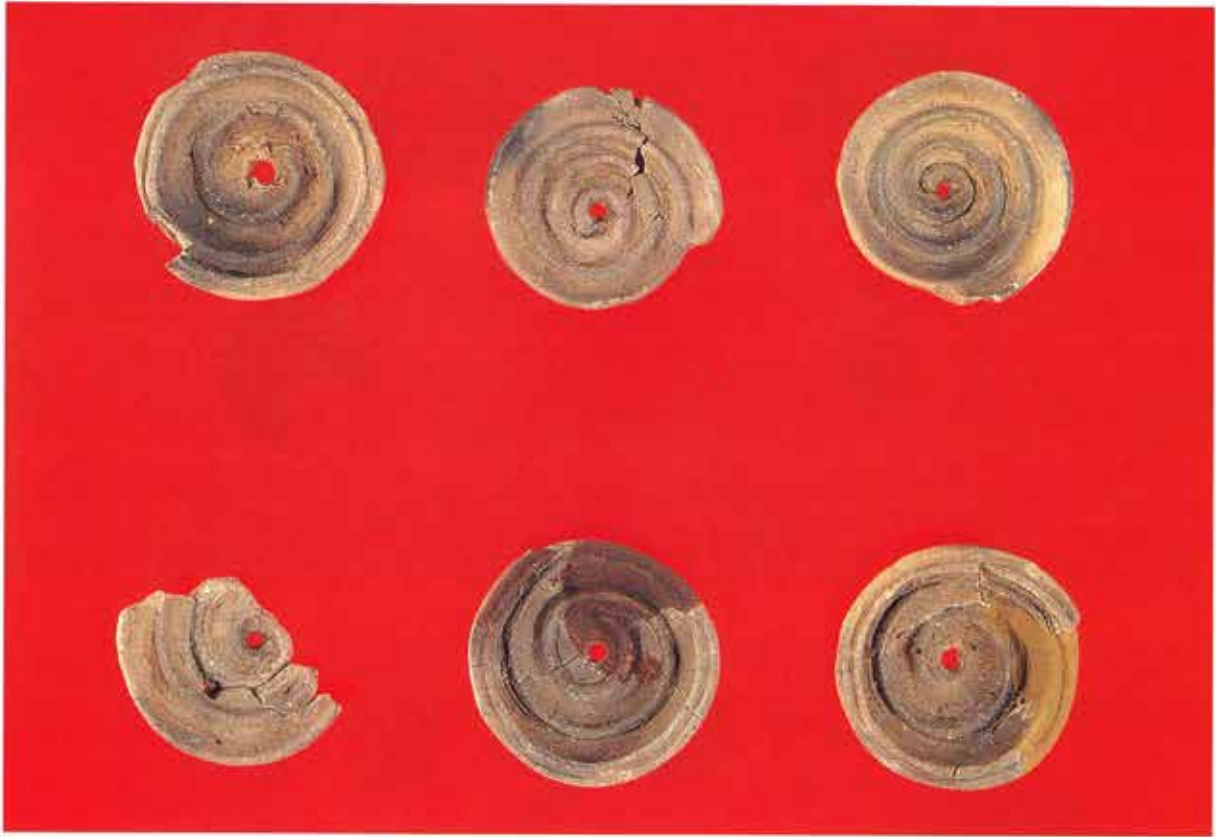
耳飾り・飾り玉



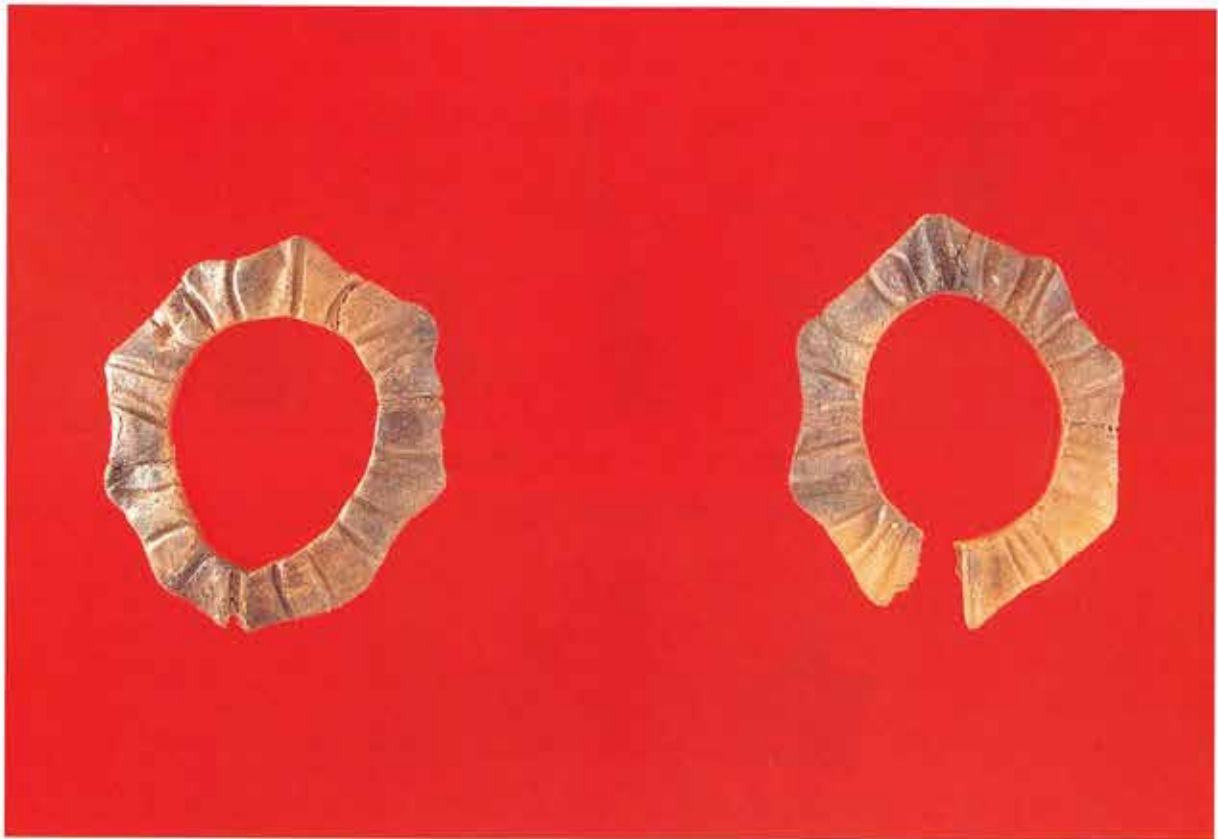
鐸形・スプーン・スタンプ形土製品



腕飾り?



内面渦状土製品（イモ貝形土製品）



釧形土製品

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする多くの埋蔵文化財包蔵地が各地にあり、平成10年度の岩手県教育委員会のまとめでは10,278箇所を越えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存してゆくことは私達県民に課せられた重大な責務であります。

本調査の原因となりました広域農道整備事業を例に挙げるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活をおくるための地域開発もまた県民の切実な願いであります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という、相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的な課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財の保護の立場にたって、その記録を残す措置を取ってまいりました。

本書は、平成6年度から3年間にわたって発掘調査が行われた、長倉I遺跡の調査結果をまとめたものであります。遺跡は、北上高地の北端にある南北に長い尾根頂部に立地している縄文時代後期から晩期の集落跡であることがあきらかとなりました。約1000年間に及ぶ長い間に集落が営まれてきたことが明らかとなっております。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助、ご協力を賜りました岩手県土木部二戸土木事務所（現岩手県二戸地方振興局土木部）、軽米町教育委員会を始めとする関係各位に衷心よりの謝意を表します。

平成12年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 船越昭治

例 言

- 1 本書は岩手県九戸郡軽米町大字長倉字一本木10-1ほかに所在する長倉I遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、広域農道整備事業関連施設に伴う事前の緊急発掘調査であり、岩手県教育委員会文化課の指導と調整のもとに、岩手県二戸土地改良事業所の委託を受け、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施したものである。
- 3 本遺跡の岩手県遺跡台帳番号はI F 63-2309、当センターの調査略号はNK I-94、95、96である。
- 4 野外調査の期間、調査面積、担当者は以下の通りである。
平成6年7月1日～11月10日 1000㎡ 中川重紀・酒井宗孝・稲垣雅宏・鎌田精造
平成7年4月11日～9月5日 1004㎡ 中川重紀・工藤利幸・星 雅之・高木 晃・村上 拓・千葉貴子
平成8年4月16日～11月8日 1342㎡ 中川重紀・星 雅之・平澤里香・高橋実央
- 5 室内整理期間、担当者は以下の通りである。
平成6年11月1日～平成7年3月31日 中川重紀・稲垣雅宏
平成7年11月18日～平成8年3月31日 中川重紀・千葉貴子
平成8年11月9日～平成9年3月31日 中川重紀・平澤里香
平成9年4月1日～平成10年3月31日 中川重紀
平成10年4月1日～平成11年3月31日 星 雅之
- 6 出土品の鑑定は次の方々、機関に依頼した。
石器・石製品の石材鑑定 佐藤二郎（長内水源工業）
獣骨類の鑑定 佐々木務
- 7 本報告書の執筆・編集は星 雅之が行った。表は中川が作成したものを星が引き継ぎ加筆・構成した。
- 8 調査および室内整理に際しては次の方々、機関に御指導・御協力を賜った。（順不同・敬称略）
熊谷常正（盛岡大学）、鈴木恵治（久慈水産高校）、日下和寿（岩手県立博物館）、末光正卓・阿部明義（北海道埋蔵文化財センター）、鎌田裕二（宮古市教委）、原川雄二・山口慶一・山本孝司（東京都埋蔵文化財センター）、稲野裕介（北上市埋蔵文化財センター）、安斎正人・佐藤宏之（東京大学）、大塚達朗（南山大学）、鈴木克彦（青森県立郷土館）、福田友之・木村鐵次郎・中村哲也・茅野嘉雄（青森県埋蔵文化財センター）、堀江格（福島市振興公社）、川向聖子（山田町教委）、中村明央（一戸町教委）、松本建速（筑波大学）
- 9 野外調査は軽米町教育委員会をはじめ地元の方々のご協力をいただいた。
- 10 室内整理作業は、下記の方々のご協力を得た。
浅沼啓子、浅沼八千代、高橋妙子、吉田美香、菊池貴子、熊谷静江、川原悦子、阿部桂子、佐々木麻巳、阿部敏子、高橋葉子、上關知子、山崎さなえ、内藤佐知子、吉田里和、水口要、藤村憲子、横井内シミ子、白崎理家、吉田加代子、高倉京子、筒井律子、佐々木宏子、岩館富士子、橋本順子、浅沼則子、浅沼光子、滝村テツ子、川村美智子、泉谷久美子、佐々木薫、田村菊代、三上美智、菅原厚子、福士夕紀枝、浅沼美紀、熊谷知恵子、佐藤由美子、桐田欄子、勝政房江、西村美智子、菅原ゆかり、照井歩美、高橋道代、小笠原邦子、本館京子、小笠原千春、吉田育子、高橋史佳、須藤千賀子
- 11 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。
- 12 調査成果は現地公開資料、調査略報、岩手考古学会発表資料ほかに掲載したが、内容は本書が優先する。

目 次

序

例言

<本 文>

第Ⅰ章 調査に至る経過	1	第Ⅴ章 出土遺物について	185
第Ⅱ章 遺跡の立地と環境	1	1 土器	185
1 遺跡の位置	1	2 土製品	209
2 地質・地形	2	3 石器	215
3 基本層序	4	4 石製品	218
4 周辺の遺跡	6	5 岩石類	219
第Ⅲ章 調査方法と整理方法	15	第Ⅵ章 遺物の出土分布と接合関係について	489
1 野外調査	15	1 土器	489
2 室内整理	16	2 土製品	498
3 遺物の掲載について	17	3 石器	505
4 トータルステーションについて	19	4 石製品	508
第Ⅳ章 検出された遺構	29	第Ⅶ章 縄文時代後期～晩期土器の器形について	513
1 住居跡・住居跡状	30	1 深鉢	513
2 掘立柱建物跡	65	2 鉢	519
3 炉跡	89	3 壺	527
4 焼土遺構	90	4 注口土器	538
5 土坑	94	5 まとめ	546
6 柱穴状土坑	95	第Ⅷ章 まとめと考察	547
7 柱穴列	96	1 遺構	547
8 集石・立石遺構	161	2 遺物	568
9 溝跡遺構	161	3 総括	597
10 旧沢跡	162	第Ⅸ章 長倉Ⅰ遺跡出土動物遺存体	601
11 古地震跡	167		
12 捨て場	168		

◁ 図版 ▷

第 1 図	岩手県図に見る遺跡の位置	7	第 64 図	土坑・柱穴状土坑 (16)	112
第 2 図	周辺地形図	8	第 65 図	土坑・柱穴状土坑 (17)	113
第 3 図	地形分類図	9	第 66 図	土坑・柱穴状土坑 (18)	114
第 4 図	基本層序	10	第 67 図	土坑・柱穴状土坑 (19)	115
第 5 図	調査区各地点の層序	11	第 68 図	土坑・柱穴状土坑 (20)	116
第 6 図	周辺の遺跡位置図	12	第 69 図	土坑・柱穴状土坑 (21)	117
第 7 図	グリッド配置図	21	第 70 図	土坑・柱穴状土坑 (22)	118
第 8 図	凡例	22	第 71 図	土坑・柱穴状土坑 (23)	119
第 9 図	遺構配置図 1	23	第 72 図	土坑・柱穴状土坑 (24)	120
第 10 図	遺構配置図 2	24	第 73 図	土坑・柱穴状土坑 (25)	121
第 11 図	遺構配置図 3	25	第 74 図	土坑・柱穴状土坑 (26)	122
第 12 図	遺構配置図 4	26	第 75 図	土坑・柱穴状土坑 (27)	123
第 13 図	遺構配置図 5	27	第 76 図	土坑・柱穴状土坑 (28)	124
第 14 図	遺構配置図 6	28	第 77 図	土坑・柱穴状土坑 (29)	125
第 15 図	Q12住居跡	29	第 78 図	土坑・柱穴状土坑 (30)	126
第 16 図	K11住居跡 (1)、J12住居跡	31	第 79 図	土坑・柱穴状土坑 (31)	127
第 17 図	K11住居跡 (2)	32	第 80 図	土坑・柱穴状土坑 (32)	128
第 18 図	G11住居跡状	36	第 81 図	土坑・柱穴状土坑 (33)	129
第 19 図	G12・13・14住居跡	39	第 82 図	土坑・柱穴状土坑 (34)	130
第 20 図	G15住居跡 (1)	40	第 83 図	土坑・柱穴状土坑 (35)	131
第 21 図	G15住居跡 (2)	41	第 84 図	土坑・柱穴状土坑 (36)	132
第 22 図	F10住居跡状、F12・13住居跡	44	第 85 図	土坑・柱穴状土坑 (37)	133
第 23 図	F18住居跡 1号・2号、F19住居跡状	47	第 86 図	土坑・柱穴状土坑 (38)	134
第 24 図	E15住居跡状 1号・2号	48	第 87 図	土坑・柱穴状土坑 (39)	135
第 25 図	E19住居跡	53	第 88 図	土坑・柱穴状土坑 (40)	136
第 26 図	C16住居跡 1号	54	第 89 図	土坑・柱穴状土坑 (41)	137
第 27 図	C16住居跡 2号	55	第 90 図	土坑・柱穴状土坑 (42)	138
第 28 図	D19住居跡、C22住居跡状 1号・2号	56	第 91 図	土坑・柱穴状土坑 (43)	139
第 29 図	C23住居跡状 1号・2号、C24住居跡状	59	第 92 図	土坑・柱穴状土坑 (44)	140
第 30 図	B21住居跡状 1号・2号・3号	60	第 93 図	土坑・柱穴状土坑 (45)	141
第 31 図	B22住居跡 1号・2号	63	第 94 図	土坑・柱穴状土坑 (46)	142
第 32 図	C21掘立柱建物跡	66	第 95 図	土坑・柱穴状土坑 (47)	143
第 33 図	D16掘立柱建物跡 1号	69	第 96 図	土坑・柱穴状土坑 (48)	144
第 34 図	D16掘立柱建物跡 2号	70	第 97 図	土坑・柱穴状土坑 (49)	145
第 35 図	E15掘立柱建物跡	71	第 98 図	土坑・柱穴状土坑 (50)	146
第 36 図	E20掘立柱建物跡	72	第 99 図	土坑・柱穴状土坑 (51)	147
第 37 図	E21掘立柱建物跡	75	第 100 図	土坑・柱穴状土坑 (52)	148
第 38 図	F14掘立柱建物跡	76	第 101 図	土坑・柱穴状土坑 (53)	149
第 39 図	G16掘立柱建物跡	77	第 102 図	土坑・柱穴状土坑 (54)	150
第 40 図	G18掘立柱建物跡	78	第 103 図	土坑・柱穴状土坑 (55)	151
第 41 図	G19掘立柱建物跡	81	第 104 図	土坑・柱穴状土坑 (56)	152
第 42 図	H13掘立柱建物跡	82	第 105 図	土坑・柱穴状土坑 (57)	153
第 43 図	I11掘立柱建物跡	83	第 106 図	土坑・柱穴状土坑 (58)	154
第 44 図	K12掘立柱建物跡 1号	84	第 107 図	土坑・柱穴状土坑 (59)	155
第 45 図	K12掘立柱建物跡 2号	87	第 108 図	土坑・柱穴状土坑 (60)	156
第 46 図	N15掘立柱建物跡	88	第 109 図	土坑・柱穴状土坑 (61)	157
第 47 図	B23炉跡、B24炉跡 1号・2号	91	第 110 図	G23柱穴列	158
第 48 図	D23炉跡、B19焼土、C19焼土、C23焼土、C25焼土、 C26焼土 1号・2号	92	第 111 図	E19集石	159
第 49 図	土坑・柱穴状土坑 (1)	97	第 112 図	M17立石	160
第 50 図	土坑・柱穴状土坑 (2)	98	第 113 図	M15溝状遺構	163
第 51 図	土坑・柱穴状土坑 (3)	99	第 114 図	旧沢跡	164
第 52 図	土坑・柱穴状土坑 (4)	100	第 115 図	古地震跡	165
第 53 図	土坑・柱穴状土坑 (5)	101	第 116 図	捨て場範囲図	166
第 54 図	土坑・柱穴状土坑 (6)	102	第 117 図	東部捨て場土層断面	175
第 55 図	土坑・柱穴状土坑 (7)	103	第 118 図	東部・西部捨て場土層断面	176
第 56 図	土坑・柱穴状土坑 (8)	104	第 119 図	西部捨て場土層断面	179
第 57 図	土坑・柱穴状土坑 (9)	105	第 120 図	土層断面㉓-1	180
第 58 図	土坑・柱穴状土坑 (10)	106	第 121 図	土層断面㉓-2	181
第 59 図	土坑・柱穴状土坑 (11)	107	第 122 図	土層断面㉗	182
第 60 図	土坑・柱穴状土坑 (12)	108	第 123 図	土層断面㉘	183
第 61 図	土坑・柱穴状土坑 (13)	109	第 124 図	土層断面㉙	184
第 62 図	土坑・柱穴状土坑 (14)	110	第 125 図	土器分類例図	201
第 63 図	土坑・柱穴状土坑 (15)	111	第 126 図	深鉢器形分類図 1	202
			第 127 図	深鉢器形分類図 2	203

第128図	深鉢器形分類図 3	204
第129図	鉢器形分類図	205
第130図	壺器形分類図 1	206
第131図	壺器形分類図 2	207
第132図	注口土器器形分類図	208
第133図	土製品分類図	214
第134図	石器分類図 1 (剝片石器)	220
第135図	石器分類図 2 (磨製石斧)	221
第136図	遺構内出土土器 1	223
第137図	遺構内出土土器 2	224
第138図	遺構内出土土器 3	225
第139図	遺構内出土土器 4	226
第140図	遺構内出土土器 5	227
第141図	遺構内出土土器 6	228
第142図	遺構内出土土器 7	229
第143図	遺構内出土土器 8	230
第144図	遺構内出土土器 9	231
第145図	遺構内出土土器 10	232
第146図	遺構内出土土器 11	233
第147図	遺構内出土土器 12	234
第148図	遺構内出土土器 13	235
第149図	遺構内出土土器 14	236
第150図	遺構内出土土器 15	237
第151図	遺構内出土土器 16	238
第152図	遺構内出土土器 17	239
第153図	遺構内出土土器 18	240
第154図	遺構内出土土器 19	241
第155図	遺構内出土土器 20	242
第156図	遺構内出土土器 21	243
第157図	遺構内出土土器 22	244
第158図	遺構内出土土器 23	245
第159図	遺構内出土土器 24	246
第160図	遺構内出土土器 25	247
第161図	遺構内出土土器 26	248
第162図	遺構内出土土器 27	249
第163図	遺構内出土土器 28	250
第164図	遺構内出土土器 29	251
第165図	遺構内出土土器 30	252
第166図	遺構内出土土器 31	253
第167図	遺構内出土土器 32	254
第168図	遺構内出土土製品 1	255
第169図	遺構内出土土製品 2	256
第170図	遺構内出土土製品 3	257
第171図	遺構内出土土製品 4	258
第172図	遺構内出土土製品 5	259
第173図	遺構内出土石器 1	260
第174図	遺構内出土石器 2	261
第175図	遺構内出土石器 3	262
第176図	遺構内出土石器 4	263
第177図	遺構内出土石器 5	264
第178図	遺構内出土石器 6	265
第179図	遺構内出土石器 7	266
第180図	遺構内出土石器 8	267
第181図	遺構内出土石器 9	268
第182図	遺構内出土石器 10	269
第183図	遺構内出土石器 11	270
第184図	遺構内出土石器 12	271
第185図	遺構内出土石器 13	272
第186図	遺構内出土石器 14	273
第187図	遺構内出土石器 15	274
第188図	遺構内出土石器 16	275
第189図	遺構内出土石器 17	276
第190図	遺構内出土石器 18	277
第191図	遺構内出土石器 19	278
第192図	遺構内出土石器 20	279
第193図	遺構内出土石器 21	280

第194図	遺構内出土石器 22	281
第195図	遺構内出土石器 23	282
第196図	遺構外土器 1 (東部捨て場)	283
第197図	遺構外土器 2 (東部捨て場)	284
第198図	遺構外土器 3 (東部捨て場)	285
第199図	遺構外土器 4 (東部捨て場)	286
第200図	遺構外土器 5 (東部捨て場)	287
第201図	遺構外土器 6 (東部捨て場)	288
第202図	遺構外土器 7 (東部捨て場)	289
第203図	遺構外土器 8 (東部捨て場)	290
第204図	遺構外土器 9 (東部捨て場)	291
第205図	遺構外土器 10 (東部捨て場)	292
第206図	遺構外土器 11 (東部捨て場)	293
第207図	遺構外土器 12 (東部捨て場)	294
第208図	遺構外土器 13 (東部捨て場)	295
第209図	遺構外土器 14 (東部捨て場)	296
第210図	遺構外土器 15 (東部捨て場)	297
第211図	遺構外土器 16 (東部捨て場)	298
第212図	遺構外土器 17 (東部捨て場)	299
第213図	遺構外土器 18 (東部捨て場)	300
第214図	遺構外土器 19 (東部捨て場)	301
第215図	遺構外土器 20 (東部捨て場)	302
第216図	遺構外土器 21 (東部捨て場)	303
第217図	遺構外土器 22 (東部捨て場)	304
第218図	遺構外土器 23 (東部捨て場)	305
第219図	遺構外土器 24 (東部捨て場)	306
第220図	遺構外土器 25 (東部捨て場)	307
第221図	遺構外土器 26 (東部捨て場)	308
第222図	遺構外土器 27 (東部捨て場)	309
第223図	遺構外土器 28 (東部捨て場)	310
第224図	遺構外土器 29 (東部捨て場)	311
第225図	遺構外土器 30 (東部捨て場)	312
第226図	遺構外土器 31 (東部捨て場)	313
第227図	遺構外土器 32 (東部捨て場)	314
第228図	遺構外土器 33 (東部捨て場)	315
第229図	遺構外土器 34 (東部捨て場)	316
第230図	遺構外土器 35 (東部捨て場)	317
第231図	遺構外土器 36 (東部捨て場)	318
第232図	遺構外土器 37 (東部捨て場)	319
第233図	遺構外土器 38 (東部捨て場)	320
第234図	遺構外土器 39 (東部捨て場)	321
第235図	遺構外土器 40 (東部捨て場)	322
第236図	遺構外土器 41 (東部捨て場)	323
第237図	遺構外土器 42 (東部捨て場)	324
第238図	遺構外土器 43 (東部捨て場)	325
第239図	遺構外土器 44 (東部捨て場)	326
第240図	遺構外土器 45 (東部捨て場)	327
第241図	遺構外土器 46 (東部捨て場)	328
第242図	遺構外土器 47 (西部捨て場)	329
第243図	遺構外土器 48 (西部捨て場)	330
第244図	遺構外土器 49 (西部捨て場)	331
第245図	遺構外土器 50 (西部捨て場)	332
第246図	遺構外土器 51 (西部捨て場)	333
第247図	遺構外土器 52 (西部捨て場)	334
第248図	遺構外土器 53 (西部捨て場)	335
第249図	遺構外土器 54 (西部捨て場)	336
第250図	遺構外土器 55 (西部捨て場)	337
第251図	遺構外土器 56 (西部捨て場)	338
第252図	遺構外土器 57 (西部捨て場)	339
第253図	遺構外土器 58 (西部捨て場)	340
第254図	遺構外土器 59 (西部捨て場)	341
第255図	遺構外土器 60 (西部捨て場)	342
第256図	遺構外土器 61 (西部捨て場)	343
第257図	遺構外土器 62 (西部捨て場)	344
第258図	遺構外土器 63 (西部捨て場)	345
第259図	遺構外土器 64 (西部捨て場)	346

第260図	遺構外土器65 (西部捨て場)	347			
第261図	遺構外土器66 (西部捨て場)	348			
第262図	遺構外土器67 (西部捨て場)	349			
第263図	遺構外土器68 (西部捨て場)	350			
第264図	遺構外土器69 (西部捨て場)	351			
第265図	遺構外土器70 (西部捨て場)	352			
第266図	遺構外土器71 (西部捨て場)	353			
第267図	遺構外土器72 (西部捨て場)	354			
第268図	遺構外土器73 (西部捨て場)	355			
第269図	遺構外土器74 (西部捨て場)	356			
第270図	遺構外土器75 (西部捨て場)	357			
第271図	遺構外土器76 (西部捨て場)	358			
第272図	遺構外土器77 (西部捨て場)	359			
第273図	遺構外土器78 (西部捨て場)	360			
第274図	遺構外土器79 (西部捨て場)	361			
第275図	遺構外土器80 (西部捨て場)	362			
第276図	遺構外土器81 (西部捨て場)	363			
第277図	遺構外土器82 (西部捨て場)	364			
第278図	遺構外土器83 (西部捨て場)	365			
第279図	遺構外土器84 (西部捨て場)	366			
第280図	遺構外土器85 (西部捨て場)	367			
第281図	遺構外土器86 (西部捨て場)	368			
第282図	遺構外土器87 (西部捨て場)	369			
第283図	遺構外土器88 (西部捨て場)	370			
第284図	遺構外土器89 (西部捨て場)	371			
第285図	遺構外土器90 (西部捨て場)	372			
第286図	遺構外土器91 (西部捨て場)	373			
第287図	遺構外土器92 (西部捨て場)	374			
第288図	遺構外土器93 (西部捨て場)	375			
第289図	遺構外土器94 (西部捨て場)	376			
第290図	遺構外土器95 (西部捨て場)	377			
第291図	遺構外土器96 (西部捨て場)	378			
第292図	遺構外土器97 (西部捨て場)	379			
第293図	遺構外土器98 (西部捨て場)	380			
第294図	遺構外土器99 (西部捨て場)	381			
第295図	遺構外土器100 (西部捨て場)	382			
第296図	遺構外土器101 (表採)	383			
第297図	遺構外土製品1 (東部捨て場) ミニチュア土器	384			
第298図	遺構外土製品2 (東部・西部捨て場) ミニチュア土器	385			
第299図	遺構外土製品3 (西部捨て場) ミニチュア土器	386			
第300図	遺構外土製品4 (西部捨て場・表採) ミニチュア土器	387			
第301図	遺構外土製品5 (東部捨て場) 土偶	388			
第302図	遺構外土製品6 (東部捨て場) 土偶	389			
第303図	遺構外土製品7 (東部捨て場) 土偶	390			
第304図	遺構外土製品8 (東部捨て場) 土偶	391			
第305図	遺構外土製品9 (東部捨て場) 土偶	392			
第306図	遺構外土製品10 (東部捨て場) 土偶	393			
第307図	遺構外土製品11 (東部捨て場) 土偶	394			
第308図	遺構外土製品12 (東部・西部捨て場) 土偶	395			
第309図	遺構外土製品13 (西部捨て場) 土偶	396			
第310図	遺構外土製品14 (西部捨て場) 土偶	397			
第311図	遺構外土製品15 (西部捨て場) 土偶	398			
第312図	遺構外土製品16 (西部捨て場) 土偶	399			
第313図	遺構外土製品17 (西部捨て場) 土偶	400			
第314図	遺構外土製品18 (西部捨て場) 土偶	401			
第315図	遺構外土製品19 (西部捨て場) 土偶	402			
第316図	遺構外土製品20 (西部捨て場) 土偶	403			
第317図	遺構外土製品21 (西部捨て場・表採) 土偶	404			
第318図	遺構外土製品22 (東部・西部捨て場・表採) 動物形土製品、耳飾り、飾り玉	405			
第319図	遺構外土製品23 (東部・西部捨て場・表採) 飾り玉、ペンダント、鐸形土製品	406			
第320図	遺構外土製品24 (東部捨て場) 鐸形土製品	407			
第321図	遺構外土製品25 (東部・西部捨て場) 鐸形土製品、分銅形 土製品、土鈴、キノコ形土製品	408			
第322図	遺構外土製品26 (東部・西部捨て場) キノコ形土製品、 スタンプ形土製品、内面渦状土製品、 スプーン形土製品	409			
第323図	遺構外土製品27 (東部・西部捨て場) スプーン形土製品、 釧形土製品、土鏝、円盤状土製品	410			
第324図	遺構外土製品28 (東部・西部捨て場) 円盤状土製品	411			
第325図	遺構外土製品29 (東部・西部捨て場・表採) 円盤状土製品、 三角形状土製品、その他土製品	412			
第326図	遺構外土製品30 (東部・西部捨て場) その他土製品	413			
第327図	遺構外石器1 (東部捨て場) 石鏃	414			
第328図	遺構外石器2 (東部捨て場) 石鏃	415			
第329図	遺構外石器3 (東部捨て場) 石鏃	416			
第330図	遺構外石器4 (東部・西部捨て場) 石鏃	417			
第331図	遺構外石器5 (西部捨て場) 石鏃	418			
第332図	遺構外石器6 (西部捨て場) 石鏃	419			
第333図	遺構外石器7 (西部捨て場・表採) 石鏃	420			
第334図	遺構外石器8 (東部捨て場) 尖頭器	421			
第335図	遺構外石器9 (東部・西部捨て場) 尖頭器	422			
第336図	遺構外石器10 (西部捨て場・表採) 尖頭器	423			
第337図	遺構外石器11 (東部捨て場) 石鏃	424			
第338図	遺構外石器12 (東部・西部捨て場) 石鏃	425			
第339図	遺構外石器13 (西部捨て場・表採) 石鏃	426			
第340図	遺構外石器14 (東部捨て場) 石鏃	427			
第341図	遺構外石器15 (東部捨て場) 石鏃	428			
第342図	遺構外石器16 (東部捨て場) 石鏃	429			
第343図	遺構外石器17 (西部捨て場) 石鏃	430			
第344図	遺構外石器18 (西部捨て場) 石鏃	431			
第345図	遺構外石器19 (西部捨て場・表採) 石鏃	432			
第346図	遺構外石器20 (東部・西部捨て場・表採) 異形石器	433			
第347図	遺構外石器21 (東部・西部捨て場・表採) 楔形石器	434			
第348図	遺構外石器22 (東部・西部捨て場・表採) 鋸歯状石器	435			
第349図	遺構外石器23 (東部捨て場) 削器	436			
第350図	遺構外石器24 (東部捨て場) 削器	437			
第351図	遺構外石器25 (東部捨て場) 削器	438			
第352図	遺構外石器26 (東部捨て場) 削器	439			
第353図	遺構外石器27 (東部捨て場) 削器	440			
第354図	遺構外石器28 (東部・西部捨て場) 削器	441			
第355図	遺構外石器29 (西部捨て場) 削器	442			
第356図	遺構外石器30 (西部捨て場) 削器	443			
第357図	遺構外石器31 (西部捨て場) 削器	444			
第358図	遺構外石器32 (西部捨て場) 削器	445			
第359図	遺構外石器33 (西部捨て場) 削器	446			
第360図	遺構外石器34 (東部・西部捨て場) 撻器	447			
第361図	遺構外石器35 (西部捨て場・表採) 撻器	448			
第362図	遺構外石器36 (東部・西部捨て場) 円形撻器	449			
第363図	遺構外石器37 (東部・西部捨て場) 挟入石器	450			
第364図	遺構外石器38 (東部捨て場) 石斧	451			
第365図	遺構外石器39 (東部捨て場) 石斧	452			
第366図	遺構外石器40 (東部捨て場) 石斧	453			
第367図	遺構外石器41 (東部捨て場) 石斧	454			
第368図	遺構外石器42 (東部捨て場) 石斧	455			
第369図	遺構外石器43 (東部・西部捨て場) 石斧	456			
第370図	遺構外石器44 (西部捨て場) 石斧	457			
第371図	遺構外石器45 (西部捨て場) 石斧	458			
第372図	遺構外石器46 (表採) 石斧	459			
第373図	遺構外石器47 (表採) 石斧 (東部・西部捨て場・表採) 石鏃状石器	460			
第374図	遺構外石器48 (東部捨て場) 石鏃	461			
第375図	遺構外石器49 (東部・西部捨て場・表採) 石鏃	462			
第376図	遺構外石器50 (東部捨て場) 石皿	463			
第377図	遺構外石器51 (東部捨て場) 石皿	464			
第378図	遺構外石器52 (東部・西部捨て場) 石皿	465			
第379図	遺構外石器53 (西部捨て場・表採) 石皿	466			
第380図	遺構外石器54 (東部・西部捨て場) 敲石	467			
第381図	遺構外石器55 (西部捨て場・表採) 敲石 (東部捨て場) 砥石	468			
第382図	遺構外石器56 (東部・西部捨て場) 砥石				

	(東部捨て場) 磨石	469	第440図	馬場野Ⅱ遺跡出土土器	576
第383図	遺構外石器57(東部・西部捨て場) 磨石	470	第441図	小井田Ⅳ遺跡出土土器	577
第384図	遺構外石器58(西部捨て場・表採) 磨石	471	第442図	I 18土坑4号・E 26土坑出土遺物	579
第385図	遺構外石器59(表採) 磨石、(東部捨て場) 凹石	472	第443図	I 17土坑8号・F 12住居跡出土遺物	580
第386図	遺構外石器60(西部捨て場) 凹石	473	第444図	B 21住居跡3号・D 19住居跡出土遺物	582
第387図	遺構外石器61(表採) 凹石、(東部・西部捨て場) 台石	474	第445図	F 18住居跡1号出土遺物	583
第388図	遺構外石器62(東部・西部捨て場・表採) 礫器	475	第446図	北東北3県に見る縄文時代後期の主な遺跡	588
第389図	遺構外石製品1(東部・西部捨て場) 岩偶 (西部捨て場) 三角柱状石製品	476	第447図	単孔土器出土の主な遺跡	590
第390図	遺構外石製品2(西部捨て場) 三角柱状石製品 (東部捨て場) 石剣・石刀	477	第448図	いも貝土製品出土遺跡	591
第391図	遺構外石製品3(東部・西部捨て場) 石剣・石刀	478	第449図	第Ⅰ・Ⅱ群土器集成図	605
第392図	遺構外石製品4(西部捨て場) 石剣・石刀	479	第450図	第Ⅲ群1類-1土器集成図	606
第393図	遺構外石製品5(東部・西部捨て場) 石棒 (東部捨て場) 円盤状石器	480	第451図	第Ⅲ群1類-1・2土器集成図	607
第394図	遺構外石製品6(西部捨て場・表採) 円盤状石器 (西部捨て場・表採) 三角形石製品 (東部捨て場) 有孔石製品	481	第452図	第Ⅲ群1類-2土器集成図	608
第395図	遺構外石製品7(東部捨て場) 軽石製品	482	第453図	第Ⅲ群1類-2・3土器集成図	609
第396図	遺構外石製品8(東部捨て場) 軽石製品	483	第454図	第Ⅲ群1類・第Ⅲ群2類-1土器集成図	610
第397図	遺構外石製品9(東部捨て場) 軽石製品	484	第455図	第Ⅲ群2類-1土器集成図	611
第398図	遺構外石製品10(東部・西部捨て場) 軽石製品	485	第456図	第Ⅲ群2類-2土器集成図	612
第399図	遺構外石製品11(西部捨て場・表採) 軽石製品	486	第457図	第Ⅲ群2類-2・第Ⅲ群3類土器集成図	613
第400図	遺構外石製品12(東部・西部捨て場) ベンダント (西部捨て場) 刻線礫 (西部捨て場) ブリッジ状石製品 (西部捨て場・表採) 石製未製品	487	第458図	第Ⅲ群3類土器集成図	614
第401図	土器出土分布図1	490	第459図	第Ⅲ群3類土器集成図	615
第402図	土器出土分布図2	491	第460図	第Ⅲ群4類土器集成図	616
第403図	土器出土分布図3	494	第461図	第Ⅲ群4類土器集成図	617
第404図	土器出土分布図4	495	第462図	第Ⅲ群4類土器集成図	618
第405図	土器出土分布図5	496	第463図	第Ⅲ群4類土器集成図	619
第406図	土器出土分布図6	497	第464図	第Ⅲ群5類土器集成図	620
第407図	土器出土分布図7	498	第465図	第Ⅲ群5類土器集成図	621
第408図	土製品出土分布図1	499	第466図	第Ⅲ群5類土器集成図	622
第409図	土製品出土分布図2	500	第467図	第Ⅲ群5類土器集成図	623
第410図	土製品出土分布図3	501	第468図	第Ⅲ群5類土器集成図	624
第411図	土製品出土分布図4	502	第469図	第Ⅲ群5類土器集成図	625
第412図	土製品出土分布図5	504	第470図	第Ⅲ群5類土器集成図	626
第413図	石器出土分布図1	506	第471図	第Ⅲ群5類土器集成図	627
第414図	石器出土分布図2	507	第472図	第Ⅲ群5類・第Ⅲ群6類-1土器集成図	628
第415図	石器出土分布図3	508	第473図	第Ⅲ群6類-1土器集成図	629
第416図	石器出土分布図4	509	第474図	第Ⅲ群6類-1土器集成図	630
第417図	石器出土分布図5	510	第475図	第Ⅲ群6類-2・3土器集成図	631
第418図	礫石器接合関係図	511	第476図	第Ⅲ群6類-3・4土器集成図	632
第419図	石製品出土分布図	512	第477図	第Ⅲ群6類-4土器集成図	633
第420図	土器器形別分類図1	520	第478図	第Ⅲ群6類-4土器集成図	634
第421図	土器器形別分類図2	521	第479図	第Ⅲ群6類・第Ⅳ群1類-1土器集成図	635
第422図	土器器形別分類図3	522	第480図	第Ⅳ群1類-2・第Ⅳ群2類土器集成図	636
第423図	土器器形別分類図4	523	第481図	第Ⅳ群2類-2土器集成図	637
第424図	土器器形別分類図5	528	第482図	第Ⅳ群5類土器集成図	638
第425図	土器器形別分類図6	539	第483図	第Ⅳ群5類・第Ⅳ群6類土器集成図	639
第426図	土器器形別分類図7	540	第484図	第Ⅳ群5類・第Ⅳ群6類土器集成図	640
第427図	土器器形別分類図8	545	第485図	第Ⅴ群土器集成図	641
第428図	長倉Ⅰ遺跡住居跡集成図1	554	第486図	土偶集成図1	642
第429図	長倉Ⅰ遺跡住居跡集成図2	555	第487図	土偶集成図2	643
第430図	長倉Ⅰ遺跡住居跡集成図3	556	第488図	土偶集成図3	644
第431図	長倉Ⅰ遺跡住居跡集成図4	557	第489図	土偶集成図4	645
第432図	長倉Ⅰ遺跡住居跡集成図5	558	第490図	土偶集成図5	646
第433図	晩期住居跡・晩期土坑・掘立柱建物跡分布図	561	第491図	土偶集成図6	647
第434図	駒板遺跡出土土器	570	第492図	土偶集成図7	648
第435図	田面木平遺跡出土土器1	571	第493図	土偶集成図8	649
第436図	田面木平遺跡出土土器2	572	第494図	土偶集成図9	650
第437図	赤坂A遺跡出土土器	573	第495図	動物形・耳飾り・飾り玉・鐸形土製品	651
第438図	川口Ⅱ・神明町遺跡出土土器	574	第496図	分銅形・キノコ形・内面渦状土製品	652
第439図	馬場瀬(1)遺跡出土土器	575	第497図	スプーン形・釧形・人面模倣土製品	653
			第498図	腕飾り・土鍾・円盤状・三角形土製品	654
			第499図	単孔土器集成図	655
			第500図	釣り下げ形土器集成図	656
			第501図	特殊文様土器集成図1	657
			第502図	特殊文様土器集成図2	658
			第503図	X字状・格子状・網目状の沈線を施文する土器	659

＜ 表 ＞

表1	周辺の遺跡	13	表65	土製品(7) 飾り玉・耳飾り	721
表2	周辺の遺跡	14	表66	土製品(8) 鐔形土製品・分胴形土製品・土鈴・キノコ形土製品・スタンプ形土製品	722
表3	縄文後期主要・単孔土器出土・いも貝形土製品出土遺跡	589	表67	土製品(9) スプーン形土製品・釧形土製品・土錘・三角形状土製品	723
表4	住居跡・住居跡状	660	表68	土製品(10) 円盤状土製品	724
表5	土坑・柱穴(1)	661	表69	石器(1) 石鏃	725
表6	土坑・柱穴(2)	662	表70	石器(2) 石鏃	726
表7	土坑・柱穴(3)	663	表71	石器(3) 石鏃	727
表8	土坑・柱穴(4)	664	表72	石器(4) 石鏃	728
表9	土坑・柱穴(5)	665	表73	石器(5) 尖頭器	729
表10	土坑・柱穴(6)	666	表74	石器(6) 石錐	730
表11	土坑・柱穴(7)	667	表75	石器(7) 石匙	731
表12	土坑・柱穴(8)	668	表76	石器(8) 石匙・異形石器・楔形石器・鋸齒状石器	732
表13	土坑・柱穴(9)	669	表77	石器(9) 削器・搔器	733
表14	土坑・柱穴(10)	670	表78	石器(10) 削器・搔器	734
表15	土坑・柱穴(11)	671	表79	石器(11) 削器・搔器	735
表16	土坑・柱穴(12)	672	表80	石器(12) 削器・搔器・円形搔器・石鏃	736
表17	土坑・柱穴(13)	673	表81	石器(13) 磨製石斧	737
表18	土坑・柱穴(14)	674	表82	石器(14) 磨製石斧	738
表19	土坑・柱穴(15)	675	表83	石器(15) 磨製石斧	739
表20	遺構内土器(1)	676	表84	石器(16) 抉入石器・石皿	740
表21	遺構内土器(2)	677	表85	石器(17) 凹石・砥石	741
表22	遺構内土器(3)	678	表86	石器(18) 敲石	742
表23	遺構内土器(4)	679	表87	石器(19) 磨石・円盤状土製品	743
表24	遺構内土器(5)	680	表88	石器(20) 石錘	744
表25	遺構内土器(6)	681	表89	石器(21) ペンダント・石製未製品・石刀・石剣	745
表26	遺構内土器(7)	682	表90	石器(22) 石棒・礫器・三角状石製品・刻線礫・岩偶・有孔石製品	746
表27	遺構内土器(8)	683	表91	石器(23) 軽石製品	747
表28	遺構内土器(9)	684			
表29	遺構内土器(10)	685			
表30	遺構内土器(11)	686			
表31	遺構内土器(12)	687			
表32	遺構内土器(13)	688			
表33	遺構内土器(14)	689			
表34	遺構外土器(1)	690			
表35	遺構外土器(2)	691			
表36	遺構外土器(3)	692			
表37	遺構外土器(4)	693			
表38	遺構外土器(5)	694			
表39	遺構外土器(6)	695			
表40	遺構外土器(7)	696			
表41	遺構外土器(8)	697			
表42	遺構外土器(9)	698			
表43	遺構外土器(10)	699			
表44	遺構外土器(11)	700			
表45	遺構外土器(12)	701			
表46	遺構外土器(13)	702			
表47	遺構外土器(14)	703			
表48	遺構外土器(15)	704			
表49	遺構外土器(16)	705			
表50	遺構外土器(17)	706			
表51	遺構外土器(18)	707			
表52	遺構外土器(19)	708			
表53	遺構外土器(20)	709			
表54	遺構外土器(21)	710			
表55	遺構外土器(22)	711			
表56	遺構外土器(23)	712			
表57	遺構外土器(24)	713			
表58	遺構外土器(25)	714			
表59	土製品(1) ミニチュア土器	715			
表60	土製品(2) ミニチュア土器	716			
表61	土製品(3) 土偶	717			
表62	土製品(4) 土偶	718			
表63	土製品(5) 土偶	719			
表64	土製品(6) 土偶・内面渦状土製品・動物形土製品・その他	720			

第 I 章 調査に至る経過

広域農道整備事業軽米九戸地区は、軽米広域営農団地内に設置された農業近代化施設の利用と農畜産物の効率的集出荷を行うため、基幹的農道を東北自動車道まで整備し高速交通体系を確立するものである。

当事業の施工にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県二戸地方振興局二戸土地改良事務所（平成10年度改め二戸農村整備事務所）から平成5年4月11日付け第17号「埋蔵文化財発掘の通知について」の文書によって岩手県教育委員会に対して調査依頼（長倉 I）を実施したのが最初である。

依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成5年5月26日付け「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」により確認調査（試掘）を行う事となった。

回答を受けた二戸土地改良事務所では、平成5年9月20日付け二土地第188号「平成5年度試掘調査実施予定遺跡に係わる現地調査立ち会いについて」の文書で岩手県教育委員会に依頼し、依頼を受けた教育委員会では平成5年9月30日試掘調査を行った。

試掘調査の結果は、平成5年11月16日付け教文第692号により回答があり、発掘調査の必要ありと判断された。

発掘調査については、平成6年2月21日付け教文第944号「平成6年度埋蔵文化財調査事業の実施について」で（財）岩手県文化振興事業団が行う旨通知があった。

発掘調査は岩手県教育委員会の調整により、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの平成6年度委託事業となった。埋蔵文化財センターと二戸土地改良事業所との間では、平成6年4月10日付けで2,450㎡について委託契約を締結し、平成6年7月1日～同年11月10日まで現地調査を実施した。しかし当初調査対象面積の2,450㎡全域について調査を終了できず、残る1,450㎡と今年度範囲に入っていない部分と合わせて次年度改めて調査することにした。

平成7年度の調査については、平成7年4月1日付けで委託契約を締結し、前年度の残り1,450㎡と新規に調査範囲に含まれた850㎡の合計2,300㎡について、平成7年4月11日～同年9月5日まで現地調査を実施した。今年度も調査範囲全域についての調査を終了できず、1,296㎡が次年度に残ることとなった。

平成8年度の調査については、平成8年4月1日付けで委託契約を締結し、前年度の残り1,296㎡と新規に調査範囲に含まれた46㎡の合計1,342㎡について、平成8年4月10日～同年11月8日まで現地調査を実施し、調査範囲全域の調査を終了した。

第 II 章 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置

長倉 I 遺跡の所在する軽米町は岩手県北部、北上山系の北端部に位置し、雪谷川の河岸低地に発達した町である。国土地理院発行の5万分の1地形図によると、本遺跡は北緯40°21′28″、東経141°29′33″付近となり、軽米町役場の北東約4.4km、瀬月内川と雪谷川の合流地点から東に約2.2kmの地点に位置する。遺跡は南北方向に舌状に延びる尾根の丘陵平坦部から中腹の斜面部にかけて立地し、標高は285～297mである。遺跡の西側には長倉の集落が見渡せ、遠方には名久井岳や八甲田山が眺望される。遺跡の現況は山林、原野で、以前には畑地として利用されていた時代もあり、地形が改変を受け段上になっている場所もある。

本遺跡の周辺では当埋蔵文化財センターにより、昭和54年に「長倉NO14遺跡」、昭和55年に「長倉遺跡」の調査が行われているが、遺構・遺物ともに少量の出土であった。また調査地点は不明であるが、鈴木孝志氏により昭和39年5月に「明神下遺跡」（注1）が調査されている。「明神下遺跡」は、『十腰内遺跡調査報告書』中にもふれられている縄文時代後期初頭～晩期初頭にかけての遺物が出土した遺跡であるが、岩手県遺跡台帳にも登録がなく、その所在地は未だ不明である。『長倉遺跡発掘調査報告書』を参照すると、「明神下遺跡」調査参加者からの聞き取りなどから推測して本遺跡調査区外の南側斜面部あたりが該当する可能性が高いらしい。

その他としては、本遺跡の西500mに位置する長倉小学校から、過去に晩期の遮光器土偶などが出土しており、その一帯には縄文時代後～晩期の遺跡（集落跡）が存在する可能性が極めて高い。

2 地形・地質

（1）地形

軽米町の所在する北上山地は、南北に延びる紡錘形を呈する高原状の山塊で、北端は青森県八戸市、南端は宮城県牡鹿半島で、岩手県の東側に広がり県全面積のおよそ3分の2を占める。この山地は中央部の標高が最も高く、北方と南方は次第に低くなる。軽米町は上記した北上山地の北部に位置し、東に久慈平岳（706m）、南に靄岳（567m）、西に折爪岳（852m）などに囲まれた丘陵地で、この丘陵地を開析しているのが、瀬月内川と雪谷川である。この2つの河川について若干説明すると、瀬月内川は、葛巻町北部の多々良山と山形村の平庭岳・明神岳の間付近が水源で、九戸村を縦貫し、軽米町の山内・晴山・高家を通る。全長は約49kmである。対して雪谷川は、九戸村雪屋と山形村日野沢の境にある丘陵付近が水源で、軽米町に入り円子・小軽米・増子内を通り、町中心を抜ける。全長約31kmである。この2つの河川は、軽米町北部の大鳥地内で合流し、更に水吉を過ぎて青森県に入り新井田川となって、更に北流して八戸湾に注ぐ。

この2つの河川とその支流によって開析された沖積地に現在の集落は広がっている。

（2）地質

軽米町の地質については、佐々木嘉直氏が『吠屋敷I b遺跡発掘調査報告書』中で詳しく触れており、同報告書を参照して記述する。

瀬月内川及び雪谷川沿いには、北上山地北部型古生層が、北西から南東方向の走向で垂直に近い地層傾斜で分布する。粘板岩・チャート・輝緑凝灰岩を主体としている。古生層分布地域より西部には第三紀砂岩を主体とする北西に緩く傾斜する下斗米層及び末の松山層が広く分布している。上位は新期火山岩類によって被覆されている。軽米町の丘陵地の大部分は、十和田・八甲田系と推定される新期火山砕屑物に被覆されている。十和田火山を中心とする火山灰編年については大池昭二氏（1972年、1973年など）の研究があり、更新世（洪積世）の火山灰には、古い方から天狗平火山灰（模式地 八戸市天狗平）、高館火山灰（模式地 八戸市高館）、八戸火山灰（模式地 八戸市根城）がある。完新世（沖積世）の火山灰には、古い方から二ノ倉火山灰（模式地 青森県新郷村）、南部浮石（模式地 青森県南部町）、中楸浮石（模式地 青森県十和田市中楸）、十和田b降下火山灰（模式地 新郷村迷ヶ平）、十和田a降下火山灰（模式地 新郷村二ノ倉ダム付近）がある。

『吠屋敷I b遺跡発掘調査報告書』の記述にある完新世火山灰の中で、本遺跡から検出された火山灰は、

古い順に南部浮石、中撮浮石、十和田b降下火山灰、十和田a降下火山灰の4種である。それらの火山灰の噴出年代については、最近の火山灰研究の成果が述べられている『火山灰アトラス』を参照して記述する。

南部浮石（地元ではゴロタと呼ばれている）は、縄文時代早期中葉期の降下と推定される。

中撮浮石（地元ではアワズナと呼ばれている）は、縄文時代前期前葉期の降下と推定されているが、大木式及び円筒下層式のどの型式と前後関係になるのか明確な解決をみていない（註2）。今後に究明を求められる研究課題の一つと思われ、今後の調査成果に期待したい。

十和田b降下火山灰は、弥生時代後期に降下したものと捉えられている。岩手県北部の遺跡発掘では、頻繁に見られる火山灰の一つであるが、詳細な噴出年代がはっきりとはわかっていないように思われ、併せて土器型式との前後関係についても研究が進んでいない部分である。その原因として、十和田a降下火山灰や中撮浮石と比較すると分布範囲も狭く、純層的な堆積が少ない（岩手県内ではほとんど見られない）ことがあげられよう。また該期の遺跡が、東北地方北部に少ないこともあり、年代測定を行った事例が少ないことも併せてあげられよう。

十和田a降下火山灰は、AD915年前後に降下したものと捉えられている。古代の遺構検出のキーとなる場合が多い。なお、本遺跡からは検出されていないが、十和田a降下火山灰より上位にのる朝鮮半島を起源とする白頭山火山灰が、本遺跡の1km程北に位置する「長倉V遺跡」や3km程西に位置する「大鳥I遺跡」、「大鳥II遺跡」から検出されている。

更新世のテフラについては、本遺跡から旧石器時代の遺物が出土していないことから、詳細な観察や同定は行わなかった。本遺跡に見られる八戸火山灰は、地点によっては上位と下位の2区分される様相を示す。推測の域を越えるものではないが八戸火山灰上位として捉えた内には、二ノ倉火山灰であった部分が含まれていた可能性がある。また、八戸火山灰下位の大不動浮石流凝灰岩や高館火山灰については、注記に記述（大不動は「TO-of」、高館は「TO-t」と記載している）したが、その区分や同定は明確ではない。

〈註〉

（註1） 「明神下遺跡」について『軽米町史』を参照して記述する。昭和39年5月2日～5日まで軽米町大字長倉第四地割92俗称「明神下」を、鈴木孝志氏が調査を行った遺跡である。同遺跡からは、十腰内IV～V式の良好な資料や、加曾利B式併行の土器とその下から大湯式土器が出土したほか、大洞B-C式土器や石器が出土している。鈴木孝志氏については、国学院大学史学科を卒業した考古学研究者で、昭和36年に軽米高校に教諭として赴任し、当時軽米高校郷土研究会を指導しながら同町内の遺跡を精力的に回られていた方で有られる。鈴木孝志氏は若くしてお亡くなりになっているため、その調査地点は不明（曖昧）のままである。長倉I遺跡の発掘調査を主に担当した中川は、「出土遺物の状況やそのあり方からみて、今回の調査区域の南側調査区外（『長倉遺跡調査報告書』の記述）ではなく、調査区北西側付近（本稿で西部捨て場と呼称した空間内あるいはその続き）がそれに該当する可能性がある」と推測している。なお、「明神下遺跡」の出土遺物は、昭和48年軽米高校に赴任した鈴木恵治教諭（『軽米町史』編纂委員で現久慈水産高校教頭）が同校郷土クラブの顧問となり、その遺物整理を試みたが、作業途中で転出したため未整理のままとなっている。その一部の遺物は、岩手県立博物館に保管されている。

（註2） 土器型式（大木式土器）と中撮テフラの関係について、問題提起もかねて記述しておきたい。筆者は山田町「沢田I遺跡」の第4次調査（1997年）を行った際に、中撮テフラが埋土上位～下位に堆積する（テフラの層厚は10～30cm程の住居跡が多く、良好な堆積様相であった）住居跡を多数検出し、精査する機会に恵まれた。同テフラがプライマリーかどうかの問題はあるが、住居跡の床面から出土した土器の主体は、現在の考古学的見地からは大木1～2a式に相当する土器で、大木2b式に比定される土器が含まれているかどうかについては筆者の眼力からは同定できなかった（所見としては、S字状連鎖沈

文を施文する土器が出土した住居跡は、埋土中に同テフラが層を成して堆積していると言うより、ブロック状に埋土上部に混入するが多かったように思う。「沢田Ⅰ遺跡」の現地説明会の際に、最近の発掘成果から中撮テフラが大木1式より新しく、大木3式より古く、大木2式との新旧（遺跡によって異なった出土状況を示すらしい）が不明であると熊谷常正盛岡大学助教授からお聞きした。また、最近同テフラを埋土中に含む住居跡が、遠野市の「新田Ⅱ遺跡」と北上市の南部工業団地関連の遺跡発掘調査から相次いで検出されている。中撮テフラと大木式土器との上下関係解明の資料となる可能性がある。上述した3遺跡に見られる中撮火山灰は、いわゆる県北で「アワズナ」と呼ばれるような砂状を呈する浮石粒ではなく、肌色～黄色の粉状あるいは粘土化したテフラで、比較的堅密である場合が多いようである。

円筒下層式土器と中撮テフラの関係については、中撮テフラとの上下関係を示す最新の発掘成果に筆者が疎いため、言及が難しい。参考までに二戸市の「中曽根遺跡」から円筒下層a式を出土した下位から中撮テフラを検出した遺構の報告例がある。

〈参考引用文献〉

岩手県農政部北上山系開発室（1979年）『土地分類基本調査「三戸・階上岳」』

（株）長谷川地質事務所（1981年）『北上川流域地質図（二十万分の一）説明図』

大池昭二・中川久夫・七崎修・松山力・米倉伸之（1966年）「馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰」『第四紀研究第5巻第1号』

町田洋、新井房雄（1992年）『火山灰アトラス』東京大学出版会

佐々木嘉直（1983年）『吠屋敷Ⅰb遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第63集

木戸口俊子（1998年）『大鳥Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第270集

3 基本層序

長倉Ⅰ遺跡の立地する地形は、尾根の丘陵平坦部から中腹の斜面地で、調査区の現況は山林であるがその以前は畑地として利用されていた土地である。

発掘調査初期の段階で、第5図に示した17カ所にトレンチを入れ標準層序の確認を行った。調査区中央部に広がる平坦地と調査区の東西にある斜面地では堆積土層に若干の違いが見られるが、概ね第4図のような堆積順を示す。基本的に十和田を起源とする各時期のテフラを指標とした。

基本層序と遺構との関係について、大部分の遺構は黒色土中で検出し、精査についても柱穴状土坑などのように特出して深い遺構を除き、壁・床が南部浮石粒層や八戸火山灰層まで掘り込まれていない場合が多い。検出・精査の作業は、移植ベラ感覚といった抽象的な手掛かり以外に黒色土中に含まれる南部浮石粒の含有率の違いを見極める必要があった。黒色土中の南部浮石粒の含有率の違いについては、わずかな違いであり、地山に相当する黒土についても多い場合と少ない場合の両者があった。例として、東部捨て場で検出されたB21住居跡3号の場合は、検出面・壁・床面とも黒色土であったが、基本層序的には検出面がⅢ層、壁はⅢ～Ⅴ層、床面はⅤ層と言うように違いがある。ただし、実際の精査時は平面的に違いを見極めるのは非常に難しく、埋土の部分が地山の部分より南部浮石粒の含有率が若干少ないといった様相で、小形の堅穴であったがかなりの時間を費やした。南部浮石粒の含有率の違いから遺構を同定して発掘調査を行った遺跡は、過去に同じ軽米町内で調査を行った大日向Ⅱ遺跡なども同じ様相であったように記憶しているし、南部浮石粒の分布が確認される地域（主に県北地方）には比較的多いのではないだろうか。地形の傾斜角度による作用や人為層か自然層かの違いによるものと思われるが、要因（メカニズム）ははっきりわからなかった。県

北地方で行う発掘調査に際しては、今後も上記のような内容検討も含めて観察を行っていきたいと思っている。

- I層 黒色土シルト層 表土・盛土・耕作土を一括する。層厚は、所々で1mを越える盛土が見られるが、平均すると20～50cm程である。平坦地付近からは遺物の出土が少なかったが、捨て場の上部付近は遺物包含層(Ⅲ層)が耕作などにより二次堆積を示し、遺物も相当量含まれる。
- II層 黒褐色土シルト層 層厚は10～30cm程である。局所的に十和田a火山灰・十和田b火山灰が含まれる。十和田a火山灰は、主に斜面下位部分などに粉あるいは粘土化したブロック状に堆積が見られる。十和田b火山灰は、主に住居跡や柱穴状土坑などの埋土中や緩斜面地の窪地部分などに白色の粒状のものが確認される。両火山灰ともプライマリーな堆積様相ではなく、また両者の上下関係を示す堆積状態の地点もほとんどない。本層の遺物の混入量は比較的少ない。
- III層 黒褐色土シルト層 層厚は30～250cmである。南部浮石粒が3～5%程含まれる。縄文時代後～晩期の遺物包含層で東西の斜面地を中心に分布する。
- IV層 黒褐色土シルト層 層厚は20～40cmである。中礫浮石粒の二次堆積が確認される層で、南部浮石粒が5～7%含まれる。主に傾斜の緩い斜面部分や斜面下方に分布が見られ、平坦地や傾斜の急な斜面部分には見られない。同層上位で縄文時代前期の遺物を少量含む。
- V層 黒褐色土シルト層 層厚は50～150cm程である。全般に堅く締まる。南部浮石粒が15%程含まれる。遺物は皆無である。
- VI層 暗褐色～黒褐色土シルト層 層厚は10～50cm程である。南部浮石粒が20%以上含まれる。V層とVII層の漸移層的な層に相当する。
- VII層 明黄褐色～黄橙色南部浮石粒層 層厚10～80cm程である。調査区中央平坦地や一部調査区南側斜面地においては、人為(縄文人による)の削平を受けたと判断され、分布が確認できない。東西の斜面地においては、黒褐色土を剥がした段階では比較的良好に見られる。
- VIII層 褐色～暗褐色土八戸火山灰層 調査区中央平坦地では、本層を掘り込んで遺構が構築されている。上層と下層の様相が異なって検出される部分があるが、遺物の出土に関わらなかったことから明確な区分は行っていない。上層は黒色を呈し、浮石粒が少量混入するロームで、混入されている浮石粒は本層上位に堆積する南部浮石粒が混在したものと思われる。下層は明褐色～褐色土を呈するローム層で、層厚も厚い部分が多い。なお、厳密には同定できなかったが、上層は二ノ倉火山灰である可能性がある。
- IX層 明黄褐色～灰白色 砂質土～ローム 十和田起源の火山灰と思われる。調査区中央平坦地で検出された柱穴状土坑の中で、際立って深く掘り込まれているものは、上位砂質土、下位白色土(大不動浮石流凝灰岩?)まで達しているものがある。
- X層 浅黄橙色 ローム 高館火山灰相当と推定される。遺構の精査に関わりが少なかったことから、本層下位の火山灰の観察を軽視したが、さらに古期の火山灰(天狗平火山灰相当?)が数枚(紫っぽい火山灰や炭の混入される火山灰などが、深い柱穴状土坑の側面や底面で観察された)見られた。
- XI層 岩盤 褐色の粘土質土で非常に堅く、小角礫が含まれる。調査区北側のL21～L22グリッド付近で顕著に見られることから、斜面上方など火山灰が流入しやすい部分に見られると判断される。集石遺構に使用された礫は、本層に見られる礫と思われる。

4 周辺の遺跡

軽米町内の遺跡は、岩手県教育委員会文化課遺跡台帳によると、402カ所余りが登録されており、遺跡の宝庫として古くから知られている。

本稿では、『大鳥Ⅱ遺跡発掘調査報告書』の中で木戸口俊子氏がまとめた「周辺の遺跡」を参照とした。また、第6図の周辺の遺跡図及び第1～2表の周辺遺跡分布表には、軽米町に隣接する青森県南郷村の遺跡の中で本遺跡の主体である縄文時代後期の主な遺跡を併せて挙げた。

軽米町での発掘調査は昭和39年に鈴木孝志氏他により板橋遺跡、下野場遺跡、明神下遺跡の調査が始められるが、本格的な調査は東北自動車道関連から始まる。

縄文時代草創期・早期の遺跡について、唯一馬場野Ⅱ遺跡から草創期と見られる土器と土坑が早期の竪穴状遺構とともに検出されている。また、土弓Ⅰ遺跡からは早期後半の土器とともに土坑5基が検出されている。他の遺跡においても早期の土器片が出土する事例はあるが、遺構が検出されることは稀である。

縄文時代前期に入ると、遺跡数が増え始め、吠屋敷Ⅰa遺跡では竪穴住居跡、吠屋敷Ⅰb遺跡では大形のフラスコ状土坑が、大日向Ⅱ遺跡（第2～5次調査）では長軸が14m前後と考えられる大形住居跡が検出されている。

縄文時代中期以降の遺跡の増加は顕著であり、特に中期末～後期にかけては大規模な集落遺跡が増えてくる。馬場野Ⅱ遺跡や君成田Ⅳ遺跡、吠屋敷Ⅰa遺跡、大日向Ⅱ遺跡などが有名である。中期終末期の住居跡が30棟以上検出されている吠屋敷Ⅰa遺跡は住居に伴う青龍刀形石器も出土している。君成田Ⅳ遺跡では、縄文時代後期の住居跡が44棟、駒板遺跡では34棟検出している。

縄文時代晩期に入ると前述の駒板遺跡で晩期の住居跡8棟、君成田Ⅳ遺跡で5棟が検出されたのを始め、馬場野Ⅱ遺跡、大日向Ⅱ遺跡などがあり、板橋沢遺跡では大形の土版が出土している。

弥生時代の遺跡では、11棟の住居跡が検出された馬場野Ⅱ遺跡や和当地遺跡がある。

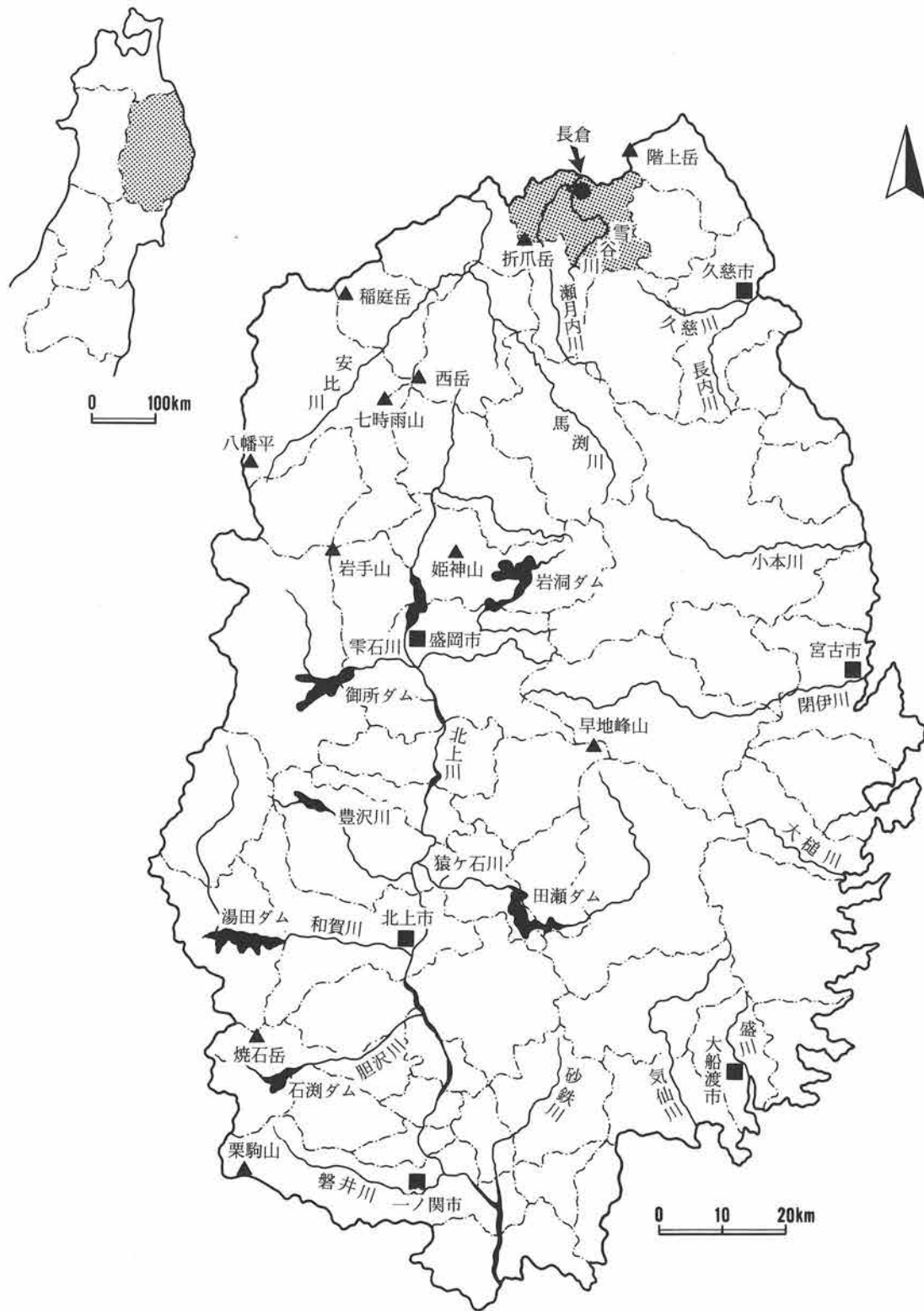
その後の時代においては徐々に遺構数は減少していくが、吠屋敷Ⅰa遺跡、君成田Ⅳ遺跡、駒板遺跡などについては古代～平安時代にかけての遺構、遺物を出土している。徳楽寺では平安時代後期の薬師如来巫像脇侍日光菩薩立像などが収められている。

軽米町の遺跡は大規模な集落跡であることが多く、また長い間にかけて生活が営まれたと見られる複合遺跡がほとんどである。

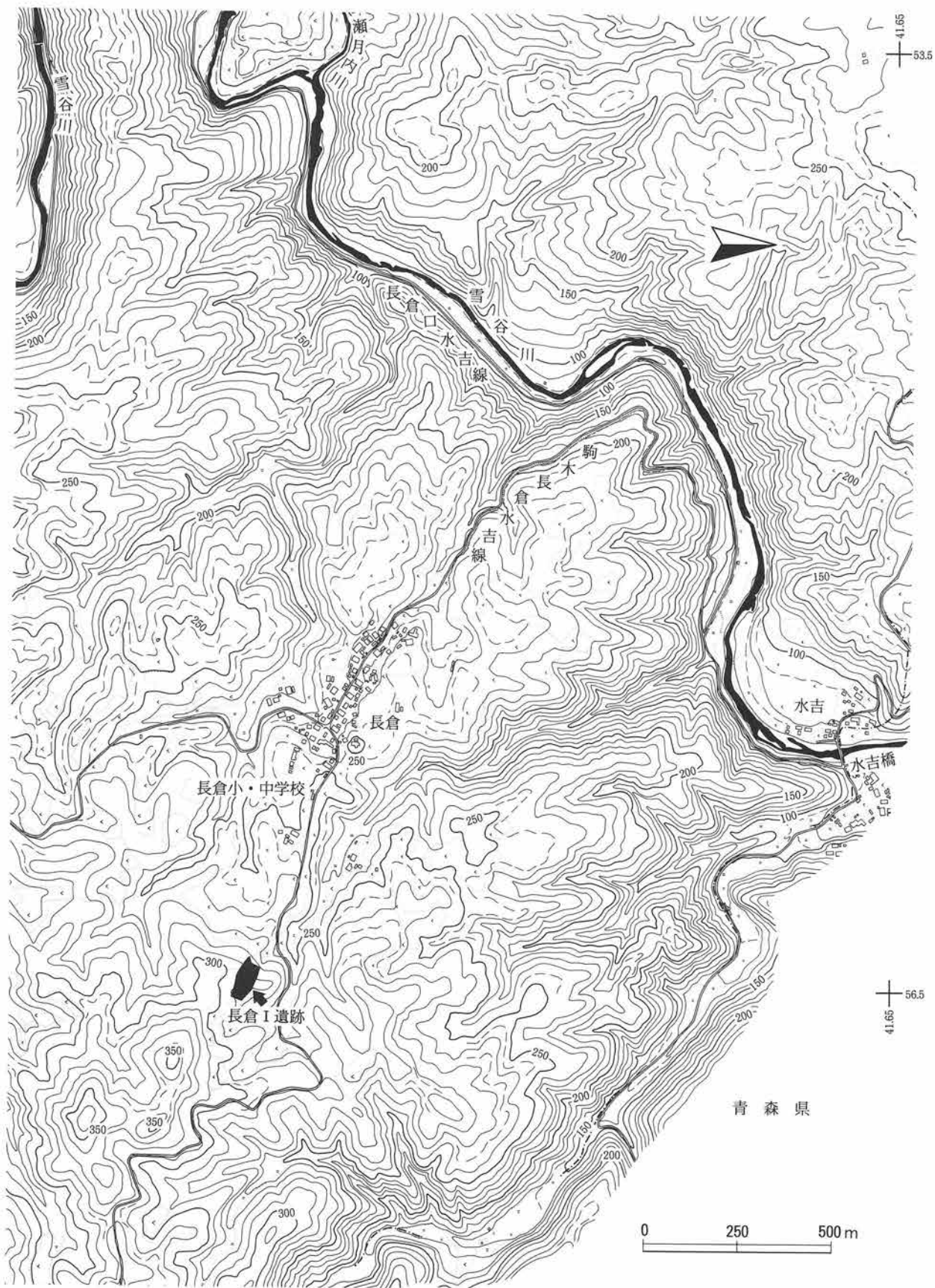
本遺跡の主体となる後～晩期の遺跡の分布については、第Ⅷ章で若干述べることにする。

〈参考引用文献〉

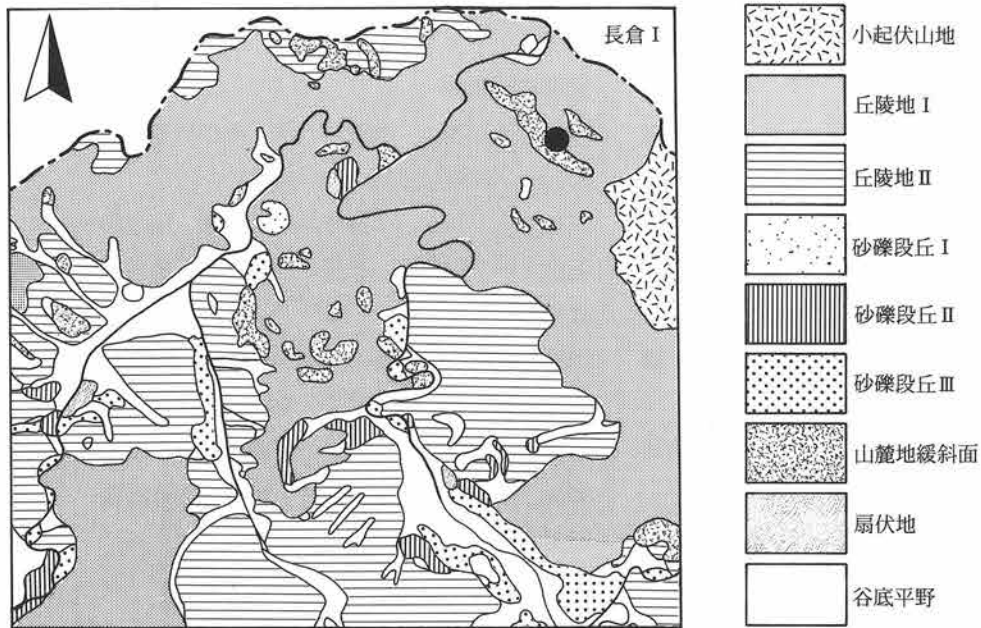
木戸口俊子（1998年）『大鳥Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第270集



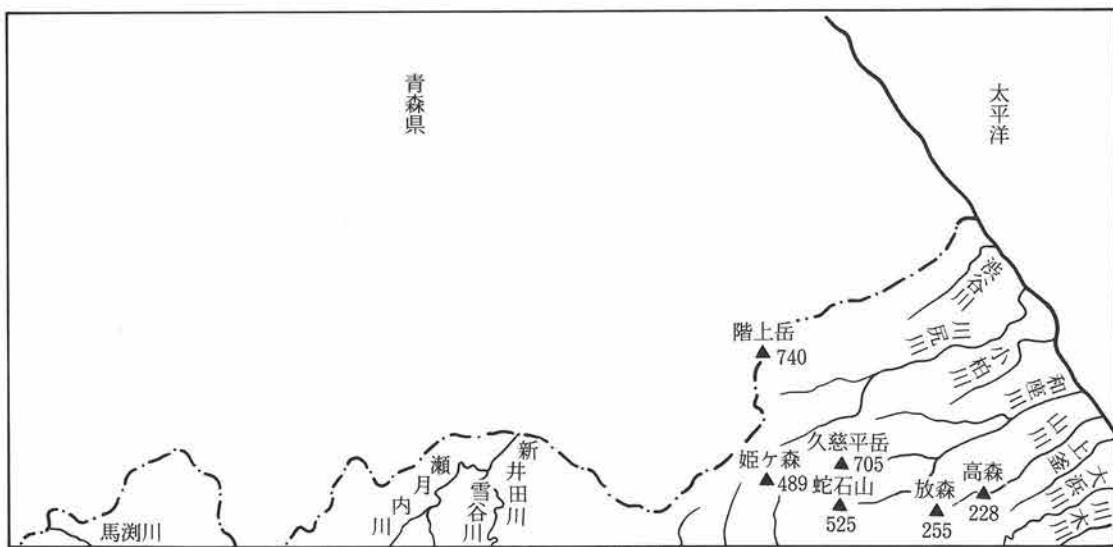
第1図 岩手県図に見る遺跡の位置



第2図 周辺地形図

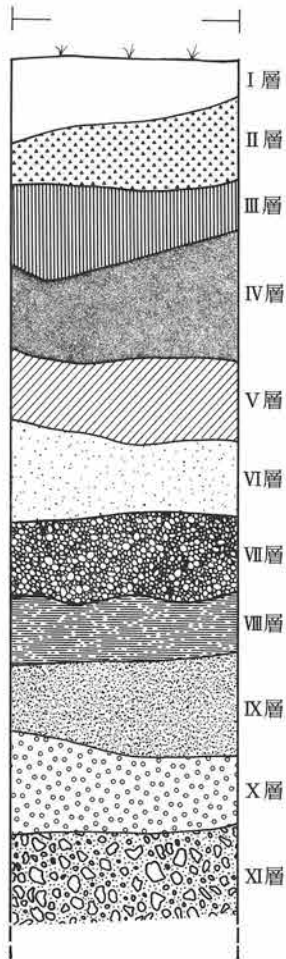


地形・地質図



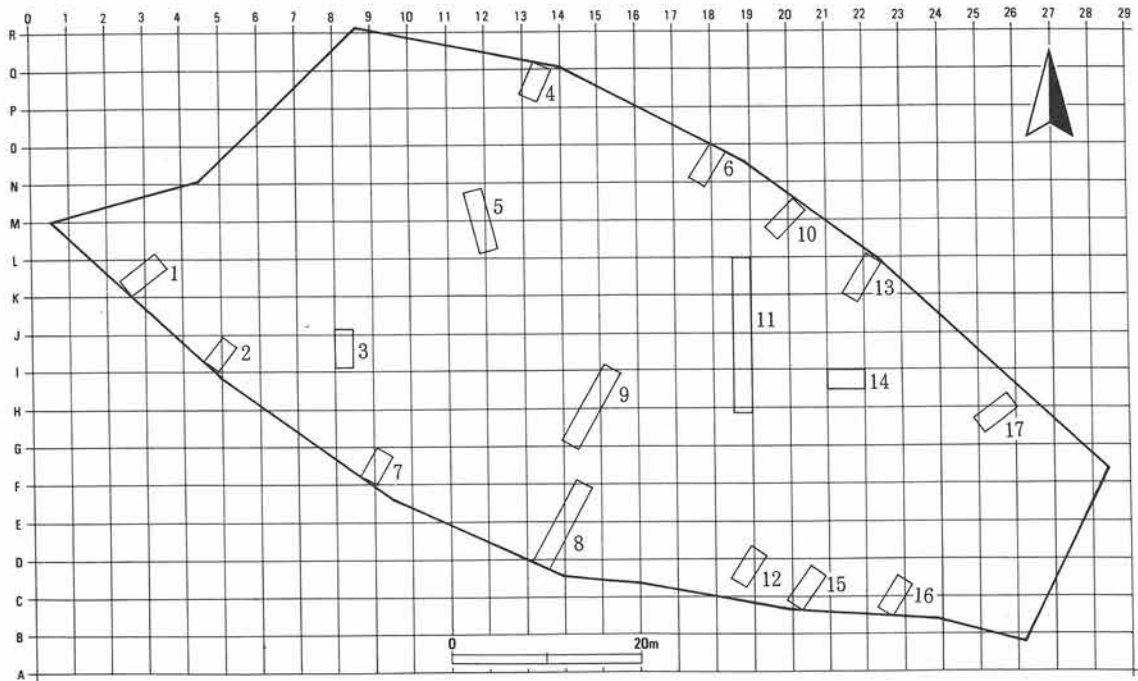
「主要河川並びに主要山岳図」

第3図 地形分類図



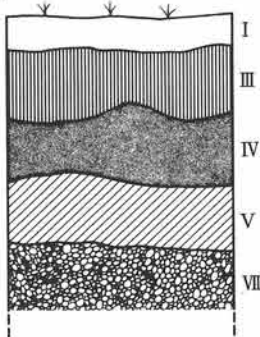
- I層 黒色シルト 表土・盛土・耕作土、層厚20~100cm
- II層 黒褐色土シルト 十和田 a 火山灰・十和田 b 火山灰混入層、層厚10~30cm
- III層 黒褐色土シルト 縄文時代後~晩期の遺物包含層、層厚30~250cm、南部浮石粒3~5%含有
- IV層 黒褐色土シルト 中振浮石粒混入層、層厚20~40cm、南部浮石粒5~7%含有、III層との漸移層~本層上位で円筒下層d式出土
- V層 黒褐色土シルト 層厚は50~150cm、南部浮石粒約15%含有、遺物皆無
- VI層 暗褐色~黒褐色土シルト V層とVII層の漸移層、層厚は10~50cm、南部浮石粒は20%以上含有、無遺物層
- VII層 明黄褐色~黄橙色南部浮石粒層（ゴロタ層） 層厚10~80cm
- VIII層 褐色~暗褐色土ローム（八戸火山灰層） 上位と下位に二分される、局所的に浮石混入
- IX層 大不動浮石流凝灰岩
- X層 高館火山灰~天狗平火山灰相当
- XI層 岩盤 褐色の粘土質土に小角礫が混入、非常に堅密

第4図 基本層序



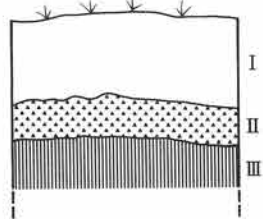
第2トレンチ

東 — L=291.900 m — 西



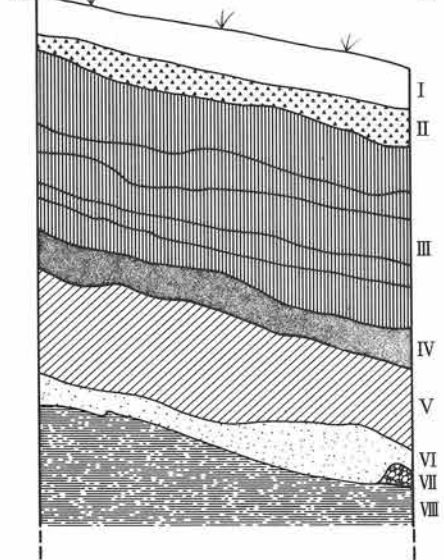
第8トレンチ

東 — L=297.500 m — 西



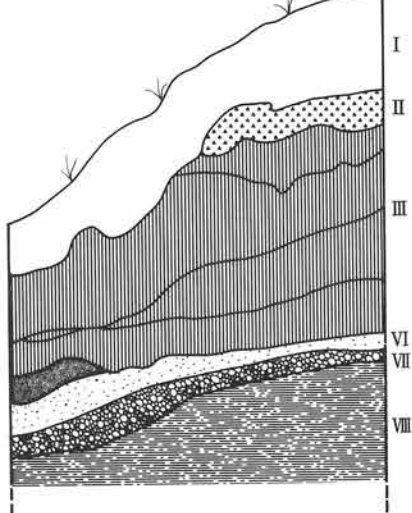
第16トレンチ

南西 — L=291.700 m — 北東



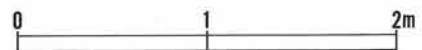
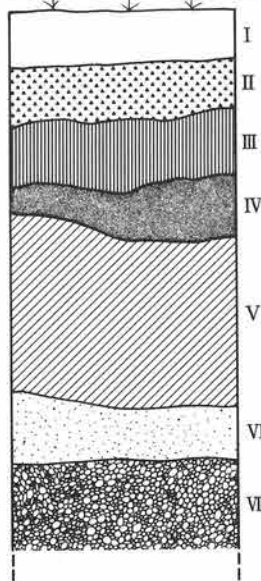
第5トレンチ

北西 — L=291.700 m — 南東

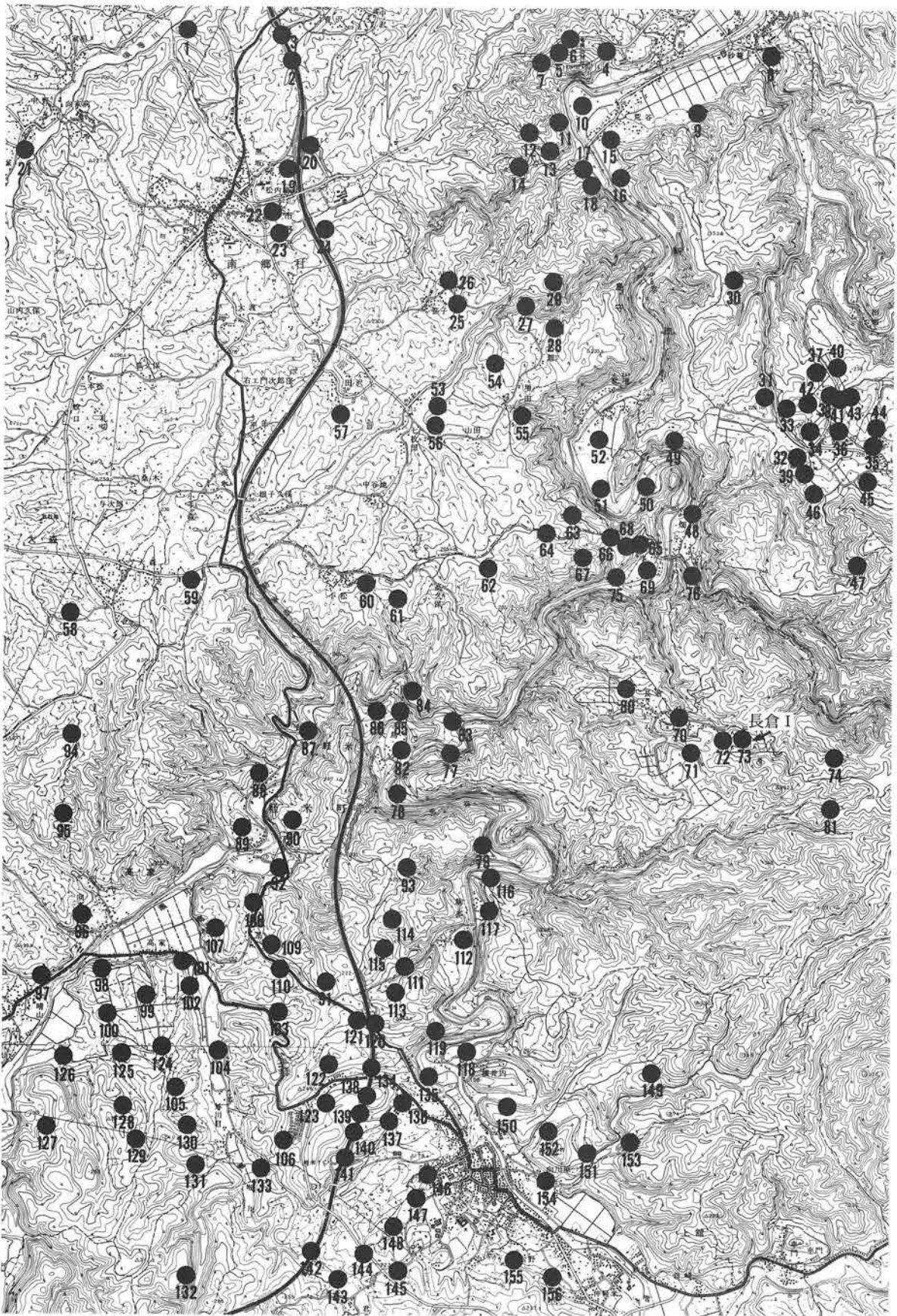


第15トレンチ

東 — L=293.900 m — 西



第5図 調査区各地点の層序



第 6 図 周辺の遺跡位置図

番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	文献
1	下洗	散布地	縄文土器	縄文(後)	
2	馬場瀬(1)	集落跡	縄文土器	縄文(早・前・後・晩)	青森県文調第70集
3	馬場瀬(2)	集落地	縄文土器	縄文(早・前・後・晩)	青森県文調第70集
4	赤坂(1)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	
5	赤坂(2)	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
6	赤坂(3)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	
7	赤坂(4)	散布地	縄文土器	縄文(前・晩)	
8	白山	散布地	縄文土器	縄文(後)	
9	黒坂出口	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
10	荒谷	散布地	縄文土器、土偶・土師器、人骨	縄文(前・中・後・晩)、平安	青森県文調第8集
11	内山	散布地	縄文土器	縄文(前・後・晩)	
12	目無ら(1)	散布地	縄文土器	縄文(後)	
13	目無ら(2)	散布地	縄文土器	縄文(中・後・晩)、平安	
14	目無ら(3)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	
15	松石橋	散布地	縄文土器(中～晩)、緒締型大珠	縄文(中・後・晩)、弥生	青森県文調第10集
16	竹野	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
17	三代坂(1)	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
18	三代坂(2)	散布地	縄文土器	縄文(前)	
19	石ノ窪(1)	散布地	縄文土器	縄文(晩)、平安	青森県文調69・92集
20	石ノ窪(2)	集落跡	縄文土器	縄文(前・晩)	青森県文調92集
21	八地役	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
22	下市野沢(1)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	
23	下市野沢(2)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	
24	三釜山	散布地	縄文土器(後・晩)、土偶	縄文(後・晩)	青森県文調69集
25	市野沢笹子(1)	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
26	市野沢笹子(2)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	
27	猶館(1)	散布地	縄文土器、石皿、磨石、土師器	縄文(後・晩)、古墳	
28	猶館(2)	散布地	縄文土器	縄文(早・晩)	
29	高田(3)	散布地	縄文土器(中)	縄文(中)	
30	持金沢	散布地	縄文土器(後・晩)	縄文(後・晩)	
31	田ノ上	集落跡	縄文土器・石斧	縄文(草～晩)、平安	青森県文調65集
32	田ノ上(2)	散布地	縄文土器	縄文(中・後・晩)	
33	馳下り(1)	散布地	縄文土器、石斧	縄文(中・後・晩)	
34	馳下り(2)	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
35	馳下り(3)	散布地	縄文土器、石斧	縄文(後・晩)	
36	馳下り(4)	散布地	縄文土器	縄文(前・中)	
37	外山長根(1)	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)、平安	
38	外山長根(2)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	
39	外長根	散布地	縄文土器、礫器	縄文(後・晩)	
40	外長根(1)	散布地	縄文土器	縄文	青森県文調64集
41	外長根(4)	散布地	縄文土器	縄文(中・後・晩)	青森県文調64集
42	外長根(5)	散布地	縄文土器	縄文(中・後・晩)	青森県文調64集
43	前平	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
44	前平(2)	散布地	縄文土器	縄文(晩)	青森県文調64集
45	冷水	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	
46	野場(1)	散布地	縄文土器・石匙	縄文(後・晩)	
47	野場(2)	散布地	縄文土器、石斧、石鏃	縄文(後・晩)	
48	畑内	集落跡	縄文土器(前～晩)、石斧、石鏃	縄文(前～晩)、弥生、奈良、平安	青森県文調161・178・187・211集ほか
49	四ッ役	集落跡	縄文土器(中・後)、土師器	縄文(中・後)、古墳	青森県文調188集
50	筋久辺	散布地	縄文土器	縄文(前～晩)	青森県文調第151集
51	榎ノ木	散布地	縄文土器	縄文、平安	
52	砂子	散布地	縄文土器	縄文、平安	
53	増田(1)	散布地	縄文土器、石匙	縄文(後・晩)	
54	増田(2)	散布地	縄文土器、石匙	縄文(後・晩)	
55	増田(3)	散布地	縄文土器	縄文	
56	北ノ畑	散布地	縄文土器	縄文	
57	田ノ沢	散布地	頭飾	縄文(後・晩)	
58	大森西山	散布地	縄文土器(後・晩)	縄文(後・晩)	
59	大向	散布地	縄文土器	縄文(中・後・晩)	
60	小松I	散布地	縄文土器	縄文	
61	小松IV	散布地	縄文土器	縄文	
62	高久保	散布地	縄文土器	縄文	
63	水吉	集落跡	縄文土器、弥生土器、土師器	縄文、弥生、平安、近代	青森県文調245集
64	水吉I	散布地	縄文土器	縄文	
65	水吉II	散布地	縄文土器	縄文	
66	水吉III	散布地	縄文土器	縄文	
67	水吉IV	集落跡	縄文土器、土師器	縄文(早～晩)、奈良	岩手県文調219集
68	水吉V	散布地	縄文土器	縄文(後)	
69	水吉VI	集落跡	縄文土器	縄文	
70	長倉小学校校庭	散布地	縄文土器(後)	縄文(後)	
71	長倉館(館の沢)	城館跡	堀、単郭、腰郭	中世	
72	長倉	散布地	縄文土器	縄文(前)	岩手県文調26集
73	長倉I	集落跡	縄文土器、土偶	縄文(後、晩)	岩手県文調336集
74	長倉III	散布地	縄文土器	縄文	
75	長倉IV	散布地	縄文土器(後)	縄文	岩手県文調231集
76	長倉V	散布地	縄文土器(前～晩)、弥生土器	縄文(前～晩)、弥生	岩手県文調231集
77	長倉VI	散布地	縄文土器、陶器?	縄文・平安	
78	長倉VII	散布地	縄文土器	縄文	
79	長倉VIII	散布地	縄文土器	縄文	
80	長倉No.14	散布地	縄文土器	縄文(後・晩)	岩手県文調10集
81	柳久保	散布地	縄文土器	縄文	
82	大鳥I	散布地	縄文土器(後)、土師器	縄文(前～後)、平安、中近世	岩手県文調290集
83	大鳥II	散布地	縄文土器、石器	縄文(早～晩)、弥生	岩手県文調270集
84	大鳥III	散布地	縄文土器	縄文	

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	文献
85	大鳥IV	散布地	縄文土器	縄文	
86	大鳥V	散布地	縄文土器	縄文	
87	下尾田II	散布地	縄文土器(後・晩)	縄文	
88	下尾田III	散布地	縄文土器、土師器	縄文、平安	
89	尾田、小松III	散布地	縄文土器	縄文	
90	尾田IV	散布地	縄文土器、土師器	縄文、平安	
91	尾田VIII	散布地	縄文土器	縄文	
92	上尾田I	散布地	縄文土器、土師器	縄文、平安	
93	上尾田II	散布地	縄文土器	縄文	
94	湯沢II	散布地	縄文土器	縄文	
95	湯沢IV	散布地	縄文土器	縄文	
96	向高家平中II	散布地	縄文土器	縄文	
97	上晴山V	散布地	縄文土器、土師器	縄文、平安	
98	柏木田I	集落地	縄文土器、土師器	縄文、平安	
99	柏木田III	散布地	縄文土器、土師器	縄文、平安	
100	柏木田IV	散布地	土師器	平安	
101	高家館	城館跡	堀、平場	中世	
102	外川目I	散布地	縄文土器	縄文	
103	外川目II	散布地	縄文土器、石器	縄文	
104	外川目III	散布地	縄文土器	縄文	
105	外川目V	集落後	縄文土器	縄文、平安	
106	外川目X	散布地	縄文土器	縄文	
107	高家中山II	散布地	縄文土器	縄文	
108	高家中山III	散布地	土師器	平安	
109	西里II	散布地	土師器	縄文、平安	
110	取場岸II	散布地	縄文土器・土師器	縄文、平安	
111	坂ノ上	集落後	縄文土器(後・晩)	縄文	
112	駒木	散布地	縄文土器(前・中)	縄文	
113	駒木III	集落跡	縄文土器(晩)	縄文	
114	駒木V	散布地	縄文土器	縄文	
115	駒木VI	散布地	縄文土器	縄文	
116	駒木VII	散布地	縄文土器(前・晩)	縄文	
117	駒木VIII	散布地	縄文土器	縄文	
118	機井内II	散布地	縄文土器	縄文	
119	古館(土弓の館)	城館跡	堀、単郭	中世	
120	土弓I	散布地	縄文土器	縄文(早・前・後・晩)	岩手県文調50集
121	土弓II	集落後	縄文土器(晩)	縄文	
122	土弓V	散布地	縄文土器	縄文	
123	土弓VI	散布地	縄文土器	縄文	
124	市子屋敷II	散布地	縄文土器、土師器	縄文、平安	
125	釜ノ川I	散布地	縄文土器・土師器	縄文、平安	
126	長者森I	散布地	縄文土器	縄文	
127	川向	散布地	縄文土器	縄文、平安	
128	向山岸I	散布地	土師器、須恵器	平安	
129	向山岸II	散布地	縄文土器	縄文	
130	京仏I	散布地	縄文土器、石器	縄文	
131	京仏IV	散布地	縄文土器	縄文	
132	館森	城館後	単郭	中世	
133	御前清水	散布地	縄文土器	縄文	
134	大日向I	散布地	縄文土器、磨製石斧、陶器	縄文	
135	大日向II	集落後	縄文土器(前・晩)、土偶、石器	縄文(早～晩)、弥生、奈良、平安、近世	岩手県文調100・225・275集
136	吠屋敷I a	集落跡	縄文土器	縄文(中～晩)、奈良、平安	岩手県文調61集
137	吠屋敷I b	集落跡	縄文土器	縄文(前～晩)、平安	岩手県文調63集
138	吠屋敷II	集落跡	縄文土器	縄文(前～晩)	岩手県文調47集
139	吠屋敷III	集落跡	縄文土器	縄文(前～晩)	岩手県文調48集
140	馬場野I	集落跡	縄文土器	縄文(中～晩)、近世	岩手県文調68集
141	馬場野II	集落跡	縄文土器	縄文(草・早・中～晩)、弥生	岩手県文調99集
142	君成田IV	集落跡	縄文土器(後・晩)	縄文(中～晩)、弥生、奈良、近世	岩手県文調62集
143	君成田V	集落跡	縄文土器(晩)	縄文、平安	
144	君成田VII	散布地	縄文土器(晩)	縄文	
145	君成田VIII	散布地	縄文土器	縄文	
146	中山II	散布地	縄文土器	縄文	
147	中山III	散布地	縄文土器(後)	縄文	
148	中山VI	散布地	縄文土器(後)	縄文	
149	岸里I	散布地	縄文土器(晩)	縄文	
150	岸里III	散布地	縄文土器	縄文	
151	沼田I	散布地	縄文土器(晩)	縄文	
152	沼田III	散布地	縄文土器、土師器	縄文、奈良	
153	沼田IV	散布地	縄文土器	縄文	
154	向川原	散布地	縄文土器	縄文	
155	柿の平	散布地	縄文土器(後・晩)、石器	縄文	
156	諏訪の森	散布地	縄文土器(晩)	縄文	

第2表 周辺の遺跡

第三章 調査方法と整理方法

1 野外調査

(1) 調査運営の経過について

延べ3カ年の調査を行い、調査の大部分（西部捨て場付近や調査区中央部分の遺構精査など）は中川が主に担当し、平成8年度9月中旬以降の調査（主に東部捨て場付近の調査）に関しては星が主に担当した。

(2) 調査区の設定と遺構の呼称

本遺跡の調査区域は、東西約110m、南北約65m、北西～南東方向に最大長をもつ。調査区の設定は、基準点測量を委託し、平面直角座標系第X系を利用して調査区域を網羅できるように設定した。設定した基準点1・2の成果値は以下のとおりである。

基準点1 X=39,930.000 Y=56,000.000 H=292.065m

基準点2 X=39,930.000 Y=55,964.000 H=294.422m

調査区は基準点を基点に、4m毎に小区画し、南側～北側に向かってA～Rの名称を付け、西側～東側に向かって1～28の名称を付けた。すなわちA1、R27などのグリッド名を付ける方法を取り、南西を起点として遺物の取り上げを行った。遺構名は調査区名と遺構の種類を組み合わせることでB21住居跡1号、F17土坑1号などと呼称した。遺構・遺物ともに遺構が二つ以上のグリッドにかかる場合は、検出時のプランで北端が含まれるグリッドで遺構名を命名した。基準点やグリッドについては、第7図を参照いただきたい。

(3) 粗掘り・遺構精査

当初約4×2mのトレンチを17カ所に入れ、遺跡の状況把握に努めた。第5図はトレンチを入れた地点を示す。その結果、調査区の東西に位置する斜面部からは遺物包含層（捨て場）の存在が確認され、平坦部は遺構の密集が予見された。排土場の確保の関係から、調査区西側から精査を開始した。

遺構の精査は、住居跡を4分法、土坑等その他の遺構は原則として2分法を採用した。竪穴住居跡を例に取り上げその手順を説明する。

まず、4分と土層観察用のベルトを設定し、各分割区は北東を起点にQ1～Q4と時計回りに呼び、遺物の取り上げの際の単位とした。各区ごとに埋土を掘り下げて床面を検出した。次に土層の写真撮影を行い、断面図を作成した後に除去した。

床まで掘り下げた後の作業は、柱穴・ピット等の精査を行い、写真撮影・平面実測を終えた後に炉の精査を行った。上記した床面の定かでないものと貼床をもつものについては、柱穴の検出のため写真撮影・平面実測終了後に、だめ押し的に掘り下げ確認に努めた。

遺物包含層の精査については、調査開始初期に試掘トレンチを入れ、遺物包含層の形成されている分布範囲の把握に努めた。その結果、東西の斜面地は層厚1～2mで、調査区中央部分は層厚が薄いかあるいは分布がみられないことがわかった。

遺物包含層が厚く堆積する斜面地の遺物の取り上げ方については、斜面の傾斜方向に直交する土層ベルトとそれに垂直になるベルトを設定して、遺物取り上げの際に層位の目安とした上で、グリッド単位で取り上げた。また、遺物取り上げ時には、トータルステーションを使用し、可能な限りの遺物点を計測した。

遺物包含層の精査に関わる詳細は、第IV章12の捨て場の項で述べる。

2 室内整理

室内整理については、検出遺構及び出土遺物が多いことから、冬期間の5カ月間のみでは整理が終了できず、平成9・10年度も引き続き通年24カ月の室内整理を実施した。

(1) 整理経過

平成6～9年度の室内整理は、野外調査時の主担当である中川が担当し、遺構図の点検・合成・修正、遺物水洗、土器の接合・復元、遺物の仕分・選別、登録作業、不掲載遺物の収納、各種の表作成、遺構トレース、遺物の実測を行った。

平成10年度の室内整理は、星が担当し、各種の表作成、遺構トレース、掲載遺物の選択、遺物の実測・トレース及び図版作成作業、原稿執筆、報告書の編集、遺物収納を行った。

野外調査と同様に整理作業においても担当調査員の途中変更を行ったことにより、調査成果や報告書掲載上の不備が存在する可能性はあるが、最終的に総括した平成10年度整理担当者の星の責任のもとに原稿を執筆し、編集した。

(2) 遺構図面

遺構図面は、野外調査時は平面図、断面図ともに縮尺1/20を原則とし、必要に応じて1/5、1/10で作成を行い、補足的にトータルステーションで遺構の輪郭（上端線）を測量した。特に遺構の密集が激しかった調査区中央部分は、野外時に実測した平面図と断面図が合わない等の問題が多くあった。本稿に掲載している遺構図の中で、特に重複の激しい土坑類の大部分は、写真等を参照して修正した第2原図を作成した上で、トレースを行ったものであることをお断りしておく。

(3) 遺物

遺物は、洗浄（遺物水洗）と出土地点ごとの仕分けを現場で野外調査と並行して進めたが、大部分の遺物の洗浄は室内整理の段階で行った。注記・接合・復元を行った後に、登録・選別の作業を行った。報告書に掲載した遺物は、中川が選別し一次登録した中から星が2～3回ほどのセレクトを重ねた上で抽出したもので、特殊性を強く感じる遺物などを除き、原則としては各種類とも総点数の15～20パーセントを掲載した。

(4) 写真

野外調査中に撮影した写真は、フィルムの規格ごとにモノクロはネガアルバムに、リバーサルフィルムはスライドアルバムに、ポラロイドはインスタントフォトアルバムに整理した。

(5) 報告書について

〈遺構の記載〉 遺構の事実記載は、住居跡と掘立柱建物跡は原則として調査区西側から順に行い、その他の遺構はグリッド順に行った。ただし、検出数も多く重複も激しい土坑や柱穴状土坑については、遺構配置図（第9～14図）に記した遺構番号順に表記載のみで割愛した。

＜遺物の掲載＞ 掲載遺物は、掲載順に1から連番を付けている。遺物掲載番号は、図版・写真とも同一の番号である。時間の関係で写真のみを掲載する遺物もある。個々の遺物の観察内容は、できるだけ観察表中に記載し、本文では最小限度の記載を行う。なお、土製品や石器の観察表は、器種毎に掲載順に作成したが、時間及び紙面の幅の関係で図版・写真番号とも記載していない。

＜遺構図版＞ 遺構図版は、1/60を基本とするが、遺構の性格に応じて縮尺を変えている。但し、三角スケールで計測できる定型縮尺とし、挿図の右下にスケールを付けている。また、土坑類は、重複が激しい部分については集合図的なスタイルで掲載した。

＜遺物図版＞ 遺物図版は、土器を1/3を基本として大きさにより1/2・1/4・1/5、土製品を1/2、石器類を2/3～1/3で掲載し、挿図の右下にスケールを付けた。集成図については、不定型縮尺であることをお断りしておく（土器は基本的に1/6や2/9などが多い）。

＜集成図＞ 第八章に掲載した集成図は、基本的に住居跡は1/80、土器は2/9、土製品は1/2で作成したが、大形の住居跡及び土器は不定型縮尺で作成したものが含まれる。

＜遺構写真図版＞ 遺構写真図版は、全て任意である。遺構図版と同様に重複の激しい土坑類は、集合写真を採用した。

＜遺物写真図版＞ 遺物写真図版は、土器類1/3・石器類2/3 or 1/2を基本とし、大きさにより1/4・1/5など定型縮尺で掲載に努めたが、台紙の関係で一部の遺物は2/9といった縮尺になったものもある。遺物の掲載スケールについては、図版の右下に $S \approx 1/3$ （ \approx は若干の誤差）と言った具合に添付している。

3 遺物の掲載について

はじめに

本稿作成にあたっては、遺物出土の主体を占める遺物包含層の分布する範囲を捨て場として扱い、一つの空間（遺構的）として捉え、図版作成を進めた。図版作成途中に時間との関係で土製品や石器類を遺構外的に扱うことに変更した経緯がある。

上記に起因して、遺構外遺物の掲載方法は、本稿の遺物を見る（調べる）時分に不親切であり、混乱を招く恐れがある。それと本稿に掲載できなかった遺物量も相当数存在する。

よって、本報告書の内容を理解しやすくするため本項を設定し、遺物に関する掲載方法や基準・分類基準を述べておく。

（1）遺物の掲載スタイル

述べ3年間の調査で出土した遺物の総量は、大コンテナ約600箱分に達する量であった。

出土遺物の時期は、縄文時代後期初頭～晩期前葉に比定されるものが大部分（土器について言及すれば98%以上が後～晩期のものである）である。

整理期間の問題から、これらの遺物全てを報告書に掲載することは不可能であり、選択を行った。報告書に掲載する遺物をどのような基準のもとに選択し、どのようなスタイルで掲載するかについては、かなり苦慮した経緯がある。特に、遺物包含層出土遺物を遺構内遺物として扱うか遺構外遺物として扱うかは難しい問題と考える。

本稿では遺物包含層出土遺物を、遺構外遺物として扱うこととするが、遺物包含層の分布する空間である

東西の斜面地を、それぞれ「東部捨て場」、「西部捨て場」と呼称し、遺物包含層の分布が見られない調査区中央部の表採・表土（耕作土や盛土などを含めて一括する）出土の遺物とは分けて捉えることとした。

遺物の掲載は、「出土地域」と言う項目を設定し、下記のように大別した上で、観察表にはコード化したものを記入する。以下のようなになる。

＜N＝遺構内出土遺物＞ 住居跡、土坑、柱穴状土坑、焼土遺構などの遺構から出土した遺物には、出土地域の項にNと記入する。

＜GE＝東部捨て場出土遺物・GW＝西部捨て場出土遺物＞ 東西の斜面地に堆積する遺物包含層部分を、それぞれ東部捨て場と西部捨て場と呼称し、東部捨て場の出土地域の項にはGE（Gは遺構外の呼称で、Eはイースト）、西部捨て場の出土地域の項にはGW（Gは遺構外の呼称で、Wはウエスト）と記入する。

＜GC＝調査区中央部表土出土遺物＞ 基本的にⅢ層（遺物包含層）の堆積が見られない調査区中央部（平坦部や南側の丘陵部）のⅠ層（表採、表土、盛土、耕作土、攪乱層）出土遺物には、出土地域の項にGC（Gは遺構外の呼称で、Cはセンター）と記入する。ほとんどのものが粗掘り時や遺構の検出作業中に出土している。

（2）図版の掲載順について

土器類は、上記したN、GE、GW、GC毎に大別した後に出土地点毎に掲載する。

土製品と石器類は、NとGE・GW・GCに大別した後、器種毎に掲載する。遺構外遺物について、土製品を例に説明すると、以下のような順になる。

GE出土ミニチュア土器→GW出土ミニチュア土器→GC出土ミニチュア土器→GE出土土偶→GW出土土偶→GC出土土偶→GE出土動物形土製品・

（3）掲載遺物の抽出方法

掲載遺物の抽出にあたっては、上述したとおり2～3回のセレクトを行ったことから、整理担当者の恣意的な部分も介在し、大なり小なり客観性に欠ける内容となった可能性がある。各種遺物の抽出方法と内容を下記に記述しておく。

＜土器＞ 基本的には、以下のような基準で掲載遺物を採用した。

a 住居跡、土坑、柱穴状土坑などの遺構内出土土器については、遺構の構築や廃棄の時期推定に関わるため、小片においてもできるだけ掲載を行ったつもりである。遺構内出土土器は、大コンテナ30箱分以上の出土量で、立体・小片含めて約2000点を抽出し、第一次登録した。その中から時期同定の困難な地文のみを施文する粗製深鉢の小片などを除き（非優先として）、約1400点を第二次登録した後に、再度選択を行い809点を第三次登録し掲載土器とした。

b 遺構外出土土器は、約500箱分の出土量で、内訳は東部捨て場250箱分以上、西部捨て場250箱弱、調査区中央部などの表採から約10箱分が出土した。

全般的な傾向として東西の捨て場からは、完形品・半完形品が多く、土器の接合率も概ね良好であった。遺構外出土の中で残存率50%以上の基準を満たす土器は、接合作業によるものを含めて約2306個体となった。報告書掲載にあたっては、それらの立体土器に分析対象となりそうな約900点の破片を加えた約3201点を一次登録した。一次登録した約3201点は、器種区分と時期区分などの観察まで行った。整理期間を加味して、その中から1264点を掲載予定土器として二次登録し、観察表を作成した。しかし、時間の都合上、器種構成

率を加味した上で、更にセレクトを行い979点を第三次登録し、掲載土器とした。よって、残存率50パーセントを超えるものや文様から時期の推定の可能なものであっても、不掲載あるいは写真掲載に留めざるを得なかったものも多数存在する。ただし、突起資料及び孔が穿たれているなど特殊な土器については、小破片であってもできるだけ掲載を行ったつもりである。

＜土製品＞ 原則として、全て掲載する予定で整理作業を進めたが、ミニチュア土器、円盤状土製品、三角形土製品など出土点数の多いものは各器種とも15～20パーセントの掲載に留め、その他のものは80パーセント以上の掲載数とした。遺物個々の出土点数や掲載点数については、第V章を参照して載きたい。

＜石器・石製品＞ 石器・石製品の掲載基準は、出土数の極端に少ないものを除き、各器種とも出土点数の20%を原則としたが、15%程度しか掲載できなかったものもある。詳細は第V章を参照して載きたい。

4 トータルステーションについて

先にトータルステーションの導入から活用について若干説明する。

当センターにおいては、平成4年度の調査からトータルステーションを導入し、主に旧石器出土遺跡の調査において活用してきた経緯がある。トータルステーションを使用して調査を行った遺跡としては、「大渡Ⅱ遺跡」、「峠山牧場Ⅰ遺跡A・B地区」、「耳取Ⅰ遺跡B地区」など主に東北横断自動車道秋田線建設に関連した遺跡で、旧石器の出土地点の測点に効力を発揮した（ユニット・ブロック及び文化層の把握）。その他の種別遺跡に関しても、調査区の輪郭線や遺構の実測に使用したケースも若干ある。しかし、遺物包含層を抱えた縄文の集落遺跡にトータルステーションを本格的に活用したのは本遺跡が初めてのケースであった。

本遺跡の調査は、トータルステーションを使用し、一部の遺構と遺物の測量を行ったが、そのデータは本稿には充分生かしきれず掲載しきれなかったデータが多い。

（1）測量内容

a 遺構について

基本的には従来通りの人力による実測図作成をおこなっている。トータルステーションによる実測は、主に重複の激しい地点（特に調査区中央部）の把握と実測漏れ防止のため、遺構の上端線やセクションポイントなどの実測を行った。

b 遺物について

当初遺物の全点ドットを予定していたが、予想された以上の遺物が出土したため、調査途中から使用方針を変更し、現場作業中に認識した土製品・石製品、大部分の完形土器、出土石器の6割以上の各測点データを測点した。測点数は合計で約6500点である。

（2）報告書への掲載データ

a 遺構の計測データ

遺構の計測データは、上述のとおり第二原図作成時の補足資料として用いた。

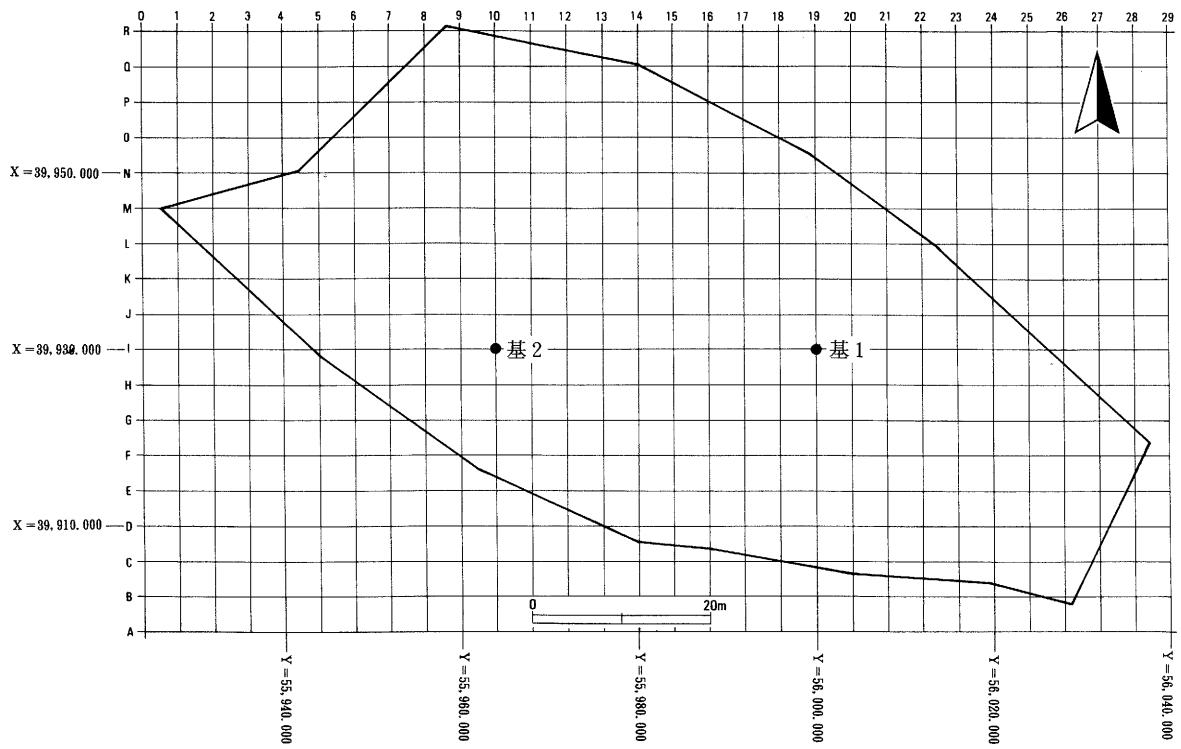
b 遺物の計測データ

遺物の計測データは、一部の遺物点を下記のように図示した。

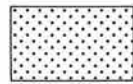
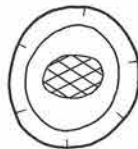
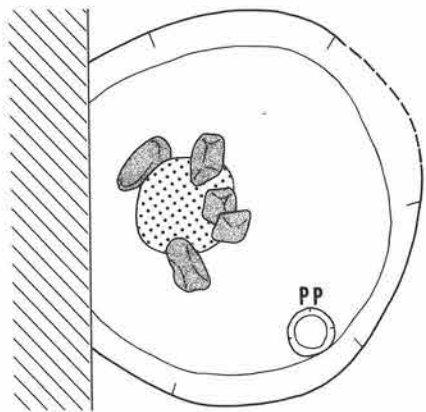
平面分布データは、第401～419図に掲載した遺物の出土分布図や土製品（土偶など）や石器（磨製石斧

など)の接合関係図作成の資料に用いた。

垂直分布のデータは、土器の層位的出土状況を示す資料として用いた。第120～124図は、捨て場内で観察用に設定した土層断面の細分層位に対比(ただし、大部分の土器は土層断面内出土)させて作成した。土器とその他の遺物の共伴性などについても、データをまとめ図化を行う予定であったが、データ整理に膨大な時間を費やし、作成は途中で中断した。第VI章で、整理できた分のデータの内容を文章で記載することで代用とする。



第7図 グリッド配置図



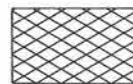
焼土



炉石



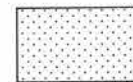
トレンチ



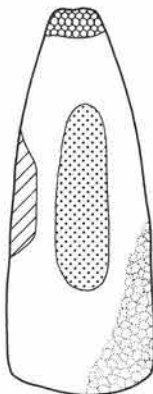
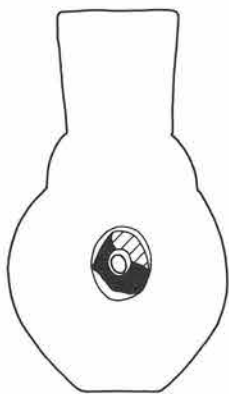
底面変色部分
(アタリ)

PP 柱穴

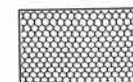
----- 住居跡輪郭
推定線



遺物包含層
分布範囲



磨面



敲打



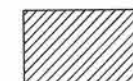
ベッキング加工痕



土器・石器
剥落欠損



アスファルト



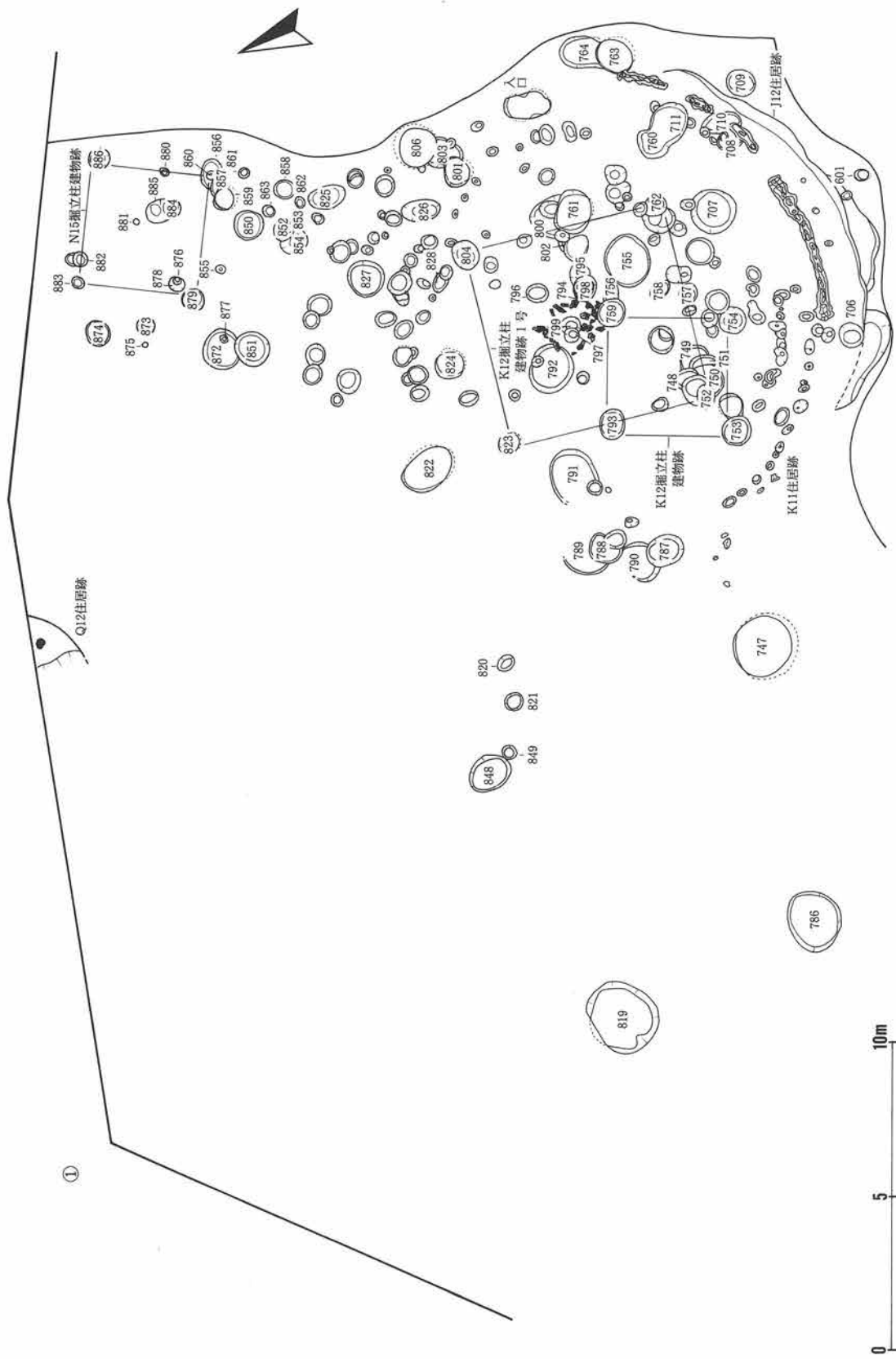
土偶などの剥落欠損



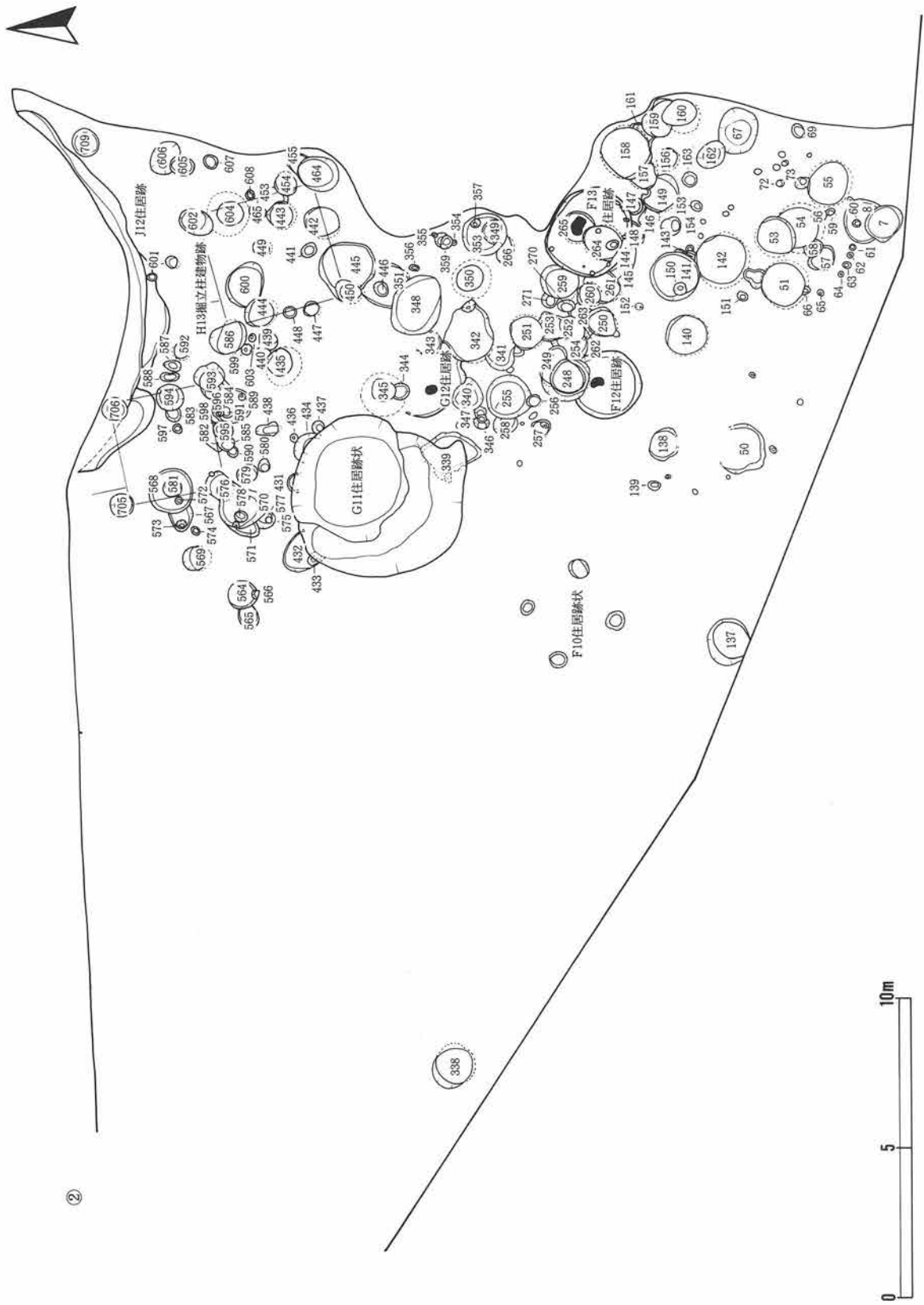
第8図 凡例



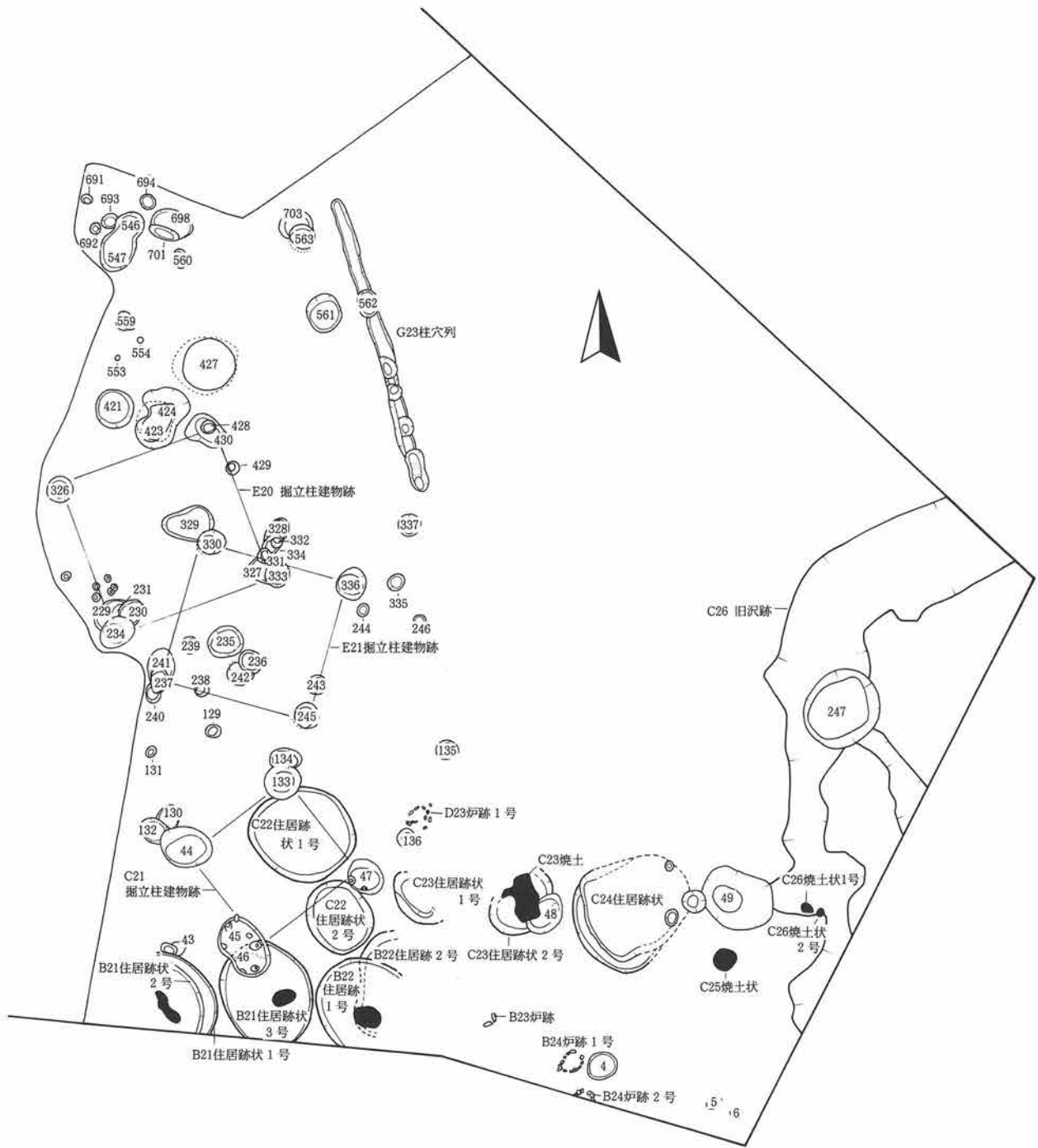
第9図 遺構配置図1



第10図 遺構配置図2



第11図 遺構配置図3



第14図 遺構配置図6

第IV章 検出された遺構

検出された遺構は、住居跡・住居跡状30棟、掘立柱建物跡15棟、炉跡4基、焼土遺構6基、土坑452基、柱穴状土坑436基、柱穴列1条、集石1基、立石1基、溝状遺構1基、旧沢跡1条、古地震跡1カ所、捨て場2カ所である。

遺構の時期同定は、困難なものも多いが、概ね縄文時代後期から晩期と推定（判断）される。

第9図に全体の遺構配置図（縮尺1/500）を、第10～14図に部分アップの遺構配置図（縮尺1/200）を掲載している。なお、第10～14図の遺構配置図には、土坑及び柱穴状土坑については遺構名ではなく遺構番号で記した。それらの遺構番号は、第5～19表の遺構表と対照する。

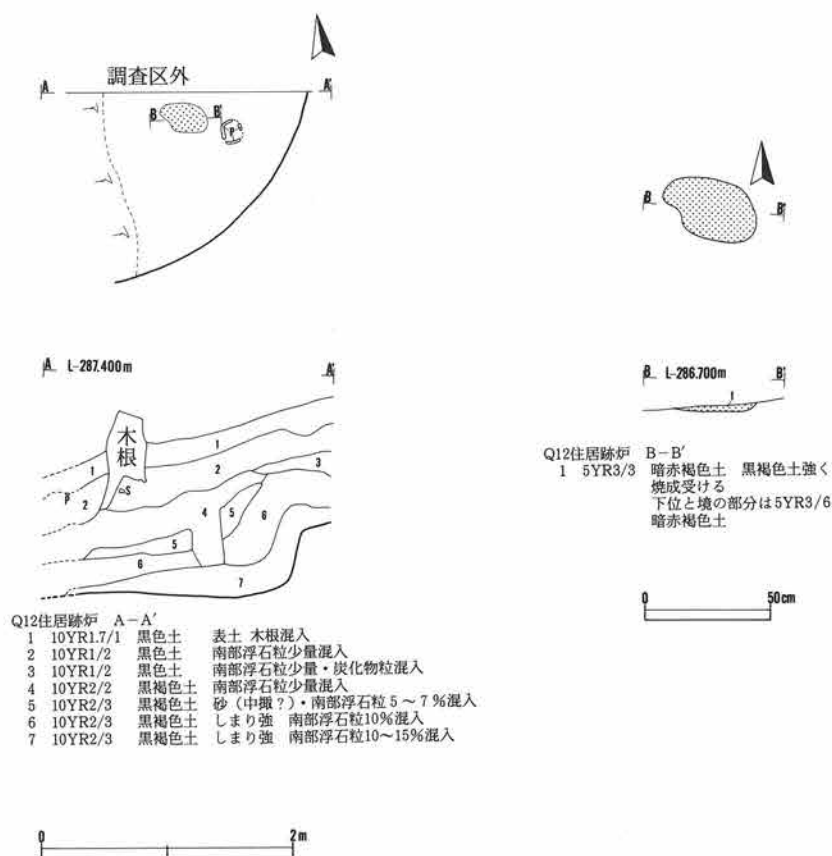
個々の遺構の記載の前に、若干の説明をしておく。

遺構埋土の記載について、自然堆積層か人為堆積層かの判断は、八戸火山灰のブロックが入る明らかな土層は判断が容易であるが、大半は南部浮石粒の顔付きで判断するようなものが多かった。南部浮石粒の顔付きについて説明すると、汚れた様相のものや潰れたもの（粒径が若干小さい）といった状態である南部浮石粒で、これらは人為によるなんらかの作用を受けていると判断した。

出土遺物について、時間と紙面の都合もあり各遺構の出土遺物の項では、遺物個々の記載は割愛したので、観察表と実測図を参照載きたい。

遺構の時期について、土器の時期をとりあえず概ね以下のように捉え記述する。

十腰内I式=後期初頭～前葉、十腰内II～III式=後期中葉、十腰内IV式=後期後葉、十腰内V式=後期末葉、大洞B1式=晩期初頭、大洞B2～BC式=晩期前葉



第15図 Q12住居跡

1 住居跡・住居跡状

住居跡を16棟、住居跡状を14棟検出した。尚、本遺跡においては、炉か柱穴の何れか一方でも検出した竪穴を住居跡とし、それ以外の竪穴を住居跡状と定義した。

住居跡・住居跡状の時期は、後期と推定されるのが5棟、後期末葉～晩期前葉と推定されるのが25棟である。

Q12住居跡（第15図、写真図版5）

＜位置・検出状況＞ 調査区北端部のQ12グリッド付近においてⅡ層を除去した段階で検出した。本遺構が検出された付近の現況地形は、南東から北西にかけて傾斜する緩斜面地である。西部捨て場内に位置し、遺構は遺物包含層中に構築されている。

＜平面形・規模＞ 斜面下方側である西側プランは、土砂の自然流出により消失したと思われ、竪穴の一部分が残存するのみであるため、平面形、規模ともに詳細は不明である。確認された東側プランより平面形は円形と推定される。

＜埋土＞ 第15図の1層は耕作土、2層は基本層序のⅡ層（十和田b火山灰混入層）に相当し、3～7層が本住居跡の埋土と判断される。4・5層は自然流入されてきた堆積層と思われる。

＜壁・床＞ 黒土中であったこともあり、壁は把握できなかった。第15図の断面図A-A'ではとりあえず壁と思われる立ち上がりを図示したが、確かなものではない。床面は地床炉の検出面を参考として判断した。

＜柱穴＞ 未検出である。

＜炉＞ 床面上で焼土化した部分が地床炉と判断される。平面形は楕円形で、40×25cm程に広がる。

＜出土遺物＞（第136図、写真図版177） 縄文時代後期の土器が少量出土している。

土器（第136図1、写真図版177） 床面に近い層（埋土下位）から出土した1の鉢は、十腰内Ⅲ～Ⅳ式に相当する。

＜時期＞ 十腰内Ⅲ式期の土器は、流入されたと判断される土中からの出土であり、本遺構が後期中葉とは思われない。検出面は遺物包含層の上位であることから晩期初頭期と推定される。

K11住居跡（第16・17図、写真図版6～10）

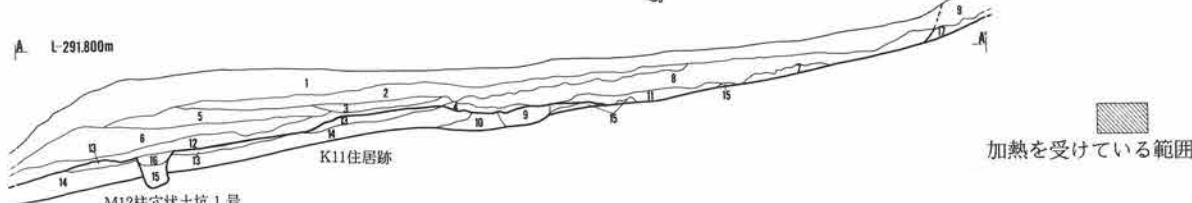
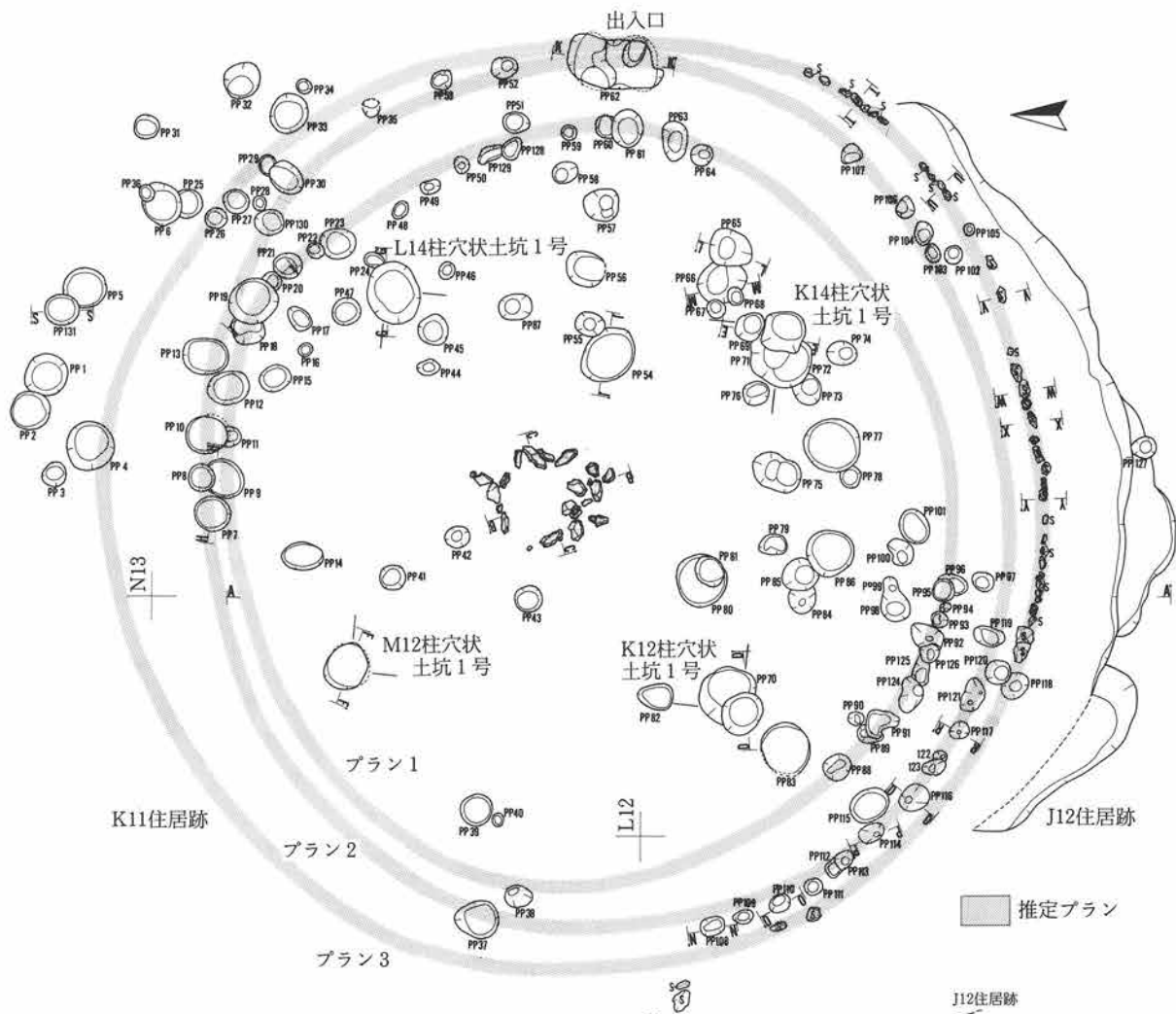
＜位置・検出状況＞ 調査区中央部のK13・L13グリッドを中心とし、直径14～16mの範囲に広がると想定される大形の住居跡である。

本遺構が検出された付近の現況地形は、南から北に向かって緩く傾斜した後に平坦化する。住居プランの大部分が西部捨て場内に所在し、遺構は遺物包含層中に構築されている。

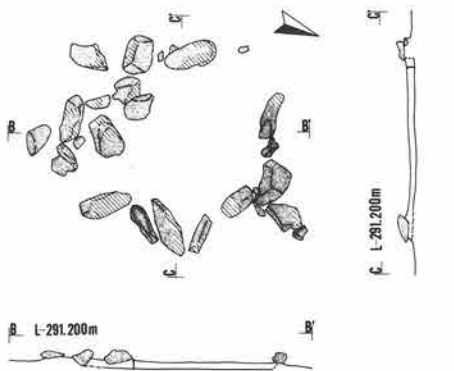
本遺構は、石囲炉が特出して大きいことと、南側に弧状の石列を配するなどの状況から、調査当初は配石的性格の遺構として捉え精査を進めた経緯があり、出入り口と推定される施設の検出から住居跡と認知した。

よって、本来の遺構構築面はさらに上位であったと判断されよう。竪穴自体は把握できず、また床面は住居の大部分が遺物包含層中に構築されていることもあって、把握が困難な状況であった。全般に不明な点が多く、内容は推定的な記述が多いことをお断りしておく。

＜建て替え＞ 小柱穴の配列具合から、少なくとも3時期（2回の建て替え）が推定される。第16図には小柱穴の配列から推定されるプランを明示した。古い方からプラン1・2・3の順となる。



K11 住居跡	J12住居跡	A-A'	
1	10YR3/1	黒褐色土	十和田b微量・南部浮石粒少量・光沢強の長石?多量混入
2	10YR3/1	黒褐色土	下位に砂土ブロック・十和田b・南部浮石粒微量混入
3	10YR2/3	黒褐色土	十和田b少量混入。この面を剥くと礫が見られる
4	10YR3/1	黒褐色土	遺物包含量 上位に後期末~晚期土器混在・中~下位に後期土器多量混入(再堆積層)
5	10YR3/1	黒褐色土	南部浮石粒少量混入
6	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒多量・遺物(主に後期末~晚期前葉)・骨片微量混入
7	10YR2/2	黒褐色土	南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒・遺物多量(後期中~末葉主体・後期前葉は下位に少量)・骨片多量混入
8	10YR3/1	黒褐色土	7層より若干粘性強 南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒・土器混入 J12住居跡埋土
9	10YR3/1	黒褐色土	7層より若干粘性強 南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒・土器混入 8層相当
10	10YR3/1~2/2	黒褐色土	6層より南部浮石粒少量・焼土粒・炭化物粒微量混入・後期中葉土器混入
11	10YR3/1	黒褐色土	細かい南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒微量・土器混入
12	10YR3/1	黒褐色土	南部浮石粒微量・上位に後期前葉土器微量混入
13	10YR2/2	黒褐色土	褐色~黄褐色土の土砂ブロック・南部浮石粒微量混入
14	10YR2/2~7.5YR2/2	黒褐色土	南部浮石粒混入・南部浮石起源の土層
15	10YR3/2	黒褐色土	南部浮石粒に褐色上混入
16	10YR3/1	黒褐色土	南部浮石粒微量・上位に後期前葉土器微量混入
17	10YR3/1	黒褐色土	南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒混入 J12住居跡埋土



0 4m S = 1/120

K11住居跡B-B'・C-C'
1 7.5YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒・焼土粒少量混入

0 1m

第16図 K11住居跡(1)、J12住居跡



第17図 K11住居跡 (2)

＜重複遺構＞ 本住居跡がJ12住居跡を截る。K11掘立柱建物跡1号とK11掘立柱建物跡2号との新旧関係は、検出状況から推定して本遺構が新しいと判断された。現段階での筆者の見解は、野外時に単独の掘立柱建物跡と捉えられたK11掘立柱建物跡2号は本住居跡の主柱穴であろうと思っている。

＜平面形・規模＞ ほぼ円形を呈すると推定される。規模は直径14～16m程であろう。

＜埋土＞ 黒色～黒褐色土を主体とする。第16図の土層断面図A-A'は、1～17層に区分しているが、12層までが本住居跡の覆土と捉えられる。上位に堆積する1・2・3層は、十和田b火山灰を含む層で、基本層序のⅡ層に相当する。中位～下位は遺物包含層の再堆積で構成される。また、床面自体も遺物包含層である部分もあり、埋土下位と床面の区分が明確でない部分がほとんどであった。

＜壁・床＞ 壁は上述のとおり把握できなかった。よって、厳密には竪穴状に掘り窪めていたものかわからない。

第16図の平面図に付随させた南側の高い段は、図上では南壁であるような位置関係にあり、誤解をまねく恐れがあるので説明しておく。本住居跡精査時は、壁を探して中央である北側から南側に向かって掘り進んだ経緯があり、いかにも壁らしく掘ってしまった可能性が高い。本住居跡が拡張され、その一部あるいは別の住居跡である可能性も全く否定はできないが、傾斜変換点と思われる自然地形的な立ち上がりである可能性が有力と考えられる。記載上は、本住居跡とは無関係としておく。

床面は黒褐色土中であるため明瞭ではない。石囲炉の検出面レベルと部分的に堆積する十和田b火山灰を指標にして精査を行い、12層下位付近が床面と判断した。床面と想定した12層のダメ押しを行った結果、下位の13層から中掘火山灰（基本土層のⅣ層相当）が検出され、人為的作用を受けていない層であることがわかった。よって、12層下位付近かもしくは13層の上面が床面で相違ないと思われる。想定したレベルが床面であれば、平坦ではなく若干凹凸がある。

＜柱穴＞ 検出された柱穴は、壁柱穴と思われる小形のものを含め131基である。大形の柱穴を主柱と捉えると、柱穴配列は4本ないし6本による方形に配置されると思われる。柱穴の規模は大小様々であるが、開口部径60～110cm、深さ20～150cmの範囲のものである。

柱穴の配列や間隔から、柱穴状土坑として登録したK14柱穴状土坑、K12柱穴状土坑1号、M12柱穴状土坑、L14柱穴状土坑は、本遺構のプラン3に伴う主柱穴の可能性が高いと思われる。4本とも大形の柱穴で、開口部径60cm以上、深さ150cm以上のもので、柱穴間の距離は5.3～6.4m程である。柱穴同士の重複関係が見られることから、山側（南側）は柱の建て替えを行っていると思定される。

なお、プラン3より外となるPP1・PP2・PP3・PP5・PP6・PP25・PP31・PP32・PP36・PP131などは、竪穴の屋外に存在した柱穴の可能性を示唆して採用した。

＜壁柱穴＞ プラン2に伴い、南側（山側）の壁際に径20cm程の壁柱穴が部分的に巡るようである。北側（谷側）が、畑の耕作や自然流失によって消失した可能性もあるため、住居を全周するかどうかは不明である。また、小形の柱穴については、本来壁溝が存在し、その壁溝内の柱穴であった可能性がある。

＜石列＞ 壁柱穴の外側に、20～50cm程の角礫が連続して巡る。状況から判断して、この石列が一番新しいプラン3に伴うものと思われる。個々の石は、それぞれ約20cmの掘り方を持つ。石が設置されている状況は、第17図の断面図や写真図版9を参照戴きたい。この石列が全周するかについては、谷側が畑の耕作や自然流失などの作用によって消失した可能性もあり、調査では判明できなかった。

＜炉＞ 角礫を環状気味に配列する石囲炉で、住居中央に位置する。規模は210×170cm程である。個々の炉石は、掘り方等は持たず、床面上に直接置かれ、縁辺を黒土のシルトで固めて構築されている。炉石は加熱

を受けた部分が確認されるが、炉内及び周辺からは明瞭な焼土は検出されず、焼土粒を微量検出したにとどまる。

＜出入り口施設＞ PP62としたものが出入り口施設と推定される。住居の東側に位置する。長方形に近い形で土坑状の掘り込みを呈する。土坑の規模は、長軸約140cm、短軸約80cm、深さ約100cmである。第17図の断面図K-K'は、南北に割った状況を示し、1層の部分に石かあるいは木柱が埋め込んであったと想定されるが、断面の様相から抜き取られている可能性がある。おそらくは、4箇所石か木柱が設置されていたと想定されるが、詳細は不明である。

＜出土遺物＞（第136・137図、第168図、第173図、写真図版177・199・202・203） 縄文時代後～晩期を主体に、弥生時代の土器が2点出土している。土器片は柱穴からの出土が多い。

土器（第136・137図2～58、写真図版177） 2が床面からで、3～7が埋土中からの出土、8～58が柱穴からの出土である。柱穴からの出土土器は、後期前葉～弥生までと時期幅が広い。弥生土器は2点の出土で、PP1から天王山式、PP8から砂沢式？が出土している。PP1は推定プランより外に位置するため、本住居跡に伴う柱穴かどうか定かではない。PP8については、出土している19は小さな土器片であるが、とりあえず砂沢式と同定した。

土製品（第168図810～814、写真図版199） ミニチュア土器1点（814）と円盤状土製品4点（810～813）が出土している。814のミニチュア土器はPP93より出土した。また812の円盤状土製品は、出入り口施設と思われるPP62とL15土坑1号より出土したものが接合して完形となった。ただし、状況から推定して、両者は重複関係にあるため、特殊性を考えるより精査時の混乱と思われる。

石器（第173図907～921、写真図版202・203） 第173図に掲載した石器が出土している。908の磨製石斧は出入り口施設と思われるPP62から出土した。

＜時期＞ 十和田b火山灰の降下年代より古く、遺物包含層の形成時期より新しいことがわかった。出土遺物や他の遺構との切り合い関係などから縄文時代晩期前葉と推定した。PP1とPP8から弥生土器と思われる土器が出土していることについて、上述したとおりの理由で時期判断の材料としては考え難いことから、全く否定はできないが本住居を弥生時代とは考えていない。

J12住居跡状（第16図、写真図版11）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央やや南側のJ11グリッド付近に位置する。本遺構が検出された付近の現況地形は、K11大形住居跡などが立地する調査区中央部平坦地部分より面的に高い段（山側）との変換点に位置する。

＜重複遺構＞ K11住居跡に截られる。

＜平面形・規模＞ 不明である。

＜埋土＞ 全般に南部浮石粒を含む黒褐色土を主体とする。自然堆積である。

＜壁・床＞ 南壁は外傾気味に立ち上がる。床面はK11住居跡の構築時に削平を受けたと考えられる。

＜柱穴＞ 開口部径12cm程の小形の柱穴を1基検出した。

＜出土遺物＞（第137図、写真図版177） 縄文時代後期中葉～晩期初頭の遺物が出土している。

土器（第137図59～64、写真図版177） 全て埋土中からの出土である。

＜時期＞ 他遺構との切り合い関係としては、K11住居跡（晩期前葉）よりは古い。ただし、状況からK11住居跡とは大差ない時期と思われることから、縄文時代晩期と推定される。

G11住居跡状（第18図、写真図版12）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央やや南側のG11グリッド付近に位置する。現況地形は、K11大形住居跡などが立地する調査区中央部平坦地部分より面的に高い段に位置する。

本遺構やG12住居跡状などが立地する付近は、本来の旧地形は南から北に向かって緩く傾斜する緩斜面地であったと推定される。現況の標高295～296m（調査前）付近の等高線の間隔が不自然に広いことと、南部浮石粒層が削られた様相であることから判断して、かなり大規模な造成工事を行い平坦面を作り出したと思われる。この作り出したと思われる平坦面上に本遺構など複数の住居跡が点在する。

＜重複遺構＞ 本住居跡状が、G11土坑1号、H11土坑1・2号、H12土坑1号、H11柱穴状土坑を截る。

＜平面形・規模＞ 平面形は円～楕円形状を呈する。規模は6×5.3m、深さは1～1.2mである。山側である南西は、自然的作用で崩落したと思われる。

＜埋土＞ 全般に南部浮石粒を含む黒褐色土を主体とする。埋土上位の2～3層は、十和田b火山灰が見られることからⅡ層に相当する。4～29層は、遺物包含層（Ⅲ層）に相当する土壌である。第18図土層断面A-A'の堆積様相からは、自然堆積とも捉えられるが、調査記録に従えば1・2・2a・3層以外は人為堆積層である。出土遺物の有り方からは、付近に所在した遺物包含層を使って埋め戻し（整地化）を行ったと思われる。

＜壁・床＞ 壁は外傾気味に立ち上がり、断面形は浅鉢状を呈する。床面はほぼ平坦である。

＜柱穴＞ 開口部径12cm程の小形の柱穴を竪穴中央部付近で検出した。

＜炉＞ 検出されなかった。

＜出土遺物＞（第137・138図、第168図、第174図、写真図版178・199・203）縄文時代後期末葉～晩期前葉、及び弥生時代（土器小片1点）の遺物が出土している。

土器（第137・138図65～83、写真図版178） 埋土上位を中心に比較的多くの土器が出土した。出土土器は大洞BC式の破片が多い。

土製品（第168図815、写真図版199） 後期末葉と思われる土偶が1点出土している。

石器（第174図922～931、写真図版203） 石鏃1点、石錐1点、削器1点、楔形石器2点、円盤状石器1点、敲石1点が出土している。

＜時期＞ 出土遺物などから判断して縄文時代晩期前葉と推定される。

G12住居跡（第19図、写真図版13）

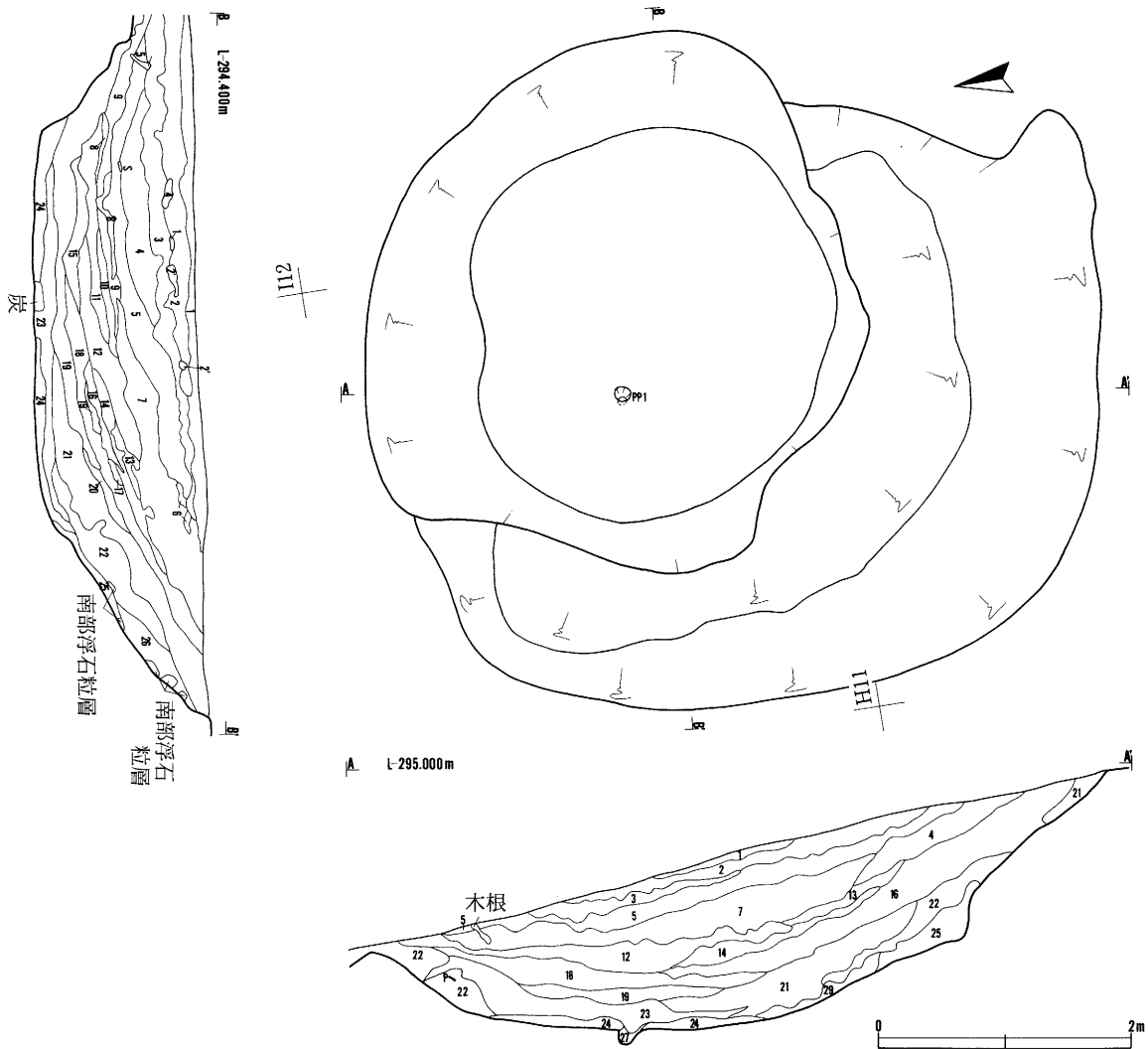
＜位置・検出状況＞ 調査区中央やや南側のG12グリッド付近に位置する。現況地形は、K11大形住居跡などが立地する調査区中央部平坦地部分より面的に高い段に位置する。

本遺構やG11住居跡状などが立地する付近は、本来の旧地形は南から北に向かって緩く傾斜する緩斜面地であったと推定されるが、現況地形の標高295～296m付近の等高線の間隔が不自然に広いことと南部浮石層が削られた痕跡があることから判断して、かなり大規模な造成工事を行い平坦面を作り出し、居住域とした可能性が高い。

＜重複遺構＞ 本住居跡が、G12土坑1・2・3号に截られる。

＜平面形・規模＞ 明確には不明であるが、残存する南壁から、円形で3m程と推定される。

＜埋土＞ 本住居跡の埋土と認定できるのは、わずかに残存する南西側の一部分のみである。南部浮石粒が混じる黒褐色土による単層で、黒褐色土中に含有されている南部浮石粒の様相から、人為により動かされた



K11 住居跡状 A-A'・B-B'

- | | | |
|----|---------------|-------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| 2 | 10YR1.7/1 | 黒色土 |
| 2a | 5Y4/2~2.5Y4/3 | 灰オリーブ
ヘオリーブ褐色土 |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒色土 |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 5 | 7.5YR2/1 | 黒色土 |
| 6 | | 木根攪乱 |
| 7 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 8 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 9 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 10 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 11 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 12 | 7.5YR3/1 | 黒褐色土 |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 14 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 15 | 7.5YR3/1 | 黒褐色土 |
| 16 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 17 | 7.5YR3/1 | 黒褐色土 |
| 18 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 19 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 20 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 21 | 10YR2/1 | 黒褐色土 |
| 22 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 23 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| 24 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 25 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |
| 26 | 10YR3/2 | 黒褐色土 |
| 27 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 28 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 29 | 10YR3/3 | 暗褐色土 |

※全層人為堆積

- 旧表土 基本土層Ⅰ層相当
 十和田b・南部浮石粒微量混入 基本土層Ⅱ層相当
 粒子の細かい土・径1~2mm程の砂土ブロック混入 2層の下位に見られる
 2a層の一部・灰オリーブ小ブロック・南部浮石粒微量混入
 砂・南部浮石粒微量混入
 黒褐色土・砂・南部浮石粒多量(径5mmのものが多い)混入
 砂・南部浮石粒微量混入
 砂主体 南部浮石粒混入
 砂・径2mmの南部浮石粒多量混入
 砂・南部浮石粒少量混入
 砂微量混入
 砂・南部浮石粒多量混入
 褐色土・砂混入
 13層に黒褐色土多量混入
 砂少量・南部浮石粒多量混入
 砂主体
 18層類似
 黒色土微量・砂微量・南部浮石粒微量混入
 砂少量・南部浮石粒多量混入
 18層相当
 砂少量・南部浮石粒混入
 暗褐色土との混合土 南部浮石粒多量混入
 19層より南部浮石粒少量・下位に炭化物混入
 南部浮石粒少量混入 上面が本来の床面?
 粒子の細かい土層
 22層より黒褐色土少量混入
 南部浮石粒少量混入 基本土層Ⅲ層中位相当?
 暗褐色土に南部浮石粒多量・土器混入
 25層に黒色微量混入

第18図 G11住居跡状

土と判断できる。よって、本住居跡は廃絶後に埋め戻され、その後人為により削平されていることが推定される。

＜壁・床＞ 残存する南側壁は、外傾気味に立ち上がる。壁高は30cm程である。床面は北東方向に向かって穏やかに傾斜する。

＜炉＞ 竪穴中央部やや南壁よりの床面上で、地床炉と思われる焼土を検出した。40×25cm程の楕円形に広がる。焼土の発達が悪い。

＜出土遺物＞（第138図、写真図版178） 土器小片が出土している。

土器（第138図84～87、写真図版178） 大洞B C式と十腰内Ⅱ式に相当する土器が埋土中より出土している。

＜時期＞ 埋土中から出土した土器から、縄文時代晩期前葉と推定されるが、明確には不明である。

G13住居跡（第19図、写真図版14）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央やや南側のG13～14グリッド付近に位置する。現況地形は、K11大形住居跡などが立地する調査区中央部平坦地部分より面的に高い段に位置する。北～東側はG14住居跡を破壊している。

本遺構やG11住居跡状などが立地する付近は、本来の旧地形は南から北に向かって緩く傾斜する緩斜面地であったと推定されるが、現況地形の標高295～296m付近の等高線の間隔が不自然に広いことと南部浮石層が削られた痕跡があることから判断して、かなり大規模な造成工事を行い平坦面を作り出し、住居域とした可能性が高い。

＜重複遺構＞ 本住居跡がG14住居跡を截り、G14土坑4号・G14柱穴状土坑1号に截られている。

＜平面形・規模＞ 平面形、規模ともに不明である。残存する南壁から円形で4m程と推定される。

＜埋土＞ 本住居跡の埋土と認定できるのは南西側の一部のみで、南部浮石粒が混じる黒褐色土による単層である。黒褐色土中に含有されている南部浮石粒の様相から、人為により動かされた土と判断できる。よって、本住居跡は廃絶後に埋め戻され、その後人為により削平されていることが推定される。

＜壁・床＞ 残存する南壁は、外傾気味に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

＜柱穴＞ 南壁際で1基検出した。

＜炉＞ 未検出。

＜出土遺物＞（第138図、写真図版178） 後～晩期の土器片が出土している。

土器（第138図88～91、写真図版178） 十腰内Ⅳ式及び大洞B式に相当する土器片が、埋土中から出土している。

＜時期＞ 縄文時代晩期初頭と推定される。

G14住居跡（第19図、写真図版14）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央やや南側のG14グリッド付近に位置する。現況地形は、K11大形住居跡などが立地する調査区中央部平坦地部分より面的に高い段に位置する。北～東側はG13住居跡構築時に破壊を受け消失している。

本遺構やG11住居跡状などが立地する付近は、本来の旧地形は南から北に向かって緩く傾斜する緩斜面地であったと推定されるが、現況地形の標高295～296m付近の等高線の間隔が不自然に広いことと南部浮石層が削られた痕跡があることから判断して、かなり大規模な造成工事を行い平坦面を作り出し、住居域とした

可能性が高い。

〈重複遺構〉 本住居跡がF14土坑4号を截り、G13住居跡・G13土坑2号に截られている。

〈平面形・規模〉 平面形、規模ともに不明である。残存する南西壁より、円形で3m程と推定される。

〈埋土〉 本住居跡の埋土と認定できるのは南西側のわずかな部分のみである。南部浮石粒が混じる黒褐色土による単層である。黒褐色土中に含有されている南部浮石粒の様相から、人為により動かされた土と判断できる。よって、本住居跡は廃絶後に埋め戻され、その後に人為により削平されていることが推定される。

〈壁・床〉 残存する南西壁は、外傾気味に立ち上がる。

〈炉〉 床面で地床炉と思われる焼土を検出した。残存する南壁から竪穴の輪郭を推定すると、ほぼ中央部に位置する可能性が高い。焼土の発達は悪い。

〈出土遺物〉 (第138図、写真図版178) 土器片数点が出土している。

土器 (第138図92、写真図版178) 十腰内IV式に相当する壺の胴部片が出土している。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代後期後葉以降でG13住居跡 (晩期初頭と推定される) より古い時期と思われる。

G15住居跡 (第20・21図、写真図版15・16)

〈位置・検出状況〉 調査区中央部のG15グリッド付近に位置する。現況地形は南から北に向かう斜面部と平坦地との傾斜変換点付近に相当する。検出面はⅦ (南部浮石粒層) ～Ⅷ層 (八戸火山灰層) であるが、本来は更に上位であろう。

野外調査時は、建て替えの回数や新旧関係の把握はできなかったが、壁溝が2条検出され、また壁溝の底面があるいは壁柱穴と思われる小柱穴の配列が5条想定されることから、少なくとも6回以上の建て替えが行なわれていることが推定される。

記載上、内側の壁溝に伴うプランを1、外側の壁溝に伴うプランを7とし、その他の柱穴配列をインコースからプラン2～6とし、第20図の平面図にスクリーントーンで図示した。

内側の壁溝に伴う住居 (プラン1) の壁の残存がないことと、壁溝内自体がプラン2に伴うと推定される柱穴に截られていることなどから判断して南側に向かうにつれ新しいと推定される。推定が正しければ、プラン1から拡張あるいは南側に徐々に住居空間が変遷して行き、最終的にプラン7となったと推定され、精査担当者の所見もそれに一致する。

〈重複遺構〉 本住居跡がF13土坑3号を截り、F15柱穴状土坑9号・G14柱穴状土坑8号に截られている。

G15住居跡-1 (プラン1)

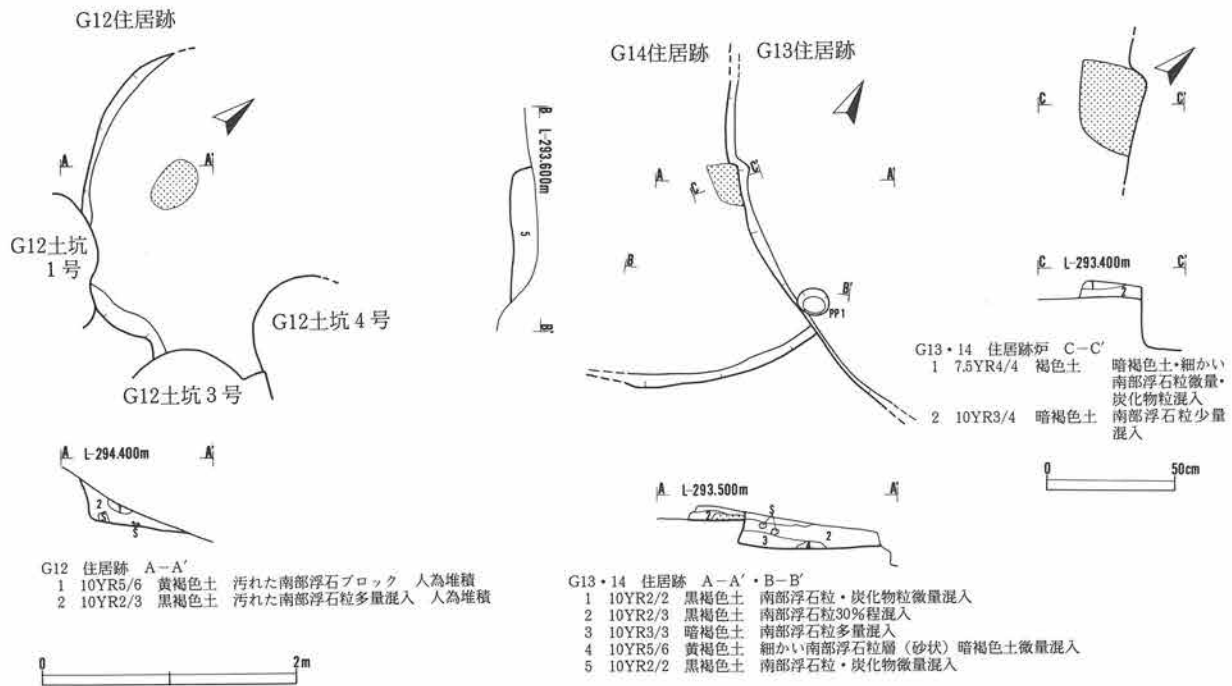
〈平面形・規模〉 明確には不明である。南側～西側に巡る壁溝と柱穴の分布から平面形は円形あるいは楕円形、規模は6m前後と推定される。

〈埋土〉 表土層による単層である。

〈壁・床〉 壁の残存はない。床面はほぼ平坦で、大部分が八戸火山灰層を床とし、局所的に南部浮石層が見られる。

〈柱穴〉 プラン1～7まで合わせて132基の柱穴を検出した。内側の壁溝より内側からは98個の柱穴を検出した。径20cm前後の小形のものが多い。

〈炉〉 住居中央付近から地床炉を検出している。直径40cm程の円形に広がり、床面上で火を炊いたと思わ



第19図 G12・13・14住居跡

れる現地性の焼土で、掘り込みなどは伴っていない。焼土の発達はやや良好である。

〈壁溝〉 レベル的に若干高い南側～西側に巡る部分のみ検出した。壁溝の開口部径は、20cm程の場所や50cmを越える場所まであり、深さについても浅い部分と深い部分があり、一定ではない。壁溝内には小形の柱穴が伴い、特に開口部の広い部分に密に見られる。壁溝自体が住居を全周していたかどうかは不明であるが、壁溝が東側に続くとすれば、PP79やPP82などが壁溝底面に伴う柱穴である可能性がある。

〈出入り口施設〉 住居の北端にあると推定される付近から、出入り口と思われる不整形の浅い土坑を検出した。PP1とPP2はこの土坑に伴う柱穴と考えられる。内側・外側どちらのプランに伴うのかは不明である。

〈出土遺物〉 壁溝内から後期中葉の土器が出土している。

G15住居跡-2 (プラン2)

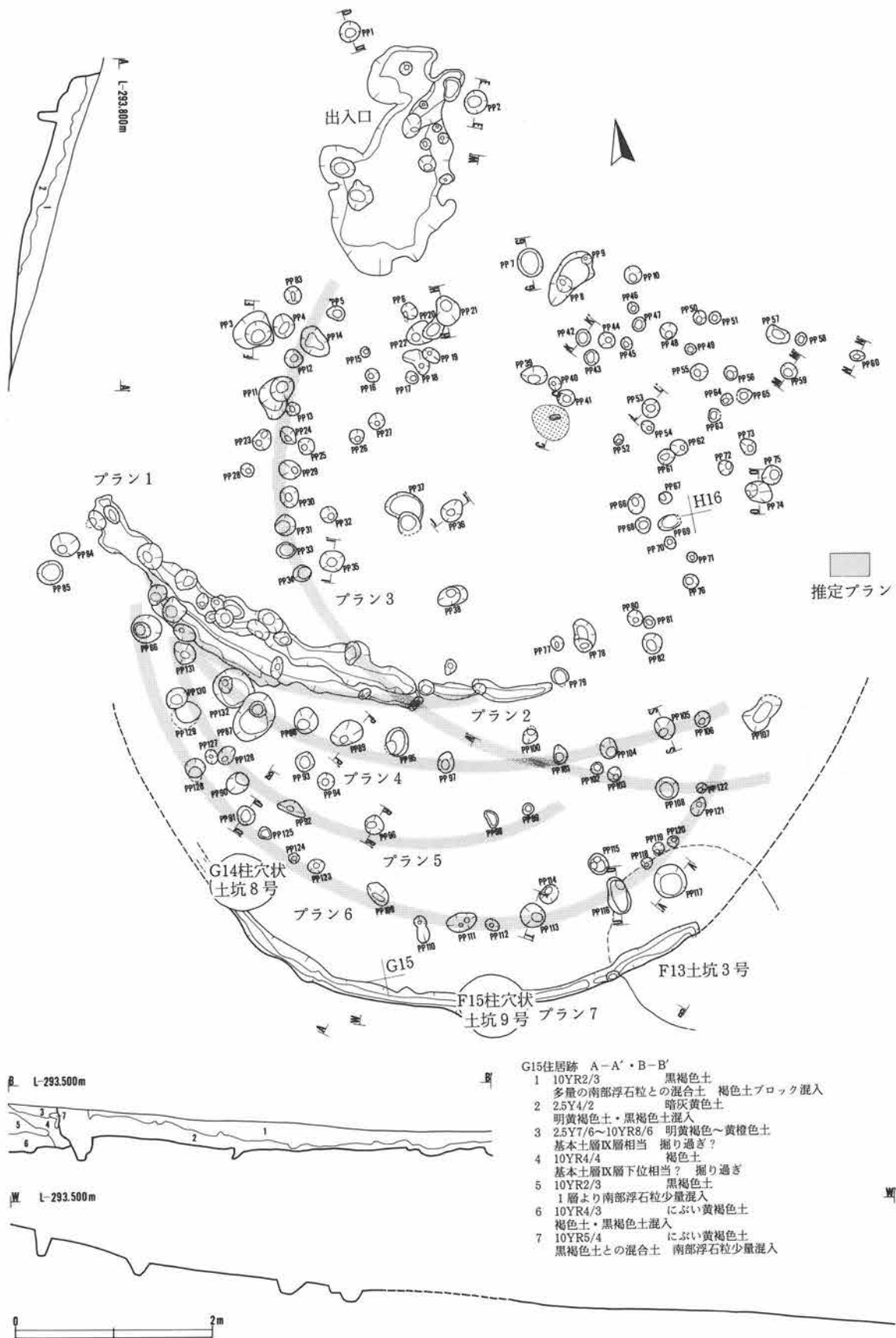
〈平面形・規模〉 明確には不明である。壁溝と柱穴の分布から平面形は円形あるいは楕円形、規模は8m前後と推定される。

〈床〉 床面はほぼ平坦で、大部分が八戸火山灰層を床とし、局所的に南部浮石層が見られる。

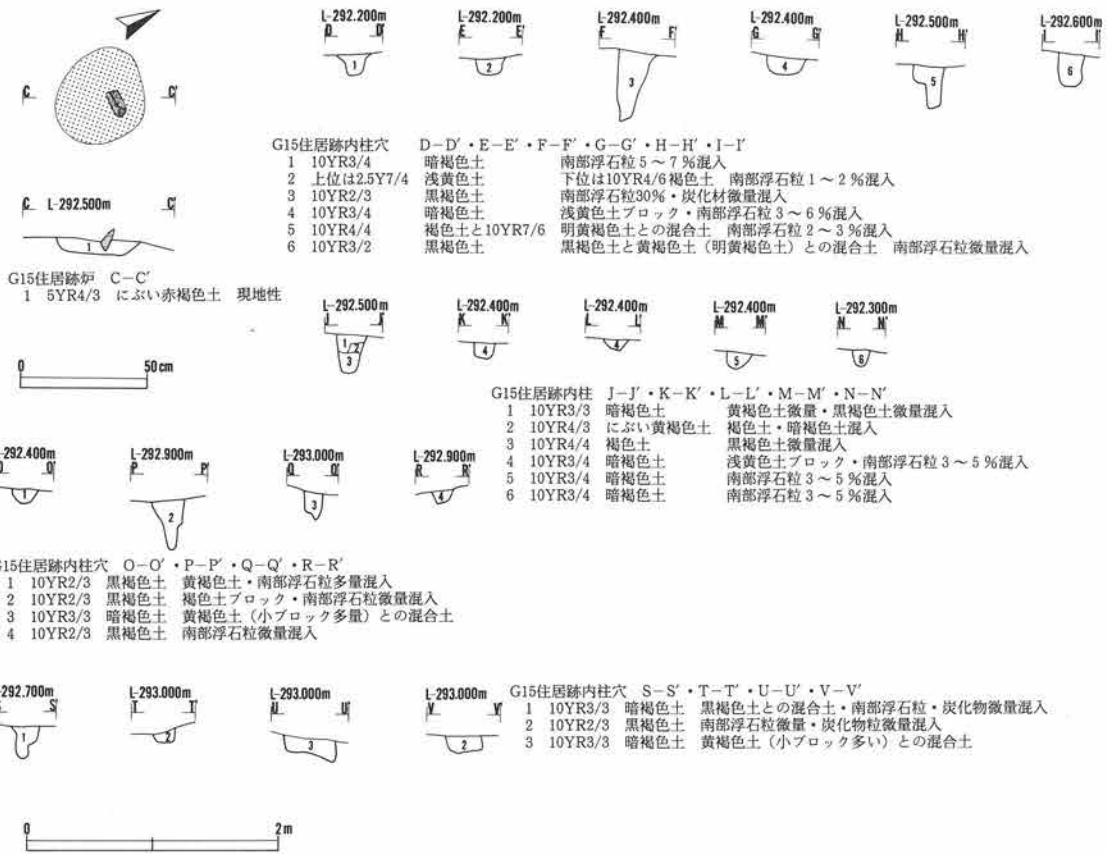
〈柱穴〉 開口部径が15～20cm前後の柱穴で構成される。本来は壁溝であった可能性がある。

G15住居跡-3 (プラン3)

〈平面形・規模〉 明確には不明である。南側～西側に巡る壁溝と柱穴の分布から平面形は円形あるいは楕円形、規模は6m前後と推定される。



第20図 G15住居跡 (1)



第21図 G15住居跡(2)

<床> 床面はほぼ平坦で、大部分が八戸火山灰層を床とし、局部的に南部浮石層が見られる。

<柱穴> 径20cm前後の小形のものが多い。本来壁溝であった可能性がある。

G15住居跡-4 (プラン4)

<平面形・規模> 明確には不明である。南側~西側に巡る壁溝と柱穴の分布から平面形は円形あるいは楕円形、規模は6m前後と推定される。

<床> 床面はほぼ平坦で、大部分が八戸火山灰層を床とし、局部的に南部浮石層が見られる。

<柱穴> 径20cm前後の小形のものが多い。本来壁溝であった可能性がある。

G15住居跡-5 (プラン5)

<平面形・規模> 平面形、規模とも一切不明である。南側~西側に巡る壁溝と柱穴の分布から平面形は円形あるいは楕円形、規模は6m前後と推定される。

<床> 床面はほぼ平坦で、大部分が八戸火山灰層を床とし、局部的に南部浮石層が見られる。

<柱穴> 径20cm前後の小形のものが多い。本来壁溝であった可能性がある。

G15住居跡-6 (プラン6)

<平面形・規模> 平面形、規模とも一切不明である。南側~西側に巡る壁溝と柱穴の分布から平面形は円

形あるいは楕円形、規模は6 m前後と推定される。

<床> 床面はほぼ平坦で、大部分が八戸火山灰層を床とし、局所的に南部浮石層が見られる。

<柱穴> 径20cm前後の小形のものが多い。柱穴の中には平面形が楕円形のものがあり、柱の据え方痕あるいは柱の抜き取り痕跡の可能性はある。

G 15住居跡-7 (プラン7)

<平面形・規模> 平面形、規模とも一切不明である。南側～西側に巡る壁溝と柱穴の分布から平面形は円形あるいは楕円形、規模は9 m前後と推定され、大形の住居と思われる。

<埋土> 基本層序のI層による単層である。

<壁・床> 斜面上方側にあたる南側のみ壁が残存する。壁形は直立気味の部分と外傾気味の部分がある。壁高は検出面から約30cmである。床面はほぼ平坦で、大部分が八戸火山灰層を床面とし、局所的に南部浮石層が見られる。G15住居跡-1の床面より15cm程高位になる。

<柱穴> 柱穴の中には平面形が楕円形のものがあり、明瞭ではないが柱の据え方あるいは柱の抜き取り痕跡の可能性はある。

<壁溝> 山側に相当する南側部分からのみ検出された。開口部径20～30cm、底部径10cm前後、深さは床面から10～20cmほどである。

<出土遺物> (第138・139図、第168図、第174・175図、写真図版178・179・199・203・204) 主に埋土上位から後～晩期の遺物が出土している。

土器 (第138・139図93～108、写真図版178・179) 十腰内I式～大洞BC式までの土器が出土している。内側の壁溝2号(プラン1)より十腰内Ⅲ式が、外側の壁溝1号(プラン7)より十腰内V式が出土している。

土製品 (第168図816～817、写真図版199) 円盤状土製品が2点出土している。

石器 (第174・175図932～934、写真図版204) 石鏃1点、石皿1点、石錘1点が埋土中より出土している。

<時期> 縄文時代後期末葉～晩期初頭と推定されるが、厳密には不明である。

F 10住居跡状 (第22図、写真図版17)

<位置・検出状況> 調査区中央やや南側のF10グリッド付近に位置する。G11住居跡などが立地する人工的に作り出したと思われる面(縄文人により造成された居住空間)より、一段高い平坦気味の面に立地する。4本の柱穴の検出に留まるが、本遺跡で検出されている掘立柱建物跡と比較して柱穴間隔が狭いことと、精査担当者の所見として調査時に堅穴を検出できなかった可能性が高いと判断されることから、掘立柱建物跡ではなく小形の堅穴住居と推定し、住居跡状として登録した。

<平面形・規模> 不明である。

<柱穴> 柱穴4個は規模約60cmで、深さは20～48cmである。

<出土遺物> (第139図、第175図、写真図版179・203) 柱穴より土器数点と削器1点が出土している。

土器 (第139図109～111、写真図版179) PP1から十腰内Ⅱ式の土器片、PP4から大洞BC式の土器片が出土している。

石器 (第175図935、写真図版203) PP4から削器1点が出土している。

<時期> 明確には不明であるが、縄文時代晩期と推定される。

F 12住居跡（第22図、写真図版18）

〈位置・検出状況〉 調査区中央やや南側のF 12グリッド付近に位置する。検出面は、Ⅱ層を除去した段階である。G 11住居跡などが立地する人工的に作り出したと思われる面（縄文人により作り出された居住空間）より、一段高い平坦面に立地する。

〈重複遺構〉 F 12土坑1号と重複関係にある。本遺構と土坑の新旧関係について、野外調査時においては土坑を先に検出し精査に着手したため、図面上は本住居跡より土坑が新しく図示をしているが、現況地形としては傾斜変換点付近に相当するため検出状況からの新旧関係は明確ではない。尚、本遺構及び土坑何れも晩期の土器を出土している。

〈平面形・規模〉 平面形は円形で、規模は2.4m程である。

〈埋土〉 黒褐色土を主体とし、局所的に八戸火山灰ブロックが混在する。人為堆積と判断される。

〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり、壁高は検出面から約50cmである。床面はほぼ平坦で、八戸火山灰層中であるが、一部分のみ南部浮石粒層である。

〈柱穴〉 検出されなかった。

〈炉〉 住居はほぼ中央部付近から地床炉を検出した。焼土は南部浮石粒層部分に、24cm程の円形気味に広がる。焼土の発達が悪い。

〈出土遺物〉（第139・140図、第168図、第175図、写真図版179・199・204） 土器、土製品、石製品が出土した。

土器（第139・140図112～119、写真図版179） 床面からの出土土器は、小片であり明確ではないが、後～晩期と思われるものである（不掲載）。埋土中～下位では後期末葉の出土が多く、一括性が強いと判断される。115や119は南東北的な特徴を持つ土器である。

土製品（第168図818、写真図版199） 円盤状土製品が1点出土した。

石製品（第175図936、写真図版204） 円盤状石製品が1点出土している。

〈時期〉 晩期初頭あるいはそれ以前の住居跡と推定される。本住居跡は埋め戻しを行っているが、床面から出土している土器と埋土中から出土している土器は、両者何れも後期末葉～晩期初頭の土器で時期差はほとんどない。住居として廃絶された時期と埋め戻しを行った時期に大差なく、床面出土土器についても住居廃絶後に廃棄された土器である可能性が考えられる。

また、異系統的な土器がまとまって出土している点も興味深い事象である。

F 13住居跡（第22図、写真図版19）

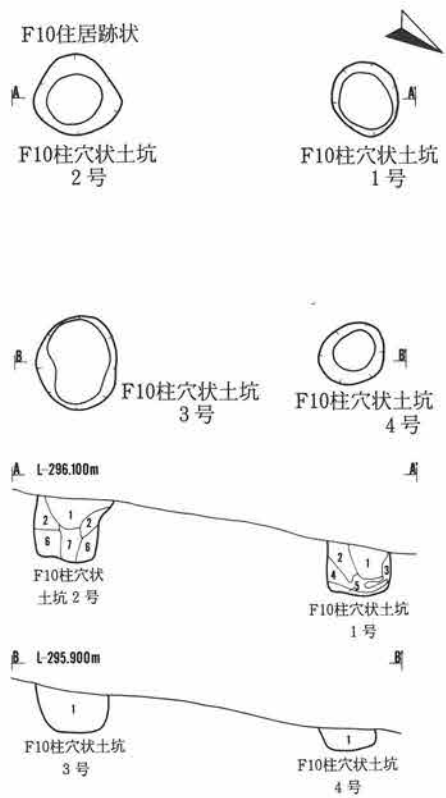
〈位置・検出状況〉 調査区中央やや南側のF 13グリッド付近に位置する。検出面はⅧ層上面である。G 11住居跡などが立地する人工的に作り出したと思われる面（縄文人により作り出された居住空間）より、一段高い平坦面に立地する。

本遺構の周辺は土坑が密集するエリアで、精査当初は土坑と想定していたが地床炉の検出から住居跡と認知した。周辺で検出された土坑は、本住居跡の構築に伴い破壊を受けているものが多い。

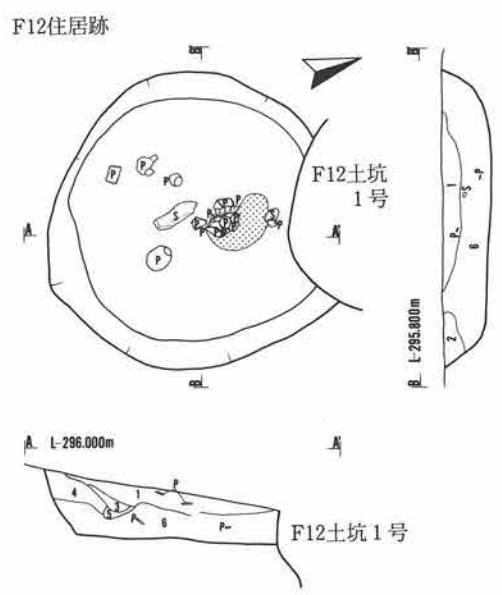
〈重複遺構〉 本住居跡が、E 13土坑4・7・8号・F 13土坑1・2号を截り、F 13土坑6・7号に截られている。

〈平面形・規模〉 平面形は楕円～円形で、規模は301×260cmである。

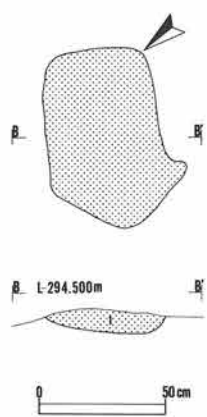
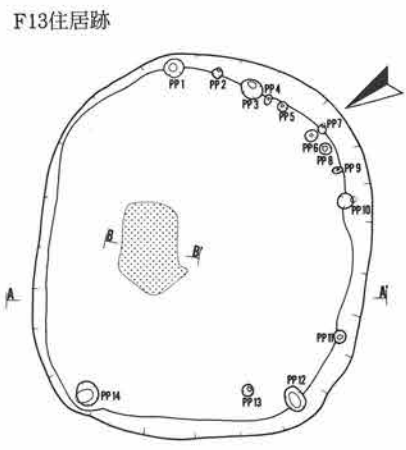
〈埋土〉 黒褐色土シルトを主体とする。黒褐色土中には、南部浮石粒15%前後、炭化物、八戸火山灰少量



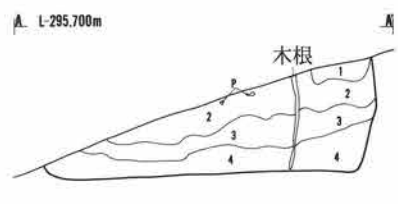
- F10住居跡状 A-A'・B-B'
- 1 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒との混合土 炭化物粒混入
 - 2 10YR3/2 黒褐色土 暗褐色土・南部浮石粒少量混入
 - 3 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒少量混入 腐植土
 - 4 10YR6/6 明黄褐色土 南部浮石層 黒褐色土微量混入
 - 5 10YR3/1 黒褐色土 1層担当
 - 6 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 7 10YR2/3 黒褐色土 褐色土・南部浮石粒混入 柱痕跡?



- F12住居跡 A-A'・B-B'
- 1 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒多量・八戸火山灰・炭化物粒・角礫混入
 - 2 10YR2/3 黒褐色土 1層よりしまり強 木根攪乱
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 1層より若干しまり強
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 1層より若干しまり強で南部浮石粒多量混入
 - 5 10YR6/6 明黄褐色土 南部浮石粒・八戸火山灰混入
 - 6 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒多量・炭化物粒少量混入
- ※ 2層以外人為堆積 F12土坑1号に切られている



- F13住居跡 A-A'
- 1 10YR3/3~3/4 暗褐色土 黒褐色土との混合土 南部浮石粒10~15%混入
 - 2 10YR2/2~2/3 黒褐色土 南部浮石粒15~20% 炭化物粒微量混入
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒15~20% 八戸火山灰少量・炭化物粒微量混入
 - 4 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒7~10% 八戸火山灰・炭化物粒微量混入



第22図 F10住居跡状、F12・13住居跡

が含まれる。野外調査時は、土の堆積が自然か人為か判断できなかった。第22図の土層断面A-A'は自然堆積の様相であるが、埋土中に八戸火山灰が含まれることを考慮すると人為堆積の可能性が高い。

〈壁・床〉 斜面下方にあたる北壁側は、竪穴の上位～中位が自然流出したと思われ、明瞭ではなかった。斜面上方側にあたる南壁は残存状況が良好で、直立気味に立ち上がり、壁高は検出面から約90cmである。南壁を考慮すると、本遺跡の中ではかなり深い竪穴である。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉 14個何れも小形で、壁際から検出されている。

〈炉〉 中央よりやや東側で地床炉と思われる70×40cm程に広がる焼土を検出した。現地性で、掘り込みは伴わない。焼土の発達が悪い。

〈出土遺物〉 (第140図、第168図、第175図、写真図版179・199・204) 晩期の遺物が多く出土している。

土器 (第140図120～127、写真図版179) 十腰内V式～大洞BC式までの土器片が出土している。

土製品 (第168図819、820、写真図版199) 土偶1点(819)と円盤状土製品1点(820)が出土している。

石器 (第175図937・938、写真図版204) 砥石1点、敲石1点が出土している。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代晩期前葉と思われる。

F18住居跡1号 (第23図、写真図版20)

〈位置・検出状況〉 調査区ほぼ中央のF18グリッド付近に位置する。現況地形は南側が幾分高位であるが、北東方向に向かうにつれ平坦化する。

〈重複遺構〉 本遺構の南側床面で検出されたF18土坑2号との新旧関係は、明確には不明である。土坑は、本住居跡床面の精査中に検出したが、土層断面を検討した結果、土坑が新しい可能性が高い。また、北東側の出入り口施設と思われる付近は、大形の柱穴状土坑や土坑と重複関係にあるが、本遺構が古い。

〈平面形・規模〉 平面形は東側に張りだしを持つ柄鏡状を呈する。規模は605×477cmである。

〈埋土〉 第23図土層断面A-A'の2～7層が本住居跡の埋土と判断される。八戸火山灰ブロックの混入具合から判断して人為堆積である。9～12層はF18土坑2号の埋土で、1層は表土層である。

〈壁・床〉 壁は直立気味の部分と外傾気味の部分がある。壁高は検出面から20～40cmである。床面はほぼ平坦で、八戸火山灰層を床面とする。床面には、人工的か自然的な要因かは不明であるが八戸火山灰が変色して白色を帯びる部分が見られる。

〈柱穴〉 本住居跡に伴うと思われる柱穴は29個である。土器埋設炉周辺に支柱穴と思われる25cm前後の柱穴が点在するが、柱穴配列を考慮すると不規則と言える。山側にあたる南壁～西壁際にのみ10～15cm程の小柱穴が配列される。出入り口と思われる張り出し部分から東壁にかけては、小柱穴が見られない。竪穴外で検出したPP25～PP27は、屋外柱穴の可能性が示唆されるため、本住居跡の柱穴として図示した。

〈炉〉 竪穴中央で土器埋設炉を検出した。炉の構築方法としては、開口部径70cm、底部径20cmほどの穴を掘った後に正立で設置し、その周辺に土や土器片で固めて作り、床面と同じ高さで平たく敷いた様相である。敷いたと思われる土器が散在するのは、埋設土器の西側付近のみである。土器片や土器を敷いた痕跡は、埋設土器の西側付近以外の場所からは検出されなかったが、本来は全面(全周)に敷いていた可能性も考えられる。焼土はみられない。

〈出入り口〉 住居北東側に、幅約120cm、奥行き約100cmの張り出し部分があり、出入り口施設と推定される。長楕円形の土坑状に掘り込まれ、住居に向かって若干傾斜する。楕円形の石あるいは木材が設置されていた可能性が考えられる。PP30についても出入り口に関係した柱穴と思われる。

〈出土遺物〉 (第140～142図、第175図、写真図版179・180・204) 晩期初頭～前葉の土器が出土している。

土器 (第140～142図128～138、写真図版179・180) 135が炉内から、128・129・134・137が床面から、他は埋土中からの出土である。炉内及び床面から出土している土器は、何れも晩期の粗製土器である。

石器 (第175図939～941、写真図版204) 削器1点、円形搔器1点、磨石1点が出土している。941の磨石の欠損品は、PP17から出土している。

〈時期〉 床面出土土器から縄文時代晩期初頭～前葉と思われる。

〈その他〉 出入り口施設と思われる張り出しを持つことで、関東地方中期に見られる柄鏡形住居跡に類似する形状を呈する。筆者は本住居跡を直接は見っていないが、精査を担当した調査員の所見を記述すると、「当初住居跡と重複する土坑類の存在も念頭に置きながら、特に念入りに観察し、精査を行った経過がある」との調査記録から形状に間違いはないと判断される。東北地方の当該期住居跡に、類例があるのかどうか本稿執筆中には探せなかった。今後の調査例の増加に期待したい。

F 18住居跡 2号 (第23図、写真図版21)

〈位置・検出状況〉 調査区ほぼ中央平坦部のF 18グリッド付近に位置する。竪穴の大部分がF 18住居跡1号構築に伴い破壊を受けている。

〈重複遺構〉 本住居跡が、F 18土坑1号を截り、F 18住居跡1号・F 18土坑3号に截られている。

〈平面形・規模〉 平面形、規模ともに不明である。残存する南壁から推定して円形である可能性が高い。

〈埋土〉 南部浮石粒を含有する暗褐色土を主体とする。

〈壁・床〉 壁は直立～僅かに外傾し、壁高は検出面から5～10cmである。床面は平坦である。

〈柱穴〉 4個を検出した。何れも壁際に巡る小柱穴である。

〈出土遺物〉 (第142図、第175図、写真図版180・204) 縄文時代晩期の土器が出土している。

土器 (第142図139～142、写真図版180) 大洞B～BC式の土器片と晩期の粗製土器片が出土している。何れも埋土中からの出土である。

石器 (第175図942、写真図版204) 削器1点が出土している。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代晩期初頭～前葉と思われる。

F 19住居跡状 (第23図、写真図版22)

〈位置・検出状況〉 調査区ほぼ中央平坦部のF 19・G 19・G 20グリッド付近に広がる。

〈重複遺構〉 なし。

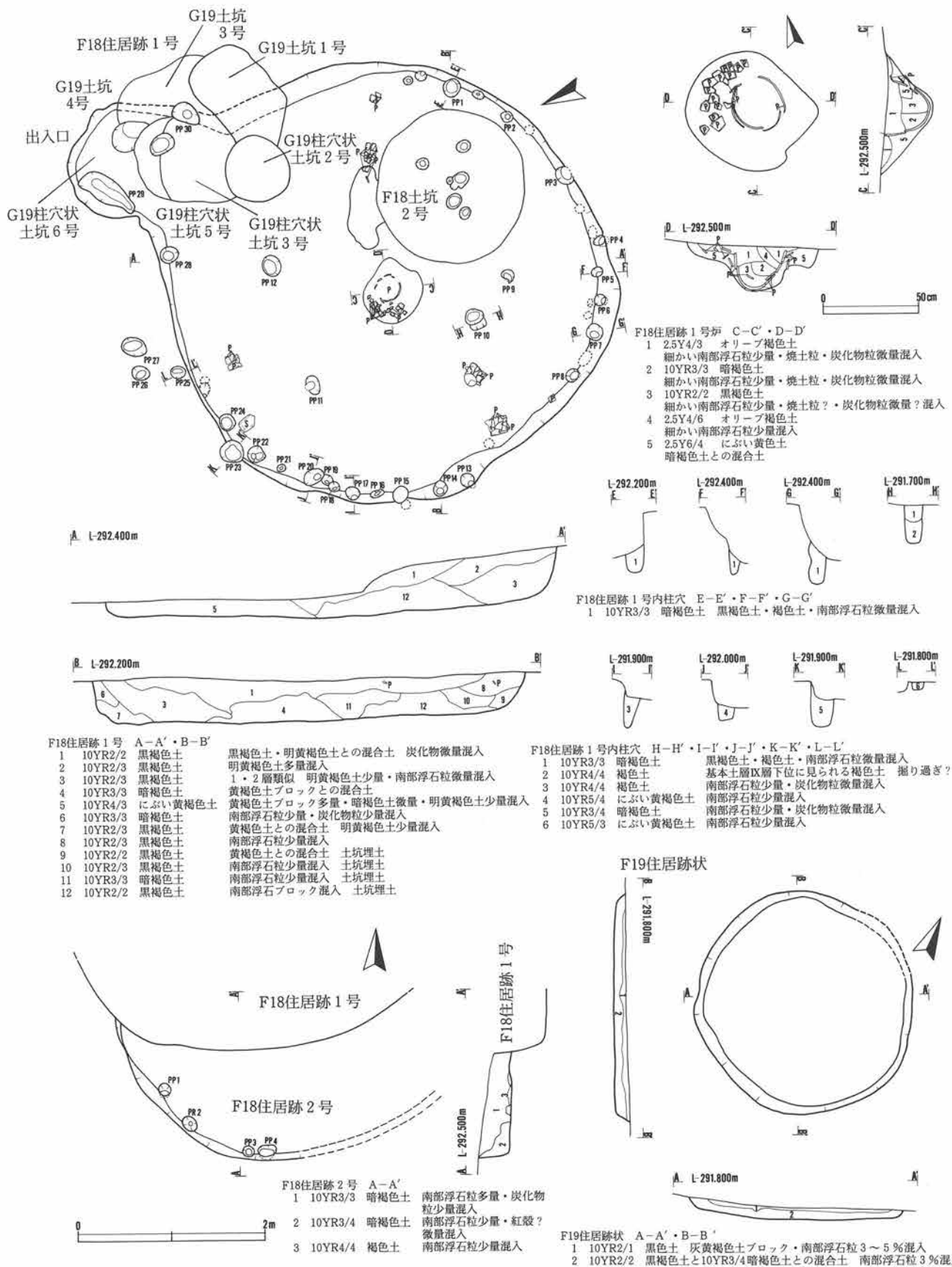
〈平面形・規模〉 平面形は円形で、規模は234×232cmである。

〈埋土〉 黒褐色土シルトを主体に、暗褐色土がブロック状に混じり、南部浮石粒が5%程混入する。自然堆積と判断される。

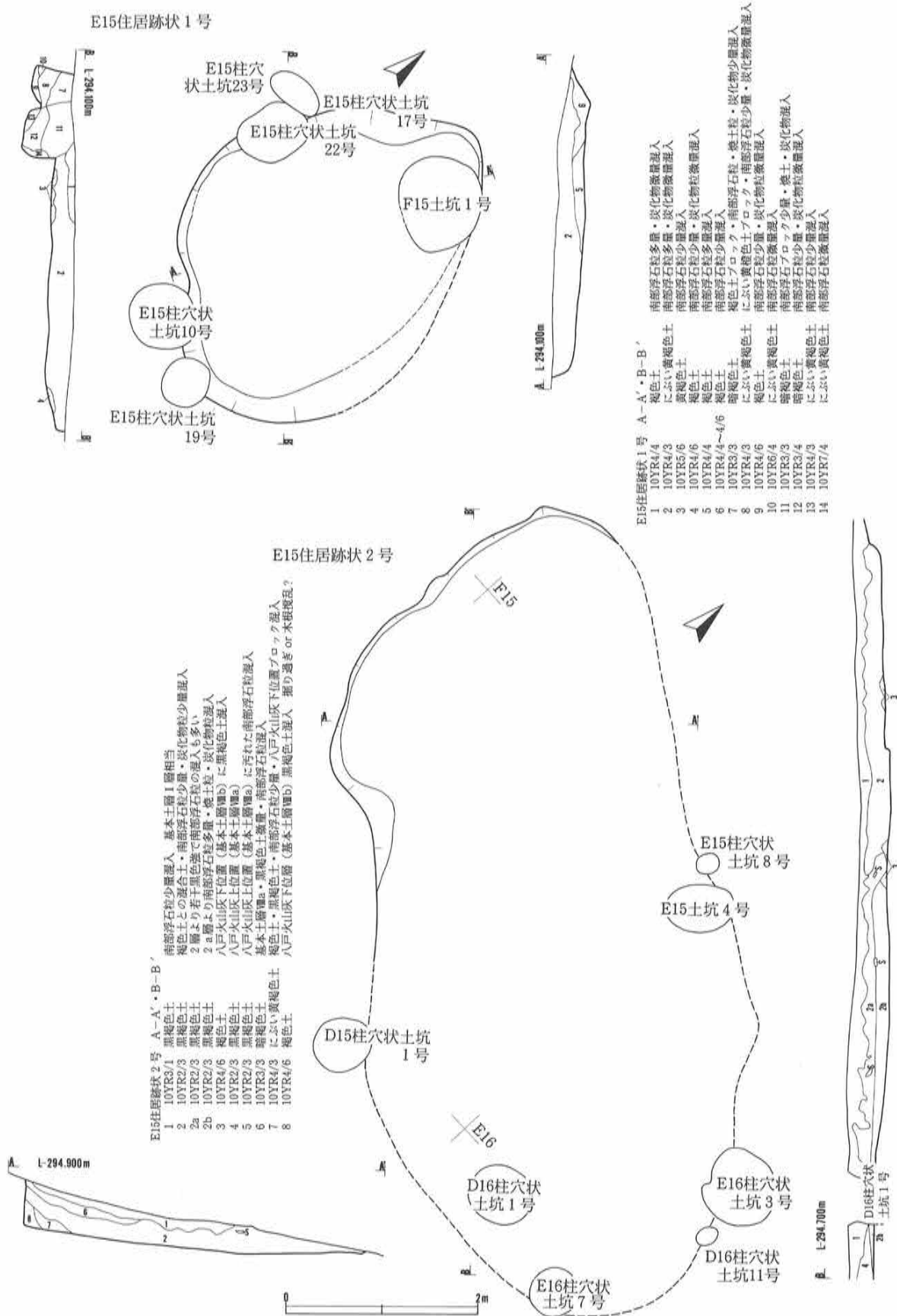
〈壁・床〉 壁は外傾気味に立ち上がり、壁高は検出面から15cmである。床面は平坦である。

〈出土遺物〉 出土遺物はない。

〈時期〉 縄文時代晩期と推定される。



第23図 F18住居跡1号・2号、F19住居跡状



第24図 E15住居跡状1号・2号

E 15住居跡状 1号 (第24図、写真図版23)

〈位置・検出状況〉 調査区南側のE 15グリッド付近に位置する。E 15住居跡状 2号の床面のだめ押し作業中に検出した。現況地形は、K 11大形住居跡などが立地する調査区中央部平坦地部分より一段高い面である。

〈重複遺構〉 本住居跡がE 15住居跡状 2号・E 15柱穴状土坑10・19・22号・F 15土坑 1号に截られている。

〈平面形・規模〉 平面形は明瞭ではなく、野外調査では張り出しを持つ不整形とした。本来は円形であった可能性が高い。

〈埋土〉 褐色土シルトを主体とする。自然堆積と判断される。

〈壁・床〉 壁は外傾して立ち上がり、壁高は検出面から約25cmである。床面は平坦である。

〈出土遺物〉 (第168図、第176図、写真図版199・204)

土製品 (第168図821・822、写真図版199) 耳飾り 1点、円盤状土製品 1点が出土した。

石製品 (第176図948・949、写真図版204) 軽石製品 2点が出土している。何れも孔が穿けられている。

〈時期〉 出土土器はないが、検出状況や位置から推定すると縄文時代晩期と思われる。

E 15住居跡状 2号 (第24図、写真図版24)

〈位置・検出状況〉 調査区南側のE 15・E 16・F 15・F 16グリッド付近に位置する。検出面はI層を除去した段階である。現況地形は、K 11大形住居跡などが立地する調査区中央部平坦地部分より面的に高い段に位置する。

本遺構の精査当初は住居とは判断できず、遺物包含層分布域に所在する土坑群の集合体として捉えていた。精査の過程で斜面地がテラス状の平坦な面となったことから、炉や柱穴は検出されなかったが住居跡状として認知した。

本遺構やG 11住居跡状などが立地する付近は、本来の旧地形は南から北に向かって緩く傾斜する緩斜面地であったと推定されるが、現況地形の標高295～296m付近の等高線の間隔が不自然に広いことと南部浮石層が削られた痕跡があることから判断して、かなり大規模な造成工事を行い平坦面を作り出し、住居域とした可能性が高い。

〈重複遺構〉 D 15柱穴状土坑・D 16柱穴土坑 1・7号・E 15土坑 4号・E 15柱穴状土坑24号・E 16柱穴状土坑 3・11号に截られている。

〈平面形・規模〉 平面形は長楕円～楕円形と推定されるが明確ではない。規模についても推定の域は越えないが、長軸 8 m以上、短軸 3 m以上と思われる。

〈埋土〉 埋土上位に褐色土、中～下位にぶい黄褐色土の堆積が見られる。八戸火山灰の混入の有り方から見て、人為堆積と思われる。

〈壁・床〉 検出された東壁は、直立気味に立ち上がり、壁高は検出面から35～50cmである。床面はほぼ平坦である。

〈出土遺物〉 (第142図、写真図版180) 晩期初頭～前葉の土器が出土している。

土器 (第142図143～155、写真図版180) 大洞B C式を主体に大洞B式の土器が出土している。149は床面付近から出土した小形の壺形土器で、大洞B C式に相当する。

〈時期〉 床面出土土器から縄文時代晩期前葉と推定される。

〈その他〉 第24図の土層断面B-B'を観察すると、2層を主体とする住居跡と2 a・2 b層を主体とする住居の重複の可能性はある。床面レベルがほぼ同一であり、土色や土質も明瞭に区分できなかったため、

調査では認知しなかった。仮に2棟の住居跡であれば、形状は長楕円形ではなく、円形である可能性がある。

E 19住居跡（第25図、写真図版25）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央部やや東側のE19グリッドに位置する。竪穴本体としては南西壁が残存するのみである。現況地形は南から北に向かって穏やかに傾斜する。

＜立て替え＞ 柱穴の配列から少なくとも1回の立て替えが推定される。

＜重複遺構＞ D19住居跡に截られている。

＜平面形・規模＞ 平面形・規模ともに明確には不明である。残存する南西壁から推定して、円形あるいは楕円形の大型の住居跡であった可能性がある。

＜埋土＞ 黒褐色土シルトを主体とする。

＜壁・床＞ 残存する南西壁は、外傾気味に立ち上がり、壁高は検出面から約40cmである。床面は地形に沿って平坦である。

＜柱穴＞ 39個の柱穴を検出した。柱穴同士の重複から推定して、数回の建て替えを行っていると思われる。

＜壁溝＞ 本遺跡の中で最大規模の壁溝を検出した。残存するのは、山側となる南西部分だけである。開口部径90～110cm、底部径50～60cm、深さ5～10cmで、埋土は南部浮石ブロックを含む黒褐色土で構成される。

＜出土遺物＞（第143図、第168図、写真図版181・199） 埋土上位から、後～晩期の土器が少量出土している。

土器（第143図156、写真図版181） 埋土上位から156の台付浅鉢が出土している。

土製品（第168図823、写真図版199） 円盤状土製品1点が出土している。

＜時期＞ 出土遺物は縄文時代晩期の土器であるが、埋土上位のため時期推定材料としては弱いと判断する。

C 16住居跡 1号（第26図、写真図版26）

＜位置・検出状況＞ 調査区南端部のC16～17グリッド付近に位置する。標高296～297m付近の比較的平坦面に構築されており、全体の3分の1程が調査区外に延びる。周辺から検出された土坑や住居跡を本遺構が截っている。

＜重複遺構＞ 本住居跡の直下でC16住居跡2号を検出。

＜平面形・規模＞ 平面形はほぼ円形で、規模は約420cmである。

＜埋土＞ 調査区境で作成したのが、第26図の土層断面図A-A'である。3・4・10・11・12層が本住居（竪穴内）に伴う堆積土層である。全体に南部浮石粒を多量に包含する黒褐色土を主体とする。3層は中礫火山灰の2次堆積が確認されるが、下位に堆積する4層から晩期の土器が出土していることから考えて、斜面上方から流出した再堆積層と判断される。出土遺物はほとんどが4層からの出土である。12層は南部浮石粒を主体とする土壌で、壁の崩壊土と思われる。

＜壁・床＞ 壁は外傾して立ち上がり、壁高は検出面から東側で約50cm、西側は約80cmで、Ⅶ（南部浮石粒層）～Ⅷ層（八戸火山灰層）で構成される。床面は南部浮石粒層の部分と八戸火山灰層の部分に分かれ、一部貼床が施されている。

＜柱穴＞ 9個検出した。開口部径10～15cmの小形のものである。第26図の平面図には図示していないが、住居跡の北側で検出したC16柱穴状土坑1～3号は、規模や配列から推定して本住居跡の屋外柱穴の可能性

があらう。

〈炉〉 竪穴中央付近で地床炉と思われる75×65cm程に広がる焼土を検出した。現地性で焼土の発達が悪く、掘り込みは伴わない。焼土の発達は悪い。

〈出土遺物〉 (第143・144図、第168図、第176図、写真図版181・199・204) 後～晩期の土器片が出土しており、主体は晩期前葉である。

土器 (第143・144図157～175、写真図版181) 主に埋土下位の4層からの出土である。大洞B～BC式に相当する土器が主体である。

石器 (第176図950～952、写真図版204) 石鏃1点、石匙1点、磨製石斧の欠損品1点が出土している。

土製品 (第168図824・825、写真図版199) 円盤状土製品2点が出土している。

〈時期〉 出土遺物から縄文時代晩期前葉と思われる。

C16住居跡2号 (第27図、写真図版27)

〈位置・検出状況〉 調査区南端部のC16・C17・C18・D16・D17・D18・E17・E18グリッドに広がる。と想定される。検出状況としては、C16住居跡1号のダメ押しを行った結果、柱穴群を検出したことから、本住居跡の存在を推定した。本住居跡は柱穴の検出に留まるが、柱穴の検出数及び配列から住居跡と認定した。柱穴が壁際を巡る様相であり、推定プランとしては比較的大形の住居跡の存在が認められる。また、数回の建て替え(拡張)が行われた可能性がある。北側は人的活動(縄文時代の土木工事?)により削平を受けている。

〈重複遺構〉 本住居跡の上にC16住居跡1号が構築されている。

〈平面形・規模〉 柱穴の分布や配列から推定して、平面形は円形で、規模は8m前後と思われる。

〈埋土〉 黒褐色土シルトを主体とする。

〈壁・床〉 壁は検出されていない。また床面についても明確ではない。住居の大部分は、他の遺構構築時に破壊されていたと推定される。ただし、斜面上方側に相当するC17～18グリッド付近については、C16住居跡1号などと重複しない部分である。同グリッド付近は黒色土中であるため、壁などの把握ができずに破壊した可能性も否めない。

〈柱穴〉 100個の柱穴を検出した。住居中央付近に所在するやや規模の大きい柱穴は、主柱穴になると思われるが、柱配置は明確ではない。

〈出土遺物〉 (第144図、第176図、写真図版181・204) 埋土中及び柱穴から後～晩期の土器が出土している。

土器 (第144図176～191、写真図版181) PP1から184・186、PP18から187、PP32から188、PP37から189、PP65から190、PP89から191が出土している。他は本遺構検出作業中に出土した土器で、埋土中出土と判断される。

石器 (第176図953～956、写真図版204) 石鏃2点、削器2点が出土している。

〈時期〉 縄文時代晩期前葉と推定する。ただし、壁柱穴の在り方から推定すれば、通例的に後期中葉～末葉に多い形態である。

〈その他〉 本遺跡で検出されている規模の大きな住居跡(大形住居跡)は、入り口と思われる施設を伴うが、本住居の北端から検出されたPP1・PP3及びPP2・PP4がそれに該当する可能性がある。

D19住居跡（第28図、写真図版28）

＜位置・検出状況＞ 調査区中央部やや南東のD19～20グリッド付近に位置する。東部捨て場と接する部分に位置するため、検出プランは不明瞭であった。現況は傾斜変換点よりは西側であるため、比較的平坦である。

＜立て替え＞ 精査では解明できなかったが、柱穴数から推定して建て替えを行っている可能性がある。

＜重複遺構＞ 本住居跡が、E19住居跡を截っている。また、本住居跡の北側に密集する土坑群及び柱穴状土坑群との新旧関係については、十和田a・b火山灰の混合土が埋土に含まれるE20土坑2号が本住居跡より新しく、それ以外の土坑類は本住居跡より古い。

＜平面形・規模＞ 平面形は円形で、規模は342×312cmである。

＜埋土＞ 黒褐色土シルトを主体とする。南部浮石粒の混入量で区分すると2・6・7層が多量に含む層で、1・3・5層が微量に含む層である。土層観察から1・2・6層は自然堆積層で、3・4・5層は人為的に埋められた層と判断される。

＜壁・床＞ 壁は直立～外傾して立ち上がる。壁高は検出面から20～50cmで平均すると40cm程の部分が多い。床面は八戸火山灰層で、若干硬い部分もあるが全体的には踏み締めた様相ではなく、ほぼ平坦である。

＜柱穴＞ 17個の柱穴を検出した。竪穴の埋土に比べて、南部浮石粒の混入量の多い（7%以上含む）黒～黒褐色土を埋土とするものがほとんどである。

＜出土遺物＞（第144図、第168図、写真図版181・182・199・204・205） 晩期初頭～前葉の土器と晩期と推定される腕輪1点、石器4点が出土している。

土器（第144図192～199、写真図版181・182） 192・196が床面から出土した土器である。他は埋土中の3・5層からの出土である。

土製品（第168図826、写真図版199） 朱の塗布が見られる826の腕輪は、埋土上位の3層から出土している。3層は上記したとおり人為堆積層と判断される層であり、本住居跡を埋め戻した土中に混入されていたと判断される。3層からは大洞B式及び大洞BC式が出土していることから、本製品の所属時期は晩期前半期と推定される。

石器（第176図957～960、写真図版204・205） 尖頭器1点、削器1点、磨製石斧の欠損品1点、敲石1点が出土している。

＜時期＞ 出土遺物から縄文時代晩期初頭～前葉と推定される。

＜その他＞ 西壁際から土坑を1基検出した。検出状況から本遺構に伴う土坑と判断したが、土坑が新しい可能性もある。土坑の埋土と本住居の埋土が同じであることから廃絶時期は同じと推定される。

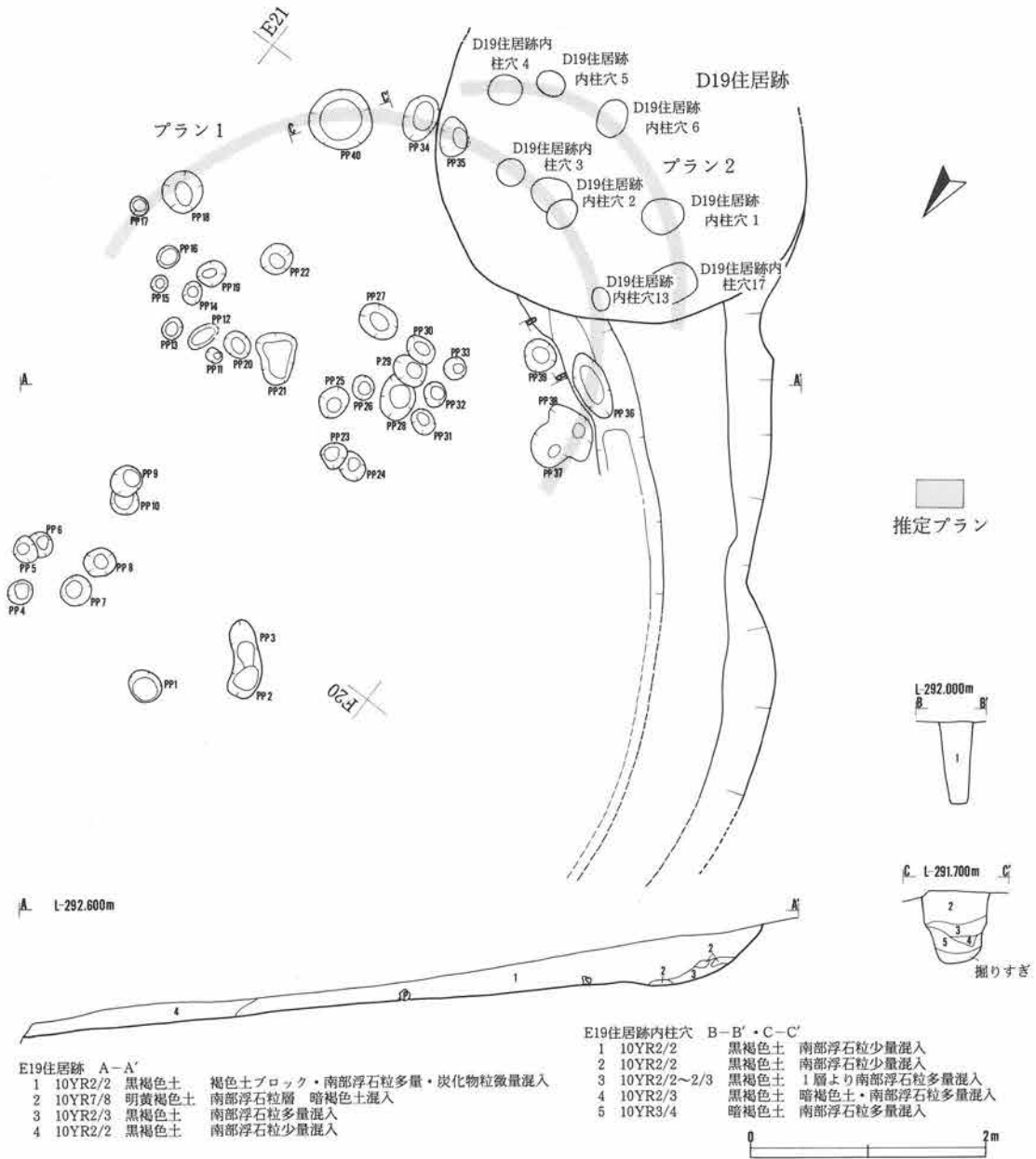
C22住居跡状1号（第28図、写真図版29）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側のC22・D22グリッド付近に位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されており、II層を除去した段階で検出した。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。

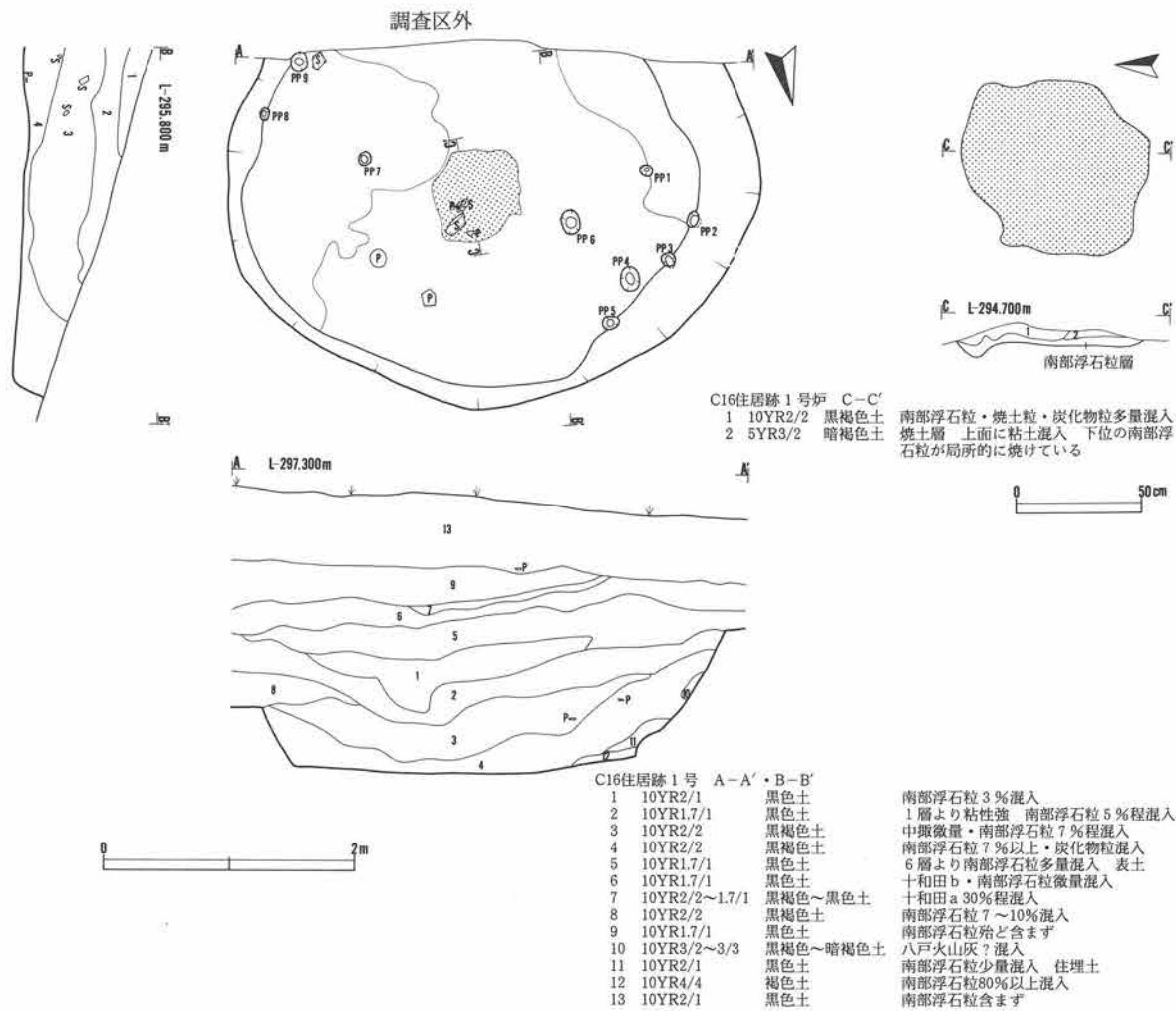
＜重複遺構＞ 本住居跡が、D22柱穴状土坑1号に截られている。

＜平面形・規模＞ 平面形は円形で、規模は310×284cmである。

＜埋土＞ 埋土は黒褐色土による自然堆積で2層に大別される。上部に堆積する1層には、十和田b火山灰が微量含まれる。2層は炭化物が微量混入し、晩期の土器が出土している。



第25図 E19住居跡



第26図 C16住居跡1号

〈壁・床〉 壁は外傾して立ち上がり、壁高は検出面から20~30cmである。床面はやや凹凸があり、若干堅い。

〈出土遺物〉 (第145図、第177図961、写真図版182・205) 埋土中からは晩期の土器片が微量出土している。

土器 (第145図200~203、写真図版182) 床面の直下から大洞B1~B2式に相当する200~203の土器が出土している。

石器 (第177図961、写真図版205) 埋土中より磨石1点が出土している。

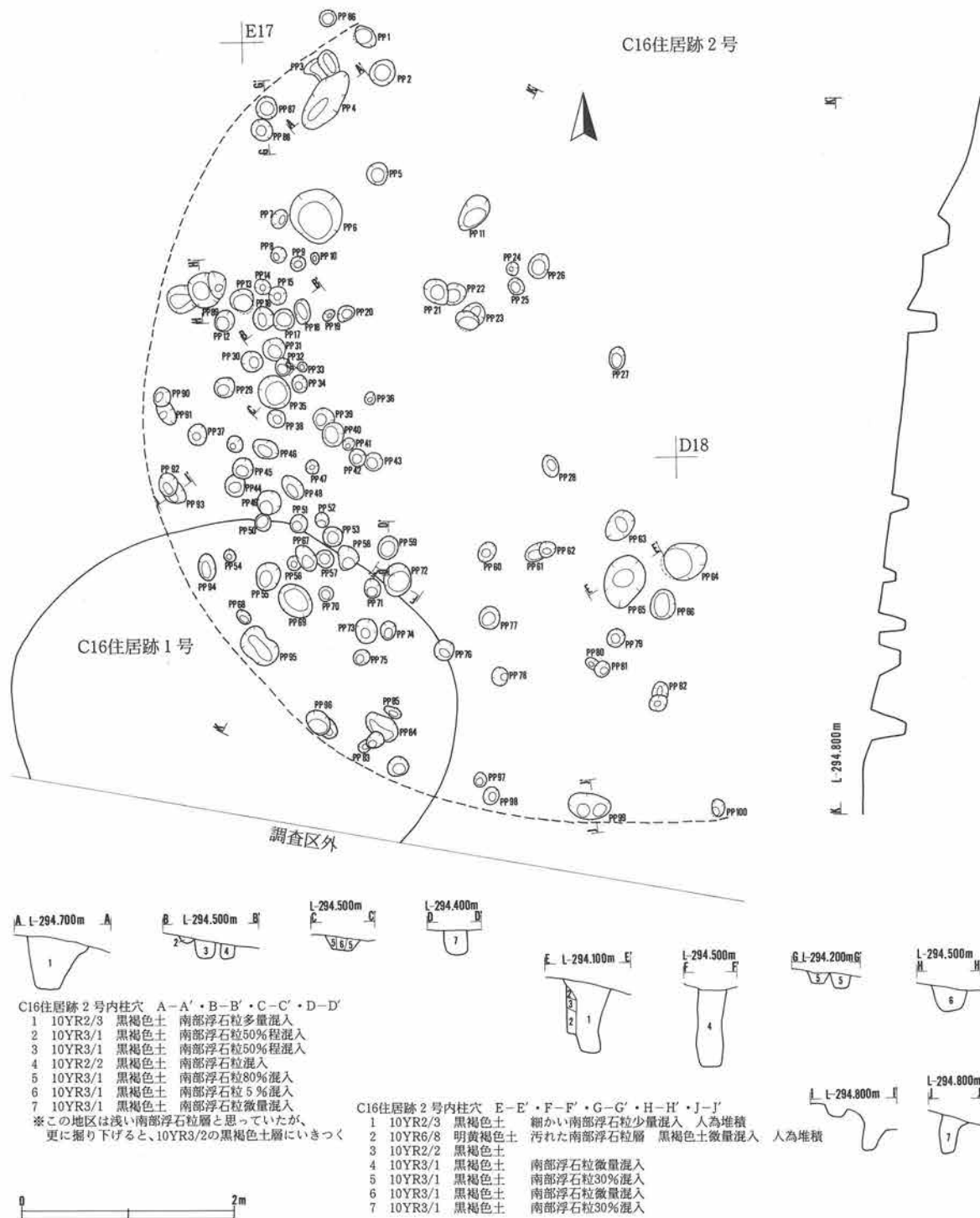
〈時期〉 床面の直下から縄文時代晩期初頭の土器が出土している。状況から推定して晩期初頭~前葉期と推定される。

C22住居跡状2号 (第28図、写真図版30)

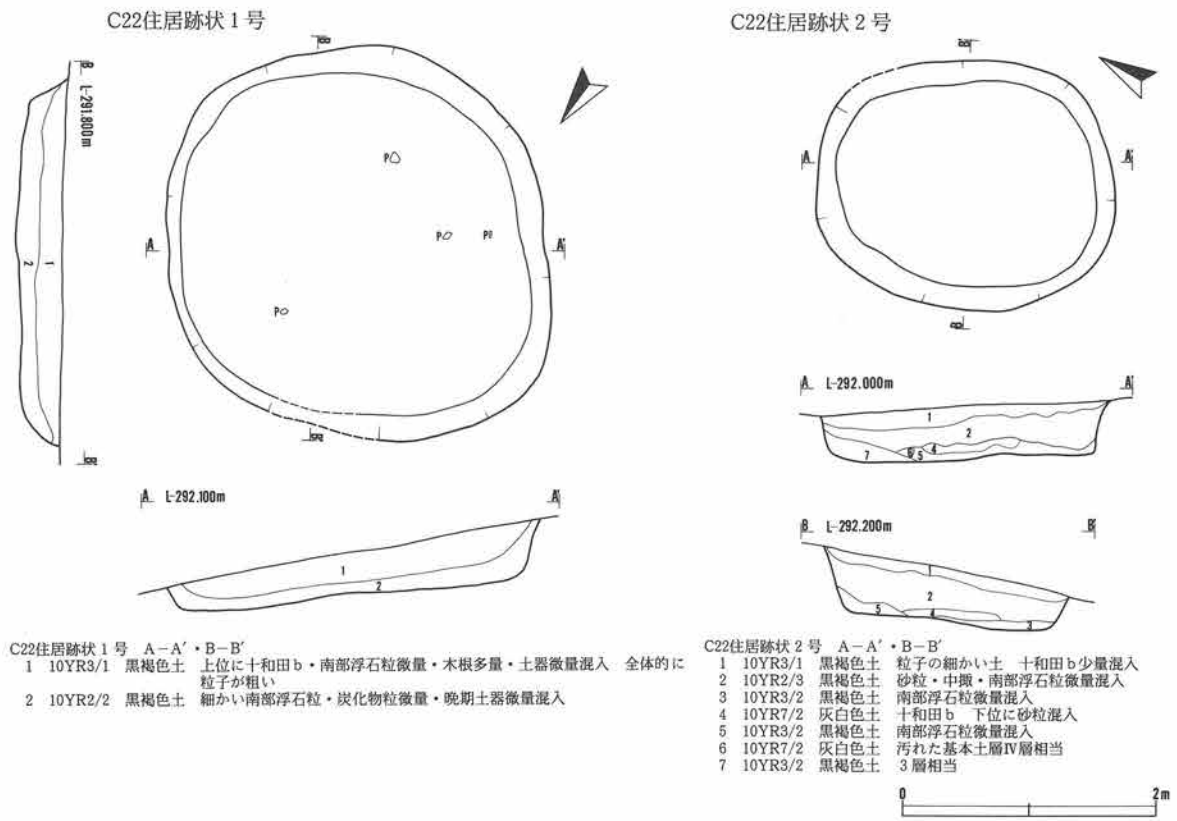
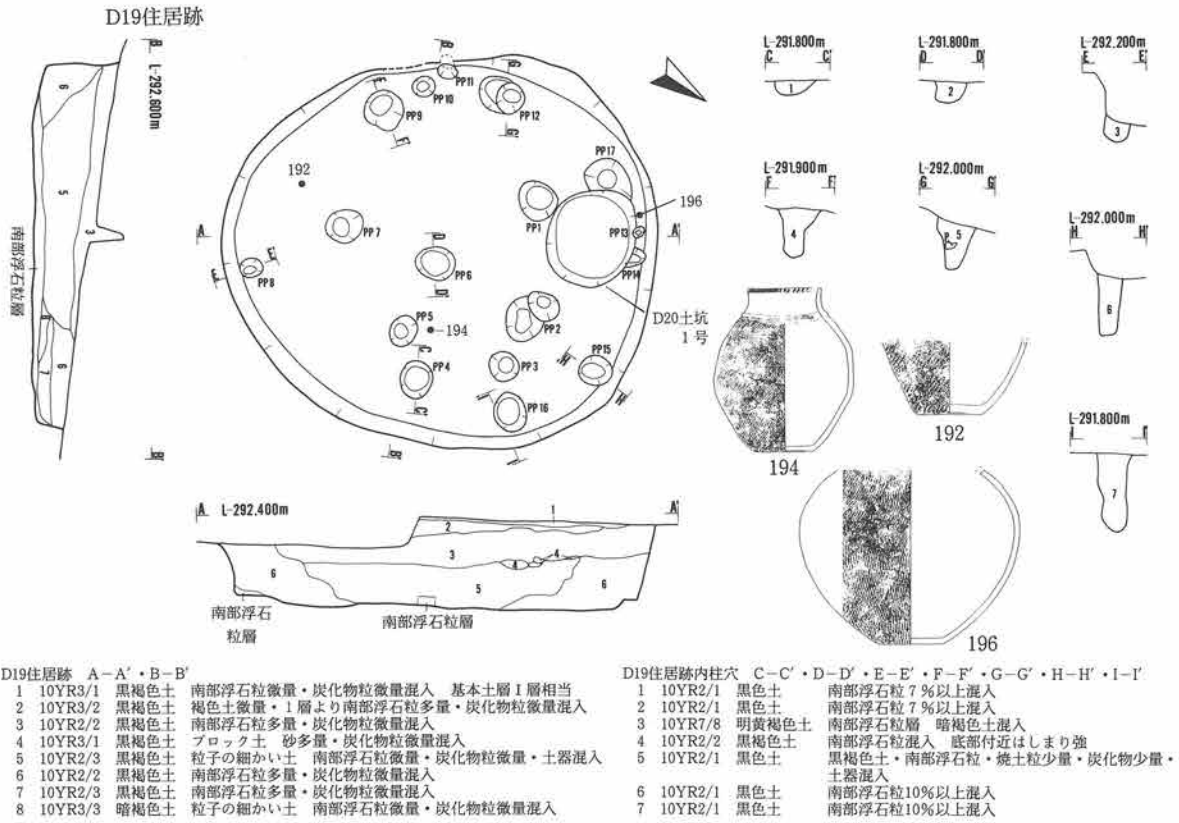
〈位置・検出状況〉 調査区東側のC22グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されており、II層を除去した段階で検出した。現況地形は南西~北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。

〈重複遺構〉 本住居跡が、C22柱穴状土坑に截られている。

〈平面形・規模〉 平面形は楕円形で、規模は237×198cmである。



第27図 C16住居跡 2号



第28図 D19住居跡、C22住居跡状1号・2号

＜埋土＞ 埋土は黒褐色土を主体とし、7層に大別される。上部に堆積する1層と下位～床面に堆積する4層に十和田b火山灰が微量含まれ、2・6層に中礫火山灰が微量含まれる。よって、1・4層は基本層序のⅡ層に、2・6層はⅣ層に相当する土壌である。土層の堆積様相からは自然堆積と判断される。それらの下位に堆積する7層はⅢ層（遺物包含層）に相当するが、あるいは掘り過ぎである可能性もある。調査では不明瞭であったが、5・6層は貼床かもしれない。1・2・4層については、4層はプライマリーの可能性が高く、1・2層は地滑りなどに起因する再堆積で土層が上下逆転現象を生じていると判断される。

＜壁・床＞ 壁は外傾して立ち上がり、壁高は検出面から30～50cmである。床面はやや凹凸があり、若干堅い。

＜出土遺物＞（第145図、写真図版182） 埋土中からの出土土器はなく、床面の直下からの出土土器を掲載した。

土器（第145図204、205、写真図版182） 床面の直下から十腰内Ⅰ式に相当する204・205の土器が出土している。

＜時期＞ 床面の直下から縄文時代後期初頭～前葉の土器が出土していることから、後期前葉より新しい時期である。ただし、床面直下から出土した土器は、遺物包含層中に包含されていた土器と判断されることから、住居本来の時期は明確ではない。

C23住居跡状1号（第29図、写真図版31）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側のC23グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。

現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。検出状況は、包含層精査時に設定したB25～M20土層断面の観察から検出した。平面的に検出できなかったため、プランの半分程は破壊してしまった。

＜重複遺構＞ なし。

＜平面形・規模＞ 平面形、規模ともに不明であるが、残存部から楕円形で2.2m程と推定される。

＜埋土＞ 1層が本遺構の埋土で、基本層序のⅢ層（遺物包含層）に相当する。自然堆積の様相である。

＜壁・床＞ 壁はⅢ～Ⅴ層中に相当し、外傾～外反気味に立ち上がり、壁高は45cm程である。床面はⅤ層中で、やや凹凸がある。

＜出土遺物＞（第145図、第177図、写真図版182・205） 埋土中より後期初頭の土器と礫石器1点が出土している。

土器（第145図206～210、写真図版182） 十腰内Ⅰ式に相当する土器が埋土中より出土している。

石器（第177図962、写真図版205） 962は石刀と推定される。

＜時期＞ 遺物包含層の下位に近い部分で構築されていることと、出土遺物から判断して縄文時代後期初頭～前葉と推定される。

C23住居跡状2号（第29図、写真図版32）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側のC23～C24グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。検出状況は、包含層精査時に設定したB21～F27土層断面の観察から検出した。平面的に検出できなかったため、プランの半分程は破壊してしまった。

<重複遺構> 本住居跡が、C24土坑に截られている。

<平面形・規模> 平面形、規模ともに不明であるが、残存部から円～楕円形で2.5m程と推定される。

<埋土> 黒色～黒褐色土により構成される。全て基本層序のⅢ層に相当する土壌であり、自然堆積の様相であることから、遺物包含層の再堆積層と思われる。

<壁・床> 壁は外反気味に立ち上がり、壁高は45cm程である。床面は丸底気味である。

<出土遺物> (第145図211～220、第177図963、写真図版182・205) 後期初頭～中葉の土器と石器1点が出土している。

土器(第145図211～220、写真図版182) 十腰内Ⅰ式相当を主体に、十腰内Ⅲ式相当の土器が微量出土している。なお、晩期の土器は出土していない。

石器(第177図963、写真図版205) 削器1点が出土している。

<時期> 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉と推定される。

C24住居跡状(第29図、写真図版33)

<位置・検出状況> 調査区東側のC23・C24・D24グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。検出面は基本層序のⅢ層中位～下位で、Ⅴ～Ⅶ層中に構築されている。斜面下方側に相当する東壁は、検出できずに破壊してしまった可能性が高い。

<重複遺構> なし。

<平面形・規模> 平面形、規模ともに不明である。残存する西壁から推定して、楕円形で4m程の住居跡と思われる。

<埋土> 黒～黒褐色土シルトにより構成される。自然堆積層である。

<壁・床> 壁は外反し立ち上がり、壁高は検出面から60～70cmである。床面はほぼ平坦である。

<柱穴> 本住居跡遺構に伴う可能性の高い柱穴は図示した3基を認定したが、規模にばらつきが多く、精査時から明瞭に把握されたものではなく、特にPP3としたものは単独の土坑の可能性もある。

<出土遺物> (第146図、第168図、第177図、写真図版182・183・199・205) 後期初頭～中葉の土器を主体とし、晩期の土器が微量出土している。埋土上位の1層からの出土が多い。

土器(第146図221～233、写真図版182・183) 掲載したのは、十腰内Ⅰ～Ⅳ式に相当する土器主体である。

土製品(第168図827・828、写真図版199) 土偶1点と円盤状土製品1点が出土している。土偶は、後期中空土偶の足部である。

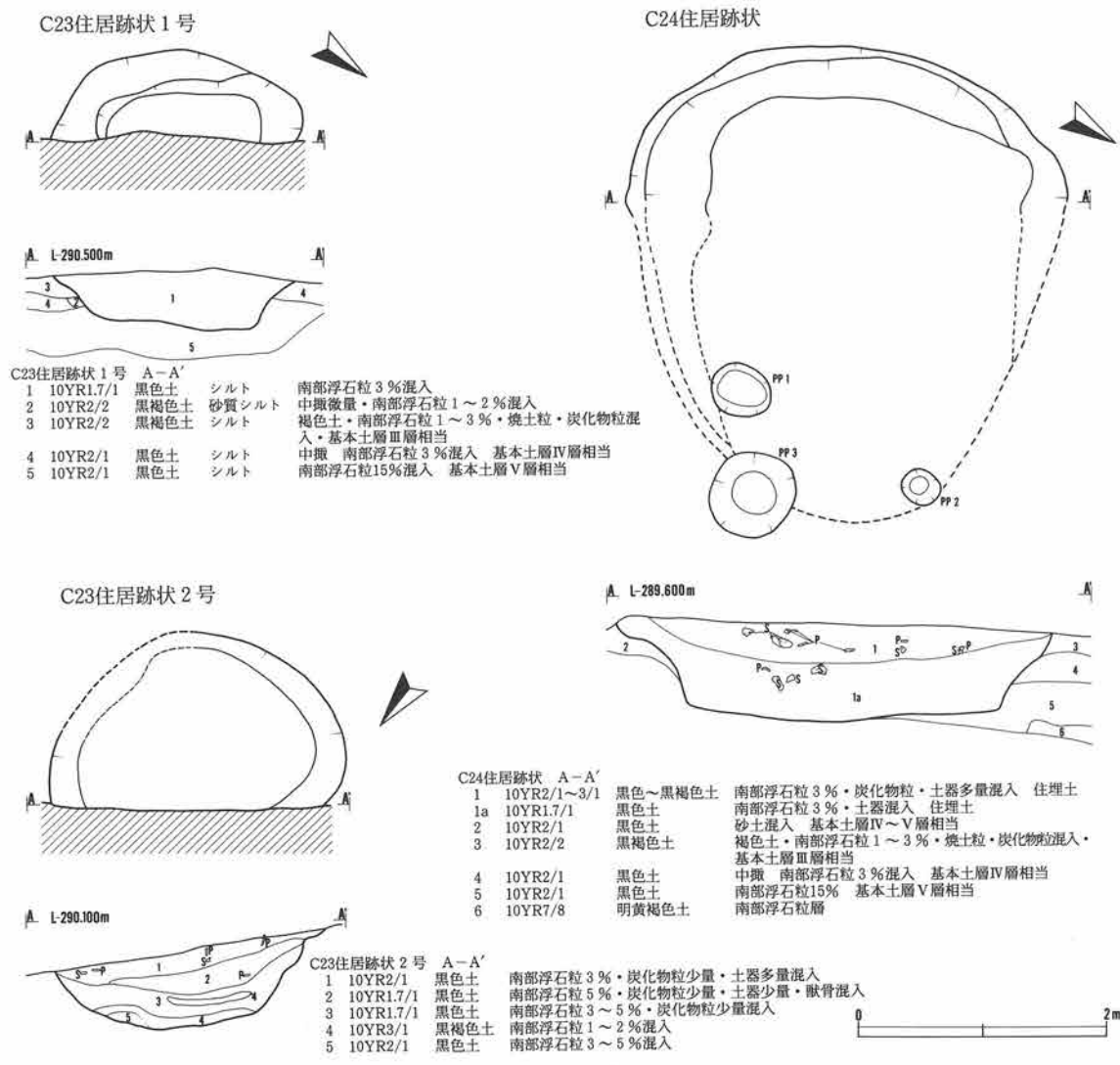
石器(第177図964～967、写真図版205) 石鏃1点、削器2点、抉入石器1点が出土している。

<時期> 出土遺物は縄文時代後期前葉～晩期初頭までのものが出土しており、時期の断定が難しい。検出面から推定すれば、遺物包含層の中～下位であることから後期と思われる。

B21住居跡1号(第30図、写真図版34)

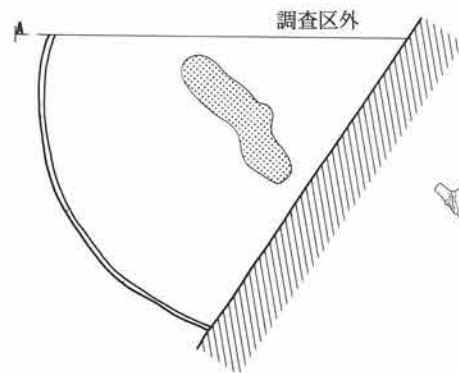
<位置・検出状況> 調査区東側のB21・C21グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。北側プランの大部分が調査区外に延びる。また、本住居跡状の北西側プランは、調査初年度に入れた試掘トレンチで破壊している。

<重複遺構> 本住居跡直下からB21住居跡状2号を検出している。

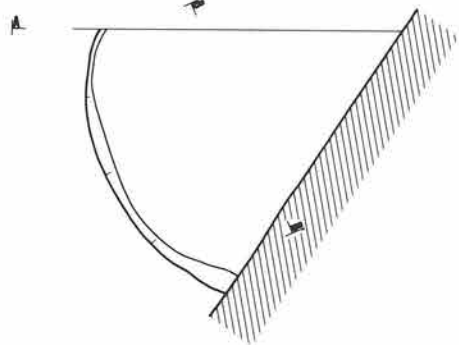


第29図 C23住居跡状 1号・2号、C24住居跡状

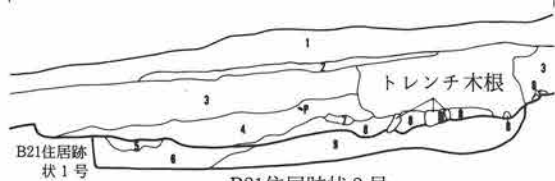
B21住居跡状 1号



B21住居跡状 2号



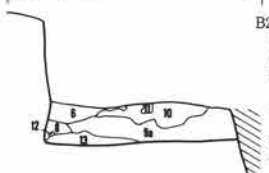
A L-283.900m



B21住居跡状 1号

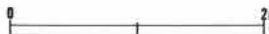
B21住居跡状 2号

A L-283.700m

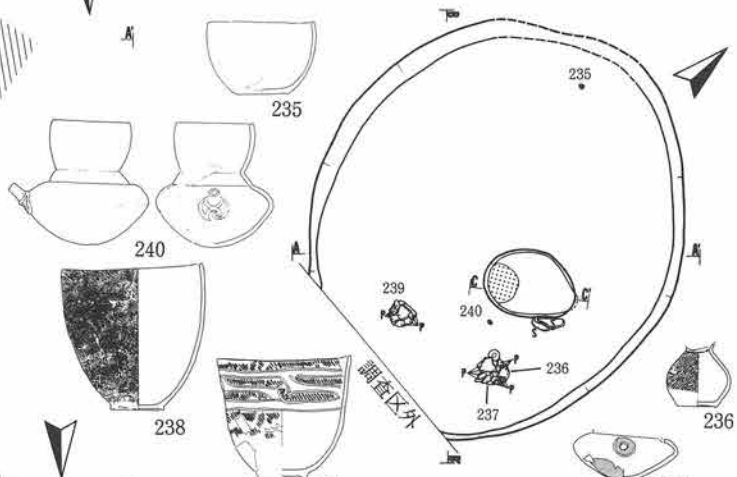


B21住居跡状 1・2号 A-A'・B-B'

- | | | |
|----|-----------------------------|----------|
| 1 | 10YR2/1~2/2 | 黒色~黒褐色土 |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色土 |
| 7 | 7.5YR4/4 | 褐色土 |
| 8 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| 9 | 10YR2/3 | 黒褐色土 |
| 9a | 10YR2/1~2/2 | 黒色土~黒褐色土 |
| 10 | 5YR4/8赤褐色土と7.5YR4/6褐色土との混合土 | |
| 11 | 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| 12 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |
| 13 | 10YR3/1 | 黒褐色土 |



B21住居跡状 3号

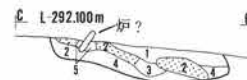
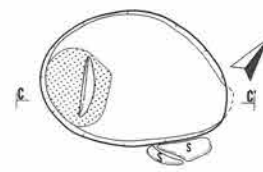


A L-282.600m

B L-282.400m

B21住居跡状 3号 A-A'・B-B'

- | | | | |
|----|-------------|------|----------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色土 | 1層より南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
| 4 | 10YR2/2~2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒少量混入 |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 6 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
| 9 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 10 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒少量混入 |



B21住居跡状 3号 C-C'

- | | | | |
|---|----------|------|-------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 7.5YR5/8 | 明褐色土 | 焼土層 南部浮石粒微量混入 |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量・焼土粒微量混入 炬石の掘り方? |



第30図 B21住居跡状 1号・2号・3号

＜平面形・規模＞ 平面形、規模ともに不明であるが、残存部から円形で3 m程と推定される。

＜埋土＞ 黒褐色シルトを主体とする。第30図土層断面A-A'は、上位がB21住居跡1号で、下位がB21住居跡2号に伴う埋土である。斜面上方からの流入による自然堆積で、Ⅲ・Ⅳ層の再堆積層で構成される。埋土下位に見られる8層には中礫火山灰を含む。本遺跡に見られる中礫火山灰は所謂アワズナと呼ばれるような粉状（砂っぽい）のもので、遺跡全面に見られるものではなく、緩斜面部において遺物包含層（Ⅲ層）より下位の黒褐色土中（Ⅳ層）に二次堆積で混入する。本住居跡付近の周辺は、他に比べ特にⅣ層中の中礫火山灰の含有率が高い。

＜壁・床＞ 壁は外傾して立ち上がり、壁高は検出面から5～10cmである。床面は平坦を基調とするが、凹凸がある部分がある。

＜柱穴＞ 床面及び竪穴外周辺からは、柱穴の検出はない。

＜炉＞ 竪穴中央部分で、地床炉と思われる楕円形に広がる現地性の焼土を検出している。焼土の発達が悪い。

＜出土遺物＞（第146図、写真図版183） 埋土中からは晩期初頭～前葉の土器の小片が少量出土している。
土器（第146図234、写真図版183） 文様が明確なものは、234のみである。

＜時期＞ 検出面から縄文時代晩期前葉と推定される。

B21住居跡状2号（第30図、写真図版34）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側のB21・C21グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。北側プランの大部分が調査区外に延びる。本住居跡状の北西側は、調査初年度に入れた試掘トレンチで破壊している。

＜重複遺構＞ 本住居跡直上からB21住居跡状1号を検出している。

＜平面形・規模＞ 残存部から円形で3 m程と推定される。

＜埋土＞ 黒褐色シルトを主体とする。自然堆積である。

＜壁・床＞ 壁は直立気味に立ち上がる。床面は平坦である。

＜出土遺物＞ 遺物の出土はない。

＜時期＞ 縄文時代晩期初頭～前葉と推定される。

B21住居跡状3号（第30図、写真図版35）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側のB21・B22・C21・C22グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。検出面はⅢ層で、検出作業中には後～晩期の土器が混在して出土している。

＜重複遺構＞ 重複関係にあるC21柱穴状土坑3・4号との新旧関係について、C21柱穴状土坑は本住居跡の床面で検出したが、本遺構の土層断面を再観察した結果、本遺構が古いと判断された。

＜平面形・規模＞ 平面形は円形で、規模は3.2m程である。

＜埋土＞ 黒褐色土シルトを主体とする。自然堆積の様相である。

＜壁・床＞ 壁はⅢ層中で、外傾気味に立ち上がり、壁高は検出面から15～25cmである。床はⅢ層に相当し、平坦である。床面は特に硬くはないことから、踏み締めは行っていないと思われる。

＜柱穴＞ 柱穴は検出されていない。

＜炉＞ 床面から石囲炉の存在を示唆させる石1個と焼土を検出した。ただし、周辺に石の抜き取り跡は検出していないことから、石囲炉であったかどうか明確ではない。焼土は楕円形に広がり、規模は70×50cm程で、床面から10cm程の掘り込みを持つ。焼土は明瞭に把握できるわけではなく、不明瞭であった。

＜出土遺物＞（第146～148図、第169図、第177図、写真図版183・184・199・205） 埋土上位～床面にかけて多量の土器が出土している。土器については、埋土中～床面まで比較的単時期に近い様相である。

土器（第146～148図235～254、写真図版183・184） 235～239は床面、240が床面直上、その他は埋土中からの出土である。240の注口土器は、床面より5cmほど上で、横倒しの状態で出土した。

土製品（第169図829～832、写真図版199） ミニチュア土器1点、耳飾り1点、鐸形土製品1点、人面付き土製品1点が出土している。

石器（第177図968～970、写真図版205） 石鏃2点、削器1点が出土している。

＜時期＞ 床面出土遺物から縄文時代晩期初頭の大洞B1式古期と思われる。ただし、床面出土土器についても家財道具ではなく、住居廃絶後に投げ込まれた様相である。住居として機能していたのは大洞B1式古期より若干古い可能性が考えられる。

B22住居跡1号（第31図、写真図版36）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側のB22・B23・C22・C23グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。検出面はI層下位～III層上位である。本遺構の下位よりB22住居跡状2号を検出している。東側は調査初年度に入れた試掘トレンチで破壊している。

＜重複遺構＞ 本住居跡の下位よりB22住居跡状2号を検出している。東側は調査初年度に入れた試掘トレンチで破壊している。

＜平面形・規模＞ 平面形は円形で、規模は3m程である。

＜埋土＞ 黒褐色シルトを主体とする自然堆積層である。

＜壁・床＞ 壁は直立～外傾して立ち上がり、壁高は35cm程である。床面は平坦である。

＜柱穴＞ 未検出である。

＜炉＞ 床面から10～15cmの掘り込みを持つ地床炉を検出した。平面形は楕円形で、規模は短軸で60cm程で、長軸は調査区外に延びることから不明である。焼土の発達は良好であった。

＜出土遺物＞（第149図、第178図、写真図版184・205・206） 後期初頭の土器片が多いが、全て流れ込み的な自然流入によると思われる。

土器（第149図255～266、写真図版184） 十腰内I式～大洞BC式まで時期幅が広く出土している。

石器（第178図971～980、写真図版205・206） 石錐1点、削器8点、円形搔器1点が出土している。

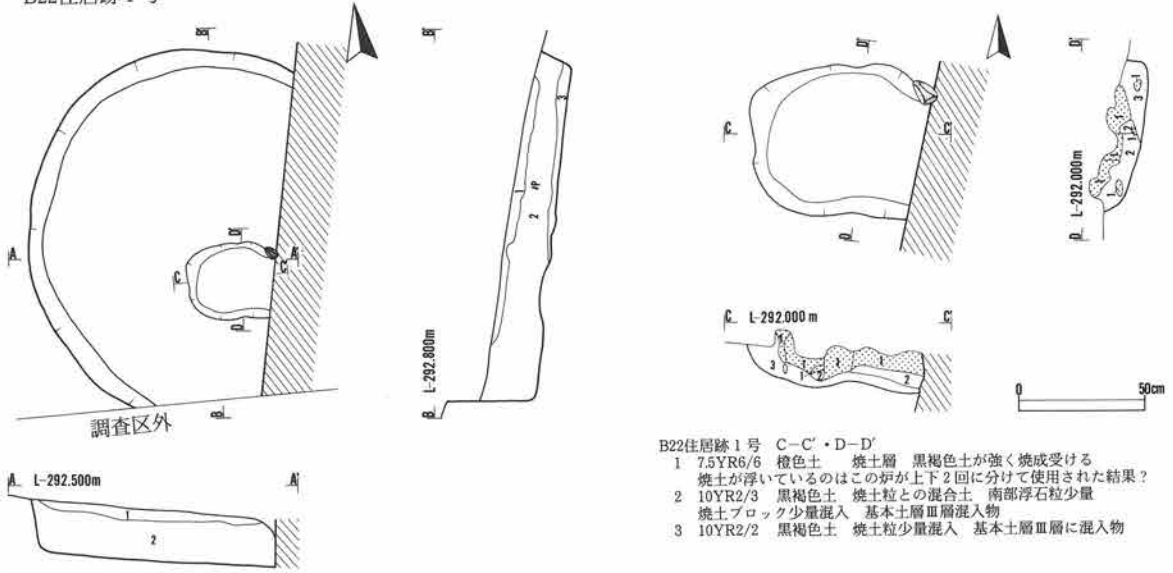
＜時期＞ 縄文時代晩期と推定される。出土遺物の中で最も新しいのは大洞BC式である。

B22住居跡2号（第31図、写真図版37）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側のB22・C22グリッドに位置する。本住居跡は東部捨て場内に構築されている。現況地形は南西～北東方向に傾斜し、遺物包含層が厚く堆積する付近である。検出面はIII層下位～IV層上位である。本遺構の東側は、調査初年度に入れた試掘トレンチで破壊している。

＜重複遺構＞ 本住居跡状の直上からB22住居跡1号を検出している。

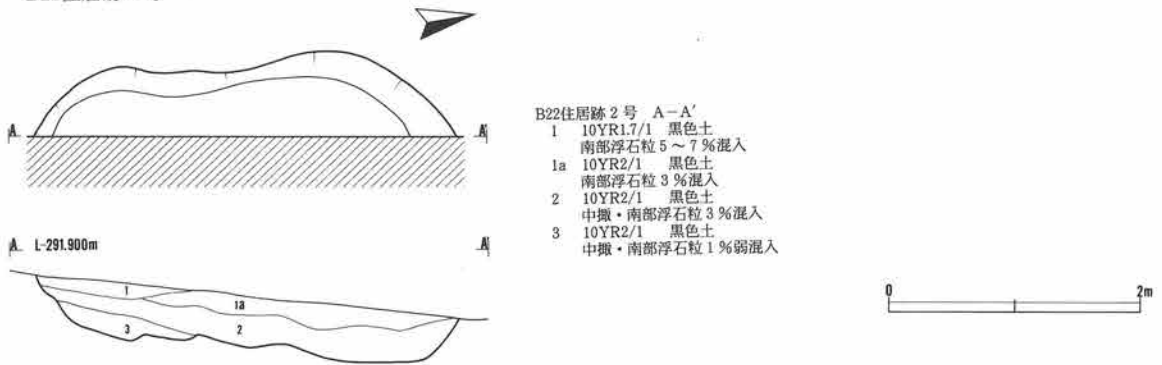
B22住居跡1号



B22住居跡1号 A-A'・B-B'

- 1 10YR3/1 黒褐色土 十和田b・南部浮石粒微量混入
- 2 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・焼土粒微量・炭化物粒混入
- 3 10YR2/1 黒色土 炭化物粒混入

B22住居跡2号



第31図 B22住居跡1号・2号

<平面形・規模> 平面形は不明であるが、残存する西壁から円形あるいは楕円形と推定される。規模は310 cmである。

<埋土> 黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

<壁・床> 壁は外傾して立ち上がり、壁高は30～40cm程である。床面は平坦である。

<出土遺物> 出土遺物はない。

<時期> 出土遺物がないことから明確には不明である。検出面などの状況から後期前半期と思われる。

2 掘立柱建物跡

15軒を検出（認知）した。4本の柱穴と6本の柱穴から構成されるものがあり、平面形は正方形及び長方形を呈する。柱穴の埋土を観察した結果、埋土に柱材が存在した可能性を示すアタリが確認できるものや柱の重量により底面が変色したと思われる柱穴が見受けられることから、当時柱材が柱穴内に設置されていた可能性は高いと言えよう。また、人為堆積と自然堆積の有無については、土層堆積の状況と南部浮石粒の様相から判断している。南部浮石粒の様相について調査記録では以下の基準で自然・人為に区分している。

プライマリーな南部浮石粒と比較して人為により埋め戻されたと思われる土層に混入する南部浮石粒は、黒色土で汚れたりあるいは潰れた（粒径が細かい）様相を示す。ただし、黒色シルトなどの埋め土に意図的に南部浮石粒を混入したものとは捉えていない（黒色シルト中における南部浮石粒の含有率の多少は、斜面の傾斜角度などの違いによる地形的な影響と捉えている）。

個々の掘立柱建物跡については、本稿ではアタリの在り方などから柱材が設置されていたと想定して記述することとするため、憶測的な記載も多々あることをお断りするとともにお許し願いたい。

時期については、晩期初頭以降で十和田b火山灰降下以前と捉えられる。本遺跡から弥生時代の土器が微量（総量で10片以下）しか出土していないことと、掘立柱建物跡の分布が晩期の住居跡の分布と重なることから考えて、概ね晩期前葉と推定される。

C21掘立柱建物跡（第32図、写真図版なし）

〈位置・検出状況〉 調査区南東のC21・C22・D22グリッドに位置する。本遺構の所在する付近は平坦部と斜面部との傾斜変換点に位置する。遺構は遺物包含層（Ⅲ層）を掘り込んで構築している。

〈構成する遺構名〉 C21柱穴状土坑2号（PP1）、D22柱穴状土坑1号（PP2）、C22柱穴状土坑1号（PP3）、C21柱穴状土坑3号（PP4）

〈主軸方向〉 N24° W

〈柱穴配置〉 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

〈壁・底面〉 柱穴の壁・底面ともⅢ層中である。柱穴の検出面が当時の構築面かどうか不明であり、上屋構造の存在が不明なことから推測の域を越えないが、柱穴の検出面を床面と想定すると地形に沿いかなり外傾することになる。上屋構造があったと仮定するならば、斜面下方側に丈の長い柱材を使用した可能性も考えられる。

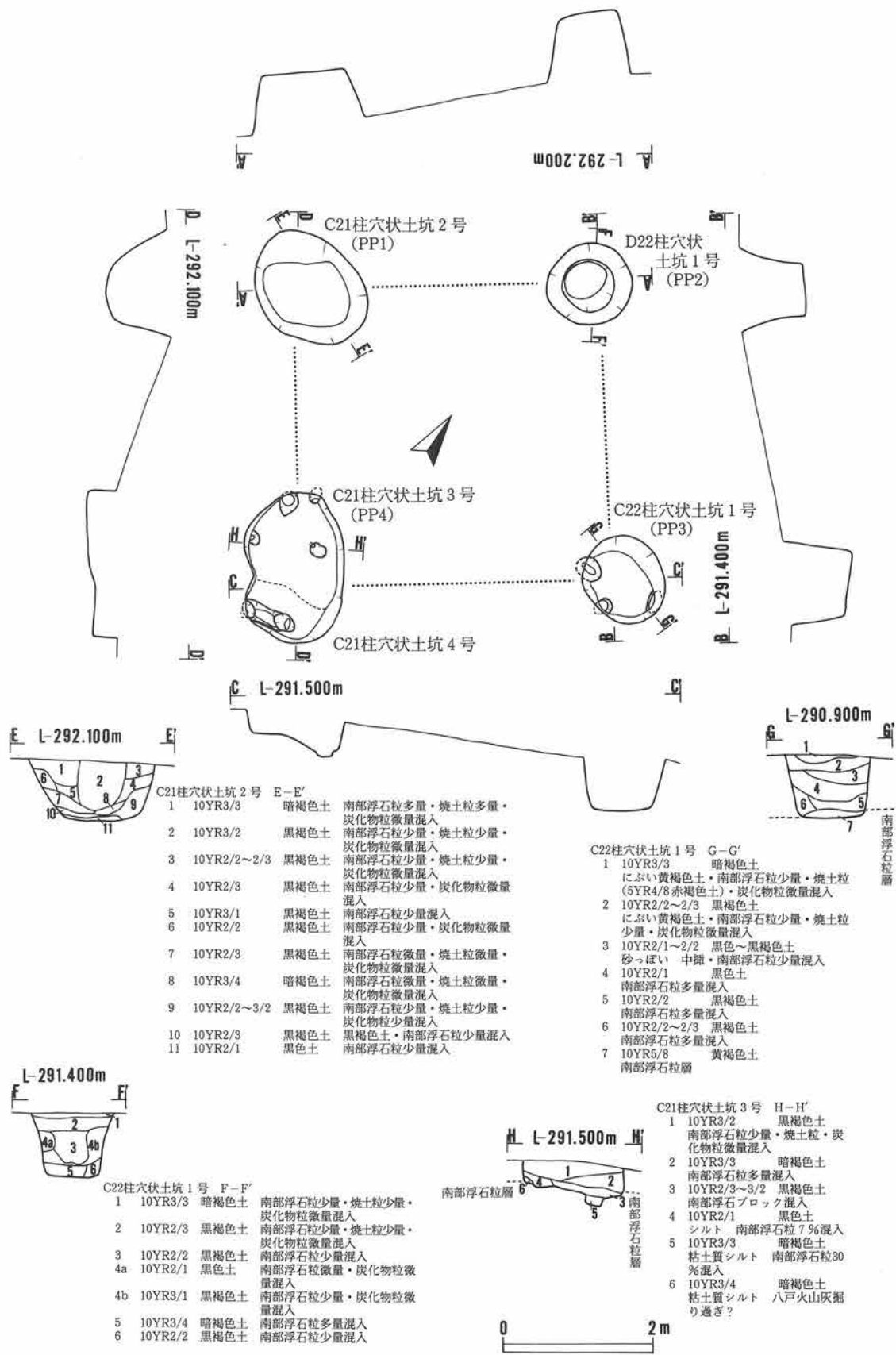
〈埋土〉 柱穴の埋土は、暗褐色土と黒褐色土で構成される。

PP1とPP2の土層断面には、中央にアタリと思われる層があり、柱材の太さが推定できる。PP1は約65cm、PP2は約40cmである。アタリの形状から柱は直立気味であった可能性が高い。またPP2は、柱を途中から切断し、埋め戻した（2層）可能性が土層観察から推定される。

PP3は自然堆積の様相で、アタリが見られない。小形土坑状の痕跡が見られることから、柱材を支えた根固め石的なものが設置してあったことが考えられる。

PP4の堆積の様相からは、自然堆積なのか人為堆積なのか判断できなかった。重複関係にあるC21柱穴状土坑4号とは新旧関係が明確ではないが、柱材を抜き取った時の痕跡かあるいは構築時に柱材を柱穴にはめ込む上でのスロープ的な施設（痕跡）と言う2つの可能性が推定される。

〈柱穴の規模〉 PP1（135～165cm）・PP2（108cm）・PP3（102～110cm）・PP4（132～200cm）



第32図 C21掘立柱建物跡

<柱穴深度> PP1 (80cm) ・PP2 (84cm) ・PP3 (82cm) ・PP4 (40cm)

<柱穴間隔> PP1-PP2 (4 m) ・PP2-PP3 (4.2m) ・PP3-PP4 (4.3m) ・PP4-PP1 (4 m)

<出土遺物> (第164図、第172図、第191図、写真図版196・202・212)

土器 (第164図690～692、写真図版196) D22柱穴状土坑1号 (PP2) より691と692の土器が出土している。

土製品 (第172図894、写真図版202) D22柱穴状土坑1号 (PP2) より円盤状土製品が1点出土している。

石器 (第191図1121～1123、写真図版212) C21柱穴状土坑2号 (PP1) より1121の石鏃、C22柱穴状土坑1号 (PP3) より1122・1123の石鏃が出土している。

D16掘立柱建物跡1号 (第33図、写真図版38)

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部のD16・D17・D18・E16・E17グリッドに位置する。遺構は八戸火山灰層を掘り込んで構築されている。

<構成する遺構名> E16柱穴状土坑6号 (PP1)、E16柱穴状土坑4号 (PP2)、E17柱穴状土坑1号 (PP3)、D18柱穴状土坑1号 (PP4)、D17柱穴状土坑11号 (PP5)、D16柱穴状土坑9号 (PP6)

<主軸方向> N55° W

<柱穴配置> 6本柱で構成され、平面形は長方形を呈する。

<底面> 八戸火山灰層に相当する。

<埋土> 柱穴状土坑の埋土は、黒褐色土を主体とする。

PP1はE16柱穴状土坑14・19号と重複関係にあり、PP1が古いことがわかる。アタリは明確ではない。

PP2は2層がアタリと思われる層で、柱の太さは約40cmと推定される。

PP3・PP4・PP5は黒褐色土による単層で、アタリは存在しない。

PP6はD16柱穴状土坑4号やD16柱穴状土坑10号を破壊して構築されている。6・7・9層がアタリと推定される土層で、南部浮石粒の含有率が他より高い。また、10層は人為堆積の様相を示す土層なことから、柱の据え方に使用された土と思われる。土層観察を総括すると、柱は抜き取られている可能性がある。

<柱穴の規模> PP1 (64～82cm) ・PP2 (74cm) ・PP3 (80～94cm) ・PP4 (60cm) ・PP5 (64cm) ・PP6 (65～80cm)

<柱穴深度> PP1 (60cm) ・PP2 (84cm) ・PP3 (52cm) ・PP4 (66cm) ・PP5 (24cm) ・PP6 (110cm) である。

<柱穴間隔> PP1-PP2 (3.3m) ・PP2-PP3 (3.6m) ・PP3-PP4 (3.6m) ・PP4-PP5 (3.0m) ・PP5-PP6 (3.4m) ・PP6-PP1 (3.9m)

<出土遺物> (第164図、第191図、写真図版196・213) ※1125は写真掲載のみ

土器 (第164図685・703・704、写真図版196) E16柱穴状土坑4号 (PP2) より703・704、D16柱穴状土坑9号 (PP6) より685の土器が出土している。

石器 (第191図1125・1134、写真図版213) D17柱穴状土坑1号 (PP3) より1125、E16柱穴状土坑4号 (PP2) より1134が出土している。

D16掘立柱建物跡2号 (第34図、写真図版38)

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部のD16・D17・D18・E17グリッドに位置する。

<構成する遺構名> E17柱穴状土坑2号 (PP1)、D18柱穴状土坑9号 (PP2)、D17柱穴状土坑2号 (PP3)、D16柱穴状土坑3号 (PP4)

<主軸方向> N35° E

<壁・底面> 何れも八戸火山灰を掘り込んで構築されている。

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<埋土> 柱穴の埋土は、南部浮石粒が少量混入する黒褐色土シルトを主体とする。

PP1・PP2は検出面の関係で、柱穴の下半を検出したに過ぎない。黒褐色土を主体とする。

PP3・PP4は当時の構築面に近い検出面で検出したと思われるものである。柱材を柱穴に入れる際のスロープと思われる浅い掘り込みが伴う。PP3は北東方向に傾斜することから柱の出し入れ?の作業は、北東方向から行ったと考えられる。

PP1、PP2、PP3、PP4ともアタリは確認されていない。

<柱穴の規模> PP1 (50cm) ・PP2 (66cm) ・PP3 (88~110cm) ・PP4 (80cm)

<柱穴深度> PP1 (10cm) ・PP2 (42cm) ・PP3 (110cm) ・PP4 (100cm) である。

<柱穴間隔> PP1-PP2 (4.0m) ・PP2-PP3 (4.0m) ・PP3-PP4 (4.1m) ・PP4-PP1 (4.0m)

<出土遺物> (第164図、第172図、写真図版196・202)

土器 (第164図686・687、写真図版196) D17柱穴状土坑2号 (PP3) より686・687の土器が出土している。

土製品 (第172図893、写真図版202) D16柱穴状土坑3号 (PP4) より勾玉 (飾り玉に分類) が1点出土している。

E15掘立柱建物跡 (第35図、写真図版38)

<位置・検出状況> 調査区南側のE15・E16・F15グリッドに位置する。

<構成する遺構名> F15柱穴状土坑2号 (PP1)、E16柱穴状土坑16号 (PP2)、E15柱穴状土坑19号 (PP3)、E15柱穴状土坑2号 (PP4)

<主軸方向> N25° W

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 八戸火山灰層を掘り込んで構築している。

<埋土> 埋土は黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土で構成される。

PP1は1・3層がアタリと思われる層で、柱の太さは40cm前後と推定される。

PP2はアタリが明確ではない。開口部付近の土層堆積から考えて、柱が抜き取られている可能性がある。

PP3は八戸火山灰に南部浮石粒が少量混入する。

PP4は黒褐色土による単層で、南部浮石粒を多量に包含する。

<柱穴の規模> PP1 (84cm) ・PP2 (60~108cm) ・PP3 (44cm) ・PP4 (48cm)

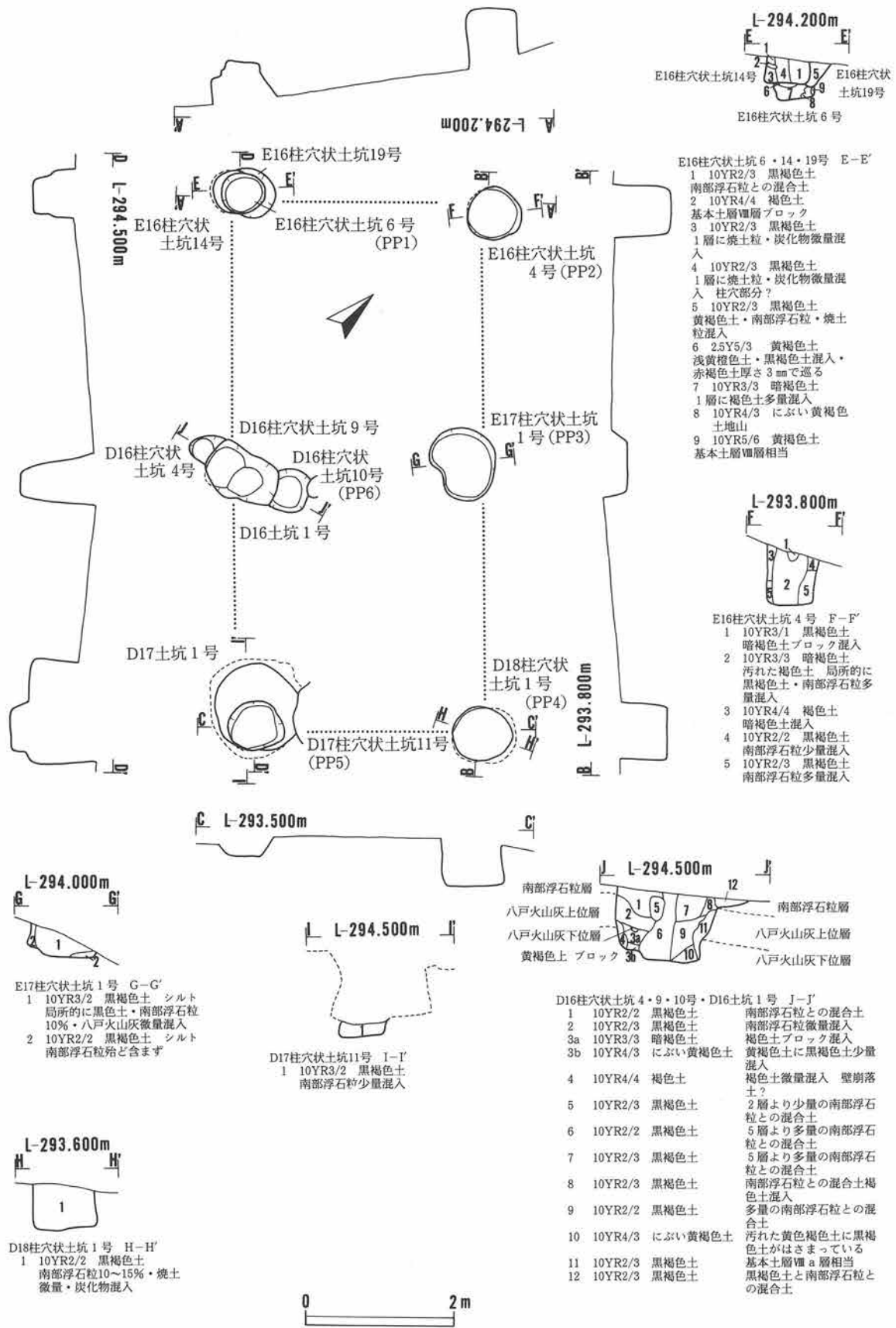
<柱穴深度> PP1 (98cm) ・PP2 (74~104cm) ・PP3 (24~30cm) ・PP4 (26cm) である。

<柱穴間隔> PP1-PP2 (3.64m) ・PP2-PP3 (3.64m) ・PP3-PP4 (3.64m) ・PP4-PP1 (3.58m)

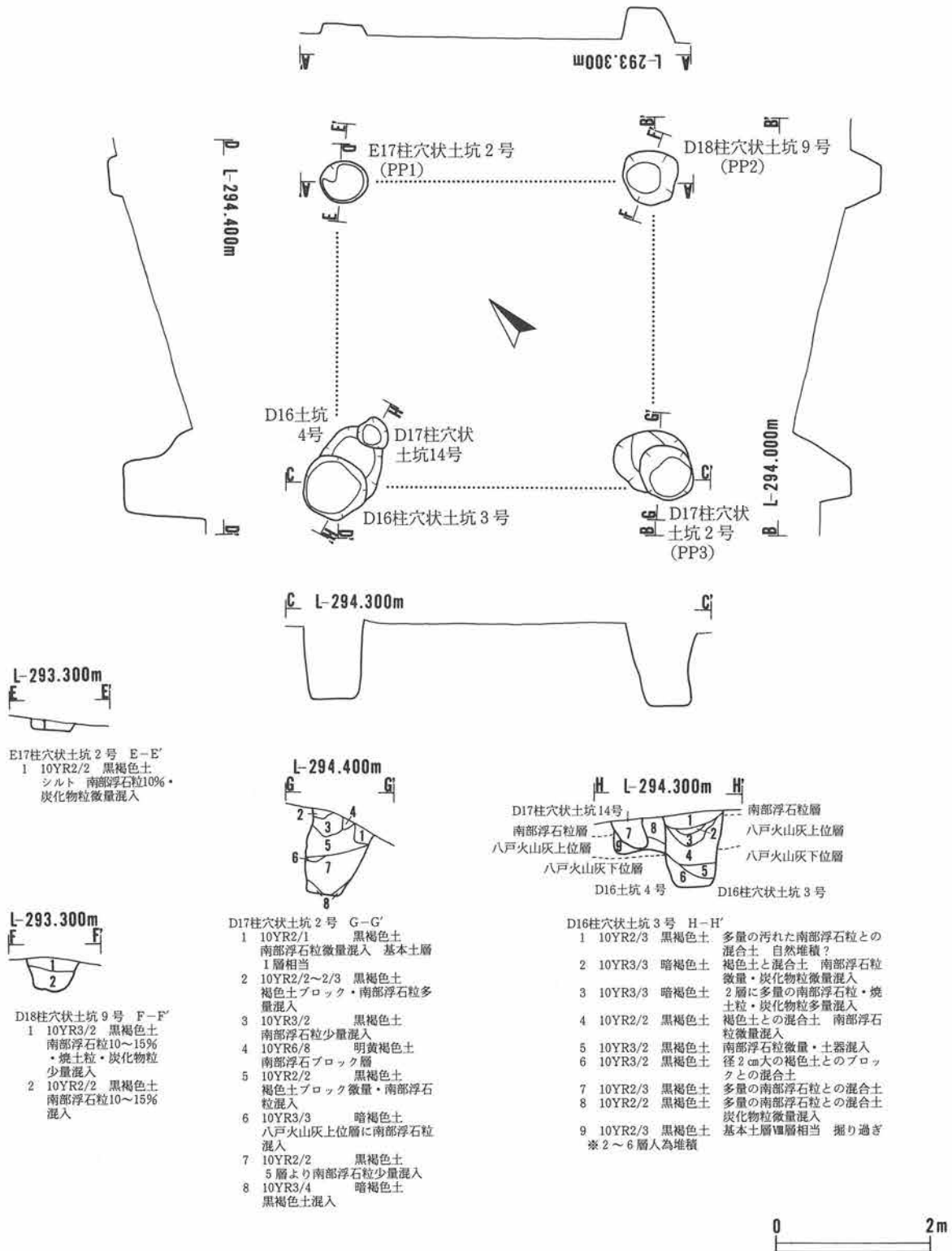
<出土遺物> (第164図、第165図、写真図版196・197)

土器 (第164・165図693・694・720、写真図版196・197) E15柱穴状土坑2号 (PP4) より693・694、F15柱穴状土坑2号 (PP1) より720の土器が出土している。

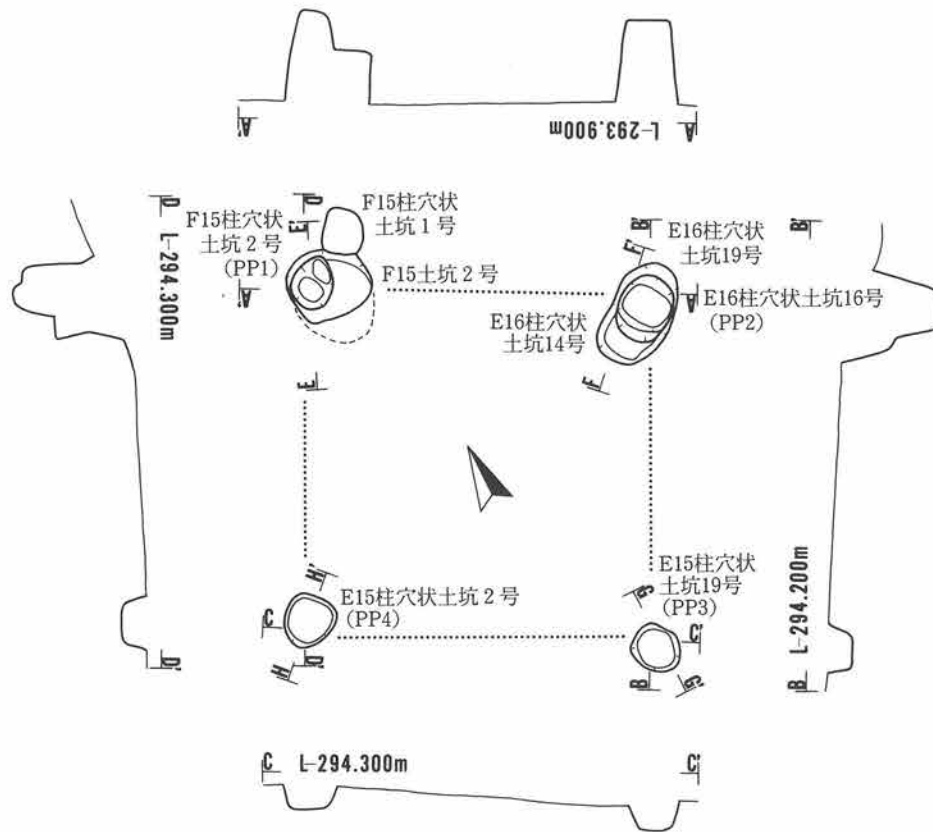
<その他> 斜面下方側に位置するPP3・PP4は、PP1・PP2と比較して深さが非常に浅い。本遺構は、整



第33図 D16掘立柱建物跡1号



第34図 D16掘立柱建物跡 2号



E L-294.300m E



- F15柱穴状土坑2号 E-E'
- 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒微量混入 柱痕跡?
 - 10YR4/4 褐色土 基本土層IX層下位で褐色土ブロック土
 - 10YR3/3 暗褐色土 1層より南部浮石粒多量混入 柱痕跡?
 - 10YR4/3~4/2 灰黄褐色土 明黄褐色土粒含む黒褐色土との混合土
 - 10YR4/2 灰黄褐色土 明黄褐色土粒含む黒褐色土との混合土 本柱穴の再利用した柱根固め部分?
- ※本柱穴はF15土坑2号より新しい

L-294.000m



E16柱穴状土坑16号 F-F'

- 10YR2/3 黒褐色土 褐色土・南部浮石粒多量混入 上位にある遺構の埋土?
- 10YR3/3 黒褐色土 褐色土・南部浮石粒少量混入
- 10YR3/3 黒褐色土 褐色土多量・南部浮石粒微量混入
- 10YR4/6 褐色土 八戸火山灰層に黒褐色土微量・南部浮石粒少量混入
- 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土微量混入
- 10YR4/6 褐色土 黒褐色土微量混入
- 10YR4/6 褐色土 明黄褐色土(基本土層IX層)粒微量・南部浮石粒少量混入
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 褐色土との混合土 明黄褐色土ブロック混入

L-294.300m



E15柱穴状土坑19号 G-G'

- 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
- 10YR4/6 褐色土 南部浮石粒少量混入

L-294.400m

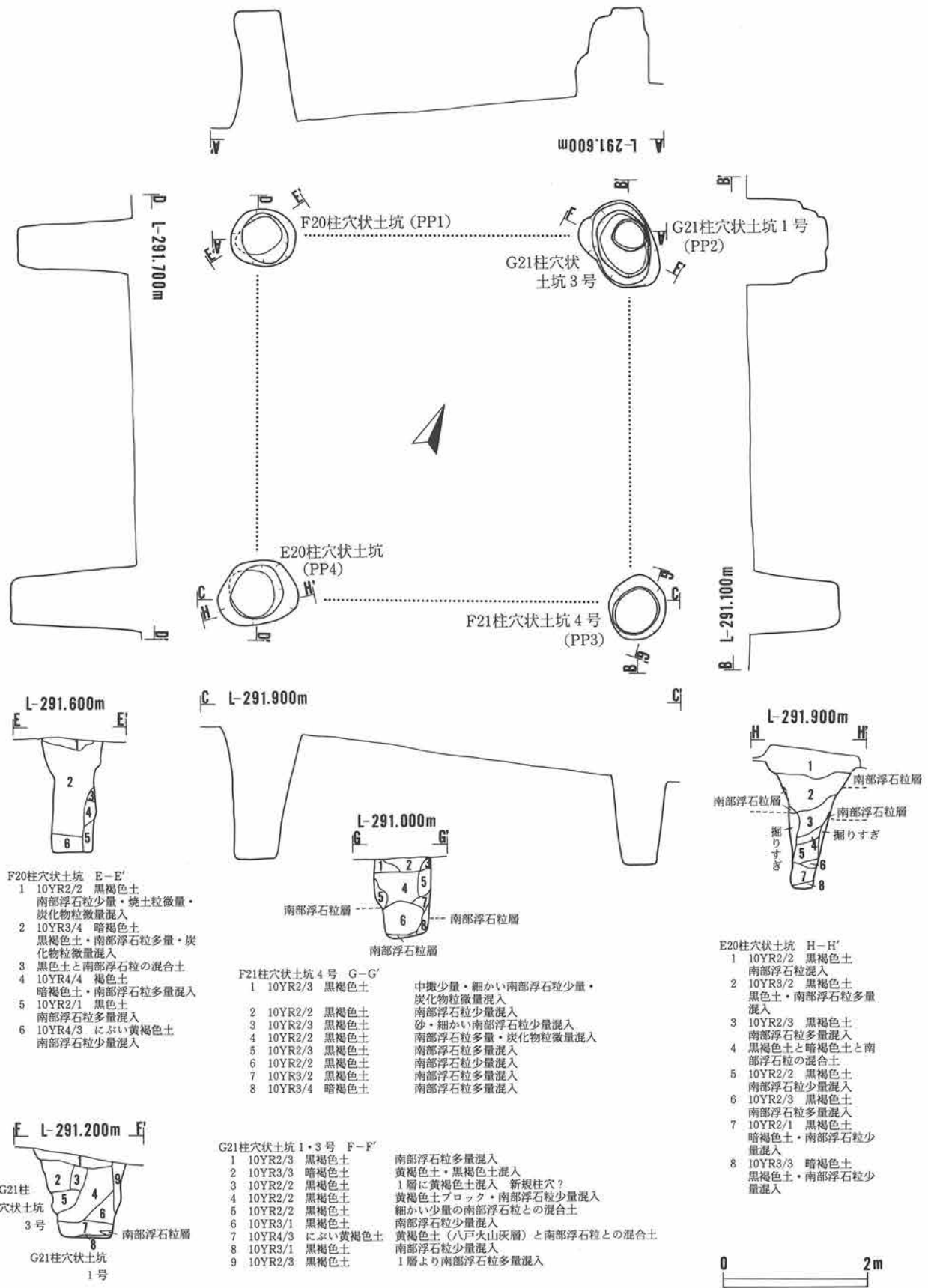


E15柱穴状土坑2号 H-H'

- 10YR2/3 黒褐色土 多量の南部浮石粒との混合土



第35図 E 15掘立柱建物跡



第36図 E20掘立柱建物跡

理作業において柱間隔から掘立柱建物跡に認定したものである。よってPP1・PP2は北側（削平を受けた地形と推定される地域）に対応する別グループの掘立柱建物跡であった可能性もある。

E 20掘立柱建物跡（第36図、写真図版39）

<位置・検出状況> 調査区南東のE20・E21・F20・F21・F22・G21グリッドに位置する。

<構成する遺構名> F20柱穴状土坑（PP1）、G21柱穴状土坑1号（PP2）、F21柱穴状土坑4号（PP3）、E20柱穴状土坑（PP4）

<主軸方向> N25° W

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> VI～VIII層中にかけて構築されている。

<埋土> 埋土は黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土で構成される。

PP1は2・6層があたりと思われる層で、柱の太さは45～50cmと推定される。

PP2は4層があたりと思われ、開口部付近の痕跡から考えて柱が抜き取られている可能性がある。

PP3は土層断面からは人為堆積か自然堆積か判断できなかった。

PP4は4・7層があたりの可能性があるが、明確ではない。

<柱穴の規模> PP1（88cm）・PP2（80～128cm）・PP3（82cm）・PP4（80～112cm）

<柱穴深度> PP1（164cm）・PP2（130cm）・PP3（116cm）・PP4（206cm）である。

<柱穴間隔> PP1-PP2（5.2m）・PP2-PP3（5.2m）・PP3-PP4（5.2m）・PP4-PP1（5.2m）

<出土遺物>（第164図、第165図、第172図、写真図版196・197・202）

土器（第164図706、第165図723・736、写真図版196・197）E20柱穴状土坑3号（PP4）より706、F20柱穴状土坑（PP1）より723、G21柱穴状土坑1号（PP2）より736の土器が出土している。

土製品（第172図899、写真図版202） G21柱穴状土坑1号（PP2）より899の円盤状土製品が出土している。

E 21掘立柱建物跡（第37図、写真図版40）

<位置・検出状況> 調査区南東のE21・E22・F21・F22グリッドに位置する。

<構成する遺構名> F21柱穴状土坑1号（PP1）、F22柱穴状土坑（PP2）、E22柱穴状土坑（PP3）、E21柱穴状土坑1号（PP4）

<主軸方向> N18° E

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 壁はⅢ（遺物包含層）～Ⅶ（南部浮石層）層で、底面はⅧ（八戸火山灰層）層に相当する。

<埋土> 柱穴の埋土は、南部浮石粒を含む黒褐色土シルトを主体とする。

PP1は土層断面を観察した結果、人為的に埋め戻された可能性がある。

PP2は堆積様相からは、人為堆積か自然堆積か判断をできかねる。

PP3は自然堆積の様相である。7層（南部浮石粒）は掘り過ぎの可能性もある。

PP4は自然堆積の様相である。

<柱穴の規模> PP1（80～90cm）・PP2（96～100cm）・PP3（76cm）・PP4（80～110cm）

<柱穴深度> PP1（114～120cm）・PP2（90cm）・PP3（128cm）・PP4（170cm）

<柱穴間隔> PP1-PP2（4.7m）・PP2-PP3（4.65m）・PP3-PP4（4.7m）・PP4-PP1（4.7m）

<出土遺物> (第165図、第172図、写真図版197・202)

土器 (第165図707・708・711～714・725、写真図版197) E21柱穴状土坑1号 (PP4) より707・708、E22柱穴状土坑 (PP3) より711～714、F22柱穴状土坑 (PP2) より725の土器が出土している。

土製品 (第172図897・898、写真図版202) F22柱穴状土坑 (PP2) より897のミニチュア土器と898の三角形土製品が出土している。

F14掘立柱建物跡 (第38図、写真図版40)

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部のF14・F15・G14グリッドに位置する。

<構成する遺構名> F14柱穴状土坑7号 (PP1)、G14柱穴状土坑8号 (PP2)、F15柱穴状土坑9号 (PP3)、F14柱穴状土坑1号 (PP4)

<主軸方向> N40° W

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 南部浮石層から八戸火山灰層にかけて構築されている。

<埋土> 埋土は南部浮石粒を少量含む黒褐色土シルトを主体とする。

PP1は自然堆積の様相で、8層に細分される。

PP2・PP3は黒褐色土による単層である。深さから推定して上部は削平を受けている可能性が高い。

PP4は自然堆積の様相で、4層に細分される。

<柱穴の規模> PP1 (60cm) ・PP2 (60cm) ・PP3 (60cm) ・PP4 (64cm)

<柱穴深度> PP1 (104cm) ・PP2 (20cm) ・PP3 (15cm) ・PP4 (114cm) である。

<柱穴間隔> PP1-PP2 (2.6m) ・PP2-PP3 (2.9m) ・PP3-PP4 (2.7m) ・PP4-PP1 (3.0m)

<出土遺物> (第165図、写真図版197)

土器 (第165図716・718・719、写真図版197) F14柱穴状土坑1号 (PP4) より716、F14柱穴状土坑7号 (PP1) より718・719の土器が出土している。

G16掘立柱建物跡 (第39図、写真図版41)

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部のG16・G17・H16・H17グリッドに位置する。

<構成する遺構名> H16柱穴状土坑1号 (PP1)、H17柱穴状土坑5号 (PP2)、G17柱穴状土坑1号 (PP3)、G16柱穴状土坑2号 (PP4)

<主軸方向> N15° W

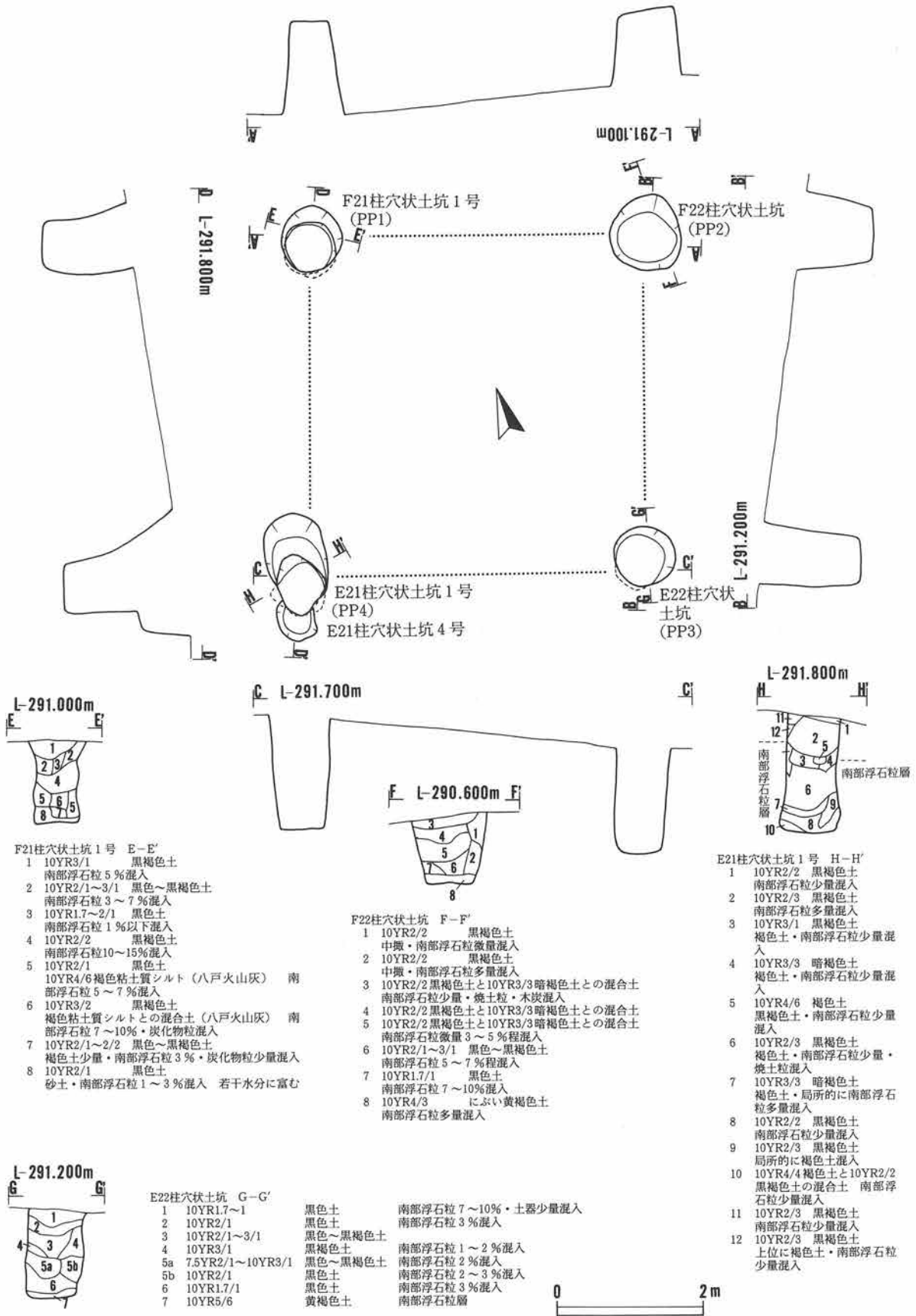
<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 八戸火山灰層、及び大不動浮石流凝灰岩層を壁とする。底面は大不動浮石流凝灰岩の下位に堆積する火山灰層 (高館火山灰相当?) である。PP1・PP2・PP3の底面には土が酸化により、変色した部分がみられる。ほぼアタリの大きさと同様の範囲に広がることから、柱の重量により土が酸化したものと思われる。

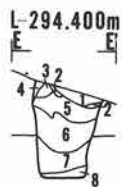
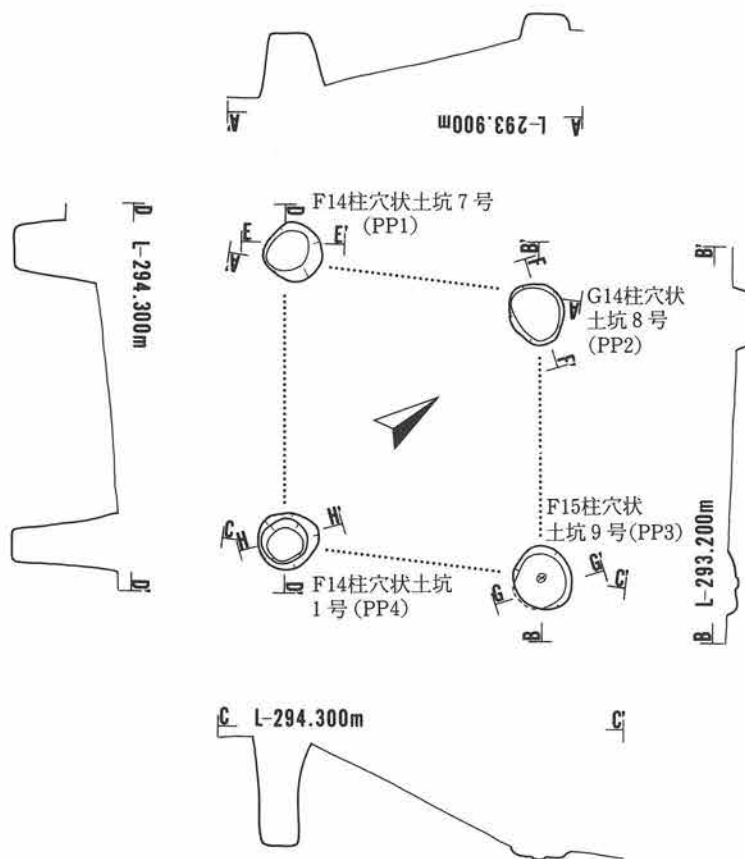
<埋土> 埋土は黒褐色土、にぶい黄褐色土、暗褐色土を主体とする。

PP1は、1・2・3層がアタリで柱の太さは約60cmと推定される。4・5・6層が据え方の土層と推定される。

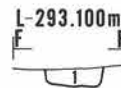
PP2は、2・3層がアタリで柱の太さは約60cmと推定される。4・5・6・7・8層が据え方の土層と推



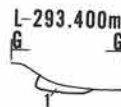
第37図 E21掘立柱建物跡



- F14柱穴状土坑7号 E-E'
- | | | |
|---|--------------|--------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 多量の南部浮石粒との混合土 |
| 2 | 10YR3/1 黒褐色土 | |
| 3 | 10YR3/1 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 4 | 10YR2/2 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 5 | 10YR2/3 黒褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物微量混入 |
| 6 | 10YR2/3 黒褐色土 | 5層より南部浮石粒少量混入 |
| 7 | 10YR2/3 黒褐色土 | 6層より細かくて少量の南部浮石粒混入 |
| 8 | 10YR2/3 黒褐色土 | 7層相当 |



- G14柱穴状土坑8号 F-F'
- | | | |
|---|--------------|------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
|---|--------------|------------------|



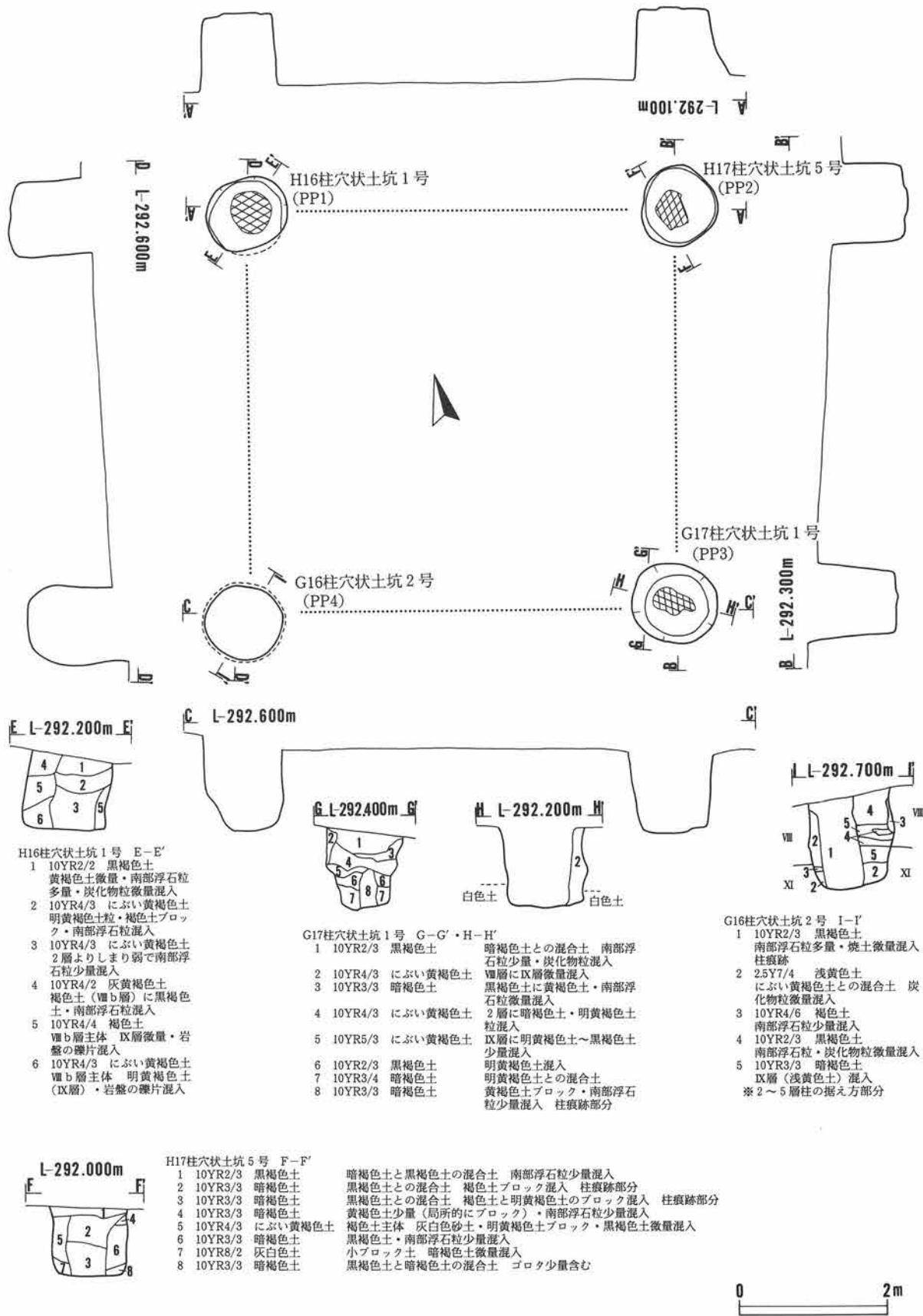
- F15柱穴状土坑9号 G-G'
- | | | |
|---|--------------|---------------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 白色砂土ブロック・南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
|---|--------------|---------------------------|



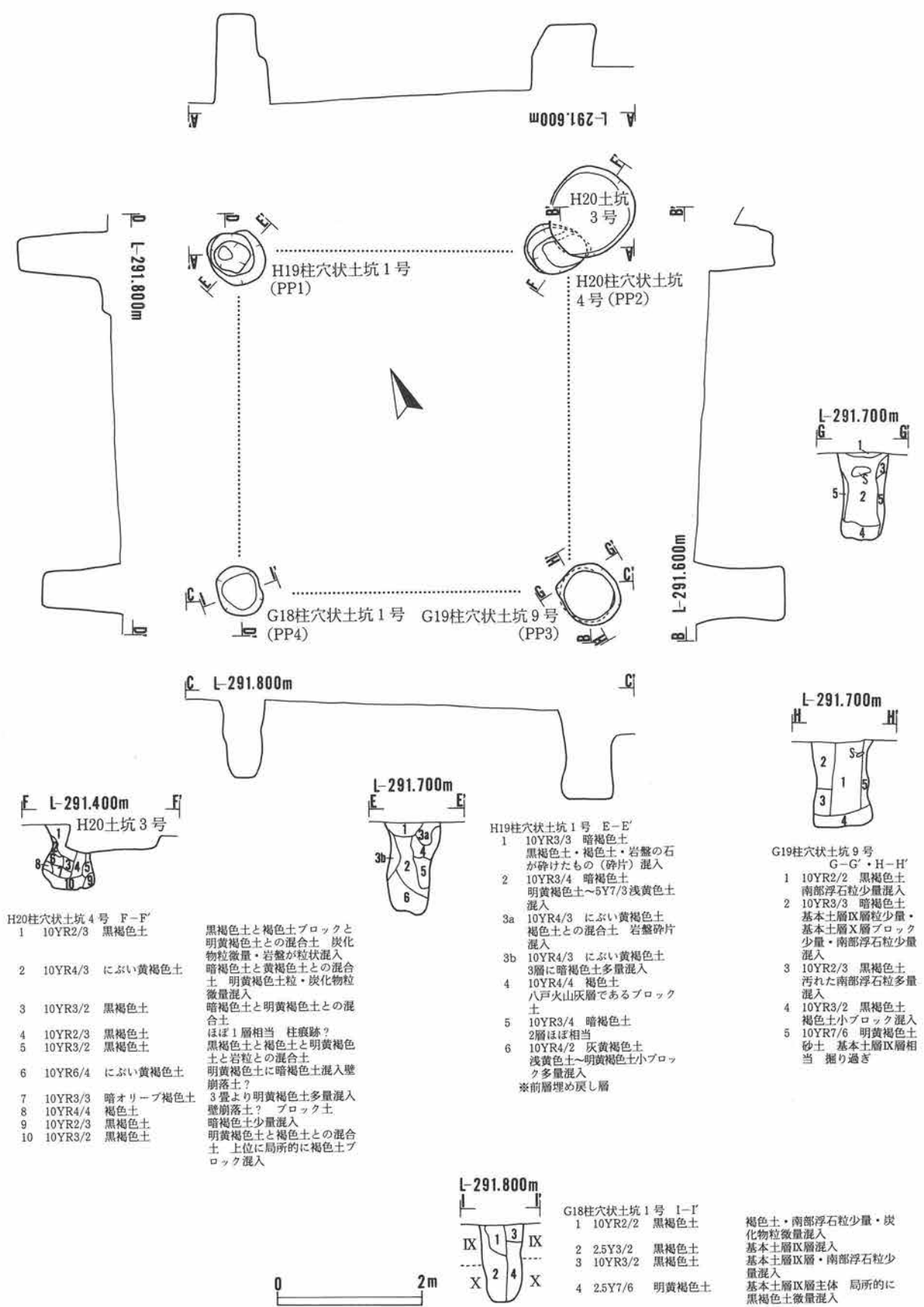
- F14柱穴状土坑1号 H-H'
- | | | |
|---|-----------------|------------------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒少量混入 |
| 2 | 10YR2/3 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒との混合土 |
| 3 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 明黄褐色土との混合土 |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色土 | 3層に暗褐色土多量・明黄褐色土小ブロック混入 |



第38図 F14掘立柱建物跡



第39図 G16掘立柱建物跡



- H20柱穴状土坑 4号 F-F'**
- 1 10YR2/3 黒褐色土
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土
 - 3 10YR3/2 黒褐色土
 - 4 10YR2/3 黒褐色土
 - 5 10YR3/2 黒褐色土
 - 6 10YR6/4 にぶい黄褐色土
 - 7 10YR3/3 暗オリーブ褐色土
 - 8 10YR4/4 褐色土
 - 9 10YR2/3 黒褐色土
 - 10 10YR3/2 黒褐色土

黒褐色土と褐色土ブロックと明黄褐色土との混合土 炭化物粒微量・岩盤が粒状混入
 暗褐色土と黄褐色土との混合土 明黄褐色土粒・炭化物粒微量混入
 暗褐色土と明黄褐色土との混合土
 ほぼ1層相当 柱痕跡?
 黒褐色土と褐色土と明黄褐色土と岩粒との混合土
 明黄褐色土に暗褐色土混入壁崩落土?
 3層より明黄褐色土多量混入 壁崩落土? ブロック土
 暗褐色土少量混入
 明黄褐色土と褐色土との混合土 上位に局部的に褐色土ブロック混入

- 1 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土・褐色土・岩盤の石が砕けたもの(碎片)混入
 - 2 10YR3/4 暗褐色土 明黄褐色土~5Y7/3浅黄色土混入
 - 3a 10YR4/3 にぶい黄褐色土褐色土との混合土 岩盤碎片混入
 - 3b 10YR4/3 にぶい黄褐色土 3層に暗褐色土多量混入
 - 4 10YR4/4 褐色土 八戸火山灰層であるブロック土
 - 5 10YR3/4 暗褐色土 2層ほぼ相当
 - 6 10YR4/2 灰黄褐色土 浅黄色土~明黄褐色土小ブロック多量混入
- ※前層埋め戻し層

- G19柱穴状土坑 9号 G-G'・H-H'**
- 1 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 基本土層IX層粒少量・基本土層X層ブロック少量・南部浮石粒少量混入
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 汚れた南部浮石粒多量混入
 - 4 10YR3/2 黒褐色土 褐色土小ブロック混入
 - 5 10YR7/6 明黄褐色土 砂土 基本土層IX層相当 掘り過ぎ

- G18柱穴状土坑 1号 I-I'**
- 1 10YR2/2 黒褐色土
 - 2 2.5Y3/2 黒褐色土
 - 3 10YR3/2 黒褐色土
 - 4 2.5Y7/6 明黄褐色土

褐色土・南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 基本土層IX層混入
 基本土層IX層・南部浮石粒少量混入
 基本土層IX層主体 局部的に黒褐色土微量混入

第40図 G18掘立柱建物跡

定される。

PP3は、8層がアタリと思われ、柱の太さは50cmと推定される。

PP4は、1層がアタリと思われる層で、柱の太さは約50cmと推定される。

<柱穴の規模> PP1 (98~108cm) ・PP2 (96~106cm) ・PP3 (100~108cm) ・PP4 (100cm)

<柱穴深度> PP1 (112cm) ・PP2 (100cm) ・PP3 (120cm) ・PP4 (140cm) である。

<柱穴間隔> PP1-PP2 (5.9m) ・PP2-PP3 (5.5m) ・PP3-PP4 (5.9m) ・PP4-PP1 (5.6m)

<出土遺物> (第165図、第192図、写真図版197・213)

土器 (第165図728~731・748、写真図版197) G16柱穴状土坑2号 (PP4) より728・729、G17柱穴状土坑1号 (PP3) より730・731、H16柱穴状土坑1号 (PP1) より748の土器が出土している。

石器 (第192図1135、写真図版213) G17柱穴状土坑1号 (PP3) より1135が出土している。

G18掘立柱建物跡 (第40図、写真図版43)

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部のG18・G19・H19・H20グリッドに位置する。

<構成する遺構名> H19柱穴状土坑1号 (PP1)、H20柱穴状土坑4号 (PP2)、G19柱穴状土坑9号 (PP3)、G18柱穴状土坑1号 (PP4)

<主軸方向> N24° W

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 八戸火山灰層、大不動浮石流凝灰岩層を壁とし、底面は大不動浮石流凝灰岩層及び下位の火山灰層 (高館火山灰?) である。

<埋土> 埋土は黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土を主体とする。

PP1は、人為堆積の様相である。

PP2は、自然堆積の様相である。H20土坑3号と重複し、本柱穴が古い。本柱穴に対してスロープ状に切り合うわけではないが、本柱穴の1層とH20土坑3号の埋土が酷似することから柱の抜き取り跡の可能性も考えられる。

PP3は、1層がアタリで、2・3・5層が据え方時に埋めた土層と思われる。4層はIX層 (大不動浮石流凝灰岩) 相当で掘り過ぎであろう。

PP4は、八戸火山灰土を使用して埋め戻されている。

<柱穴の規模> PP1 (78~82cm) ・PP2 (71~80cm) ・PP3 (78~82cm) ・PP4 (69cm)

<柱穴深度> PP1 (130cm) ・PP2 (92cm) ・PP3 (124cm) ・PP4 (108cm) である。

<柱穴間隔> PP1-PP2 (4.6m) ・PP2-PP3 (4.8m) ・PP3-PP4 (4.8m) ・PP4-PP1 (4.7m)

<出土遺物> (第165図、第166図、写真図版197)

土器 (第165図732、第166図753・755、写真図版197) G18柱穴状土坑1号 (PP4) より732、H19柱穴状土坑1号 (PP1) より753、H20柱穴状土坑4号 (PP2) より755の土器が出土している。

G19掘立柱建物跡 (第41図、写真図版43)

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部のG19・G20・H18・H19グリッドに位置する。

<構成する遺構名> H18柱穴状土坑1号 (PP1)、H19柱穴状土坑2号 (PP2)、G20柱穴状土坑2号 (PP3)、G19柱穴状土坑2号 (PP4)

<主軸方向> N17° W

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 八戸火山灰下位のⅨ層（大不動浮石流凝灰岩？）・Ⅹ層（高館火山灰？）中まで掘り込まれている。

<埋土> 埋土は黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土で構成される。4基とも人為により埋め戻されたと思われる堆積様相である。

PP1は南部浮石層と八戸火山灰層の混土で構成され、人為堆積の様相である。

PP2・PP3は埋土の様相からは自然・人為の明確な判別ができなかった。全体に黒褐色土、黄褐色土、褐色土が混在して見られることから人為により埋め戻された可能性が高い。

PP4は人為堆積である。

<柱穴の規模> PP1（56～64cm）・PP2（58～80cm）・PP3（52～60cm）・PP4（64～70cm）

<柱穴深度> PP1（120cm）・PP2（140cm）・PP3（142cm）・PP4（148cm）である。

<柱穴間隔> PP1-PP2（5.2m）・PP2-PP3（5.4m）・PP3-PP4（5.3m）・PP4-PP1（5.4m）

<出土遺物>（第166図、第192図、写真図版197・213）

土器（第166図754、写真図版197） H19柱穴状土坑2号（PP2）より754の土器が出土している。

石器（第192図1136、写真図版213） G20柱穴状土坑2号（PP3）より1136が出土している。

H13掘立柱建物跡（第42図、写真図版42）

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部のH13・H14・I12・I13グリッドに位置する。

<構成する遺構名> I12柱穴状土坑2号（PP1）、I13柱穴状土坑2号（PP2）、H14柱穴状土坑10号（PP3）、H13柱穴状土坑5号（PP4）

<主軸方向> N15° W

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 八戸火山灰層中に掘り込まれている。

<埋土> 埋土は黒褐～暗褐色土を主体とし、南部浮石粒や八戸火山灰を混入する。

PP1は土質の調査記録（注記）からは人為堆積と判断されるが、底面に残る変色した部分の範囲と7層が対応するため、7層がアタリで、6層が据え方の埋土と推定される。柱材の上方を切断したものか？。

PP2は5層がアタリ、1層が埋め戻された土（貼床？）と判断される。

PP3は6層がアタリと推定される（調査記録から）が、2・3層の様相（自然・人為堆積の有無）は解釈しかねる。

PP4は2層がアタリ、7層が据え方の埋土と推定される。

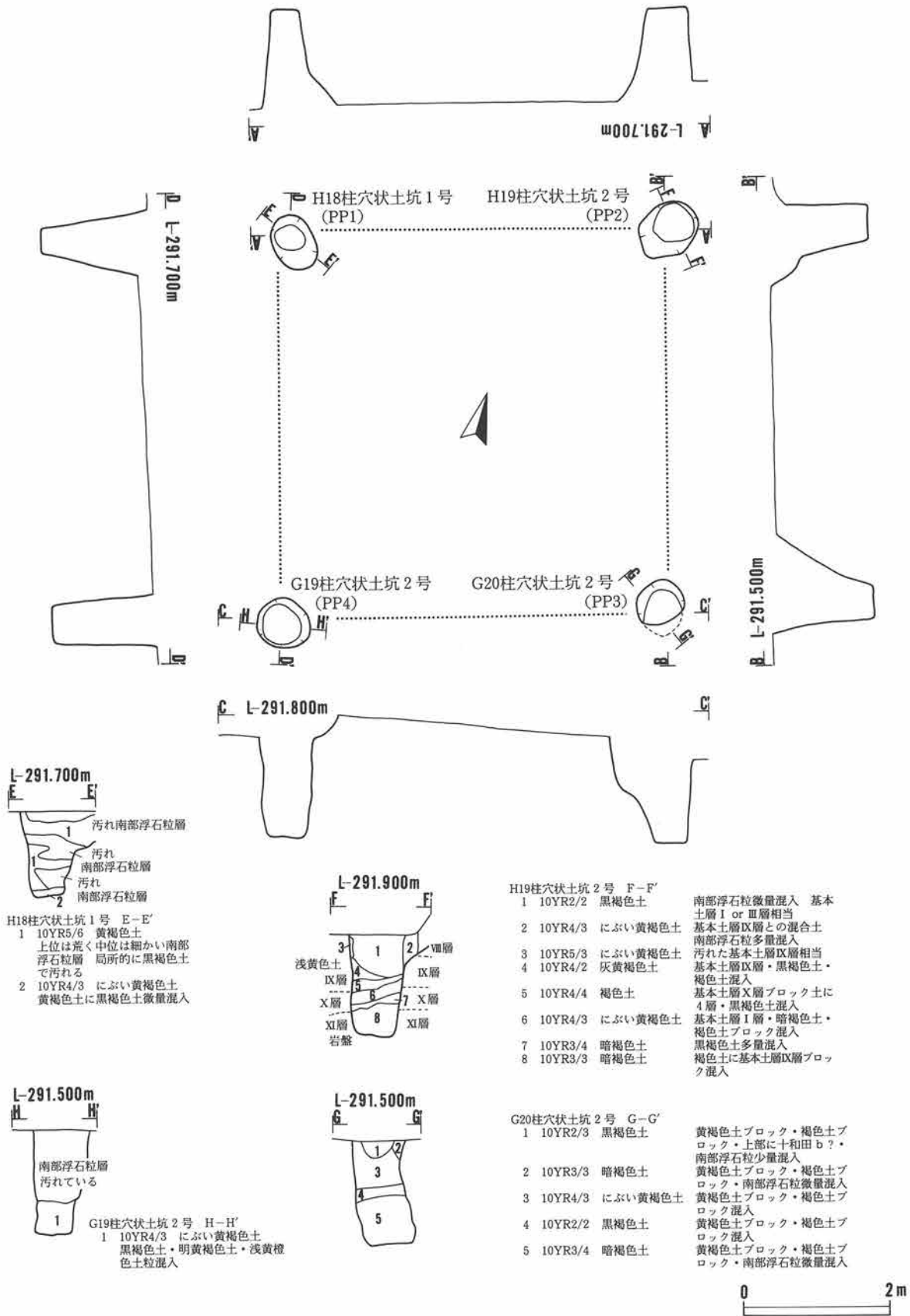
<柱穴の規模> PP1（98～120cm）・PP2（88～120cm）・PP3（110～121cm）・PP4（65～80cm）

<柱穴深度> PP1（178cm）・PP2（140cm）・PP3（144cm）・PP4（172cm）である。

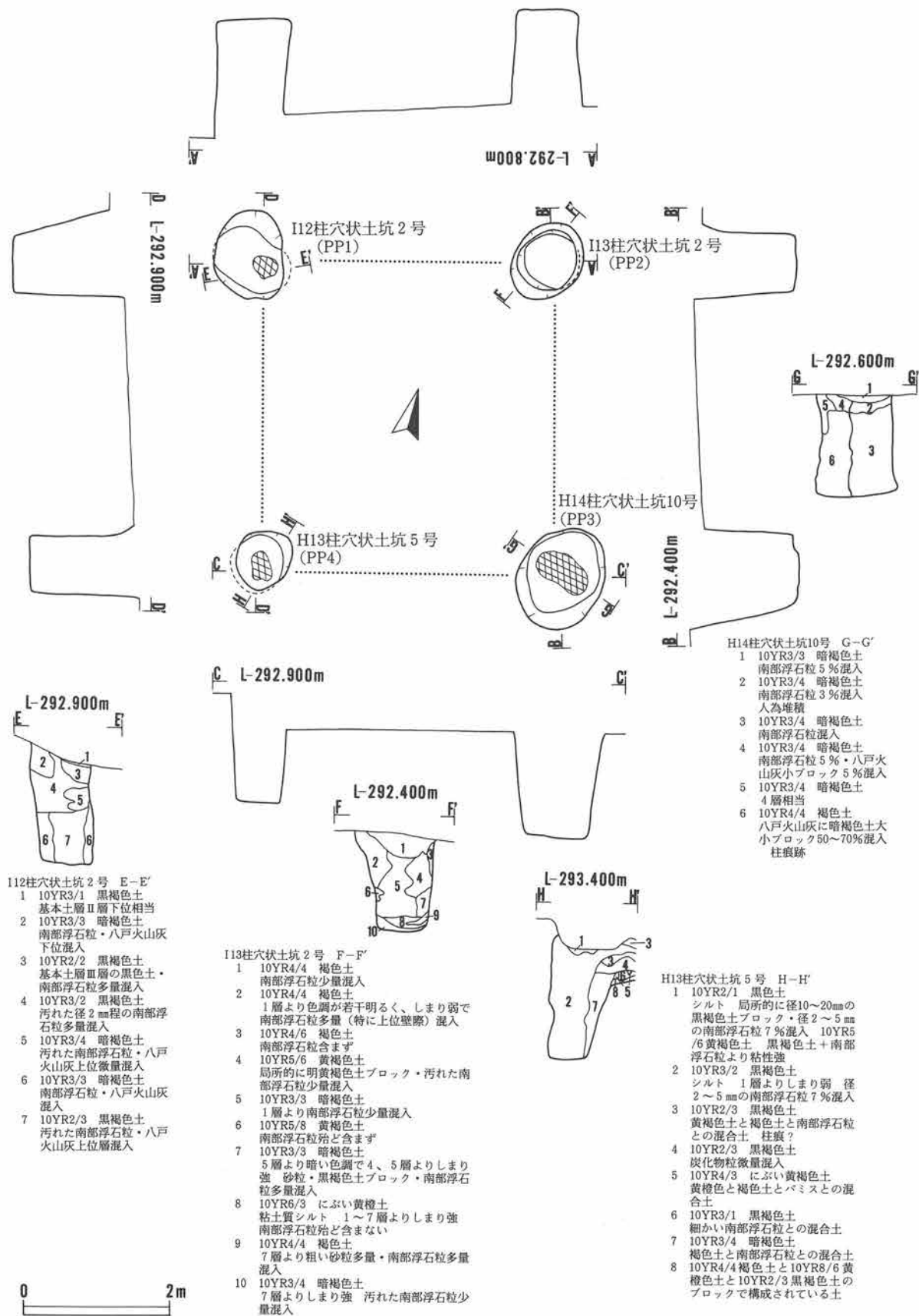
<柱穴間隔> PP1-PP2（4.1m）・PP2-PP3（4.3m）・PP3-PP4（4.2m）・PP4-PP1（4.3m）

<出土遺物>（第165図、第166図、写真図版197・198）

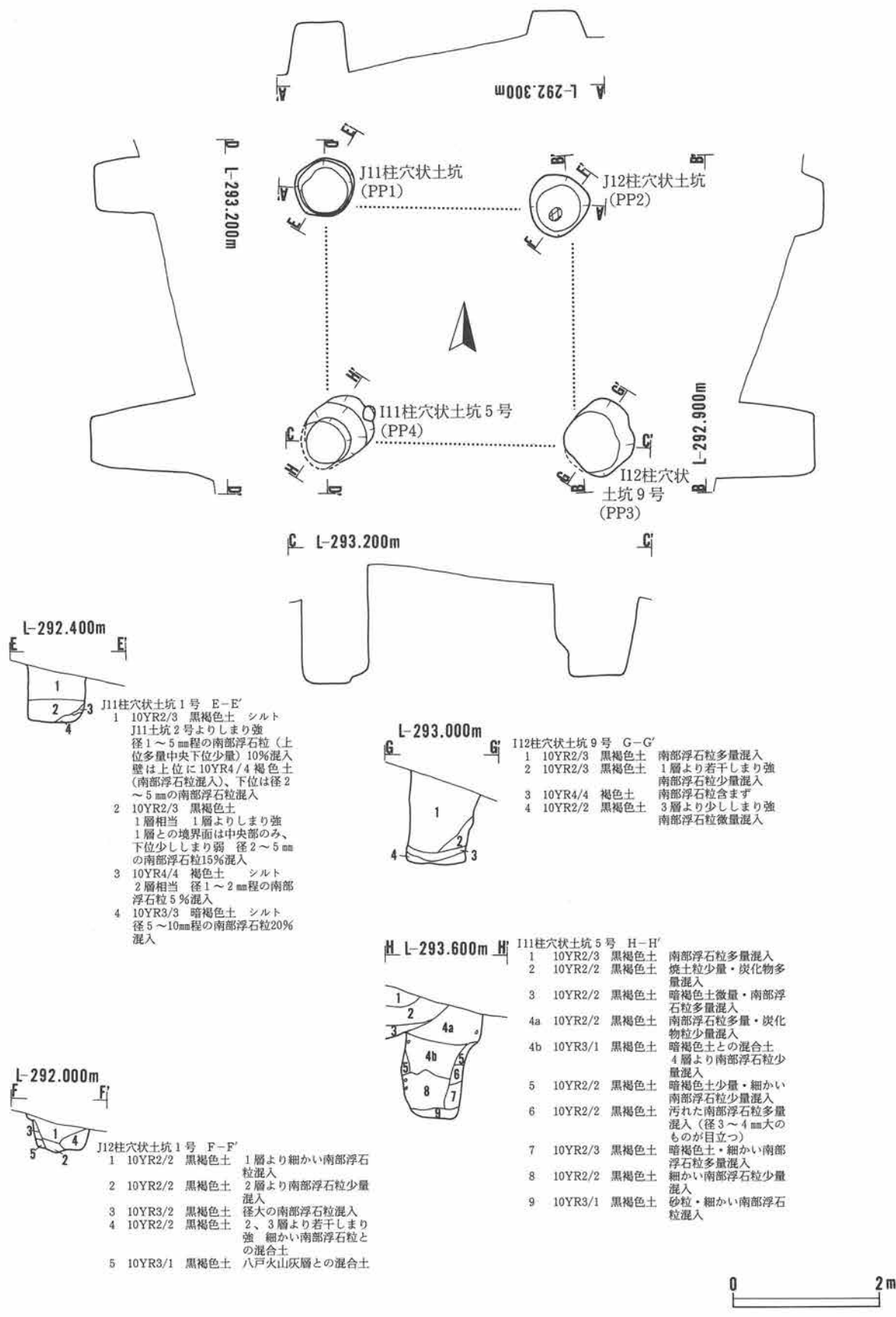
土器（第165図743・744、第166図764、写真図版197・198） H14柱穴状土坑10号（PP3）より743・744、I13柱穴状土坑2号（PP2）より764の土器が出土している。



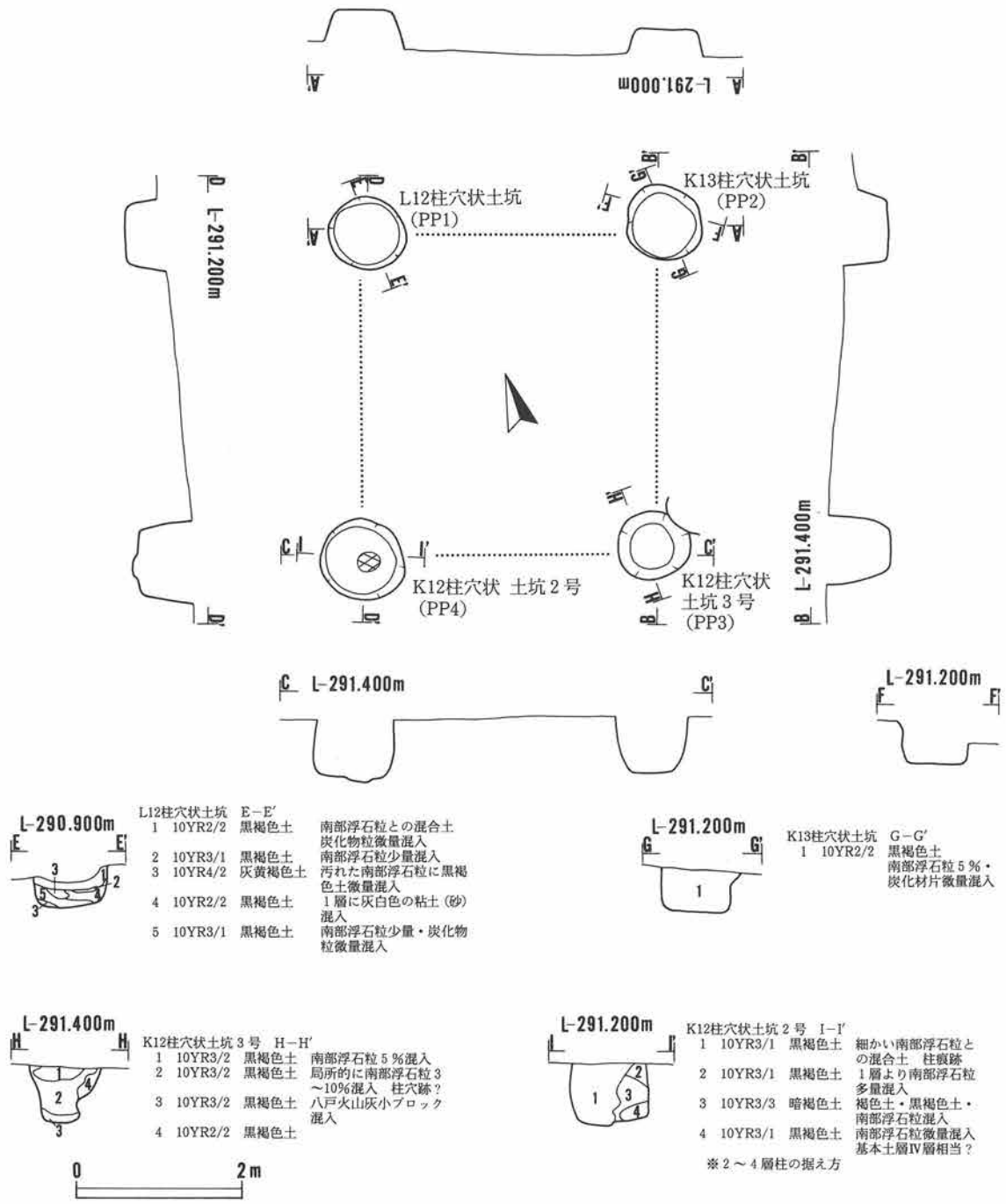
第41図 G19掘立柱建物跡



第42図 H13掘立柱建物跡



第43図 I11掘立柱建物跡



第44図 K12掘立柱建物跡1号

I 11掘立柱建物跡（第43図、写真図版42）

<位置・検出状況> 調査区中央平坦部の I 11・I 12・J 11・J 12グリッドに位置する。

<構成する遺構名> J 11柱穴状土坑（PP1）、J 12柱穴状土坑（PP2）、I 12柱穴状土坑 9号（PP3）、I 11柱穴状土坑 5号（PP4）

<主軸方向> N 3° W

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 八戸火山灰層中に掘り込まれている。

<埋土> 埋土は黒褐色土を主体に、暗褐色土、褐色土、南部浮石粒が混入する。

PP1・PP3は自然堆積の様相である。

PP2・PP4は土層注記からは人為堆積の様相である。人為堆積とする根拠資料として、含有する南部浮石粒の粒径が他に比べて細く、埋め戻す際に潰れた状態になったことを示すからである。

<柱穴の規模> PP1（80cm）・PP2（80cm）・PP3（92～100cm）・PP4（82～112cm）

<柱穴深度> PP1（80cm）・PP2（54cm）・PP3（130cm）・PP4（192cm）である。

<柱穴間隔> PP1-PP2（3.4m）・PP2-PP3（3.3m）・PP3-PP4（3.6m）・PP4-PP1（3.6m）

<出土遺物>（第166図、第192図、写真図版197・198・213）

土器（第166図757～759・774・775、写真図版197・198） I 11柱穴状土坑 5号（PP4）より757～759、J 11柱穴状土坑（PP1）より774・775の土器が出土している。

石器（第192図1140、写真図版213） J 11柱穴状土坑（PP1）より1140が出土している。

K 12掘立柱建物跡 1号（第44図、写真図版43）

<位置・検出状況> 調査区中央やや西寄りのK 12・K 13・L 12グリッドに位置する。配置関係から考えてK 11住居跡の主柱の可能性が高い。

<構成する遺構名> L 12柱穴状土坑（PP1）、K 13柱穴状土坑（PP2）、K 12柱穴状土坑 3号（PP3）、K 12柱穴状土坑 2号（PP4）

<主軸方向> N 20° E

<柱穴配置> 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

<壁・底面> 遺物包含層（Ⅲ層）中に構築されている。

<埋土> 埋土は黒褐色土を主体とする。

PP1は南部浮石粒を微量含む（3%前後）黒褐色土で構成される。調査記録から人為堆積と推定される。

PP2は黒褐色土による単層である。

PP3は2層があたりと思われる。

PP4は1層があたりで、2～4層が据え方と思われる。

<柱穴の規模> PP1（84cm）・PP2（84～98cm）・PP3（78cm）・PP4（100cm）

<柱穴深度> PP1（52cm）・PP2（58cm）・PP3（74cm）・PP4（78cm）である。

<柱穴間隔> PP1-PP2（3.5m）・PP2-PP3（3.9m）・PP3-PP4（3.5m）・PP4-PP1（4m）

<出土遺物>（第166図、第167図、第172図、写真図版198・202）

土器（第166図782、第167図786～788、写真図版198） K 12柱穴状土坑 3号（PP3）より782、L 12柱穴状土坑 1号（PP1）より786～788の土器が出土している。

土製品（第172図904・905、写真図版202） L12柱穴状土坑（PP1）より三角形状土製品が2点出土している。

K12掘立柱建物跡2号（第45図、写真図版43）

〈位置・検出状況〉 調査区中央やや西寄りのK12・K13・L12グリッドに位置する。

〈構成する遺構名〉 M12柱穴状土坑（PP1）、L14柱穴状土坑（PP2）、K14柱穴状土坑（PP3）、K12柱穴状土坑1号（PP4）

〈主軸方向〉 N88° W

〈柱穴配置〉 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

〈壁・底面〉 III層から掘り込まれ、IX層中を底面とする。

〈埋土〉 埋土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土、明黄褐色土、にぶい黄褐色土で構成される。

PP1は1層が人為堆積であることはわかる。

PP2は1～4層がアタリで、6～8層（人為堆積）が据え方と推定される。

PP3は9・12層がアタリと推定される。アタリが1～4層の人為堆積層で覆われていることから、柱の上部は切断されている可能性がある。

PP4は人為堆積か自然堆積か判断できなかった。

〈柱穴の規模〉 PP1（62～66cm）・PP2（62～78cm）・PP3（80～96cm）・PP4（74cm）

〈柱穴深度〉 PP1（56cm）・PP2（146cm）・PP3（60～84cm）・PP4（48～112cm）である。

〈柱穴間隔〉 PP1-PP2（6.38m）・PP2-PP3（6.4m）・PP3-PP4（6.32m）・PP4-PP1（6.53m）

〈出土遺物〉（第166図、第167図、第193図、写真図版198・214）

土器（第166図778～781・783、第167図789・790～793、写真図版198） K12柱穴状土坑1号（PP4）より778～781、K14柱穴状土坑（PP3）より783、L14柱穴状土坑（PP2）より789・790、M12柱穴状土坑（PP1）より791～793の土器が出土している。

石器（第193図1143・1145、写真図版214） K12柱穴状土坑1号（PP4）より1143、M12柱穴状土坑（PP1）より1145が出土している。

N15掘立柱建物跡（第46図、写真図版なし）

〈位置・検出状況〉 調査区中央やや西側のN15・O14・O15グリッドに位置する。ほぼ西部遺物包含（西部捨て場）中に構築している。

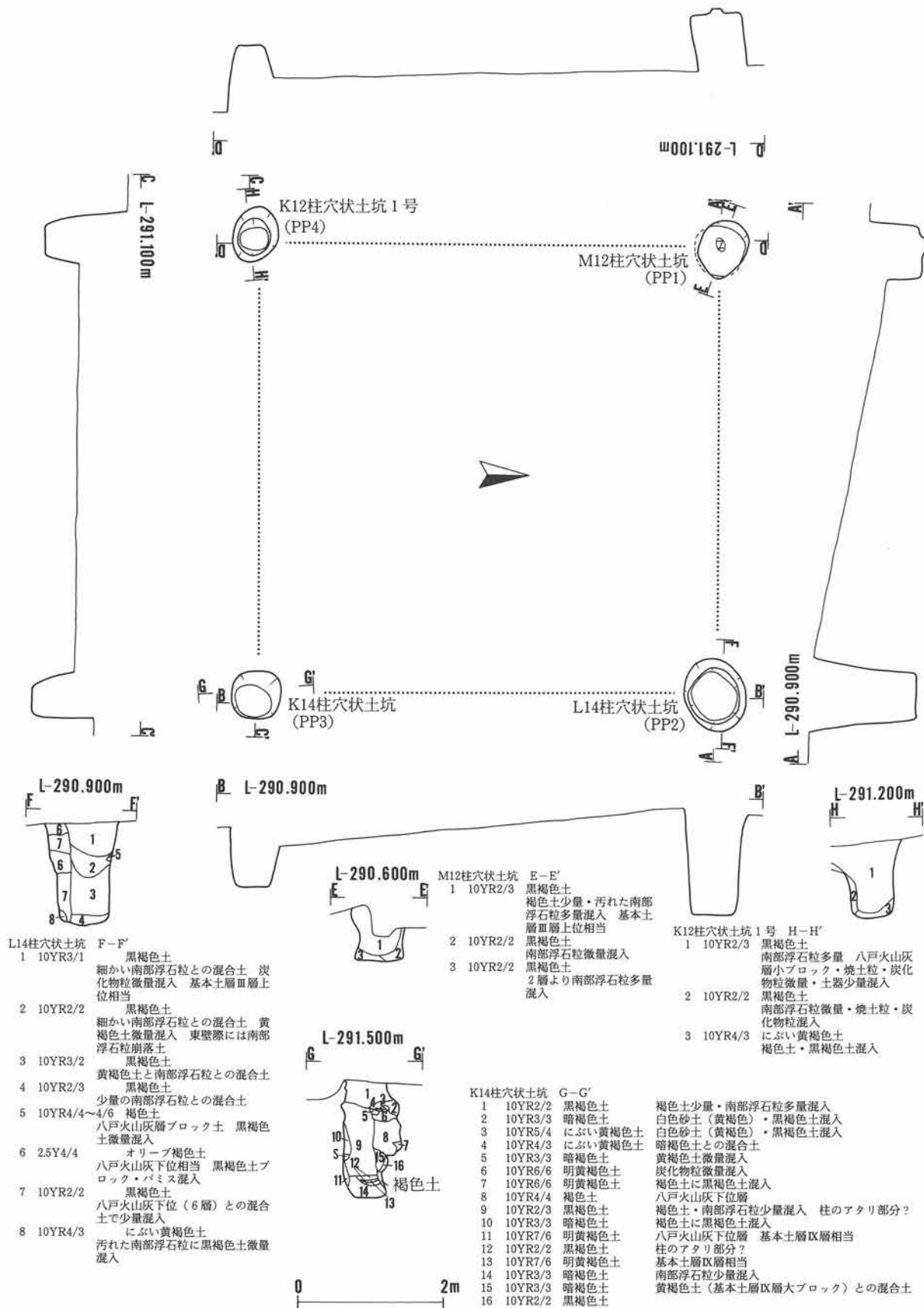
〈構成する遺構名〉 O15柱穴状土坑4号（PP1）、O15柱穴状土坑7号（PP2）、N15柱穴状土坑2号（PP3）、O14柱穴状土坑5号（PP4）

〈主軸方向〉 N22° E

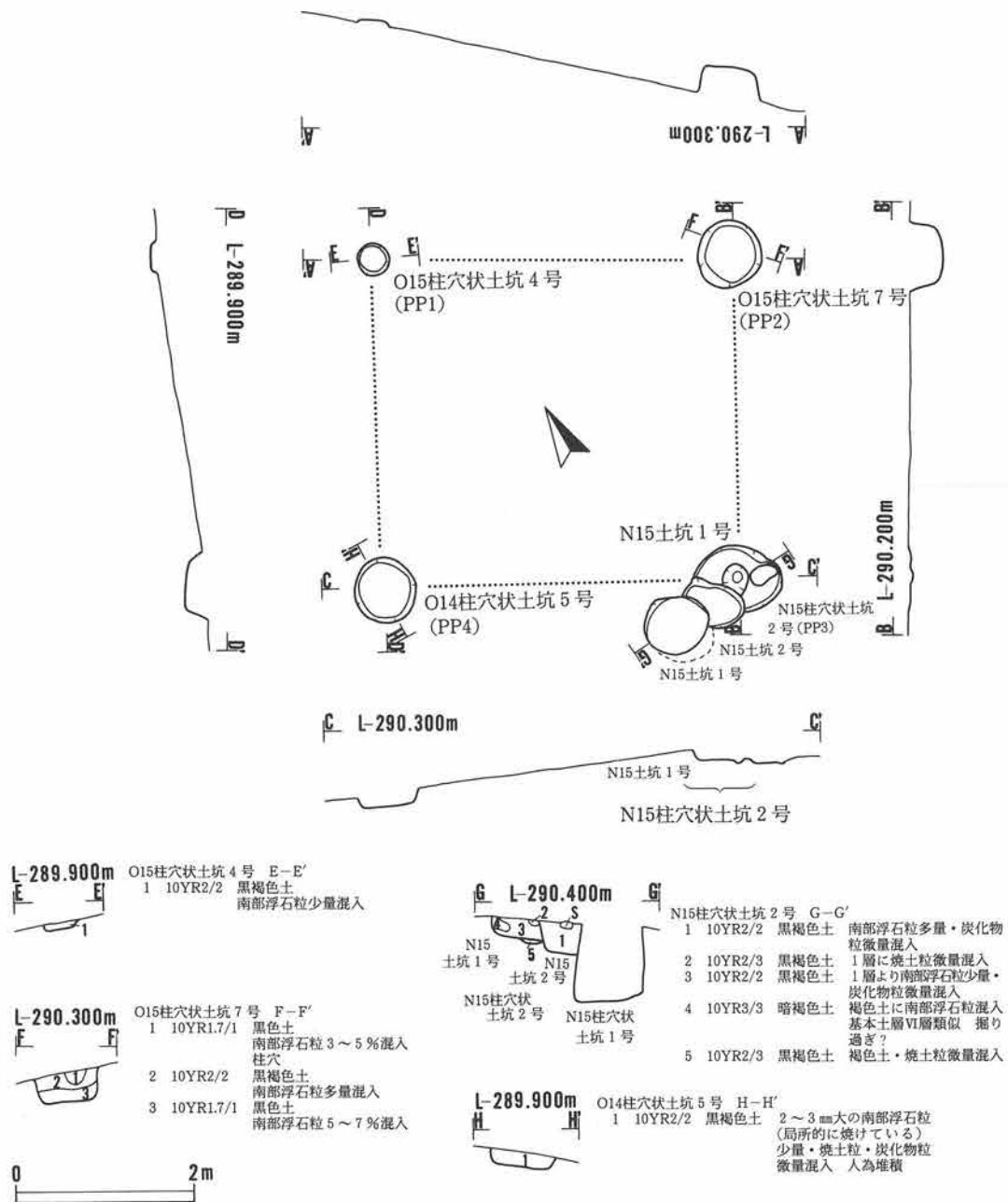
〈柱穴配置〉 4本柱で構成され、平面形は正方形である。

〈壁・底面〉 検出面の関係も考慮しなければならないが、4基全て浅い柱穴である。調査時は八戸火山灰層が検出面であるため、本来は黒色土中から構築されていたために浅い可能性もあろうが、削平（縄文時代の造成？）されていた可能性もあることを追記する。

〈埋土〉 埋土は黒褐色土を主体とし、黒色土、暗褐色土で構成される。堆積様相としては、4基とも自然堆積と思われる。



第45図 K12掘立柱建物跡2号



第46図 N15掘立柱建物跡

- <柱穴の規模> PP1 (38cm) ・PP2 (78cm) ・PP3 (80cm) ・PP4 (72cm)
- <柱穴深度> PP1 (4~8cm) ・PP2 (36cm) ・PP3 (12cm) ・PP4 (16~24cm) である。
- <柱穴間隔> PP1-PP2 (4.2m) ・PP2-PP3 (3.6m) ・PP3-PP4 (4.0m) ・PP4-PP1 (3.7m)
- <出土遺物> (第167図、写真図版198)
- 土器 (第167図808、写真図版198) O15柱穴状土坑 7号 (PP2) より808の土器が出土している。

3 炉跡（第47図、写真図版44）

合計で4基検出した。何れも東部捨て場（東側遺物包含層分布地）の上層付近で検出されている。単独の炉跡遺構（屋外炉）ではなく、本来は竪穴住居跡に伴う炉であったと思われるが、壁・床面とも黒色土中なため検出できなかったものと捉えられる。遺物包含層中においてかなり上位で検出されていることから、本遺跡の中では比較的新しい時期に構築されていると推定される。本遺跡は大洞C1式以降の土器が皆無に等しいことから、推測の域を越えないが積極的に言えば縄文時代晩期前葉の大洞B2～BC式期と思われる。

B23炉跡（第47図、写真図版44）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のB23グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で遺物包含層中に構築されている。

〈平面形・規模〉 炉石2個を検出したのみで、他の石は試掘トレンチ時に破壊してしまったと思われる。

〈埋土〉 炉石は角礫（不整形気味）で、炉の周辺には焼土の発達は見られない。また、掘り方も明瞭ではないが、周辺に比べて若干褐色の砂が混じり乾きが良いことから区分を試みた。本来は黒土中に炉石を突き刺して構築した可能性もある。

〈出土遺物〉 出土遺物はない。

〈時期〉 この周辺において、炉の下位層からは後期の土器が出土していることと、炉の形態から判断して晩期と推定される。

B24炉跡1号（第47図、写真図版44）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のB24グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、遺物包含層中に構築されている。検出状況から本来は住居内に構築されていた炉であろう。

〈平面形・規模〉 72×65cmの円形に礫が配置される。

〈埋土〉 焼土は石囲炉内に見られるが、発達は悪い。

〈出土遺物〉（第149図、第169図、写真図版185・200） 石囲炉内焼土層の下から晩期の土器が出土している。土器（第149図267、写真図版185） 粗製の壺形土器が出土している。

土製品（第169図833、写真図版200） 円盤状土製品1点が出土している。

〈時期〉 炉の形態からは晩期と推定される。また、この周辺において炉の下位層からは後期の土器が出土している。

B24炉跡2号（第47図、写真図版44）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のB24グリッドに位置する。南側調査区境の土層断面沿いで検出した。

〈平面形・規模〉 平面形、規模共に不明であるが、円形に礫が配置されると推定される。

〈埋土〉 1層が表土、2～4層が遺物包含層系であるが2層（別住居埋土？）・2a層が再堆積層、3層・3a層が竪穴内埋土、4層が地山である。焼土層である3b層は、炉石の検出面付近から炉石の下位に発達する。調査時は明確には把握できなかったが、炉は作り替えが行われていて古い段階の炉に伴った焼土が3b層でないかと捉えた。また、土質や土色には明瞭な違いは確認できないが、3層・3a層についても南部浮石粒の含有率と焼土粒・炭化物混入の有無で区別される。単純に堆積時間の差によるものか、あるいは把

握できなかった別遺構が存在したのか不明である。

<出土遺物> 石囲炉内焼土層の下から晩期の注口土器小片が出土している。

<時期> 炉の形態からは晩期と推定される。周辺において炉の下位層からは後期の土器が出土している。

D23炉跡 (第47図、写真図版44)

<位置・検出状況> 調査区東側のD23グリッドに位置する。検出面は、レベル的には他の3基より低位になるが、層序的には同じⅢ層上位に相当する。周辺に壁の立ち上がりが確認できなかったことと、柱穴の検出がなかったことから、屋外炉の可能性が考えられるが詳細は不明である。

<平面形・規模> 80×65cmの円形に礫が配置される。炉の真ん中付近に、炉を仕切っているかのような石が設置されている。

<埋土> 石囲炉内に焼土が発達する。炉石は明確な掘り方をもたないことから、床面に直接刺して構築したと思われる。

<出土遺物> (第149図、第169図、写真図版185・200) 炉石の検出面付近とその直下より後～晩期の遺物が出土した。

土器 (第149図268～271、写真図版185) 268は大洞BC式、271は十腰内V式?、その他は後～晩期の粗製土器である。

土製品 (第169図834・835、写真図版200) 三角形土製品2点が、本遺構の直下から出土した。

<時期> 炉の形態から晩期と推定される。

4 焼土遺構 (第48図、写真図版45)

6基何れも東部捨て場中から検出した。東西の遺物包含層中からは多数の焼土を検出しているが、現地性と判断されるもののみ焼土遺構とし、投げ込みによるものについては焼土遺構として登録していない。

B19焼土遺構 (第48図、写真図版45)

<位置・検出状況> 調査区南端部やや東側のB19グリッドに位置する。調査区境に入れた試掘トレンチの北側で検出した。現地性の焼土と判断される。

<平面形・規模> 明瞭部分は30×26cm程の円形に発達するが、周囲約55cmの範囲に焼土粒が分布する。

<埋土> 厚さは5cm程で、焼土の発達が悪く明瞭には判断できない。

<出土遺物> 出土遺物はない。

<時期> 後～晩期と思われるが、詳細な時期は不明である。

C19焼土遺構 (第48図、写真図版45)

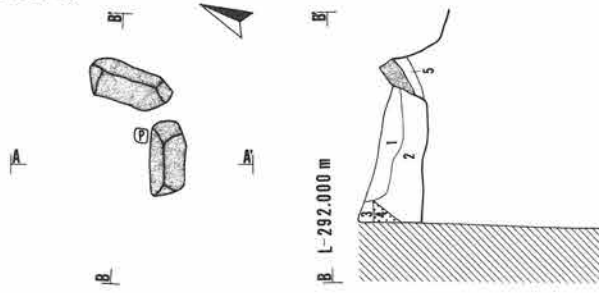
<位置・検出状況> 調査区南端部やや東側のC19グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位である。現地性の焼土と判断される。

<平面形・規模> 40×35cmの円形に発達する。

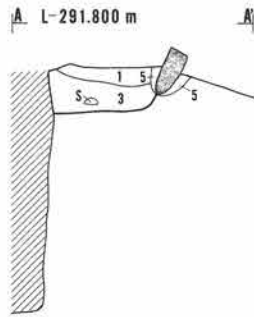
<埋土> 厚さは14cmで、焼土は粒状に見られる。焼土層内からは、土器片や礫が出土している。

<出土遺物> 地文のみの土器小片が数点出土した。

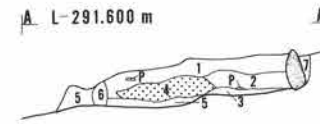
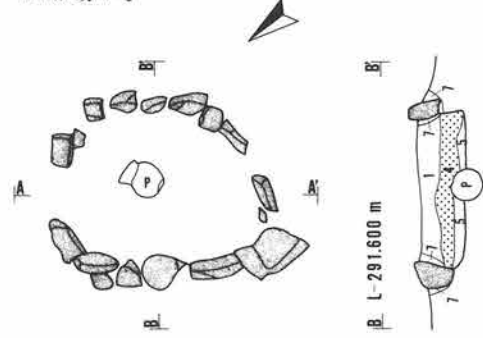
B23炉跡



- B23炉跡 A-A'・B-B'
- 1 10YR2/1 黒色土
5YR3/6 暗赤褐色の極小の粒微量混入
 - 2 10YR2/2 黒褐色土
7.5YR5/8 明褐色土の粗い砂状土(焼土)混入
 - 3 10YR2/2 黒褐色土
7.5YR5/8 明褐色土・粗い砂状土少量混入
 - 4 7.5YR5/8 明褐色土
粗い砂状土に黒褐色土微量混入
 - 5 10YR2/1 黒色土

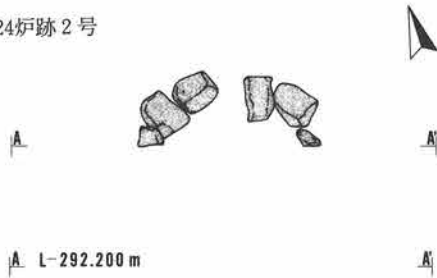


B24炉跡 1号



- B24炉跡 1号 A-A'・B-B'
- 1 10YR2/2 黒褐色土
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 ほぼ1層相当 南部浮石粒微量混入
 - 3 10YR2/2 黒褐色土 ほぼ1層相当
 - 4 10YR4/6 褐色土 焼土 砂状土に黒褐色土混入
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 ほぼ1層相当
 - 6 5YR2/4 極暗赤褐色土 砂状土
 - 7 10YR2/2 黒褐色土 褐色土混入

B24炉跡 2号



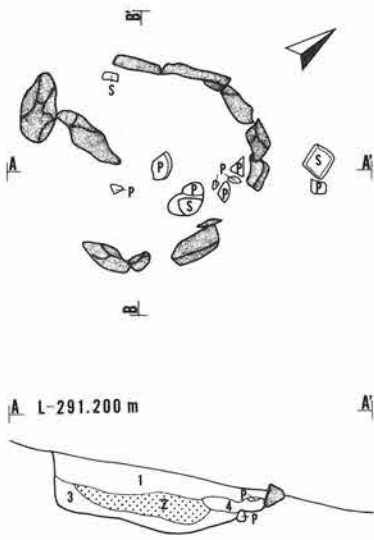
- B24炉跡 2号 A-A'
- 1 10YR2/1 黒色土 木根多量混入、基本土層I層相当
 - 2 10YR3/1~2/2 黒褐色土 南部浮石粒5%混入、基本土層III層再堆積
 - 2a 10YR3/1~3/3 黒褐色~暗褐色土 南部浮石粒5%混入、基本土層III層再堆積
 - 3 10YR2/1~3/1 黒色~黒褐色土 南部浮石粒5%・焼土粒微量混入
 - 3a 10YR2/2~3/1 黒褐色土 南部浮石粒7%~10%・炭化物粒混入
 - 3b 10YR2/1~3/1 黒色~黒褐色土 砂質 10YR5/6~7.5YR5/8 黄褐色~明褐色土ブロック・南部浮石粒5%・焼土30%混入
 - 4 10YR1.7/1 黒色土 南部浮石粒5~7%混入、基本土層III層相当



第47図 B23炉跡、B24炉跡 1号・2号

<時期> 検出面から後期後葉~晩期初頭と推定される。

D23炉跡

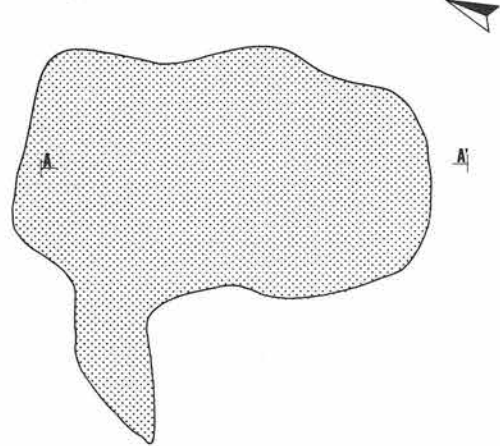


A L-291.200 m

D23炉跡 A-A'・B-B'

- | | | |
|---|----------------------------------|----------------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 黑色土 | 5YR4/8 赤褐色土(焼土)少量・5YR4/8 赤褐色の南部浮石粒微量混入 |
| 2 | 5YR4/8 赤褐色土 | 1層微量混入 |
| 3 | 10YR2/1 黑色土 | 1層相当 |
| 4 | 10YR2/1 黑色土 | 赤褐色土・南部浮石粒微量混入 |
| 5 | 10YR2/3 黒褐色土と5YR4/8 赤褐色土との混合土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 6 | 10YR2/3 黒褐色土と少量の5YR4/8 赤褐色土との混合土 | |
| 7 | 10YR2/1 黑色土 | 4層相当 |

C23焼土

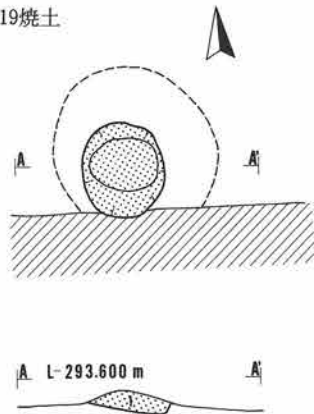


A L-290.000 m

C23焼土 A-A'

- | | | |
|---|------------------------|-----------|
| 1 | 10YR4/6~5/4 褐色~にぶい黄褐色土 | 粘土質土(焼土) |
| 2 | 10YR3/1 黒褐色土 | 炭化物粒・土器混入 |

B19焼土



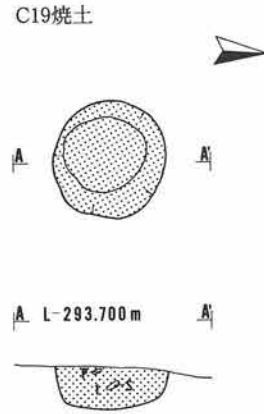
A L-293.600 m

B19焼土 A-A'

- | | | |
|---|--------------|-------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・焼土粒 |
|---|--------------|-------------|



C19焼土

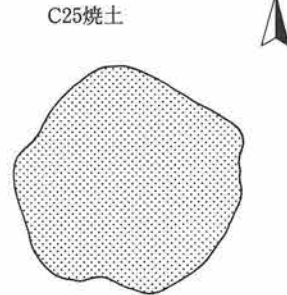


A L-293.700 m

C19焼土 A-A'

- | | | |
|---|--------------|-------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 南部浮石粒・焼土粒・炭化物少量混入 |
|---|--------------|-------------------|

C25焼土



C26焼土 1号



C26焼土 2号



第48図 D23炉跡、B19焼土、C19焼土、C23焼土、C25焼土、C26焼土1号・2号

C23焼土遺構（第48図、写真図版45）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のC23グリッドに位置する。検出面はⅢ層中～下位に相当する。現地性の焼土と判断される。

〈平面形・規模〉 第48図には、焼土の発達は悪いものの炭化物粒が多量に見られる範囲までをトーンで示した。290×160cmのほぼ楕円形に分布する。

〈埋土〉 第48図1層が発達の良好な焼土で、粘性が強く（焼けて粘土化？）局所的に見られる。2層は炭化物粒の混入は多いが、周辺の土との区分は不明確である。

〈出土遺物〉（第149図、写真図版185） 後期初頭～中葉の土器で、全て2層から出土している。

土器（第149図272～276、写真図版185） 十腰内Ⅰ～Ⅲ式までの土器片である。

〈時期〉 後期で間違いないと思われるが、詳細な時期判断はできない。

C25焼土遺構（第48図、写真図版45）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のC25グリッドに位置する。検出面はⅢ層中～下位に相当する。現地性の焼土と判断したが、明確ではない。

〈平面形・規模〉 150cm程の円形に広がる。

〈埋土〉 焼土の発達は悪い。断面の図化は行っていない。

〈出土遺物〉（第149図、写真図版185） 焼土内から土器片が1点出土した。

土器（第149図277、写真図版185） 十腰内V式と思われる土器片である。

〈時期〉 後期末葉と推定される。

C26焼土遺構1号（第48図、写真図版45）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のC26グリッドに位置する。検出面はⅢ層中～下位に相当する。現地性の焼土と判断される。C26焼土2号と隣接するが、本来同一の遺構であった可能性がある。

〈平面形・規模〉 80×75cm程の不整に広がる。断面の図化は行っていない。

〈埋土〉 焼土の発達は悪い。断面の図化は行っていない。

〈出土遺物〉 出土遺物はない。

〈時期〉 後期と思われる。

C26焼土遺構2号（第48図、写真図版45）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のC26グリッドに位置する。検出面はⅢ層中～下位に相当する。現地性の焼土と判断される。

〈平面形・規模〉 60×40cm程の台形状に広がる。断面の図化は行っていない。

〈埋土〉 焼土の発達は悪い。断面の図化は行っていない。

〈出土遺物〉 出土遺物はない。

〈時期〉 後期と思われる。

5 土坑（第49～109図、写真図版46～150、遺構番号1～888）

ほぼ調査区全域から大小合せて452基を検出した。個々の土坑の内容については、第5～19表に記載しているので参照載きたい。また、土坑及び柱穴状土坑には1～888番まで遺構番号を添付しており、第10～14図の遺構配置図とも対照する。本遺跡で検出された土坑の様相は、他の遺構や土坑同士の重複により削平を受けている場合が多い。必然的に平面形や規模が不明なものが大半であるが、平面形を把握できたかあるいは推定できるものには円形のものが多く、規模は大小様々であるが開口部径が1mを越えるものが目立つ。断面形の違いから大別するなら、フラスコ状、ピーカー状、鍋底状、浅皿状を呈するものに分かれる。

土坑の時期について、他の遺構との重複関係から時期の推定を試みると、最も密に検出されている調査区中央部の平坦地付近は、ほとんどの土坑が埋め戻されており（整地化）、土坑群を埋め戻し整地した後に、住居や掘立柱建物跡や柱穴状土坑が構築されている。住居跡や掘立柱建物跡や柱穴状土坑については、大半が晩期初頭～前葉に構築されたと推定されることから、土坑の大半（約400基）は後期に構築されたものと捉えられる。

晩期の可能性が高い土坑としては、C17土坑、D15土坑2号、E13土坑9号、E19土坑2号、E20土坑1号、E15土坑4号、F12土坑1号、F12土坑5号、F12土坑6号、F13土坑6号、F13土坑7号、F14土坑1号、F14土坑2号、F15土坑1号、F18土坑3号、G12土坑1号、G12土坑2号、G12土坑3号、G13土坑2号、G14土坑4号、H12土坑2号、H13土坑2号、H13土坑4号、H14土坑1号、H15土坑1号、H15土坑2号、H16土坑1号、H16土坑2号、H17土坑1号、H17土坑2号、H18土坑13号、H20土坑2号、H20土坑4号、I11土坑5号、I14土坑1号、J15土坑2号、M7土坑、L16土坑1号、M15土坑1号、M15土坑2号、N15土坑3号の41基である。上記した土坑は、出土遺物（主に土器片）や住居跡・柱穴状土坑などとの重複関係から推定されるものである。晩期の土器片を出土した土坑については、必ずしも晩期に構築したとは断言できないが、とりあえずの位置付けとして晩期とした。全般に時期の同定が困難な土坑が多く、上記した以外にも存在する可能性を否定はできないが、晩期の土坑が非常に希少であることは確かである。なお、土坑の構築時期に関わる掘立柱建物跡や柱穴状土坑の時期については、後期初頭～晩期前葉に形成された遺物包含層内に構築されているものもあるため、時期の下限は晩期初頭より新しいことは言えるが、上限については晩期前葉ととりあえず位置付けて置くが明確ではない。詳細は第Ⅷ章のまとめで述べることにするが、参考までに記述すると、本遺跡からは弥生時代の遺物は極微量である。

次に、土坑から出土している遺物について、上記のとおり整地する際に使用した土中に含まれていたと判断される遺物が多いことから、出土遺物の時期が本来の構築や廃棄の時期と推定するのは危険であろう。

＜出土遺物＞（第150～164図、第169～172図、第179～190図、写真図版185～196、200～202、207～212）

土器（第150～164図278～673、写真図版185～196） 遺物の出土状況から、一括廃棄された可能性がある土坑を列記すると、C17土坑（晩期初頭）、E26土坑（後期末葉）、F12土坑1号（晩期初頭～前葉）、I14土坑1号（晩期前葉）、I17土坑8号（後期後葉）、I18土坑4号（後期末葉）、L16土坑1号（晩期前葉）、H12土坑1号（晩期）などが挙げられる。中でもI18土坑4号については、完形の壺が3個体出土するなど特殊性が窺える。

土製品（第169～172図836～891、写真図版200～202） 埋土から土偶などの土製品が出土している土坑は約50基あるが、野外時に出土状態の詳細な記録を残さず取り上げを行った。特殊性の有無などは不明である。

石器類（第179～190図991～1119、写真図版207～212） 石器類についても土製品同様で、詳細な記録を残

さず取り上げを行った。

6 柱穴状土坑（第49～109図、写真図版46～150、遺構番号1～888）

大小合わせて436基を検出した。個々の柱穴状土坑の内容については、個々の柱穴状土坑に土坑と通しとなる遺構番号を添付して第5～19表に記載しているので参照戴きたい。併せて添付した遺構番号は、第10～14図の遺構配置図とも対照する。

柱穴状土坑は、重複が激しく、平面形の定かでないものが多いが、円形を基調とする。若干数不整形を呈するものも見られるが、おそらく柱の設置時かあるいは柱を抜き取った時分の土坑状の痕跡が付随するものと判断される。規模は重複が激しく明確ではないものも多いが、傾向としては開口部径が100cm以上のものが多い。深さについては、検出面から50～150cmのものも多く、全般に土坑としたものよりも深い。

分布から見た占地としては、調査区中央部の平坦地に密集し、重複する柱穴同士も多く、また晩期の住居跡とも占地を共有する傾向が窺える。柱穴配列を検討した結果、平面形的に見て配列が正方形か長方形に並ぶ群は、掘立柱建物跡と認定し、柱穴配列を想定できない単独のものを柱穴状土坑として登録した。

柱穴状土坑の時期については、土坑の項でも述べたとおり、後期と推定する土坑群を整地した後に、構築されていることは明瞭である。占地を共有する傾向が窺える晩期の住居跡群との新旧関係については、掘立柱建物跡や柱穴状土坑が新しい場合が多い。出土遺物は後～晩期の土器小片が多いが、時期推定資料としては認知できない出土状態である。

<柱材の有無について>

柱材が残存する柱穴はなかったが、柱穴内に柱材を設置した可能性を示唆する資料として下記の事項が上げられる。

- a **アタリ** 全てではないが、埋土にアタリが確認された柱穴がある。
- b **付属土坑** 開口部付近に浅い土坑状の掘り込み（スロープ）を伴うものも多く、柱を据えたかあるいは抜いた時の痕跡と推定される。
- c **柱穴底面の痕跡について** 柱穴底面に酸化や変色が確認された柱穴がある。検出される例としては、八戸火山灰層より深く掘り込まれている柱穴に多く、底面が白色の火山灰（大不動浮石流凝灰岩？）に相当する場合である。黒色土（遺物包含層）や褐色～暗褐色土（八戸火山灰）を底面とする柱穴では酸化や変色が明瞭に確認されなかった（把握できなかった？）。柱穴底面の酸化や変色化については、分析や鑑定は行っていないため推測の域を越えるものではないが、柱や上屋？の重量に起因すると思われる。

<柱穴状土坑に付随する土坑（スロープ）について>

柱の設置かあるいは抜き取り痕と思われる痕跡が確認された柱穴状土坑は、相当数見られた。おそらくは、柱穴状土坑同士の重複として処置した中にも該当するものが含まれていると思われる。

<出土遺物>（第164～167図、第172図、第191～193図、写真図版196～198、202、212～214） 特殊性が窺える出土状態を示した遺物はない。

土器（第164～167図674～808、写真図版196～198） 全て後～晩期で小片が多い。完形品の資料としては、D15柱穴状土坑出土の683とI12柱穴状土坑11号出土の763がある。

土製品（第172図892～905、写真図版202） 土偶、土器片再利用土製品などが出土している。

石器類（第191～193図1120～1147、写真図版212～214） 捨て場出土と同種の石器類が出土している。

7 柱穴列

溝状に細長く延び、溝内に柱穴を伴う遺構である。検出状況が、他の遺構に比べて明瞭であったことから検出当初は現代に構築された遺構と推定されたものである。1条検出された。

G23柱穴列（第110図、写真図版151）

＜位置・検出状況＞ 調査区東側斜面上位のG23～I22グリッドにかけてⅢ層上面で検出された。検出面及び埋土共に黒色土であるが、比較的明瞭に検出できた。ほぼ南北方向に斜面を切るように延びる。溝内からは6個の柱穴を検出した。

＜主軸方向＞ N16° W

＜重複関係＞ H22土坑2号と重複し、本遺構が新しい。

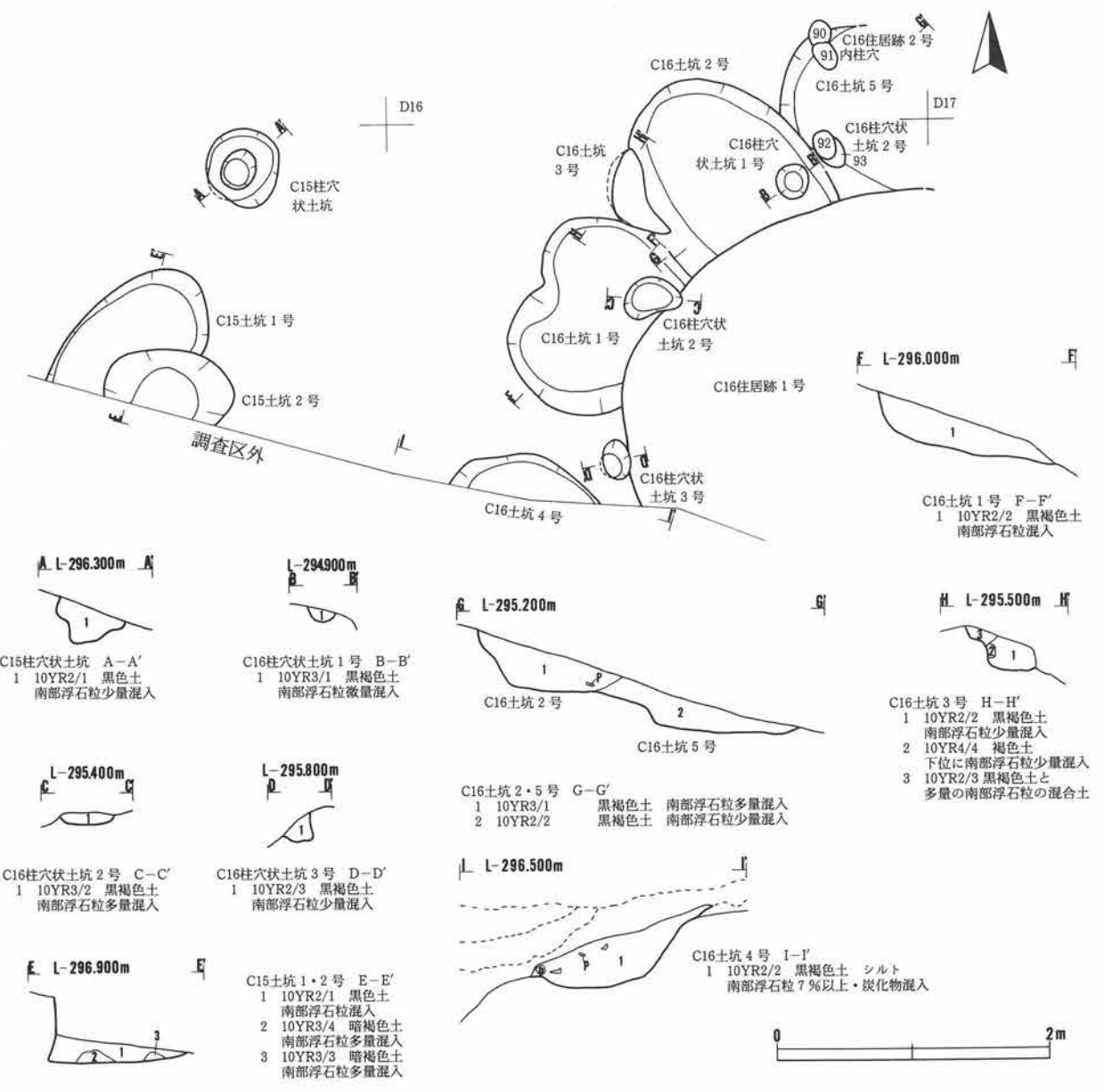
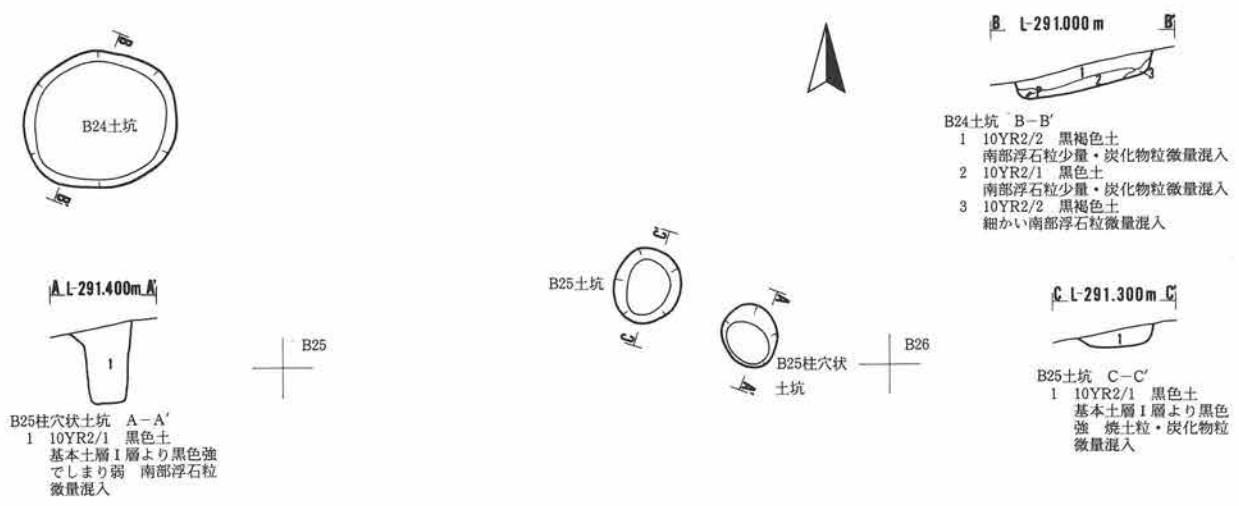
＜平面形・規模＞ 平面形は溝状、断面形は逆台形状あるいはU字状を呈する。規模は開口部径40～60cm、底部径30～45cm、深さは7～61cmで平均すると12cm程である。南側に穏やかに傾斜する。

＜埋土＞ 上位（1層）に粘性がやや強く締まりが弱い黒色シルトが堆積し、中～下位（2～4層）に締まりが堅密で南部浮石粒を多量に混入する黒褐色土シルトが堆積する。土の様相から1層は基本層序のⅢ層相当に、2～4層は南部浮石粒の含有率から基本層序のⅣ～Ⅴ層に相当する。明確な判断はできなかったが、自然堆積と推定される。土質の様相からは、現代の遺構とは思われない。

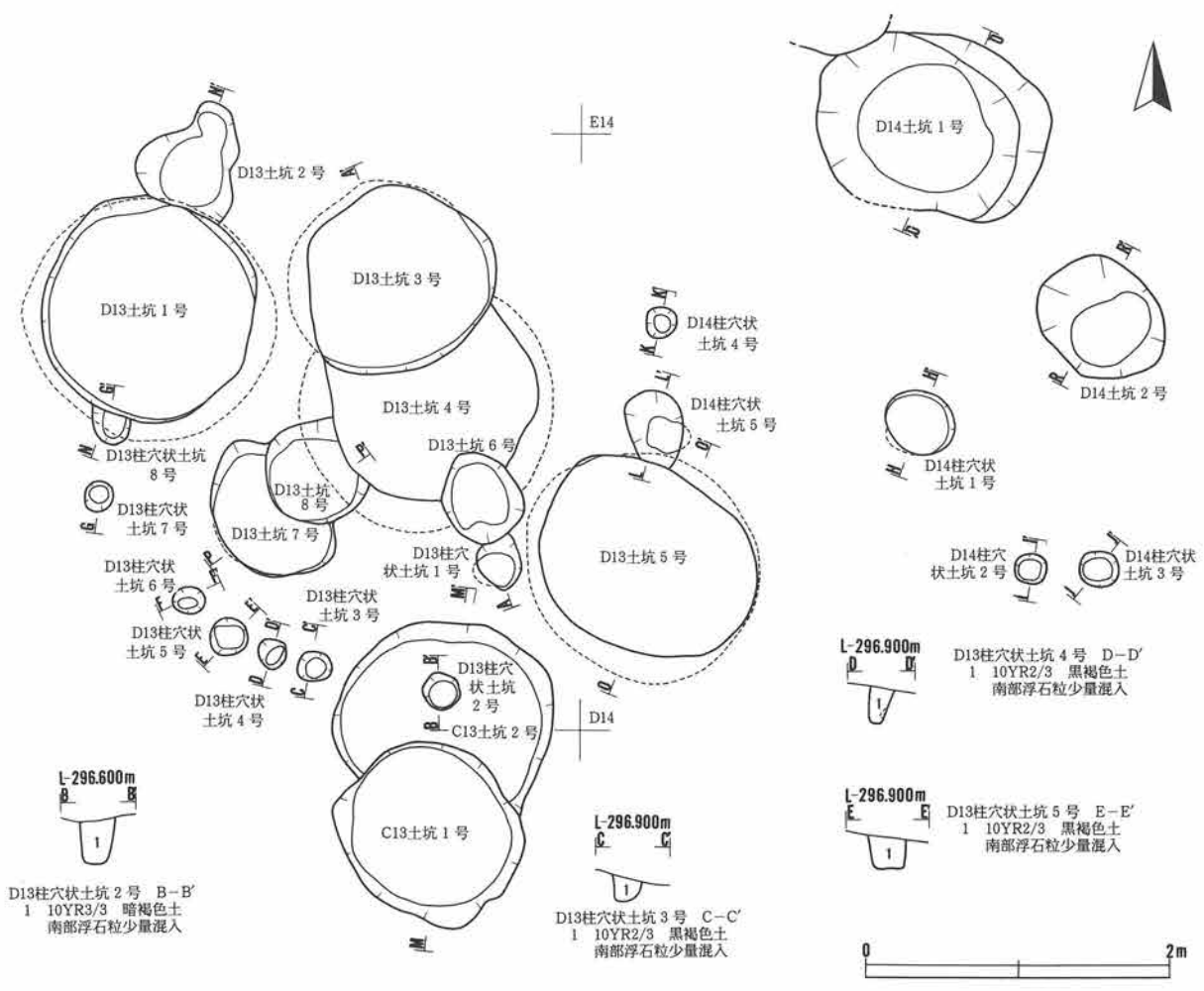
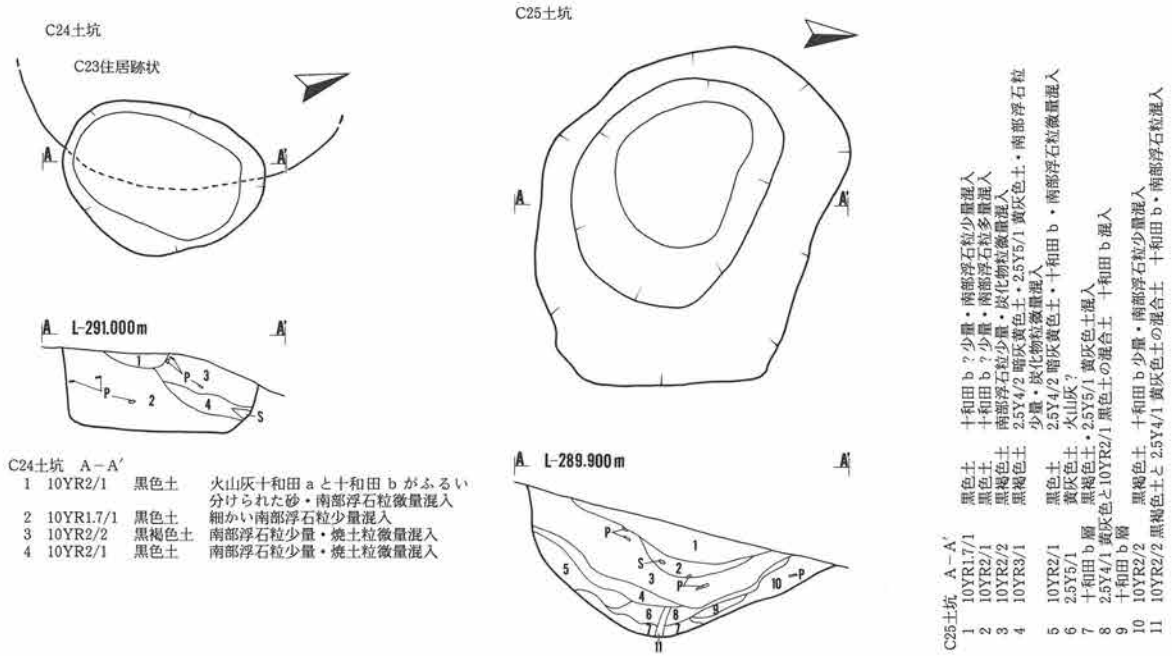
＜柱穴＞ 6基検出した。柱穴の埋土は、溝の埋土と同じ土なことから同時期に埋没したものと思われる。

＜出土遺物＞ 出土遺物はない。

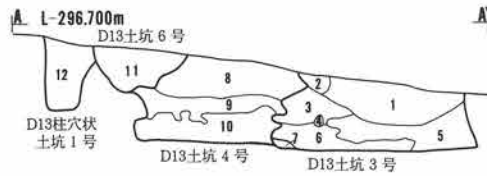
＜時期＞ 捨て場内に構築されており、遺物包含層を掘り込んでいることから時期の上限は晩期前葉であろう。時期の下限については、上述した通り検出当初は現代のものと推定して精査を行った経緯はあるが、はっきりしない。埋土の様相からの判断としては、現代の遺構とは考えられない土質であった。



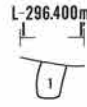
第49図 土坑・柱穴状土坑 (1)



第51図 土坑・柱穴状土坑 (3)



- D13土坑 3・4・6号 D13柱穴状土坑 1号 A-A'
- 10YR2/3 黒褐色土 シルト 径1~5mmの南部浮石粒7%混入
 - 10YR4/4 褐色土 シルト 1層より若干しまり強 南部浮石粒3%混入
 - 10YR4/6 褐色土 シルト 1層よりしまり弱 南部浮石粒2%混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 シルト
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 1層より若干黒色強 1層よりしまり強 南部浮石粒5%混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 シルト 一部径10~20mmの黄褐色土ブロック・南部浮石粒5%混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 6層よりしまり強 南部浮石粒2%混入
 - 10YR4/6 褐色土 シルト 3層より若干明るい色調 2、10層よりしまり強 南部浮石粒1%混入
 - 10YR4/4 褐色土 シルト 8層よりしまり弱 南部浮石粒3%混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 9層よりしまり強 南部浮石粒5%混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 10層より若干黒色強 8層よりしまり強 南部浮石粒15%混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 11層より若干明るい色調 11層と同じしまり 南部浮石粒7%混入



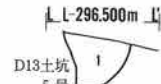
- D14柱穴状土坑 2号 I-I'
- 10YR2/2 黒褐色土 シルト 径2~5mmの南部浮石粒1%混入



- D14柱穴状土坑 3号 J-J'
- 10YR2/2 黒褐色土 シルト 南部浮石粒殆ど含まず

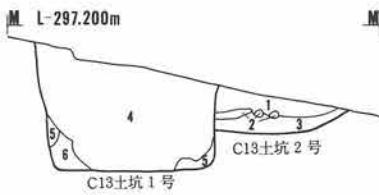


- D14柱穴状土坑 4号 K-K'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入

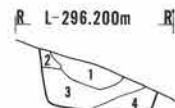


- D13柱穴状土坑 7・8号 G-G'
- 10YR4/4 褐色土 南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒多量混入

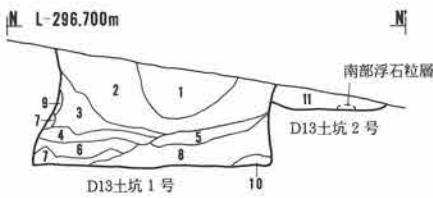
- D14柱穴状土坑 5号 L-L'
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入



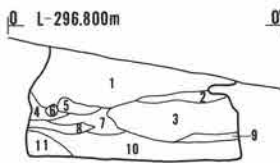
- C13土坑 1・2号 M-M'
- 10YR2/3 黒褐色土 シルト 2層よりしまり強 径2~12mmの南部浮石粒7%混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 シルト 南部浮石粒2%混入 基本土層Ⅷ層人為堆積?
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 1層より黒色強 1層と同じしまり 南部浮石粒5%・底部付近に炭化物粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 シルト 1層よりしまり弱 南部浮石粒10%混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 シルト 4層よりしまり弱 南部浮石粒含まず 壁相当?
 - 5層に南部浮石粒50%程混入 壁崩壊土?



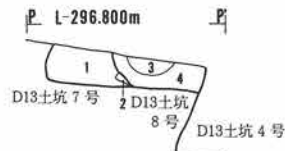
- D14土坑 2号 R-R'
- 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 暗褐色土層中に南部浮石粒多量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 2層より南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入
 - 南部浮石粒層 掘り過ぎ? 純粋層よりしまり弱



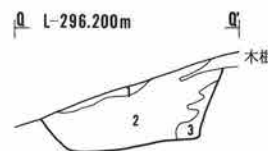
- D13土坑 1・2号 N-N'
- 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土・南部浮石粒・焼土粒多量・炭化物粒多量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土・南部浮石粒・炭化物粒混入
 - 10YR2/1 黒褐色土 1、2層より南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 4層よりしまり強 南部浮石粒多量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 上部に薄く南部浮石粒混入 八戸火山灰
 - 10YR2/2 黒褐色土 6層より南部浮石粒多量混入
 - 7層相当
 - 基本土層Ⅷ層相当
 - 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒多量混入



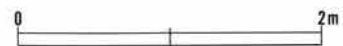
- D13土坑 5号 O-O'
- 10YR3/2 黒褐色土 シルト 径10mm大以下の南部浮石粒15%混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 シルト 1層よりしまり弱 径10mm大以下の南部浮石粒7%混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 2層よりしまり弱 径10mm大以下の南部浮石粒10%混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 シルト 径10mm大以下の南部浮石粒30% (壁の南部浮石粒含む?) 混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 (2層極似) シルト 1層よりしまり弱 2層相当 径10mm大以下の南部浮石粒3%混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 シルト 径10mm大以下の南部浮石粒5%混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 シルト 1層より黒色強 5層と同じしまり 径10mm大以下の南部浮石粒15%混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 シルト 5層より黒色強 10層よりしまり弱 径10mm大以下の南部浮石粒3%混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 シルト 8層より明るい色調 10層よりしまり弱 径10mm大以下の南部浮石粒2%混入
 - 8層類似
 - 10YR3/3 褐色土 シルト 1層と同じしまり 径10mm大以下の南部浮石粒15%混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 シルト 10層よりしまり弱 8層相当



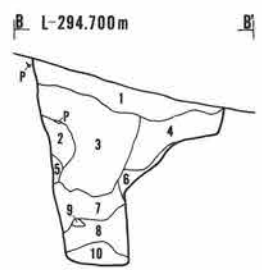
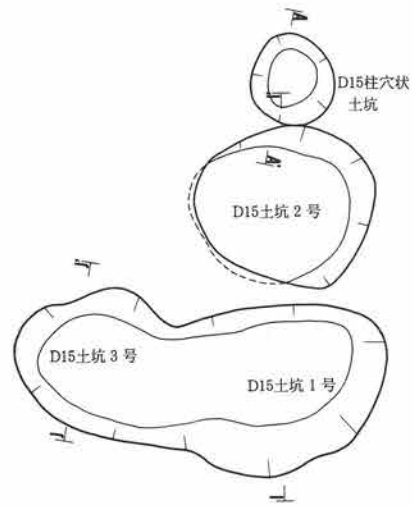
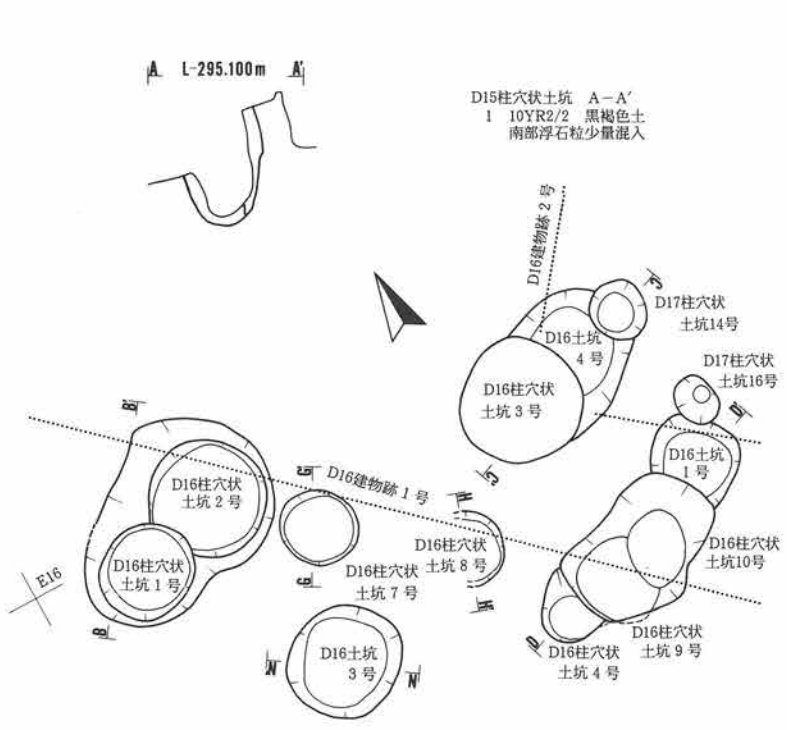
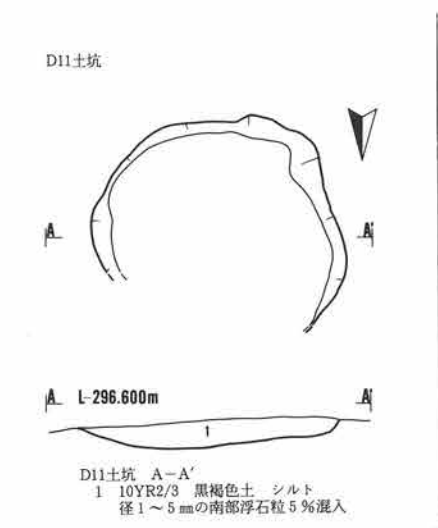
- D13土坑 7・8号 P-P'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒含まず
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒含まず
 - 10YR2/3 暗褐色土 南部浮石粒多量混入



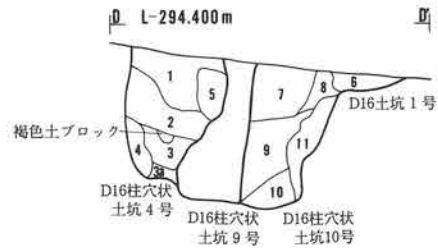
- D14土坑 1号 Q-Q'
- 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 多量の南部浮石粒と褐色土のブロックとの混合土 炭化物粒微量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 褐色土との混合土 南部浮石粒少量混入



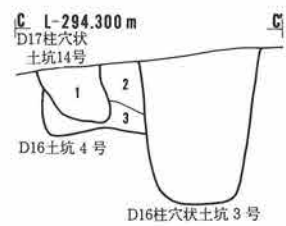
第52図 土坑・柱穴状土坑 (4)



層	土質	特徴
1	10YR1.7/1 黒色土	南部浮石粒15~20%混入
2	10YR3/3~3/4 暗褐色土	南部浮石粒・八戸火山灰混入
3	10YR2/2~2/3 黒褐色土	南部浮石粒10~15%・焼土・炭化物微量混入
4	10YR3/4 暗褐色土	南部浮石粒・八戸火山灰混入
5	10YR4/4 褐色土	八戸火山灰混入
6	5層相当	
7	10YR3/4 暗褐色土	南部浮石粒微量・八戸火山灰多量混入
8	10YR4/4 褐色土	細かい南部浮石粒少量・八戸火山灰多量混入
9	8層相当	木根攪乱
10	10YR2/3 黒褐色土	南部浮石粒・八戸火山灰混入



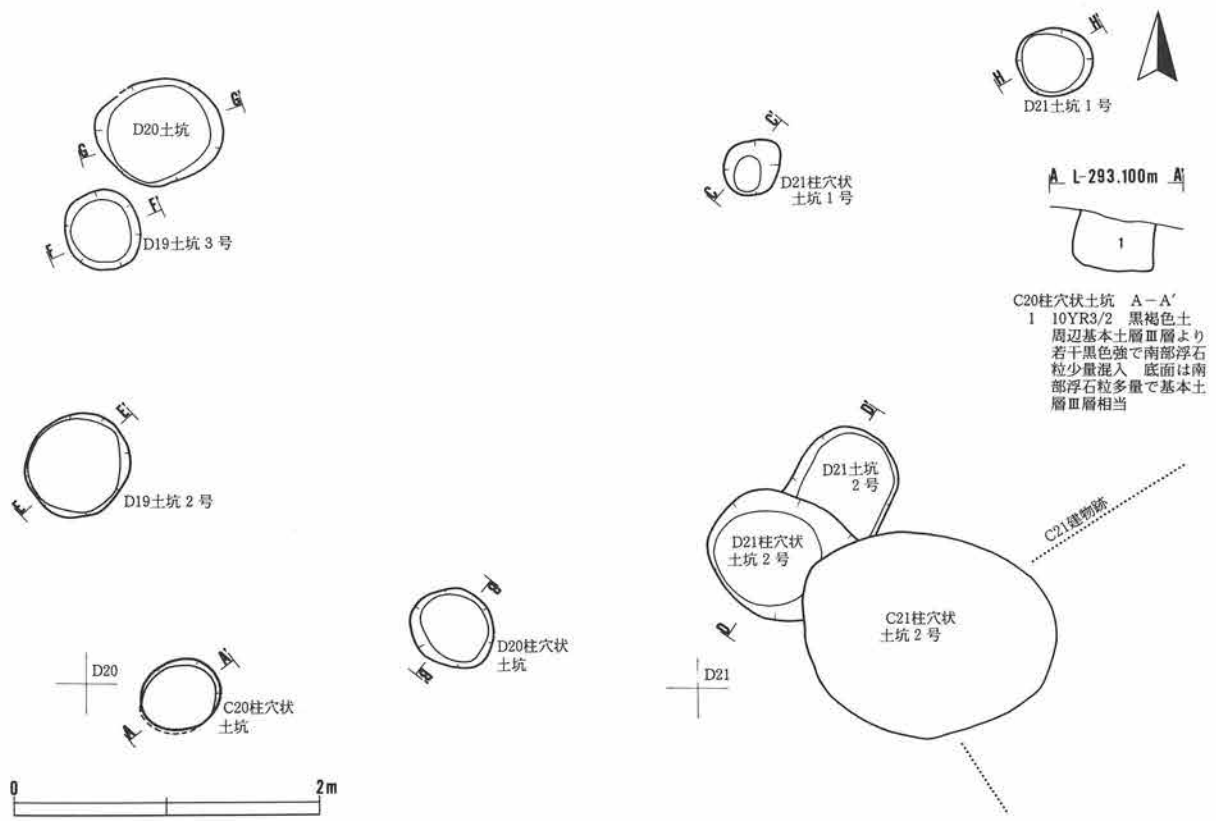
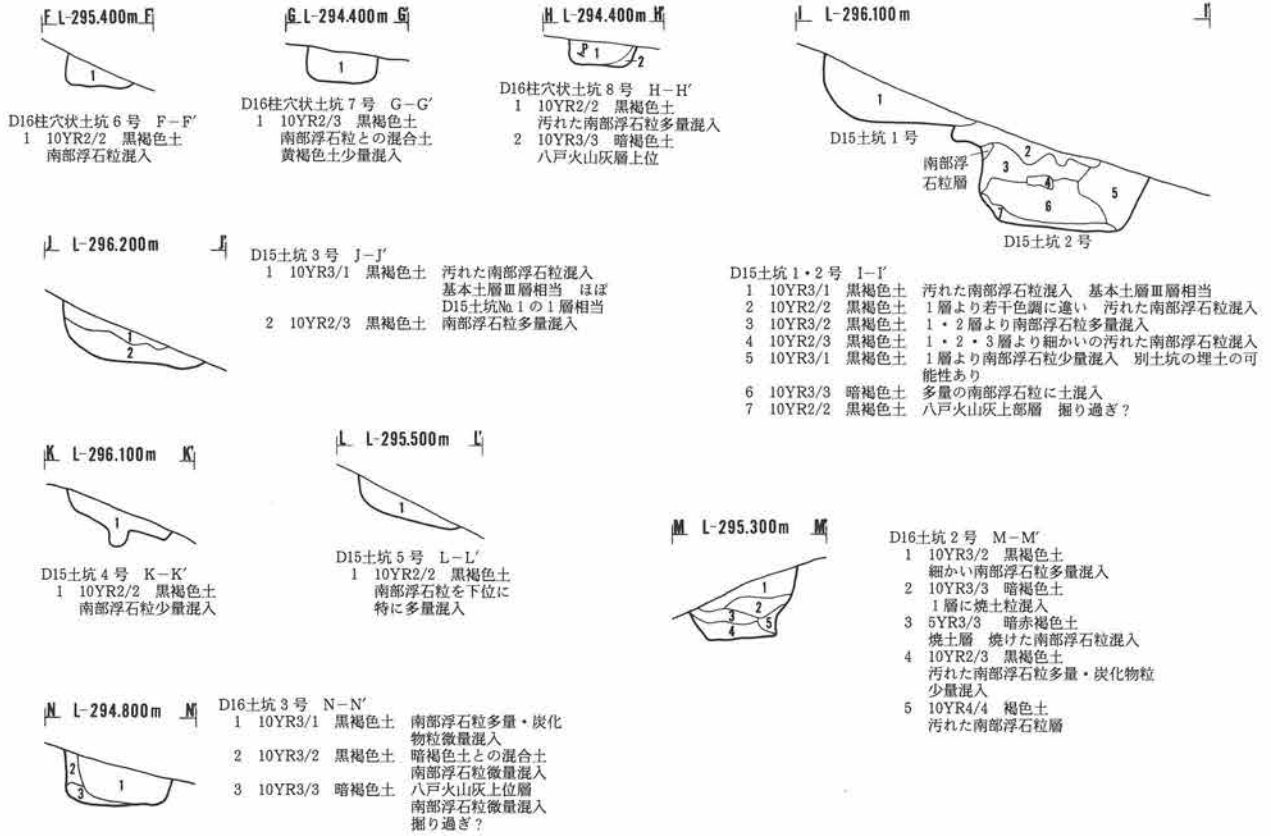
層	土質	特徴
1	10YR2/2 黒褐色土	南部浮石粒との混合土
2	10YR2/3 黒褐色土	南部浮石粒微量混入
3	10YR3/3 暗褐色土	褐色土ブロック混入
3a	10YR4/3 にぶい黄褐色土	黄褐色土に暗褐色土少量混入
4	10YR4/4 褐色土	黒褐色土微量混入 壁崩壊土?
5	10YR2/3 黒褐色土	微量の南部浮石粒との混合土
6	10YR2/3 黒褐色土	黒褐色土・南部浮石粒混入
7	10YR2/3 黒褐色土	少量の南部浮石粒との混合土
8	10YR2/3 黒褐色土	南部浮石粒との混合土 褐色土混入
9	10YR2/2 黒褐色土	多量の南部浮石粒との混合土
10	10YR4/3 にぶい黄褐色土	黄褐色土と黒褐色土の互層 人為堆積
11	10YR3/3 暗褐色土	基本土層Ⅷ a 層相当



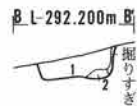
層	土質	特徴
1	10YR2/3 黒褐色土	多量の南部浮石粒との混合土 1層より若干黒色強 自然堆積?
2	10YR2/2 黒褐色土	多量の南部浮石粒との混合土 炭化物粒微量混入 人為堆積 柱の掘る影に掘られた穴?
3	10YR2/3 黒褐色土	基本土層Ⅷ a 層相当 掘り過ぎ? 人為堆積

※土坑No.4は柱穴 進級関係は土坑No.4が柱穴No.3に切られている

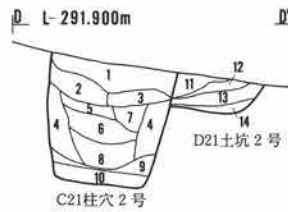
第53図 土坑・柱穴状土坑 (5)



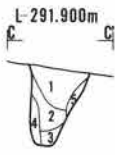
第54図 土坑・柱穴状土坑 (6)



D20柱穴状土坑 B-B'
 1 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
 2 10YR2/2~3/2 黒褐色土 南部浮石粒微量混入



D21柱穴状土坑 2号 D21土坑 2号 D-D'
 1 10YR3/2 黒褐色土 中礫・南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 2 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
 3 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
 4 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
 5 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
 6 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 7 10YR3/1 黒褐色土 細かい南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒微量混入
 8 10YR3/3 暗褐色土 細かい南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 9 南部浮石粒層
 10 八戸火山灰
 11 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 12 南部浮石粒層 10YR3/3 暗褐色土混入
 13 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒少量混入
 14 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石粒少量混入



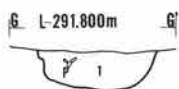
D21柱穴状土坑 1号 C-C'
 1 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
 2 10YR2/3 黒褐色土 1層より南部浮石粒少量混入
 3 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 4 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒微量混入
 5 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入 掘り過ぎ?



D19土坑 2号 E-E'
 1 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒 焼土粒少量・炭化物粒混入



D19土坑 3号 F-F'
 1 10YR2/3 黒褐色土と 南部浮石粒の混合土

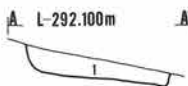
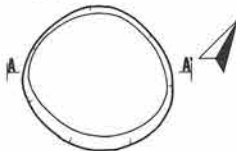


D20土坑 G-G'
 1 10YR2/2 黒褐色土と 南部浮石粒の混合土 炭化物粒少量・土器混入



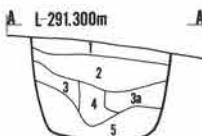
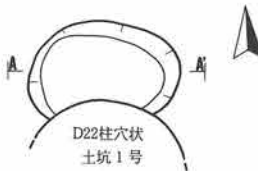
D21土坑 1号 H-H'
 1 10YR2/1 黒色土 細かい土 細かい南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 基本土層Ⅲ~Ⅳ層相当?

D19土坑 1号



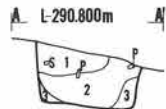
D19土坑 1号 A-A'
 1 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒20%混入

D22柱穴状土坑 2号



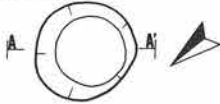
D22柱穴状土坑 2号 A-A'
 1 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土・南部浮石粒少量・焼土粒少量・炭化物粒微量混入
 2 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物微量混入
 3 10YR3/1 黒褐色土 砂・南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
 3a 10YR3/1~2/1 黒褐色~黒色土 砂・南部浮石粒微量混入
 4 10YR3/2~2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・焼土粒少量・炭化物粒少量混入
 5 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入

D23土坑 1号



D23土坑 1号 A-A'
 1 7.5YR2/2~10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒混入
 2 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒微量・1層より少量の焼土粒と炭化物粒混入
 3 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入 掘り過ぎ?

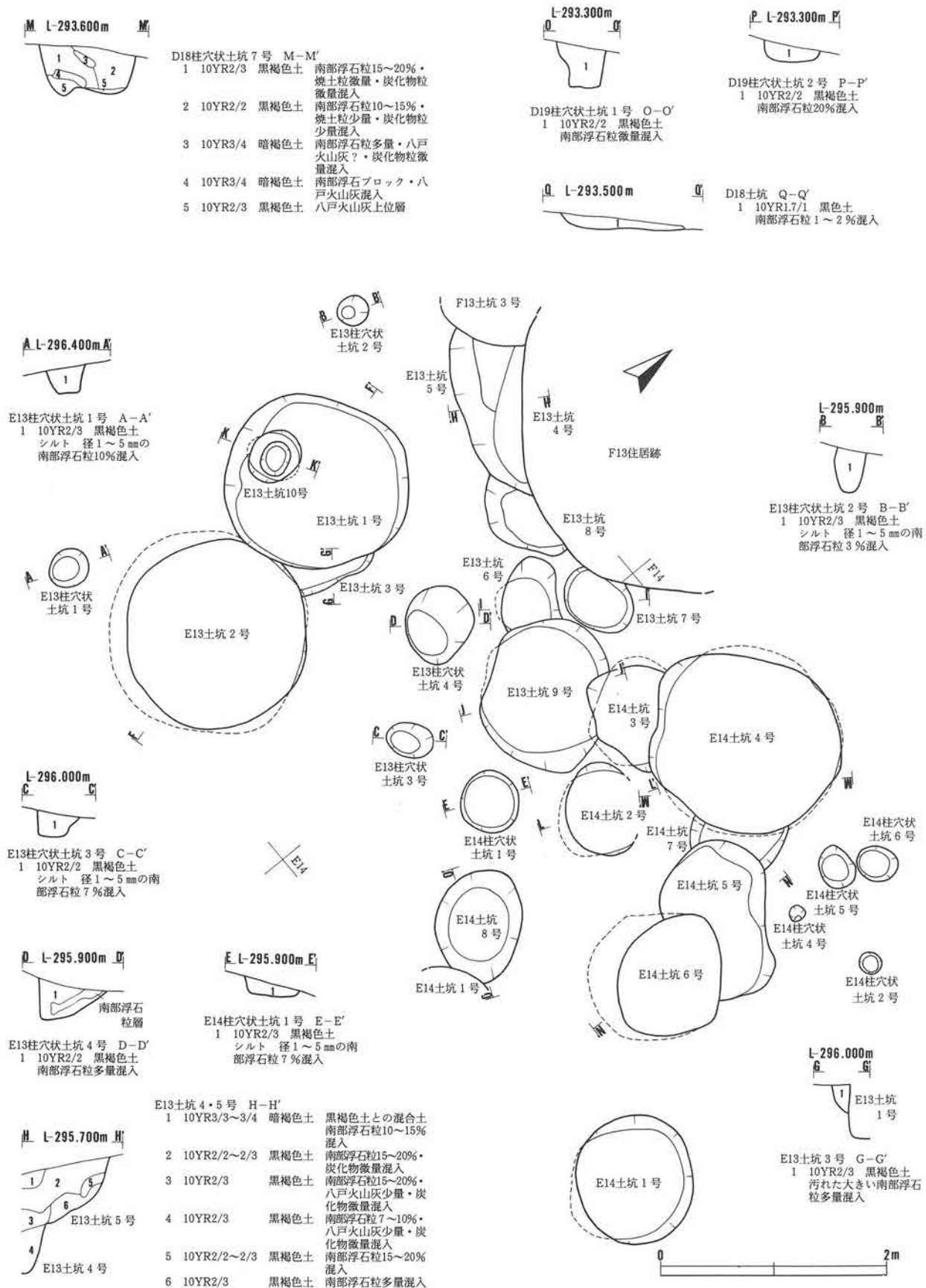
D23土坑 2号



D23土坑 2号 A-A'
 1 10YR2/3 黒褐色土 7.5YR6/6 橙色焼土 (黒褐色土が焼けて変化) 混入
 2 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒少量混入

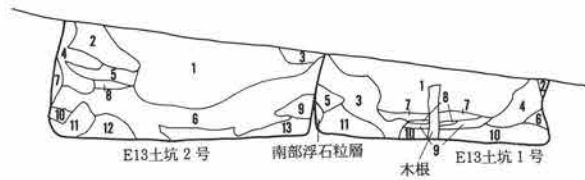


第55図 土坑・柱穴状土坑 (7)



第57図 土坑・柱穴状土坑 (9)

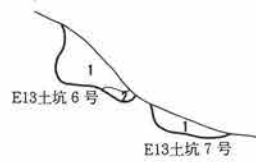
F L-296.500m



- E13土坑1・2号 F-F'
- | | | | | |
|----|---------|-------|-----|-----------------|
| 1 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | シルト | 南部浮石粒混入 |
| 2 | 10YR7/8 | 明黄褐色土 | | 南部浮石ブロック層 |
| 3 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | シルト | 南部浮石粒混入 |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | | 南部浮石粒少量混入 |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | | 南部浮石粒混入 |
| 6 | 10YR3/3 | 黒褐色土 | シルト | 南部浮石粒少量混入 |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | シルト | 南部浮石粒殆ど含まず |
| 8 | 10YR7/8 | 明黄褐色土 | | 南部浮石ブロック層 |
| 9 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | | 南部浮石粒混入 5、6層相当? |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色土 | | 南部浮石粒含まず |
| 11 | 10YR4/6 | 褐色土 | | 南部浮石粒含まず |
| 12 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | | |
| 13 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | | 南部浮石粒混入 |

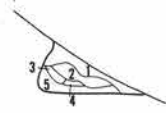
E

L-295.700m



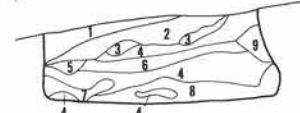
- E13土坑6・7号 I-I'
- 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
 - 八戸火山灰上位層 掘り過ぎ

L-295.600m



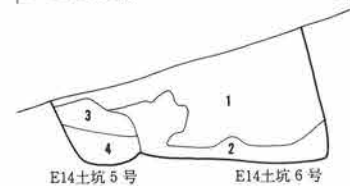
- E14土坑2号 L-L'
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒との混合土 基本土層Ⅲ層類似
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒との混合土 基本土層Ⅲ層類似
 - 10YR3/4 暗褐色土 八戸火山灰下位に南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土・南部浮石粒・八戸火山灰混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 八戸火山灰層に南部浮石粒少量混入

L-294.900m



- E14土坑4号 M-M'
- | | | | | |
|---|------------------------------------|---------|---------|-------------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | シルト | 南部浮石粒10%混入 |
| 2 | 10YR2/2~2/3 | 黒褐色土 | シルト | 南部浮石粒7%・炭化物粒微量混入 |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | シルティローム | 南部浮石粒2%以下混入 八戸火山灰の再堆積層 |
| 4 | 10YR2/3 黒褐色土シルトと10YR5/8 黄褐色土による混合土 | | | (黒褐色土4:6南部浮石粒) |
| 5 | 10YR2/2 黒褐色土 | シルト | | 南部浮石粒7%・炭化物粒微量混入 |
| 6 | 10YR3/3 暗褐色土と10YR3/2 黒褐色土の混合土 | シルト | | 南部浮石粒30%以下・八戸火山灰30%程混入 |
| 7 | 10YR2/2~2/3 黒褐色土 | シルティローム | | 八戸火山灰主構成 |
| 8 | 10YR3/4~4/4 暗褐色土~褐色土 | シルティローム | | 7層より若干明るい色調 南部浮石粒2%以下混入 八戸火山灰の再堆積層? |
| 9 | 10YR2/3~3/3 黒褐色~暗褐色土 | シルティローム | | 八戸火山灰による再堆積層 壁の可能性あり |

L-295.400m



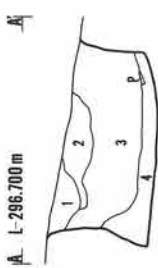
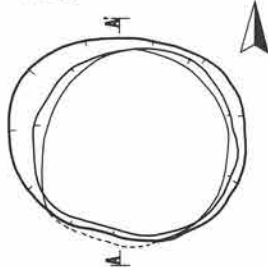
- E14土坑5・6号 N-N'
- | | | | |
|---|--------------|-------|--------------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色土 | 砂質シルト | 南部浮石粒15%混入 |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色土 | | 八戸火山灰上位層相当 崩壊落土 |
| 3 | 10YR3/3 暗褐色土 | 砂質シルト | 南部浮石粒10~15%・八戸火山灰小ブロック混入 |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色土 | | 八戸火山灰上位層相当 壁崩落土 |

L-295.900m



- E14土坑8号 O-O'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒特に下位に多量混入

E10土坑



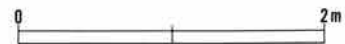
- E10土坑 A-A'
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量・基本土層混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土層・南部浮石粒・八戸火山灰混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒・八戸火山灰混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入

E11柱穴状土坑

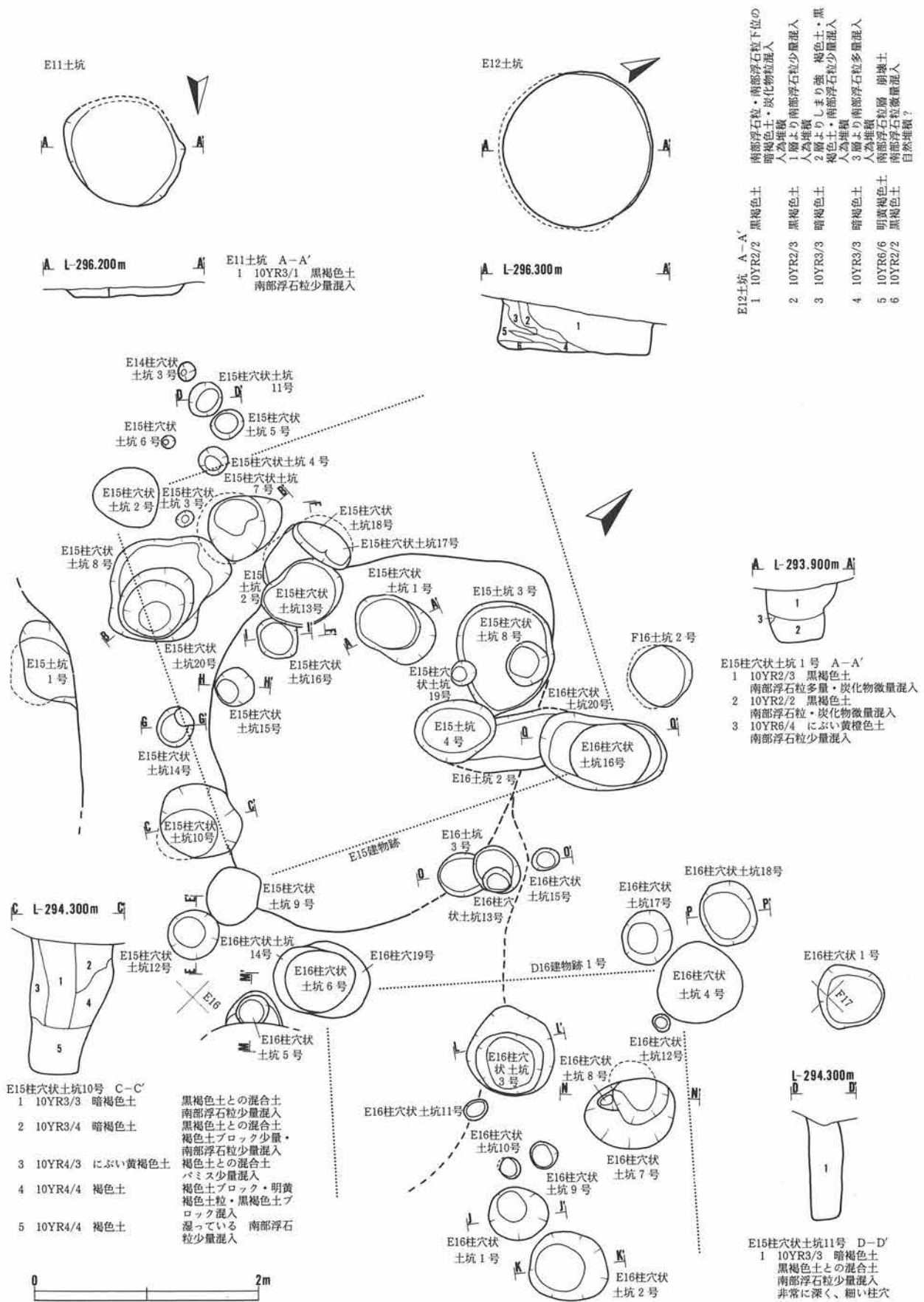


L-296.200m

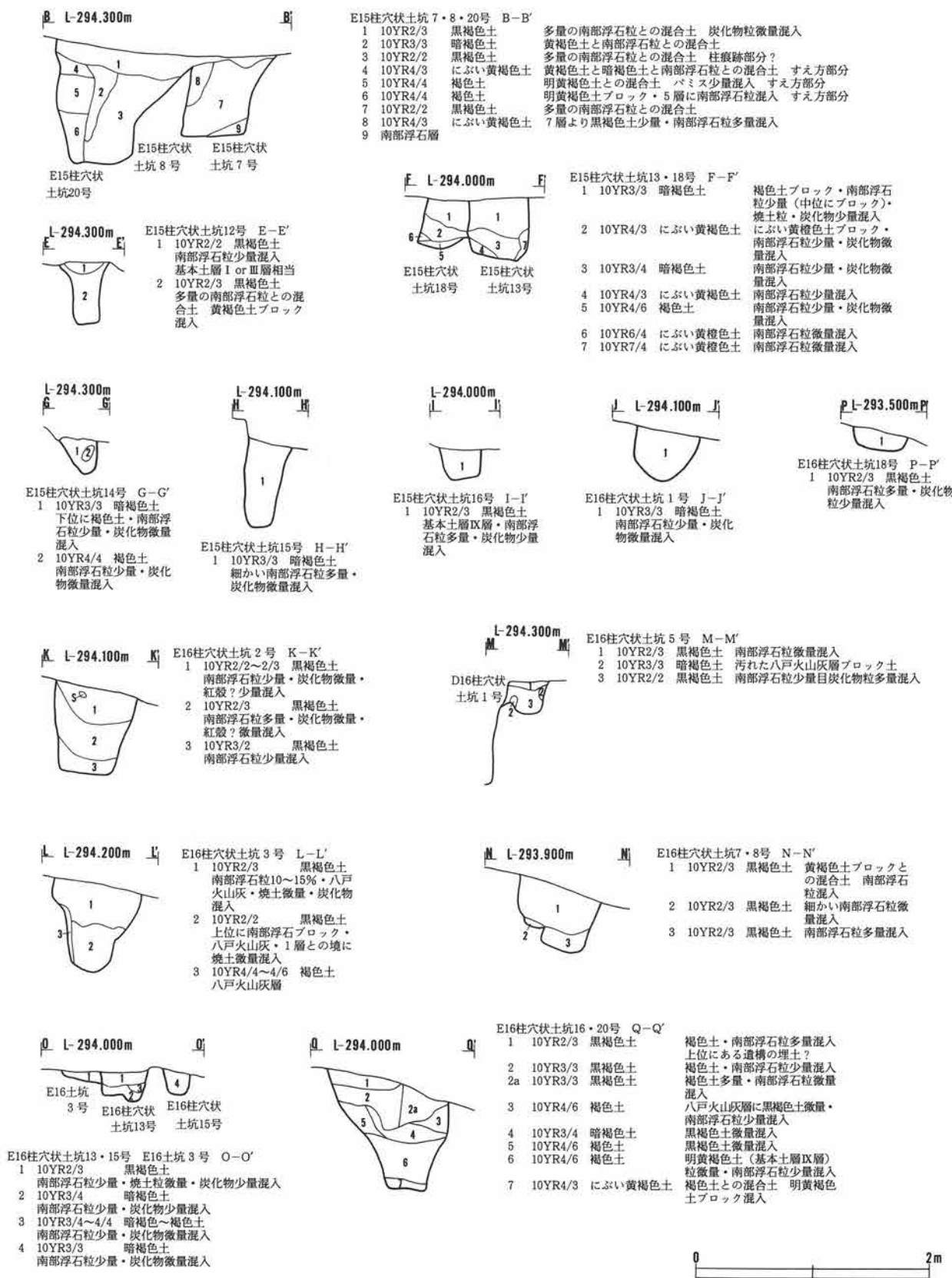
- E11柱穴状土坑 A-A'
- 10YR2/2 黒褐色土 シルト 径2~5mmの南部浮石粒2%混入



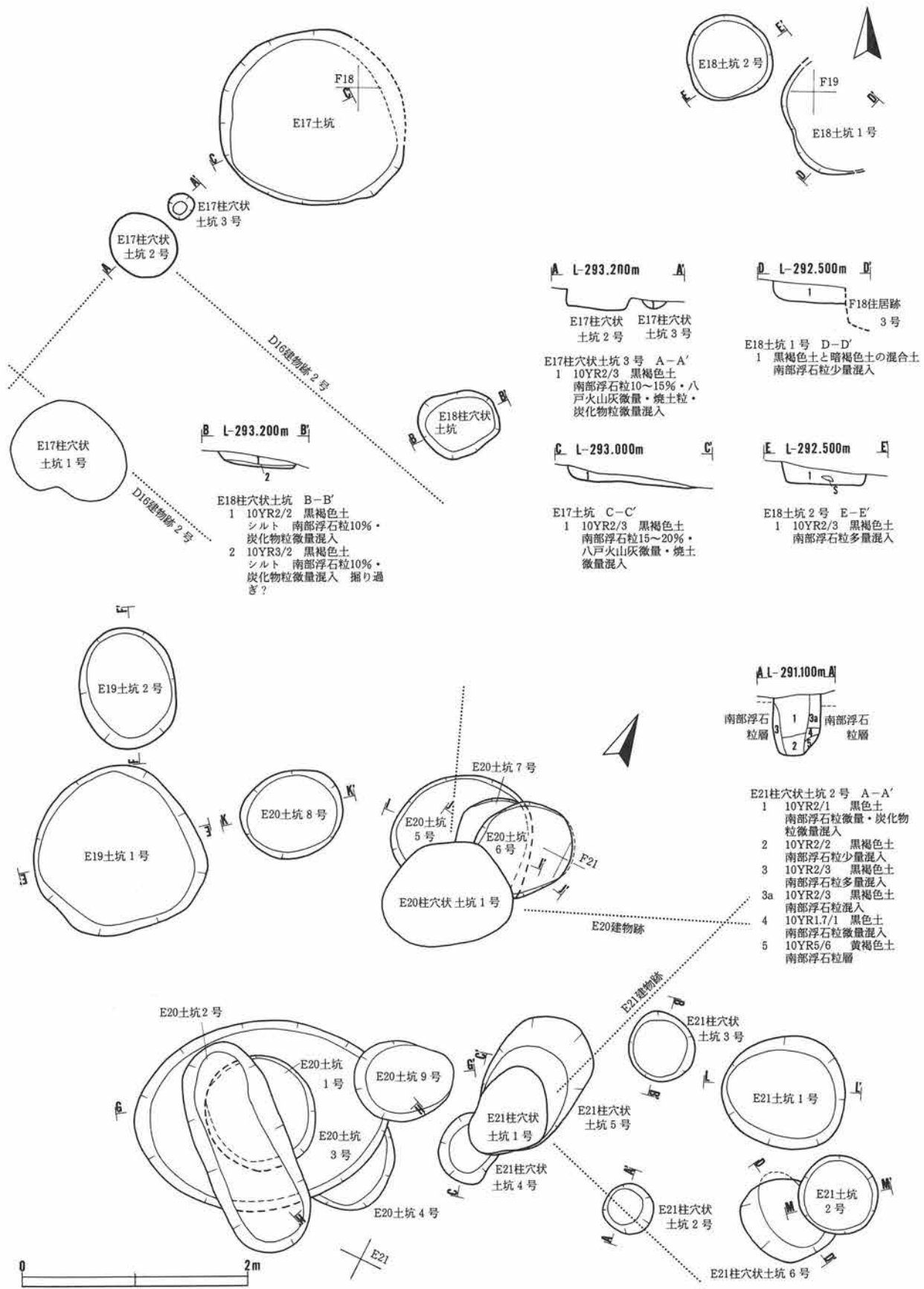
第58図 土坑・柱穴状土坑 (10)



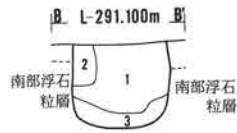
第59図 土坑・柱穴状土坑 (11)



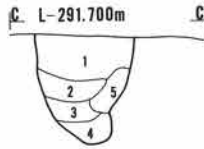
第60図 土坑・柱穴状土坑 (12)



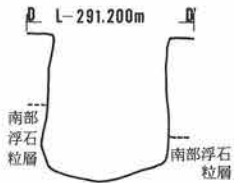
第61図 土坑・柱穴状土坑 (13)



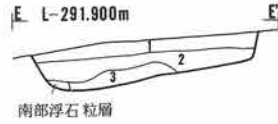
- E21柱穴状土坑 3号 B-B'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入



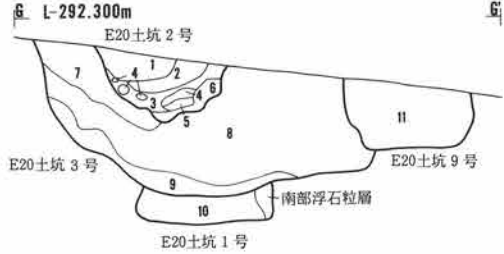
- E21柱穴状土坑 4号 C-C'
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 褐色土・南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石粒少量混入



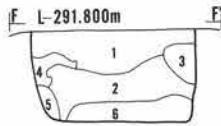
E21柱穴状土坑 6号



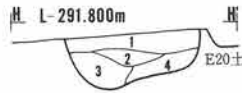
- E19土坑 1号 E-E'
- 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入



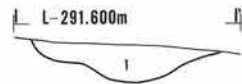
- E20土坑 2号
- E20土坑 3号
- E20土坑 1号
- E20土坑 1・2・3・9号 G-G'
- 10YR3/1 黒褐色土 十和田 b 火山灰混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土・十和田 b 火山灰微量・南部浮石粒混入
 - 2.5Y3/1 黒褐色土 十和田 a 火山灰混入
 - 2.5Y6/2 灰黄色土 黒褐色土で汚れた十和田 a ブロック土 2.5Y8/2 灰白土の砂粒状のもの微量混入
 - 2.5Y8/2 灰白色土 ブロック土 中継より大きく十和田 b よりしまり弱 十和田 b のふるい分けされたもの?
 - 10YR3/2 黒褐色土 5層・十和田 a 火山灰混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒微量混入 基本土層 III 層相当?
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 基本土層 III 層相当?
 - 10YR3/4 暗褐色土 7層よりしまり弱
 - 10YR2/2 黒褐色土 黒褐色土・南部浮石粒混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 褐色土微量・細かい南部浮石粒微量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入 基本土層 III 層相当



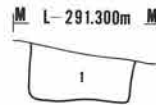
- E19土坑 2号 F-F'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 細かい南部浮石粒微量混入
 - 10YR3/3~3/4 暗褐色土 南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/6 褐色土 上位に黒褐色土・南部浮石粒少量混入



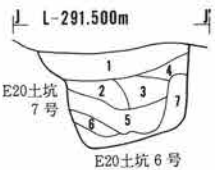
- E20土坑 4号 H-H'
- 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入



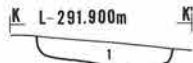
- E20土坑 5号 I-I'
- 10YR2/1 黒色土 黒褐色土・南部浮石粒 3~5%混入



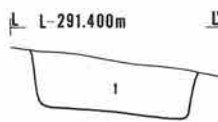
- E21土坑 2号 M-M'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入



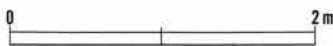
- E20土坑 7号
- E20土坑 6号
- E20土坑 6・7号 J-J'
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 下位に暗褐色土・南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土と10YR3/3 暗褐色土の混合土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR4/4 褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 黒色土・暗褐色土・南部浮石粒少量混入



- E20土坑 8号 K-K'
- 10YR2/2 黒褐色土 II 層類似だが十和田 a・b 火山灰含まず 南部浮石粒微量混入



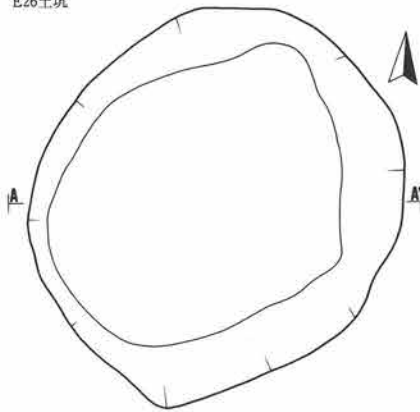
- E21土坑 1号 L-L'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入



- E22土坑 1号 A-A'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入

第62図 土坑・柱穴状土坑 (14)

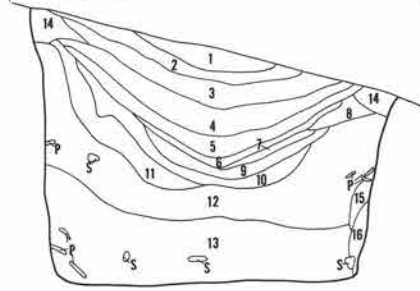
E26土坑



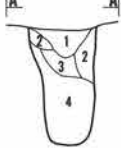
E26土坑 A-A'

- | | | | |
|----|-----------|-------------|--------------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 十和田 a 混入 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 十和田 a 多量混入 |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色土 | 十和田 a 全体に混入 |
| 4 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 一部褐色土・十和田 b 少量混入 |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色土 | 径1~3mmの十和田 b 多量混入 |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色土と炭化物 a 層 | 細かい南部浮石粒微量・炭化物混入 |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒多量混入 |
| 8 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒少量混入 |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色土 | 細かい南部浮石粒・炭化物粒多量混入 |
| 10 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 上位に南部浮石粒少量・下位に炭化物粒混入 |
| 11 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 上位に南部浮石粒少量・一部炭化物粒混入 |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 11層よりしまり強 褐色土・南部浮石粒少量・炭化物粒少量混入 |
| 13 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 14 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒微量混入 |
| 15 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 16 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 15層よりしまり弱 15層より南部浮石粒多量・炭化物微量混入 |

A L-287.800m



L-295.100m



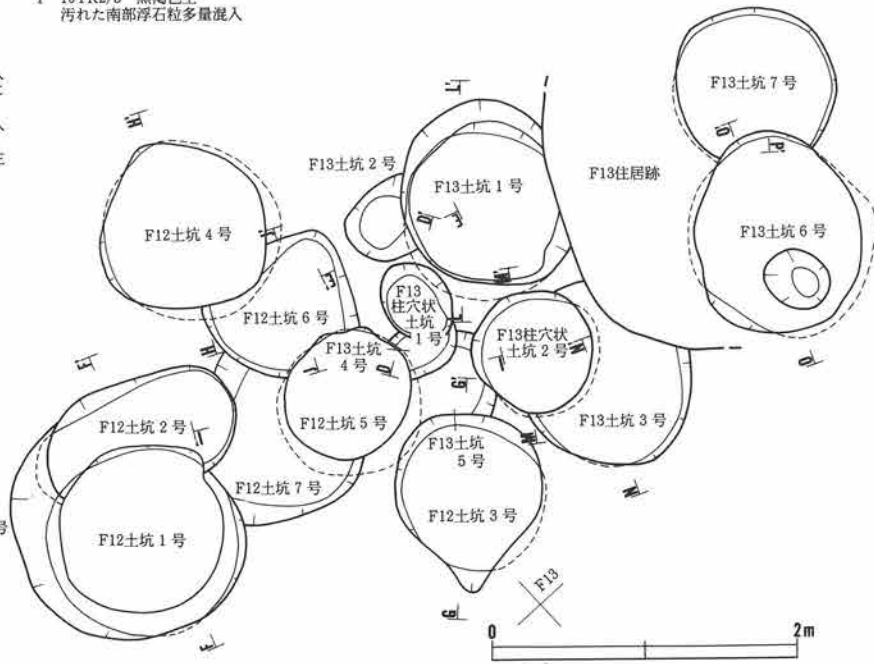
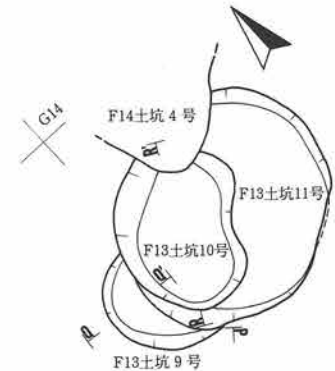
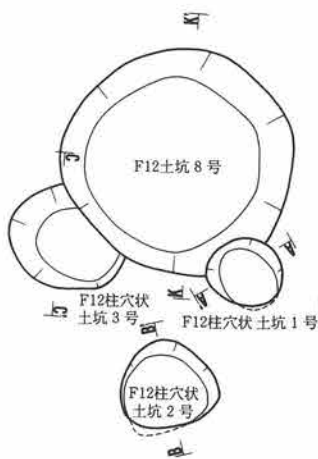
B L-295.400m



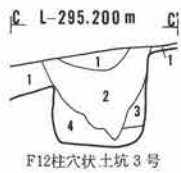
F12柱穴状土坑 2号 B-B'
1 10YR2/3 黒褐色土
汚れた南部浮石粒多量混入

F12柱穴状土坑 1号 A-A'

- | | | | |
|---|---------|------|-------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量混入 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰下位層に南部浮石粒混入 |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石粒少量混入 1層相当 |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 汚れた南部浮石粒主体 暗褐色土混入 |



第63図 土坑・柱穴状土坑 (15)



F12柱穴状土坑 3号
F12土坑 8号 C-C'

- 10YR2/2 黒褐色土
汚れた南部浮石粒・炭化物粒
微量混入 基本土層Ⅲ層相当
- 10YR3/1 黒褐色土
汚れた南部浮石粒との混合土
炭化物粒微量混入
- 10YR3/1 黒褐色土
2層より南部浮石粒少量混入
- 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒少量・八戸火山灰
層上位・炭化物粒多量混入



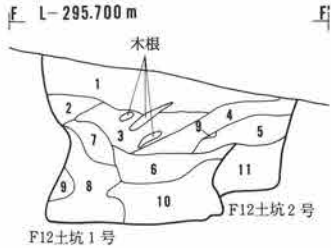
F13柱穴状土坑 1号 D-D'

- 10YR2/3 黒褐色土
汚れた南部浮石粒多量
混入
- 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒下位の八戸
火山灰層 掘り過ぎ



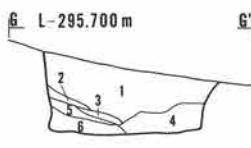
F13柱穴状土坑 2号 E-E'

- 10YR2/3 黒褐色土
汚れた南部浮石粒多量
混入



F12土坑 1・2号 F-F'

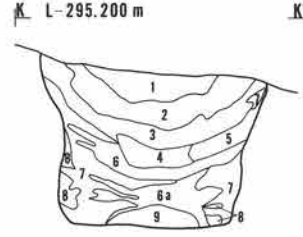
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入
- 10YR3/1 黒褐色土 1層より細かい南部浮石粒混入
- 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土と黒褐色土との混合土 南部浮石粒少量・炭化物少量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土と黒褐色土との混合土 南部浮石粒少量・炭化物少量混入
- 10YR2/2 黒褐色土 1層相当
- 10YR3/3 暗褐色土 基本土層Ⅲ層下位と黒褐色土との混合土 南部浮石粒少量混入
- 10YR3/1 黒褐色土 2層相当
- 10YR6/6 明黄褐色土 南部浮石粒層 壁崩落土
- 10YR2/3 黒褐色土 八戸火山灰層 崩落土?
- 10YR2/3 黒褐色土 汚れた南部浮石粒多量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 10層より黄褐色土多量?・汚れた南部浮石粒多量混入



F12土坑 3号 G-G'

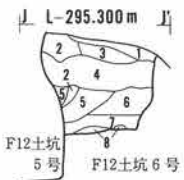
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量混入 基本土層Ⅲ層上位相当
- 10YR6/8 明黄褐色土 南部浮石粒層 黒褐色土ラミナ状に微量根に結う
- 10YR3/1 黒褐色土
- 10YR2/2 黒褐色土 1層相当? 褐色土微量・1層より南部浮石粒少量混入
- 10YR6/8 明黄褐色土 南部浮石粒層
- 10YR6/8 明黄褐色土 南部浮石粒層 黒褐色土多量混入

※すべて人為堆積 2, 5, 6, 自然堆積(壁の崩れ等) 他は掘り込んだ排土の処理



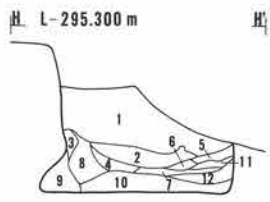
F12土坑 8号 K-K'

- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量混入 褐色土との混合土
- 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒少量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入 1層より黒色強 南部浮石粒多量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 3層より南部浮石粒少量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量混入 基本的に5層相当
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量混入 基本的に5層相当
- 10YR5/6 褐色土 南部浮石粒層 崩落土
- 10YR2/3 黒褐色土 八戸火山灰上位崩落土
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 八戸火山灰下土層 褐色土との混合土



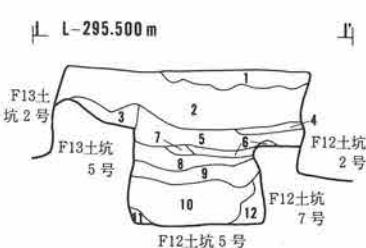
F12土坑 6号 J-J'

- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
- 10YR6/4 褐色土 南部浮石粒・八戸火山灰下位混入
- 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土・南部浮石粒・八戸火山灰下位混入
- 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒多量・八戸火山灰下位ブロック・炭化物少量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 4層より南部浮石粒少量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 5層より黒色土多量・南部浮石粒混入
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒・炭化物粒微量混入
- 10YR3/3 暗褐色土 八戸火山灰上位に南部浮石粒多量混入



F12土坑 4号 H-H'

- 10YR2/3 黒色土 南部浮石粒多量・炭化物粒多量混入
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黒褐色土・八戸火山灰混入
- 10YR2/3 黒褐色土 八戸火山灰上位崩落土
- 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土多量混入 2層相当
- 10YR2/3 黒色土 南部浮石粒多量・炭化物粒多量混入
- 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒多量混入
- 10YR2/1~3/1 黒色土 砂質シルト 南部浮石粒混入
- 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒多量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 径2mm大の粒子(十和田b?)南部浮石粒混入
- 10YR2/3 黒褐色土 八戸火山灰上位との混合土 南部浮石粒多量混入
- 10YR6/8 明黄褐色土 南部浮石粒層 崩落土?
- 10YR3/1 黒色土 南部浮石粒多量混入 7層相当

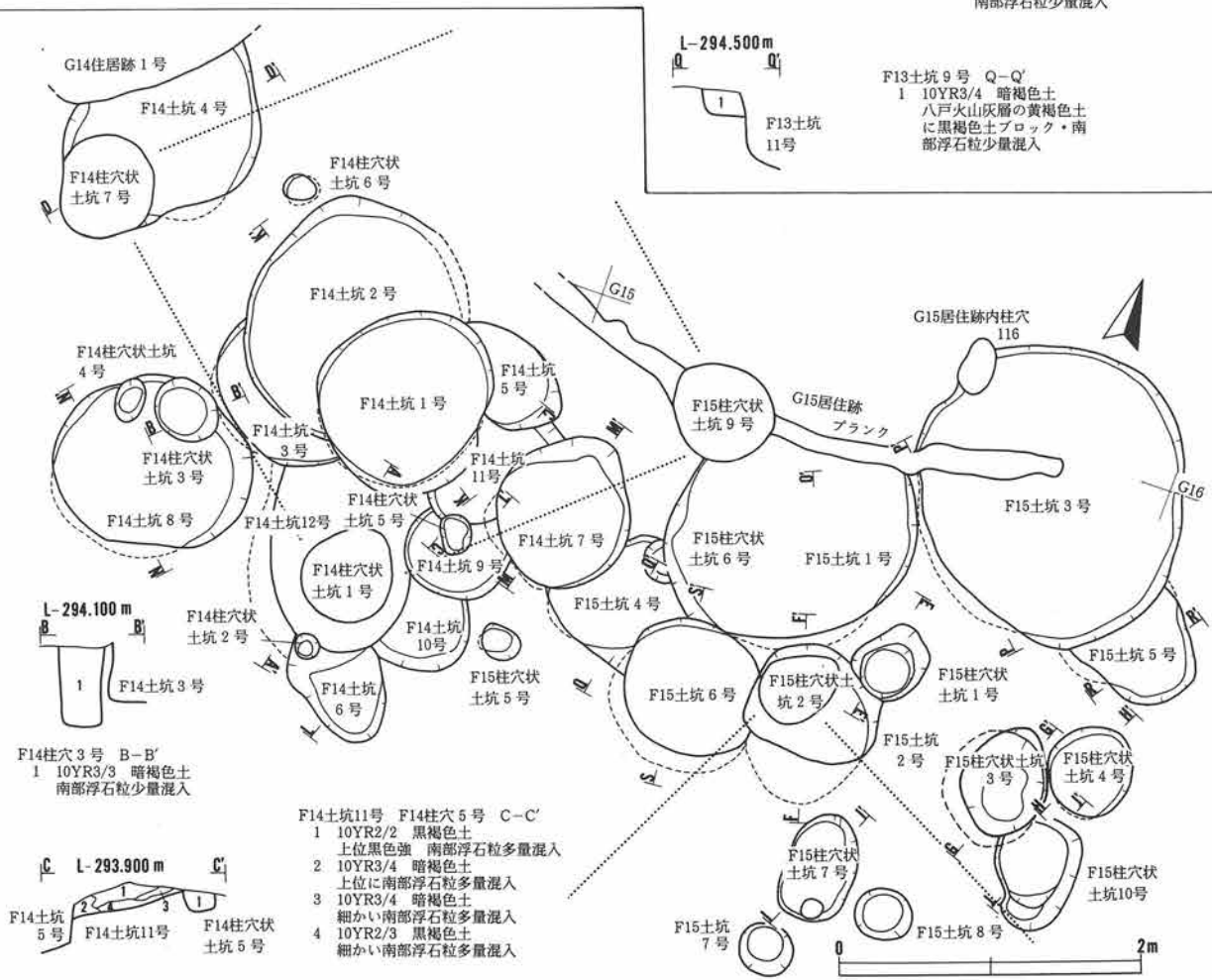
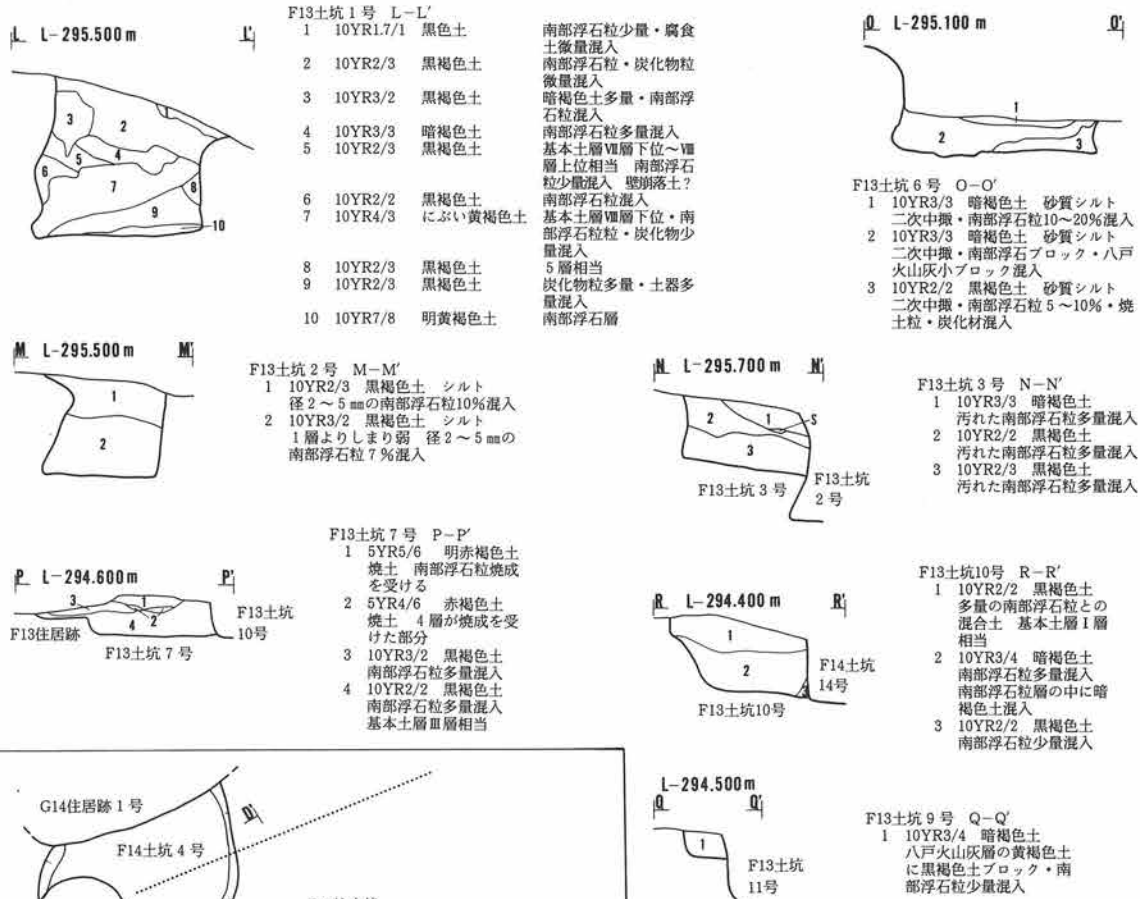


F12土坑 5・7号 F13土坑 4・5号 I-I'

- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黒褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量・炭化物粒少量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 汚れた南部浮石粒層に黒褐色土混入
- 南部浮石層 黒褐色土微量混入
- 10YR2/3 黒褐色土 2層より南部浮石粒少量混入
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土 南部浮石層・細かい南部浮石粒層で構成
- 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土と黄褐色土との混合土に南部浮石粒混入
- 10YR2/3 黒褐色土 褐色土と少量の南部浮石粒との混合土
- 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入 基本土層Ⅲb層類似
- 10YR3/1 黒褐色土 9層に暗褐色土・南部浮石粒混入
- 10YR9/4 褐色土 八戸火山灰層下位ブロック土
- 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量・八戸火山灰上崩落混入

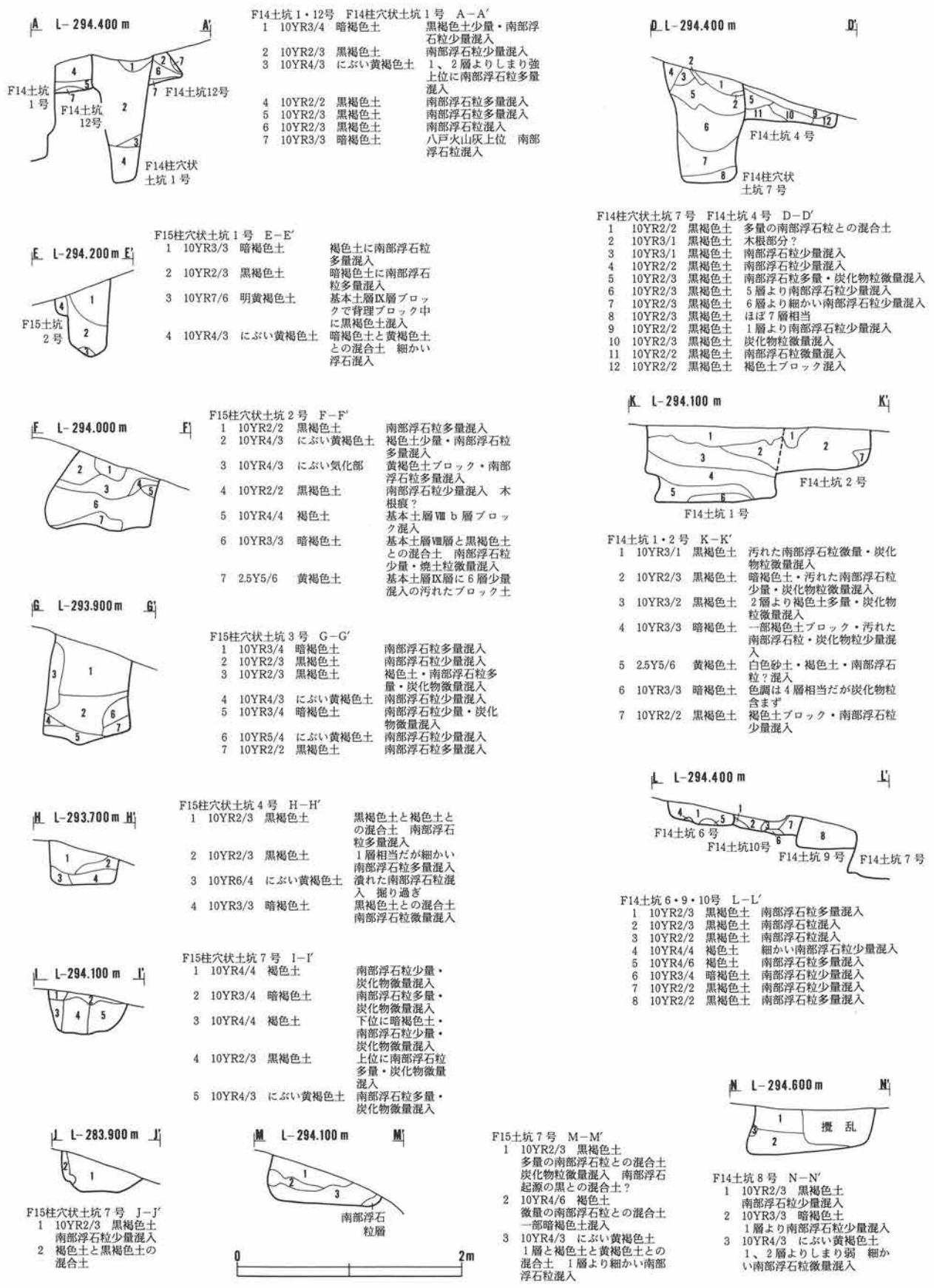


第64図 土坑・柱穴状土坑 (16)



- F14柱穴3号 B-B'**
- 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒少量混入
- F14土坑11号 F14柱穴5号 C-C'**
- 10YR2/2 黒褐色土 上位黒色強 南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 上位に南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 細かい南部浮石粒多量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 細かい南部浮石粒多量混入

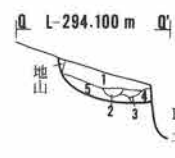
第65図 土坑・柱穴状土坑 (17)



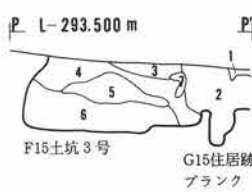
第66図 土坑・柱穴状土坑 (18)



- F15土坑1号 O-O'
- 10YR3/3 暗褐色土
基本土層Ⅷ b層・黒褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土
明黄褐色土に小ブロック・南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/1 黒褐色土
焼けた南部浮石粒・炭化物粒微量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土
褐色土と微量の南部浮石粒との混合土
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土
明黄褐色土ブロック・黒褐色土混入



- F15土坑4号 Q-Q'
- 10YR2/3 黒褐色土
 - 10YR3/3 暗褐色土
 - 10YR3/3 暗褐色土
 - 10YR2/3 黒褐色土
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- F15柱穴状土坑6号
- 暗褐色土ブロック・南部浮石粒多量混入
南部浮石粒多量混入
黒褐色土微量・南部浮石粒多量混入
南部浮石粒多量混入
黄褐色土に暗褐色土少量・南部浮石粒少量混入



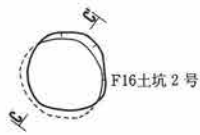
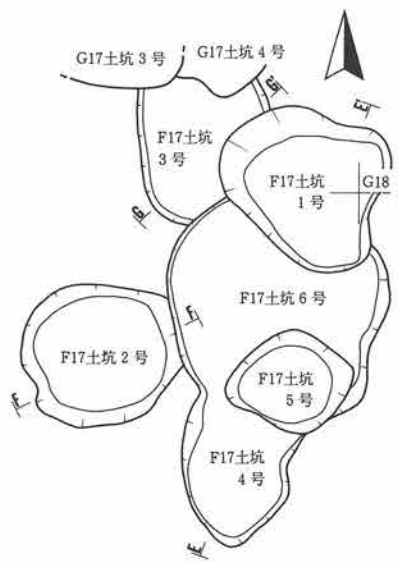
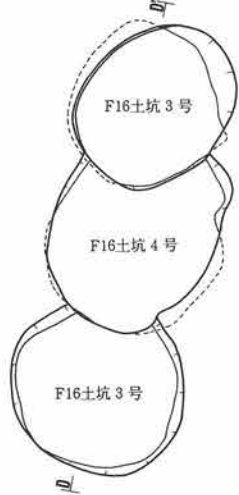
- F15土坑3号 P-P'
- 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒3%混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒2%混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 南部浮石粒5%混入
 - 10YR4/4 褐色土と10YR3/2 黒褐色土の混合土
南部浮石粒5%・八戸火山灰多量・炭化材混入
 - 10YR2/1 黒褐色土と10YR2/3 黒褐色土の混合土
南部浮石ブロック10%混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 中微量・南部浮石粒1%・八戸火山灰1%混入
 - 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒1%程混入



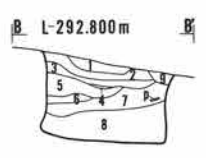
- F15土坑6号 S-S'
- 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土と褐色土との混合土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・焼土粒微量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土に黒褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 基本土層Ⅷ b層・黒褐色土・南部浮石粒微量混入



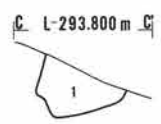
- F15土坑5号 R-R'
- 10YR2/3 黒褐色土
白色砂土少量・南部浮石粒多量混入



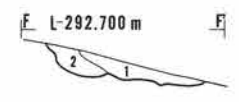
- F17柱穴状土坑 A-A'
- 10YR2/1 黒色土 シルト
南部浮石粒7~10%・八戸火山灰10%・炭化物粒微量混入



- F16土坑1号 B-B'
- 10YR3/3 暗褐色土 褐色粘土と多量の南部浮石粒との混合土 焼土粒微量・炭化物粒少量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 明黄褐色土と暗褐色土と南部浮石粒との混合土
 - 10YR5/4 にぶい黄褐色土 褐色土との混合土 南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 基本土層Ⅷ b層相当
 - 10YR3/3 暗褐色土 細かい南部浮石粒・1層より炭化物粒少量混入
 - 10YR4/4 褐色土と10YR7/4 にぶい黄褐色土(明黄褐色土)との混合土
 - 10YR2/4 灰黄褐色土 明黄褐色土粒と細かい南部浮石粒との混合土
 - 10YR4/4 褐色土と10YR7/4 にぶい黄褐色土(明黄褐色土)との混合土 暗褐色土混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 1層より炭化物粒少量混入



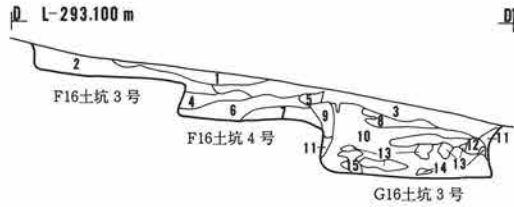
- F16土坑2号 C-C'
- 10YR3/4 暗褐色土と10YR4/6 褐色土の混合土 南部浮石粒多量混入



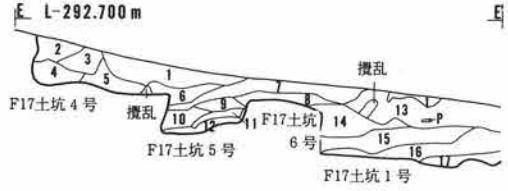
- F17土坑2号 F-F'
- 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック少量・南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 明黄褐色土ブロック・暗褐色土混入



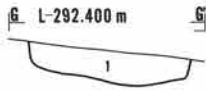
第67図 土坑・柱穴状土坑 (19)



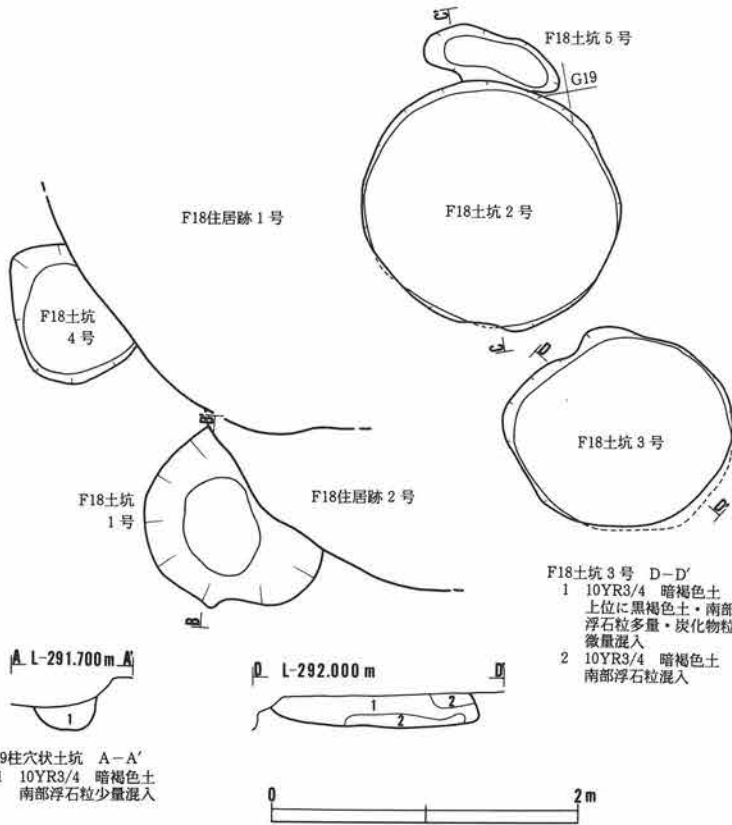
- F16土坑3・4号 G16土坑3号 D-D'
- | | | | |
|----|---------|---------|------------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物微量混入 人為堆積 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒・焼土粒多量・炭化物粒少量混入 人為堆積 |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 4層相当 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒多量・焼土粒微量混入 |
| 5 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 10層相当 |
| 6 | 5YR2/3 | 極暗褐色土 | 南部浮石粒少量・焼土ブロック多量混入 人為堆積 |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量・焼土微量混入 |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 白色砂土少量・南部浮石粒多量混入 |
| 9 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黒褐色土に白色砂土・褐色土・八戸火山灰層混入 |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 八戸火山灰層・大不動浮石凝灰岩・焼土粒・炭化物粒混入 |
| 11 | 10YR4.4 | 褐色土 | 八戸火山灰層 掘り過ぎ? |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 焼土粒・炭化物粒混入 |
| 13 | 10YR4/4 | 褐色土 | 八戸火山灰層ブロック土 |
| 14 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
| 15 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 細かい南部浮石粒・八戸火山灰混入 |



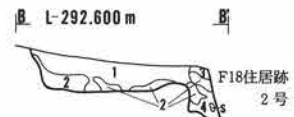
- F17土坑1・4・5・6号 E-E'
- | | | | |
|----|---------|---------|---------------------------------|
| 1 | 17YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・八戸火山灰層混入 |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 八戸火山灰層 暗褐色土少量・南部浮石粒微量混入 |
| 4 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 暗褐色土微量・南部浮石粒・八戸火山灰層混入 |
| 5 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 黒褐色土多量目名仏・八戸火山灰層混入 |
| 6 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 八戸火山灰層 黒褐色土多量・南部浮石粒混入 |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 8 | 10YR4/4 | 褐色土 | 八戸火山灰層に暗褐色土微量混入 |
| 9 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黒褐色土・南部浮石粒・八戸火山灰層混入 |
| 10 | 10YR4/4 | 褐色土 | 八戸火山灰層ブロックに南部浮石粒少量混入 |
| 11 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 黒褐色土・細かい南部浮石粒・八戸火山灰層混入 |
| 12 | 10YR4/4 | 褐色土 | 八戸火山灰下位の褐色土部分 掘り過ぎ |
| 13 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒混入 |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黒褐色土・南部浮石粒少量・八戸火山灰層混入 |
| 15 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 汚れた基本土層IX層相当(高館火山灰) 人為堆積 |
| 16 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 15層よりブロック状になっている 黒褐色土微量混入 |
| 17 | 10YR7/4 | にぶい黄褐色土 | 砂層 基本土層IX層の粒の細かい部分? 本層下位に基本土層X層 |



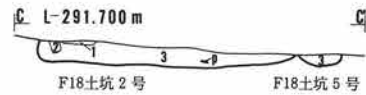
- F17土坑3号 G-G'
- | | | | |
|---|---------|------|-----------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 明黄褐色土(砂土)・褐色土ブロック・南部浮石粒多量混入 |
|---|---------|------|-----------------------------|



- F18土坑3号 D-D'
- | | | | |
|---|---------|------|--------------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 上位に黒褐色土・南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石粒混入 |

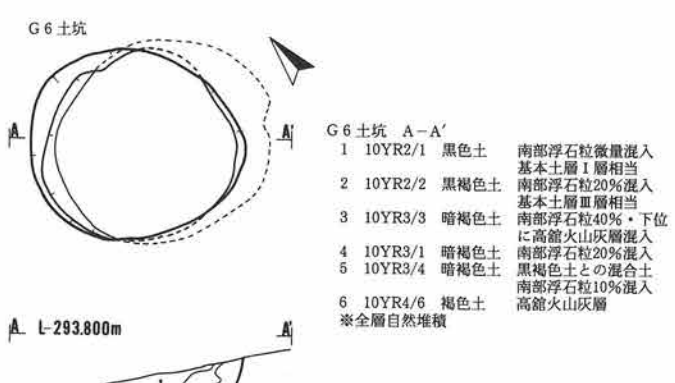
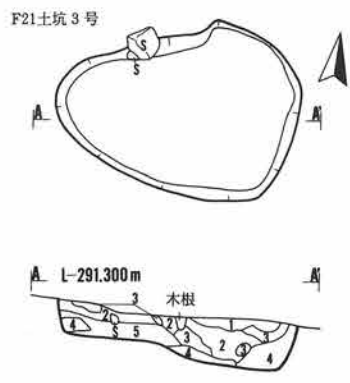
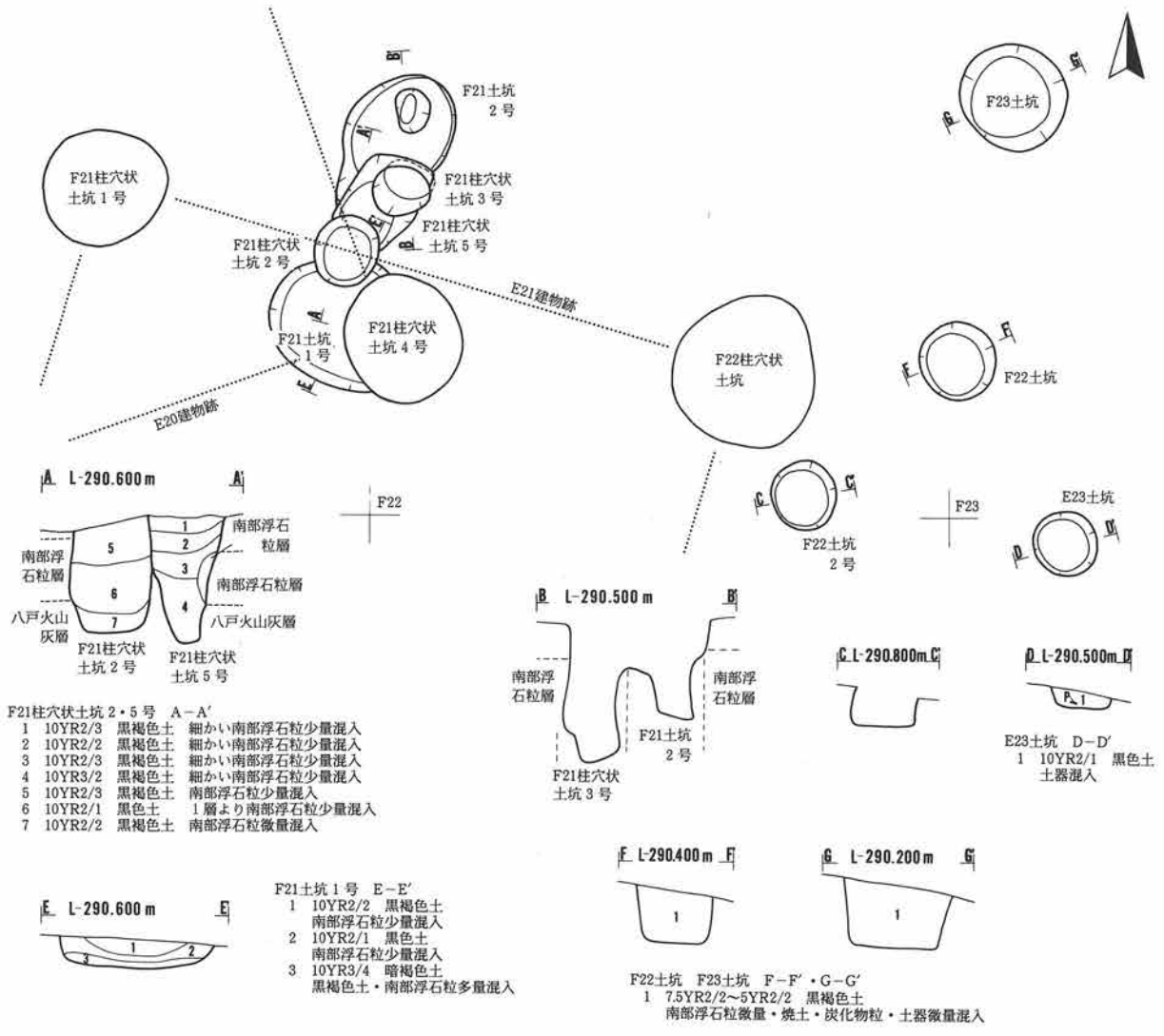


- F18土坑1号 B-B'
- | | | | |
|---|-------------|---------|------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色土 | 暗褐色土・南部浮石粒少量混入 |
| 3 | 10YR4/4~3/4 | 褐色~暗褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |

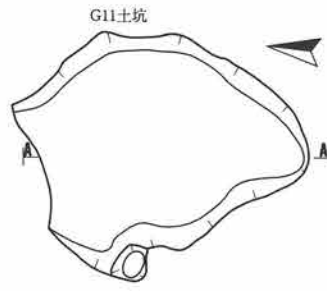


- F18土坑2・5号 C-C'
- | | | | |
|---|---------|---------|-----------------------------|
| 1 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 明黄褐色土・褐色土混入 F18住居跡1号の貼り床部分? |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 八戸火山灰層ブロック土 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 暗褐色土と炭化物層との混合土 南部浮石粒混入 |

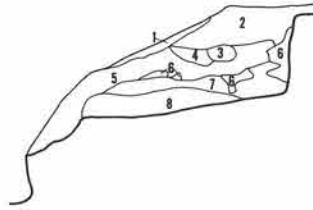
第68図 土坑・柱穴状土坑 (20)



第69図 土坑・柱穴状土坑 (21)

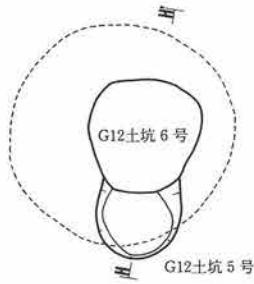


A L-295.500m

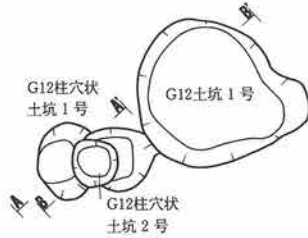
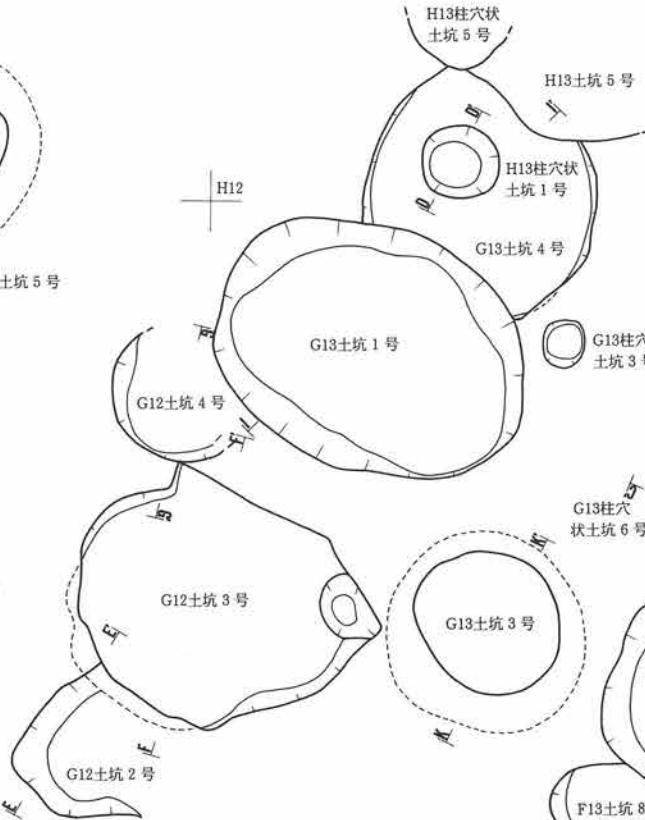


G11土坑 A-A'

- 1 10YR3/1 黒褐色土
基本土層 I 層相当
- 2 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色土
濃れた南部浮石粒少量混入
- 4 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 5 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 6 10YR6/8 明黄褐色土
南部浮石粒層
- 7 10YR2/3 黒褐色土
汚れた南部浮石粒多量混入
- 8 10YR3/3 暗褐色土
粗い南部浮石粒多量混入



G12土坑 5号



G12柱穴状土坑 1号
G12柱穴状土坑 2号

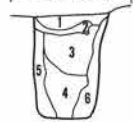
A L-294.900m

G12柱穴状土坑 1号
G12柱穴状土坑 2号

G12柱穴状土坑 1・2号 A-A'

- 1 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒混入
- 2 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒微量・炭化物粒混入

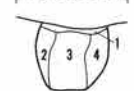
C L-293.400m C'



G13柱穴状土坑 6号 C-C'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土
南部浮石粒微量混入
- 2 10YR4/4 褐色土
八戸火山灰下位土 南部浮石粒少量混入
- 3 10YR2/3 黒褐色土
径1~2mmの南部浮石粒混入
- 4 10YR3/3 暗褐色土
3層より南部浮石粒多量混入
- 5 10YR3/3 暗褐色土
黄褐色土・黒褐色土・南部浮石粒少量混入 掘り方部分
- 6 10YR3/3 暗褐色土
5層より黄褐色土少量混入 掘り方部分

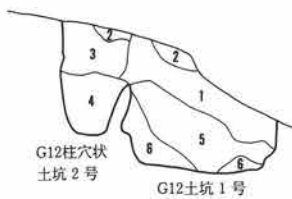
D L-292.900m D'



H13柱穴状土坑 1号 D-D'

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土
黒褐色土・南部浮石粒少量混入
八戸火山灰混入 G13土坑4号貼り床部分
- 2 10YR3/2 黒褐色土
南部浮石粒微量混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒少量混入
- 4 10YR3/3 暗褐色土
南部浮石粒少量混入

B L-295.200m



G12柱穴状土坑 2号
G12土坑 1号

G12柱穴状土坑 2号 G12土坑 1号 B-B'

- 1 10YR3/1 黒褐色土
南部浮石粒若干少量混入 攪乱?
- 2 10YR3/1 黒褐色土
基本土層 I 層 or II 層類似
- 3 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒層ブロック混入
- 4 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒少量混入
- 5 10YR2/2 黒褐色土
炭化物粒微量混入
- 6 10YR2/2 黒褐色土
八戸火山灰層上位の黒褐色土層
南部浮石粒微量混入



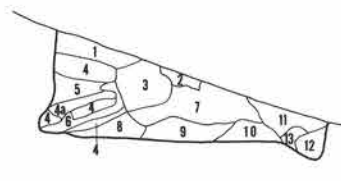
第70図 土坑・柱穴状土坑 (22)

E L-295.200 m



G12土坑 2号 E-E'
1 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入

F L-294.700 m



G12土坑 3号 F-F'

- | | | | |
|----|---------|--------------|---------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量混入 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 基本土層 1層相当? |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 1層に褐色土混入 |
| 4 | 10YR6/8 | 明黄褐色土 | 南部浮石粒層 |
| 4a | | 汚れた南部浮石粒層 | |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色土と10YR4/3 | にぶい黄褐色土と汚れた南部浮石粒層の混合土 |
| 6 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒少量混入 |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 7層相当? |
| 9 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 白色粘土小ブロック・炭化物粒少量混入 |
| 10 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 八戸火山灰層ブロック土 |
| 11 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 1層類似 |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量混入 |
| 13 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 黒褐色土と八戸火山灰上位との混合土 |

G L-293.800 m



G12土坑 4号 G-G'

- | | | | |
|---|---------|------|--------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石粒多量・壁際に炭化物微量混入 |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・壁際に炭化物微量混入 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰上位層 掘り過ぎ |

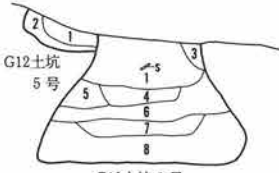
L L-293.100 m



G13土坑 5号 L-L'

- | | | | |
|---|---------|------|--------------|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 暗褐色土に炭化物微量混入 |
| 5 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 混入物なし |

H L-293.600 m



G12土坑 5号 H-H'

- | | | | |
|---|---------|------|------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒多量混入 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰上位層 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色土 | 八戸火山灰上位層 |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 6 | 10YR3/3 | 黒褐色土 | 黒褐色土・南部浮石粒微量・八戸火山灰下位混入 |
| 7 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 黄褐色土少量・南部浮石粒微量混入 |
| 8 | 10YR6/4 | 褐色土 | 汚れた南部浮石粒多量混入 |
| | | | 八戸火山灰下位層 |
| | | | 黒褐色土微量混入 |
| | | | 本層下位に厚さ1cm程の暗褐色土層 |

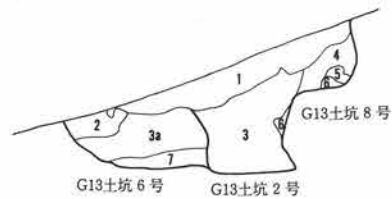
I L-293.900 m



G13土坑 1・4号 I-I'

- | | | | |
|----|---------|---------|---------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量混入 基本土層Ⅱ層相当 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒少量混入 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 2層に黄褐色土・汚れた南部浮石粒混入 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 黄褐色土との混合土 南部浮石粒多量・炭化物微量混入 |
| 5 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 4層に黄褐色土多量混入 |
| 6 | 10YR7/8 | 黄褐色土 | 八戸火山灰層下位に見られる土層 (高館火山灰?) |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 5層より黄褐色土多量混入 |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒多量混入 |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 7層より黄褐色土多量混入 |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 八戸火山灰の壁崩落土 |
| 11 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・局部的に炭化物粒少量混入 |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 黄褐色土ブロック・細かい南部浮石粒・炭化物少量混入 |
| 13 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 14 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量混入 |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰上位との混合土 南部浮石粒少量混入 |
| 16 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 17 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 5層より黒褐色土多量混入 別土埋土 |

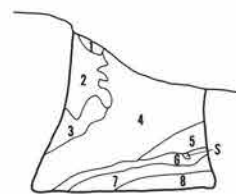
J L-294.500 m



G13土坑 2・6号 F13土坑 8号 J-J'

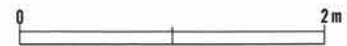
- | | | | |
|----|---------|------------|------------------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 基本土層Ⅲ層上位相当? 基本土層Ⅰ層の可能性あり |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石粒・八戸火山灰層下位混入 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒多量・八戸火山灰層混入 基本土層Ⅲ層類似 人為堆積 |
| 3a | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒・八戸火山灰ブロック混入 |
| 4 | | 3層相当 | |
| 5 | | 南部浮石粒層ブロック | |
| 6 | | 八戸火山灰下位層 | 南部浮石粒 (ブロック) 混入 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 6層より南部浮石粒多量・八戸火山灰層混入 |

K L-294.100 m

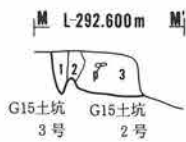


G13土坑 3号 K-K'

- | | | | |
|---|---------|---------|---------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 (上層の土) |
| 2 | 10YR4/6 | 褐色土 | 八戸火山灰下位層に黒褐色土微量・南部浮石粒微量混入 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒殆ど含まず |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 |
| 5 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 6 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 八戸火山灰層に汚れた褐色土混入 |
| 7 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 汚れた南部浮石粒少量混入 |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 黄褐色土粒少量混入 |



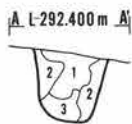
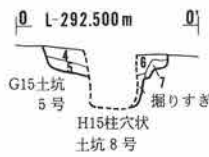
第71図 土坑・柱穴状土坑 (23)



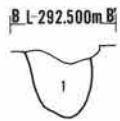
- G15土坑 2・3号 M-M'
- 10YR2/3 黒褐色土
褐色土・南部浮石粒多量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土
黄褐色土・暗褐色土・南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土
黒褐色土・褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入



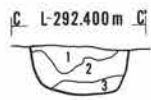
- G15土坑 4・5号 H15柱穴状土坑 8号 N-N'・O-O'
- 2.5Y5/4 黄褐色土
微量の黒褐色土との混合土
パミス混入 貼り床部分
 - 10YR4/4 褐色土
基本土層X層ブロック混入
掘り過ぎの可能性あり
 - 10YR4/4 褐色土
基本土層X層・VIII層混入
 - 10YR3/3 暗褐色土
褐色土との混合土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土
褐色土との混合土 南部浮石粒微量混入
 - 2.5Y4/2 暗灰黄色土
明黄褐色土との混合土
 - 10YR7/4 にぶい黄褐色土
基本土層X層ブロック土
黒褐色土微量混入



- G16柱穴状土坑 1号 A-A'
- 10YR2/2 黒褐色土
褐色土・南部浮石粒・炭化物粒微量混入
 - 10YR4/4 褐色土
基本土層X層に黒褐色土微量・南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/4 褐色土
基本土層X層に黒褐色土微量・南部浮石粒微量混入



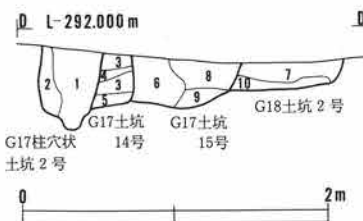
- G16柱穴状土坑 3号 B-B'
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土
黒褐色土との混合土 南部浮石粒少量混入



- G16柱穴状土坑 4号 C-C'
- 10YR2/2 黒褐色土
褐色土粒・南部浮石粒・焼土粒・炭化物混入
 - 10YR4/4 褐色土
南部浮石粒・八戸火山灰起源のパミス?混入
 - 10YR3/3 暗褐色土
八戸火山灰層



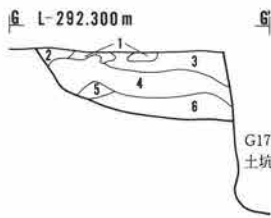
- G16土坑 1号 E-E'
- 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒少量・炭化物微量混入



- G17柱穴状土坑 2号 G17土坑 14・15号 H18土坑 2号 D-D'
- 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒微量混入 柱穴部分
 - 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒微量・礫片(小石)多量混入
 - 10YR6/6 明黄褐色土
暗褐色土微量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土
明黄褐色土微量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土
南部浮石粒少量混入 柱穴部分
 - 10YR2/3 黒褐色土
黄褐色土と少量の南部浮石粒との混合土
 - 10YR3/4 暗褐色土
黄褐色土と少量の南部浮石粒との混合土
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土
黄褐色土(明黄褐色土)・暗褐色土・南部浮石粒混入
 - 10YR4/4 褐色土
基本土層IX層下の褐色土層 掘り過ぎ

- G16土坑 2号 F-F'
- 10YR3/3 暗褐色土
黒褐色土との混合土
南部浮石粒・炭化物粒微量混入

第73図 土坑・柱穴状土坑 (25)



G17土坑1号 G-G'

- | | | |
|---|---------------|------------------------------------------|
| 1 | 10YR6/6 明黄褐色土 | 基本土層IX層ブロック土
黒褐色土小ブロック混入 |
| 2 | 10YR4/4 褐色土 | 汚れた基本土層X層ブロック土
黒褐色土粒微量混入 |
| 3 | 10YR2/3 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒混入 |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色土 | 黒褐色土に黄褐色土粒少量・
南部浮石粒少量・炭化物粒混入 |
| 5 | 10YR2/3 黒褐色土 | 炭化物粒微量混入 |
| 6 | 10YR2/2 黒褐色土 | 暗褐色土との混合土 粗い
南部浮石粒・焼土粒微量・
炭化物粒少量混入 |



G17土坑2号 H-H'

- | | | |
|---|--------------|--------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色土 | 黒褐色土・南部浮石
粒少量混入 |
|---|--------------|--------------------|



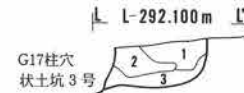
G17土坑3号 I-I'

- | | | |
|---|-----------------|-----------------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 黄褐色土との混合土 南部浮石粒
微量混入 |
| 2 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 汚名黄褐色土微量・黄褐色土・褐
色土・南部浮石粒微量混入 |
| 3 | 10YR3/4 暗褐色土 | 褐色土(基本土層X層)ブロック
土に黒褐色土・南部浮石粒微量混
入 |
| 4 | 2.5Y6/3 黄褐色土 | 基本土層IX層とX層の混合土に黒
褐色土混入 |
| 5 | 10YR4/4 褐色土 | 基本土層X層ブロック土
掘り過ぎ |
| 6 | 10YR2/2 黒褐色土 | 基本土層IV層ブロック土 |



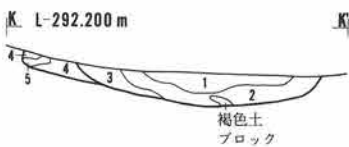
G17土坑4号 J-J'

- | | | |
|---|----------------|-------------------------------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色土 | 黄褐色土・南部浮石粒微
量・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 10YR2/3 黒褐色土 | 褐色土との混合土 南部
浮石粒少量・炭化物粒少
量混入 |
| 3 | 5YR4/3 にぶい赤褐色土 | 黒褐色土微量・焼土・炭
化物粒微量混入 |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色土 | 黒褐色土・褐色土・下位
に幅2cmで基本土層IX層・
炭化物粒微量混入 |
| 5 | 10YR2/2 黒褐色土 | 褐色土ブロック混入 |
| 6 | 2.5Y5/4 黄褐色土 | 基本土層IX層に黒褐色土
ブロック少量・炭化物粒
微量混入 |



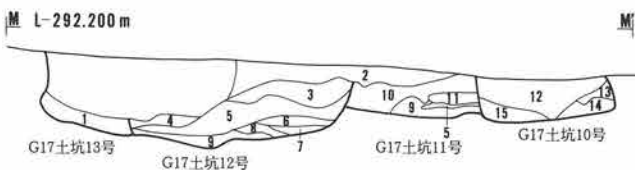
J17土坑8号 L-L'

- | | | |
|---|--------------|-----------------------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色土 | 黄褐色土・南部浮石粒・
炭化物微量混入 |
| 2 | 10YR3/4 暗褐色土 | 黄褐色土・南部浮石粒・
炭化物少量混入 |
| 3 | 10YR3/3 暗褐色土 | 八戸火山灰下位相当
南部浮石粒微量・炭化
物粒少量混入 |



G17土坑6・7号 K-K'

- | | | |
|---|-----------------|------------------------------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐色土 | 褐色土ブロック・南部浮
石粒少量混入 基本土層
I層類似 |
| 2 | 10YR2/2 黒褐色土 | 1層より南部浮石粒少量
混入 |
| 3 | 10YR2/3 黒褐色土 | 褐色土との混合土 南部
浮石粒微量・炭化物粒微
量混入 |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色土 | 褐色土・黒褐色土・南部
浮石粒少量混入 |
| 5 | 10YR7/4 にぶい黄褐色土 | 4層より褐色土多量混入 |



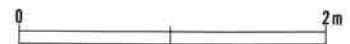
G17土坑10・11・12・13号 M-M'

- | | | |
|----|------------------------|-----------------------------------------|
| 1 | 10YR4/4 褐色土 | 八戸火山灰層ブロック土? |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色土 | 黒褐色土と明黄褐色土との混合土 南部浮石粒少
量混入 |
| 3 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 | 明黄褐色土・黄褐色土・黒褐色土・南部浮石粒少
量・炭化物粒微量混入 |
| 4 | 10YR4/4 褐色土 | 1層相当 |
| 5 | 10YR2/2 黒褐色土 | 黄褐色土と褐色土と黒褐色土との混合土 南部浮
石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 6 | 10YR4/4 褐色土 | 1層相当 |
| 7 | 10YR7/6 明黄褐色土 | 砂土 基本土層X層相当 |
| 8 | 10YR4/4~5/3 褐色~にぶい黄褐色土 | 基本土層X層ブロック土 |
| 9 | 10YR7/6 明黄褐色土(砂土) | 基本土層IX層ブロックと10YR4/4褐色土ブロックとの混合土 |
| 10 | 10YR3/3 暗褐色土 | 褐色土・黒褐色土・南部浮石粒微量・12層よりに
黄褐色土多量混入 |
| 11 | 10YR7/6 明黄褐色土 | 砂土 基本土層X層相当 |
| 12 | 10YR3/3 暗褐色土 | 褐色土・黒褐色土・南部浮石粒少量・炭化物粒微
量混入 |
| 13 | 10YR5/4 にぶい黄褐色土 | 基本土層IX層とX層の混合土 |
| 14 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 13層に暗褐色土混入 |
| 15 | 10YR2/2 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |

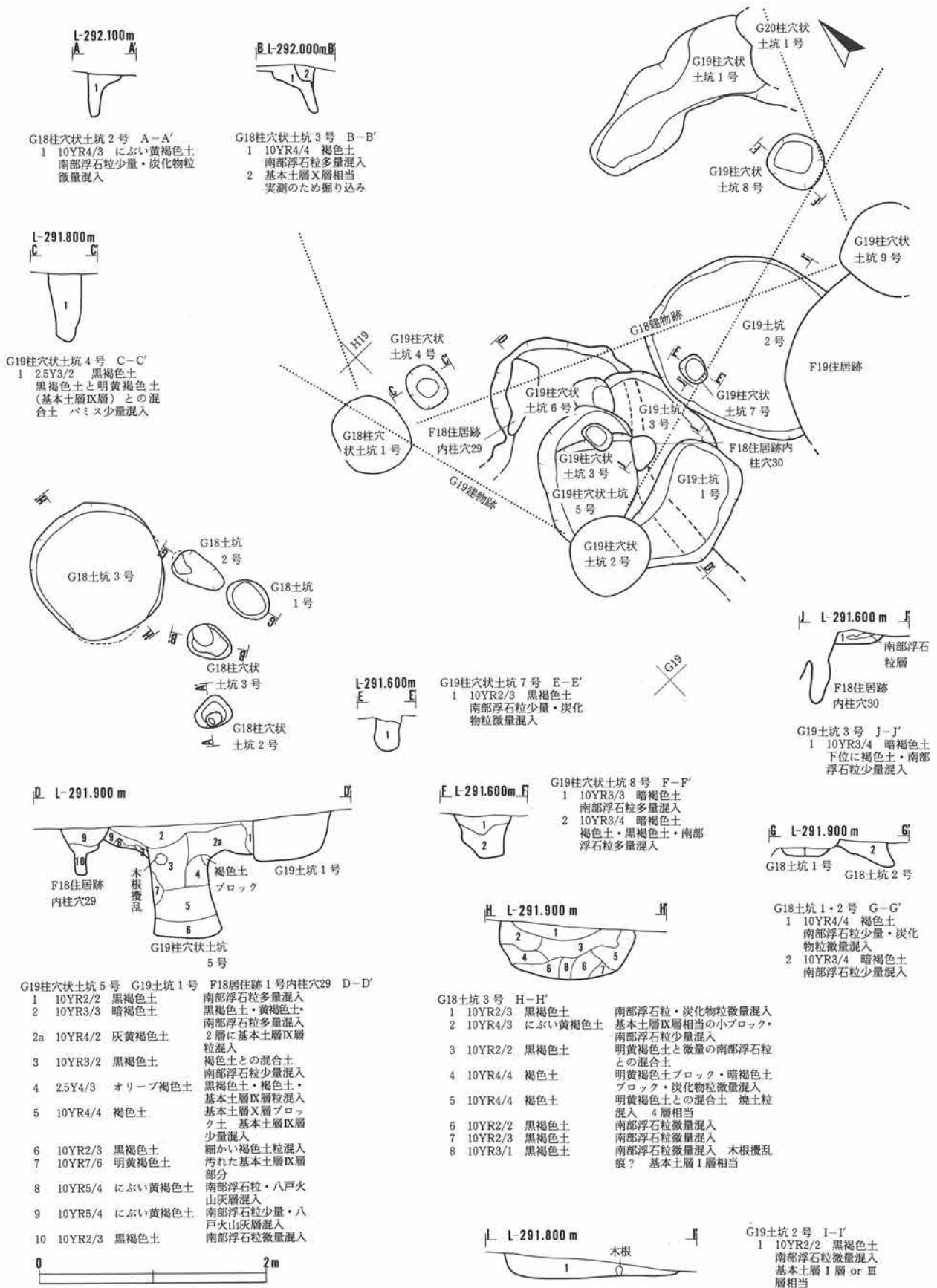


G17土坑16号 N-N'

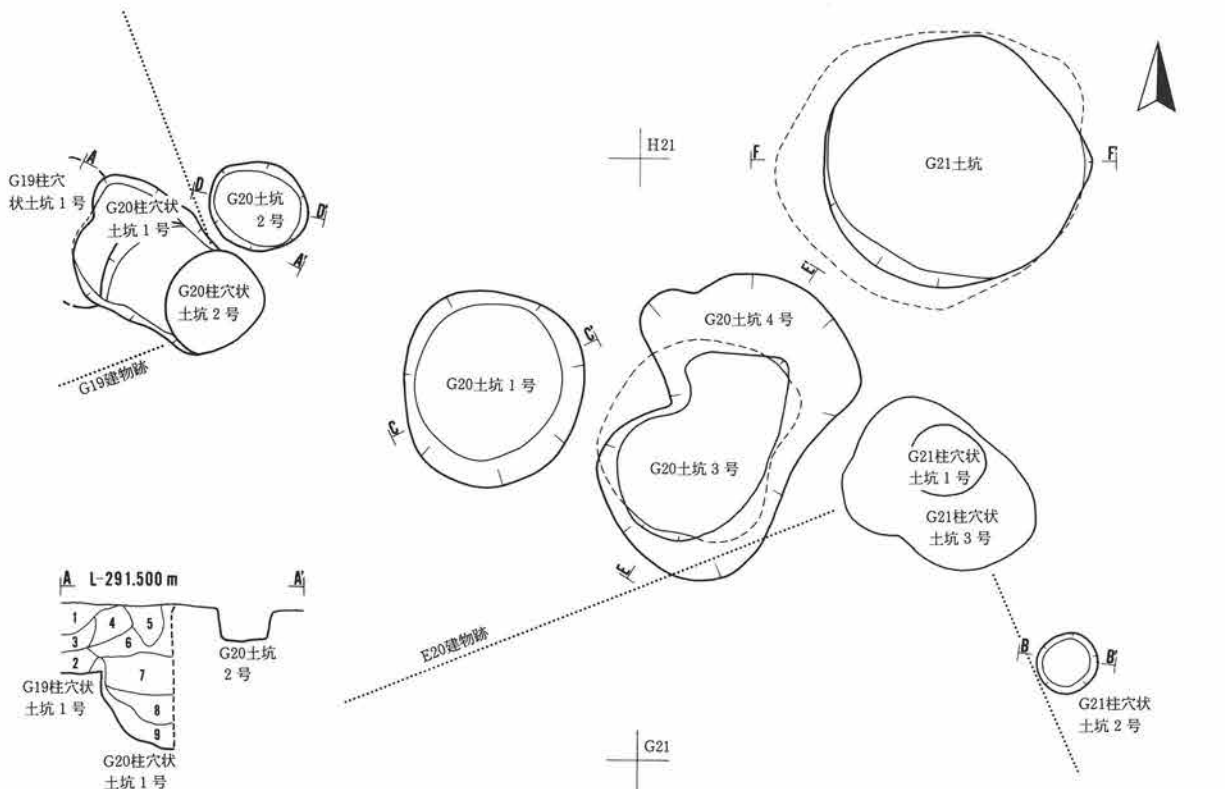
- | | | |
|---|-----------------|-----------------|
| 1 | 10YR5/6 黄褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 2 | 10YR4/6 褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 3 | 10YR5/8 黄褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 4 | 10YR4/4 褐色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒混入 |
| 5 | 10YR2/1 黒色土 | 南部浮石粒少量・炭化物微量混入 |
| 6 | 10YR5/4 にぶい黄褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |



第74図 土坑・柱穴状土坑 (26)



第75図 土坑・柱穴状土坑 (27)



- G19柱穴状土坑1号 G20柱穴1号 A-A'
- | | | |
|---|-----------------|-----------------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色土 | 十和田 a・b 層・南部浮石粒混入 |
| 2 | 10YR5/6 黄褐色土 | 基本土層IX層相当 掘り過ぎ |
| 3 | 10YR2/3 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 1層類似 |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色土 | 黒褐色土との混合土 南部浮石粒混入 |
| 5 | 10YR3/4 暗褐色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 6 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 暗褐色土・明黄褐色土・南部浮石粒少量混入 |
| 7 | 10YR3/4 暗褐色土 | 明黄褐色土・浅黄橙色土混入 |
| 8 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 明黄褐色土・浅黄橙色土・褐色土少量混入 |
| 9 | 2.5Y6/4 にぶい黄褐色土 | 基本土層IX層の土 若干白濁? (砂質土) |

- L-291.000m B-B'
- G21柱穴2号 B-B'
- | | | |
|---|--------------|-----------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
|---|--------------|-----------|

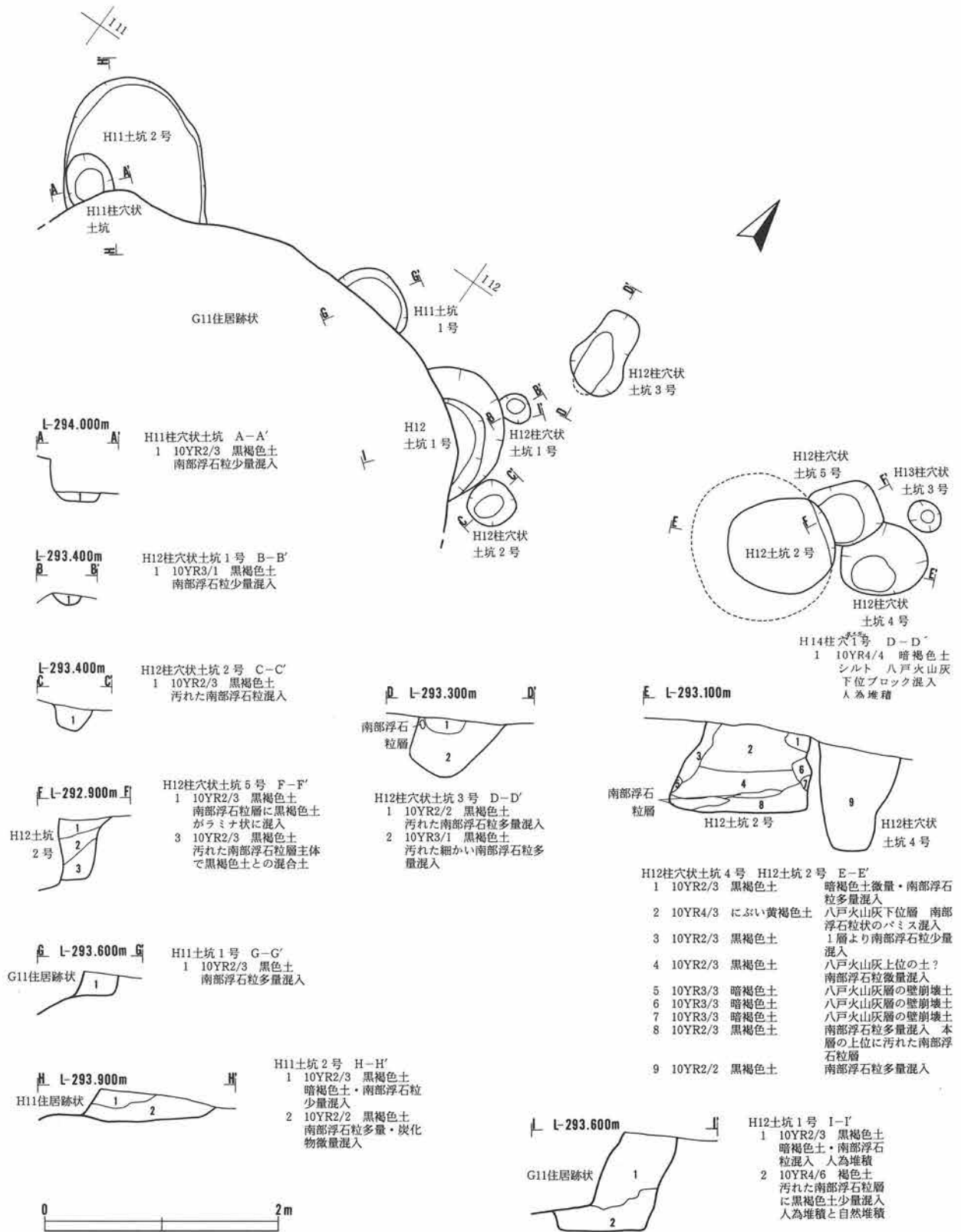
- L-291.400m C-C'
- G20土坑1号 C-C'
- | | | |
|---|--------------|------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 褐色土・南部浮石粒混入 人為堆積 |
|---|--------------|------------------|

- L-291.400m D-D'
- G20土坑2号 D-D'
- | | | |
|---|--------------|-------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 暗褐色土と多量の南部浮石粒との混合土 黄褐色土ブロック混入 |
|---|--------------|-------------------------------|

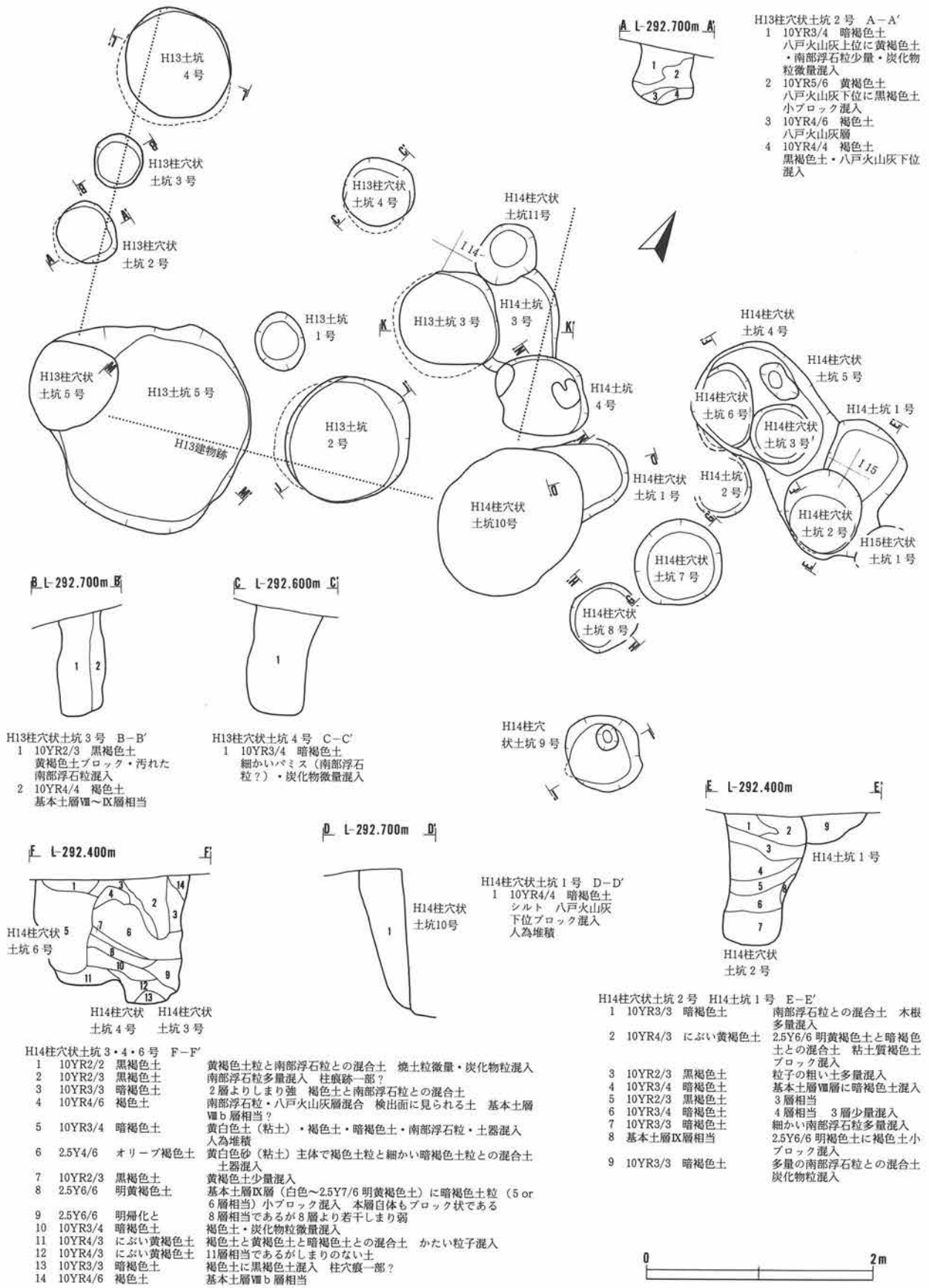
- L-291.100m E-E'
- G21土坑 F-F'
- | | | |
|----|----------------------------------|-------------------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色土 | 南部浮石粒3%以下混入 |
| 2 | 10YR2/2 黒褐色土 | シルト 砂土・南部浮石粒3%以下混入 |
| 3 | 10YR2/1 黒色土 | シルト 砂土・南部浮石粒3%以下混入 木根攪乱 |
| 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土と 10YR4/6 褐色土の混合土 | 粘土質シルト 南部浮石粒20%混入 |
| 5 | 10YR2/3 黒褐色土 | シルト 南部浮石粒5~7%混入 |
| 6 | 10YR2/1 黒色土 | シルト 南部浮石粒7~10%混入 |
| 7 | 10YR5/8 黄褐色土 | 粘土質土 基本土層Ⅷb層の再堆積 7層相当 |
| 7a | 10YR7/8 黄褐色土 | シルト 南部浮石粒10~15%混入 |
| 8 | 10YR2/1 黒色土 | シルト 南部浮石粒10~15%混入 |
| 9 | 10YR2/1 黒色土 | シルト 南部浮石粒堆積層 |
| 10 | 10YR3/1 黒褐色土と10YR6/6 明黄褐色土の混合土 | シルティローム 基本土層Ⅷ層の再堆積 |
| 11 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | |
- ※床面は基本土層Ⅷb層相当

- L-291.300m E-E'
- G20土坑3・4号 E-E'
- | | | |
|----|-----------------|-------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 黒褐色土 | 細かい南部浮石粒・下位に焼土粒と炭化物粒混入 |
| 1a | 細かい南部浮石粒多量混入土層 | 褐色土ブロック土 |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色土 | 黄褐色土微量混入 |
| 3 | 10YR2/3 黒褐色土 | 黄褐色土ブロック多量混入 |
| 4 | 10YR4/2 灰黄褐色土 | 1、3層より南部浮石粒少量混入 |
| 5 | 10YR2/2 黒褐色土 | 1、3、5層より南部浮石粒少量混入 |
| 6 | 10YR3/2 黒褐色土 | 大きい南部浮石粒少量混入 |
| 7 | 10YR2/3 黒褐色土 | 1層より南部浮石粒少量混入 |
| 8 | 10YR2/3 黒褐色土 | 8層より南部浮石粒多量混入 |
| 9 | 10YR2/2 黒褐色土 | 黄褐色土・黒褐色土微量・大きい南部浮石粒多量混入 壁崩壊土 |
| 10 | 10YR5/4 にぶい黄褐色土 | 壁崩壊土 |
| 11 | 10YR6/4 にぶい黄褐色土 | 黒褐色土・褐色土混入 |
| 12 | 10YR3/3 暗褐色土 | 12層より黒褐色土少量混入 |
| 13 | 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 1層より南部浮石粒少量混入 |
| 14 | 10YR2/3 黒褐色土 | |

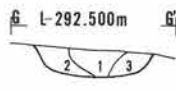
第76図 土坑・柱穴状土坑 (28)



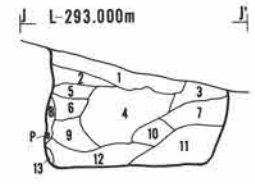
第77図 土坑・柱穴状土坑 (29)



第78図 土坑・柱穴状土坑 (30)



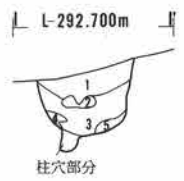
H14柱穴状土坑 7号 G-G'
 1 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒少量・八戸火山灰上位ブロック・炭化物粒微量混入
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色土 南部浮石粒と八戸火山灰との混合土
 3 10YR3/4 暗褐色土 1層より南部浮石粒多量混入



H13土坑 2号 J-J'
 1 10YR2/2 黒褐色土 シルト 一部径10~20mmの黒褐色土ブロック5%・径5mm以下の南部浮石粒7%混入
 2 10YR3/3 暗褐色土 シルト 径1~5mmの南部浮石粒10%混入 崩壊土?
 3 10YR3/3 暗褐色土 シルト 2層より若干しまり弱
 4 10YR2/3 黒褐色土 シルト 1層相当
 5 10YR2/3 黒褐色土 シルト 1、4層よりしまり弱
 6 10YR3/3 暗褐色土 シルト 径1~5mmの南部浮石粒5%混入
 7 10YR3/3 暗褐色土 シルト 径1~2mmの南部浮石粒3%混入
 8 10YR4/6 褐色土 シルト 4層よりしまり強 径1~2mmの南部浮石粒2%混入
 9 10YR2/3 黒褐色土 シルト 南部浮石粒含まず 壁相当
 10 10YR2/3 黒褐色土 シルト 径1~2mmの南部浮石粒2%混入
 11 10YR2/3 黒褐色土 シルト 径1~5mmの南部浮石粒7%混入 崩壊土?
 12 10YR3/3 暗褐色土 シルト 南部浮石粒混入
 13 10YR4/6 褐色土 シルト 径1~2mmの南部浮石粒3%混入 壁相当

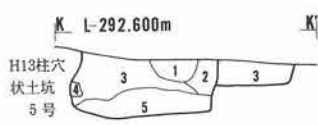


H14柱穴状土坑 8号 H-H'
 1 10YR3/4 暗褐色土 砂質シルト 南部浮石粒20%混入

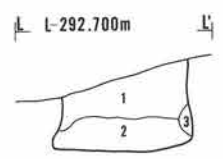


H14柱穴状土坑 9号 I-I'
 1 10YR2/2 黒褐色土 局所的に砂・南部浮石粒・炭化物微量混入
 2 5YR2/2 黒褐色土 焼土
 3 10YR2/3 黒褐色土 1層より褐色土多量で南部浮石粒少量混入
 4 10YR6/8 明黄褐色土 八戸火山灰下位の白色土層と暗褐色土の混合土
 5 10YR3/3 暗褐色土 3層と4層の混合土

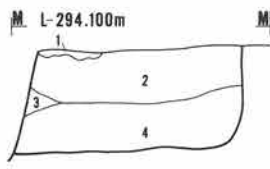
H13土坑 3号 H14土坑 3号 K-K'
 1 10YR3/1 黒褐色土 少量の南部浮石粒との混合土
 2 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土と八戸火山灰との混合土 南部浮石粒少量混入
 3 10YR2/2 黒褐色土 汚れた細かい南部浮石粒多量混入
 4 10YR3/4 暗褐色土 八戸火山灰下位ブロック土
 5 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土・南部浮石粒・八戸火山灰上位混入 人為堆積



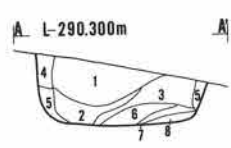
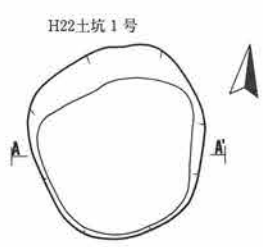
H13土坑 5号 M-M'
 1 10YR2/2 黒褐色土 細かい南部浮石粒多量混入 基本土層1層相当
 2 10YR2/3 黒褐色土 細かい南部浮石粒多量・炭化物微量混入
 3 10YR6/6 明黄褐色土 大不動浮石凝灰岩?
 4 10YR2/3 黒褐色土 2層より汚れた南部浮石粒多量混入



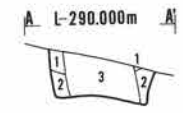
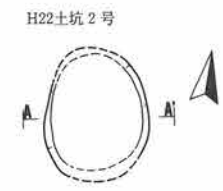
H13土坑 4号 L-L'
 1 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒多量・炭化物微量混入
 2 10YR3/2 黒褐色土 1層より南部浮石粒少量・炭化物微量混入
 3 10YR3/3 暗褐色土 八戸火山灰上位層 崩壊土



H14土坑 4号 N-N'
 1 10YR3/3 黒褐色土 少量の南部浮石粒との混合土 自然堆積
 2 10YR3/2 黒褐色土 黒褐色土と南部浮石粒との混合土 木根攪乱

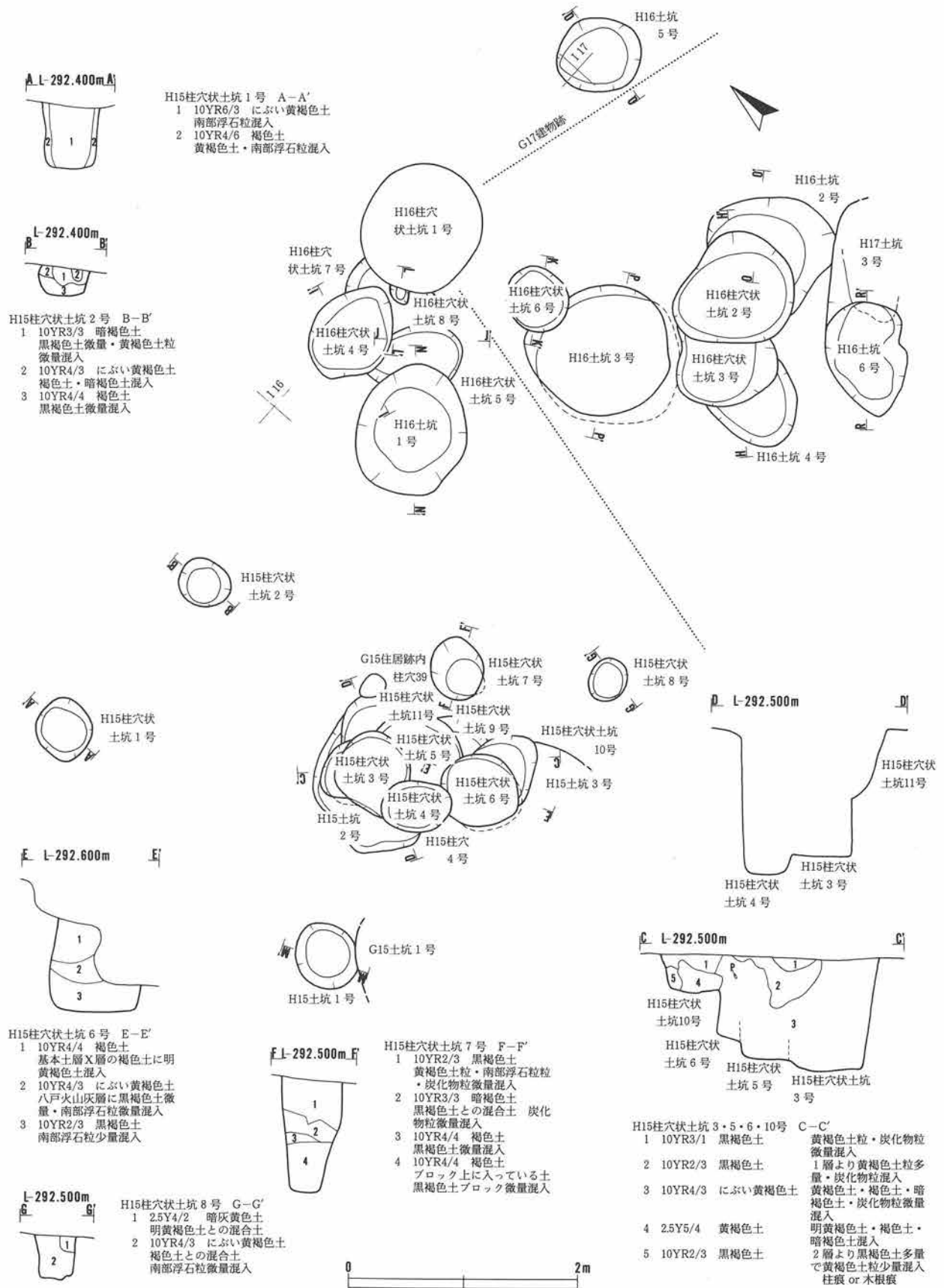


H22土坑 1号 A-A'
 1 10YR3/1 黒褐色土 炭化物微量混入
 2 10YR2/2 黒褐色土 褐色土粒少量・炭化物粒微量混入
 3 10YR2/2 黒褐色土 褐色土粒少量・炭化物粒微量混入
 4 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒微量混入
 5 10YR3/3 暗褐色土 褐色土層・細かい南部浮石粒混入
 6 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒微量混入
 7 10YR3/1 黒褐色土 細かい黒褐色土
 8 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土微量混入



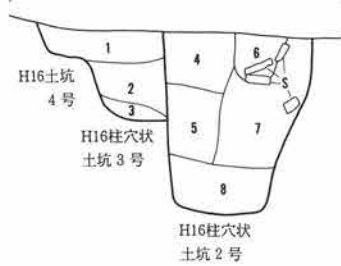
H22土坑 2号 A-A'
 1 10YR3/1 黒褐色土 粒子の細かい土 基本土層1層類似
 2 10YR2/3 黒褐色土 暗褐色土ブロックと南部浮石粒との混合土
 3 10YR2/1 黒色土 南部浮石粒多量混入

第79図 土坑・柱穴状土坑 (31)



第80図 土坑・柱穴状土坑 (32)

H L-292.100m



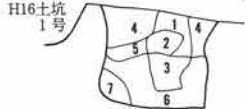
- | | | |
|---------------|---------------|-------------------------------|
| H16土坑 4号 | H16柱穴状土坑 2・3号 | H-H' |
| 1 10YR3/4~4/4 | 暗褐色~褐色土 | 明黄褐色土と褐色土と南部浮石粒との混合土 炭化物粒微量混入 |
| 2 2.5Y5/6 | 黄褐色土 | 明黄褐色土と褐色土との混合土 (径3~5cm大ブロック) |
| 3 2.5Y8/4 | 淡黄色土 | 基本土層IX層相当 褐色粘土混入 |
| 4 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 明黄褐色土と褐色土と黒褐色土と南部浮石粒との混合土 |
| 5 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 4層よりややしまり弱で南部浮石粒少量混入 |
| 6 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒・炭化物粒微量混入 |
| 7 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 4層より少量の明黄褐色土・黄褐色土・褐色土・暗褐色土混入 |
| 8 10YR4/4 | 褐色土 | 明黄褐色土ブロック混入 |

K L-292.200m



- | | |
|---------------------------|---------|
| H16柱穴状土坑 6号 | K-K' |
| 1 10YR2/2 | 黒褐色土 |
| 八戸火山灰下位ブロック・八戸火山灰起源のバミス混入 | |
| 2 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 |
| 八戸火山灰層 基本土層VIII層相当 | |

L L-292.200m



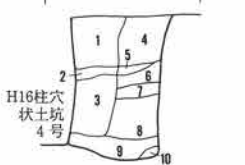
- | | | |
|-------------|---------|------------------|
| H16柱穴状土坑 4号 | I-I' | |
| 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 2 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒少量混入 |
| 3 10YR2/3 | 黒褐色土 | 1層より南部浮石粒多量混入 |
| 4 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 暗褐色土・褐色土混入 |
| 5 10YR2/3 | 黒褐色土 | 2層より炭化物粒少量混入 |
| 6 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 4層より褐色土多量混入 |
| 7 10YR4/4 | 褐色土 | 汚れた基本土層X層ブロック土 |

L L-292.200m



- | | | |
|---------------|---------|-----------------------------------|
| H16柱穴状土坑 7・8号 | L-L' | |
| 1 10YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 2 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 黒褐色土微量・南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 3 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黒褐色土・褐色土 (八戸火山灰)・南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 4 2.5Y7/6 | 明黄褐色土 | 基本土層IX層ブロック土 |
| 5 10YR4/4 | 褐色土 | 基本土層IX層粒少量混入 |

L L-292.200m



- | | | |
|---------------|---------|---------------------------------|
| H16柱穴状土坑 5号 | J-J' | |
| 1 10YR4/4~4/6 | 褐色土 | 南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入 柱穴痕部分? |
| 2 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 1層よりしまり弱 南部浮石粒少量・炭化物微量混入 柱穴痕部分? |
| 3 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | 南部浮石粒少量 (上位に多量)・炭化物粒微量混入 柱穴痕部分? |
| 4 10YR5/6 | 黄褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 5 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 6 10YR6/8 | 明黄褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 7 10YR6/6 | 明黄褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 8 10YR5/6 | 黄褐色土 | にぶい黄褐色土・南部浮石粒多量混入 |
| 9 10YR5/6 | 黄褐色土 | にぶい黄褐色土・細かい南部浮石粒少量混入 |
| 10 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |

M L-292.600m



- | | | |
|-----------|---------|----------------------------------|
| H15土坑 1号 | M-M' | |
| 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | 明黄褐色土粒・炭化物粒微量混入 |
| 2 10YR7/6 | 明黄褐色土 | 基本土層IX層相当 H15土坑No.1を構築した際の貼り壁の一部 |
| 3 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 明黄褐色土・褐色土混入 |
| 4 10YR4/2 | 灰黄褐色土 | 明市価度・黒褐色土混入 |
| 5 2.5Y6/4 | にぶい黄色土 | 明黄褐色土と暗褐色土との混合土 炭化物粒微量混入 |
| 6 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 黄褐色土・褐色土混入 |

O L-292.000m



- | | | |
|-----------|-------------|--------------------------------|
| H16土坑 2号 | O-O' | |
| 1 10YR4/6 | 褐色土と10YR6/3 | にぶい黄褐色土との混合土 灰白色土・南部浮石粒7~10%混入 |

N L-292.400m



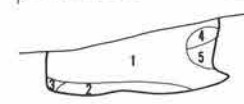
- | | | |
|-----------|---------|---------------------|
| H16土坑 1号 | N-N' | |
| 1 10YR2/2 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 2 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 褐色土と八戸火山灰の混合土ブロック |
| 3 10YR3/3 | 暗褐色土 | 白色土・八戸火山灰・炭化物粒微量混入 |
| 4 10YR4/4 | 褐色土 | 八戸火山灰下位ブロック土 |

R L-292.200m



- | | | |
|-------------------|-------------|------------------------------------|
| H16土坑 6号 | H17土坑 3号 | R-R' |
| 1 10YR3/1 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 2 10YR4/4 | 褐色土 | 基本土層VIII層ブロック土? |
| 3 10YR4/4 | 褐色土 | 基本土層X層ブロック土 or 掘り過ぎ |
| 4 10YR3/3~2.5Y4/3 | 暗褐色~オリーブ褐色土 | 黒褐色土と褐色土と明黄褐色土との混合土 南部浮石粒・炭化物粒少量混入 |

P L-292.300m

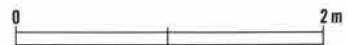


- | | | |
|-----------|------|------------------|
| H16土坑 3号 | P-P' | |
| 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | 明黄褐色土粒・南部浮石粒少量混入 |
| 2 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 3 10YR2/3 | 黒褐色土 | 1層より黒色強 |
| 4 10YR4/4 | 褐色土 | 明黄褐色土と褐色土との混合土 |
| 5 10YR4/4 | 褐色土 | 基本土層IX層下位の褐色粘土 |

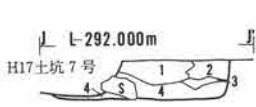
Q L-292.000m



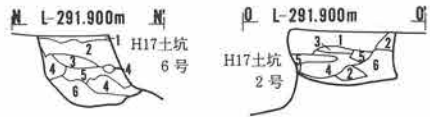
- | | | |
|-----------|------|---------------|
| H16土坑 5号 | Q-Q' | |
| 1 10YR2/3 | 黒褐色土 | 褐色土微量・南部浮石粒混入 |



第81図 土坑・柱穴状土坑 (33)



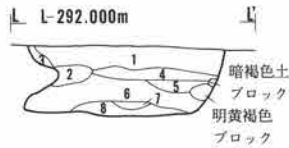
- H17土坑 3号 J-J'
- 10YR4/3 におい黄褐色土
明黄褐色土と褐色土と黒褐色土との混合土
 - 10YR3/3 暗褐色土
褐色土と黒褐色土との混合土 径5mmの明黄褐色土粒多量混入
 - 10YR7/6~8/3 明黄褐色土～浅黄褐色土
基本土層IX層ブロック土
 - 10YR3/4 暗褐色土
基本土層IX層下位の褐色土ブロック混入



- H17土坑 8・9号 N-N'・O-O'
- 10YR3/3 暗褐色土
黒褐色土・黄褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/4 褐色土
基本土層X層ブロック土
 - 10YR7/6 明黄褐色土
汚れた基本土層I層相当
 - 10YR3/3 暗褐色土
炭化物粒微量混入
 - 2.5Y5/4 黄褐色土
基本土層IX層・黒褐色土混入
 - 10YR5/4 におい黄褐色土
汚れた基本土層IX層・X層混入



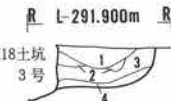
- H17土坑 4・5号 K-K'
- 10YR3/3 暗褐色土
黒褐色土・黄褐色土・南部浮石粒多量混入
 - 10YR4/3 におい黄褐色土
黒褐色土・1層より黄褐色土若干多量・南部浮石粒多量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土
黄褐色土・南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土
黒褐色土・黄褐色土・南部浮石粒少量混入



- H17土坑 5号 L-L'
- 10YR4/3 におい黄褐色土
明黄褐色土・黒褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR7/4 におい黄褐色土
基本土層IX層相当
 - 10YR4/4 褐色土
基本土層X層相当
 - 10YR4/3 暗褐色土
褐色土多量・南部浮石粒混入
 - 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒微量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土
径5cm大の褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入
 - 10YR7/6 明黄褐色土
基本土層IX層相当
 - 10YR3/3 暗褐色土
明黄褐色土との混合土

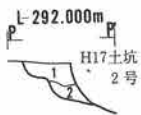


- H17土坑 12号 Q-Q'
- 10YR4/4 褐色土
 - 10YR3/3 暗褐色土
黒褐色土・黄褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土
黄褐色土との混合土 炭化物粒微量混入
 - 10YR4/3 におい黄褐色土
径1cm大の明黄褐色土ブロック・灰白色砂土・暗褐色土混入

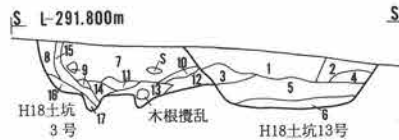


- H18土坑 1号 R-R'
- 10YR3/3 暗褐色土
多量の南部浮石粒との混合土
 - 10YR4/3 におい黄褐色土
黒褐色土との混合土 明黄褐色土粘土微量・南部浮石粒微量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土
黄褐色土との混合土 南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/3 におい黄褐色土
黄褐色土との混合土

- H17土坑 7号 M-M'
- 10YR2/2 黒褐色土
 - 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
基本土層VIII層との混合土



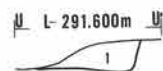
- H17土坑 11号 P-P'
- 10YR3/3 暗褐色土
におい黄褐色土ブロック・南部浮石粒7~10%混入
 - 10YR4/6 褐色土
におい黄褐色土ブロック・黒色土粒(腐蝕土?)混入



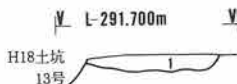
- H18土坑 3・13号 S-S'
- 10YR2/3 黒褐色土
 - 10YR4/2 灰黄褐色土
 - 10YR3/3 暗褐色土
 - 10YR4/4 褐色土
 - 10YR5/4 におい黄褐色土
 - 10YR6/6 明黄褐色土
 - 10YR2/3 黒褐色土
 - 10YR2/3 黒褐色土
 - 10YR3/4 暗褐色土
 - 10YR2/3 黒褐色土
 - 10YR6/6 明黄褐色土
 - 10YR6/6 明黄褐色土
 - 10YR4/4 褐色土
 - 10YR3/3 暗褐色土
 - 木根痕 6層と7層との混合土
 - 10YR4/4 褐色土
 - 10YR3/4 暗褐色土
- 黄褐色土と南部浮石粒との混合土 炭化物粒微量混入
褐色土と暗褐色土との混合土 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
黄褐色土と暗褐色土との混合土
明黄褐色土層下位に見られる褐色土ブロック
明黄褐色土と黄褐色土との混合土 黒褐色土微量混入
5層よりしまり強
褐色土ブロック・1層より南部浮石粒多量・炭化物粒少量混入
7層より若干黄褐色土多量・南部浮石粒少量混入
褐色土が汚れたブロック土
7層相当
基本土層IX層相当
11層相当
明黄褐色土微量混入
明黄褐色土・褐色土・黒褐色土混入
13層相当
14層に褐色土多量混入
- ※全層人為堆積で木根攪乱多量



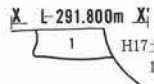
- H18土坑 4・5号 T-T'
- 10YR2/3 黒褐色土
明黄褐色土微量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土
明黄褐色土粒微量・南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/4 褐色土
地山基本土層IX層下位相当
 - 10YR4/3 におい黄褐色土
明黄褐色土粒・南部浮石粒微量混入 掘り足りない?



- H18土坑 6号 U-U'
- 10YR5/6 黄褐色土
褐色土と黒褐色土との混合土
局所的に7.5YR4/3褐色粘土質・南部浮石粒1%未混入



- H18土坑 7号 V-V'
- 10YR4/4 褐色土
黒褐色土・明黄褐色土ブロック・南部浮石粒3%混入



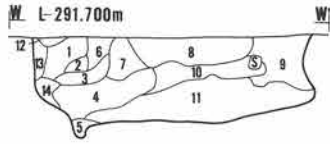
- H18土坑 10号 X-X'
- 10YR3/3~4/4 暗褐色土
南部浮石粒少量混入



- H18土坑 12号 Y-Y'
- 10YR3/3 暗褐色土
黒褐色土・黄褐色土・炭化物粒微量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土
黄褐色土微量・黒褐色土微量混入
 - 10YR4/3 におい黄褐色土
黒褐色土微量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土
1層相当

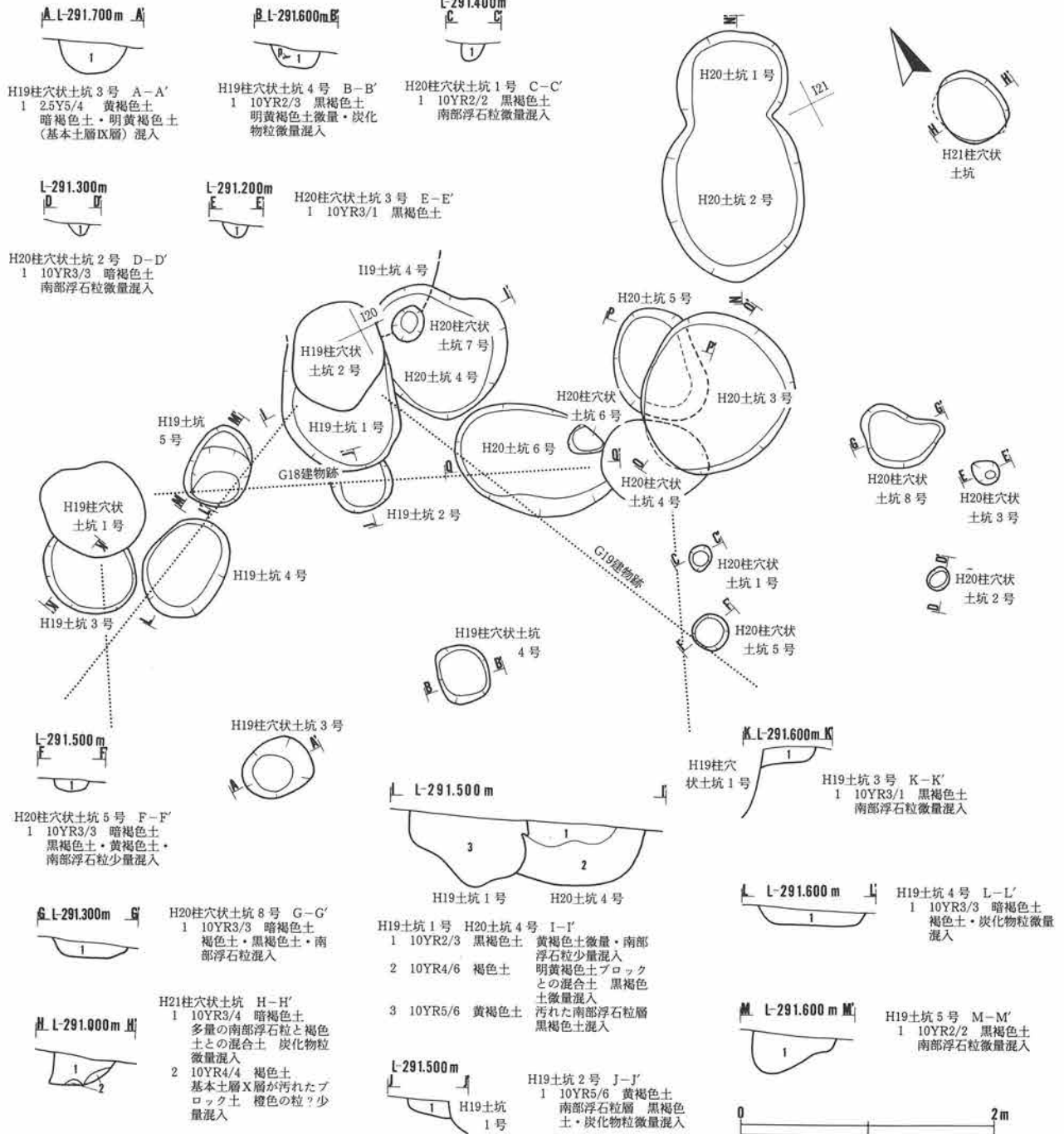


第83図 土坑・柱穴状土坑 (35)

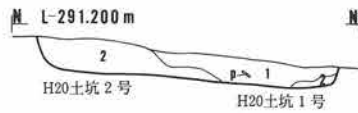


H18土坑 8号 W-W'

- | | | | |
|----|---------|---------|-----------------------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい木戸 | 黄褐色土・黒褐色土混入 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色土 | 汚れた黄褐色土ブロック土 黒褐色土微量混入 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 明黄褐色土粒混入 |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 黒褐色土と明黄褐色土との混合土 パミス混入 |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色土 | 基本土層X層下位の褐色土層 掘り過ぎ? |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 黄褐色土との混合土 南部浮石粒微量混入 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 黄褐色土と南部浮石粒との混合土 炭化物粒少量混入 |
| 9 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 | 黒褐色土と黄褐色土との混合土 |
| 10 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 8層より炭化物粒多量混入 |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 黄褐色土との混合土 褐色土粒・炭化物粒微量混入 |
| 12 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 6層相当 |
| 13 | 10YR4/4 | 褐色土 | 褐色土ブロック土 |
| 14 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 褐色土・黒褐色土・パミス (八戸火山灰層?) 少量混入 |

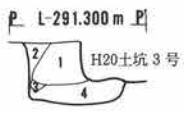


第84図 土坑・柱穴状土坑 (36)



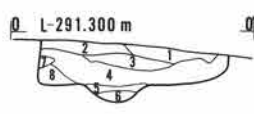
H20土坑1・2号 N-N'

- 10YR2/3 黒褐色土
黒褐色土・炭化物粒微量混入
- 10YR3/3 暗褐色土
1層に褐色土ブロック多量混入



H20土坑3号 P-P'

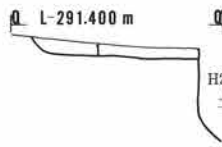
- 10YR3/3 暗褐色土
黒褐色土と褐色土との混合土
八戸火山灰粒・焼土粒・炭化物粒少量混入
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土
暗褐色土と黄褐色土との混合土
局部的に壁崩落土混入
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土
2層より若干明るい色調のブロック土
- 10YR2/3 黒褐色土
褐色土・1層より八戸火山灰粒少量混入



H20土坑3号 O-O'

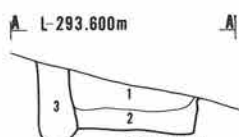
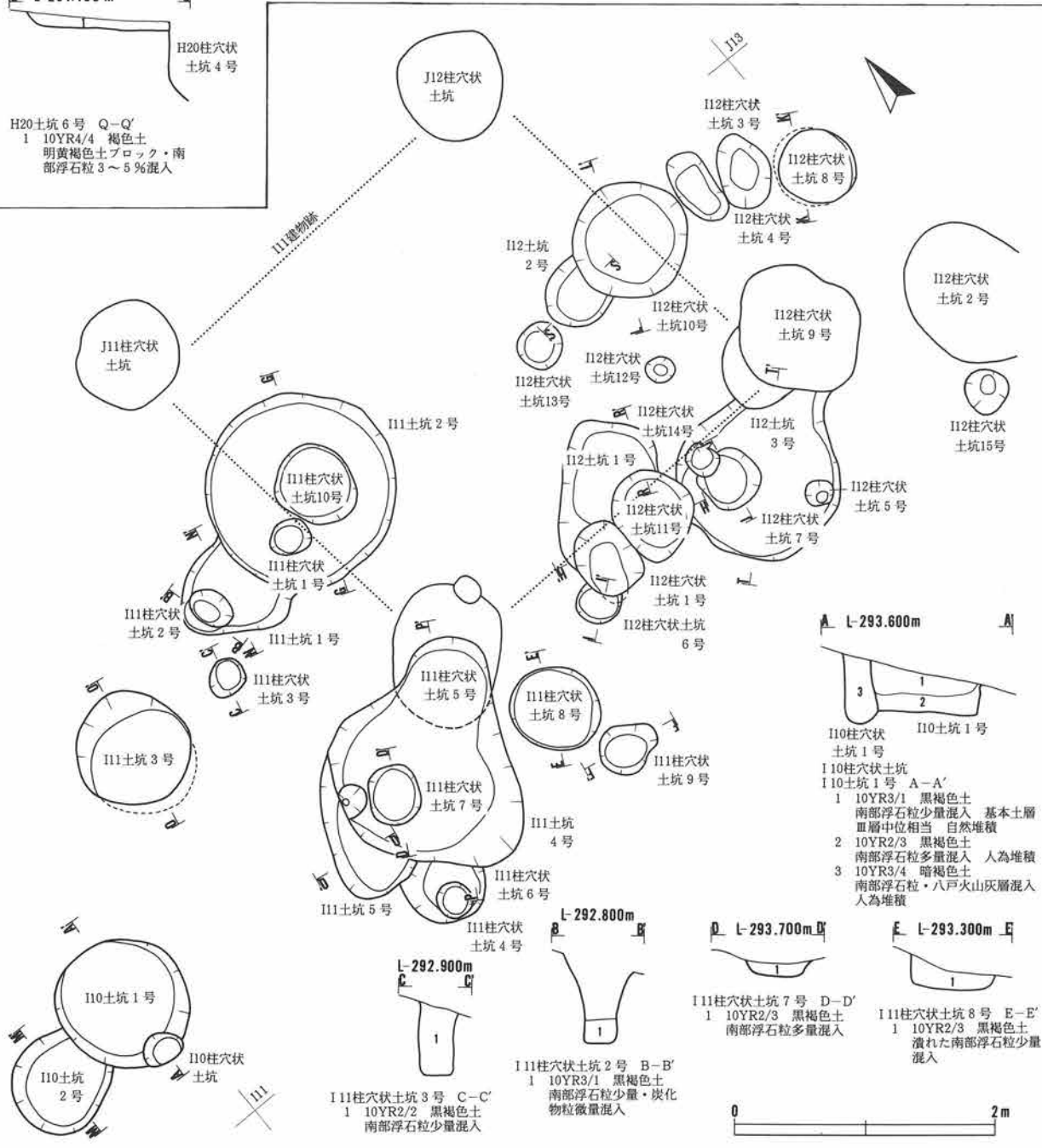
- 10YR2/3 黒褐色土
- 10YR2/3 黒褐色土
- 10YR3/3 暗褐色土
- 10YR3/4 暗褐色土
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 10YR2/3 黒褐色土
- 10YR3/3 暗褐色土
- 10YR2/3 黒褐色土

十和田bが上位微量・南部浮石粒微量・毛根多量混入
明黄褐色土微量・南部浮石粒微量混入
南部浮石粒多量混入
明黄褐色土ブロック・黄褐色土・南部浮石粒・炭化物粒微量混入
褐色土と暗褐色土との混合土
南部浮石粒微量混入
黄褐色土・褐色土混入
褐色土微量・南部浮石粒少量混入



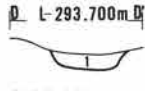
H20土坑6号 Q-Q'

- 10YR4/4 褐色土
明黄褐色土ブロック・南部浮石粒3~5%混入



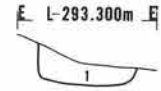
I10柱穴状土坑1号 A-A'

- 10YR3/1 黒褐色土
南部浮石粒少量混入 基本土層
III層中位相当 自然堆積
- 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入 人為堆積
- 10YR3/4 暗褐色土
南部浮石粒・八戸火山灰層混入
人為堆積



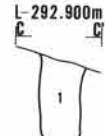
I11柱穴状土坑7号 D-D'

- 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入



I11柱穴状土坑8号 E-E'

- 10YR2/3 黒褐色土
潰れた南部浮石粒少量混入



I11柱穴状土坑3号 C-C'

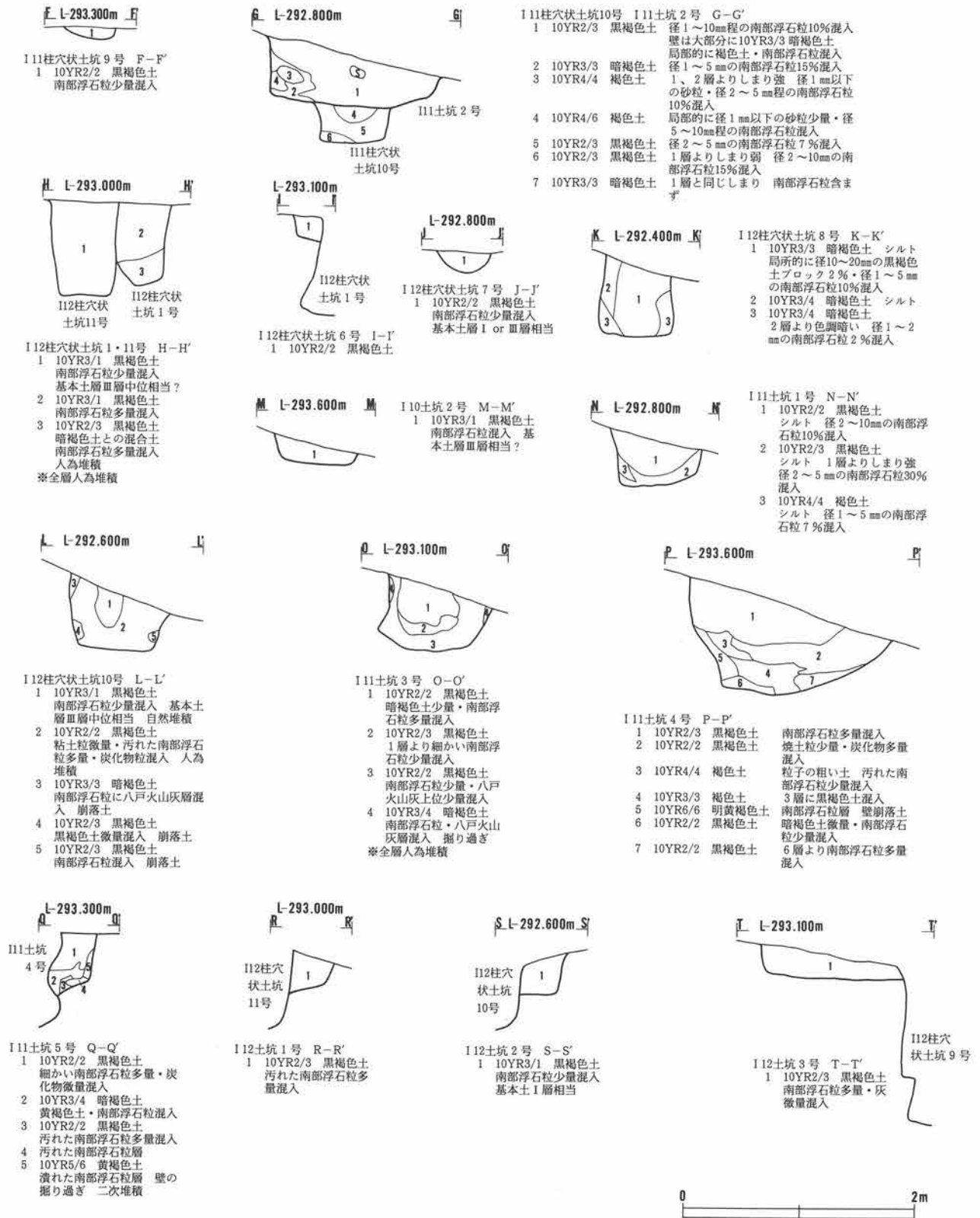
- 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒少量混入



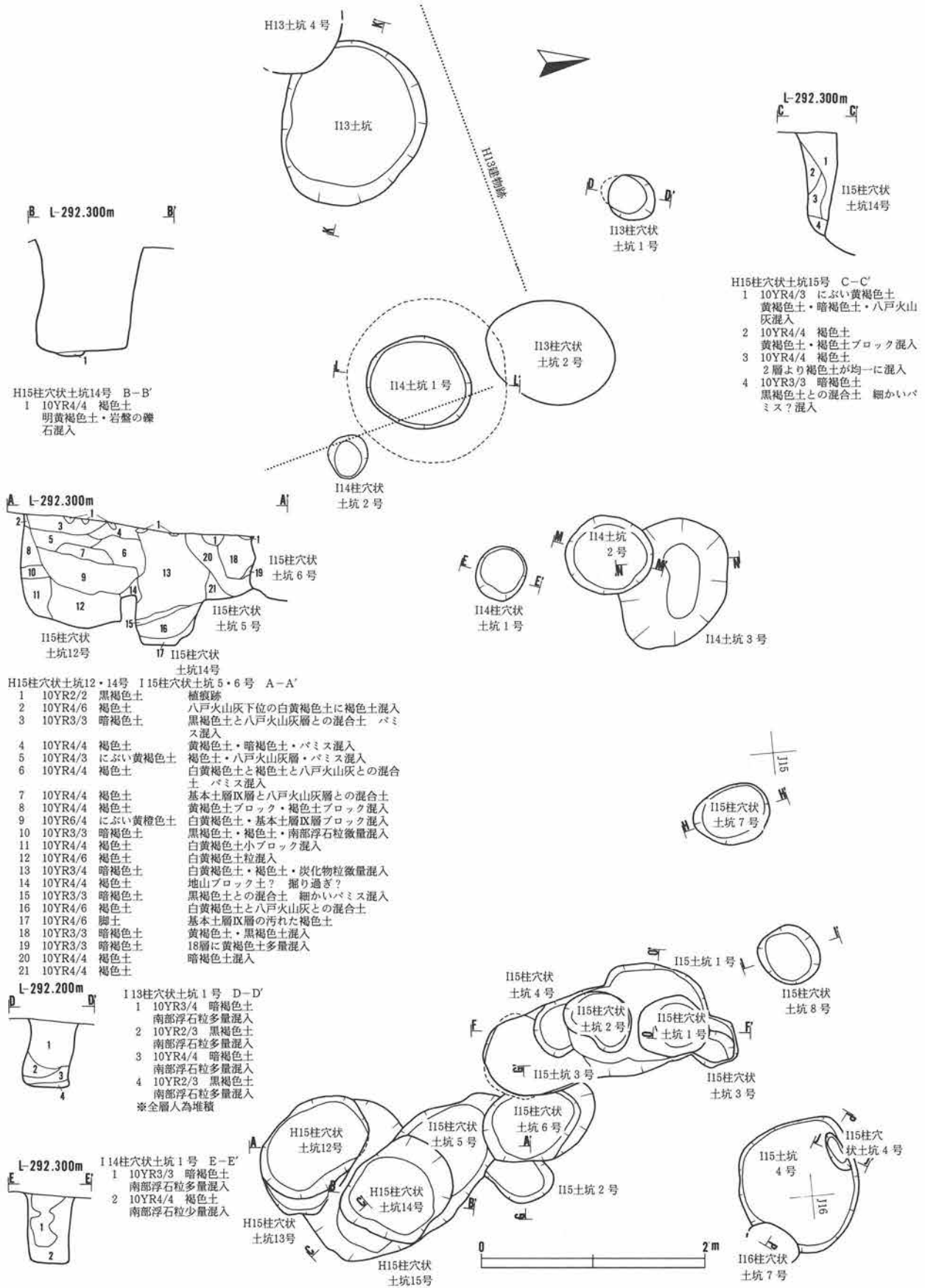
I11柱穴状土坑2号 B-B'

- 10YR3/1 黒褐色土
南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入

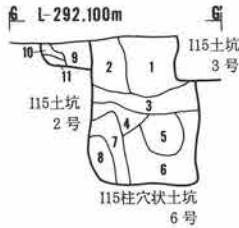
第85図 土坑・柱穴状土坑 (37)



第86図 土坑・柱穴状土坑 (38)



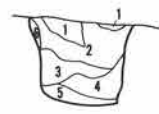
第87図 土坑・柱穴状土坑 (39)



I15柱穴状土坑1・2・3・4号 I15土坑3号 F-F'

- | | | | |
|-----|-------------|-----------|------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 表土層残存 |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 褐色土・南部浮石粒混入 |
| 3 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 褐色土・汚れた細かい南部浮石粒多量混入 |
| 4 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 3層より径大の南部浮石粒多量混入 |
| 5 | 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石粒・八戸火山灰層混入 |
| 6 | 10YR4/6 | 褐色土 | 八戸火山灰層ブロック土 |
| 7 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒少量・八戸火山灰層小ブロック・炭化物粒微量混入 |
| 8 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 7層より南部浮石粒少量混入 |
| 9 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 褐色土・南部浮石粒少量・八戸火山灰層混入 |
| 10 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰層に黒褐色土少量・南部浮石粒微量混入 |
| 11 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 八戸火山灰下位の白色砂土の上に局所的に見られるバミス混入 |
| 12 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 13 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 八戸火山灰下位の白色砂土 |
| 14 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 汚れた細かい南部浮石粒混入 |
| 15 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰ブロック混入 柱痕一部残存? |
| 16 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 八戸火山灰下位の白色砂土ブロック混入 人為堆積 |
| 17 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 八戸火山灰ブロック混入 人為堆積 |
| 18 | 10YR4/4 | 褐色土 | 人為堆積 |
| 19 | 10YR4/4 | 褐色土 | 八戸火山灰ブロック 人為堆積 |
| 20 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 16層に暗褐色土微量・南部浮石粒混入 崩壊土 |
| 21 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 暗褐色土・八戸火山灰層大ブロック混入 人為堆積 |
| 22a | 10YR4/4 | 褐色土 | 人為堆積 |
| 22b | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 人為堆積 |
| 23 | 10YR6/6~5/6 | 明黄褐色~黄褐色土 | 黒褐色土微量混入 |

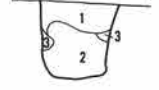
H L-292.200m H-H'



I15柱穴状土坑7号 H-H'

- | | | | |
|---|---------|------|-------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 褐色土多量・南部浮石粒多量混入 |
| 3 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒との混合土 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰上位相当壁崩落土? |

L-292.200m I-I'



I15柱穴状土坑8号 I-I'

- | | | | |
|---|---------|------|-------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入 |
| 3 | 10YR4/6 | 褐色土 | 八戸火山灰下位ブロック |

I15土坑2号 I15柱穴状土坑6号 G-G'

- | | | | |
|----|---------|---------|--------------------------|
| 1 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 黄褐色土との混合土 南部浮石粒・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 1層より細かい南部浮石粒少量混入 |
| 3 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 黄褐色土・暗褐色土・南部浮石粒混入 |
| 4 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 3層より黒褐色土多量混入 |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色土 | 明黄褐色土ブロック・南部浮石粒混入 |
| 6 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒との混合土 |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色土 | 基本土層X層の褐色土に明黄褐色土混入 |
| 8 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 八戸火山灰層に黒褐色土微量・南部浮石粒微量混入 |
| 9 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 10 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 暗褐色土と南部浮石粒との混合土 |
| 11 | 10YR7/4 | にぶい黄褐色土 | 汚れた基本土層IX層相当 |

G-G'

- 黄褐色土との混合土 南部浮石粒・炭化物粒微量混入
1層より細かい南部浮石粒少量混入
黄褐色土・暗褐色土・南部浮石粒混入
3層より黒褐色土多量混入
明黄褐色土ブロック・南部浮石粒混入
南部浮石粒との混合土
基本土層X層の褐色土に明黄褐色土混入
八戸火山灰層に黒褐色土微量・南部浮石粒微量混入
南部浮石粒少量混入
暗褐色土と南部浮石粒との混合土
汚れた基本土層IX層相当

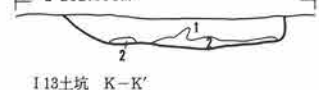
L-291.900m J-J'



I15柱穴状土坑9号 J-J'

- | | | | |
|---|---------|------------------------|--------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土と10YR3/4 暗褐色土との混合土 | 南部浮石粒50%以上混入 |
|---|---------|------------------------|--------------|

K L-292.500m K-K'



- | | | | |
|---|---------|------|-------------------------------------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | シルト 径2~5mmの南部浮石粒15%混入 |
| 2 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | シルト 1層よりしまり弱 径1~2mmの南部浮石粒3%混入(底部付近は殆ど含まず) |

M L-292.300m M-M'



I14土坑2号 M-M'

- | | | | |
|---|---------|------|-----------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒多量混入 |
|---|---------|------|-----------|

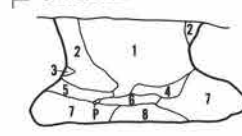
N L-292.400m N-N'



I14土坑3号 N-N'

- | | | | |
|---|---------|------|-----------------|
| 1 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | 南部浮石粒層 黒褐色土微量混入 |
|---|---------|------|-----------------|

L-292.400m L-L'



I14土坑1号 L-L'

- | | | | |
|---|---------|---------|------------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 暗褐色土との混合土 |
| 3 | 10YR4/6 | 褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰下位ブロック |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒少量混入 |
| 7 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入 |
| 8 | 10YR4/6 | 褐色土 | 八戸火山灰下位層 |

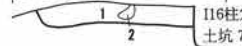
L-292.100m O-O'



I15土坑1号 O-O'

- | | | | |
|---|---------|------|---------------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 八戸火山灰上位層と微量の黒褐色土との混合土 南部浮石粒少量混入 |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | ブロック状に混入 |

P L-291.800m P-P'

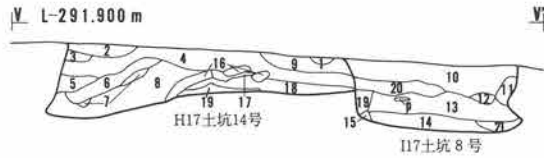


I15土坑4号 P-P'

- | | | | |
|---|---------|------|------------|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒10%混入 |
| 2 | 10YR4/4 | 褐色土 | 南部浮石粒5%混入 |



第88図 土坑・柱穴状土坑 (40)



- I17土坑9号 W-W'
- 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土との混合土 南部浮石粒少量・焼土粒微量・炭化物粒微量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 明黄褐色土と黒褐色土との混合土 南部浮石粒・焼土粒微量・炭化物粒微量混入
 - 10YR7/4 にぶい黄褐色土 基本土層IX層相当
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入

- I17土坑11号 X-X'
- 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒微量・炭化物粒多量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 暗褐色土との混合土 褐色土ブロック・明黄褐色土ブロック多量・炭化物粒微量混入

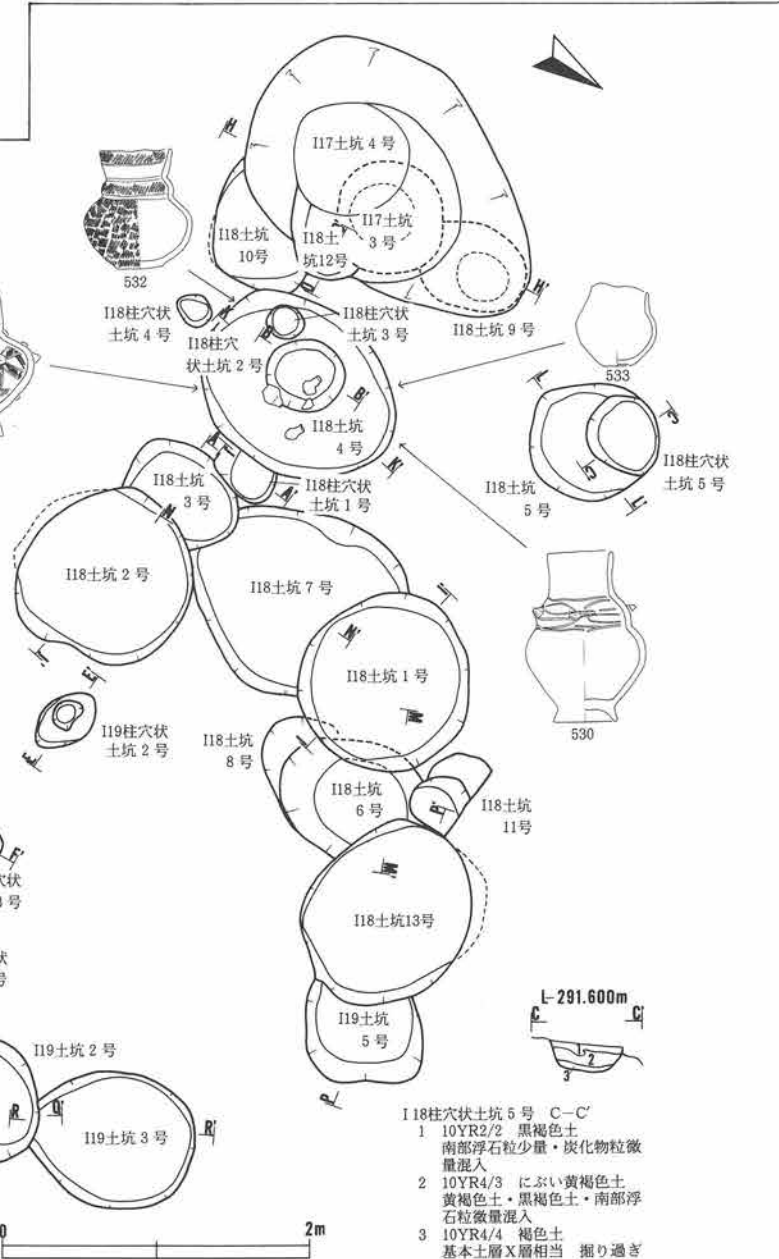
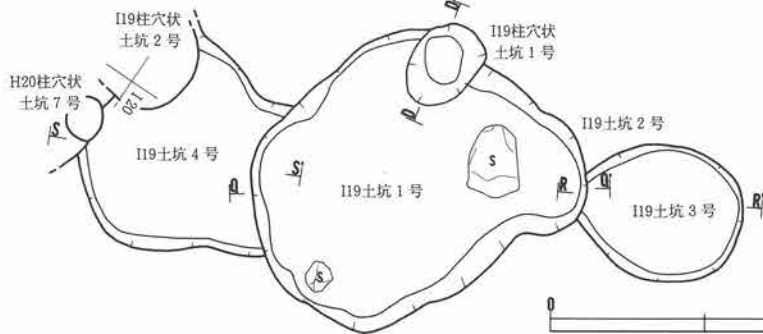
- H17土坑14号 I17土坑8号 V-V'
- 10YR2/3 黒褐色土 黒褐色土と暗褐色土(黄褐色土)との混合土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒微量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土との混合土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR4/4 褐色土 基本土層X層・IX層混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 明黄褐色土・黒褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 明黄褐色土・暗褐色土・黒褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 明黄褐色土・黒褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土・南部浮石粒少量・焼土粒・炭化物粒混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 24層類似 褐色土ブロック混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 10YR3/1 黒褐色土 焼土粒微量・炭化物粒少量混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土との混合土
 - 10YR4/4 褐色土 基本土層X層ブロック土
 - 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土・褐色土混入
 - 10YR7/4 にぶい黄褐色土 基本土層IX層相当
 - 10YR4/4 褐色土 基本土層X層相当
 - 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土・南部浮石粒少量・焼土・炭化物粒少量混入
 - 10YR4/4 褐色土 明黄褐色土との混合土



- I18柱穴状土坑1号 A-A'
- 10YR2/3 黒褐色土と10YR3/4 暗褐色土との混合土 南部浮石粒1~2%・炭化物粒1~2%混入

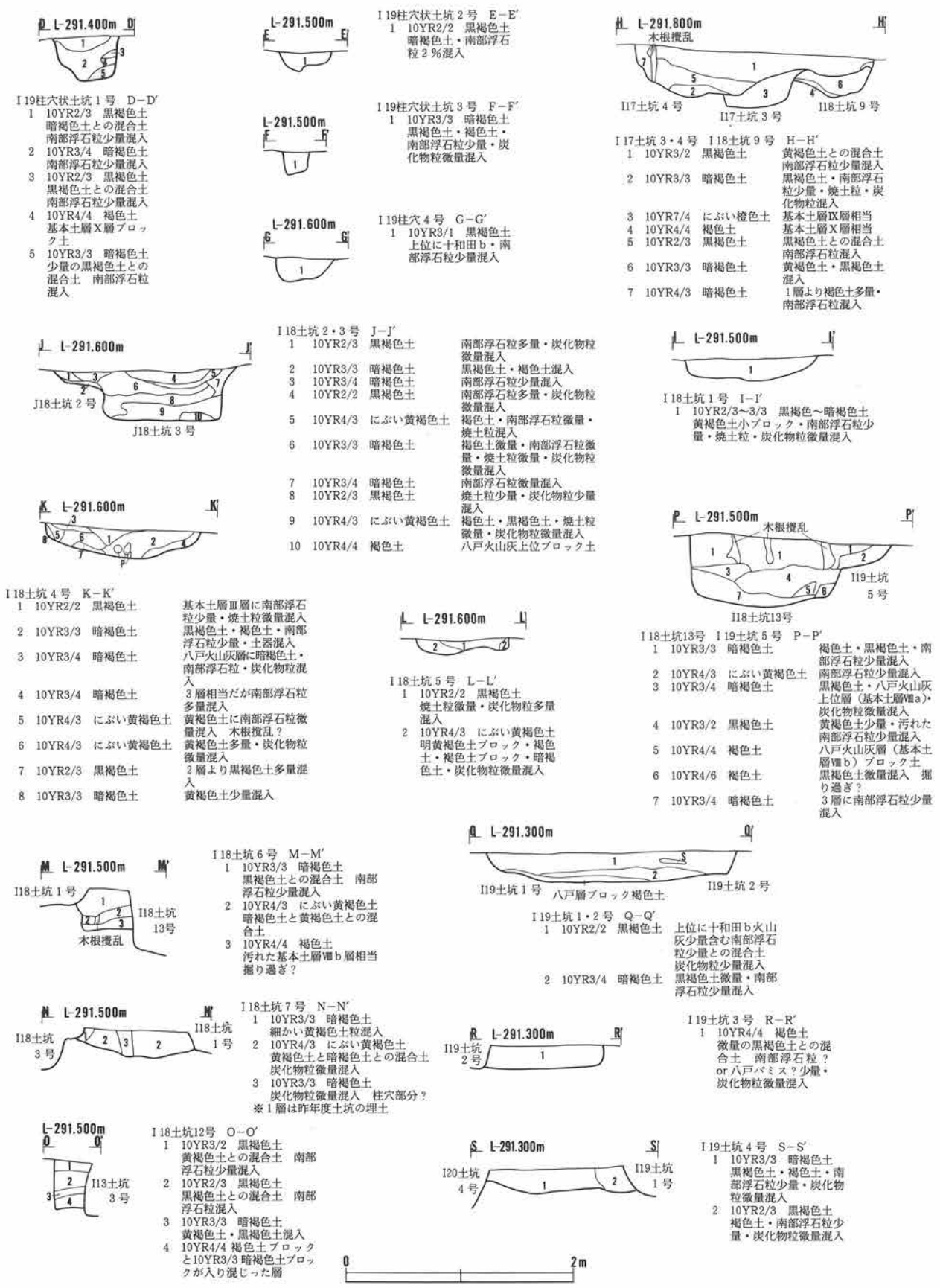


- I18柱穴状土坑2号 B-B'
- 10YR4/4 褐色土と10YR6/6 明黄褐色土の混合土 南部浮石粒1%未満混入
 - 7.5YR4/4 褐色粘土質

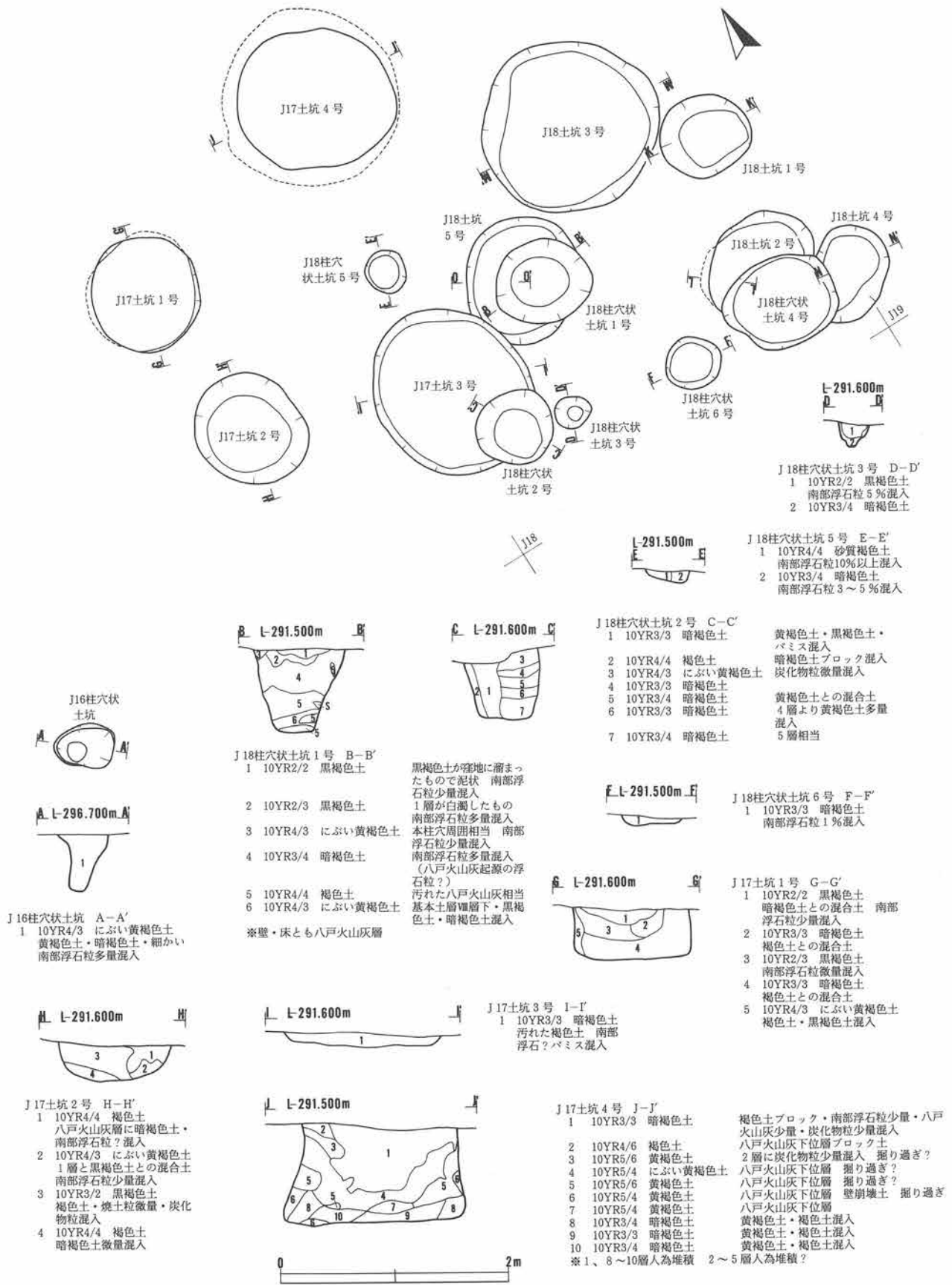


- I18柱穴状土坑5号 C-C'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土 黄褐色土・黒褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/4 褐色土 基本土層X層相当 掘り過ぎ

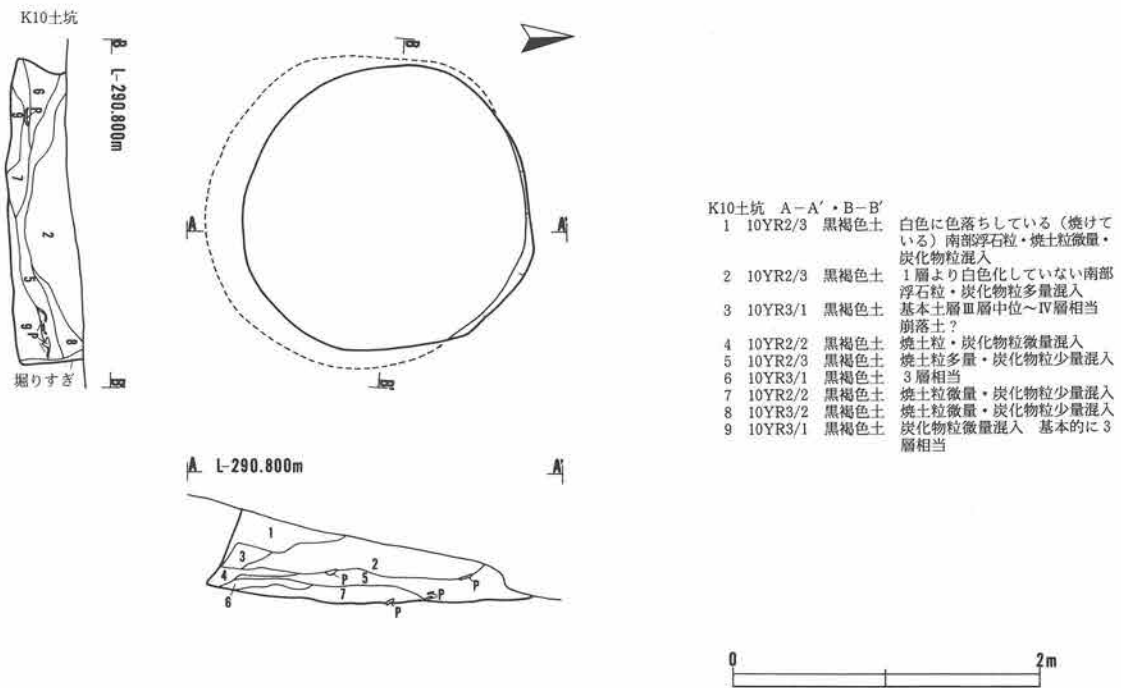
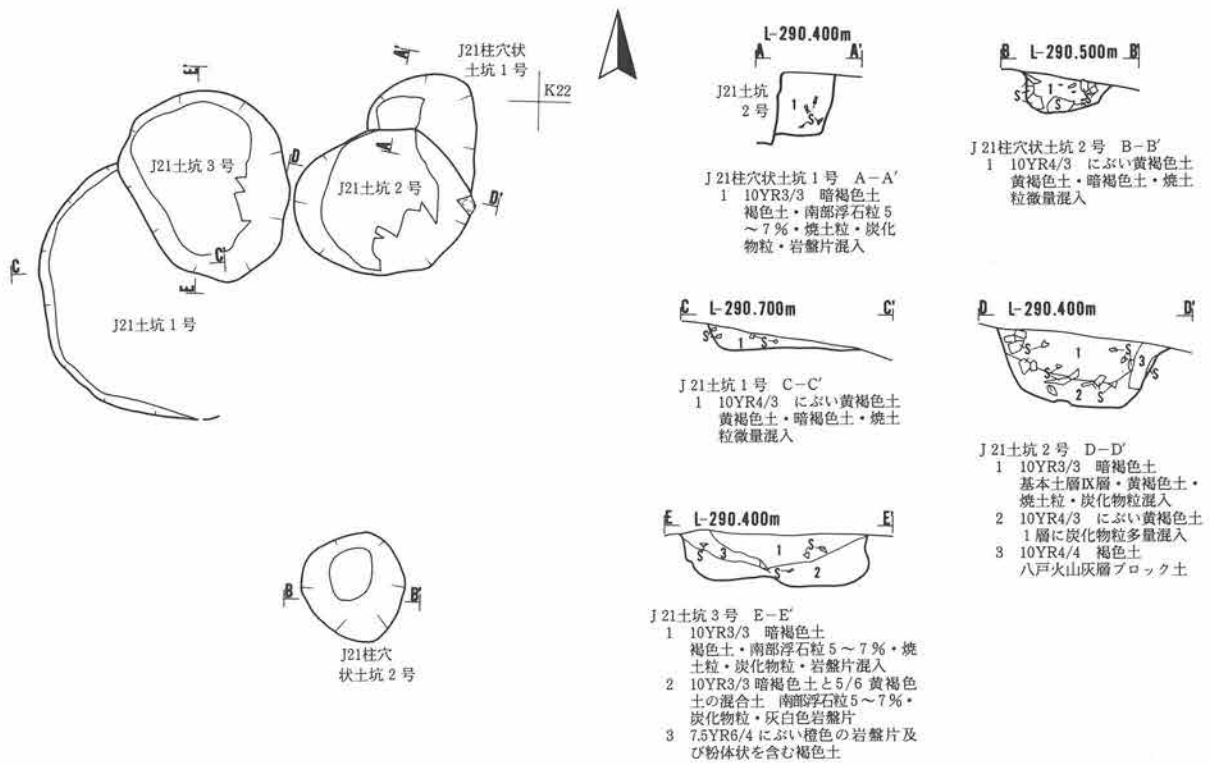
第91図 土坑・柱穴状土坑 (43)



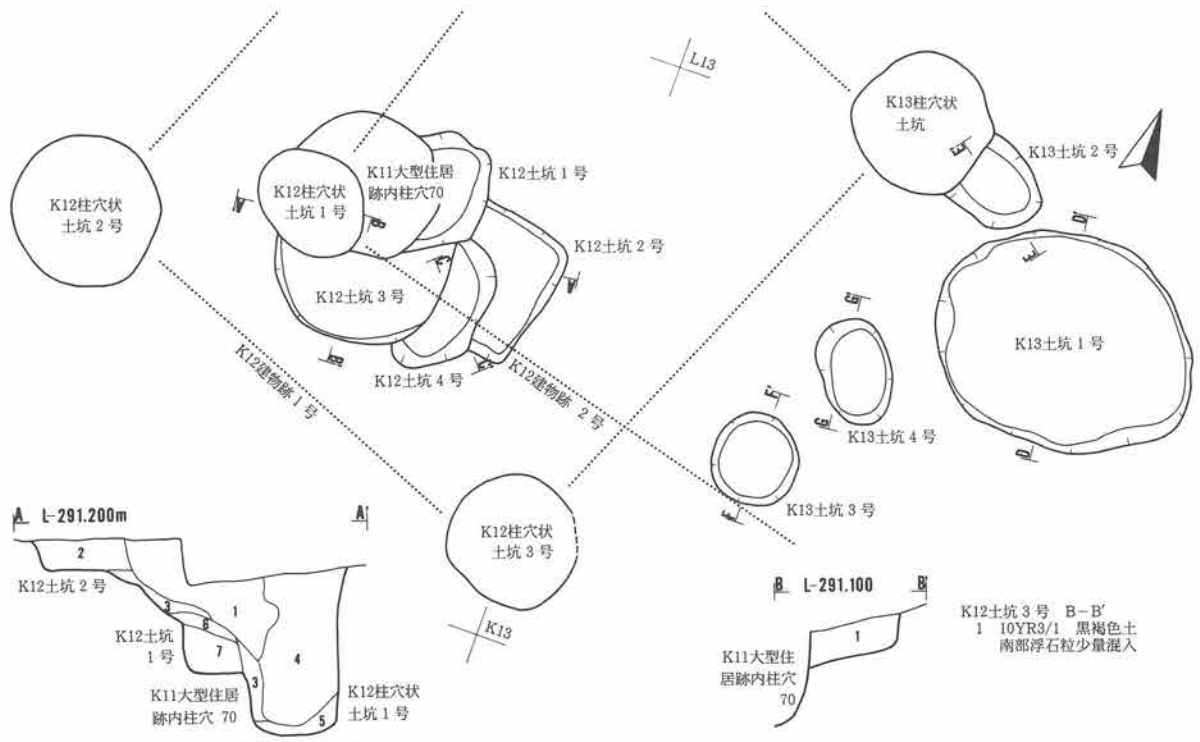
第92図 土坑・柱穴状土坑 (44)



第95図 土坑・柱穴状土坑 (47)



第97図 土坑・柱穴状土坑 (49)



K12土坑1・2号 K12柱穴状土坑1号 K11大型住居跡内柱穴70 A-A'

- 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量・八戸火山灰層小ブロック・焼土粒・炭化物粒微量・土器少量混入
- 10YR2/3~3/3 黒褐色~暗褐色土
1層より細かくて少量の南部浮石粒混入 漸移層の可能性あり
ピットではない?
- 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒微量・焼土粒・炭化物粒混入
- 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒微量・焼土粒・炭化物粒混入 3層相当?
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土
褐色土・黒褐色土混入
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土
中間に黒褐色土厚さ3cmで混入
- 10YR2/2 黒褐色土
褐色土ブロック・南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒微量・土器混入

※1、3、4、6層柱の据え方? 5層貼り床

K12土坑4号 C-C'

- 10YR2/2 黒褐色土 八戸火山灰層との混合土
南部浮石粒少量混入
- 10YR3/1 黒褐色土
南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
- 10YR3/4 暗褐色土
黒褐色土少量・南部浮石粒少量混入

K13土坑1号 D-D'

- 10YR3/2 黒褐色土
シルト 二次中礫・南部浮石粒5%混入

K13柱穴状土坑1号 E-E'

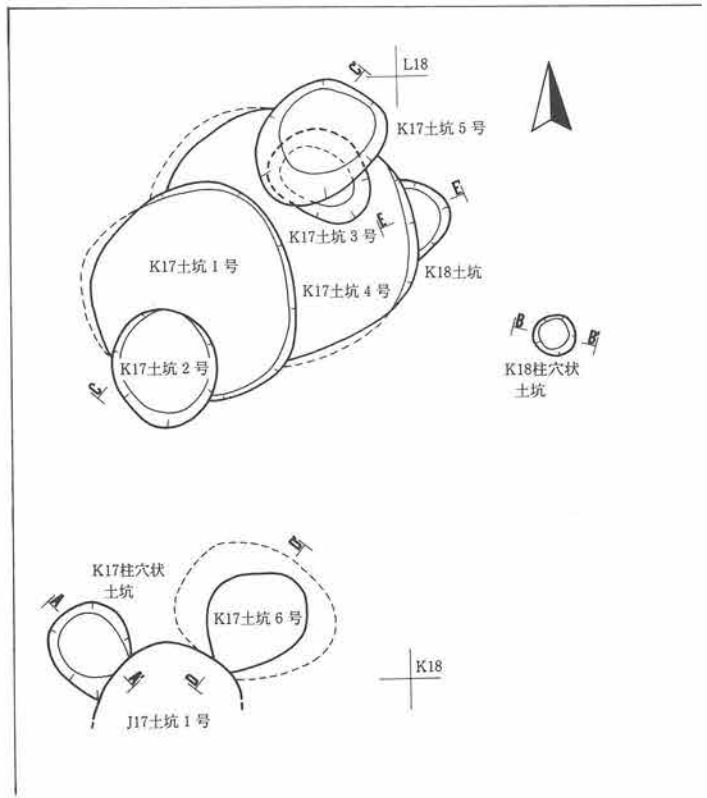
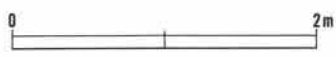
- 10YR3/1 黒褐色土
多量の南部浮石粒との混合土 基本土層 III~IV層相当

K13土坑3号 F-F'

- 10YR3/1 黒褐色土
多量の南部浮石粒との混合土 基本土層 III~IV層相当

K13土坑4号 G-G'

- 10YR3/1 黒褐色土
多量の南部浮石粒との混合土 基本土層 III層上位~IV層相当



第98図 土坑・柱穴状土坑 (50)

A L-291.500m A'



L-291.400m B



K18柱穴状土坑 B-B'
1 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒微量混入

C L-291.500 m C'



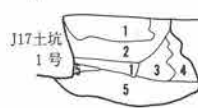
K17柱穴状土坑 A-A'

- 1 10YR4/3 におい黄褐色土 黒褐色土・黄褐色土・南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 黒褐色土・黄褐色土・南部浮石粒微量混入
- 3 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入
- 4 10YR4/3 におい黄褐色土 黒褐色土・黄褐色土・南部浮石粒多量混入
- 5 10YR4/4 褐色土 基本土層X層ブロック土

K17土坑 1・2・3・4・5号 C-C'

- 1 10YR2/2 黒褐色土 白色粘土・南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 汚れた南部浮石粒少量混入
 - 3 10YR5/4 におい黄褐色土 八戸火山灰下位の粘土層ブロック
 - 4 10YR4/4 褐色土 暗褐色土小ブロック微量混入(八戸火山灰層+暗褐色土)
 - 5 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 6 10YR3/3 暗褐色土 褐色土・黒褐色土・南部浮石粒多量混入
 - 7 10YR3/1 黒褐色土 基本土層I層相当
 - 8 10YR3/2 黒褐色土 局所的に褐色土ブロック・南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 9 10YR6/8 明黄褐色土 南部浮石粒層 径2~3mmの炭化物微量混入
 - 10 10YR3/2 黒褐色土 8層より若干南部浮石粒多量・径2~3mmの炭化物微量混入
 - 11 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 12 10YR4/3 におい黄褐色土 汚れた2mm大の南部浮石粒多量混入
 - 13 10YR3/3~4/3 暗褐色~におい黄褐色土 褐色土大ブロックと黒褐色土が径2cmの帯状に入っている 南部浮石粒多量混入
 - 14 10YR3/2 黒褐色土 10層より南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 15 10YR4/4 褐色土 八戸火山灰層 掘り過ぎ?
 - 16 10YR4/4 褐色土 暗褐色土微量混入 壁崩落土?
 - 17 10YR4/4 褐色土 八戸火山灰層 掘り過ぎ
 - 18 10YR3/2 黒褐色土 褐色土小ブロックとの混合土
- ※壁、油化面はすべて八戸火山灰層

D L-291.500 m D'



K17土坑 6号 D-D'

- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 基本土層IX層に黒褐色土混入
- 2 10YR3/2 黒褐色土 基本土層IX層に黒褐色土・炭化物粒微量混入
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 基本土層IX層ブロック混入
- 4 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒微量混入
- 5 10YR3/4 暗褐色土 汚れた基本土層X層相当 パミス(南部浮石粒?)微量混入

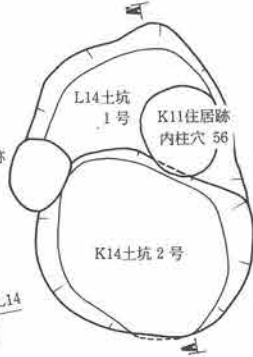
L-291.400m E



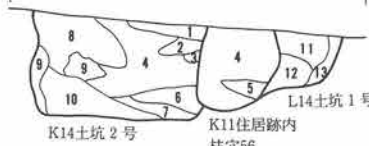
K18土坑 E-E'

- 1 10YR4/4 褐色土 暗褐色土微量混入 壁崩落土?

K11住居跡 内柱穴55



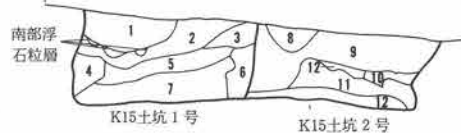
A L-291.200 m A'



K14土坑 2号 L14土坑 1号 A-A'

- 1 10YR2/3 黒褐色土 径2mm大の南部浮石粒多量・炭化物粒微量混入
 - 2 10YR3/3 暗褐色土 褐色土・南部浮石粒混入
 - 3 10YR3/1 黒褐色土 基本土層III層中位類似
 - 4 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒混入
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 4層に白色粘土少量混入
 - 6 10YR3/2 黒褐色土 白色粘土・径2mmの南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒混入
 - 7 6層に南部浮石粒多量混入
 - 8 10YR3/3 暗褐色土 褐色土・南部浮石粒混入
 - 9 10YR3/4 暗褐色土 8層に褐色土混入
 - 10 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入 基本土層III層上位類似
 - 11 10YR3/1 黒褐色土 基本土層I層相当 木根の攪乱?
 - 12 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入
 - 13 10YR3/3 暗褐色土 黒褐色土・南部浮石粒混入
- ※1~11層はK11大型住居跡内柱穴56・K14土坑2号? 12~14層はL14土坑1号

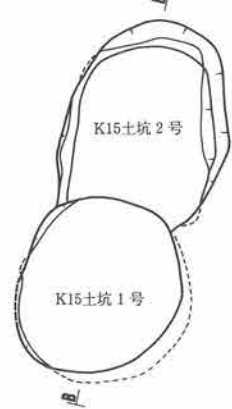
B L-291.600 m B'



K15土坑 1・2号 B-B'

- 1 10YR2/2 黒褐色土 径2mm大の南部浮石粒混入
 - 2 10YR2/2 黒褐色土 径2mm大の南部浮石粒・八戸火山灰層混入
 - 3 10YR2/3 黒褐色土 径2mm大の南部浮石粒・八戸火山灰層混入
 - 4 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒微量混入
 - 5 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 6 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒・八戸火山灰層混入
 - 7 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒・八戸火山灰層・炭化物粒微量混入
 - 8 10YR3/1 黒褐色土 褐色土・南部浮石粒微量混入
 - 9 10YR2/3 黒褐色土 褐色土微量・南部浮石粒多量・焼土粒微量混入
 - 10 10YR3/3 暗褐色土 南部浮石粒・八戸火山灰層混入
 - 11 10YR4/4 褐色土 八戸火山灰層(基本土層Vb) 暗褐色土微量混入
 - 12 10YR3/1 黒褐色土 径2mm大の南部浮石粒混入
- ※1~7層の壁、床とも八戸火山灰層 8~12層は9層の床面?

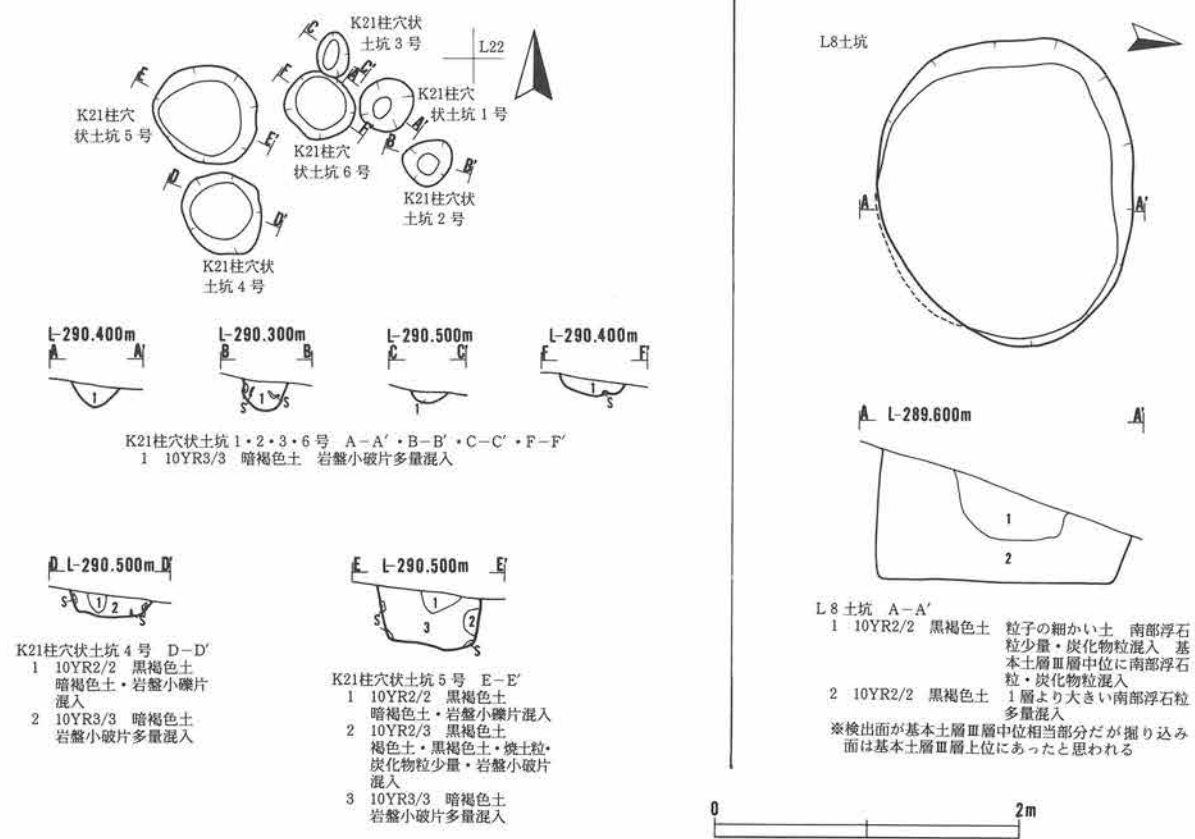
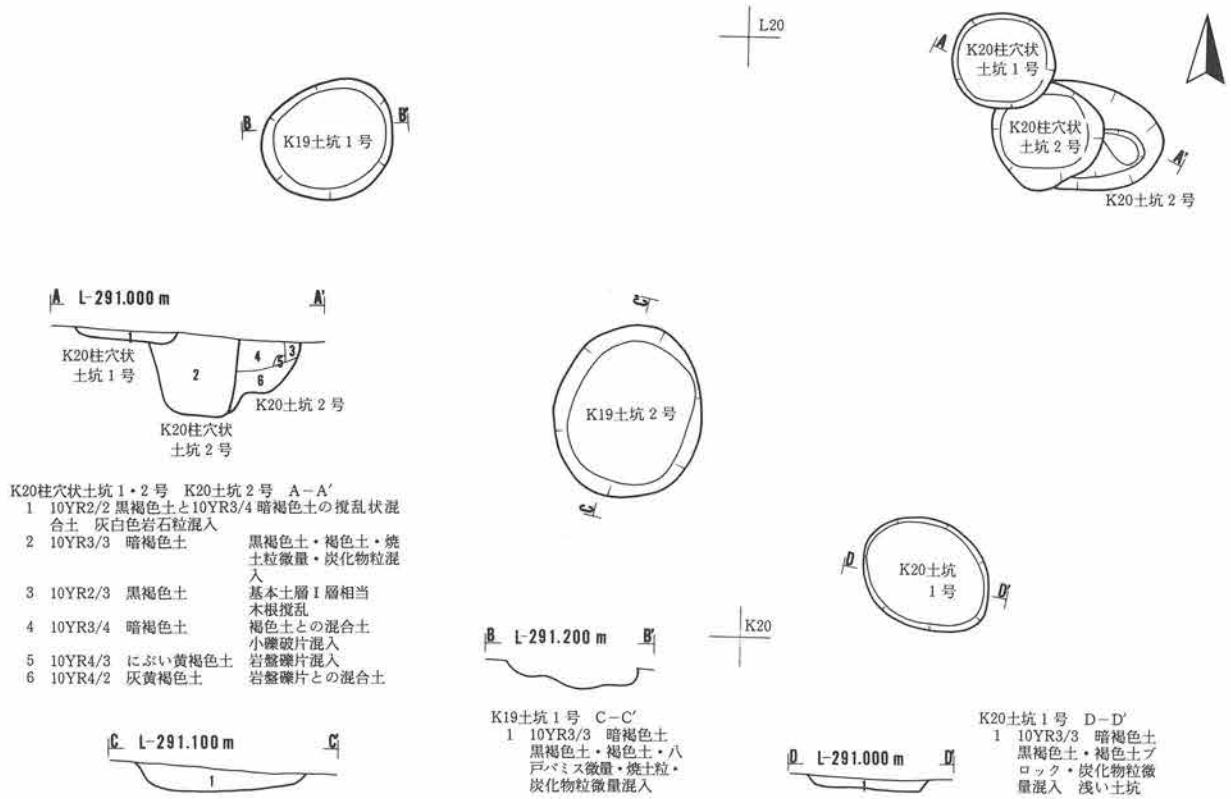
K15土坑 2号



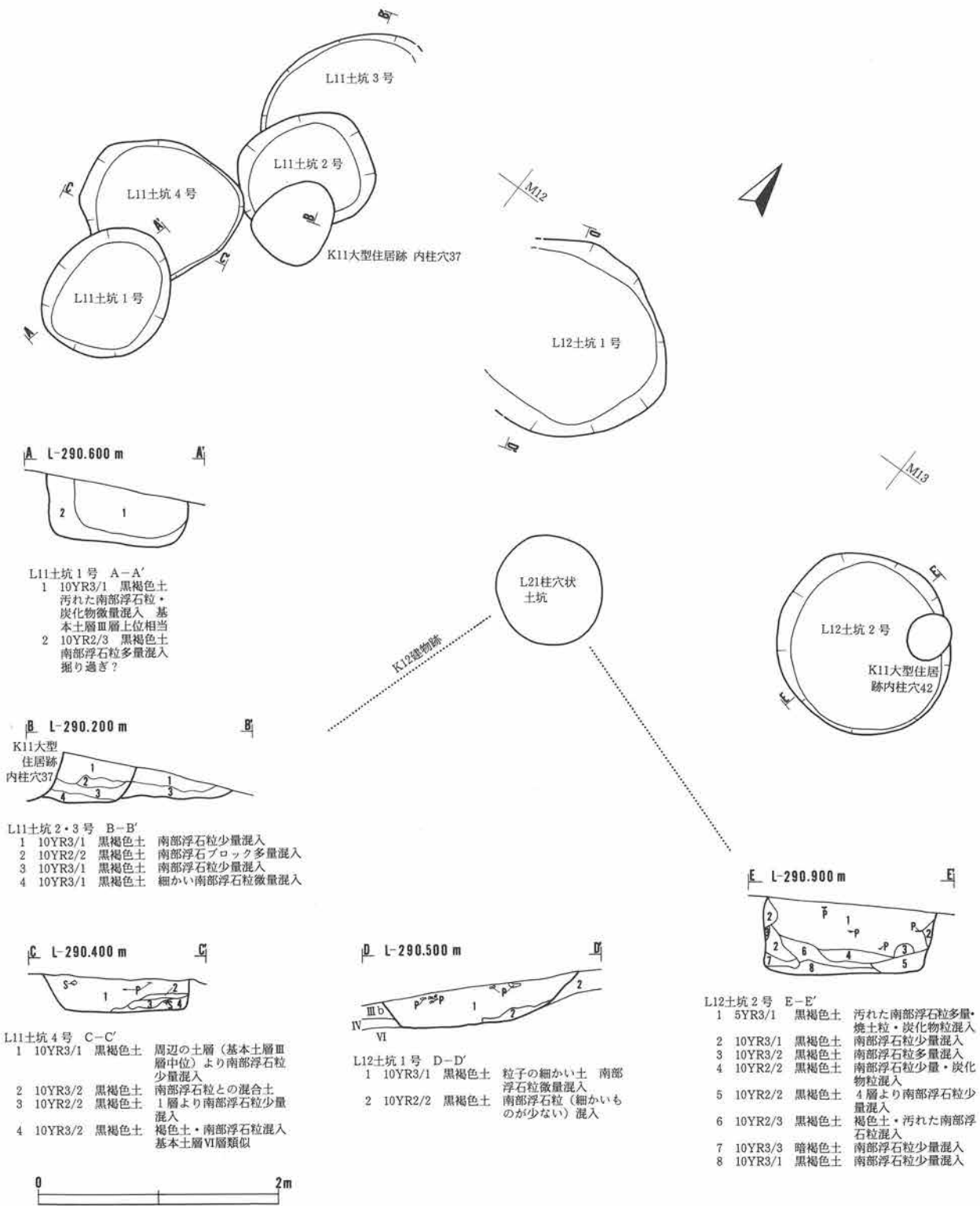
K15土坑 1号



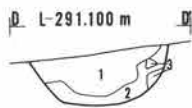
第99図 土坑・柱穴状土坑 (51)



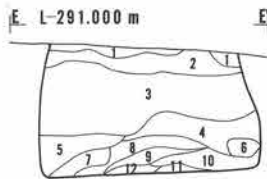
第100図 土坑・柱穴状土坑 (52)



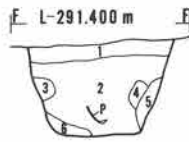
第101図 土坑・柱穴状土坑 (53)



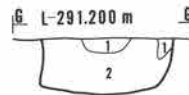
- L15土坑1号 D-D'
- 7.5YR2/1 黒色土
砂質シルト 二次中礫・南部
浮石粒5%・炭化材片混入
 - 10YR3/2 黒褐色土
砂質シルト 二次中礫・南部
浮石粒5~10%混入
 - 崩落土 南部浮石ブロック



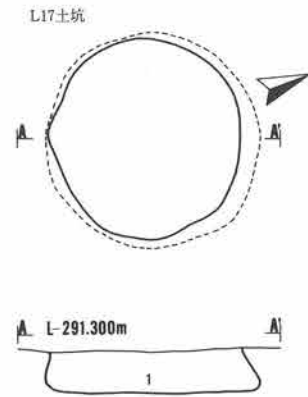
- L15土坑2号 E-E'
- 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒少量・炭化物粒
微量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土 汚れた南部浮石粒多量混入
褐色土少量・2層より細か
い南部浮石粒少量・焼土粒
微量・炭化物粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 3層より褐色土多量・汚れ
た南部浮石粒・炭化物粒少
量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土 褐色土少量・南部浮石粒少
量・炭化物粒微量混入
 - 10YR3/1 黒褐色土 南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/2 黒褐色土 褐色土・南部浮石粒混入
 - 10YR3/3 暗褐色土 褐色土・黒褐色土・南部浮
石粒微量・土器混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 八戸火山灰の人為堆積
 - 10YR3/4 暗褐色土 八戸火山灰の人為堆積 南
部浮石粒少量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土 八戸火山灰層
 - 10YR2/2 黒褐色土 南部浮石粒混入



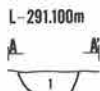
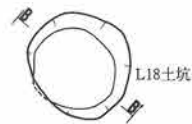
- L16土坑1号 F-F'
- 10YR1.7/1 黒色土
南部浮石粒少量混入
 - 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒混入
 - 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
 - 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒少量混入
 - 10YR3/4 暗褐色土
南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/6 褐色土
南部浮石粒多量混入



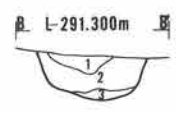
- L16土坑2号 G-G'
- 10YR4/3 にぶい黄褐色土
南部浮石粒・八戸火山灰層混入
 - 10YR2/2 黒褐色土
八戸火山灰層と南部浮石粒との
混合土 炭化物粒微量混入



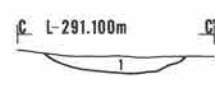
- L17土坑 A-A'
- 10YR2/3 黒褐色土
褐色土ブロック少量・
南部浮石粒多量・炭
化物粒微量混入



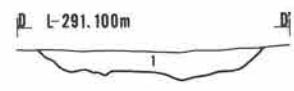
- M19柱穴状土坑 A-A'
- 10YR3/1 黒褐色土
十和田b少量混入



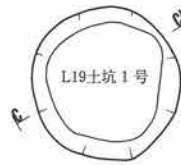
- L18土坑 B-B'
- 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒微量混入
 - 10YR4/3 にぶい黄褐色土
白色砂土・パミス・南部浮石
粒微量・炭化物粒微量混入
 - 10YR4/4 褐色土
パミス混入 掘り過ぎ?



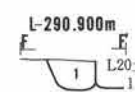
- L19土坑1号 C-C'
- 10YR2/3 黒褐色土
褐色土ブロック・焼土粒・
炭化物粒微量・土器混入



- L19土坑2号 D-D'
- 10YR2/2 黒褐色土
褐色土少量・白色浮石
(十和田b?)・南部浮
石粒微量・焼土粒・炭
化物粒微量混入

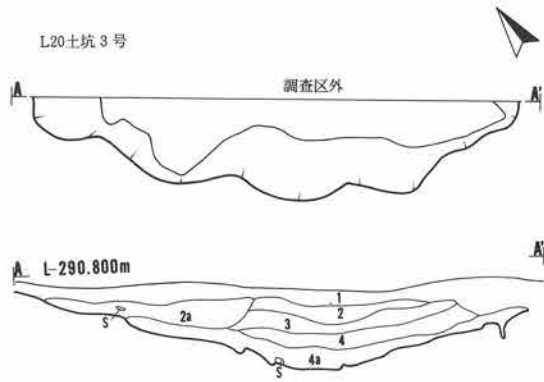


- L20土坑1号 E-E'
- 10YR2/2 黒褐色土と10YR3/3
暗褐色土の混合土 底部に暗褐
色土・南部浮石粒2%混入



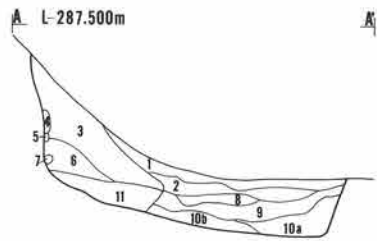
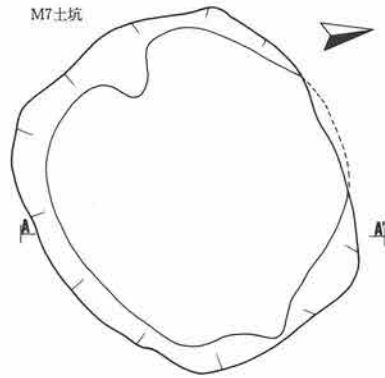
- L20土坑2号 F-F'
- 10YR2/2 黒褐色土
褐色土との混合土

第103図 土坑・柱穴状土坑 (55)



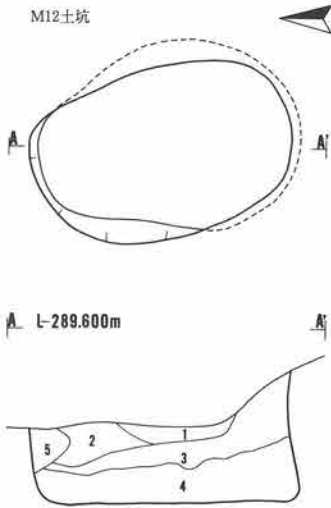
L20土坑 3号 A-A'

1	7.5YR3/1	黒褐色土	シルト	木根等多量混入
2	7.5YR3/1~10YR3/1	黒褐色土	シルト	十和田 a・b 混入
2a	10YR3/1	黒褐色土	シルト	
3	10YR2/1	黒色土	シルト	径 1 cm 程の角礫少量混入
4	10YR3/1	黒褐色土	シルト	
4a	10YR3/1	黒褐色土	シルト	黄褐色土・小角礫少量混入



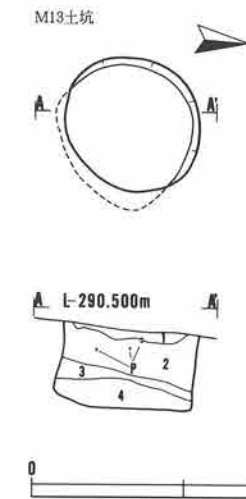
M7土坑 A-A'

1	10YR2/1	黒色土	シルト	径 2~10mm の南部浮石粒微量混入 2層極似 2層に踏みしめられた部分
2	10YR2/1	黒色土	シルト	径 2~10mm の南部浮石粒微量・炭化物粒微量混入
3	10YR2/1	黒色土	シルト	径 2~10mm 南部浮石粒微量混入
4	10YR2/1	黒色土	シルト	6層相当
5				7層相当
6	10YR2/1	黒色土	シルト	径 2~10mm の南部浮石粒微量混入 (3層極似 南部浮石粒多量 3層と6層は流入土で6層がその下部?)
7				南部浮石ブロック状の混入部
8	10YR2/1	黒色土	シルト	径 5~10mm の南部浮石粒多量混入
9	10YR2/1	黒色土	シルト	10a層より南部浮石粒少量混入
10a	10YR2/1	黒色土	シルト	径 5~10mm の南部浮石粒少量混入
10b	10YR2/1	黒色土	シルト	10a層より若干茶色強 径 5~10mm の南部浮石粒少量混入
11	10YR6/8	明黄褐色土		南部浮石粒層 崩落土



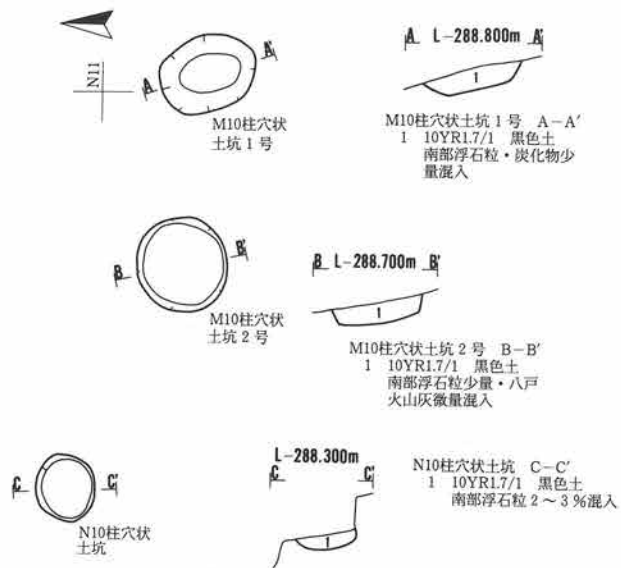
M12土坑 A-A'

1	10YR2/2	黒褐色土		褐色土ブロック・南部浮石粒少量混入
2	10YR3/1	黒褐色土		南部浮石粒・炭化物粒微量混入
3	10YR2/3	黒褐色土		中部・南部浮石粒微量混入
4	10YR2/3	黒褐色土		基本土層IV層相当
5	10YR7/8	明黄褐色土		南部浮石粒層

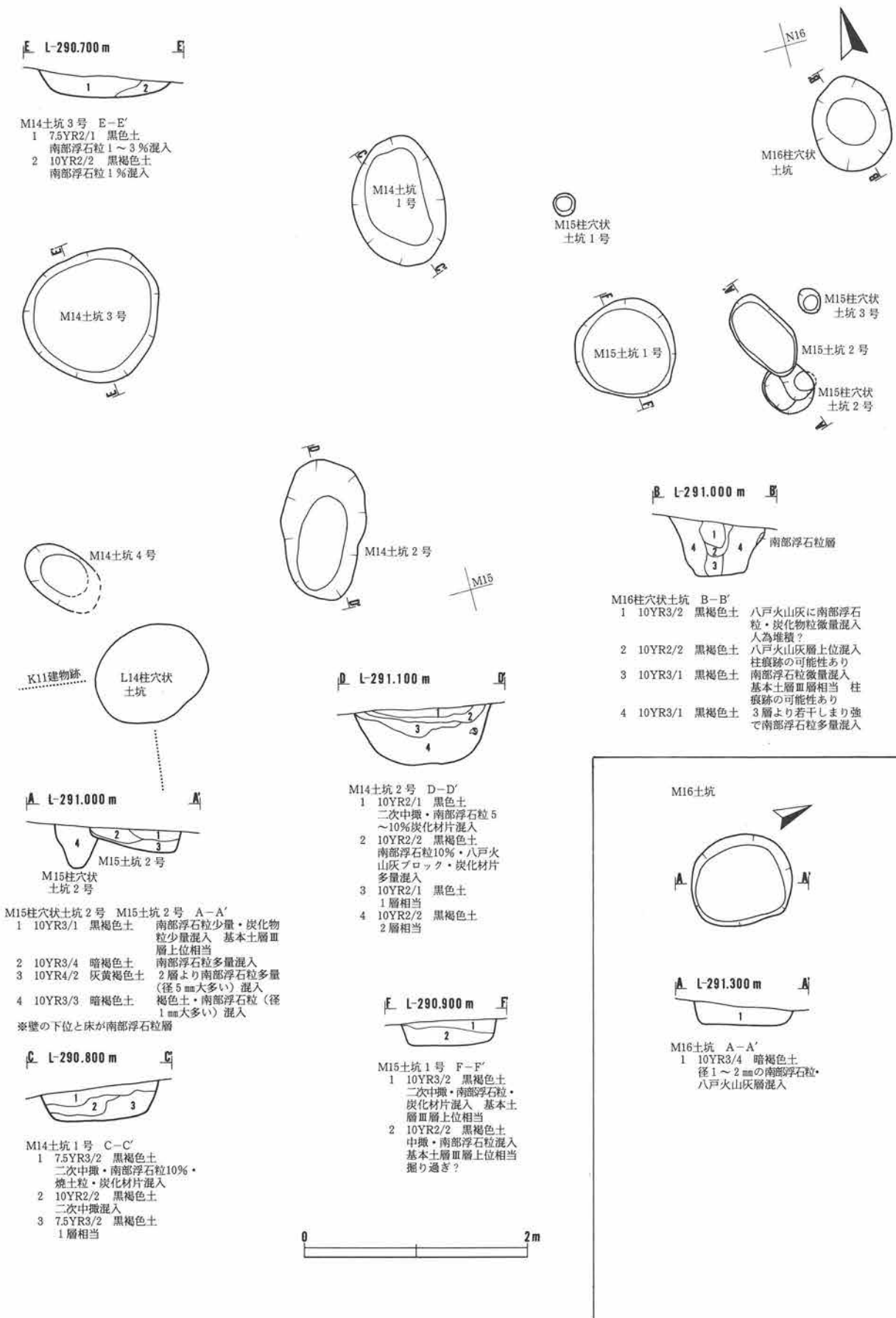


M13土坑 A-A'

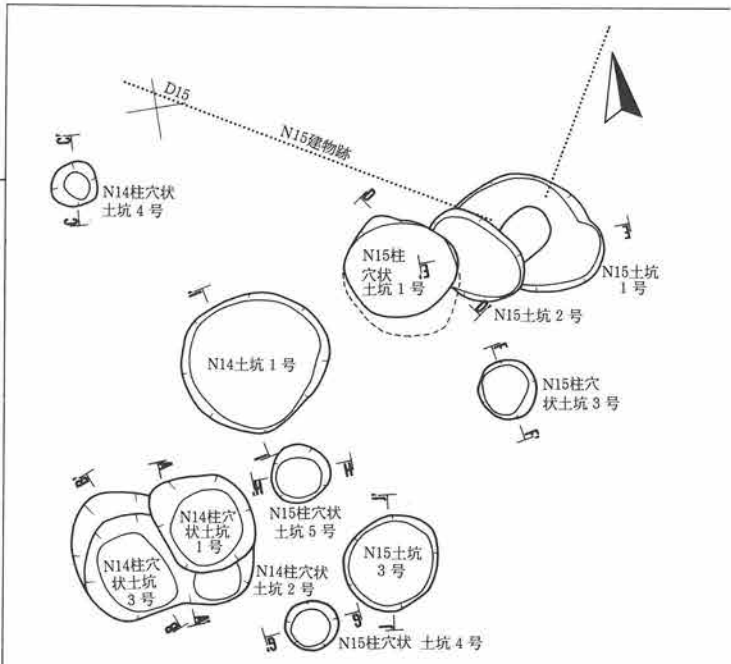
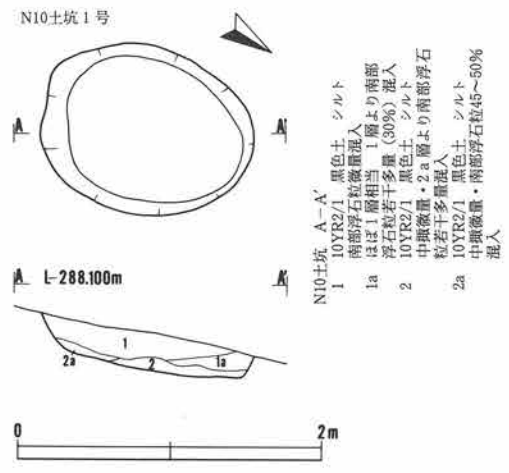
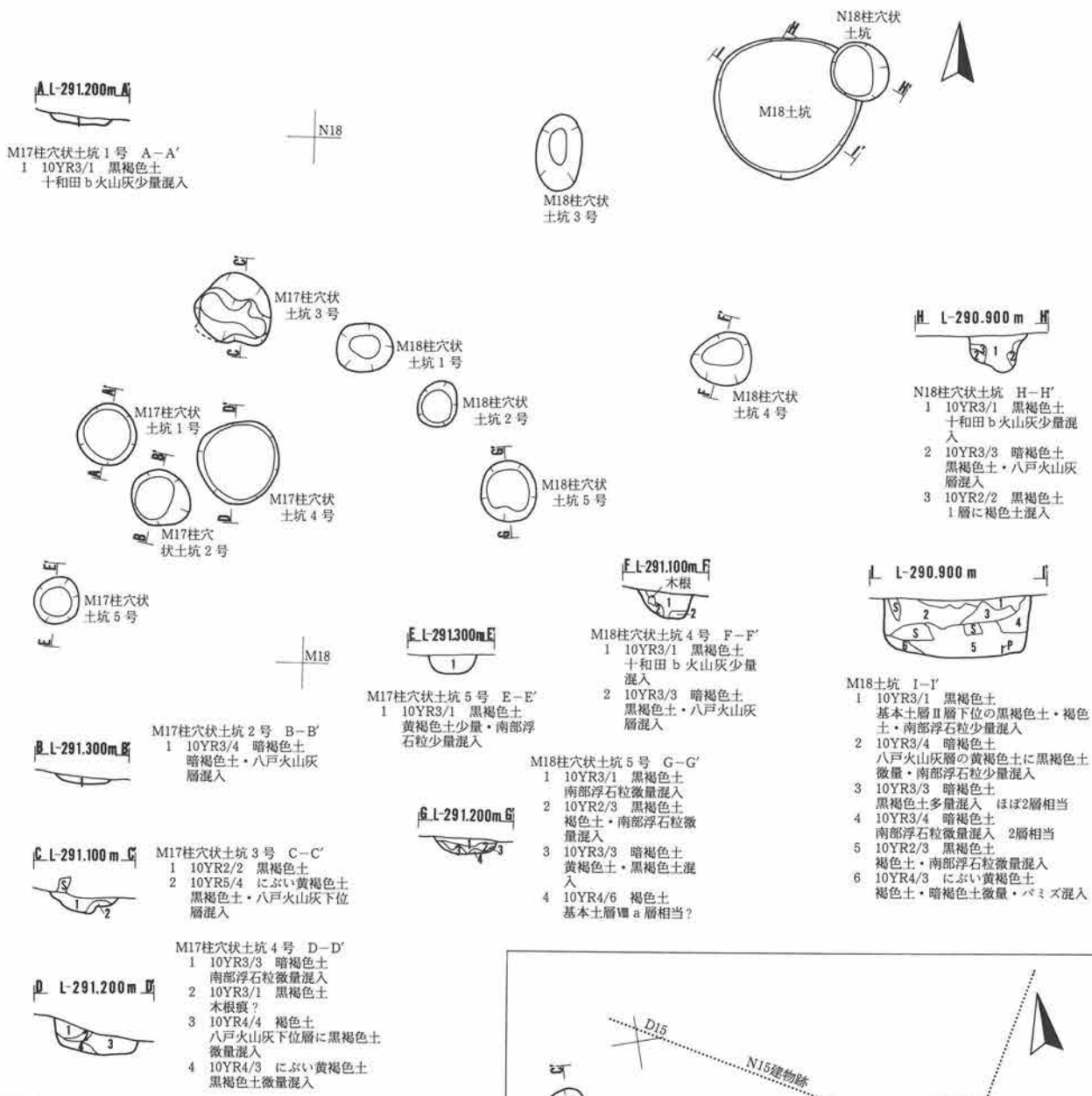
1	10YR2/3	黒褐色土		南部浮石粒・炭粒・炭化物粒混入
2	10YR2/2	黒褐色土		南部浮石粒少量・土器混入
3	10YR3/1	黒褐色土		南部浮石粒微量・土器混入
4	10YR2/2	黒褐色土		南部浮石粒少量混入



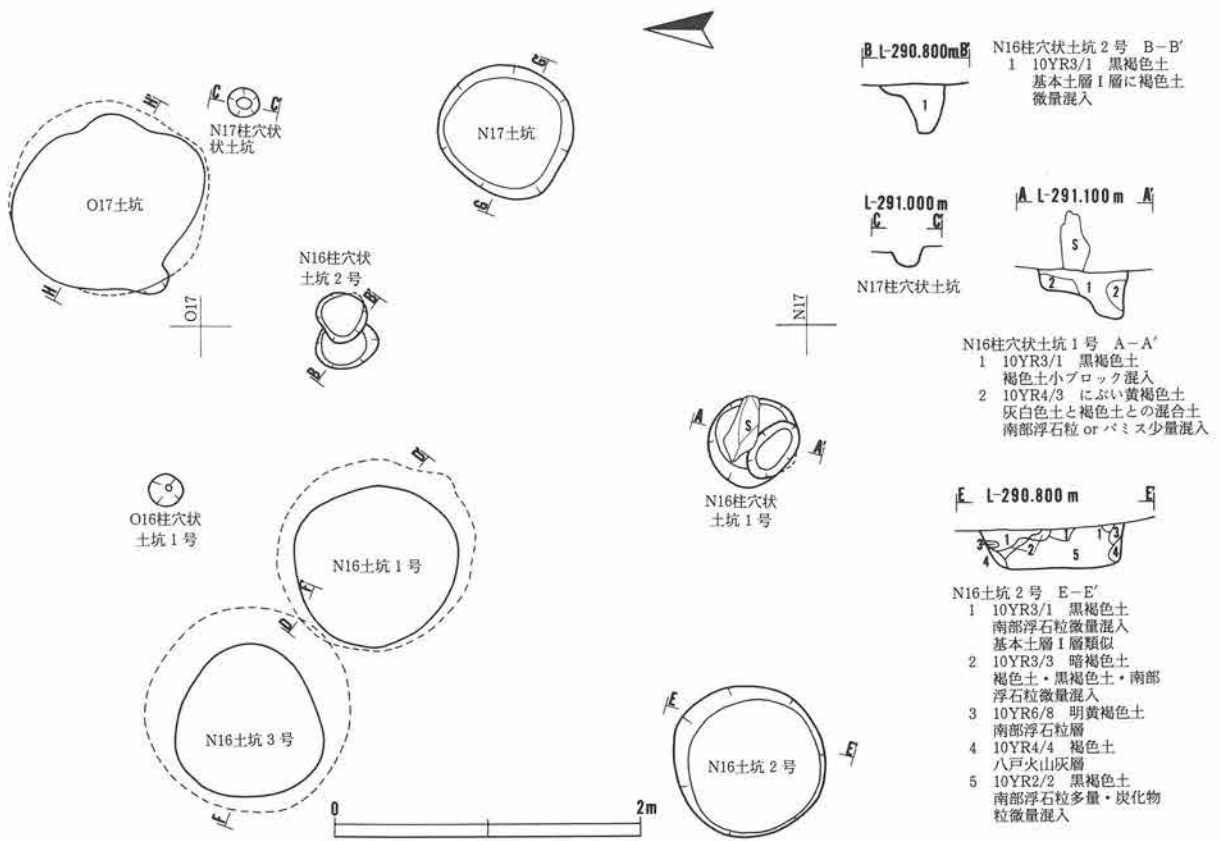
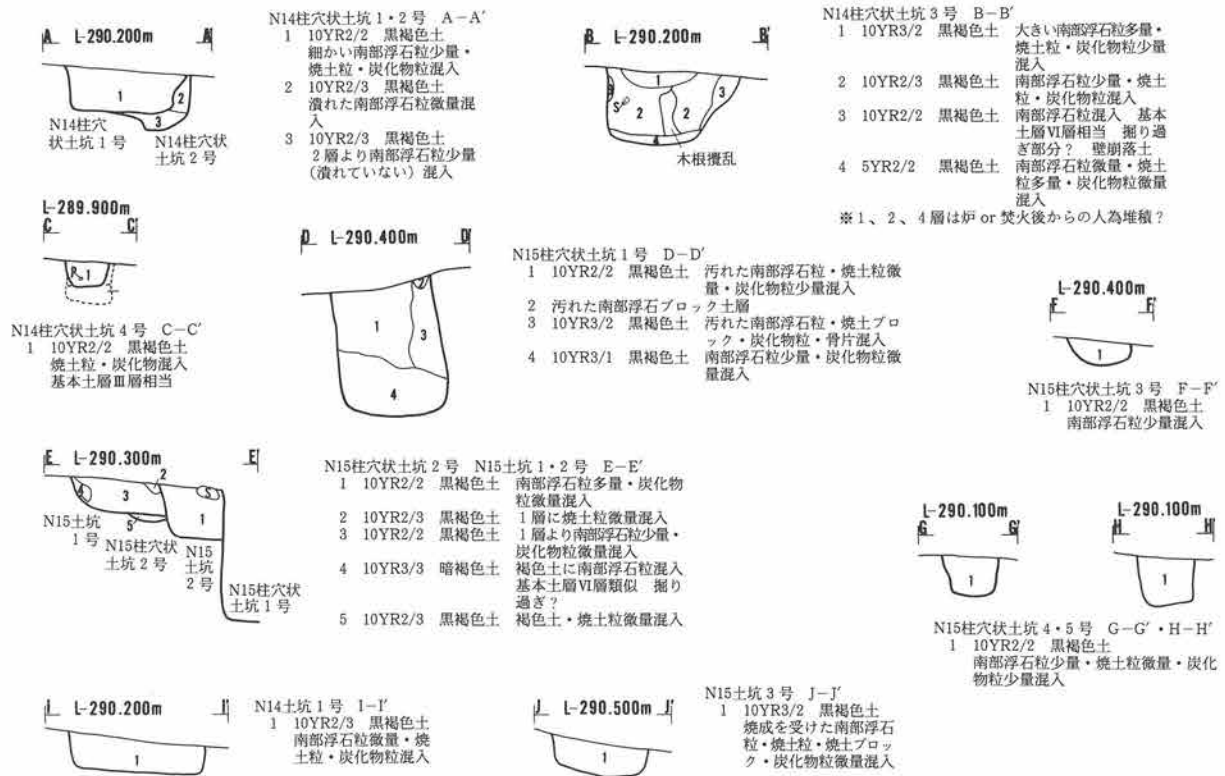
第104図 土坑・柱穴状土坑 (56)



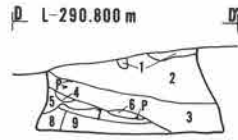
第105図 土坑・柱穴状土坑 (57)



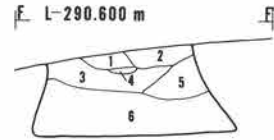
第106図 土坑・柱穴状土坑 (58)



第107図 土坑・柱穴状土坑 (59)



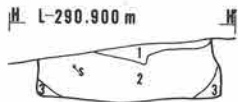
- N16土坑 1号 D-D'
- | | | | |
|---|-------------|----------|---------------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 基本土層I層に南部浮石粒微量混入 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒混入 |
| 3 | 10YR2/2~3/3 | 黒褐色~暗褐色土 | 南部浮石粒・焼土粒多量・炭化物粒微量混入 |
| 4 | 10YR6/8 | 明黄褐色土 | 細かい南部浮石ブロック土層 |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 八戸火山灰ブロック土 |
| 6 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒微量混入 |
| 7 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 5層相当 |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 汚れた南部浮石粒との混合土 |
| 9 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒混入
南部浮石粒・八戸火山灰層混入 |



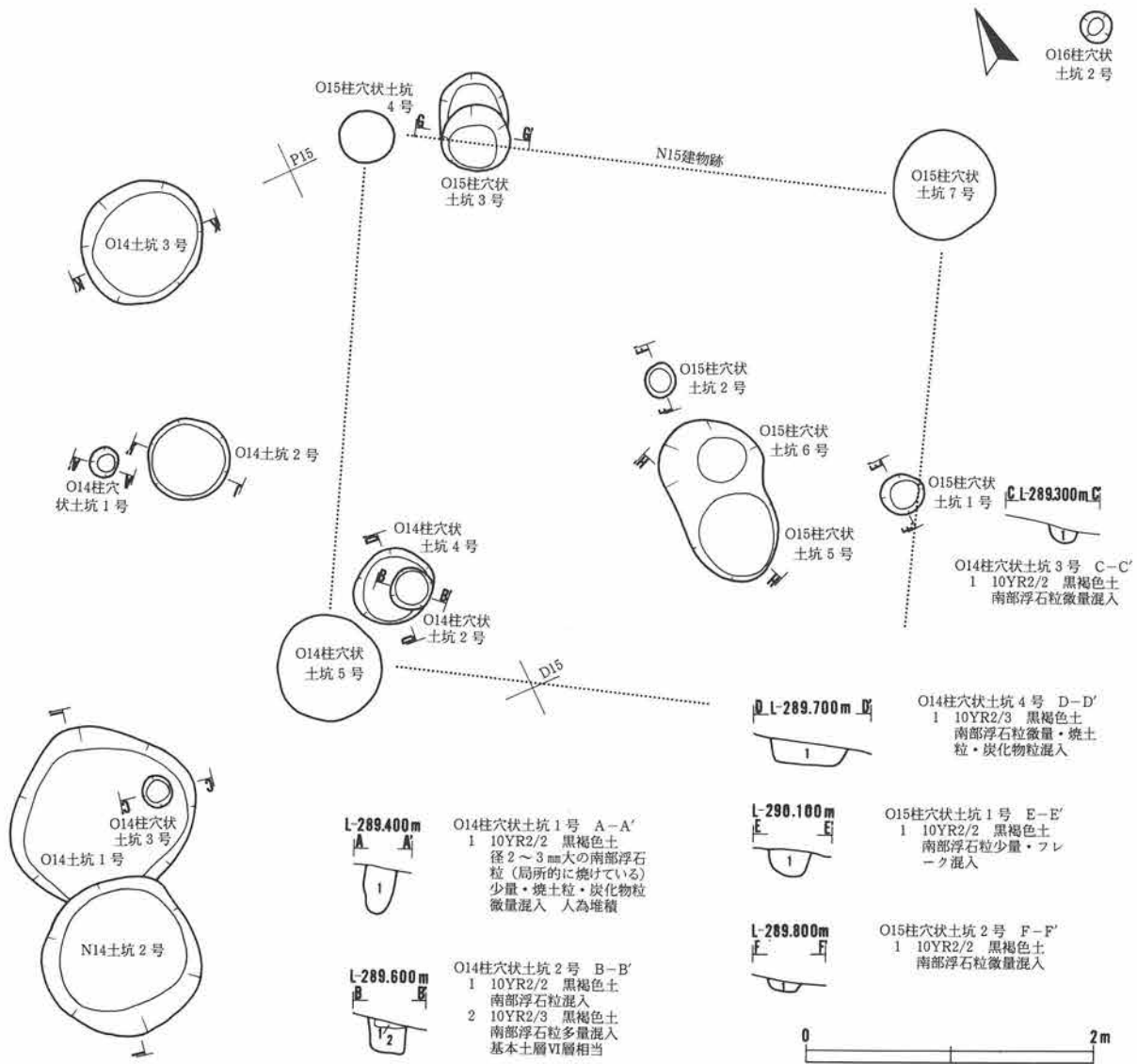
- N16土坑 3号 F-F'
- | | | | |
|---|-------------|------|---------------------------------|
| 1 | 10YR2/2~2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒15~20%混入 |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒7~10%混入 |
| 3 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒5~7%混入 |
| 4 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 南部浮石粒2~3%混入 |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 南部浮石粒10~15%・焼土粒微量・炭化物粒混入 |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 南部浮石粒7~10%・八戸火山灰少量・焼土粒微量・炭化物粒混入 |



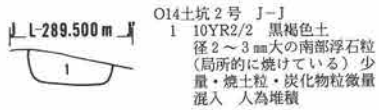
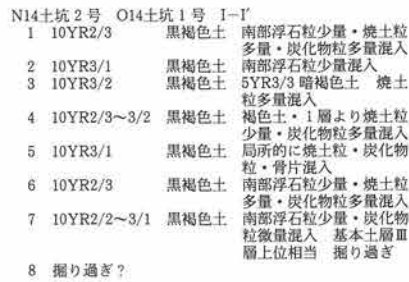
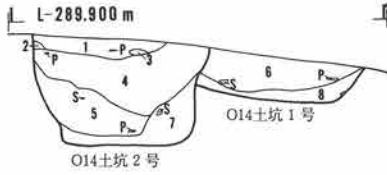
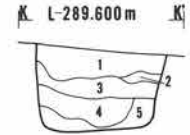
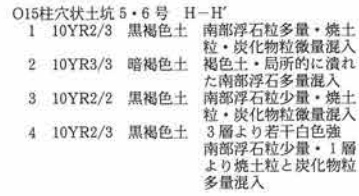
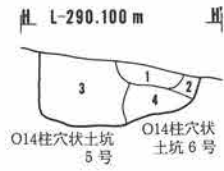
- N17土坑 G-G'
- | | | | |
|---|---------|-----|--------------|
| 1 | 10YR4/4 | 褐色土 | 暗褐色土・南部浮石粒混入 |
|---|---------|-----|--------------|



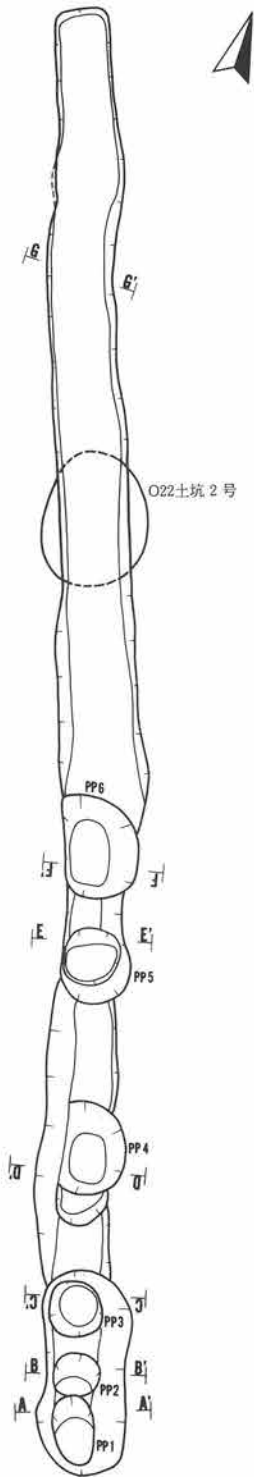
- O17土坑 H-H'
- | | | | |
|---|---------|---------|-------------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒・八戸火山灰層混入 人為堆積 |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 1層より八戸火山灰多量・土器少量混入 人為堆積 |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 南部浮石粒少量混入 自然堆積 |



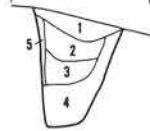
第108図 土坑・柱穴状土坑 (60)



第109図 土坑・柱穴状土坑 (61)



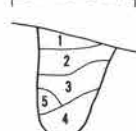
[A L-289.700m A']



G23柱穴列内柱穴 1号 A-A'

- 1 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒少量・炭化物粒
微量混入
- 2 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒少量混入
- 4 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒微量混入
- 5 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒少量混入

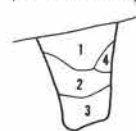
[B L-289.800m B']



G23柱穴列内柱穴 2号 B-B'

- 1 10YR2/3 黒褐色土と 10YR3/3
暗褐色土の混合土 中微少量・
南部浮石粒多量混入
- 2 10YR2/2 黒褐色土
中微少量・南部浮石粒少量混入
- 3 10YR3/1 黒褐色土
南部浮石粒微量混入
- 4 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒微量混入
- 5 10YR2/2 黒褐色土
細かい南部浮石粒多量混入

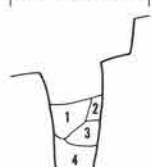
[C L-289.800m C']



G23柱穴列内柱穴 3号 C-C'

- 1 10YR3/1 黒褐色土
中微少量・細かい南部浮石
粒少量混入
- 2 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒微量・炭化物粒
微量混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒微量混入
- 4 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入

[D L-290.000m D']



G23柱穴列内柱穴 4号 D-D'

- 1 10YR2/2 黒褐色土
中微少量・南部浮石粒少量・
炭化物粒微量混入
- 2 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 4 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒少量混入

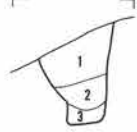
南部浮石粒層

[E L-289.900m E']



南部浮石粒層

[F L-289.900m F']



G23柱穴列内柱穴 6号 F-F'

- 1 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 2 10YR2/2 黒褐色土
1層より南部浮石粒少量
混入
- 3 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒多量混入

G23柱穴列内柱穴 5号 E-E'

- 1 10YR2/3 黒褐色土
黒色土・南部浮石粒多量混入
- 2 10YR2/2~2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 4 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入

[G L-290.200m G']

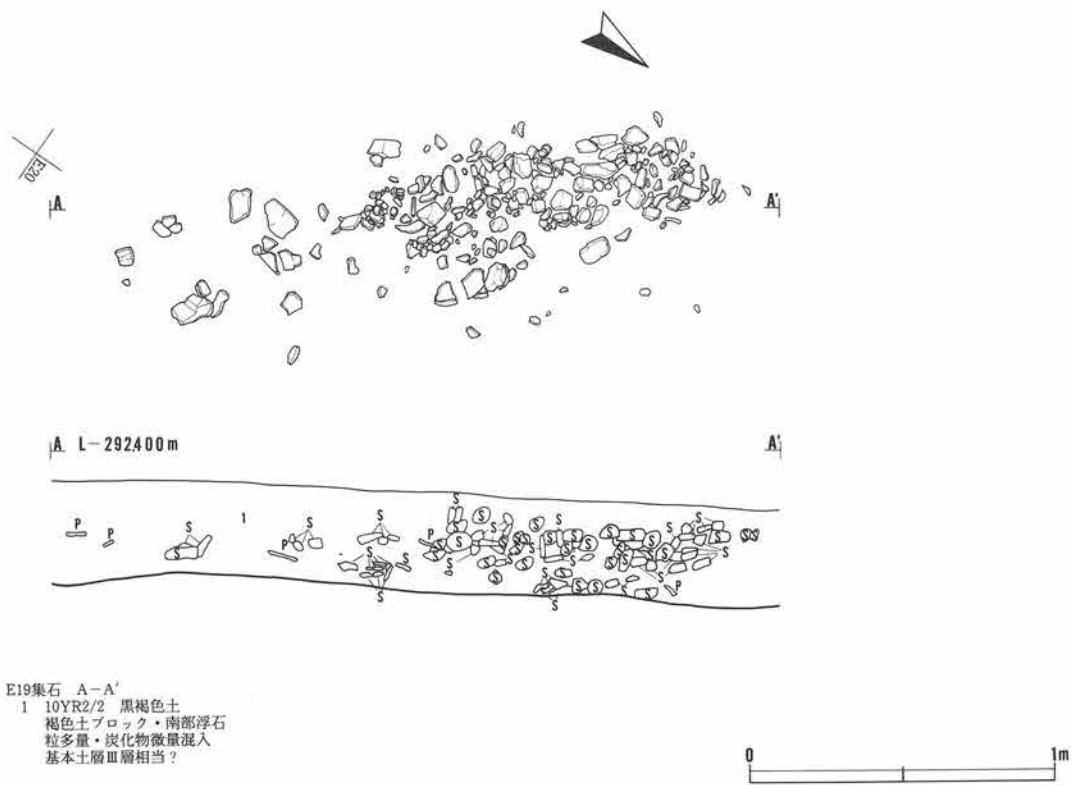
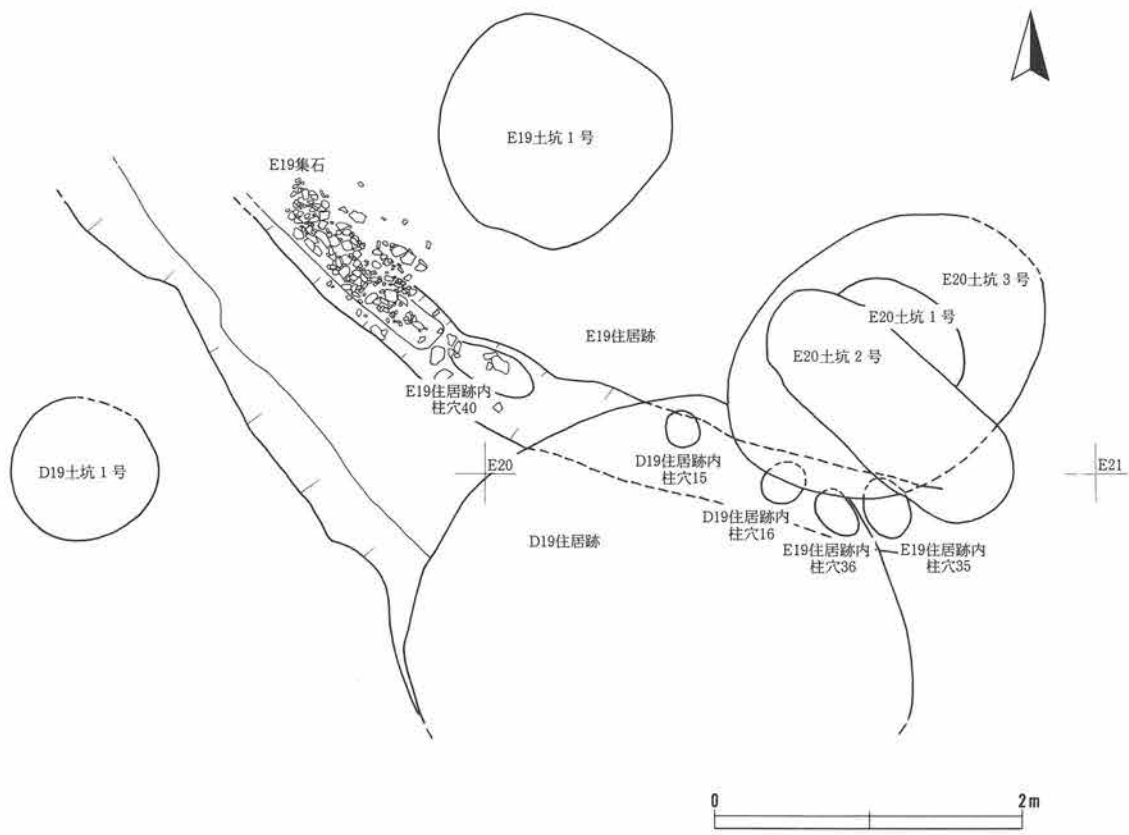


G23柱穴列 G-G'

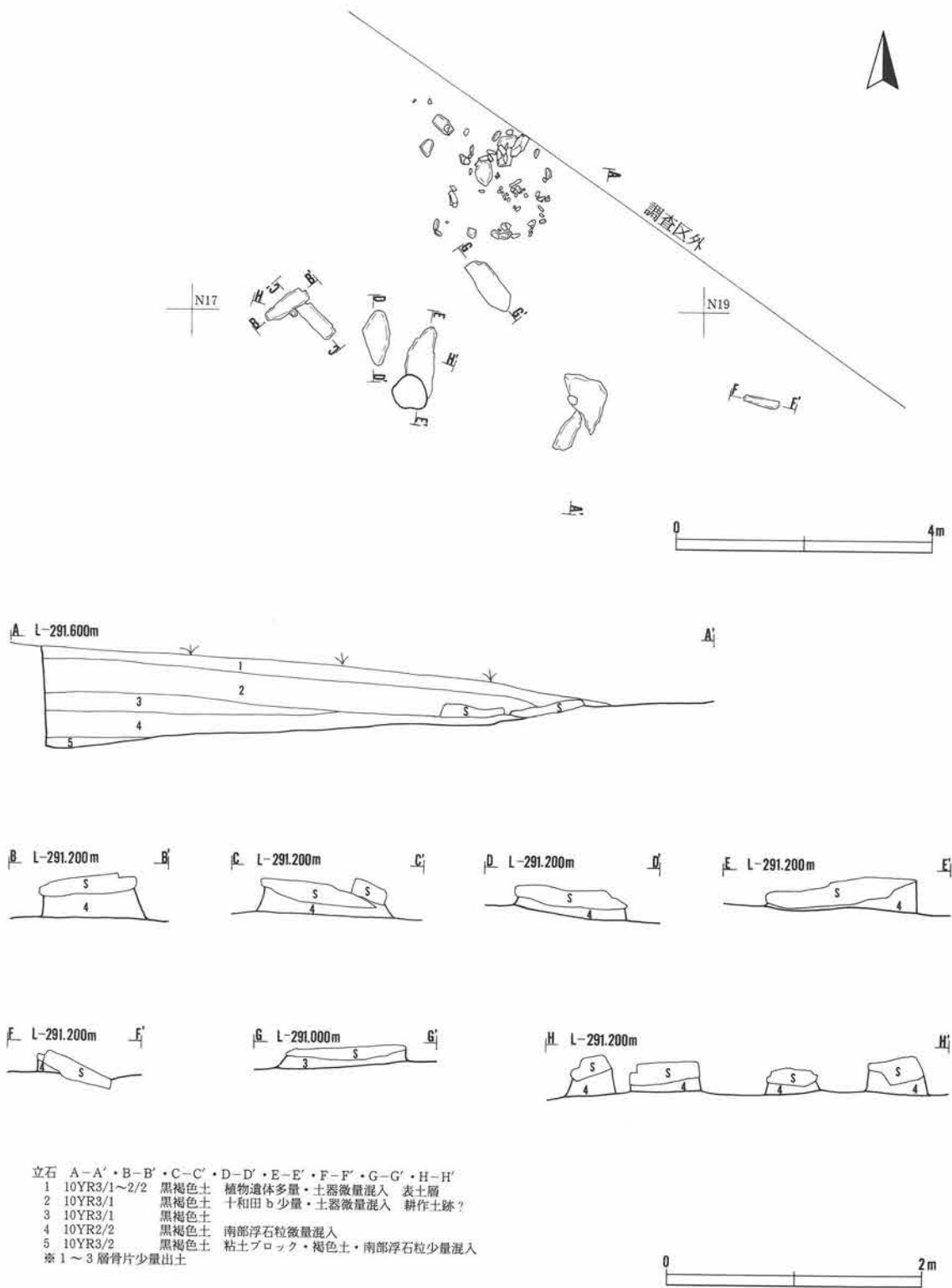
- 1 10YR2/1 黒色土
南部浮石粒多量混入
- 2 10YR3/2 黒褐色土と
南部浮石粒の混合土
- 3 10YR2/2 黒褐色土
南部浮石粒多量混入
- 4 10YR2/3 黒褐色土
南部浮石粒多量混入



第110図 G23柱穴列



第111図 E19集石



第112図 M17立石

8 集石・立石遺構（第111～112写真図版152～154）

集石1基と立石1基を検出している。

E19集石（第111図、写真図版152）

〈位置・検出状況〉 調査区E19グリッドに位置する。検出状況は、E19住居跡の精査終了後に行ったダメ押し作業中に検出した。

〈平面形・規模〉 径3～20cm大の角礫が200×50cm程の範囲内で密に集められ、南から西へ溝状に延びる。少量ではあるが、後期の土器片が混在する。

〈埋土〉 黒褐色土に覆われていた。

〈出土遺物〉（第193図1149～1150、写真図版214） 縄文時代後期の土器小片と石器2点が角礫と混在して少量出土している。

石器（第193図1149～1150、写真図版214） 1149と1150は、角礫と混在して出土したものである。

〈時期〉 E19住居跡より古い時期であることがわかった。よって、晩期以前の可能性が高い。

M17立石（第112図、写真図版153・154）

〈位置・検出状況〉 調査区東側のM17グリッドに位置する。基本層序Ⅱ層の除去中に検出した。個々の礫はⅢ～Ⅳ層中に設置（置かれる）されている。M17立石が所在するM17・18グリッド付近は、遺物包含層の分布範囲ではあるが、周辺からの出土土器量が極めて少ないエリアであった。

〈平面形・規模〉 細かい石片や石刀片が直径2m程の範囲に環状気味に集散し、その外側に径100cm程の角礫が配置される。外側に見られる礫は、配列に規則性などは窺えない。

角礫が配置される内側には、細かい石が環状気味に集散される施設？があるが、本遺構に伴うのかM15溝跡に伴うものかあるいは併せて一つの遺構として捉えられるのか明確な判断はできなかった。

〈礫の設置状態〉 角礫の設置状態は、黒土中なため事実確認が困難であったようであるが（調査記録がなく、図と写真から判断）、明確な掘り込みは見られないことから埋め込んだとは思われない。また、地面に石を突き刺したという様相でもないことから、地面に角礫を置いたといった様相で捉えられる。

〈出土遺物〉 本遺構の周辺からは、検出作業時を含めて遺物の出土が少なく、出土している土器も小片のみであった。

〈時期〉 明確には不明であるが、検出面や周辺出土の土器から晩期と推定される。

9 溝状遺構（第113図、写真図版155）

調査では明確な性格付けができなかった遺構で、一カ所検出した。

M15溝状遺構（第113図、写真図版155）

〈位置・検出状況〉 M15～M19・N16～N19グリッド付近において、Ⅲ層の精査中に検出した。周辺の黒土に比べて、明瞭に黒色の濃い土が溝状に広がる。現況地形はほぼ平坦で、本遺構の西端部分付近から西側に向かって穏やかに傾斜する。付近の土層堆積状況は、遺物包含層の層厚が薄い地点である。

当初は、竪穴住居跡を想定して精査を進めたが、竪穴住居跡と認知できる施設の検出がなく、明確な竪穴の掘り込みも確認されなかったことから、自然の落ち込みとして捉えていた。しかし、精査が進むにつれ、埋土中や床面（IV層）からフレイク・チップがまとまって出土したことから、石器製作工房的な施設である可能性も考え、遺構として登録した経緯がある。

〈規模〉 東西方向に長軸を取る様相であるが、東端と西端が途切れ、北側は調査区外なことから全貌は不明である。

〈埋土〉 第113図には表土からの断面図を掲載している。本遺構の埋土として捉えられるのは3層で、黒褐色土シルトに粘土ブロックと南部浮石粒が少量混入する。また、局所的ではあるが十和田b火山灰が底面近くまで見られる。

〈出土遺物〉（第193～195図1151～1159、写真図版214、215） 晩期の土器小片と礫石器が出土した。

石器類（第193～195図1151～1159、写真図版214、215） 磨石、敲石、凹石がフレイク・チップに混在して出土した。

〈時期〉 晩期と推定される。

10 旧沢跡（第114図、写真図版156）

旧沢跡は、東部捨て場より1条検出した。

C26旧沢跡（第114図、写真図版156）

〈位置・検出状況〉 自然現象により地表に掘り込まれた急な側壁をもつ小規模な溝状である。形成原因は降水が地表面を流れるとき、わずかなくぼみに集中して浅い溝（リル）が作られ、深さを増すことによるものと思われる。調査区東端部のB26～G27グリッドにかけて検出され、検出面はⅧ層中、標高は286～291mである。E26土坑1号及びC23土坑1号は本沢跡上に作られている。

〈規模〉 全長は調査区外に延びることから不明である。規模は、開口部径60～140cmで平均すると65cm程、底部径10～100cmで平均すると40cm程、深さ20～100cmで、平均すると40cm程である。

〈埋土〉 第114図に掲載した土層断面図は、現地表面までを図示したものである。1層が表土、2層系が十和田a・b火山灰混入層、3層系が遺物包含層、4・5層が中礫火山灰混入層、6層が南部浮石層、7層系が沢跡を覆う主埋土で、一部4・5・6層が7層系に流れ込んでいる様相である。7層系は南部浮石粒及び八戸火山灰の二次堆積が確認される。

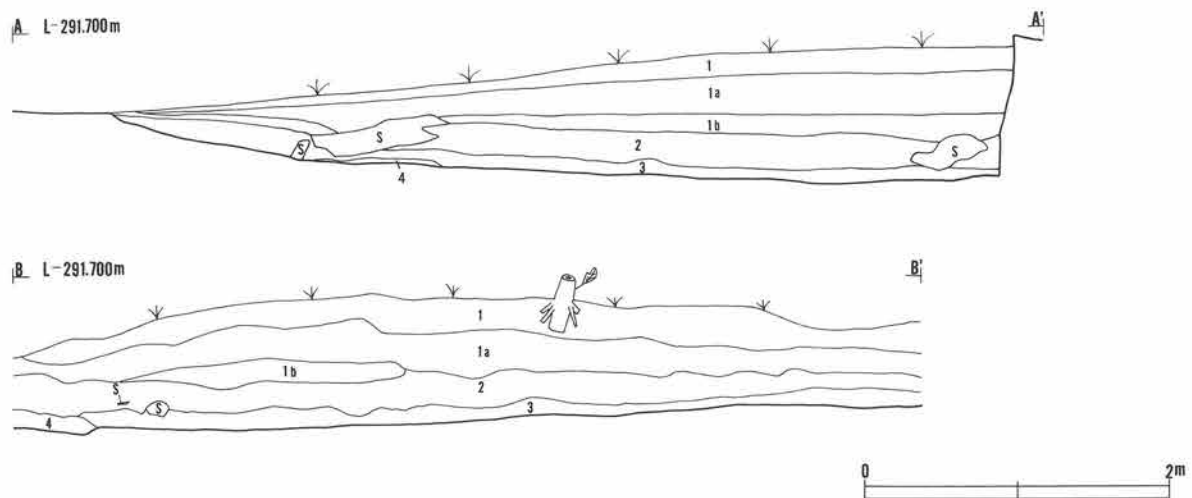
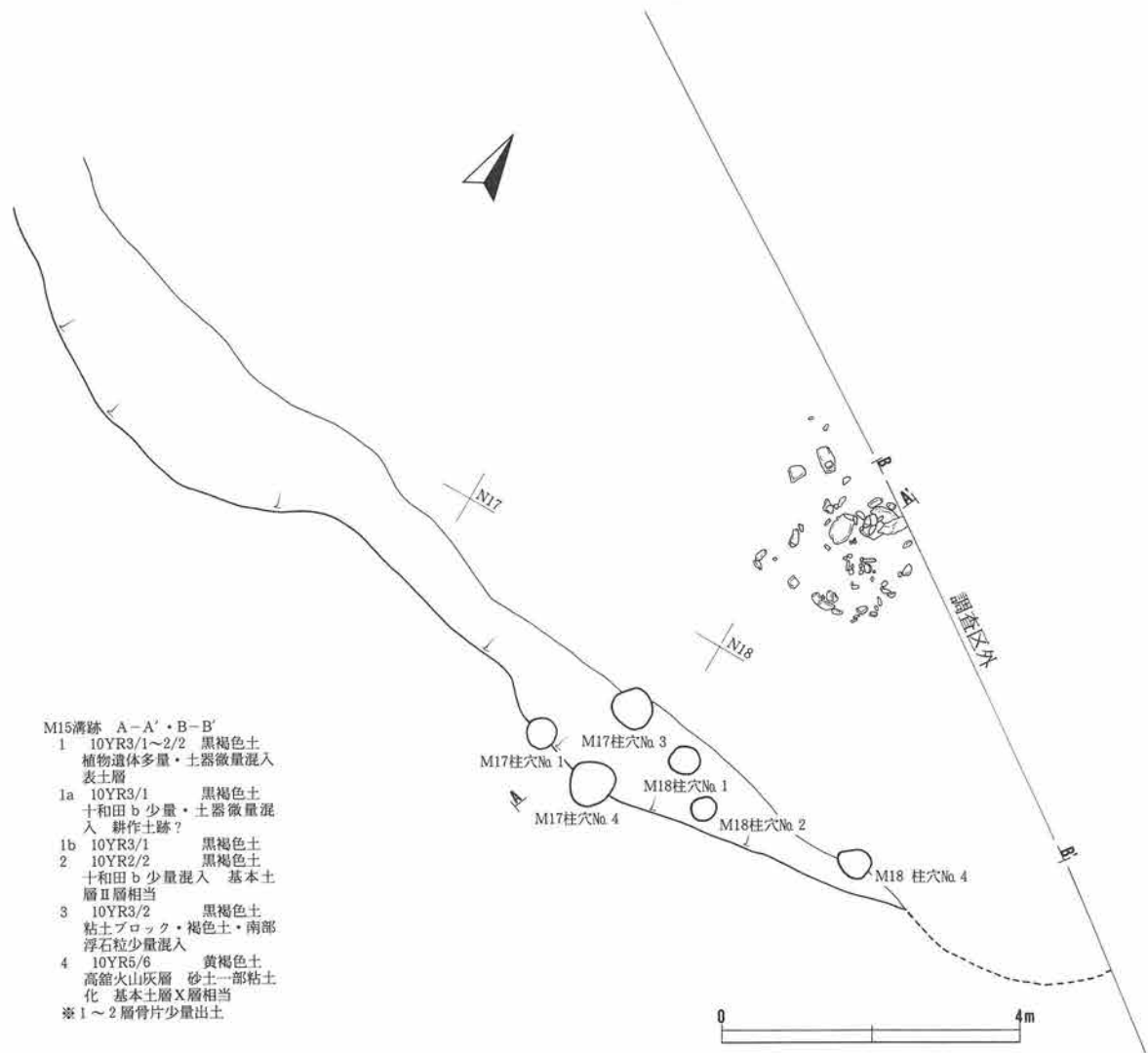
〈出土遺物〉（第167図、第172図、第195図、写真図版198、202、215） 上方付近で遺物包含層が局所的に流れ込んでいることから、後～晩期の土器や石器は出土しているが、本沢跡の埋没時に伴うと思われる遺物はない。よって、捨て場中の出土と同種の遺物は不掲載とし、単孔土器と土・石製品の掲載にとどめた。

土器（第167図809、写真図版198） 809は単孔土器で、C25グリッド付近で出土した。

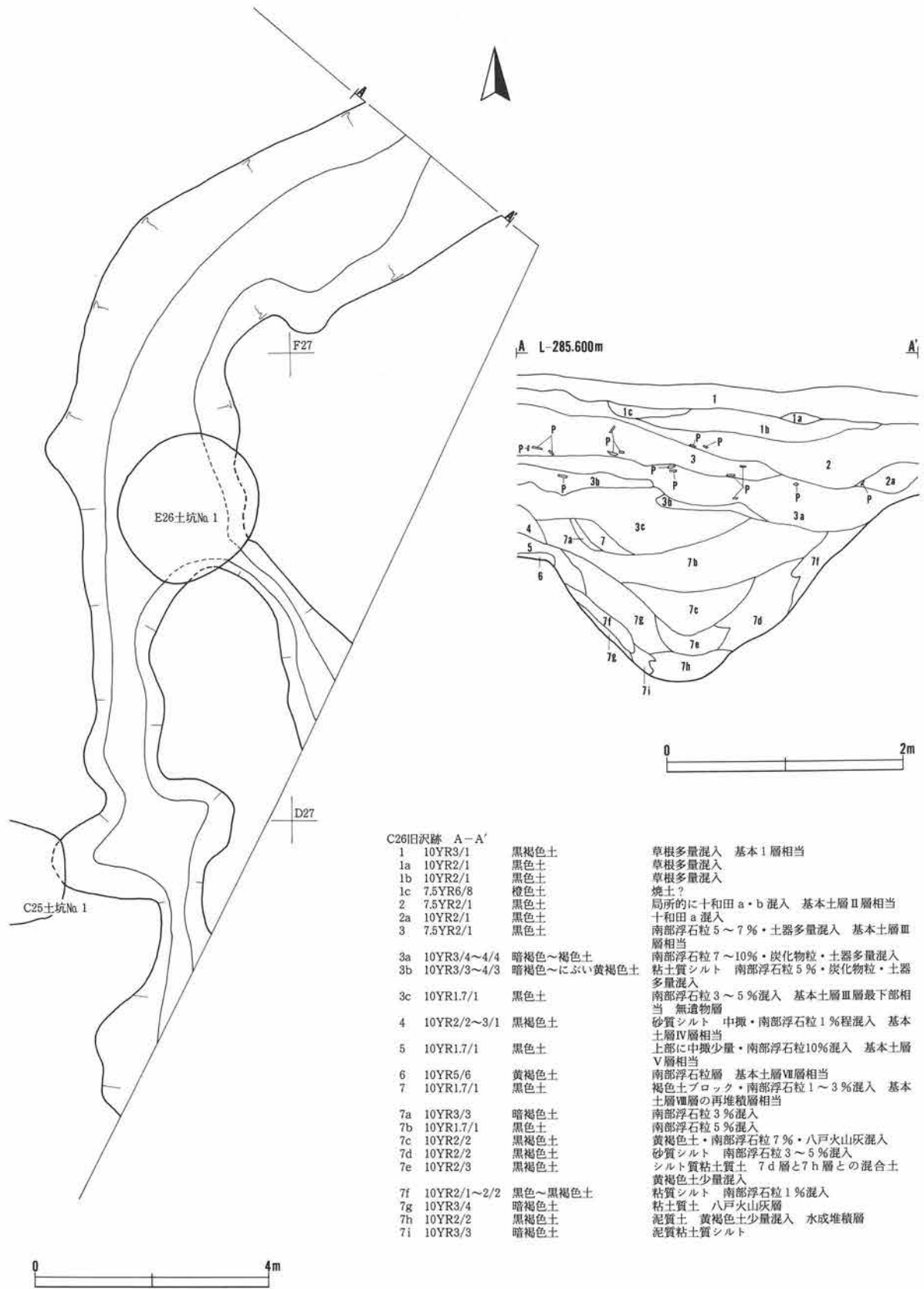
土製品（第172図906、写真図版202） 下方より三角形土製品1点が出土している。

石器類（第195図1160、写真図版215） 孔が穿たれた石製品が1点出土している。

〈時期〉 沢の形成された時期について、八戸火山灰層が削られて形成されていることから、八戸火山灰降下時期より新しいことがわかるが、南部浮石粒降下時期との新旧は不明である（※沢跡と南部浮石粒の切り合い関係が明確に把握できうる場所がないため、形成時期の下限は明確ではない）。沢の埋没した時期につ



第113図 M15溝状遺構

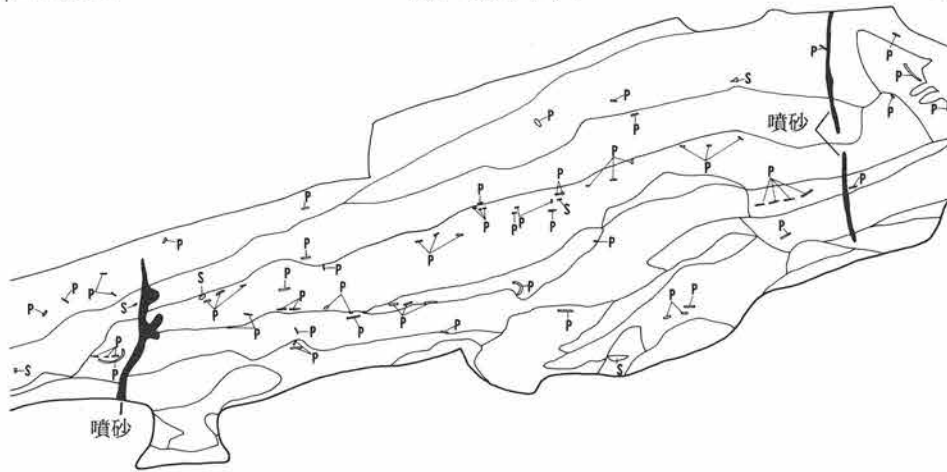


第114図 旧沢跡

北東 A L-287.600m

F26~F27グリッド

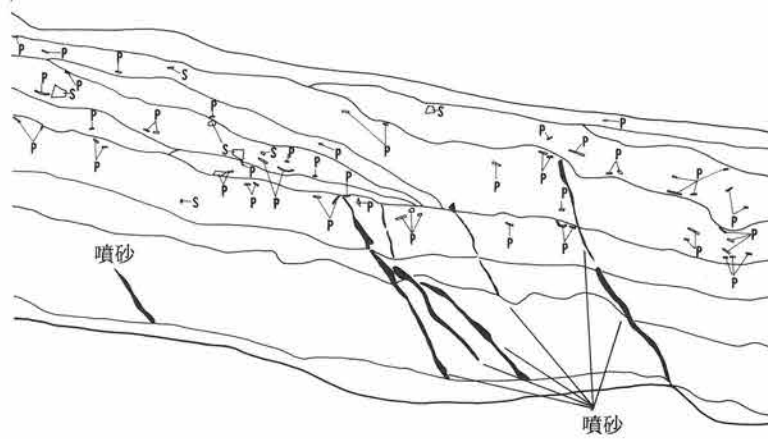
A 南西



北西 B L-286.500m

G25グリッド

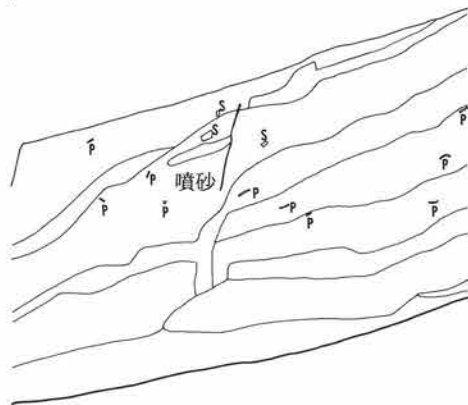
B 南東



北東 C L-289.900m

D25グリッド

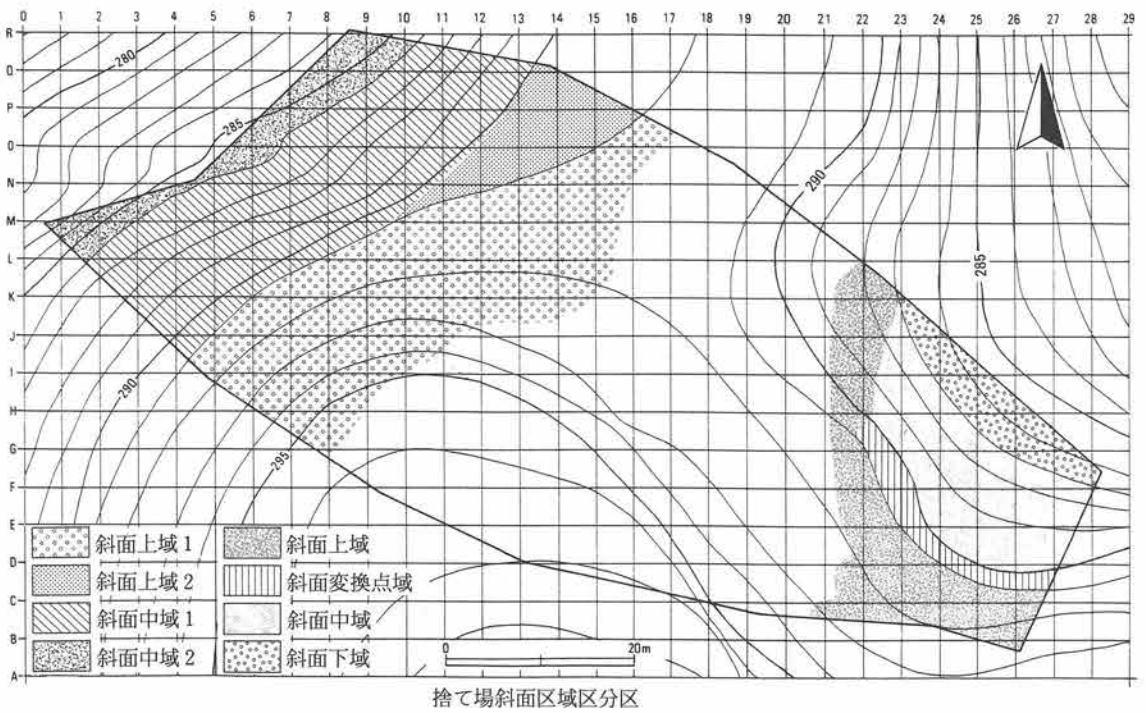
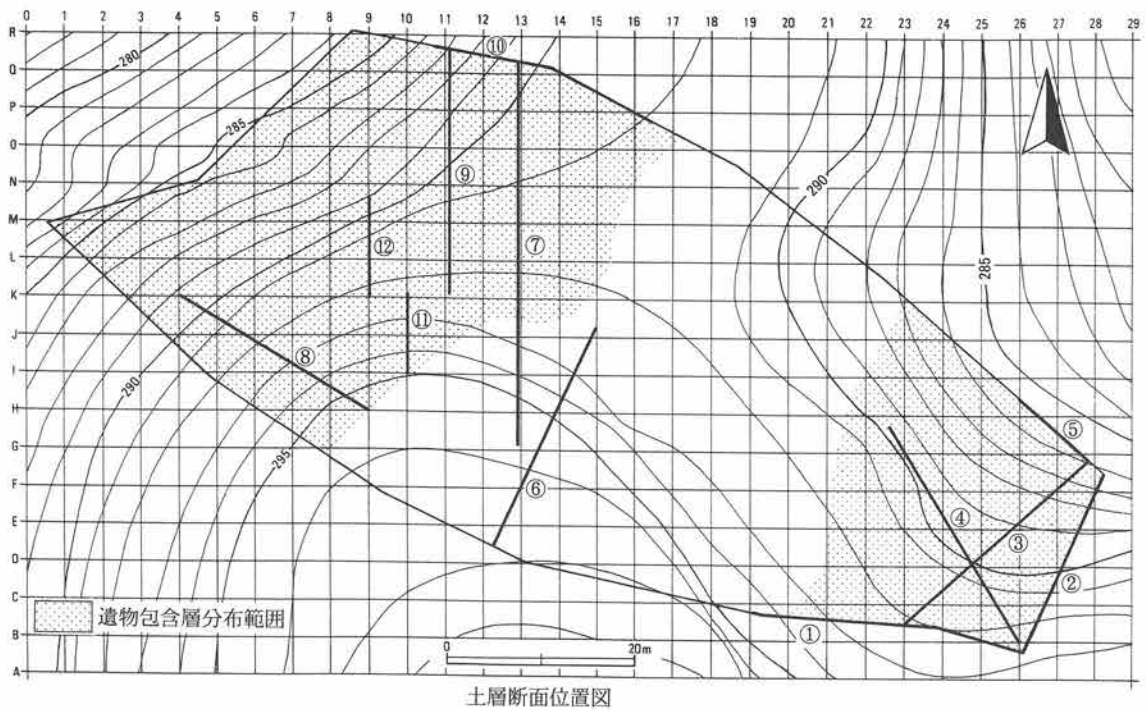
C 南西



A-A'・B-B'・C-C'
 噴砂 10YR4/6~5/8 褐色~黄褐色土
 粘土質土 八戸火山灰の噴き上
 ったものと考えられる。十和田
 b 迄は確認できるが、十和田
 a との新旧関係は把握できな
 い。調査所見としては、十
 和田 a よりは古く、晩期
 より新しいと推定される。



第115図 古地震跡



第116図 捨て場範囲図

いては、第114図に掲載した土層断面の観察から中礫火山灰の二次堆積を含む4層の黒褐色土層（IV層相当）が沢の主覆土（7層）より上位に堆積することと、4～7層は出土遺物が皆無な状況を示すことから、中礫火山灰降下時期（縄文時代前期）よりは古い時期に埋没した可能性が高い。

11 古地震跡（第115図、写真図版157）※断面図のみ

＜位置・検出状況＞ 東部捨て場内のD24・D25グリッド付近及びF25～27・G25～26グリッド付近の土層断面で、液状化現象による噴砂を確認した。幅3cm前後の黄褐色土の筋が上に向かって細く伸びる柱状構造を呈し、F25～G25グリッド付近においては平面での分布も確認された（調査終了間際の確認であったため平面の記録は行っていないが、噴砂は北東方向から伸びるようである。ただし、震源地の方向が北東かどうかは不明である）。噴砂が確認されたのは東部捨て場の標高288m付近以下で、調査区中央平坦部より5m前後低く、他の地点では確認されない。上記のことから、東部捨て場の最下部付近が地下水の噴き上げられやすい地質的条件を持つことが推定される。

＜時期＞ 地震の発生時期について、基本層序Ⅲ層（後～晩期遺物包含層）を噴砂が截ることから縄文時代晩期より新しいことは断定できる。Ⅲ層より上位に局所的に見られる十和田a火山灰との新旧関係は、第115図の土層断面作成時は噴砂に截られているのかどうか微妙で判断ができかねた。東部捨て場の精査時の所見としては、平面的に捉えて噴砂が十和田a火山灰より古いと推定していた。ただし、十和田a火山灰まで噴砂が到達しなかった可能性や十和田a火山灰が最堆積層である疑いもあるため、地震発生時期が十和田a火山灰降下年代より新しいか否かは断定できない。北側調査区外（H26・G27グリッド付近）に噴砂が存在するのは明白であるため、将来この周辺に調査の機会があれば、地震発生時期は解明される可能性がある。

＜類例＞ 岩手県内において古地震跡が報告されている発掘調査例は、佐藤嘉広氏が『発掘された地震痕跡』（1996年埋文関係救援連絡会議埋蔵文化財研究会）の中で「大久保遺跡」（二戸市福田）、「馬立Ⅰ遺跡」（二戸市福田）、「馬場野Ⅱ遺跡」（九戸郡軽米町）、「夏本遺跡」（上閉伊郡大槌町）の4遺跡を取り上げて概要を報告している。

「大久保遺跡」では、フラスコピット型陥し穴と溝状陥し穴の一部に地滑り状の断層と地割れが確認されている。時期は縄文時代前期以前である。

「馬立Ⅰ遺跡」では、溝状の陥し穴10基に断層が認められる。時期は明確ではないが、縄文時代後期以降弥生時代中期の間に地滑りが起こった可能性が高い。

「馬場野Ⅱ遺跡」は、断層と噴砂が確認されている。遺構との関係から少なくとも2時期の地震跡があり、縄文時代後期以降弥生時代中期の間に発生したものと1968年5月の十勝沖地震に由来すると推定されるものがある。

「夏本遺跡」では、縄文時代中期の竪穴住居跡に地割れが生じている。時期は古代の遺構とのからみが不明なことから縄文時代中期以降に発生したものとしか同定できない。

最後に、古地震跡の報告例は、大槌町の「夏本遺跡」を除き、何れも県北地方の馬淵川流域の事例で、特筆すべきはこの3遺跡の調査を担当したのは工藤利幸氏である。同氏の微細な観察力と慧眼によって報告された類例と言える。地震跡などの自然現象の報告例が少ない現状は、時間の都合などから割愛される場合が多いことに起因されると思われるが、阪神大震災以降、古地震跡の研究が再認識されている現状もある。調査終了間際の検出であったこともあるが、問題意識の欠落から詳細な記録を残せなかった点は否めない。発

掘調査時に、平面図作成などの事実確認を行うべきではなかったかと筆者は再認識させられたので、調査時の反省も含めて紙面を割き記述した。

12 捨て場（第116～124図、写真図版158～172）

本遺跡に見られる遺物包含層は、縄文時代後期初頭～晩期前葉にかけて形成されたもので、調査区の東西に位置する斜面地に厚く堆積する。遺物を包含する層は、基本層序のⅠ～Ⅳ層で、主体となる遺物包含層はⅢ層に相当する土層である。今回の調査で確認された遺物包含層の分布する範囲は、第116図にスクリーントーンで示した部分である。

本稿では、調査区の東側斜面地（東部遺物包含層分布エリア）を東部捨て場、調査区の西側斜面地（西部遺物包含層分布エリア）を西部捨て場と呼称した。

先に捨て場の調査方法と整理方法を説明し、次いで東西の捨て場の内容を記述する。なお、遺物については第Ⅴ章で概略を説明することとするが、個々の内容は観察表と実測図・写真図版を参照載きたい。

（1）捨て場の調査方法と遺物整理方法について

膨大な量の遺物が出土した捨て場は、当時の生産活動を考える上で、貴重な情報を提供する空間と判断される。捨て場からの出土量が特出して多い縄文時代後期初頭（十腰内Ⅰ式の古い段階）～晩期前葉（大洞BC式）までの各時期の土器は、断絶することなく変遷を追えることが窺える資料である。

捨て場から出土した土器は、層位的上下関係（廃棄単位）が良好とは言い難いものの、完形品（接合による完形品も含め）やほぼ完形品といった残存率の高い土器が多く見られることから、型式学的に良好な資料を提供すると思われる。併せて当該期の多種多様な土製品、石器、石製品が出土したことから、当時の社会性を考える上で貴重な資料と捉えられる。

① 遺物包含層の概要について 3年間の調査で捨て場から出土した遺物の総量は、大コンテナに換算して500箱分以上（概算で550箱分程と思われるが正確な数字ではない）に上る。その大部分が縄文時代後～晩期にかけてのものである。他時期の出土遺物としては、主に東部捨て場より縄文時代前期の土器（出土層位はⅢ層下部～Ⅳ層上部）が大コンテナで約5箱分と西部捨て場から縄文時代早期及び弥生時代の土器が数点出土している。

本遺跡の基本層序は、17カ所に入れた試掘トレンチの結果を踏まえて設定を行ったが、その中で南部浮石粒層（Ⅶ層）より上位に堆積するⅠ～Ⅵ層は土色にほとんど差のない黒色～黒褐色土である。黒色を呈する土同士を土色で平面的に区分するのは非常に困難な作業であった。層区分の大略は、Ⅱ層中には十和田a・b火山灰の混入、Ⅳ層中には中礫火山灰の混入、Ⅴ・Ⅵ層は他の層に比較して南部浮石粒の含有率が高い、というように現在の十和田湖を起源とする各時期のキーとなる火山灰の混入（Ⅰ～Ⅵ層中に含まれる火山灰は、プライマリーな堆積はなく二次堆積によるが、時期大別には有効である）の有無やその含有率により設定（区分）した。それらの層の中で、遺物の出土が確認されたのはⅠ～Ⅳ層である。

遺物の出土が確認されたⅠ～Ⅳ層の中で、本遺跡の主体となる後～晩期の遺物包含層は、Ⅲ層と呼称した層で、基本的には十和田a・b火山灰が混入する黒色土層（Ⅱ層）と中礫火山灰が混入する黒褐色土（Ⅳ層）に挟在される層である。ただし、上記したとおり肉眼で土色からの区分は非常に困難を極めることと、十和

田 a・b 火山灰や中礫火山灰がかならずしも捨て場全域（全面）に分布しないため、上下の層と比較して南部浮石粒の含有率の違い（1～7パーセント程含有する）や上下層との遺物の出土量の違いで認識した。遺物包含層の層厚は、斜面の傾斜角度によっても若干の差が見られるが、およそ0.3～2.5m（平均すると1.2m程）の厚さで堆積する。

Ⅲ層は出土する土器の内容から、調査開始初期の段階で縄文時代後～晩期における各時期の文化層（所謂十腰内Ⅰ式土器から大洞B C式土器への変遷）が、層位的上下関係（廃棄単位）を示す可能性があるとは判断された（斜面地であるため、全域と言うよりは局所的に）。遺物の取り上げについては、層の細分を試みた上で、できるだけ層位的な取り上げ方法を用いた。

② 遺物包含層の堆積様相について 東西の捨て場を調査（野外・整理）した結果、本遺跡に形成されていた遺物包含層は、良好な層位的上下関係を示さないと結論付けられる。

本来の廃棄単位が堆積土層に反映されていない原因としては、傾斜の急な斜面地であるため、上方の堆積層が流出や地滑り現象などを起こし、所謂再堆積を繰り返したことに起因する可能性が考えられよう。

また、捨て場全体が、黒色～黒褐色土中のため明確な立証はできなかったが、遺構構築に伴う攪乱層や再堆積層に混じり、新しい時代（近現代？）のものと思われる土坑状の攪乱（かき回された跡？）も複数箇所見られた。長倉という集落（地区）は、古今から土偶や土製品が多く見つかることで収集家の間では有名な土地であったと言う伝聞から推定するに、盗掘や宝探し（明治時代以降と思われる）がかなり頻繁に行われていた可能性も考えられよう。

筆者は厳密には西部捨て場の精査に携わっていないため、西部捨て場については状況資料から判断して記述するものであるが、実際に精査に携わった東部捨て場について所見を述べれば、東部捨て場の「標高290～291m（現況地形）付近」と「E25グリッド付近」は、十和田b火山灰が互層を示すことにより比較的明瞭に再堆積層を確認できた（遺物包含層であるⅢ層が、十和田b火山灰に挟まれている地点が局所的に見られる）。上記した「標高290～291m付近」は、斜面傾斜変換点付近に相当するため、第116図など現況地形段階での等高線を記した図をみるとおり、等高線の間隔が他より狭く、傾斜角度が急である。「E25グリッド付近」は、現況地形からは穏やかな傾斜地と読み取れるが、表土を除去すると急な落ち込みが確認されるなど当初堅穴住居跡と判断した経緯のある地点である。実際の旧地形は傾斜変換が顕著に確認される地点であった。東部捨て場の他の部分については、再堆積と明瞭には把握できなかったが、層の細分を行った土層ベルトを観察する限り、遺物の出土状況から整堆積とは言い難い地点が頻繁に確認された（例としては大洞B式が出土している同一層から十腰内Ⅰ式が出土し、その下位から十腰内Ⅱ式が出土するケースなど）。

ただ、後～晩期の遺物包含層（Ⅲ層）の下層に堆積するⅣ層（前期土器少量出土層）からは、後期・晩期の遺物の出土は皆無であり、Ⅲ層とⅣ層の混在が少ないことは野外調査時から把握できた経緯がある。Ⅳ層について若干説明すると、土色はⅢ層とほぼ同様の黒色～黒褐色土であるが、中礫浮石粒（縄文前期に降下した十和田起源の火山灰）の二次堆積が局所的に確認される層である。少量ではあったが、縄文時代前期の円筒下層d 1～d 2式に比定される土器群は、東部捨て場のⅢ層最下位～Ⅳ層上位で出土している。Ⅳ層の堆積は、緩斜面地～斜面地には確認されるが、平坦地部分では希薄であった。また、出土土器群のなかで前期に属する土器は、円筒下層d 1～d 2式に相当するものが大半（註2）であり、現時点での考古学資料からは同型式土器は中礫火山灰より新しいと同定されることから、本来Ⅳ層自体もかなり流出されている可能性が高い土層とも捉えられる。ただし、円筒下層d 2式に相当する土器は、Ⅲ層下位より上位の層ではほとん

ど確認されていない（ただし、円筒下層式土器に伴うと思われる半円状偏平打製石器と思われる石器が、一部Ⅲ層上位で出土している）。出土する土器から判断して、Ⅲ層（後～晩期）とⅣ層（前期）の混在が少ないことは明確であるが、Ⅲ層内（後～晩期）のみ土層の破壊や移動が激しいことについては、理論的に説明できかねる。ただ、Ⅳ層の有り方から「生きていた廃棄単位」部分が、調査方法次第ではⅢ層において確認できた可能性は考えられよう。

③ 捨て場遺物の掲載方法について

出土遺物は平成9年度の整理事業の段階で、土器はグリッド毎に、土製品と石器類は器種毎に登録を行った。

層位的な上下関係が破壊されている以上、層位的には遺物の時期変遷をたどれる資料とは判断できない。

よって、層位的な遺物掲載は不採用とした。ただし、各時期の廃棄占地の傾向や遺物の共伴関係が窺えるユニットがないのか確認する方法を模索した結果、土器については以下のような掲載方法を採用することとした。

先ず捨て場を東西に大別した上で（観察表上、東部捨て場をGE、西部捨て場GWと略称した）、それぞれの中で地形に沿った形（現況地形での等高線を基本的な目安とし、現場で実測を行った地形に直交する土層断面上でのⅢ層の層厚を検討要素とした）で区域を設定し、設定した同区域の中ではグリッド順に土器を掲載することとした。1つのグリッドが、複数区域に跨がる場合について、トータルステーションのデータがある土器はデータを参照し、データのない土器については3つに大別した層位（Ⅲ層上位・中位・下位）を基準に判断した。なお、等高線の間隔に着眼したのは2点の理由からである。

- a 土の流出が激しいエリアと比較的穏やかなエリアの存在を想定。
- b 地形の傾斜方向と調査で設定したグリッド（平面直角座標系第X系）の直角方向にずれが生じる（註3）ことから、土の流出する方向を考慮してグリッドより等高線同士の範囲を優先。

＜東部捨て場について＞ 東部捨て場は、傾斜に応じて下記の4区域に区分し、その区域の中でグリッド順（例としてはB21、B22・・・）に掲載する。

「斜面上域」 標高291m以上の範囲を主体に遺物包含層の分布する境界付近までを同エリアとする。

「斜面変換点域」 標高290～291m付近において、等高線の間隔が特に狭くなる付近を同エリアとする。下位の南部浮石粒層あるいは八戸火山灰層まで掘り下げると、より顕著に急傾斜となる地点である。

「斜面中域」 傾斜変換点域の下方で、等高線の間隔が均等になるエリアである。標高287～289m付近に相当する。遺物の出土が最も多い区域である（ただし、下域は調査区外にも相当広がりそうなので、調査した範囲での見解となることを追記する）。

「斜面下域」 調査地においては、斜面の最も下方に位置するエリアで、標高285～287m付近に相当する。

＜西部捨て場について＞ 西部捨て場は、4区域に区分し、その区域の中でグリッド順（例としてはL1、L2・・・）に掲載する。斜面上方域は290～291mの等高線の間隔が特出して広い範囲を一つのエリアとして捉え、2区分した。その下方の標高282～290mにかけては、等高線の間隔が均一化を示すため、機械的に上方を中域1、下方を中域2とした。

「斜面上域1」 291m以上の範囲から遺物包含層の分布する境界付近までを同エリアとする。

「斜面上域2」 290～291m付近において、等高線の間隔が特出して広くなる付近を同エリアとする。

「斜面中域 1」 標高282～290mにかけては、等高線の間隔が均一化を示すため機械的に2つに大別し、286m以上の範囲を同エリアとする。中域1・2と区分した段階では遺物の出土状況を意識した設定ではなかったが、結果として中域2からは遺物の出土が皆無に等しい結果となった。

「斜面中域 2」 斜面中域の下方の無遺物地帯を斜面下方域とする。標高282～286m付近に相当する。

(2) 捨て場の層名について（報告書記載上）

捨て場の層名について、本遺跡の基本層序はローマ数字（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ…）で標記してきたが、捨て場内に設定した土層ベルト出土遺物と土層ベルトに対比できる状態で取り上げた遺物については、個々の層名はアラビア数字（1、2、3…）で行い、細分したものについてはアルファベットを付けて区分する。アルファベットは、東部捨て場が小文字（a、b、c…）、西部捨て場が大文字（A、B、C…）を採用し、遺物の観察表の層位の項もそれに準じている（例としては、Ⅱ（2a）とかⅢ（3B）といった具合である）。遺物包含層であるⅢ層系を例に説明すると、東部捨て場は3、3a、3b、3c…、西部捨て場は3A、3B、3C…といった標記である。

遺物の掲載については、東西の捨て場毎とする。土器については、現況地形の等高線の分布から東西の捨て場とも上述した区域毎順に掲載する。第116図捨て場斜面区域区分図を参照願いたい。

補足資料として、第120図～124図は、第117～119図に示した12本の土層断面図の内、5本の土層断面を部分的に抽出して拡大した図である。それらの図に添付した土器は、細分層位で取り上げた中から再抽出またはトータルステーションで取り上げた土器の一部を細分層位に対比させ合成を試みたものである。

(3) 東部捨て場（第116～118図・第120～121図、写真図版158・159・161～168）

＜位置・概要＞ C21グリッドとK23グリッドを結んだラインより東側が、東部捨て場と呼称する範囲である。土坑や柱穴状土坑の密集する調査区中央部の平坦地との傾斜変換点が、上記したC21グリッドとK23グリッドを結んだライン付近にあたり、平坦部と比較してⅡ～Ⅵ層（黒土）の堆積が急激に厚くなり、また、斜面下方に向かうほどⅢ層の堆積が厚くなる。傾斜方向は南西～北東方向に向かって傾斜し、標高は斜面上方付近が290～293m、斜面下方付近が285～287mである。

第117～118図の土層断面①～⑤が東部捨て場の土層断面である。斜面の傾斜角度は平均すると20～25度で、上記した「斜面変換点付近」が30～40度と急勾配になる。また東部捨て場内東端部分のC26～F27グリッド付近にかけて、Ⅷ層（八戸火山灰）上面で旧沢跡を検出した。

＜面積＞ 平面的な広がり約700㎡弱である。南西～北東方向に傾斜し、斜面下方に向かうにつれ遺物量が増加する傾向が窺えることと、等高線の配列から推測すると斜面下方にあたる調査区外の北東側には、かなりの密度の遺物包含層が広がっていることが予想される。また、斜面上方の南側についても、北東側ほどではないまでも遺物包含層が分布するのは確実である。今回調査した東部捨て場の面積は、全体の2/3以下と推定される。

＜土層の堆積＞ 第117～118図に掲載する5本が、東部捨て場の土層断面である。Ⅲ層系が縄文時代後～晩期の遺物包含層である。

基本層序Ⅰ層系は、1～1h層に細分した。表土、攪乱層、盛土、耕作土、Ⅲ層の再堆積土などである。Ⅲ層の再堆積土については、Ⅱ層系より上位に堆積するものはⅠ層系に含めた。Ⅰ層からの遺物出土量は、若干地点によっても相違があるが、基本的に少量である。

基本層序Ⅱ層系は、2～2 c層に細分した。十和田 a・b火山灰の混入（非プライマリー）が認められる土層を基本的に2層系とした。十和田 a火山灰と十和田 b火山灰が整堆積を示す地点はなく、また大部分がブロック的に確認される場合がほとんどである。南部浮石粒の含有率は、3%以下である場合がほとんどで、Ⅲ層系より低い傾向を示す。出土遺物量はⅢ層系について多く、割合的にはⅢ層に比べて晩期の土器が後期の土器より高い。

基本層序Ⅲ層系は、3～3 w層に細分した。南部浮石粒を3～7%含有する黒褐色土層である。堆積様相は、等高線と水平気味に設定した土層断面（第117図④の図など）を観察すると、レンズ状を呈することから概ね自然堆積に取れるが、3 r層をはじめ一目瞭然に再堆積層（土）と把握できる層が多々見られる。再堆積層として捉えられる層が、自然的要因か人為的要因かは判断できかねる場合が多かった。所見的になるが、捨て場として機能されていた時期は、遺構構築などに伴い遺物とともに土も頻繁に捨てられていたと思われるが（人為層）、永年の時間の中で自然的な堆積様相になったと思われる。

基本層序Ⅳ層系は、4～4 h層に細分した。上述したとおり中礫火山灰（アワズナと地元で呼ぶように砂状を呈する）を混入する黒褐色土層で、同層上位で円筒下層土器が出土している。

基本層序Ⅴ層系は、5～5 o層に細分した。南部浮石粒を10～30%含有する黒褐色土層で、基本的には遺物は出土していない。早期の後半から前期前半に形成された土層と推定される。

基本層序Ⅵ層系は、6～6 b層に細分した。Ⅴ層より南部浮石粒の含有率が高い黒褐色土層で、Ⅴ層とⅦ層（南部浮石粒層）の漸移的層と思われる。基本的には遺物は出土していない。

基本層序Ⅶ層系は、7～7 a層に細分した。南部浮石粒層で縄文時代早期に降下したテフラで、本遺跡からはⅠ～Ⅲ層で同テフラより古いと推定される早期の土器が微量出土しているが、同層下位からの出土遺物はない。

基本層序Ⅷ層系は、8～8 b層に細分した。八戸火山灰層である。

古地震に伴う噴砂は、9層と命名して一括する。

10層は、調査区境南側で作成した土層断面①において確認された調査区外に延びる竪穴住居の埋土と思われる土層である。今回の調査では平面的には把握できなかったため、遺構登録はしていない。

＜包含層中に構築されている遺構＞ 東部捨て場上方付近には、晩期と推定される住居跡（B21・22、C22・23・24グリッド付近）や掘立柱建物跡などが、包含層中に構築されている。

調査区外南側にはかなりの密度で住居跡が存在する可能性があり、また上述したとおり遺物包含層は調査区外の北東側に広がることは明確である。旧沢跡は、C26～F27グリッド付近にかけて、Ⅷ層上面で検出した。沢跡に堆積する埋土の様相から、縄文時代前期以前に埋没した可能性が高い。

＜その他＞ 斜面下方付近のF26・27、G25・26グリッドから地震に起因と思われる液状化現象（噴砂）がⅢ層中で確認された。包含層を截っていることから縄文時代晩期以降に大規模な地震が発生したと推定される。また、沢跡の東側付近で、数カ所の雨裂跡が確認された。土層断面②や③に見られる土坑状を呈する落ち込みが雨裂跡である。

＜出土遺物＞（第196～241図1201～1651、第297～307図2180～2424、写真図版216～247、282～305、307～360） 東部捨て場からは、大コンテナ250箱分以上の遺物が出土した。土器類や石器類に混じり炭化物、焼土ブロック、獣骨片が併せて出土している。個々の遺物の内容は観察表と実測図を参照載きたい。

土器（第196～241図1201～1651、第297～307図2180～2424、写真図版216～247） 東部捨て場からは、コンテナ約250箱分の土器が出土した。その中から451点（第三次登録土器）を掲載する。完形及びほぼ完形のも

のが多く、残存率50パーセント以上のものだけで1150個体に及ぶ。それらに分類の資料となりそうな破片を含め一次登録し、分析対象とした。以下に同一グリッド・同一層位のまとまりを感じるものを抽出してみる。1203の切断蓋付き壺は、上位の3 a層と下位の3 e層から別々に出土した。3 a層と3 e層は、間に3 c層(約40cmの層厚)を挟む。1211と1221は同グリッドで3 b層から出土している。1229と1231は同グリッドで3 a層から出土している。1462の人面付き注口土器?は、1458、1461と同一層で出土している。1467~1471、1482~1486、1611~1613はそれぞれ一括気味での出土である。

土製品 (第297~307図2180~2424、第318~326図、写真図版282~305)

石器・石製品 (第327~330図2834~2931、第334・335図3031~3050、第337・338図3080~3109、第340~342図3133~3156、第346図3181~3187、第347図3194~3209、第348図3210~3215、第349~354図3224~3272、第360図3320~3324、第362図3338~3347、第363図3352、第364~369図3359~3426、第373図3471、第374・375図3477~3510、第376~378図3539~3549、第380図3558~3370、第381~383図3592~3596・3599~3604、第385・386図3618~3626、第387図3640~3641、第388図3643~3645、第389図3651・3652、第390・391図3658~3670、第393図3685・3688・3689、第394~398図3700~3733、第400図3759・3760、写真図版307~360)

鉱物 (写真図版360)

(4) 西部捨て場 (第118~119図・122~124図、写真図版160・169~172)

<位置・概要> 西部捨て場は、概ねG 8グリッドとO18グリッドを結んだラインより西側の範囲である。

傾斜方向は南東から北西方向で、標高は斜面上方付近が290~294m、斜面下方付近が284~286mである。斜面の傾斜角度は平均すると15度程で、東部捨て場より幾分勾配が穏やかである。

<面積> 平面的な面積は1100㎡強である。遺物は、真北方向に向かうにつれ出土量が増加し、斜面中域2とした調査区北西端付近からの出土は皆無となる。調査区外の北側付近(O12~P14付近より北側)からの遺物量や等高線の有り方から推定して、遺物包含層の主体は、北側調査区外に広く分布する可能性がある。

<土層の堆積> 第118~119図に掲載する6本が、西部捨て場の土層断面である。個々の層の土質や南部浮石粒の含有率などは、東部捨て場と様相がほとんど変わらないため、記述は割愛する。

基本層序I層系は、1~1E層に細分した。

基本層序II層系は、2~2A層に細分した。

基本層序III層系は、黒褐色シルトを主体とする遺物包含層である。南部浮石粒は概ね1~3%含有される。上位相当を3~3J層に細分し、中位相当を3Z層と呼称した。遺物は上位層からの出土が圧倒的に多い。炭化物や焼土粒、獣骨片を含む

基本層序IV層系は、4層と呼称する。中礫火山灰を含有する層である。4層の中で細分は行っていない。

基本層序V層系は、5層と呼称する。南部浮石粒を10~30%含有する黒褐色土層で、基本的には遺物は出土していない。早期の後半から前期前半に形成された土層と推定される。

基本層序VI層系は、6層と呼称する。V層より南部浮石粒の含有率が高い黒褐色土層で、V層とVII層(南部浮石粒層)の漸移的層と思われる。基本的には遺物は出土していない。

基本層序VII層系は、7層と呼称する。南部浮石粒の純層である。

基本層序VIII層系は、8層と呼称する。八戸火山灰層である。

基本層序IX層系は、9層と呼称する。八戸火山灰より下位に堆積する火山灰層である。

<包含層中に構築されている遺構> 西部捨て場内は、比較的傾斜角度の穏やかなL13・N14グリッド付近

に土坑や柱穴状土坑及びK11住居跡（直径約16mの大形の住居跡で、同住居跡プランの1/3程が包含層中である。）が構築されているものの、遺構構築が密ではなかった。

〈出土遺物〉（第242～295図1652～2170、写真図版247～280、284～306、308～360） 土器類・石器類などの遺物と炭化物、焼土ブロック、獣骨片が出土している。個々の遺物の内容は観察表と実測図を参照戴きたい。

土器（第242～295図1652～2170、写真図版247～280） コンテナ230～250箱分が出土した。その中から519点を掲載する。完形及びほぼ完形のものが多く、残存率50パーセント以上のものだけで総数が約1156個体（註4）に及ぶ。東部捨て場と比較して、十腰内V式期の土器が多い傾向が窺える。以下に同一グリッド・同一層位のまとまりを感じるものを抽出してみる。1675～1677、1686～1689は一括気味での出土である。1769と1771は同一層出土。1779～1795については共伴気味での出土。L12グリッド出土の1819～1823・1826・1827は、後期中葉期がまとまって見られる。1831～1849はM10グリッドⅢ層上位出土で、一括気味の資料である。1850～1859はM11グリッド出土のまとまった資料と捉えられる。1862、1864、1866は、M13グリッド3A層出土一括である。1868の人面付き香炉形土器は表土からの出土である。1870、1871、1876はN13グリッド3A層出土一括であるが、個々の土器を見ると時期差があるようであり、混在している様相が窺える。1949～1953は一括気味の資料であろう。2038～2070はP14グリッドからのほぼ一括資料である。2080～2084はM9グリッド出土のまとまった資料である。

土製品（第308～317図2405～2544、第318～326図、写真図版284～306）

石器・石製品（第330～333図2932～3037、第335・336図3054～3077、第338・339図3110～3129、第343～345図3157～3179、第346図3188～3192、第347図3205～3208、第348図3216～322、第354～359図3273～3319、第360・361図3325～3335、第362図3348～3349、第363図3353、第369～371図3427～3455、第373図3472・3473、第375図3511～3536、第378・379図3552～3556、第380・381図3579～3588、第382図3597・3598、第383・384図3606～3614、第386図3627～3635、第387図3642、第388図3646～3648、第389・390図3653～3657、第391・392図3671～3684、第393図3686・3687、第394図3692～3695・3697・3698、第398・399図3734～3753、第400図3761～3776、写真図版308～360）

鉱物（写真図版360）

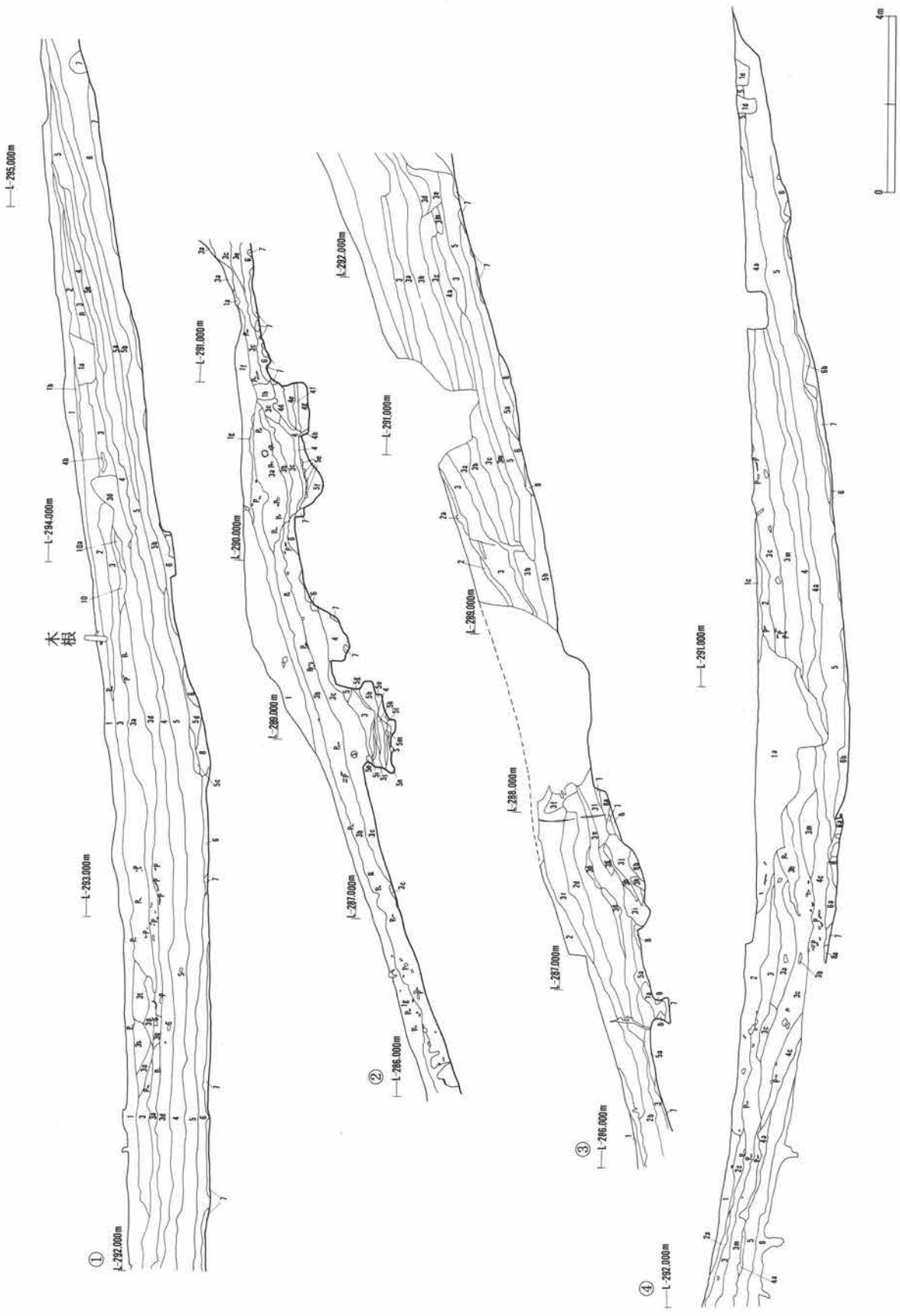
〈註〉

（註1） 遺物包含層内に構築されている住居跡や掘立柱建物跡も多く、また検出・精査の作業も黒色土中の為、難航極まりない状況であった

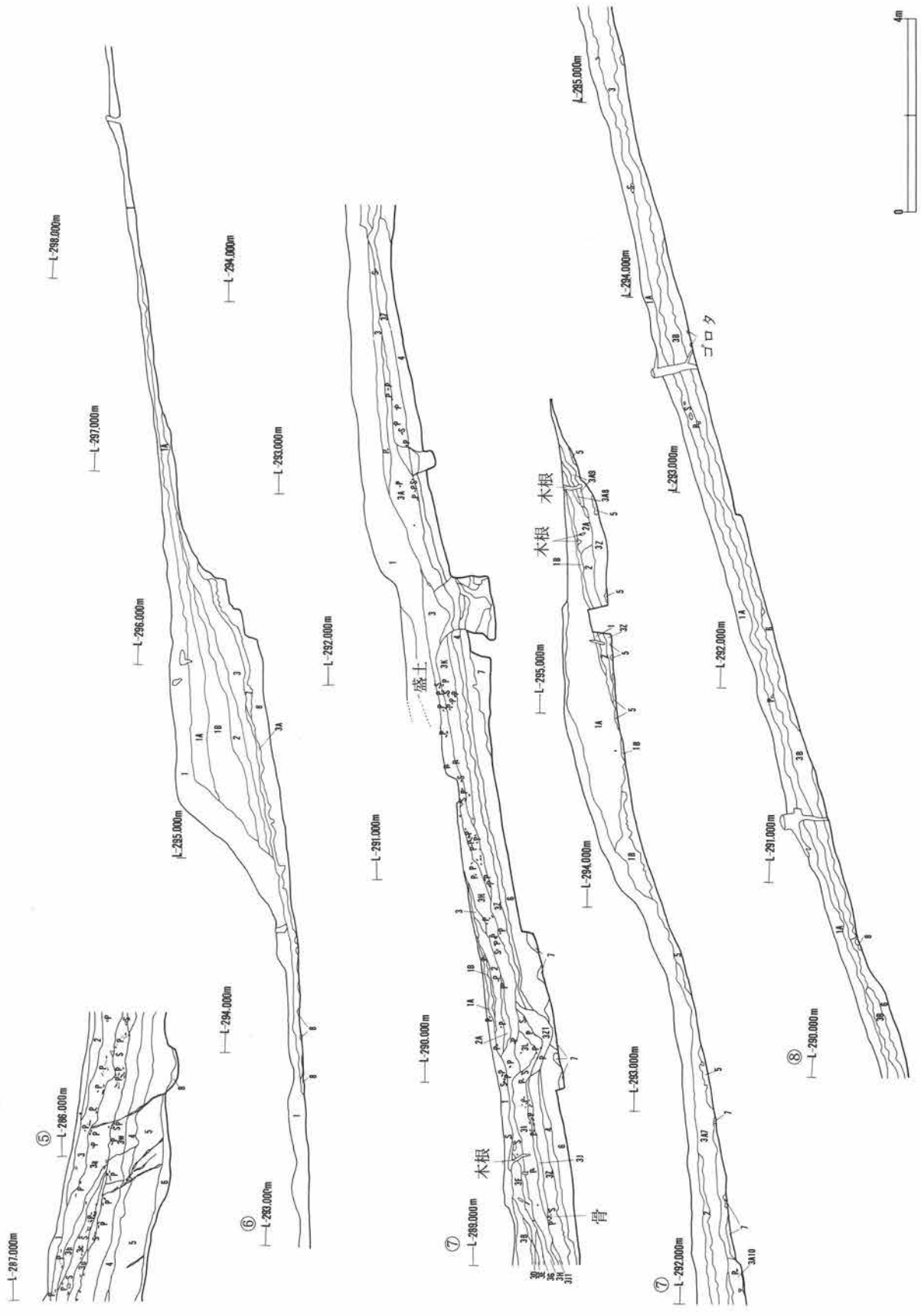
（註2） 西部捨て場から円筒下層式土器群より古い土器が数点出土しているが、東部捨て場からは出土していない。尚、中礫火山灰は、科学的分析からは5300～5500年前に降下したと捉えられている。大日向Ⅱ遺跡第6～8次調査で検出されたQⅣ12住居跡などの事例から判断して、円筒下層a式が中礫火山灰より新しい。

（註3） 東西の捨て場とも、傾斜方向とグリッドの直角方向は約45度のずれを生じる。

（註4） 東西の捨て場を比較すると、全般に西部捨て場の方が残存率の高い土器が多い。ただし、接合作業を指示・担当した中川によると、西部捨て場から接合作業に着手し、後に東部捨て場の接合を行った関係により、整理時間が切迫気味となった後半に着手した東部捨て場の方が、全般的に接合を間引かざるをえなかったことに起因する可能性が高い。



第117図 東部捨て場土層断面



第118図 東部・西部捨て場土層断面

＜東部捨て場土層注記＞

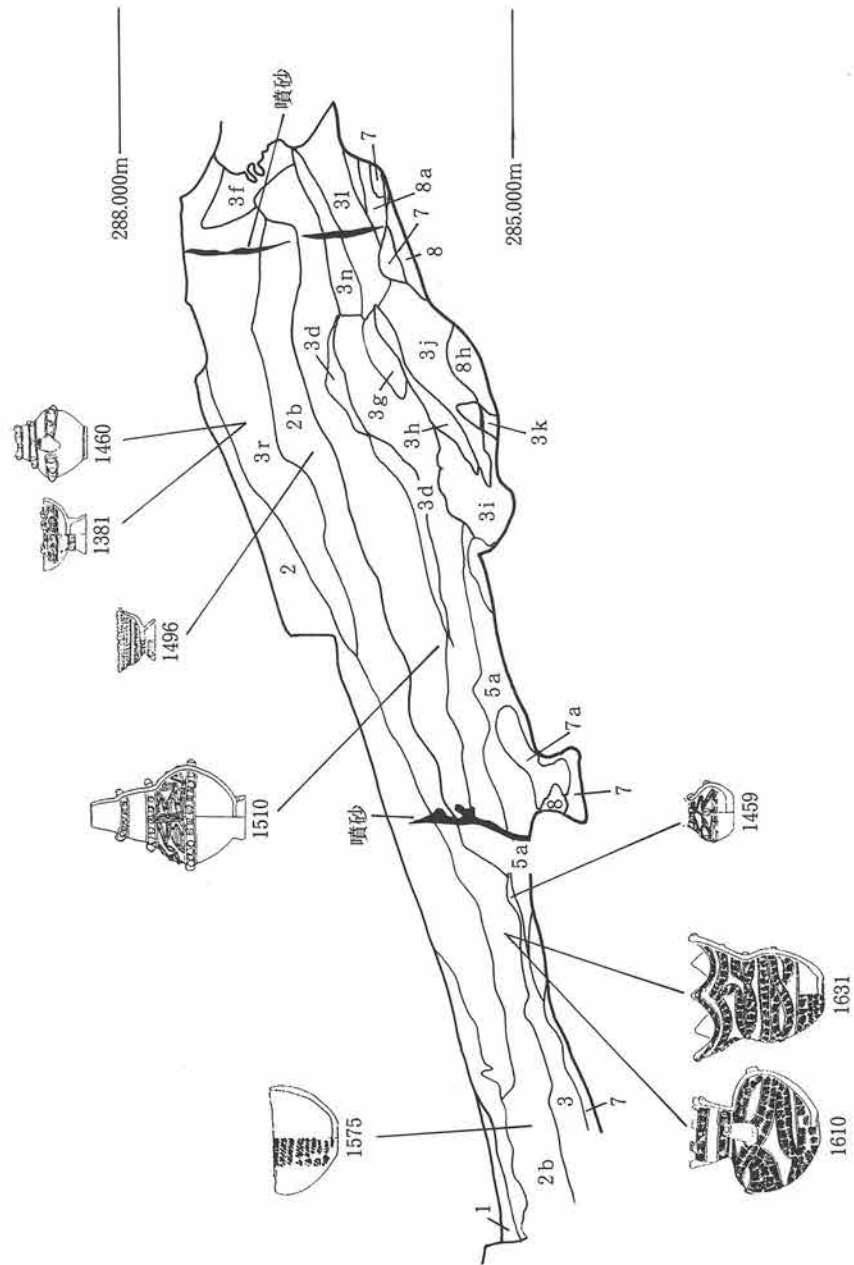
- 1 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性弱 しまり弱 草根多量・南部浮石粒混入
- 1a 10YR1.7/1 黒色土 シルト 粘性中 しまり中 暗褐色土・黒褐色土・南部浮石粒多量混入 攪乱層
- 1b 10YR2/2 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 木根多量混入
- 1c 10YR3/3 暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒7～10%混入
- 1d 10YR1.7/1 黒色土 シルト 粘性弱 しまり弱 耕作機による攪乱?
- 1e 10YR2/1～2/2 黒色～黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒3～5%混入 攪乱or土坑
- 1f 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性中 しまりやや中 黄褐色土・南部浮石粒10%・八戸火山灰40%混入 盛土
- 1g 10YR2/1～3/1 黒色～黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 木根多量混入 表土 耕作土
- 1h 10YR1.7/1 黒色土 シルト 粘性中 しまり弱 南部浮石粒3%以下混入 柱穴?
- 2 10YR2/1～3/1 黒色～黒褐色土 シルト 粘性やや中 しまり弱 十和田a・b少量・南部浮石粒3～5%・土器混入
- 2a 10YR3/3 暗褐色土 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 十和田b混入
- 2b 10YR2/2～3/1 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 斜面下方に十和田a多量混入
- 2c 10YR3/1 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒15%程・木炭粒混入
- 3 10YR2/2 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒3～5%・炭化物粒少量混入
- 3a 10YR2/1～2/2 黒色～黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒7～10%・炭化物粒・土器多量混入
- 3b 10YR2/2 黒褐色土 シルト 粘性やや中 しまりやや中 南部浮石粒1～3%混入
- 3c 10YR3/3 暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒5～7%・炭化物粒・土器多量混入
- 3d 10YR2/1～2/1 黒色土 粘土質シルト 粘性強 しまりやや中 南部浮石粒3～5%混入
- 3e 10YR3/4 暗褐色土 シルト 粘性強 しまり中 南部浮石粒5%・炭化物粒・土器混入
- 3f 10YR3/3 暗褐色土 シルト 粘性中 しまり弱 Ⅲ層再堆積層
- 3g 10YR2/3 黒褐色土 シルト 粘性中 しまり弱 暗褐色土との混合土 南部浮石粒3%・炭化物粒・土器混入
- 3h 10YR3/4 暗褐色土 シルト 粘性強 しまり中 3e層の再堆積層 水分に富む
- 3i 10YR2/2 黒褐色土 シルト 粘性やや中 しまりやや中 3b層と3e層との混合土 水分に富む
- 3j 10YR3/4 暗褐色土 シルト 粘性強 しまり中 3e層と6a層との混合土
- 3k 10YR2/1 黒色土 泥炭土 粘性弱 しまり弱
- 3l 10YR2/2～2/3 黒褐色土 シルト 粘性中 しまり弱 3b層相当?
- 3m 10YR2/2 黒褐色土 砂質シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒3～7%程・炭化物粒・骨片混入
- 3n 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒1～3%・土器混入
- 3o 10YR2/1～3/1 黒色～黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒5%・燧土粒混入Ⅲ層or住居埋土
- 3p 10YR2/2～3/1 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒7～10%・炭化物粒混入Ⅲ層or住居埋土
- 3q 10YR2/1～3/1 黒色～黒褐色土 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒5%・黄褐色～明褐色土ブロック・燧土30%混入 Ⅲ層or住居埋土
- 3r 10YR3/1 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまりやや中 南部浮石粒7～10%・土器多量混入 Ⅲ層再堆積層
- 3s 10YR3/1～2/2 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまりやや中 南部浮石粒5%混入 Ⅲ層再堆積層
- 3t 10YR3/1～3/3 黒褐色～暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒5%混入 Ⅲ層再堆積層
- 3u 10YR2/3～3/3 黒褐色～暗褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 南部浮石粒3%・炭化物粒・土器多量(後晩期含む)混入
- 3v 10YR2/1～3/1 黒色～黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり弱 3d、3fの漸移層 南部浮石粒3%・土器多量(後晩期含む)混入
- 3w 10YR1.7/1 黒色土 シルト 粘性やや中 しまりやや中 南部浮石粒3～5%・上位に土器(後晩期含む)混入中～下位は無遺物層
- 3x 10YR3/3～4/3 暗褐色～にぶい黄褐色土 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 南部浮石粒5%・炭化物粒・土器多量(後晩期含む)混入
- 4 10YR2/2～3/1 黒褐色土 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 中礫火山灰・南部浮石粒混入
- 4a 10YR3/2 黒褐色砂質土 シルト 粘性弱 しまりほぼ弱 中礫火山灰多量・南部浮石粒3～7%混入
- 4b 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性弱 しまり弱 中礫火山灰少量・南部浮石粒3%混入
- 4c 10YR2/2 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒15%程・炭化物粒混入
- 4d 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性中 しまり中 黄褐色土・八戸火山灰30%程混入 人為堆積層?
- 4e 7.5YR1.7/1 黒色土 泥質粘土質シルト 粘性中 しまり中 南部浮石粒殆ど含まず
- 4f 7.5YR1.7/1 黒色土 泥質粘土質シルト 粘性中 しまり中 南部浮石ブロック・八戸火山灰ブロック混入
- 4g 10YR2/1 黒色土 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 砂土混入
- 4h 10YR3/1 黒褐色土 粘土質シルト 粘性中 しまり弱 褐色土・砂土混入
- 5 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性中 しまり中 南部浮石粒10%混入
- 5a 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性中 しまりやや中 南部浮石粒15～20%混入
- 5b 10YR1.7/1～2/1 黒色土 シルト 粘性中 しまり中 南部浮石粒20%程混入
- 5c 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性やや中 しまりやや中 南部浮石粒10%混入
- 5d 10YR2/1～3/1 黒色～黒褐色土 シルト 粘性中 しまり中 南部浮石粒15%混入
- 5e 10YR6/6 明黄褐色土 シルト質軽石層 粘性中 しまり中 南部浮石ブロック層 黒褐色土混入
- 5f 10YR3/1 黒褐色土 シルト 粘性中 しまり中 南部浮石粒10%程混入
- 5g 7.5YR2/2 黒色土 シルト 粘性中 しまりやや中 南部浮石粒20%程混入
- 5h 7.5YR1.7/1 黒色土 シルト質泥質砂質土 粘性やや中 しまりやや中 南部浮石粒3～5%混入
- 5i 7.5YR1/2 黒色土 シルト質軽石層 粘性やや中 しまり弱 南部浮石粒30%混入
- 5j 7.5YR1.7/1 黒色土 シルト質泥質砂質土 粘性やや中 しまりやや中 南部浮石粒3～5%混入
- 5k 10YR2/1～2/3 黒色～黒褐色土 砂質シルトと泥質シルト質土の互層 粘性やや中 しまりやや中 砂土・南部浮石粒5～7%混入
- 5l 10YR2/1 黒色土 泥質シルト質土主体に砂質シルト混合 粘性中 しまり中 南部浮石粒3%以下混入
- 5m 10YR2/1～3/1 黒色～黒褐色土 泥質シルト質土 粘性中 しまり中
- 5n 10YR1.7/1～2/1 黒色土 シルト 粘性中 しまり弱 若干水分に富む 南部浮石粒5～7%混入
- 5o 10YR3/2 黒褐色土 粘土質シルト 粘性中 しまり中 南部浮石粒10～15%混入
- 6 10YR2/3 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒30～40%混入
- 6a 10YR3/1 黒褐色土 シルト 粘性やや中 しまり強 南部浮石粒20～25%混入
- 6b 10YR3/1 黒褐色土 シルト 粘性中 しまり強 南部浮石粒15%混入
- 7 10YR7/8 黄褐色土 南部浮石粒層
- 7a 10YR4/6 褐色土 軽石層 南部浮石粒変色層 Ⅶ層再堆積層
- 8 10YR3/3 暗褐色土 粘土質土 粘性強 しまり中 八戸火山灰層 南部浮石粒15%混入
- 8a 10YR2/3 黒褐色土 粘土質土 粘性中 しまり中 八戸火山灰再堆積層
- 8b 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/6 黄褐色土との混合土 粘土質土 粘性中 しまりやや中 炭化物粒少量混入 Ⅶ層再堆積層
- 9 10YR4/6～5/8 黄褐色～褐色土 粘土質土 噴砂 八戸火山灰の噴き上がったものと推定
- 10 10YR2/2～2/3 黒褐色土 シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒10%・炭化物粒・土器(本住居から大洞B1古段階相当)混入 B21住居跡状3号埋土
- 10a 10YR2/1 黒色土 シルト 粘性弱 しまり中 南部浮石粒5～7%・炭化物粒少量混入 B21住居跡状3号埋土

＜西部捨て場土層注記＞

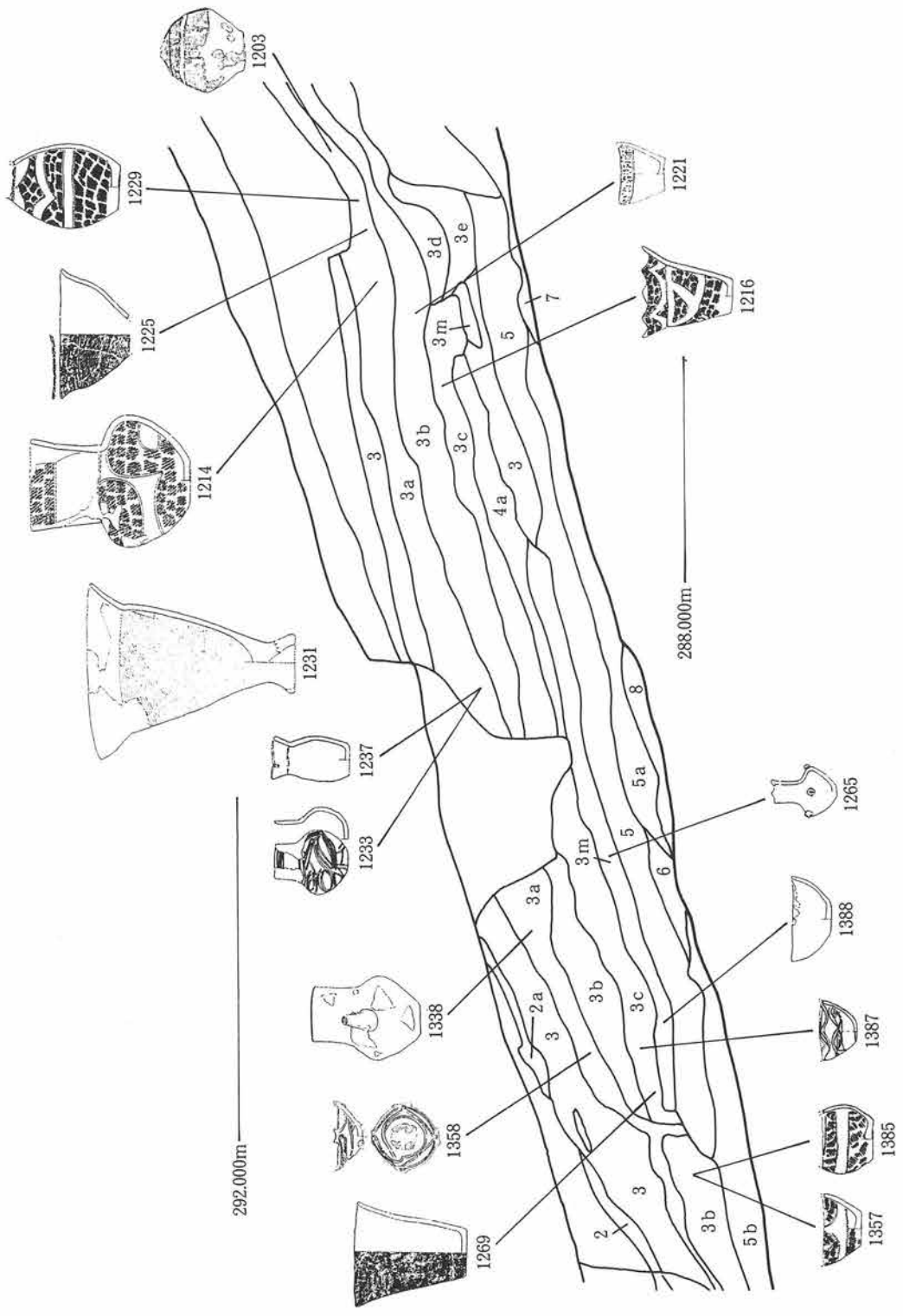
1	10YR2/1	黒色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒少量・遺物少量混入	現況の表土層（腐植土）局所的に耕作土層
1A	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒少量・木根多量・遺物混入腐植土層	局所的に人為的攪乱層
1B	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	十和田b少量混入	耕作土層？
1C	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱		
1D	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	遺物多量混入	3A層が攪乱され再堆積した層
1E	10YR3/3	暗褐色土	シルト	粘性弱	しまり強	3A層のブロック層	褐色土ブロック・焼土粒・炭化物粒混入
2	10YR3/3	暗褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	ザラザラしている	十和田b・南部浮石粒微量混入
2A	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	十和田b微量・南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒微量混入	下に洗い出された砂土ブロックが見られる
3	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒・局所的に焼土・炭化物混入	
3A	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒多量・遺物・骨片微量混入	
3B	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	暗褐色土ブロック・南部浮石粒少量・焼土粒・炭化物粒少量・遺物・骨片微量混入	
3C	7.5YR2/3	極暗褐色土	シルト	粘性中	しまり中	南部浮石粒3%・焼土粒多量・炭化物混入	
3D	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱		
3E	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒微量・焼土粒・炭化物粒微量混入	
3F	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒との混合土	焼土粒微量・炭化物粒・遺物混入
3G	10YR3/3	暗褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	汚れた褐色土との混合土	焼土粒少量・炭化物粒・土器混入
3H	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒少量（細かいもの多い）・焼土粒少量・炭化物粒・遺物多量（後期中～末）・骨片多量混入	
3H	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒との混合土	炭化物粒多量・土器（後期中）混入
3I	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒・遺物多量（後期中～末）・骨片多量混入	
3J	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性中	しまりやや強	南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒・土器混入	3I層より粘性ややあり
3K	10YR2/2～3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒微量・焼土粒・炭化物粒微量・遺物（後期中）混入	3A層より南部浮石粒少ない
3L	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	細かい南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒微量・土器混入	
3A1	7.5YR3/2～10YR3/3	黒褐色～暗褐色土	シルト	粘性中	しまり中	南部浮石粒3%弱混入	Ⅲ層上位相当
3A1	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	焼土粒微量混入	
3A2	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土粒・炭化物粒多量・土器混入	
3A3	10YR3/3	暗褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土中に黒褐色土微量・焼土粒・炭化物粒微量混入	
3A4	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱		
3A5	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	炭化物粒少量混入	
3A6	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	炭化物粒少量混入	
3A7	10YR3/2～3/3	黒褐色～暗褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	3Z層より南部浮石粒多量・斜面下に遺物混入	
3A8	10YR3/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土・暗褐色土・南部浮石粒混入	
3A9	10Y2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	3A8層より褐色土少量混入	
3A10	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	暗褐色土との混合土	焼土粒・炭化物粒・土器混入
3B1	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性中	しまり中	南部浮石粒3%混入	Ⅲ層中位相当
3C1	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土・焼土多量・炭化物粒多量・灰多量・土器（後期末～晩期初頭）混入	
3C2	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土多量混入	
3C3	10YR2/2～2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土ブロック・炭化物粒少量混入	3C1層相当？
3C4	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒3%混入	
3C5	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒3%混入	
3D1	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性中	しまり中	径3～10mmの南部浮石粒3%・焼土粒多量・炭化物混入	
3D2	5YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性中	しまり強	南部浮石粒3%・焼土粒多量・炭化物混入	Ⅲ層下位相当
3D3	10YR3/3	暗褐色土	シルト	粘性やや中	しまり強	南部浮石粒3%以下・焼土粒微量・炭化物混入	Ⅲ層下位相当
3D4	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性やや中	しまり中	南部浮石粒3%以下混入	Ⅲ層下位相当
3D5	10YR3/4～4/6	暗褐色～褐色土	シルト	粘性中	しまり強	径3～10mmの南部浮石粒3%以下混入	Ⅲ層下位相当相当
3E1	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土との混合土	焼土粒少量・炭化物粒・土器混入
3E2	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	焼土粒・炭化物粒多量混入	
3H1	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	褐色土粒少量・炭化物粒少量・土器少量混入	
3H2	5YR4/3	にぶい赤褐色土	粘性やや中	しまり強	焼土層	人為堆積	
3H3	5YR4/3	にぶい赤褐色土	粘性やや中	しまり強	焼土層	人為堆積	
3H4	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	細かい南部浮石粒多量・焼土粒・炭化物粒微量混入	3H1層相当？
3H5	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	炭化物粒多量・土器混入	3H1層相当
3H6	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土多量・炭化物粒多量・土器多量混入	
3H7	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	汚れた細かい南部浮石粒多量混入	
3J1	10YR3/1	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒微量・焼土粒微量・炭化物粒・土器混入	3I層より粘性ややあり
3J2	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒少量・焼土粒微量・炭化物粒・土器少量（後期初～中）混入	3J層相当
3J3	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性やや中	しまりやや強	南部浮石粒少量・焼土粒微量・炭化物粒・土器少量（後期初～中）混入	
3J4	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒多量・褐色土多量・炭化物粒微量混入	
3J5	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入	
3J6	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒少量混入	攪乱？
3J7	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒・炭化物微量・褐色土少量・土器混入	
3J8	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	3J7層より南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入	
3J9	10YR3/3	暗褐色土	粘土質シルト	粘性やや中	しまりやや強	褐色土・黒褐色土・焼土粒混入	
3J10	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	3J7層より南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入	
3J11	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	褐色土・南部浮石粒・焼土粒・炭化物粒少量混入	
3J12	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒多量・焼土粒少量・炭化物粒・土器多量（後期中）・骨片多量混入	
3J13	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒少量・炭化物粒微量混入	
3J14	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒微量・焼土・炭化物粒微量・土器混入	
3J15	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒・炭化物粒微量混入	
3J16	10YR2/3	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒混入	
3J17	10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまり弱	南部浮石粒混入	
3Z	10YR2/1	黒色土	シルト	粘性中	しまり中	局所的に中礫火山灰・汚れていない南部浮石粒混入	
4	10YR2/2	黒褐色土	砂質シルト	粘性弱	しまりやや強	中礫火山灰・南部浮石粒微量混入	
5	10YR3/3	暗褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒混入	
6	7.5YR2/2～10YR2/2	黒褐色土	シルト	粘性弱	しまりやや強	南部浮石粒多量混入	
7	7.5YR5/6	明褐色土					
8	7.5YR4/6	褐色土	ローム	粘性中	しまり強	南部浮石粒？混入	八戸火山灰層？局所的に斜面の関係で自然移動？
9	10YR5/6	黄褐色土	ローム	粘性中	しまり強	砂土類似だが局所的に粘土化	高嶺火山灰？層



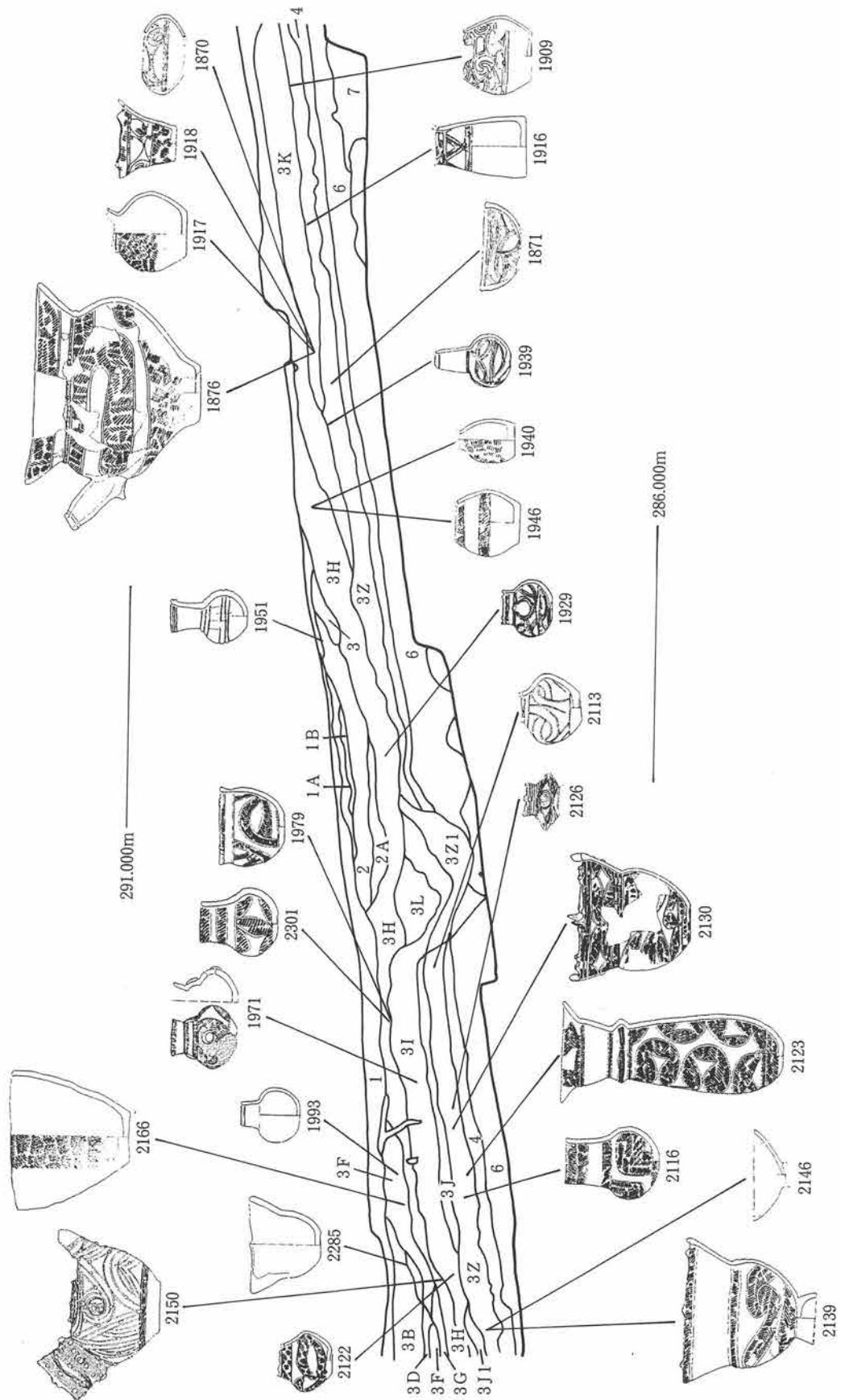
第119図 西部捨て場土層断面



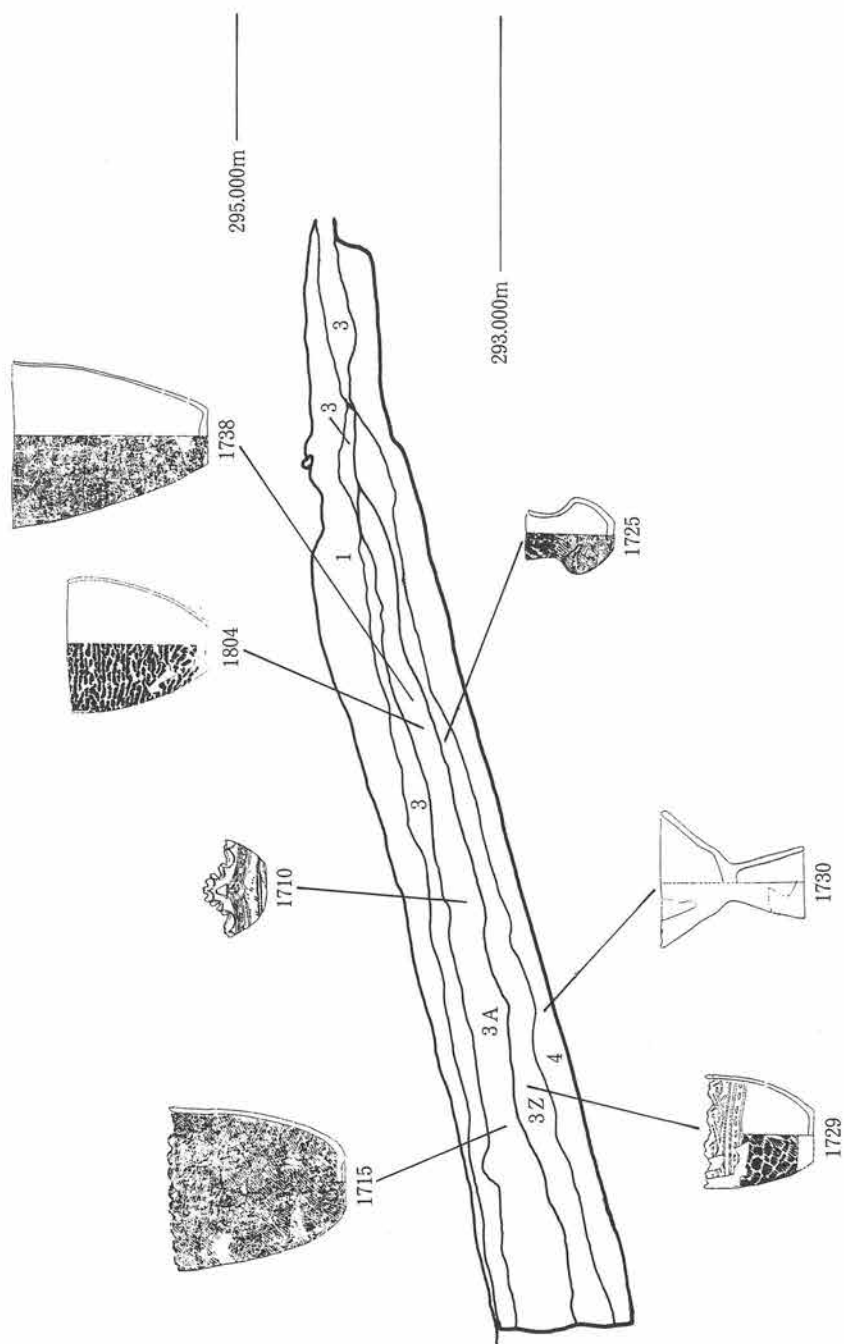
第120图 土层断面③-1



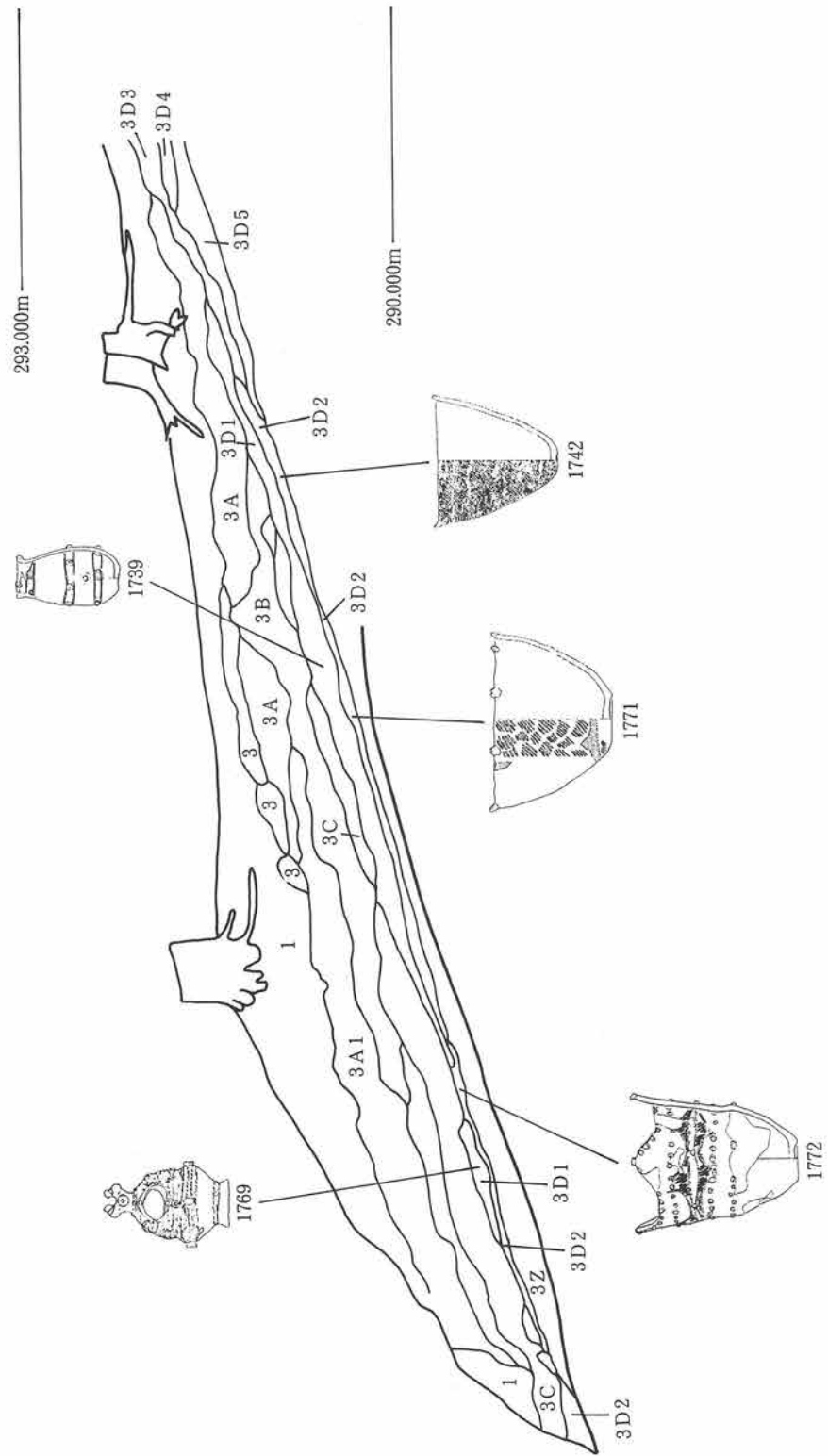
第121图 土层断面③-2



第122図 土層断面⑦



第123图 土层断面①



第124图 土层断面⑫

第V章 出土遺物について

発掘調査で出土した遺物は、本章で一括して取り扱うこととする。すなわち遺構内出土分、遺構外出土分を合わせてである。

3年間の調査で出土した遺物の総量は、大コンテナに換算して土器類550箱強、土製品約2324点、石器・石製品5330点である。本稿に掲載した遺物は、遺構内外合わせた通し番号となっている。出土点数の多かった遺物については、個々の遺物の中で若干の分類を行った。第125～135図は、その概念図である。

個々の遺物の内容については、紙面の関係もあり代表的なもののみ文章記載を行うこととするので、遺物の詳細は、基本的に遺物観察表、実測図、写真図版を参照戴きたい。

遺物の出土時の状況について、土中にどのような状態で埋まっていたかなどの出土記録が基本的にはないことから、「土器が横倒しである」とか、「注口部が欠損していた」とか、「土偶は地面に平坦気味に置かれていた」といった記載は行っていない。調査員の人数にも起因する問題であるが、土偶などの出土状況は本来重要な記録であったと反省している。捨て場出土の遺物については、できるだけ出土時の状況写真を写真図版161～172に掲載したので参照戴くこととして、お許し願いたい。

1 土器

縄文時代早期、前期、後期、晩期、弥生時代初頭・中期の土器が出土している。主体は縄文時代後期初頭から晩期前葉である。観察表の項目順にその基準を説明する。

<器種> 器種は、深鉢、鉢、浅鉢、皿、片口鉢、壺、注口土器、筒形土器、単孔土器、香炉形土器、双口土器、異形土器に大別した。本稿において台（脚）が付く鉢類については、弥生時代と思われる土器を除き高杯と言う名称を用いず台付き鉢、台付き浅鉢、台付き皿と呼ぶこととした。土器の規模について、当初は個々の器種の中で平均的な大きさ以外のものを大形、中形、小形と付けて区分を試みたが、明確な基準値が見いだせなかつたので除外した。鉢類の器種区分の概念図は第125図を参照して戴きたい。また、主体となる後～晩期の土器については、残存率の高い土器を採用して深鉢、鉢、壺、注口土器の器種のみ器形分類を試みた（第126図～132図）。併せて記載する。

深鉢 器高が口径の2/3以上を深鉢とした。

鉢 器高が口径の2/3～1/2までを鉢とした。台が付くものも見られる。

浅鉢 器高が口径の1/2～1/3までを浅鉢とした。台が付くものも見られる。

皿 器高が口径の1/3以下を皿とした。台が付くものも見られる。

片口土器 口縁部の一カ所に注ぎ口が設けられる（付けられる）土器を片口土器とした。

壺 基本的には頸部と胴部との接する部分の長さが、最大径の2/3未満を壺とした。ただし、本稿では甕と言う名称を採用していないので、甕的な器形のものも壺に含めている。

注口土器 器体側面に注ぎ口が付く土器を注口土器とした。台が付くものも見られる。

筒形土器 器形が筒状を呈する土器を筒形土器とした。

単孔土器 器体側面に孔が穿たれている土器を単孔土器とした。

香炉形土器 仏具の香炉に形態が類似する土器を香炉形土器とした。透かしが入るものが多い。

双口土器 1個体の土器に2つの口縁部を付けた土器を双口土器とした。

異形土器 特殊な形態を呈する土器を異形土器とした。

〈残存部位〉 残存率の違いで、完形（完形品や極一部分を欠損する土器や接合により完形個体になった土器）、ほぼ完形（接合作業などにより全体の器形がわかるまで復元された土器、概ね残存率が80パーセント前後の土器に呼称する）、1/2完形（残存率50パーセント以上のもので口縁～底部までの器形推定が可能と判断される土器）に区分し、それ以下の残存率のものは部位の名称（例としては口縁部～胴部上半付近までの破片であれば「口～胴部上半」といった具合）で記載した。

〈口唇部形態〉 平縁、波状口縁、山形状口縁、突起、縄文施文の有無と口唇部の形態を明示した。口唇部の形態は断面形が丸いものを「丸み」、平坦に面取りが行われた角（かど）がつくようなものを「角状」、内側に内傾するものを「内削ぎ」と言う表現方法で明記した。第125図を参照載きたい。

〈地文〉 施文原体の種類を表記する。施文原体の方向については、実測図を参照して載きたい。

〈内面調整〉 内面の調整が把握できる場合について記載する。残存率の良い土器は、部位によって調整方法が複数施されるものも少なくない。壺の内面を例に説明すると、口縁部はナデ、胴部はケズリなどといった具合であるが、観察表中には項目幅の関係で部位までの記載は割愛する。

〈底部形態・文様〉 底部形態は、大きくは平坦（平底）、丸底、台付、上げ底に区分した。底部文様は、沈線による文様を持つものがある。その他としては網代痕、木葉痕、笹痕？擦過痕などの圧痕が確認された。

〈内外面の状況〉 内面及び外面に付着物がある場合に、観察表の備考の項に記載する。煤、炭化物、朱（ベンガラ？）、黒色顔料（漆と思われる）などが主なものとなる。

〈胎土・焼成〉 胎土は、基本的に含有率が高いと感じた混入物のみを記載している。砂の粒を砂粒、砂粒よりも径の大きい小石を粗礫、透明なガラス質のものを石英や雲母などと備考に記載する。普通量以下は割愛し、記載していない。ただし、この場合の多量と普通量の基準は説明が困難であり、また見解に個人差がでると思われることから、観察を行った中川、星によっても若干の食い違いが生じている可能性がある。あくまで参考資料的に取って載きたい。

焼成は、硬い、やや硬い、普通、やや脆い、脆いの5ランクで観察を行ったが、胎土同様に個人によって見解にバラツキが生じる場所である。紙面上の項目幅の関係もあり、観察表からは割愛した。本遺跡においては、晩期の精製土器や後期中葉の精製土器などに硬いものが多く、胎土に砂が多く入るような土器は脆い場合が多い。

〈分類〉 土器の分類は、施文文様や器形などから所属時期の推定が可能な精製土器などはできるだけ周知の土器型式名に比定させ、詳細な時期判断ができない無文土器や地文のみの粗製土器は基本的には型式名に比定させない分類を行った。それらの中には、プロポジションから時期推定が可能と思われるものもあるが、明確ではないため詳細な位置付けを避けたものもある。ただし、補足すると本遺跡から出土している精製土

器は、9割9分以上が後期初頭～晩期前葉期（前十腰内式～大洞BC式）であることから、粗製土器についてもその範疇に収まる可能性は高いと判断される。

（1）既知の土器型式との比定

土器の時期区分は概ね以下のような土器型式に比定させて捉え分類した。なお、本遺跡から縄文時代中期と思われる土器は出土していない。

- 第Ⅰ群 縄文早期中葉 吹切沢式、寺の沢式
- 第Ⅱ群 縄文前期初頭・末葉 長七谷地3群、円筒下層d1～d2式
- 第Ⅲ群 縄文後期初頭～末葉 十腰内Ⅰ～Ⅴ式
- 第Ⅳ群 縄文晩期初頭～中葉 大洞B1～C1式
- 第Ⅴ群 弥生時代前半～中頃 砂沢式・天王山式

第Ⅰ群 縄文時代早期土器

縄文時代早期中葉の貝殻沈線文土器が、微量出土している。

＜第Ⅰ群1類＞ 貝殻腹縁文施文後に爪？による刺突文が施文される土器で、吹切沢式と推定される。器種は、小片のため明確ではないが、深鉢と推定される。今回掲載したのは1658の1点であるが、他に2点吹切沢式の可能性がある小片が出土している。

＜第Ⅰ群2類＞ 貝殻条痕文及び貝殻腹縁文が観察される土器群で、寺の沢式に相当する。数点の出土である。器種は小片のため明確ではないが、全て平縁の深鉢と推定される。2071は胎土に雲母の混入が多く見られるなど、他の時期の土器に見られない特徴がある。

第Ⅱ群 縄文時代前期土器

縄文時代前期初頭の長七谷地3群に比定するものと前期末葉の円筒下層d1式～d2式に相当する土器が、東西の捨て場で出土している。東部捨て場では、Ⅲ層下位（Ⅲ層は後～晩期の遺物包含層）～Ⅳ層上位（Ⅳ層は中礫火山灰の二次堆積が確認される層）で出土している。長七谷地3群相当は数点、円筒下層d1式～d2式は大コンテナ5箱分程出土している。

＜第Ⅱ群1類＞ 胎土に繊維が多量に混入される土器群である。長七谷地3群に相当する土器群と思われる。器種は小片のため明確ではないが、深鉢と推定される。

＜第Ⅱ群2類＞ 円筒下層d2式に相当する土器群を本類とした。口縁部文様帯の幅や器形から円筒下層d1式と円筒下層d2式に細分される。

第Ⅱ群2類-1 円筒下層d1式に相当する土器群である。器種は全て深鉢である。口縁部文様帯の幅は3～5cm程で、押圧縄文が施されるものが多い。胴部には、羽状縄文（第1種結束）や木目状撚糸文（単軸絡条体第1A類第5種）を施文する。胎土には若干量繊維が混入される。内外面に煤が付着するものが多い。

第Ⅱ群2類-2 円筒下層d2式に相当する土器群である。器種は全て深鉢である。頸部に括れを持ち、口縁部文様帯の幅が先行する円筒下層d1式より広めである。また、波状口縁も顕著に見られる。胎土には若干量繊維が混入する。

第Ⅲ群 縄文時代後期土器

本遺跡で最も出土量が多く、大コンテナに換算すると400箱分以上となり、その大半が東西の捨て場からの出土である。およそ形のわかる程度にまで復元できた個体数は2000点程で、接合率及び残存率は概ね良好である。

第Ⅲ群土器は、後期初頭～末葉に至るまでの後期全般に渡る資料と判断される。しかし、出土地の主体を占める捨て場からの出土状態は、上下関係の把握が可能な層位状態ではなかった。本遺跡出土の中で主体となる土器群であり、住居跡や土坑や捨て場の形成された時期を判断する上でも、時期的な大略を示すことは必要と考える。ただし、十腰内式編年は問題視される点が多い。

本稿では、鈴木克彦氏が最近発表した十腰内式編年案である『東北地方北部の編年学研究』を一部参考とし、本群土器の時期的位置付けを試みた。

本群土器の分類にあたっては、妥当性に欠く部分の存在も否めないと思うが、大略を示しておくことで、該期の土器編年の問題提起にはなると考える。なお、分類に際して感じた問題点などは、第Ⅷ章のまとめと考察で触れることとする。

追記として、ミニチュア土器については土製品に含めることとし、土器の分類からは削除した。

<第Ⅲ群 1類> 後期初頭から前葉に位置付けられる土器群で、十腰内Ⅰ式期に相当する土器群を一括する。

器種は深鉢、鉢、壺、浅鉢を主体に注口土器や片口鉢が少数見られる。本稿の分類は、鈴木克彦氏が行った上尾較2遺跡出土土器による「十腰内Ⅰ式の細分案」(註1)を参照して第Ⅲ群1類-1と第Ⅲ群1類-2に区分し、十腰内Ⅱ式により近似する特徴のものを1類-3類とし、大きくは3時期に区分を試みた。おおよそ鈴木編年案1～3段階(十腰内Ⅰa式)が第Ⅲ群1類-1、4～5段階(十腰内Ⅰb式)が第Ⅲ群1類-2に比定する(註2)。十腰内Ⅰ式が大きくは4段階(4時期)に区分される型式であるのなら、第Ⅲ群1類-1に分類した土器群が、最も古い段階と古い段階に2分される可能性を含むものと捉えている。

第Ⅲ群 1類-1 十腰内Ⅰ式の古い段階と思われる土器群を一括する。

器種は深鉢、鉢、浅鉢、壺などが主体で、台の付く鉢や浅鉢も見られる。また壺の中には切断蓋付き壺も含まれる。深鉢には完形品が少なく、鉢や大形の壺に完形品が多い。器形的特徴としては、口縁部の形態は波状・小波状口縁で5単位のものが多い。口唇部の形態は、「丸み」が主体で、折り返し口縁のものも多い。底部の形態は平坦がほとんどで、底面に沈線文を施文する土器も見られる。

文様は、渦巻き状文、木状文、弧線状入組み文、括弧文、三角状文、円文などのほか、平行沈線による幾何学文様、刺突文などが見られる。また、無文地に沈線文を施文するものも見られる。傾向としては、磨消縄文手法は少ない。完形品が多い壺などについては、胴部下半～底部にかけて無文や地文のみのものが多い。

原体はL無節が主体のようであり、次いで無文のものが多い。単節を施文するものは極端に少ない。

第Ⅲ群 1類-2 十腰内Ⅰ式の新しい段階と思われる土器群である。

器種は深鉢、鉢、浅鉢、片口鉢、壺、注口土器で、鉢と浅鉢は台が付くものが多い。

器形的特徴としては、口縁部の形態は平縁、波状、小波状で、単位は4～6で4もしくは5単位が多い。口唇部の形態は丸みを主体に角状を呈し、口唇に縄文及び波状口縁のもの頂部には刻み目が施されるものが目立つ。底部の形態は平坦がほとんどで、底面に笹や木葉痕などの痕跡が見られる土器も多い。

文様は平行沈線による渦巻き状文、帯状文によるクランク状、多条沈線による入組み状文など、非常に多彩である。また、稚拙な沈線による球根状やカニの鋏状や人面状の特殊文様を施文する土器も見られる。無

文地に沈線文を施文する土器や磨消縄文手法の割合も、第Ⅲ群1類-1より高くなる傾向が窺える。

原体は、L無節を主体とするが第Ⅲ群1類-1と比較して単節の割合が高くなる。

第Ⅲ群1類-3 十腰内Ⅱ式に限りなく近い様相を示す土器群である。

器種は、深鉢、鉢、浅鉢、壺で、小形の壺が多い。深鉢については、文様の施文される完形品がほとんど見られないが、あるいは地文のみを施文する粗製のもの（第Ⅲ群6類-1に分類したもの）が多いものかもしれない。

器形的特徴としては、口縁部の形態は平縁が主体となり波状や小波状の割合が低い。底部の形態はほとんどが平坦である。

文様は方形区画文を主体とする。

原体は、L無節と単節の割合が半々程で、無文は激減する。また、頸部に2条の原体押圧文を施文する土器も見られる。

<第Ⅲ群2類> 後期中葉に位置付けられる土器群で、十腰内Ⅱ式期に相当する土器群を一括する。後期土器の中で、最も出土量が希少である。後続する十腰内Ⅲ式との区分が不明瞭（困難）な土器については、第Ⅲ群2類-2を設定し分類した。

第Ⅲ群2類-1 十腰内Ⅱ式相当の土器群である。

器種は深鉢、鉢、浅鉢、壺、皿、筒形土器、単孔土器である。筒形土器や単孔土器が出現し始めるが、注口土器は確認されなかった。全体の器形が窺える資料としては、小形の壺類が多い。

器形のバリエーションが増加するようで、非常に多彩な器形が見られる。口縁部の形態は平縁・波状・小波状の他に山形状を呈するものもある。口唇部の形態は角状を呈する割合が高くなり、併せて口唇部に縄文を施文するものも多くなる。

文様は沈線による連続S字状文や、やや広めの磨消縄文による入組み文などを主要モチーフとする。

原体は無節が激減し、単節が主体となる。また、網目状捺糸文を施文する土器も比較的に見られる。

第Ⅲ群2類-2 十腰内Ⅱ～Ⅲ式相当の土器群である。

器種は深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口土器、単孔土器で、台の付く深鉢も多く見られる。

器形的特徴としては、口縁部の形態としては平縁を主体とし、大形の突起や又状突起（二股状の突起）が付くものが見られる。

文様は、磨消帯の幅が広めの曲線帯状文（J字やS字状のものが主体）や幾何学的な入組み文や羽状沈線などが見られる。また、曲線的磨消縄文を構成する沈線に沿って刺突文を連続して施文する土器も見られる。

原体は単節が主体で、無文のものも若干見られる他、非結束羽状縄文（1種の原体によるものと2種によるものがある）も見られる。また、節の細かい原体を用いる土器がある。

<第Ⅲ群3類> 後期中葉に位置付けられる土器群で、十腰内Ⅲ式期に相当する土器群を一括する。

器種は、深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器、双口土器、単孔土器などである。第Ⅲ群2類に比べて、注口土器の割合が高くなる。

器形的特徴は、口縁部の形態は平縁が主体で、器厚が肥厚気味のものも見られる。口唇部の形態は丸み、角状の他に内削ぎ（内側に内傾する形状）も多くなり、また突起の付く割合も高くなる。底部形態は平坦を基調とするが、本類土器から上げ底状の割合が増加する。

文様は、幅の広めの磨消帯による帯状文を基調とする。帯状文によるモチーフとしては、木の葉状、鉤状、C字状といった入組み文様が多い。加曾利B式に類似する特徴である刻目帯が見られる土器も多い。刻目帯

を有する土器は、口縁に1～3条の刻目帯（刻目が連続施文され全周する）を有し、口～頸部までを無文とし、頸部に再び刻目帯を持ち、胴部に曲線的磨消縄文が展開する1322や1345の土器などが基本形となろう。

原体は、ほとんどが単節であるが、0段多条のものが目立つようである。その他の特徴としては、羽状縄文を施文する割合が高くなり、口縁部上方や頸部に刻目帯が見られる。羽状縄文は、1種類の縄文原体を異方向に転がして施文するいわゆる異方向縄文より2種の原体によるものの方が高い割合であった。

第Ⅲ群3類土器群の最大の特徴と思われるのが、他の時期と比べて器面が光沢を強く感じる程に研磨手法が施されることである。この光沢は、研磨手法のみならずおそらくは、製作に使われた粘土自体が精錬されたものであろうことが推定される。この手法（調整）は、加曽利B式と共通する特徴である。また1345は又状貼瘤が付加されること、2167の注口土器は文様モチーフなどから、後続する十腰内IV式に限りなく近い様相を感じる土器である。

<第Ⅲ群4類> 後期後葉に位置付けられる土器群であり、十腰内IV式期に相当する土器群を一括する。

器種は深鉢、鉢、浅鉢、片口鉢、皿、壺、注口土器、香炉形土器、単孔土器などである。第Ⅲ群3類までには見られなかった香炉形土器は、本類土器から見られる。

他の類に比べて、全体の器形が窺い知れる資料が多い。器形的特徴は、口縁部の形態は平縁と波状を主体として、山形状のものが見られ、器厚が肥厚する土器も多くなる。口唇部の形態は内削ぎの割合が高くなり、大形の突起及び又状貼瘤が2個一対や大形・小形を織り混ぜて付加するものが見られる。口唇部に付く貼瘤状の突起の単位は様々であるが、5単位が多いようである。底部の形態は、深鉢以外の器種は上げ底状や台が付くものが主体となる。

文様は、入組み文様を基調とし、襷掛け状、鉤状、木葉状のモチーフが描かれる。入組み状文を構成する帯縄文内はほとんどが羽状縄文で、磨消縄文と充填縄文の両者が見られる。また口縁～頸部が無文帯を構成する土器も多い。羽状縄文を施文する割合は高く、2種の原体によるものが主体のようである。また、0段多条のものも見られる。

前型式との大きな違いとして、本類の土器群から貼り瘤が顕著となる。また、襷掛け状の入組み文様の中には、本類土器と第Ⅲ群5類土器の何れに属するのか判断の困るものも多いが、それら文様からの区分が困難なものは、貼り瘤先端の具合に求め、瘤の先端が「丸い瘤」や「又状貼瘤」（二股状の瘤）を第Ⅲ群4類に、瘤先が鋭くとがる（先鋭貼瘤と表記）貼り瘤が付く土器を第Ⅲ群5類として、とりあえずの区分材料に用いた。よって、鈴木編年の位置付けと相違が生じたとすれば、入組み帯状文による襷掛け状のモチーフの文様において、第Ⅲ群4類と5類の何れに含めるか判断に苦慮する土器であり、瘤の状態を優先したことにある。

また、本稿では細分を試みなかったが、瘤の形態やその付き方から考えて、第Ⅲ群4類土器は少なくとも3細分（時期？）できる可能性があるように捉えている。

<第Ⅲ群5類> 後期後葉～末葉に位置付けられる土器群であり、十腰内V式期に相当する土器群である。ただし、後期最終末期に相当するであろう土器群については、古い様相と感じたものを本類（第Ⅲ群5類）に、新しいと感じたものを第Ⅳ群1類-1に便宜的に振り分けた。よって、分類上支障がある場合は、訂正願いたい。

本遺跡で出土量の最も多いのが、当該期の土器である。

器種は、深鉢、鉢、浅鉢、壺、注口土器、香炉形土器、単孔土器、皿などである。四足皿、双胴注口土器、人面付き注口土器、人面付き香炉形土器などの特殊性を強く感じる土器も見られる。

器形的特徴は、口縁部の形態は平縁を主体に山形状、波状が見られ、器厚は肥厚するものの割合が高くなる。口唇部の形態は、内削ぎを主体とし、丸みや角状も見られ、突起についても2個一対の叉状突起や山形状突起などバリエーションが多い。底部の形態は、平坦、上げ底、台付きが見られる。

文様は、入組み状文を基調とする。入組み状文を構成する帯状文は、その幅が狭いものが多くなり、充填縄文の割合が高くなる傾向が窺える。観察所見として、十腰内V式期に多く見られる幅の狭い帯状文内（言わば枠の中に）に、無理に羽状縄文を構成するように施文するには、必然的に充填縄文が多用されても不思議はないように思う。磨消縄文か充填縄文かの判別は、特に念入りに観察を行った結果から言及しているつもりであるが、その判別に苦慮する土器が多かったのも事実である。十腰内V式に充填縄文が多い可能性については、本遺跡資料の特徴なのかあるいは全般的な傾向なのか今後の検討としたい。

施文文様から十腰内IV式との区分が難しい土器群については、付加される貼り瘤の種類でとりあえず区分を試みた。また、数条の微隆起線により入組み文様を構成する土器群については、福島県の新地式に類似する土器群であろう。ただし、該期の土器を出土している青森県の遺跡の発掘調査報告書などを散見しても、特別珍しい土器ではないようである。他地域からの搬入品のものか、あるいは文様手法の一つのバリエーションなのか検討を要するが、時期的には後期末葉での位置付けで問題ないと思われるので、ここでは特別扱わない。

＜第Ⅲ群6類＞ 後期に比定されると思われる粗製土器及び無文土器を一括する。すなわち地文のみを施文する深鉢や無文の精製土器（鉢や注口土器）などが該当する。第Ⅲ群6類土器の時期的な位置付けについては、明確な同定法方とは言い難いが、器形や胎土の特徴及び精製土器に見られた諸特徴を考慮して、時期の位置付けを試みた。無文土器は捨て場からの出土が多い傾向が窺える。

第Ⅲ群6類-1 後期初頭～前葉と推定される土器群である。器形的特徴としては胴部上半～口縁部にかけて外傾する1606や2022の深鉢が基調となる。網目状撚糸文を施文する土器や頸部に原体押圧縄文を施文する土器、及び口唇部に縄文を施文する土器などを主体とする。その他の特徴として、複合口縁のものや底部に筐、木葉痕、網代痕などの圧痕を持つ土器も多い。

第Ⅲ群6類-2 後期前～中葉と推定される土器群である。器形的特徴として、深鉢は頸部～口縁部にかけて外反する土器などを基調とする。刻目を持つものや1種の原体を使用した異方向による羽状縄文のものなども含めた。底部に筐、木葉痕、網代痕などの圧痕を持つ土器も本類まで見られるように思う。

第Ⅲ群6類-3 後期中～後葉と推定される土器群である。器形的特徴として、深鉢などは底部～口縁部まで外傾気味に立ち上がるものを基調とする。2種の原体による羽状縄文のものは、基本的に本類に含めた。上面観が楕円形を呈する土器なども多々見られる。

第Ⅲ群6類-4 後期後～末葉と推定される土器群である。無文土器の中には、全面を研磨した精製土器と言えるものと粗面のままのものがある。一部晩期と思われる土器を含んでいる可能性がある。

第Ⅳ群土器 縄文時代晩期土器

後期に次ぐ出土量である。大洞式諸型式に比定させ、分類を行った。後期の土器は捨て場出土が主体であったが、晩期の土器は住居跡からの出土を主体とする。全般に完形資料は少なく、破片が多い。

＜第Ⅳ群1類＞ 縄文時代晩期初頭～前葉に位置付けられる土器群で、大洞B式期に相当する土器群を一括する。新・古2時期に大別したのものもある。1259・1870（安行3c式？）など他地域の影響を強く感じる土

器が、若干量見られる（搬入品あるいは異系統土器か）。

第Ⅳ群 1類-1 晩期初頭の大洞B 1式に比定して分類した土器群であるが、後期最終末の土器群が混在した可能性は否めない。須藤 1 a 期、「小井田Ⅳ遺跡」第Ⅱ群第 6 類、「田柄貝塚」第Ⅶ群に類似する後期と晩期の過渡期と思われる土器群についても、区分は明瞭ではない。

器種構成は、深鉢、台付深鉢、鉢、浅鉢、皿、壺、注口土器である。文様を施文する深鉢や鉢形土器が、本遺跡の資料には希少と言える。また地文は R L が主体で、羽状縄文や無文土器も相当数見られる。該期土器の資料が豊富な『山井遺跡発掘調査報告書』を参照した結果、「山井遺跡」下層出土土器と類似する資料が、本遺跡の中にも散見される。また「道地Ⅲ遺跡」FⅡ-9 号住居跡出土土器などにも、類似する。

文様は、入組み三叉文を主要文様とする。捨て場内出土より住居跡出土に良好な資料が見られる。239、243、247、1681、1889 などの土器の時期は検討を要しよう。

第Ⅳ群 1類-2 晩期前葉に位置付けられる土器群で、大洞B 2式に相当する。三叉文を主要文様とする土器群で、入組み三叉文や玉抱き三叉文と呼ばれるモチーフの土器が多い。器種構成は深鉢、鉢、台付鉢、浅鉢、台付浅鉢、皿、壺、注口土器である。地文は L R を主体とする。

<第Ⅳ群 2類> 縄文時代晩期前葉に位置付けられる土器群であり、羊歯状文を施文する土器群である。2 時期に区分したものもある。

第Ⅳ群 2類-1 大洞B 2式と大洞B C 式の漸移的と判断される土器群であり、大洞B C 1式に位置付けられると判断される土器群を一括した。器種構成は鉢、台付浅鉢、台付皿、注口土器で、鉢を主体とする。地文は L R を主体とする。

第Ⅳ群 2類-2 大洞B C 2式に相当する土器群で、羊歯状文を主要文様とする。器種構成は深鉢、鉢、浅鉢、台付浅鉢、台付皿、壺、注口土器である。地文は L R を主体とする。

<第Ⅳ群 3類> 縄文時代晩期中葉に位置付けられる土器群で、大洞C 1式に相当する。出土量は数点で、先行する第Ⅳ群 2類と比較して、極端に減少（消える）する。1246の雲形文を施文する注口土器は、丸底状を呈する。

<第Ⅳ群 4類> 縄文時代晩期中葉に位置付けられる大洞C 2式相当の土器群を意識して設定したが、該当する土器は見当たらなかった。

<第Ⅳ群 5類> 縄文時代晩期初頭～前葉に属すると思われるが、詳細な時期の位置付けが困難な地文のみを施文する粗製の深鉢・鉢を一括する。

<第Ⅳ群 6類> 縄文時代晩期初頭～前葉に属すると思われるが、詳細な位置付けが困難な無文土器を一括する。無文ではあるが、作り方や調整が丹念であり、精製土器に区分されると判断される土器群である。主に注口土器や壺形土器が該当する。

第Ⅴ群 弥生土器

弥生時代に属する土器群を本群とする。微量の出土点数であり、何れも小破片である。初頭の砂沢式に相当するものの中～後葉の天王山式に相当するものが出土している。

<第Ⅴ群 1類> 変形工字文の施文が見られることから、砂沢式に相当すると思われる。502と503は付き起こし状の刺突文を施文する。K11住居跡から 1 点、H18土坑13号埋土中から 1 点、I 17土坑 4 号埋土中から 1 点、東部捨て場から 1 点出土している。

<第V群2類> 交互刺突文の施文が見られることから天王山式に相当すると思われる。K11住居跡PP1から1点、G11住居跡埋土中から1点出土している。

(2) 本遺跡に見られる縄文時代後期～晩期土器の器形について

本遺跡における縄文時代後～晩期にかけての土器は、捨て場を中心に膨大な量が出土した。出土状況は発掘調査時点から完形品・ほぼ完形品及び一括破損している個体での出土が多く、壊れたから土器を捨てたとは思われない出土状態のものが多々見られた。接合・復元作業を行った結果、接合した破片同士も多く、残存状況は良好と言える。型式学的に見れば良好な資料を提供するものと判断され、多種多様な器形の土器が見られた。

分類上の問題と検討も兼ねて、本遺跡から出土した完形土器をモデルとし、それぞれの器種の中で器形分類を試み文様帯を図示した。文様帯の名称については、第125図に示した山内清男博士に従う。設定した器形分類では位置付けの難しい器形の土器については、器形の部分一致、あるいは文様帯の類似性を優先として、とりあえず分類を行った。詳細については第七章で記述することとする。

本章では、第126～132図に掲載した概念図の説明とモデル土器の明示を行い、第七章において、本稿で行った分類の補足を兼ねて、検討を行うこととする。なお、完形資料が希少な浅鉢と皿及び特殊な土器と思われる香炉形土器、筒形土器、双口土器、異形土器は除外した。

深鉢、鉢、注口土器、壺の器種とも以下の基準で細分する。鉢については、「口径と器高の割合」は割愛する。

<口径と器高の割合>

- I 器高に最大長を持つ
- II 口径と器高がほぼ同じ長さ
- III 口径が器高より長い

<口縁部形態>

- 1 平縁
- 2 波状口縁（単位はとりあず検索から削除する、個々の器形の中で傾向について触れることとする）
- 3 山形状口縁（単位はとりあず検索から削除する、個々の器形の中で傾向について触れることとする）

<底部形態>

- a 平坦
- b 上げ底状（やや上げ底状のものも含む）
- c 丸底状（やや丸底状のものも含む）
- d 台付き（台の大小はとりあず検索から削除する、個々の器形の中で傾向について触れることとする）

深鉢

底部～口縁部までの器形で深鉢A～Hの8種類に区分した。

<深鉢A> 底部から頸部にかけて外傾気味に立ち上がり、頸部から口縁部にかけて外反あるいは外傾気味に立ち上がる。

深鉢A-I-1-a（モデル1649、2170）、深鉢A-I-1-b（モデル1219）、深鉢A-I-2-a（モデル1606、1920、2022）

深鉢A-II-2-a（モデル1216）

深鉢A-Ⅲ-2-a (モデル1386、1519、1921)

〈深鉢B〉 底部から胴部上半にかけて外傾気味に立ち上がり、胴部上半付近に膨らみを持ち、口縁部にかけて幾分内湾した後に外反する。甕に近い器形と言える。

深鉢Bにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は5種である。B-Ⅲ-2-aとして採用した土器群は、深鉢Aと深鉢Bの折衷的な器形と言えるが、今回は深鉢Bに含めることとする。

深鉢B-I-1-a (モデル1314、1406、1585)、深鉢B-I-2-a (モデル1319、1473、2159)

〈深鉢C〉 底部から口縁部まで外傾気味に立ち上がる。

深鉢Cにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の4種である。

深鉢C-I-1-d (モデル1407)

深鉢C-II-1-a (モデル1294)

深鉢C-Ⅲ-1-a (モデル1288)、深鉢C-Ⅲ-2-d (モデル1436)

〈深鉢D〉 底部から胴部中位付近まで曲線的(膨らみ気味)に立ち上がり、胴部中位に括れを持ち(内湾気味)、口縁部にかけて外傾気味に立ち上がる。幾分口縁部上位付近で直立気味のものが多い。

深鉢Dにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は8種である。

深鉢D-I-2-b (モデル2137)

深鉢D-Ⅲ-1-a (モデル1997)、深鉢D-Ⅲ-1-b (モデル2111)、深鉢D-Ⅲ-1-d (モデル1798、2139)、深鉢D-Ⅲ-2-b (モデル1818、2157、2164)、深鉢D-Ⅲ-2-なし (モデル2004)

〈深鉢E〉 底部から胴部中位付近まで曲線的に立ち上がり、胴部中位にやや括れを持ち、口縁部にかけて外傾気味に立ち上がる。胴部中位付近の括れは、深鉢Dより弱い。

深鉢E-I-2-b (モデル1776)

深鉢E-II-1-b (モデル304)、深鉢E-II-1-d (モデル1341)、深鉢E-II-2-b (モデル1855)

深鉢E-Ⅲ-1-b (モデル1347、2091、1266)、深鉢E-Ⅲ-1-a (モデル1857)、深鉢E-Ⅲ-3-b (モデル1772)

〈深鉢F〉 底部から胴部上半まで曲線的に立ち上がり、頸部が括れ、口縁部にかけて外傾気味に立ち上がる。

深鉢F-Ⅲ-1-a (モデル2143)、深鉢F-Ⅲ-1-b (モデル1795)

〈深鉢G〉 底部から口縁部にかけて屈曲を持たず、おだやかな曲線的に立ち上がる。

深鉢G-Ⅲ-1-a (モデル1502、2094、2156)、深鉢G-Ⅲ-1-b (モデル2032)、深鉢G-Ⅲ-1-d (モデル115、1743)

〈深鉢H〉 底部から口縁部にかけて緩く曲線的に立ち上がる。

深鉢H-I-1-a (モデル1762)、深鉢H-I-1-b (モデル157)、深鉢H-I-2-a (モデル1695)、

深鉢H-II-1-d (モデル238)、深鉢H-II-2-a (モデル1729)

深鉢H-III-1-a (モデル1661、1268)、深鉢H-III-1-b (モデル1620)、深鉢H-III-1-d (モデル239、253)

鉢

底部～口縁部までの器形の違いで10種類に区分した後、口縁部の形態(1～4)と底部の形態(a～d)を加味して区分した。

<鉢A> 底部から胴部中位まで曲線的に立ち上がり、胴部から頸部まで内湾した後、口縁部にかけて外反する。

鉢A-2-a (モデル2030)、鉢A-2-d (モデル1397)

<鉢B> 底部から胴部中位まで外傾気味に立ち上がり、胴部から頸部まで内湾した後、口縁部にかけて外反する。

鉢B-1-a (モデル1969、2035)、鉢B-1-d (モデル1326、1329)

鉢B-2-d (モデル1534)

<鉢C> 底部から胴部上位まで曲線的に立ち上がり、口縁部にかけて僅かに外反する。

鉢C-1-a (モデル2068)、鉢C-1-d (モデル1247)

<鉢D> 底部から頸部まで外傾気味に立ち上がり、頸部で僅かに括れ、口縁部にかけて外傾する。

鉢D-1-a (モデル1464、1404、1434、1464)

<鉢E> 底部から口縁部まで外傾気味に立ち上がる。

鉢E-1-a (モデル1417、1539、1950、2127)、鉢E-2-a (モデル1529、1897)

<鉢F> 底部から頸部まで曲線的に立ち上がり、頸部から内湾気味に立ち上がる。

鉢F-1-a (モデル2005)、鉢F-1-d (モデル1936)

<鉢G> 底部から胴部上半付近にかけて曲線的に立ち上がり、頸部を持ち、口縁部にかけて外反する。

鉢G-1-a (モデル1979)、鉢G-1-b (モデル1581、1687)

<鉢H> 底部から胴部中位付近にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部にかけて穏やかに外傾した後、強く外傾する。

鉢H-1-d (モデル1560、1578、1611、2082)

<鉢I> 底部から口縁部にかけて曲線的に立ち上がる。

鉢I-1-a (モデル1448、1794、2101)、鉢I-1-b (モデル1360、450)、鉢I-1-c (モデル1888、

1958)、鉢 I-1-d (モデル1494)

〈鉢 J〉 底部から胴部まで曲線的に立ち上がり、括れを持った後、口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。
鉢 J-1-b (モデル1750、1693)、鉢 J-1-d (モデル156)

壺

底部～口縁部までの器形の違いで20種類に区分した後、口径と器高の割合 (Ⅰ～Ⅲ) と口縁部の形態 (1～4) と底部の形態 (a～d) を加味して区分した。

〈壺 A〉 底部から胴部中位まで曲線的に外傾し、胴部中位から頸部にかけて内湾し、頸部から口縁部にかけて外反する。広口形の壺で、胴部中位が張り出す。

壺 A-I-2-a (モデル2168)、壺 A-I-2-なし (モデル2018)

〈壺 B〉 底部から胴部下半にかけて外傾気味に立ち上がり、頸部にかけて内湾し、頸部から口縁部にかけて外反する。口が狭い形状を呈する。

壺 B-I-2-a (モデル1408、2024)

〈壺 C〉 底部から胴部中位にかけて外傾気味に立ち上がり、頸部にかけて内傾し、頸部から口縁部にかけて外反する。壺 B に比べて口縁の開きがより強い。

壺 C-I-1-a (モデル1389、1471)、壺 C-2-a (モデル2008)

〈壺 D〉 底部から胴部中位にかけて穏やかに外傾し、胴部中位から頸部にかけて内傾し、頸部から口縁部にかけて外反する。壺 C に比べて胴部中位の張り出しが弱く、幾分頸部が長い形状を呈する。

壺 D-I-1-a (モデル1232、1482、1968)

〈壺 E〉 底部から胴部中位にかけて穏やかな曲線的に立ち上がり、胴部中位から頸部にかけて内湾し、頸部から口縁部にかけて強く外傾する。頸部が長めで胴部中位の張り出しが弱いものが多い。

壺 E-I-1-a (1248、1300、1469、1701)、壺 E-I-1-b (モデル1403)

〈壺 F〉 底部から胴部中位にかけて外傾気味に立ち上がり、頸部にかけて強く内湾し、頸部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。頸部が長めで口径が広めの形状を呈する広口壺が該当する。

壺 F-I-1-a (モデル1213、1214)

〈壺 G〉 底部から胴部中位にかけて曲線的に立ち上がり、頸部にかけてやや内湾し、頸部から口縁部にかけて内傾した後に穏やかに外反する。壺 F に類似した形状であるが、胴部中位から頸部にかけて内湾が穏やかである。広口壺が多い。

壺 G-I-1-a (モデル1744)、壺 G-I-1-b (モデル1677)、壺 G-I-1-c (モデル2116、1894)

<壺H> 底部から胴部上半にかけて外傾気味に立ち上がり、頸部にかけてやや内湾し（肩がやや張り気味に）、頸部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。

壺H-I-1-a（モデル1337、1716）

<壺I> 頸部に明瞭な括れを持たず、細身（スマート）で長目の頸に特徴を持つ壺である。頸部から口縁にかけてほぼ直立気味に立ち上がる。

壺I-I-1-a（モデル1265）、壺I-I-1-b（モデル1939）、壺I-I-1-d（モデル1689、1854）

<壺J> 頸部に段を持つ壺で、壺Iに比べて頸が短めな器形を呈する。

壺J-I-1-b（モデル1602）、壺J-I-1-d（モデル1252）

<壺K> 頸部に段を持つ壺で、壺Kに比べて口径が広めな器形を呈する。

壺K-I-1-c（モデル223）

<壺L> 胴部中位が強く膨らみ、頸部から口縁にかけて内傾する。

壺L-I-1-a（モデル2160）、壺L-I-1-d（モデル1510、2079）

<壺M> 胴部中位が膨らみ、頸部に若干の段を持ち、口縁にかけて内傾する。壺Lに比べて全体の器形はスマートである。

壺M-I-1-b（モデル1764）、壺M-I-1-d（モデル1572）

<壺N> 最大長を胴部上半付近に持ち、肩が張り、頸部から口縁にかけて直立する。

壺N-I-1-b（モデル1782）

<壺O> 頸部に段を持つ広口壺。

壺O-I-1-b（モデル532）

<壺P> 明瞭な頸部を持たない甕型形状を呈する。

壺P-I-1-a（モデル194）

<壺Q> 底部が小さめで、胴部上半に幾分の張り出しを持つ。全体の形状は甕型を呈する。

壺Q-I-1-b（モデル763）

<壺R> 胴部に明瞭な張り出しを持たず、頸も短めの形状を呈する。

壺R-I-1-なし（モデル286）

<壺S> 胴部の形状が球形を呈し、頸部から口縁にかけてやや外傾気味に立ち上がる。

壺S-I-1-a（モデル1296）

<壺T> 胴部の形状が球形を呈し、頸部から口縁にかけて直立気味に立ち上がる。

壺T-I-1-a (モデル1297)

注口土器

底部～口縁部までの器形の違いで7種類に区分した後、口径と器高の割合(I～III)と口縁部の形態(1～4)と底部の形態(a～d)を加味して区分した。

<注口土器A> 底部から胴部中位にかけて曲線的に立ち上がり内湾した後、頸部から口縁部にかけて外傾気味に立ち上がり口縁部の上位で直立若しくは内傾する。胴部は楕円形気味で口径の幅が広めの広口壺形を呈する。

注口土器A-I-1-d (モデル1262)

注口土器A-III-1-a (モデル1876、1322)

<注口土器B> 底部から胴部中位にかけて曲線的に立ち上がり内湾した後、頸部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。口径の幅が広めの広口壺形を呈し、注口土器Aよりやや頸部が長目である。

注口土器B-I-1-b (モデル1705、1724、1775、1929)

<注口土器C> 底部から胴部にかけて曲線的に立ち上がり、口縁部にかけて直立もしくはやや外反気味に立ち上がる。明瞭な頸部は伴わない。

注口土器C-I-1-b (モデル1745)

<注口土器D> 底部から胴部中位にかけて曲線的に立ち上がり内湾した後、頸部から口縁部にかけて直立気味に立ち上がる。

注口土器D-I-1-a (モデル1858)、注口土器D-I-1-b (モデル1610)

<注口土器E> 底部から胴部にかけて曲線的に立ち上がり、頸部から口縁部にかけて僅かに段を持った後、外傾気味に立ち上がる。胴部は球形に近い器形で、頸～口縁部は注口土器A～Dに比べてスリムである。

注口土器E-I-1-b (モデル1302、1779、1442)、注口土器E-I-1-d (モデル1786)

<注口土器F> 底部が丸底状で、胴部が算盤の玉状を呈し、口径はやや広めの器形である。

注口土器F-I-1-c (モデル240)

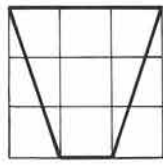
<注口土器G> 底部から胴部にかけて強く外傾し、胴部は張り出しを持ち、頸部から口縁部にかけて内傾気味に立ち上がる。

注口土器G-I-c (モデル1282)

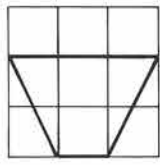
〈註〉

(註1) 『縄文時代第9号』に著した「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・4」を参照している。

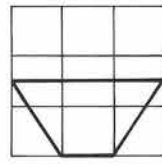
(註2) 鈴木氏は、十腰内式を述べる場合に十腰内1式、2式、3式、4式、5式と言うようにアラビア数字を用いているので、鈴木氏の論文の内容を参照する場合は、アラビア数字で標記する。



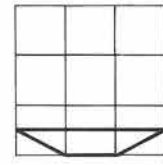
深鉢



鉢



浅鉢



皿



丸み



角状



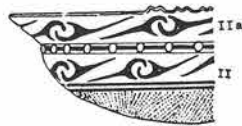
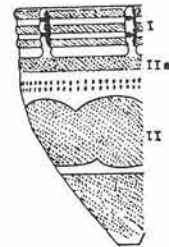
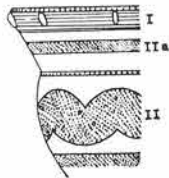
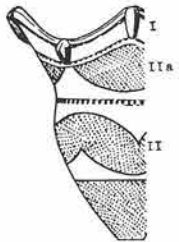
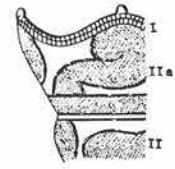
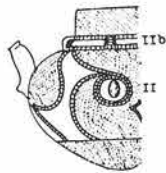
内削ぎ



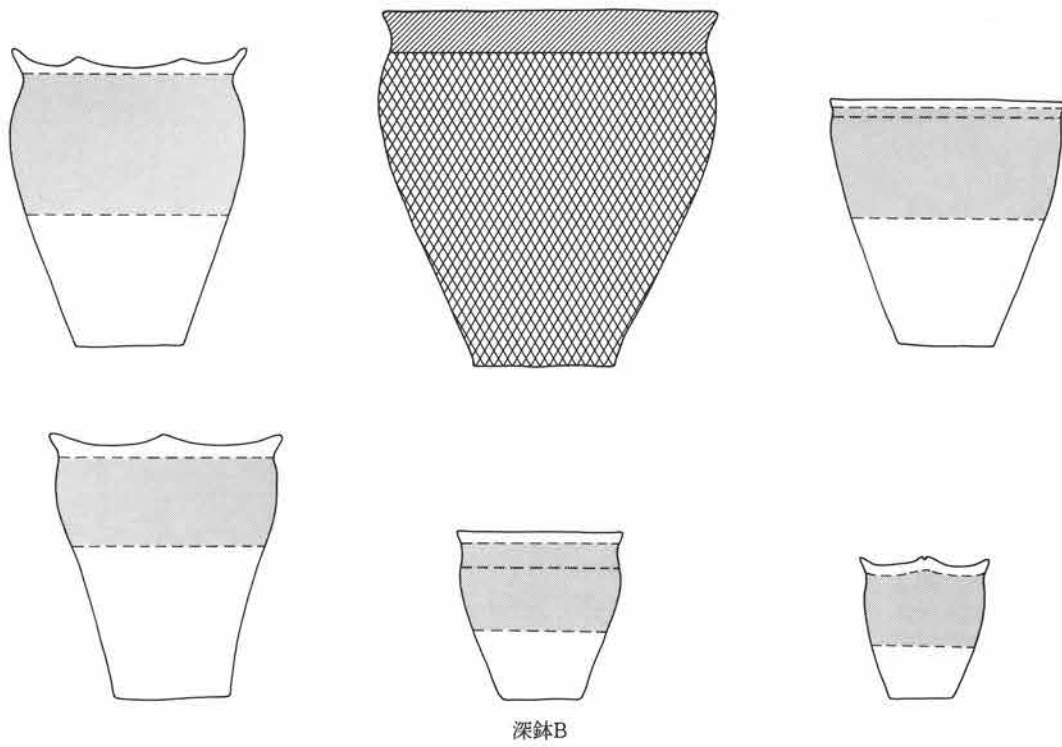
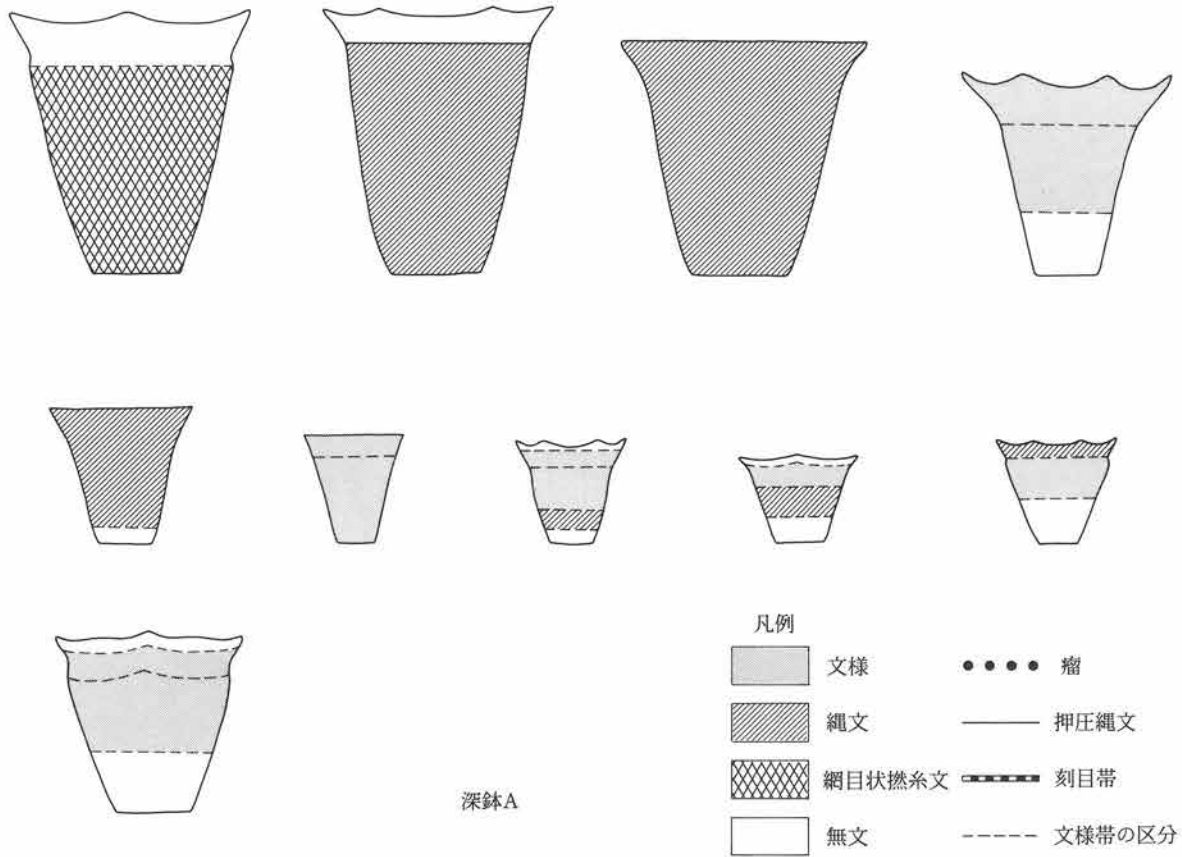
肥厚



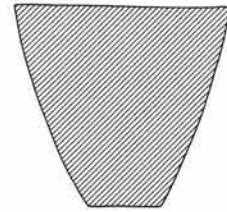
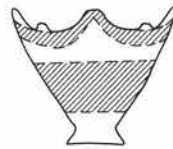
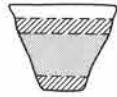
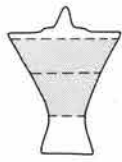
折り返し口縁



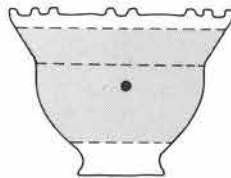
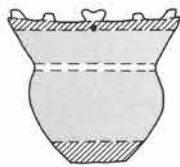
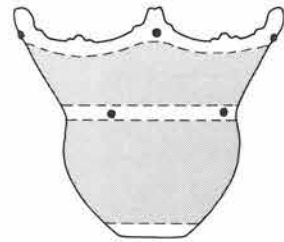
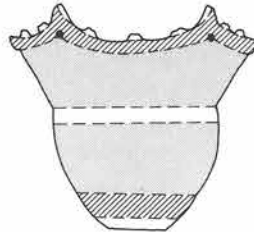
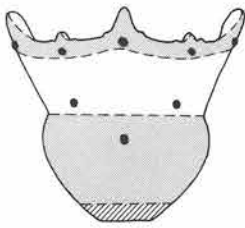
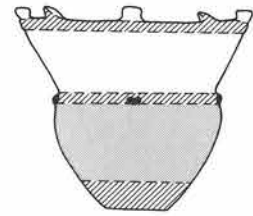
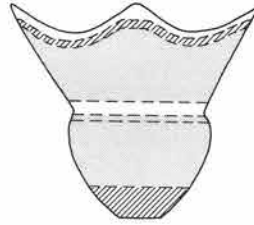
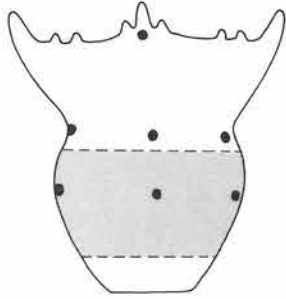
第125図 土器分類例図



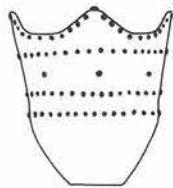
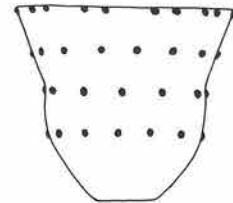
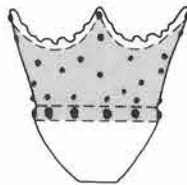
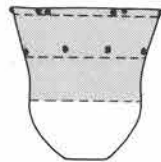
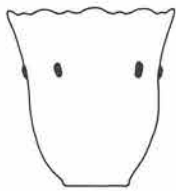
第126図 深鉢器形分類図1



深鉢C

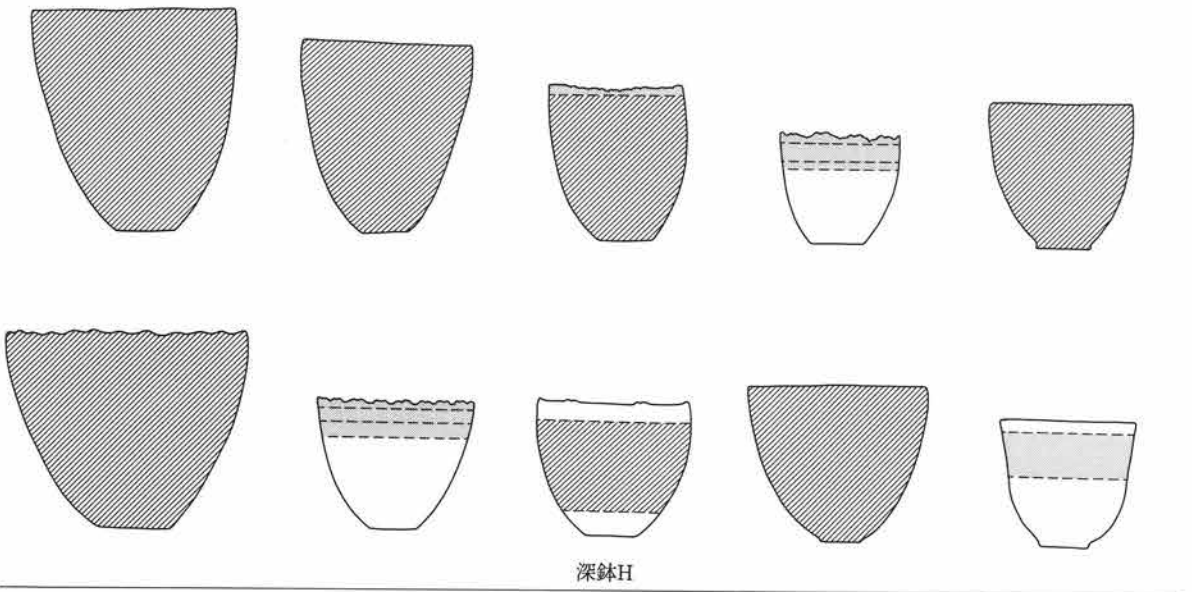
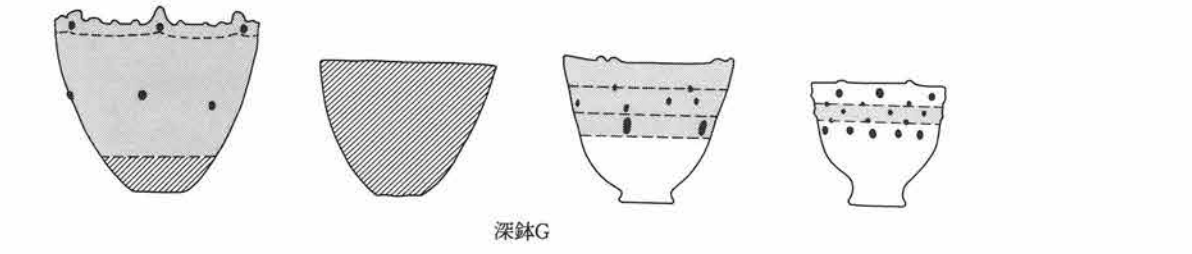
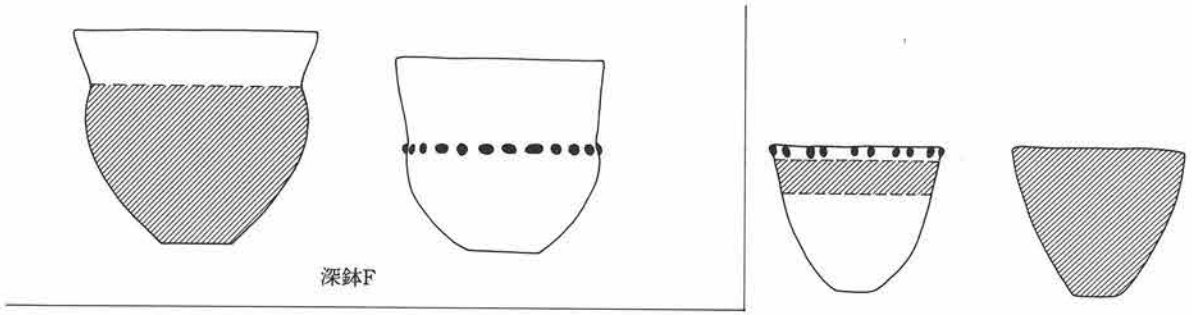


深鉢D

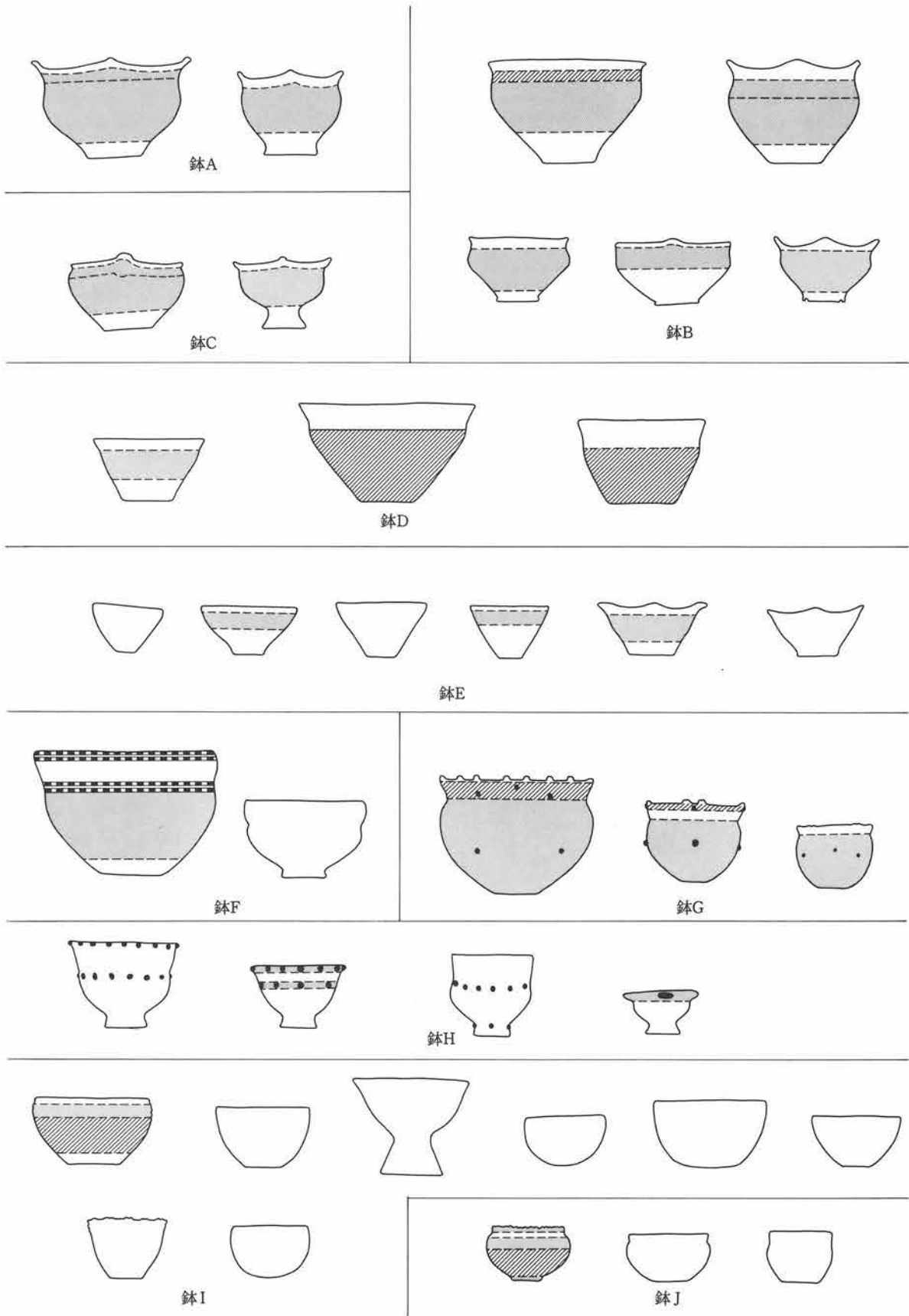


深鉢E

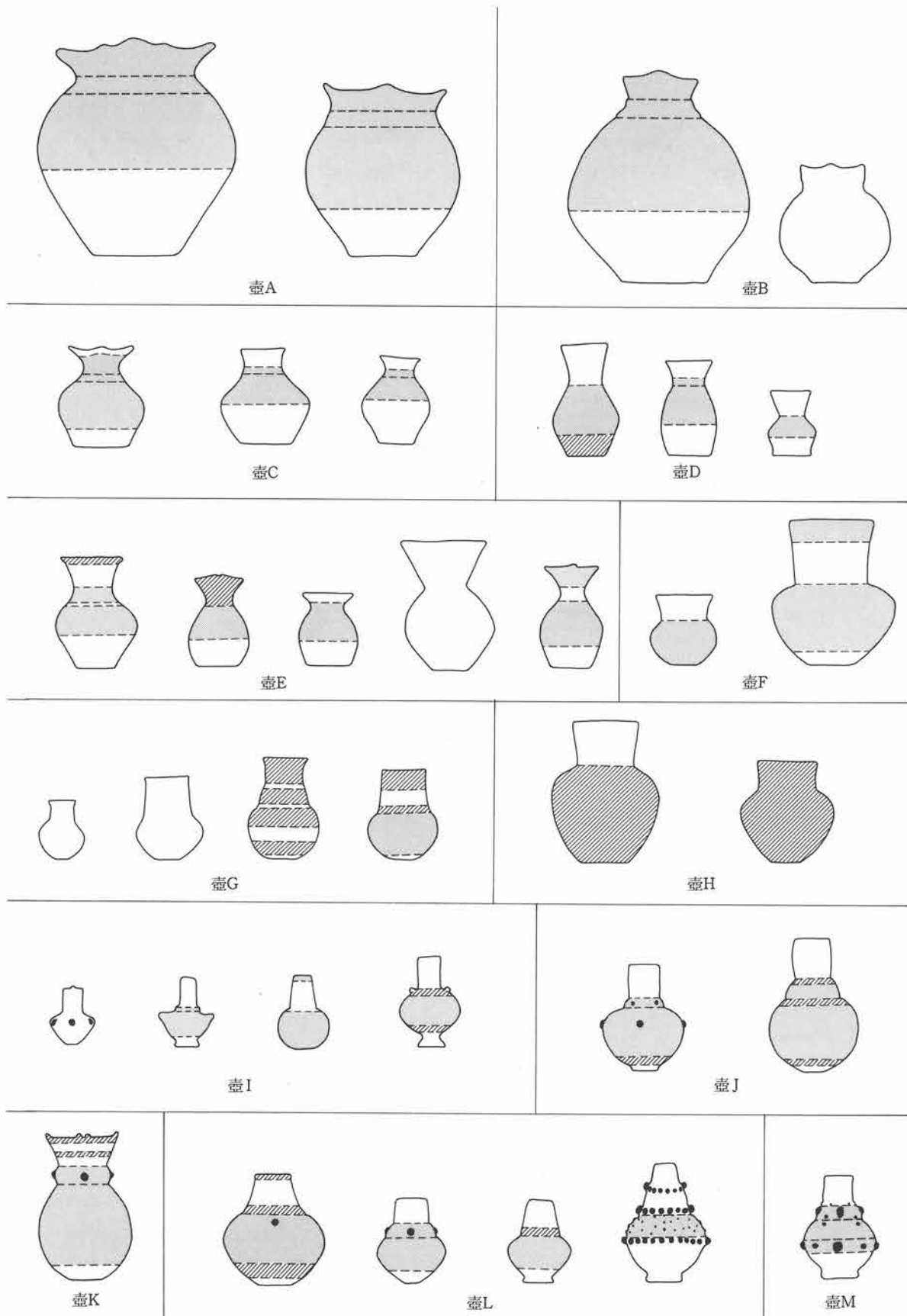
第127図 深鉢器形分類図2



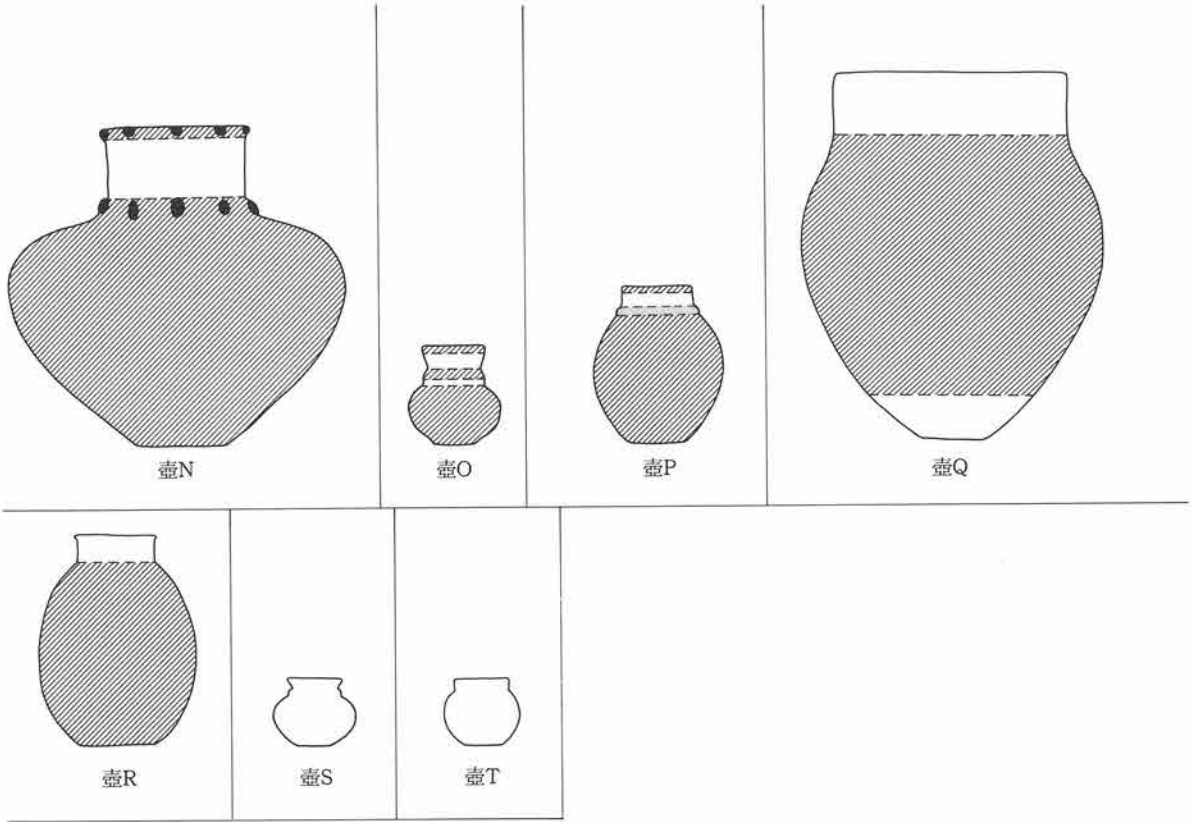
第128図 深鉢器形分類図 3



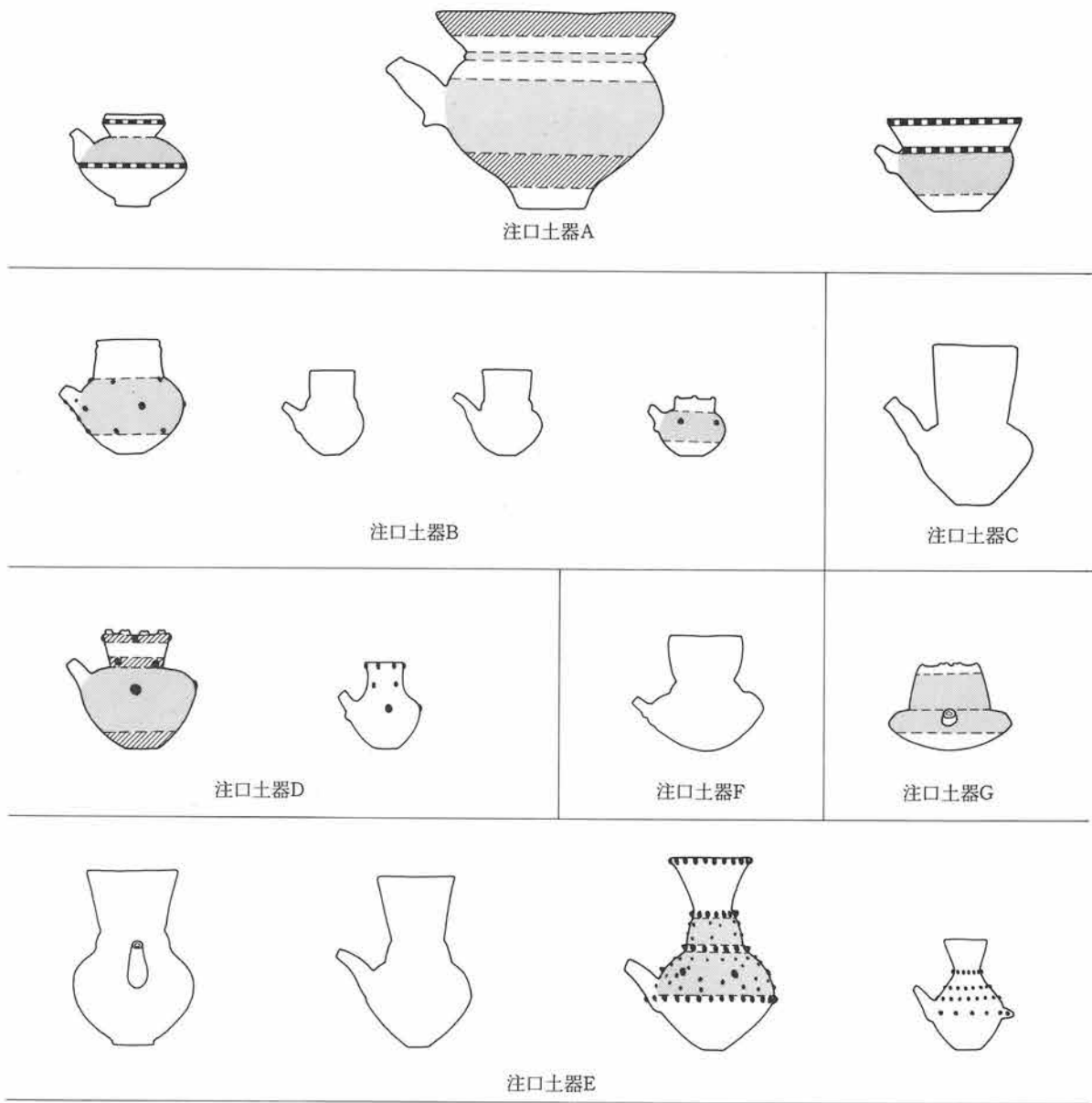
第129図 鉢器形分類図



第130图 壺器形分類图 1



第131图 壺器形分類图 2



第132图 注口土器器形分類図

2 土製品

本稿においては、当時の人間が粘土で製作したものの中で、土器を除くものを土製品と定義した。現在の物との比較から製品と呼称されるものと、なにかしらの要因で偶然できあがった可能性のあるもの、用途が不明で名称の付け難いものなど様々である。また、本稿においては、土器の小形模造品の可能性があると思われるミニチュア土器も土製品類に含めた。

器種構成は、ミニチュア土器、土偶、動物形土製品、土製装身具、鐸形土製品、分銅形土製品、土鈴、きのこ形土製品、スタンプ形土製品、内面渦状土製品（イモ貝形土製品）、スプーン形土製品、釧形土製品、土錘、土器片再利用土製品（円盤状土製品・三角形土製品）、用途不明土製品に区分した。

土製品はミニチュア土器及び性格不明の粘土塊を含め総数で2324点出土し、その内748点を掲載する。

掲載基準は、特出して点数の多い種類ものはセレクトを行い代表的なものの掲載に留めたが、点数の少ないものについては原形が良く掴めない残存率の悪いものを除き全て掲載遺物として抽出している。基本的に1/2スケールで掲載を行った。

土製品の中で、ある程度まとまった点数が出土している鐸形土製品と土器片再利用土製品については、『大石平遺跡Ⅲ報告書』（1986年 青森県教育委員会）中で行っている分類を参照し、同様の試みを行った。

（1）ミニチュア土器

673点出土し、143点を掲載する。ミニチュア土器は、袖珍土器あるいは手捏ね土器などと称されている小形の土器群で、普通サイズの土器を模倣したと思われる作りであるが、煤などの付着がないことから日用品（煮沸具など）とは捉え難い。分類する上で土器類に位置付けるか土製品類に含めるか問題のある遺物であるが、本稿では土製品として掲載することとする。また、土器類の中にも大きさにミニチュア土器と思われるものもあるが、基本的には全長7cm以下のもので、普通サイズの土器を模倣したと判断されるものをミニチュア土器とした。追記として、全長7cm以下と言う値については、本遺跡出土の完形土器を全て観察した結果から筆者が分類基準に採用した数値であるが、特別な根拠のある数値ではないことをお断りしておく。

出土地点は、遺構内出土18点、東部捨て場396点、西部捨て場250点、表採9点である。時期は全て後～晩期で、後期が圧倒的に多い。器種は鉢と壺を主体とする。

本遺跡で出土したミニチュア土器は、普通サイズの土器と同様の文様特徴やプロポーションを持つものがほとんどであり、他遺跡の資料を見ても概ね同様の特徴が窺える。

製作技法としては、手捏ねで製作されるものと粘土帯を積み上げて製作されるものの2種類あり、手捏ねで製作（成形）されるものが多い。

器種は鉢、壺、台付鉢、注口土器、浅鉢、皿などで、鉢と壺が主体である。

（2）土偶

人間の形態を模倣、もしくは抽象化して製作されたと思われる土製品である。部位同士が接合したものを1点として計算した総点数は313点で、255点を掲載した。残存率が逸脱して悪いもの、例えば何処の部位か不明な小片などは掲載とした。

土偶の各部位については、鈴木克彦氏が作成した「土偶の部位分類図」（鈴木1980年）に習い分類を行っ

た。第133図を参照載きたい。完形品での出土がなく、接合・復元作業により土偶全体の容姿を窺い知れるものとしては、2416と2442の2点のみである。頸部、胴部（腹部）、足部（脚部）などにアスファルトの付着が確認されるものも相当数見られる。

時期は全て後～晩期のもので、後期（中実）と晩期（中空）に大別され、後期に比定されるものが圧倒的に多い。出土状況としては特殊性は認められず、また土器型式との比定を掴める出土状態ではない。大略としての時期的な位置付けは第486～494図の集成図に示したが、細部の検討は行っていない。

後期中実土偶において、頭部と頸部が接合するものは、全般に顔がやや上向き状態であるものが多い。全体の傾向としては胴長短足が主体で、足は内側方向にカーブするものが多い。例外として2392などの足は、直線的に外側方向に若干開く。足部の膝頭や足首を表現した物も見られる（後期の中でも後半期と思われる）。

以下に代表的なものを取り上げ文章記載するが、個々の内容は観察表を参照載きたい。

2416は全長約29.8cm、幅14.8cm、厚さ4.7cmの大形の土偶で、左足の一部分を除きほぼ完全な姿をとどめている。結髪が2つ（兎の耳状）付き、耳と後頭部に貫通孔がある。胴部（腹部分）は、一度切断した後、アスファルトで補修したものである。2465の破損の状態を見ると、意図的に壊されている可能性が窺える。2486などのように腹部が膨らんだ妊婦を表現したと思われる土偶もある。2401や2329に代表される頸が元々存在しないと思われる土偶（頸なし土偶）も数点見られる。2402は胡座あるいは蹲踞的なポーズをとるものと思われる（他遺跡の事例には子供を抱く姿を描写した例などもあるため、安易な推測は謹むべきかもしれないが、「考える人」的な描写である可能性もあろう）。後期初頭期と思われる板状土偶は、869の1点のみで、全体の形状が逆三角形を呈する。後期末葉期と思われる259と312は中空土偶として登録したが、土器の口縁などに付く装飾部かあるいは特殊な器形の土器（異形土器など）の一部である可能性もある。

（3）動物形土製品

5点出土し、全て掲載する。四足動物の形態を抽象化して製作されたと判断される土製品である。猪、熊、ムササビなどの描写と推定されるが、はっきりとは判断できなかった。

（4）土製装身具

134点出土し、96点を掲載する。3種に大別した。

a 耳飾り 60点出土し、36点を掲載する。耳たぶに穴をあけて装着するタイプと捉えられる土製品である。耳栓型、輪型、滑車型に区分し、観察表に記載した。

b 飾り玉 72点出土し、58点を掲載する。形状で平玉、角玉、丸玉、子玉、管玉、勾玉、ペンダント状（ネックレス）の7種（第133図参照）に細分した。

c ペンダント 2点出土し、全て掲載する。『飾り玉』に分類したペンダントとは、とりあえず区分する。

（5）鐸形土製品

77点出土し、32点を掲載する。全体の形状が鐘や鈴に類似した中空の土製品である。

これまでに本製品を扱った報告書類を参照すると、付けられてきた名称が様々で、「鐸形土製品」のほかに「鐸形状土製品」、「鈴形土製品」、「土製垂飾」などがある（註1）。本稿においては今日一般的に使われている「鐸形土製品」と言う名称を用いる。

本遺跡の出土状況では、土器型式との共伴関係が捉えられなかったが、事例などから推定すれば縄文時代後期前葉の可能性が高い。

大きさは4 cm前後のものが多く、沈線による渦巻き文様や弧線状文が主要文様である。文様のモチーフは、十腰内Ⅰ式に施文されるものに類似する。本製品については、『大石平遺跡Ⅲ報告書』に習い、上部にある突起（『大石平遺跡Ⅲ報告書』中では「鈕」という名称で呼んでいる。本稿では土器など他の遺物の突起と混在しないよう以後「摘まみ」の名称で記述する）の貫通孔の穿つ方向の違いでA～D類に区分した。なお、本遺跡にはD類は確認されていない。

A類 開口面と平行で、摘まみの短軸方向に平行に穿孔するもの

B類 開口面と平行で、摘まみの長軸方向に平行に穿孔するもの

C類 開口面と平行で、摘まみが円形であるため、A・Bの区分のつかない方向で穿孔するもの

D類 開口面と垂直で、摘まみ上面から中空部に向かって垂直に穿孔するもの

（6）分銅形土製品

13点出土し、12点を掲載する。細部をみるとバラエティーに富み、特に先端の摘まみには丸みを帯びるもの、リング状、二股状がある。全般に縄文の施文が見られる。2682は摘まみ部にアスファルトが付着する。全般に胎土が良く、特に2677は光沢が強い。

（7）土鈴

1点出土し、掲載した。本遺跡からは、1点の出土であり、他の土製品の出土点数と比較しても稀な一品であると言える。

（8）キノコ形土製品

茸を模したと思われる、実物に限りなく近い形状を呈する土製品である。19点出土し、残存部が傘の部分1/3程のもの1点を除いた18点を掲載する。全て東西の捨て場からの出土である。所属時期の特定や用途推定になり得る出土状態ではない。

キノコ形土製品についての最近の研究としては、工藤伸一・鈴木克彦両氏が『青森県文化財調査センター研究紀要第3号』に発表した論文がある。同論文を参照すると、キノコ形土製品は十腰内Ⅰ式に伴うことが多く、最大の時間幅を考慮しても中期末葉から後期前葉に存在し、若干の類例が平安時代の遺跡からも出土しているようである。本遺跡からも十腰内Ⅰ式に比定される土器は、相当量出土していることから、時期的には矛盾はない。用途については同論文を参照すると、「貴重な体験から食用と判明した茸を模倣し、人々が茸を採取する際などの指針としたのではないだろうか」と結語されている。

本稿においては、スタンプ形土製品と区分したが、類似する遺物であり、比較検討は行っていないが共通する属性が存在する可能性がある。

（9）スタンプ形土製品

3点出土し、全て掲載する。印面？にあたる部分が平坦で、沈線による文様施文が見られる。2702はキノコ形を呈し、数条の沈線が渦巻き状に巡る。2703は平面形が斧状を呈し、沈線による右巻きの渦巻き文様が施文される。渦巻きの文様は一見すると内面渦状土製品（イモ貝形土製品）に類似する。2704は茎の直線的

なキノコ形状を呈し、沈線による花卉状文様が描かれ、中央に円形の刺突文が施される。

(10) 内面渦状土製品（イモ貝形土製品）

出土地は全て東部捨て場からで、8点出土した。直径6～7cm前後で内面が螺旋状の構造を持つ。イモ貝を輪切りにした状態に似ていることから、イモ貝形土製品（註2）とも呼ばれる。全て東部捨て場からの出土で、本遺跡からは石製のものは確認されていない。本遺跡から出土したものは、内面の螺旋状を呈する渦の方向が、右回りのものだけである。ただし、渦の方向が左回りを呈する出土例が、確認された遺跡もある。完全な完形品での出土はないが、2705と2709はほぼ完形の状態で出土した。その他は接合によりある程度まで復元された欠損品である。外面調整はやや粗く、内面調整は比較的丹念である。

本製品の所属時期については、晩期前半に伴う可能性が高いことは指摘される場所であるが、本遺跡の出土状況からは土器型式との対比が難しい。県内の事例としては「蒔前遺跡」（一戸町）、「山井遺跡」（一戸町）、「大芦Ⅰ遺跡」（久慈市）などから出土している。

名称については、イモ貝を模しているのかどうか賛否両論あり、近年三内丸山遺跡（青森県）から出土した前期の土製品の中にもイモ貝を模した可能性がある土製品があるなど、本製品が「イモ貝形土製品」の名称を独占してよいのか問題がある土製品と言える（註3）。

(11) スプーン形土製品

10点出土し、全て掲載する。スプーン若しくは匙に似た土製品で、小形の皿ないし椀に柄が付いたような形態を呈する。

837は完形品でD13土坑3号から出土した。全長14.9cm、皿の長さ9.3cm、幅5.3cm、高さ3.2cmである。全体にかすかにミガキが施され、文様は皿部分にはなく、柄の先端と付け根部分に隆帯が巡り、先端の上側と付け根部分の下側に三角形の窪みが付けられる。時期は明確ではないが、調整の具合などから晩期と推定する。

(12) 釧形土製品

7点出土し、全て掲載する。土製装身具と捉えられる環状の土製品である。完形品1点、ほぼ完形品1点で、その他5点は欠損品である。2726は、片面（表？）に浅い沈線が連続して引かれ、内外面とも丁寧なミガキを施し、片面（裏？）には所々に指頭圧痕が見られる。穿孔途中と思われる円形の凹が1箇所確認される。当初は2個1セットで身につける腕輪と推定していたが、本遺跡で出土している製品の輪の大きさでは、手首のかなり細い女性でも身につけることができない。耳飾りであろうか。

(13) 土錘

12点出土し、10点を掲載する。漁網の錘に用いられたと推定される土製品である。楕円形や長楕円形を呈し、紐を懸ける溝や孔が施される。

(14) 土器片再利用土製品

土器の破片を利用し、その周囲を打ち欠いたり、擦るなどの加工を施しているものである。835点出土し、128点を掲載する。本稿では全体の形状で、円形を呈するものを「円盤状土製品」に、三角形を呈するものを「三角形土製品」という名称を用いることとする。なお、厳密には2種以外の形状を呈するものも若干

数見られるが、それらについては観察表中にて記載している。

ア 円盤状土製品 612点出土し、89点を掲載する。

イ 三角形土製品 223点出土し、39点を掲載する。

円盤状土製品と三角形土製品は、無文、沈線文、縄文、沈線+磨消・充填縄文の4種が見られる。

(15) その他土製品

34点出土し、23点を掲載する。人面文様や動植物意匠と思われる形状のものなども散見される。細分すると、手作り（人為的作用が加えられているもの）1点、長楕円形1点、土版2点、冠状（腕飾）？1点、角状1点、三角状1点、棒状1点、くり形1点、くるみ形2点、貝形1点、皿状4点、不明器種（見当がつかないもの）4点の12種に区部した。腕飾として考えられるのが、D19住居跡から出土した用途不明の土製品826である。児玉大成氏が『北方の考古学』の中で「玉象嵌土製品」と呼び集成を行った製品と同類のものである。側面から見た形状が、弓状を呈するもので、紐などを巻き付けて腕に装着した腕飾の用途が推測される。朱の塗布が局所的に確認できるが、おそらく当時は全面に塗布されていたと推定される。

(16) 粘土塊

179点出土した。成形されていない直径5cmほどの粘土の塊で、性格・用途等は不明である。実測は行っていない。10点を写真掲載した。

<註>

(註1) 遠藤政夫ほか(1986年)『大石平遺跡Ⅲ報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第103集 青森県教育委員会

(註2) 外形がさといもに類似するところからイモ貝と命名された貝で、イモ貝形製品全般を扱った論文としては、福田友之氏の「津軽海峡域と南海産貝類—津軽海峡域におけるイモガイ形製品をめぐる—」で詳細な分析をしている。また、芋貝の記述については、『貝』(1996年波部忠重、小管貞男)が詳しい。下記に引用する。「イモガイ科(芋貝)の日本産は120種で、普通は、殻はら塔が低く、体層は大きく、下端でつぼまり、肩で最も幅広になる。殻口も多くはせまく長い。ふたは非常に小さく、葉状。」

(註3) イモ貝形土製品についての研究は、稲野裕氏が『史学第52巻2号』で発表した「亀ヶ岡文化における内面渦状土(石)製品とその分布」が詳しい。また、同氏は本製品に対する「イモ貝形土製品」という名称が不適切であることを『岩手考古学第10号』の中で指摘されている。

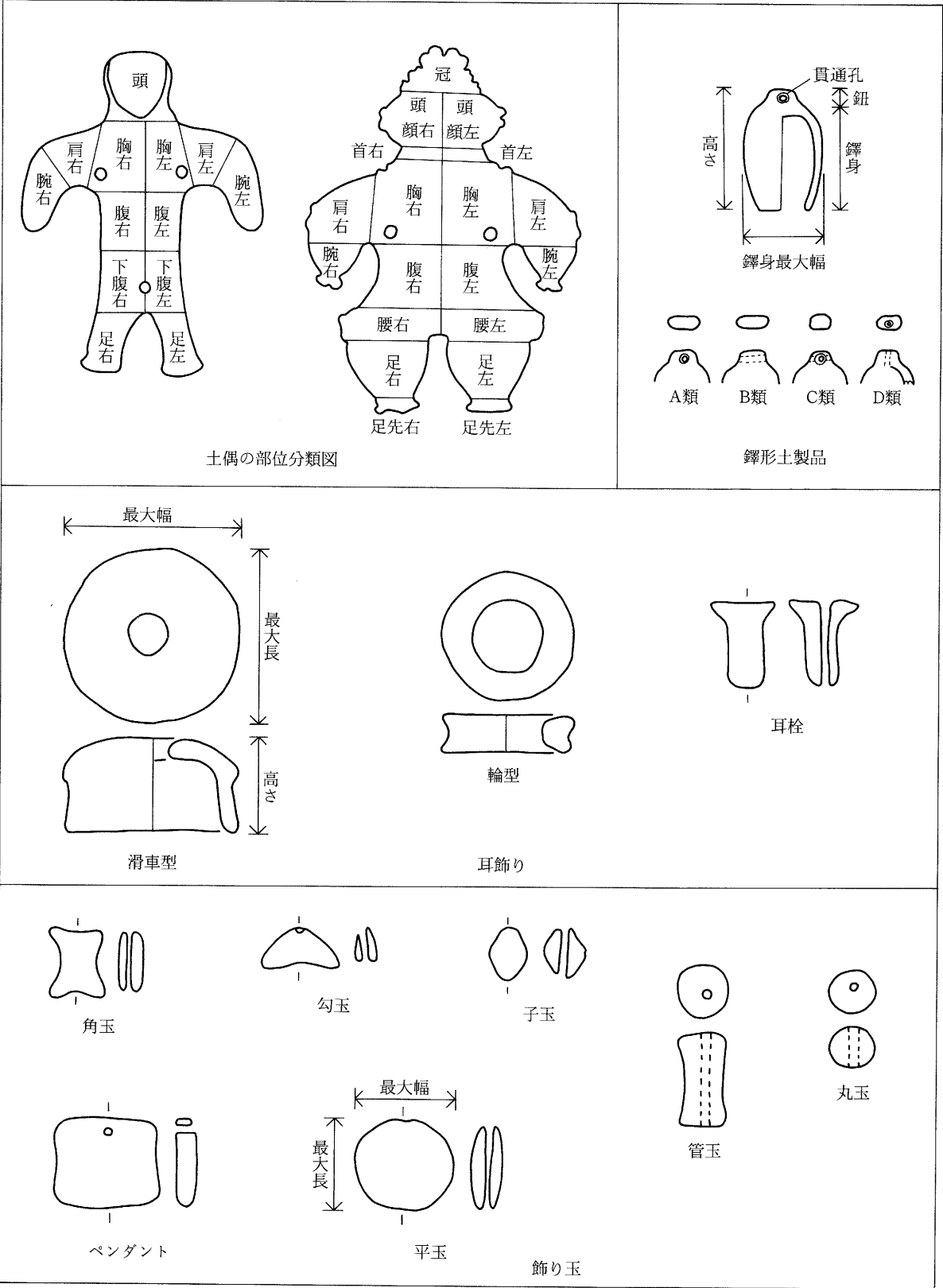
<参考引用文献>

鈴木克彦(1980年)「土偶の研究序説」『青森県郷土館調査研究年報第6号』

稲野裕氏(1982年)「亀ヶ岡文化における内面渦状土(石)製品とその分布」『史学第52巻2号』

児玉大成(1998年)「玉象嵌土製品」『北方の考古学』

福田友之氏(1998年)「津軽海峡域と南海産貝類—津軽海峡域におけるイモガイ形製品をめぐる—」『時の絆—石附喜三男先生を偲ぶ—』



第133図 土製品分類図

3 石器

石器・石製品は、チップ・フレイク類及び原石を除き5330点出土し、その内1120点（写真掲載のみが64点）を掲載する。内訳は、写真掲載のみを除き石器983点、石製品73点である。

母材の違いで剥片石器と礫石器に大別されるが、抉入石器のように一部両母材を使う器種もある。

石器と石製品の区分を行うにあたっては、その定義に多少曖昧なところもある。本稿においては直接の生産活動にかかわったと思われるものを石器とする。器種構成は以下のように行った。

石鏃、石槍・尖頭器、石錐、石匙、異形石器、ピエス・エスキュー、削搔器類、鋸歯状石器、抉入石器、コア、石斧、石鏃状、石皿、台石、凹石、磨石、敲石、砥石、石錘、円盤状石器、球状形石器、刻み入り石器

（1）剥片石器

剥片石器は、基本的に全て2/3スケールで掲載する。

石鏃 1148点出土し、235点を掲載した。第134図に示した15種に形態分類した。大きくは有茎と無茎に大別される。形態別には有茎平基2、有茎平基1、有茎尖基1、有茎凹基の順で多い。第416図を参照戴きたい。石材はチャートやチャート質粘板岩を主体とする。基部にアスファルトの付着が見られるものは、全体的には少ない。

- <有茎平基1> 全体の形状が概ね正三角形を呈する。
- <有茎平基2> 全体の形状が概ね二等辺三角形を呈する。
- <有茎平基3> 全体の形状が身巾が狭い二等辺三角形を呈する。
- <有茎平基4> 形状が石槍状を呈する。
- <有茎平基5> 形状が十字形を呈する。
- <有茎尖基1> 茎部が尖り、全体の形状が二等辺三角形を呈する。
- <有茎尖基2> 茎部が尖り、全体の形状が棒状の二等辺三角形を呈する。
- <有茎凹基> 基部が丸みを呈するもの。
- <有茎凹基> 基部に抉入のあるもの。
- <無茎平基> 基部が平坦を呈するもの。
- <無茎凹基> 基部に抉入のあるもの。
- <無茎凹基> 基部が丸みを帯びるもの。
- <尖茎尖基> 基部が尖るもの。
- <尖茎平基> 基部が直線的なもの。
- <棒状> 全体の形状が棒状を呈するもの。

石槍・尖頭器 53点出土し、38点を掲載した。形状は、三角形状、木葉形状に大別される。石材はチャートが主体である。先端部が欠損したものが多い。

石錐 300点出土し、55点を掲載した。第134図に示した8種に形態分類した。摘み付き1と棒状に分類したものが多い。錐部について、錐部の幅は0.3cm、錐部の厚さは0.2cmが平均的な規模である。身部を欠損するものが多い。石材はチャートが主体である。

- <摘み付き1> 錐部の長いもの。

〈摘み付き2〉 摘み部と錐部が不明瞭で、全体の形状が細長い二等辺三角形を呈するもの。

〈摘み付き3〉 錐部が短い小形のもの。

〈摘み付き4〉 錐部が太くて短いもの。

〈摘み付き5〉 破片の一部を錐とするもの。

〈摘み付き6〉 摘み太く、錐太く平ら

〈刺突状〉 不整な形状を呈するもの。

〈棒状〉 全体の形状が棒状を呈するもの。

石匙 248点出土し、53点を掲載した。摘み部状の小突起を持つ石器で、摘み部を上にした場合、主要な刃部が縦にくるものと横にくるものに大別される。石材はチャートが主体である。縦長1、縦長2、縦長3、縦長4、縦長5、縦長6、縦長7、横長1、横長2、横長小形、横長太い柄付きの11種類に形態分類した。第134図を参照載きたい。形態別では、横長1、縦長1、横長2の順で多い。

異形石器 13点出土し、全て掲載した。石材はチャート及び粘板岩が主体である。片面に自然面を残すものが4点確認される。927と3209は両極打法が用いられている。

楔形石器（ピエス・エスキュー） 91点出土し、19点を掲載した。石材はチャート及び粘板岩が主体である。平面形の形態は、主に四辺形状を呈する。剥離痕の連続する縁辺を上下に置いた場合、上下両端いずれも打面のような平坦部を残さないのが普通のようなものである。

素材は礫核と剥片を利用したものと2種類に細分され、剥片を使用したものが多い。製作工程としては、上下両縁辺または両尖端からはぼ平行に剥離痕が入り、両端には細かい碎屑の剥落した痕跡が連続して残され、多くは階段状剥離（ステップ・フラクチャー）を残すことから、両極打法（バイポーラーテクニック）によって作られている。ワーキングエッジ（作業縁）は両端と考えられる。

鋸歯状石器 14点出土し、全て掲載した。剥片の一部に調整が加えられているものがほとんどである。石材は粘板岩が主体である。

削器 925点出土し、174点を掲載した。石材はチャートが主体である。捨て場出土が主体ではあるが、住居跡や土坑からの出土数も相当数に上る。本遺跡に見られる削器は、剥片の形状に依存して縁辺に刃を設けるものと、刃潰し（ブランテイング）加工を施したものと、剥片の形状を変えて一定の形に仕上げているものの3つに大別される。主体は剥片の形状に依存するものであり、剥片自体を変えて一定の形態にしているものは少ない。また、小形の剥片を利用したものもあり、石鏃や石匙を製作する途上で断念した可能性のあるものや、石鏃状に仕上げたものなどもある。

搔器 54点出土し、20点を掲載した。石材はチャートが主体である。本遺跡で搔器としたものは、縦長剥片や横長剥片の端部に調整剥離を加えて急角度の刃部を作り出しているものを基本とし、剥片側縁にも同じ状況で刃部を構成しているものも含めている。

円形搔器 115点出土し、17点を掲載した。石材はチャートが主体である。基本的には円盤状を呈する石器である。剥片の周囲に調整剥離を加えて片側が山状に突き出ているものと、円盤状になるものがある。周縁については、片刃状になるものと両刃状になるものがあり、縁辺が潰れているかもしくは潰されているものがある。

挟入石器 56点出土し、4点を掲載した。石材はチャート及び粘板岩が主体である。剥片の側縁に調整剥離が施される。

石核 247点が出土している。実測図は作成していない。

(2) 礫石器

石斧類 出土している石斧は磨製石斧、あるいは磨製石斧の欠損品・未製品・敲石などへの転用品で、打製石斧と思われるものは出土していない。755点が出土し、121点を掲載した。礫片全体をベッキング整形を施した後に研磨されたと思われるものが多い。また、一部擦り切り手法が確認できるものもある。長さは8～14cm程が普通サイズのように、5cm以下のミニチュアと捉えられる製品も相当数見られる。刃部は、未加工、刃が潰れたもの、再加工したもの、再加工途中と思われるものなども見られる。ソケットに装着したと思われる痕跡を基部に確認できるものもある。

石斧の観察表中の「種別」について、以下のように略称して記述する。完形品=完、未製品=未、欠損品=欠、転用品=転、接合=接

石斧の「分類」については、横断面形態、刃部平面形態、刃部断面形態、頭部形態の属性を設定し、観察を行った。第135図を参照戴きたい。

<横断面形態> 大きくは3形態に区分される。

I 隅丸方形

II 断面形

III 円形

<刃部平面形態> 大きくは3形態に区分される。

a 台形

b 丸形を基調とする形態で、2つに大別する。

b 1 丸形

b 2 三角形状を呈する。

c 角形

<刃部断面形態> 大きくは3形態に区分される。

イ 両刃

ロ 片刃

<頭部形態> 大きくは3形態に区分される。

1 円錐形

2 台形

3 丸形

石鍬状石器 7点出土し、全て掲載した。石材は粘板岩が主体である。

石錘 396点出土し、78(39)点を掲載する。全体の形状は分銅型を呈するものが多く、短軸の両端中央部を打ち欠き製作されている。石材は硬砂岩を主体とする。礫石器の中では、磨製石斧に次ぐ出土点数である。高地に所在する本遺跡から多量に出土している点について、石錘の用途を考えた時に、はたして投網の錘などの漁労具とするには疑問が残る。

石皿 135点出土し、23点を掲載する。完形品での出土は表採から出土した3557のみで、その他は全て欠損品である。石材は砂岩、デイサイトを主体とする。

敲石 244点出土し、50(36)点を掲載する。全体の形状や大きさは様々である。石材は玄武岩、粘板岩、デイサイトなどである。断面がサッカーボールに近似した形状を呈する3565・3566・3583・3584・3587～3589などは、石斧の加工具の可能性が考えられる(ベッキング用?)。

砥石 41点出土し、9点を掲載する。断面形U字状を呈する細い溝状が複数見られるものもある。石材はデイサイトを主体とする。石材の産地は軽米町内以外の周辺市町村と同定されたものがほとんどである。

磨石 146出土し、27(24)点を掲載する。形状が円形体、楕円体、直立方体の川原石が利用されている。円形体、楕円体の石は全面が磨かれているものが多い。直立方体の石は一辺ないし数辺の角部分を利用して。凹石への兼用品あるいは転用品と思われるものも見られる。石材は安山岩、硬砂岩などである。

磨石は、石質の関係から風化の進み具合が早いため、野外調査時点で脆弱なものなどは処分した経緯があり、実際の数量とは合わないものである。

凹石 117点出土し、23点を掲載する。磨石からの転用品と思われるものが多い。石材は砂岩や安山岩が主体である。

台石 15点出土し、4点を掲載する。完形品での出土はなく、全て欠損品である。石材は硬砂岩を主体とする。

礫器 10点出土し、9点を掲載する(3650は写真掲載のみ)。前期の円筒下層式土器に伴う半円状偏平打製石器と思われるものも見られる。石材は硬砂岩を主体とする。

母岩と思われる礫 捨て場精査時に相当数の出土が確認された。おそらく、土器類や石器類と同様に廃棄されたものであろう。今回の調査では、その出土量や石材の種類を始め、それら一切の資料については記録できなかった。

4 石製品

本稿においては、実用品とは考え難いものや土製品との関連から石器として扱わないこととしたものなどを一括して、石製品に採用する。器種構成は以下のように行った。

岩偶、三角柱状石製品、石剣・石刀、石棒、円盤状石器、有孔石製品(環状石製品)、軽石製石製品、ペンダント、刻線礫、ブリッジ状石製品、その他未製品

基本的に全て、1/2スケールで掲載する。

岩偶 4点出土し、全て掲載する。石材は凝灰岩系である。

三角柱状石製品 3点出土し、全て掲載する。石材は凝灰岩及びアルコースである。

石剣・石刀 155点出土し、30点を掲載する。全て欠損品である。石材は粘板岩を主体にホルンフェルスなどが見られる。

石棒 4点出土し、3点を掲載する。石材は安山岩、流紋岩、粘板岩である。

円盤状石器 63点出土し、9点を掲載する。礫片の縁辺を打ち欠き円形状に製作されている。石材は流紋岩、砂岩、粘板岩などである。

三角形状石製品 3点出土し、全て掲載する。石材は砂岩、流紋岩、凝灰岩である。

有孔石製品(環状石製品) 6点出土し、5点を掲載する。接合して完形となったものがある。

軽石製品 131点出土し、48点を掲載する。軽石を整形して製品に仕上げたものである。形状はほぼ楕円形、方形状、卵形状、石斧状、皿状などが見られる。その中で、一端に一個の穴が穿たれているものと2個の穴が穿たれているもの、及び穴が穿たれていないものが見られる。方形状や楕円形状のものでは、擦り減って中央部が窪んでいるものなどがある。

用途について、本遺跡で出土している製品?を、浮きとするには無理があると思われる。また、首飾り、

腰飾り、耳飾りなどの装身具にするには疑問を感じる。磨石的な用途の可能性は考えられると思う。呪術具など特殊な製品なのかもしれないが、現段階では不明である。

母材の産出地は不明である。軽石製の製品は、「根井貝塚」(野田村)、「上村貝塚」(宮古市)、「山井遺跡」(一戸町)「駒板遺跡」(軽米町)、「大日向Ⅱ遺跡」(軽米町)など比較的事例は多いようである。

ペンダント(飾り) 8点出土し、全て掲載した。石材は、硬砂岩、粘板岩、流紋岩などである。

刻線礫 9点出土し、2点を掲載する。石材は粘板岩、安山岩、凝灰岩などである。

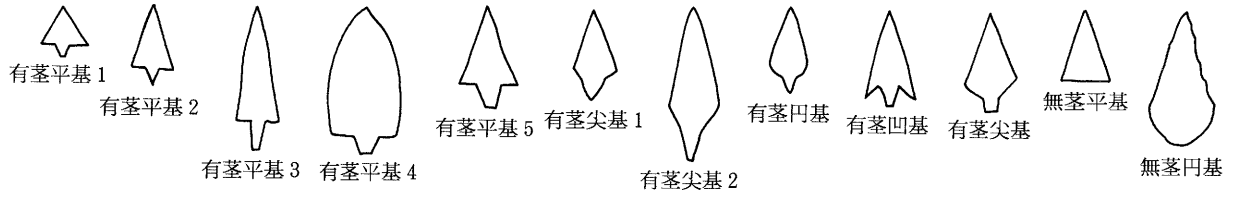
ブリッジ状石製品 1点出土し、掲載する。石材は不明である。

その他未製品 63点出土し、4点を掲載する。形状などから、その性格を窺い知れないものを一括する。

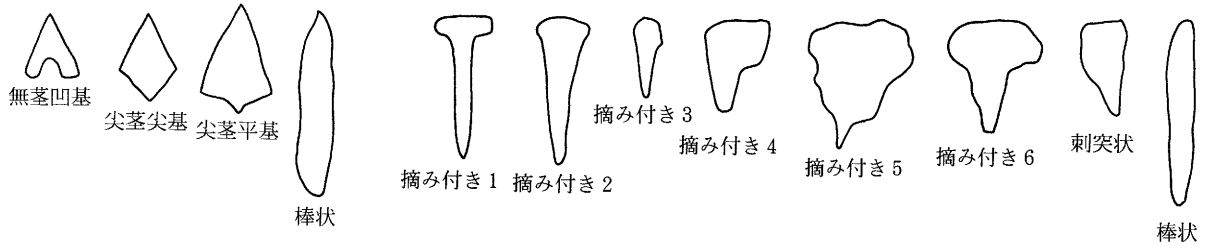
5 岩石類

水晶74点、琥珀6点、琥珀と思われる鉱物6点、黒曜石6点、珪化木25点が東西の捨て場から出土している。図化は行っていない。写真で代表的なものを掲載するに留める。

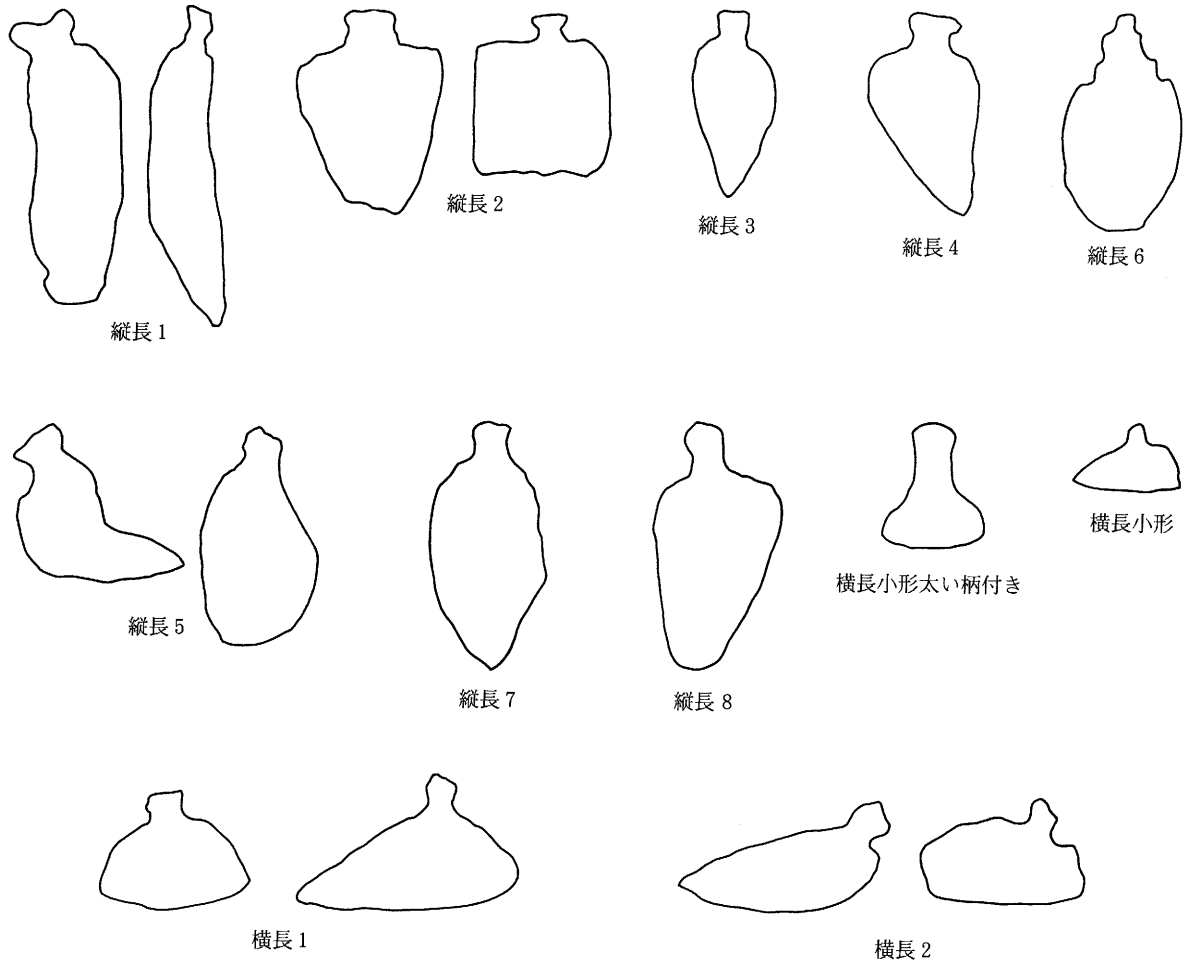
石鏃



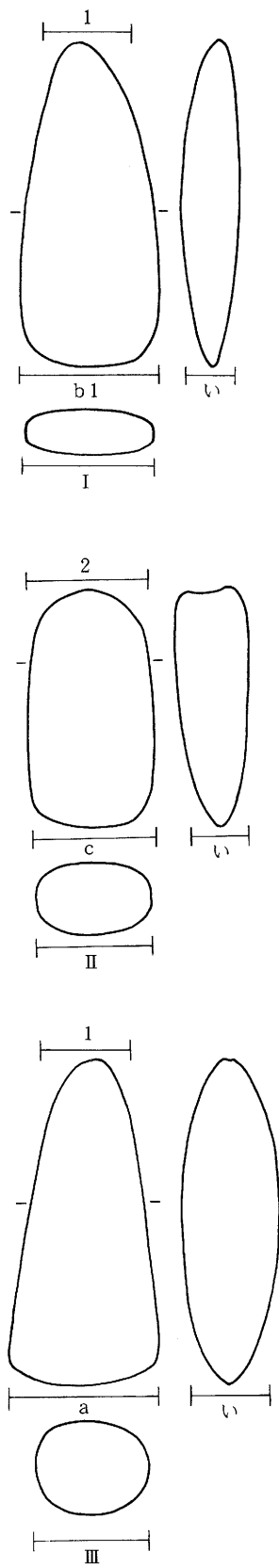
石錐



石匙



第134図 石器分類図 1 (剥片石器)



頭部形態



1 (円錐)



2 (台形)



3 (丸)

刃部平面形態



a (台形)



b1 (丸形)



b2



c (角形)

刃部断面形態

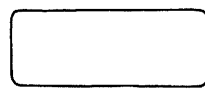


い (両刃)

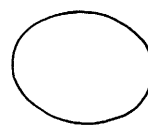


ろ (片刃)

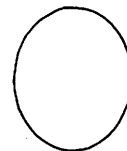
横断面形態



I (隅丸方形)

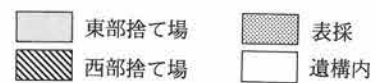
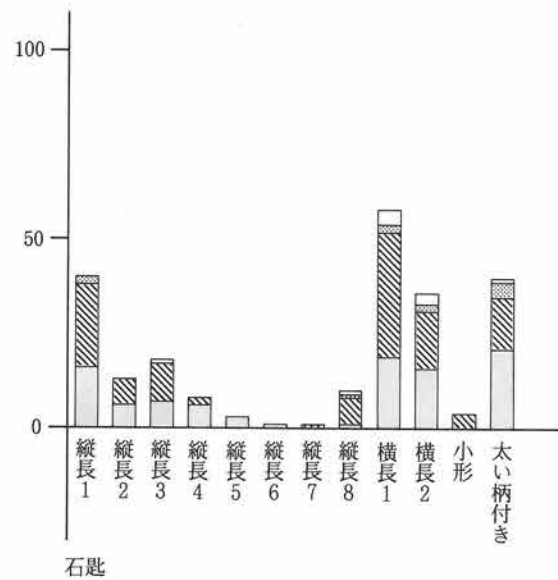
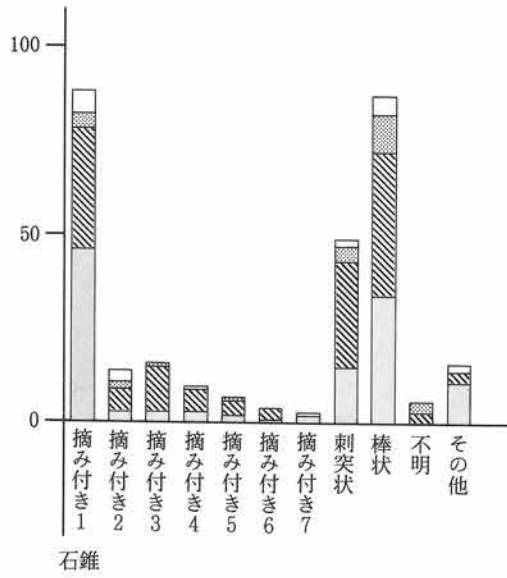
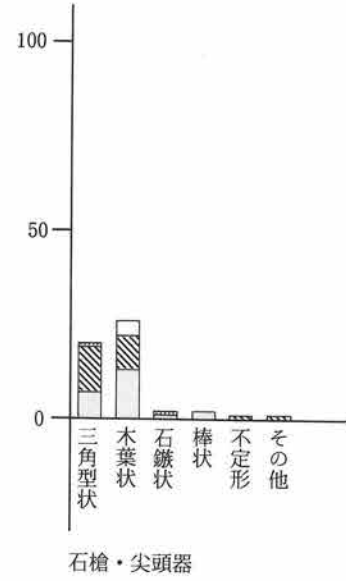
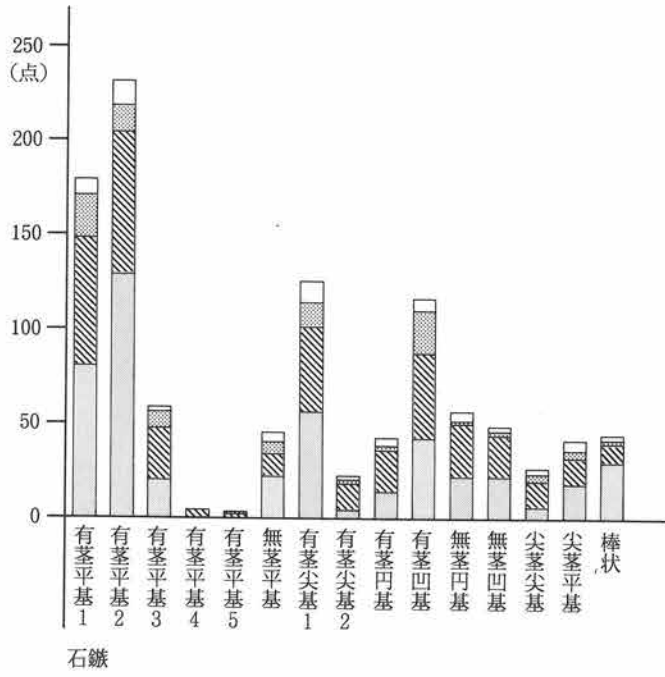


II (楕円形)

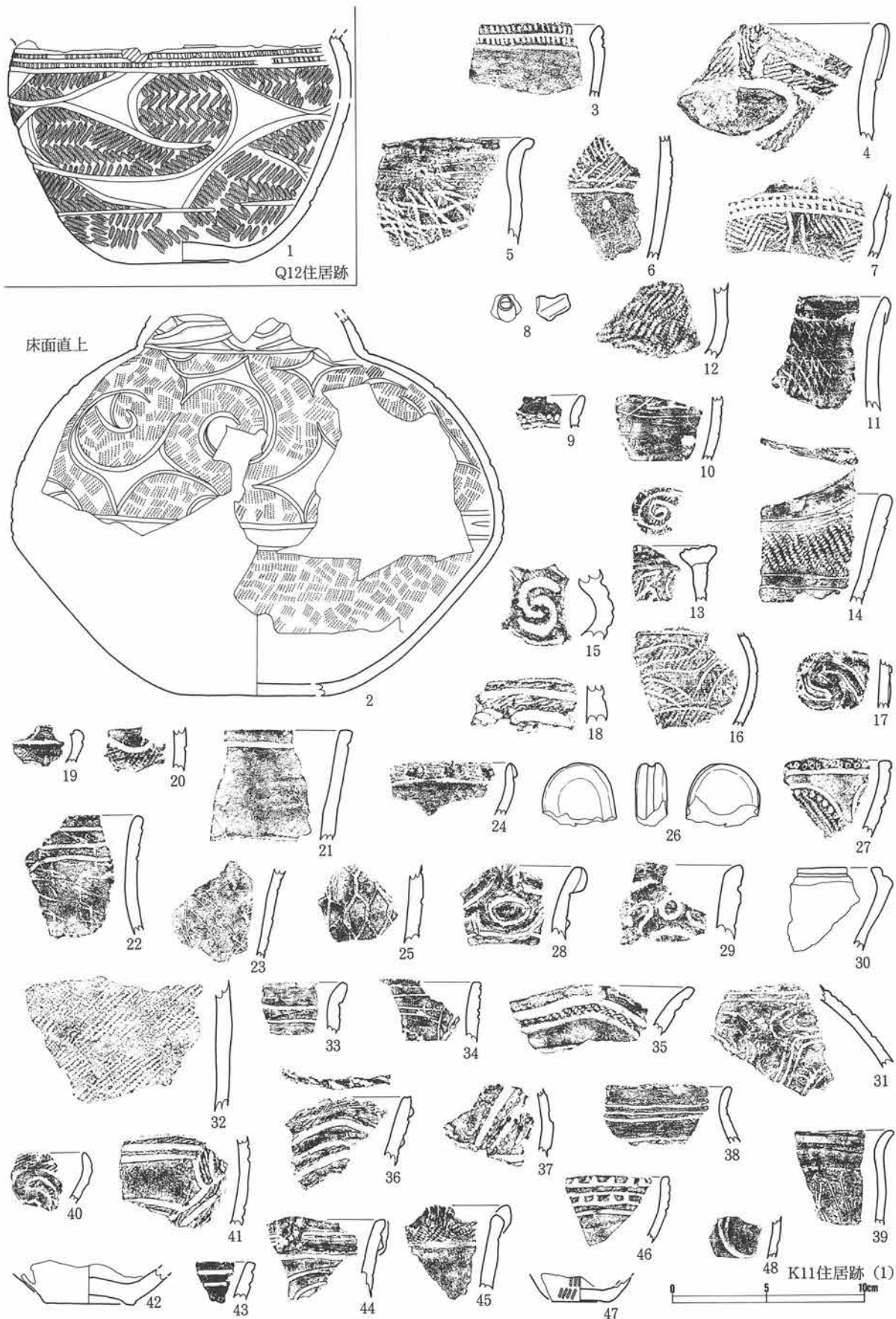


III (円形)

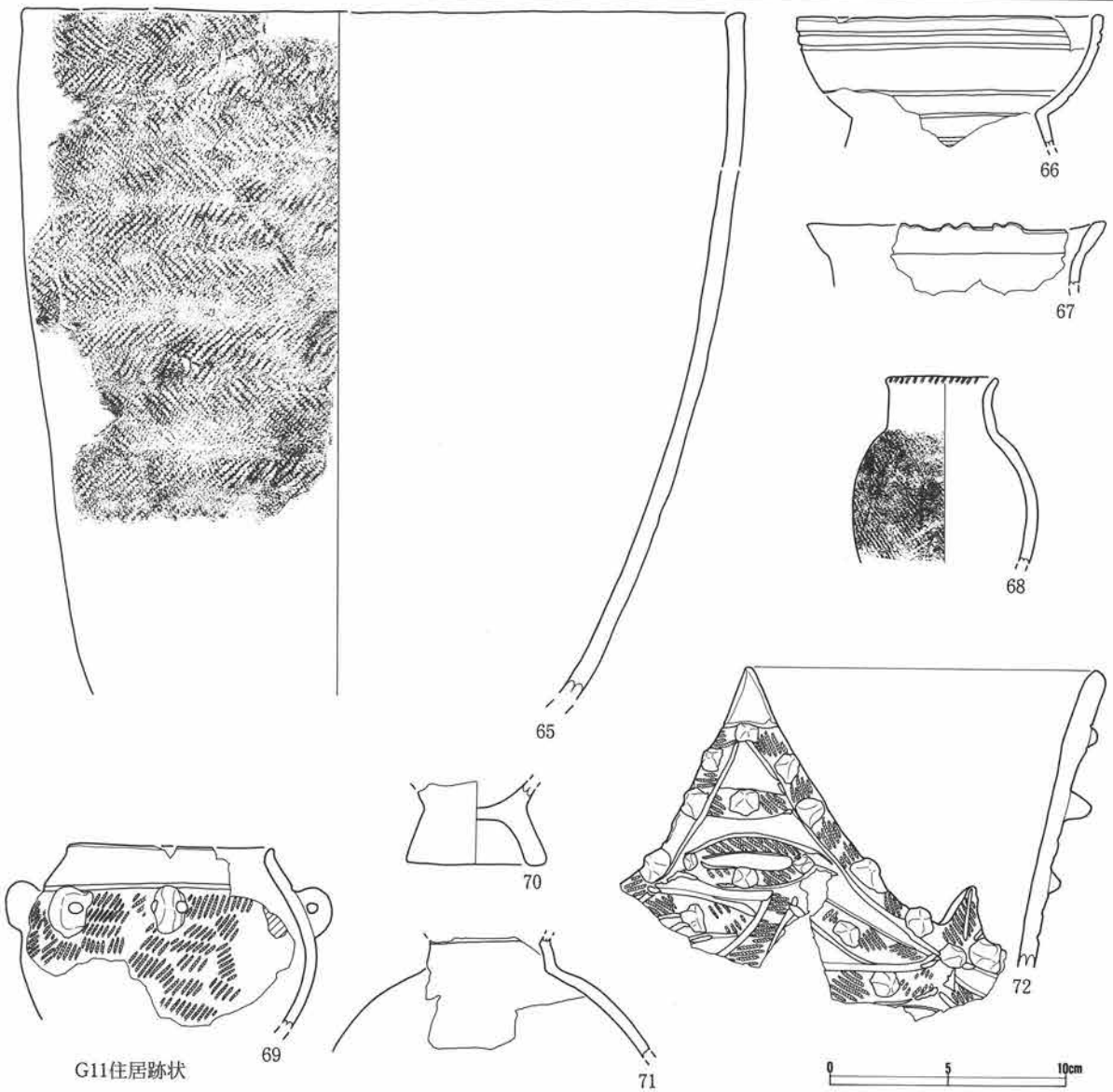
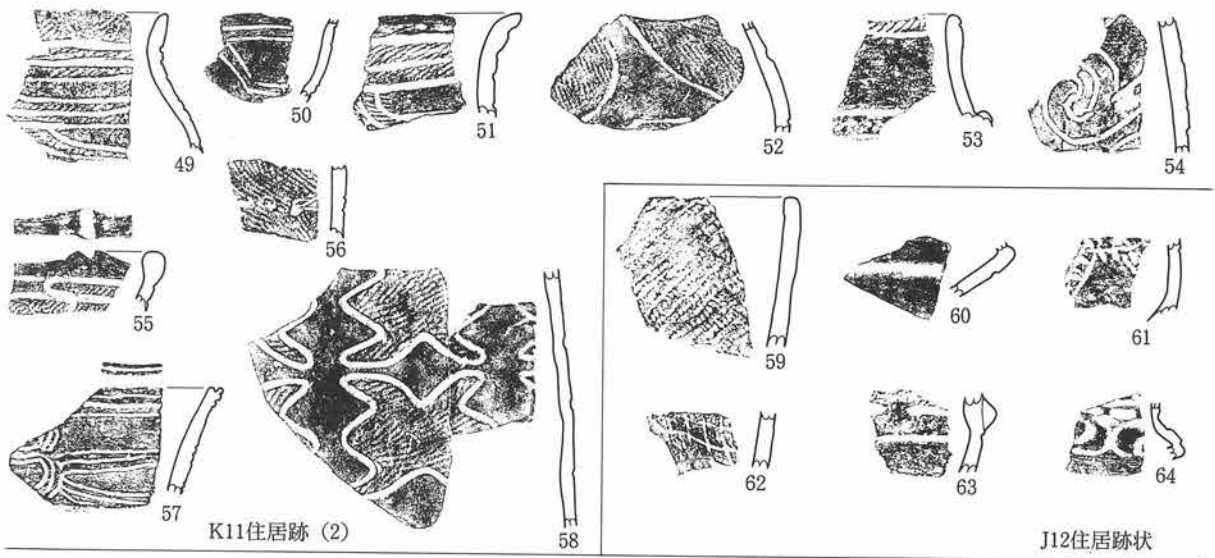
第135図 石器分類図2 (磨製石斧)



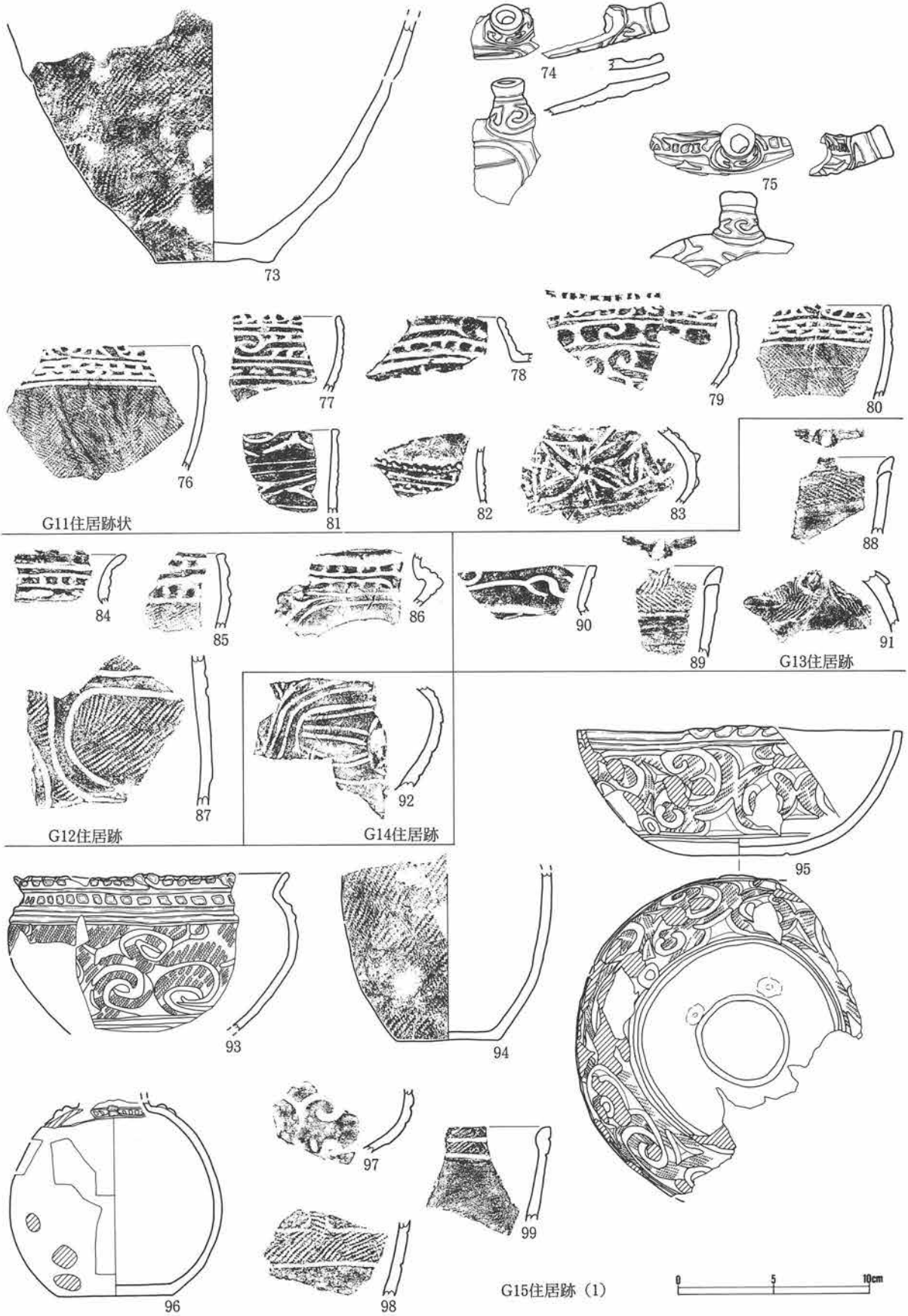
石器形態分類グラフ



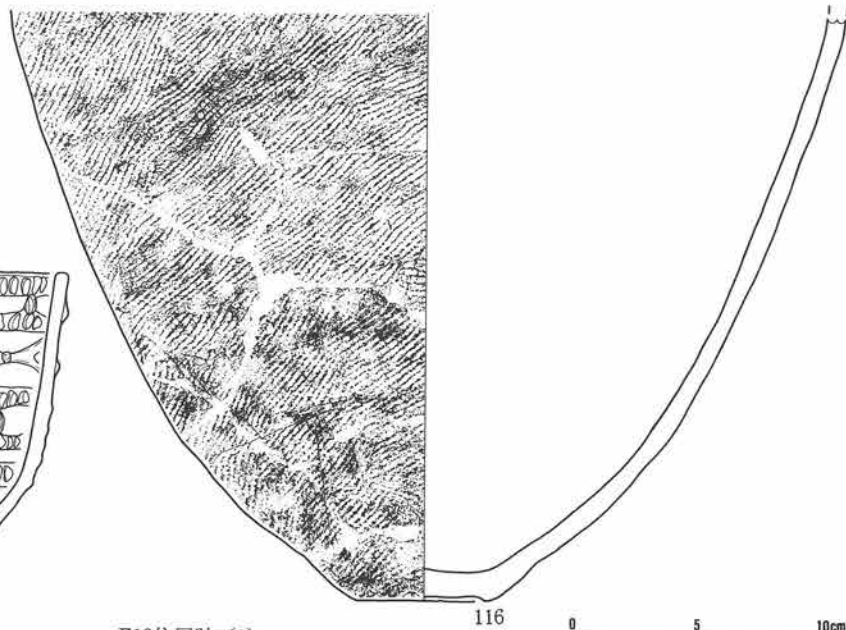
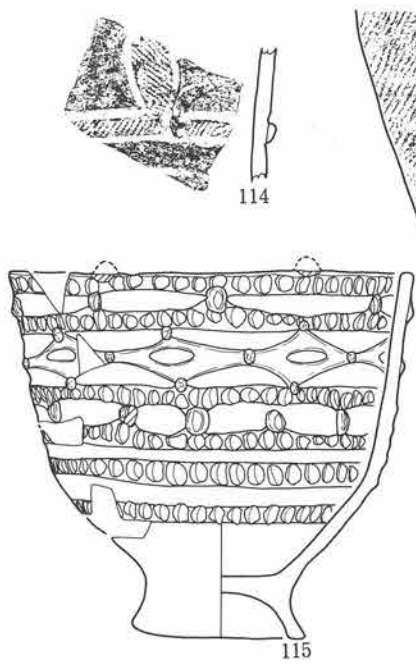
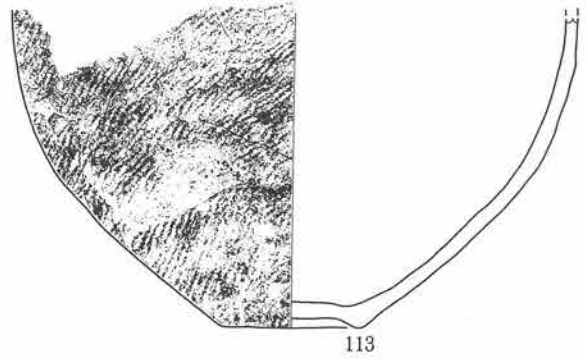
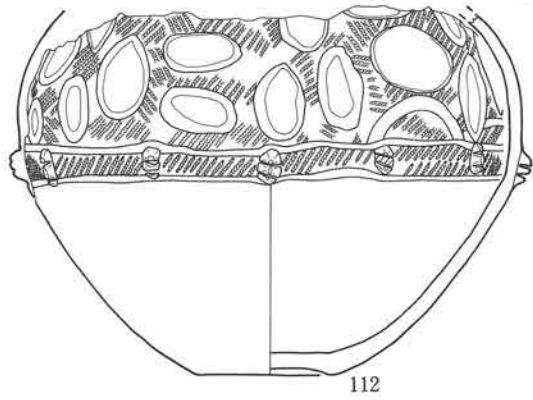
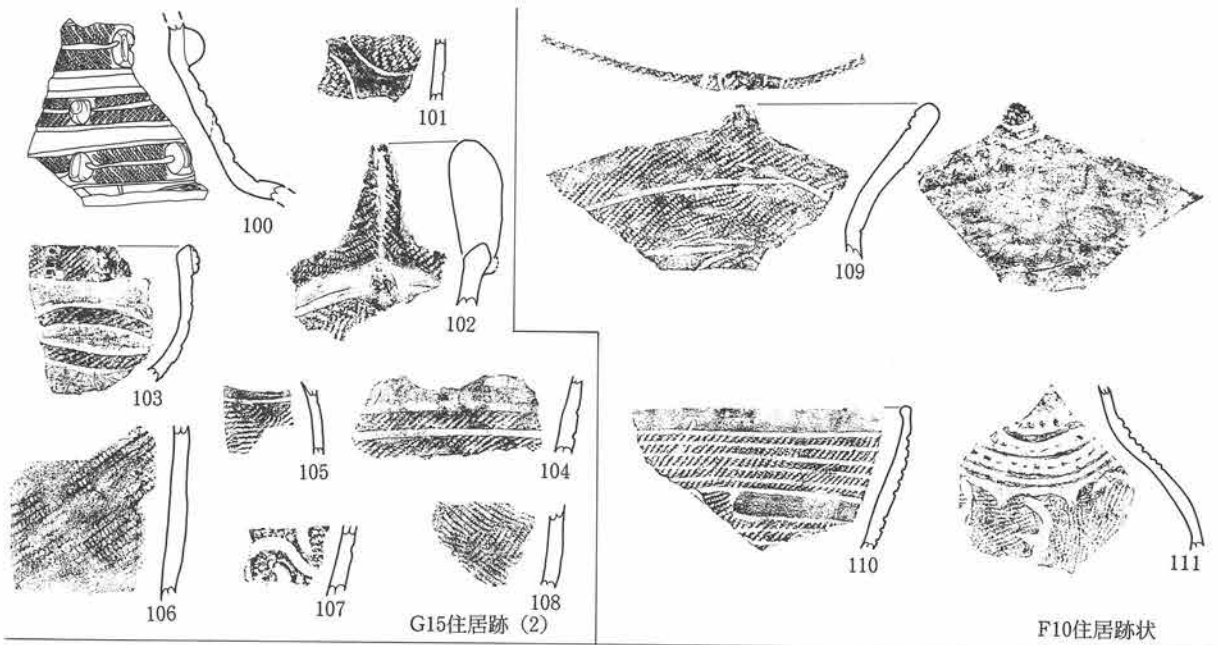
第136図 遺構内出土土器 1



第137図 遺構内出土土器 2

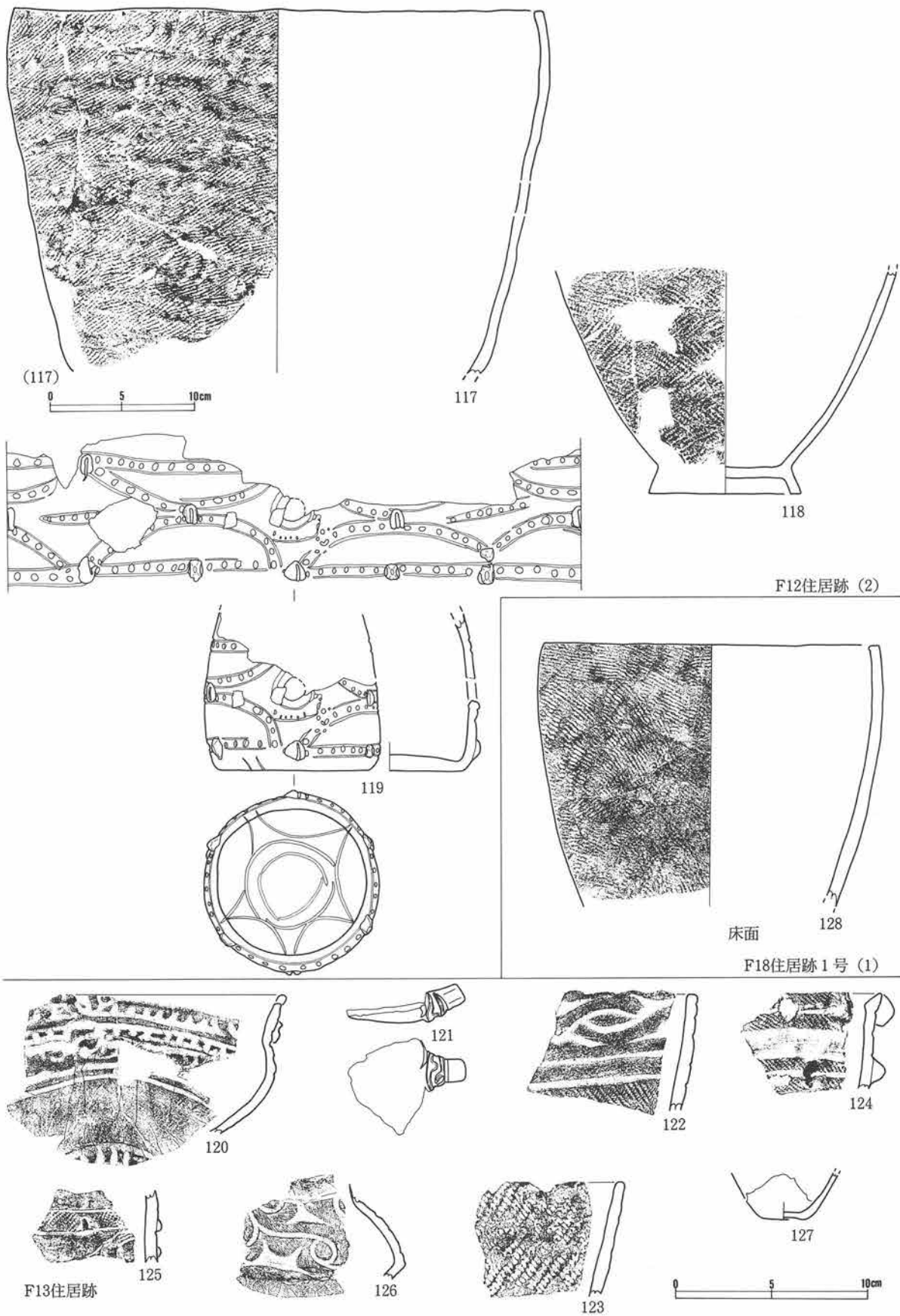


第138図 遺構内出土土器 3

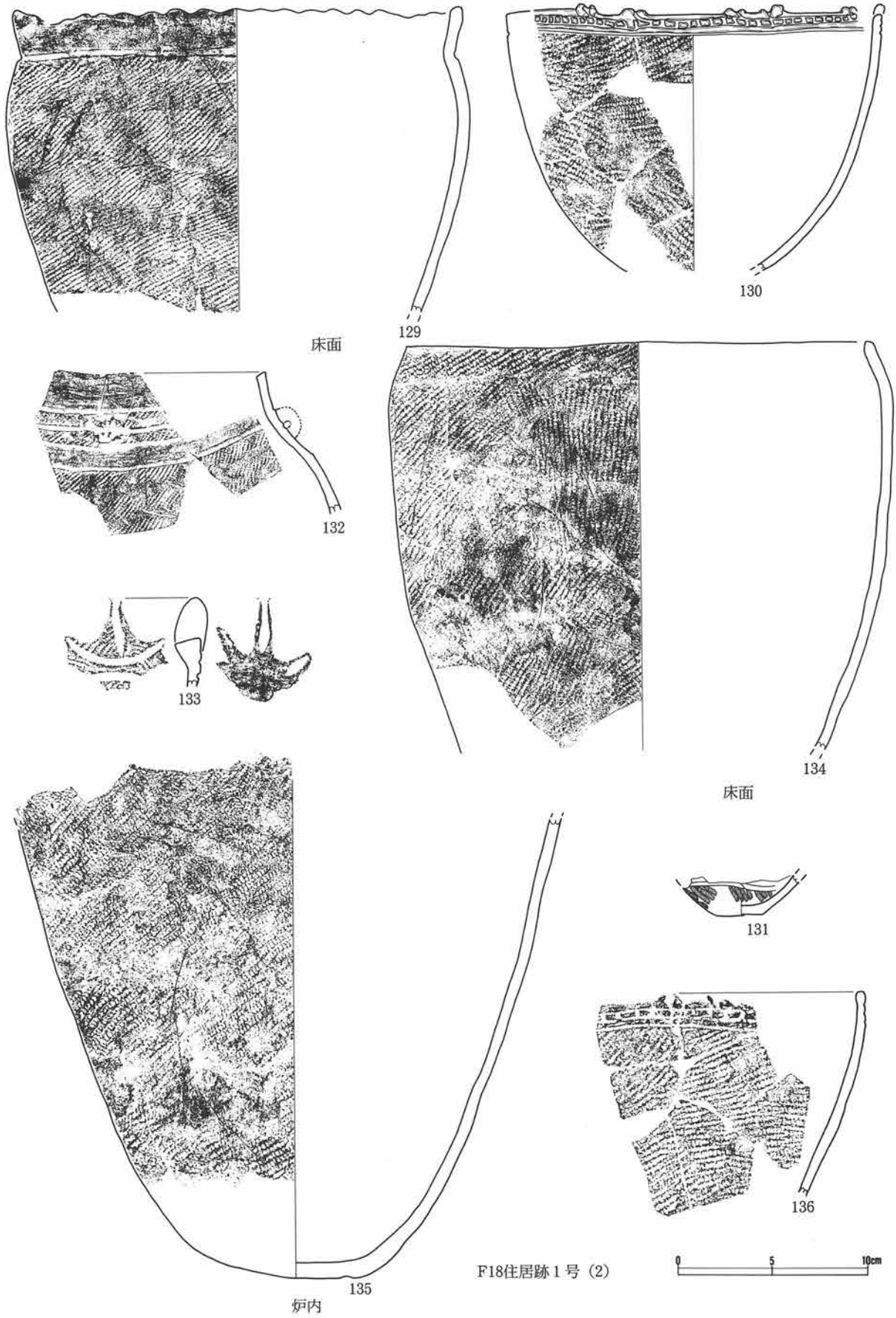


F12住居跡 (1)

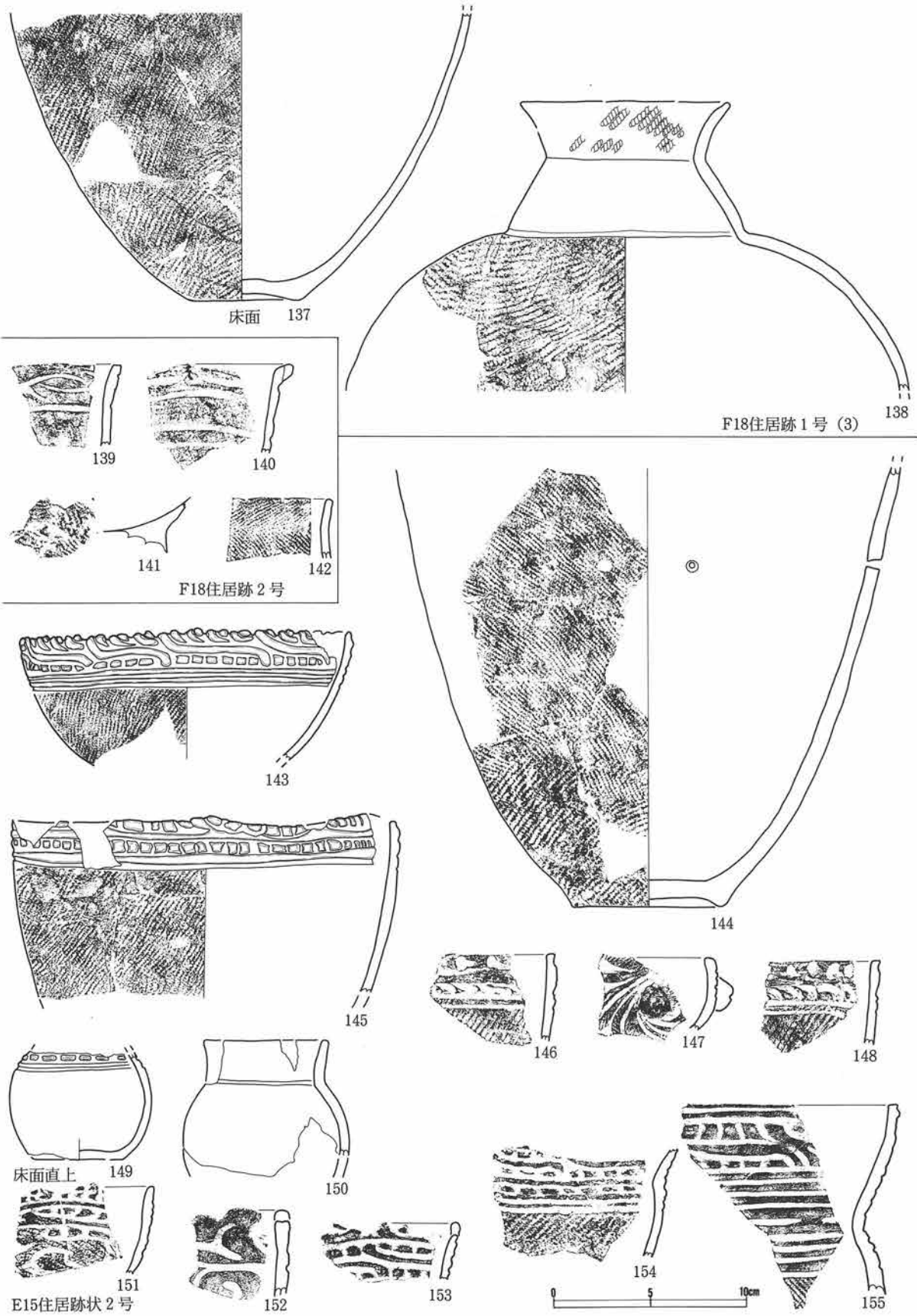
第139図 遺構内出土土器 4



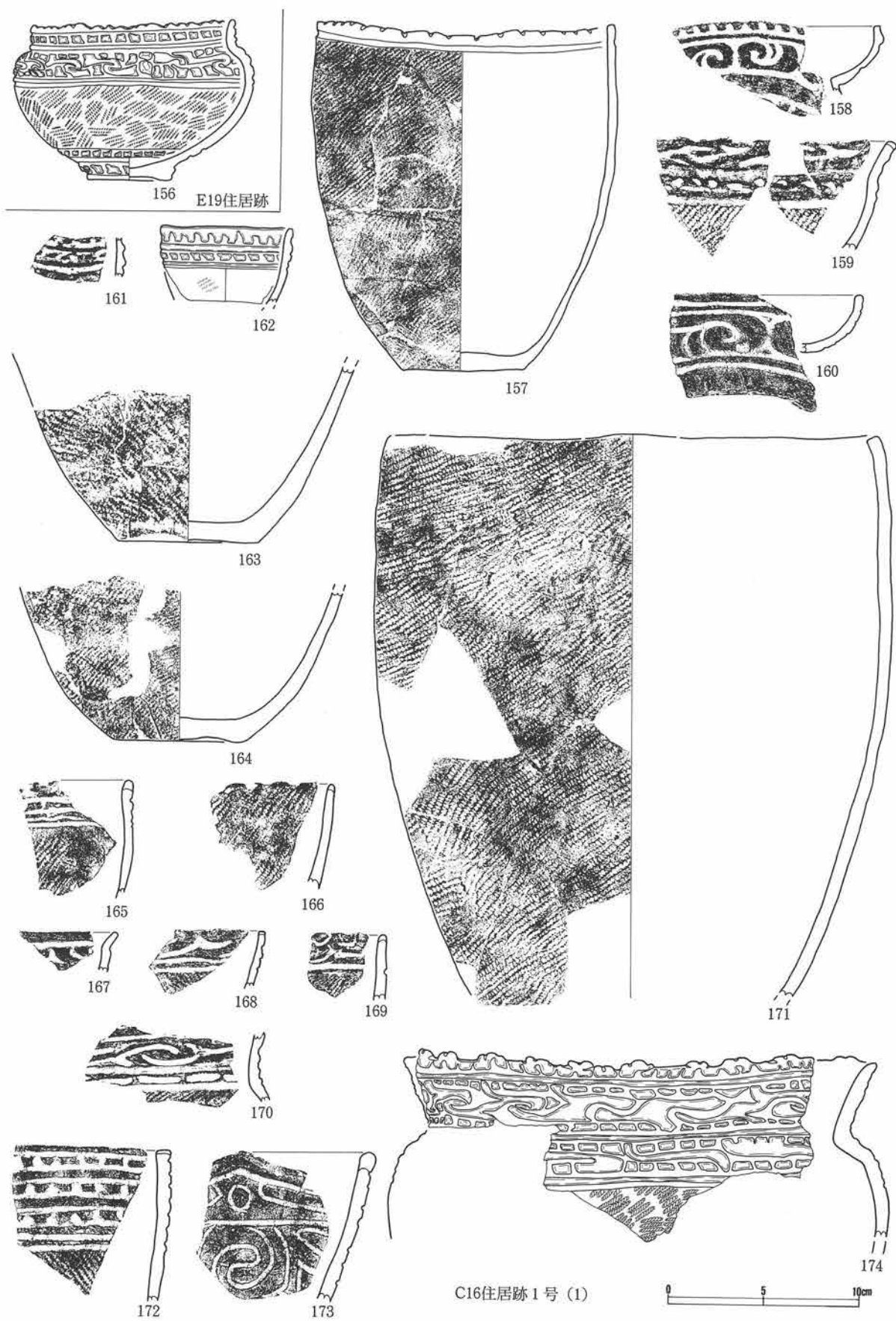
第140図 遺構内出土土器 5



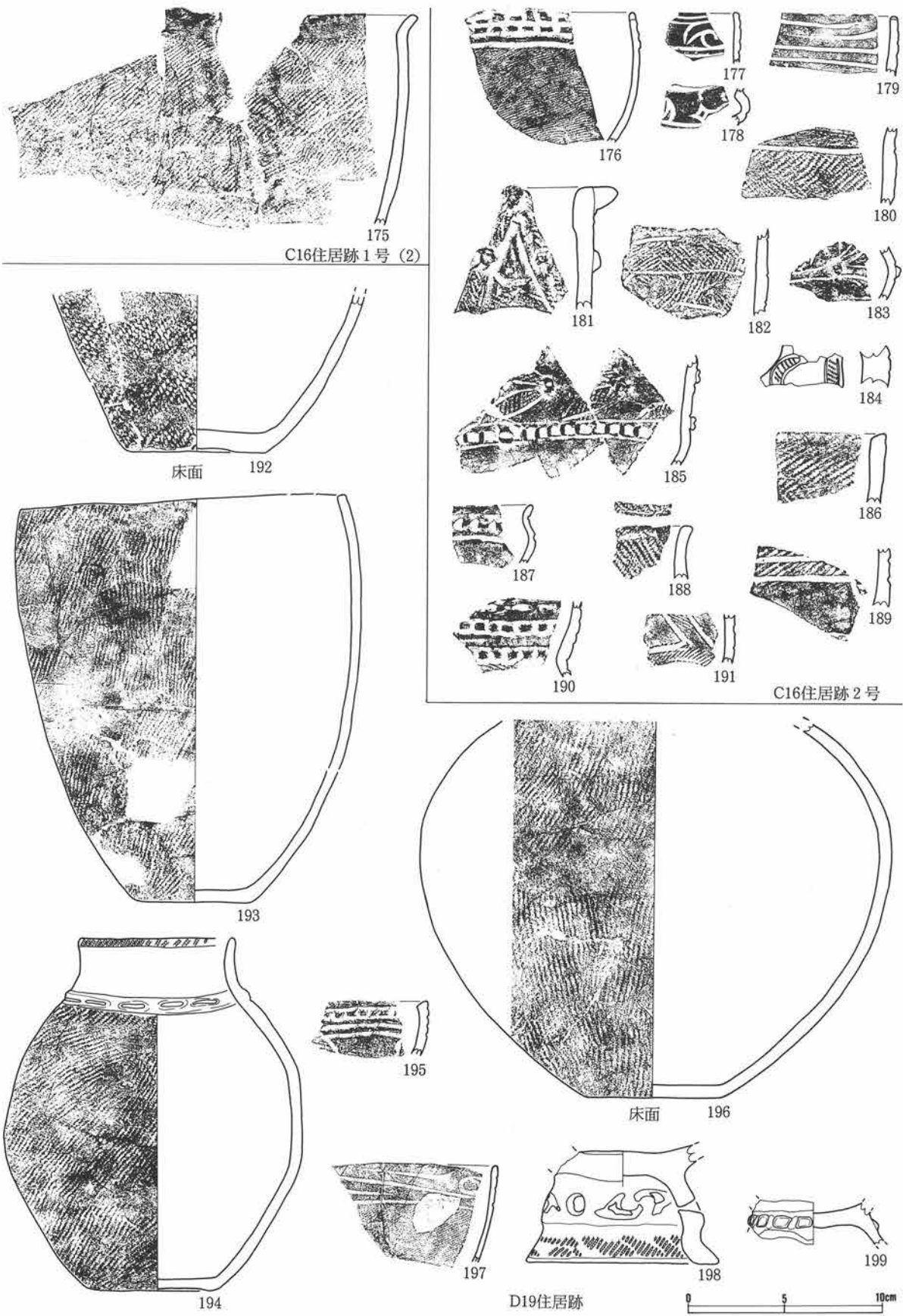
第141图 遺構内出土土器6



第142図 遺構内出土土器7



第143图 遺構内出土土器 8



C16住居跡1号(2)

床面 192

193

194

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

C16住居跡2号

床面 196

195

197

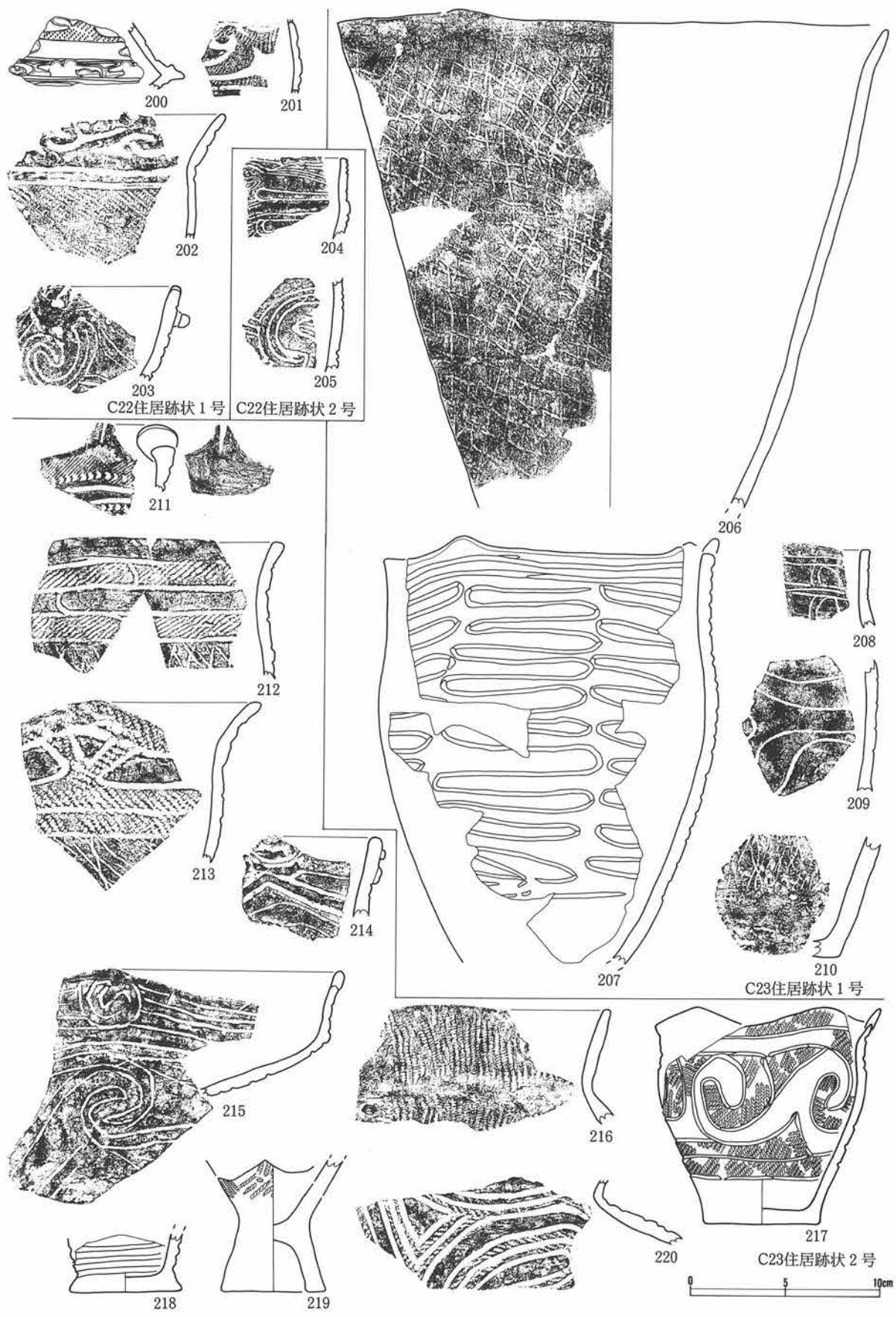
198

199

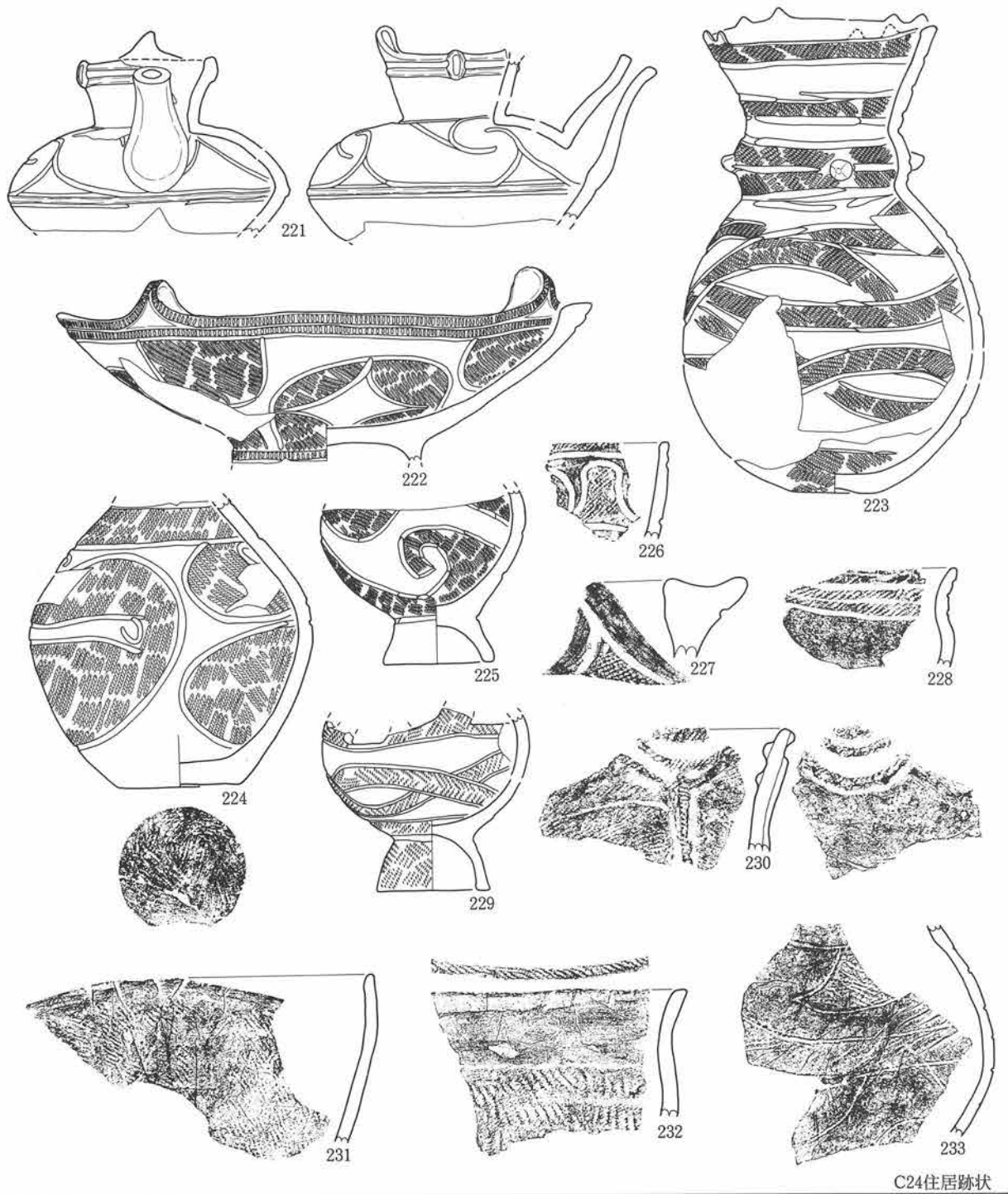
D19住居跡

0 5 10cm

第144图 遺構内出土土器 9



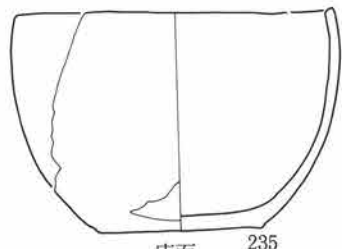
第145図 遺構内出土土器10



C24住居跡状



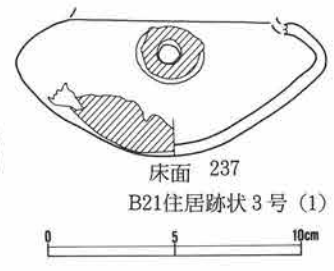
B21住居跡状 1号



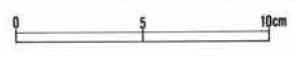
床面 235



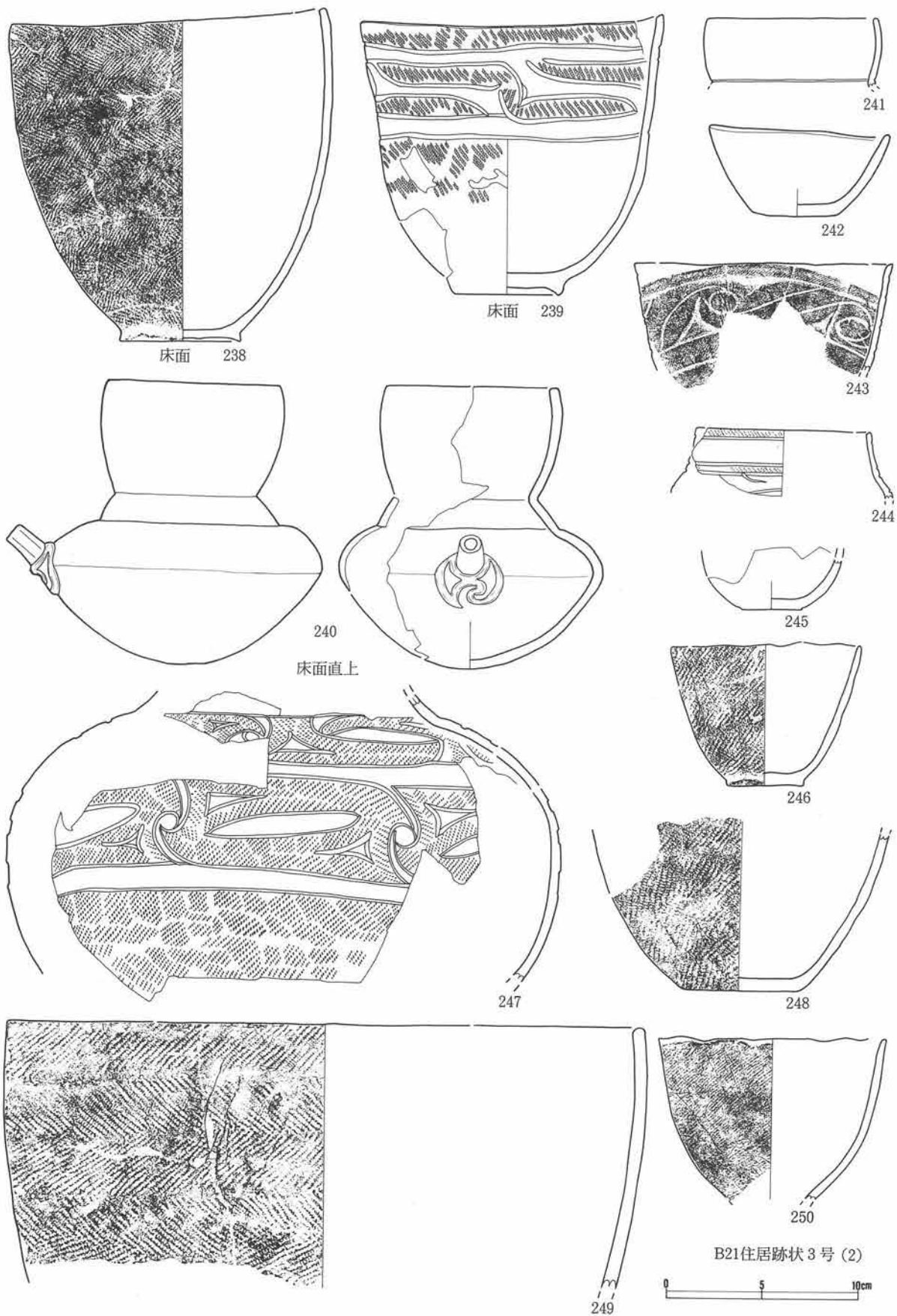
床面 236



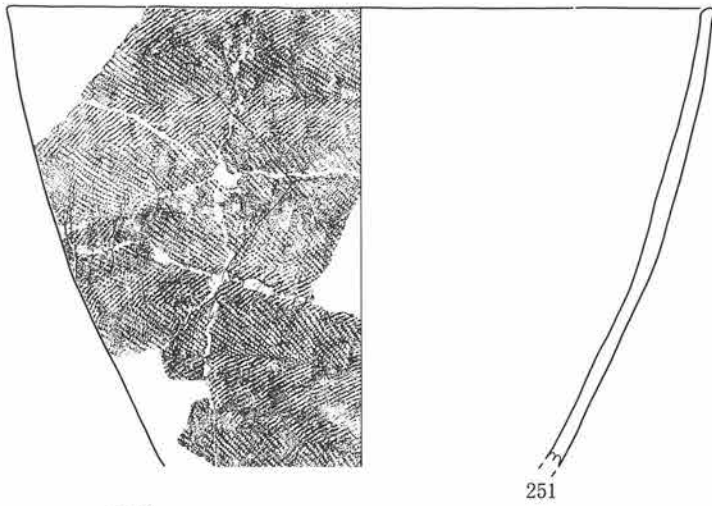
床面 237
B21住居跡状 3号 (1)



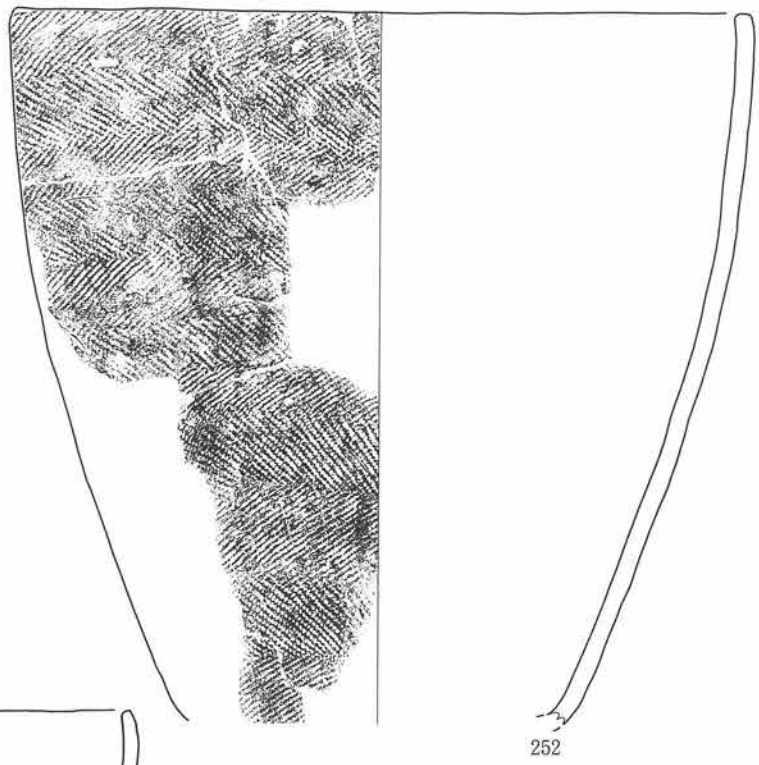
第146图 遺構内出土土器11



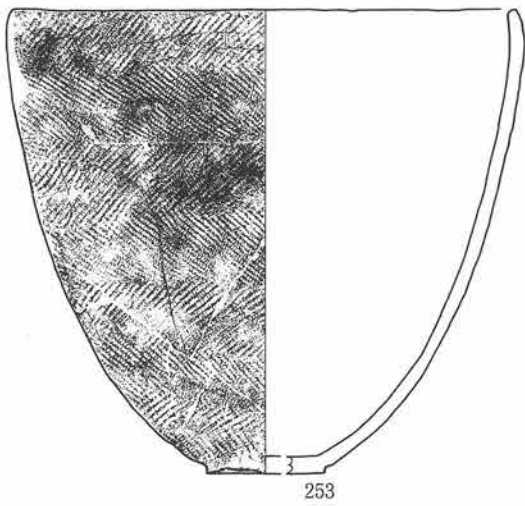
第147図 遺構内出土土器12



(251)
0 5 10cm



252



253

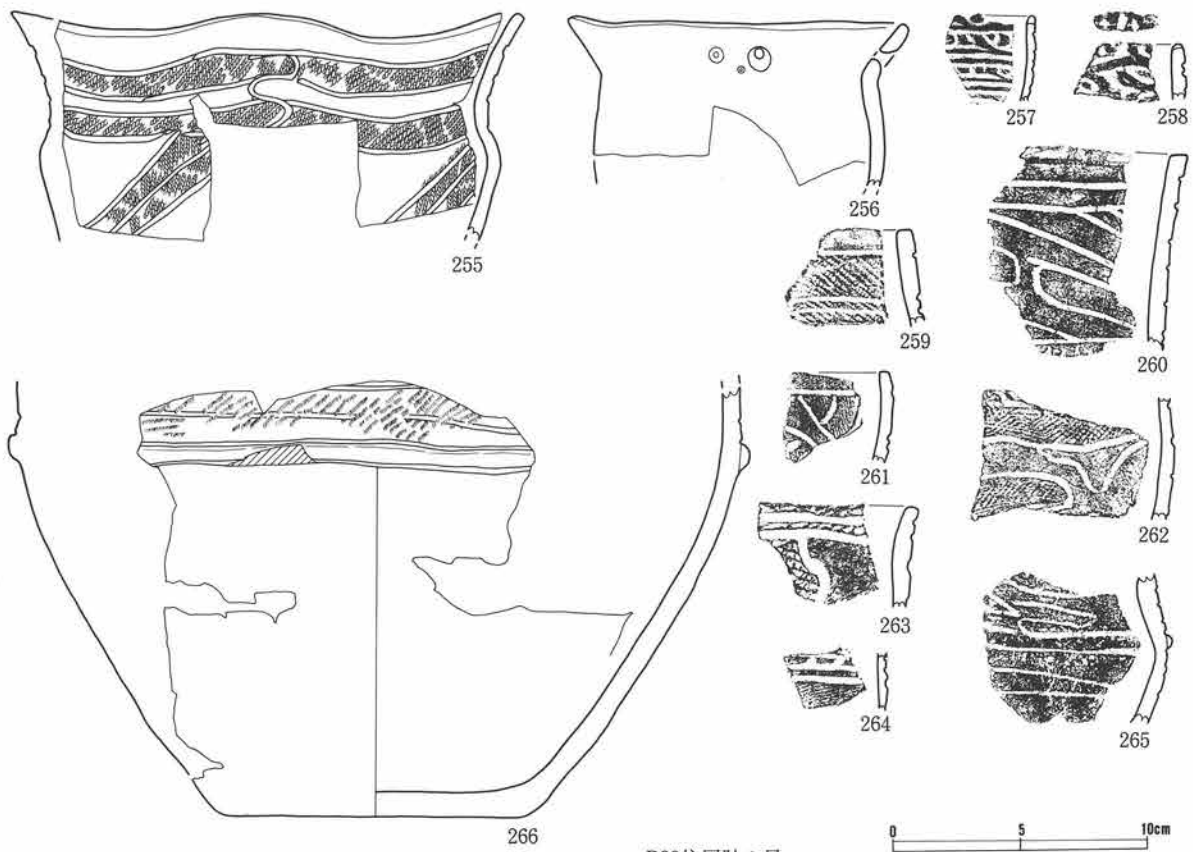


254

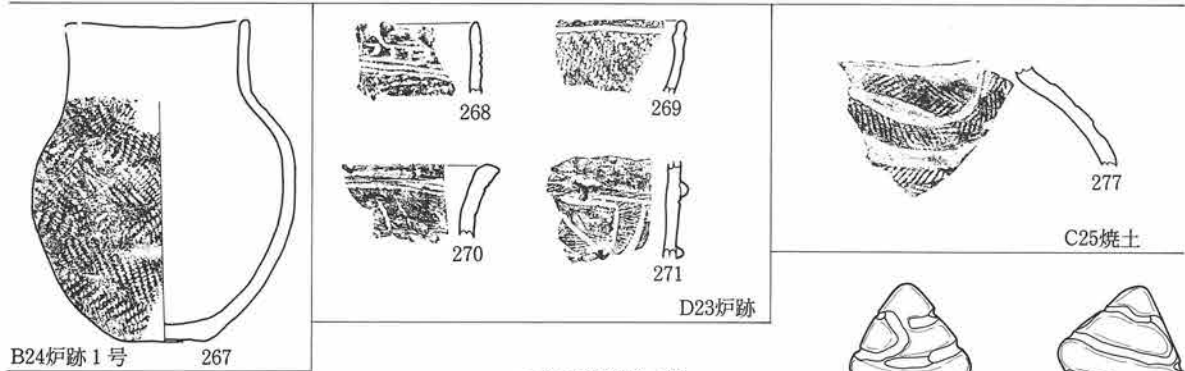
B21住居跡状 3号 (3)

0 5 10cm

第148図 遺構内出土土器13



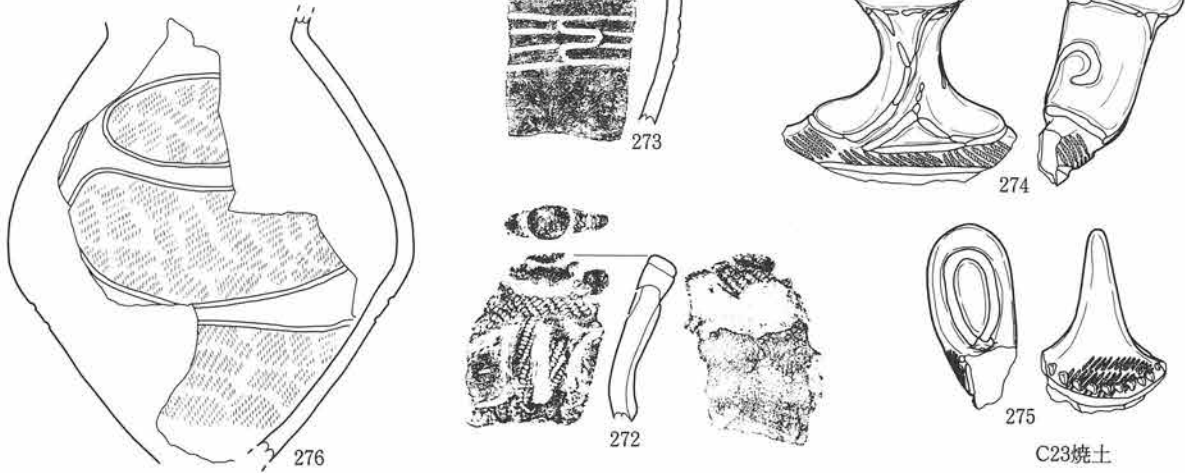
B22住居跡 1号



B24炉跡 1号 267

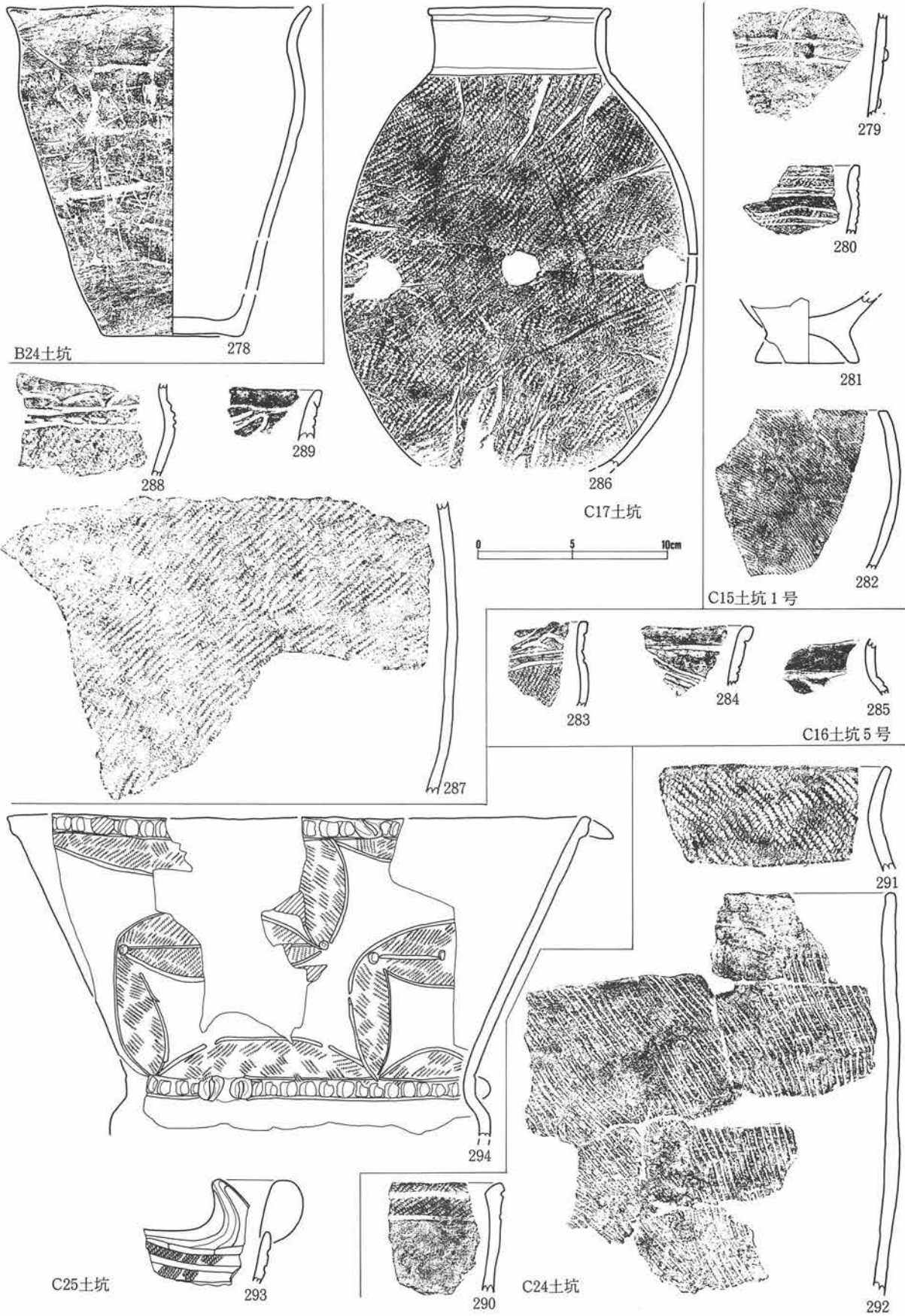
D23炉跡

C25烧土

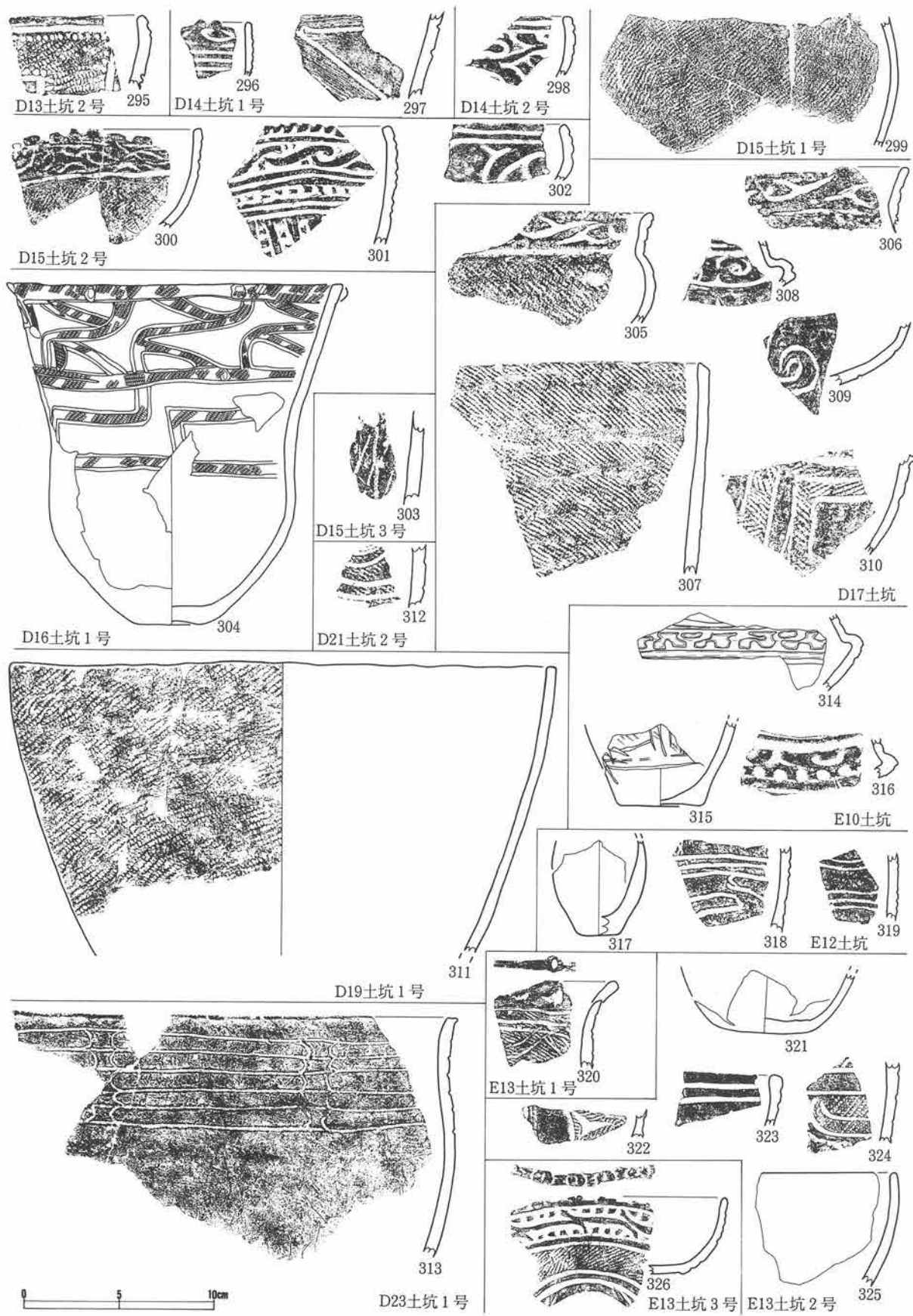


C23烧土

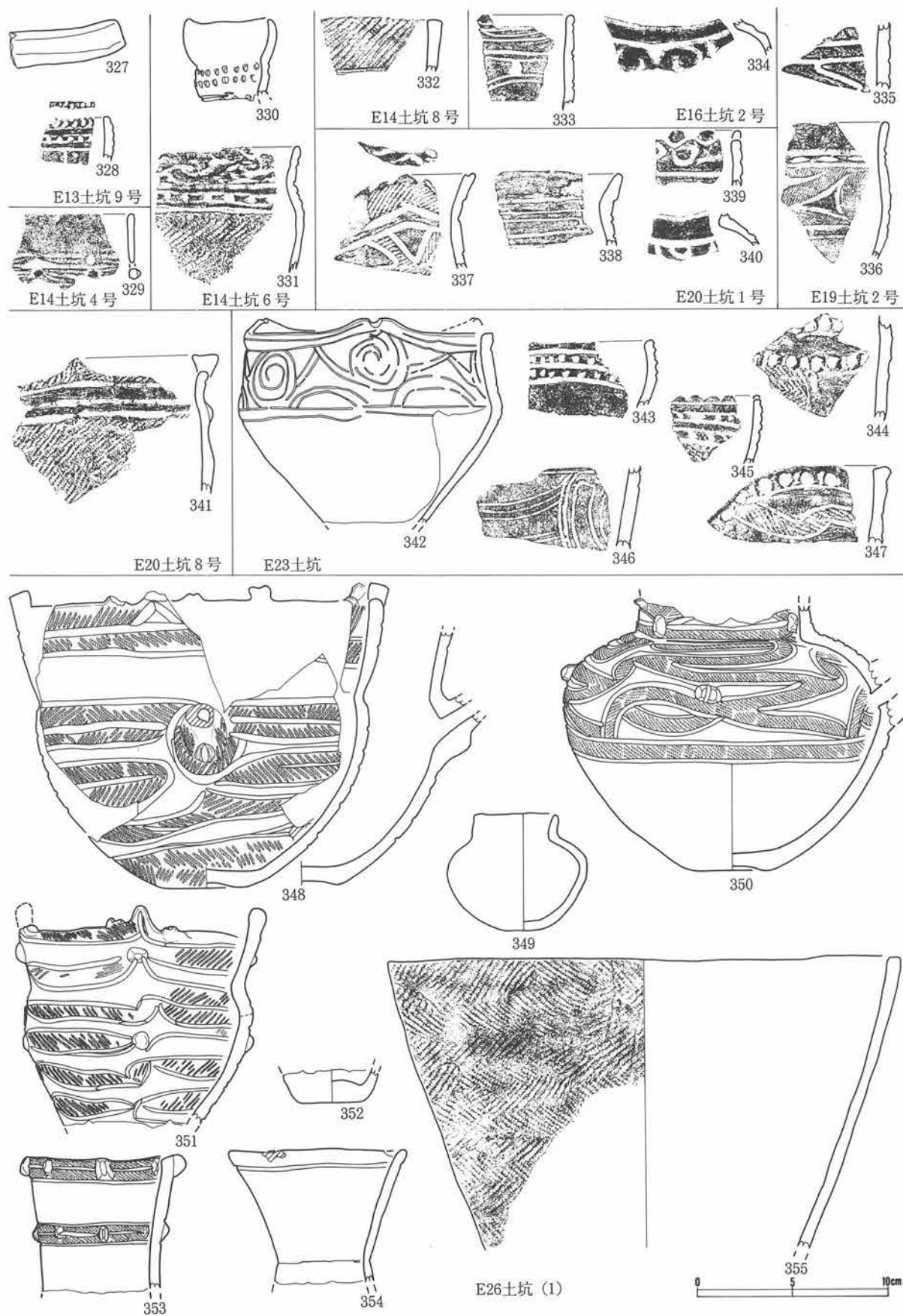
第149图 遺構内出土土器14



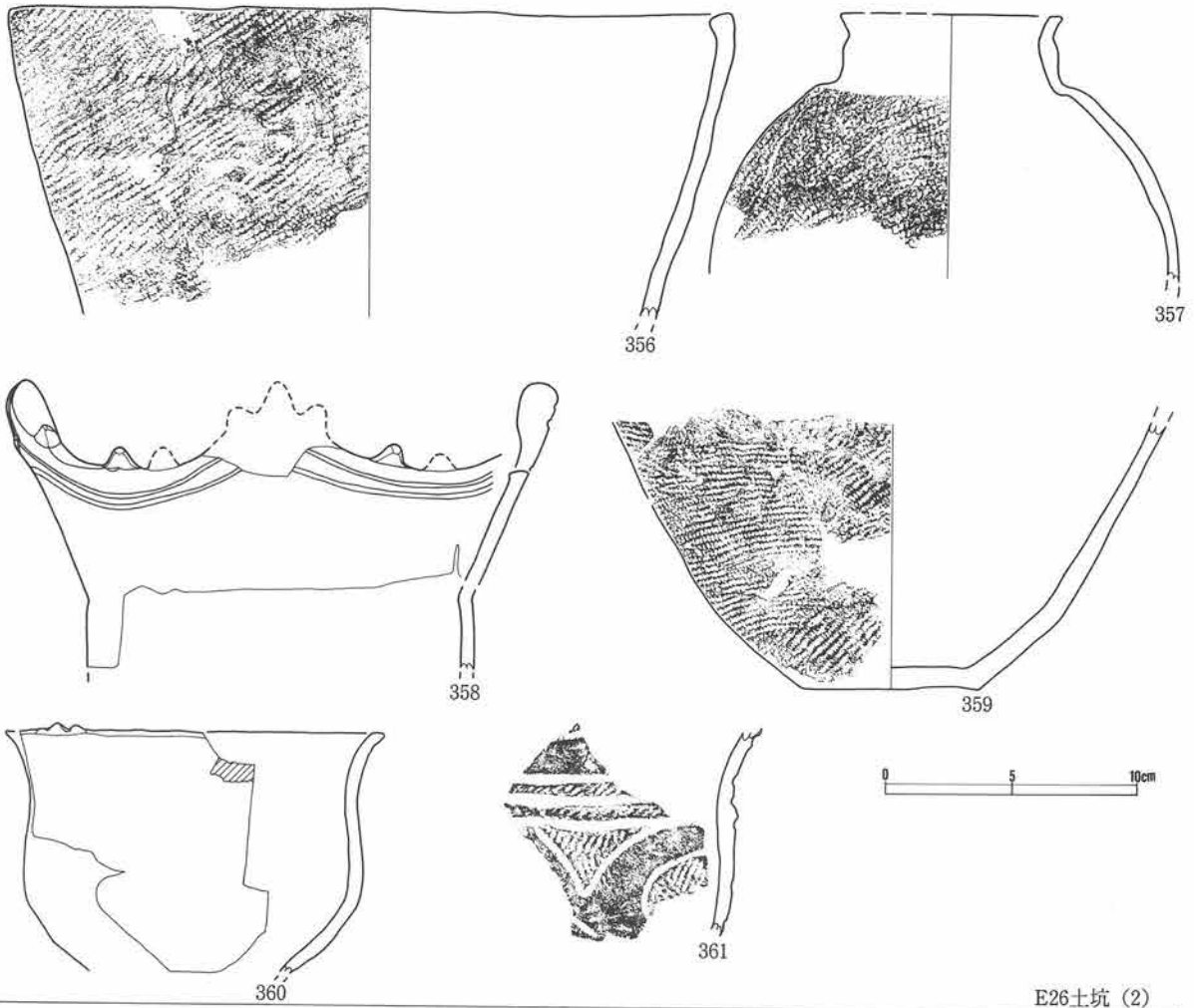
第150图 遺構内出土土器15



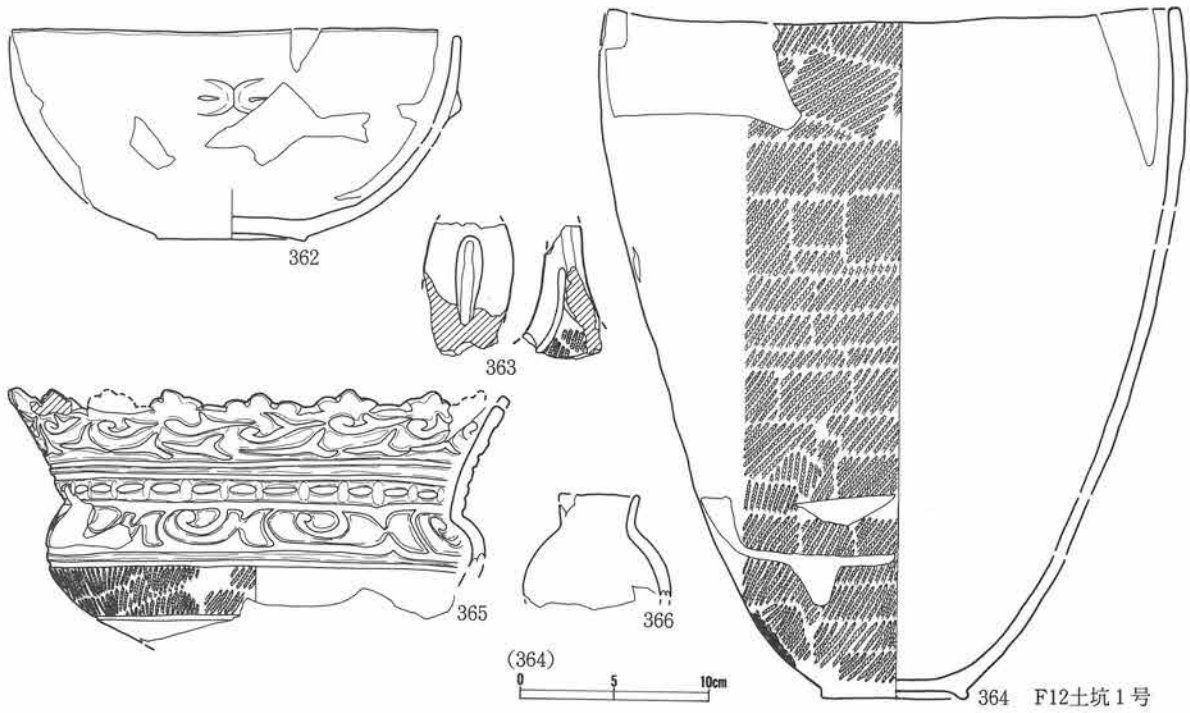
第151图 遺構内出土土器16



第152图 遺構内出土土器17



E26土坑 (2)

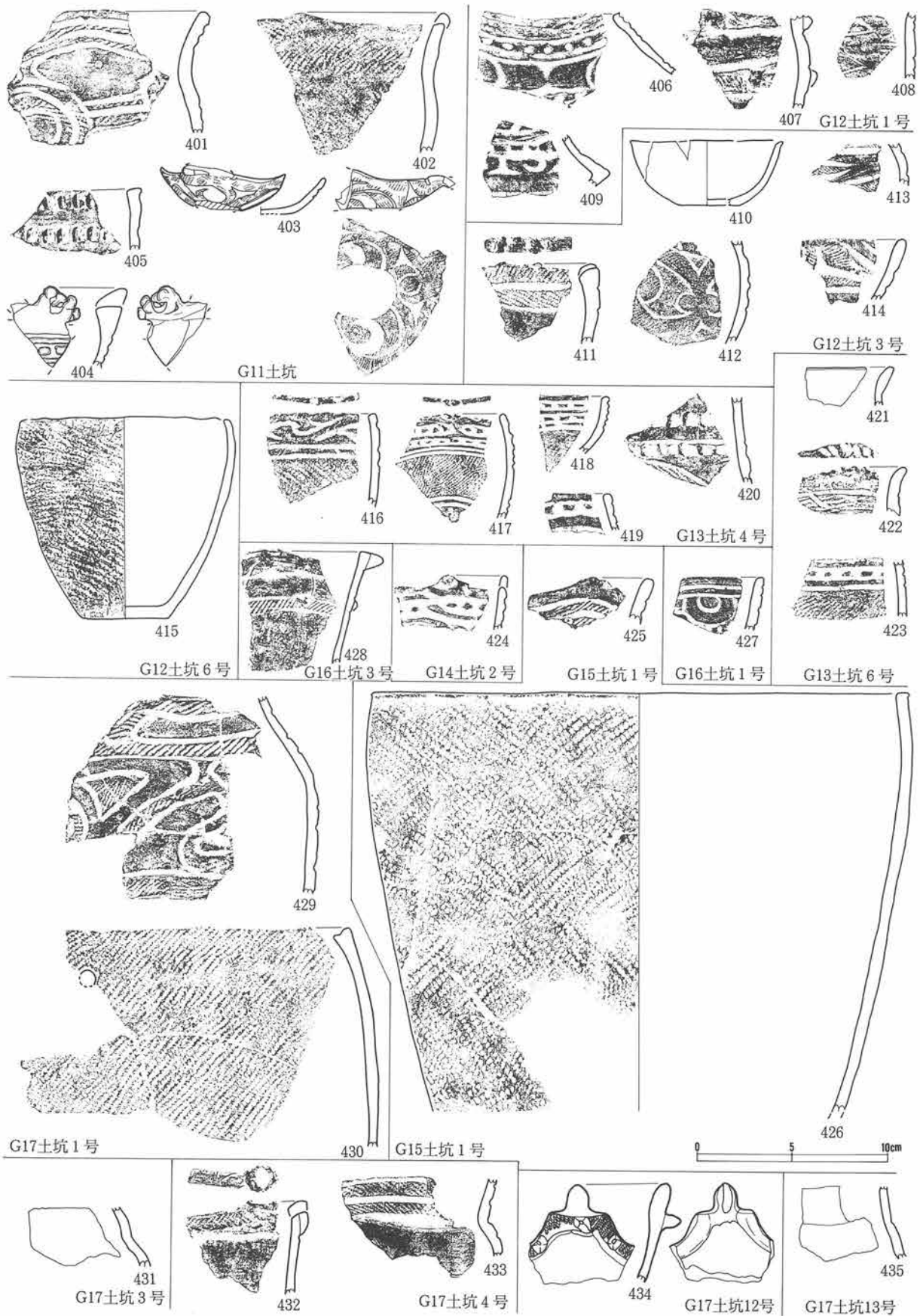


364 F12土坑 1号

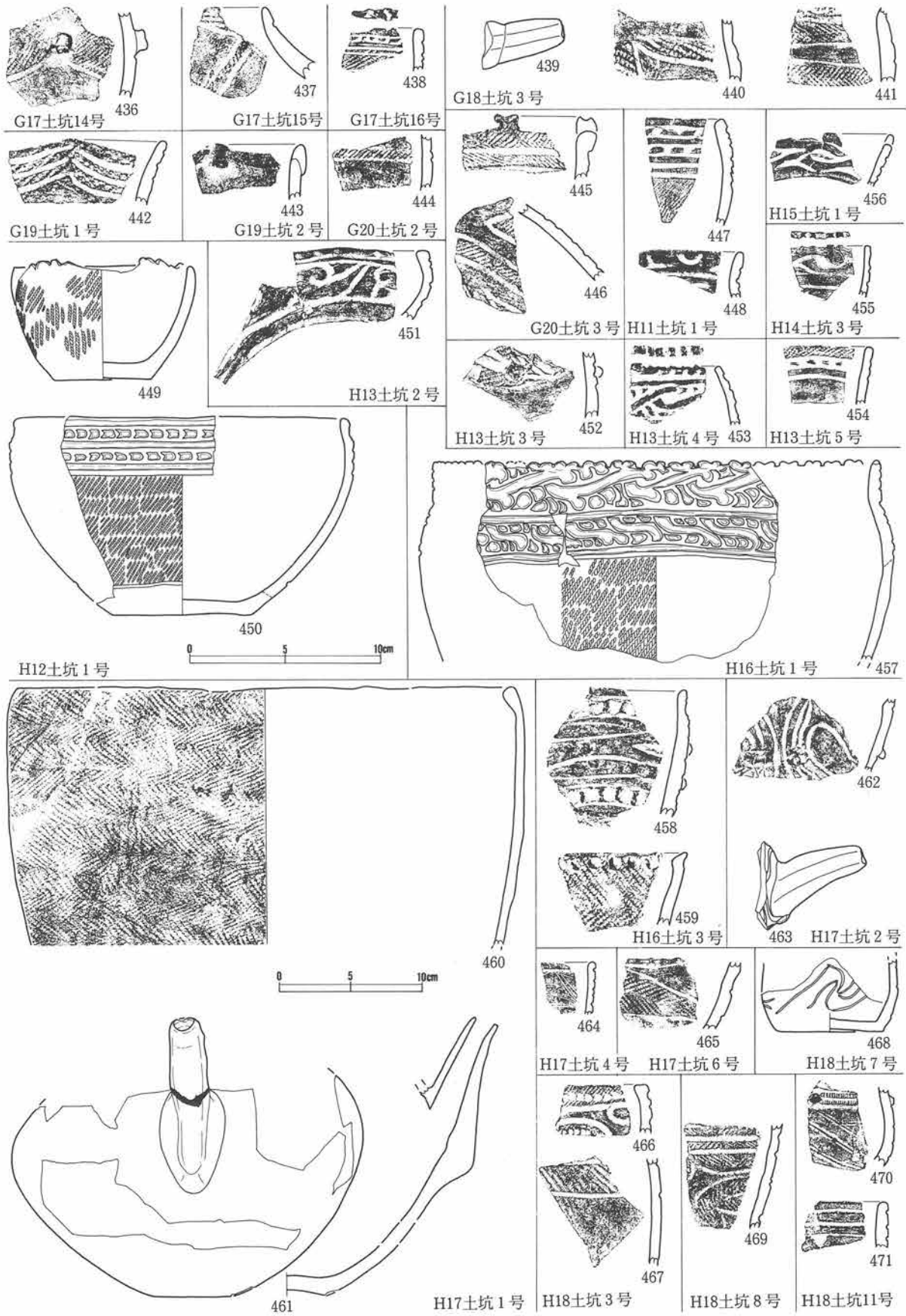
第153图 遺構内出土土器18



第154图 遺構内出土土器19



第155图 遺構内出土土器20



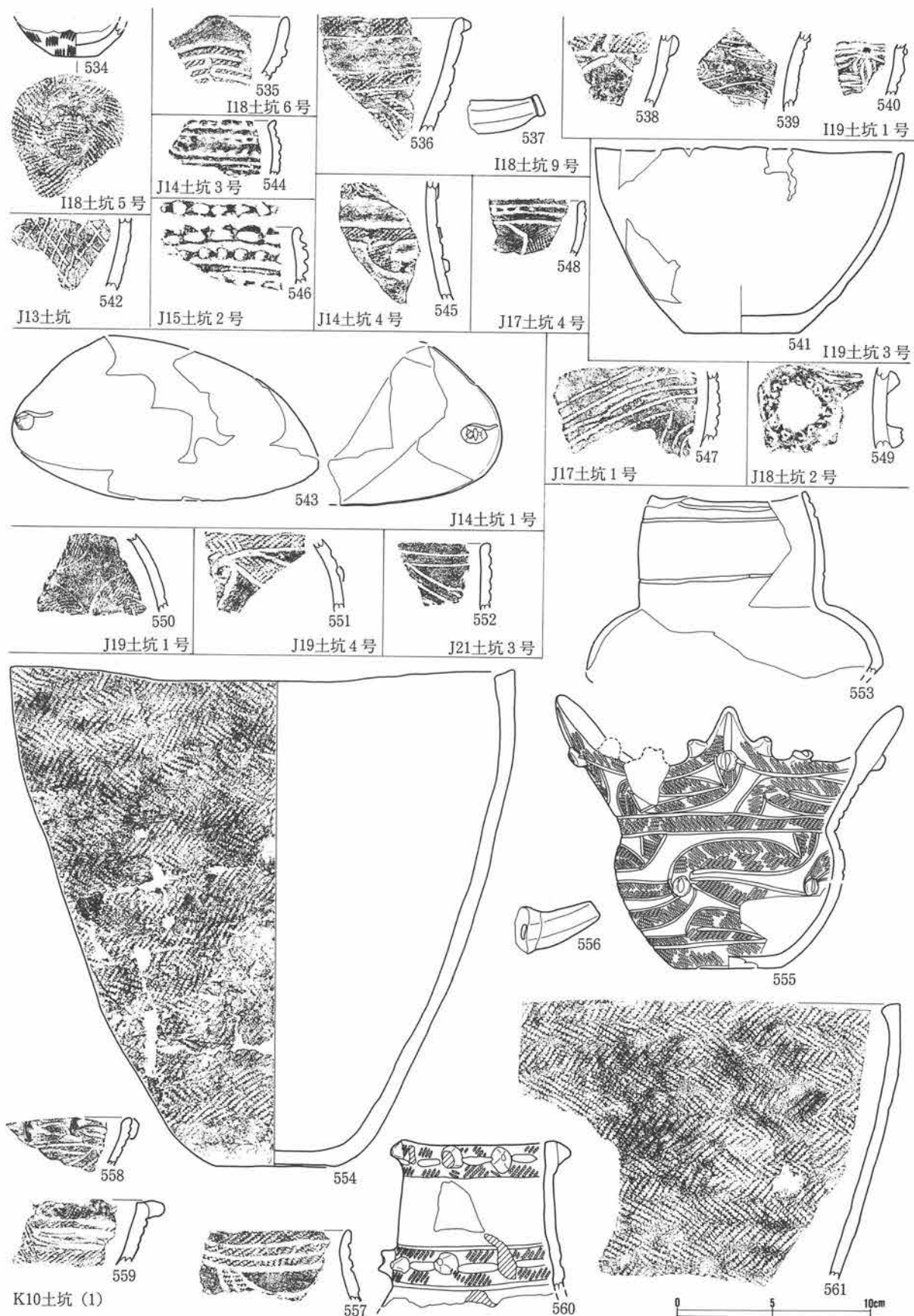
第156图 遺構内出土土器21



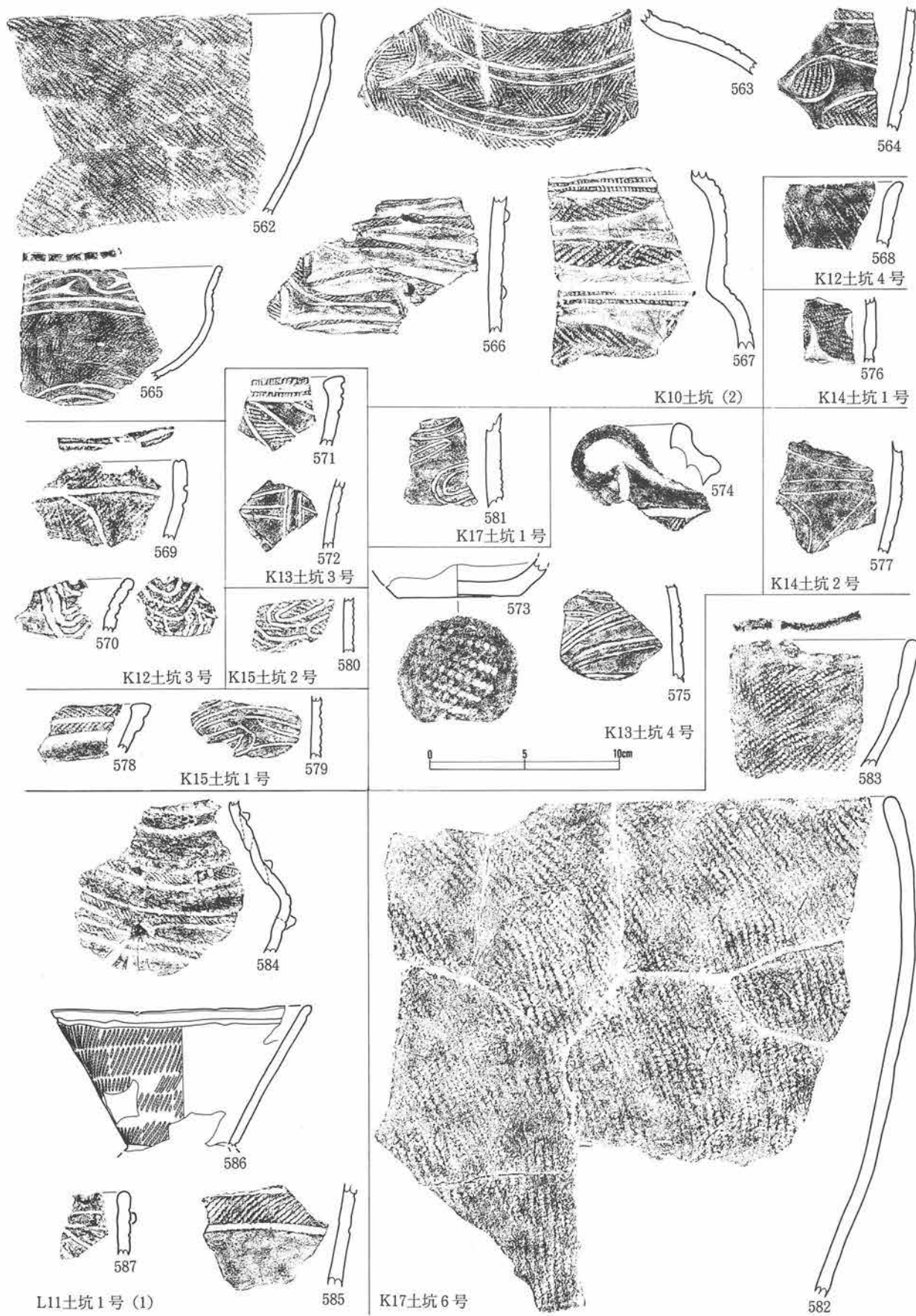
第157图 遺構内出土土器22



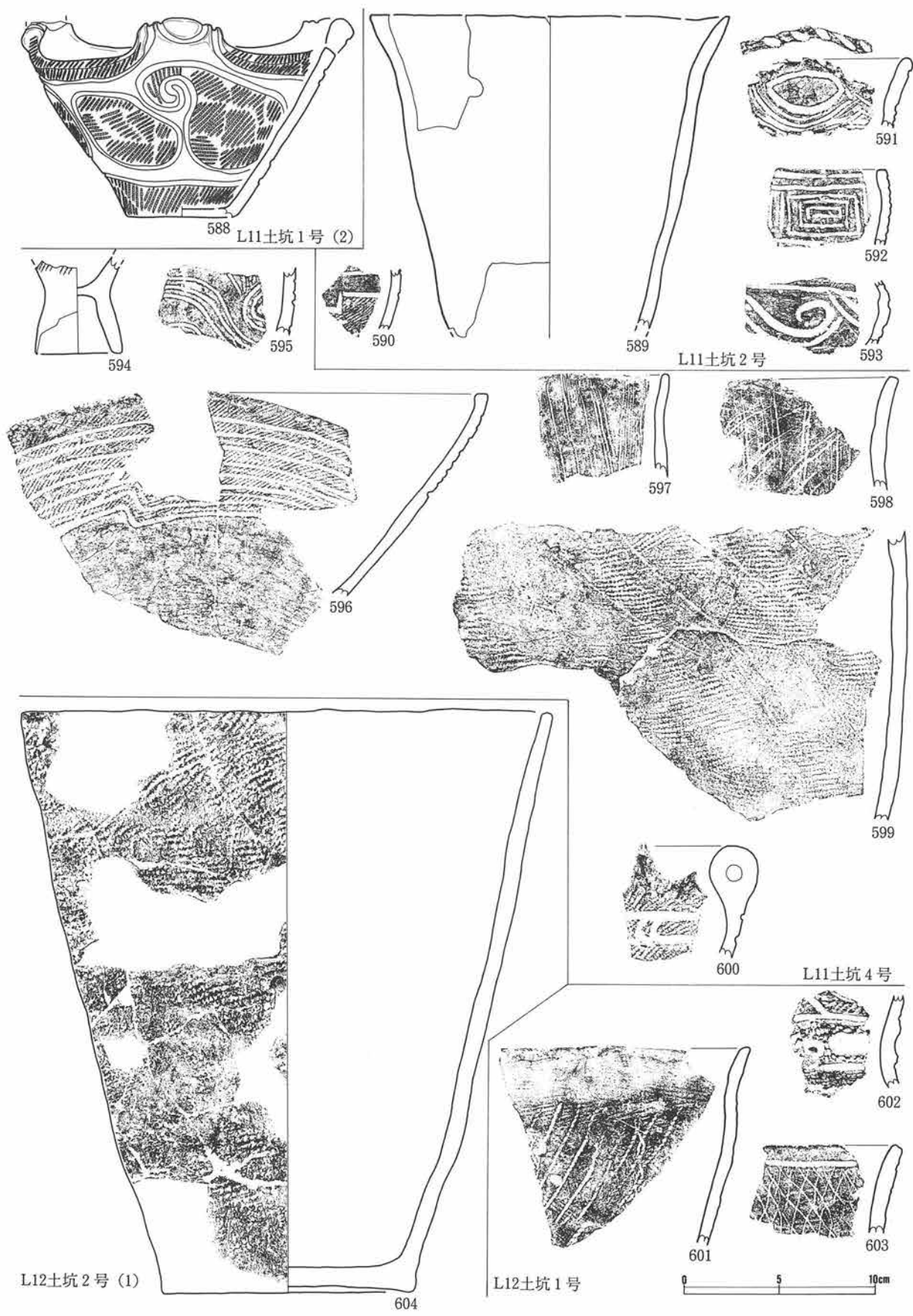
第158图 遺構内出土土器23



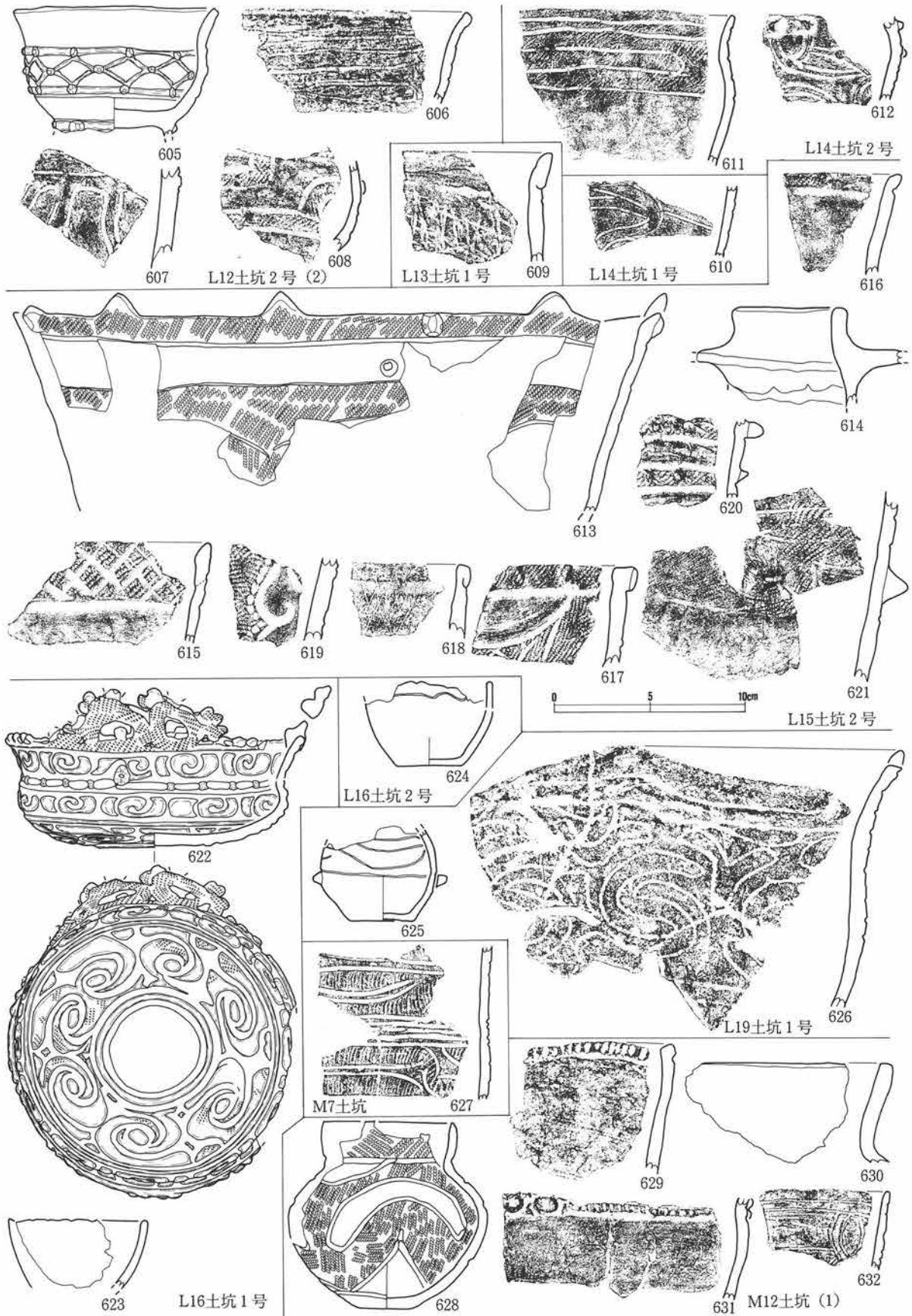
第159图 遺構内出土土器24



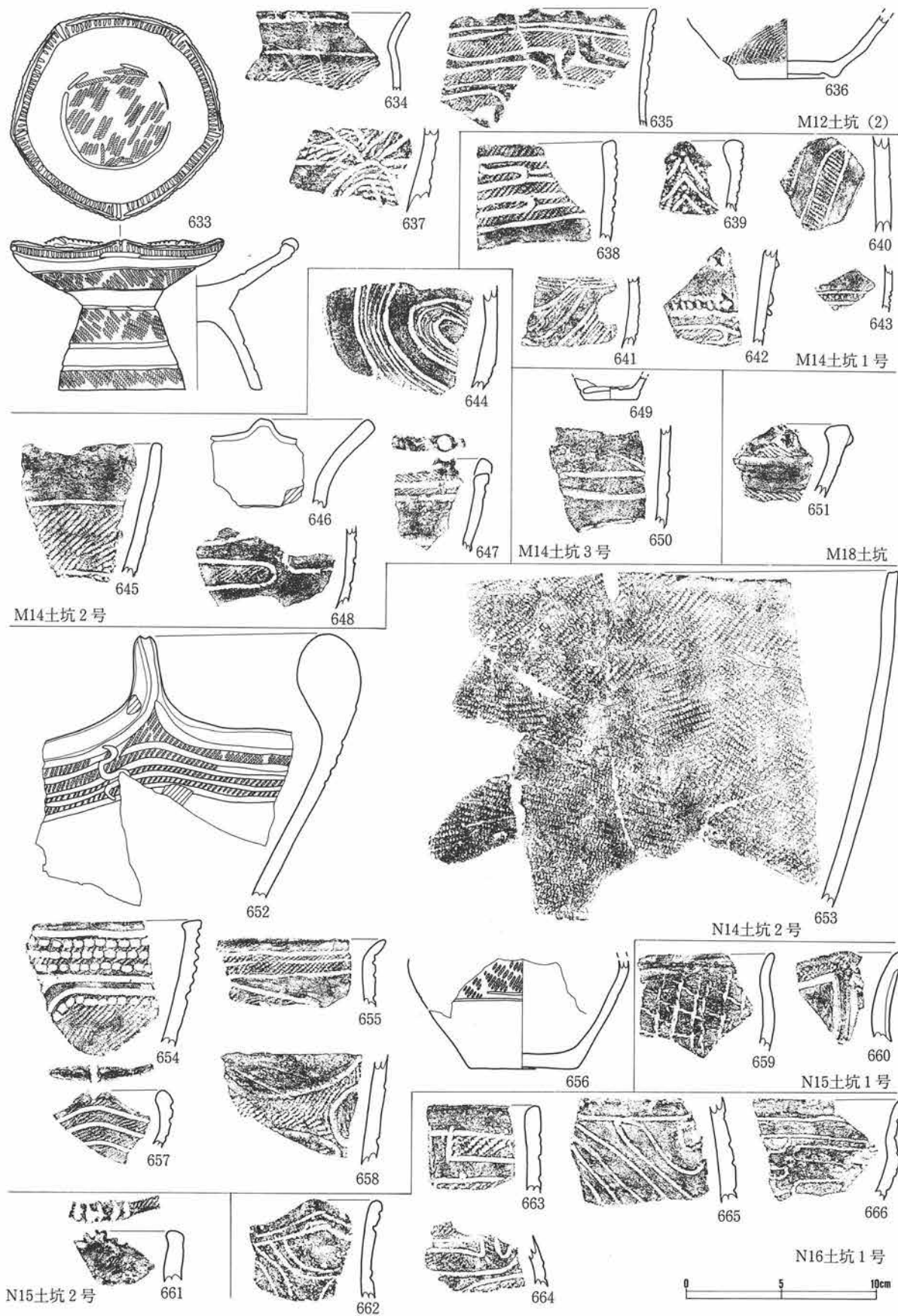
第160图 遺構内出土土器25



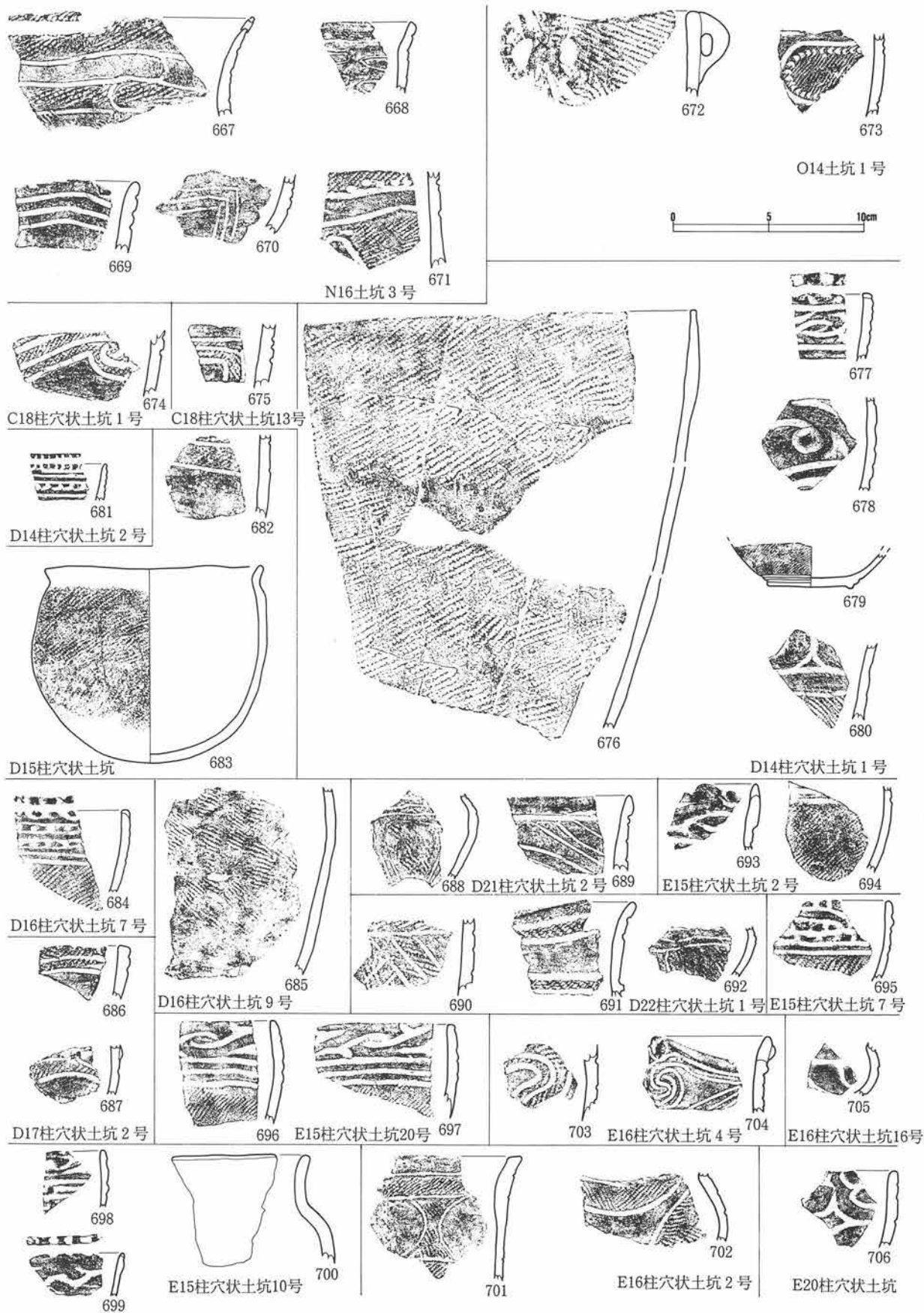
第161图 遺構内出土土器26



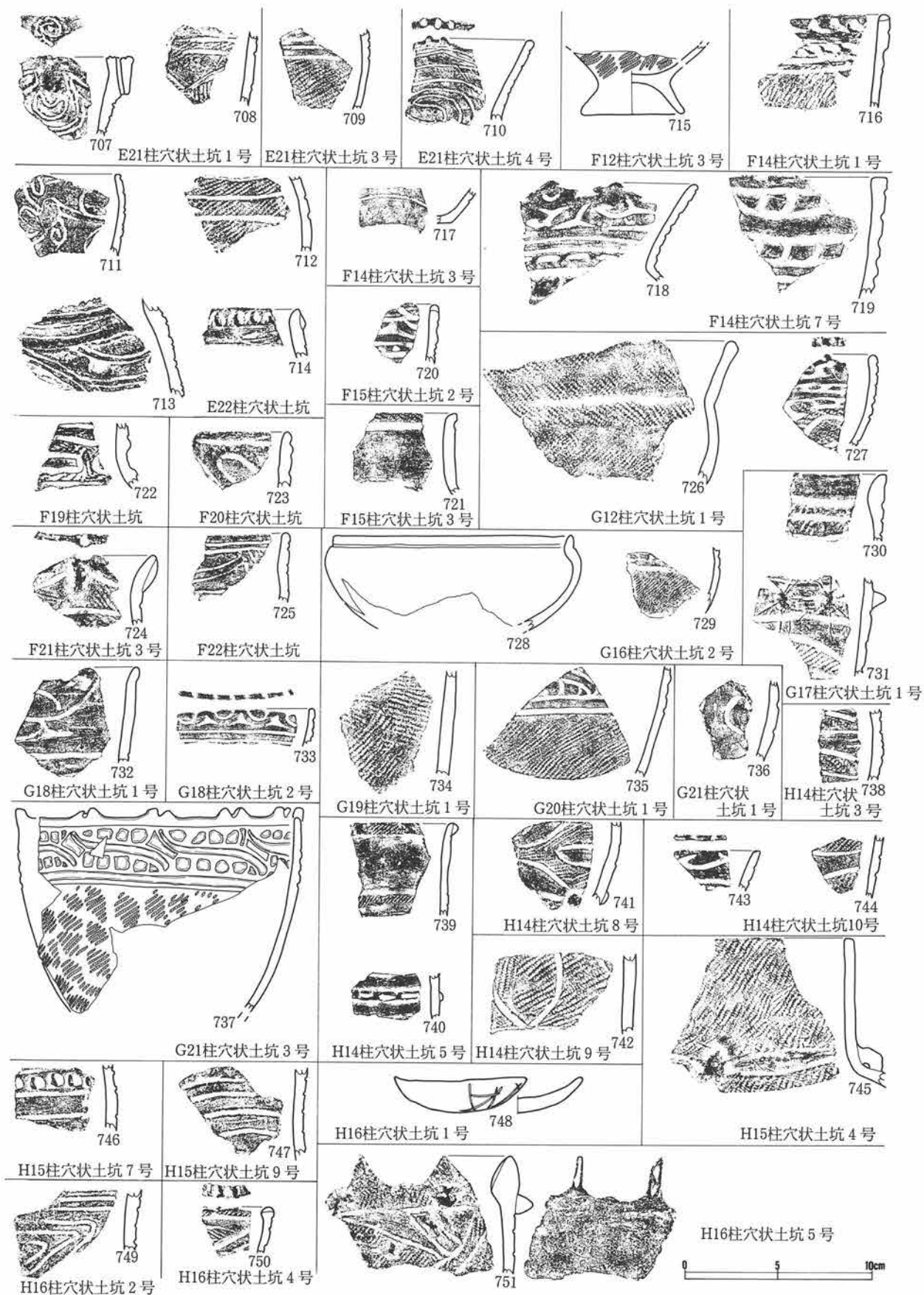
第162图 遺構内出土土器27



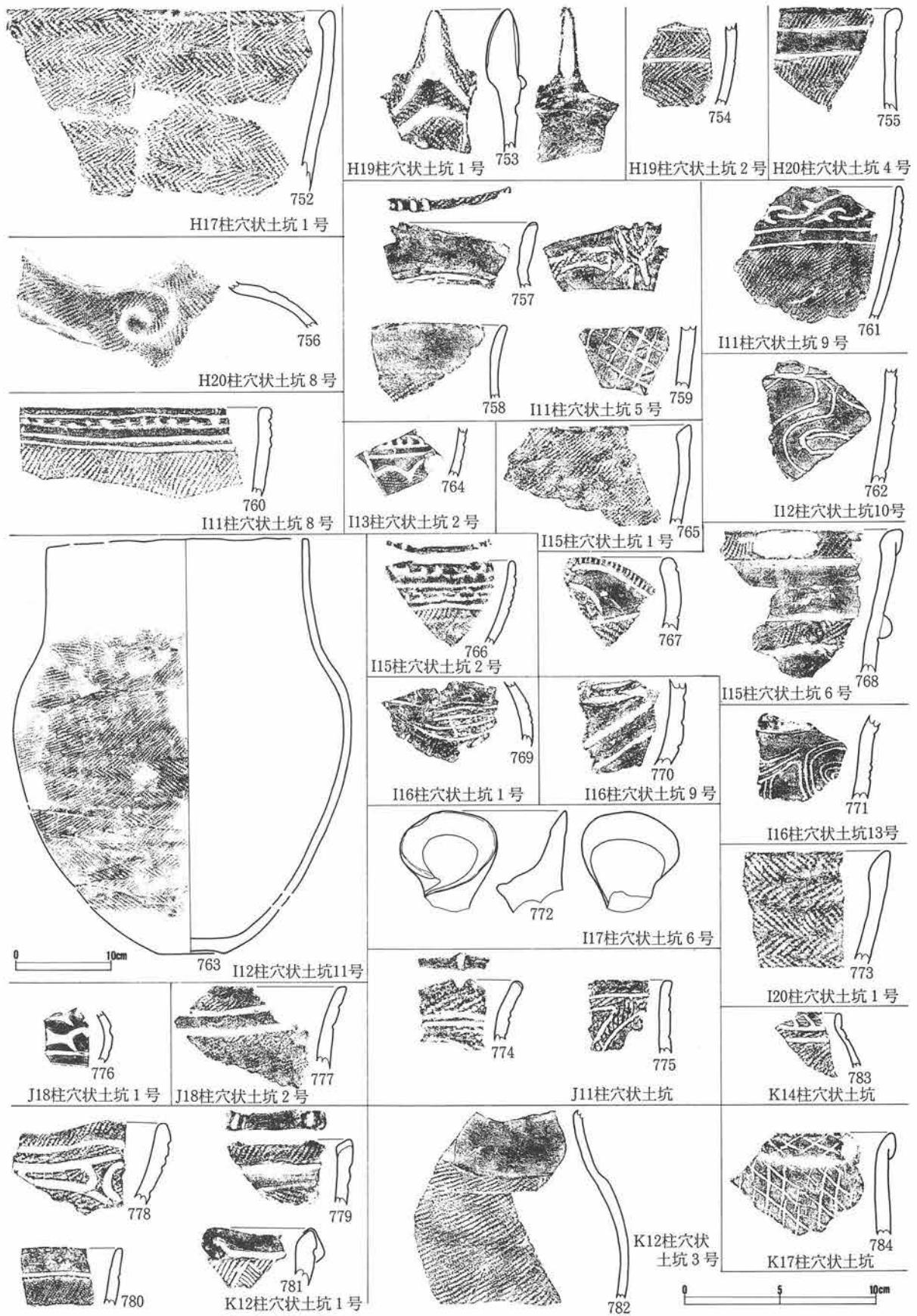
第163图 遺構内出土土器28



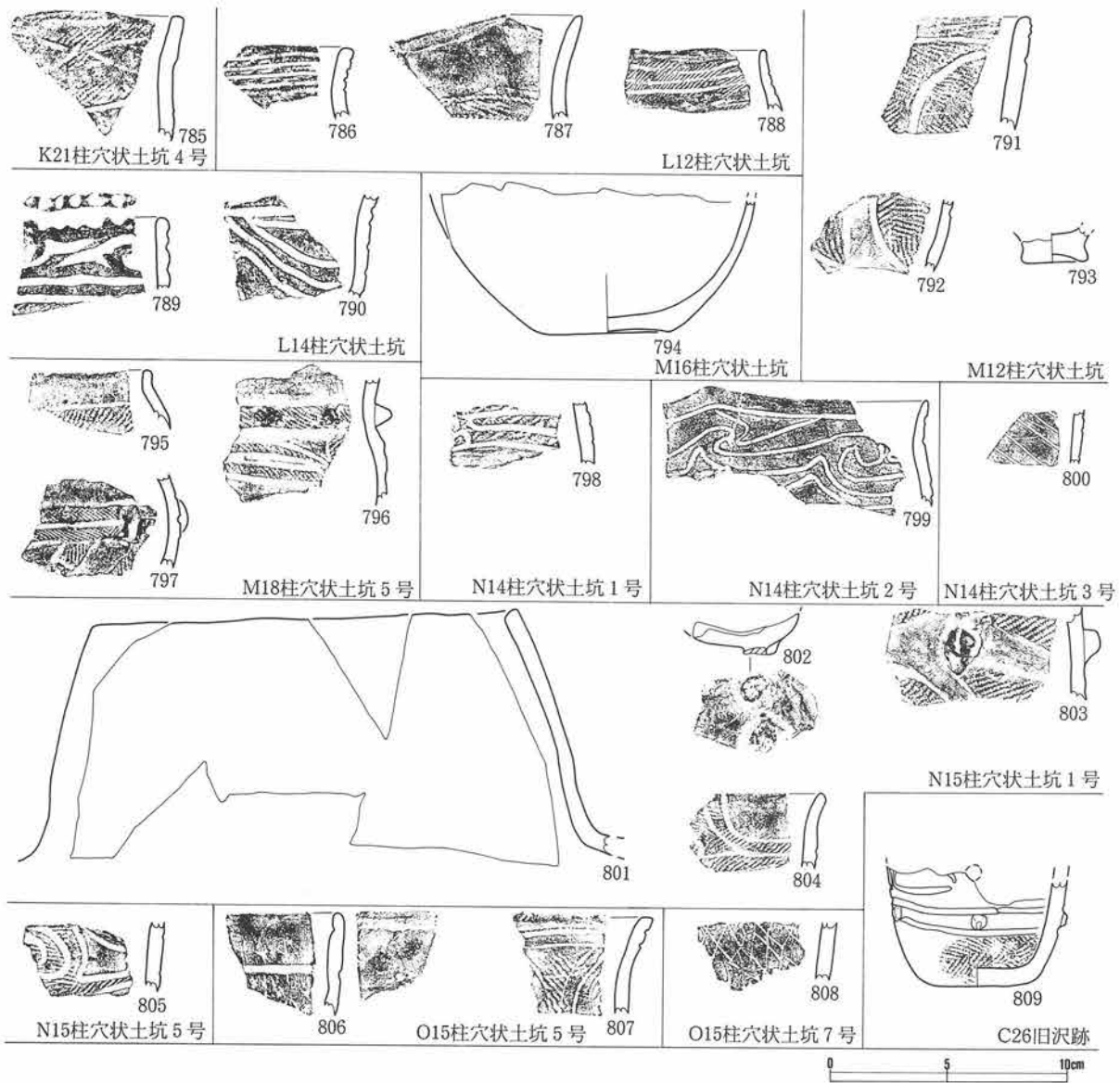
第164图 遺構内出土土器29



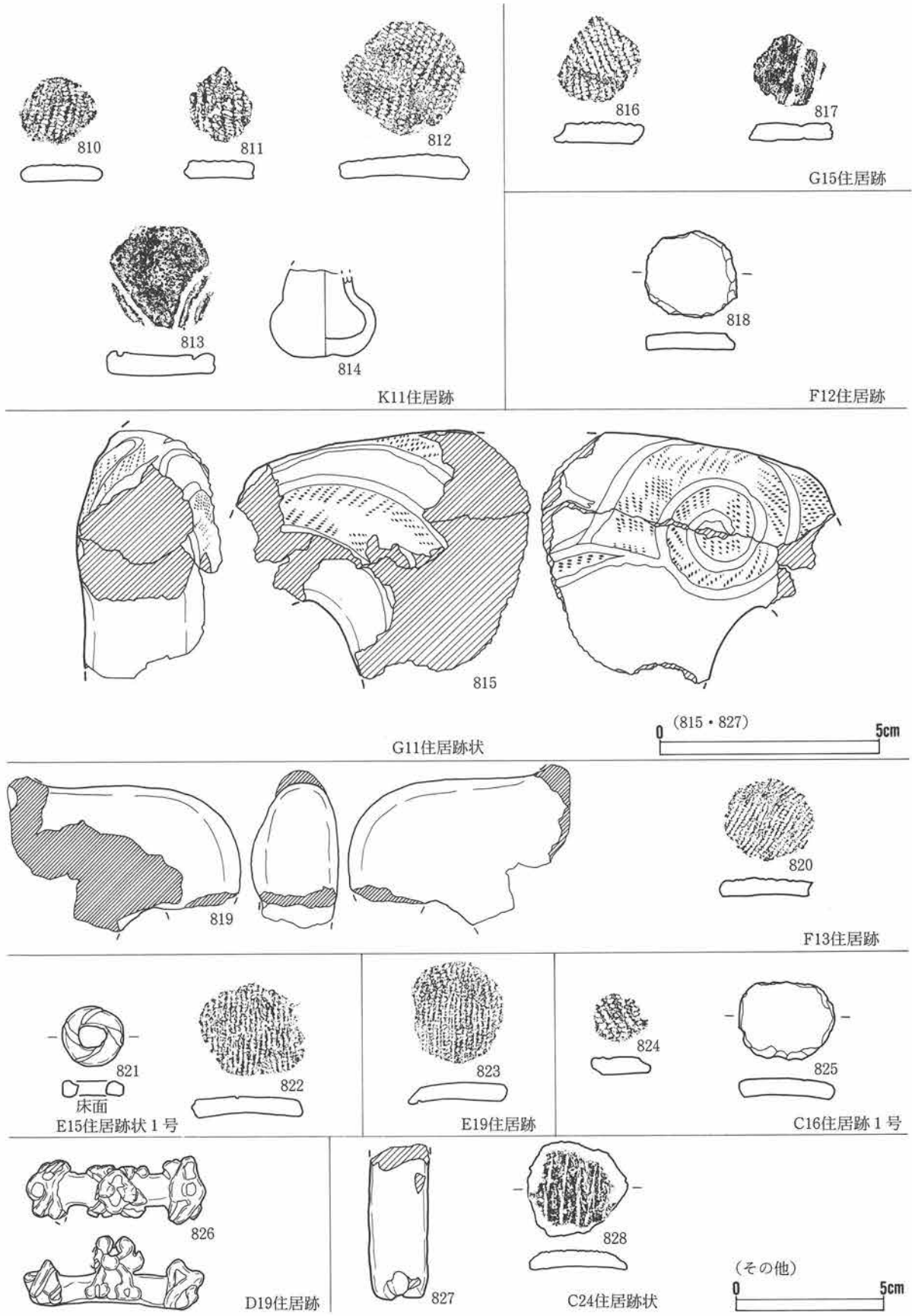
第165图 遺構内出土土器30



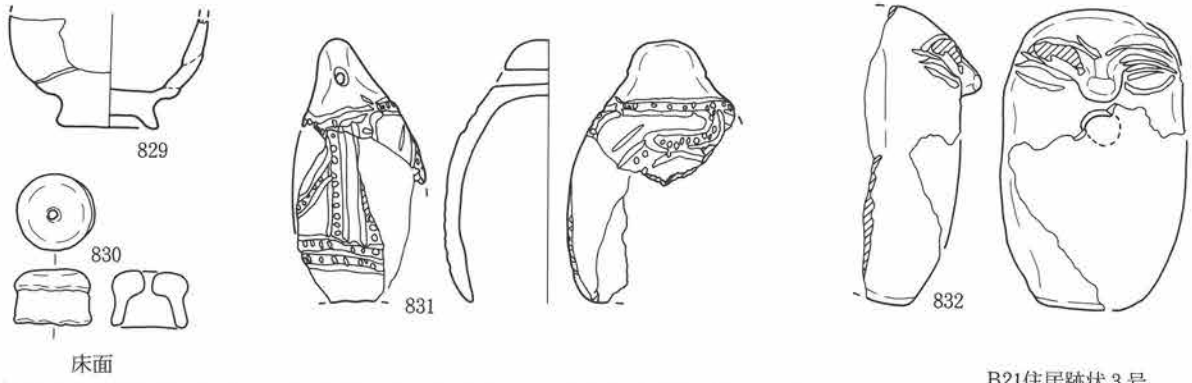
第166图 遺構内出土土器31



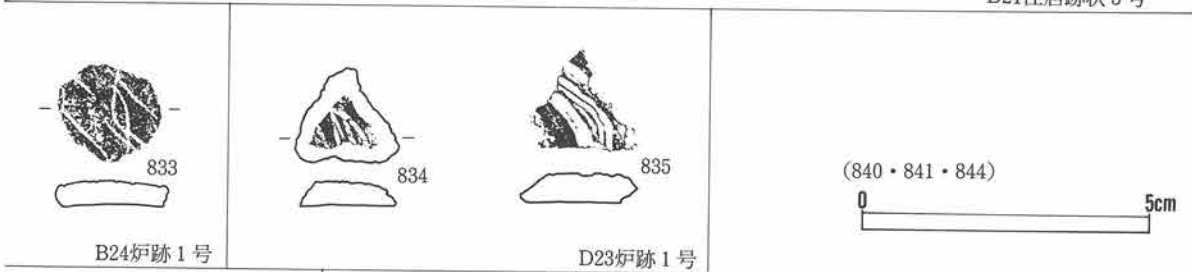
第167図 遺構内出土土器32



第168図 遺構内出土土製品 1

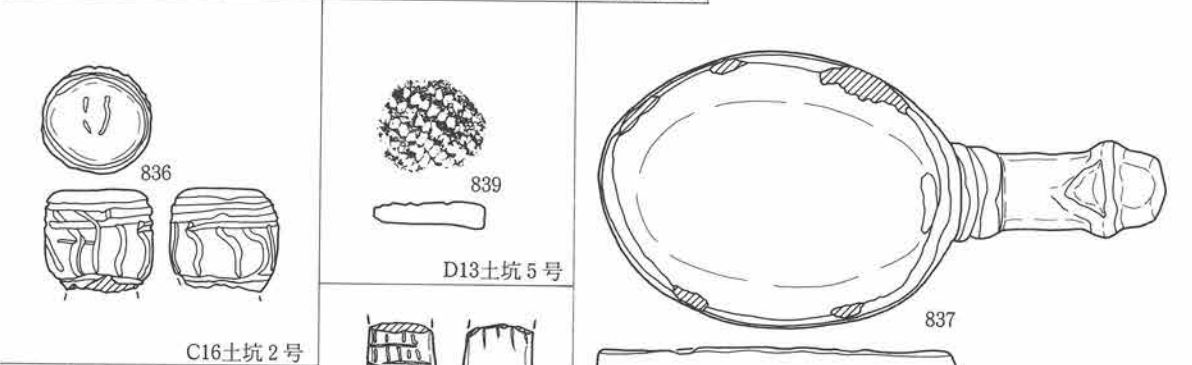


B21住居跡状 3号

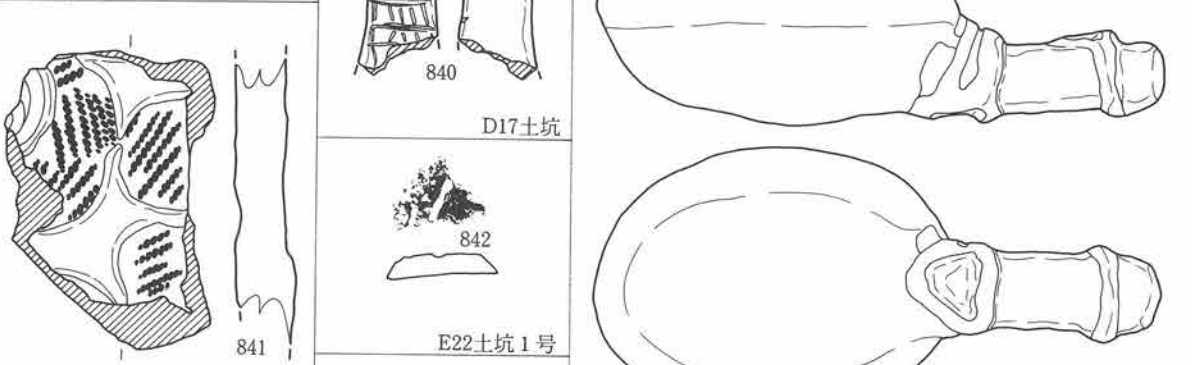


B24炉跡 1号

D23炉跡 1号

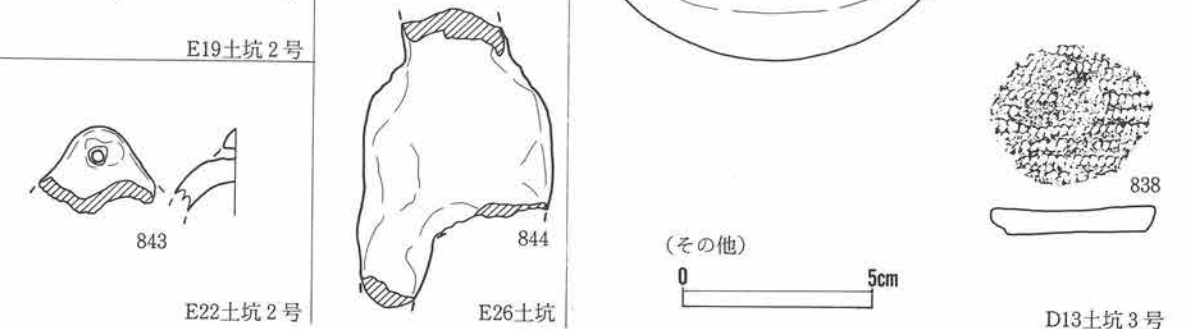


D13土坑 5号



D17土坑

E22土坑 1号

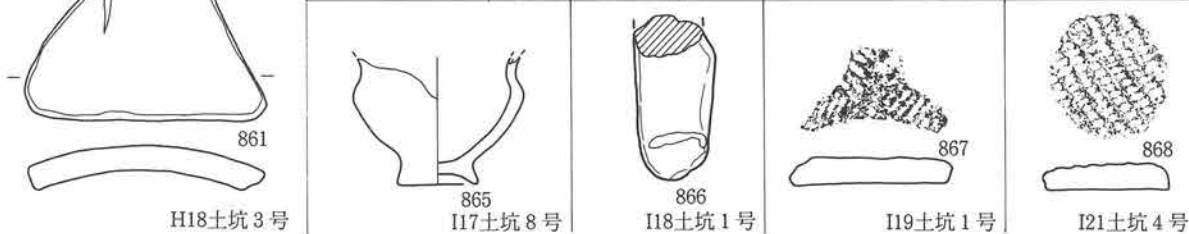
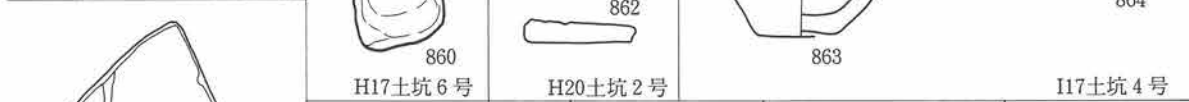
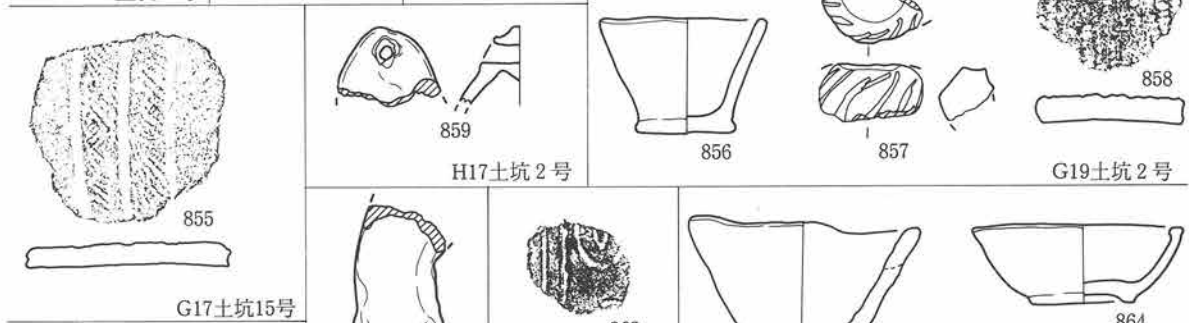
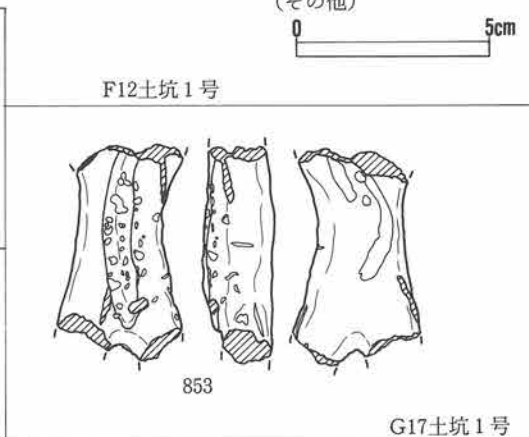
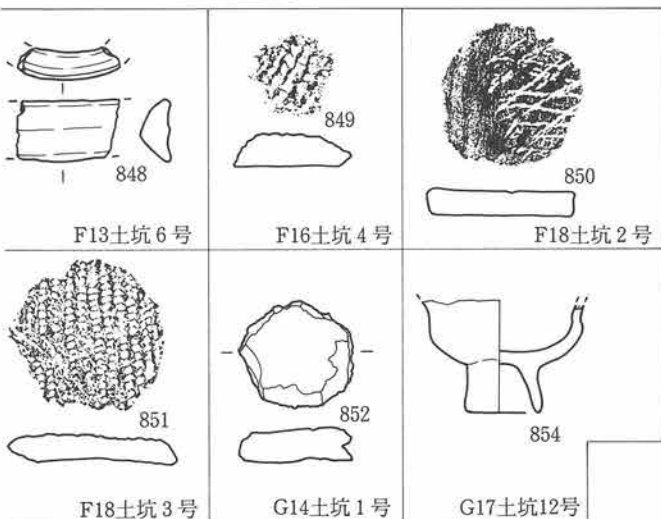
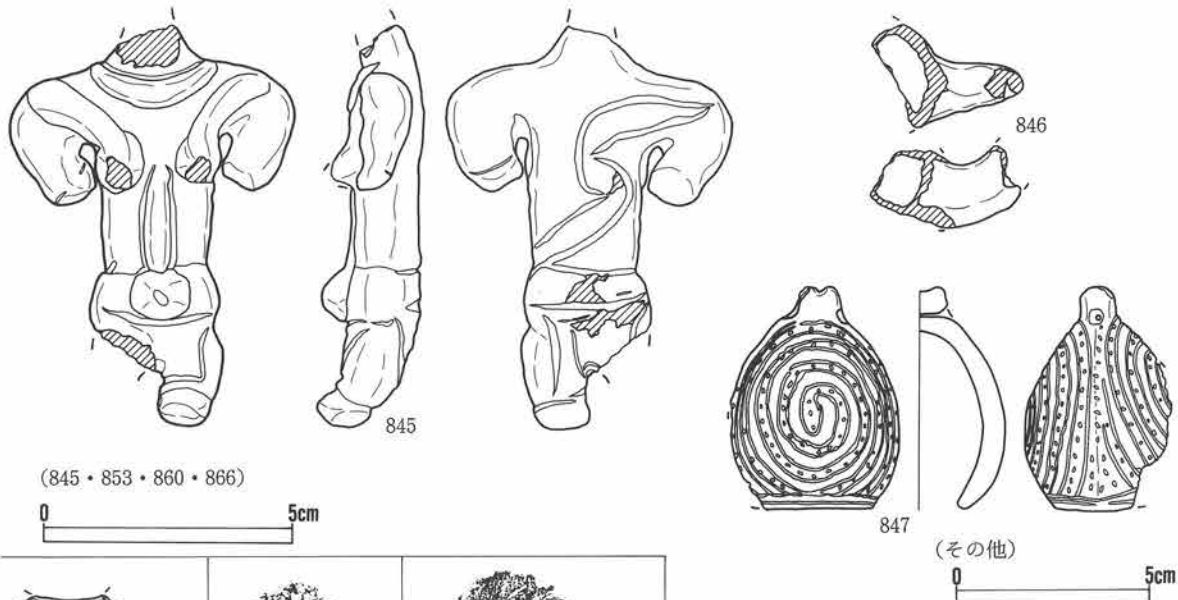


E22土坑 2号

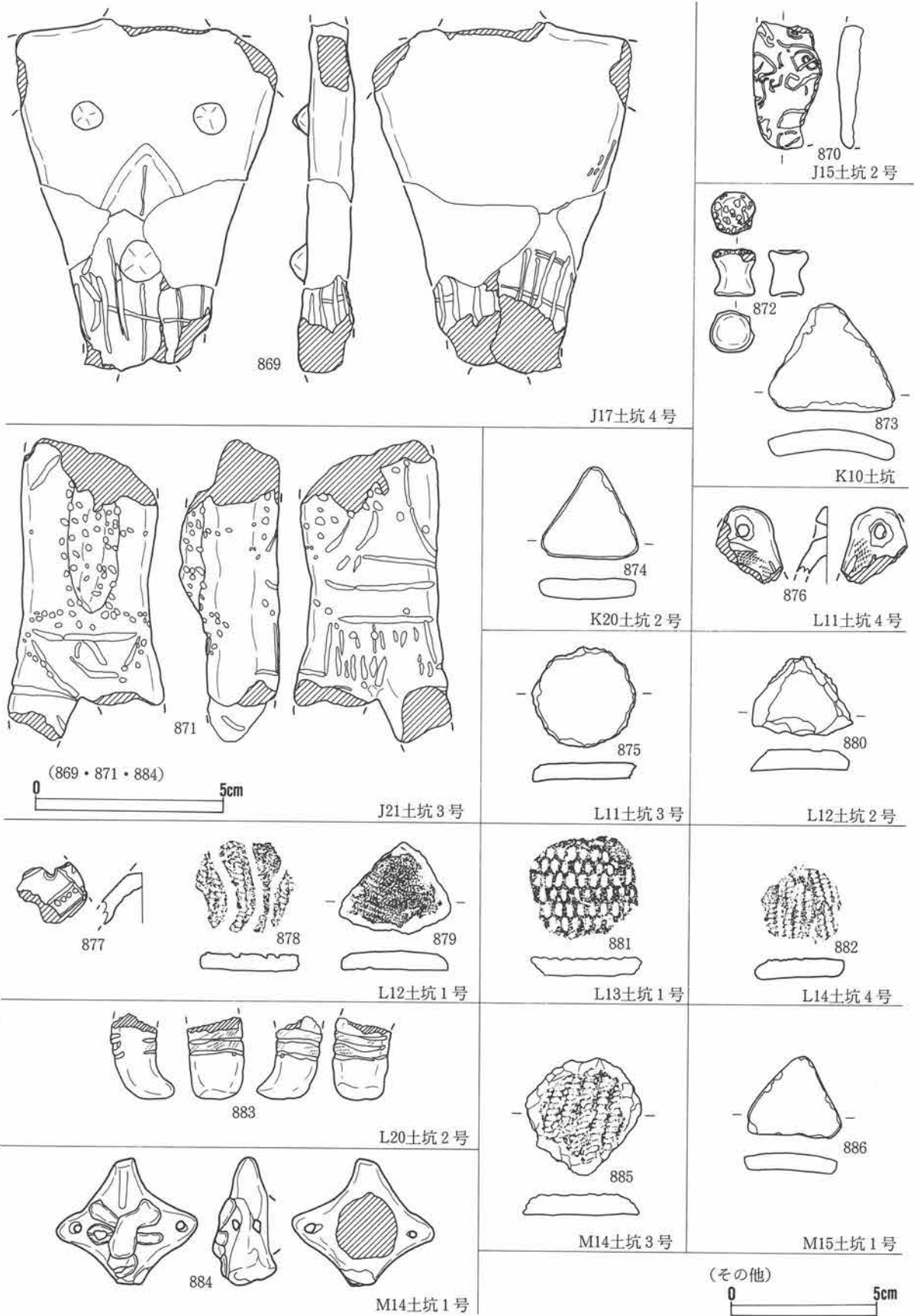
E26土坑

D13土坑 3号

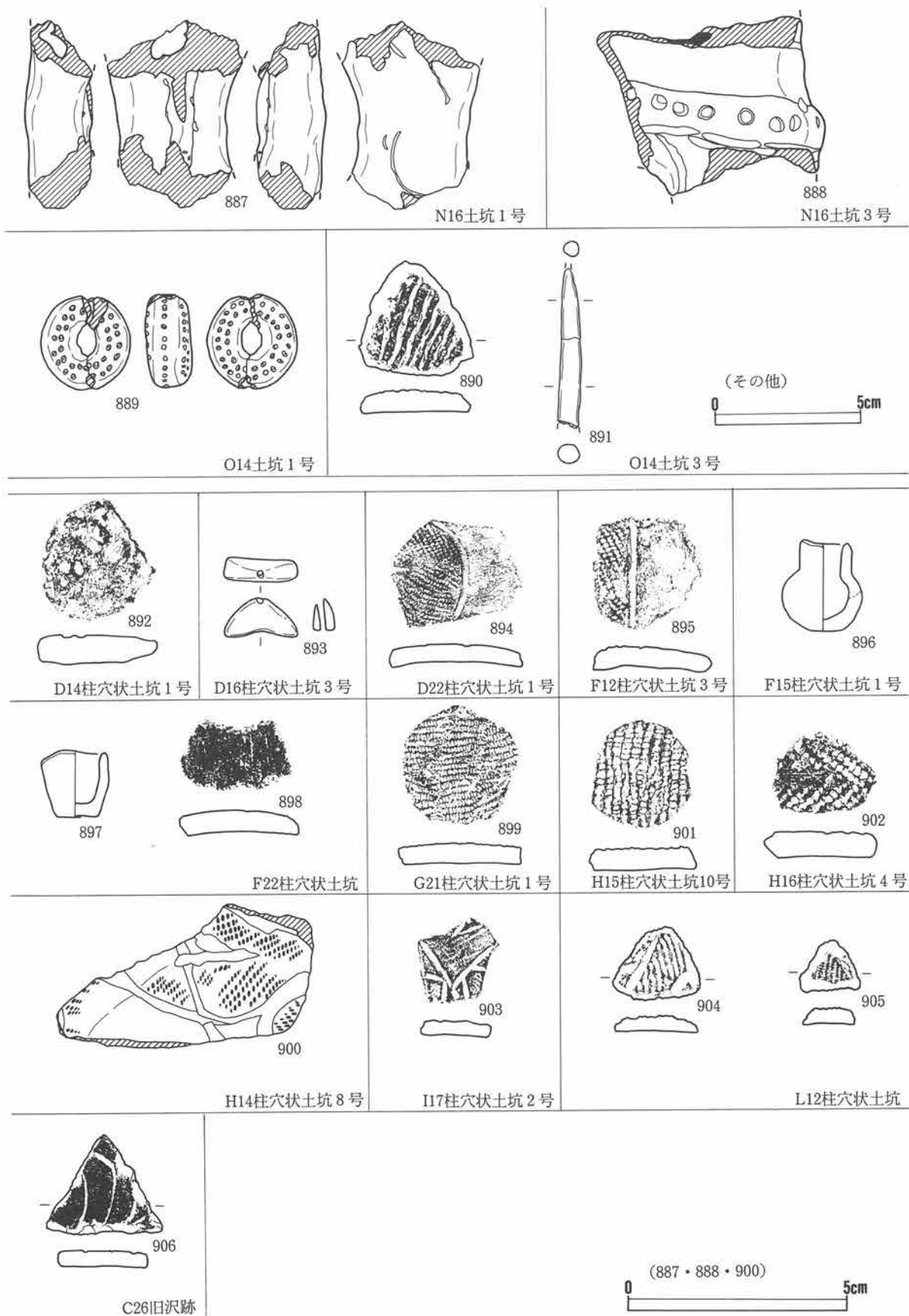
第169図 遺構内出土土製品 2



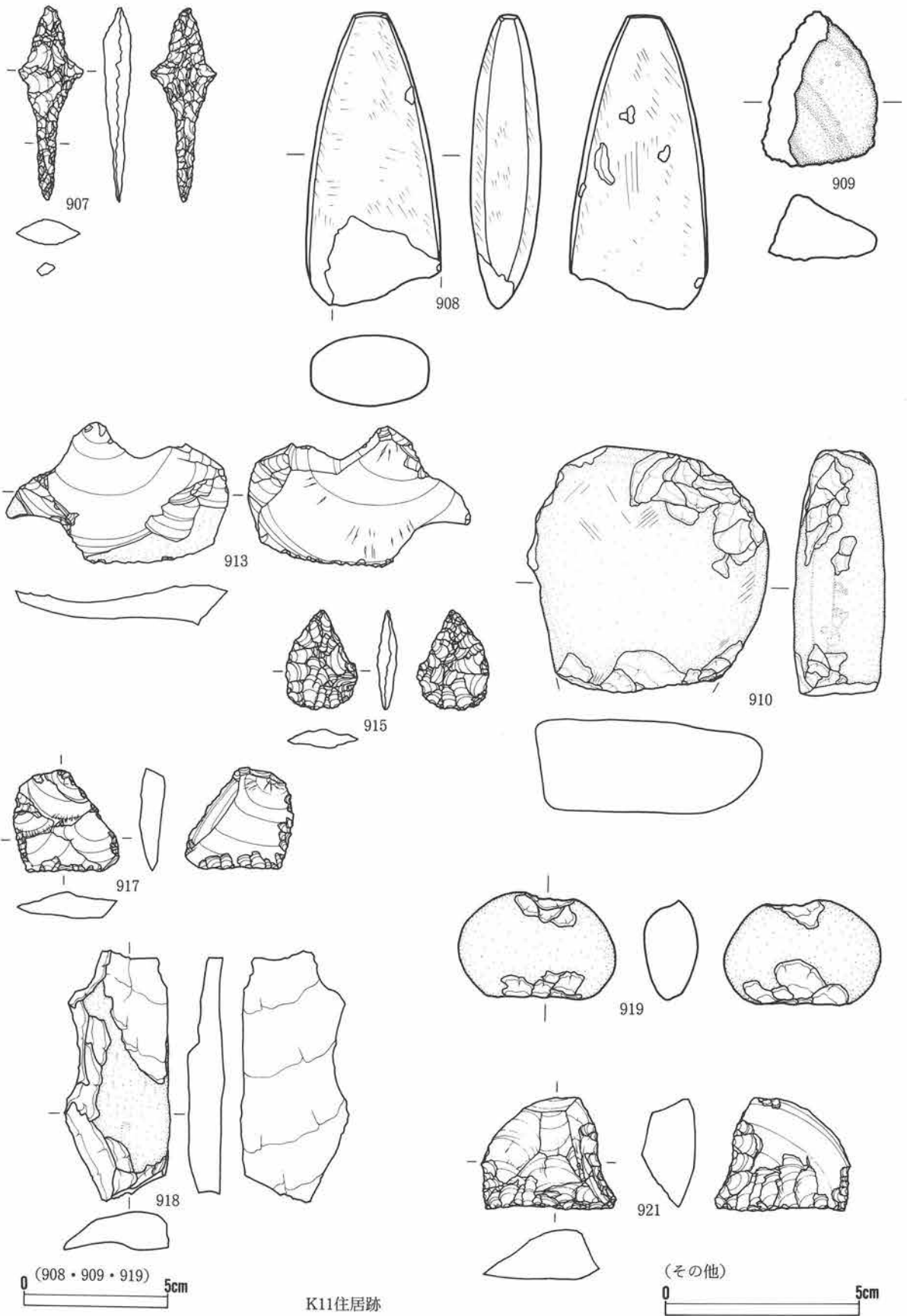
第170図 遺構内出土土製品 3



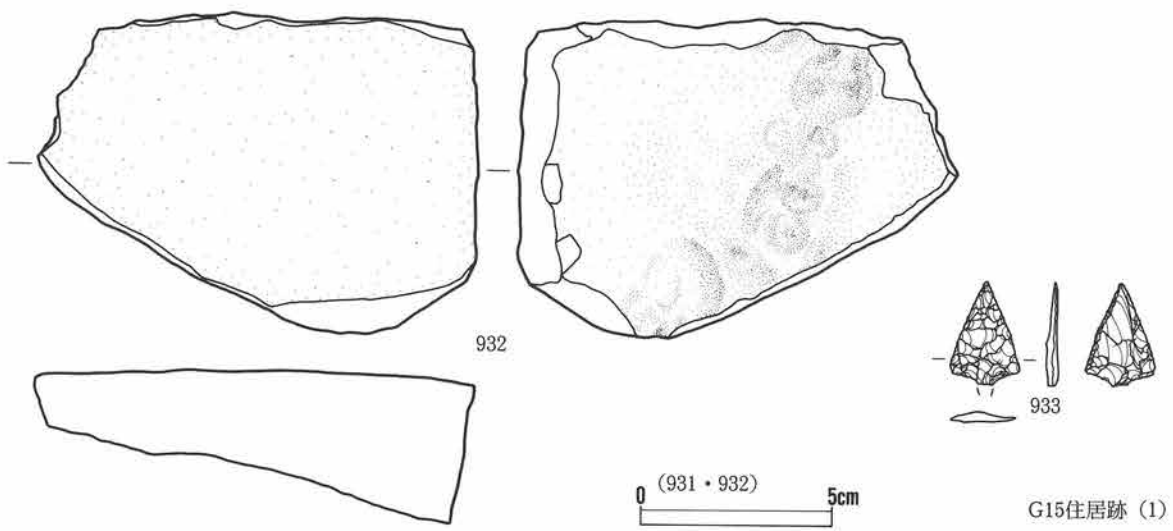
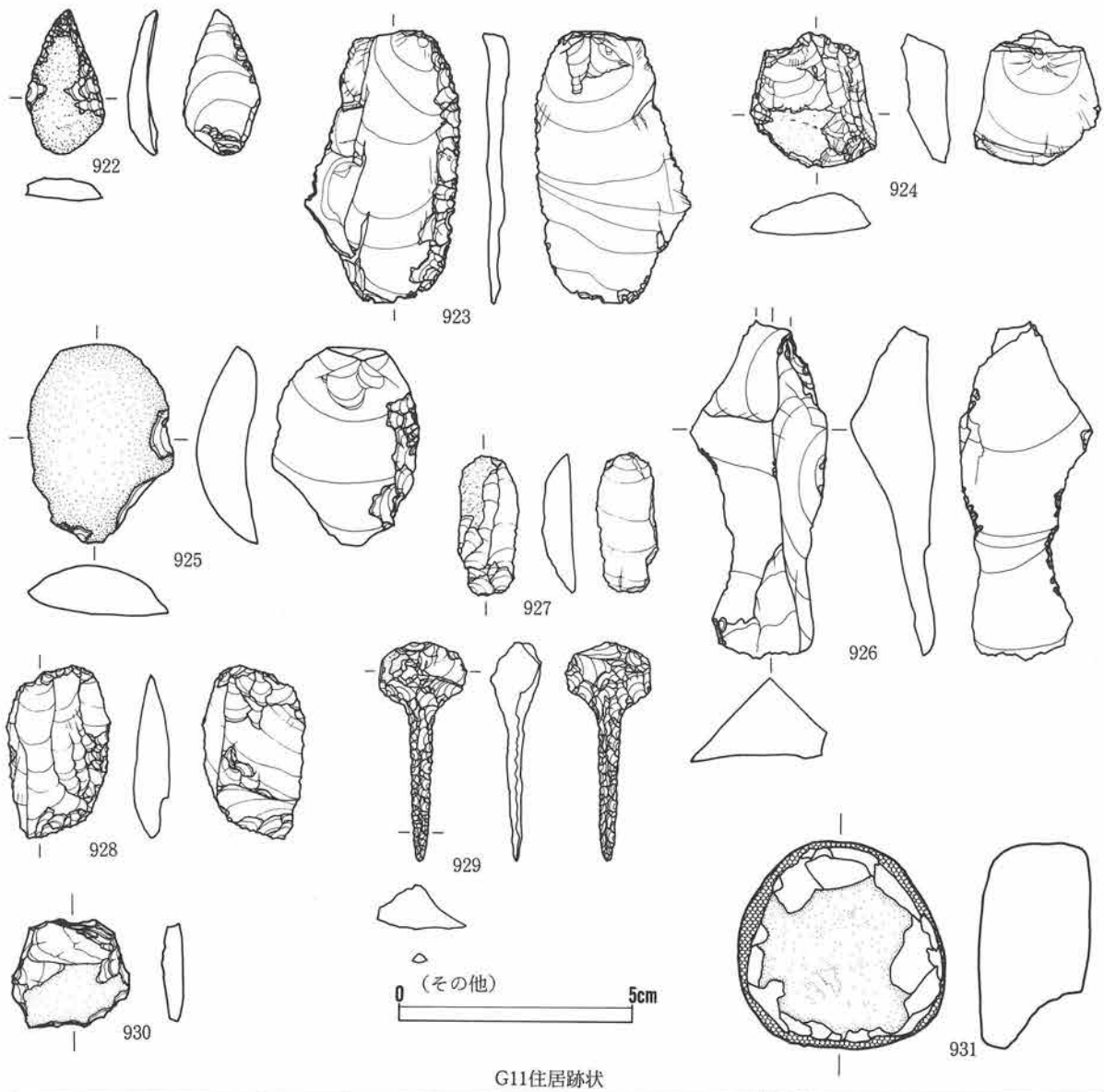
第171図 遺構内出土土製品 4



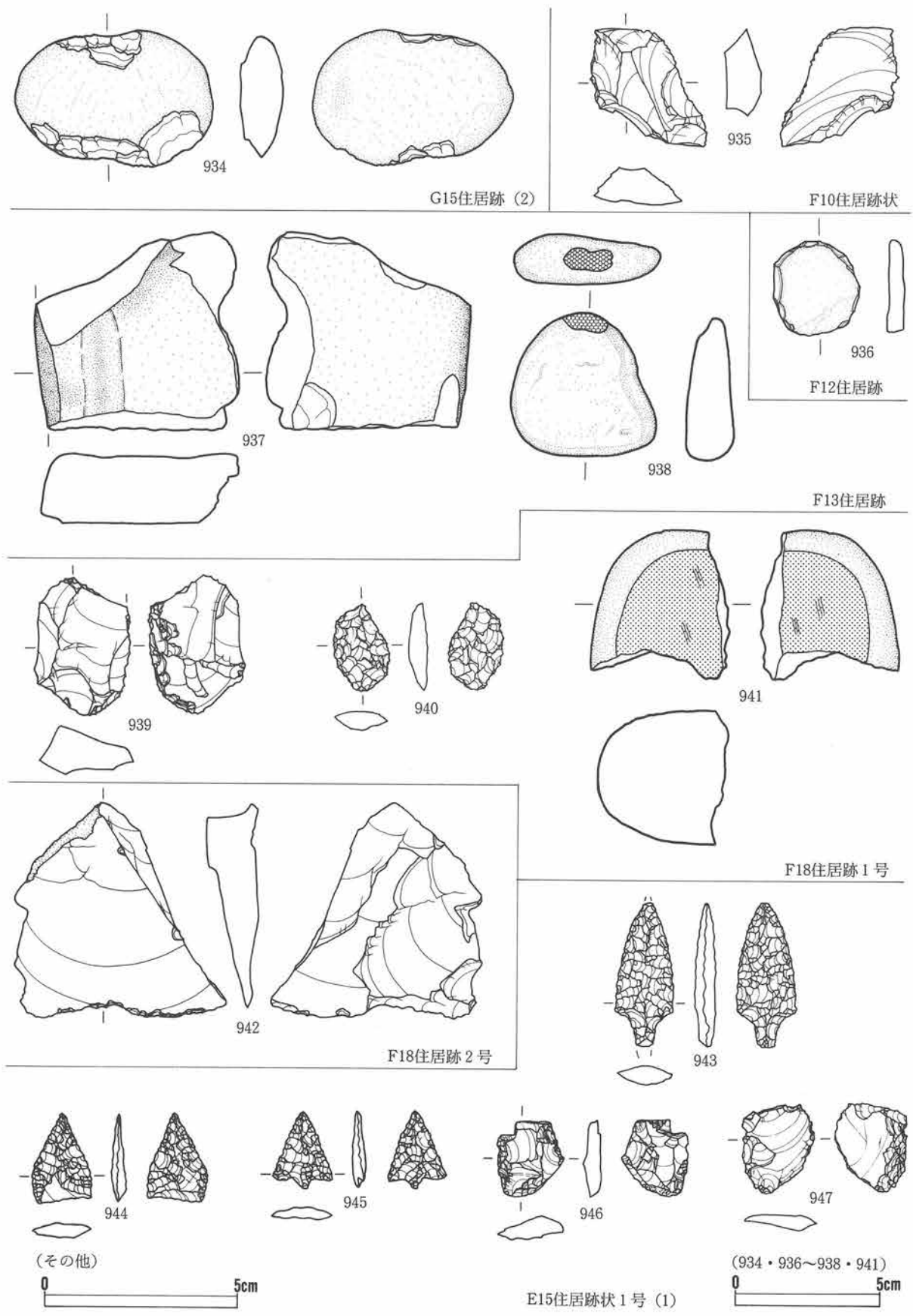
第172図 遺構内出土土製品5



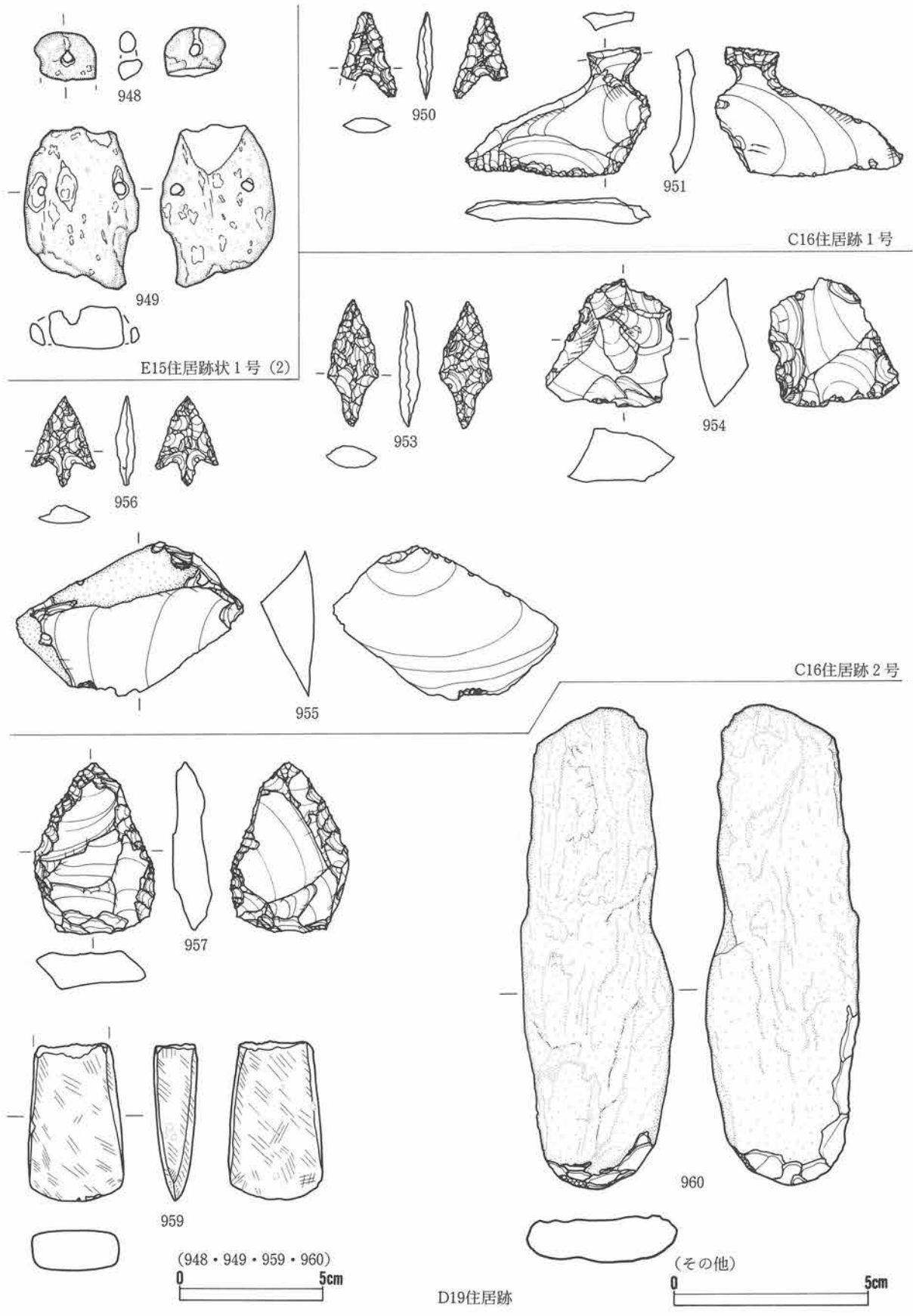
第173図 遺構内出土石器 1



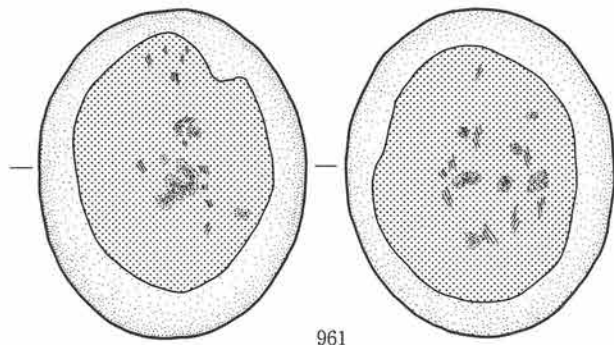
第174図 遺構内出土石器 2



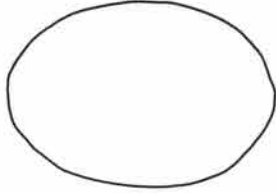
第175図 遺構内出土石器 3



第176図 遺構内出土石器 4

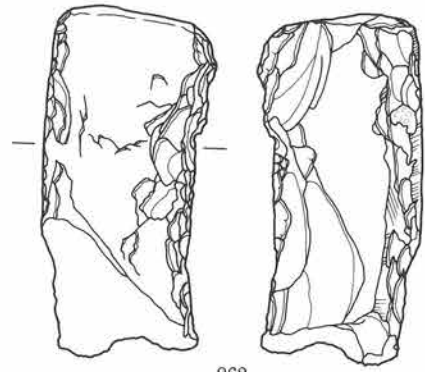


961



(961・962)
0 5cm

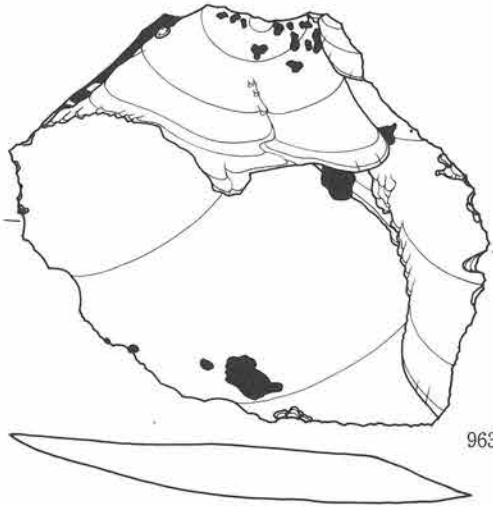
C22住居跡状 1号



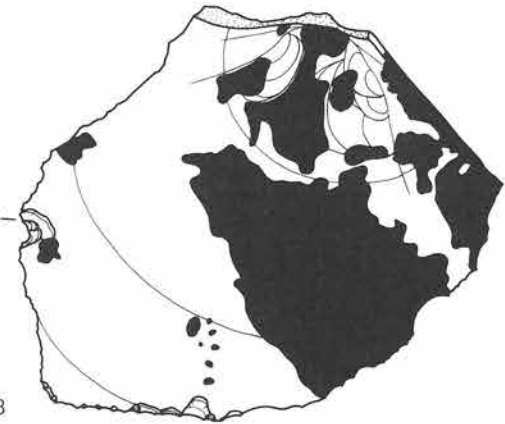
962



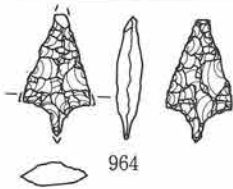
C23住居跡状 1号



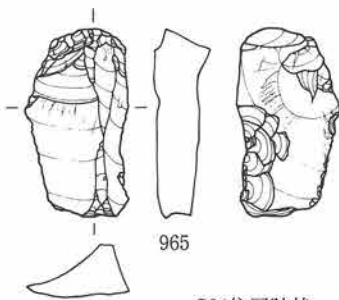
963



C23住居跡状 2号

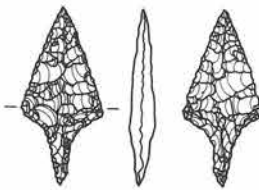


964

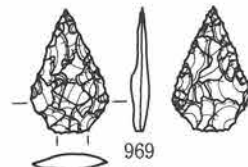


965

C24住居跡状

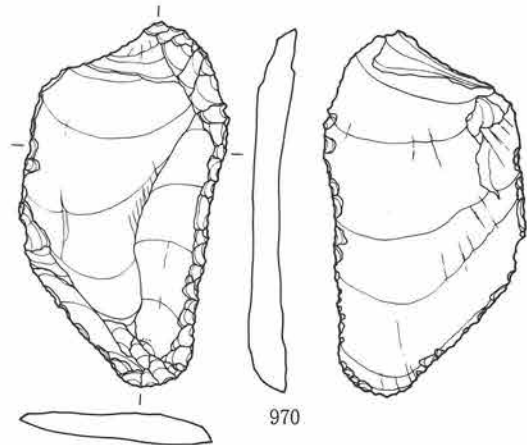


968



969

B21住居跡状 3号

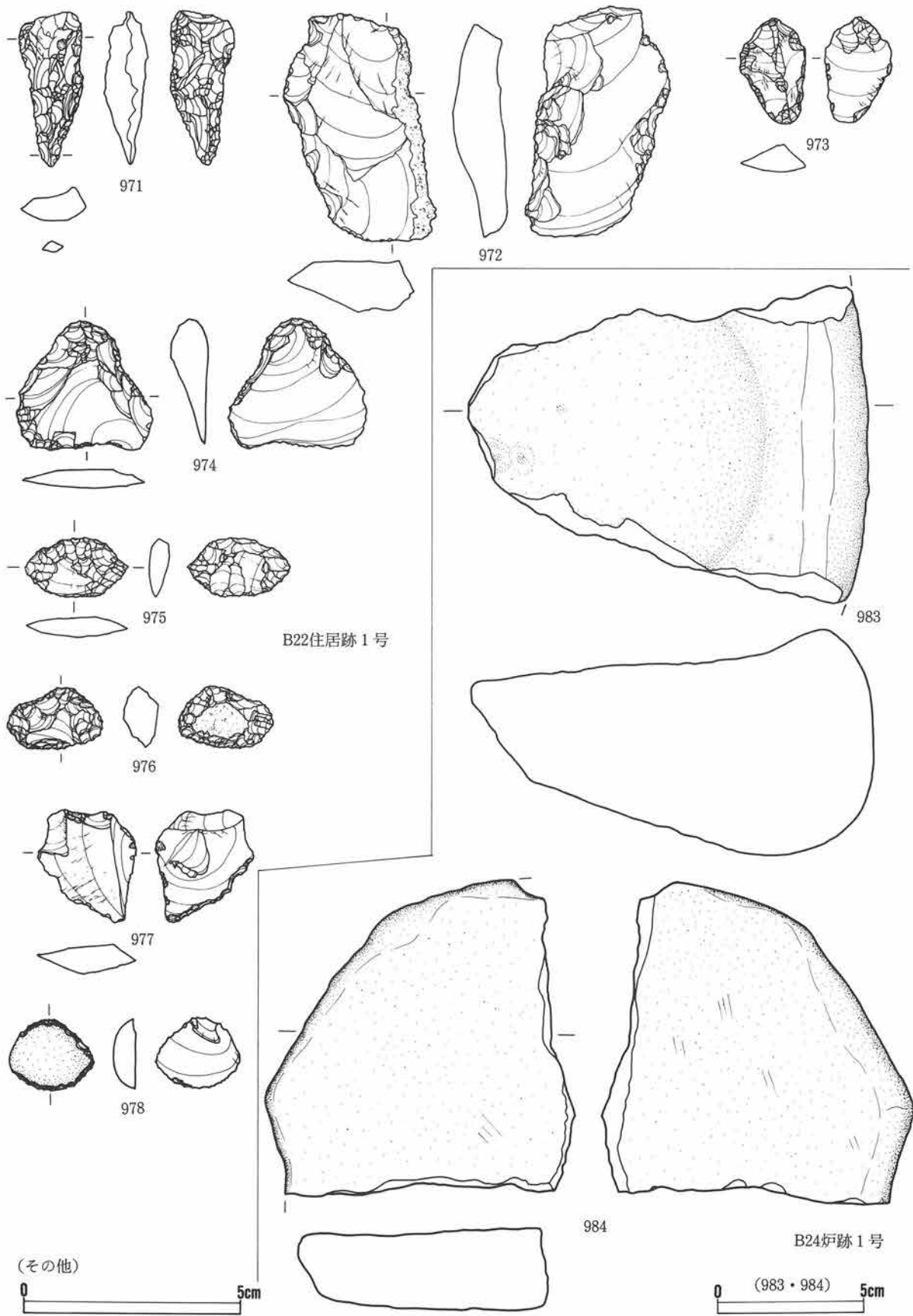


970

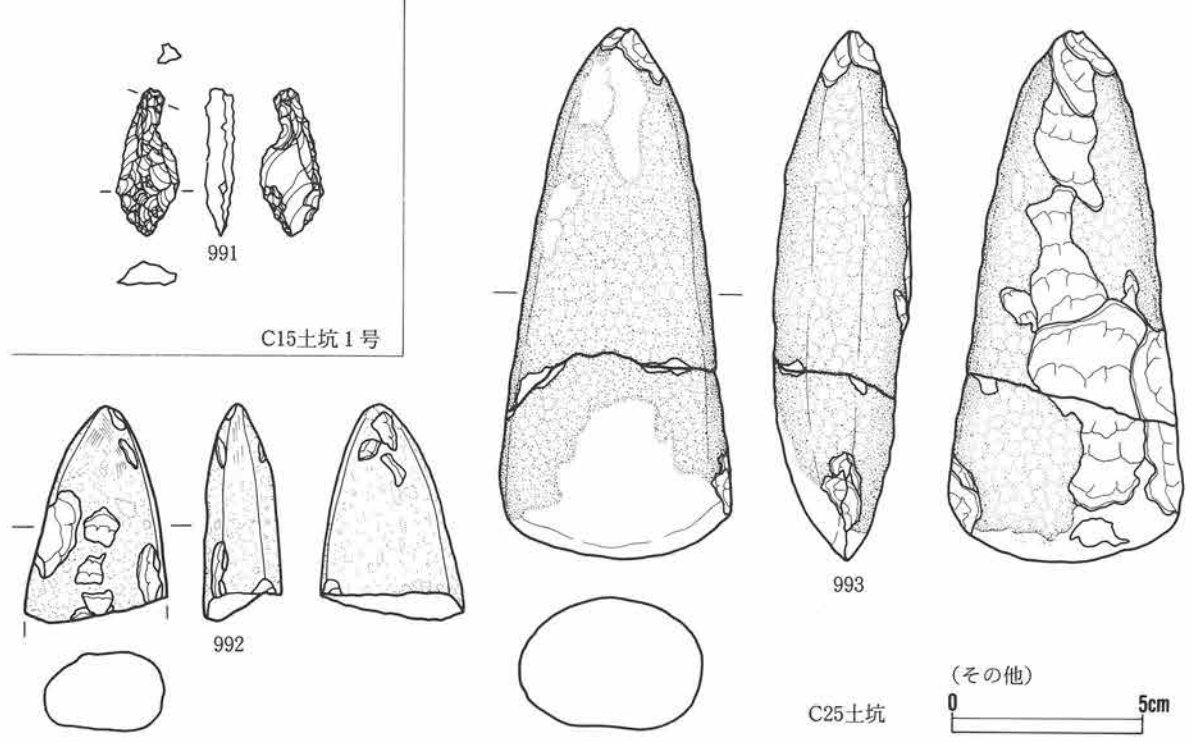
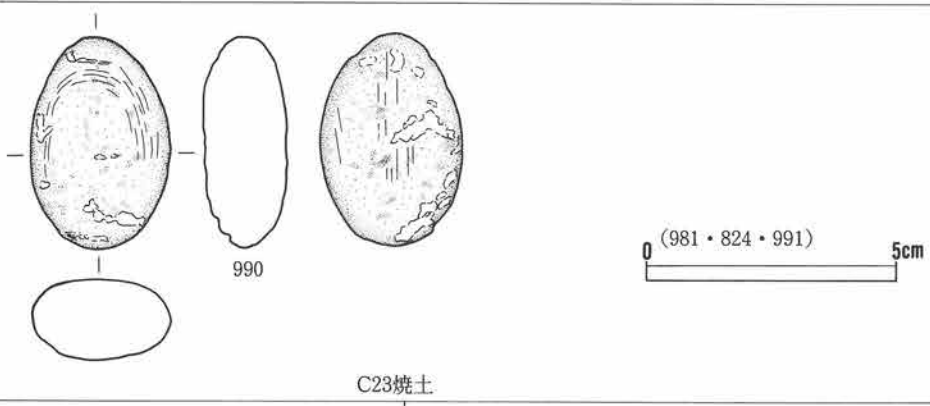
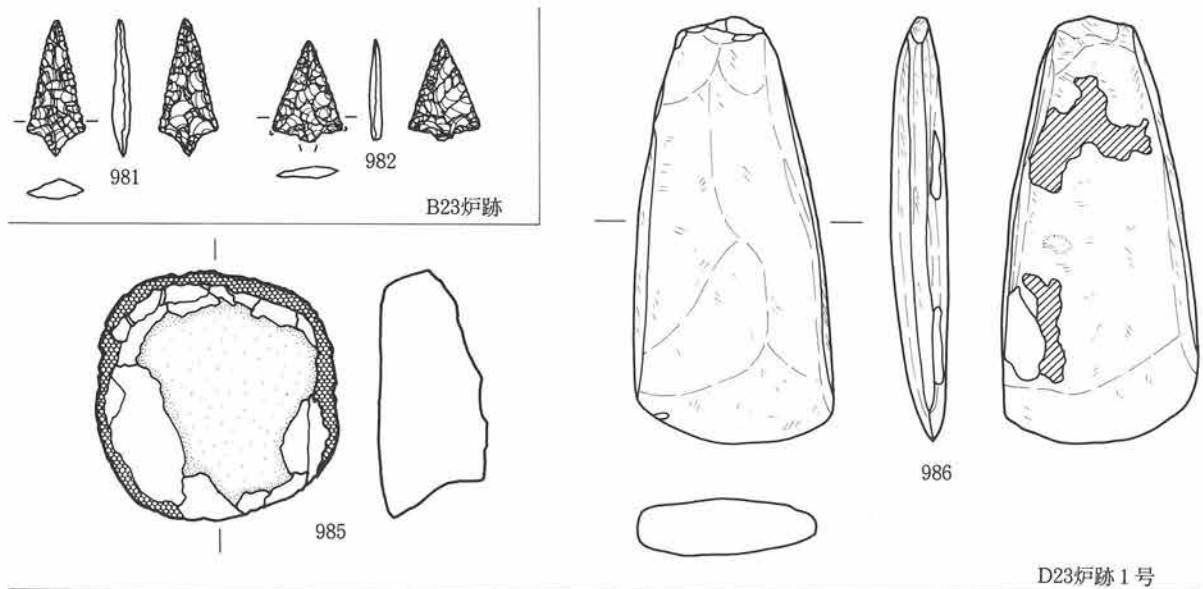
(その他)

0 5cm

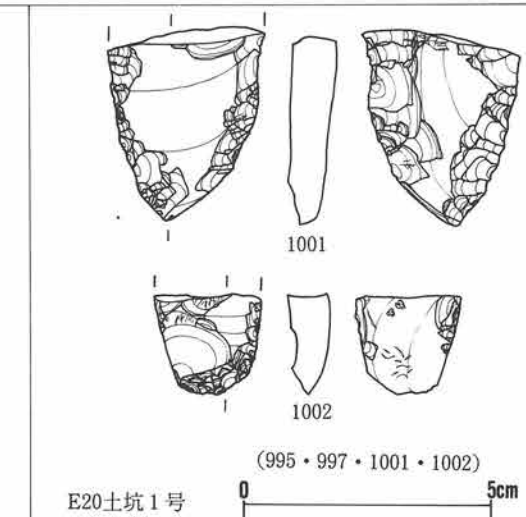
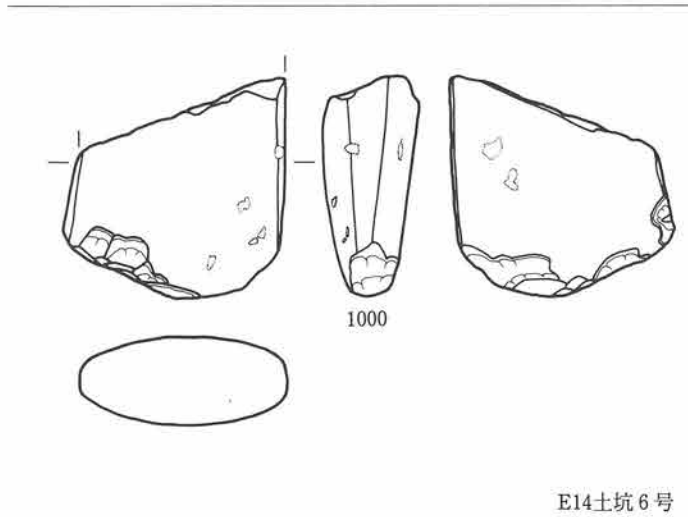
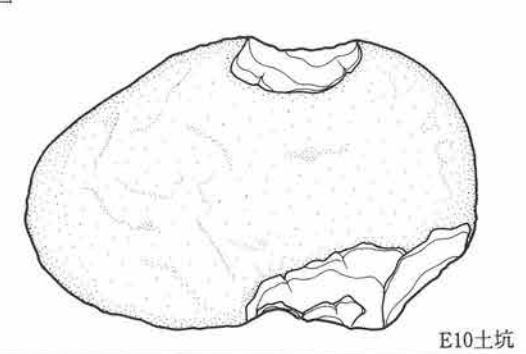
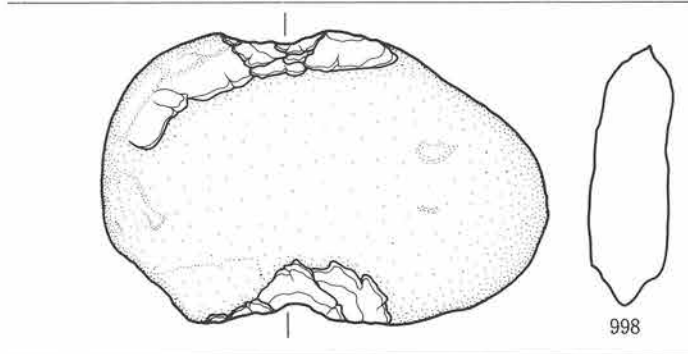
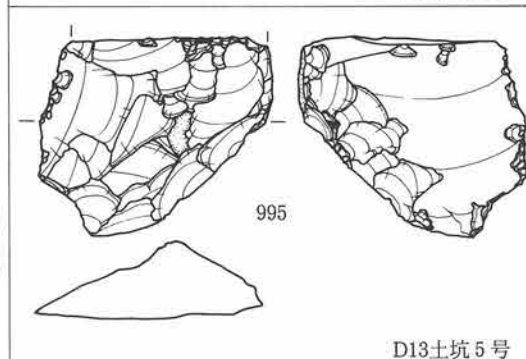
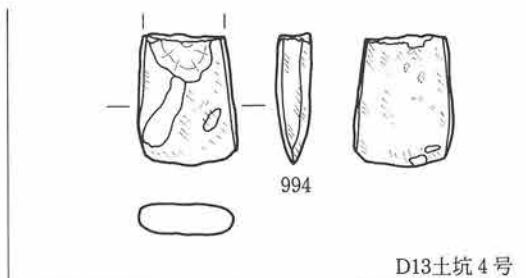
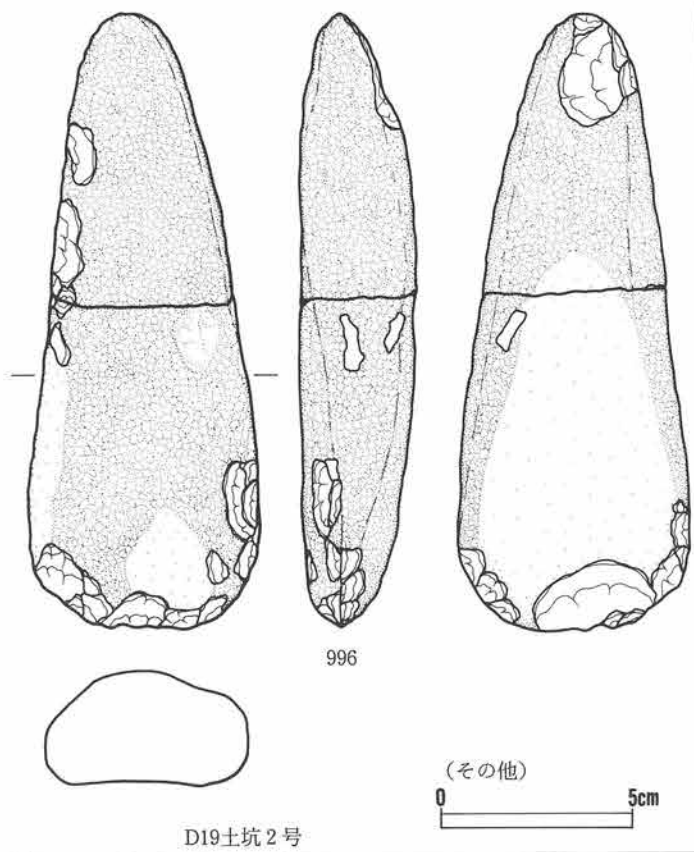
第177図 遺構内出土石器 5



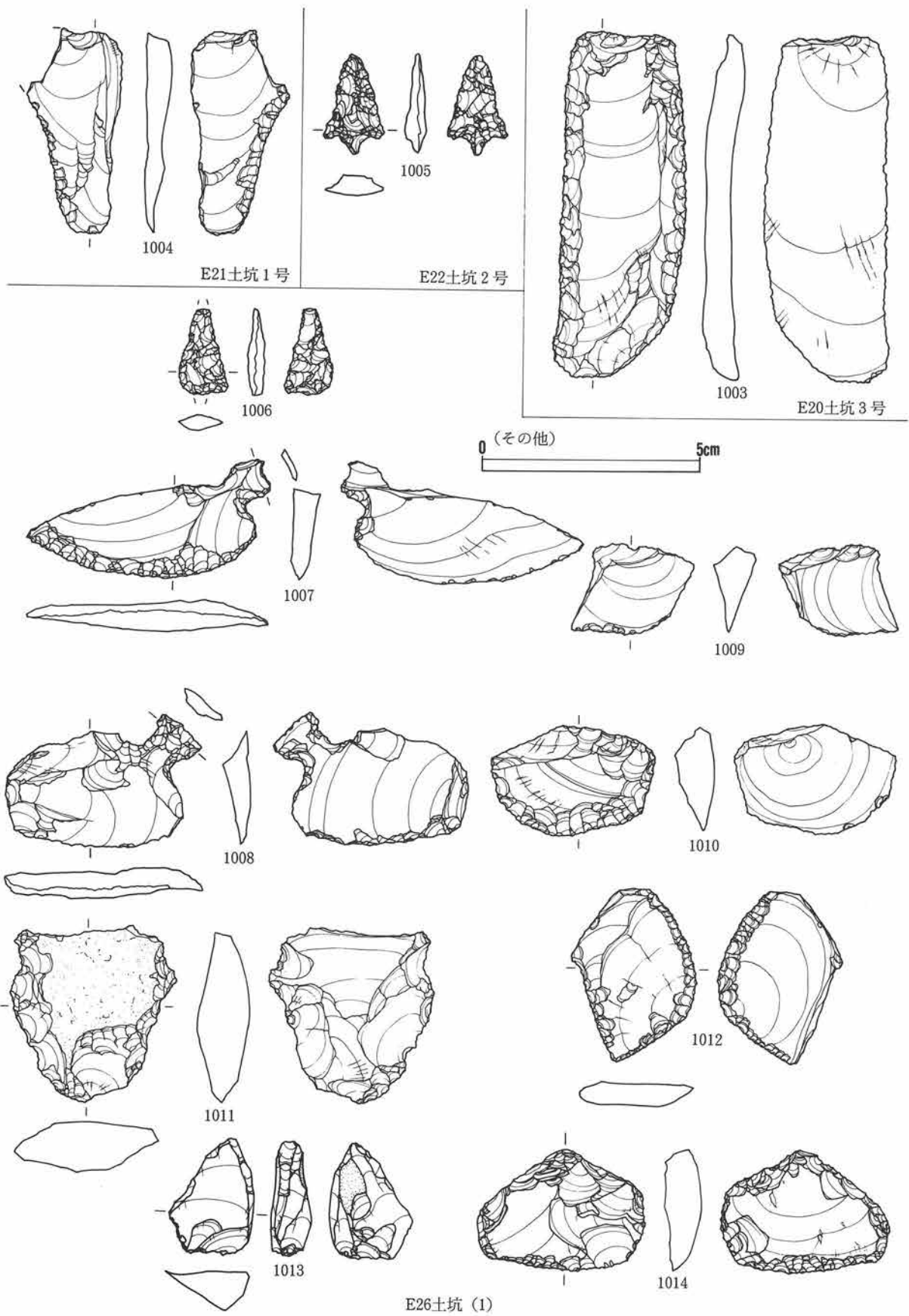
第178図 遺構内出土石器6



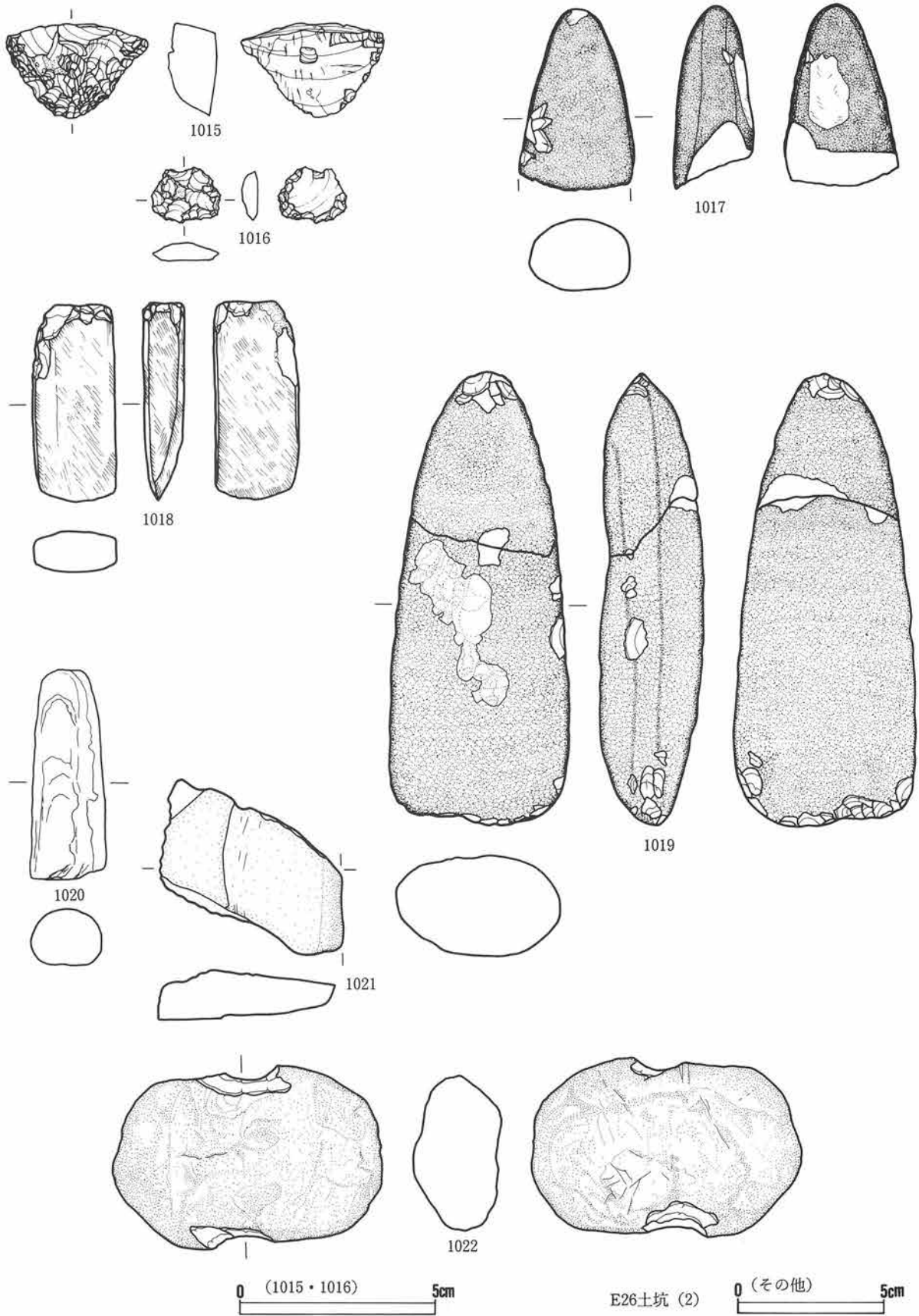
第179図 遺構内出土石器 7



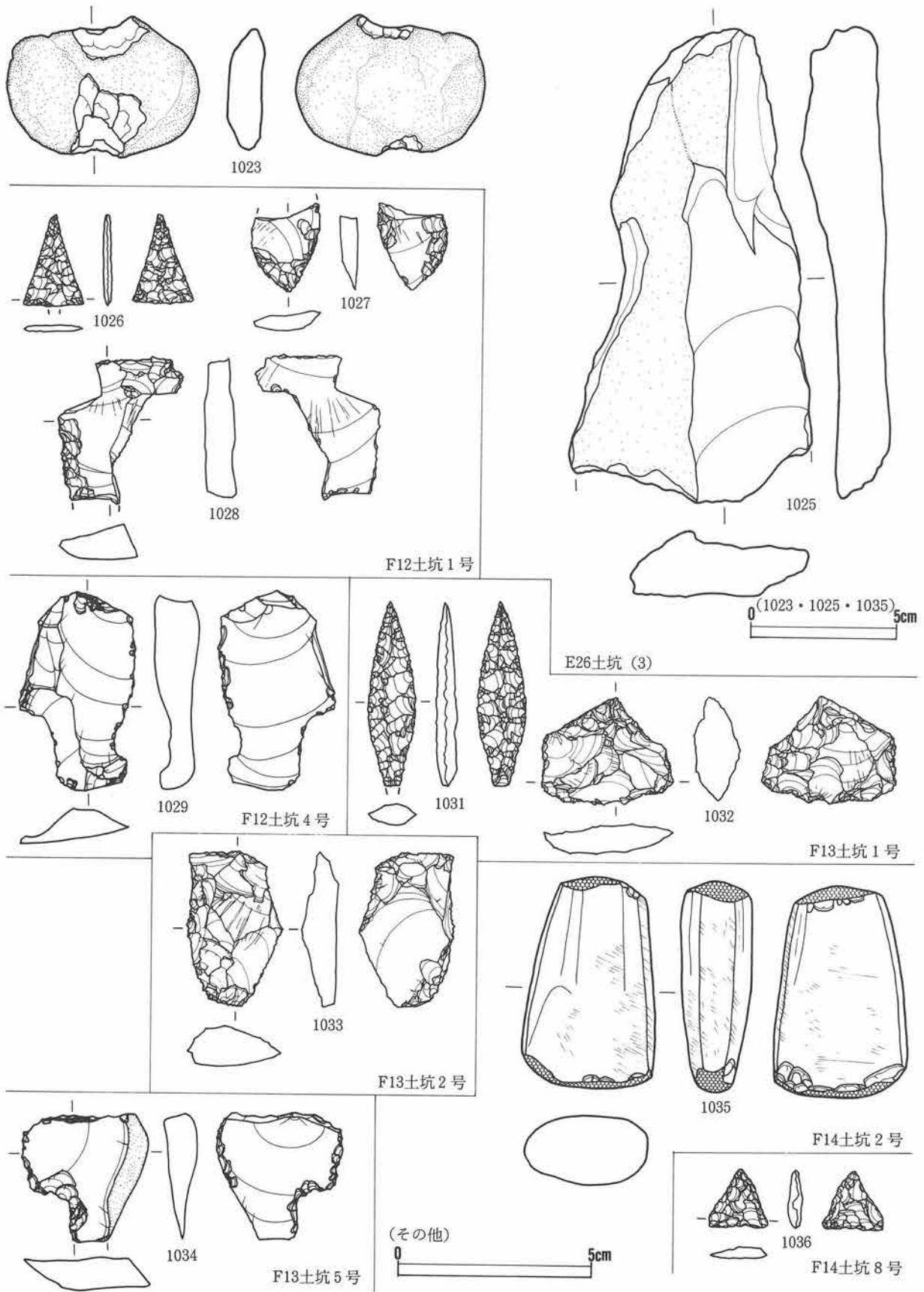
第180図 遺構内出土石器 8



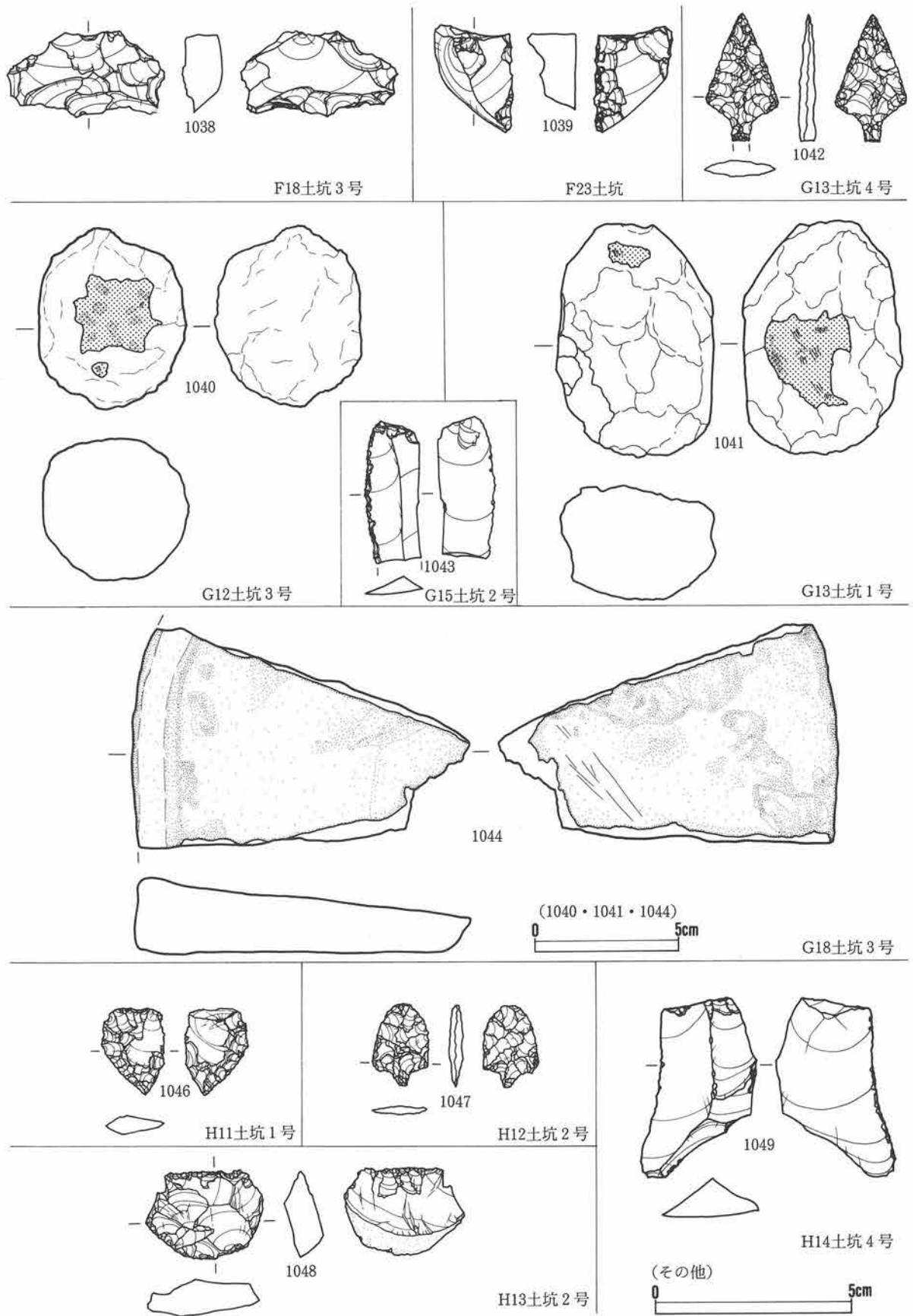
第181図 遺構内出土石器 9



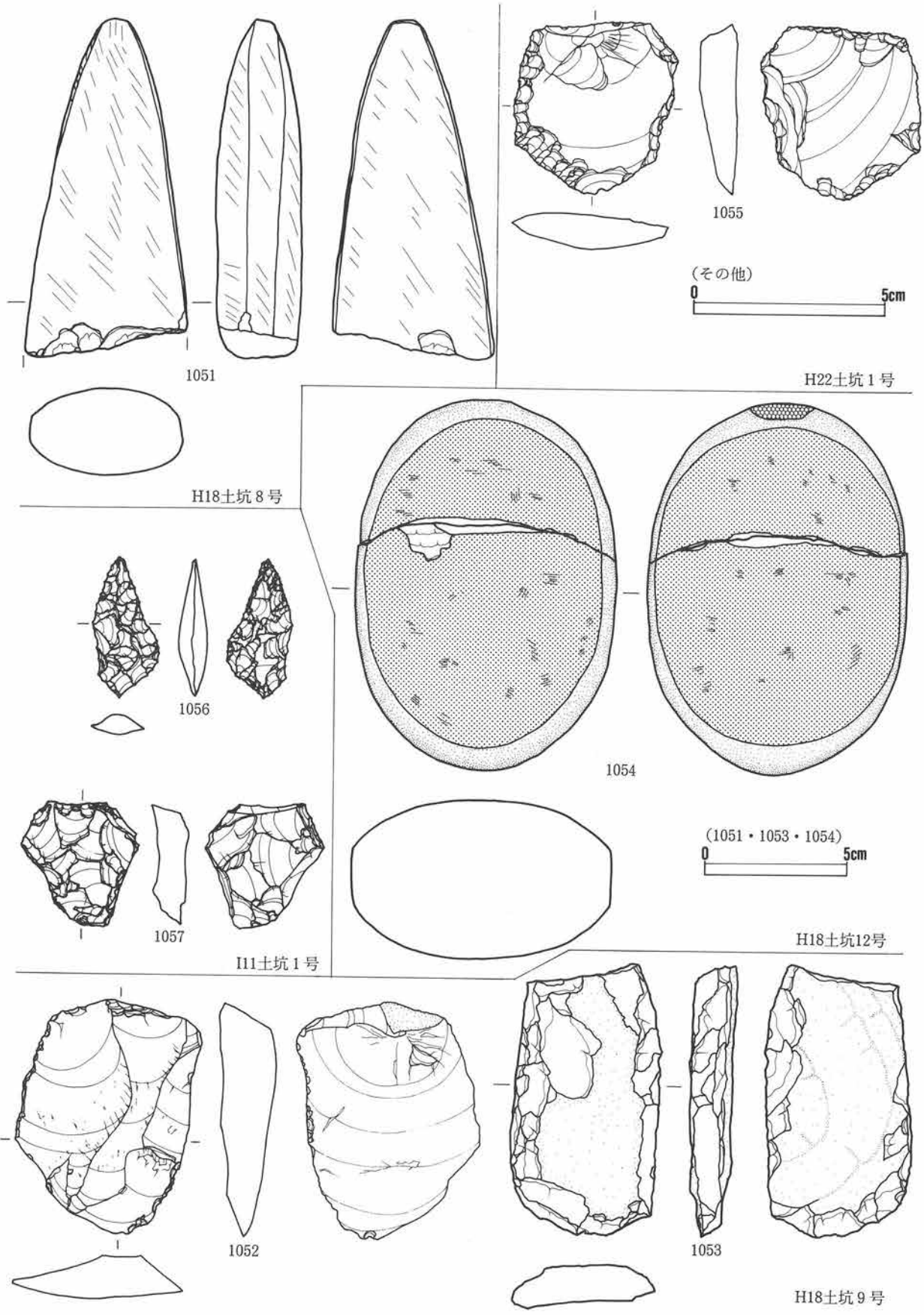
第182図 遺構内出土石器10



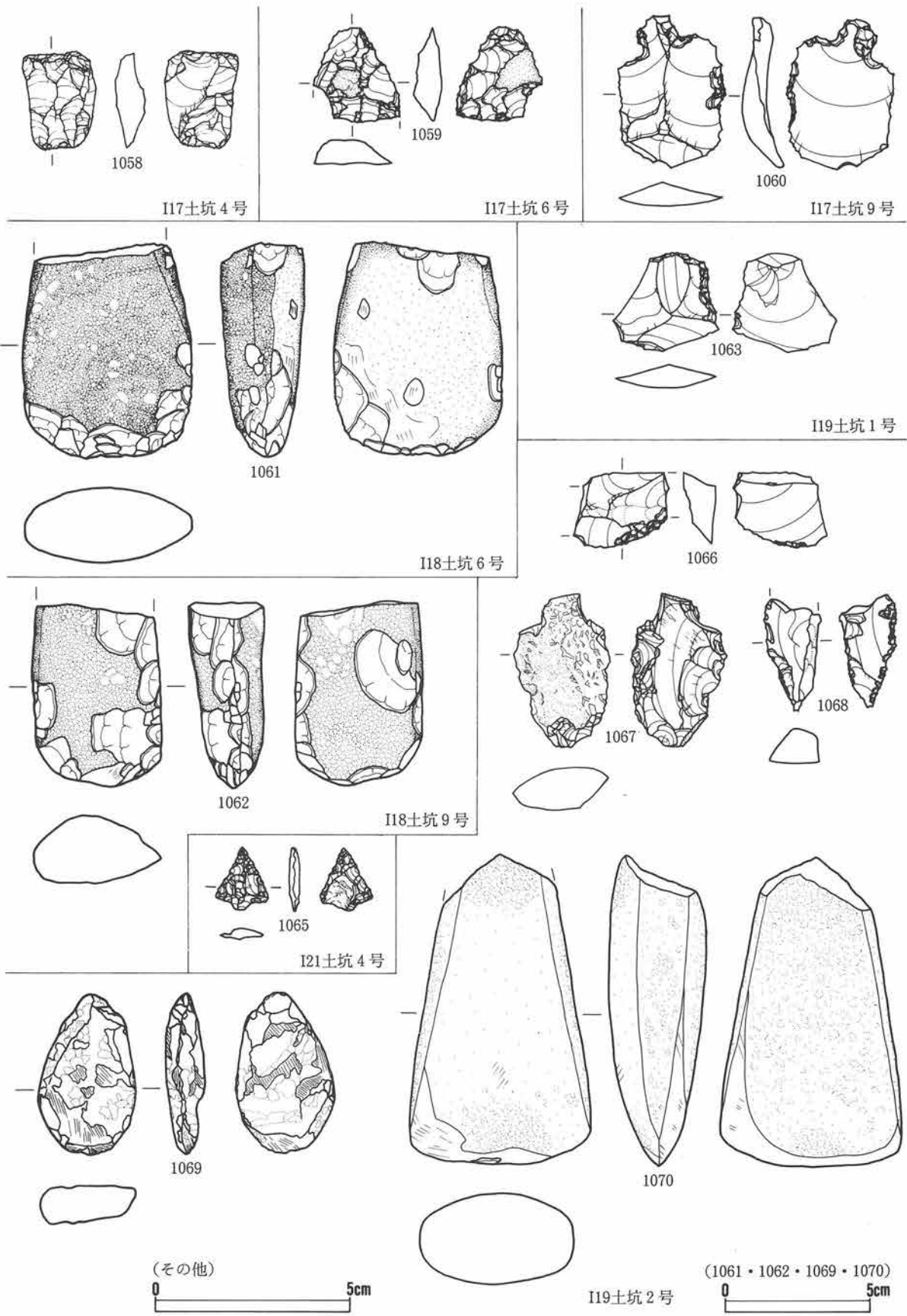
第183図 遺構内出土石器11



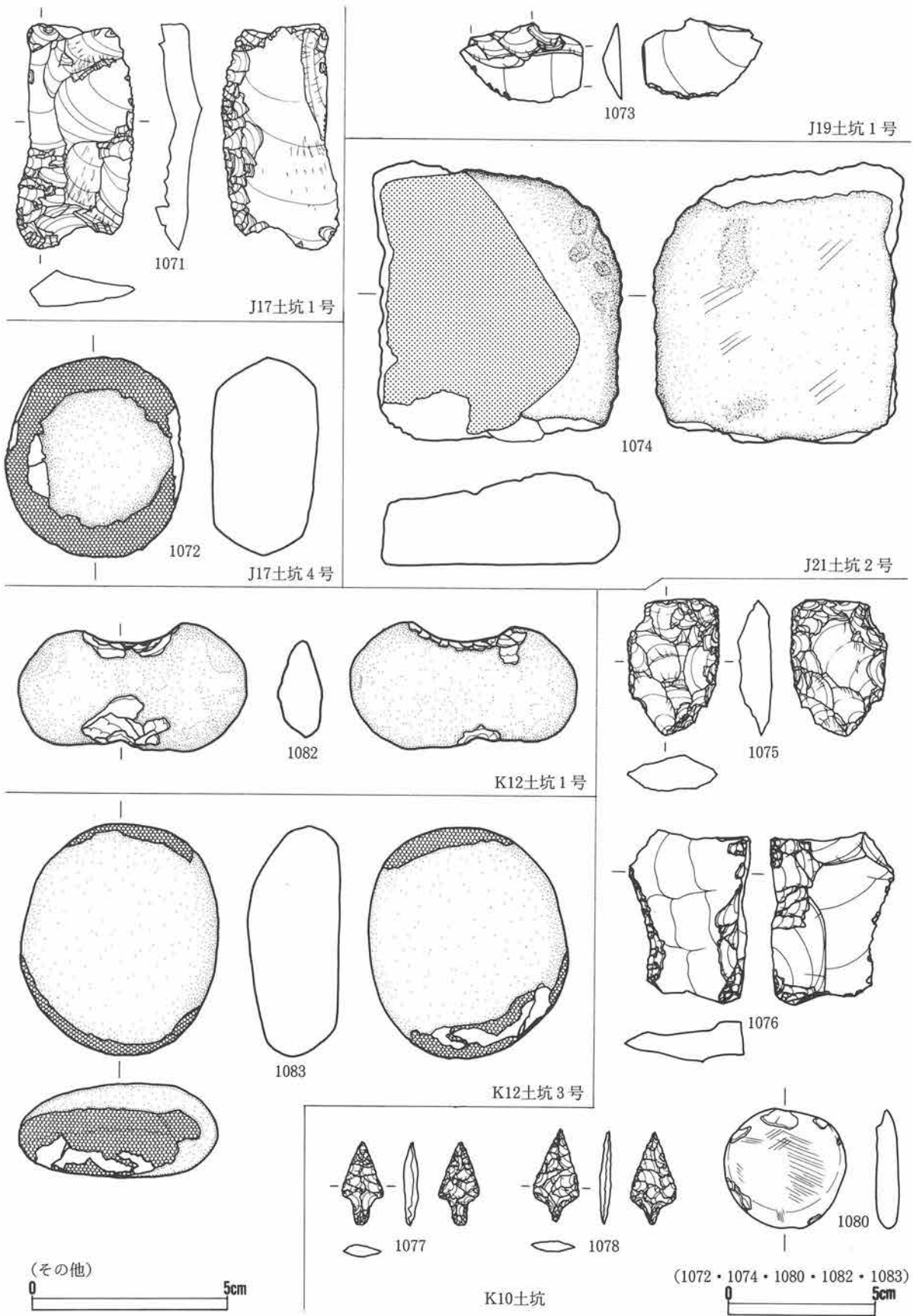
第184図 遺構内出土石器12



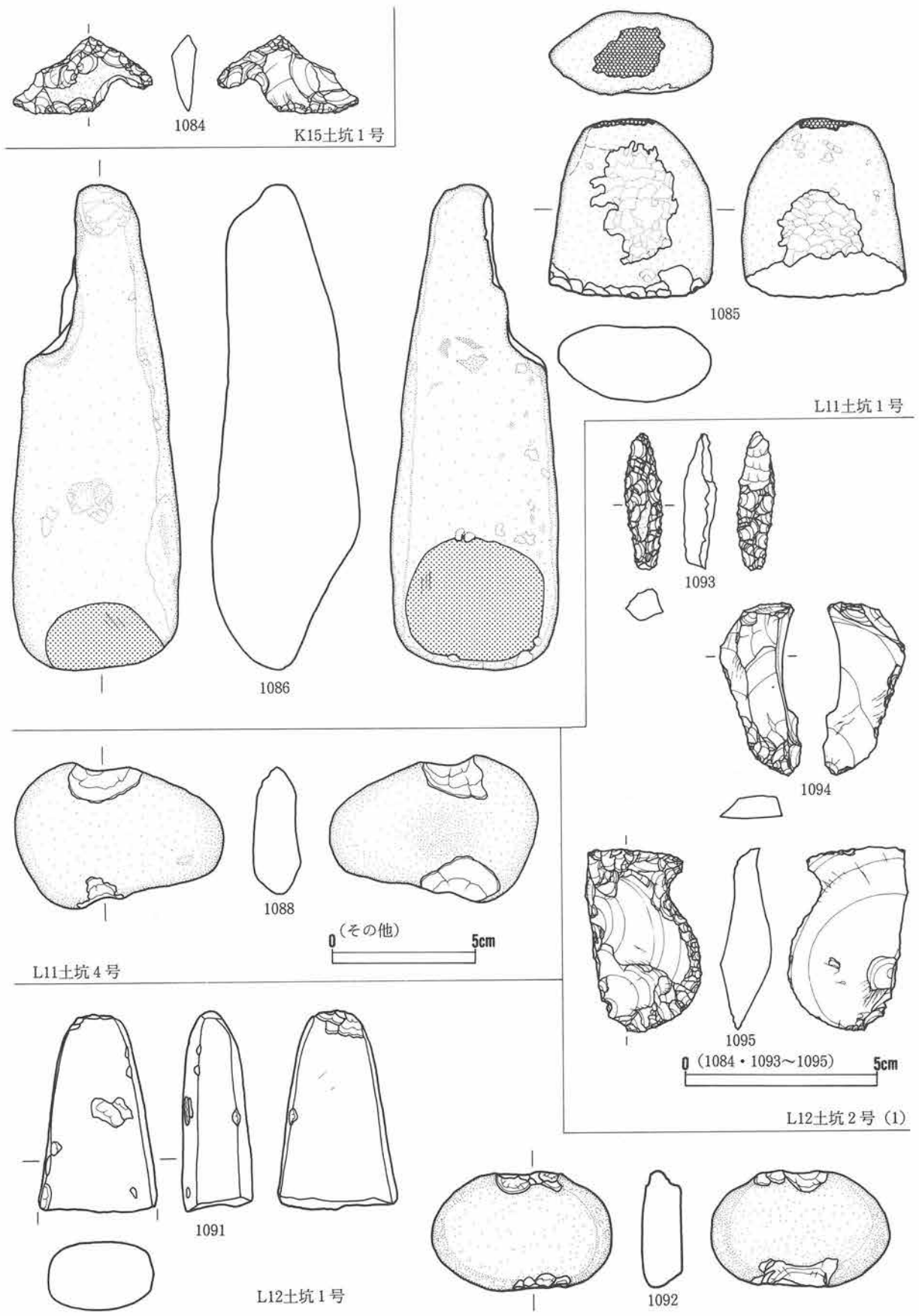
第185図 遺構内出土石器13



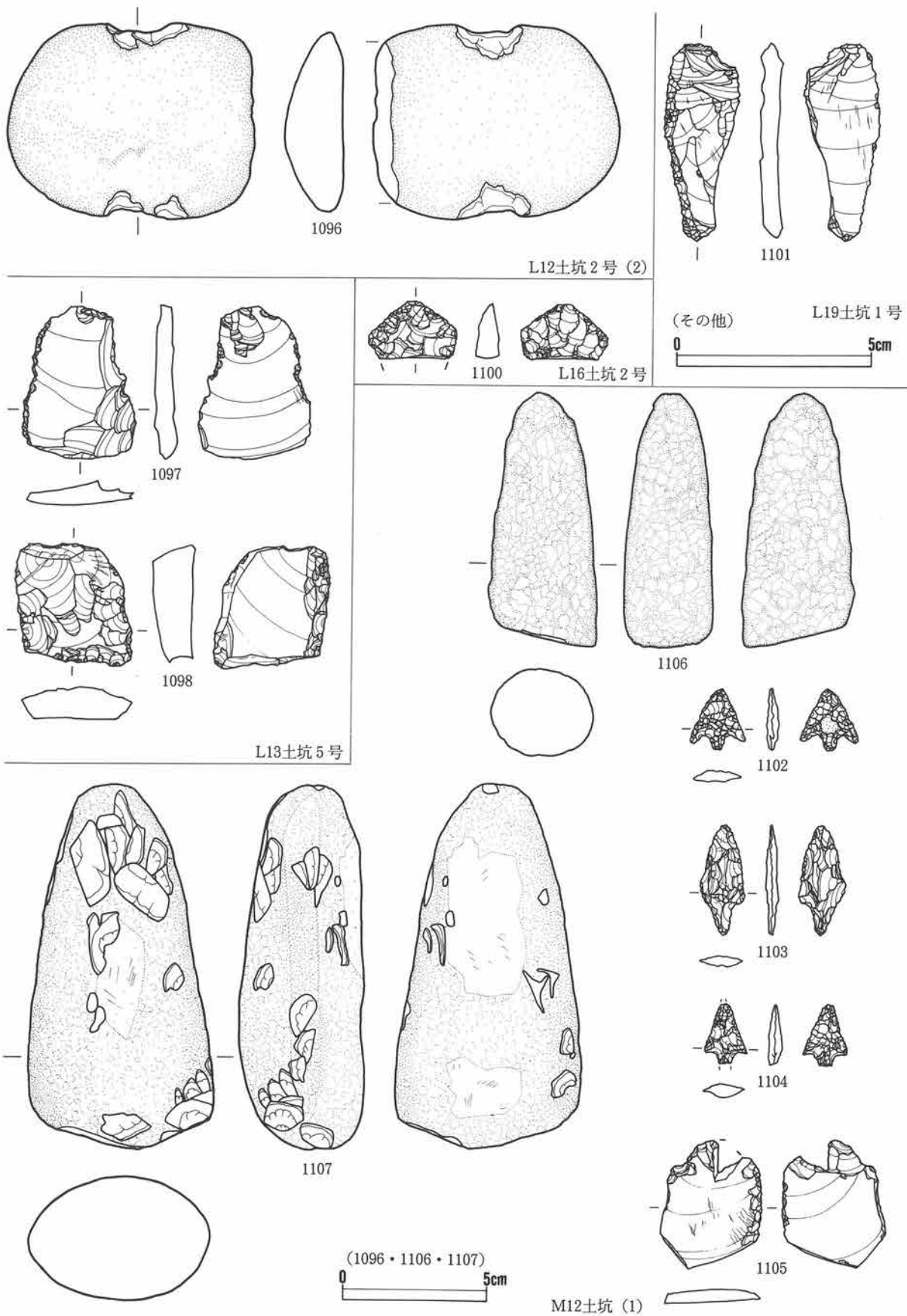
第186図 遺構内出土石器14



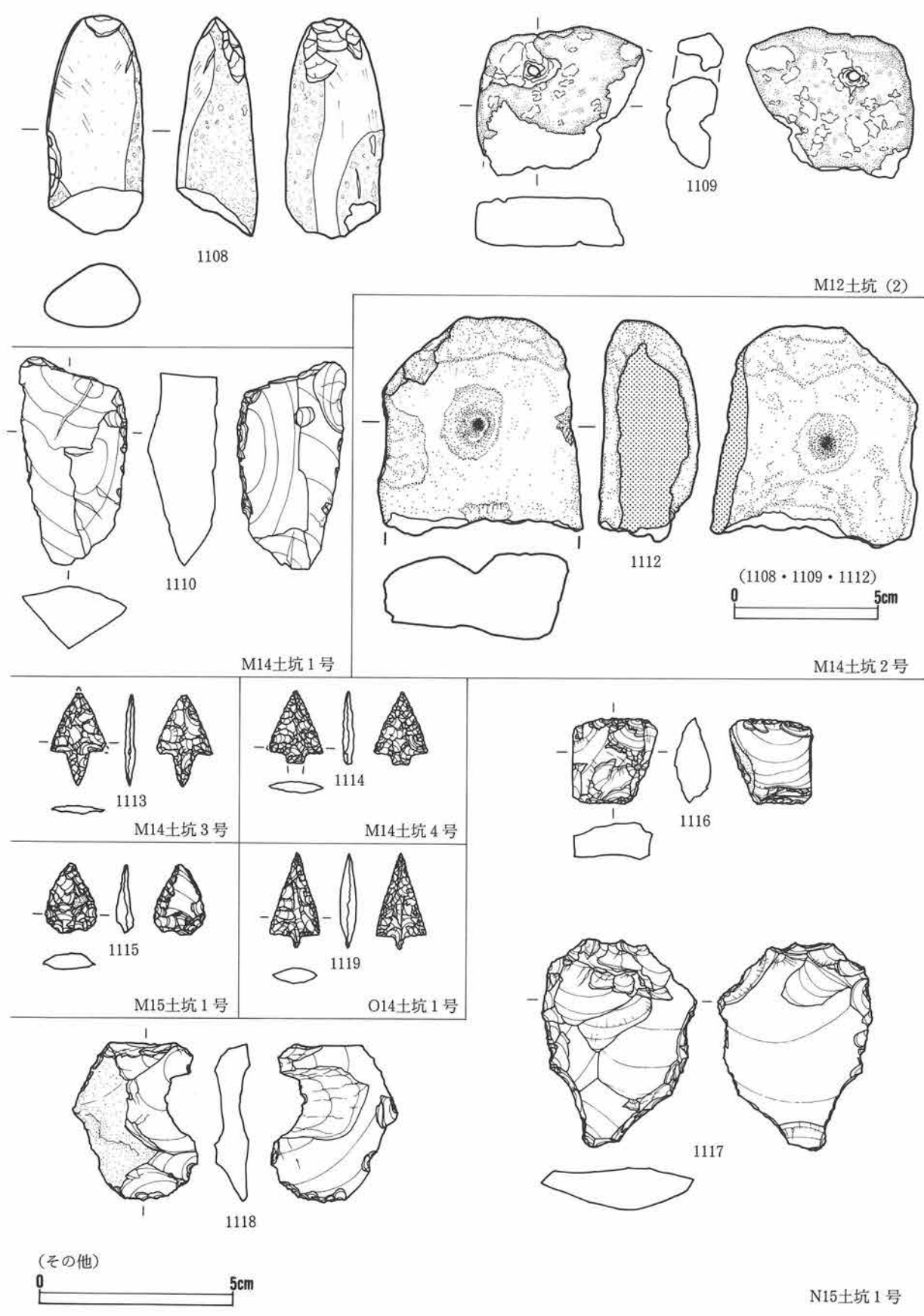
第187図 遺構内出土石器15



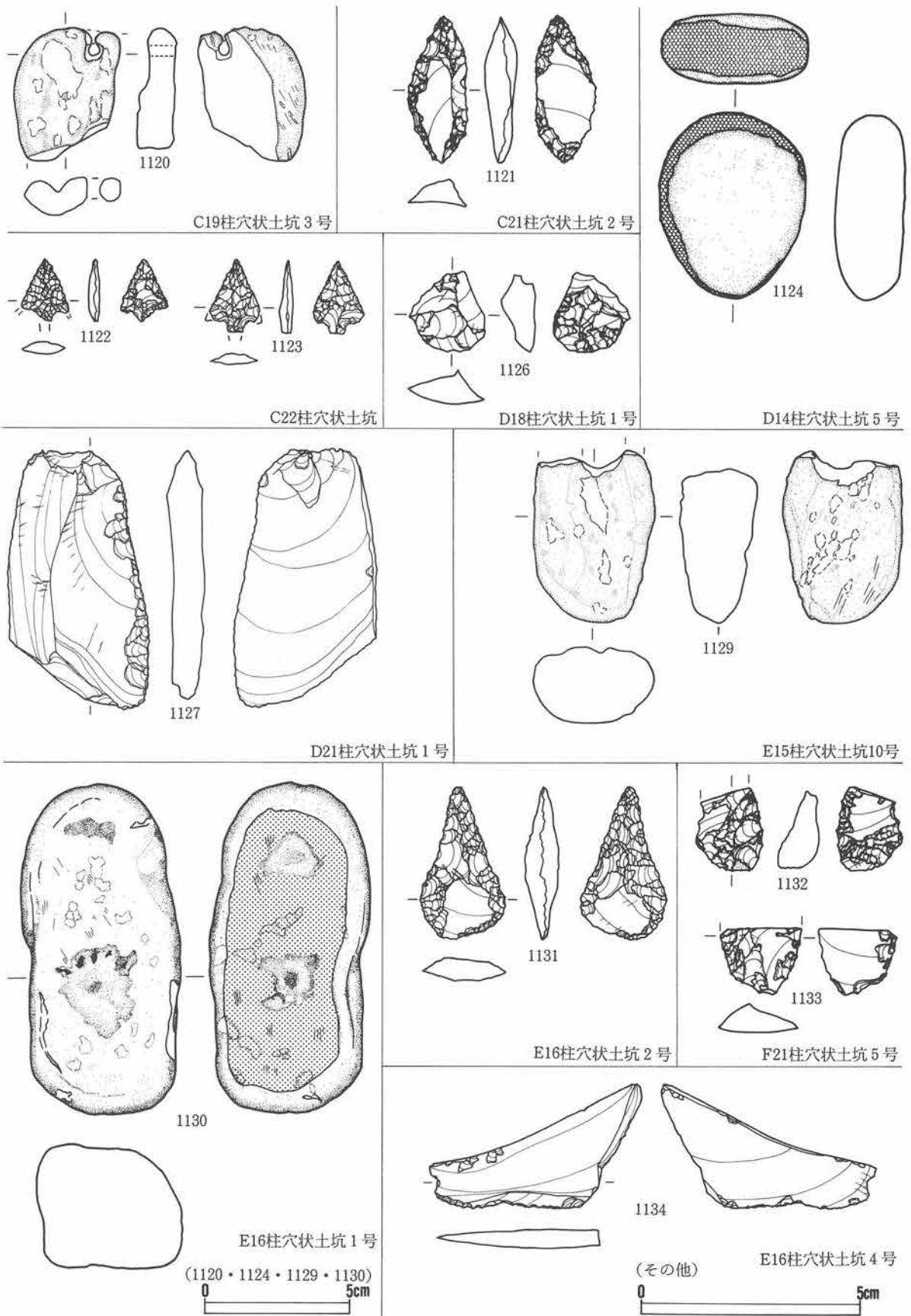
第188図 遺構内出土石器16



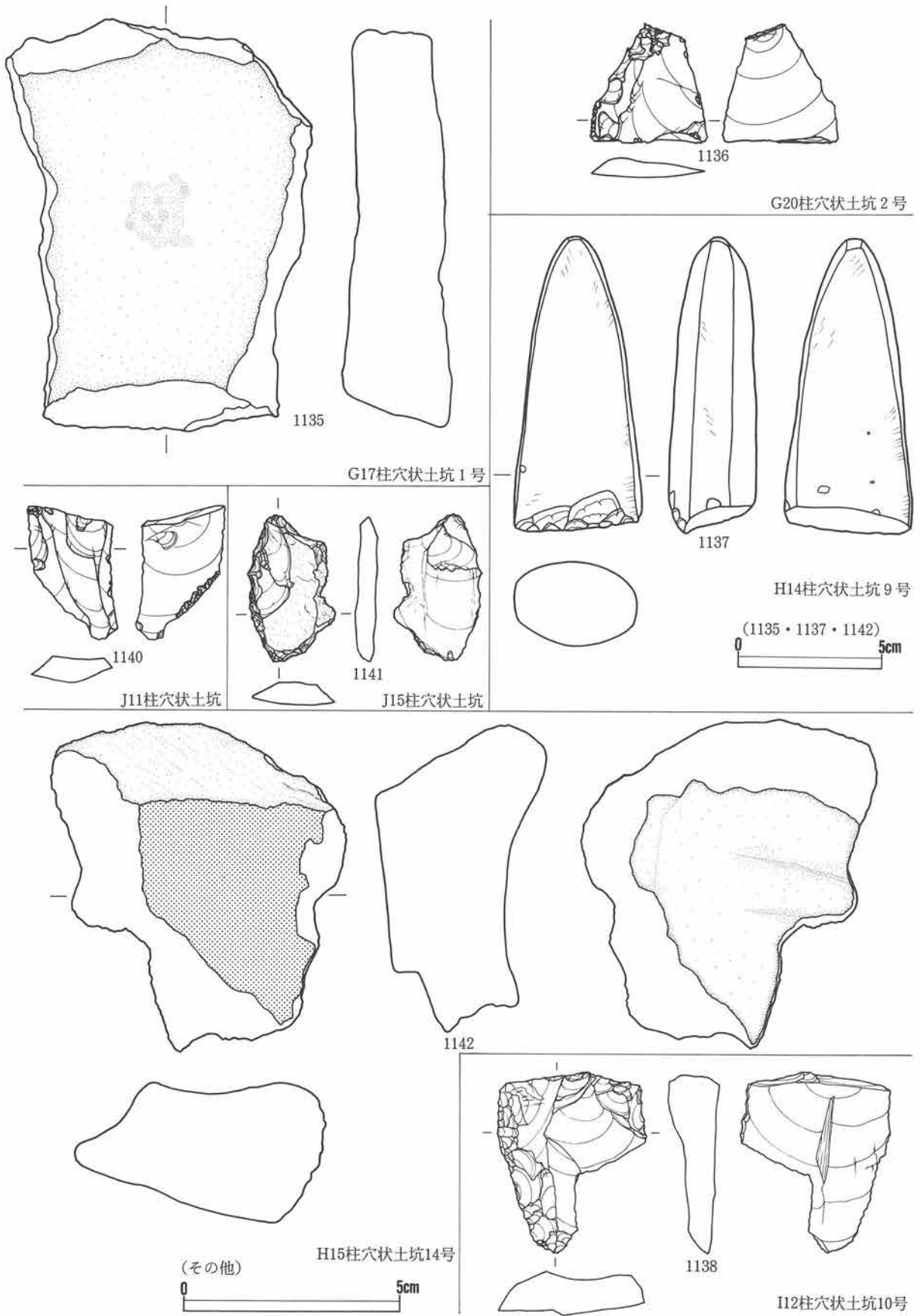
第189図 遺構内出土石器17



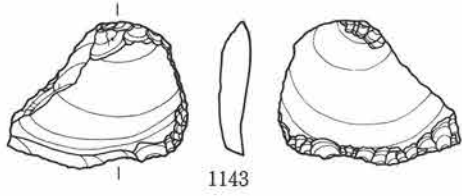
第190図 遺構内出土石器18



第191図 遺構内出土石器19

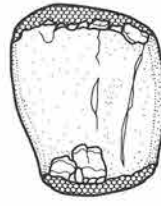
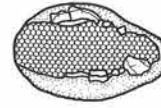


第192図 遺構内出土石器20

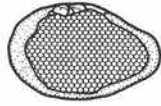


1143

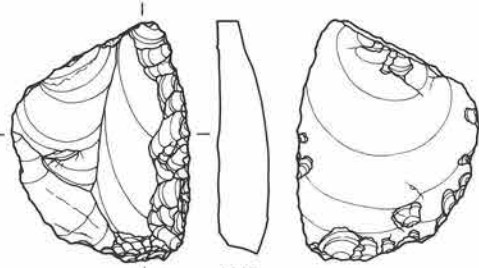
K12柱穴状土坑 1号



1144



K13柱穴状土坑



1145

M12柱穴状土坑



1146

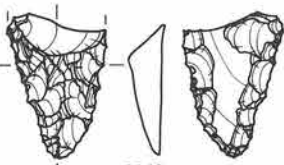


1147

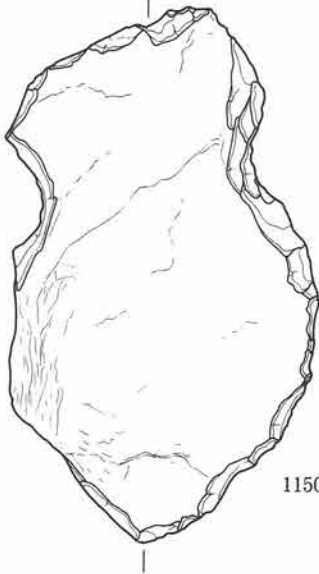
0 (1143・1145~1147・1149) 5cm



N15柱穴状土坑 1号

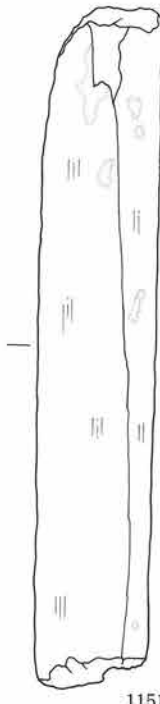


1149

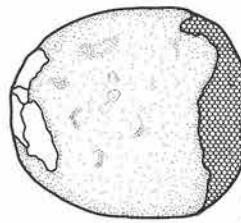


1150

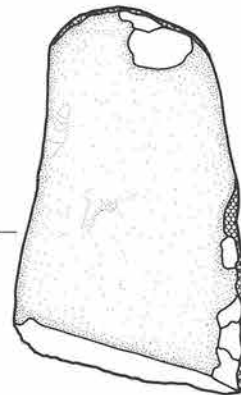
E19集石



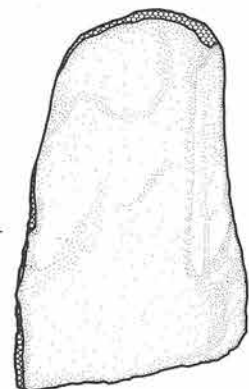
1151



1152



1153

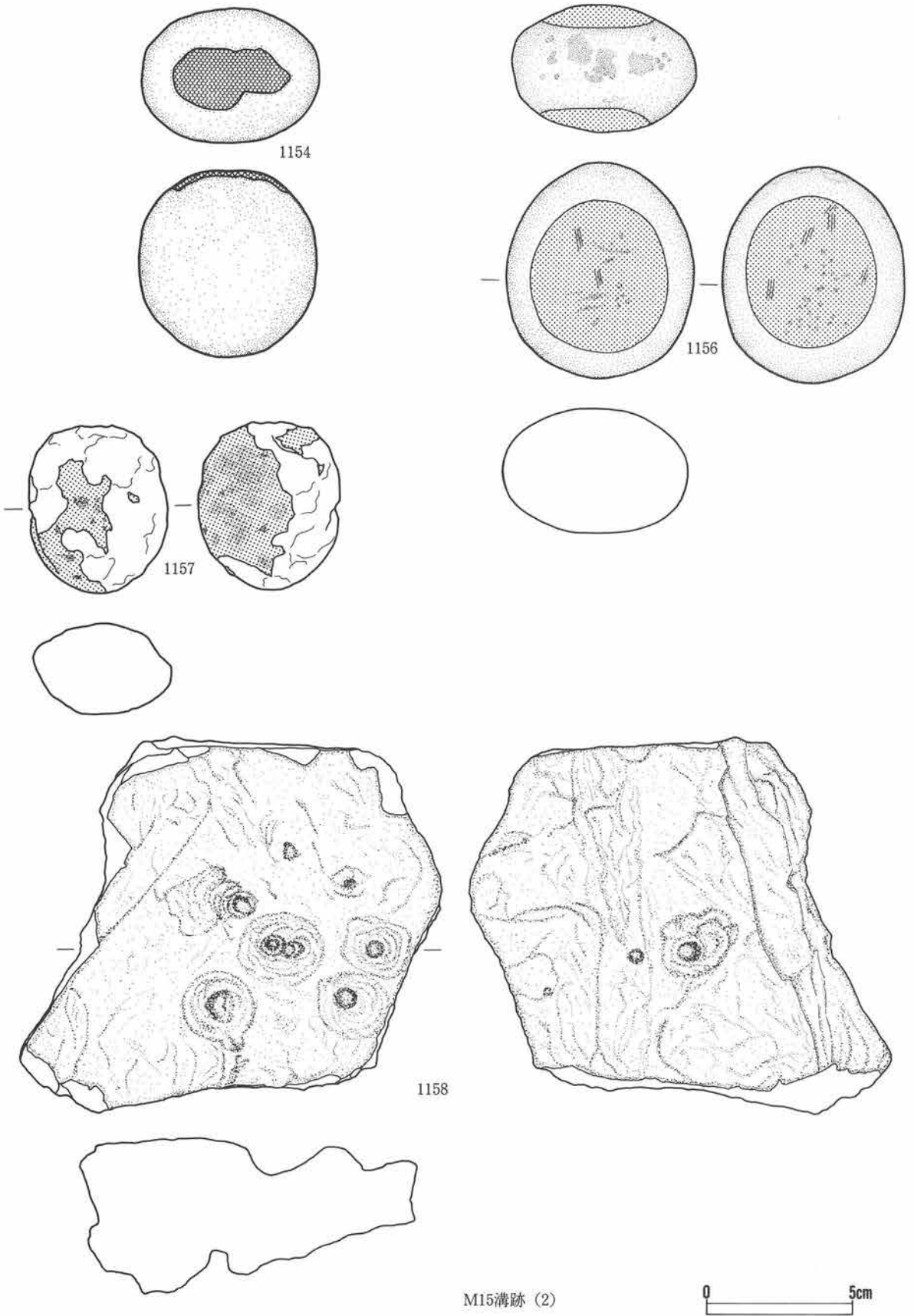


M15溝跡 (1)

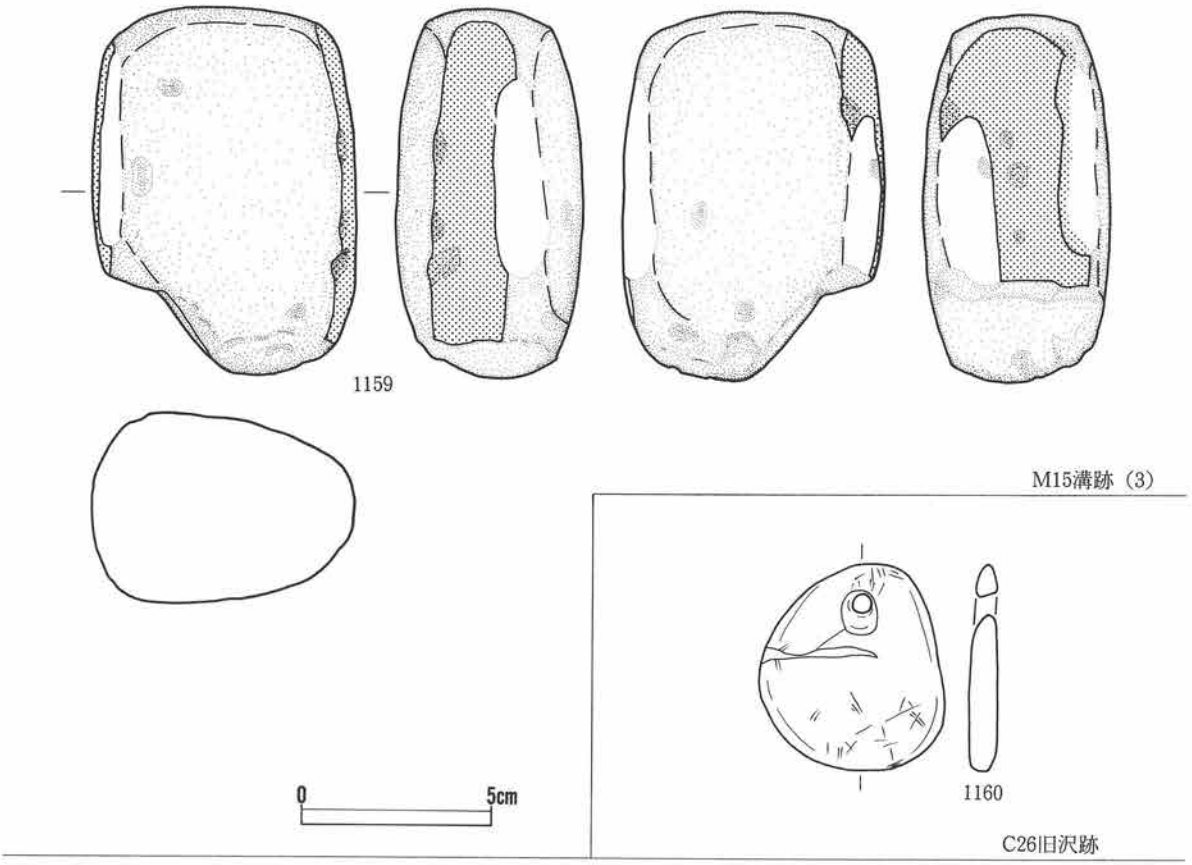
(その他)

0 5cm

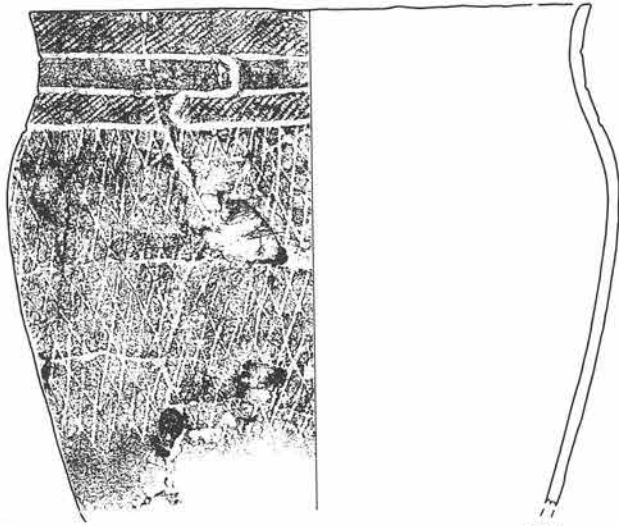
第193図 遺構内出土石器21



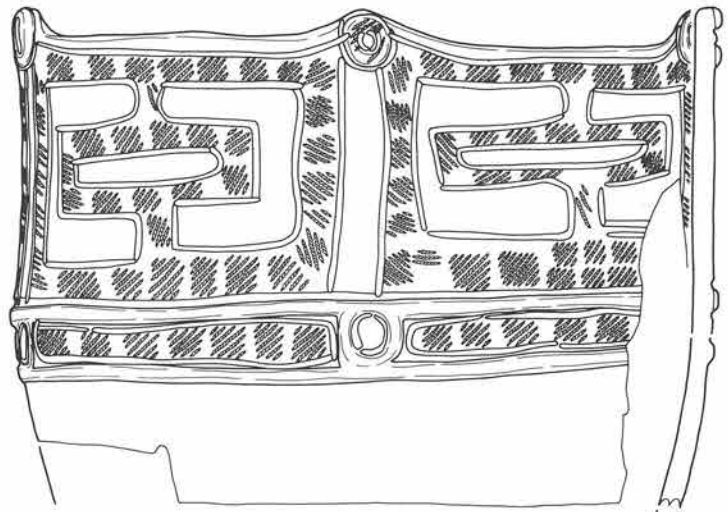
第194図 遺構内出土石器22



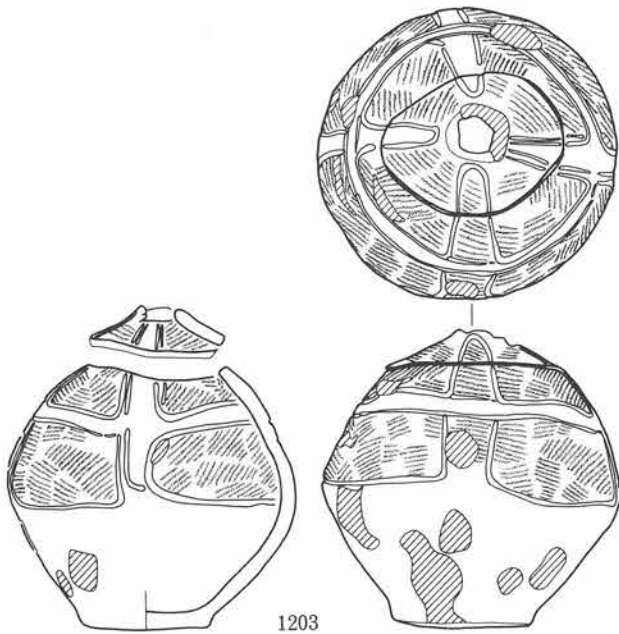
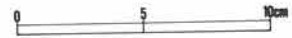
第195図 遺構内出土石器23



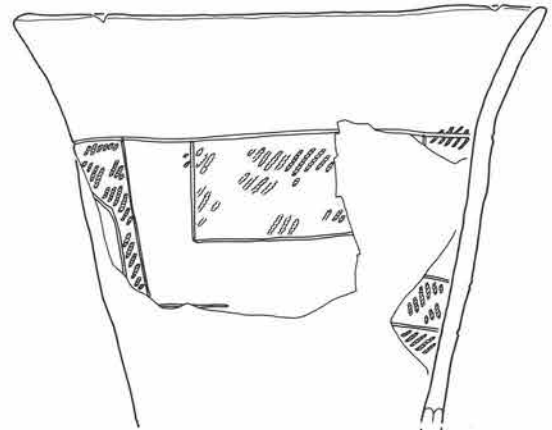
1201



1202

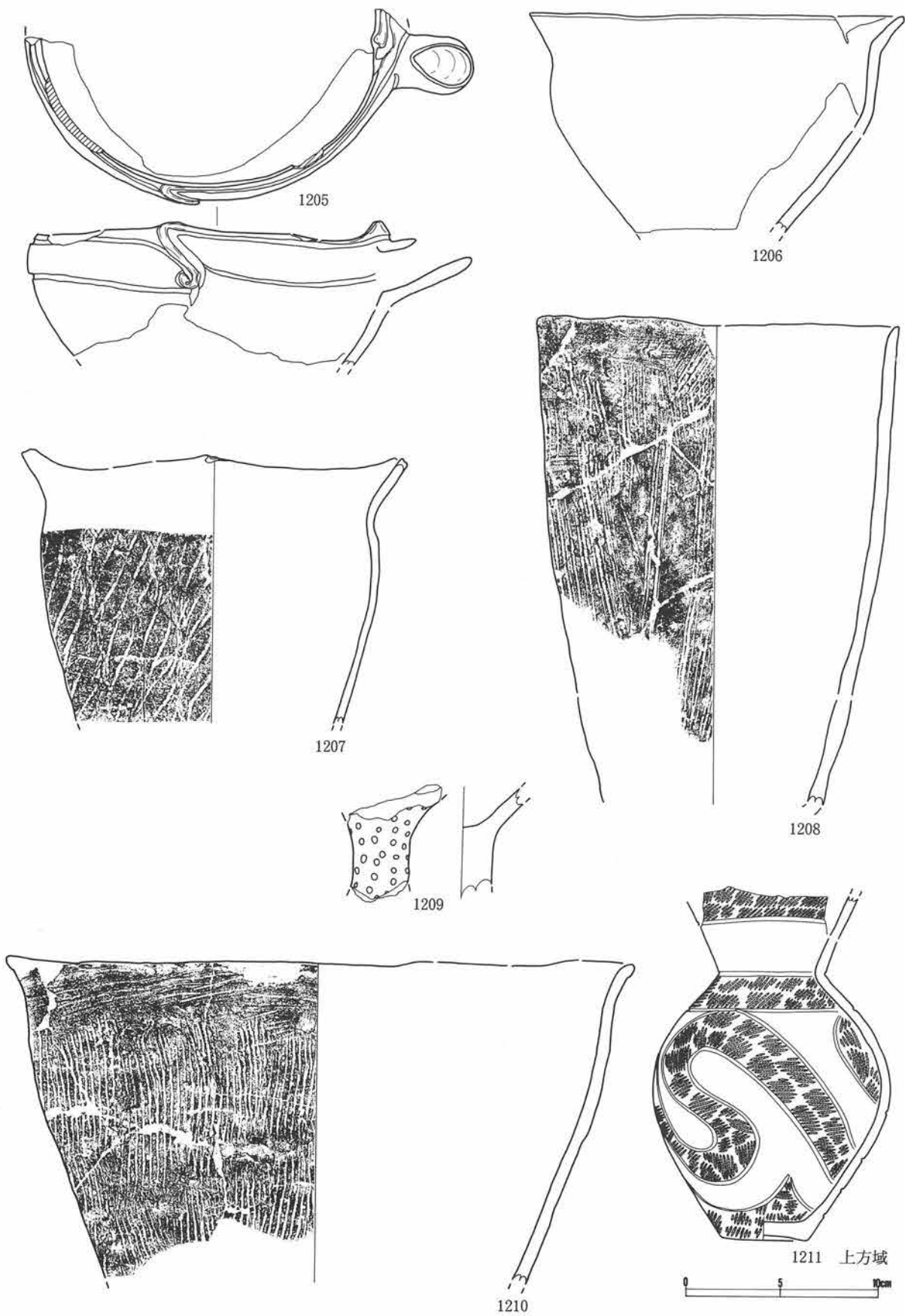


1203



1204 上方域

第196図 遺構外土器 1 (東部捨て場)



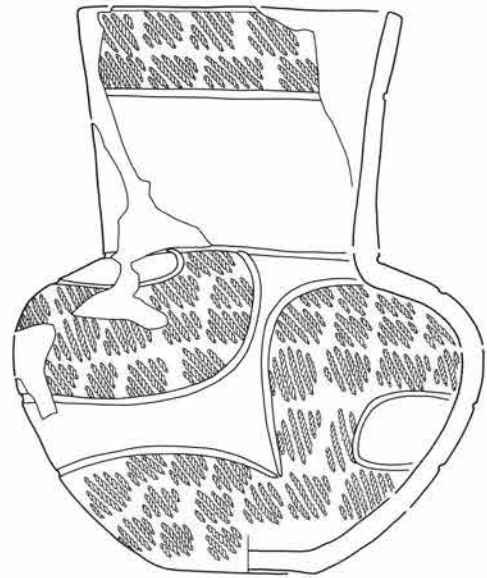
第197図 遺構外土器2 (東部捨て場)



1212



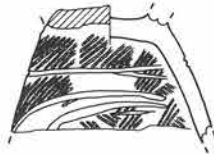
1213



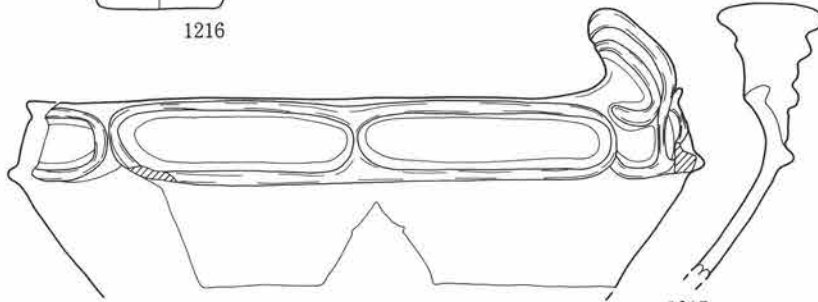
1214



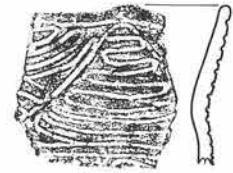
1216



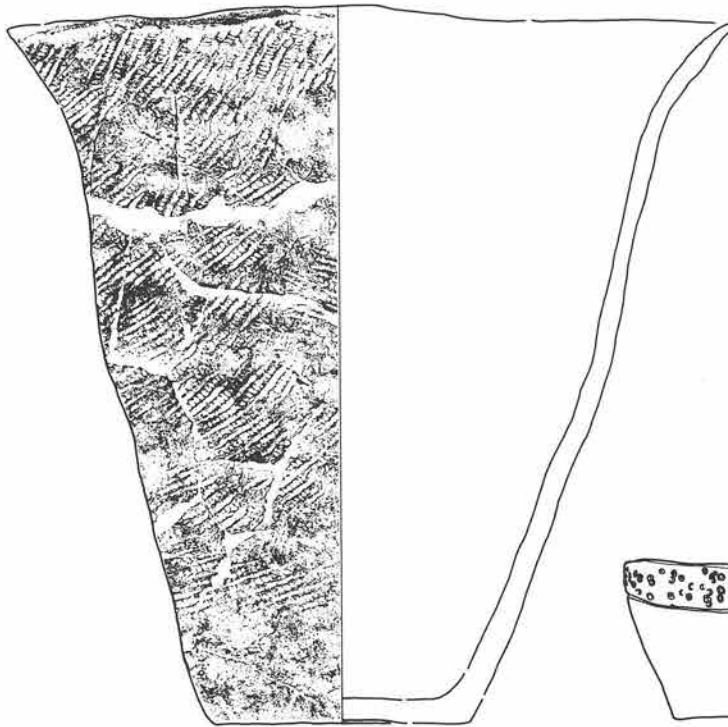
1215



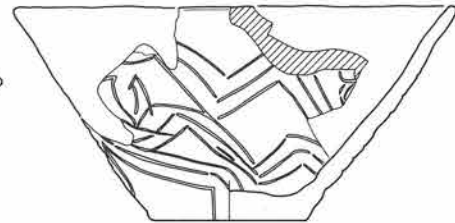
1217



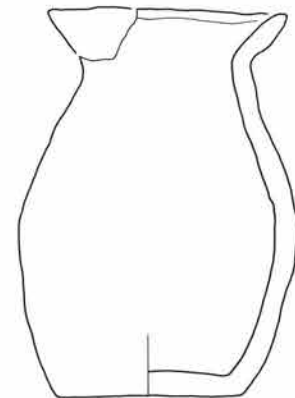
1218



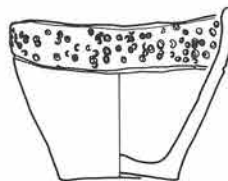
1219



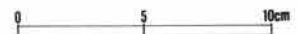
1220



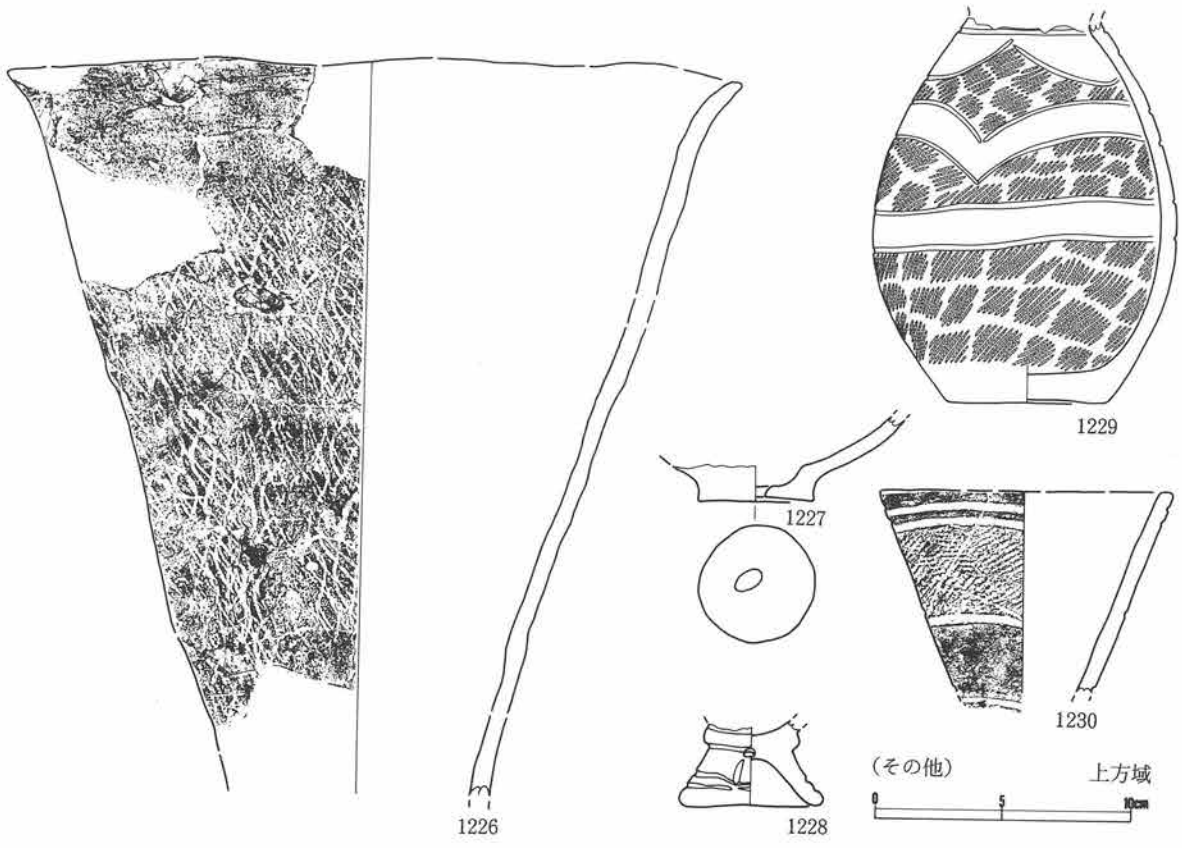
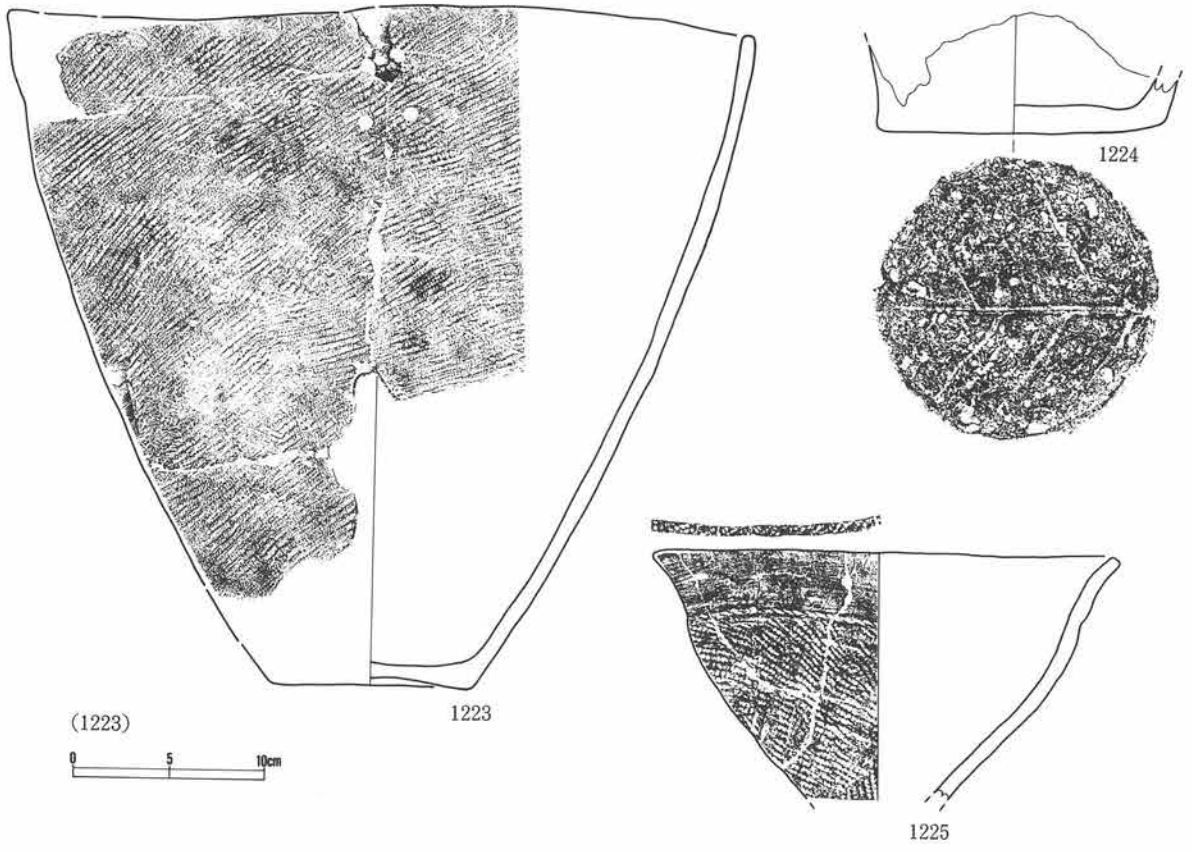
1222 上方域



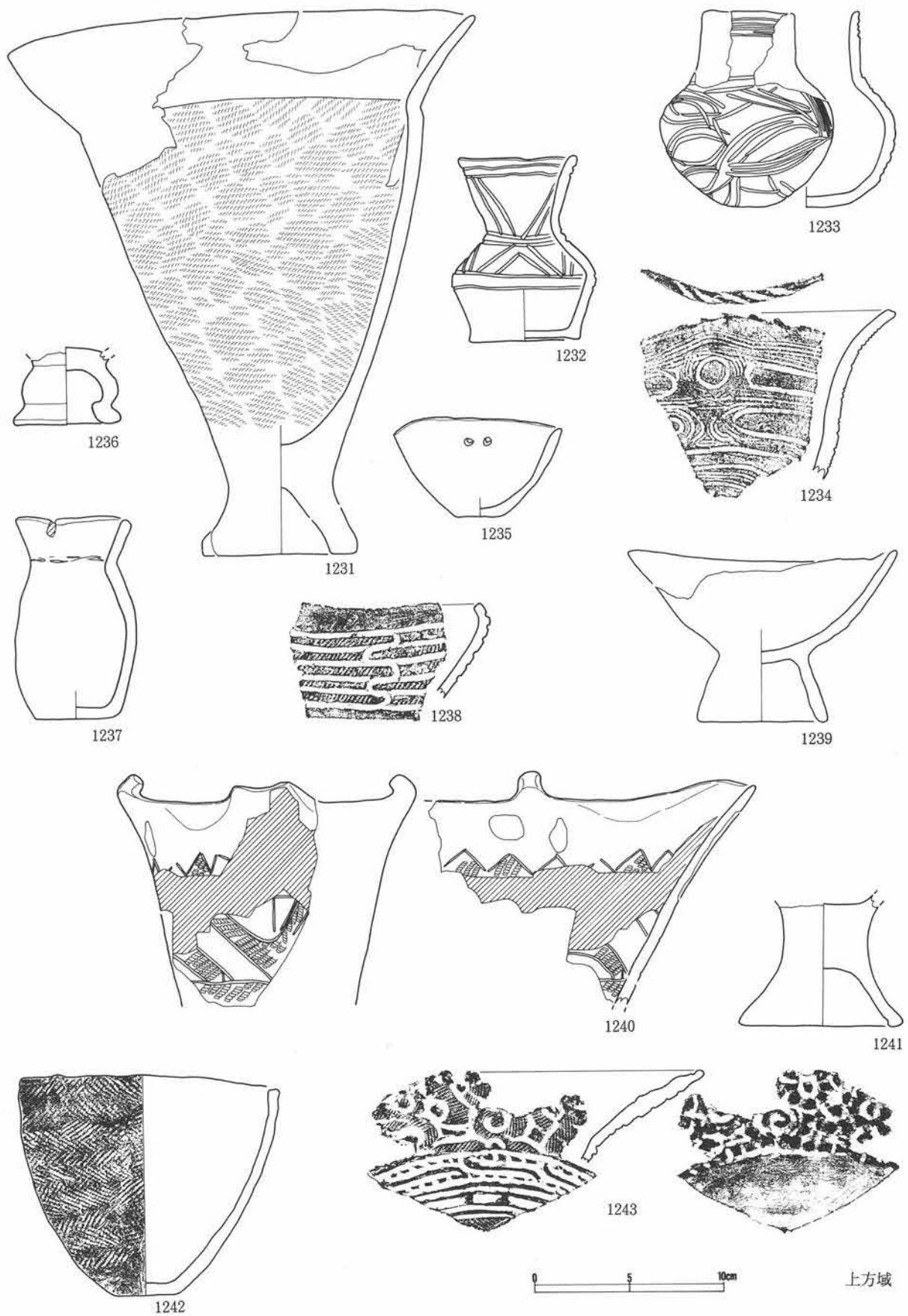
1221



第198図 遺構外土器3 (東部捨て場)



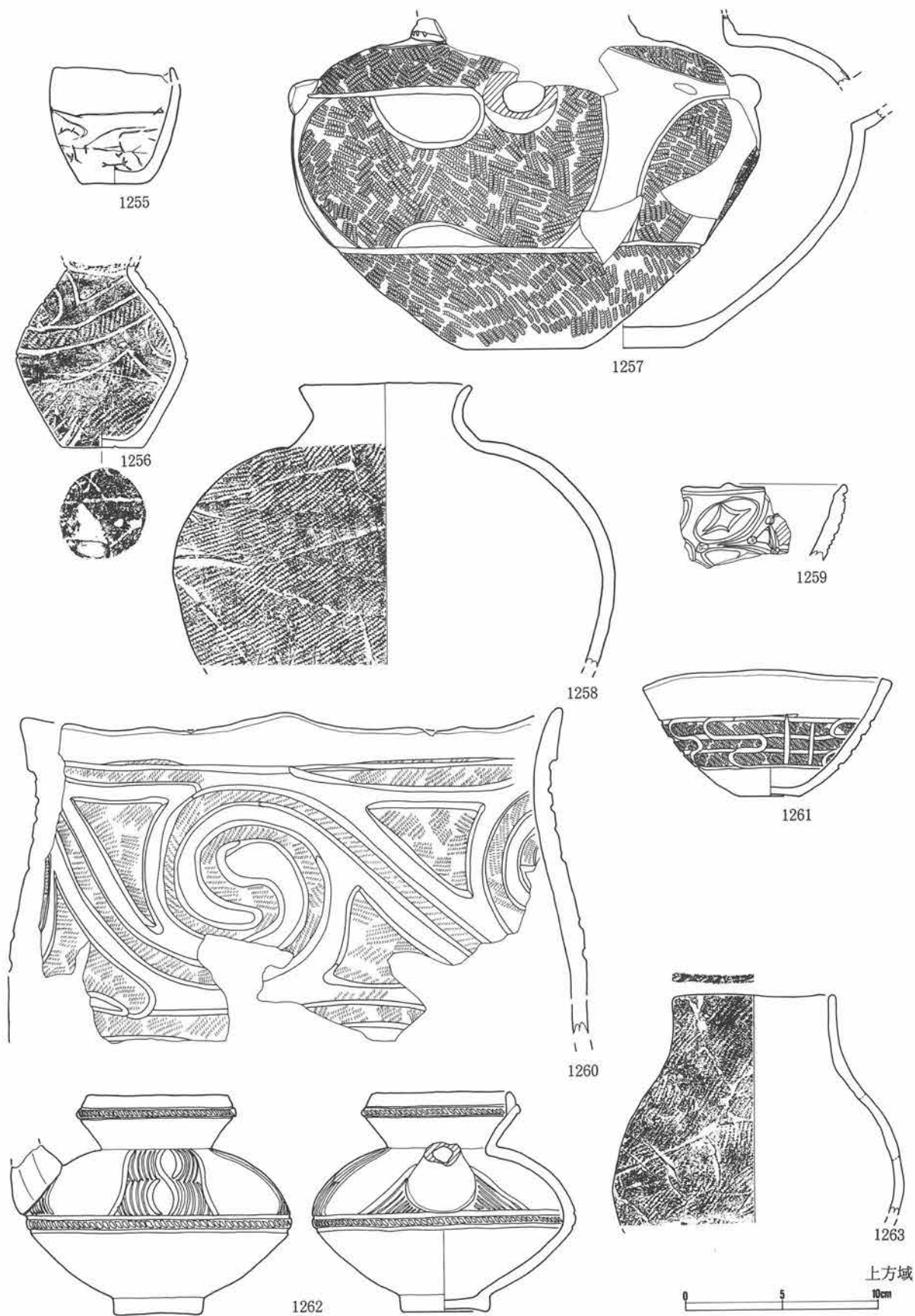
第199図 遺構外土器4 (東部捨て場)



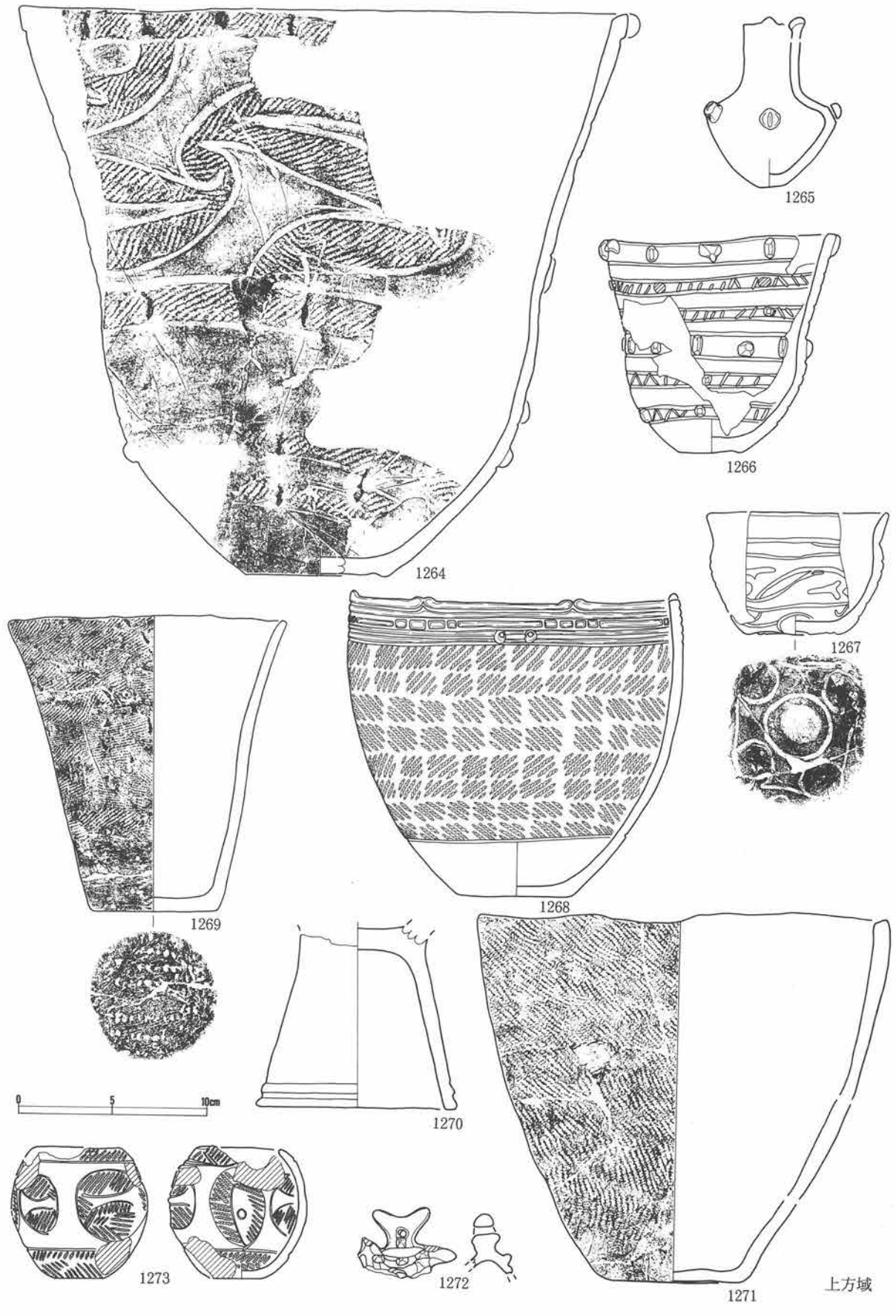
第200図 遺構外土器5 (東部捨て場)



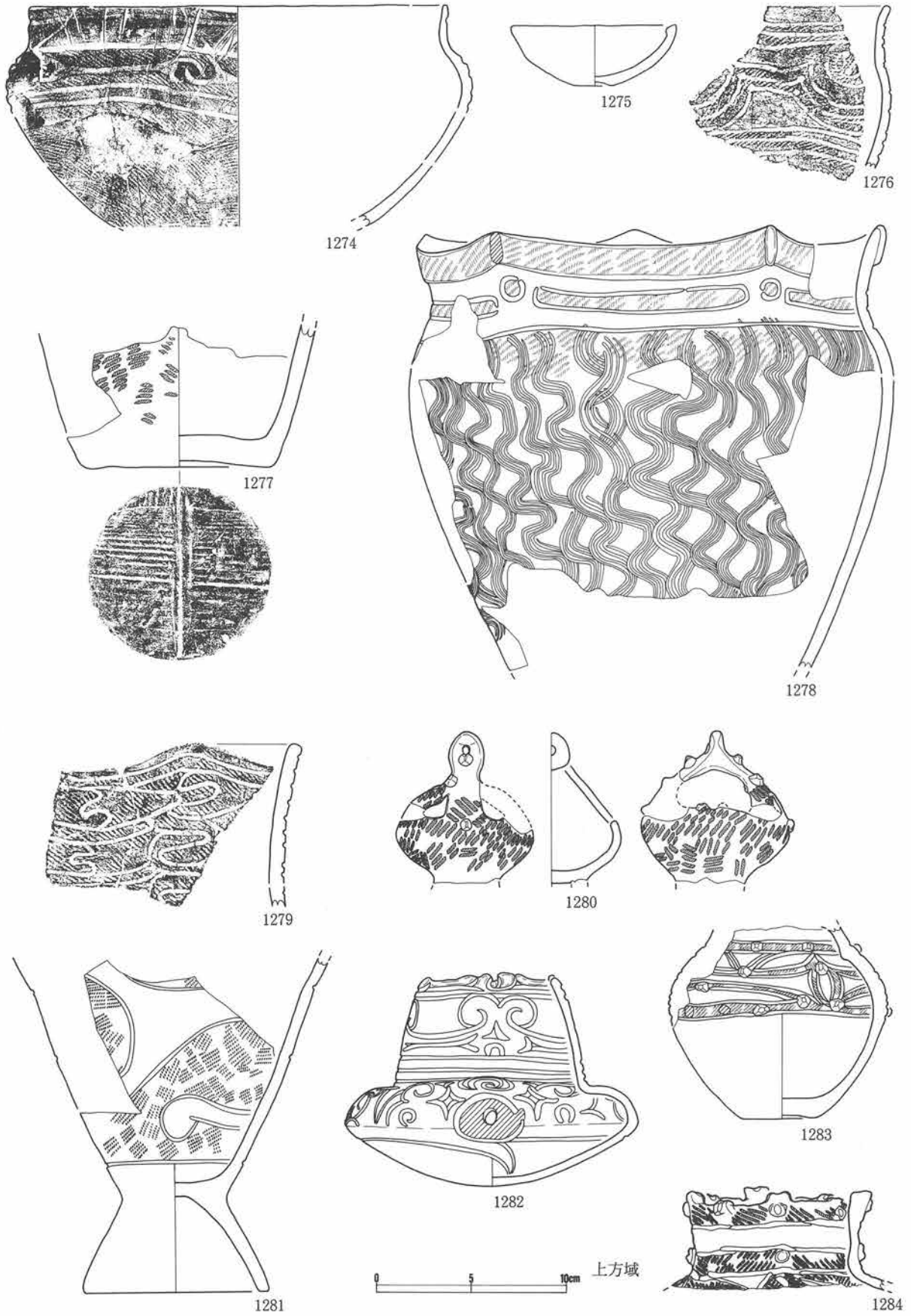
第201図 遺構外土器6 (東部捨て場)



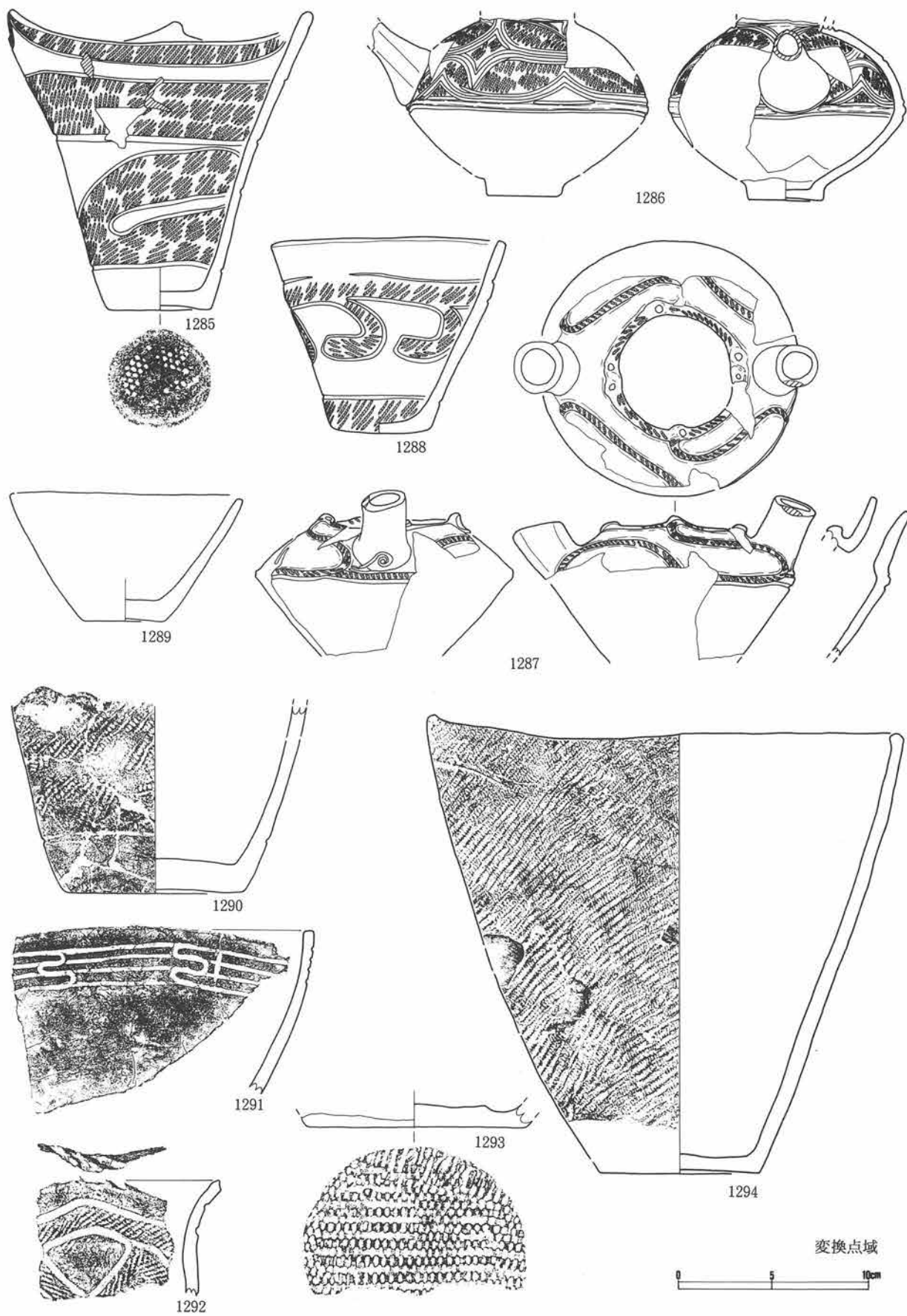
第202図 遺構外土器7 (東部捨て場)



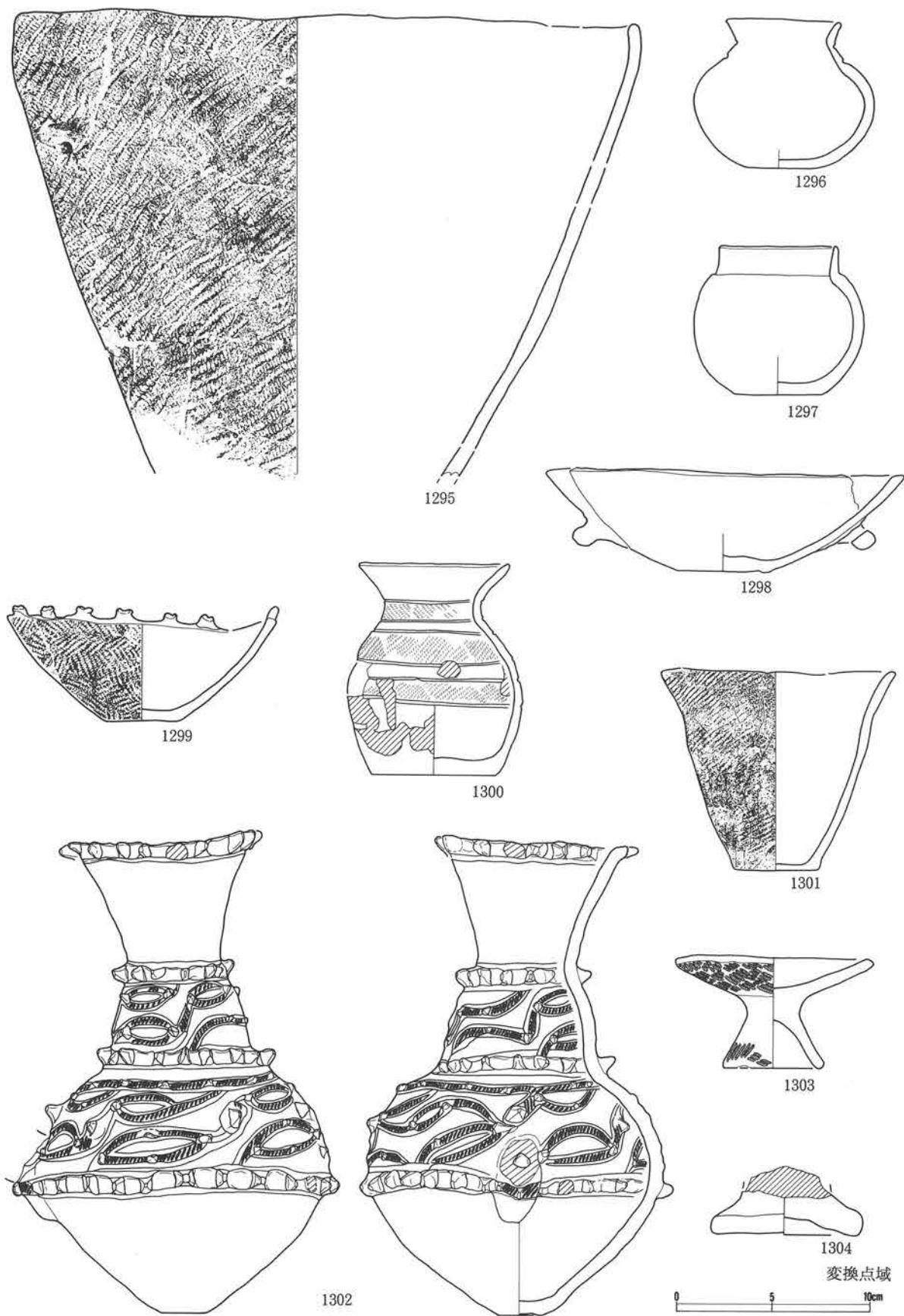
第203図 遺構外土器 8 (東部捨て場)



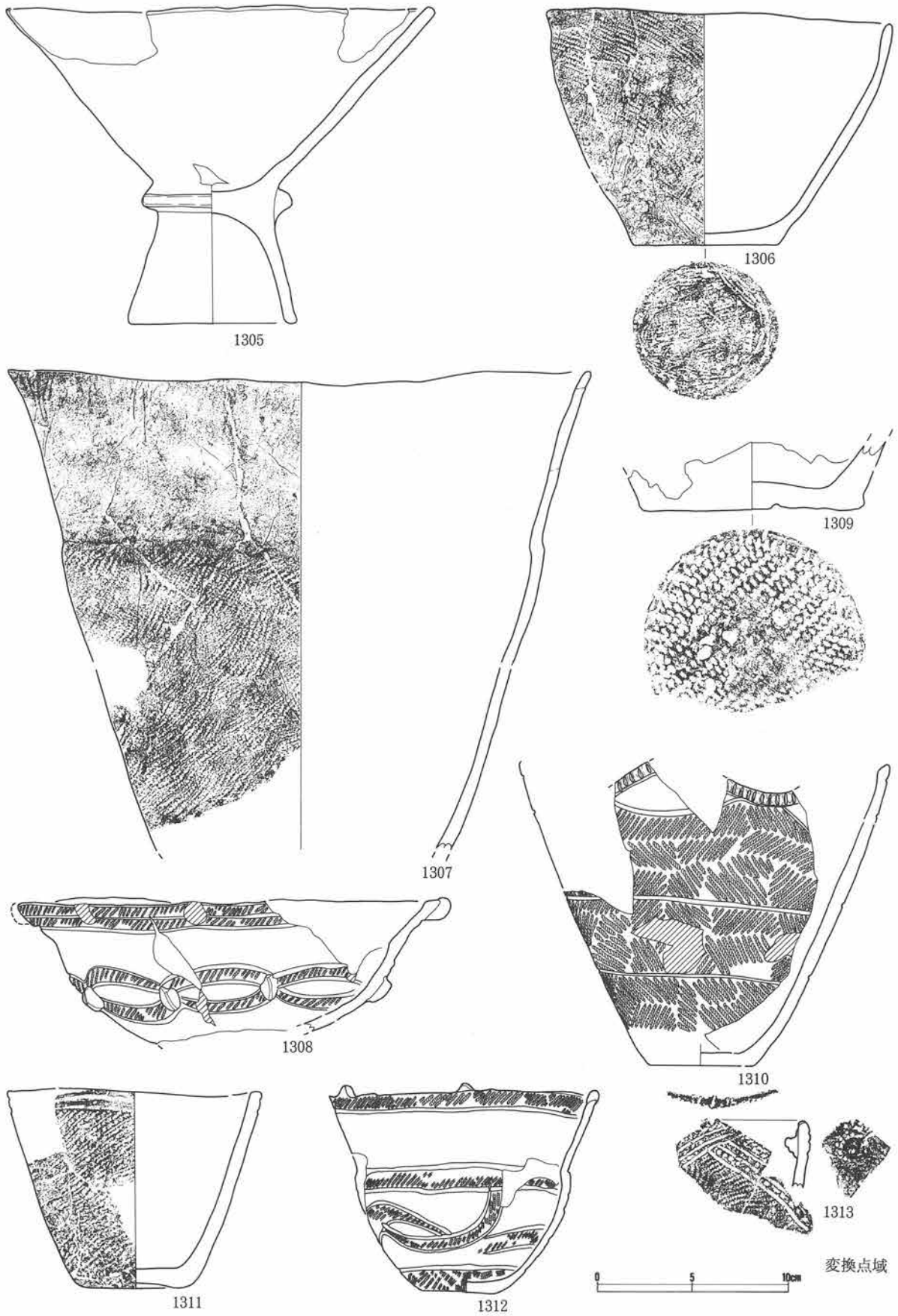
第204図 遺構外土器 9 (東部捨て場)



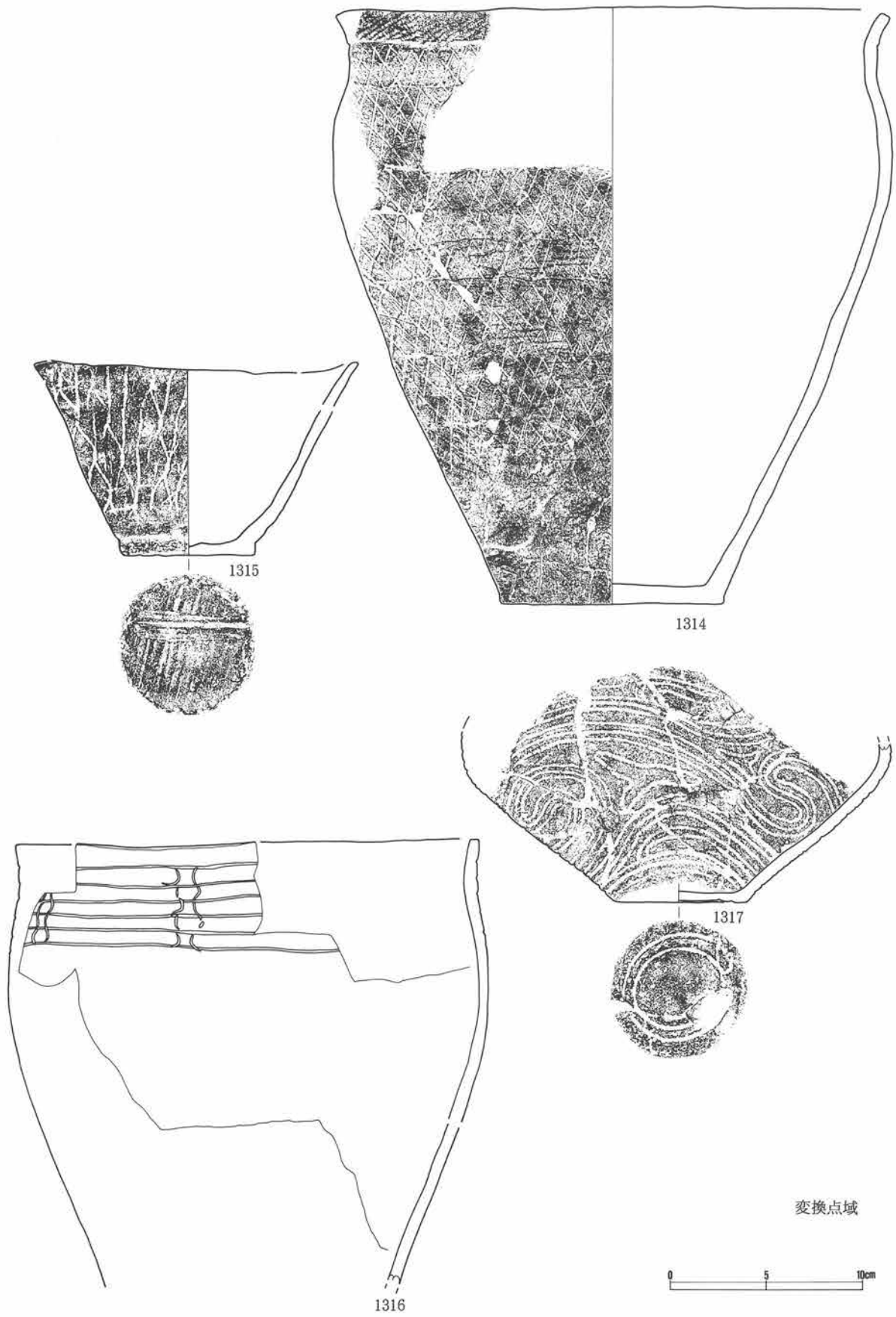
第205図 遺構外土器10 (東部捨て場)



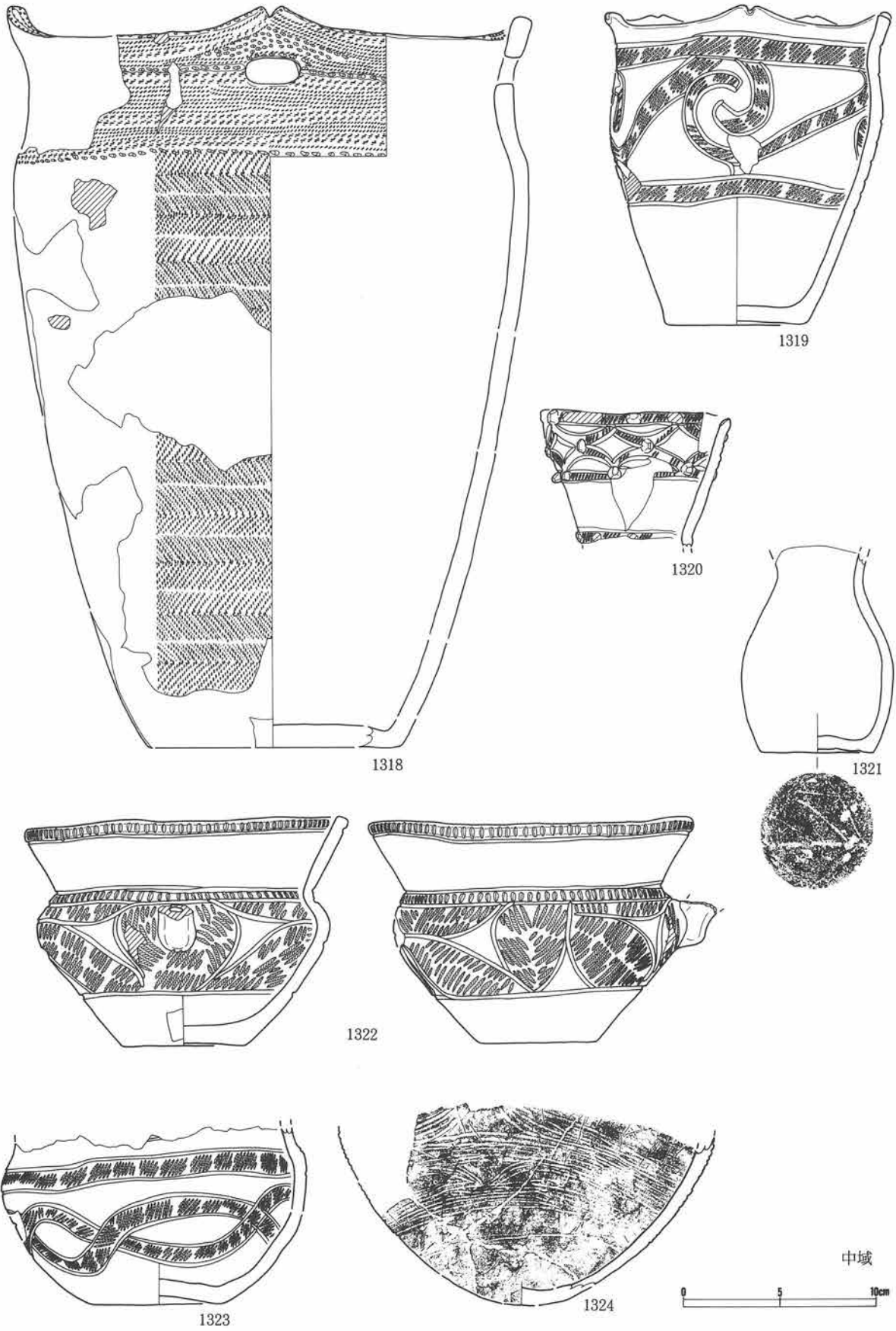
第206図 遺構外土器11 (東部捨て場)



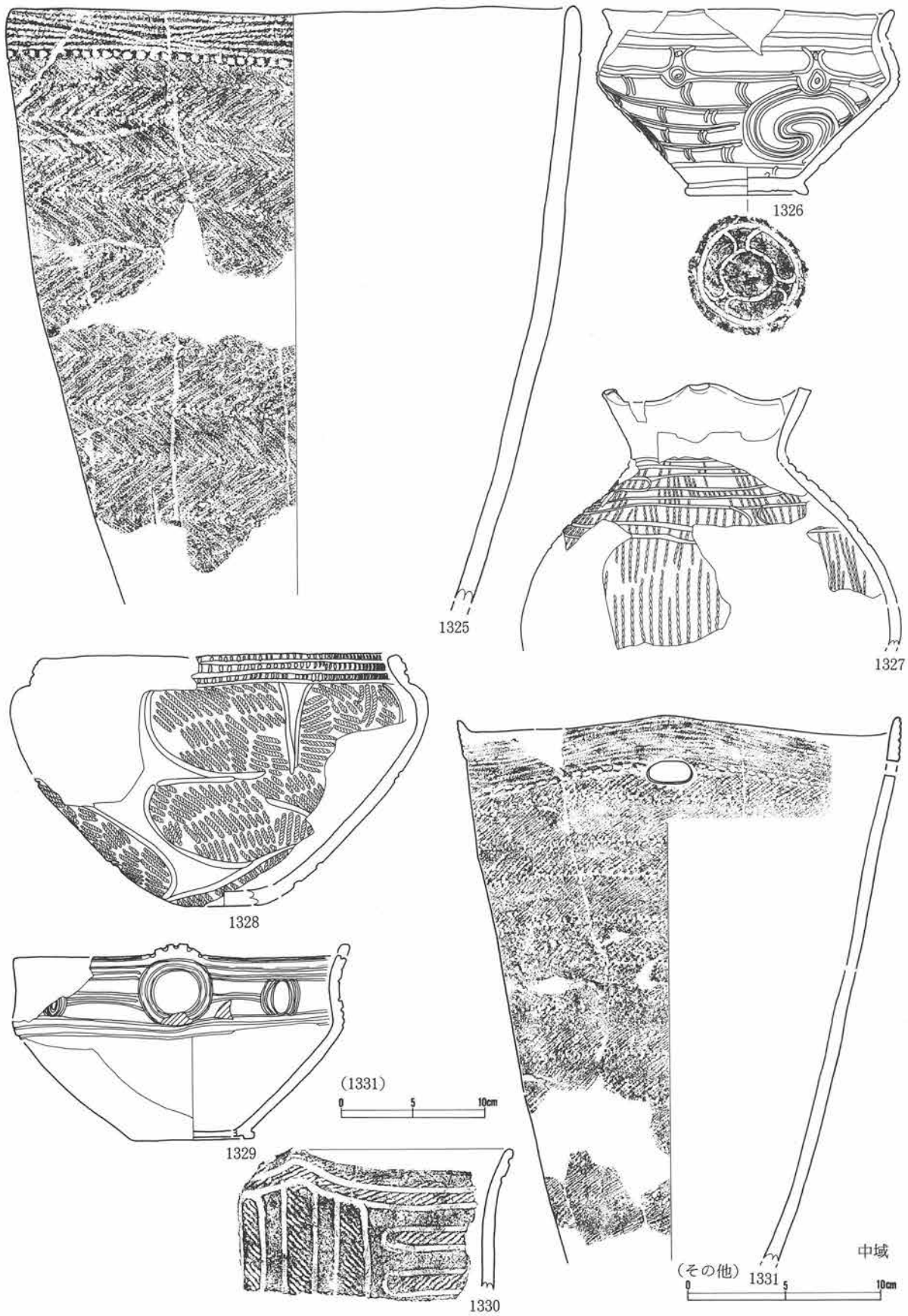
第207図 遺構外土器12 (東部捨て場)



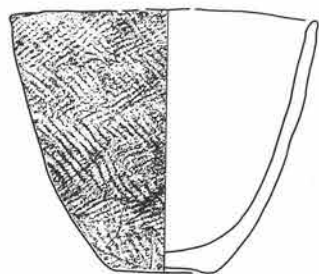
第208図 遺構外土器13 (東部捨て場)



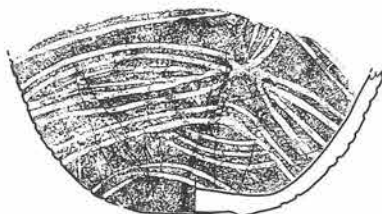
第209図 遺構外土器14 (東部捨て場)



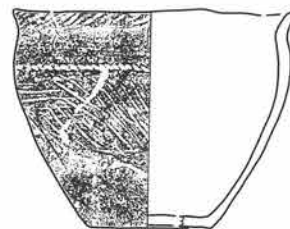
第210図 遺構外土器15 (東部捨て場)



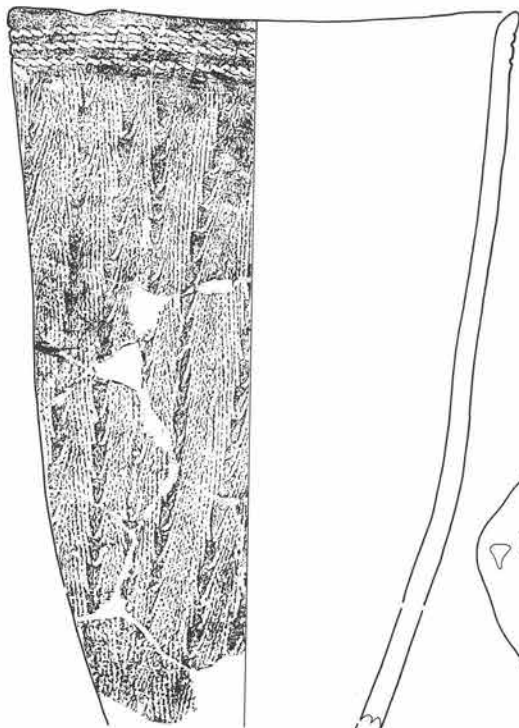
1332



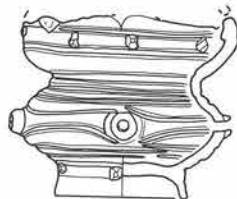
1333



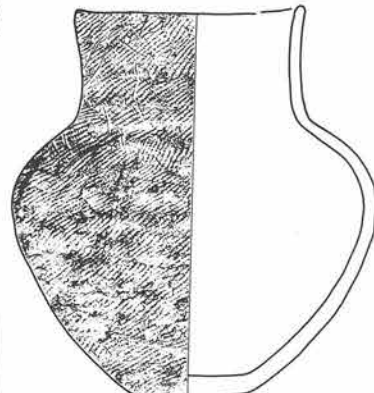
1334



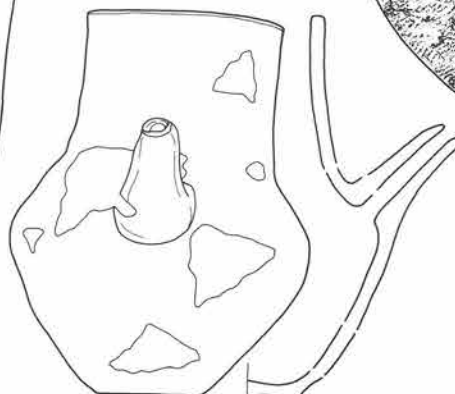
1335



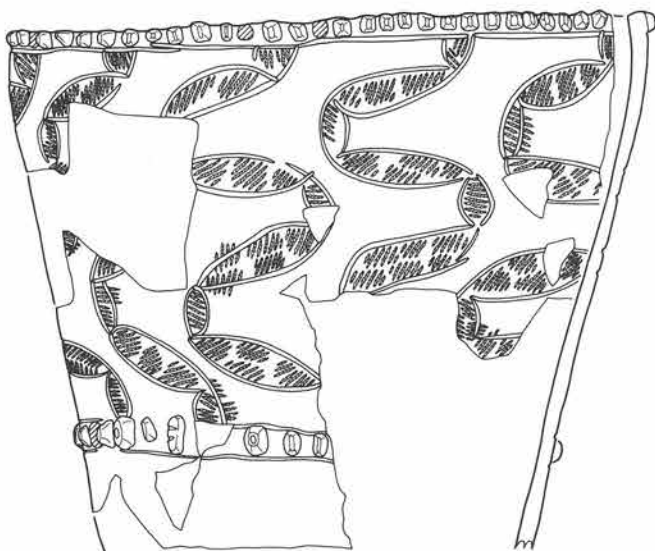
1336



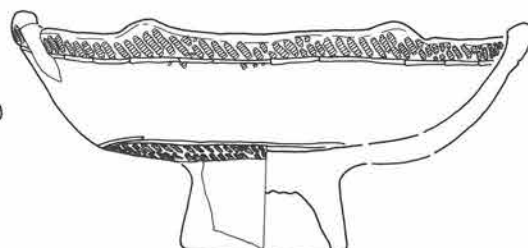
1337



1338



1339

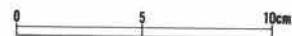


1340

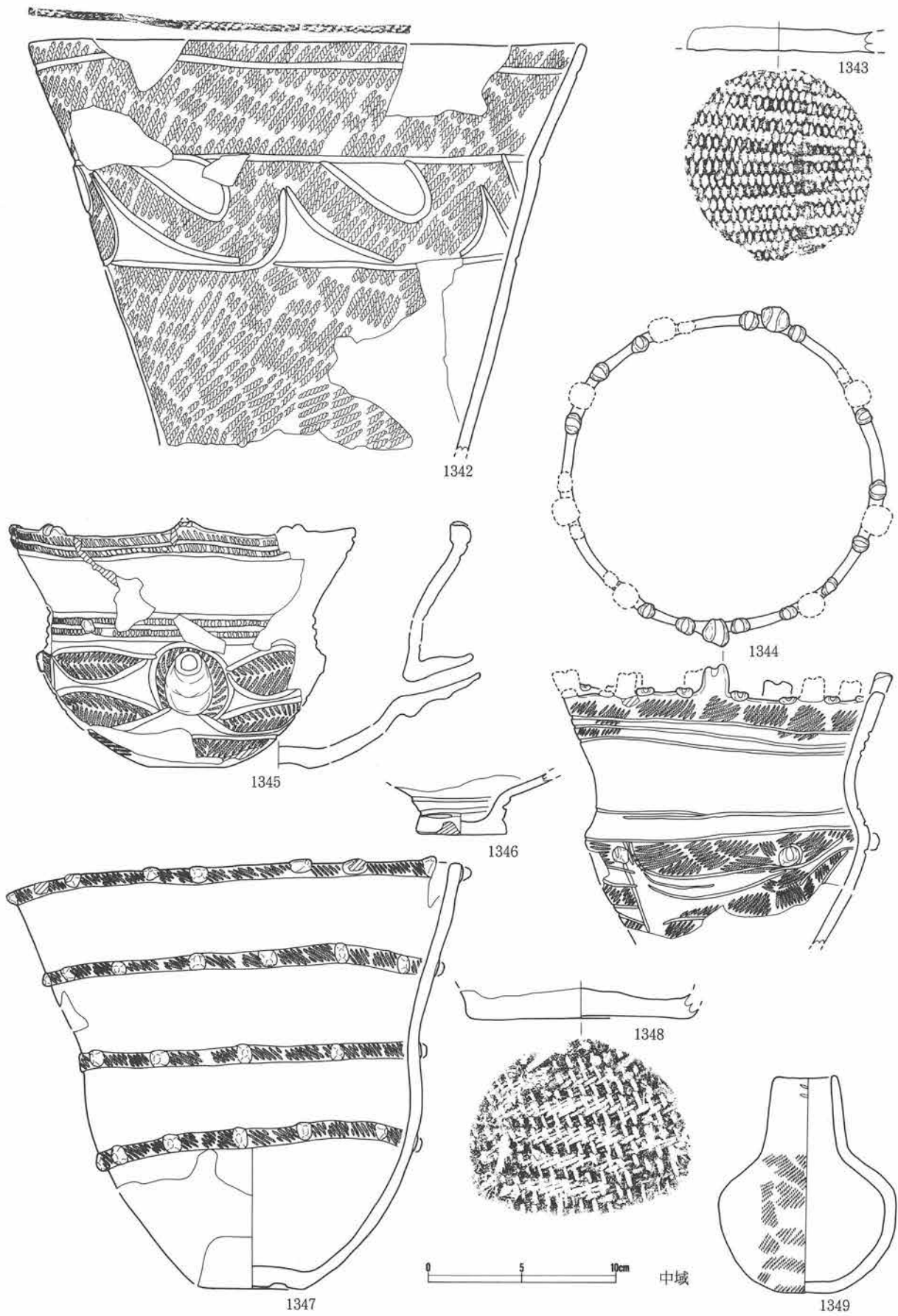


1341

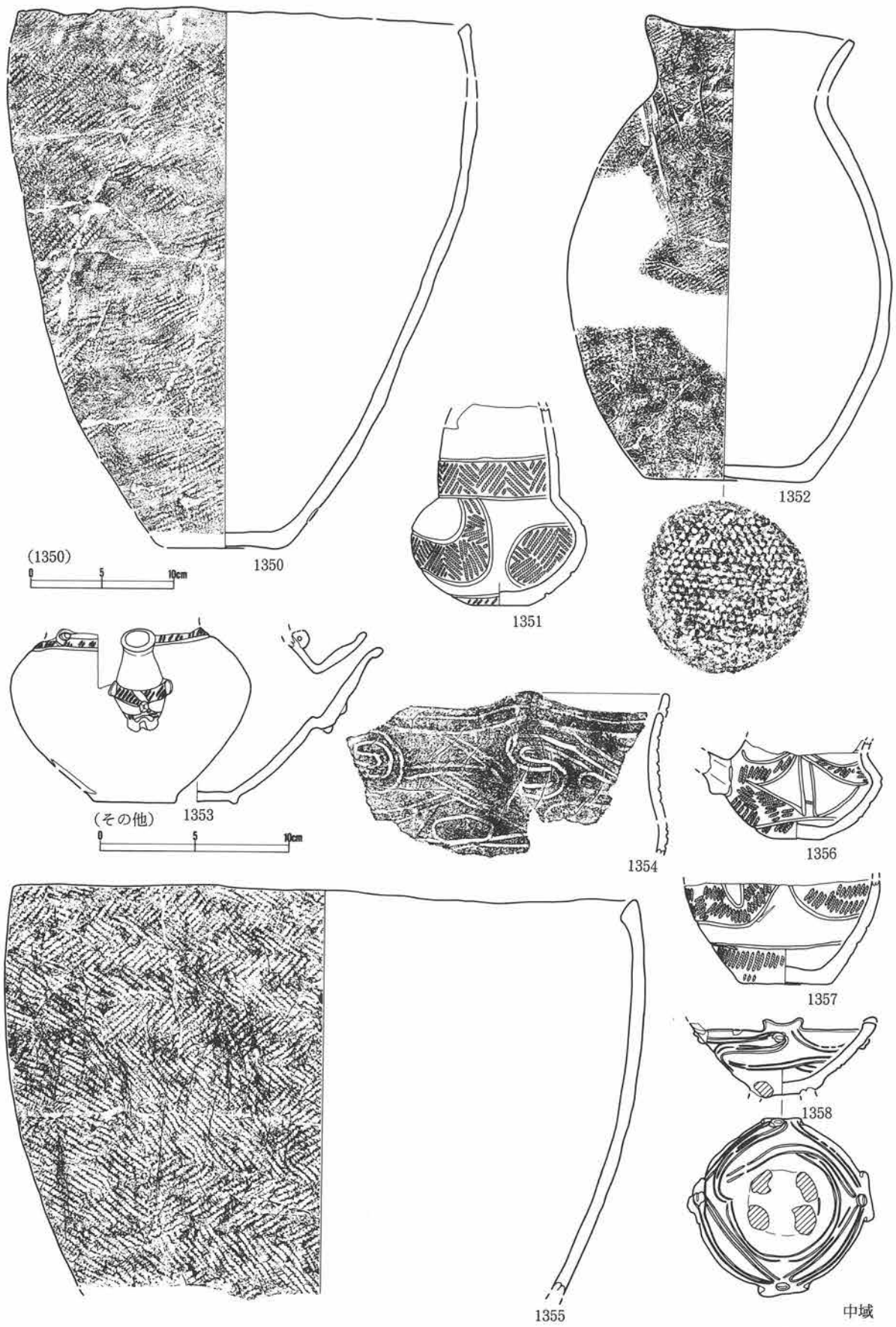
中域



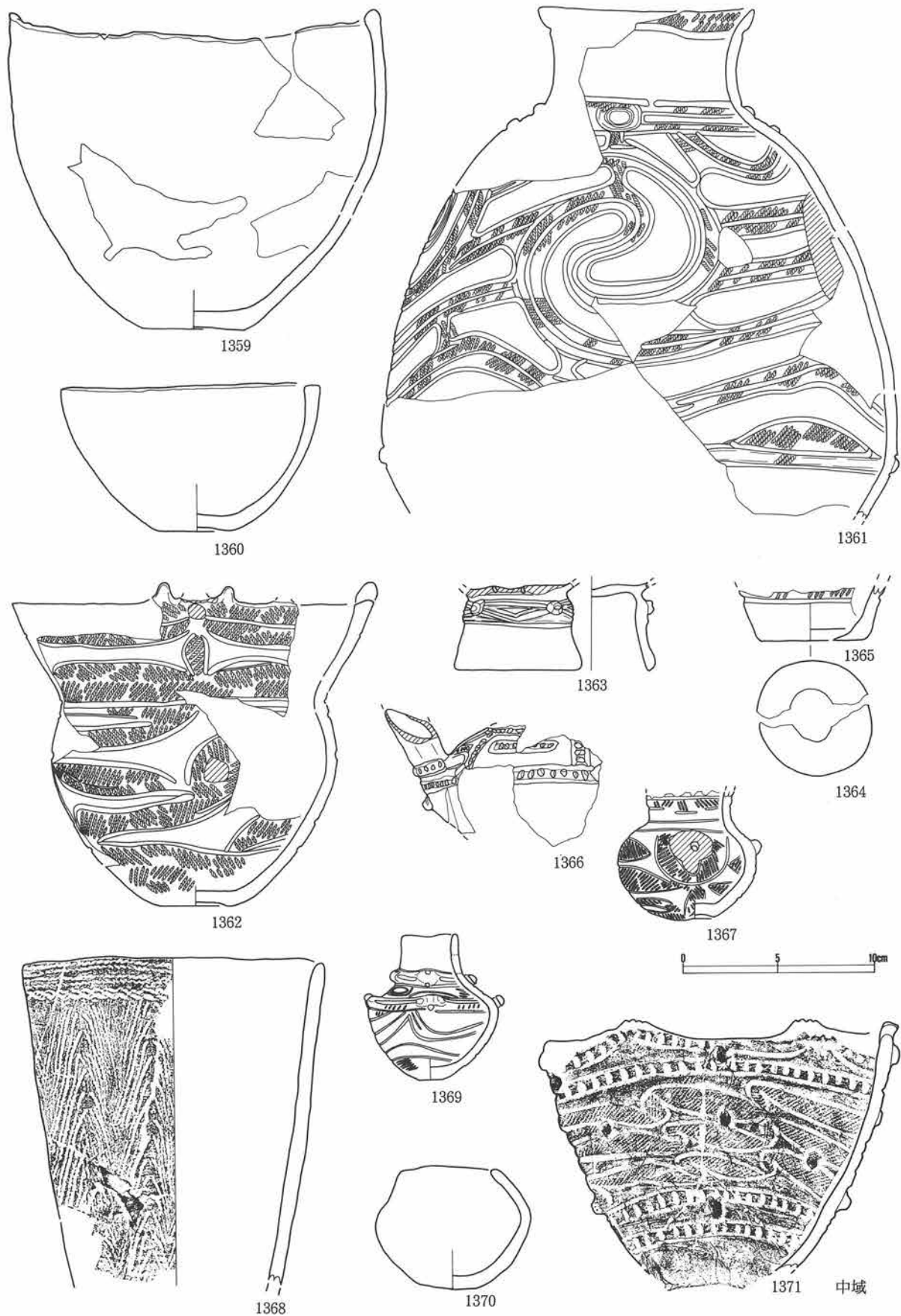
第211図 遺構外土器16 (東部捨て場)



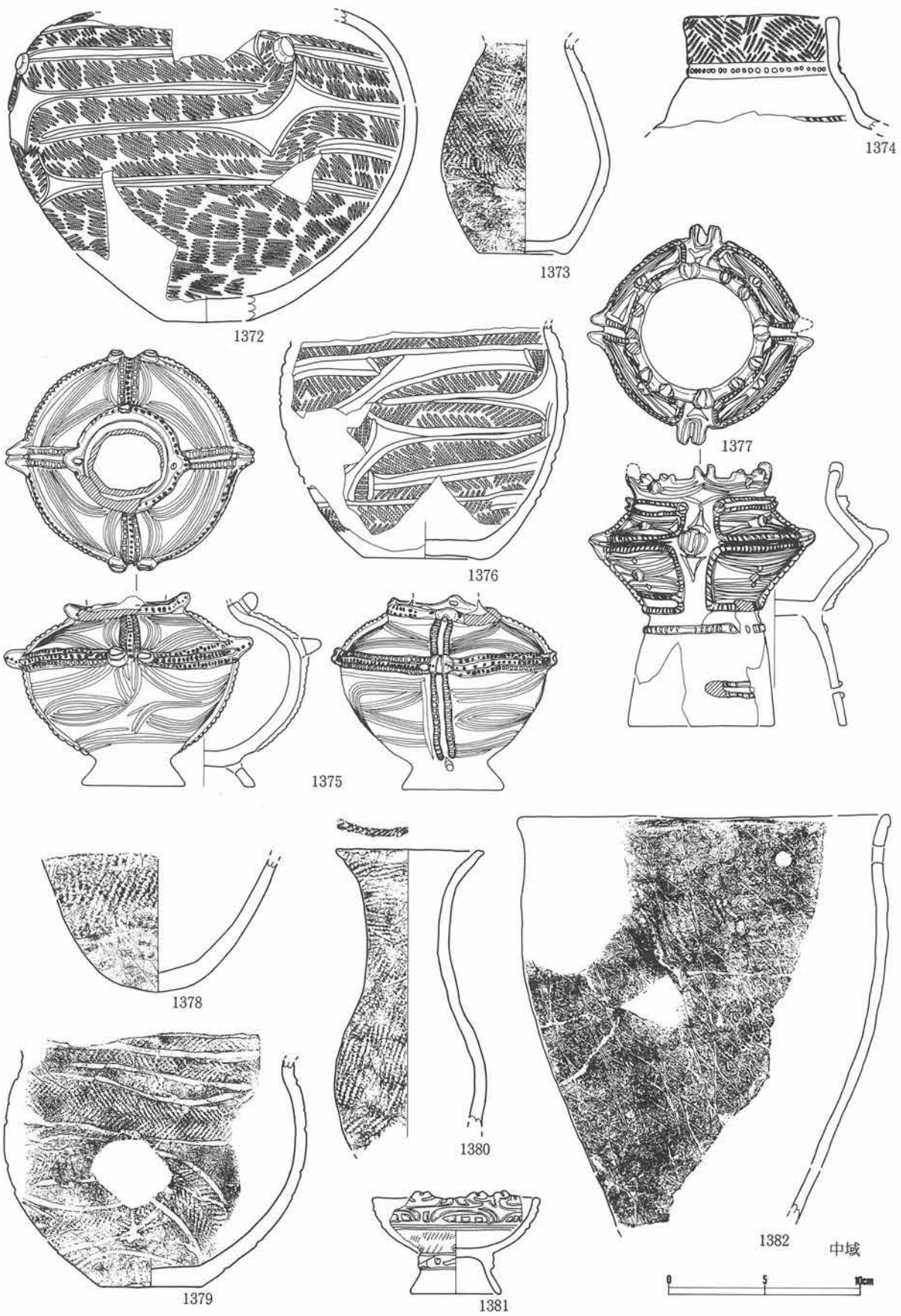
第212図 遺構外土器17 (東部捨て場)



第213図 遺構外土器18 (東部捨て場)



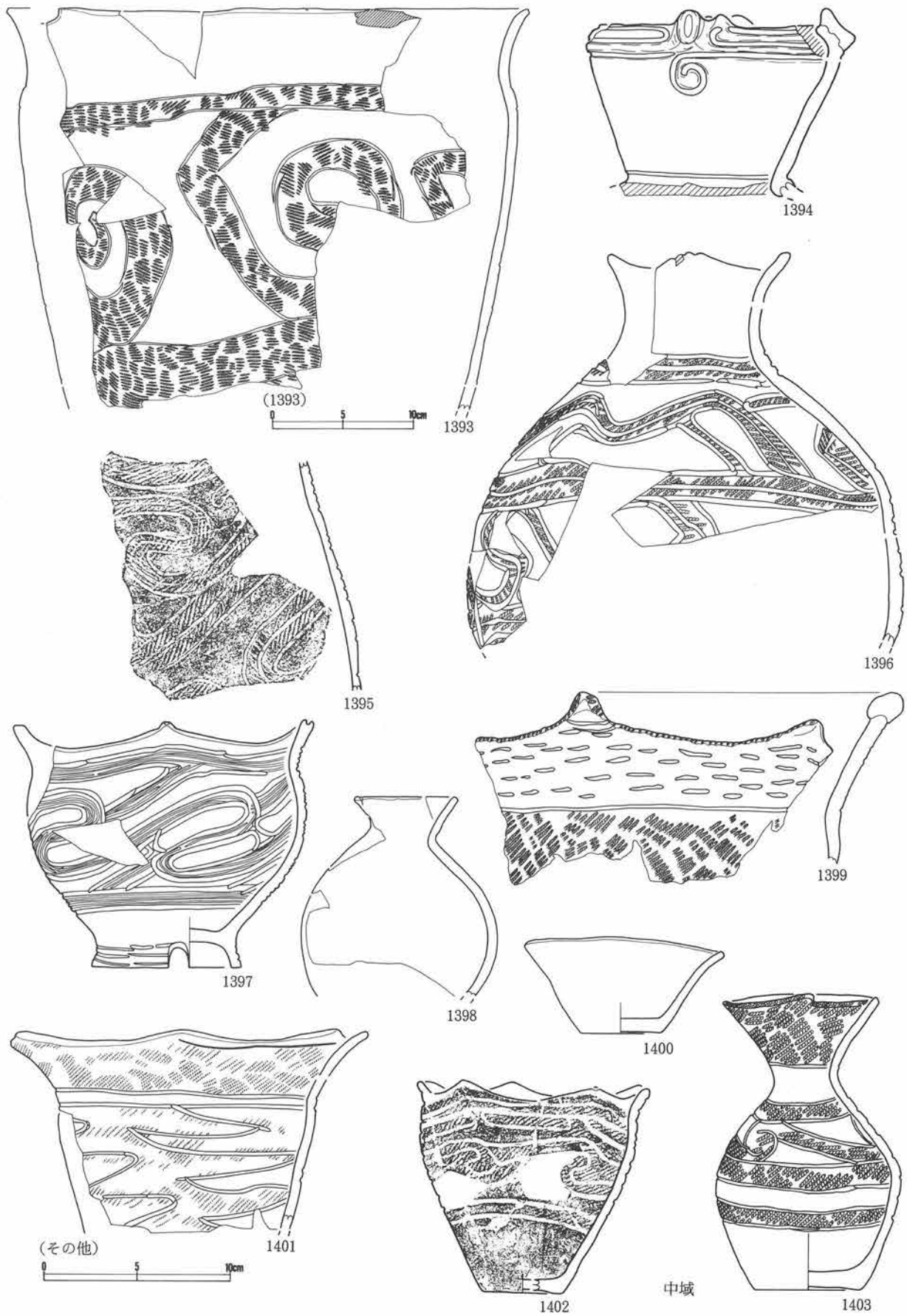
第214図 遺構外土器19 (東部捨て場)



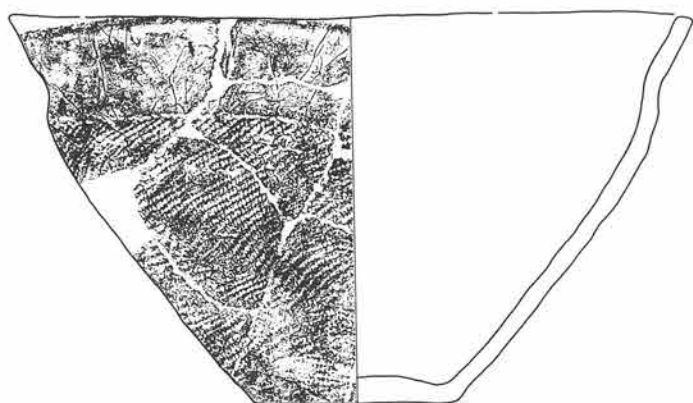
第215図 遺構外土器20 (東部捨て場)



第216図 遺構外土器21 (東部捨て場)



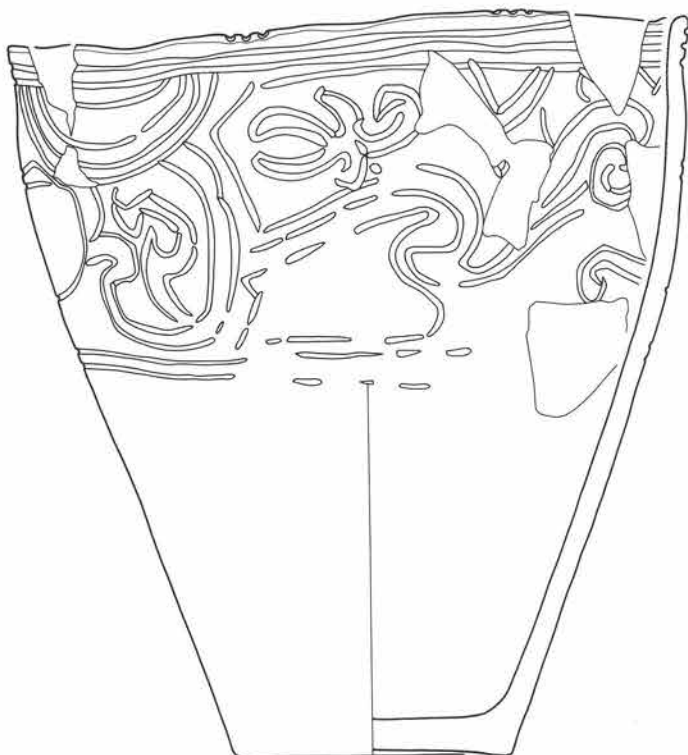
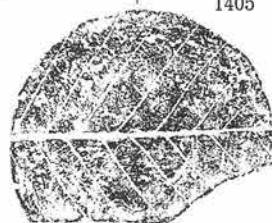
第217図 遺構外土器22 (東部捨て場)



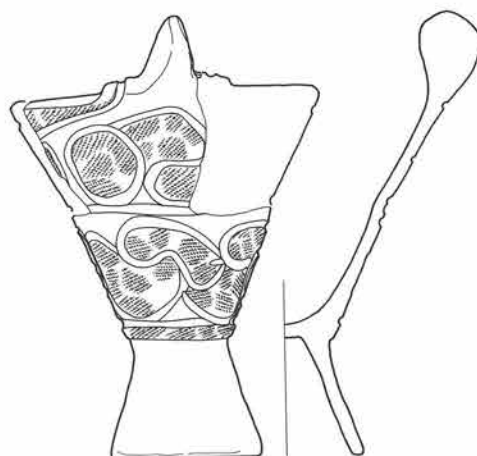
1404



1405



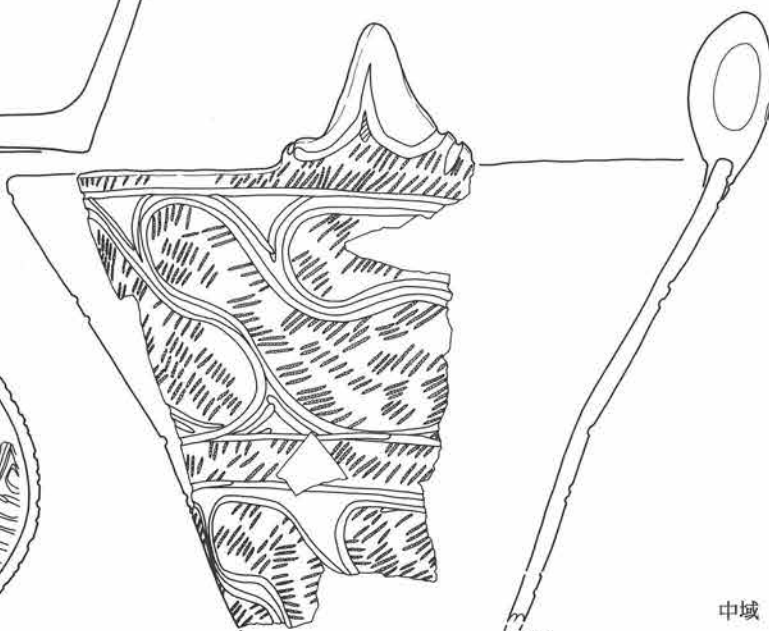
1406



1407

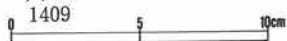


1408

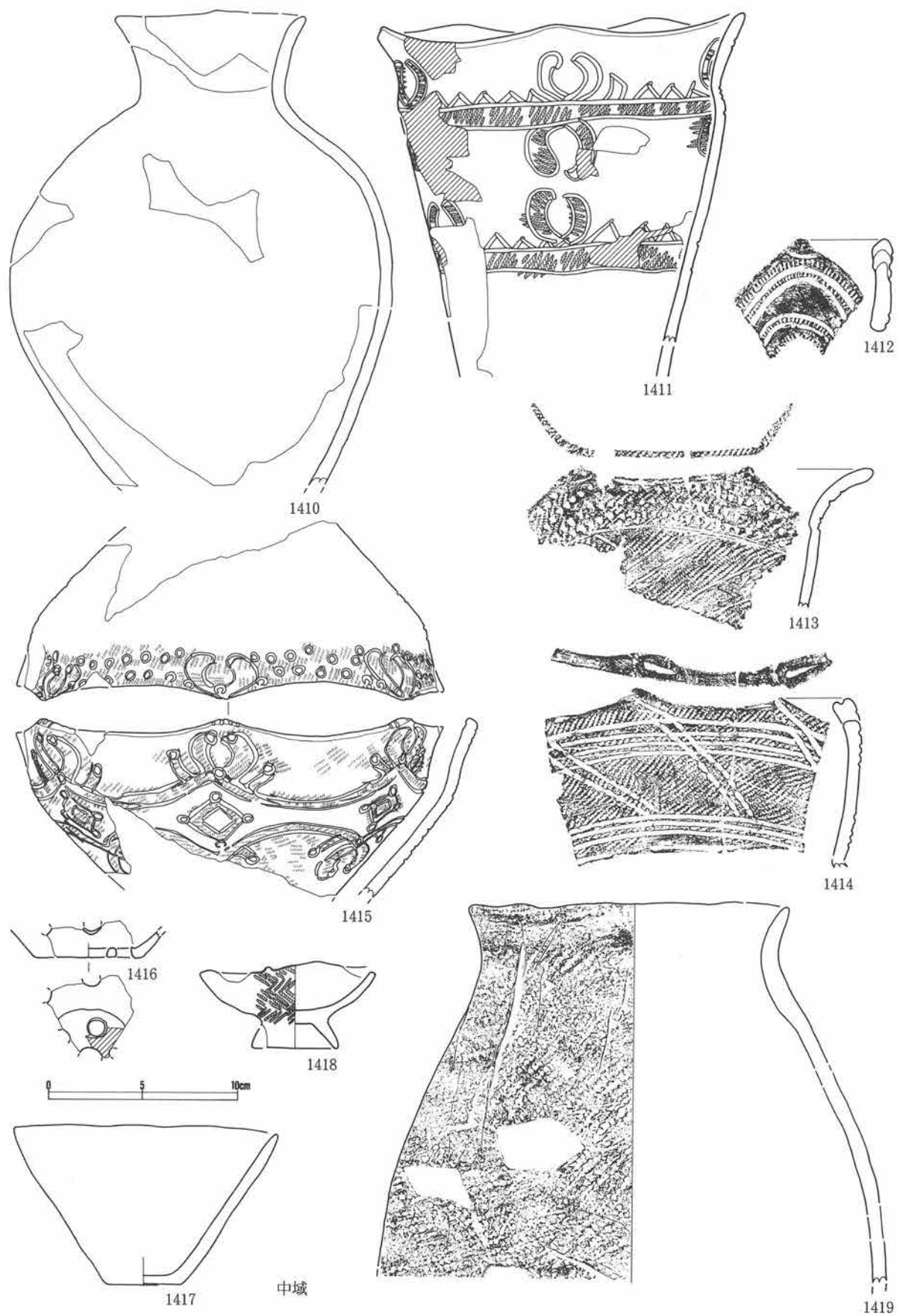


1409

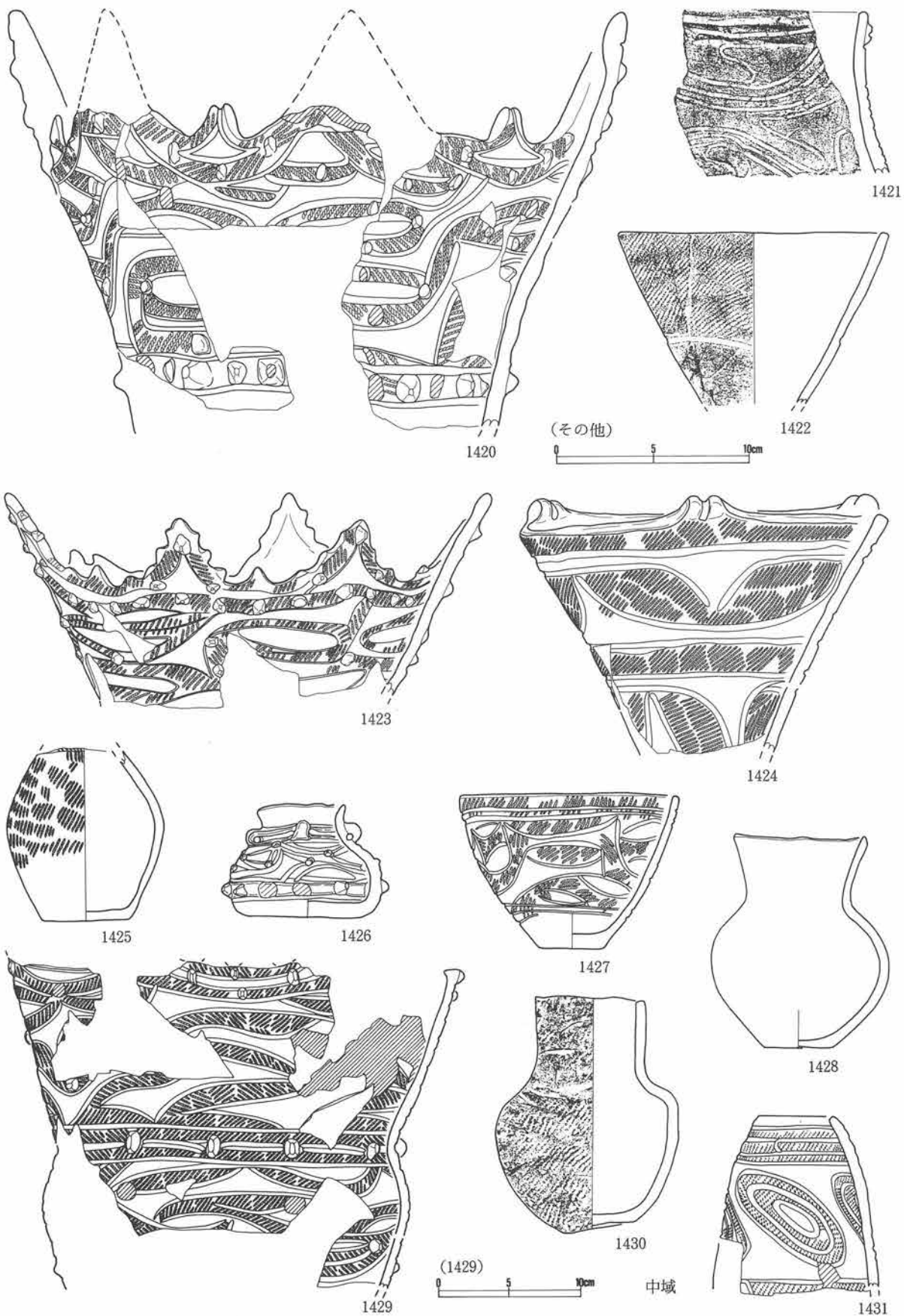
中域



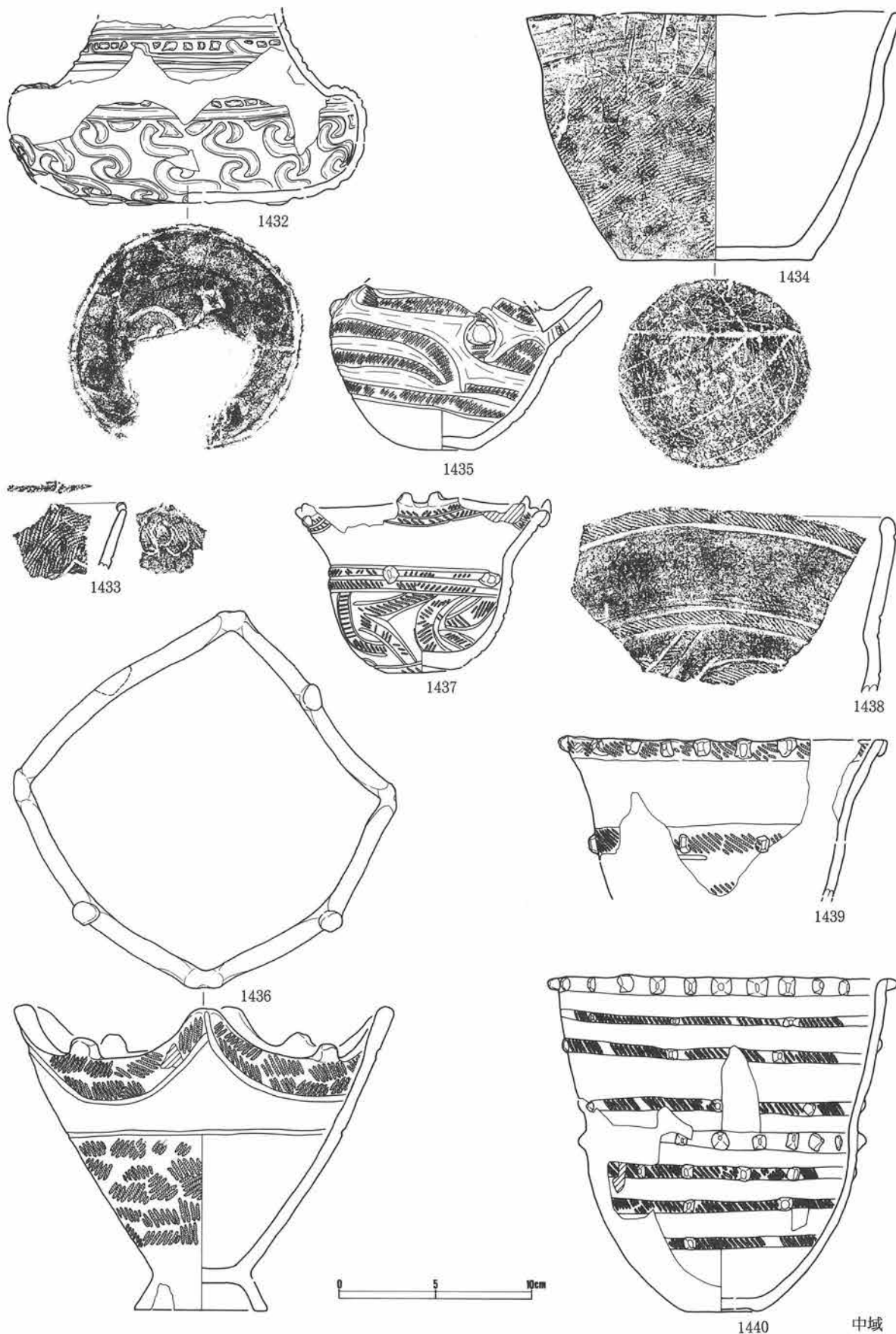
第218図 遺構外土器23 (東部捨て場)



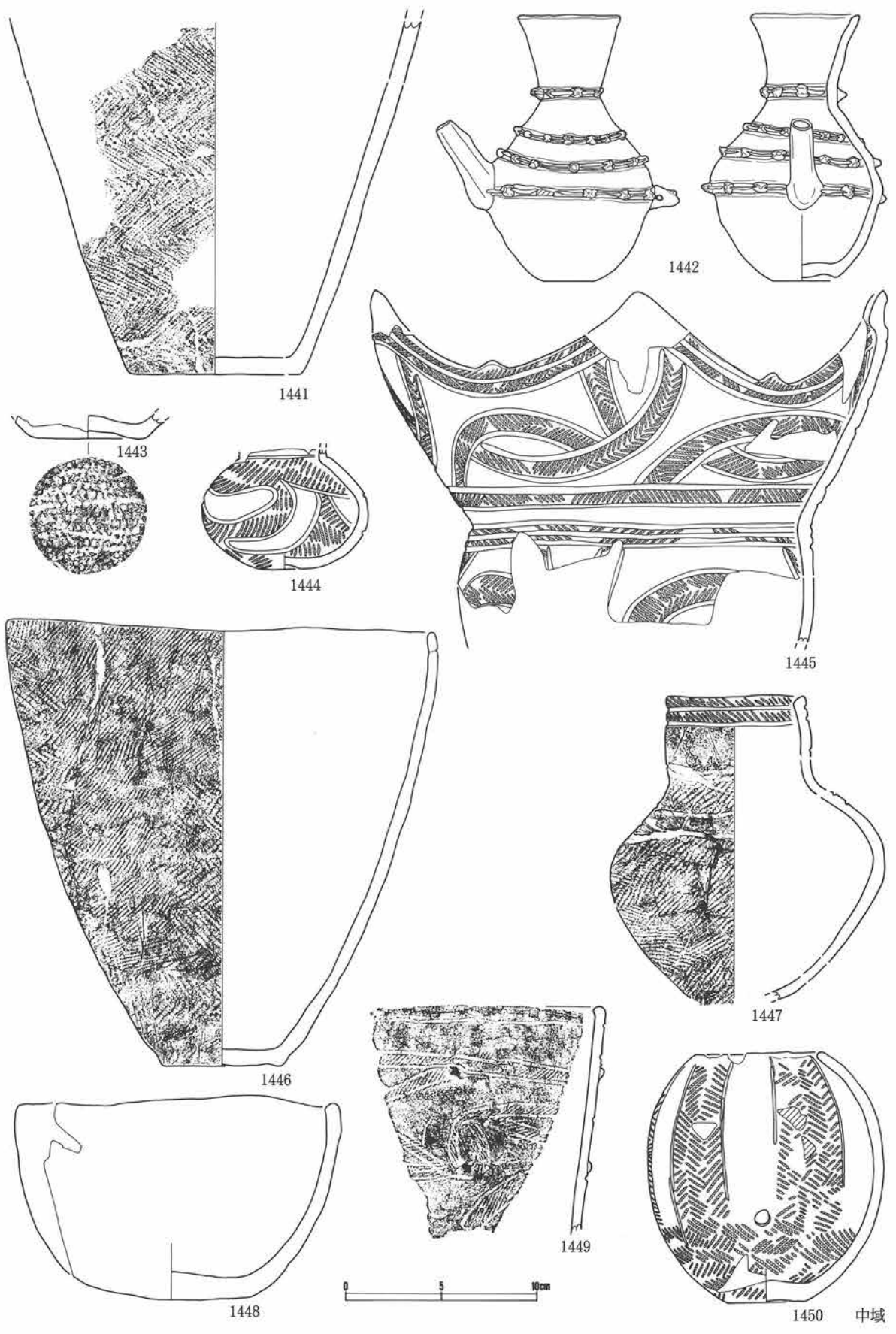
第219図 遺構外土器24 (東部捨て場)



第220図 遺構外土器25 (東部捨て場)



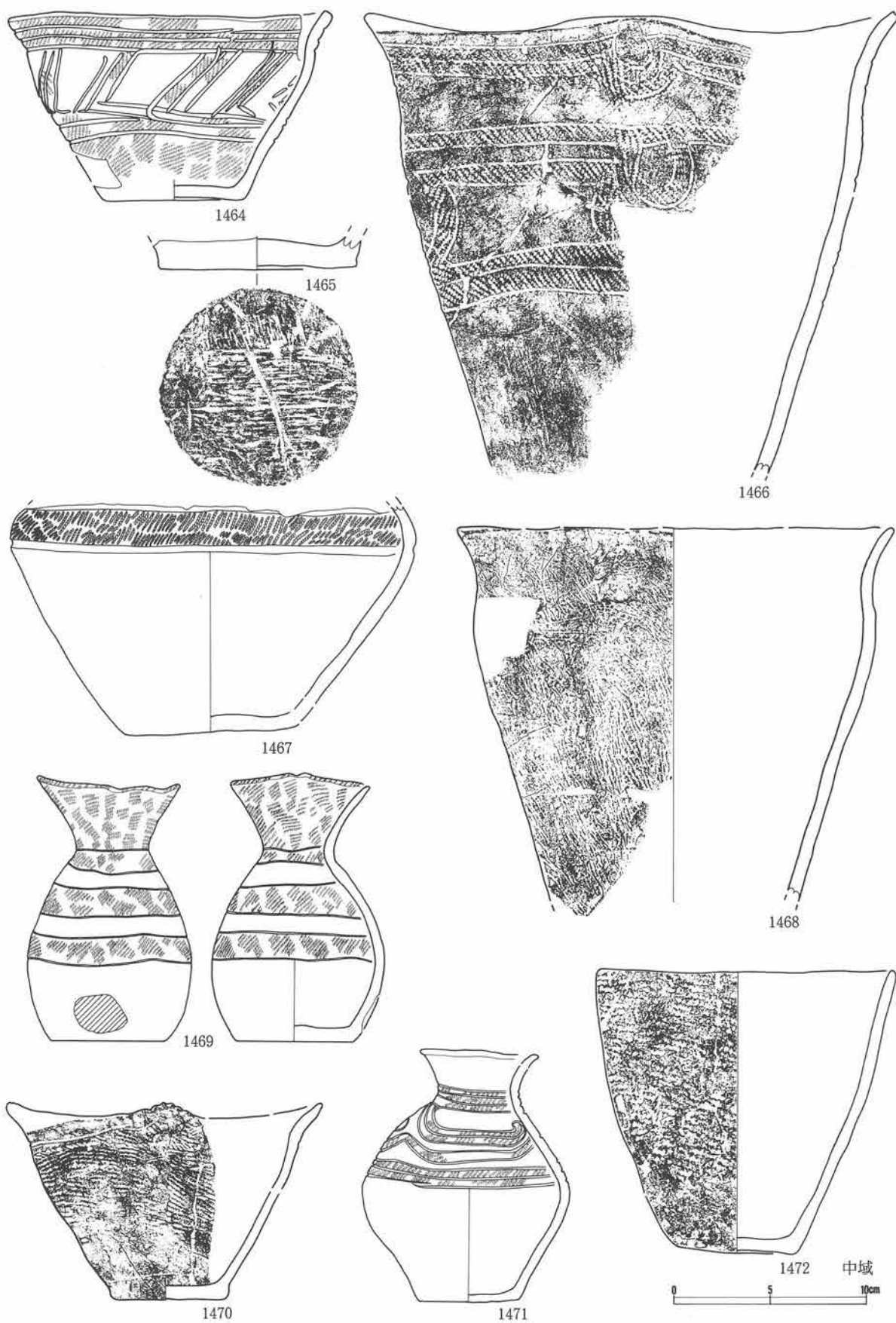
第221図 遺構外土器26 (東部捨て場)



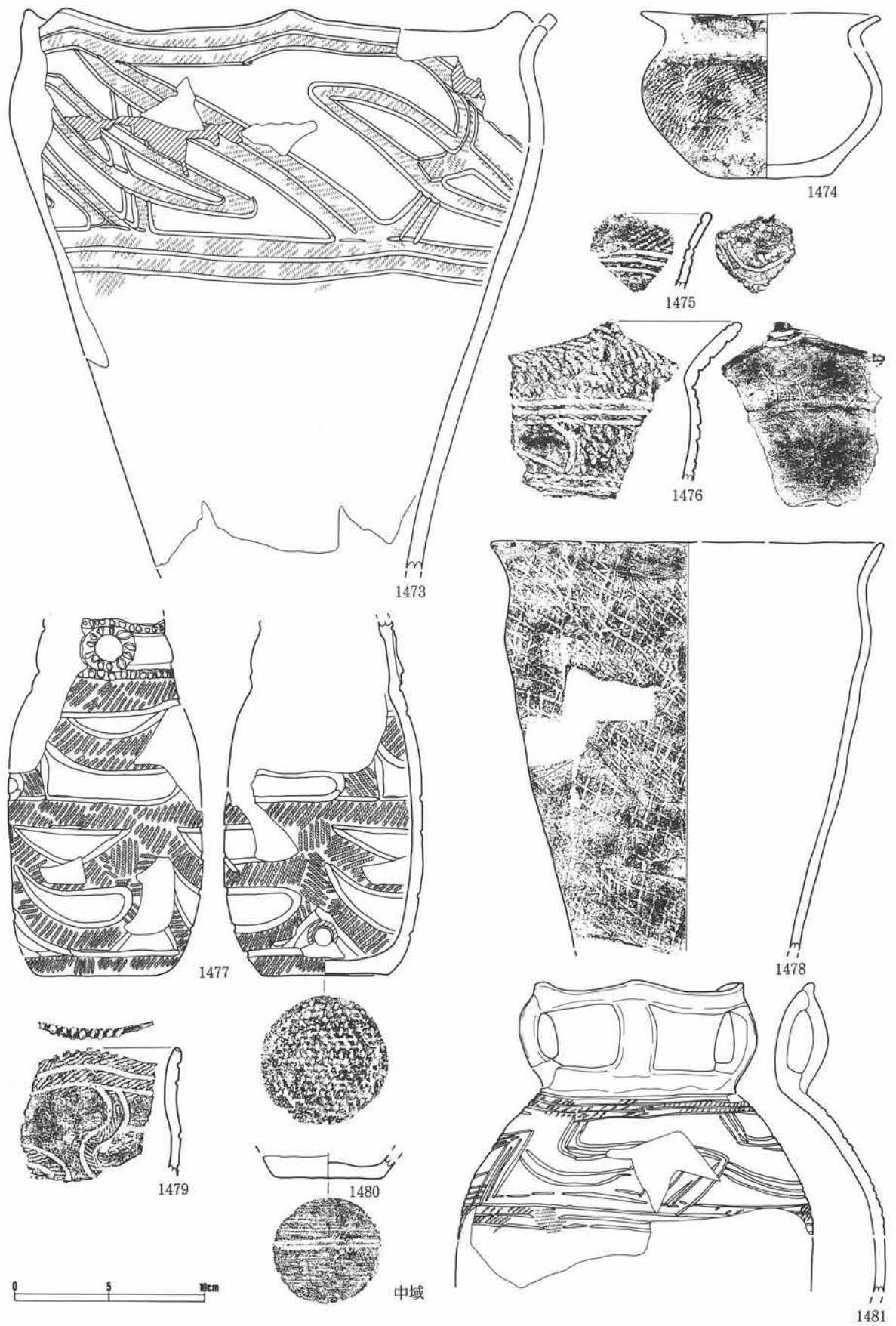
第222図 遺構外土器27 (東部捨て場)



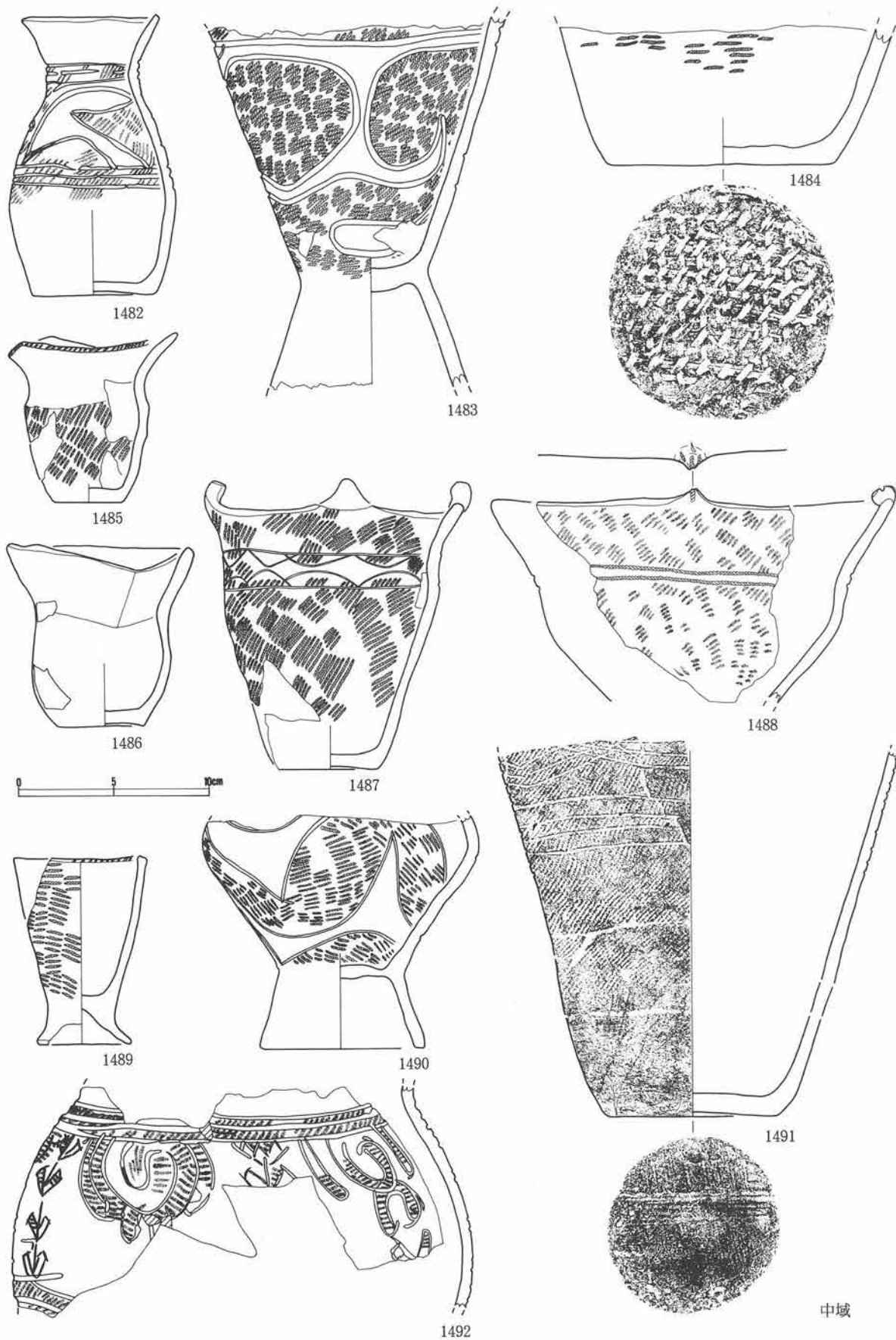
第223図 遺構外土器28 (東部捨て場)



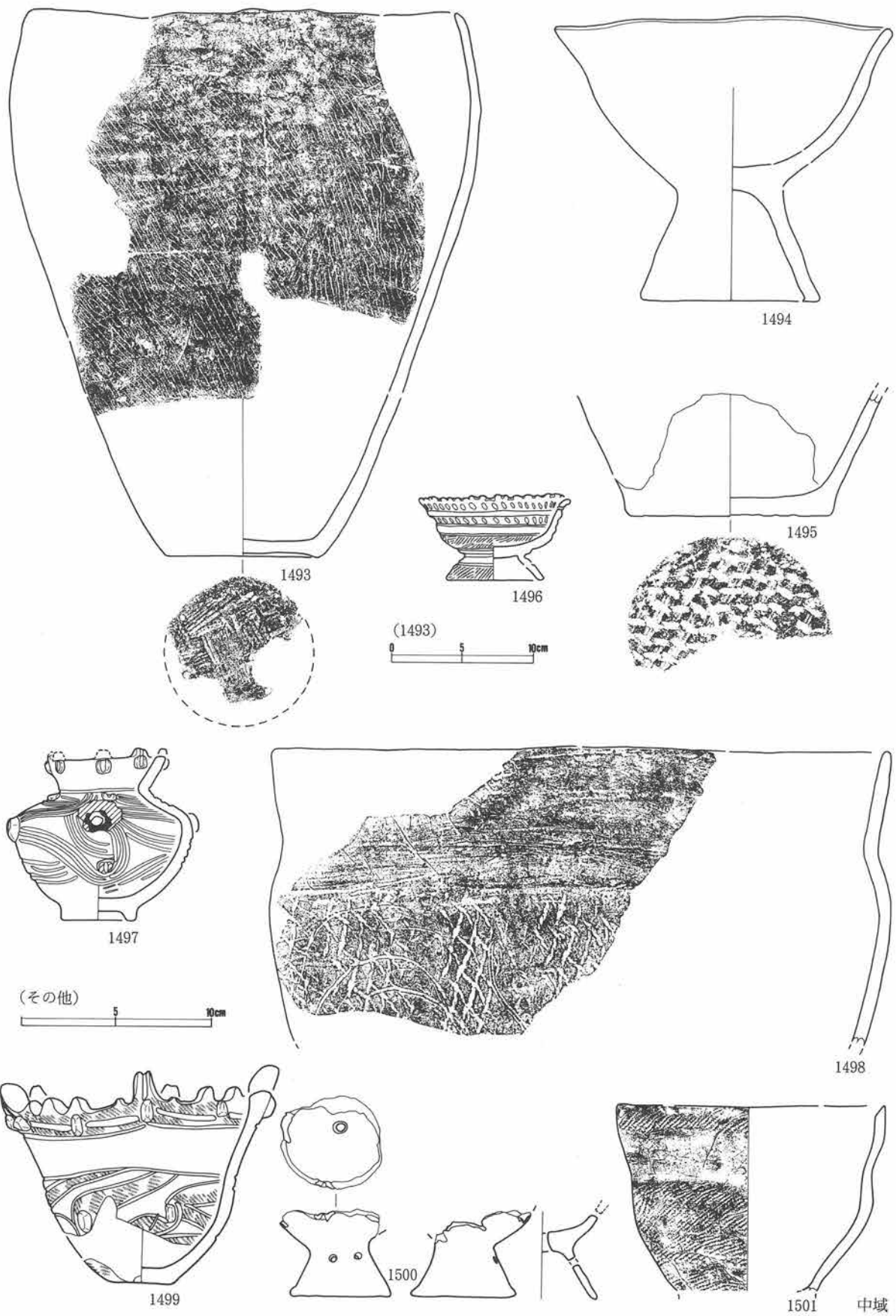
第224図 遺構外土器29（東部捨て場）



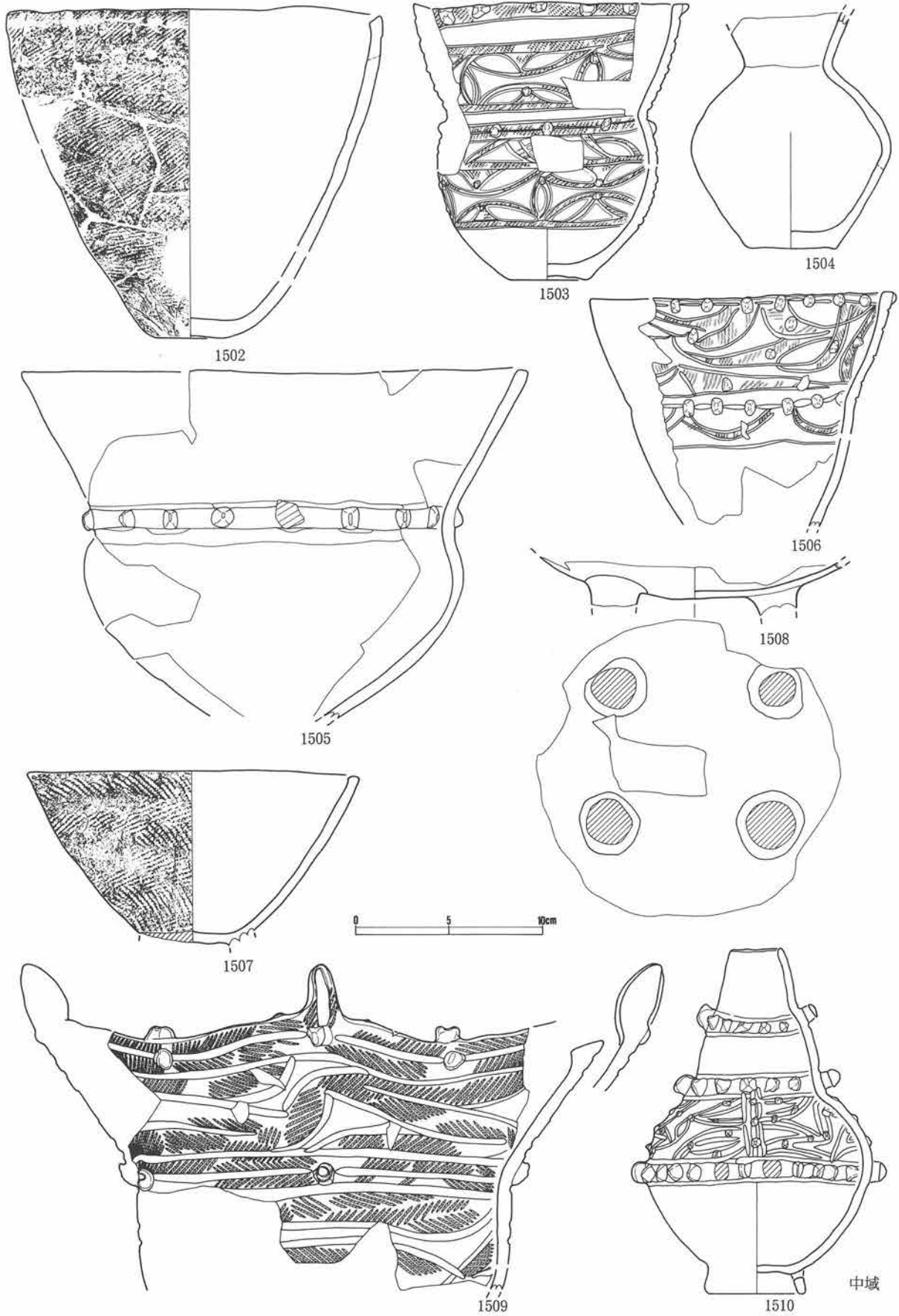
第225図 遺構外土器30 (東部捨て場)



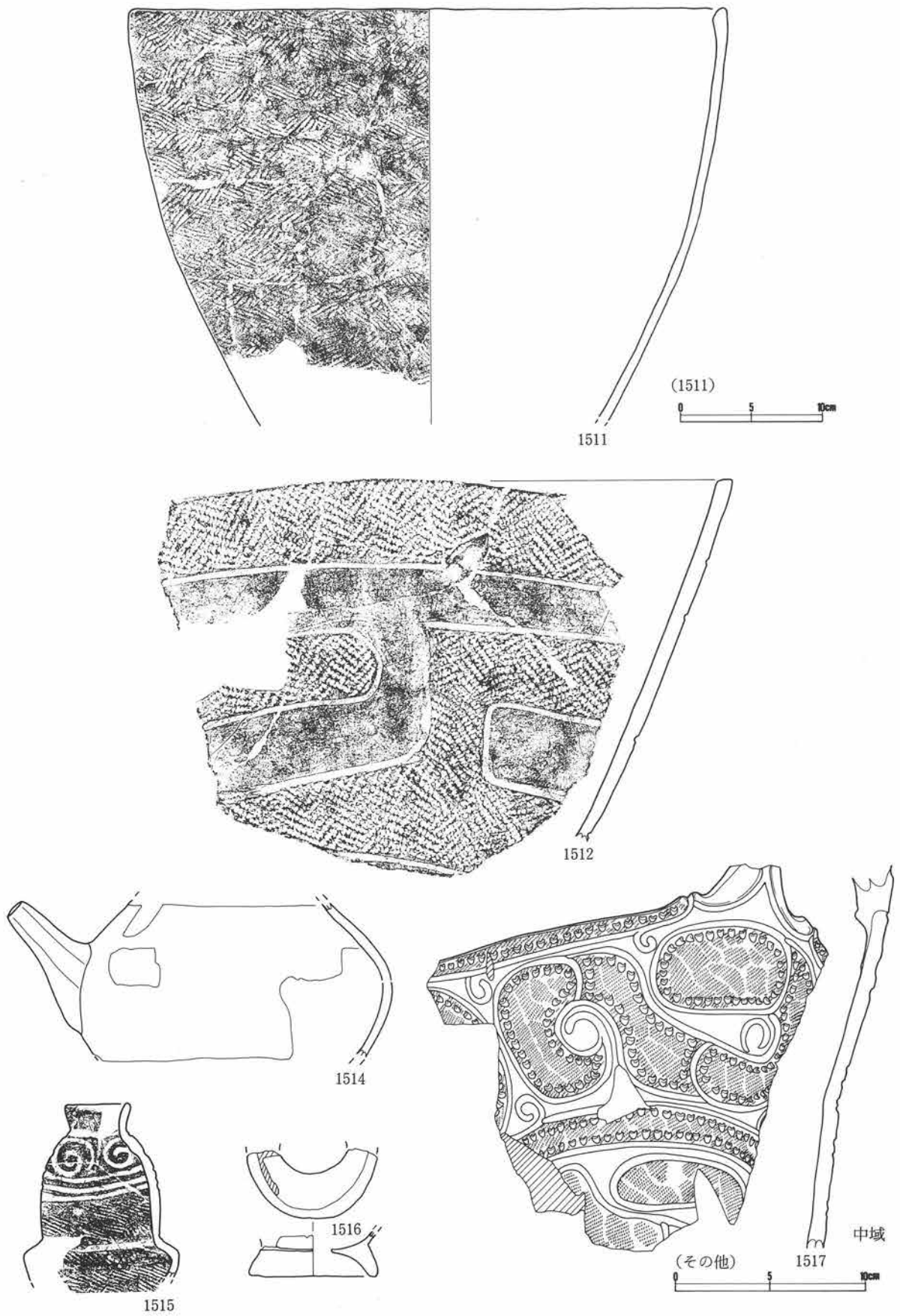
第226図 遺構外土器31 (東部捨て場)



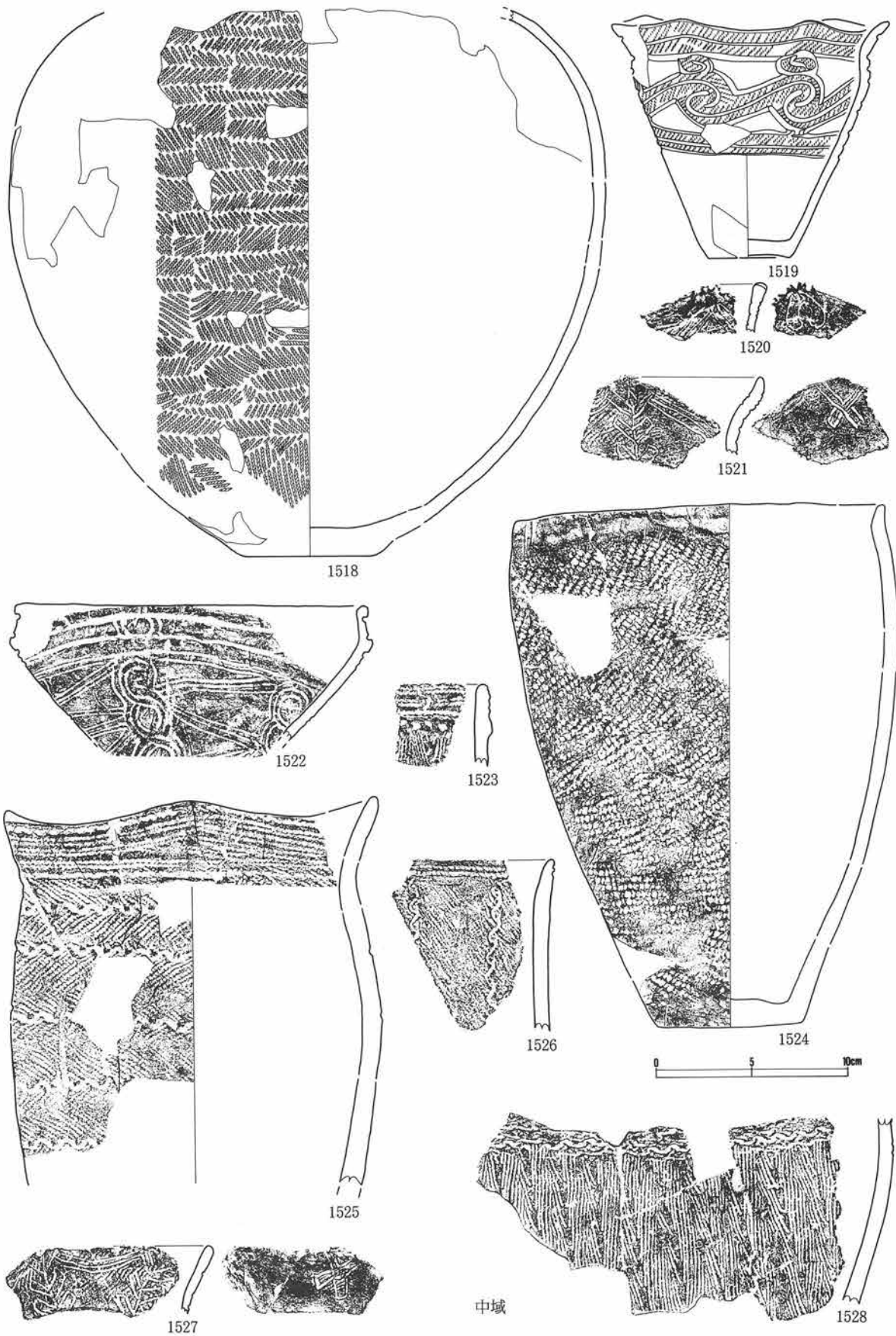
第227図 遺構外土器32 (東部捨て場)



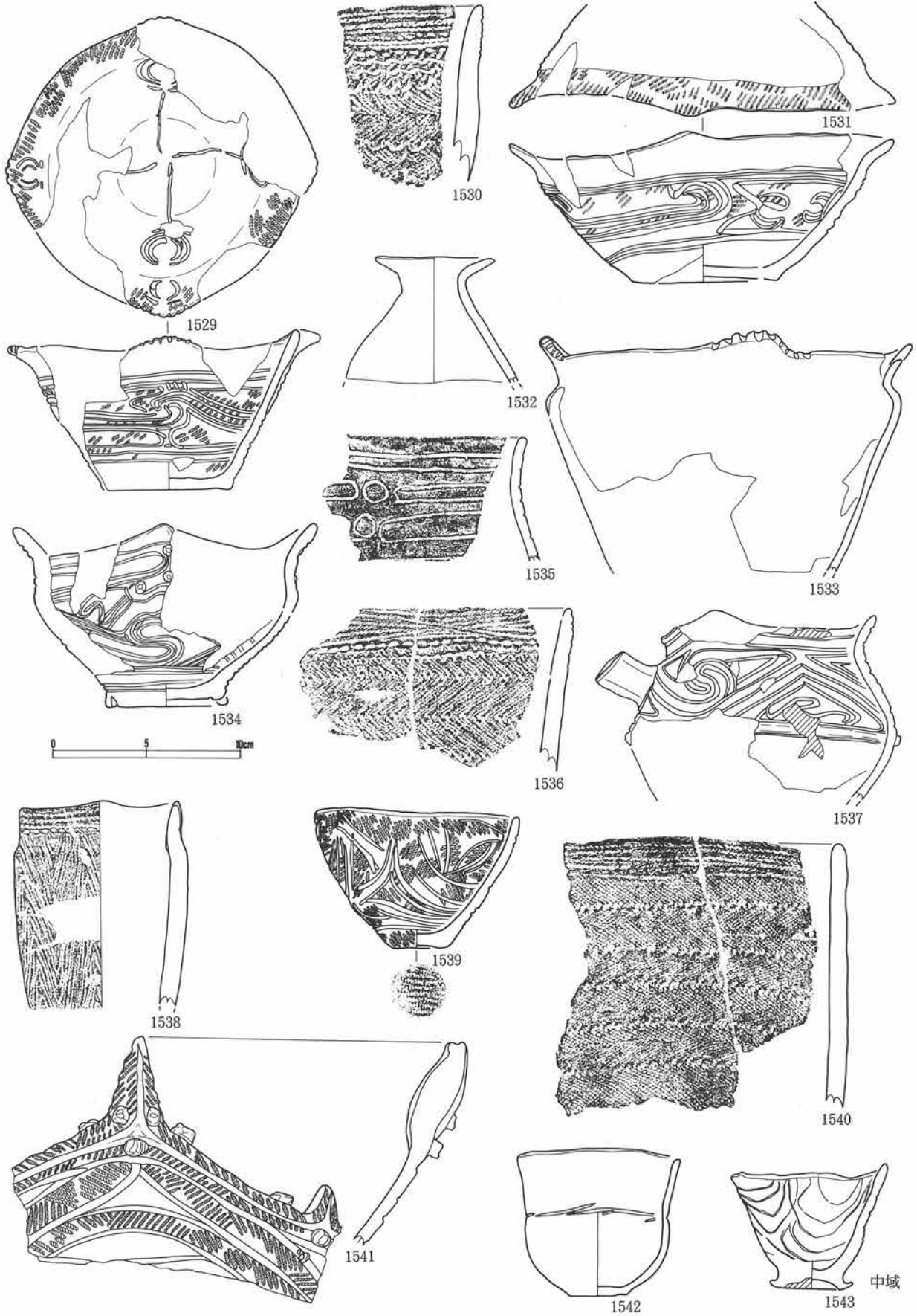
第228図 遺構外土器33 (東部捨て場)



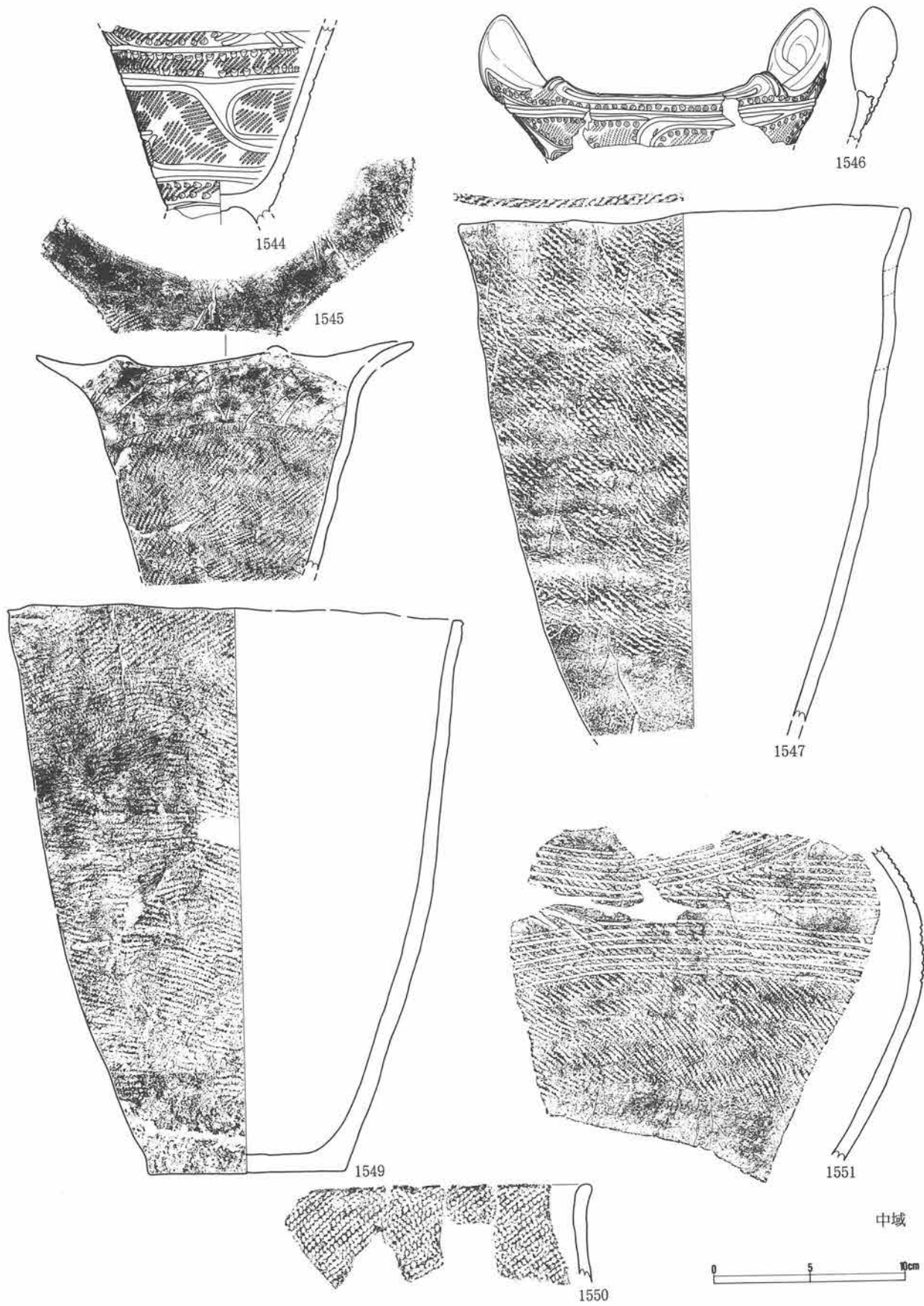
第229図 遺構外土器34 (東部捨て場)



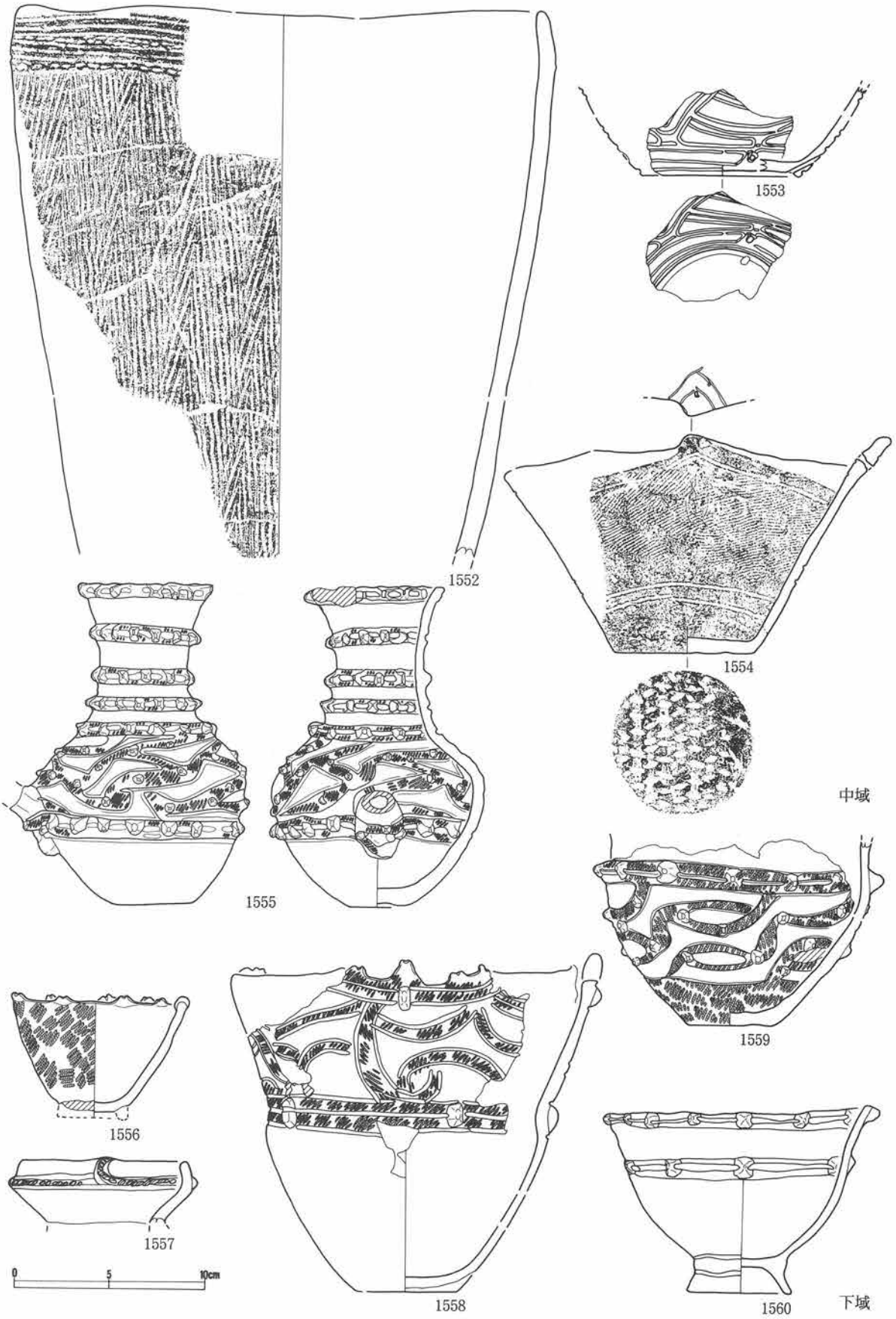
第230図 遺構外土器35 (東部捨て場)



第231図 遺構外土器36 (東部捨て場)



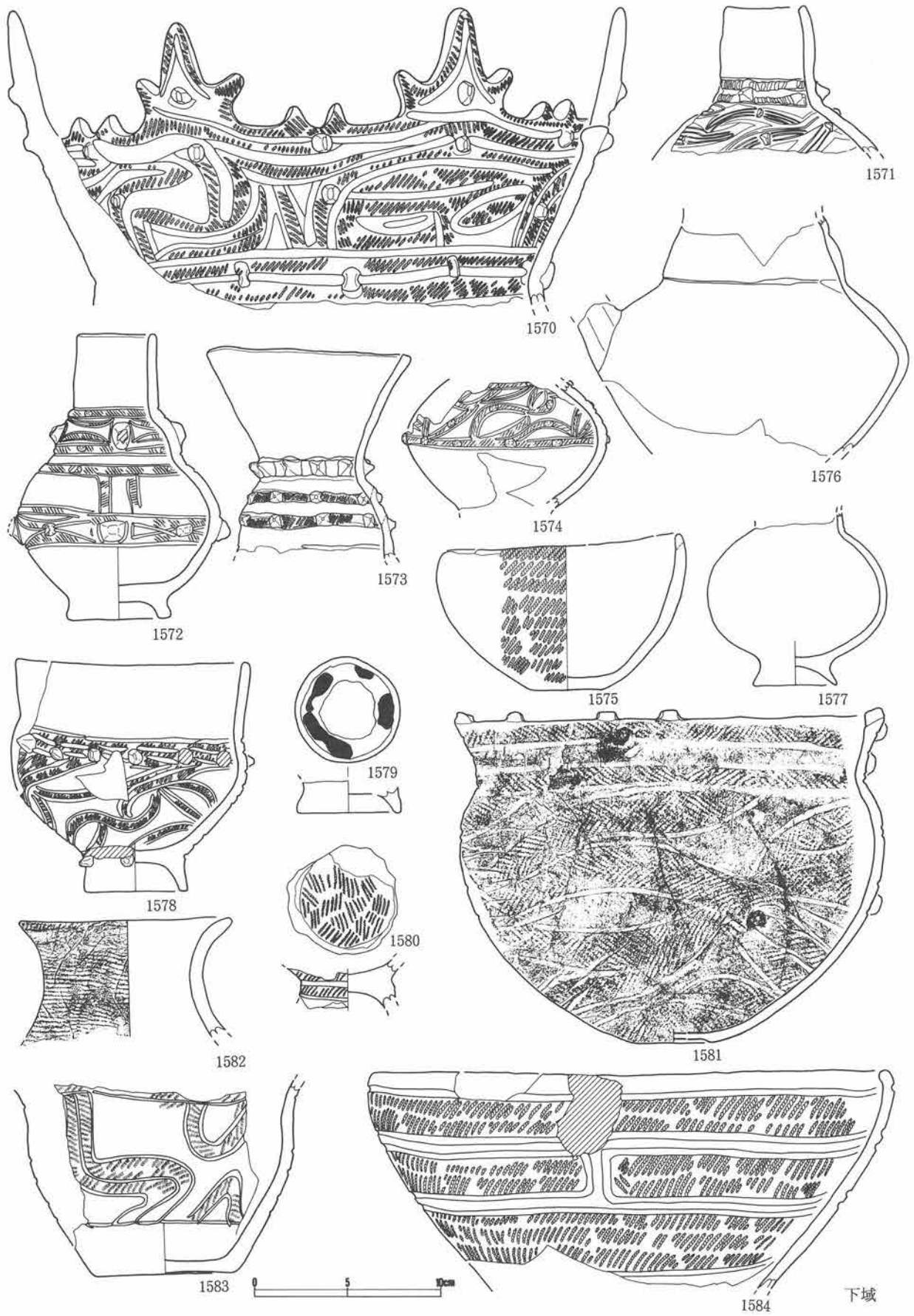
第232図 遺構外土器37 (東部捨て場)



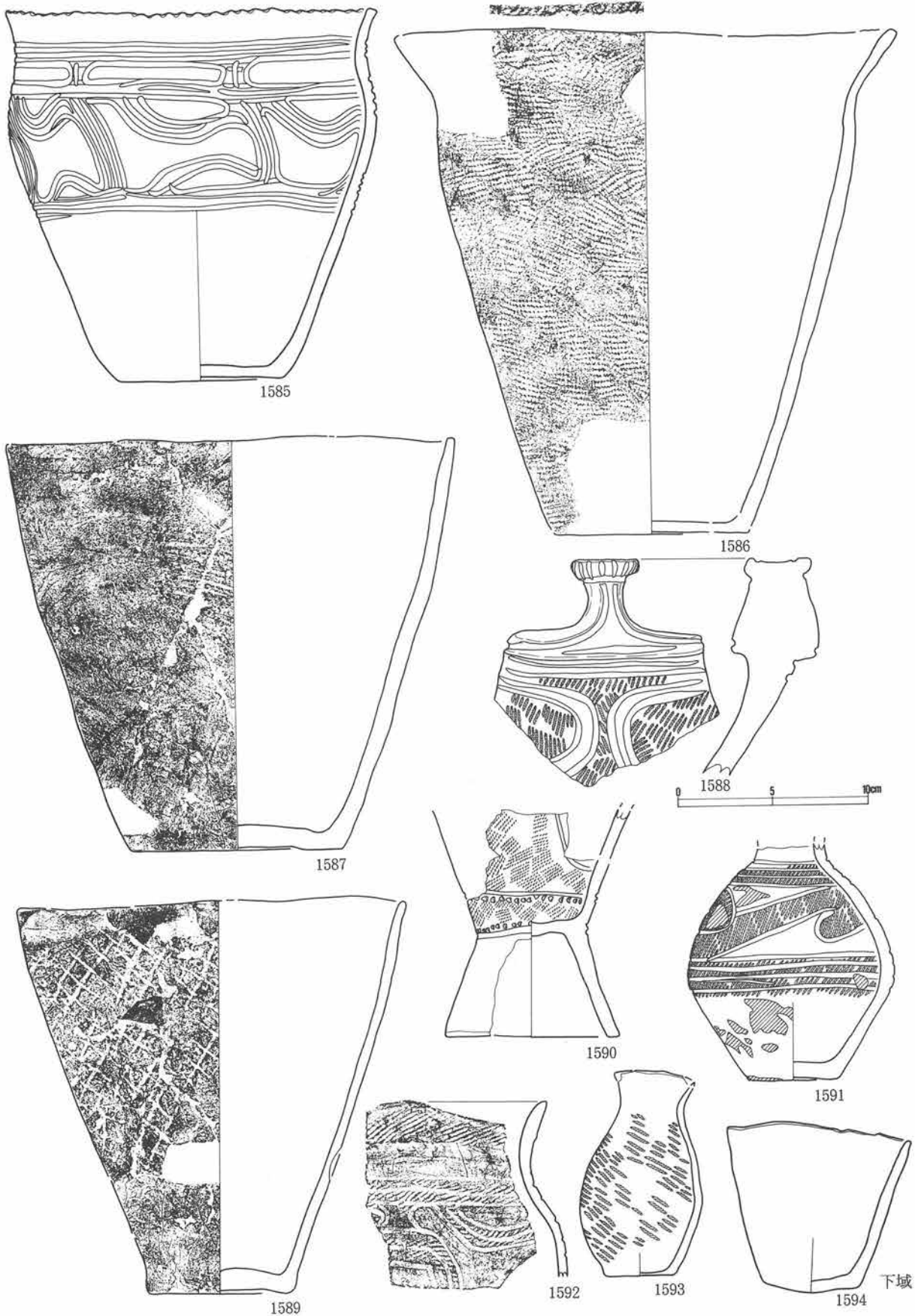
第233図 遺構外土器38 (東部捨て場)



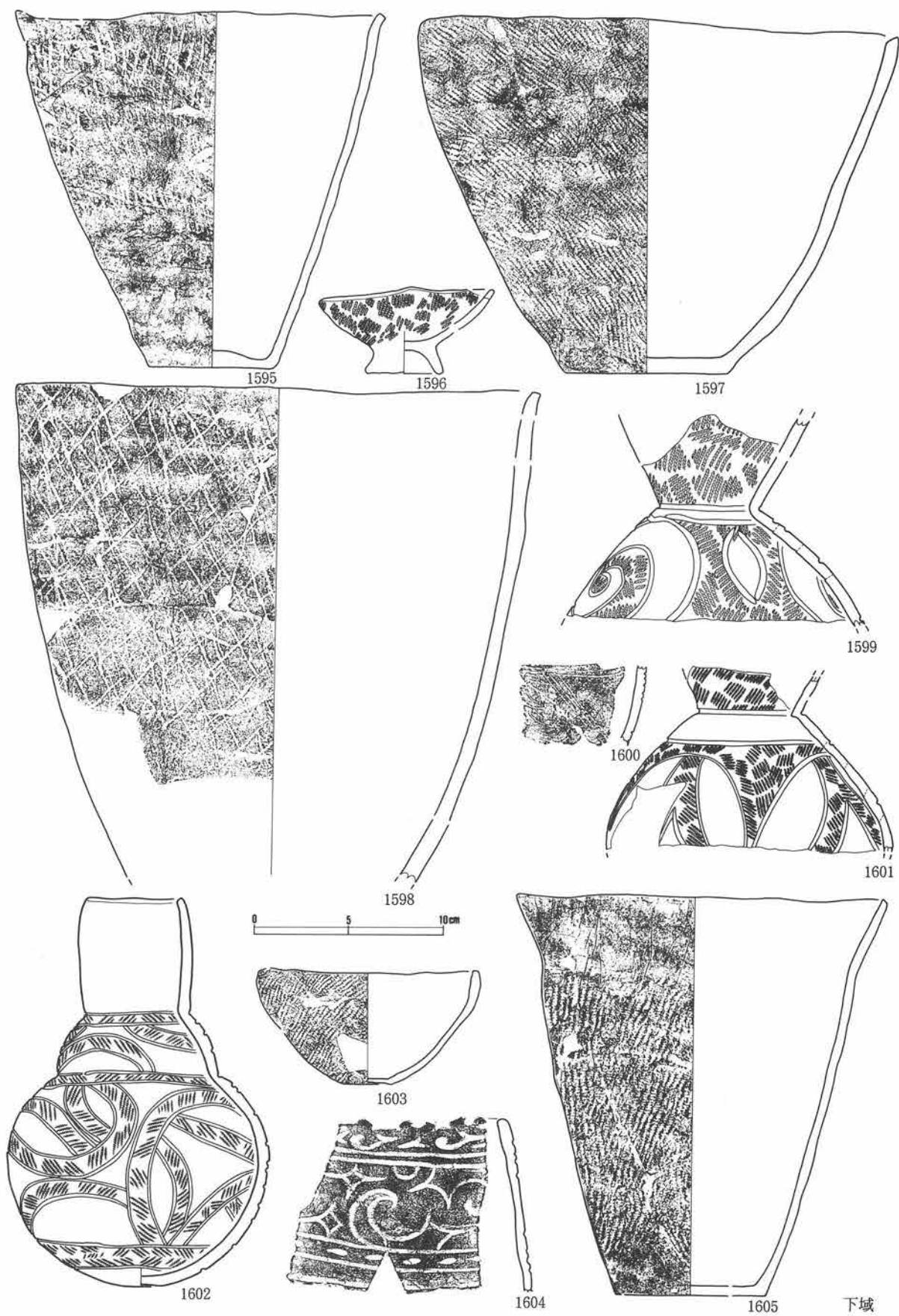
第234図 遺構外土器39 (東部捨て場)



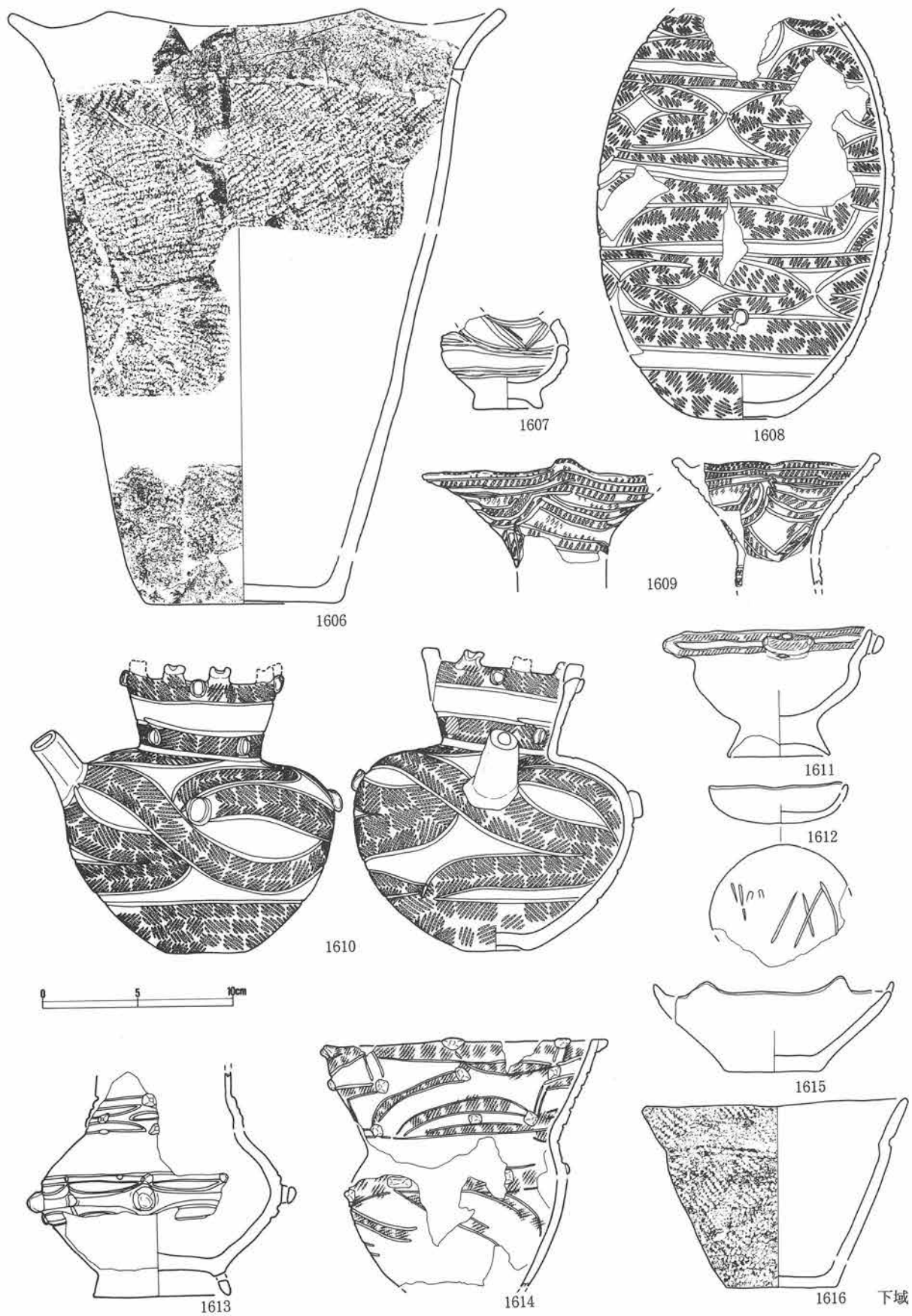
第235図 遺構外土器40 (東部捨て場)



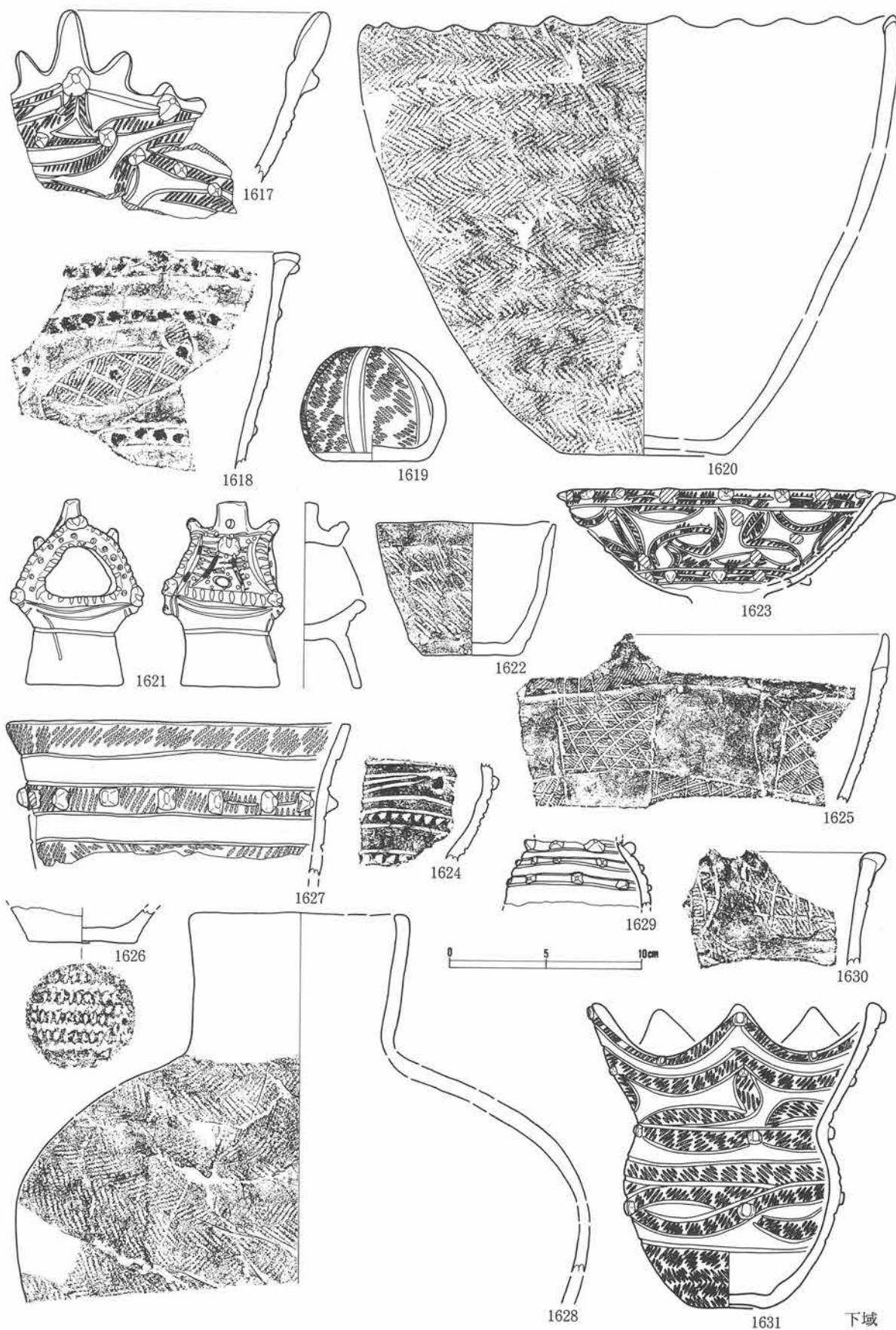
第236図 遺構外土器41 (東部捨て場)



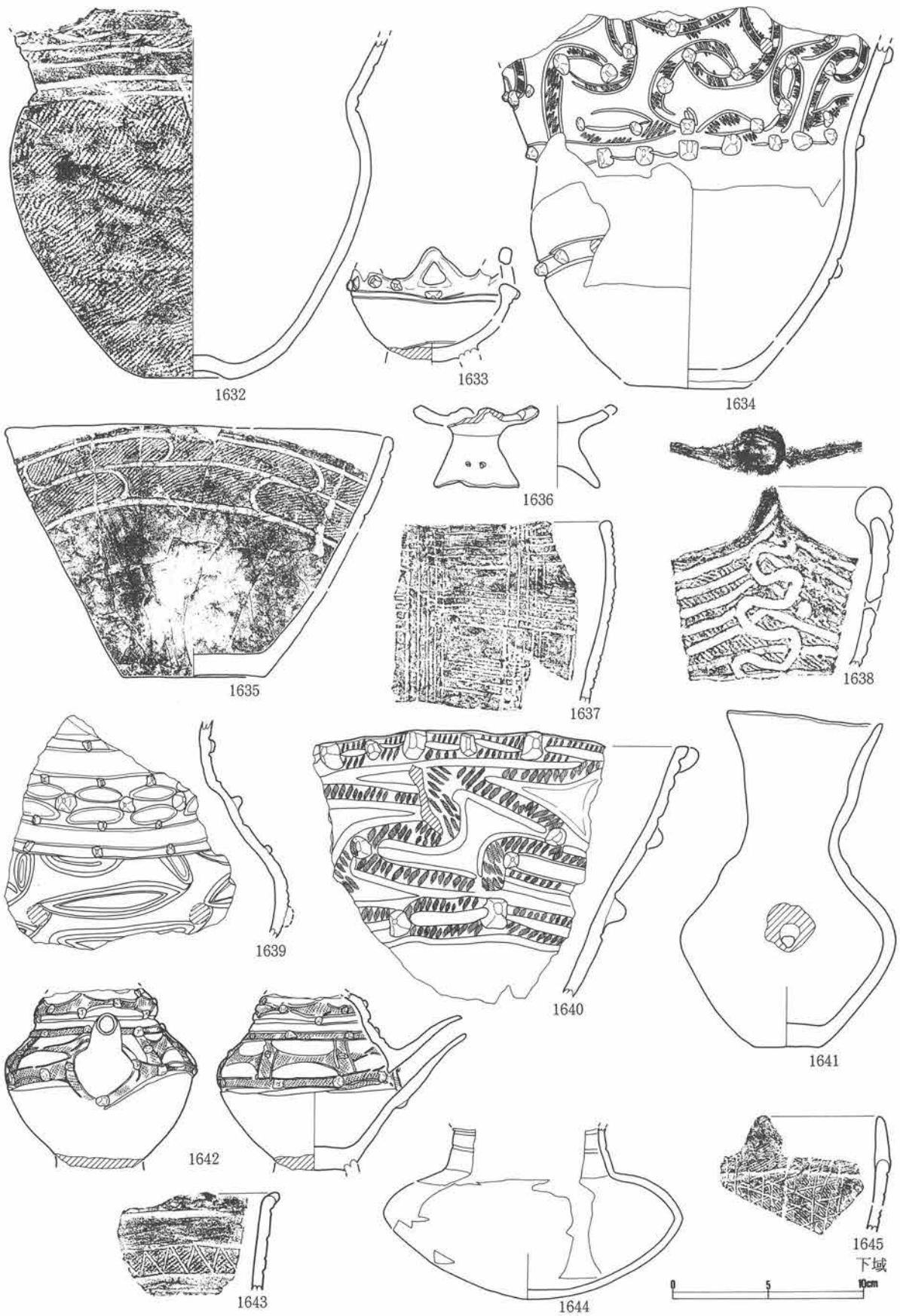
第237図 遺構外土器42 (東部捨て場)



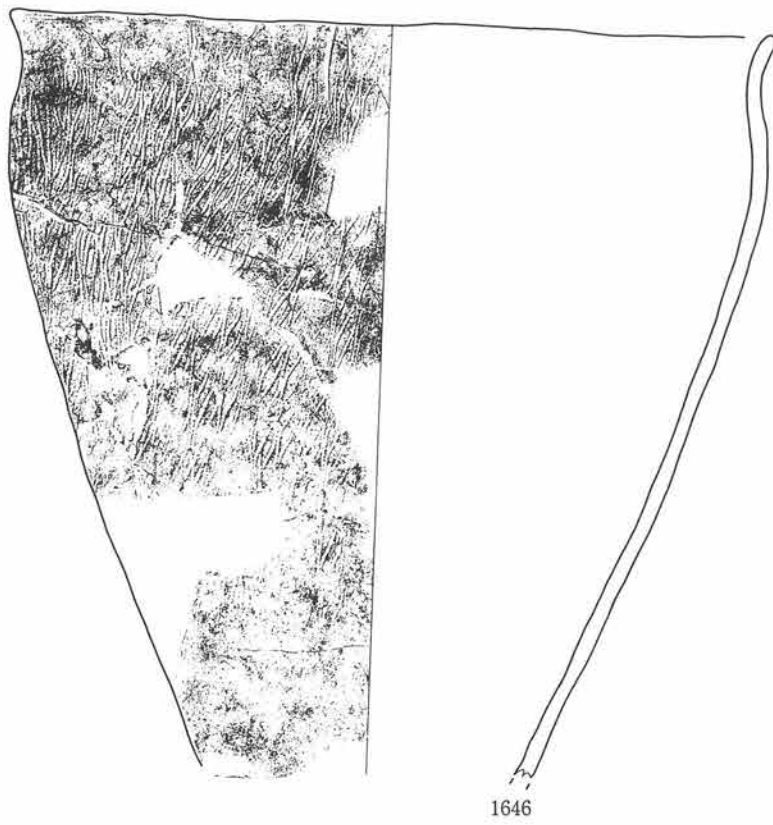
第238図 遺構外土器43 (東部捨て場)



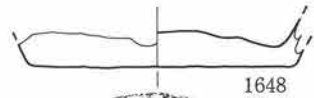
第239図 遺構外土器44 (東部捨て場)



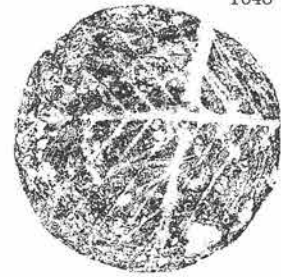
第240図 遺構外土器45（東部捨て場）



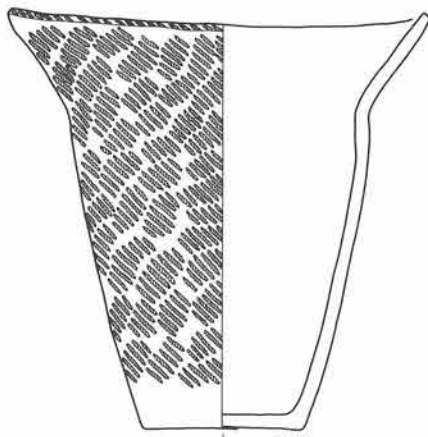
1647



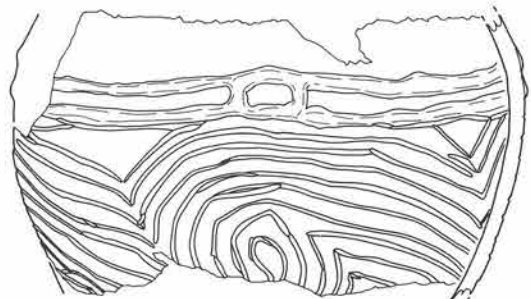
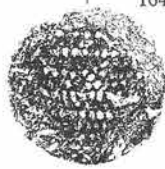
1648



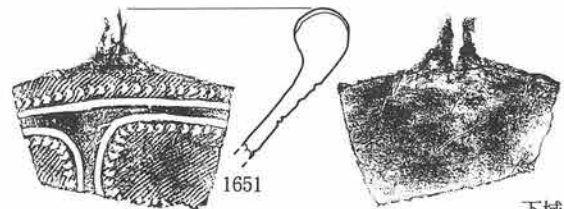
1646



1649

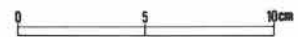


1650

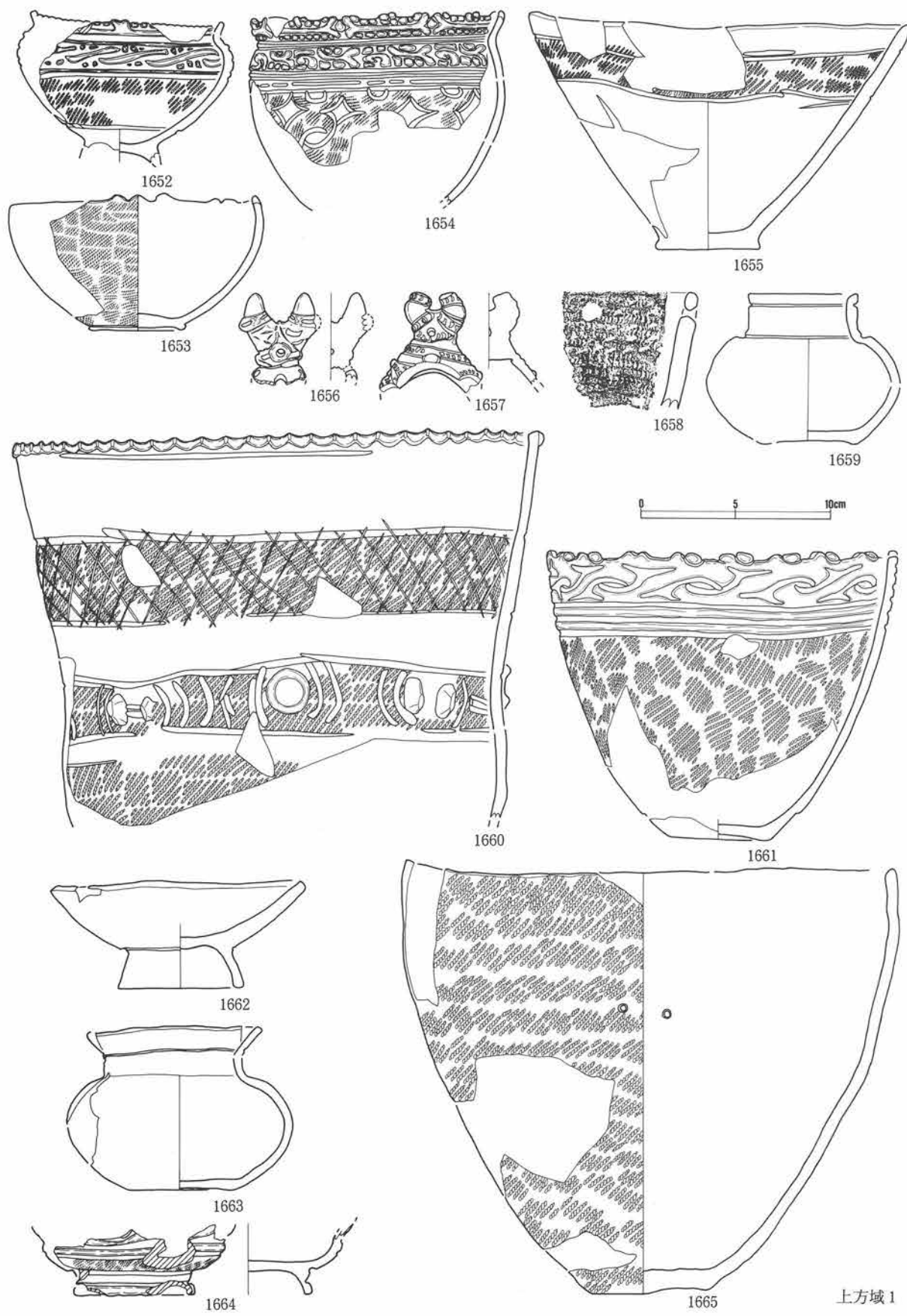


1651

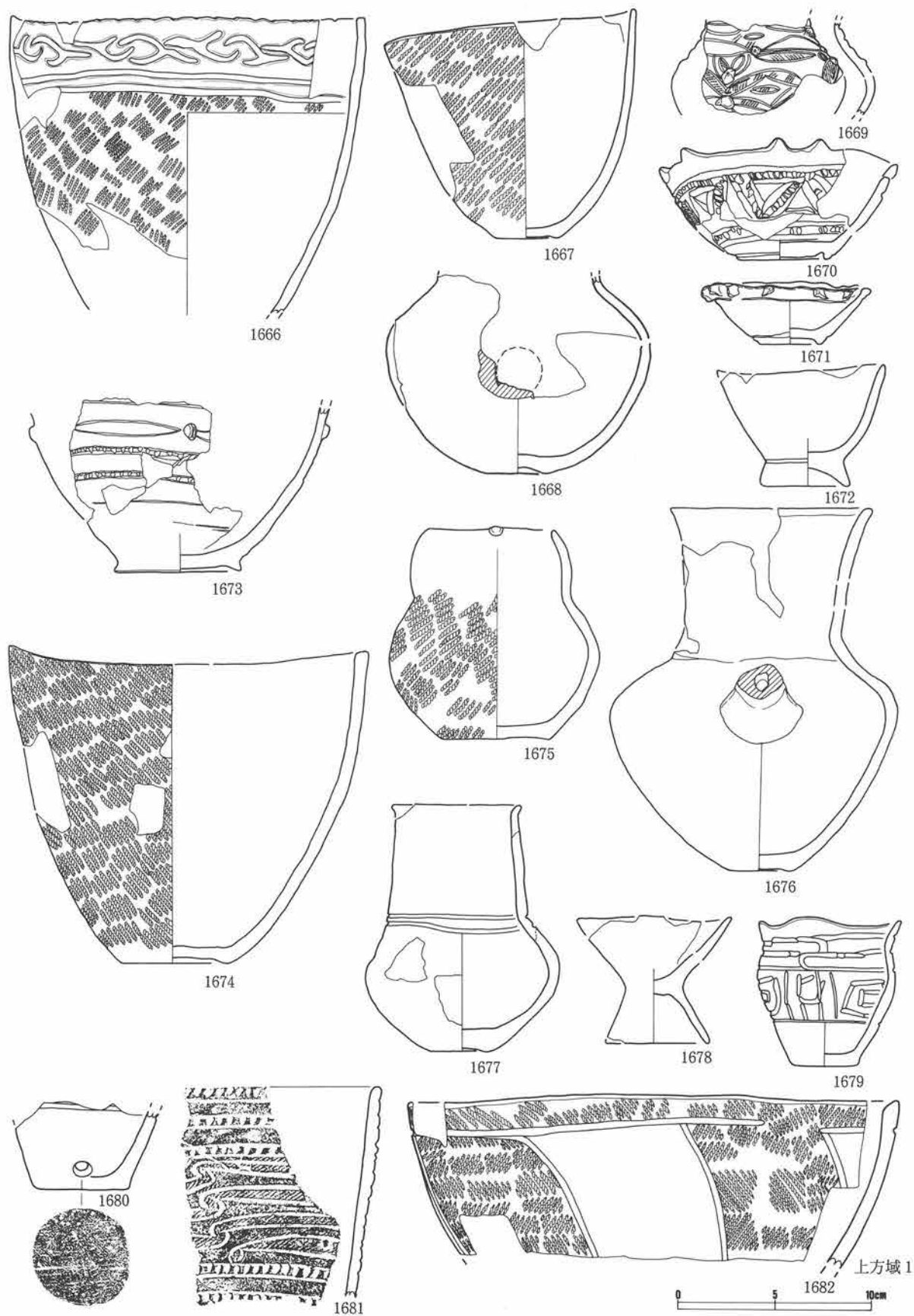
下域



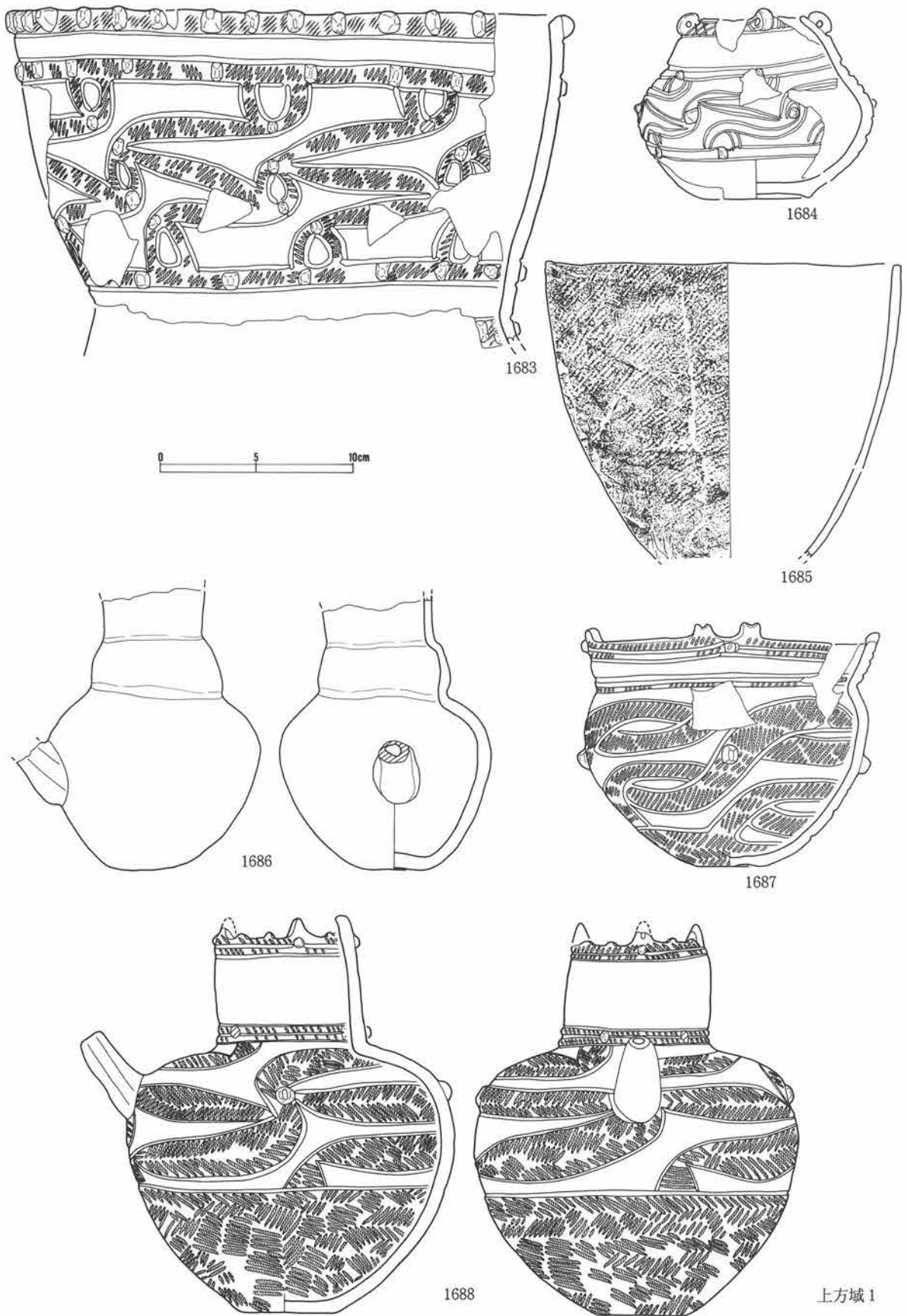
第241図 遺構外土器46 (東部捨て場)



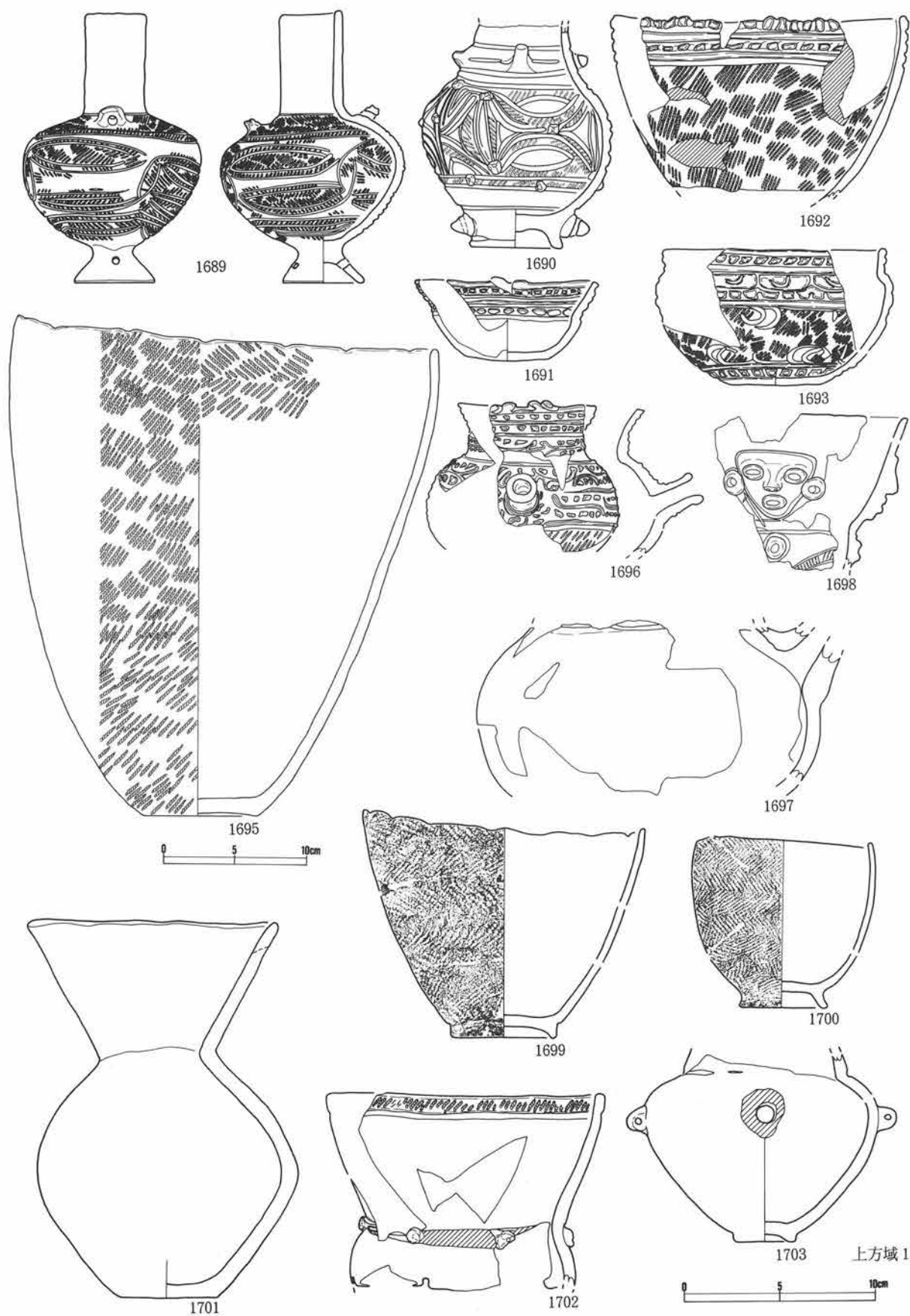
第242図 遺構外土器47 (西部捨て場)



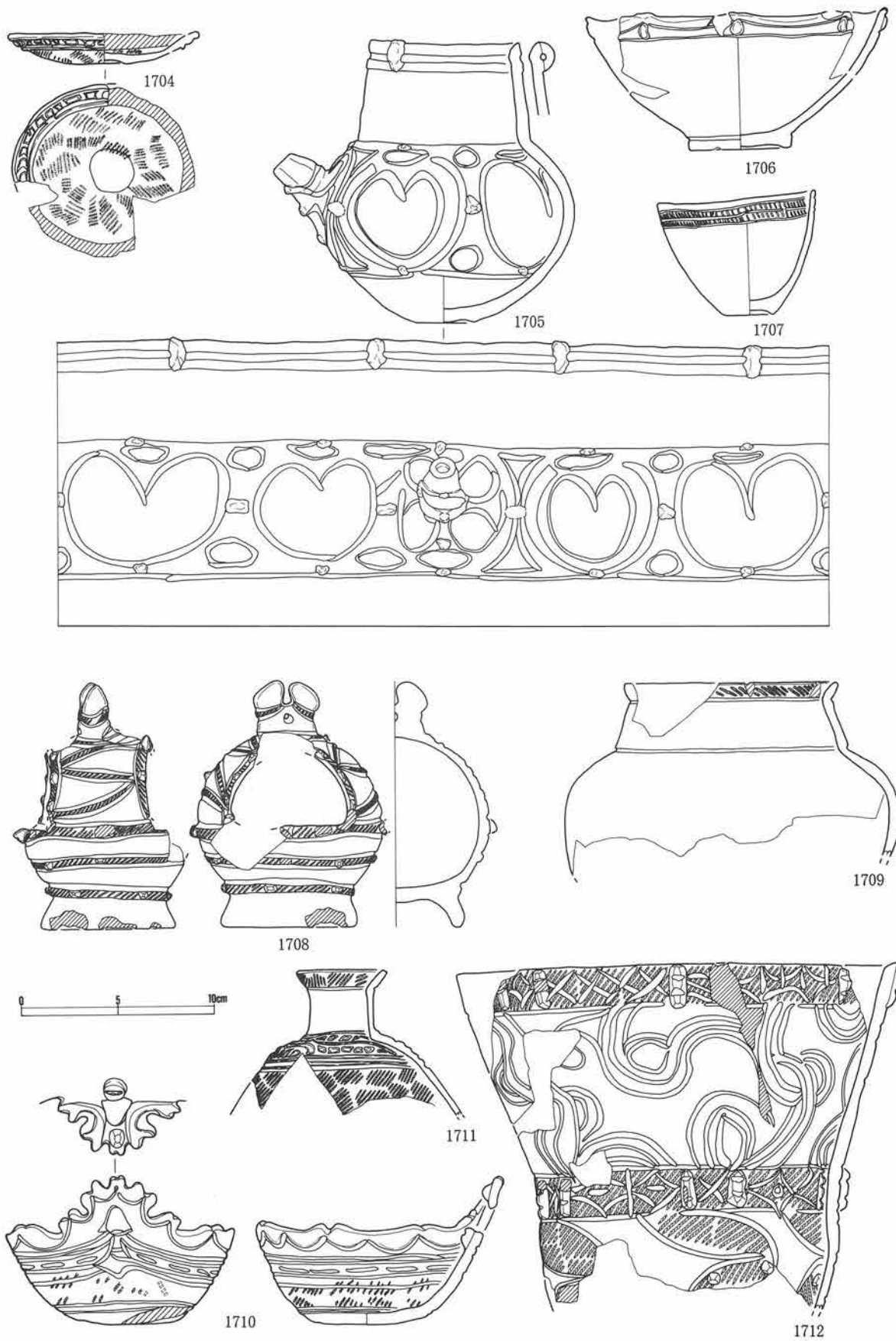
第243図 遺構外土器48 (西部捨て場)



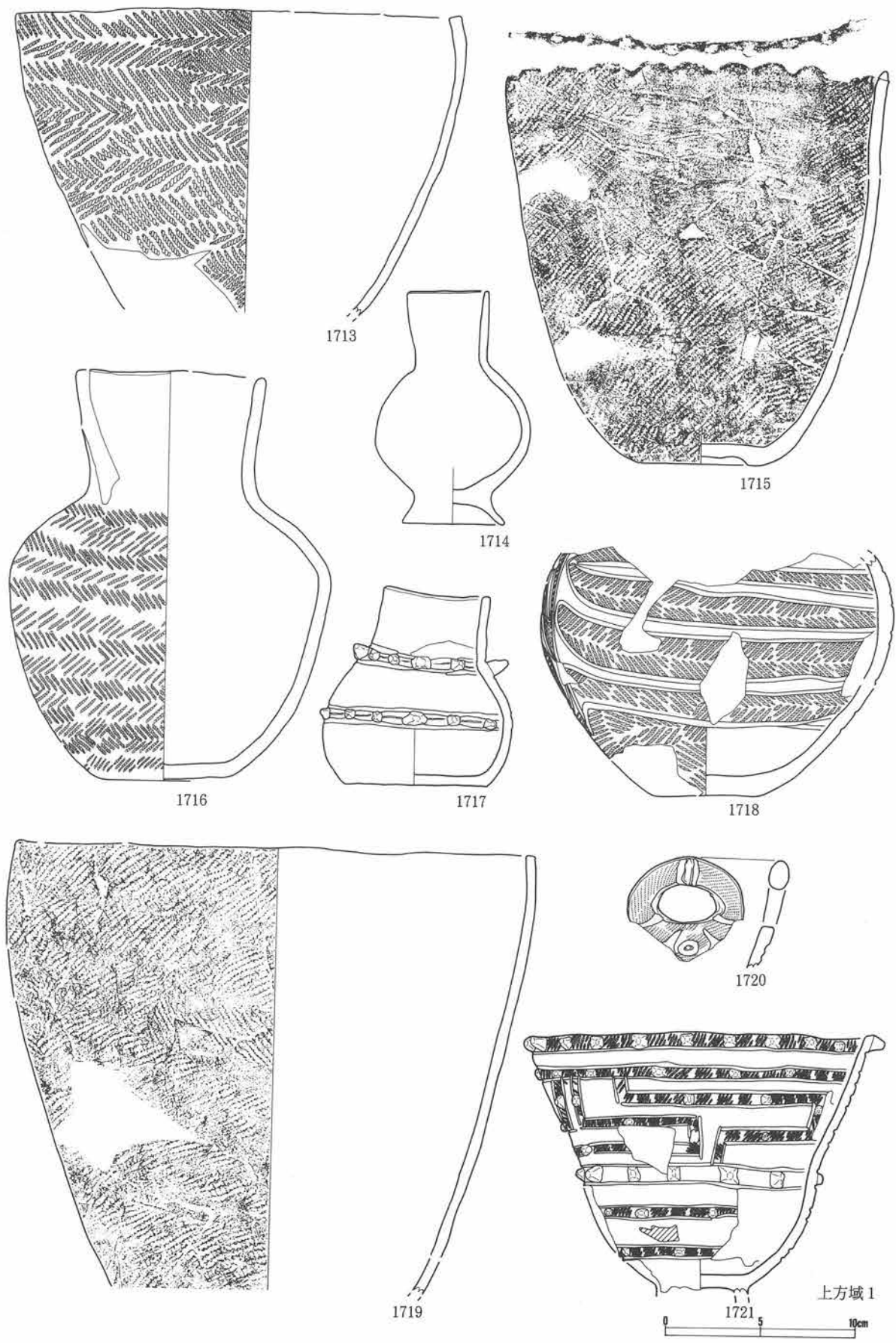
第244図 遺構外土器49 (西部捨て場)



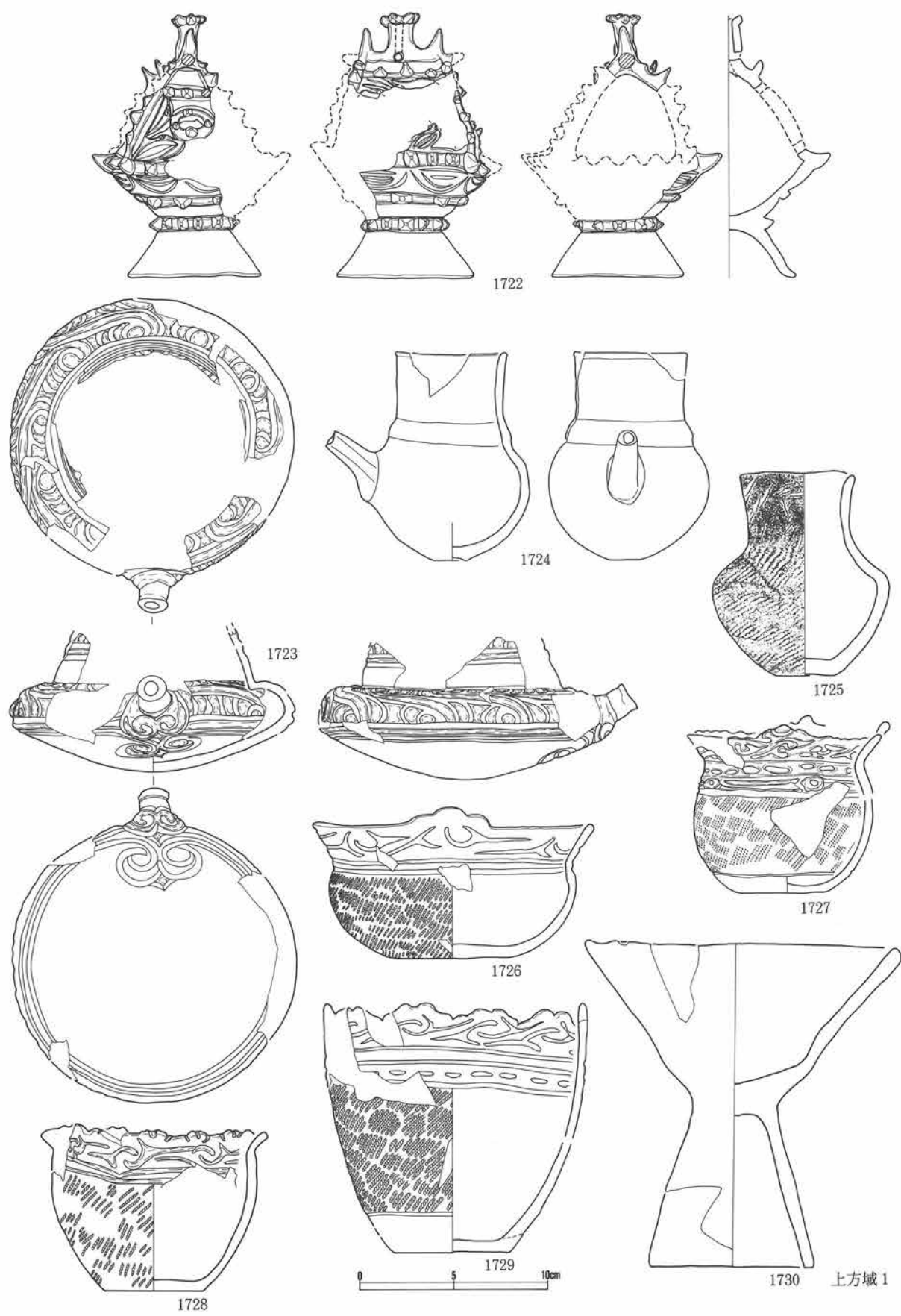
第245図 遺構外土器50 (西部捨て場)



第246図 遺構外土器51 (西部捨て場)



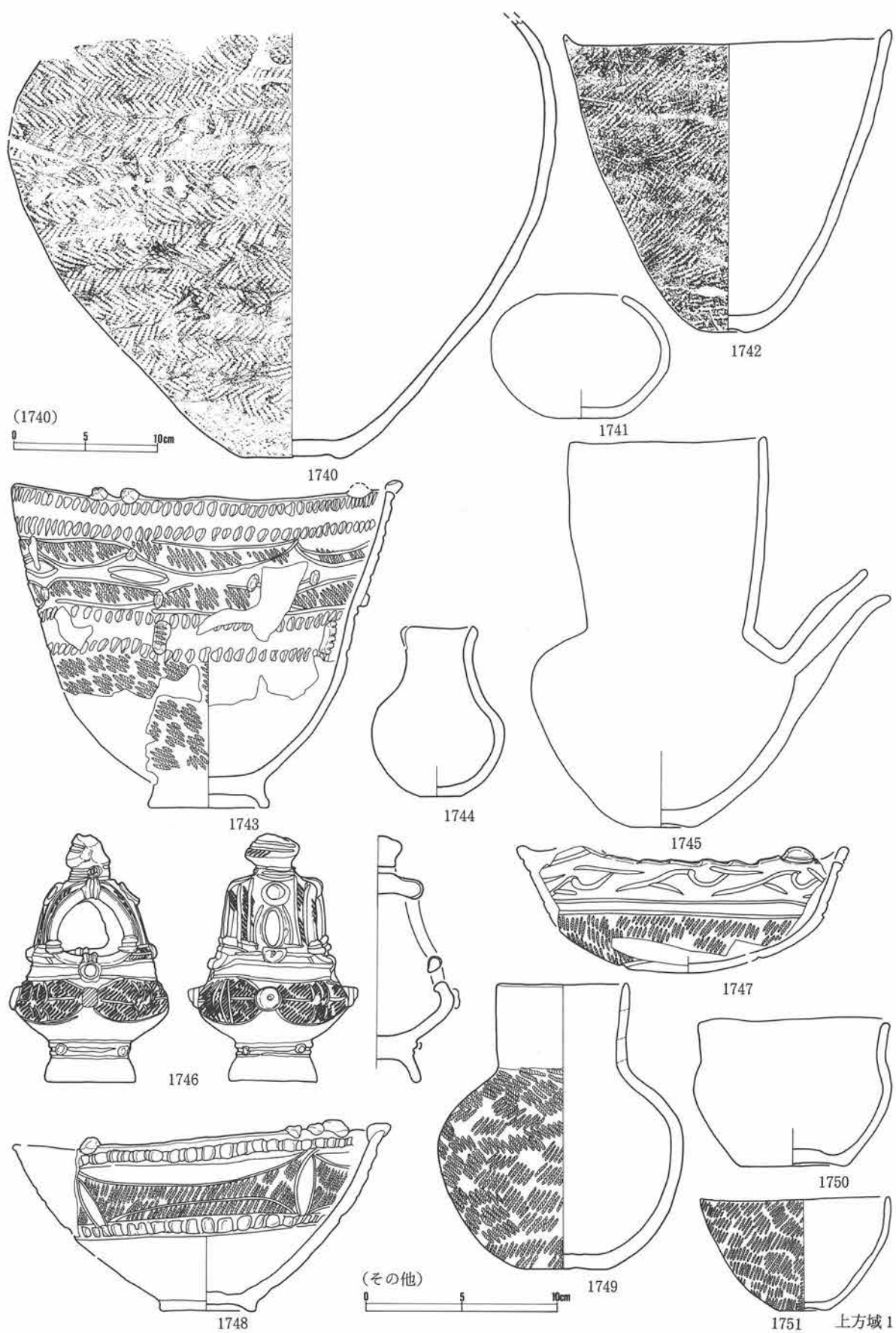
第247図 遺構外土器52 (西部捨て場)



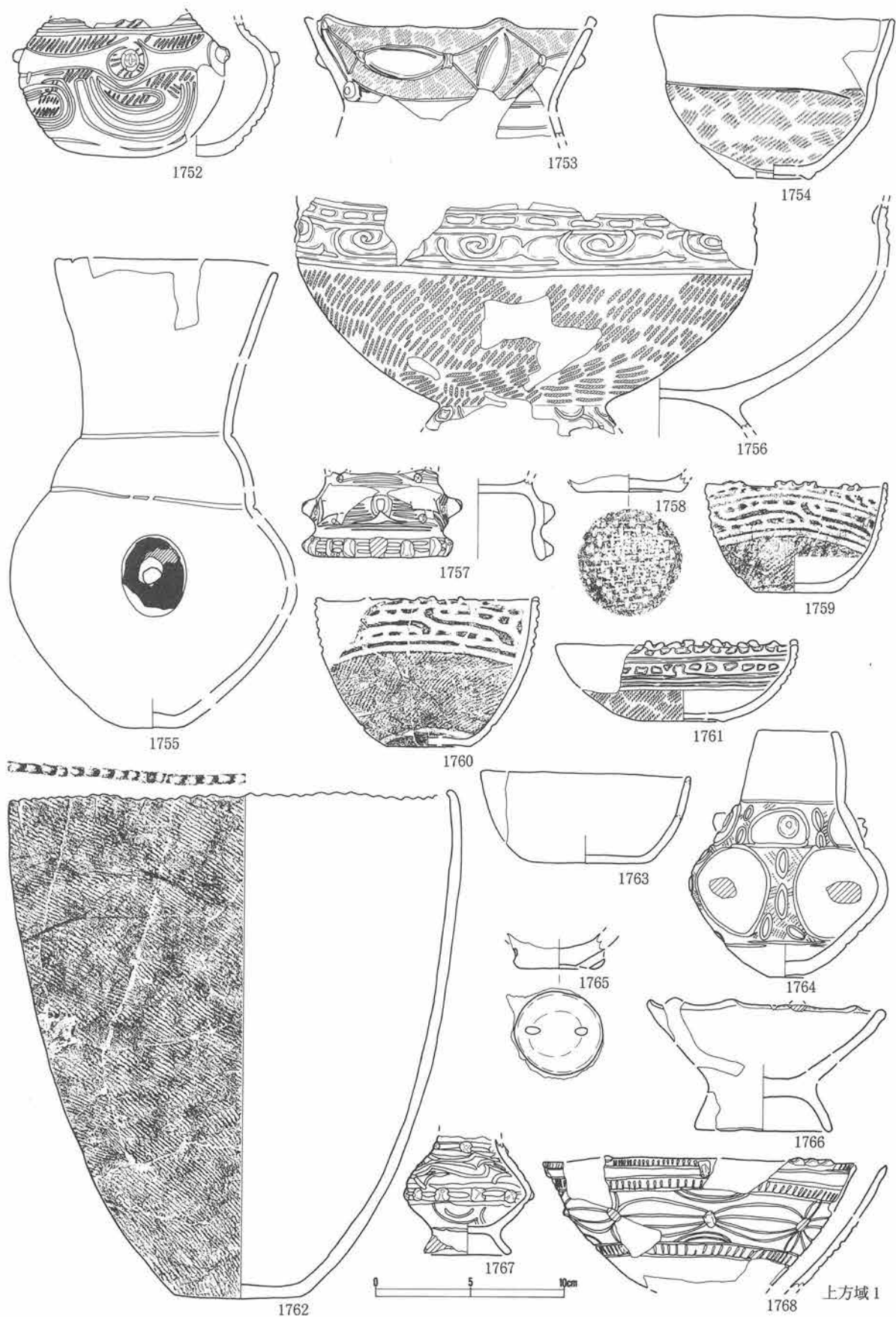
第248図 遺構外土器53 (西部捨て場)



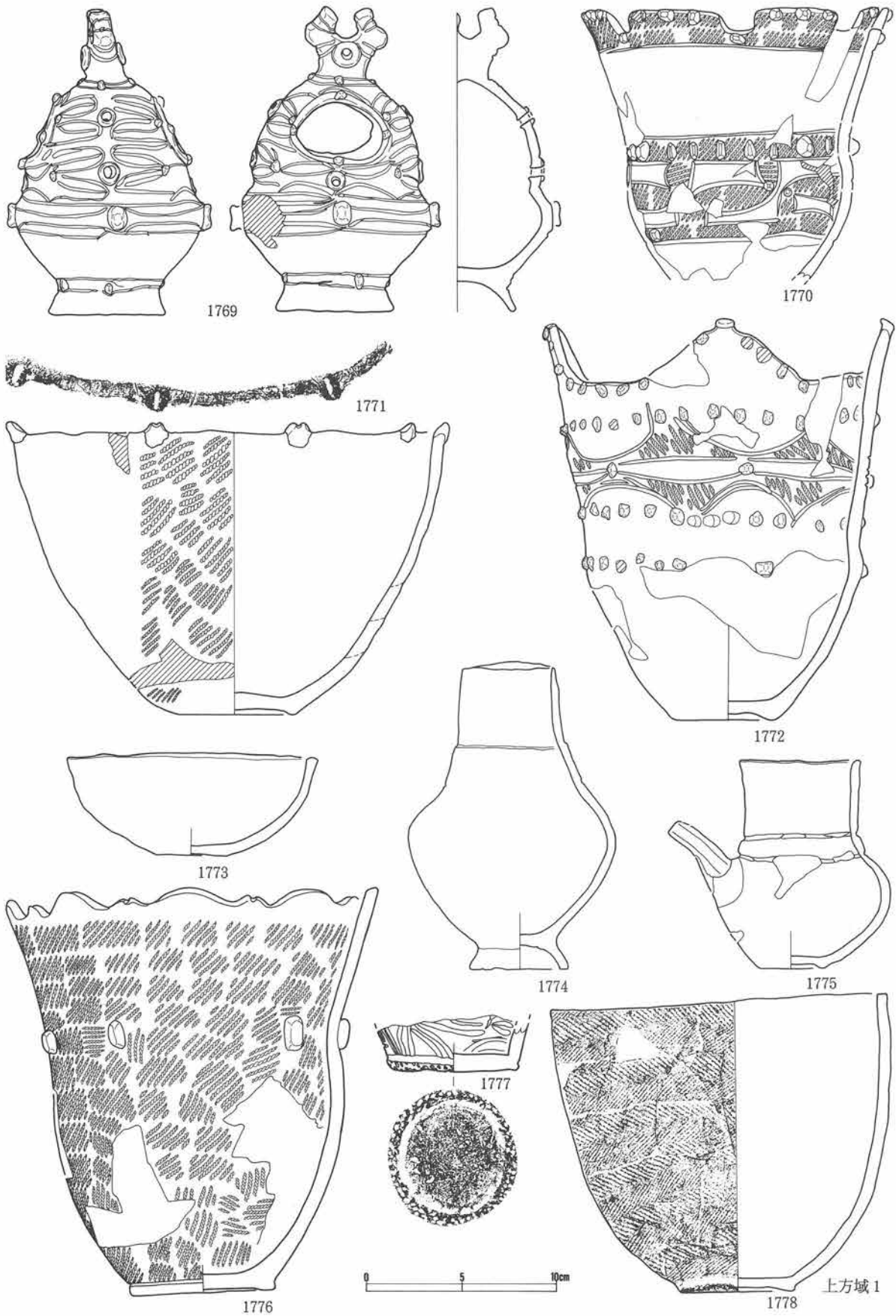
第249図 遺構外土器54 (西部捨て場)



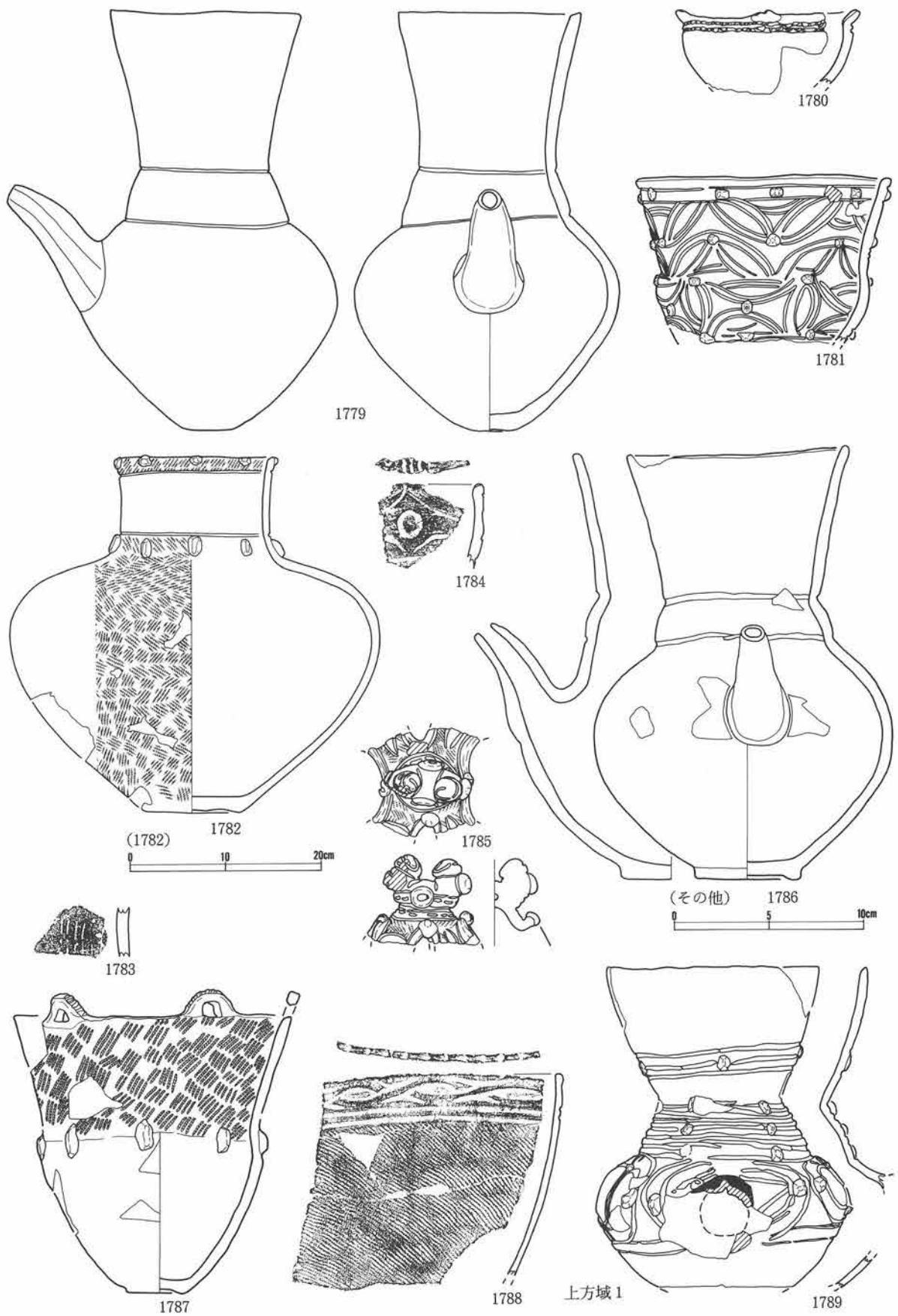
第250図 遺構外土器55 (西部捨て場)



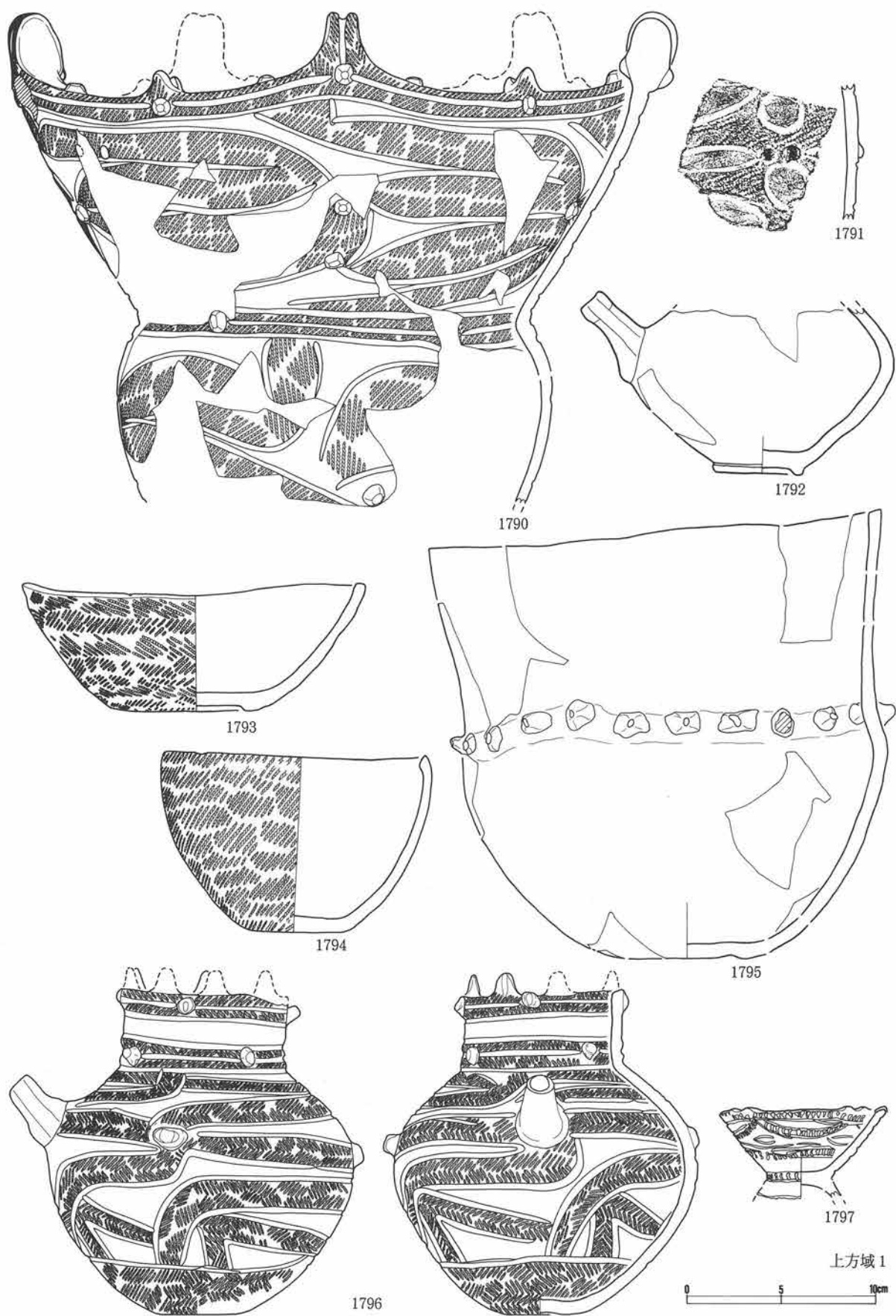
第251図 遺構外土器56 (西部捨て場)



第252図 遺構外土器57 (西部捨て場)



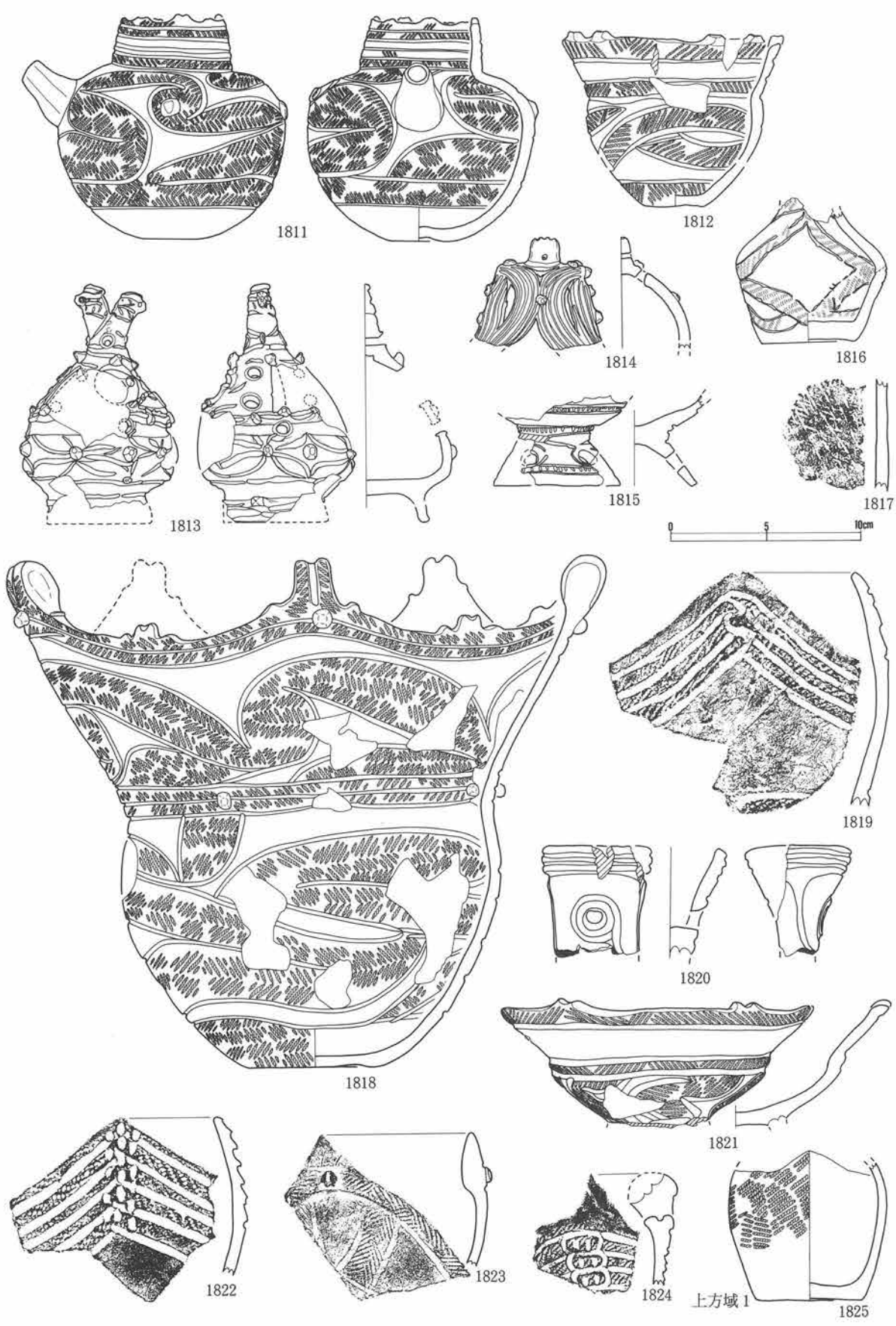
第253図 遺構外土器58 (西部捨て場)



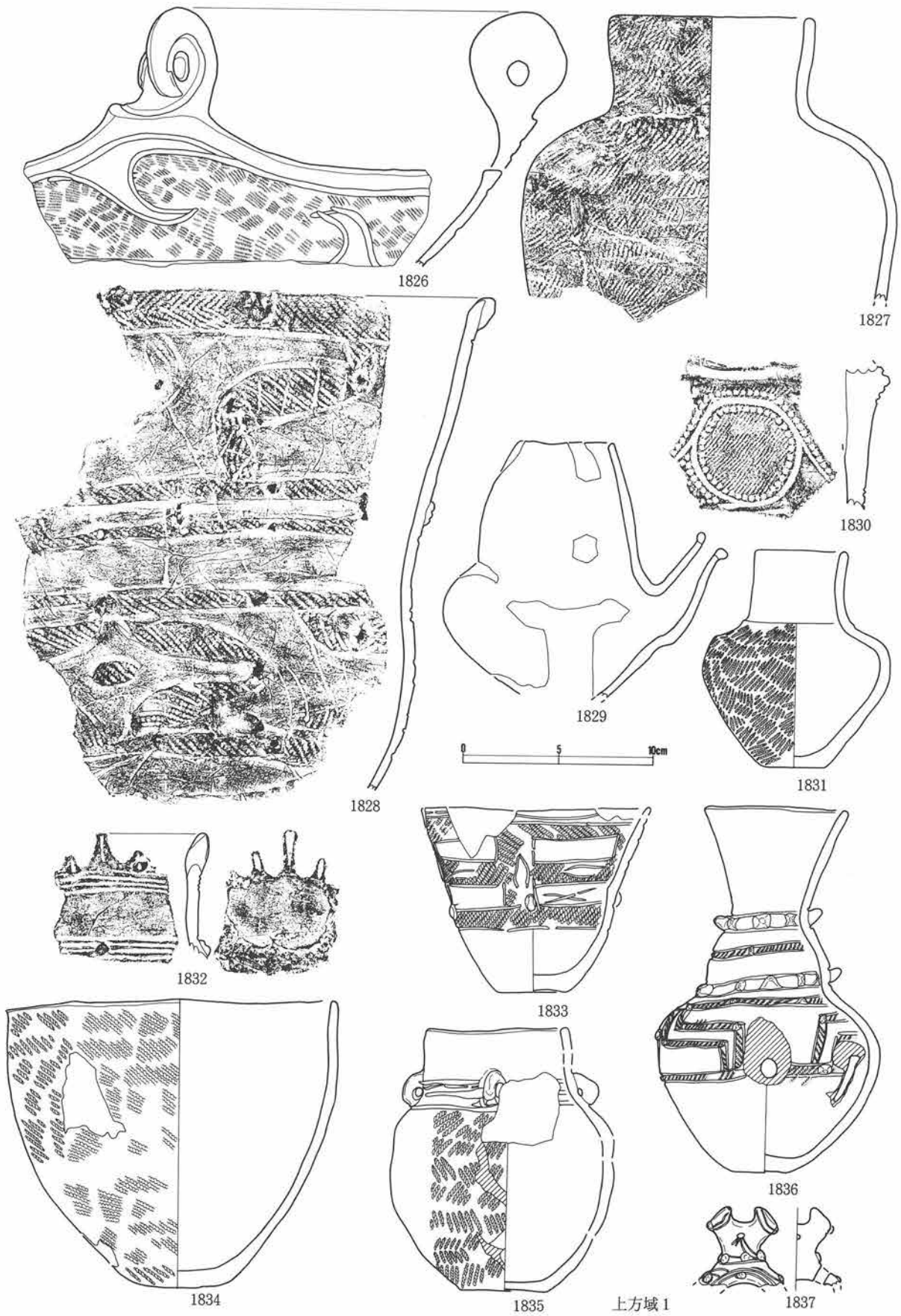
第254図 遺構外土器59 (西部捨て場)



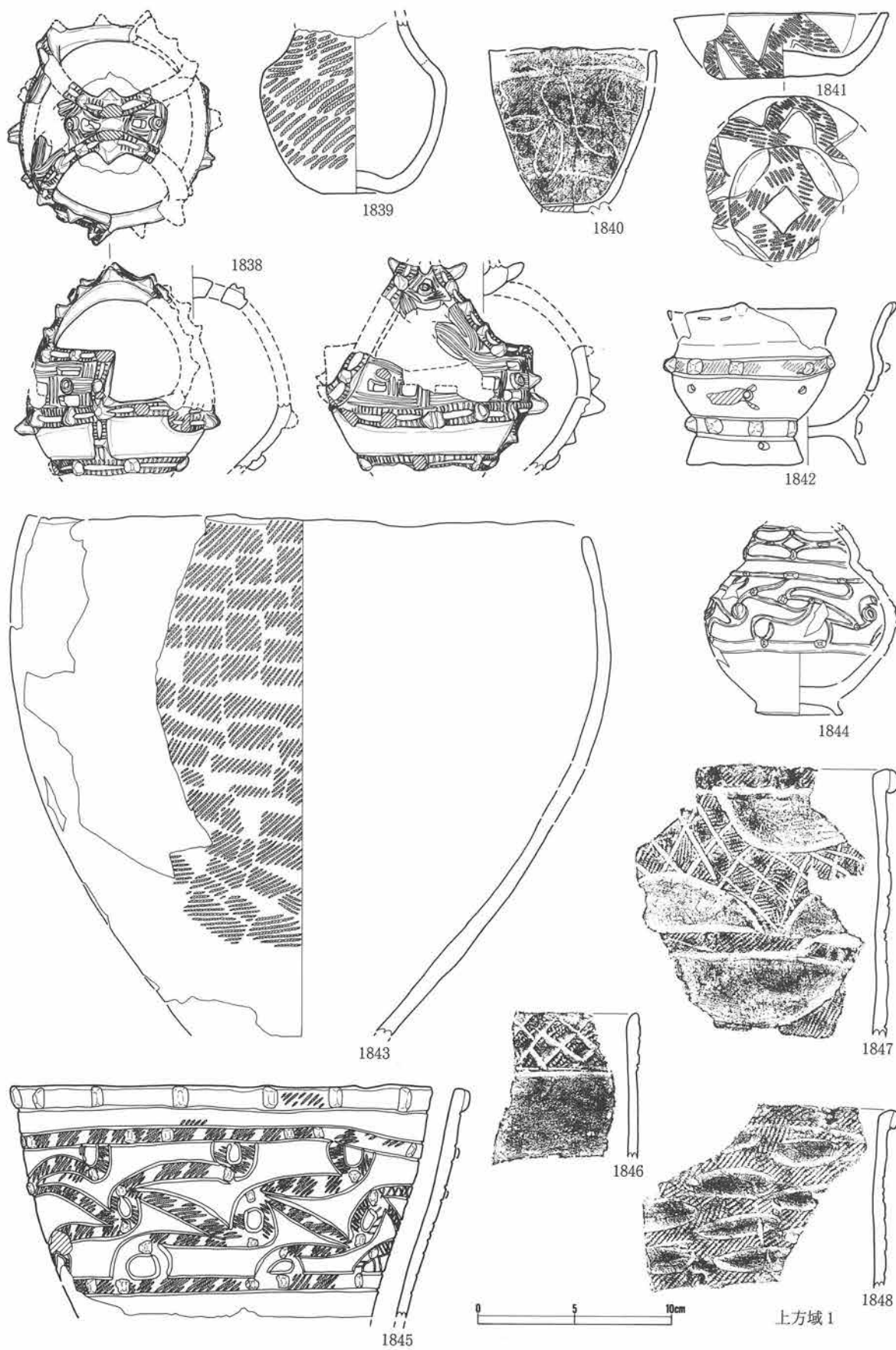
第255図 遺構外土器60 (西部捨て場)



第256図 遺構外土器61 (西部捨て場)



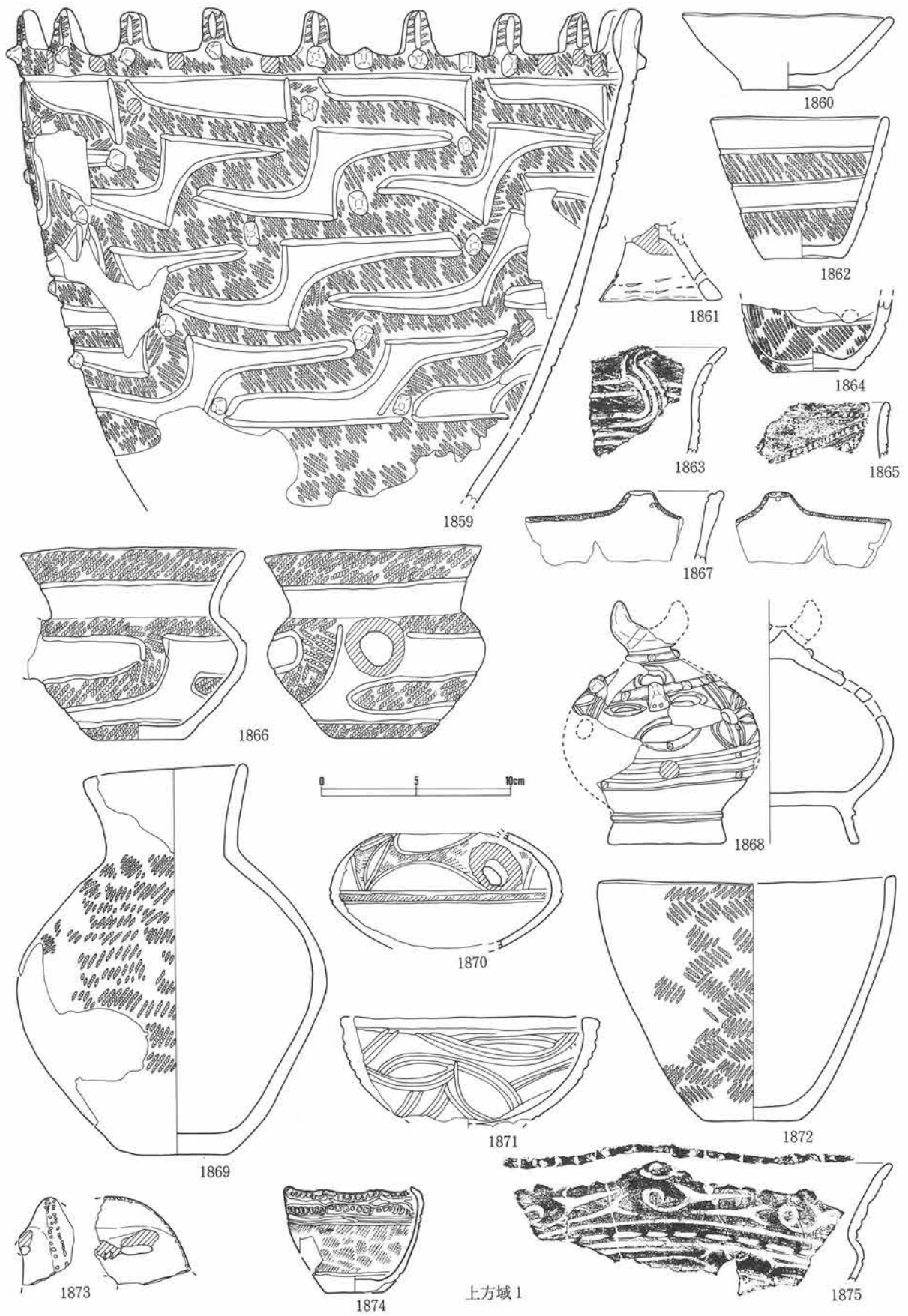
第257図 遺構外土器62 (西部捨て場)



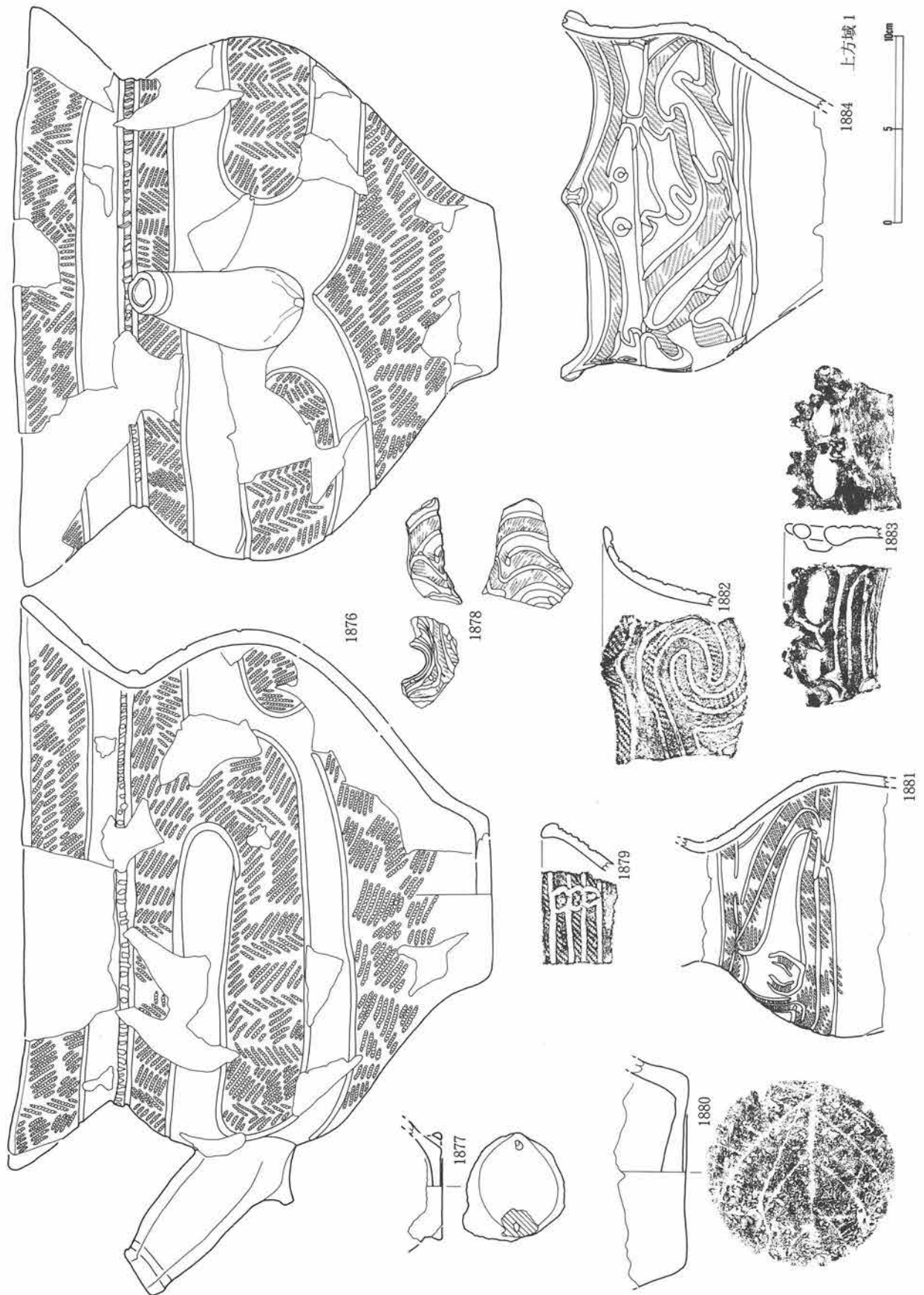
第258図 遺構外土器63 (西部捨て場)



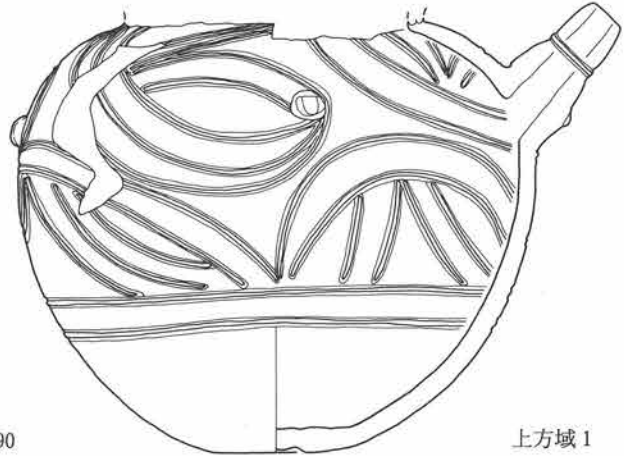
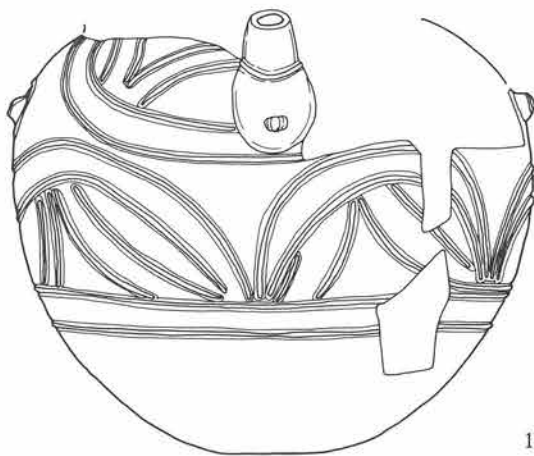
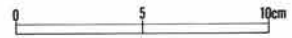
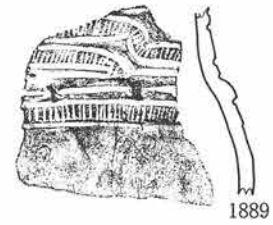
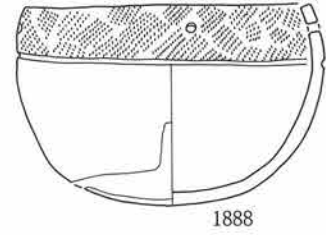
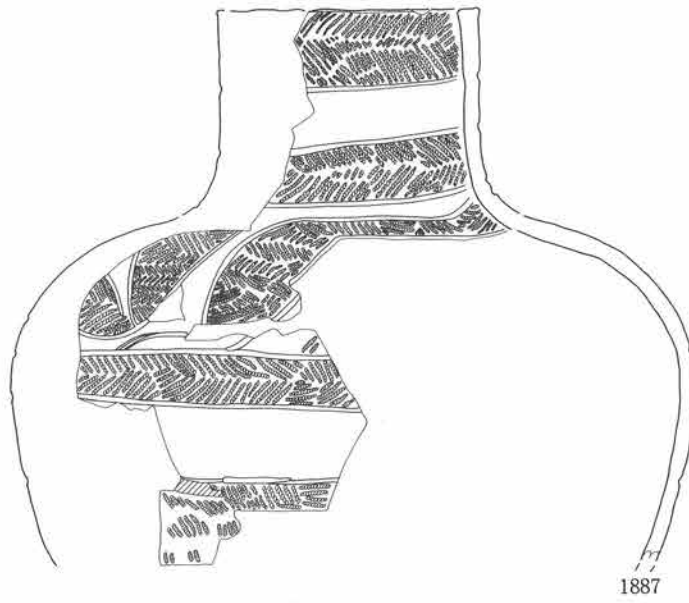
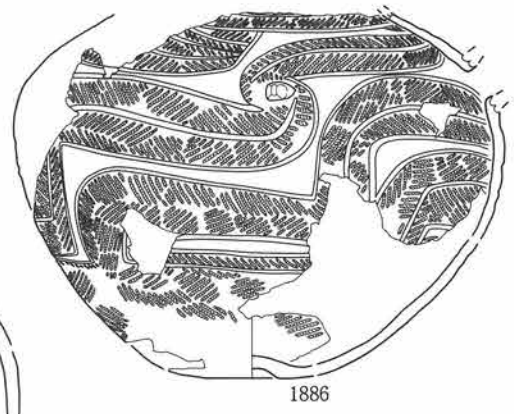
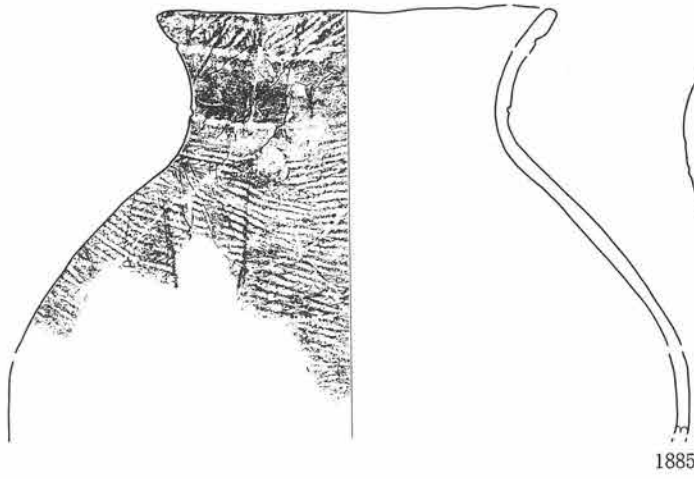
第259図 遺構外土器64 (西部捨て場)



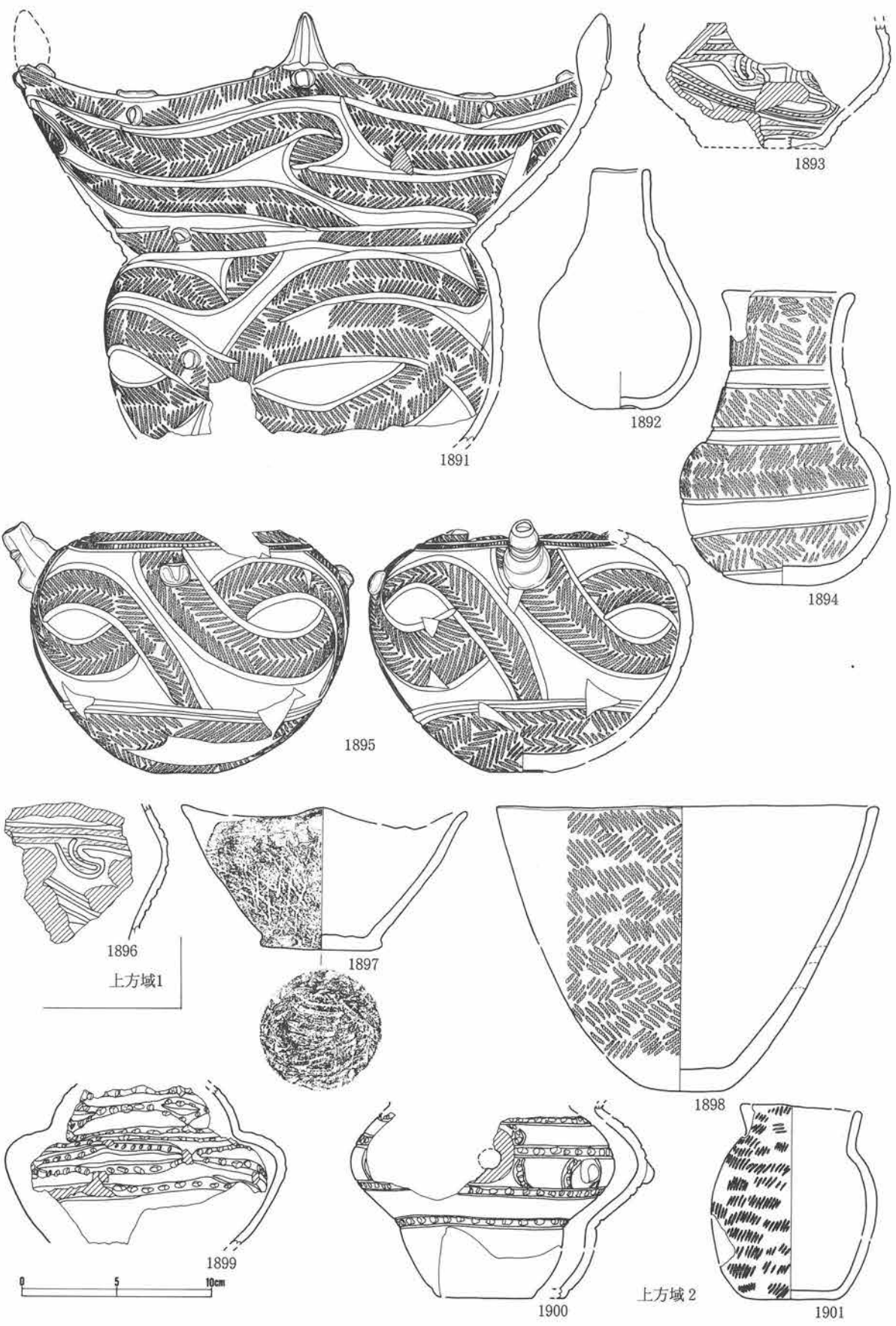
第260図 遺構外土器65 (西部捨て場)



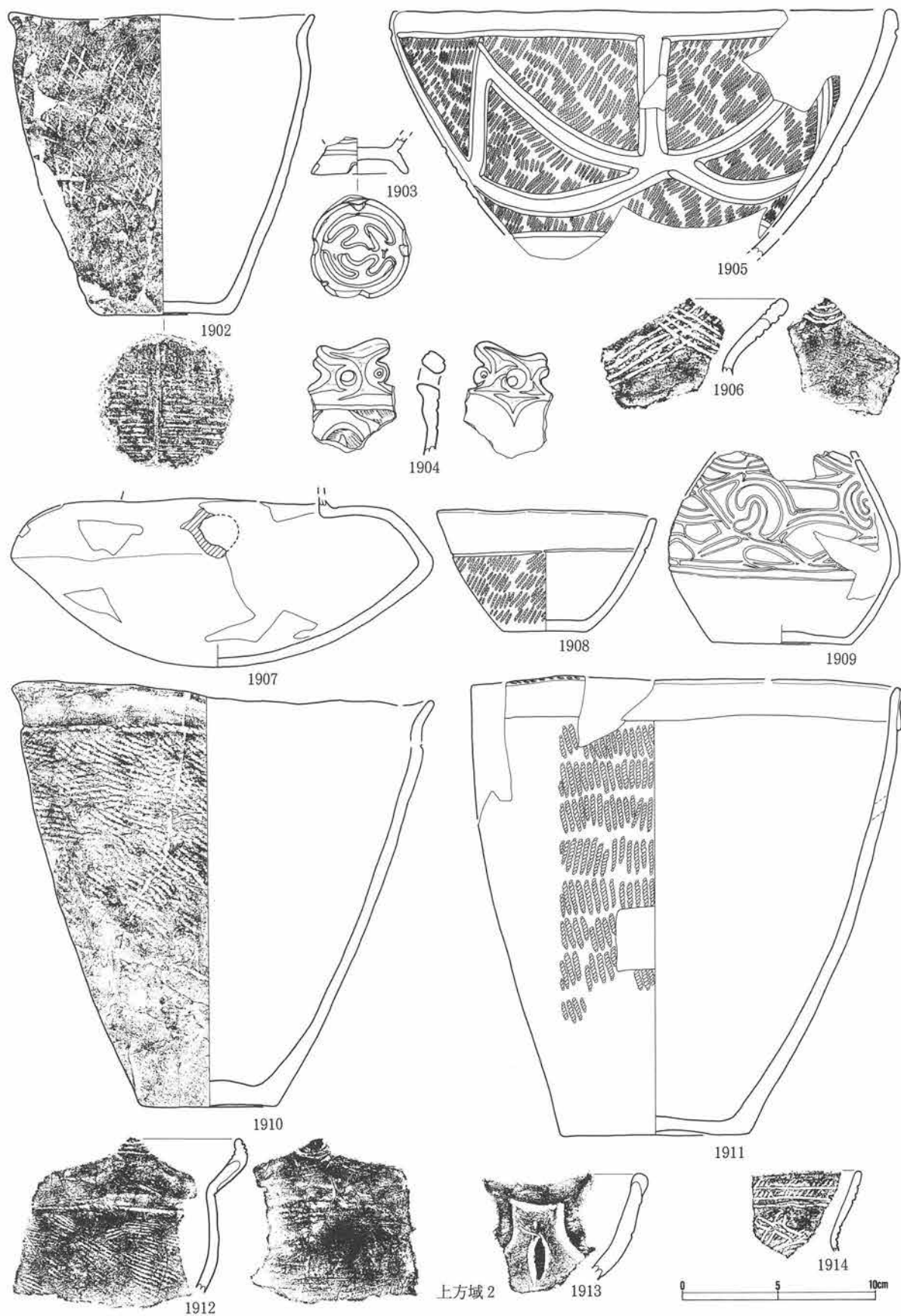
第261図 遺構外土器66 (西部捨て場)



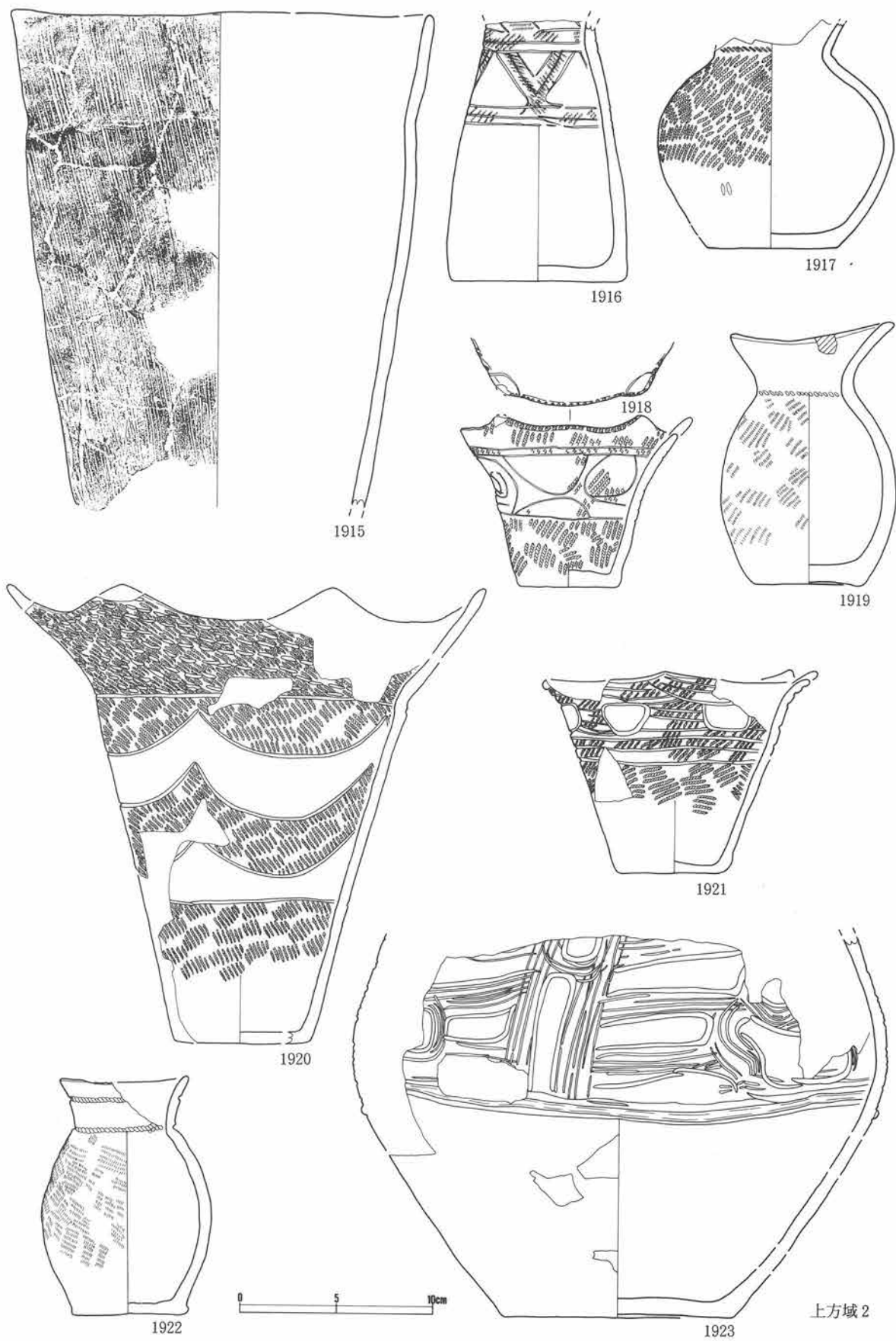
第262図 遺構外土器67 (西部捨て場)



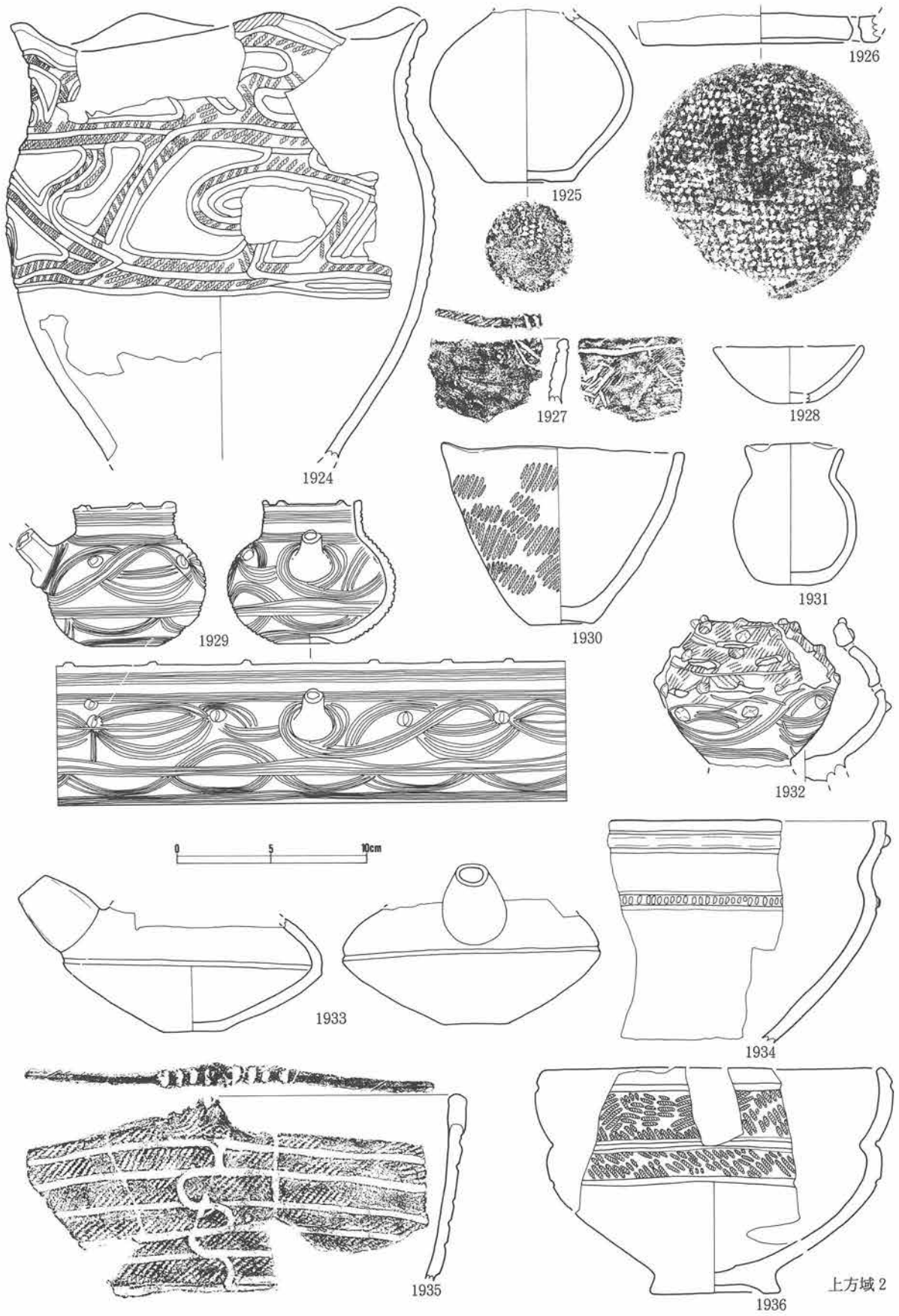
第263図 遺構外土器68 (西部捨て場)



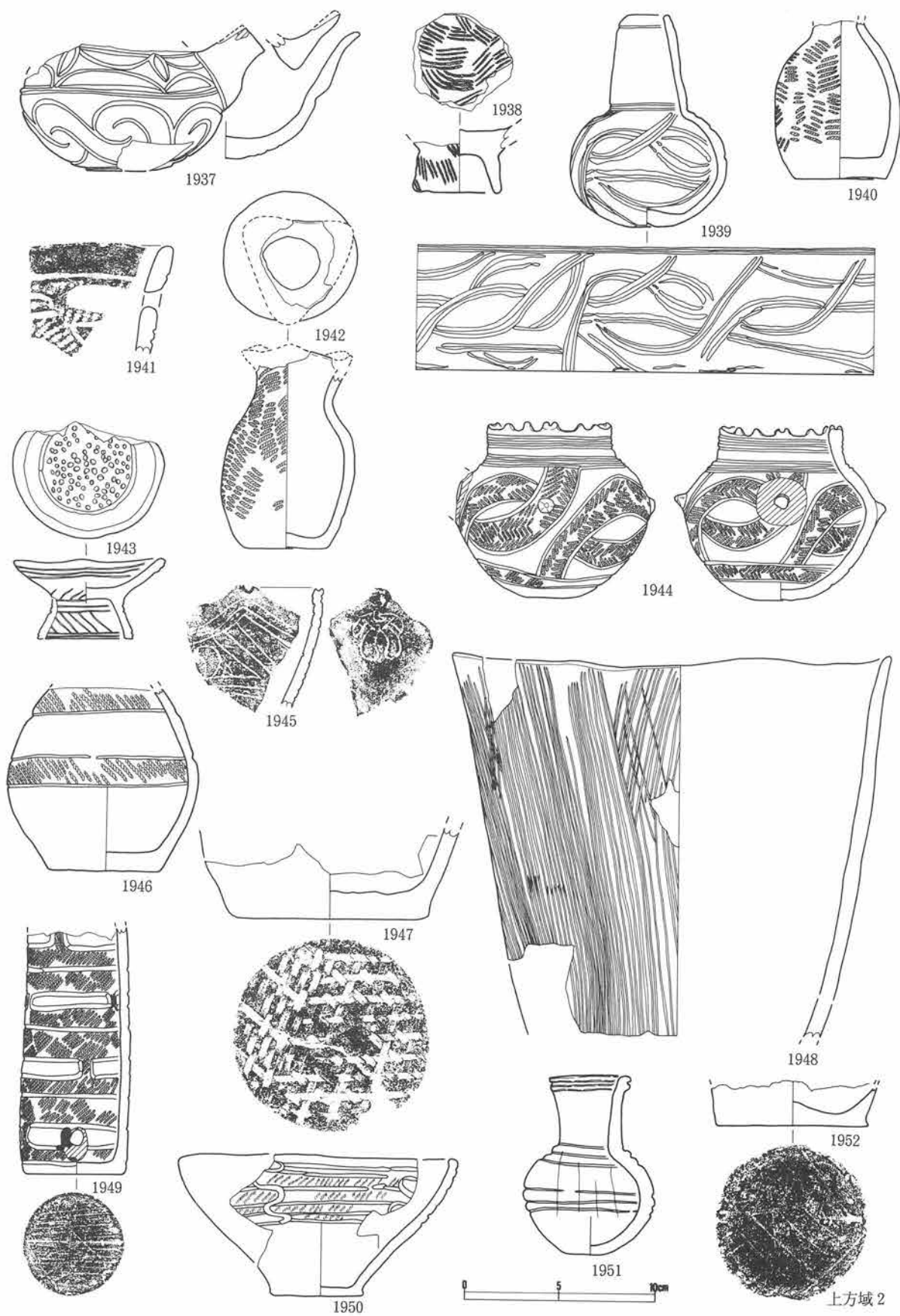
第264図 遺構外土器69 (西部捨て場)



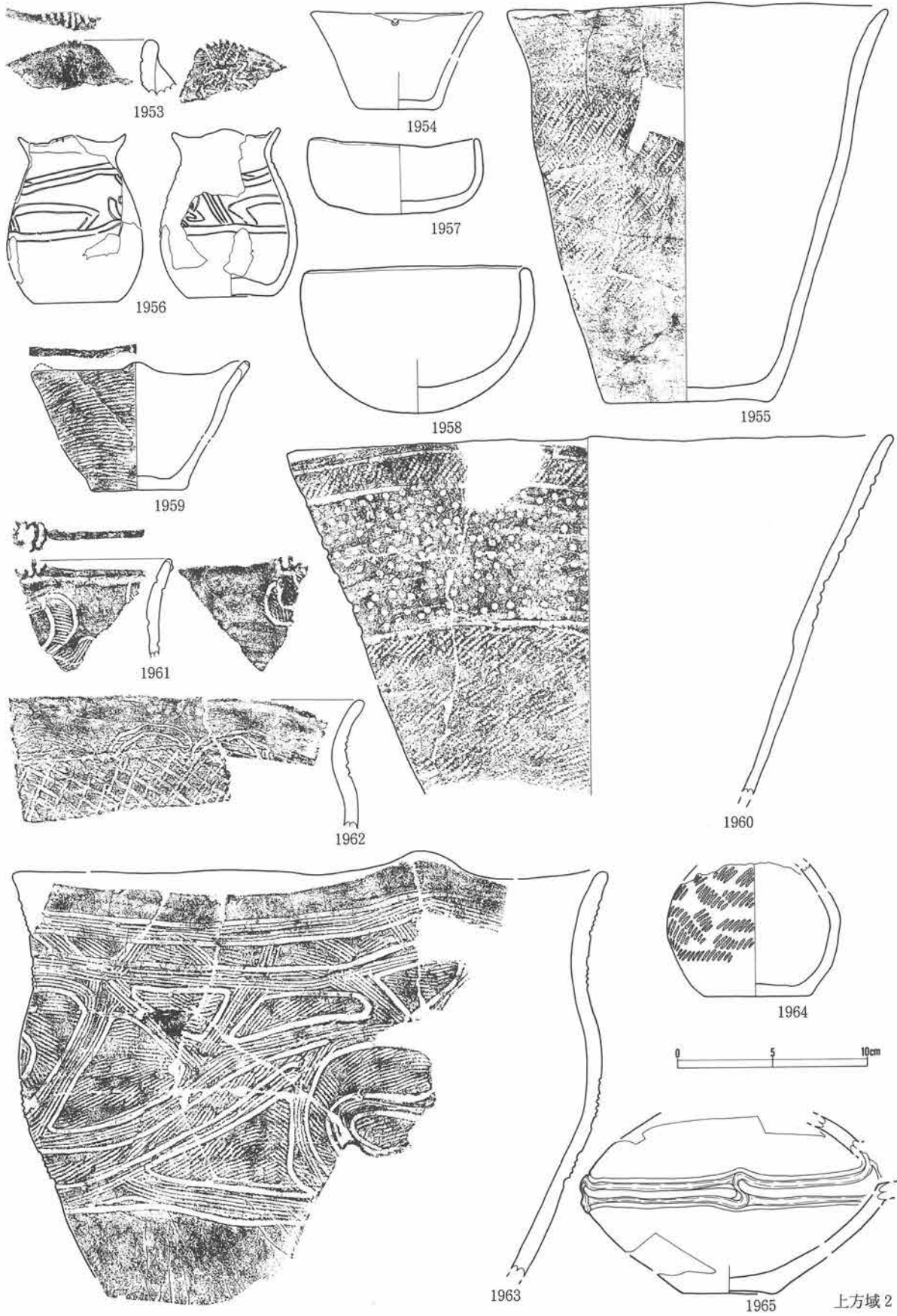
第265図 遺構外土器70 (西部捨て場)



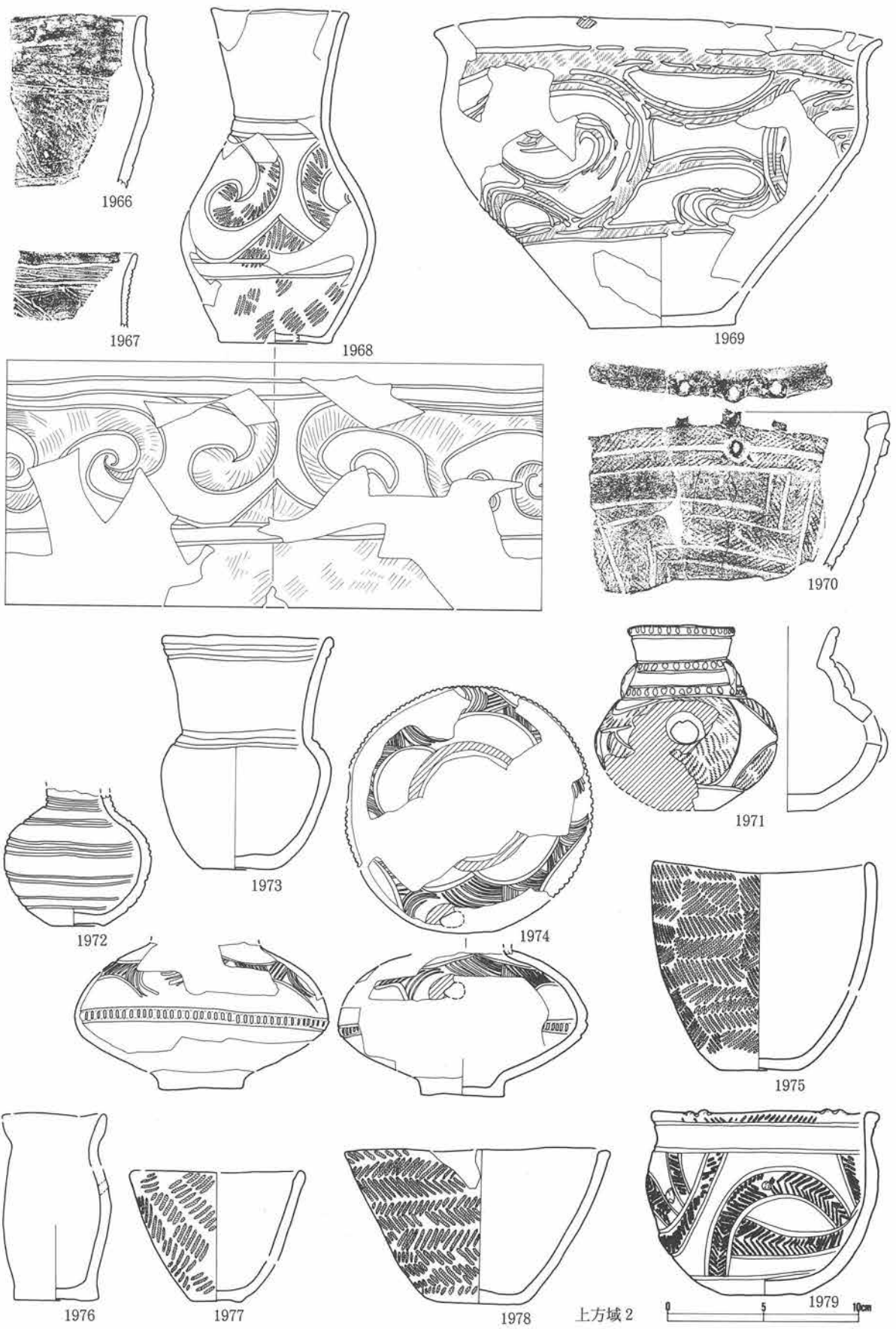
第266図 遺構外土器71 (西部捨て場)



第267図 遺構外土器72 (西部捨て場)



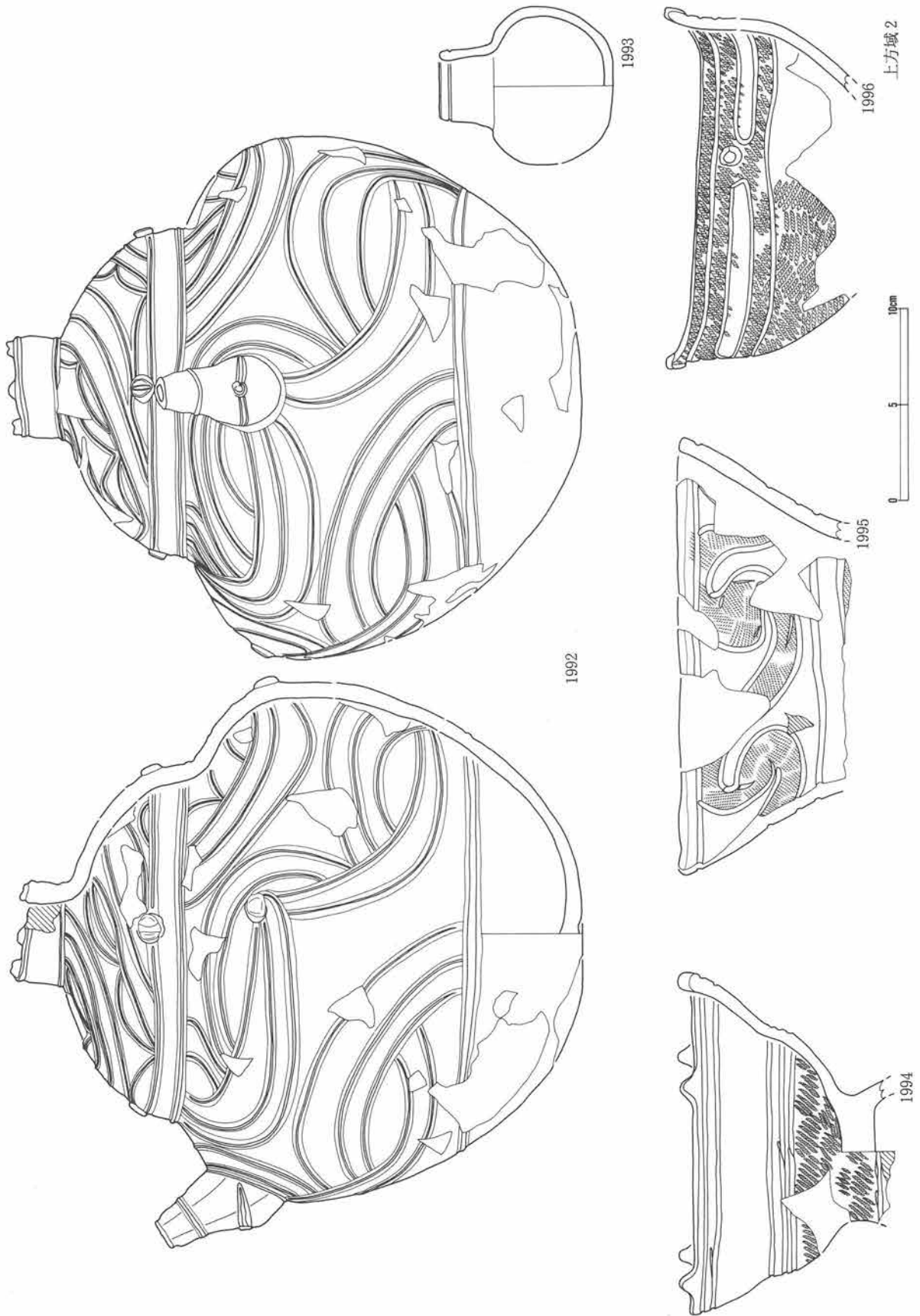
第268図 遺構外土器73 (西部捨て場)



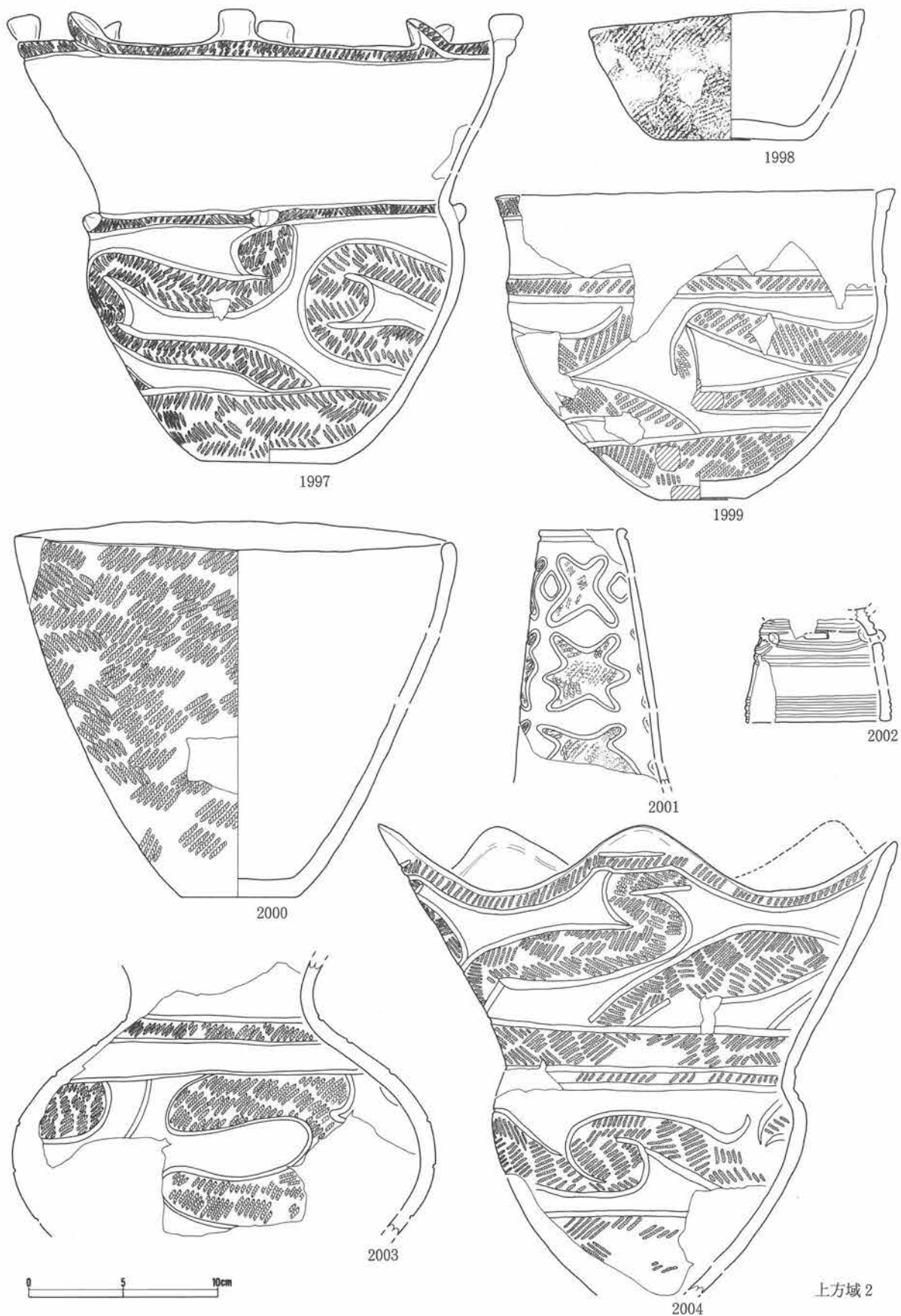
第269図 遺構外土器74 (西部捨て場)



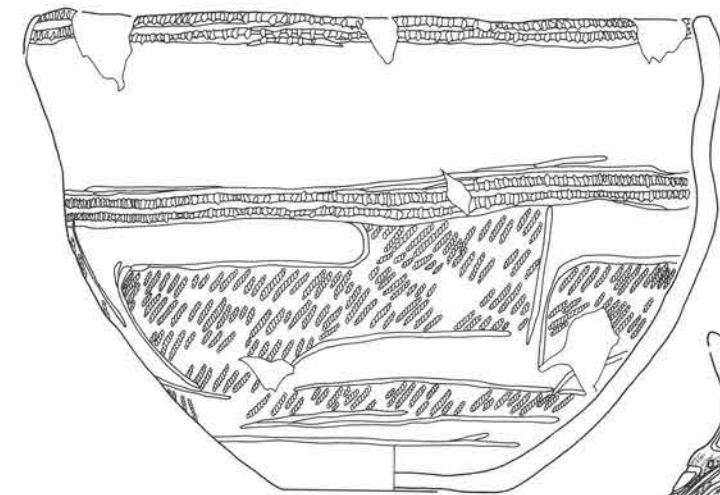
第270図 遺構外土器75 (西部捨て場)



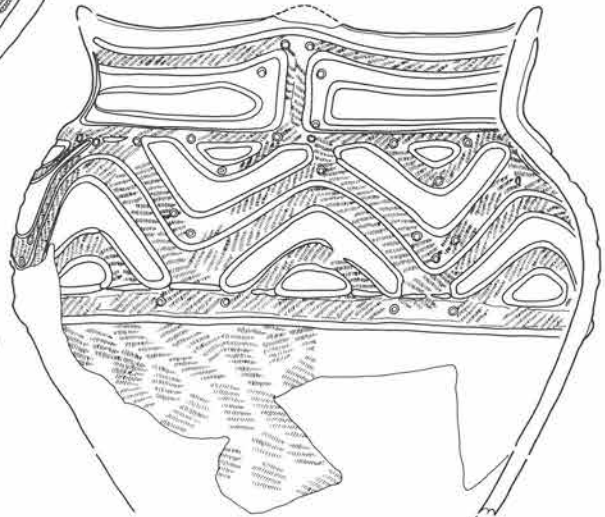
第271図 遺構外土器76 (西部捨て場)



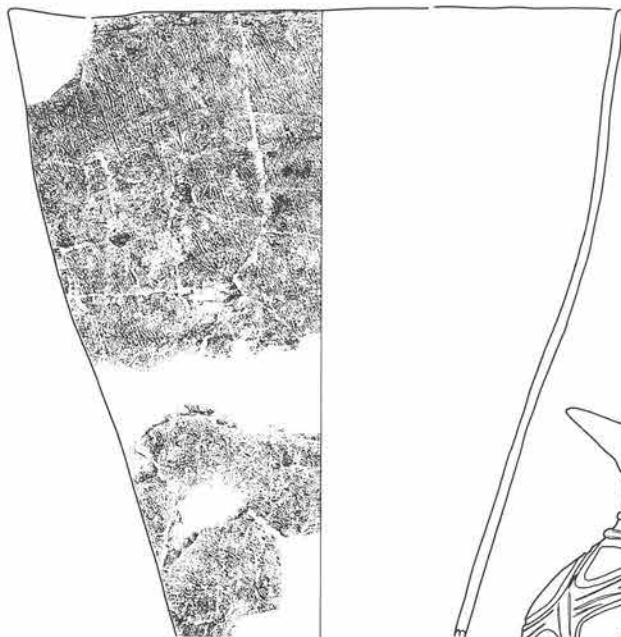
第272図 遺構外土器77 (西部捨て場)



2005



2006



(2007)

0 5 10cm

2007

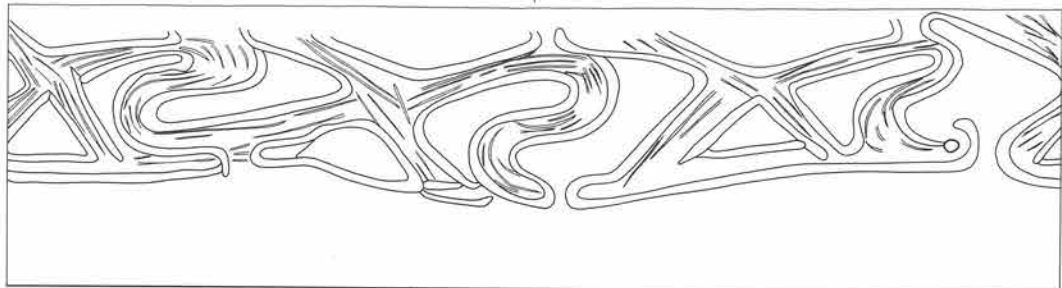


2008

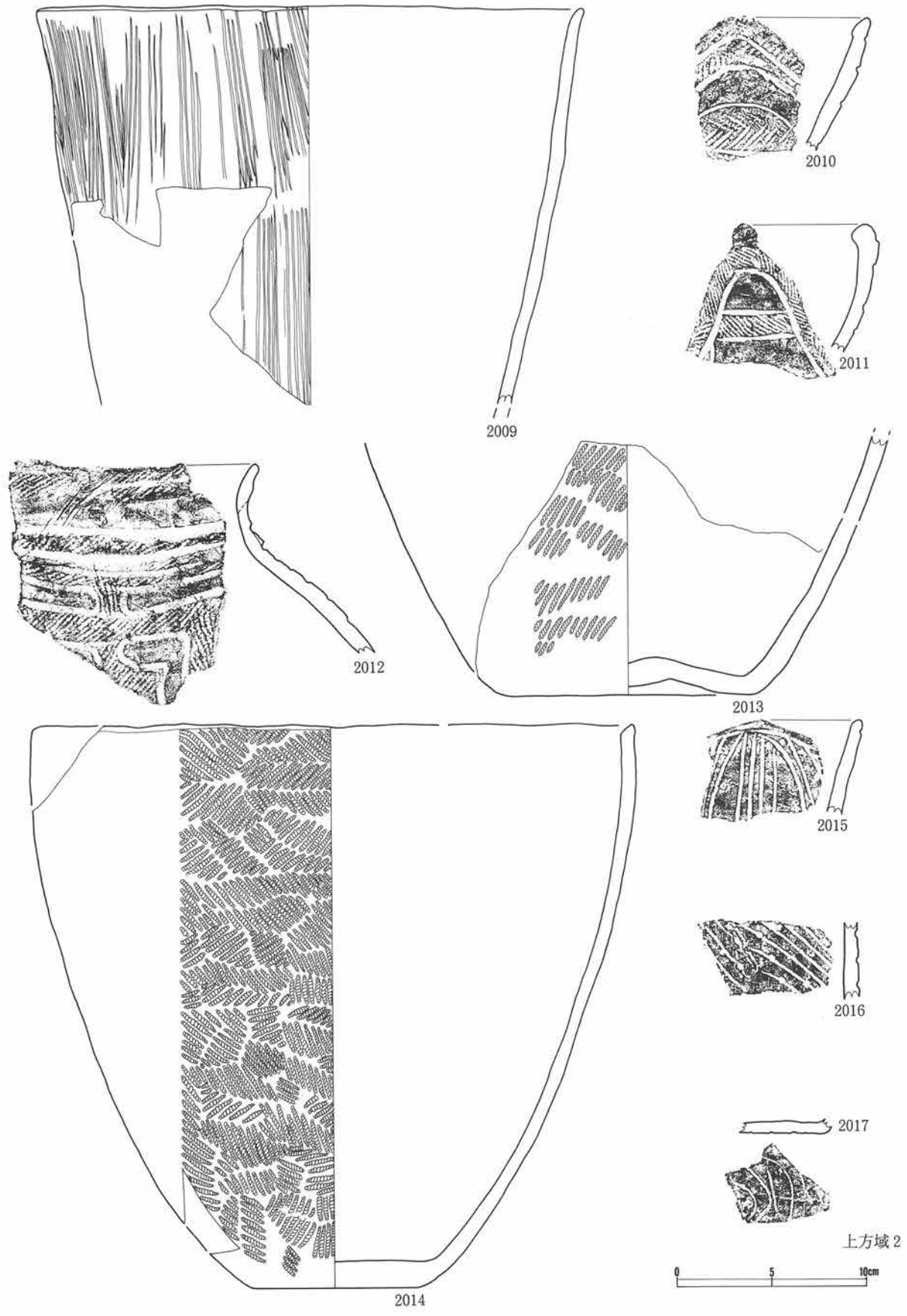
(その他)

0 5 10cm

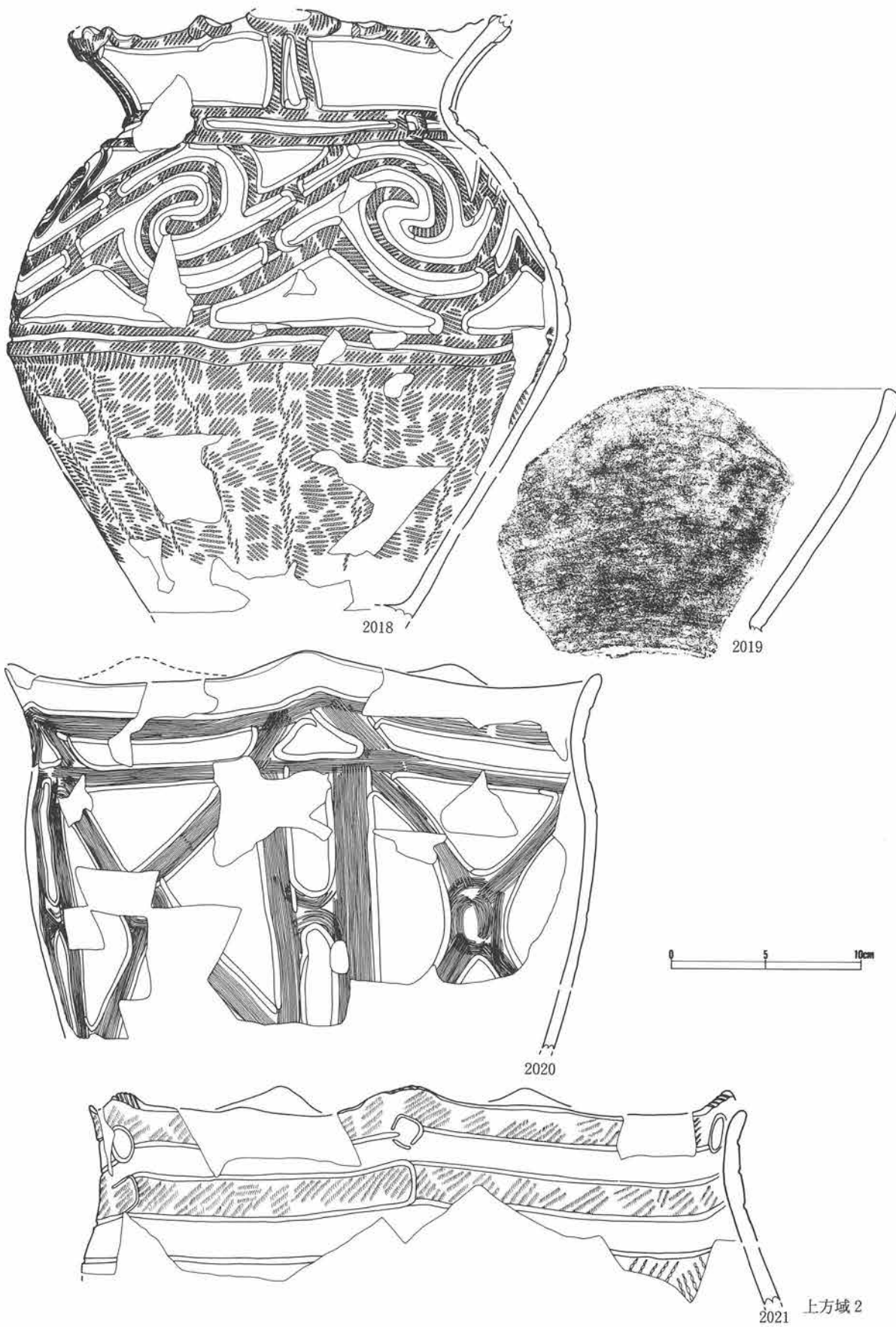
上方域 2



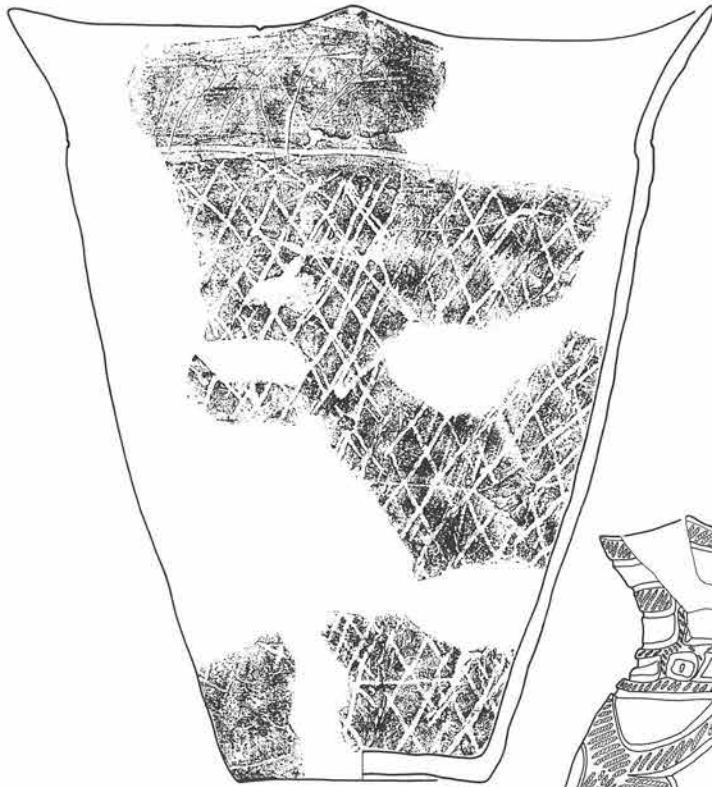
第273図 遺構外土器78 (西部捨て場)



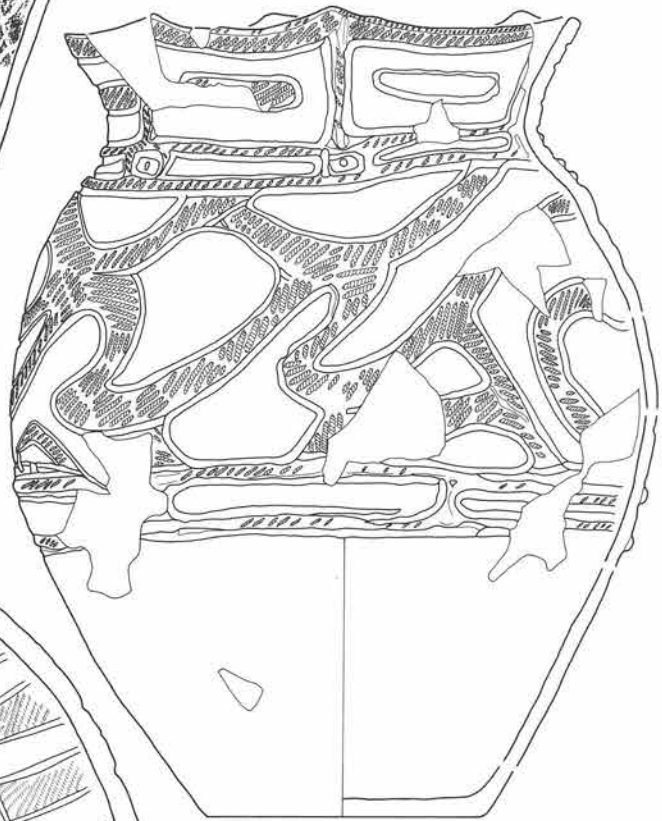
第274図 遺構外土器79 (西部捨て場)



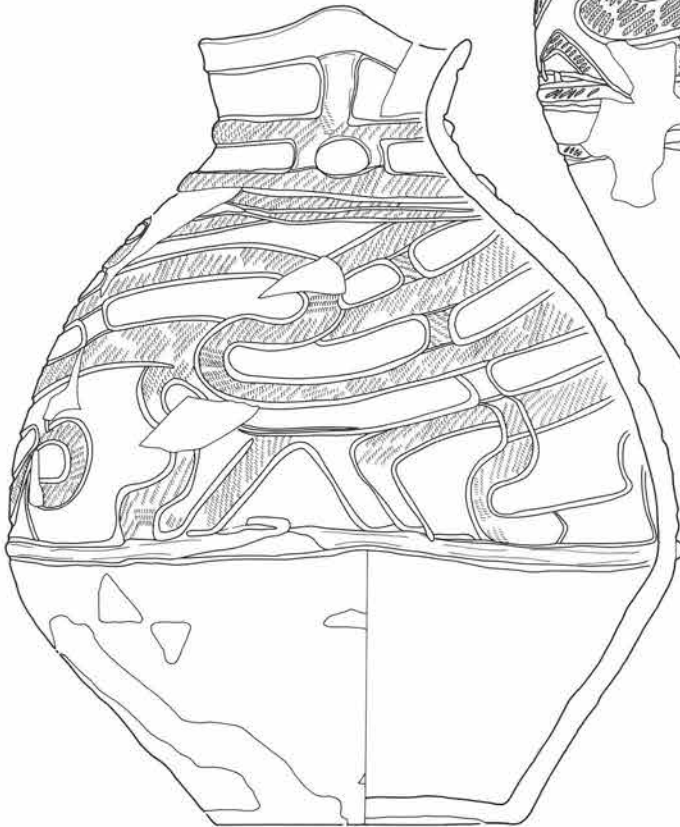
第275図 遺構外土器80 (西部捨て場)



2022

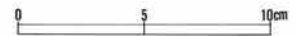


2023

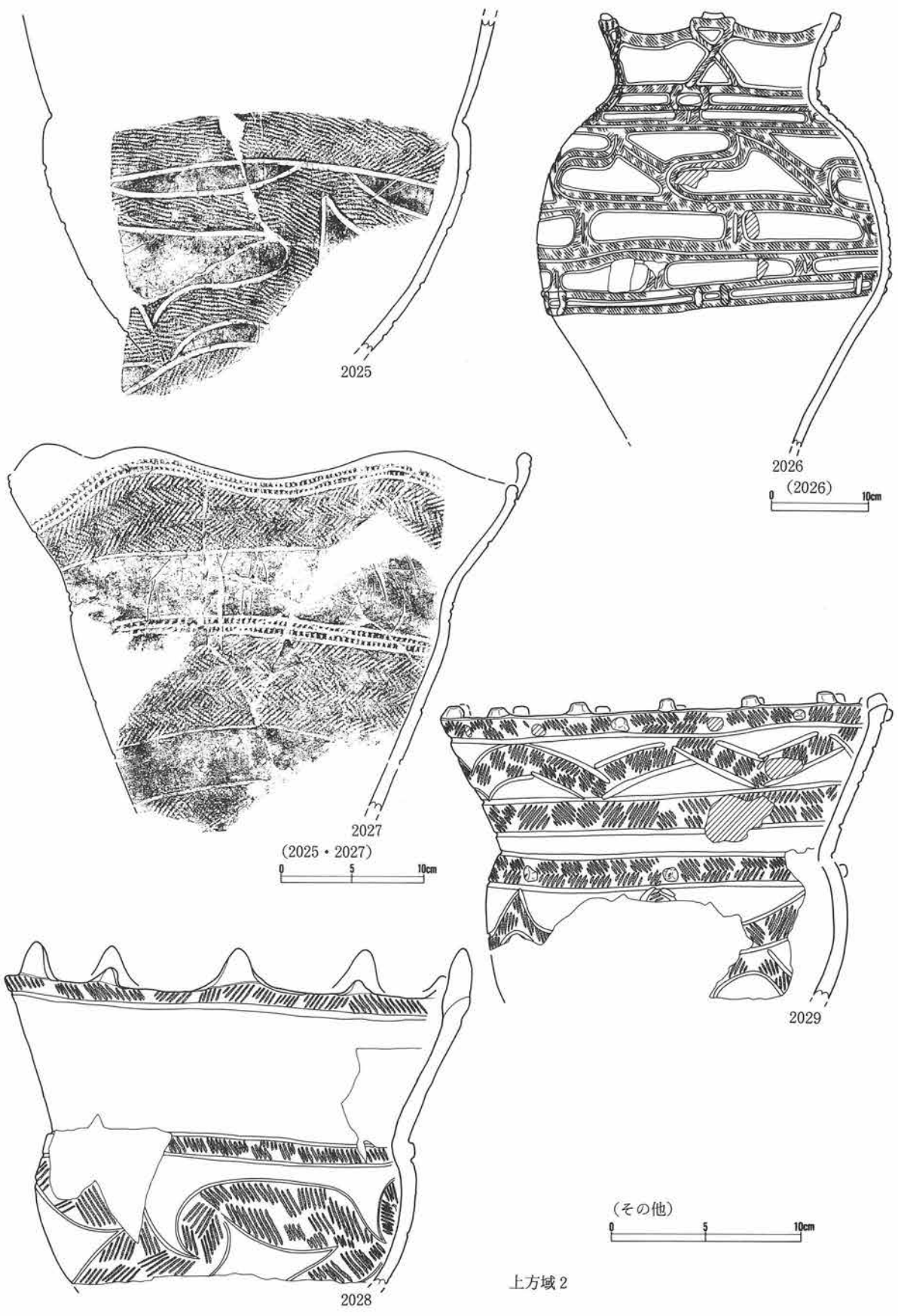


2024

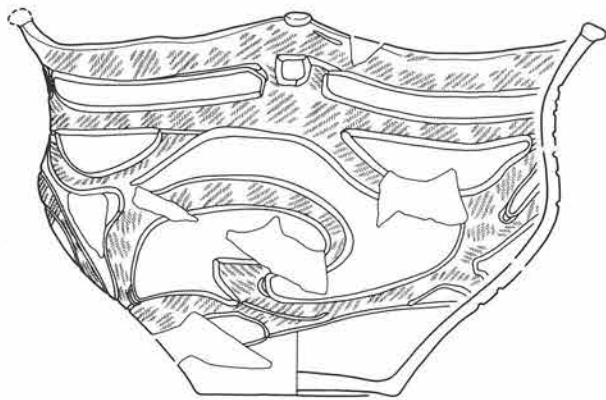
上方域 2



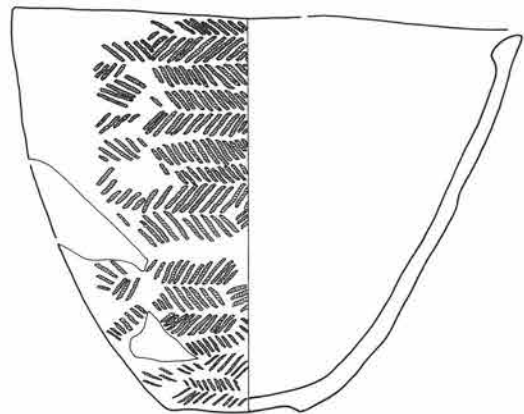
第276図 遺構外土器81 (西部捨て場)



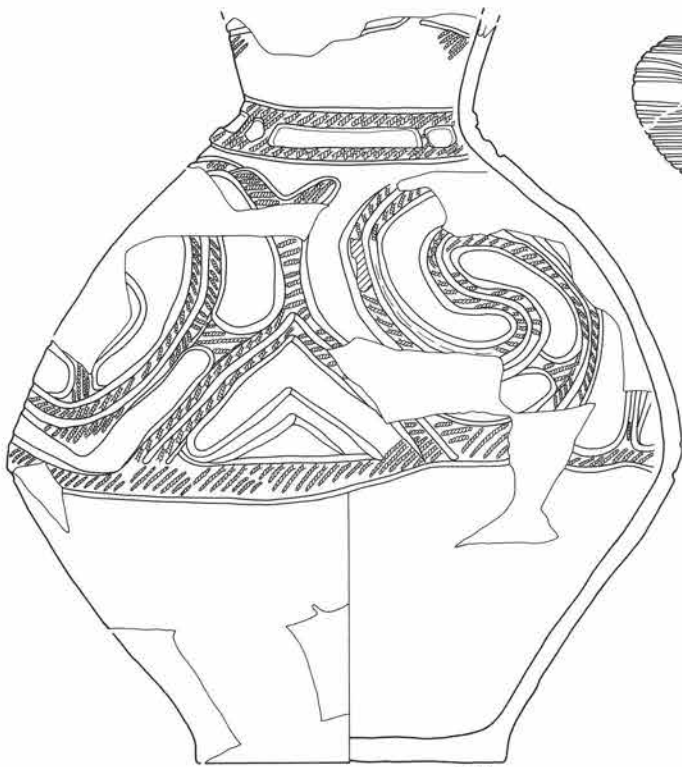
第277図 遺構外土器82 (西部捨て場)



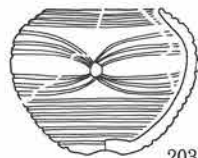
2030



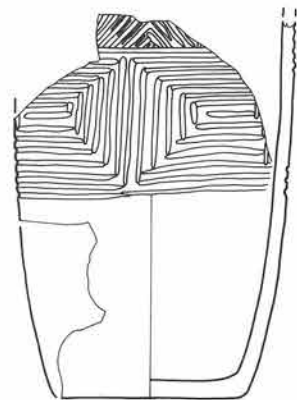
2032



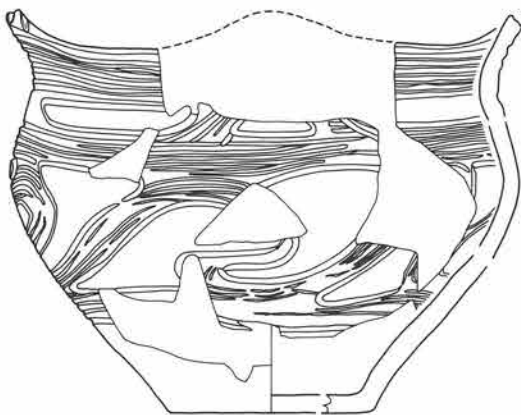
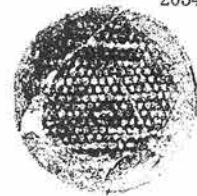
2033



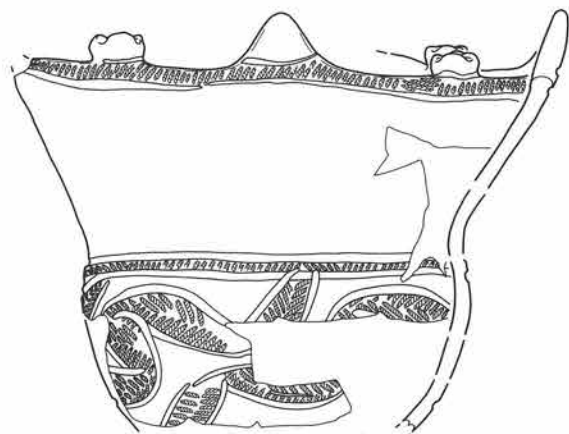
2031



2034

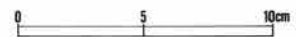


2035

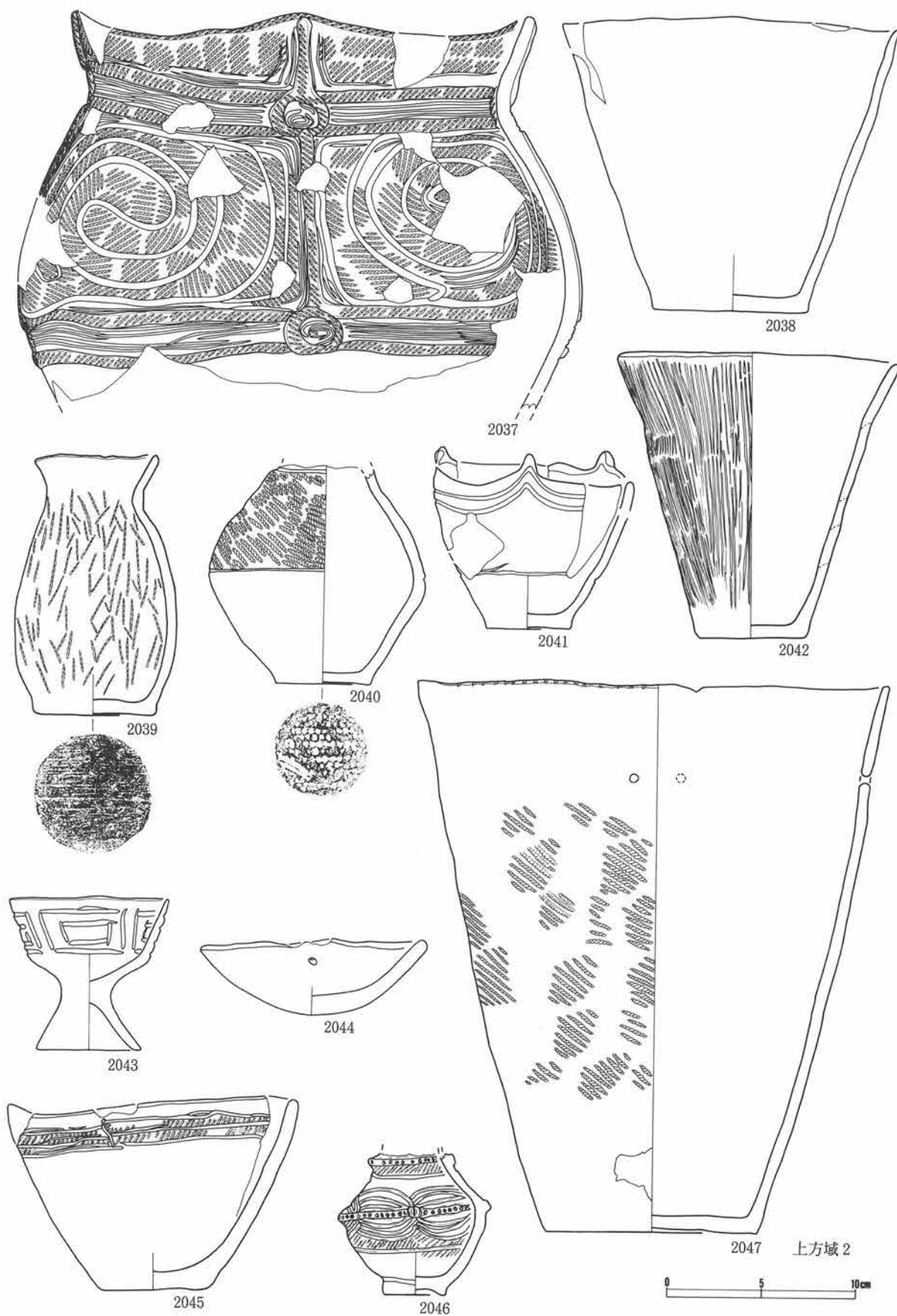


2036

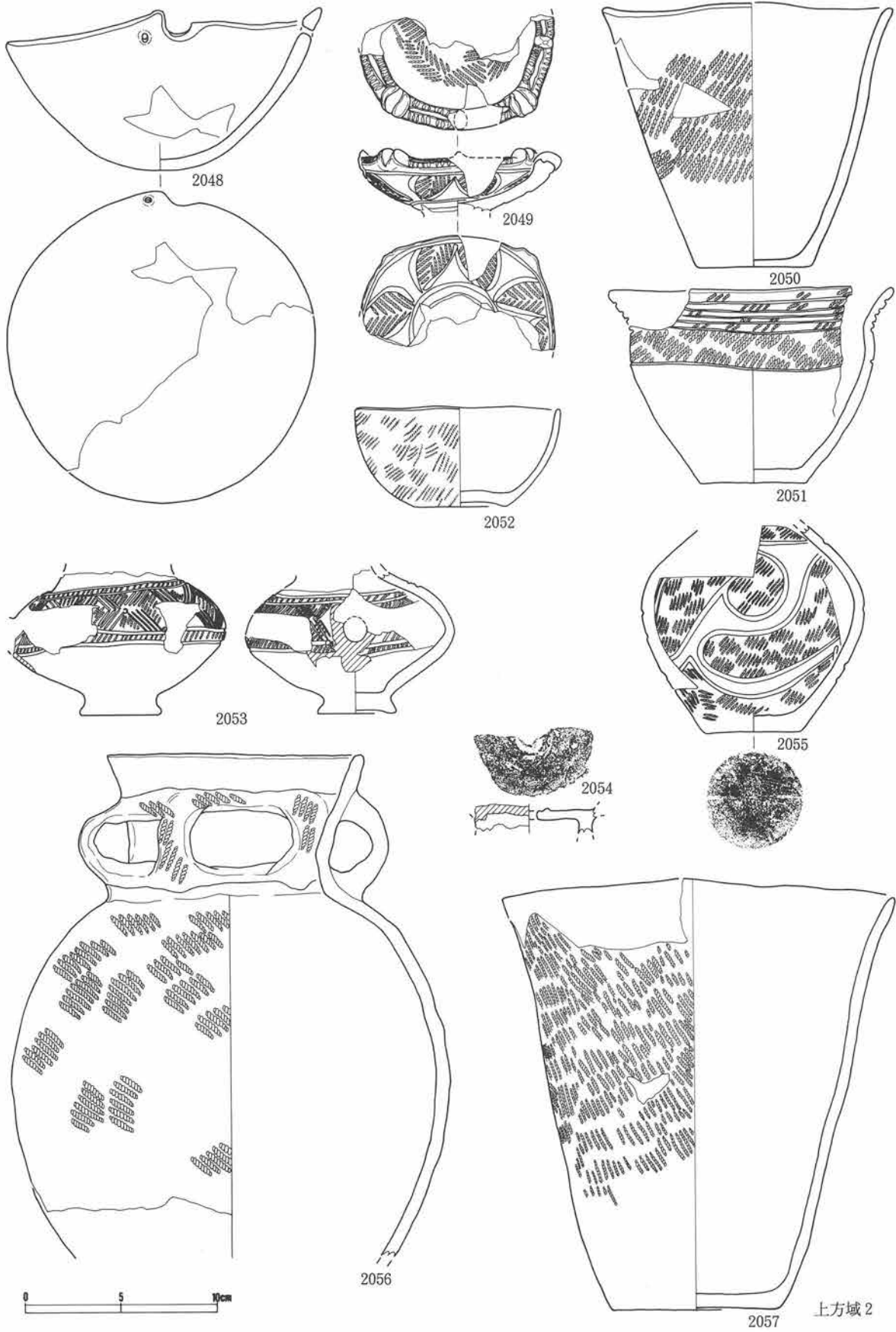
上方域 2



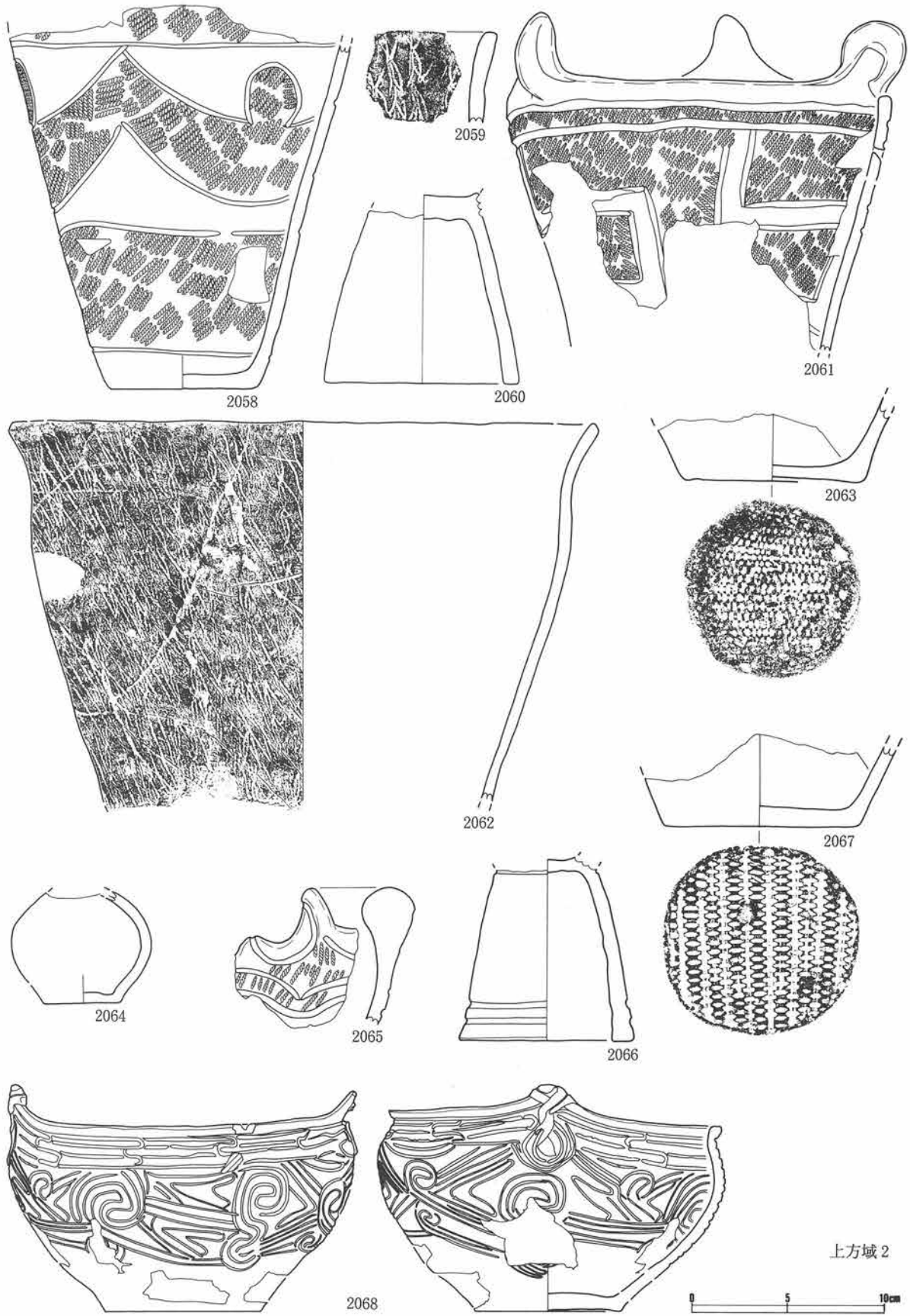
第278図 遺構外土器83 (西部捨て場)



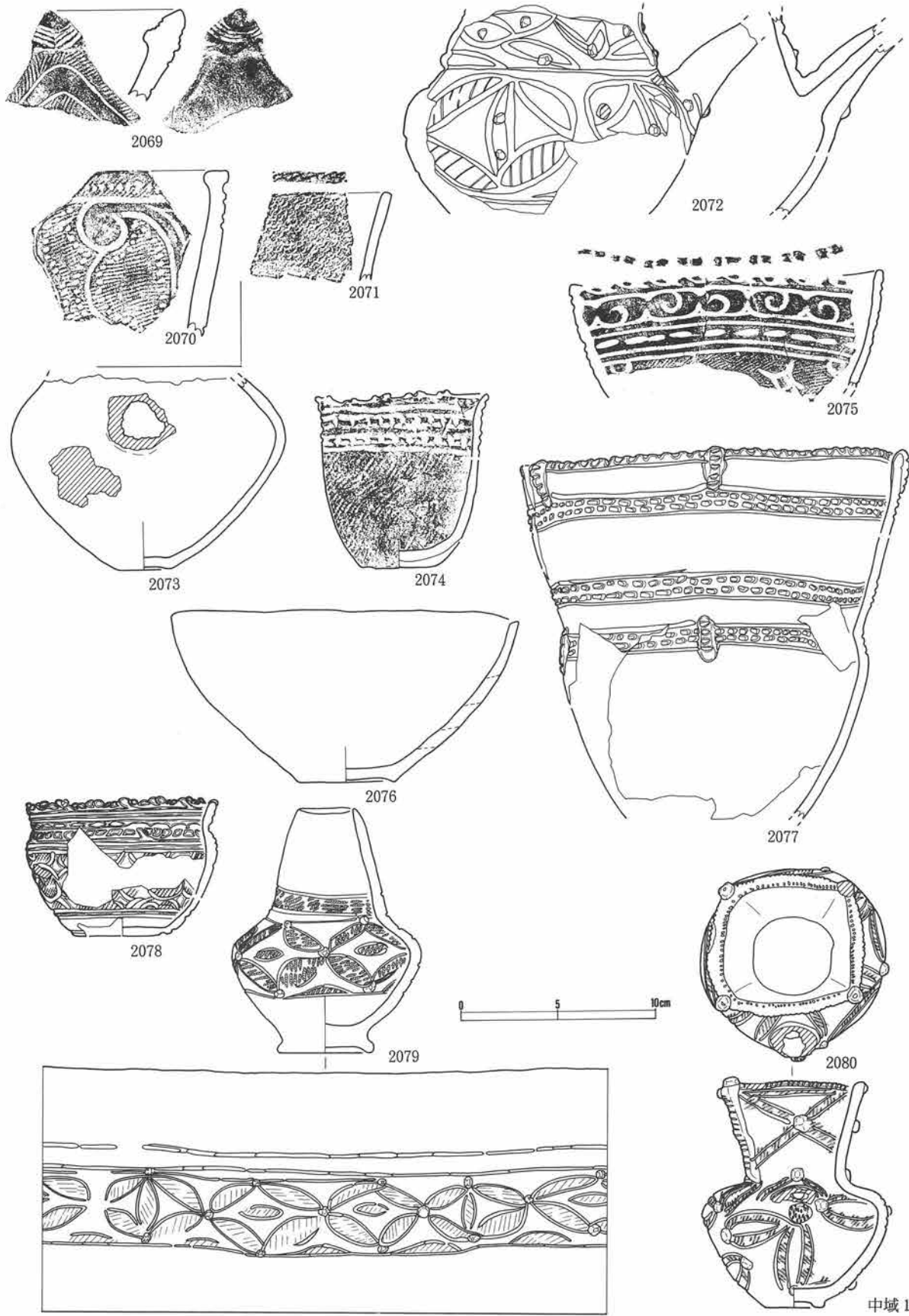
第279図 遺構外土器84 (西部捨て場)



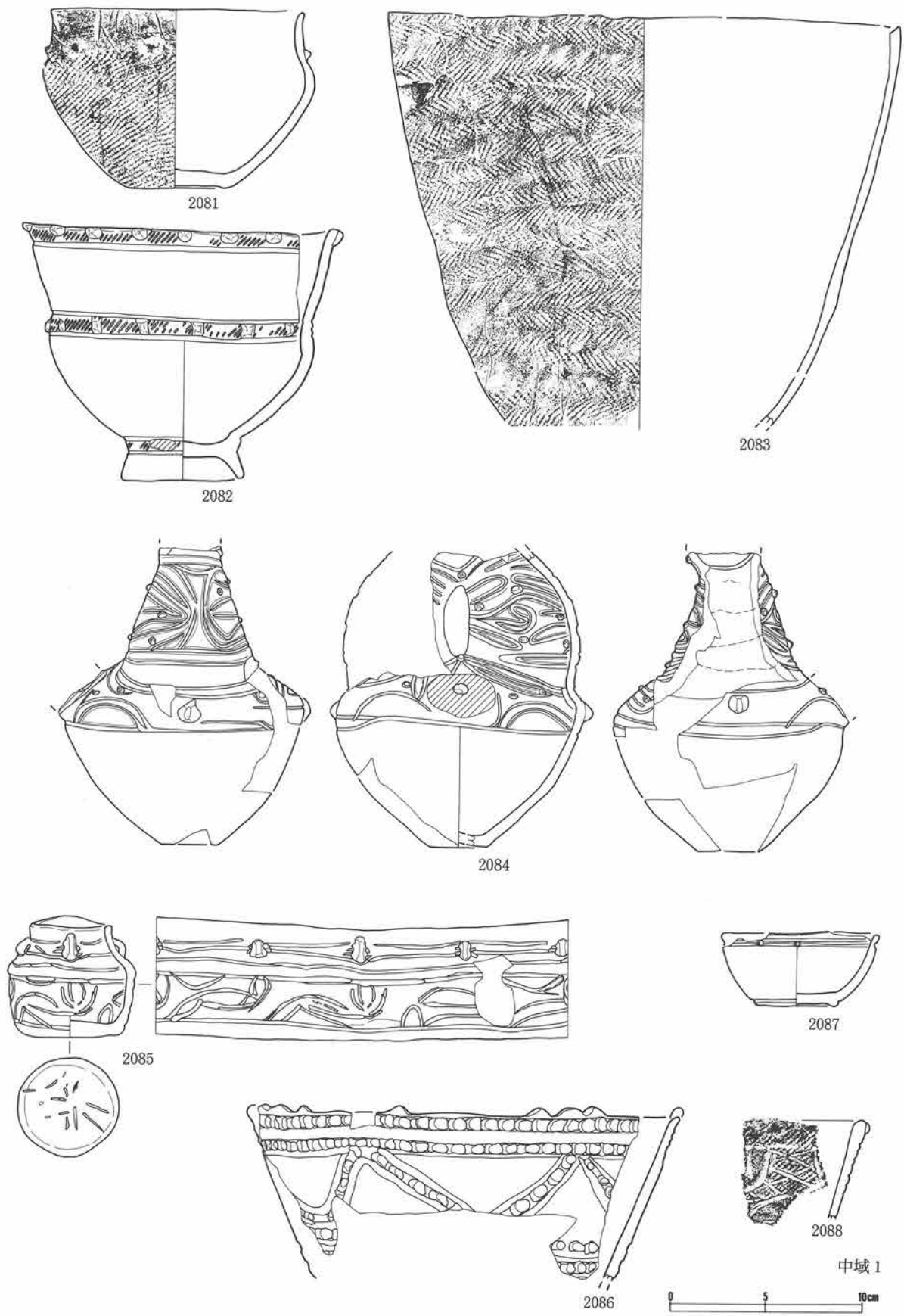
第280図 遺構外土器85 (西部捨て場)



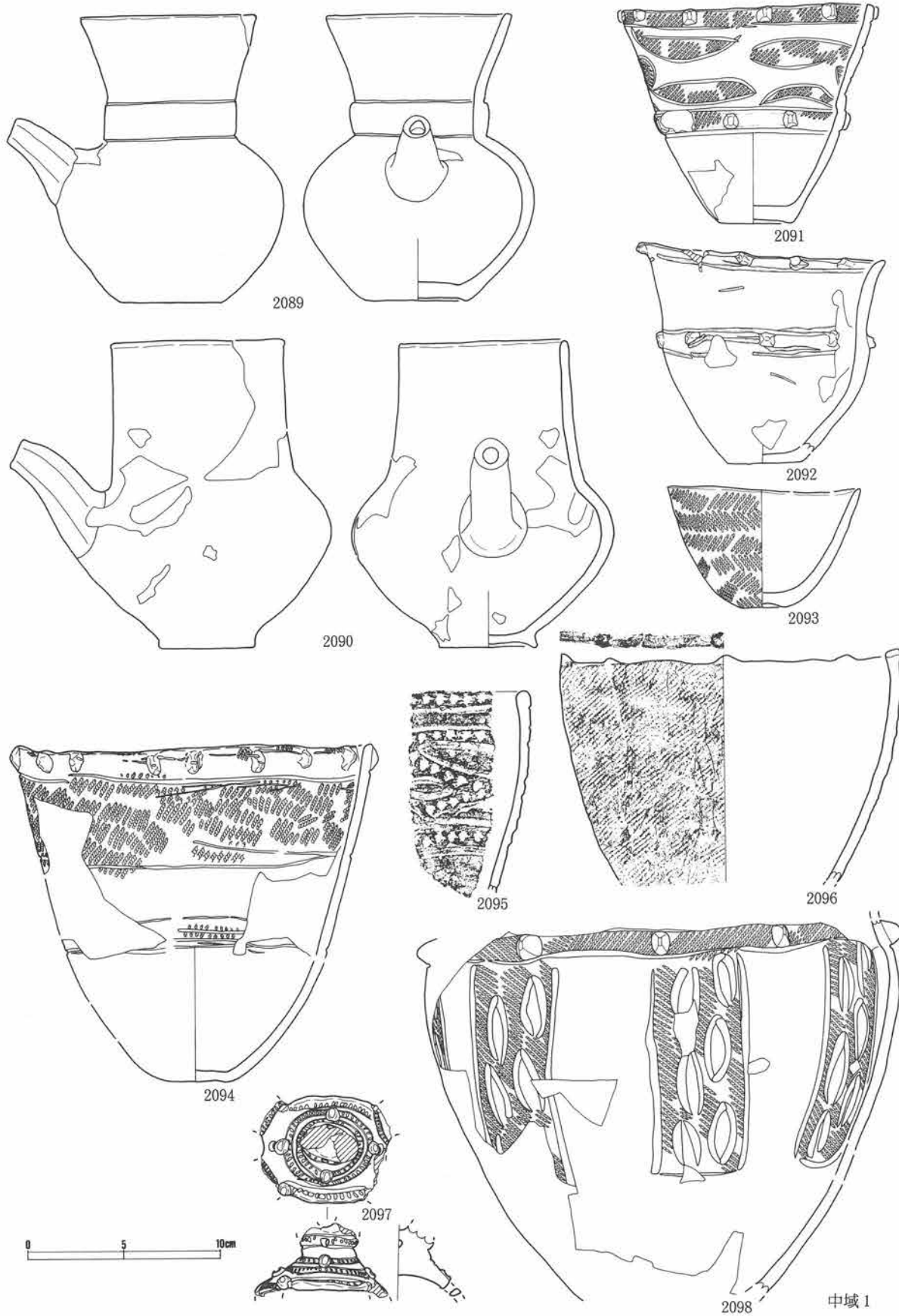
第281図 遺構外土器86 (西部捨て場)



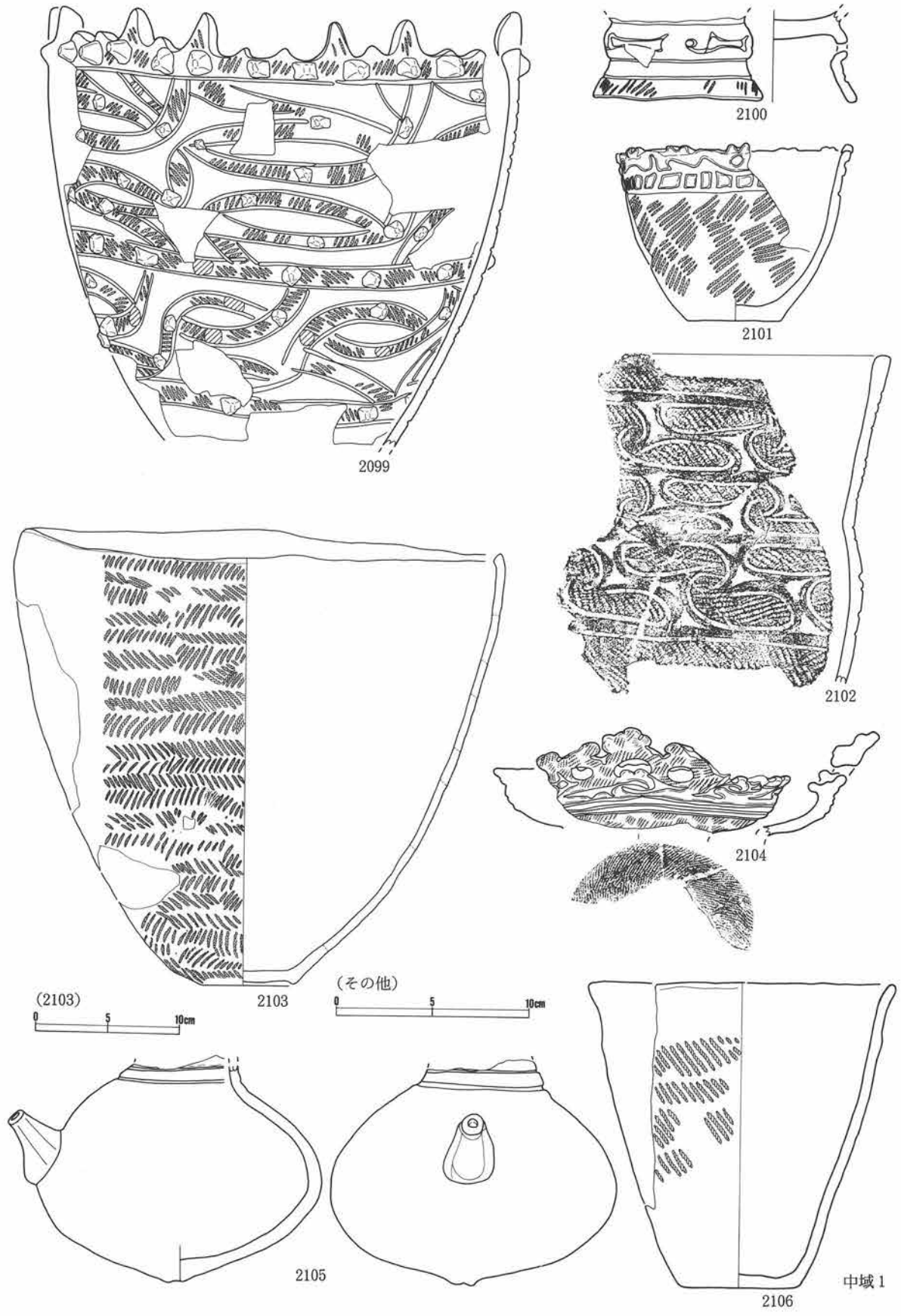
第282図 遺構外土器87 (西部捨て場)



第283図 遺構外土器88（西部捨て場）



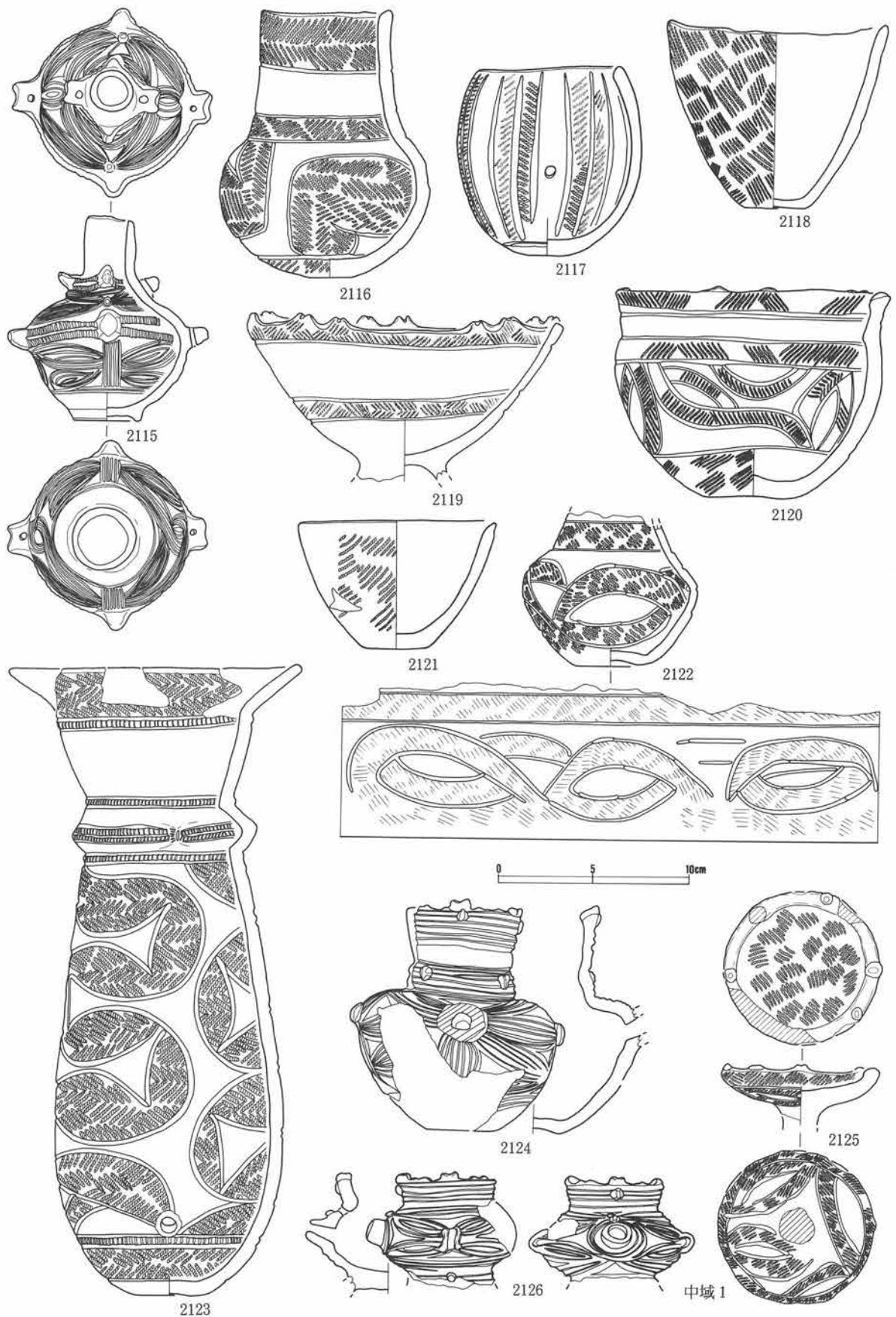
第284図 遺構外土器89（西部捨て場）



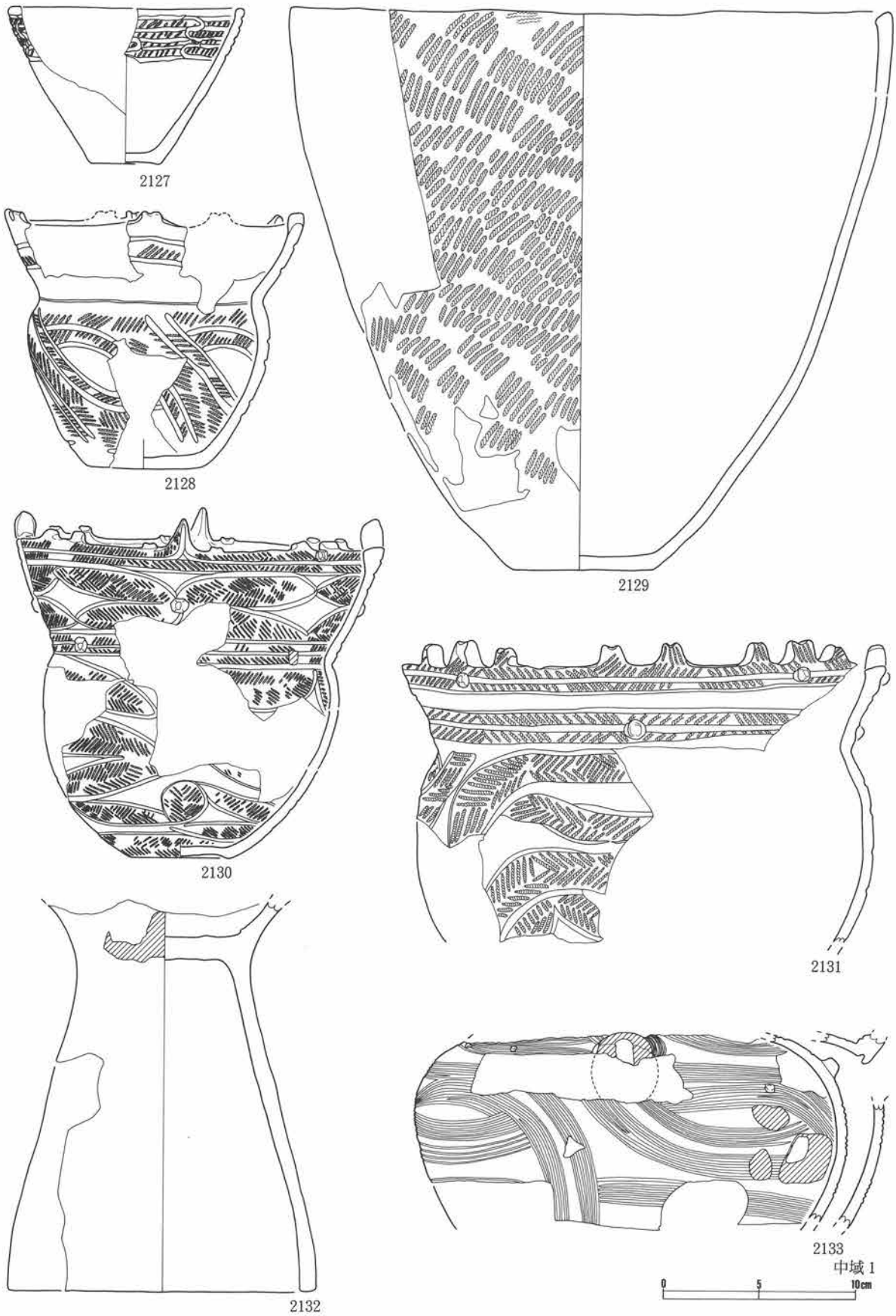
第285図 遺構外土器90 (西部捨て場)



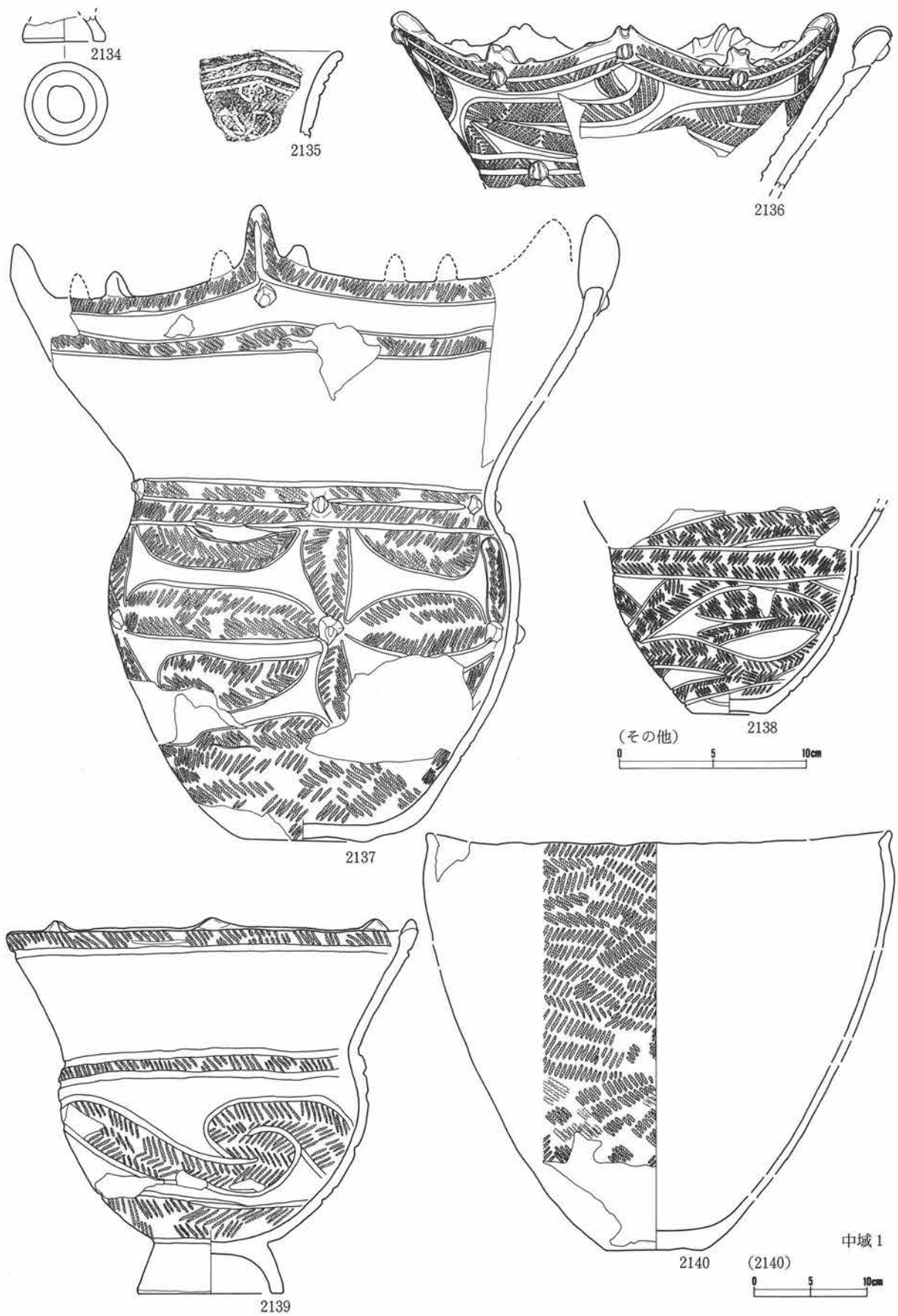
第286図 遺構外土器91 (西部捨て場)



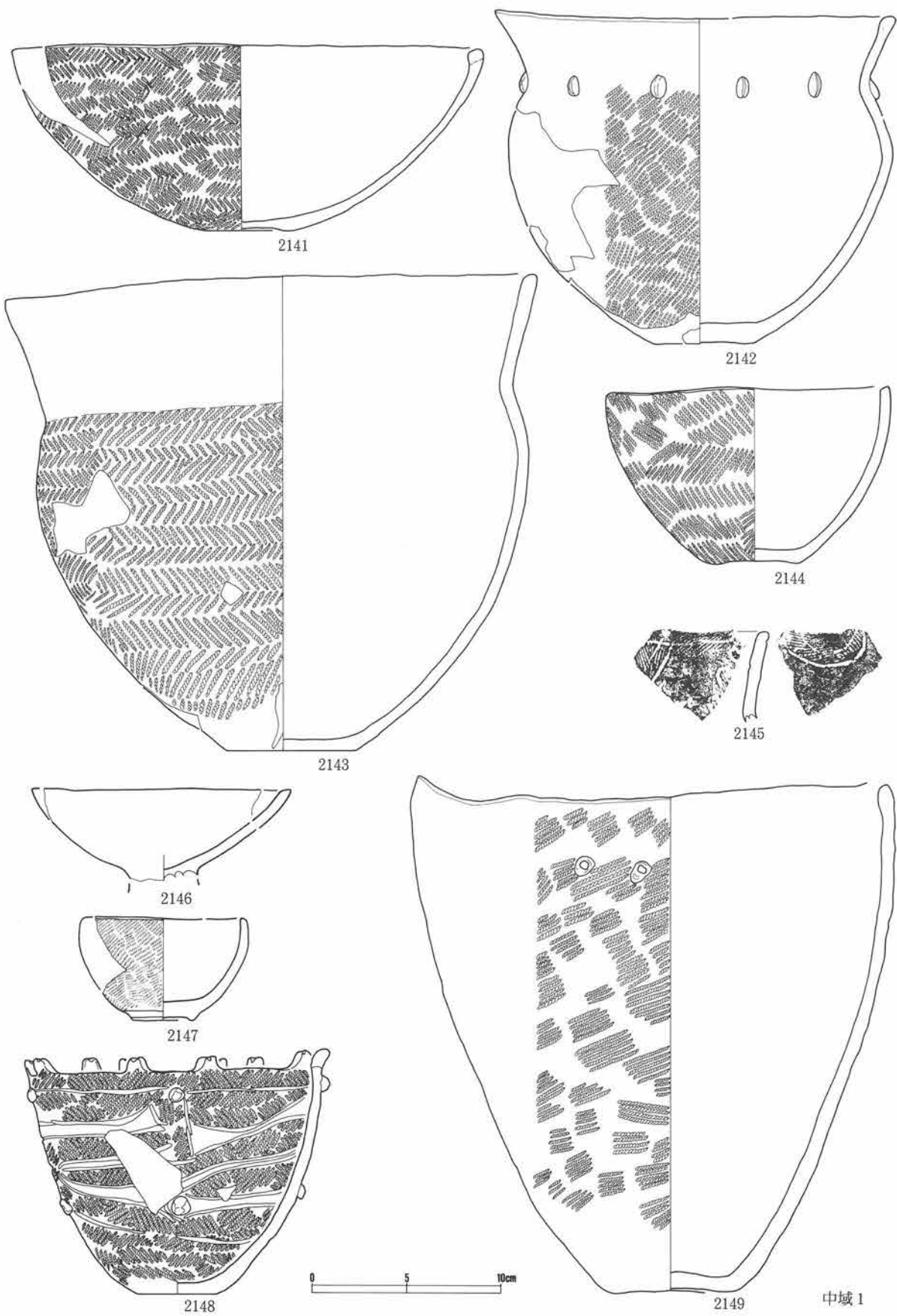
第287図 遺構外土器92 (西部捨て場)



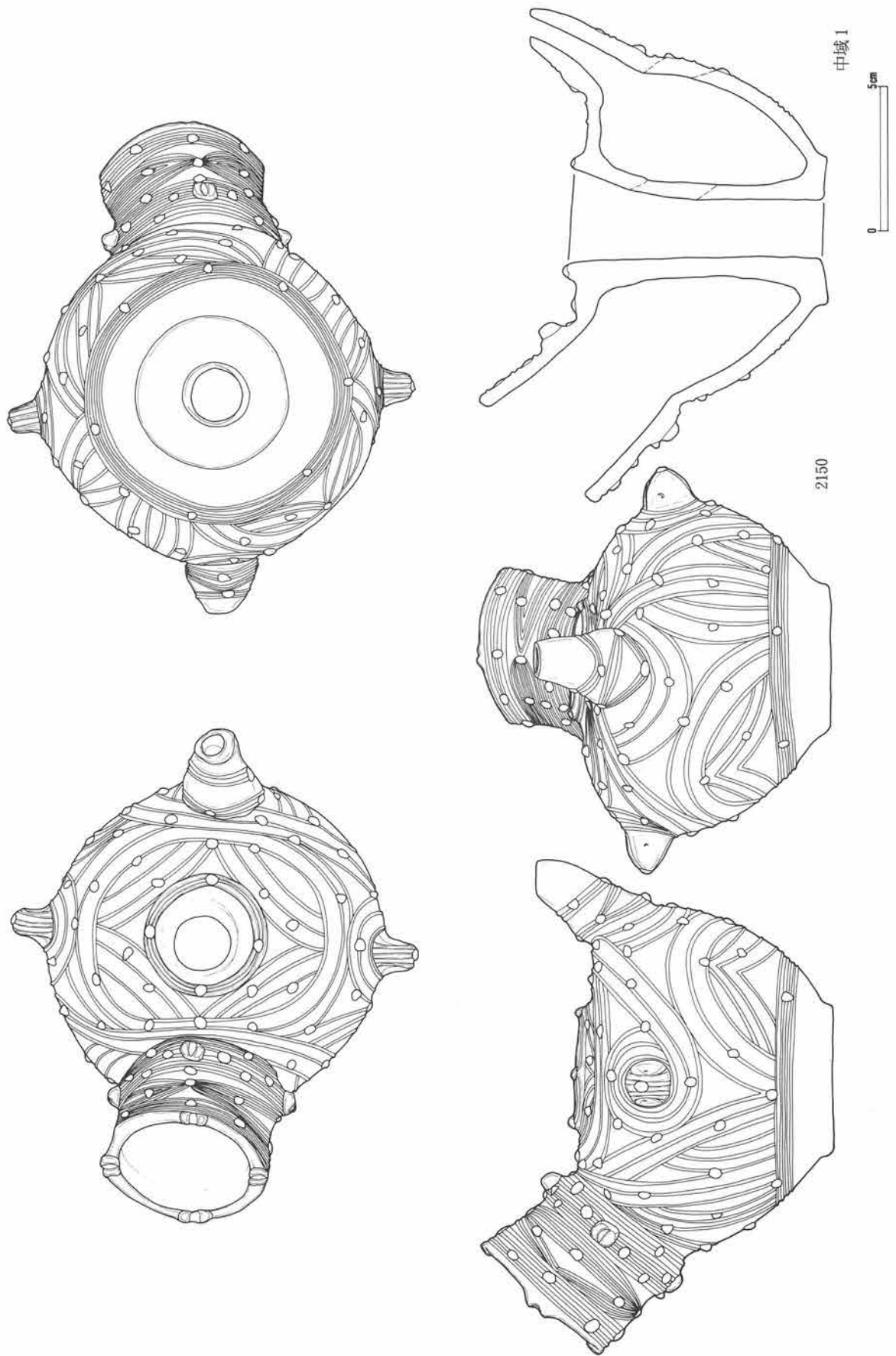
第288図 遺構外土器93 (西部捨て場)



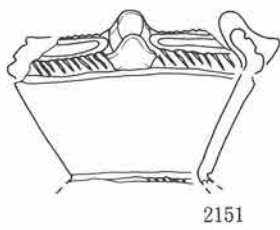
第289図 遺構外土器94 (西部捨て場)



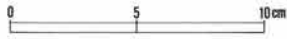
第290図 遺構外土器95（西部捨て場）



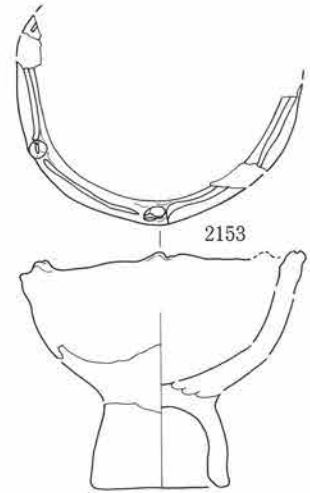
第291図 遺構外土器96 (西部捨て場)



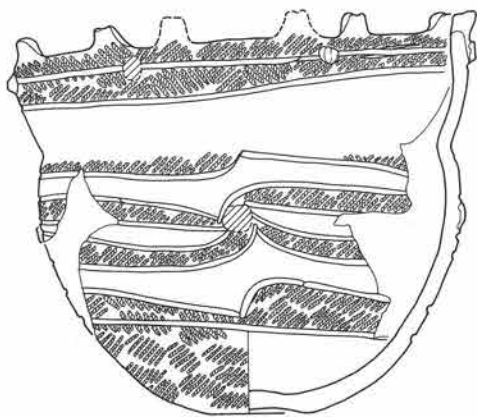
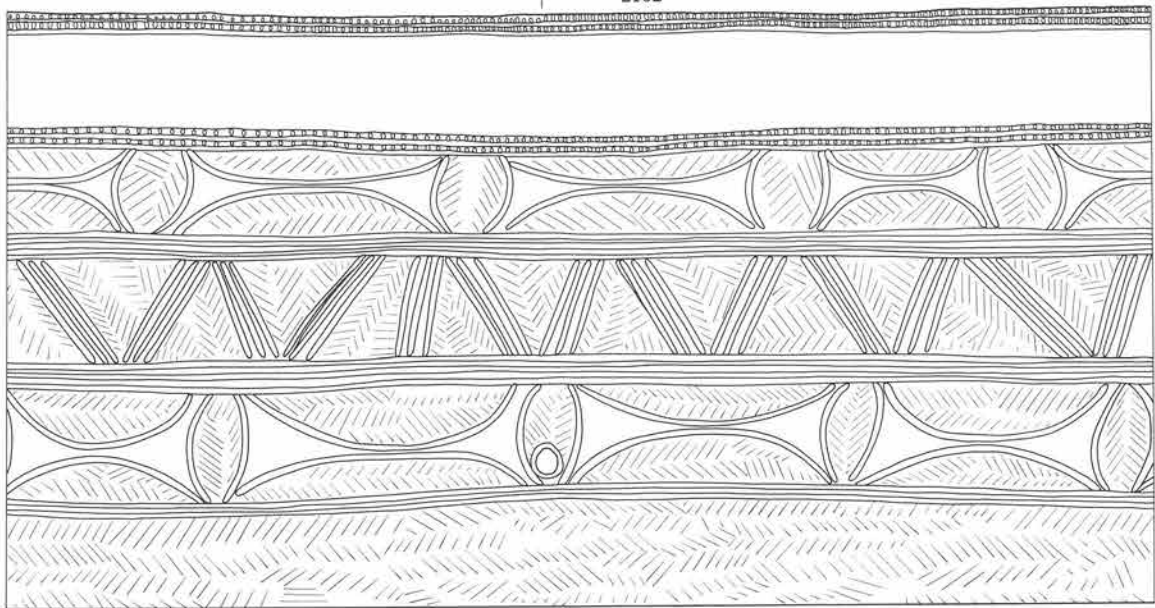
2151



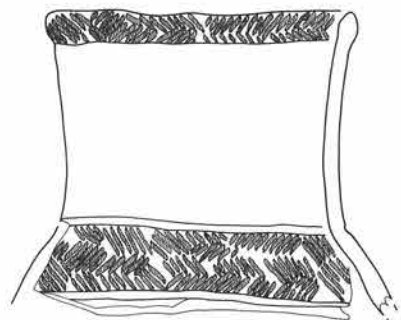
2152



2153



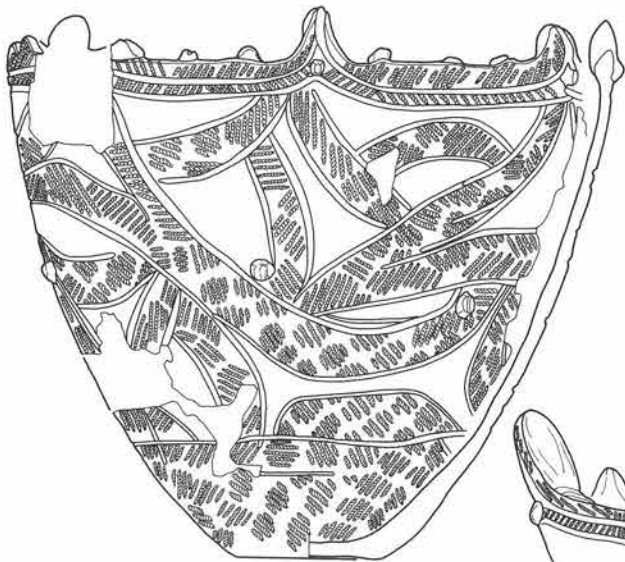
2154



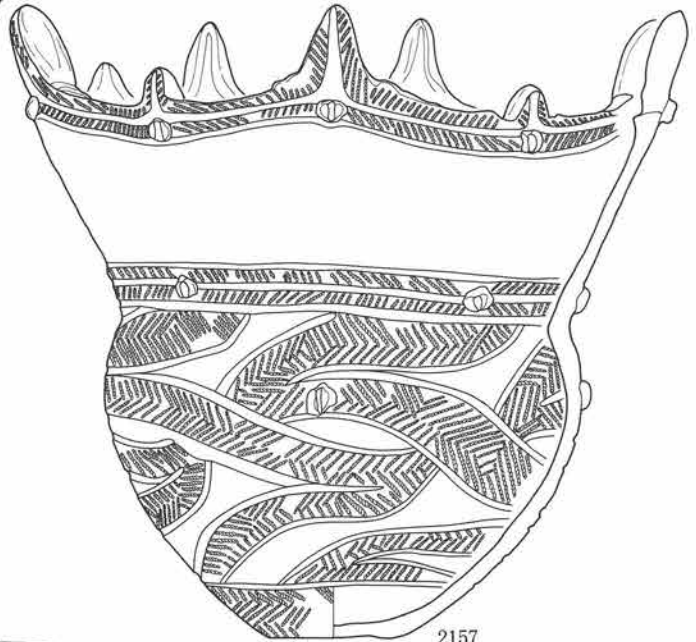
2155

中城 1

第292図 遺構外土器97 (西部捨て場)



2156

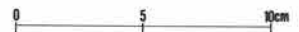


2157

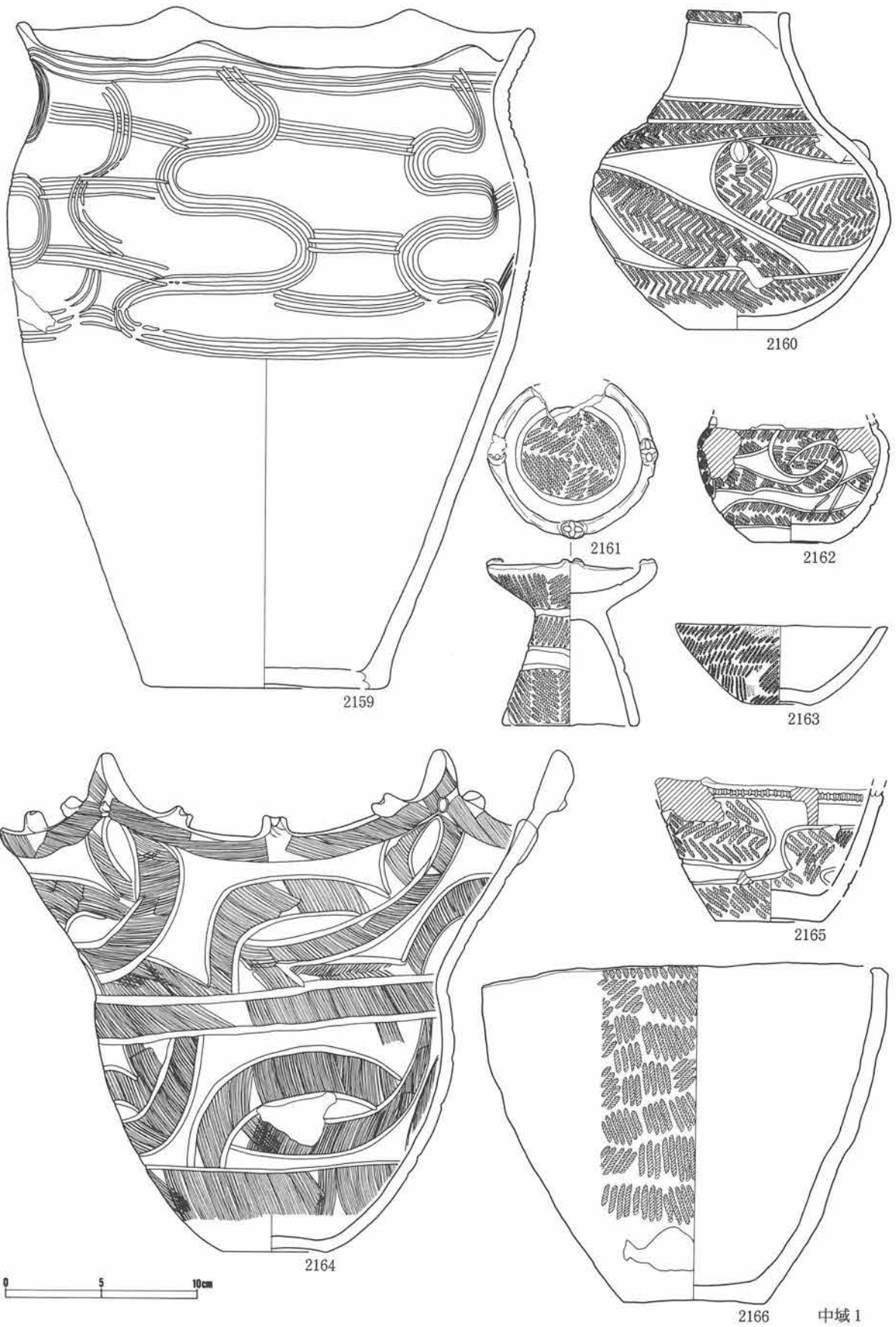


2158

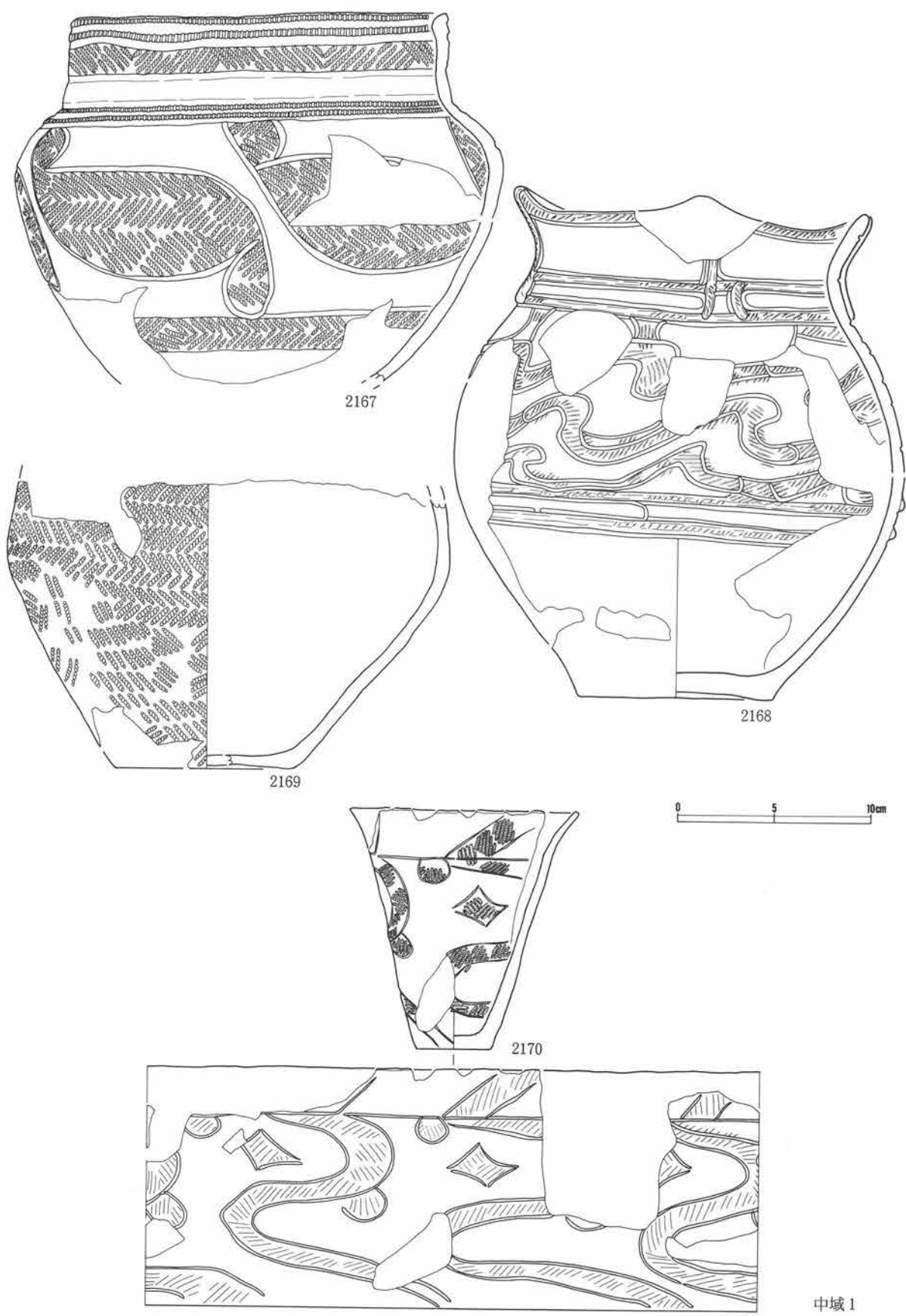
中城 1



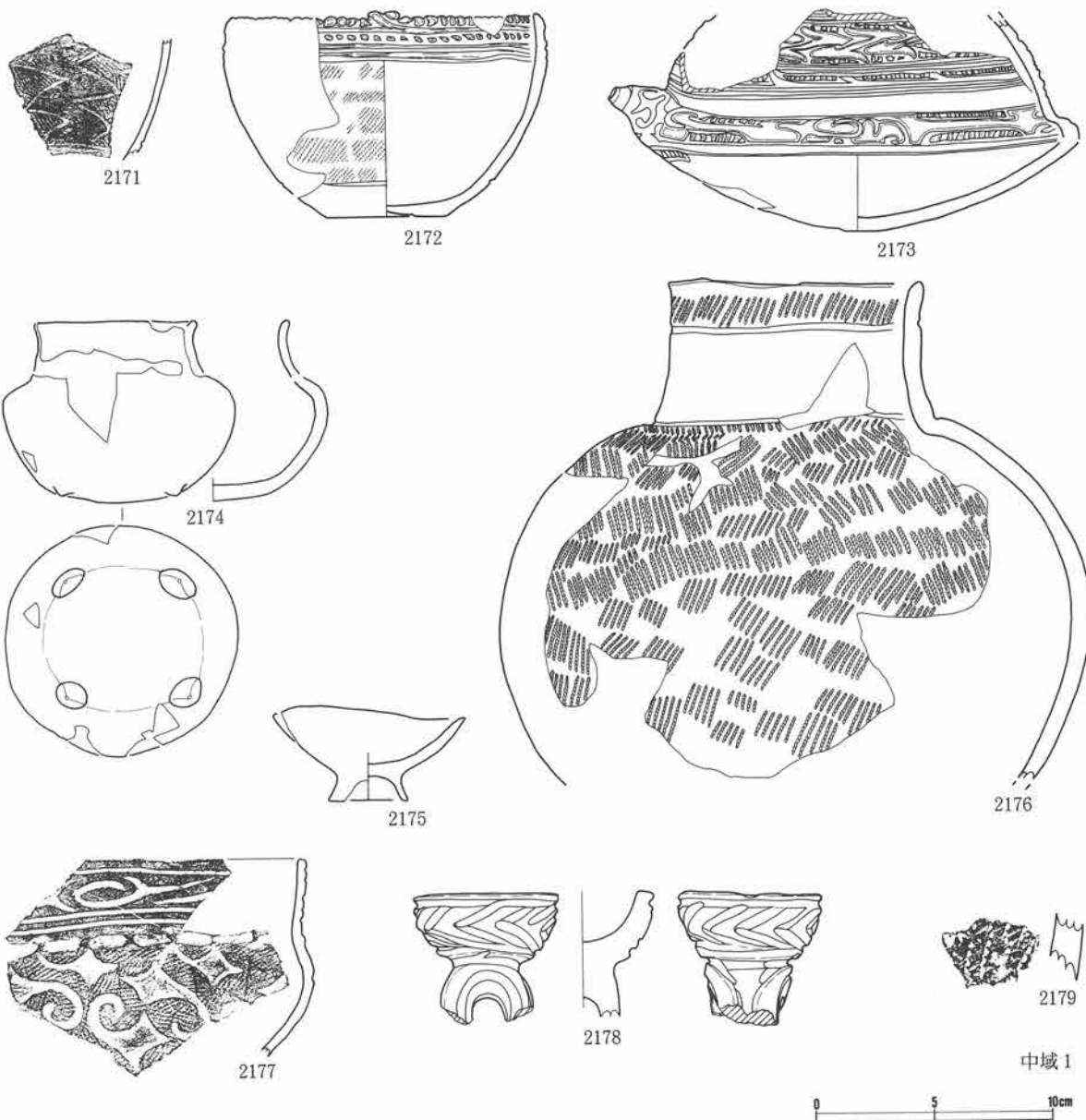
第293図 遺構外土器98 (西部捨て場)



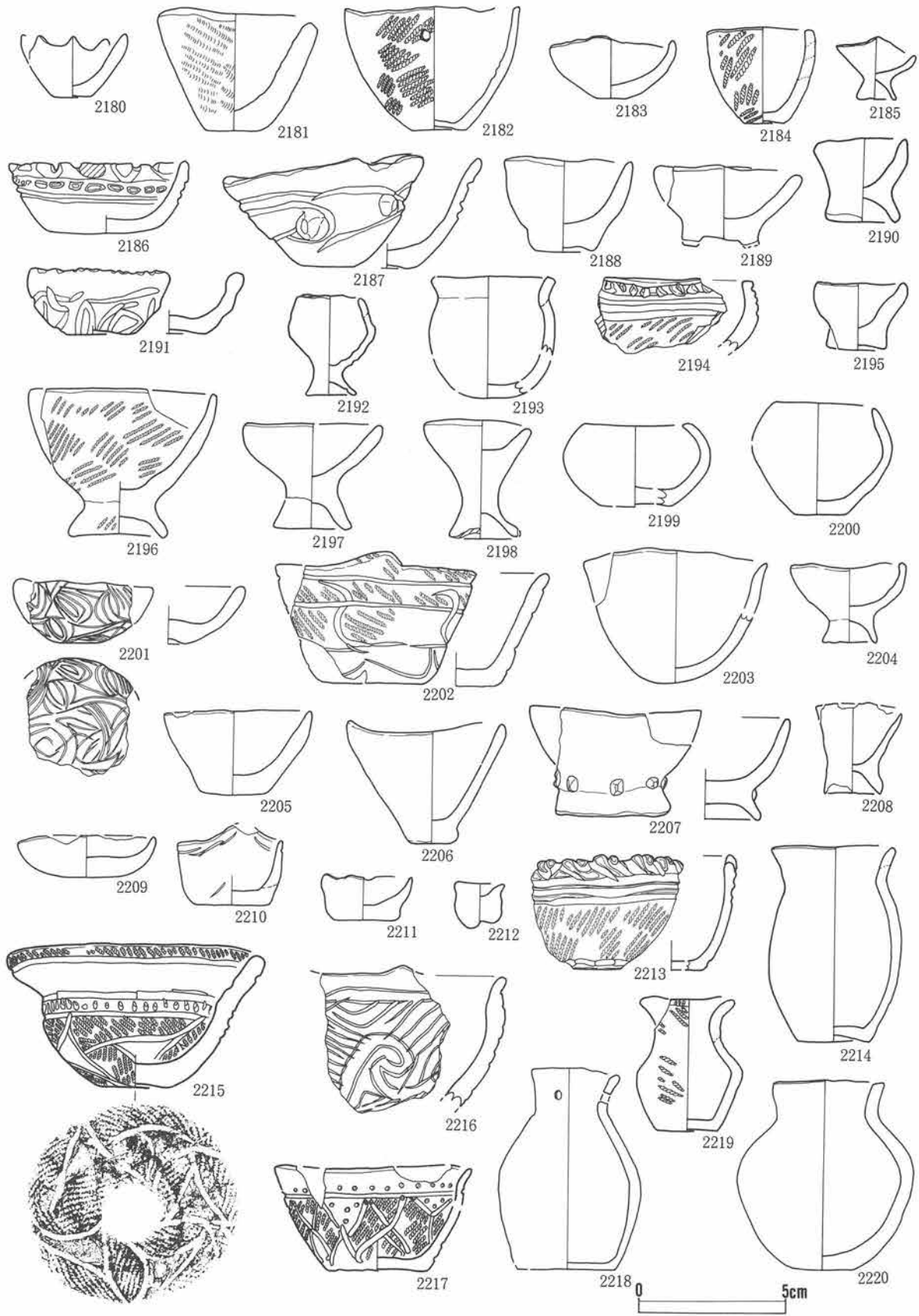
第294図 遺構外土器99 (西部捨て場)



第295図 遺構外土器100 (西部捨て場)



第296図 遺構外土器101 (表採)



第297図 遺構外土製品1 (東部捨て場) ミニチュア土器



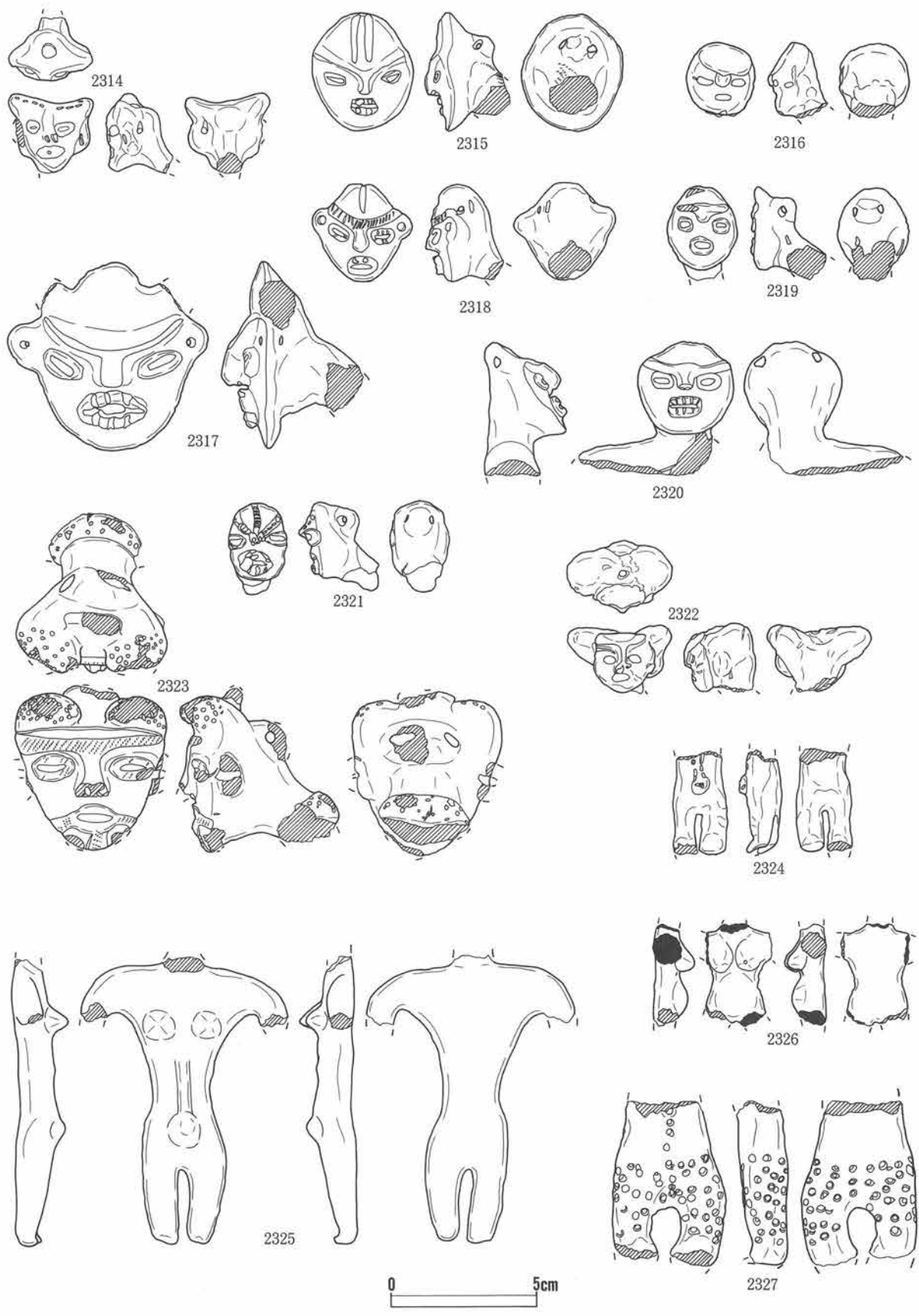
第298図 遺構外土製品2 (東部・西部捨て場) ミニチュア土器



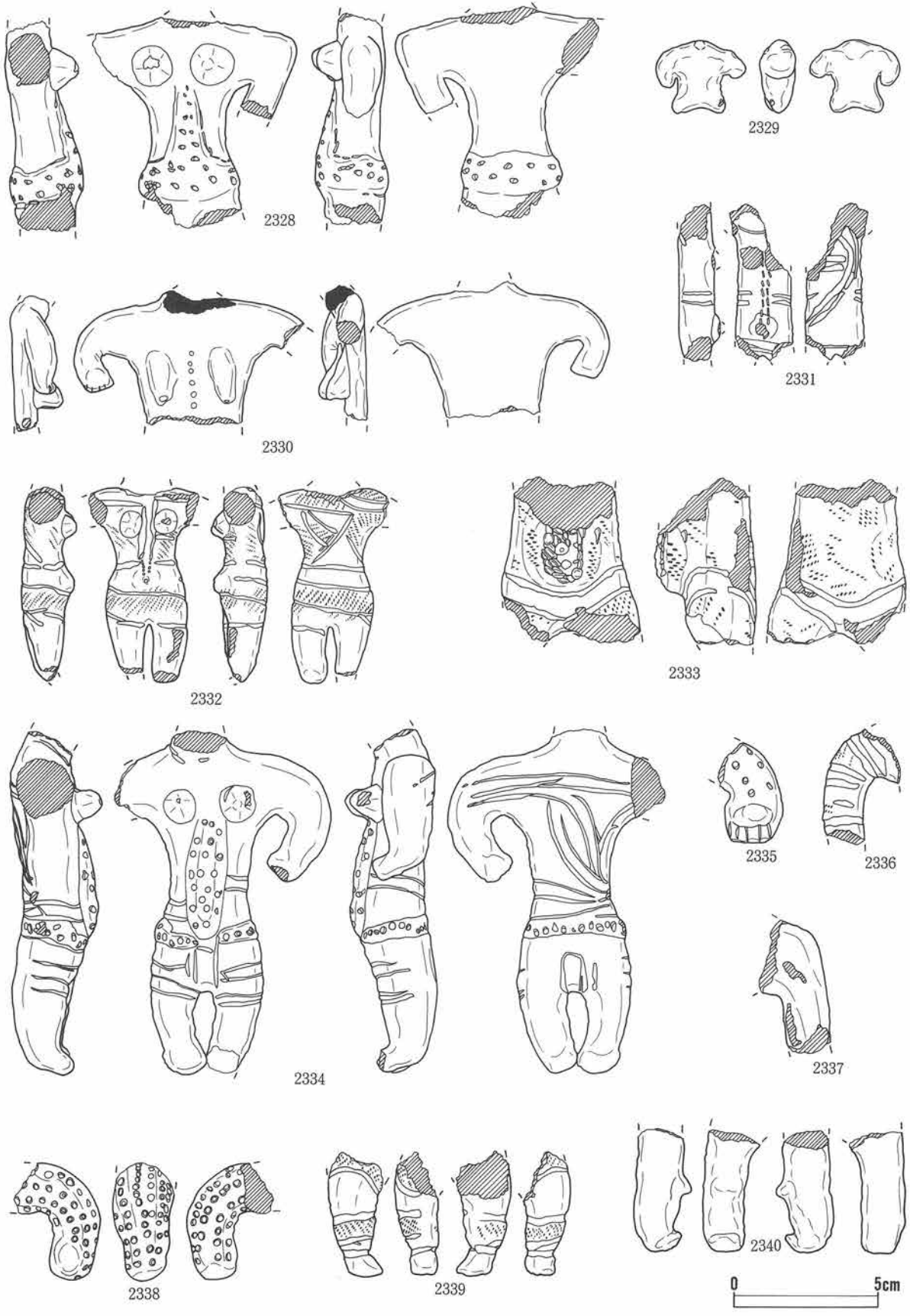
第299図 遺構外土製品3 (西部捨て場) ミニチュア土器



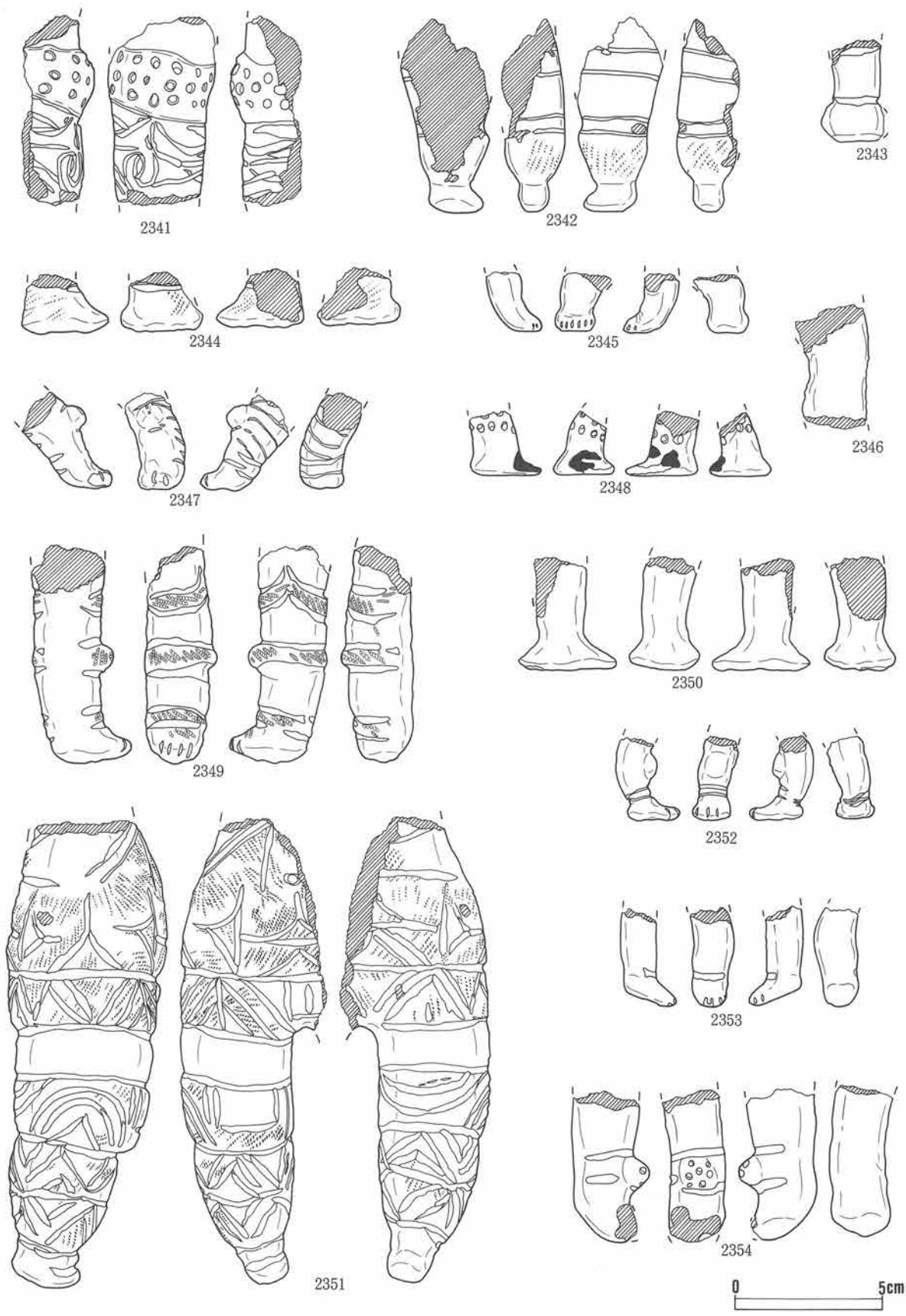
第300図 遺構外土製品4 (西部捨て場・表採) ミニチュア土器



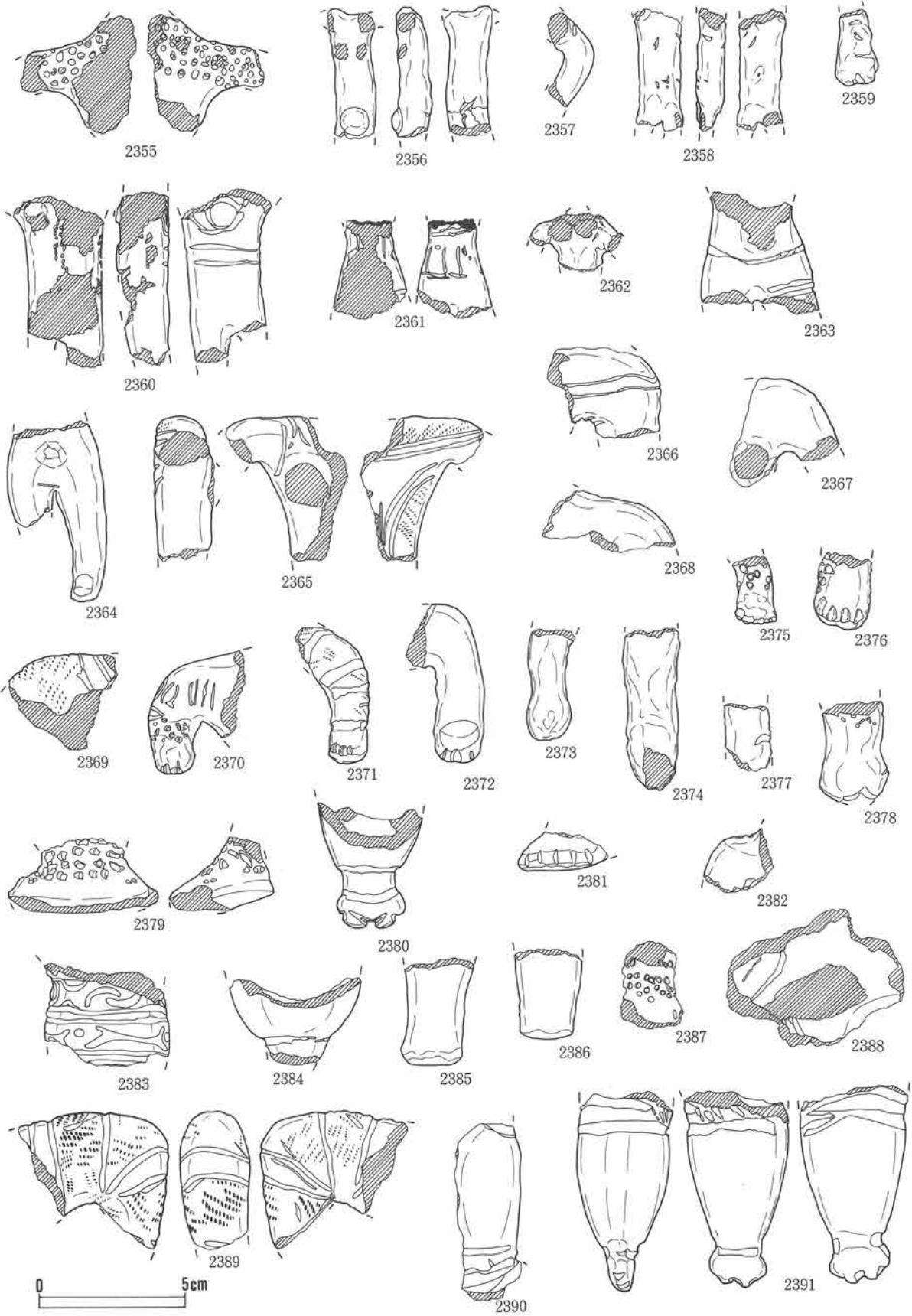
第301図 遺構外土製品5（東部捨て場）土偶



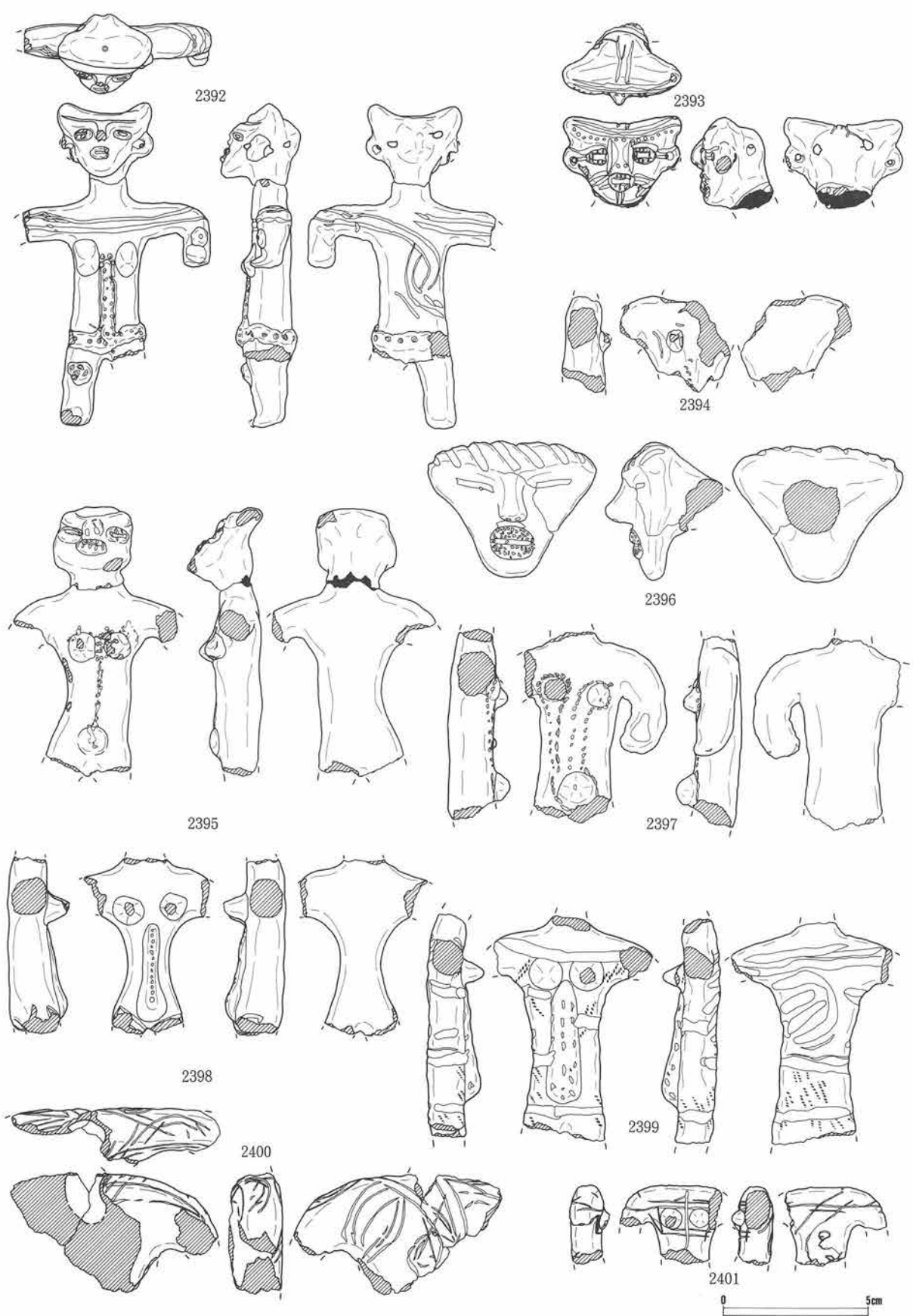
第302図 遺構外土製品6 (東部捨て場) 土偶



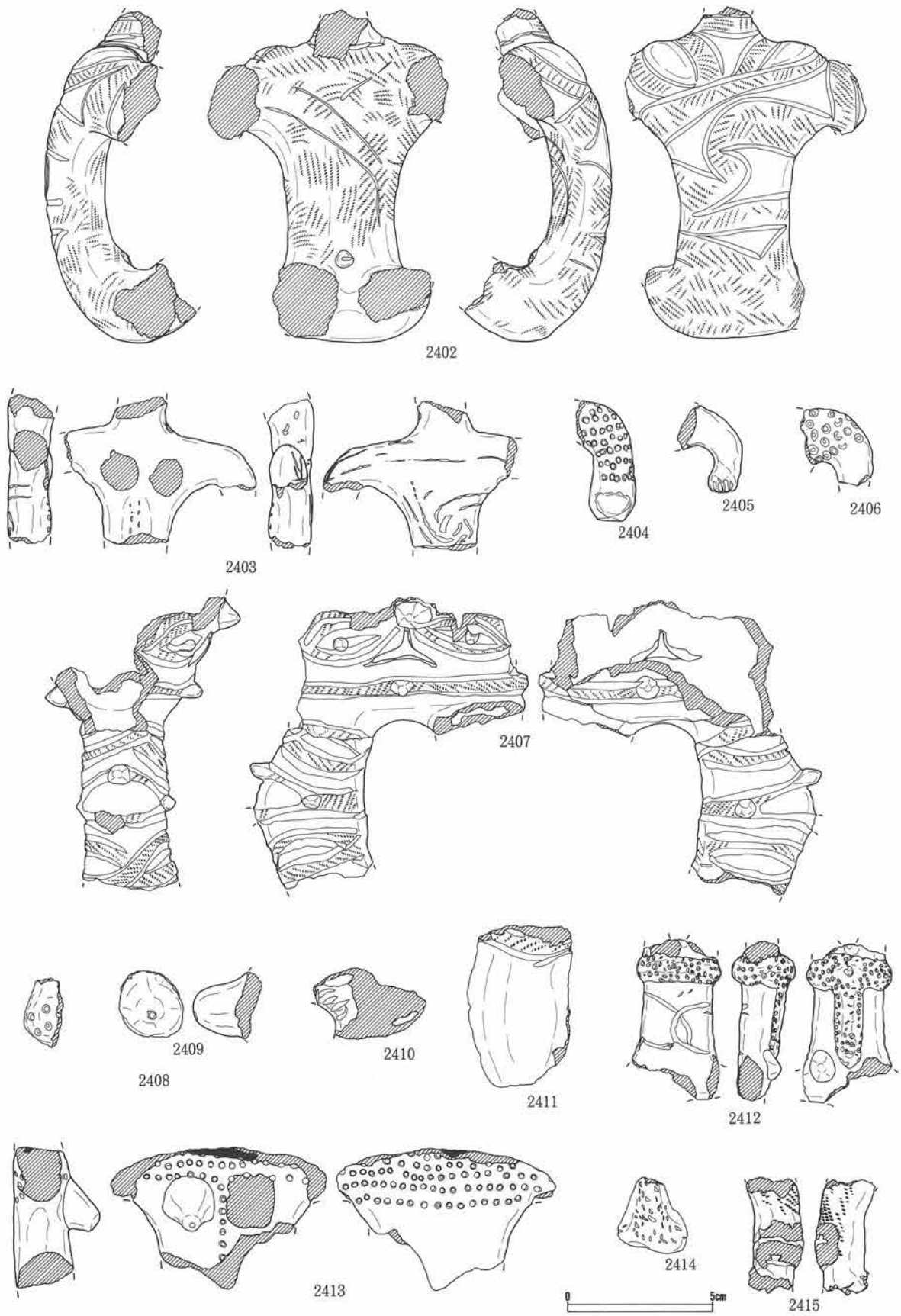
第303図 遺構外土製品7（東部捨て場）土偶



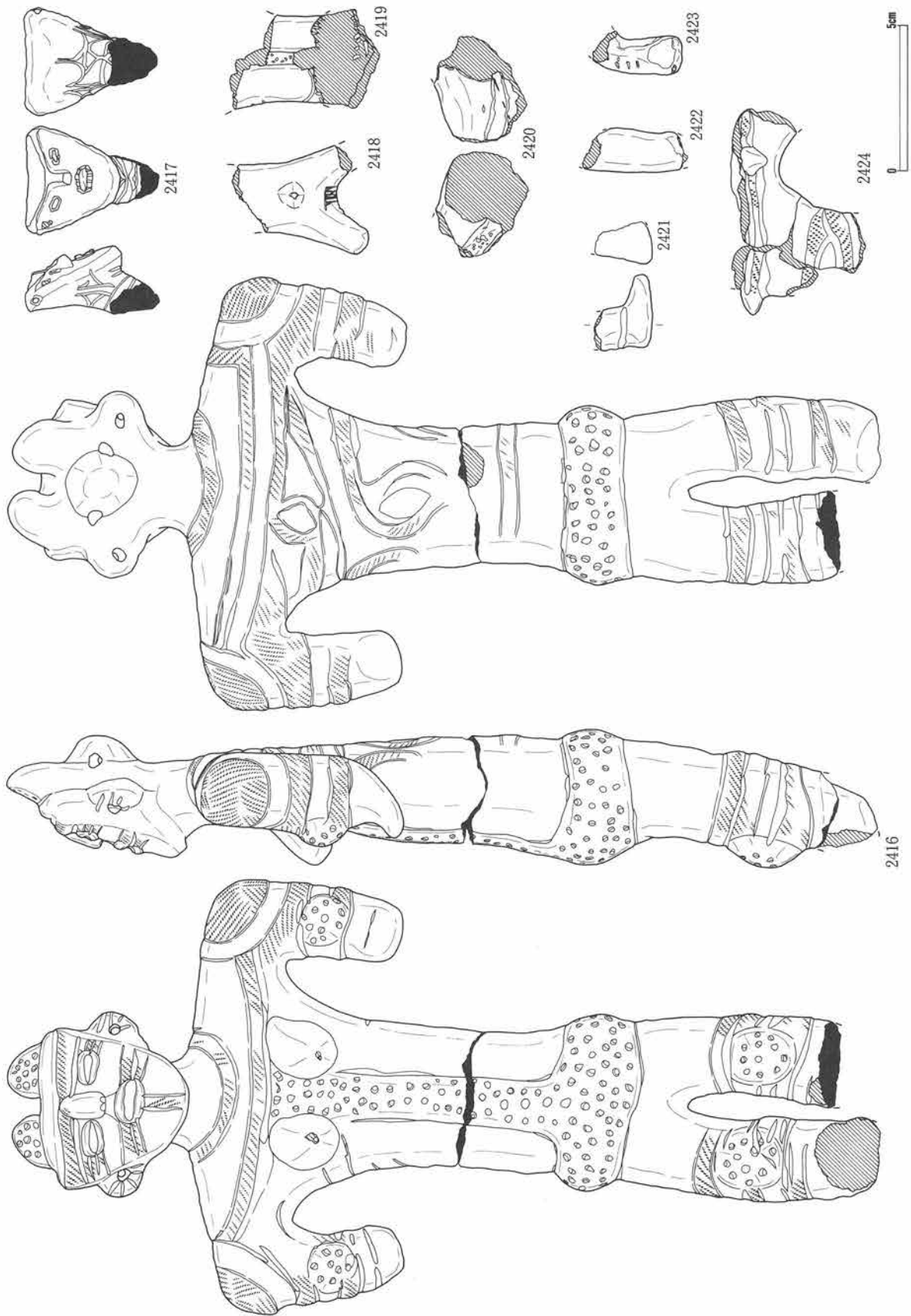
第304図 遺構外土製品 8 (東部捨て場) 土偶



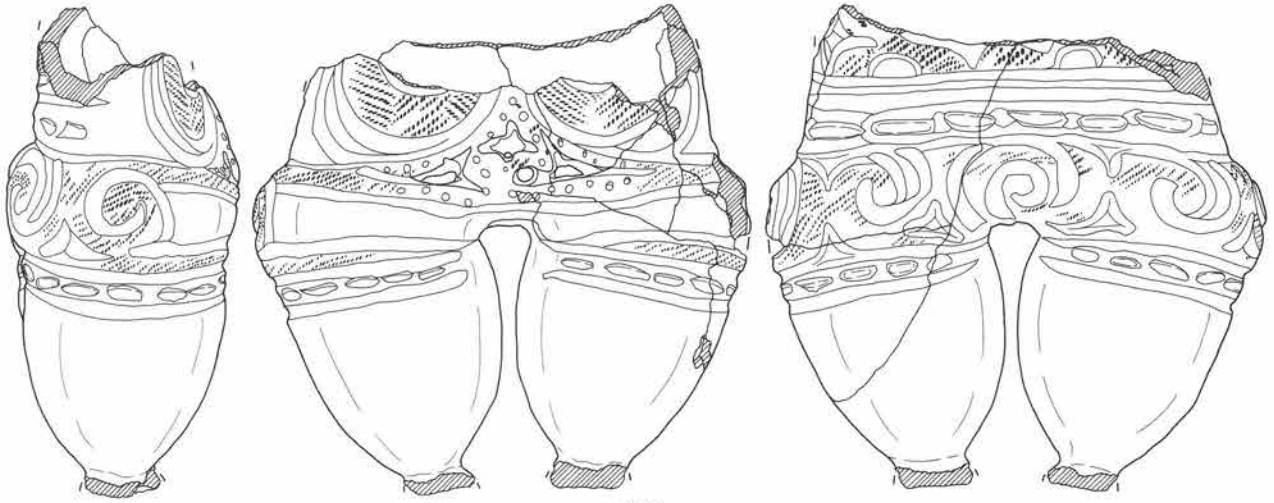
第305図 遺構外土製品9 (東部捨て場) 土偶



第306図 遺構外土製品10 (東部捨て場) 土偶



第307図 遺構外土製品11（東部捨て場）土偶



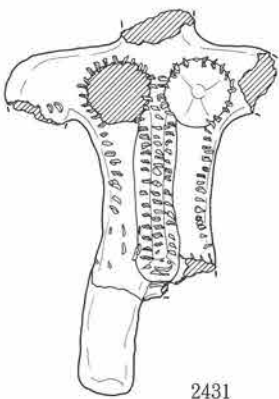
2425



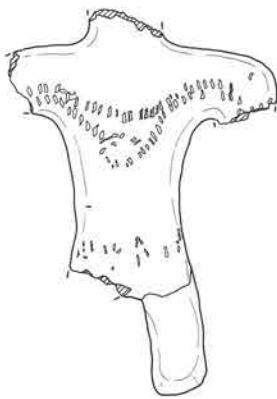
2426



2427



2431



2428



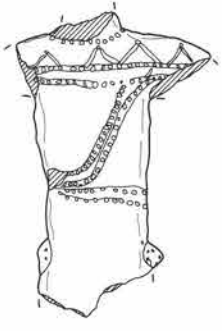
2429



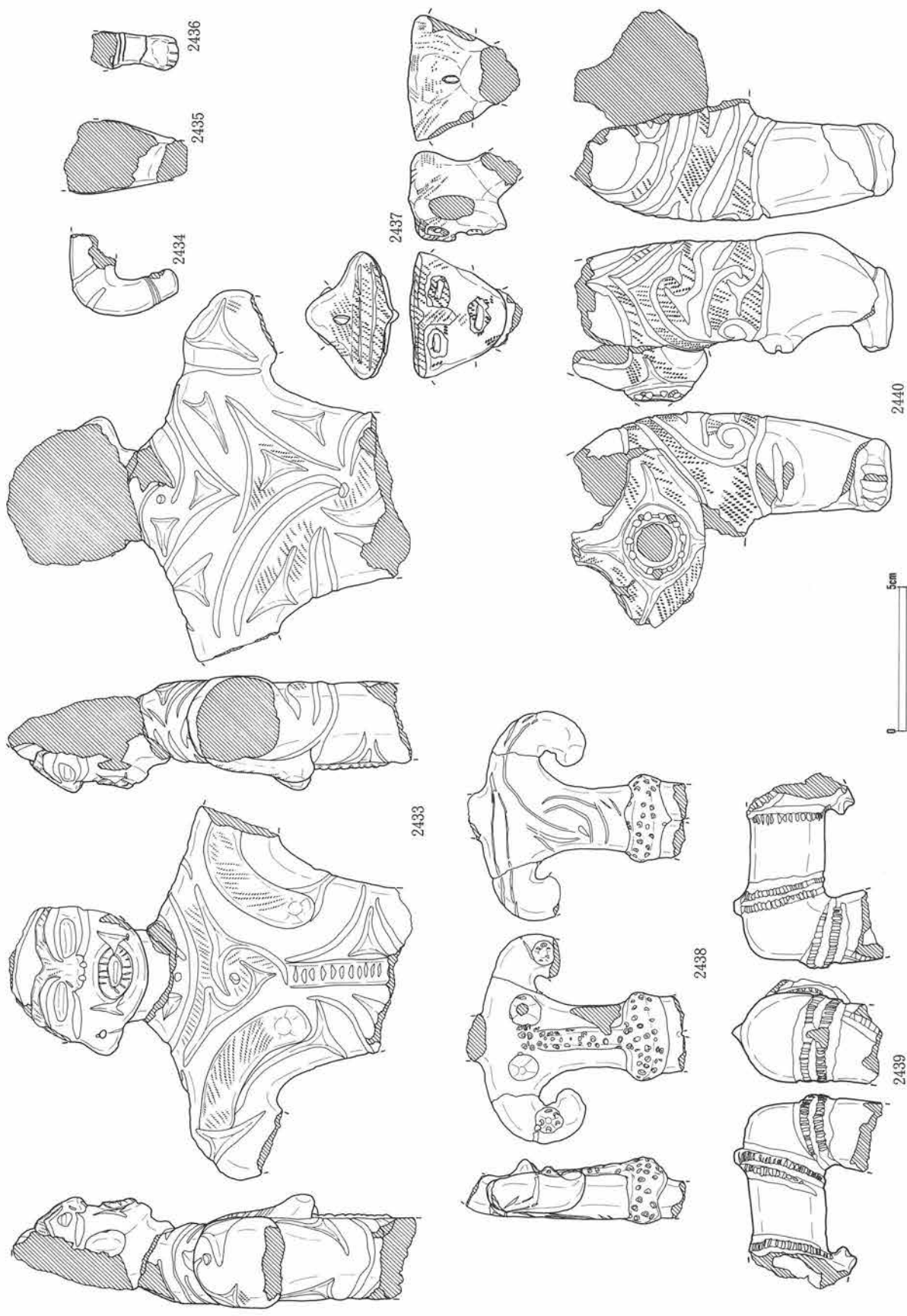
2430



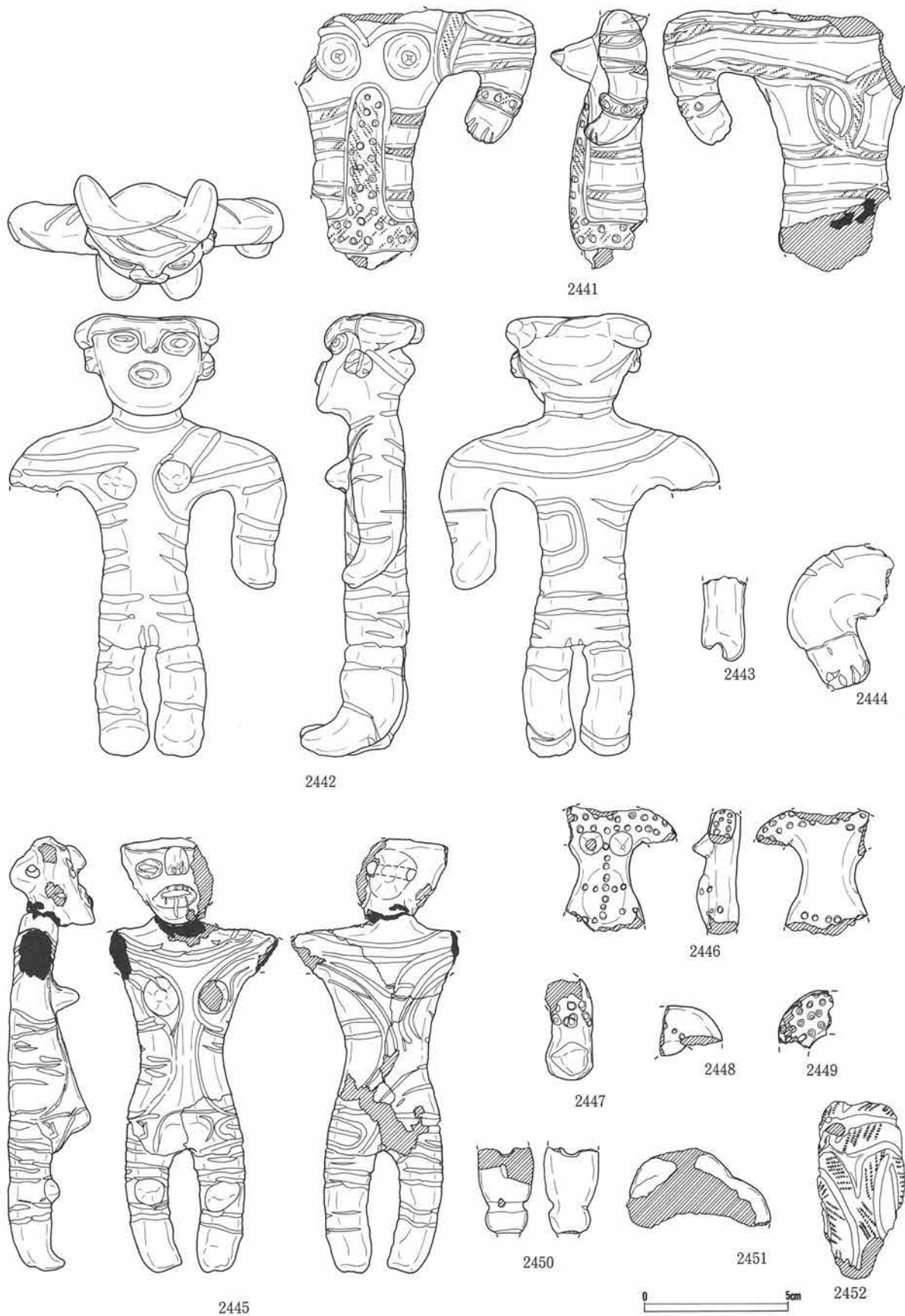
2432



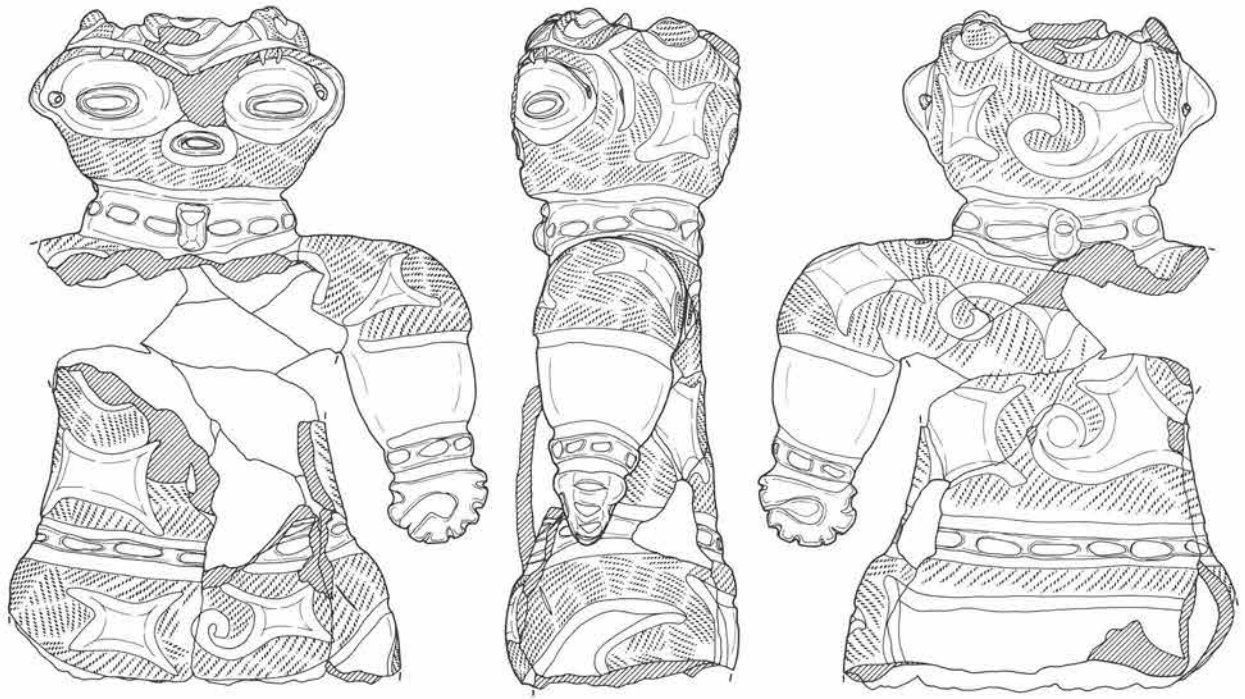
第308図 遺構外土製品12 (東部・西部捨て場) 土偶



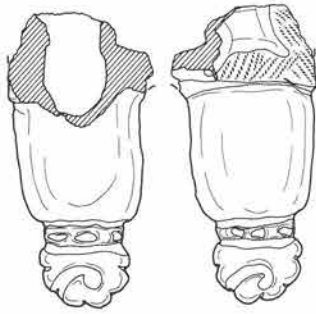
第309図 遺構外土製品13 (西部捨て場) 土偶



第310図 遺構外土製品14（西部捨て場）土偶



2453



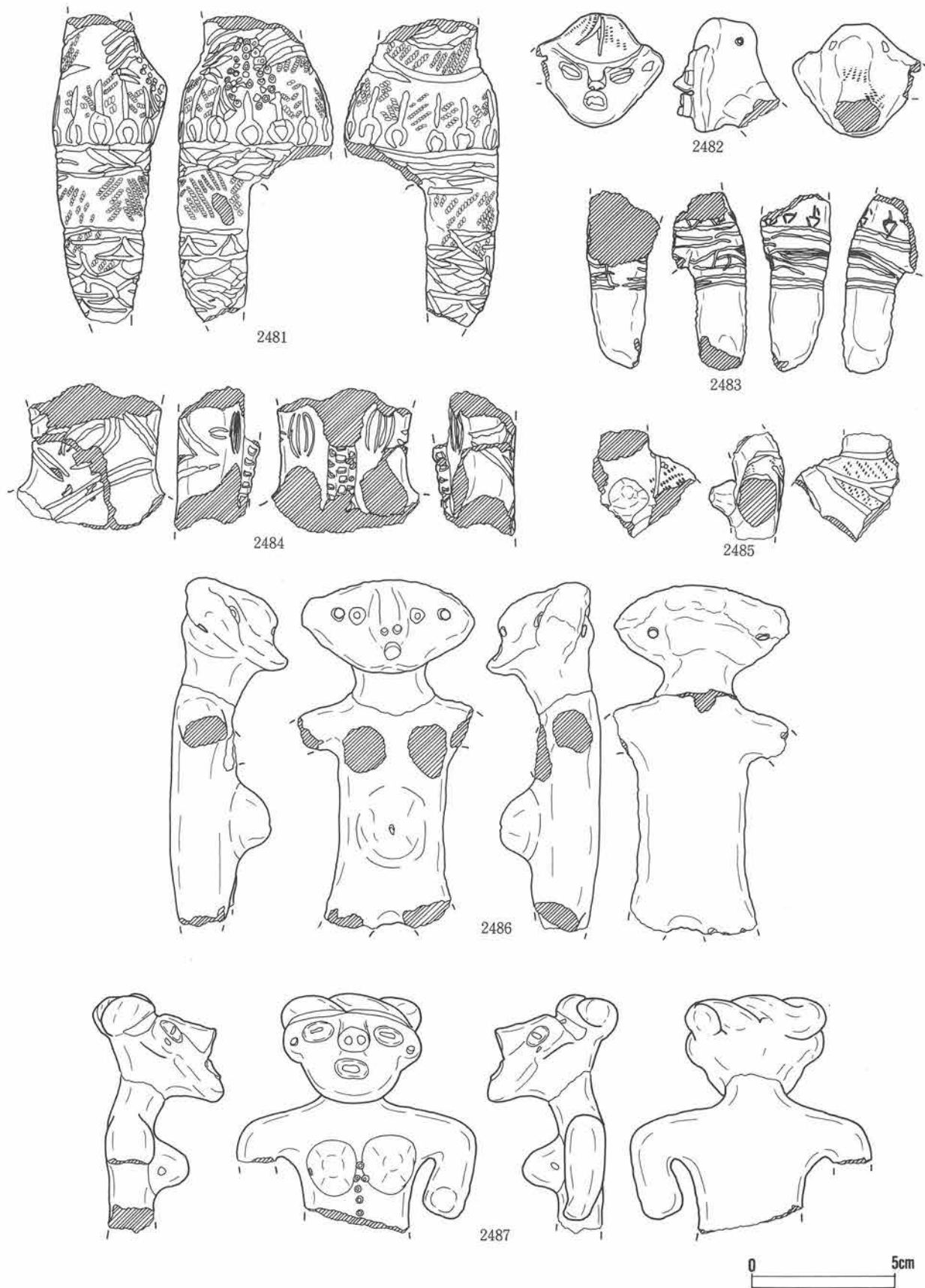
第311図 遺構外土製品15 (西部捨て場) 土偶



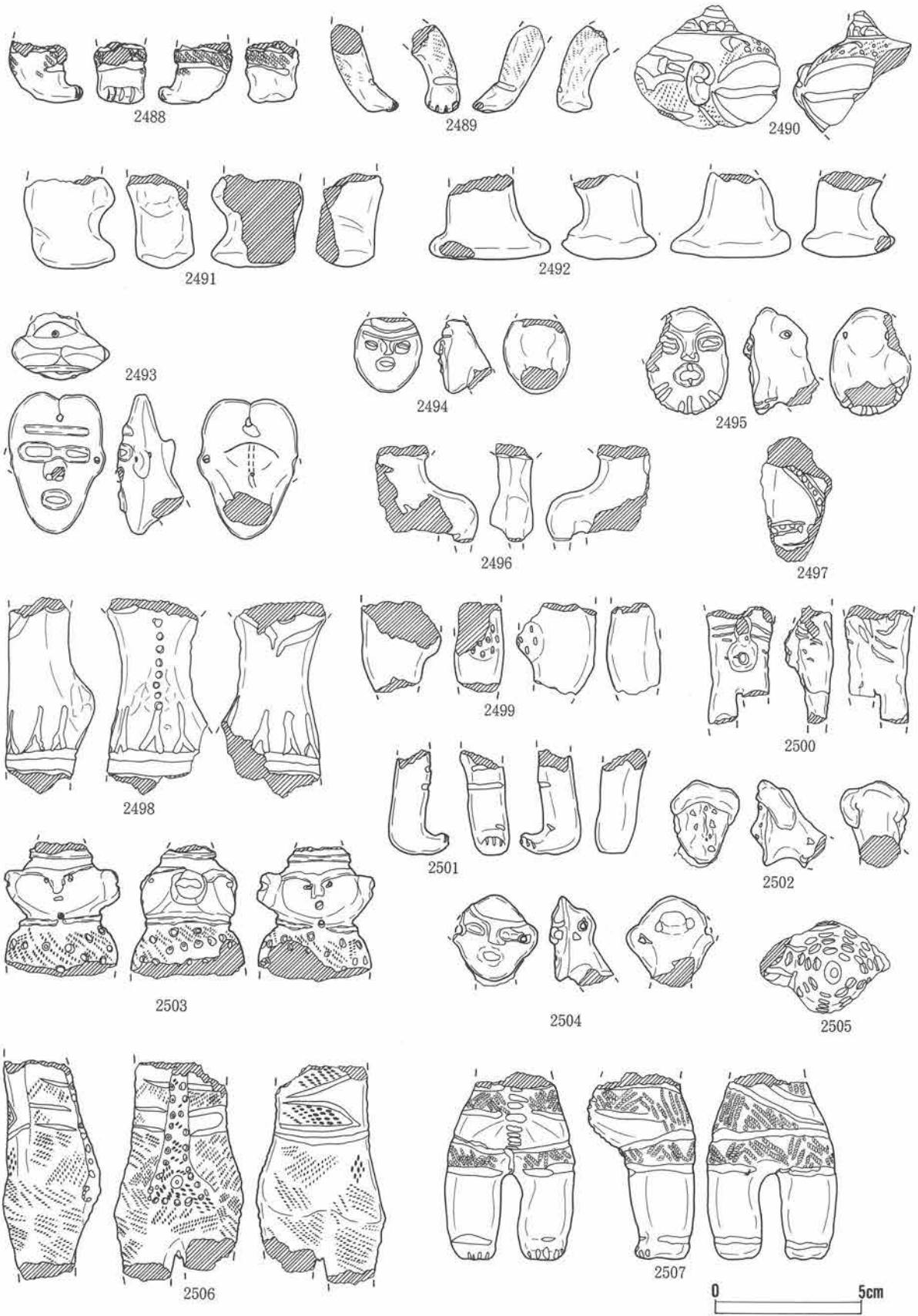
第312図 遺構外土製品16 (西部捨て場) 土偶



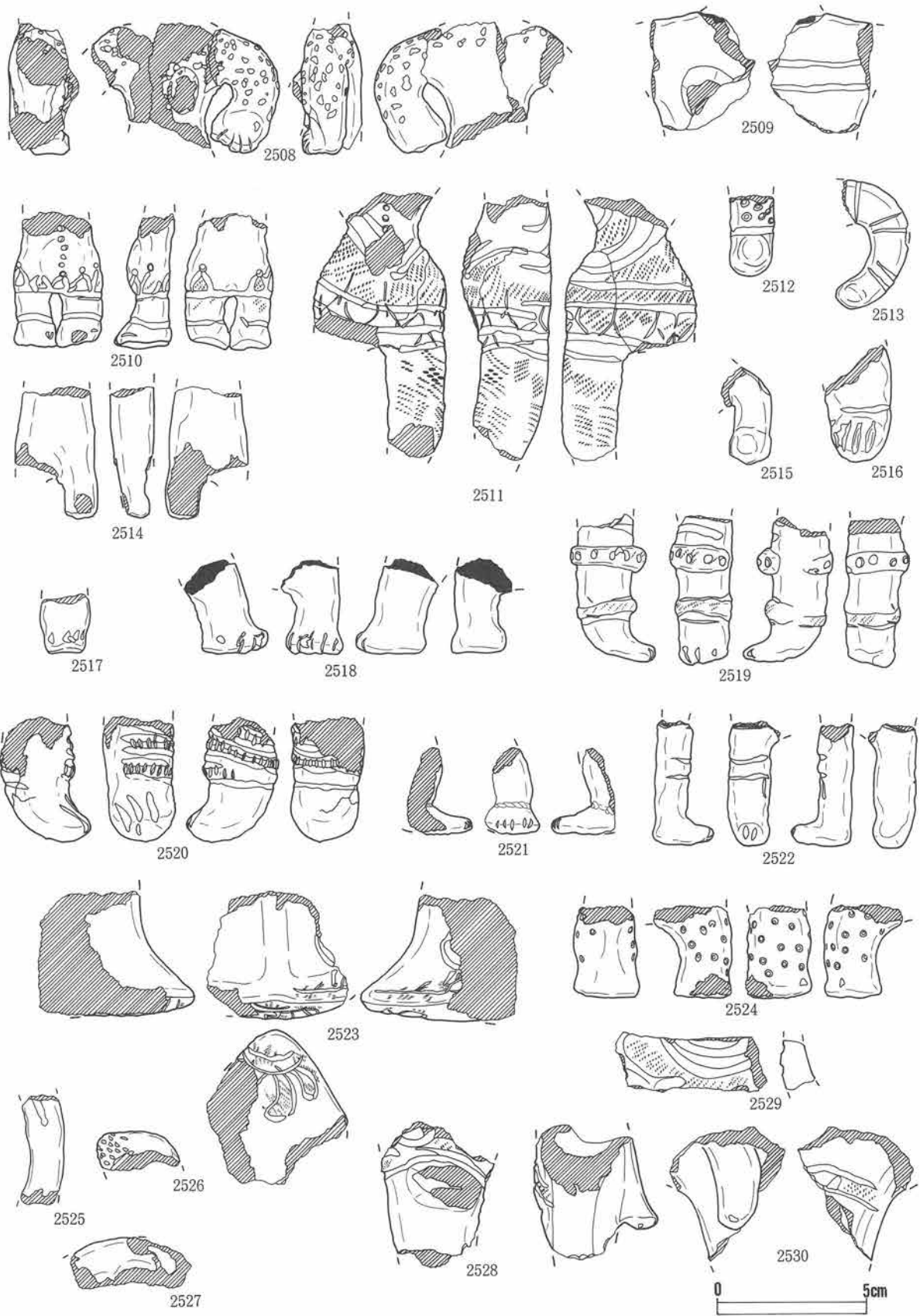
第313図 遺構外土製品17 (西部捨て場) 土偶



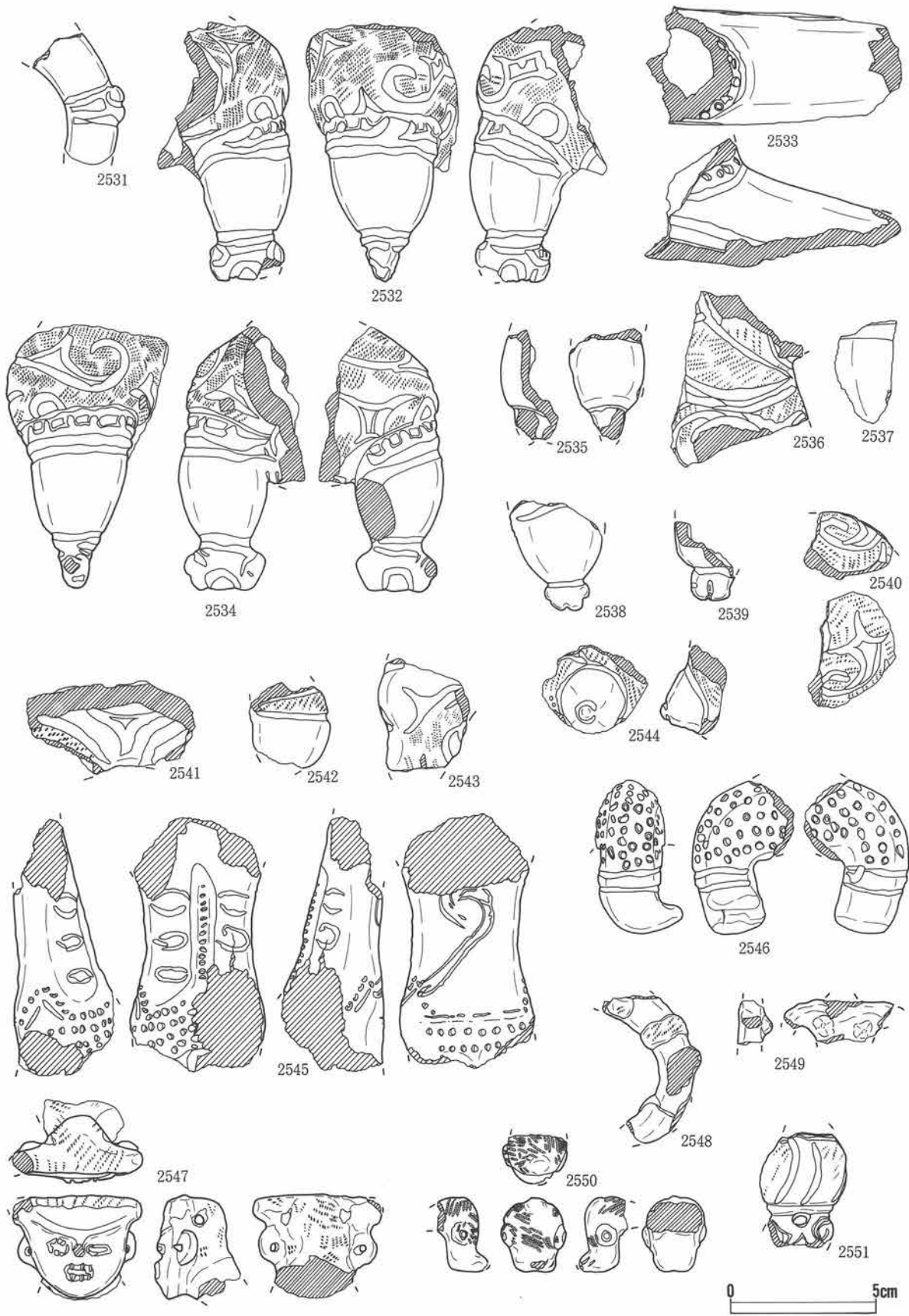
第314図 遺構外土製品18 (西部捨て場) 土偶



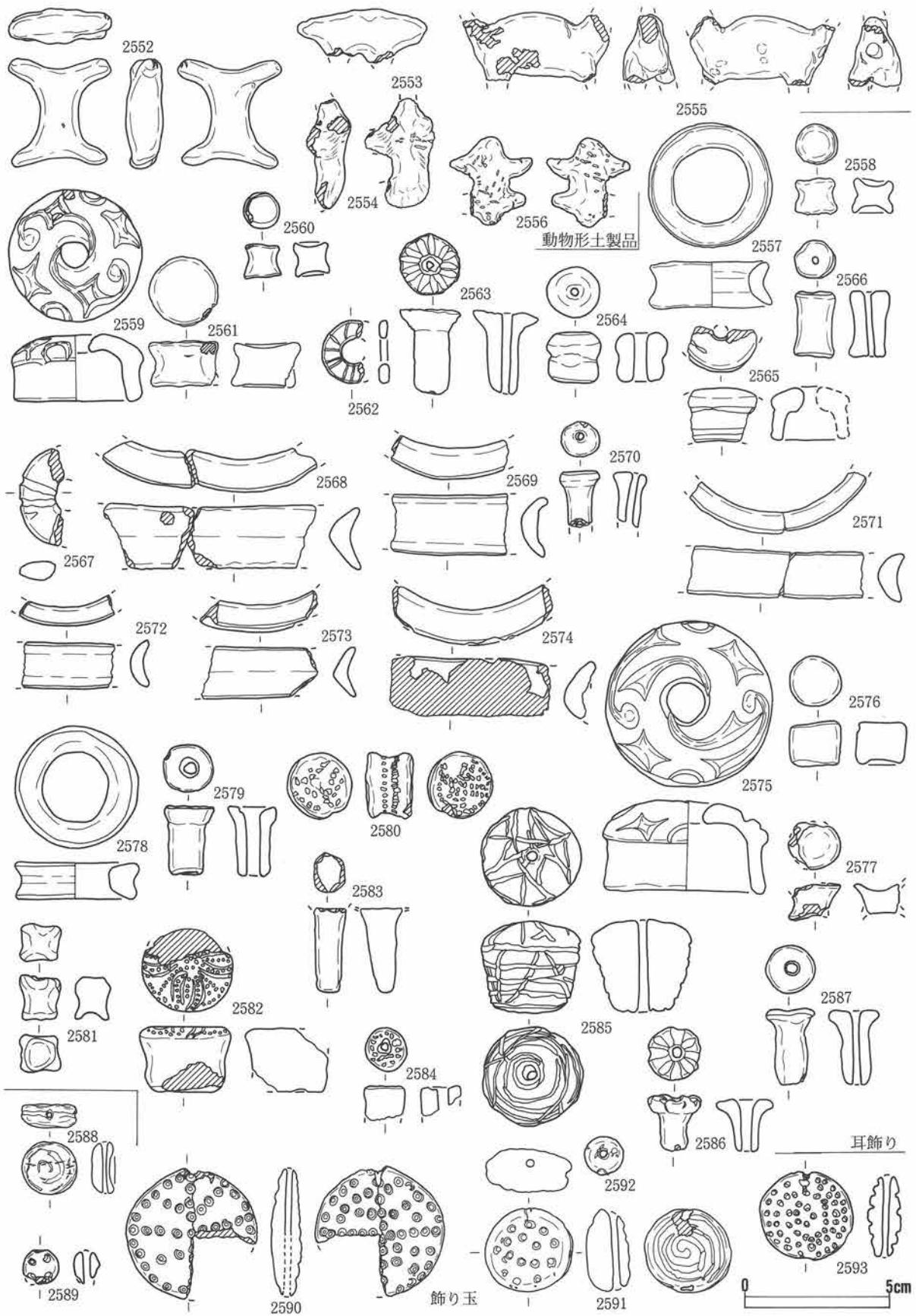
第315図 遺構外土製品19 (西部捨て場) 土偶



第316図 遺構外土製品20 (西部捨て場) 土偶



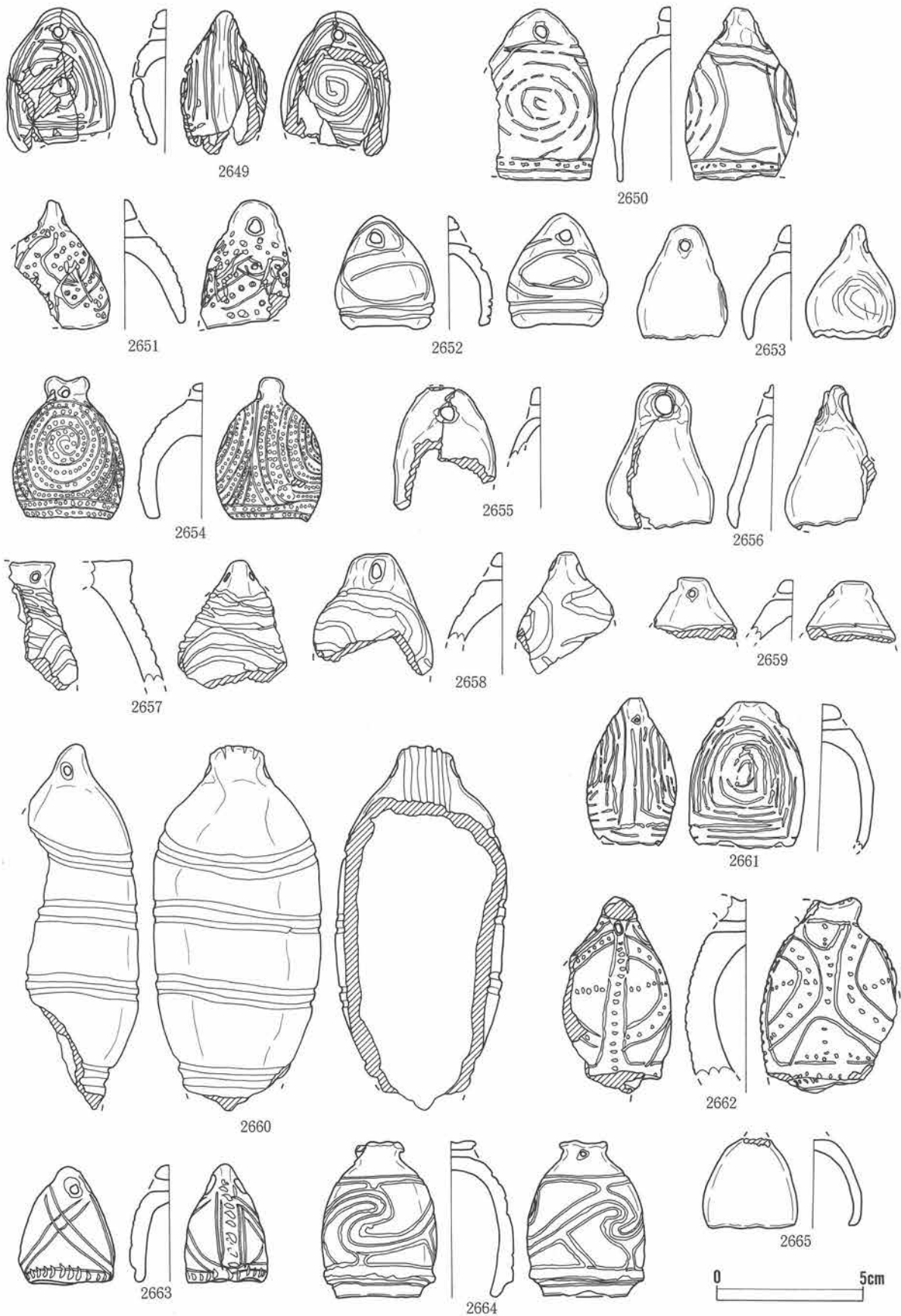
第317図 遺構外土製品21 (西部捨て場・表採) 土偶



第318図 遺構外土製品22 (東部・西部捨て場・表採) 動物形土製品、耳飾り、飾り玉



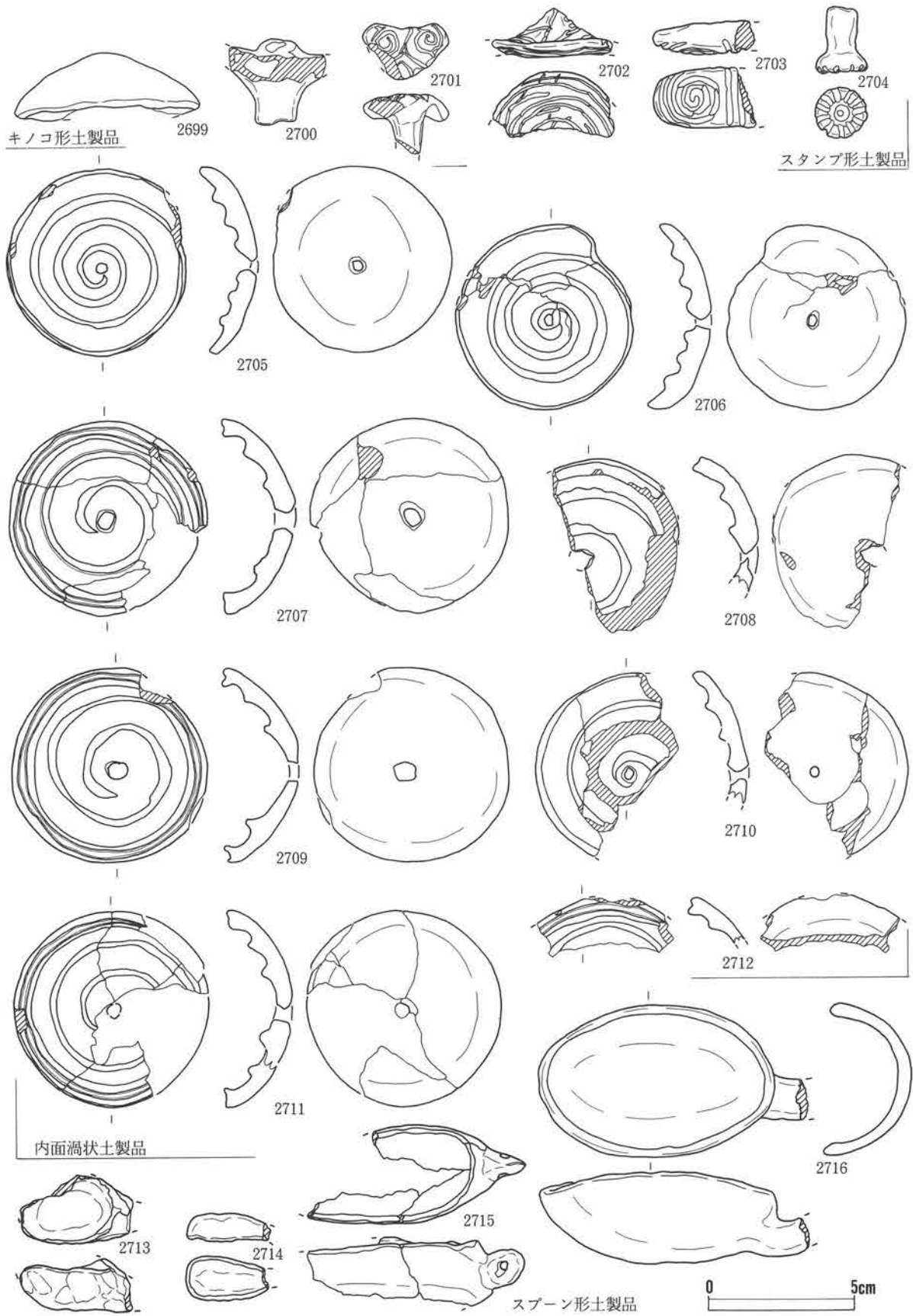
第319図 遺構外土製品23 (東部・西部捨て場・表採) 飾り玉、ペンダント、鐸形土製品



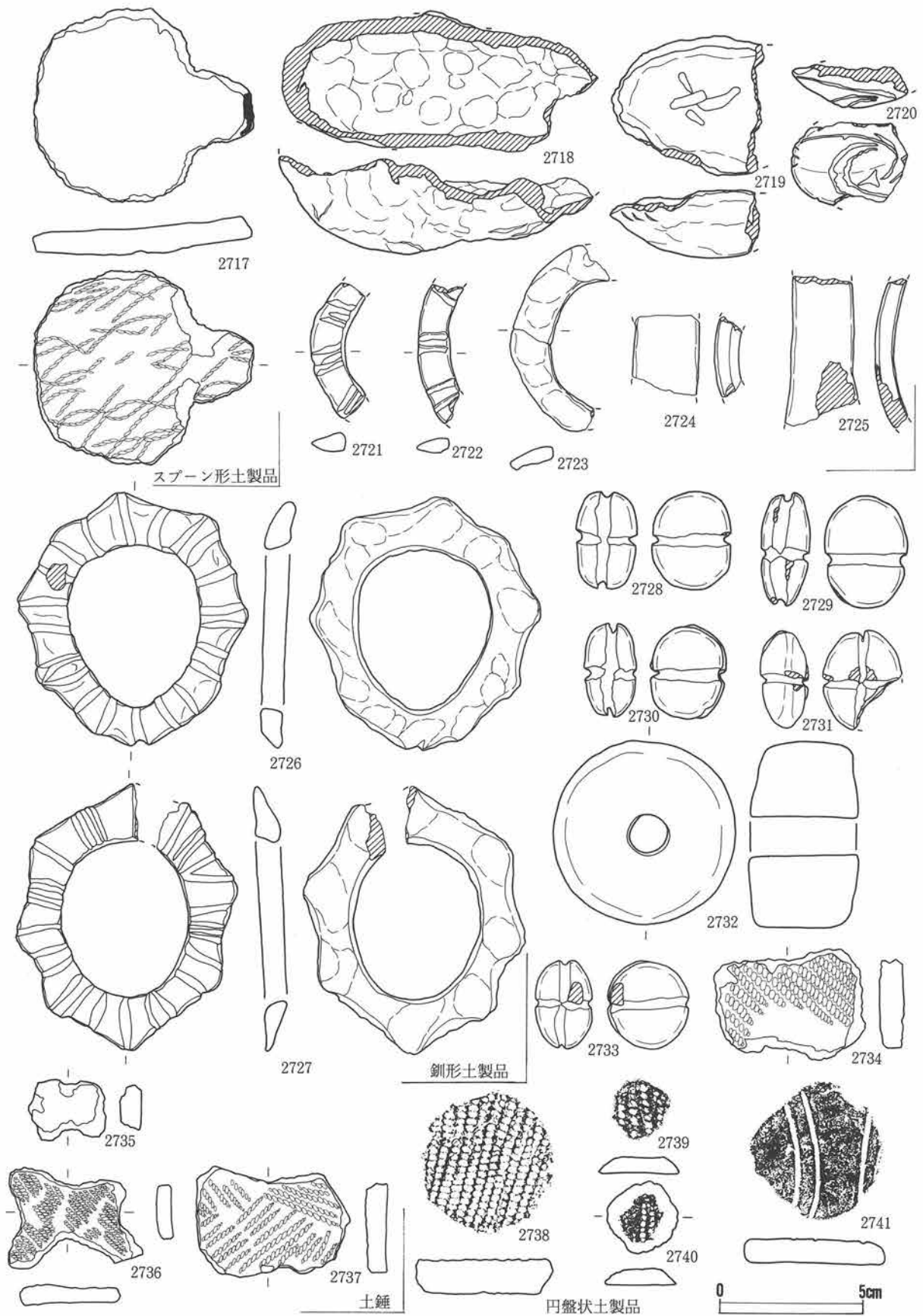
第320図 遺構外土製品24（東部捨て場）鐸形土製品



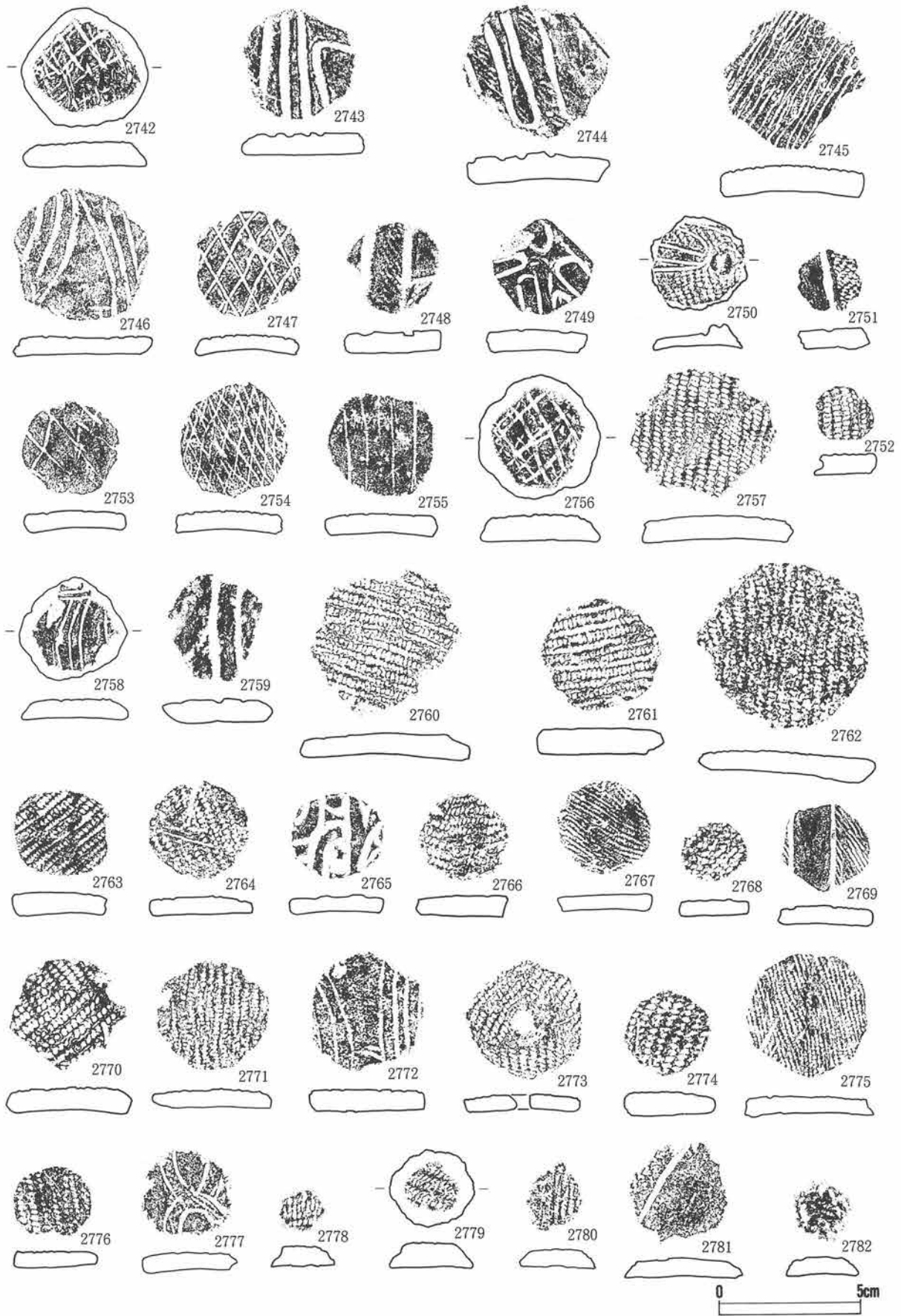
第321図 遺構外土製品25 (東部・西部捨て場) 鐸形土製品、分銅形土製品、土鈴、キノコ形土製品



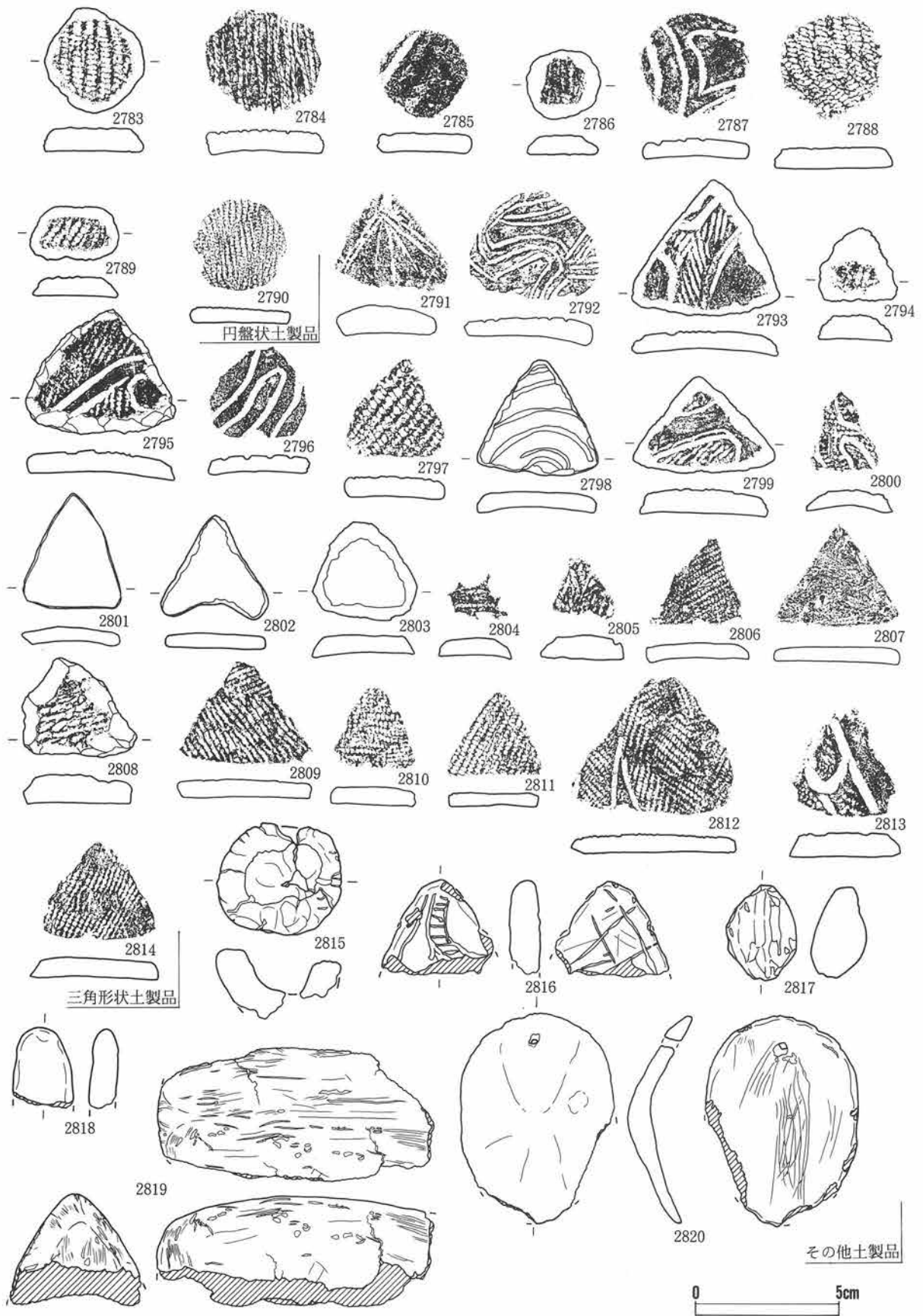
第322図 遺構外土製品26 (東部・西部捨て場) キノコ形土製品、スタンプ形土製品、内面渦状土製品、スプーン形土製品



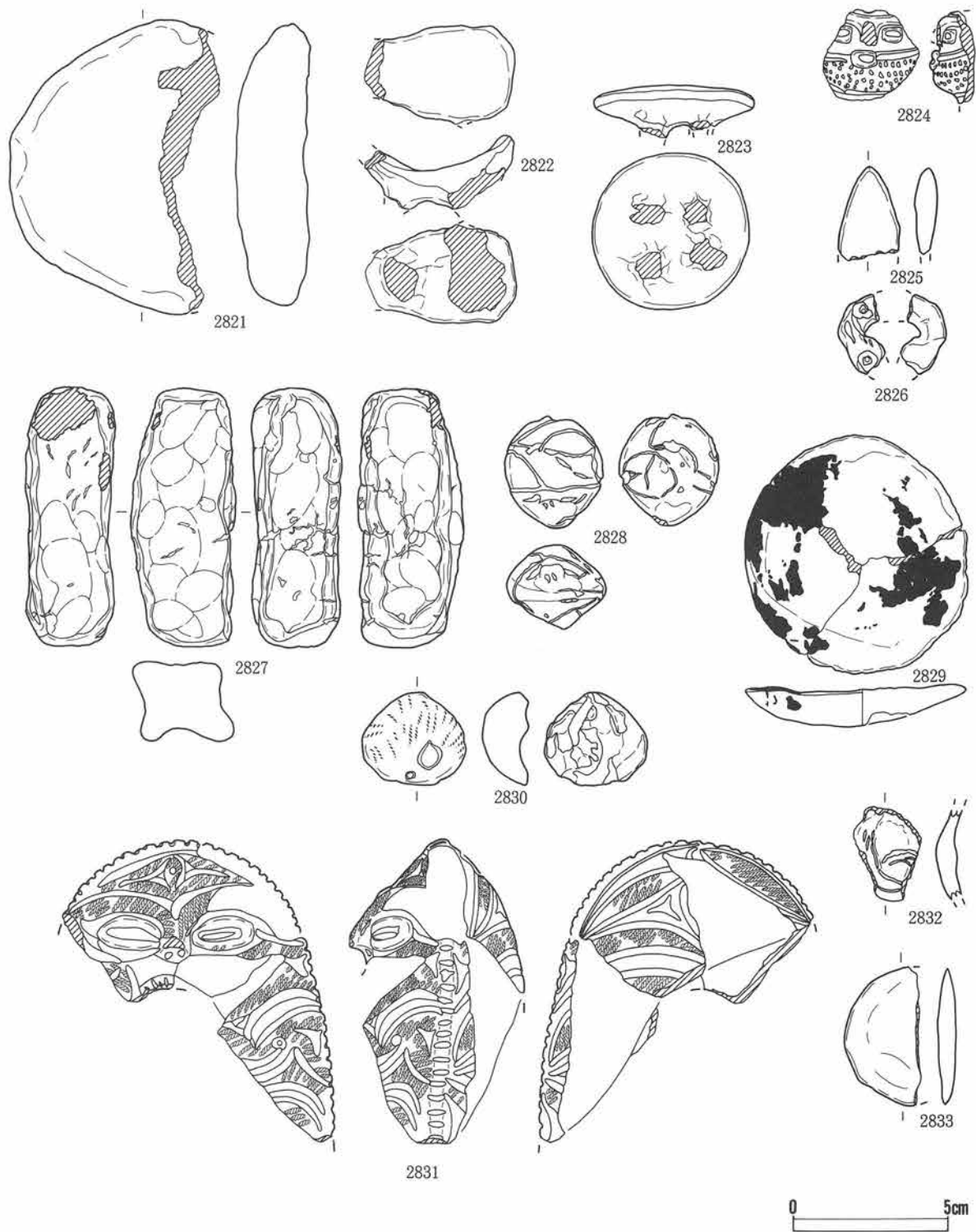
第323図 遺構外土製品27（東部・西部捨て場）スプーン形土製品、釧形土製品、土錘、円盤状土製品



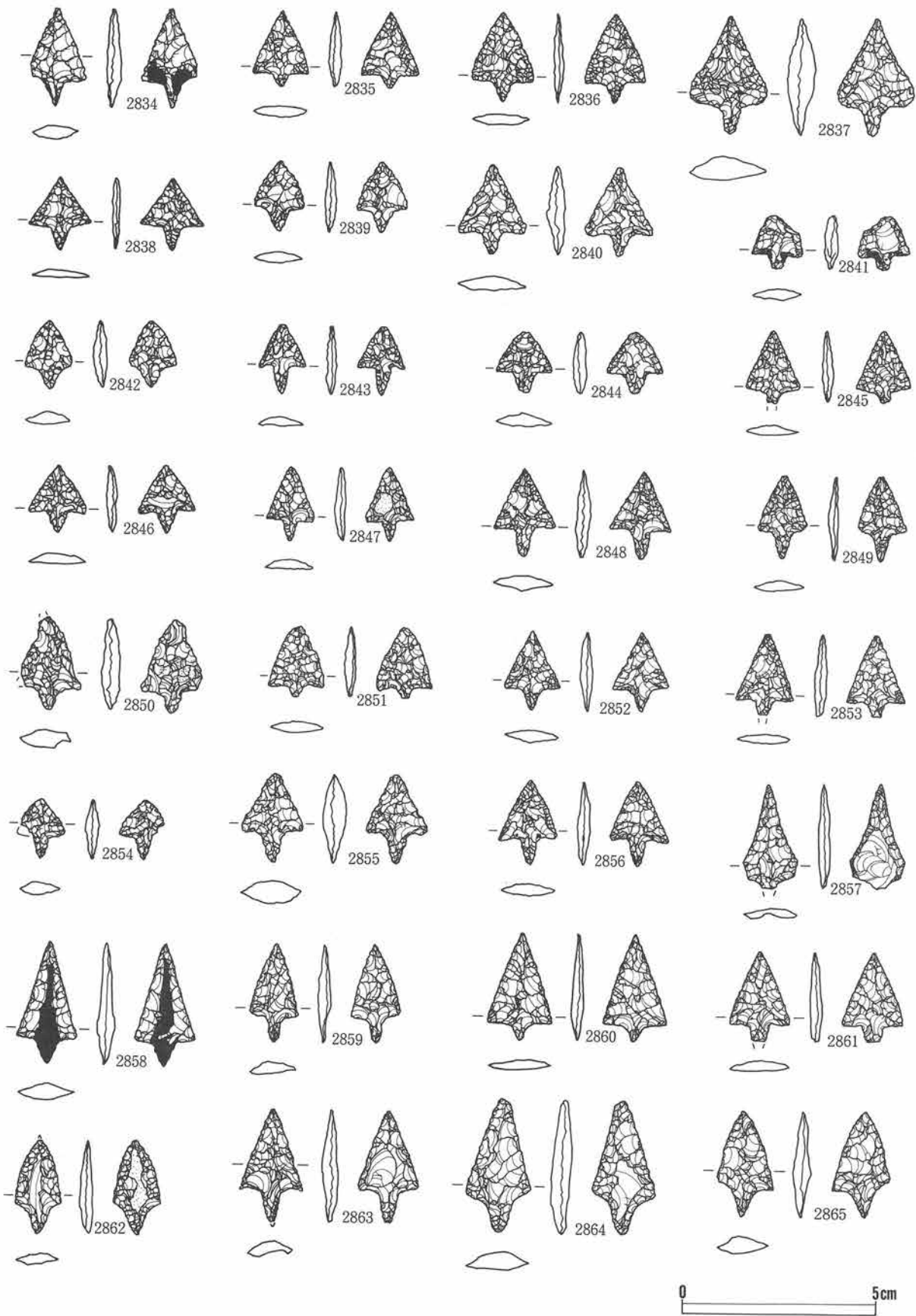
第324図 遺構外土製品28（東部・西部捨て場）円盤状土製品



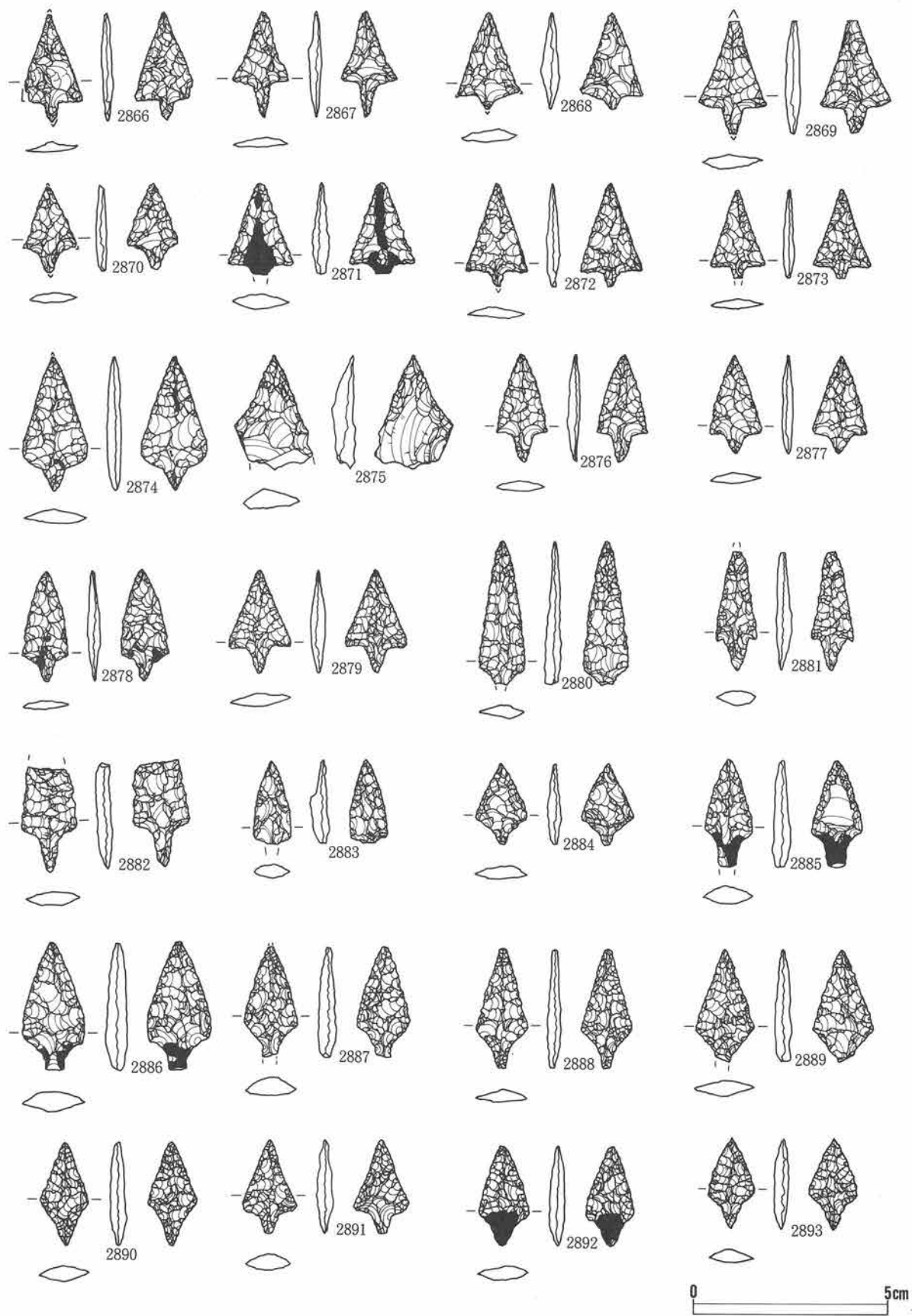
第325図 遺構外土製品29 (東部・西部捨て場・表探) 円盤状土製品、三角形状土製品、その他土製品



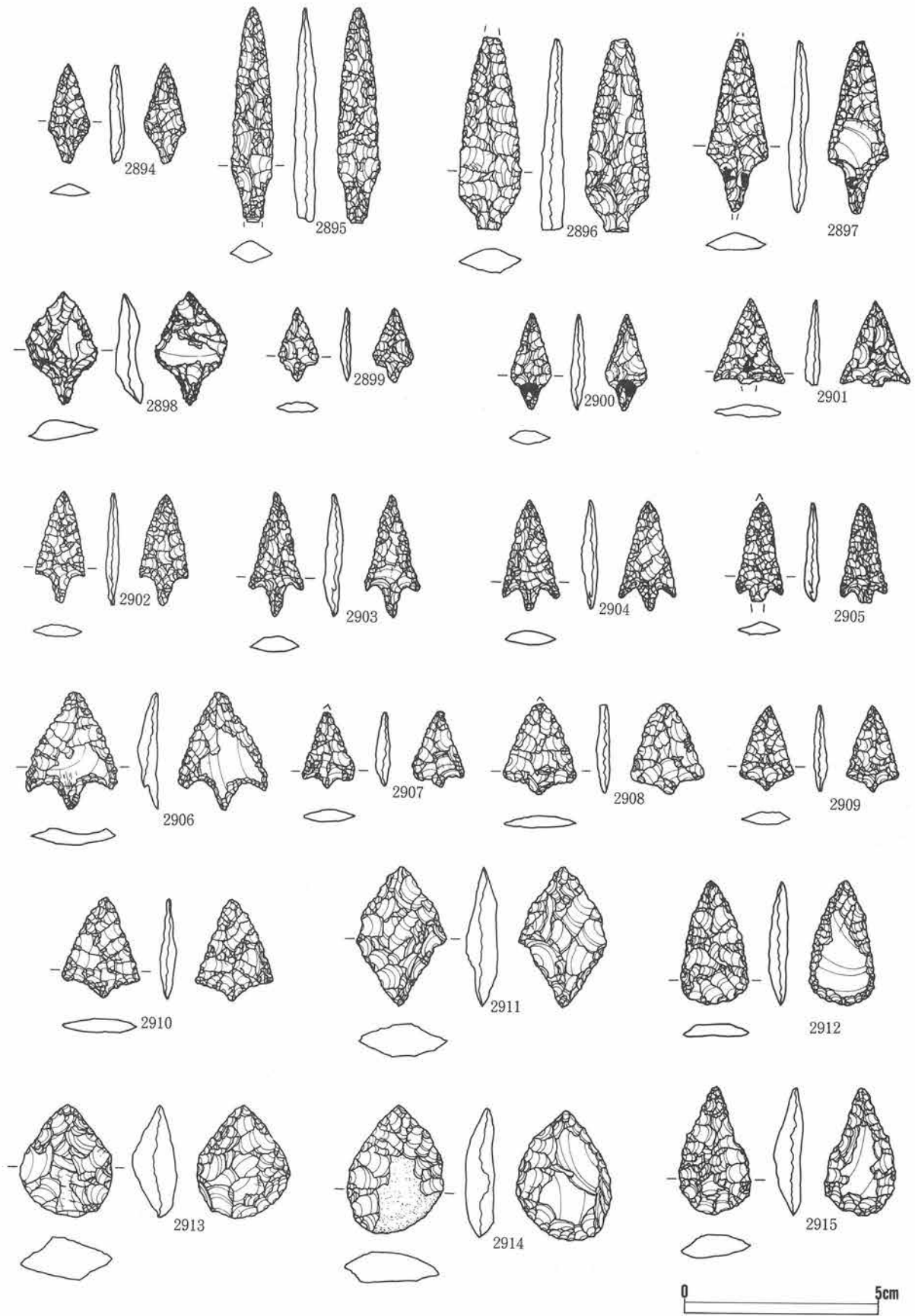
第326図 遺構外土製品30（東部・西部捨て場）その他土製品



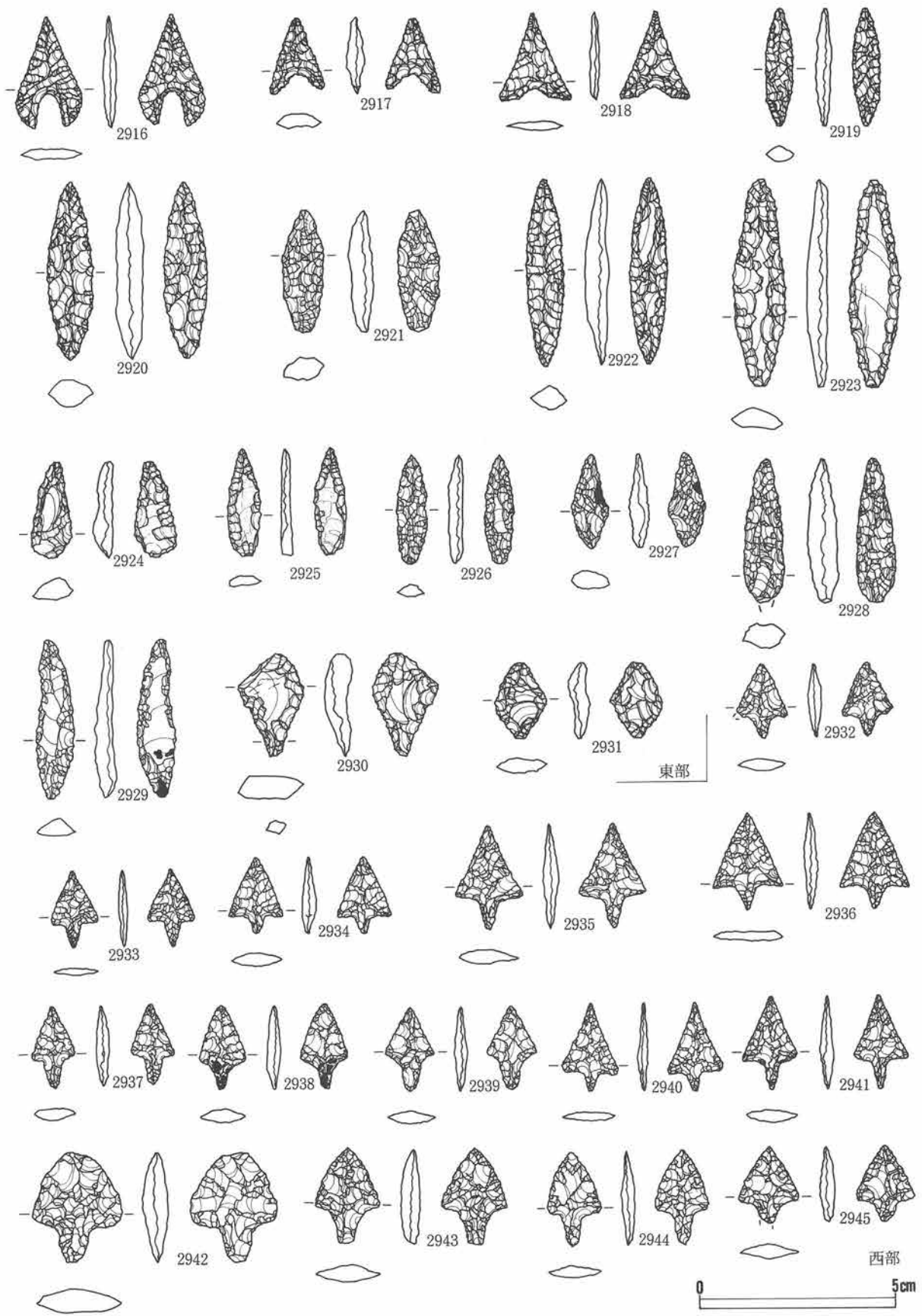
第327図 遺構外石器 1 (東部捨て場) 石鏃



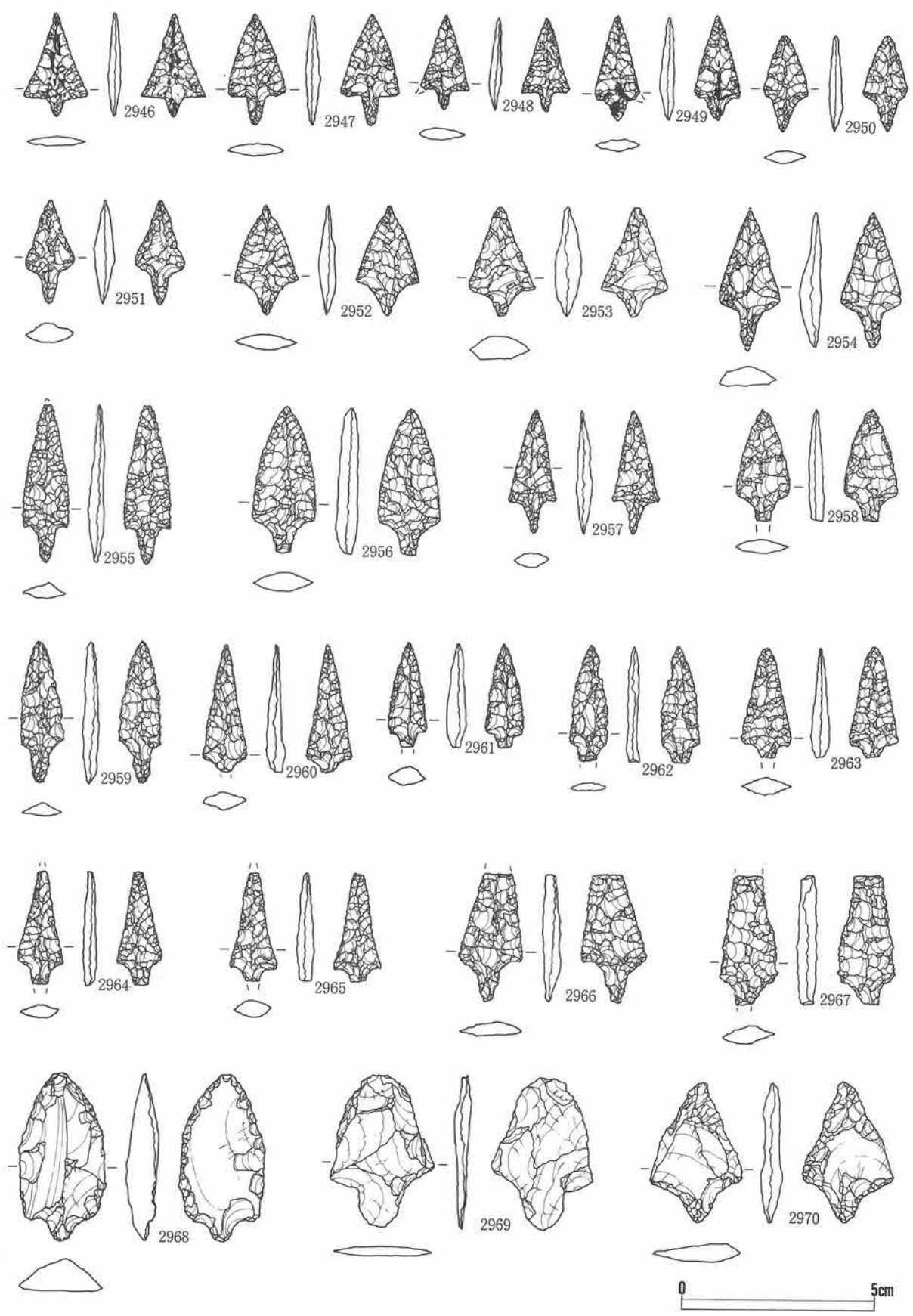
第328図 遺構外石器 2 (東部捨て場) 石鏃



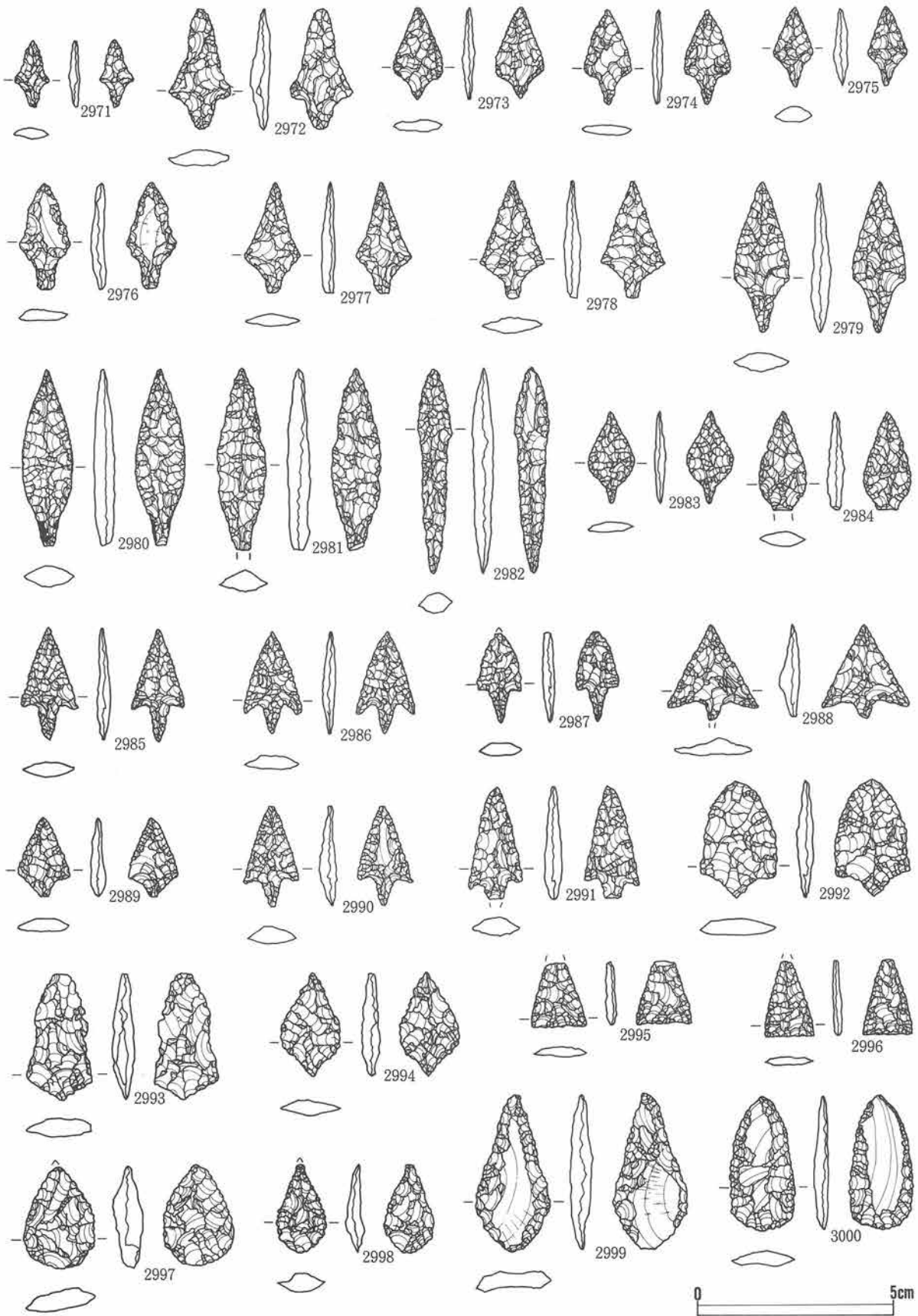
第329図 遺構外石器 3 (東部捨て場) 石鏃



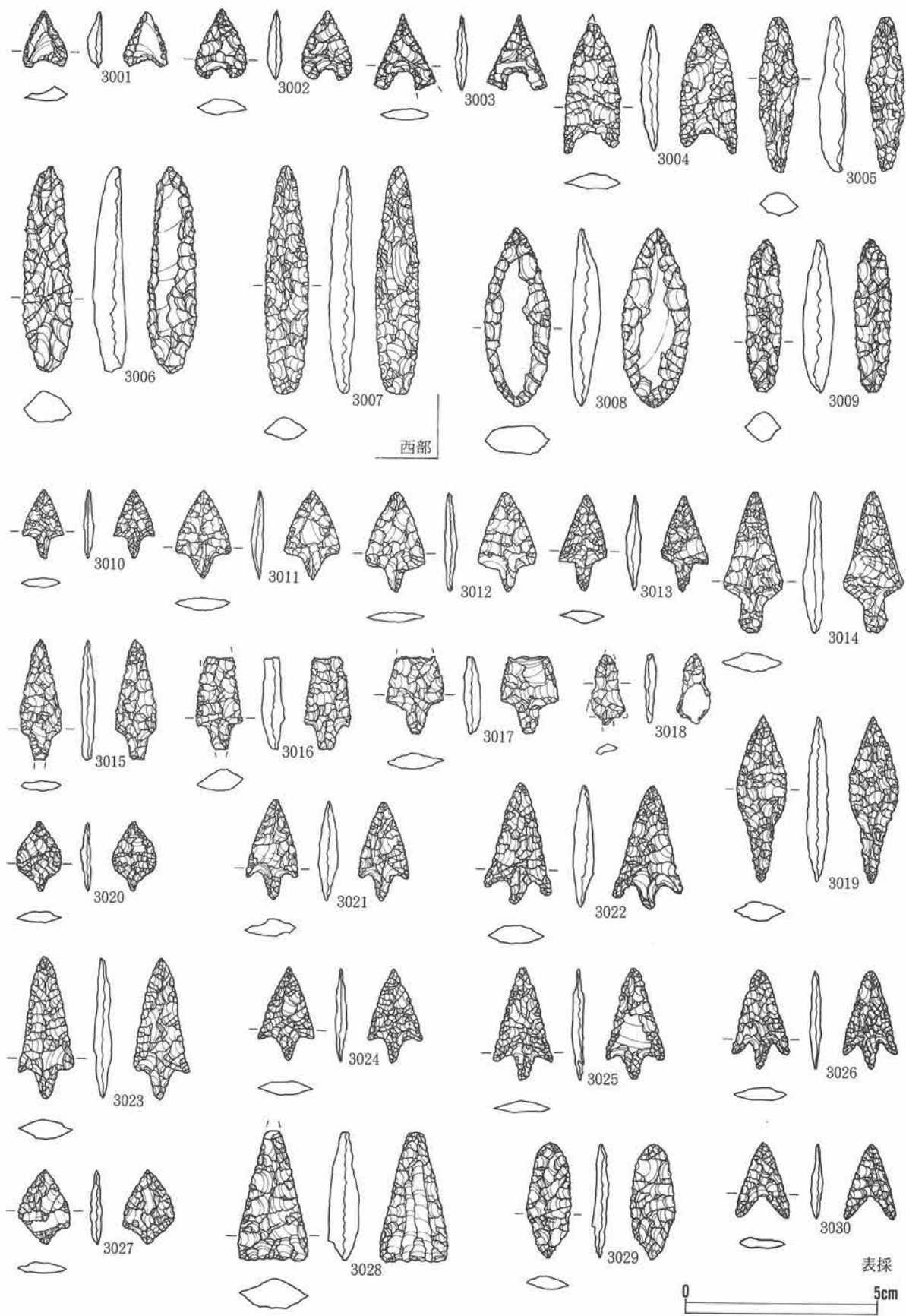
第330図 遺構外石器4（東部・西部捨て場）石鏃



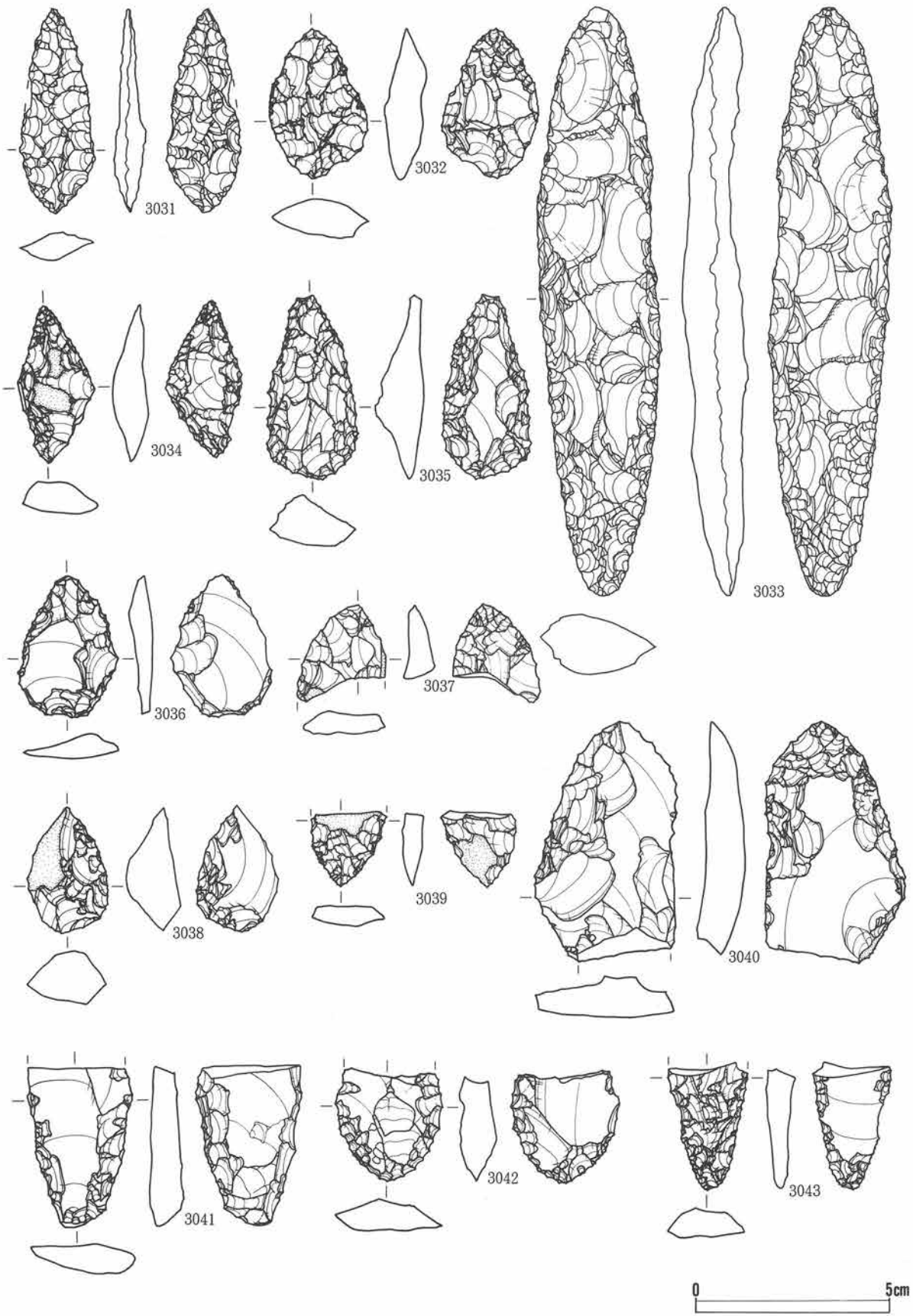
第331図 遺構外石器 5 (西部捨て場) 石鏃



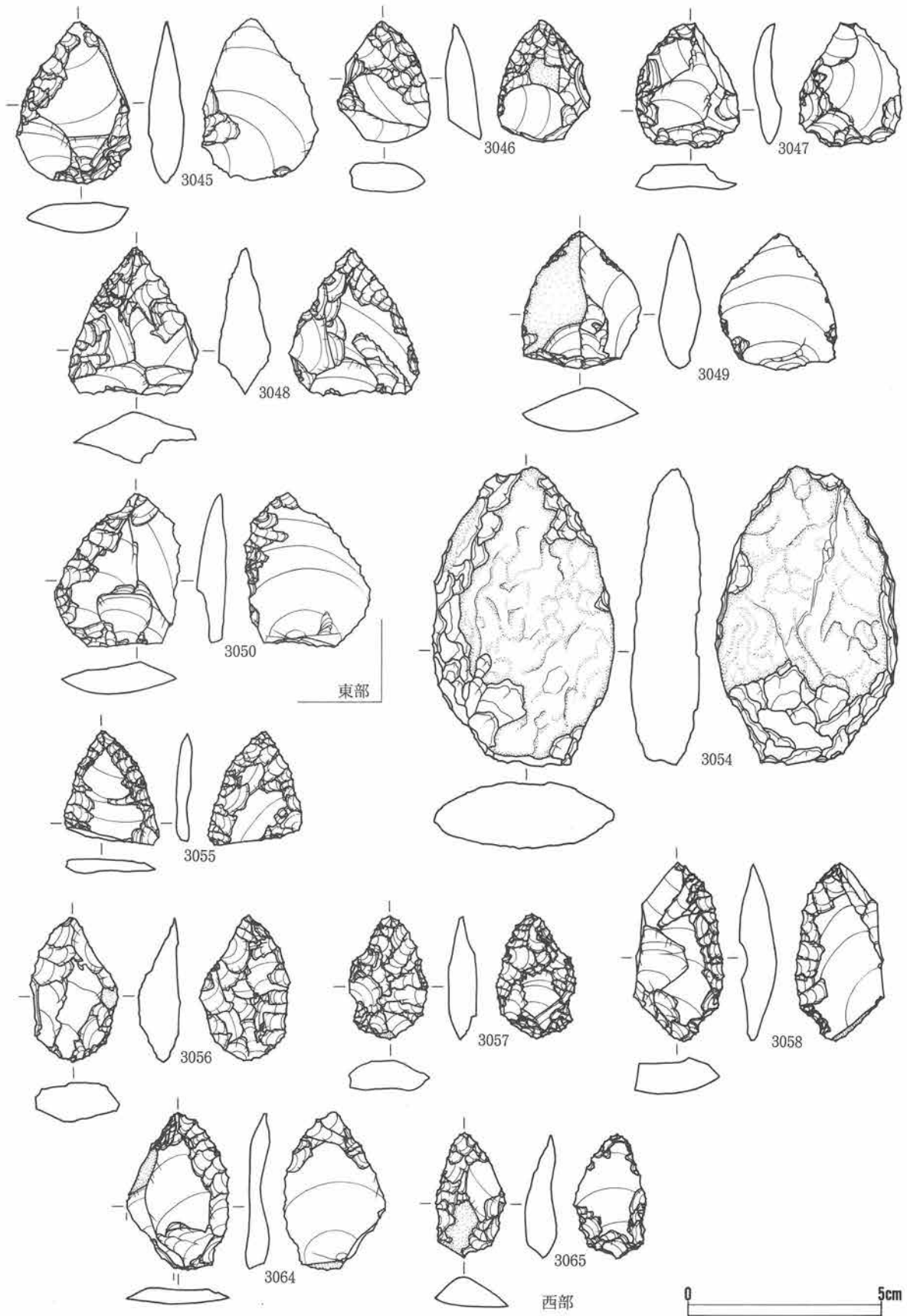
第332図 遺構外石器 6 (西部捨て場) 石鏃



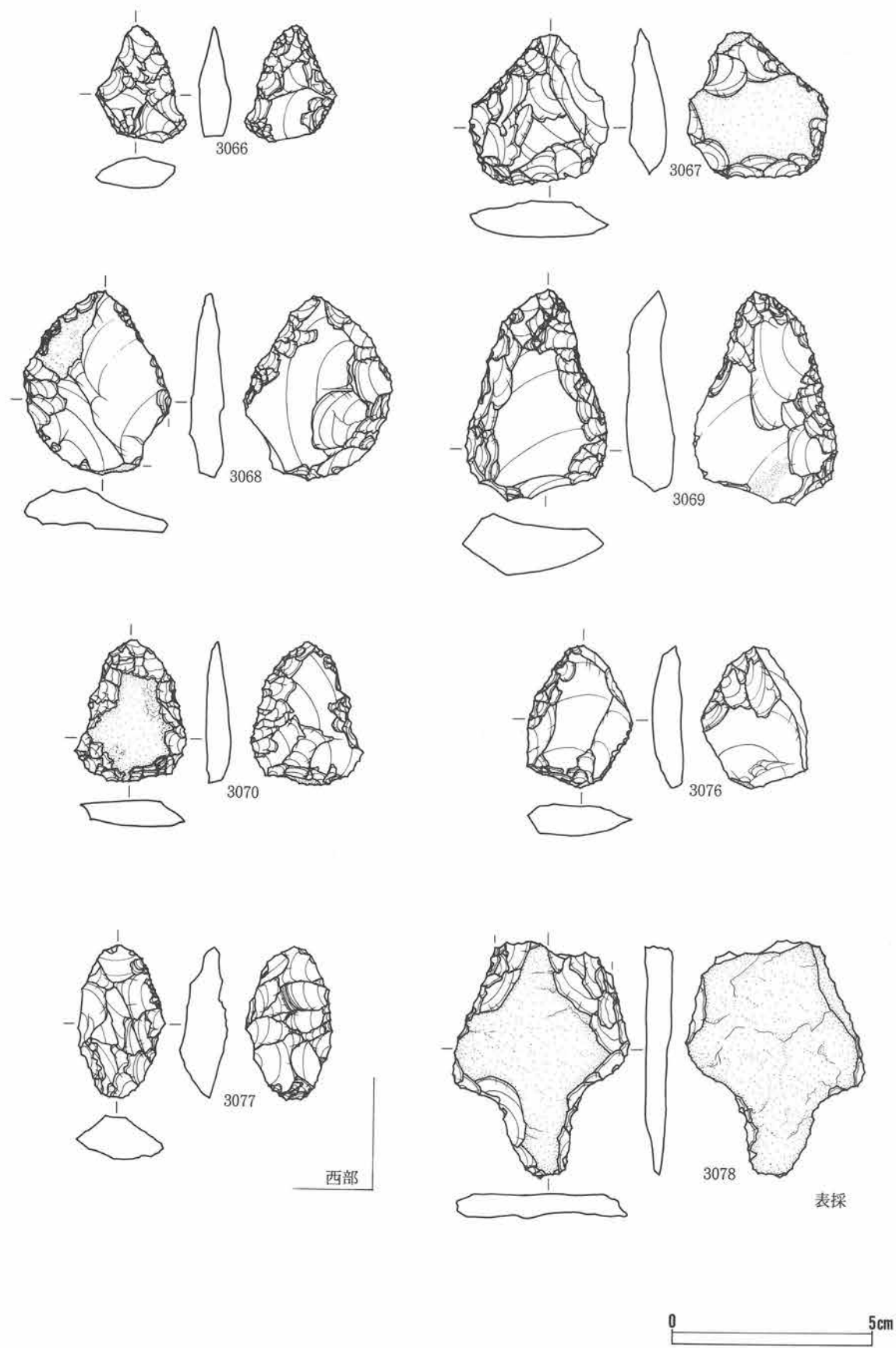
第333図 遺構外石器7 (西部捨て場・表採) 石鏃



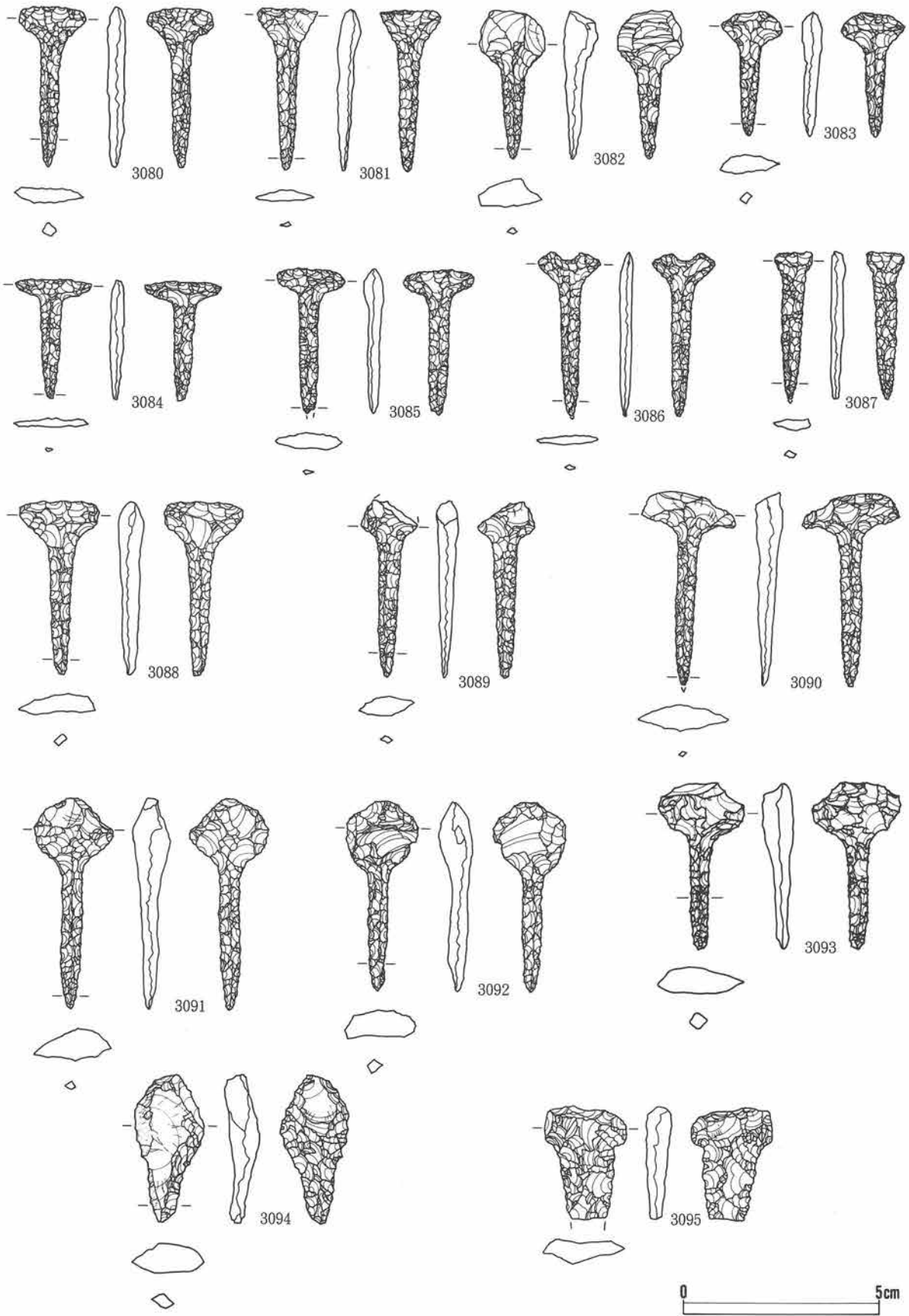
第334図 遺構外石器 8 (東部捨て場) 尖頭器



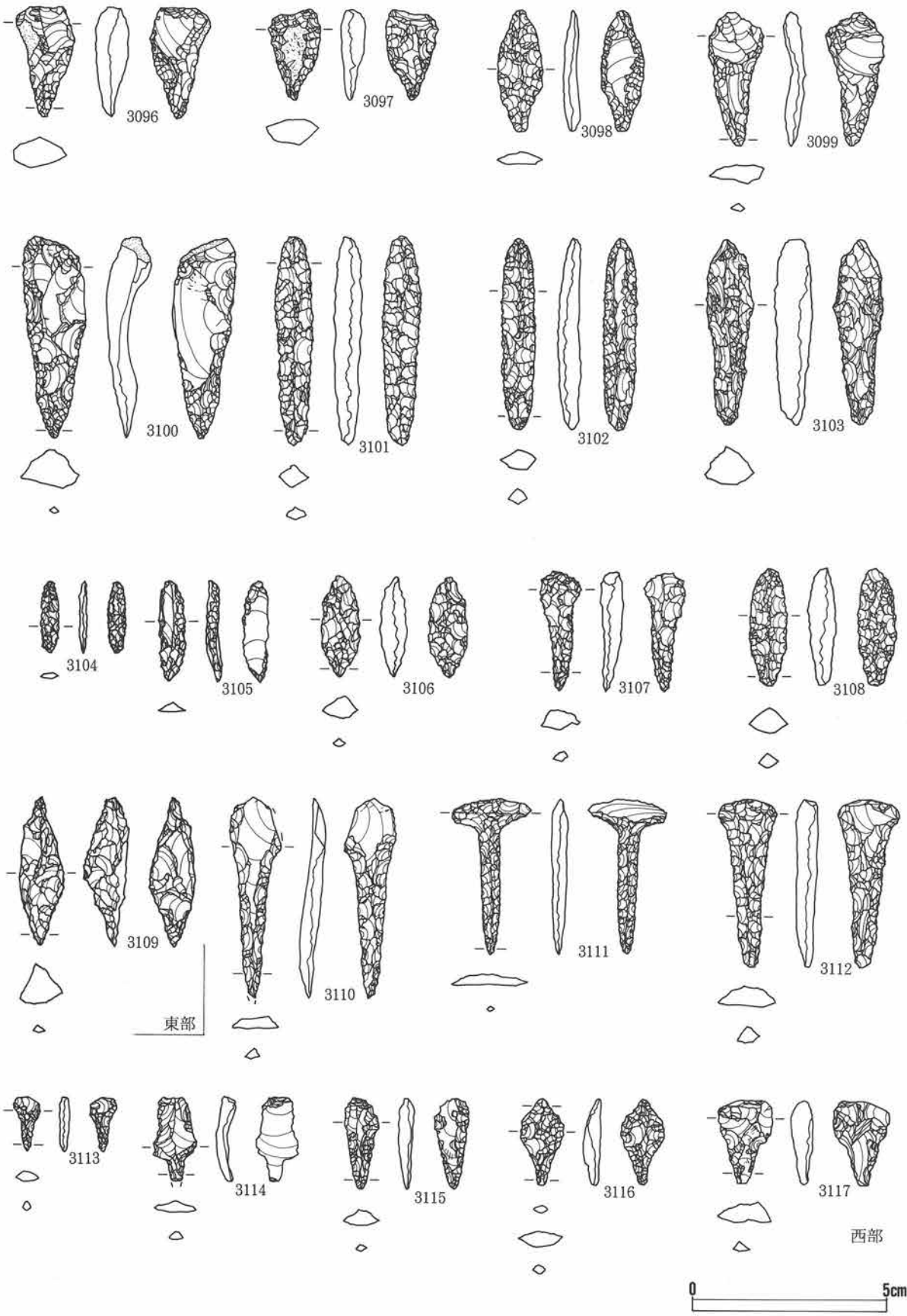
第335図 遺構外石器9 (東部・西部捨て場) 尖頭器



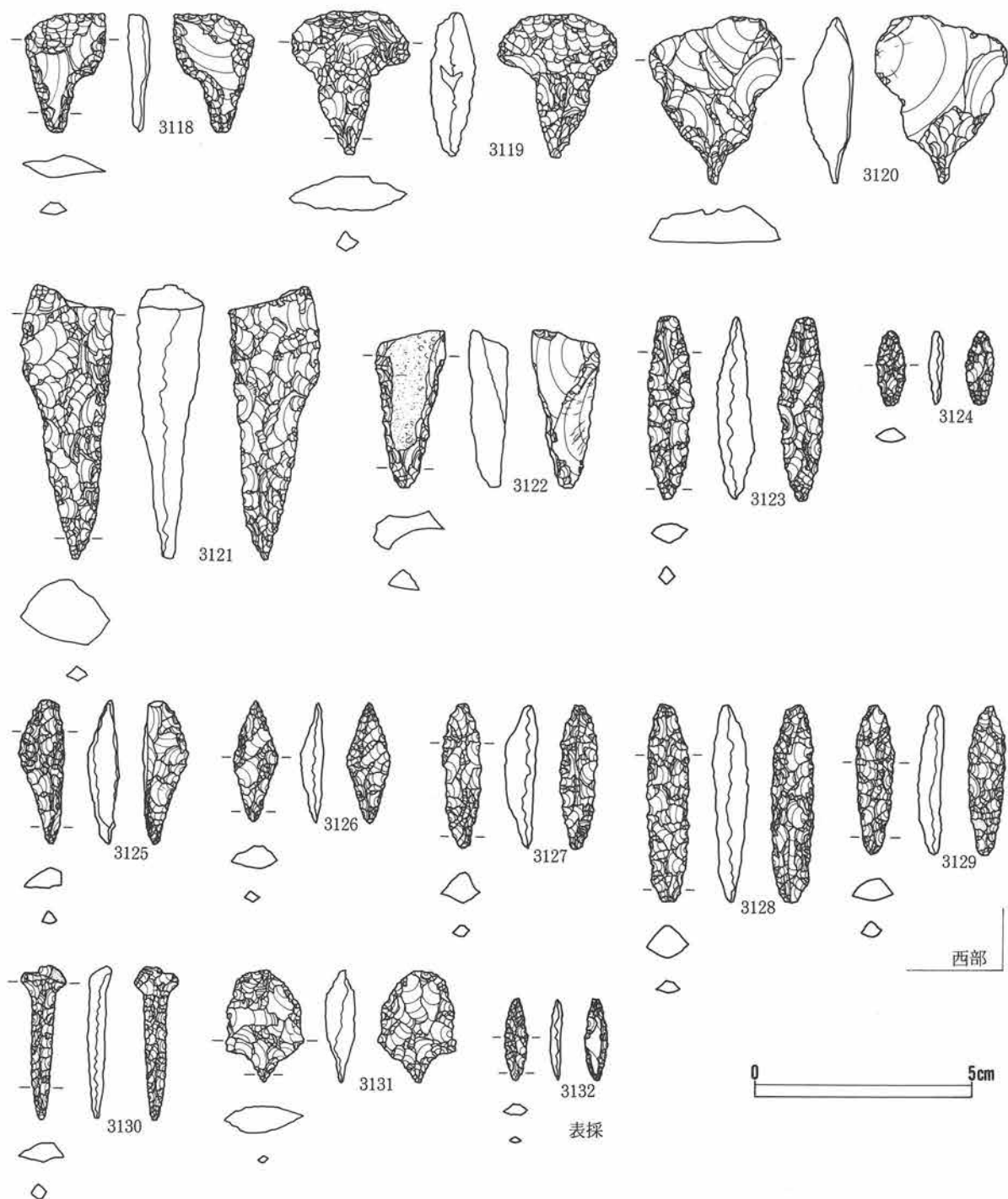
第336図 遺構外石器10 (西部捨て場・表採) 尖頭器



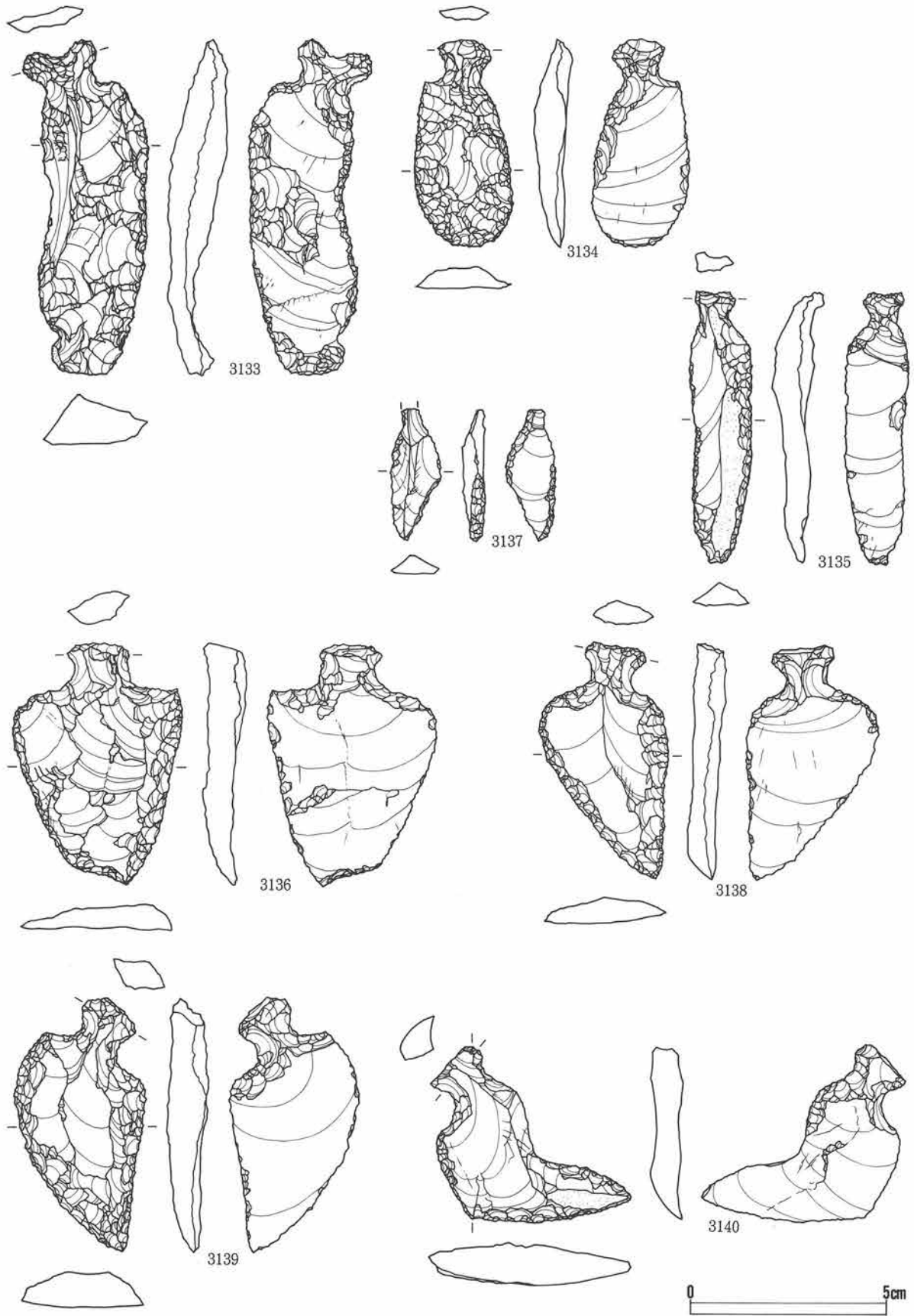
第337図 遺構外石器11（東部捨て場）石錐



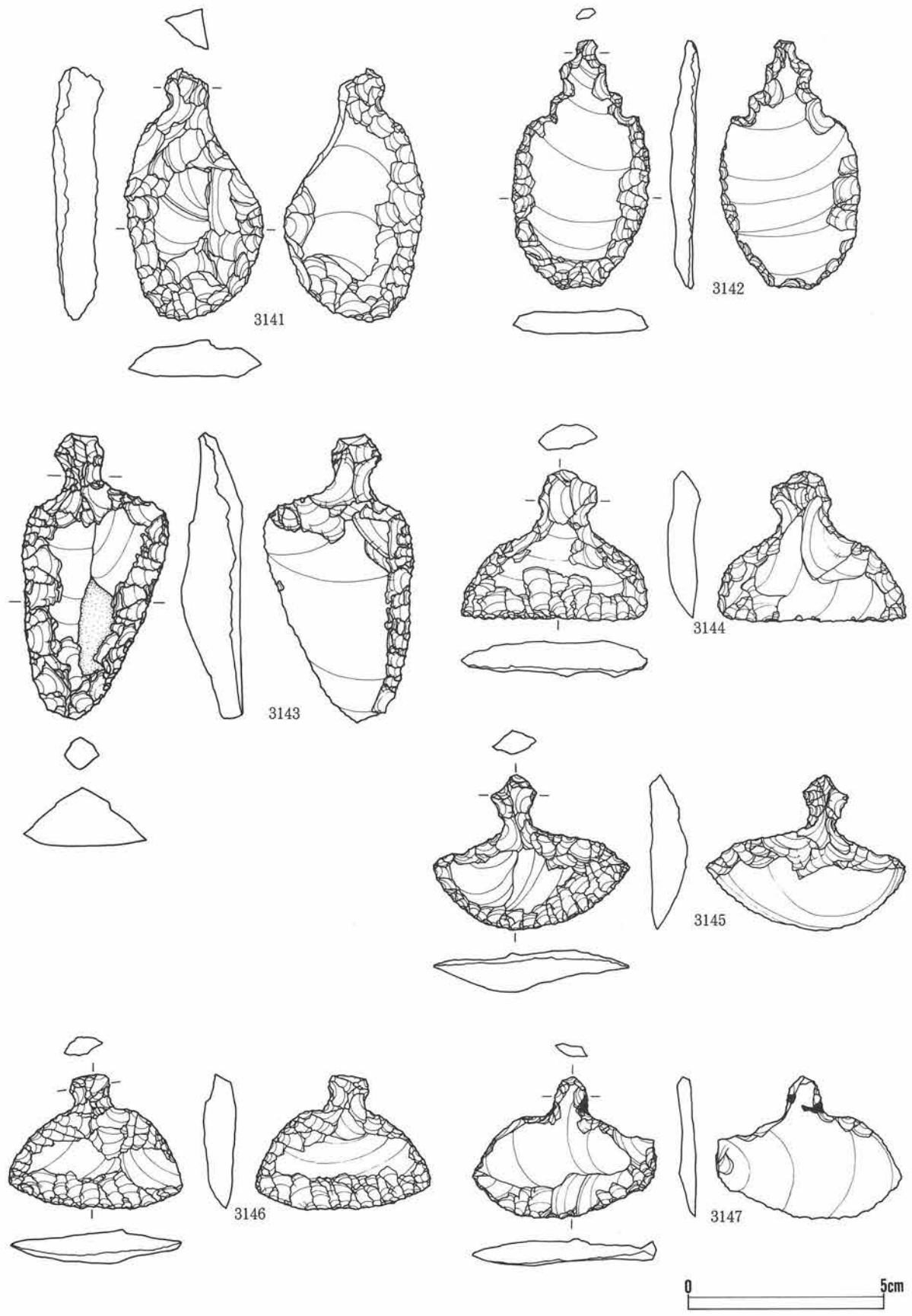
第338図 遺構外石器12 (東部・西部捨て場) 石錐



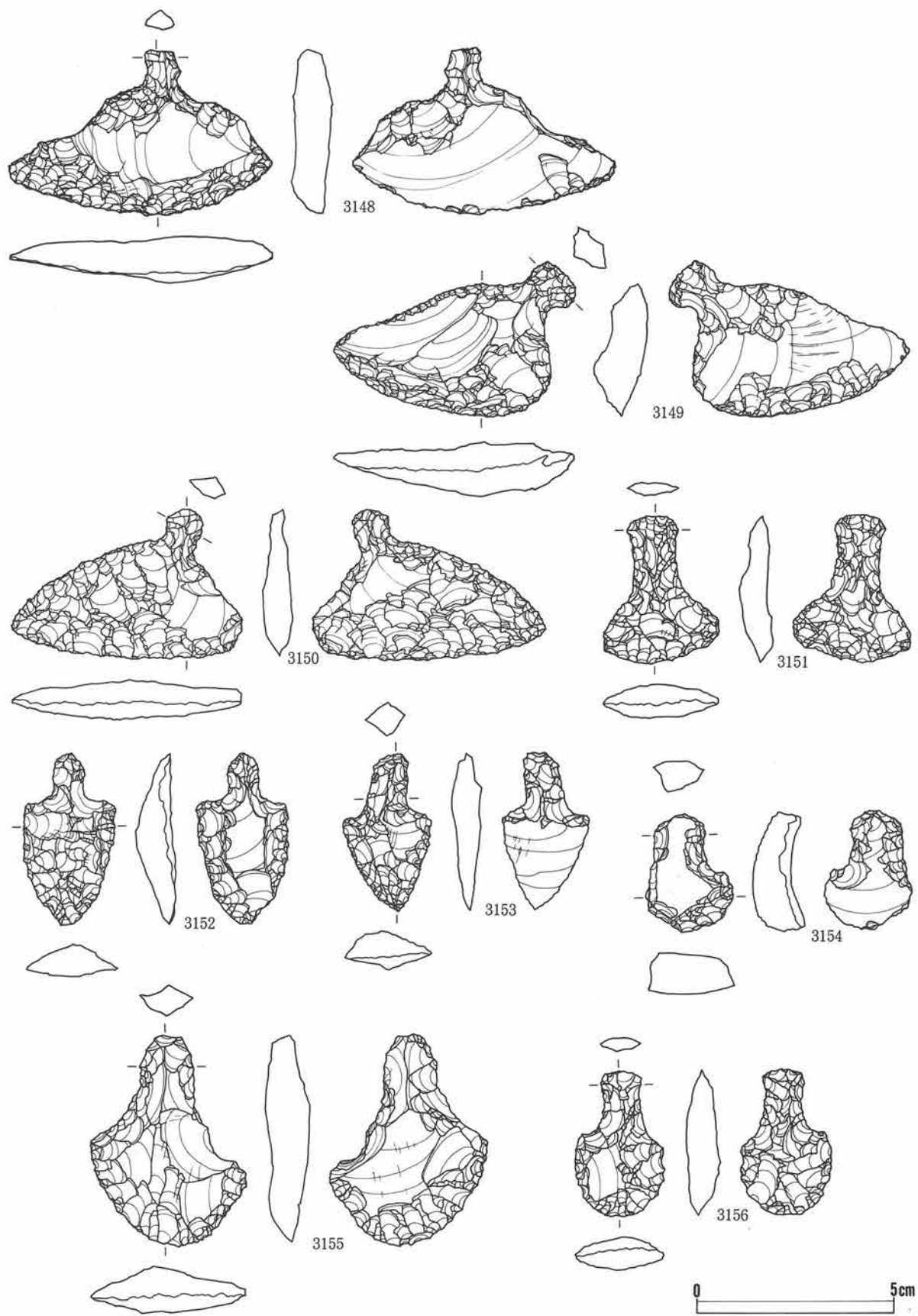
第339図 遺構外石器13 (西部捨て場・表採) 石錐



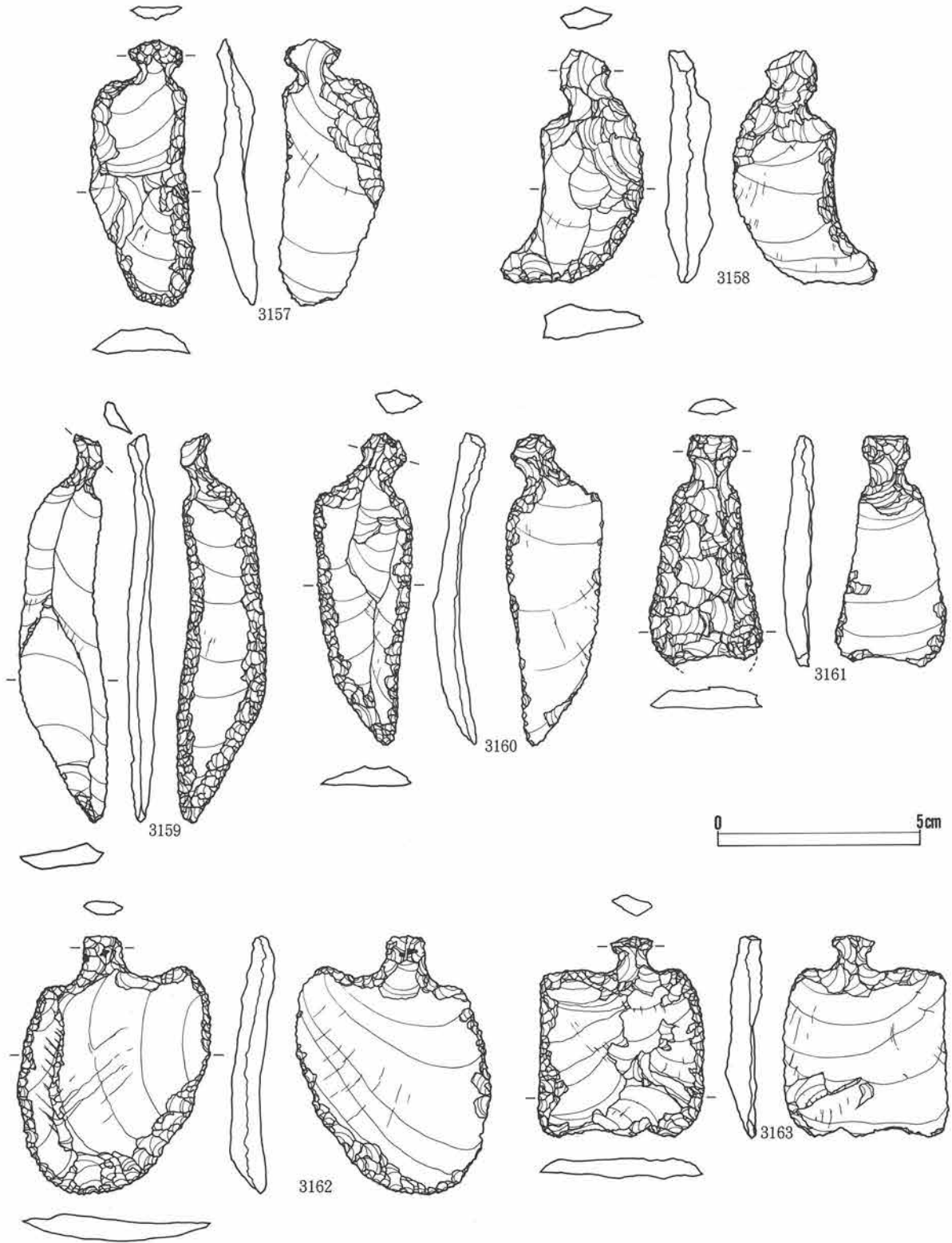
第340図 遺構外石器14（東部捨て場）石匙



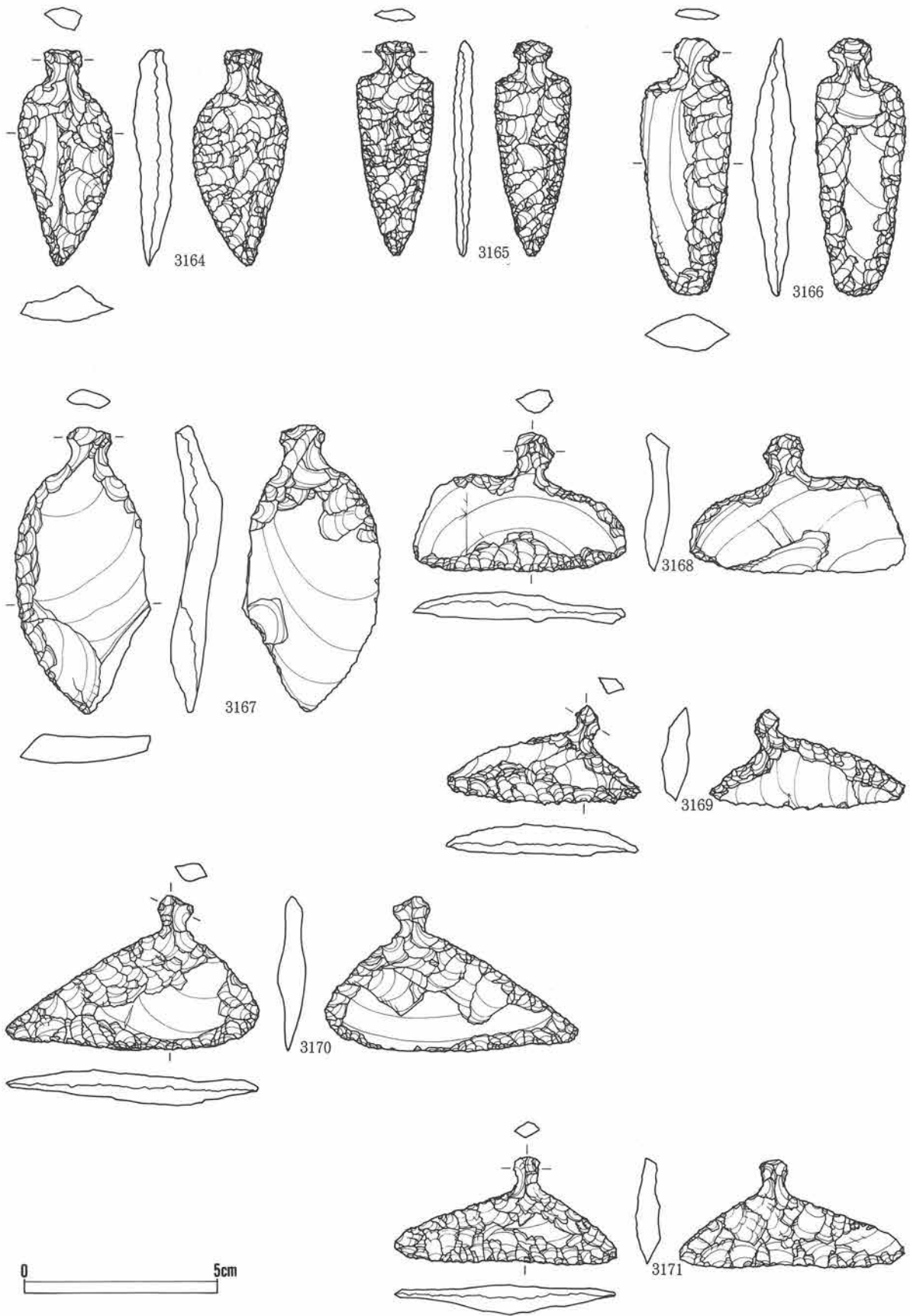
第341図 遺構外石器15（東部捨て場）石匙



第342図 遺構外石器16（東部捨て場）石匙



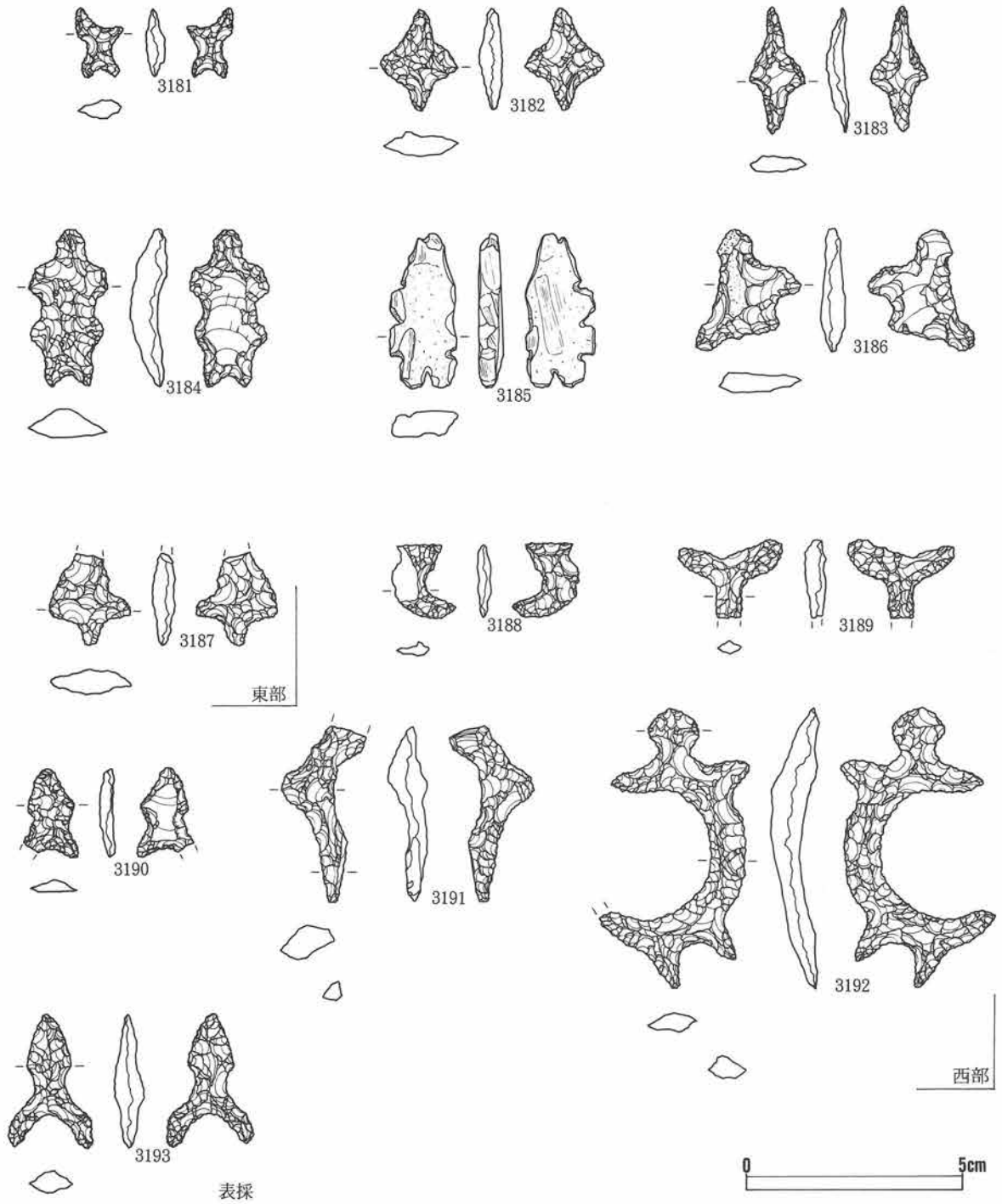
第343図 遺構外石器17 (西部捨て場) 石匙



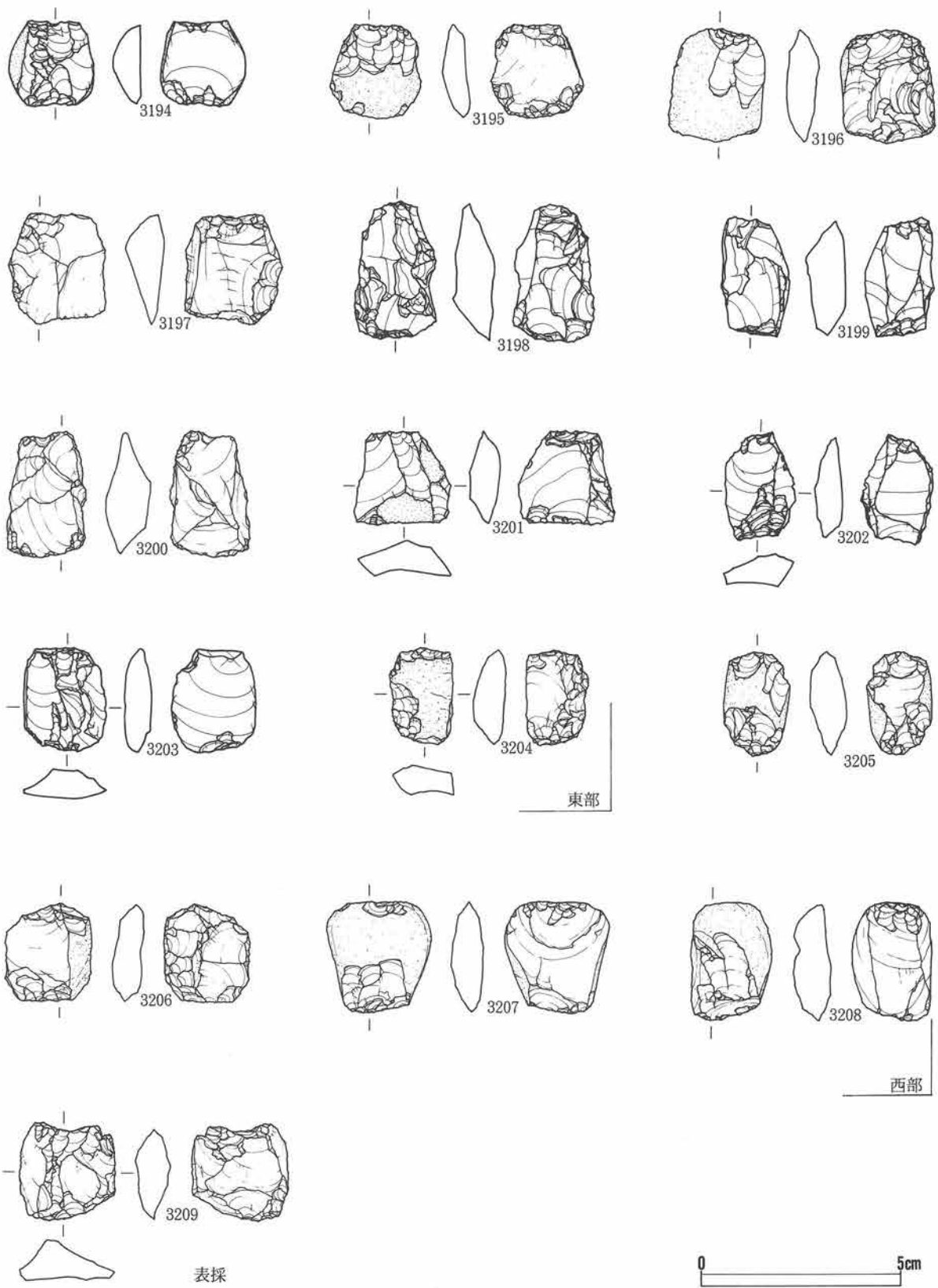
第344図 遺構外石器18 (西部捨て場) 石匙



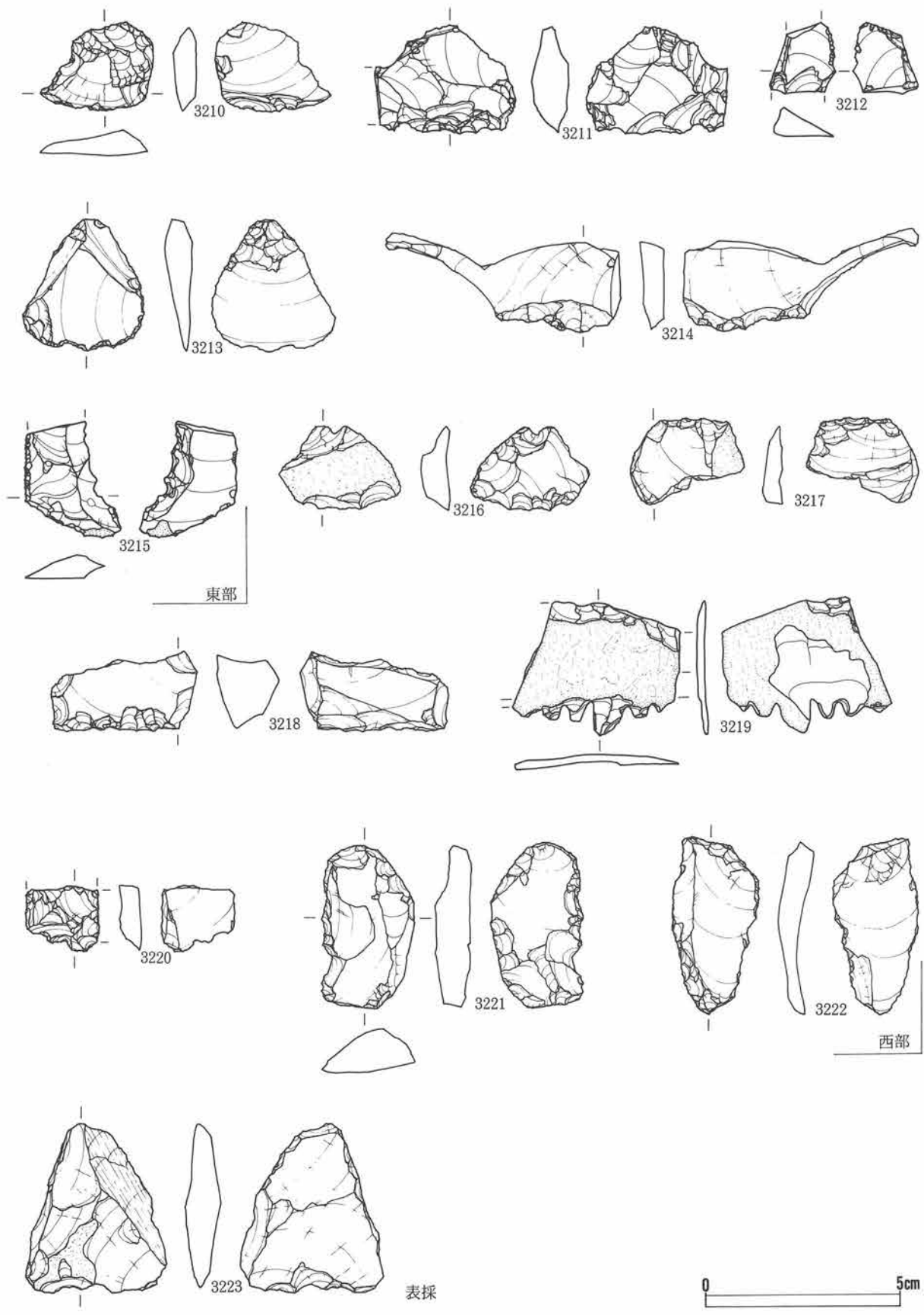
第345図 遺構外石器19 (西部捨て場・表採) 石匙



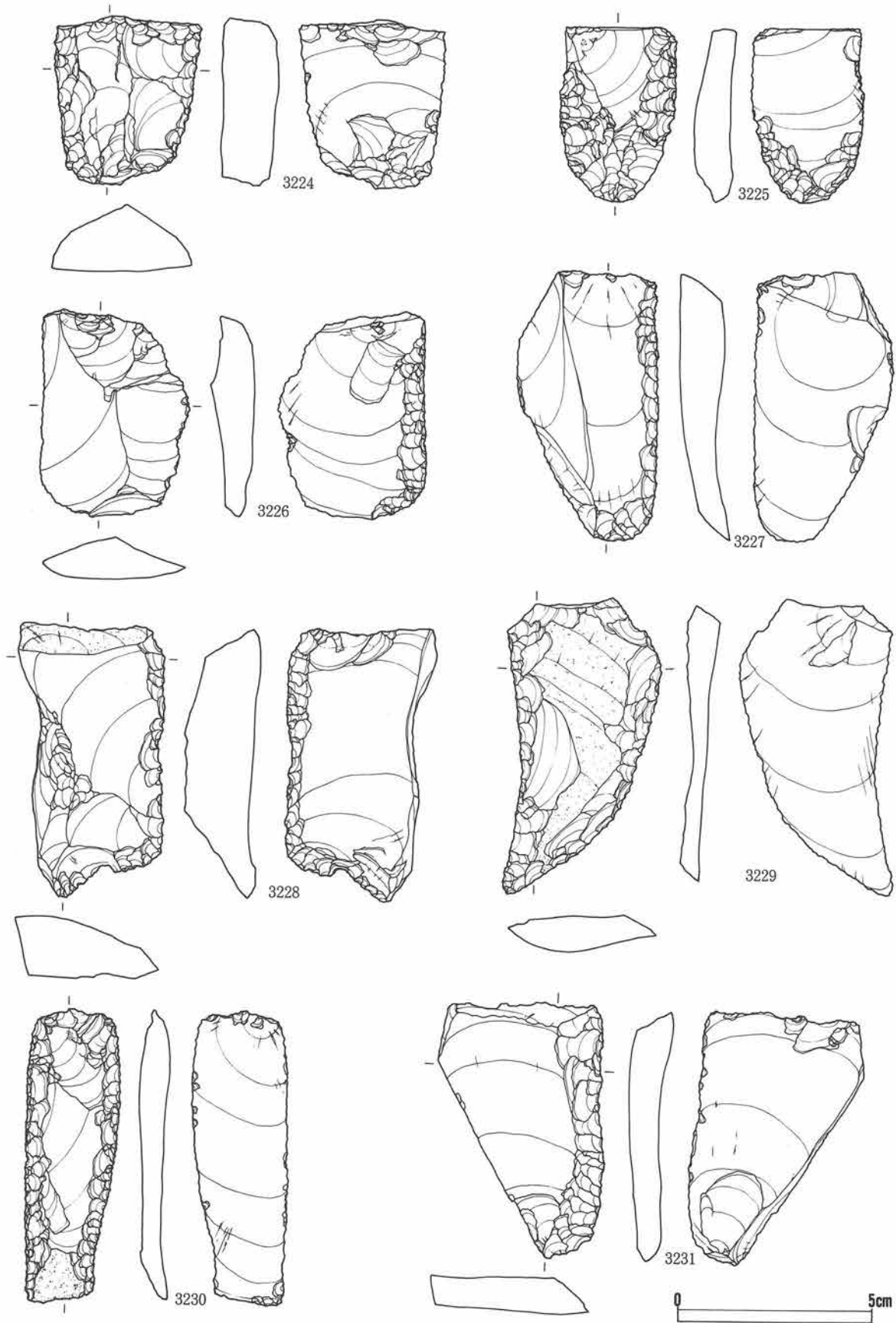
第346図 遺構外石器20（東部・西部捨て場・表採）異形石器



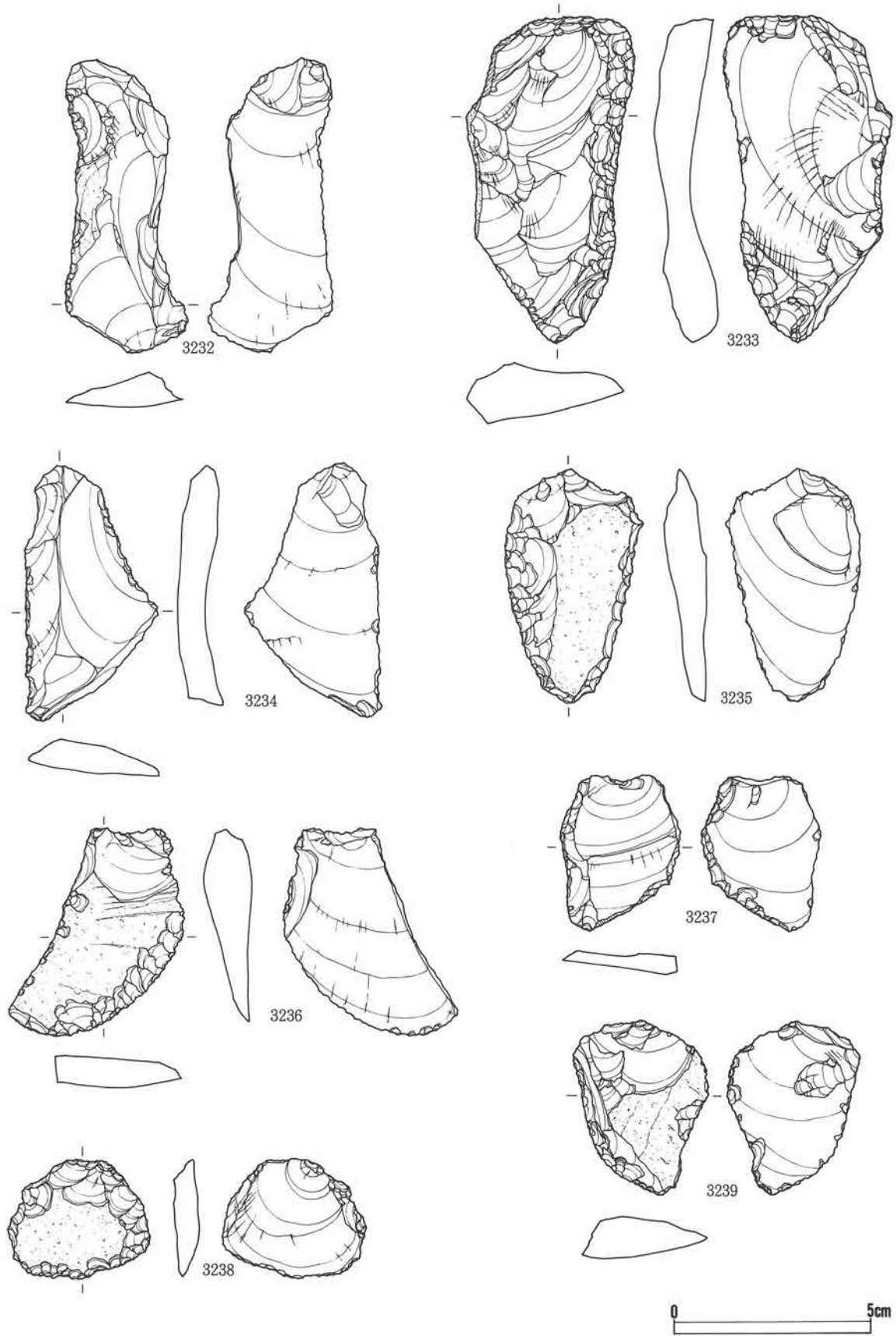
第347図 遺構外石器21（東部・西部捨て場・表採）楔形石器



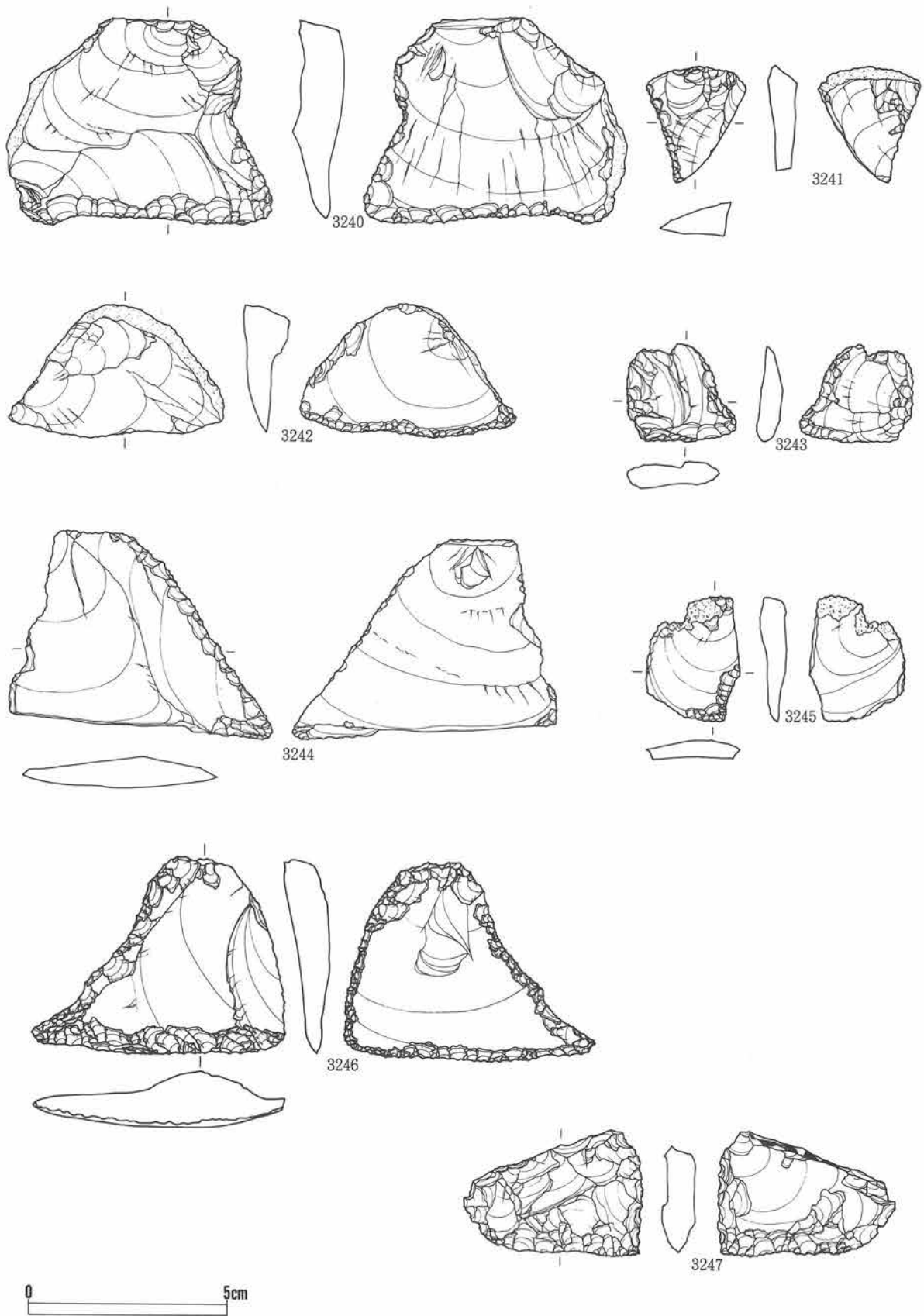
第348図 遺構外石器22 (東部・西部捨て場・表採) 鋸齒状石器



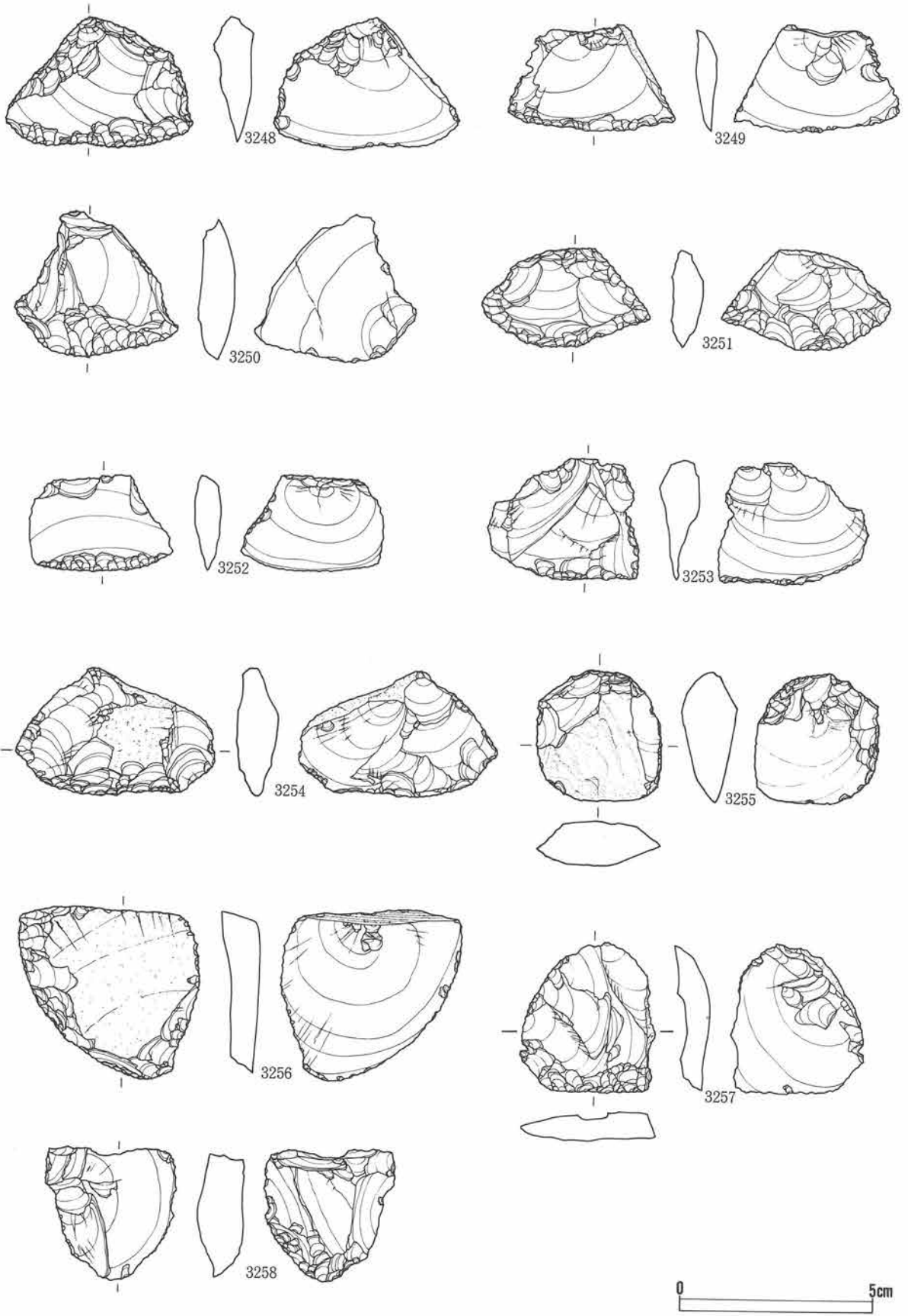
第349図 遺構外石器23 (東部捨て場) 削器



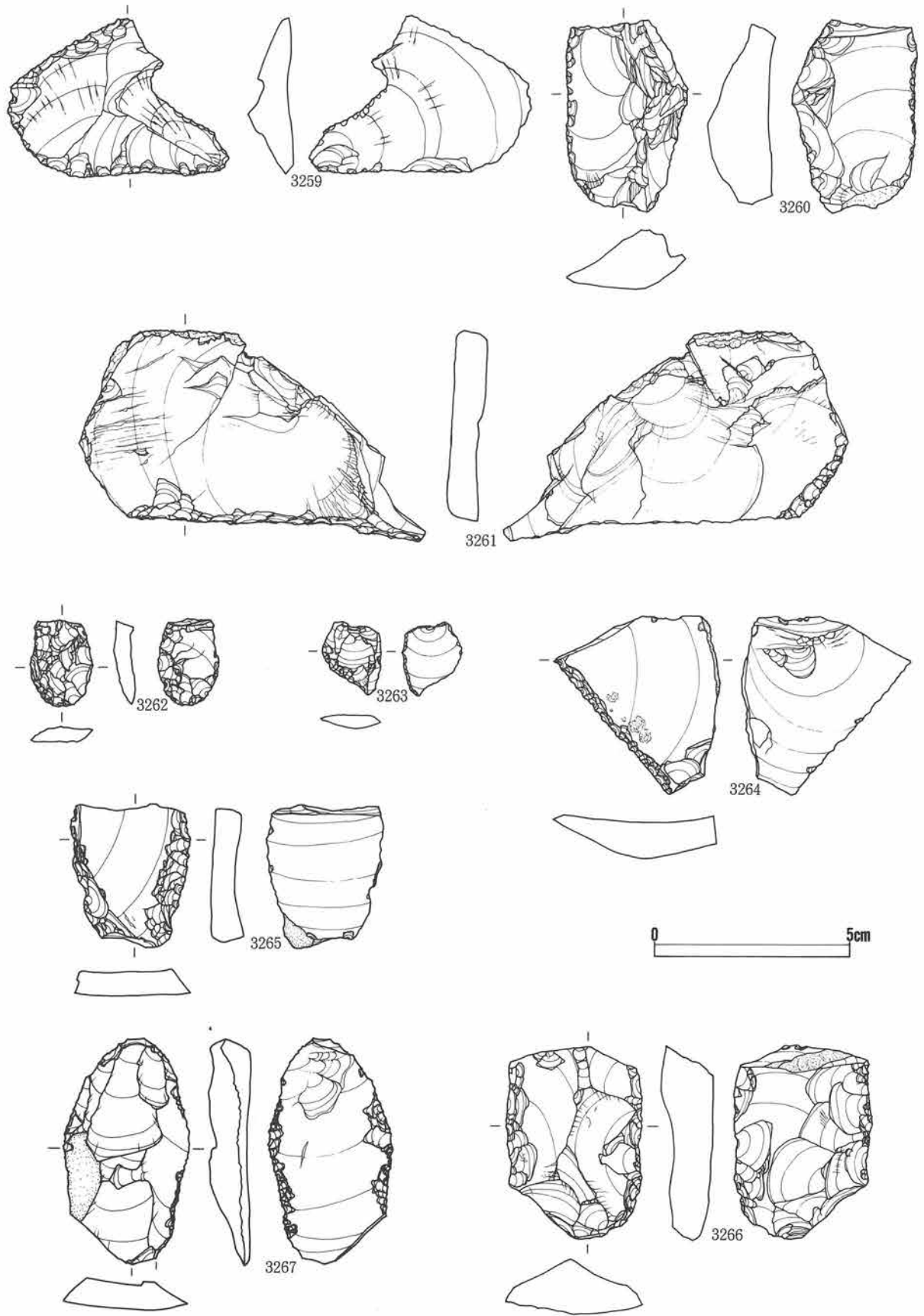
第350図 遺構外石器24（東部捨て場）削器



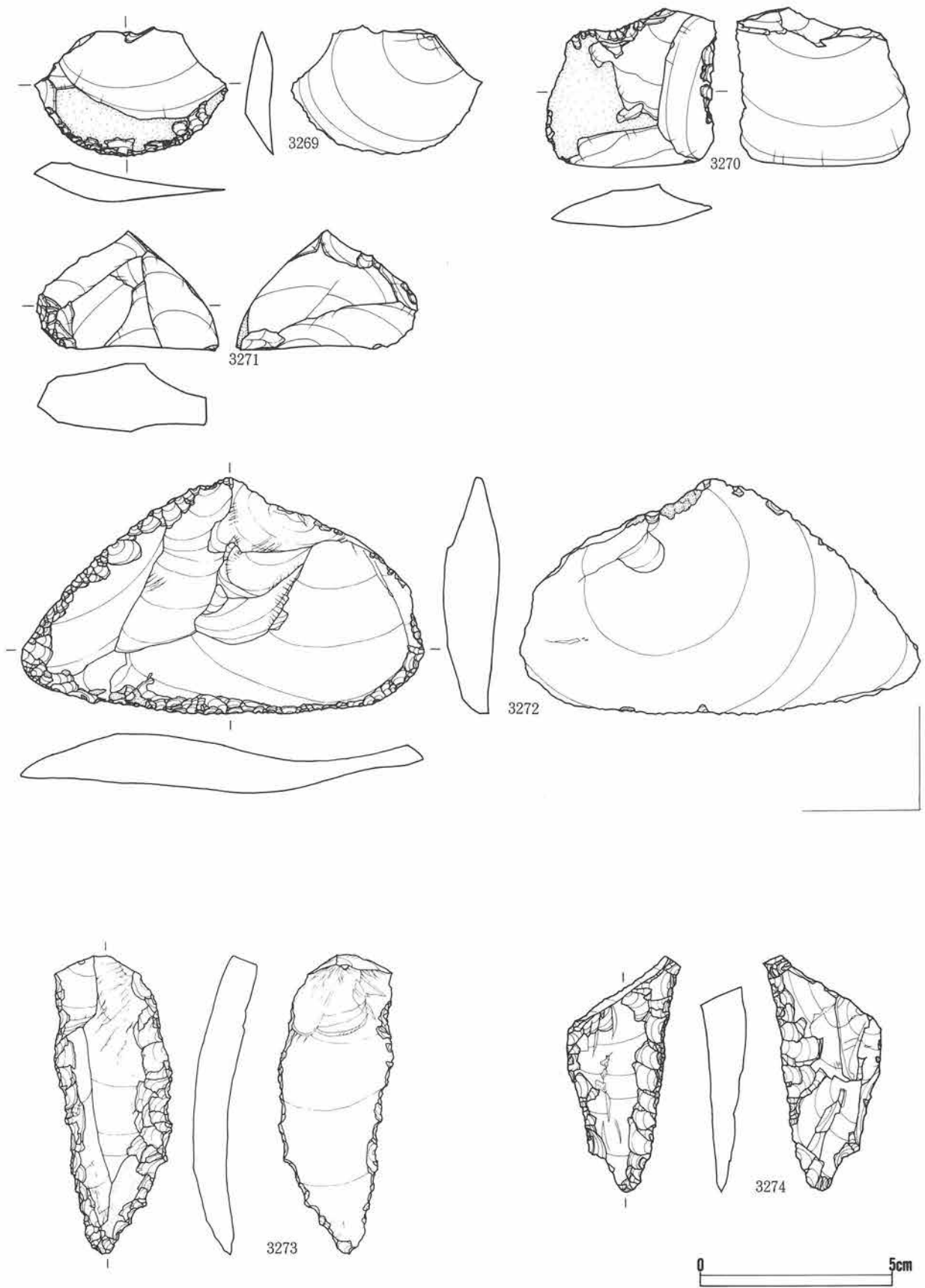
第351図 遺構外石器25 (東部捨て場) 削器



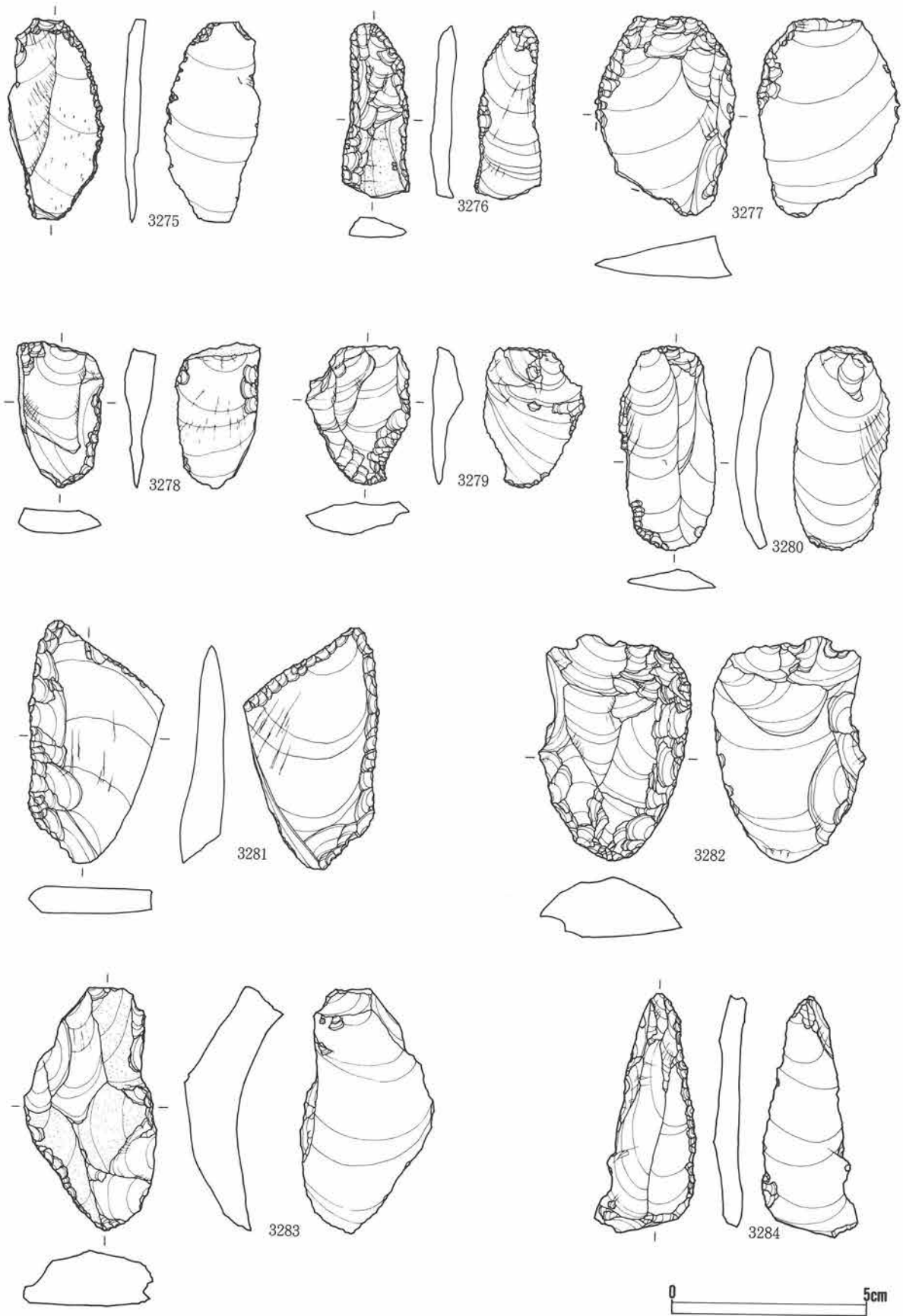
第352図 遺構外石器26（東部捨て場）削器



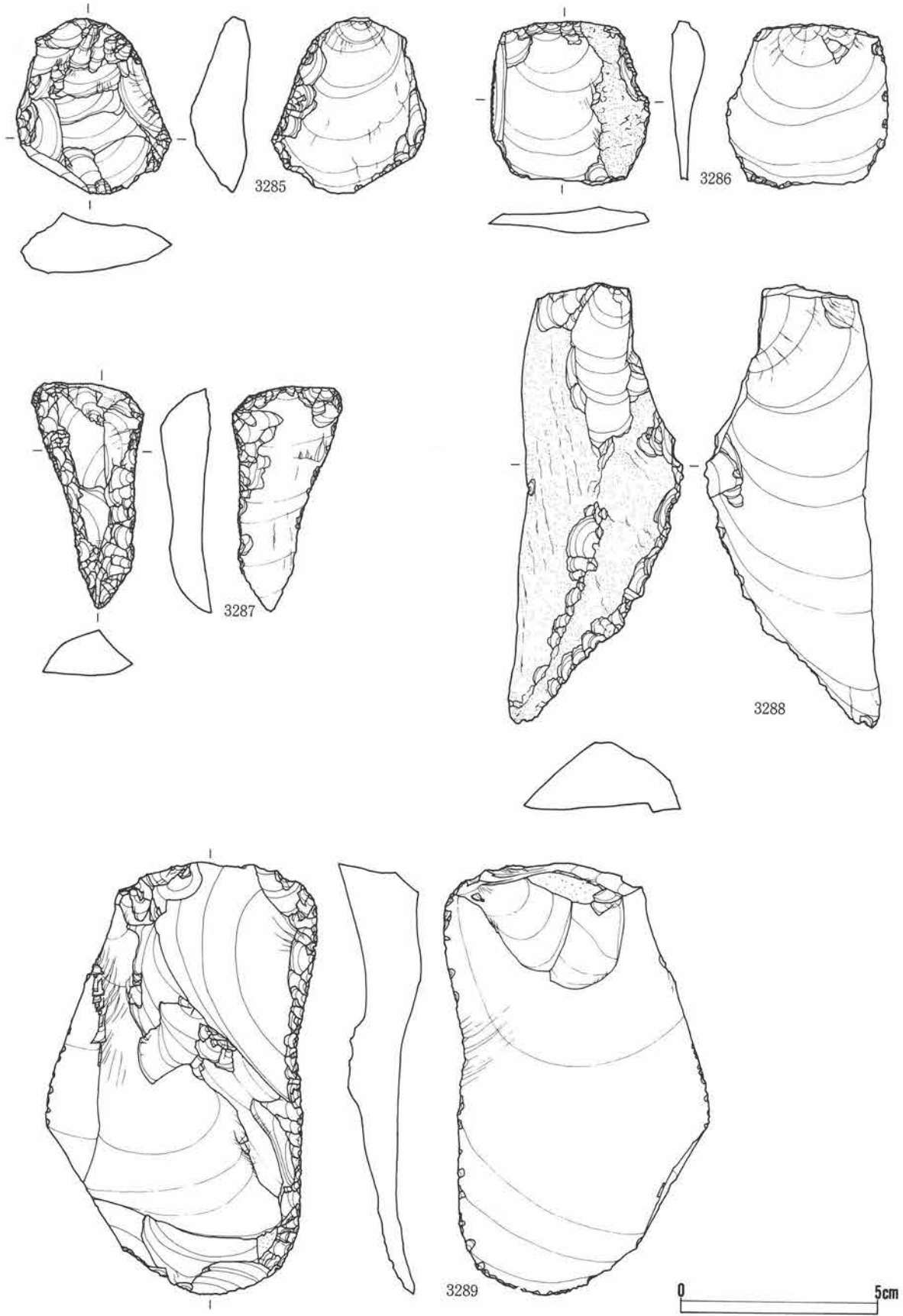
第353図 遺構外石器27（東部捨て場）削器



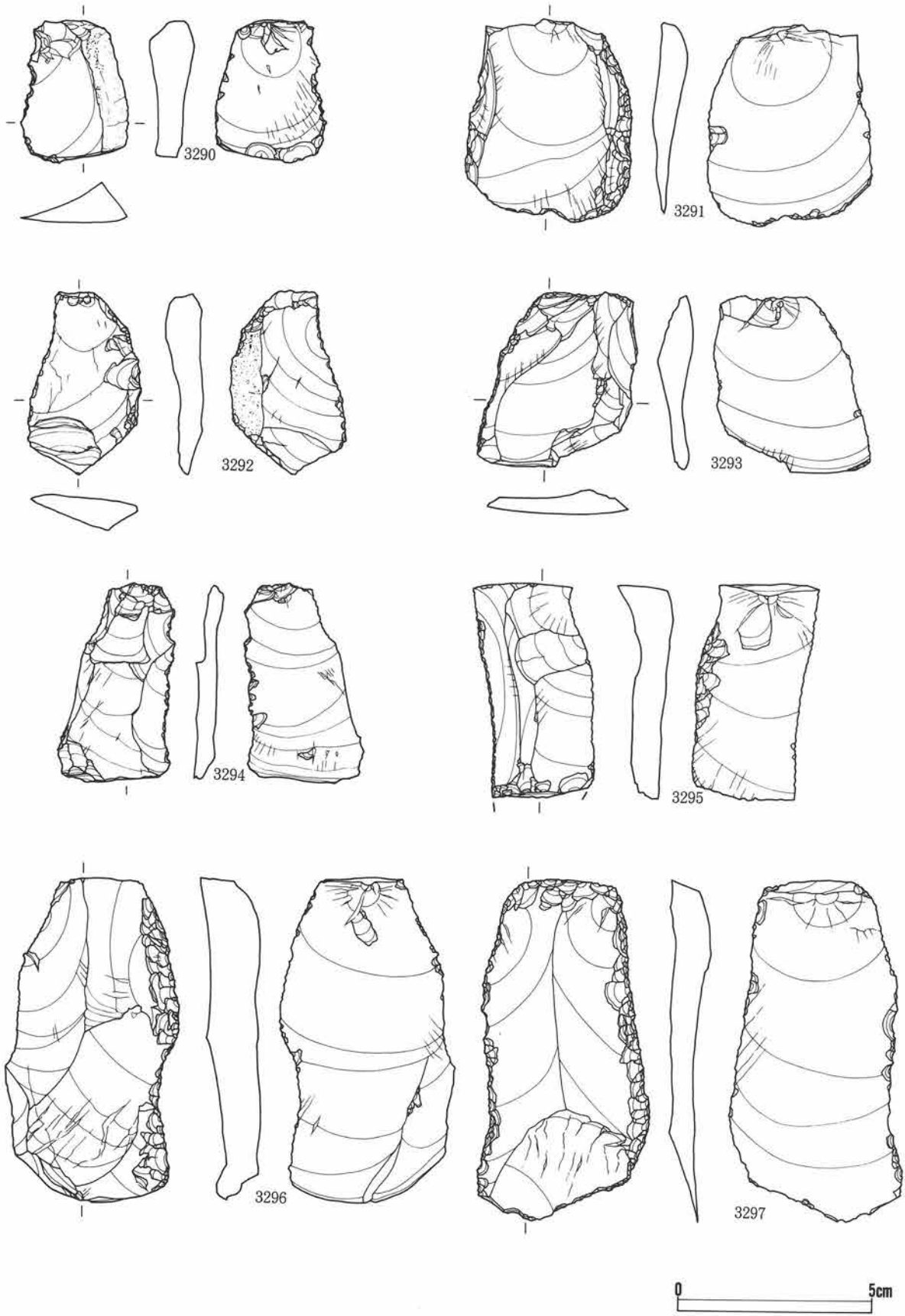
第354図 遺構外石器28（東部・西部捨て場）削器



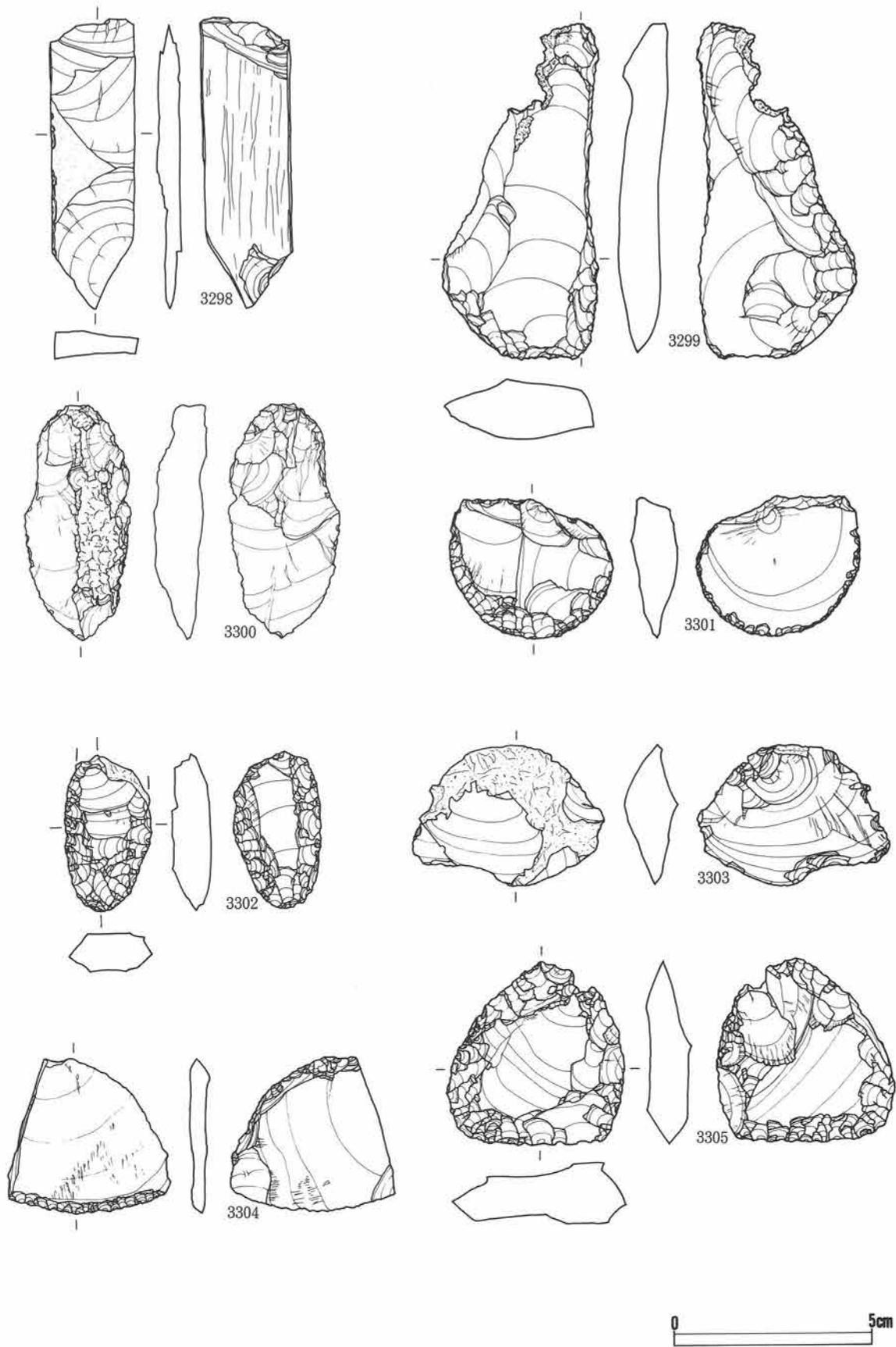
第355図 遺構外石器29 (西部捨て場) 削器



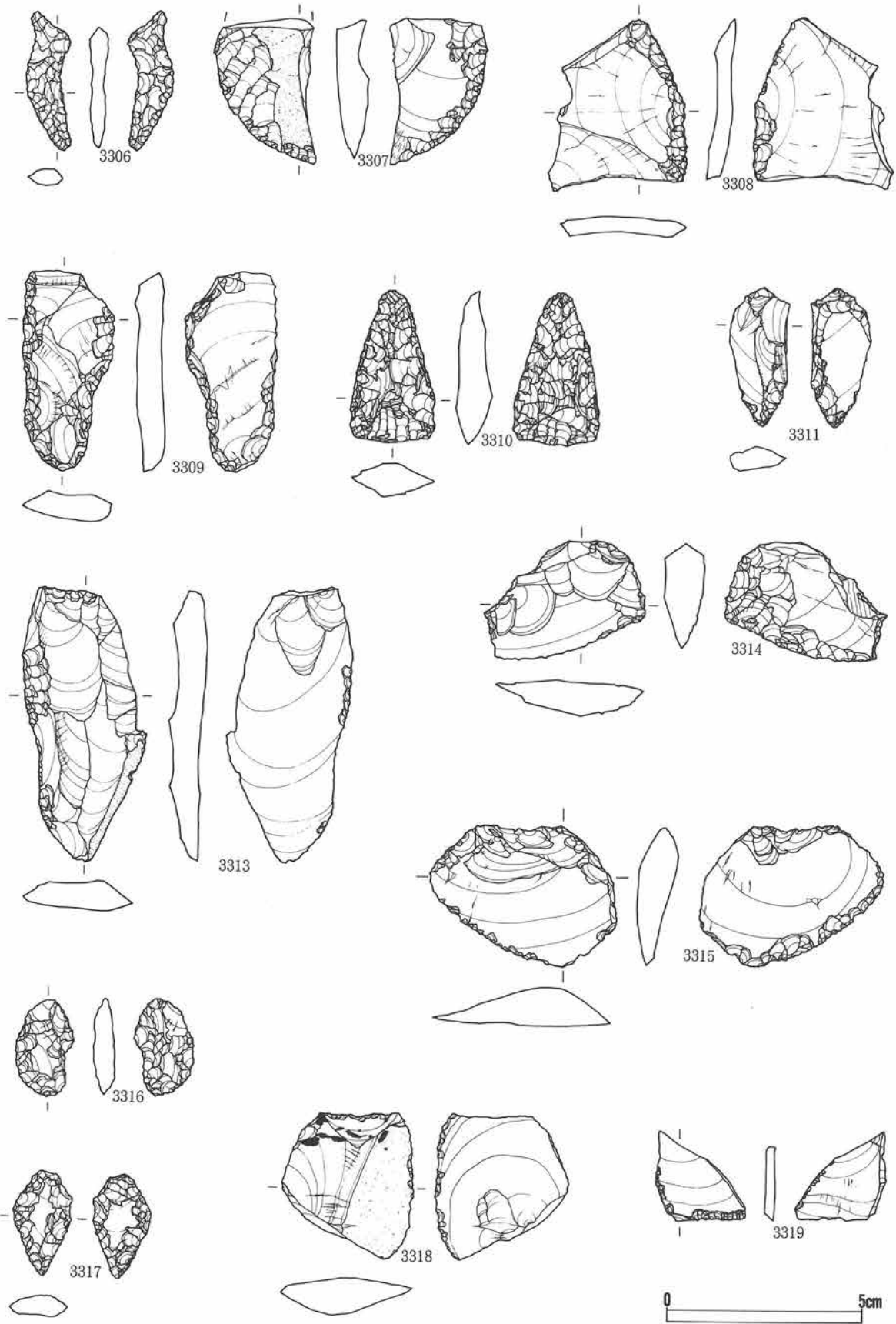
第356図 遺構外石器30（西部捨て場）削器



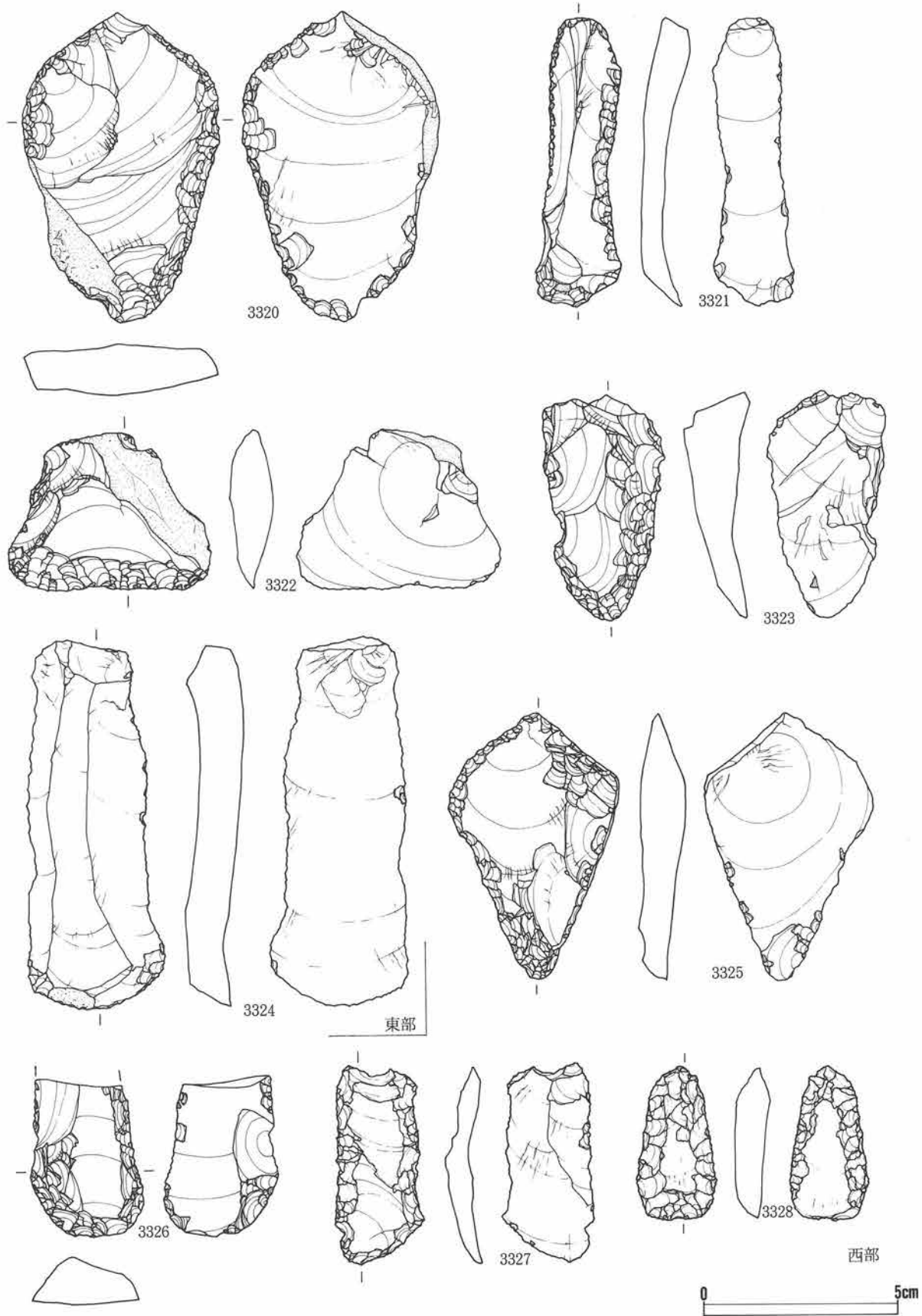
第357図 遺構外石器31（西部捨て場）削器



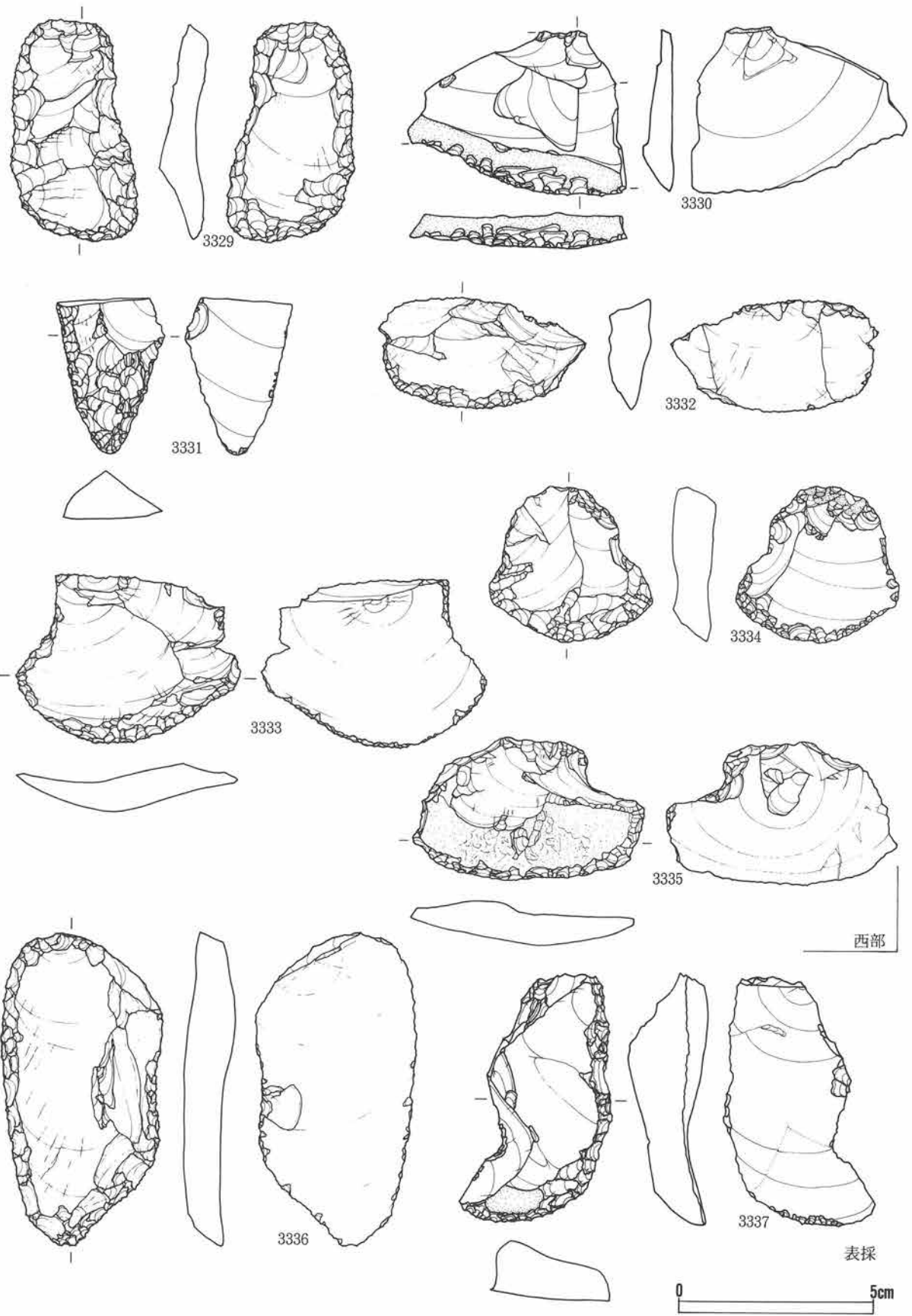
第358図 遺構外石器32（西部捨て場）削器



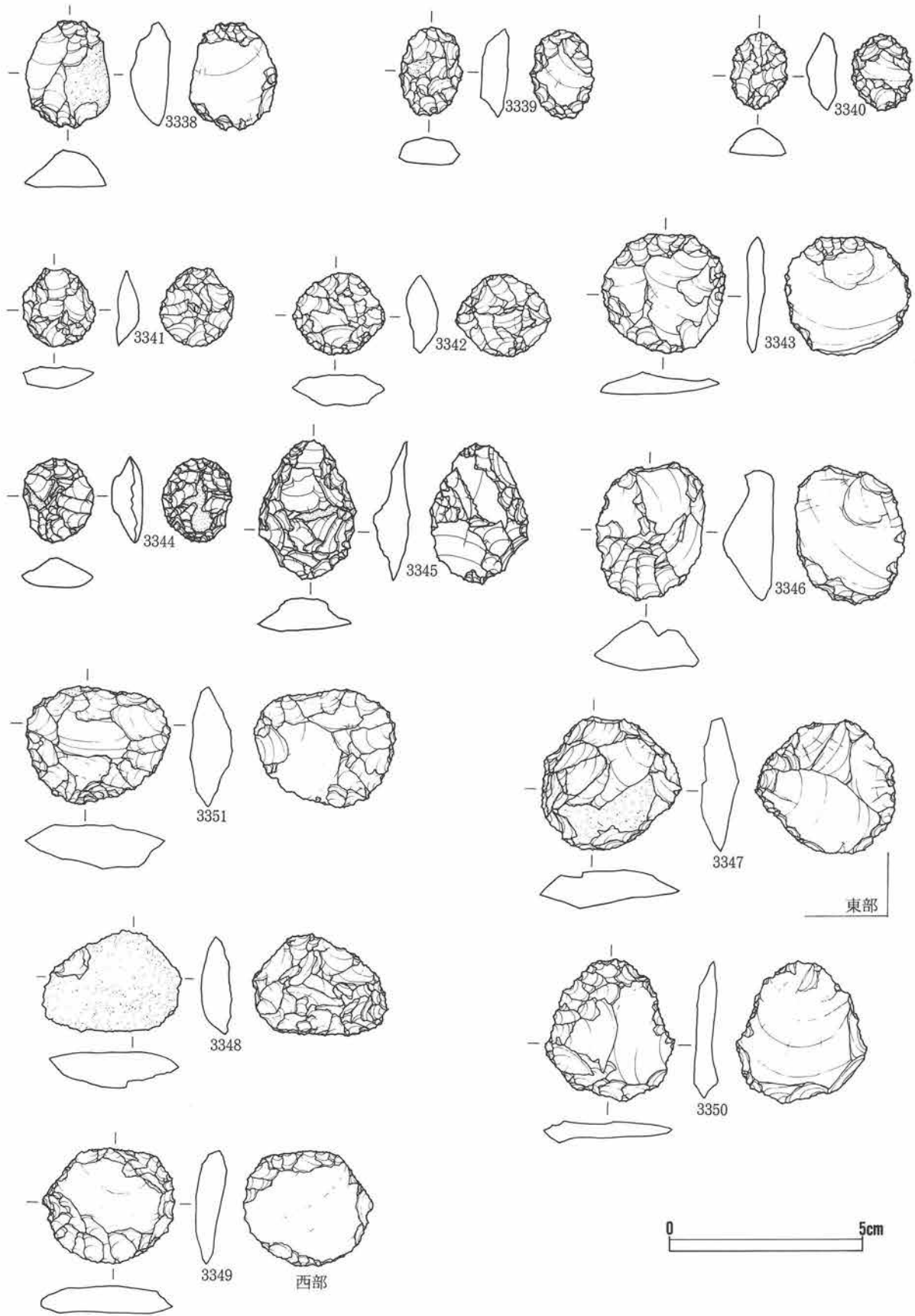
第359図 遺構外石器33 (西部捨て場) 削器



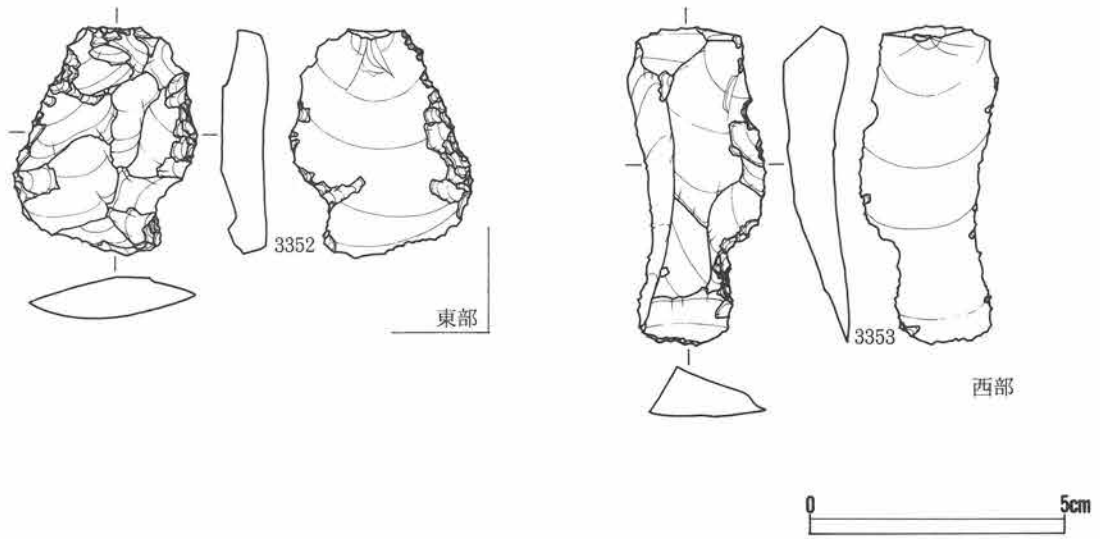
第360図 遺構外石器34 (東部・西部捨て場) 搔器



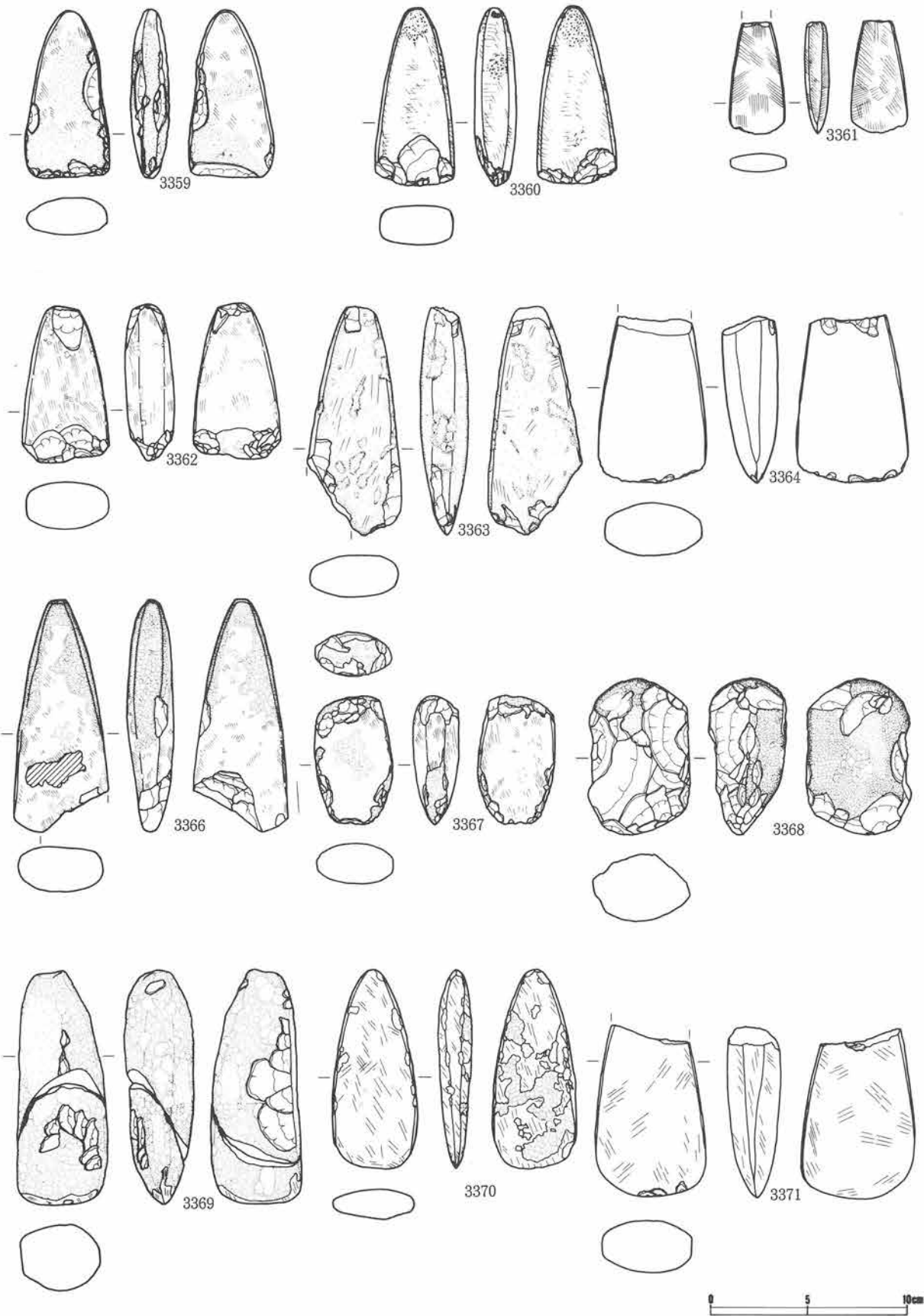
第361図 遺構外石器35（西部捨て場・表探）搔器



第362図 遺構外石器36（東部・西部捨て場）円形搔器



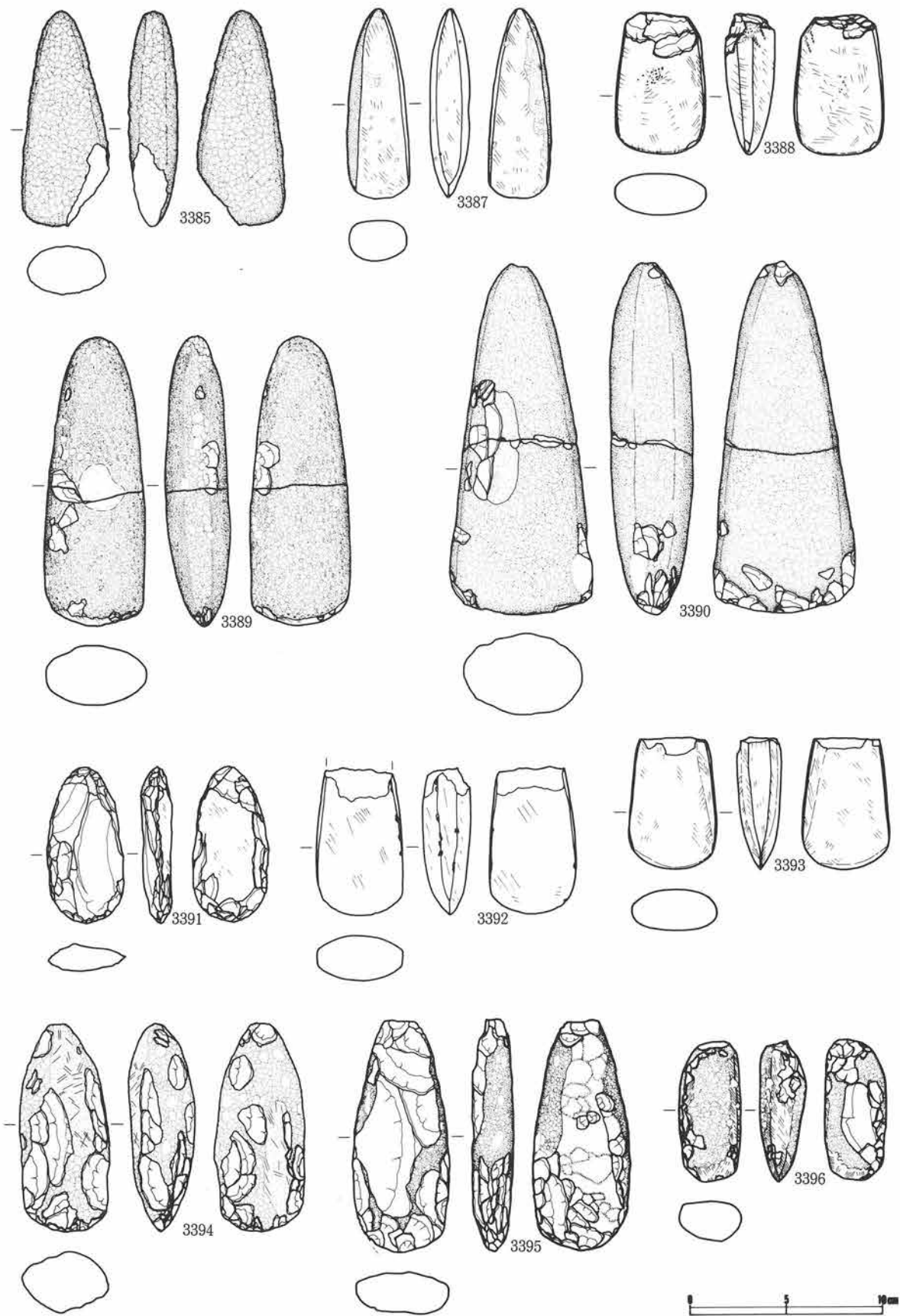
第363図 遺構外石器37（東部・西部捨て場）抉入石器



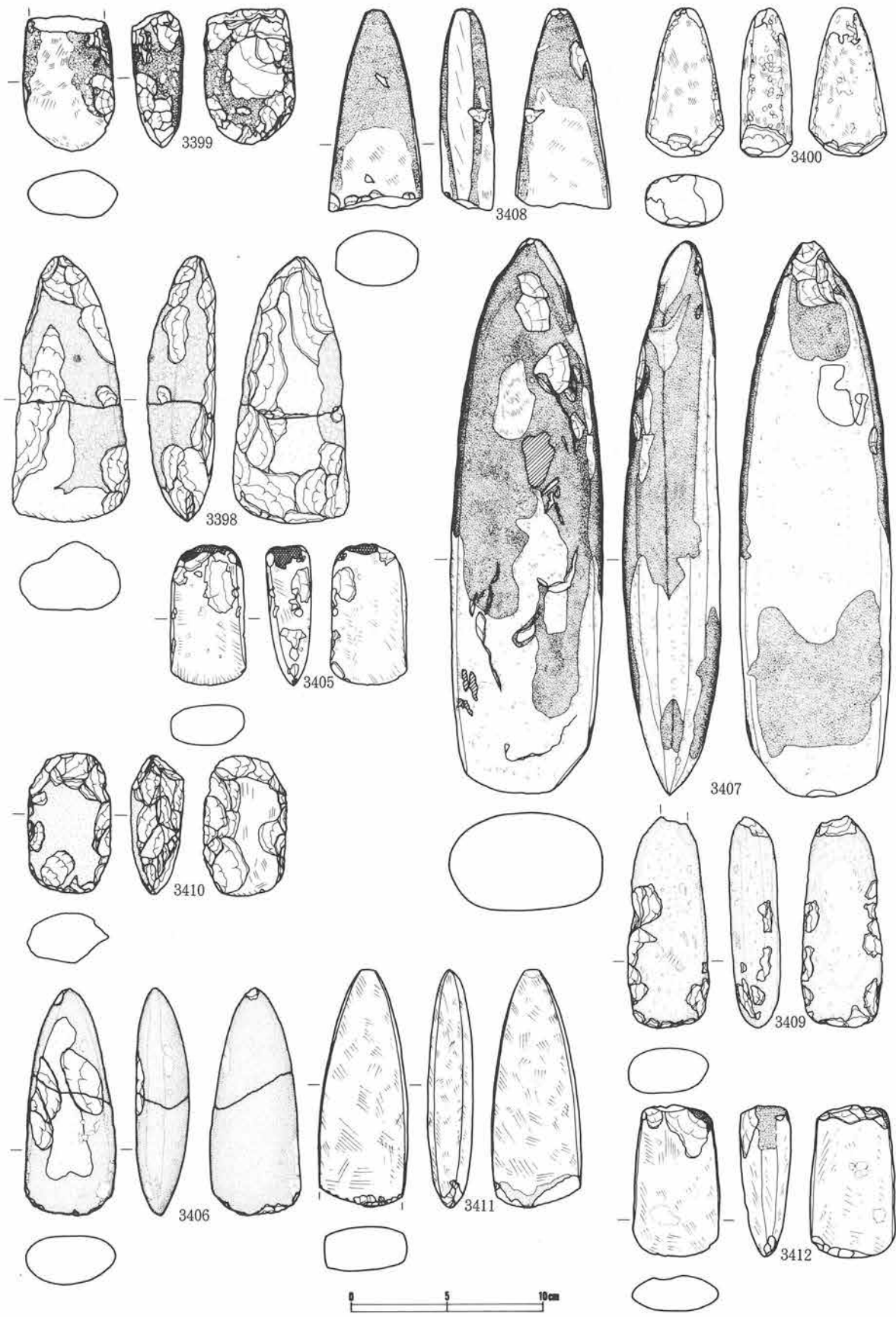
第364図 遺構外石器38 (東部捨て場) 石斧



第365図 遺構外石器39 (東部捨て場) 石斧



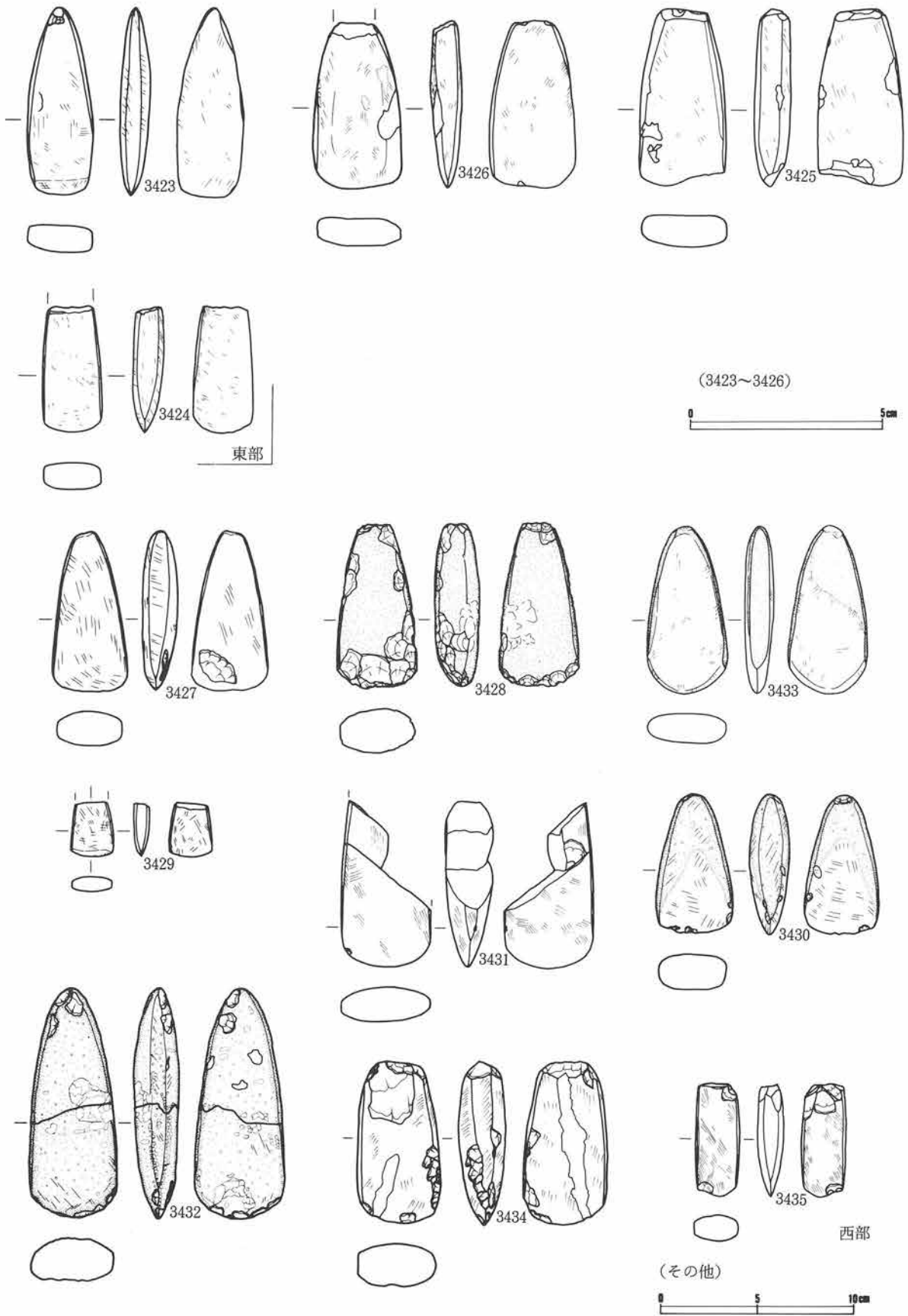
第366図 遺構外石器40（東部捨て場）石斧



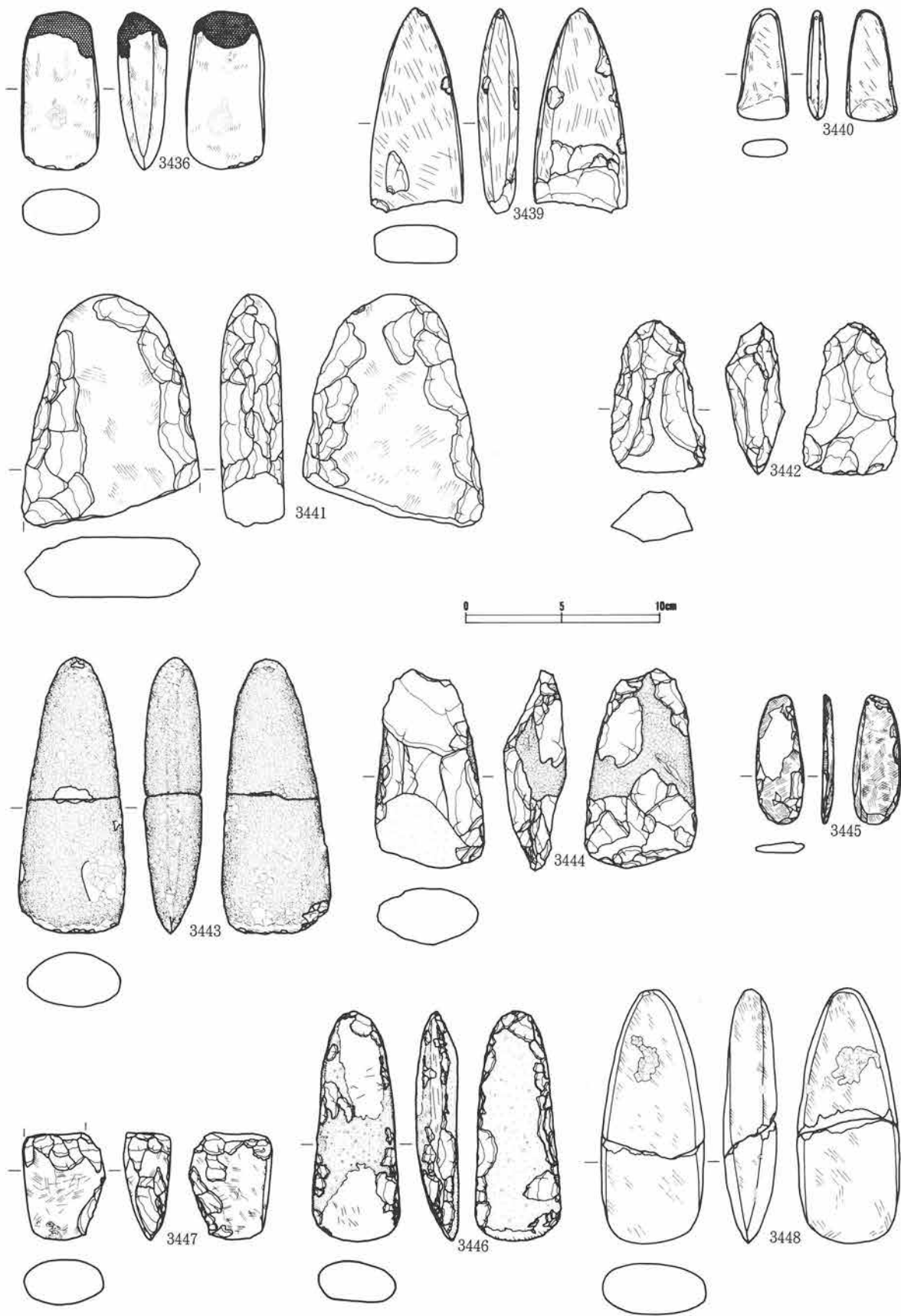
第367図 遺構外石器41 (東部捨て場) 石斧



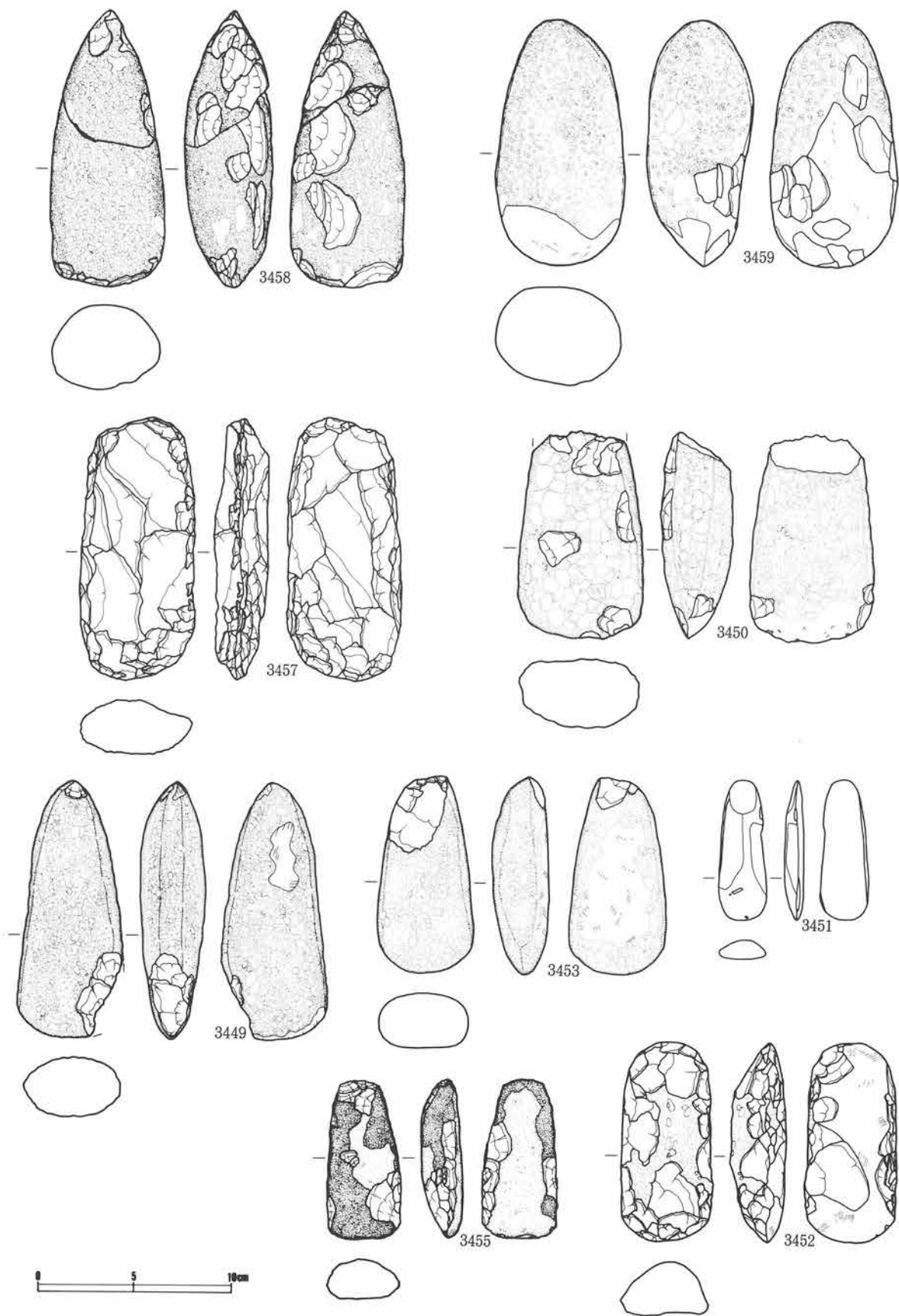
第368図 遺構外石器42（東部捨て場）石斧



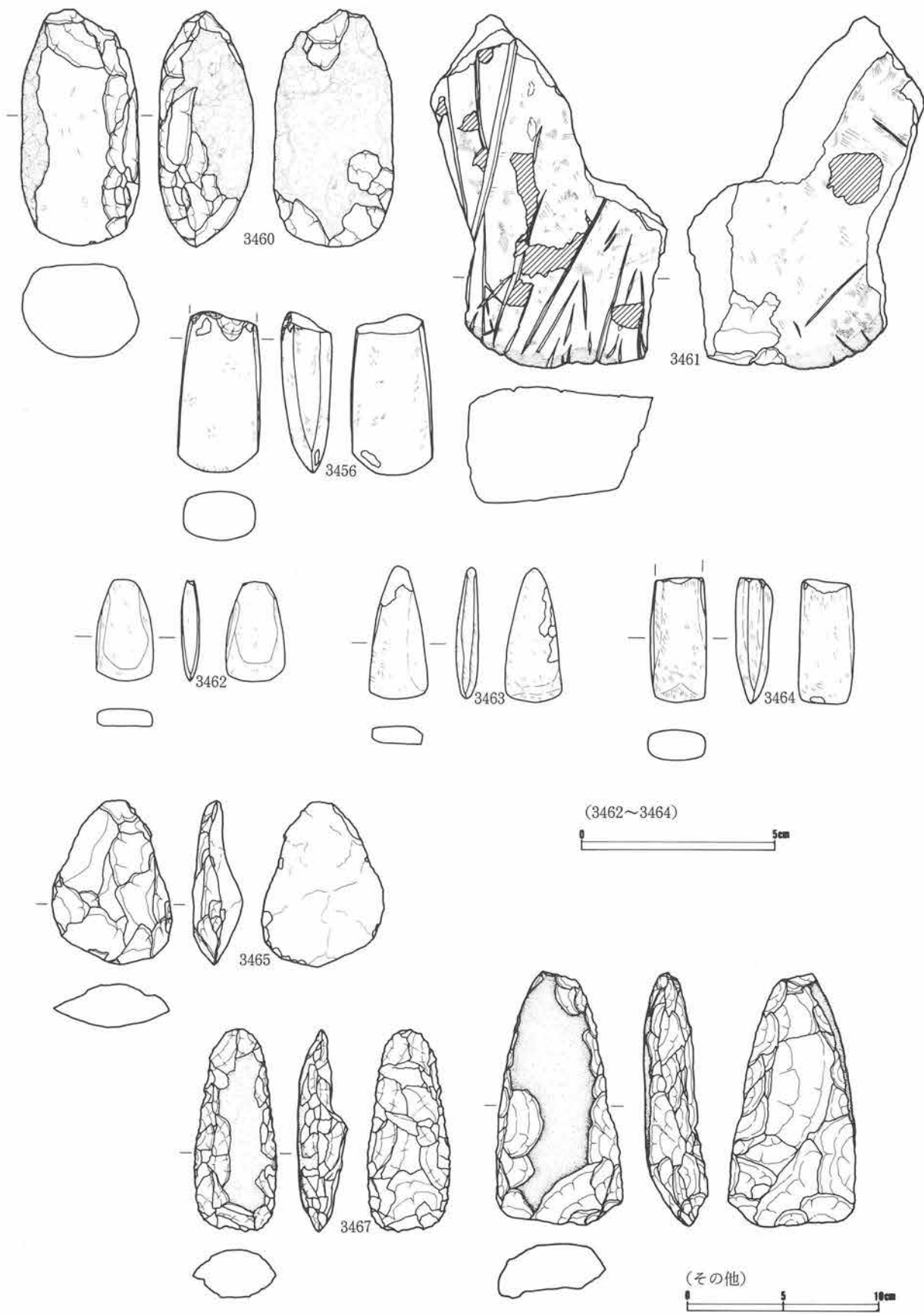
第369図 遺構外石器43 (東部・西部捨て場) 石斧



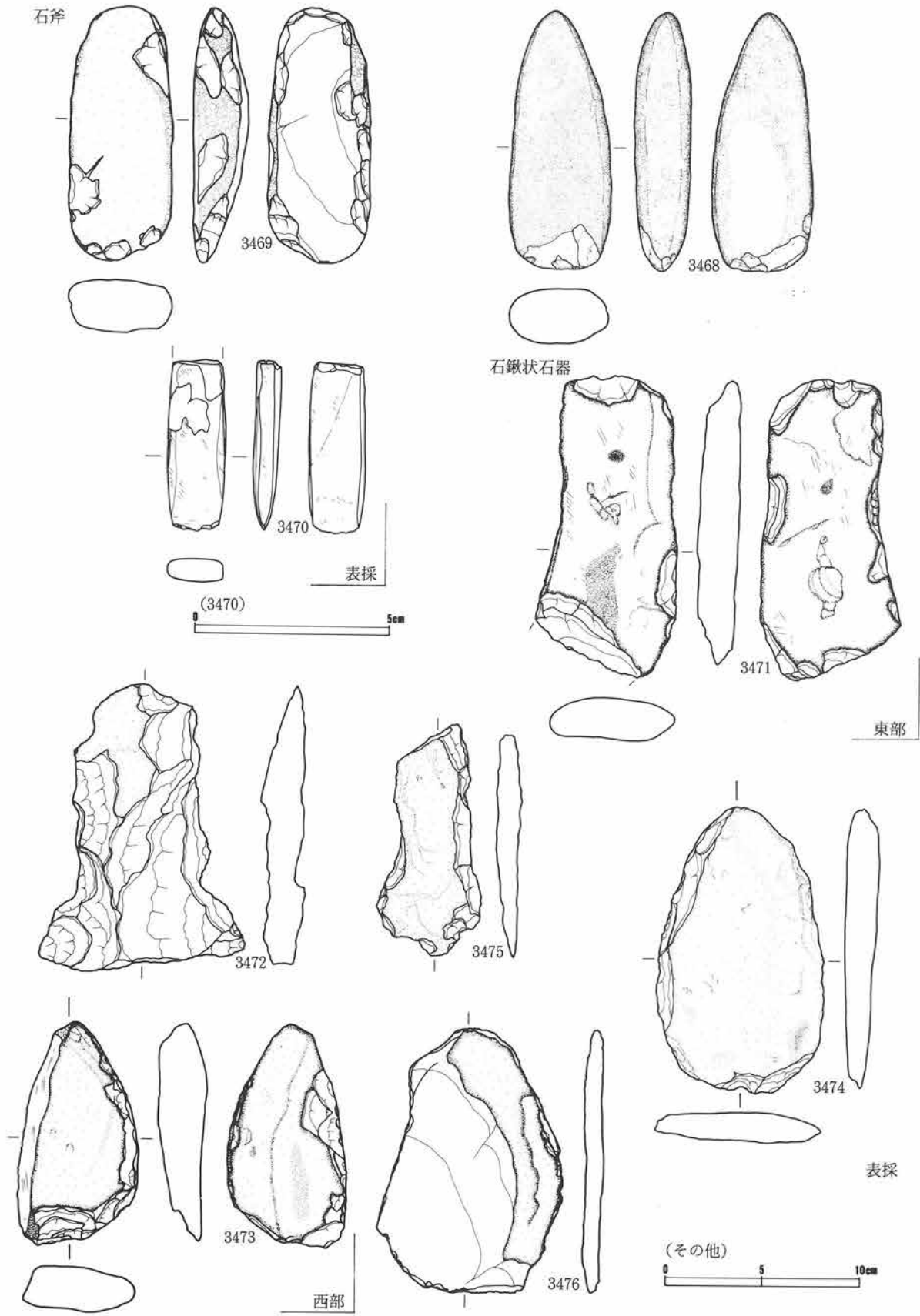
第370図 遺構外石器44 (西部捨て場) 石斧



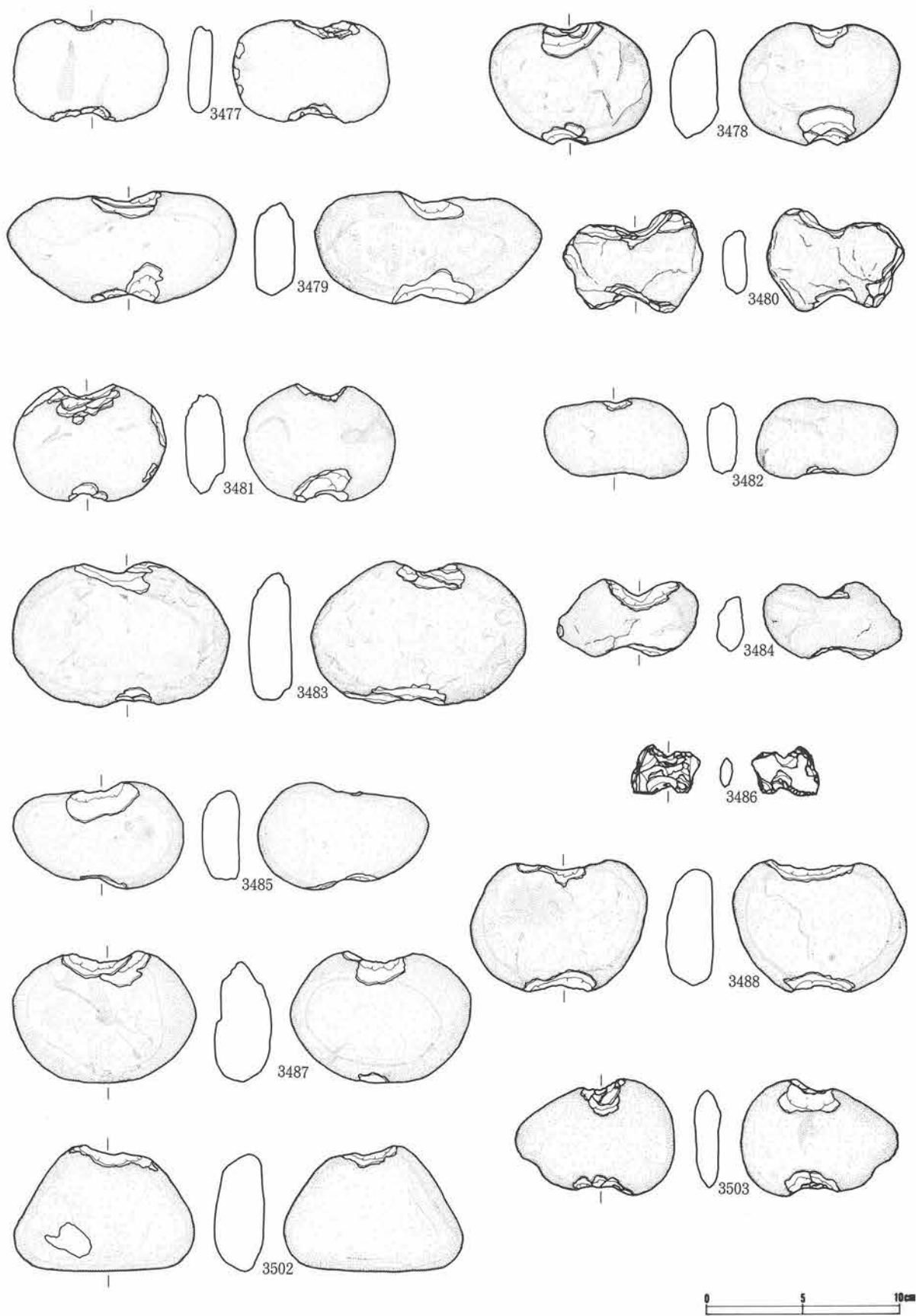
第371図 遺構外石器45 (西部捨て場) 石斧



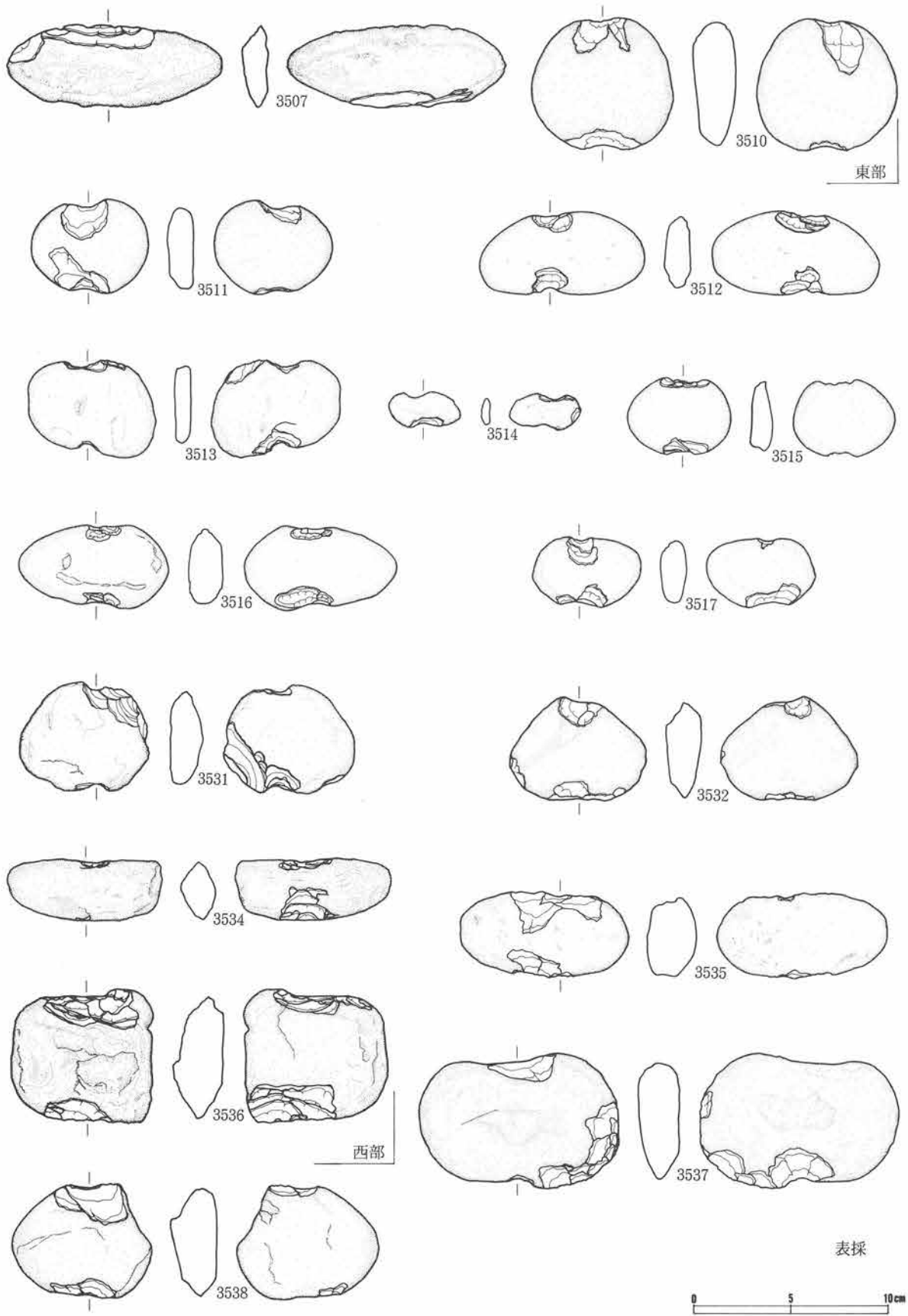
第372図 遺構外石器46 (表探) 石斧



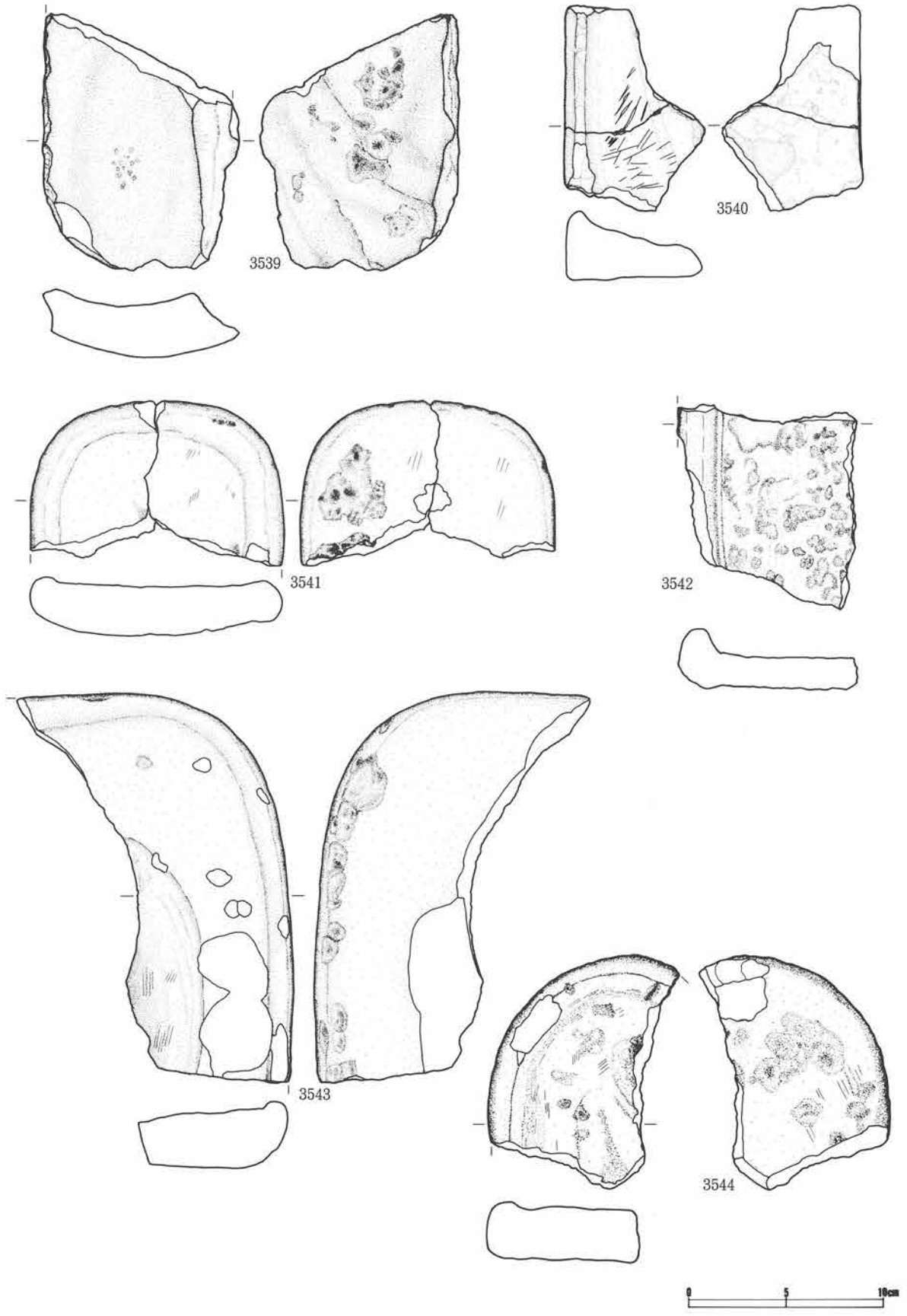
第373図 遺構外石器47 (表採) 石斧
(東部・西部捨て場・表採) 石鋏状石器



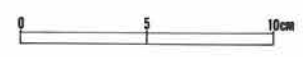
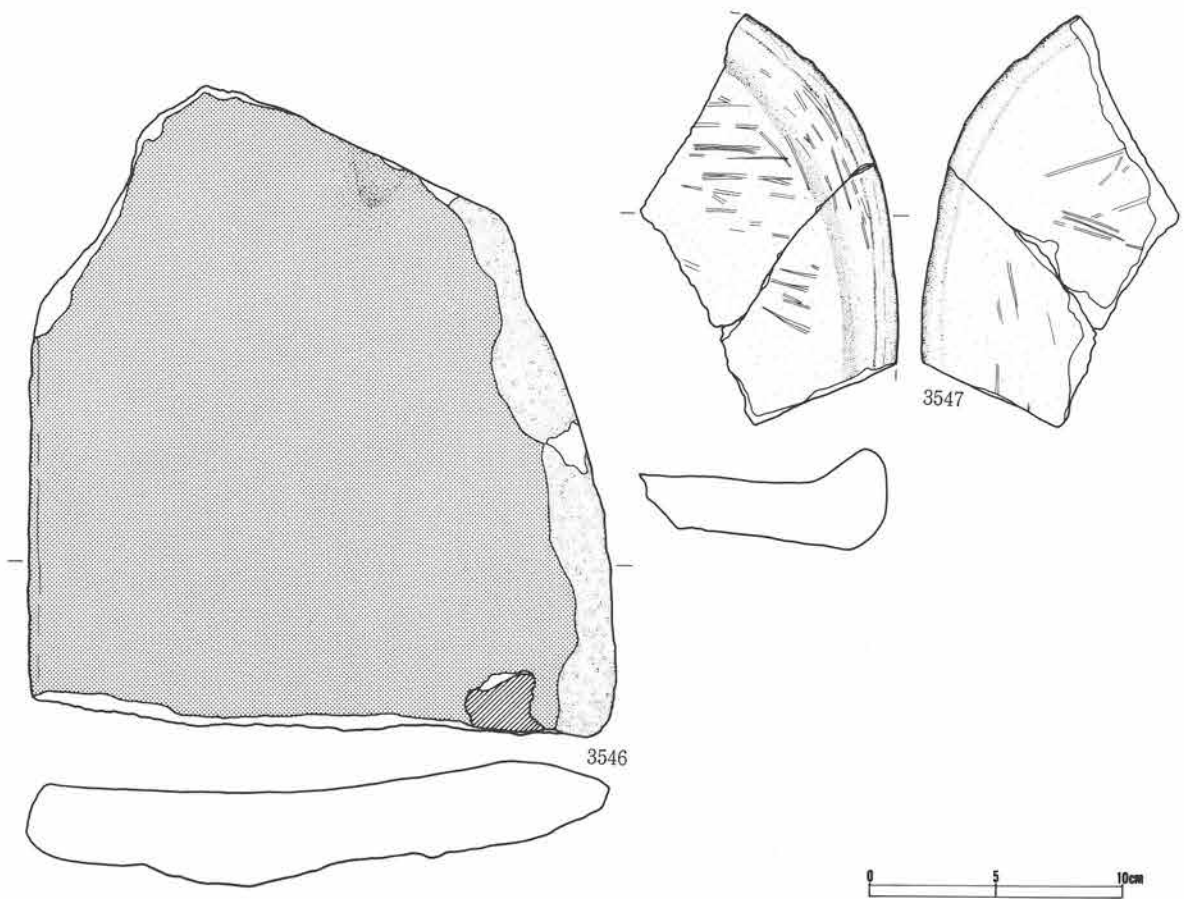
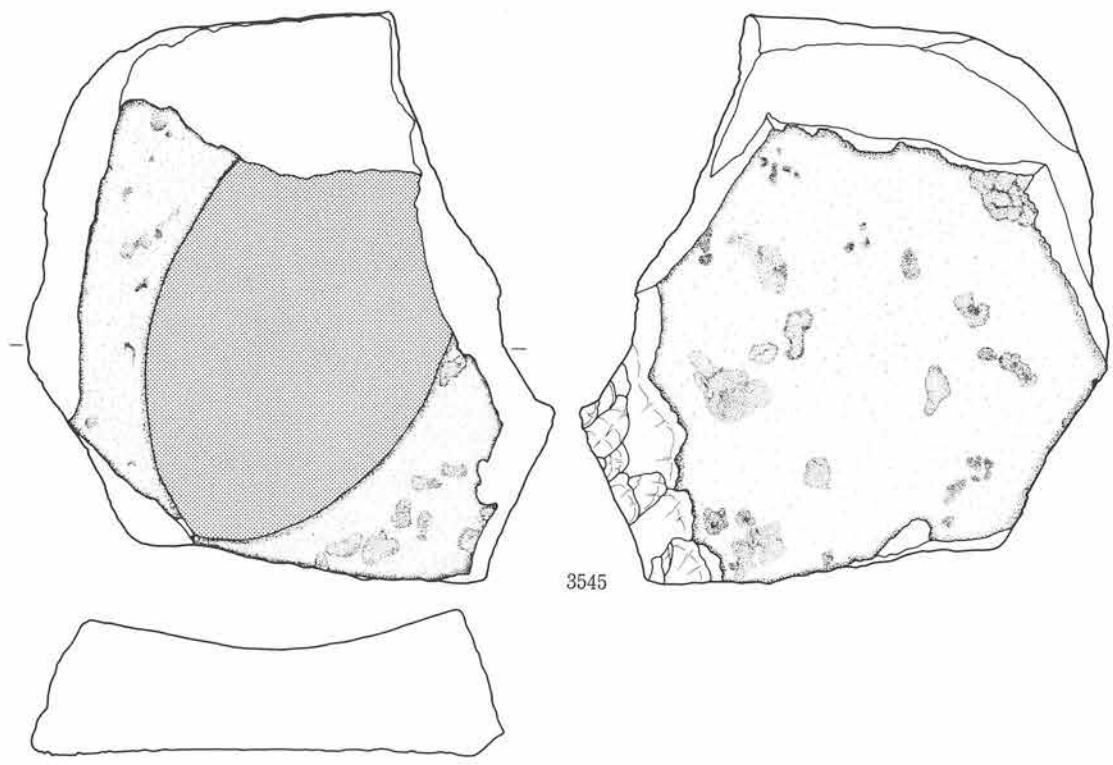
第374図 遺構外石器48 (東部捨て場) 石錐



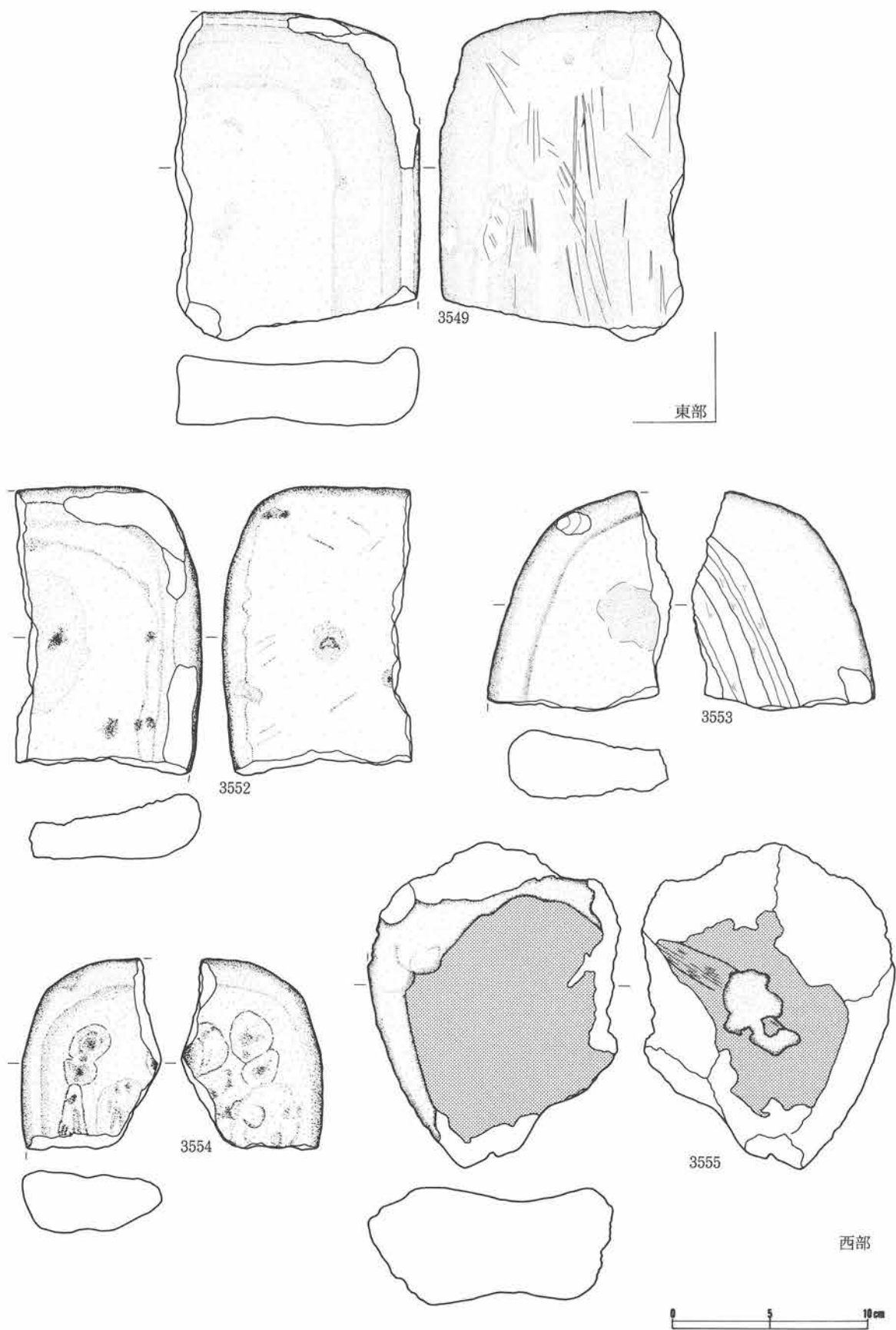
第375図 遺構外石器49 (東部・西部捨て場・表採) 石錐



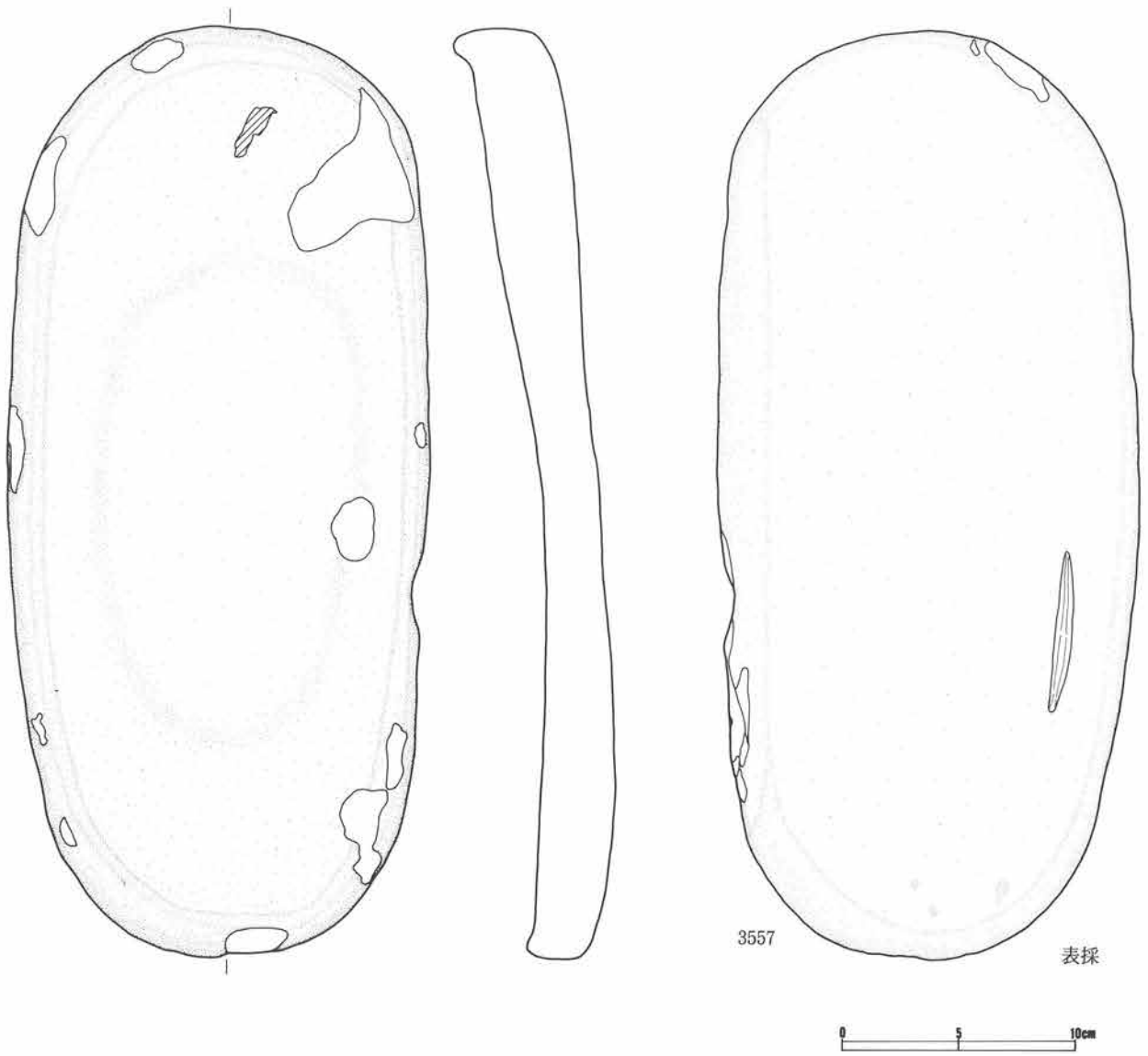
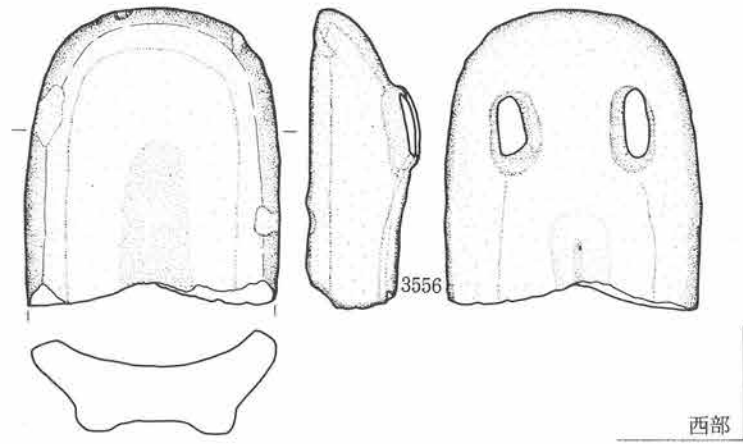
第376図 遺構外石器50 (東部捨て場) 石皿



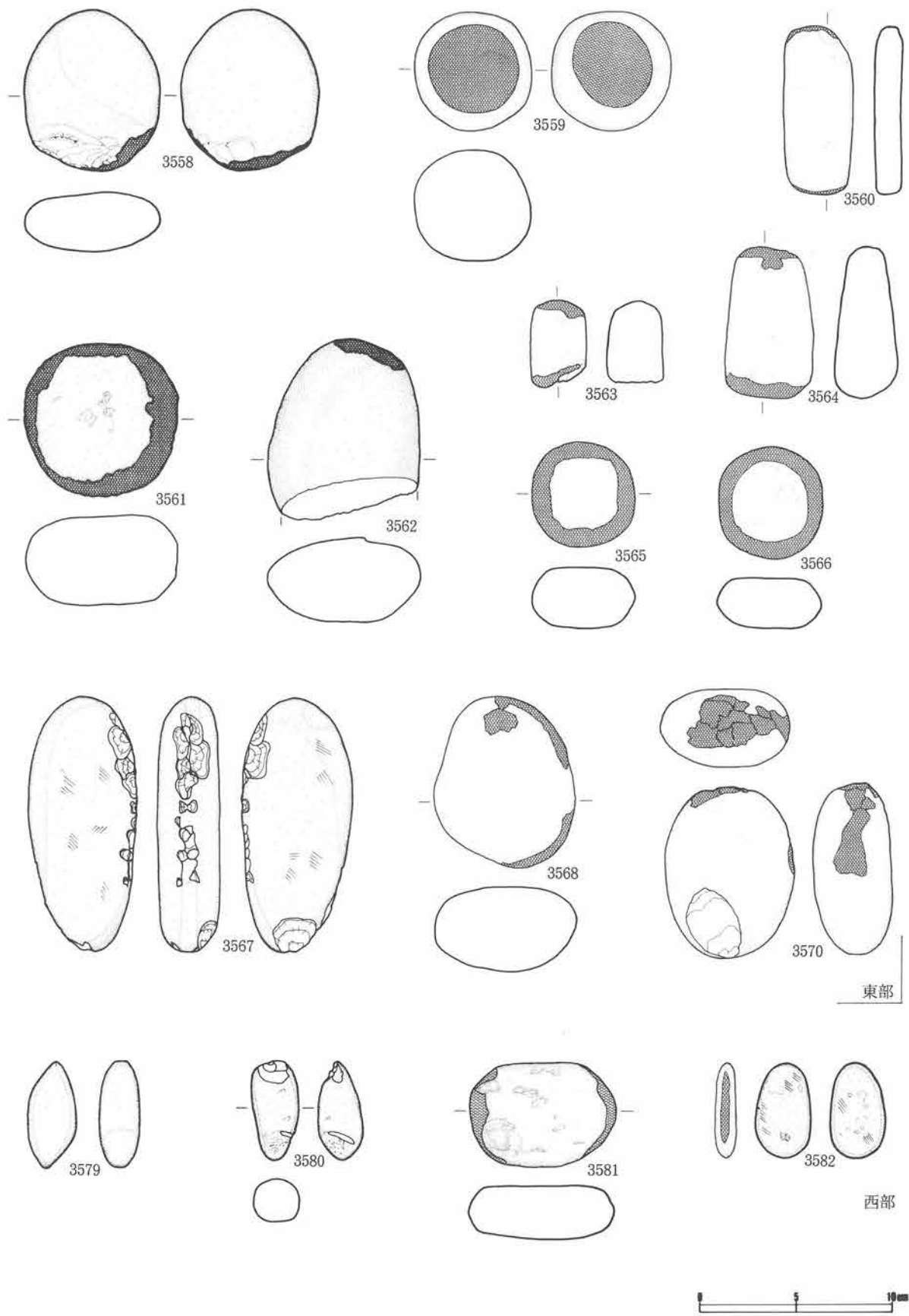
第377図 遺構外石器51 (東部捨て場) 石皿



第378図 遺構外石器52（東部・西部捨て場）石皿

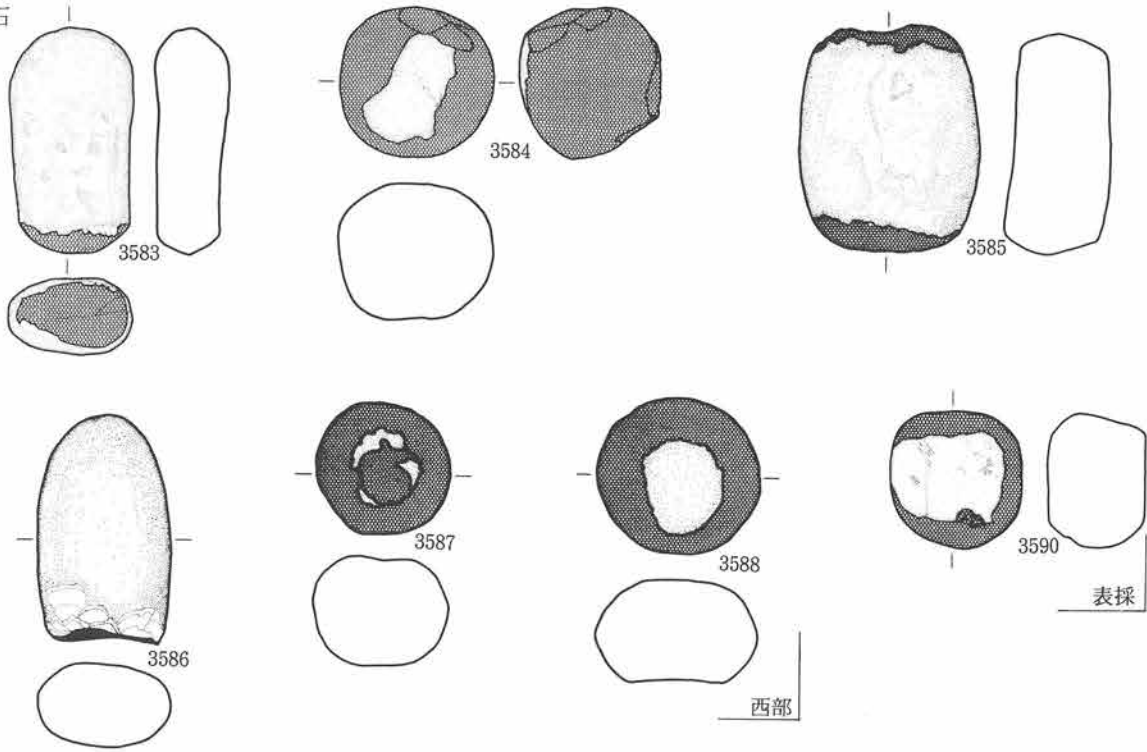


第379図 遺構外石器53 (西部捨て場・表採) 石皿

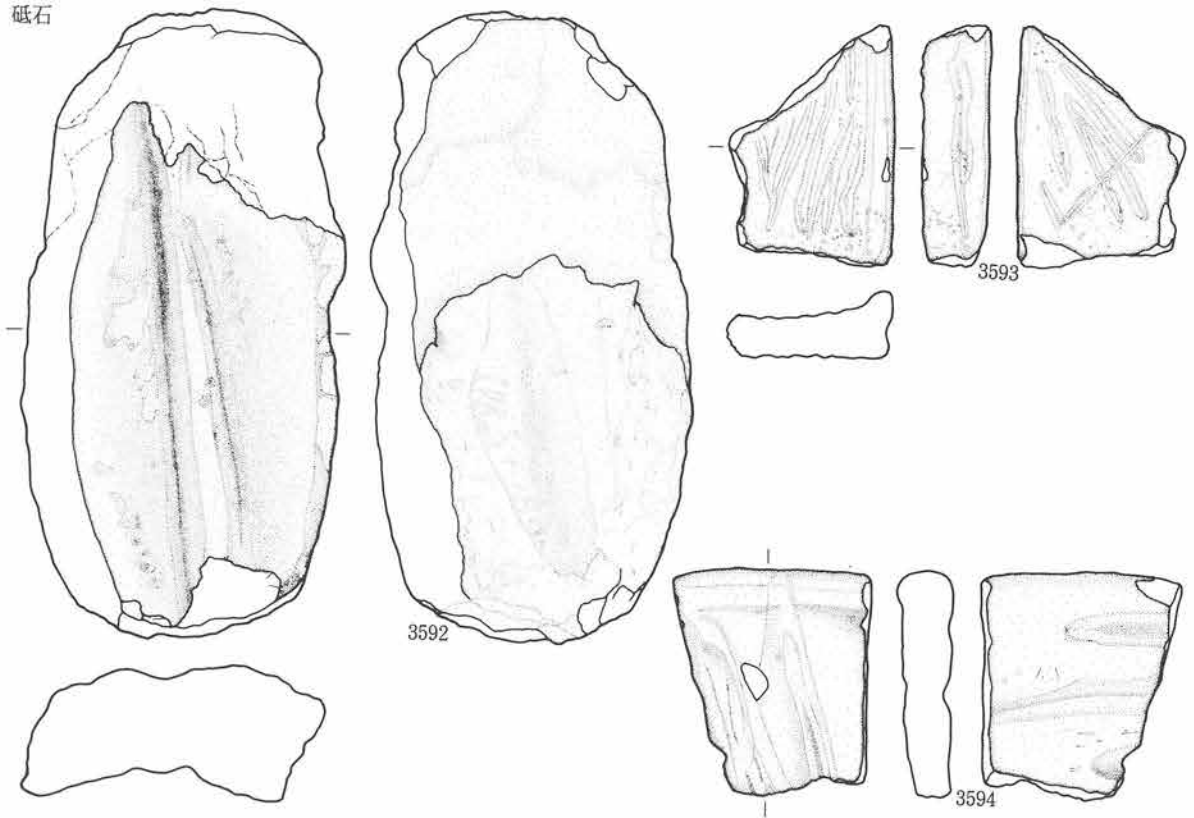


第380図 遺構外石器54（東部・西部捨て場）敲石

敲石

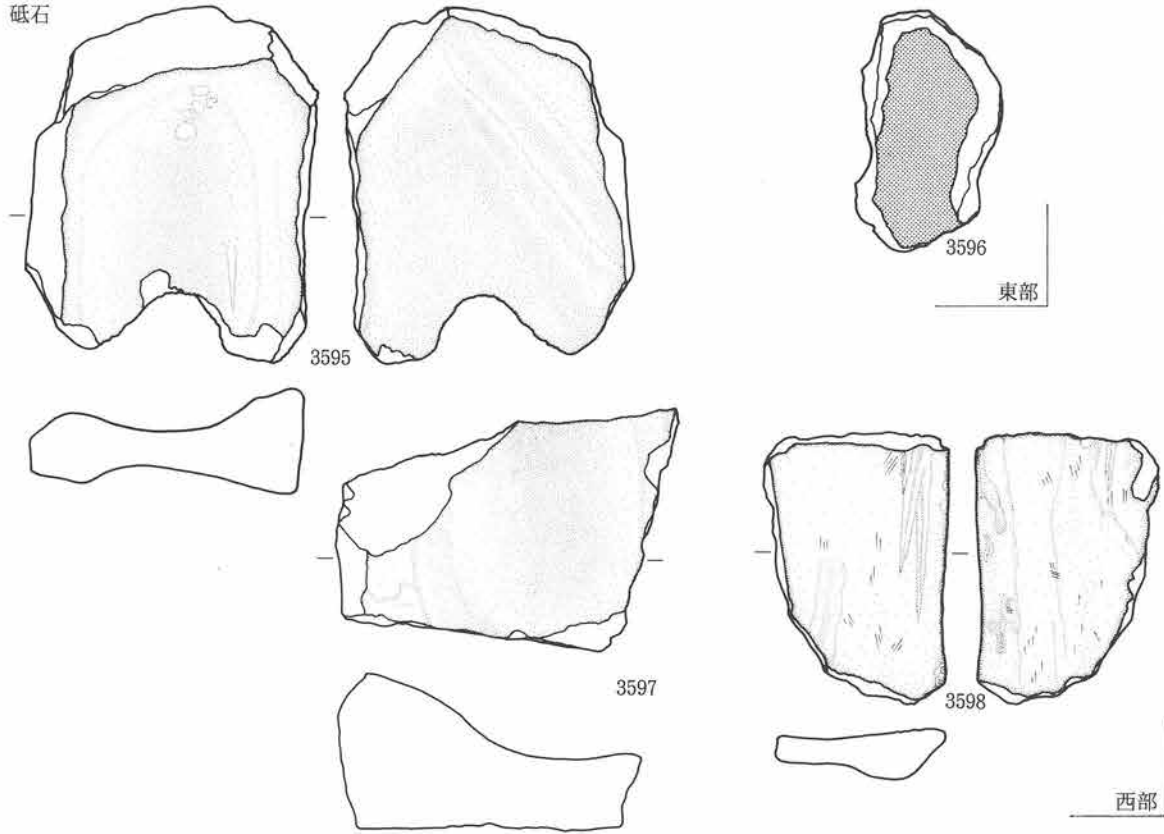


砥石

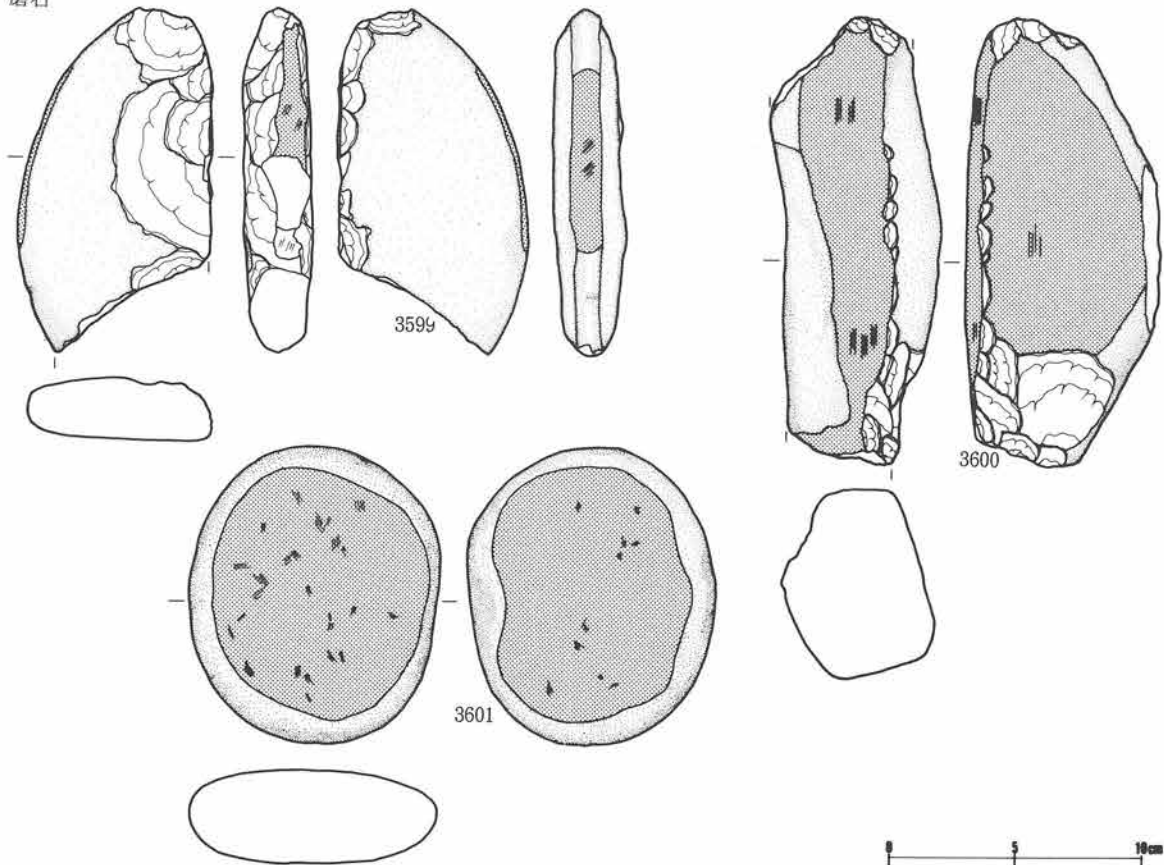


第381図 遺構外石器55 (西部捨て場・表採) 敲石
(東部捨て場) 砥石

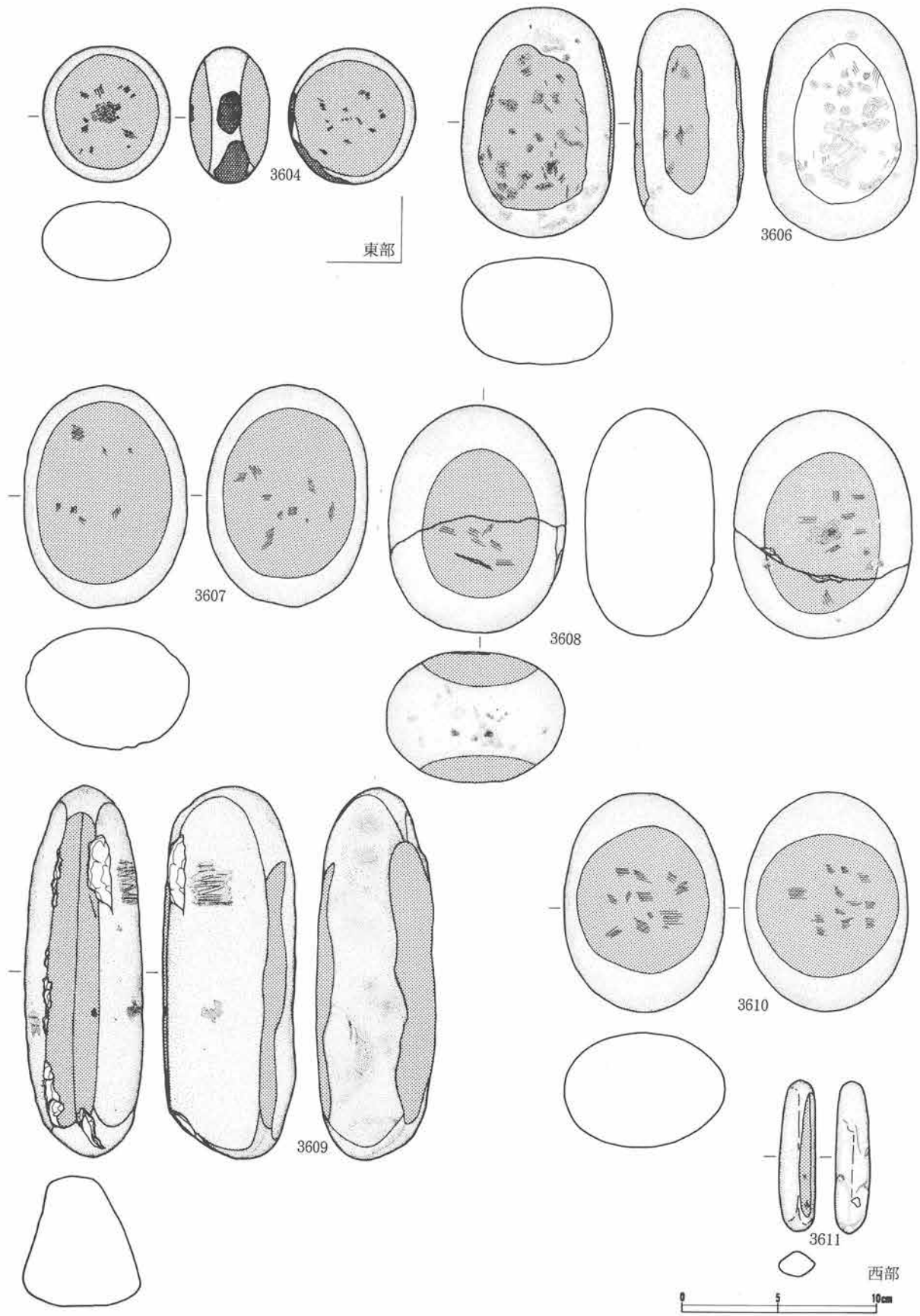
砥石



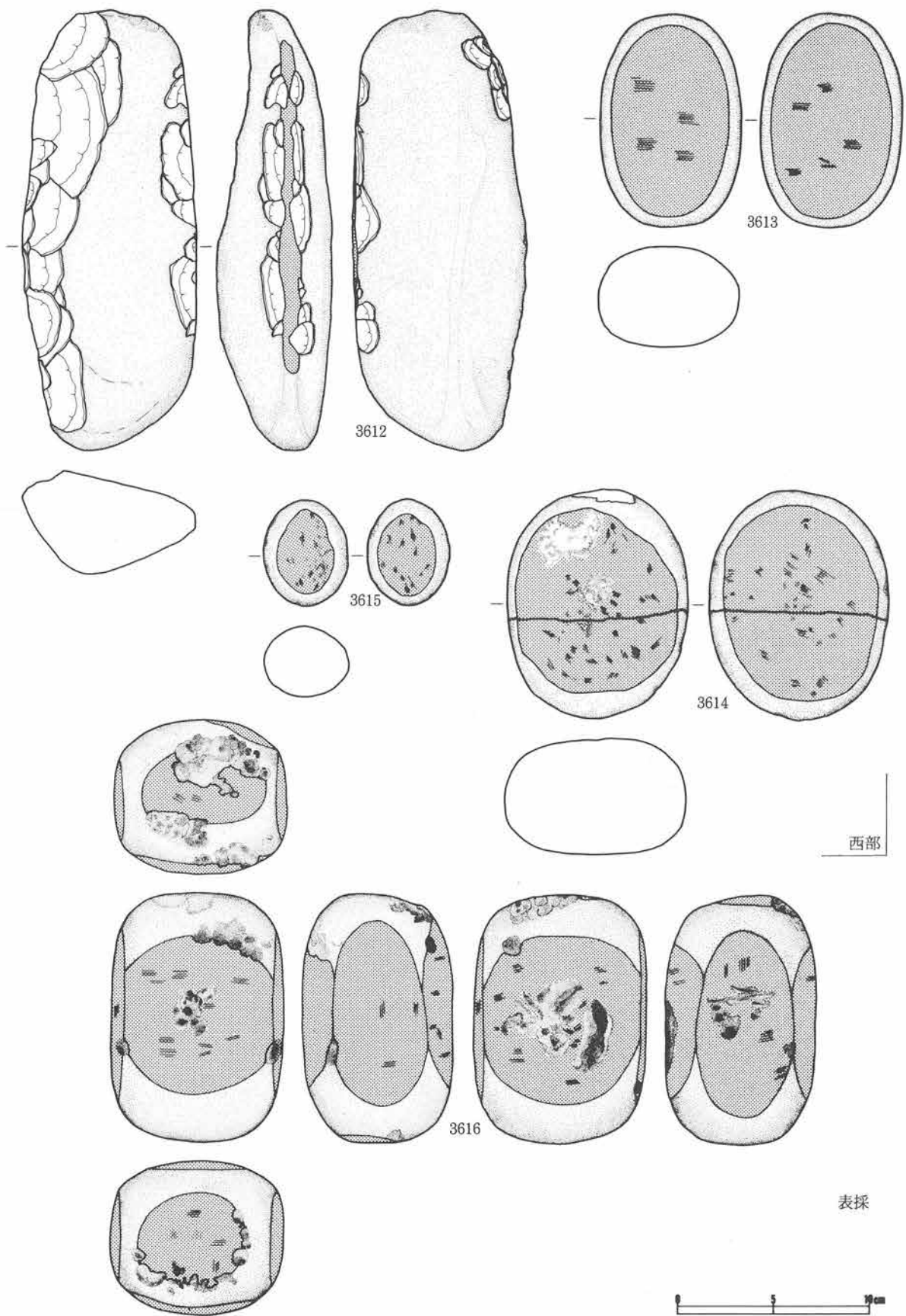
磨石



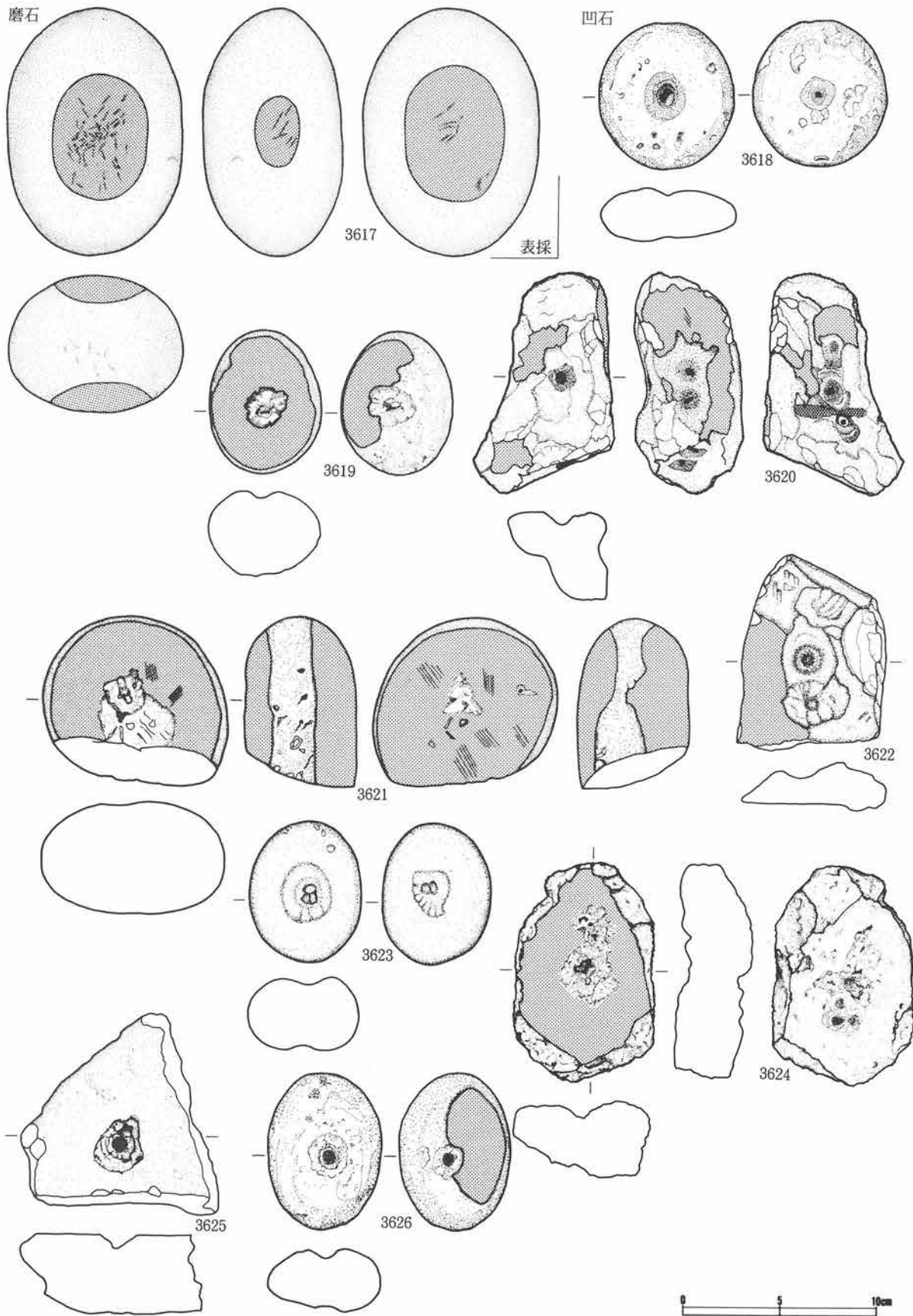
第382図 遺構外石器56 (東部・西部捨て場) 砥石
(東部捨て場) 磨石



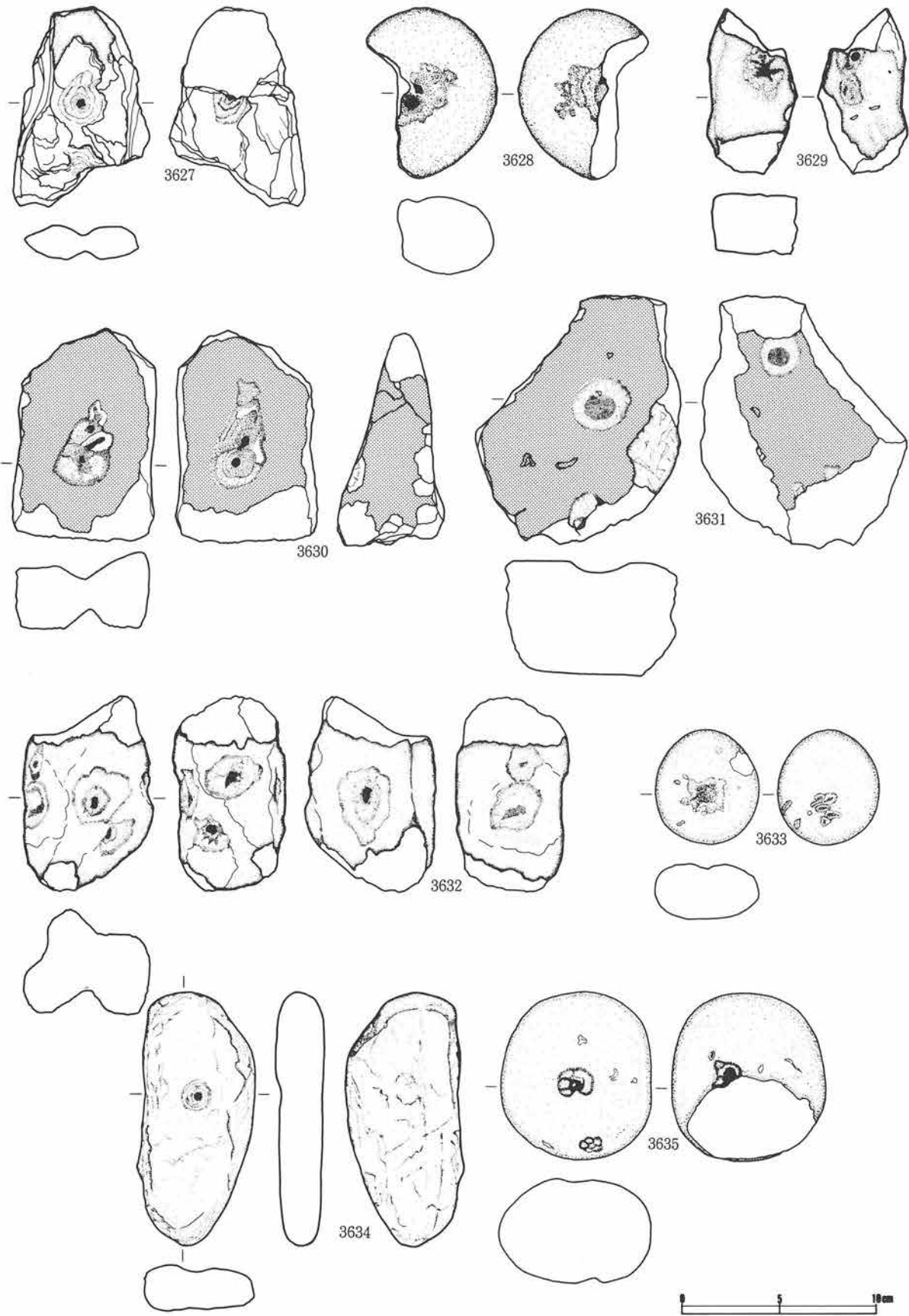
第383図 遺構外石器57 (東部・西部捨て場) 磨石



第384図 遺構外石器58 (西部捨て場・表採) 磨石

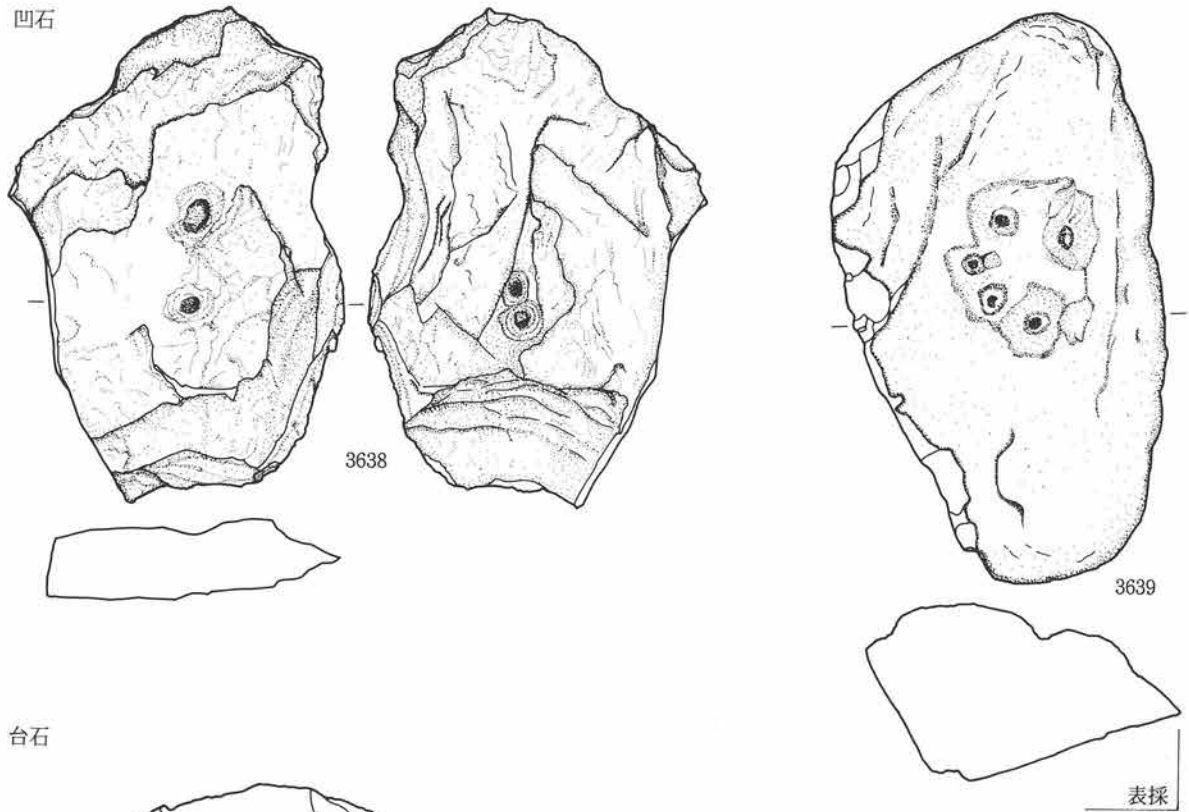


第385図 遺構外石器59 (表採) 磨石
(東部捨て場) 凹石

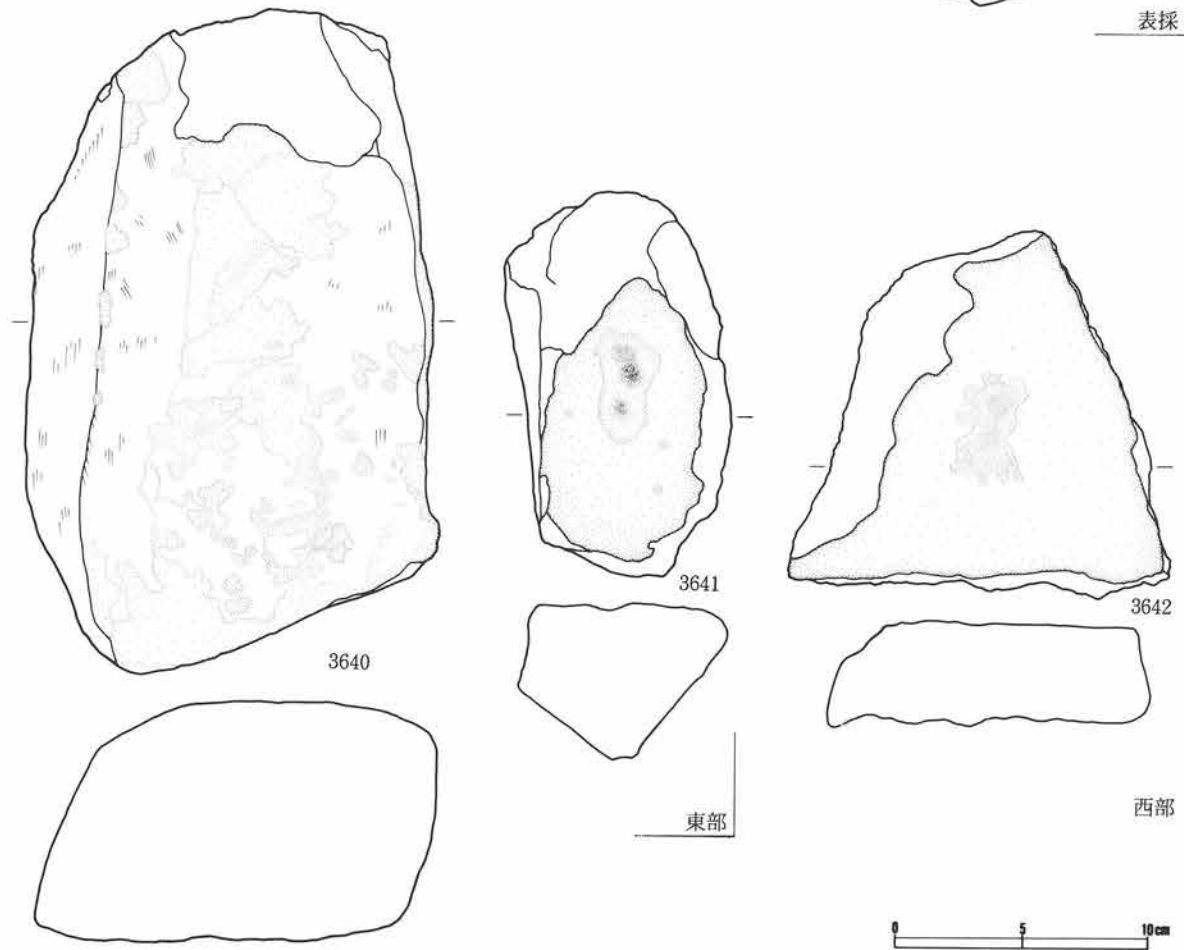


第386図 遺構外石器60 (西部捨て場) 凹石

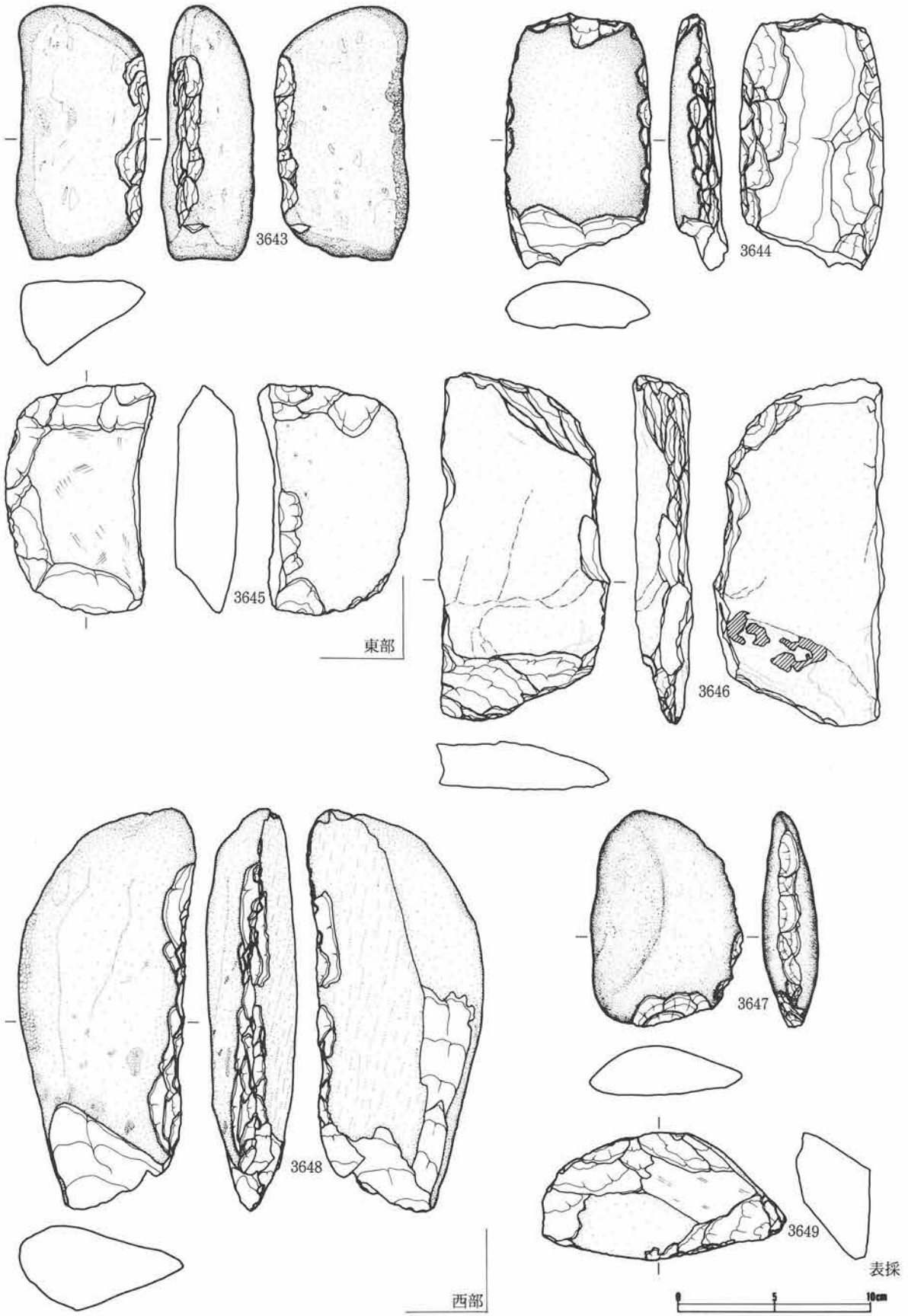
凹石



台石

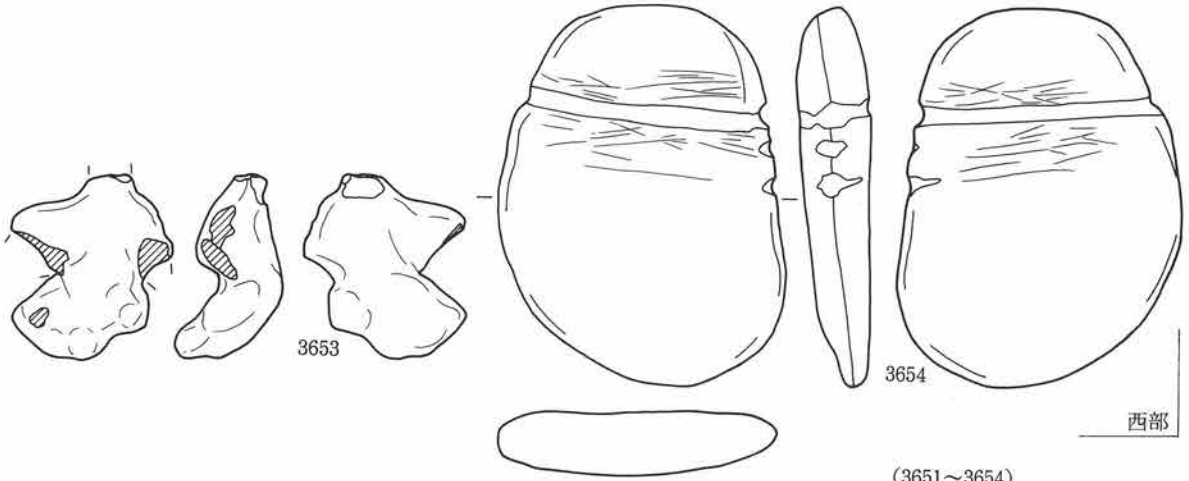
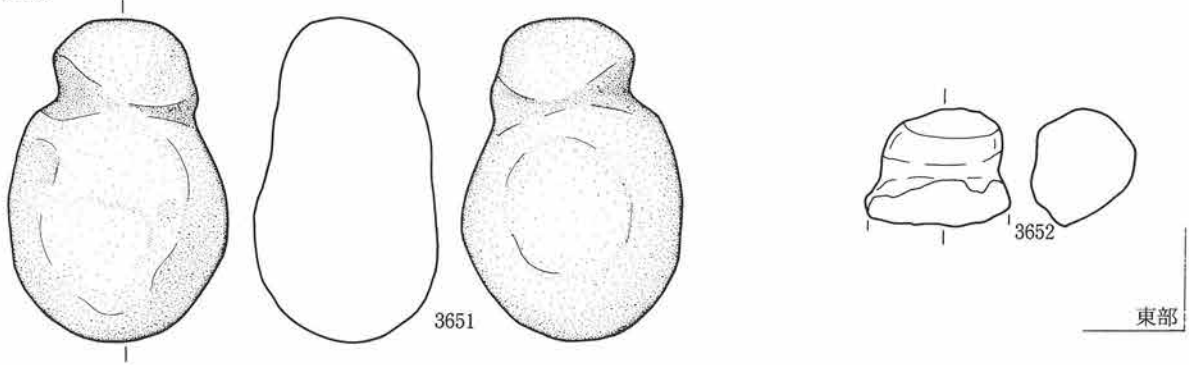


第387図 遺構外石器61 (表採) 凹石
(東部・西部捨て場) 台石

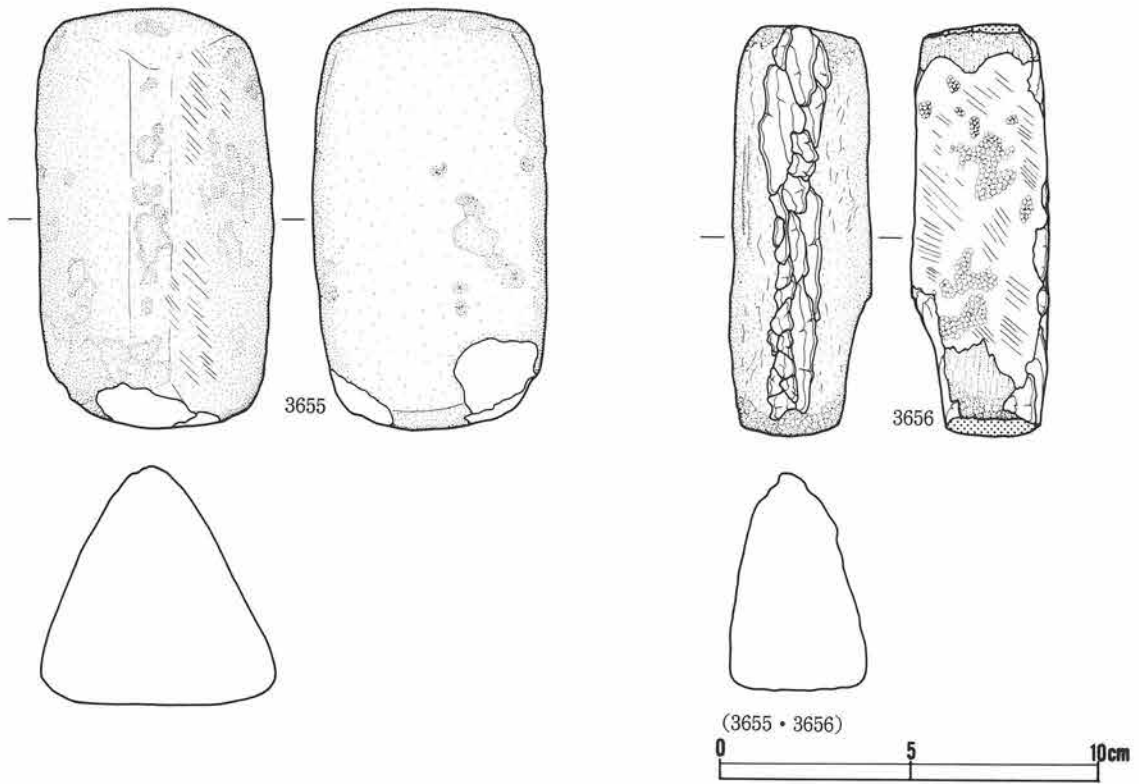


第388図 遺構外石器62 (東部・西部捨て場・表採) 礫器

岩偶

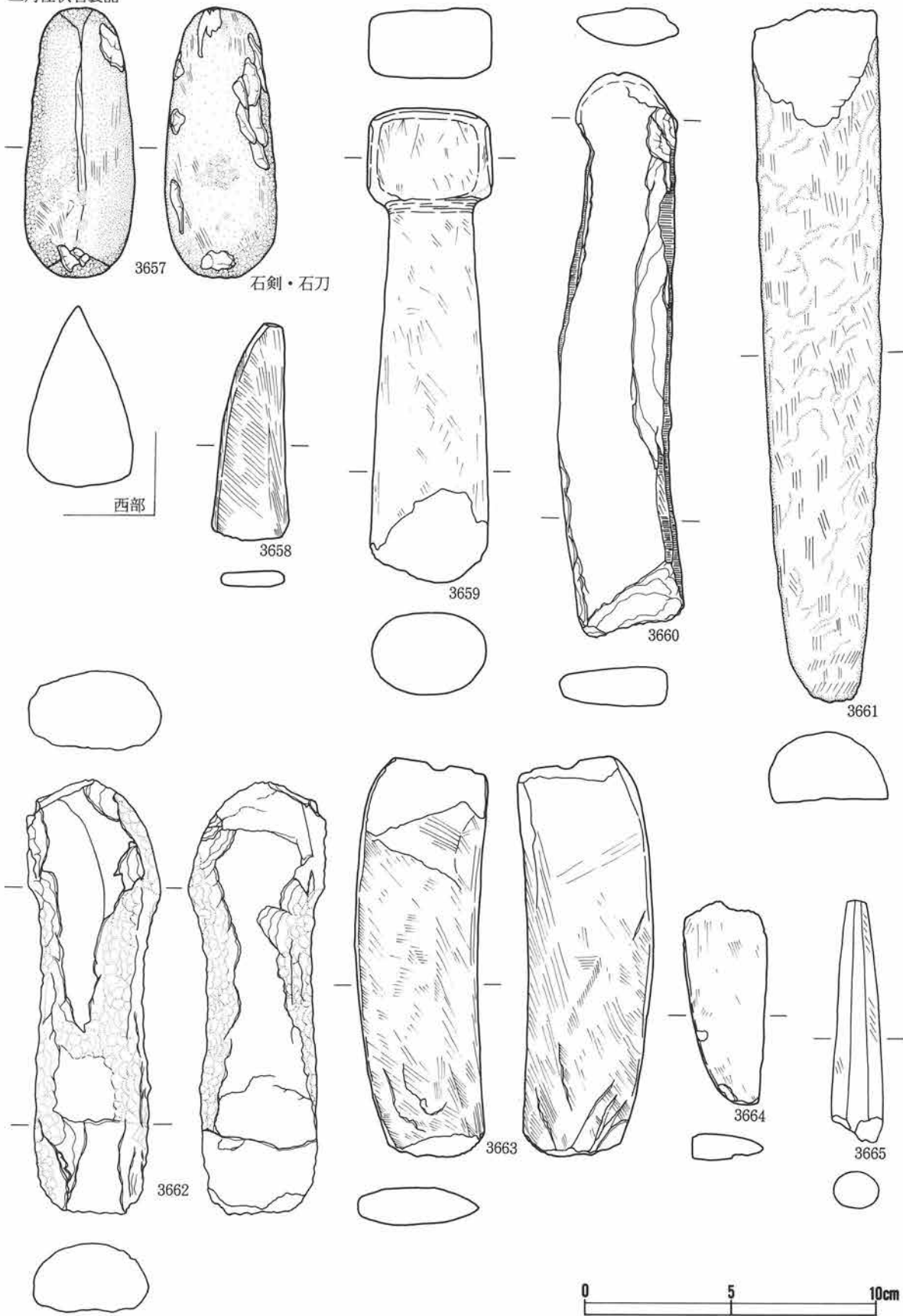


三角柱状石製品

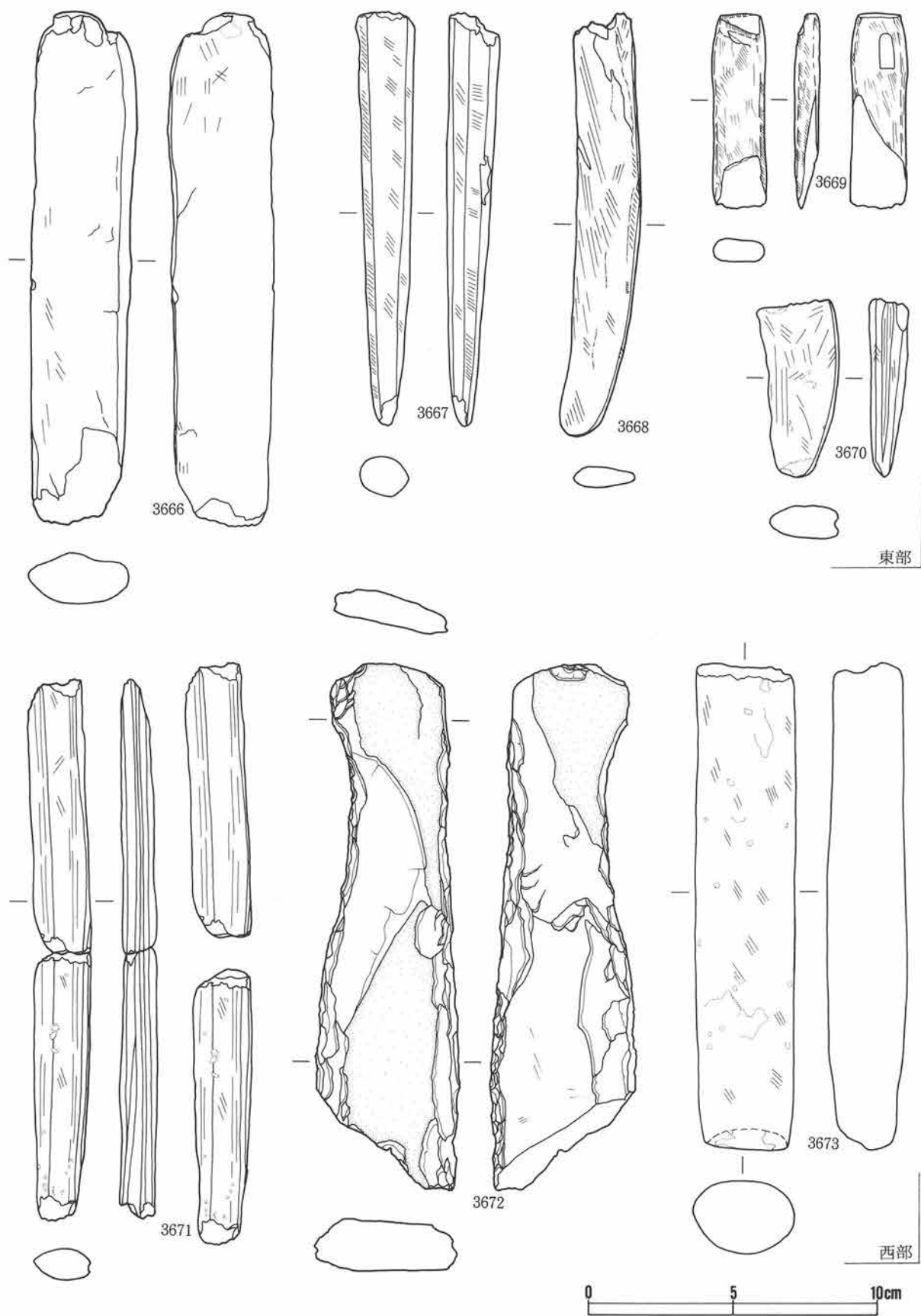


第389図 遺構外石製品1 (東部・西部捨て場) 岩偶
(西部捨て場) 三角柱状石製品

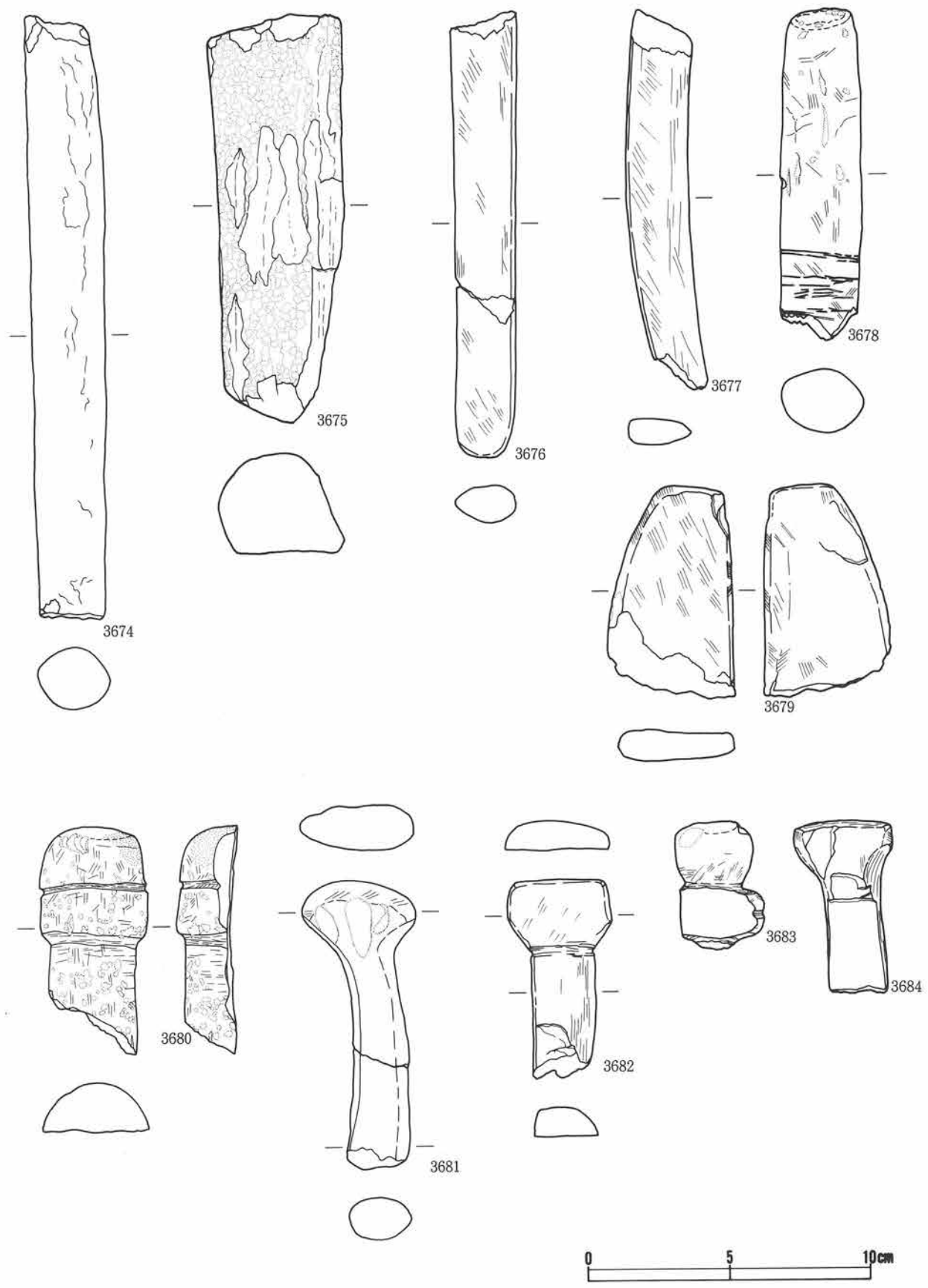
三角柱状石製品



第390図 遺構外石製品 2 (西部捨て場) 三角柱状石製品
(東部捨て場) 石剣・石刀

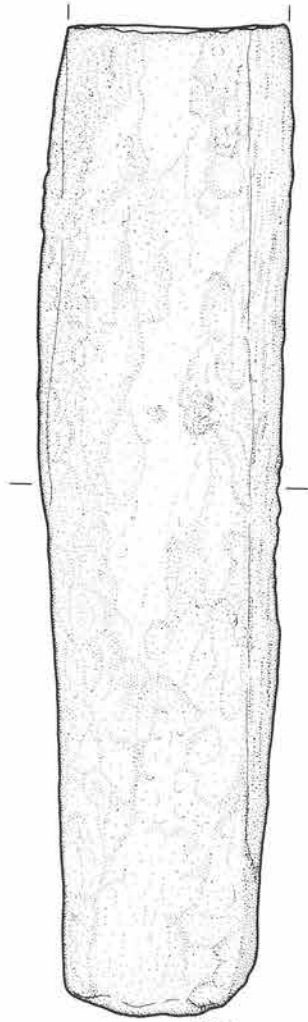


第391図 遺構外石製品3（東部・西部捨て場）石剣・石刀

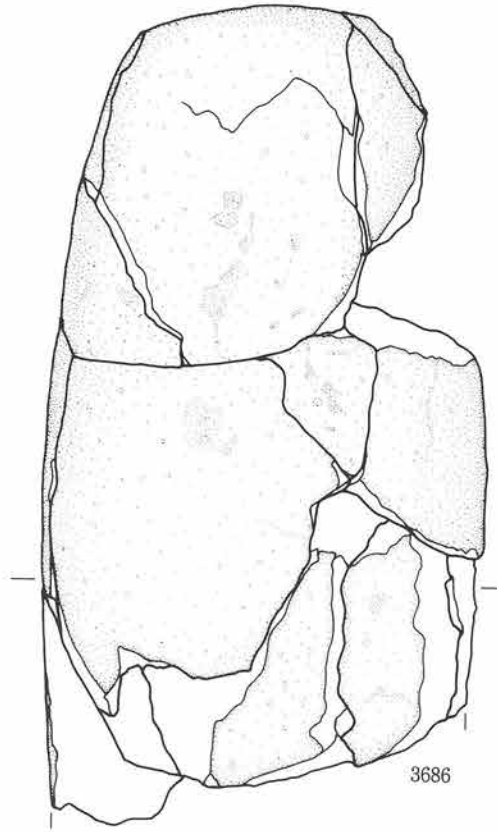


第392図 遺構外石製品4 (西部捨て場) 石剣・石刀

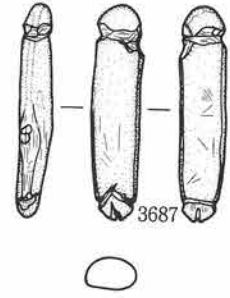
石棒



3685



3686

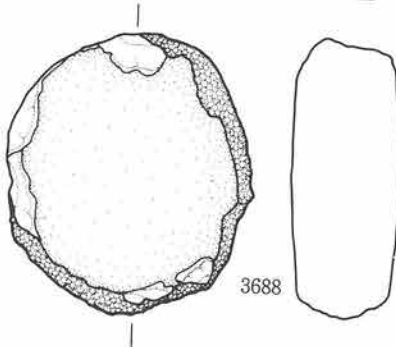


3687

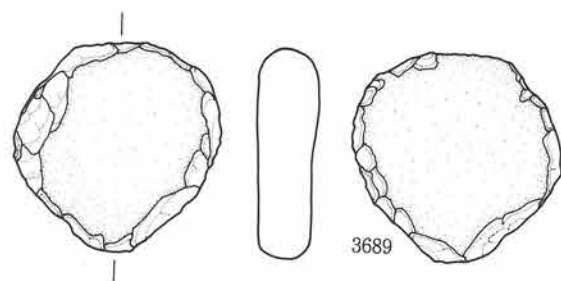
円盤状石器

東部

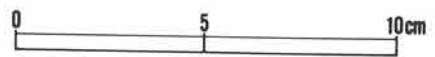
西部



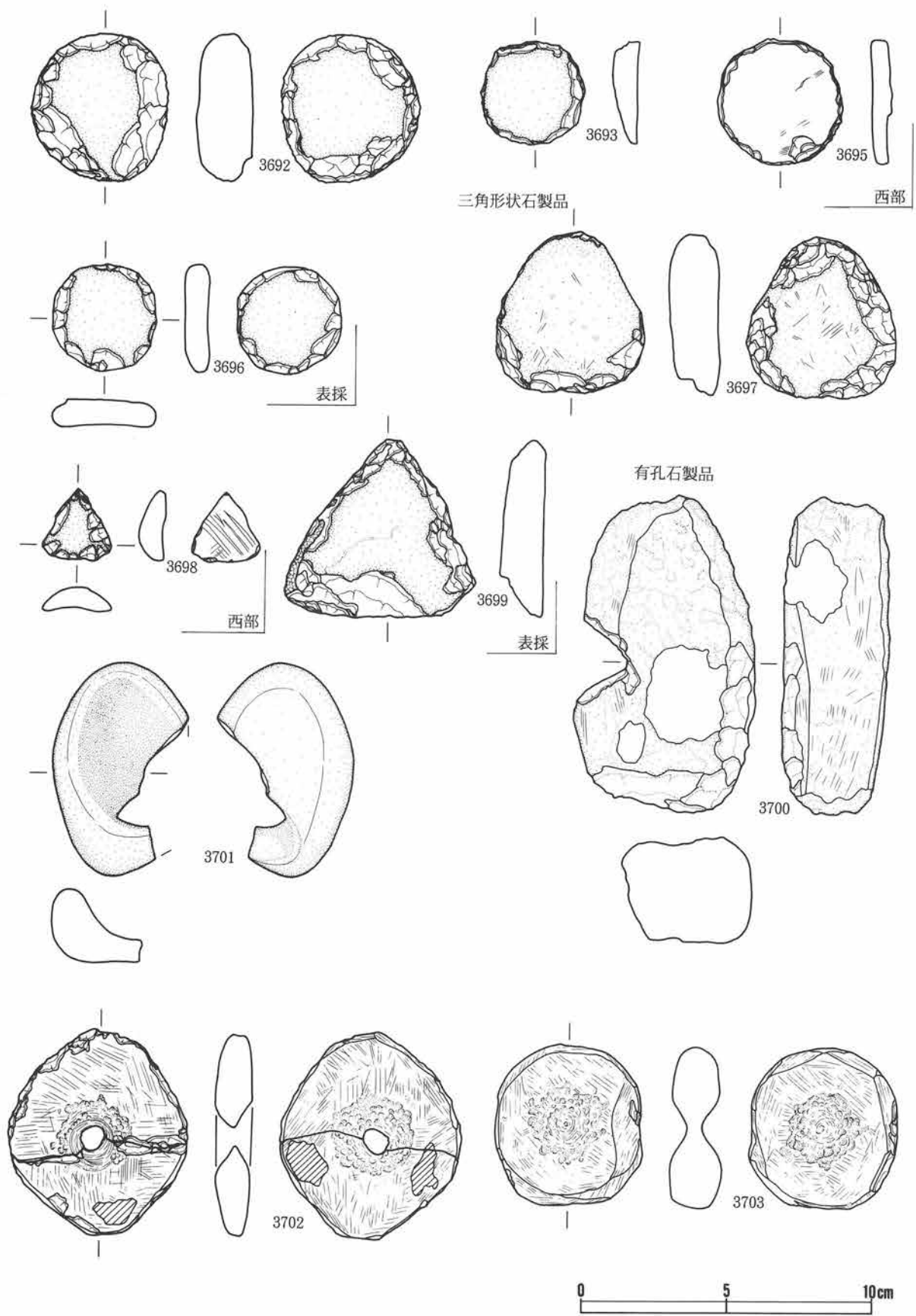
3688



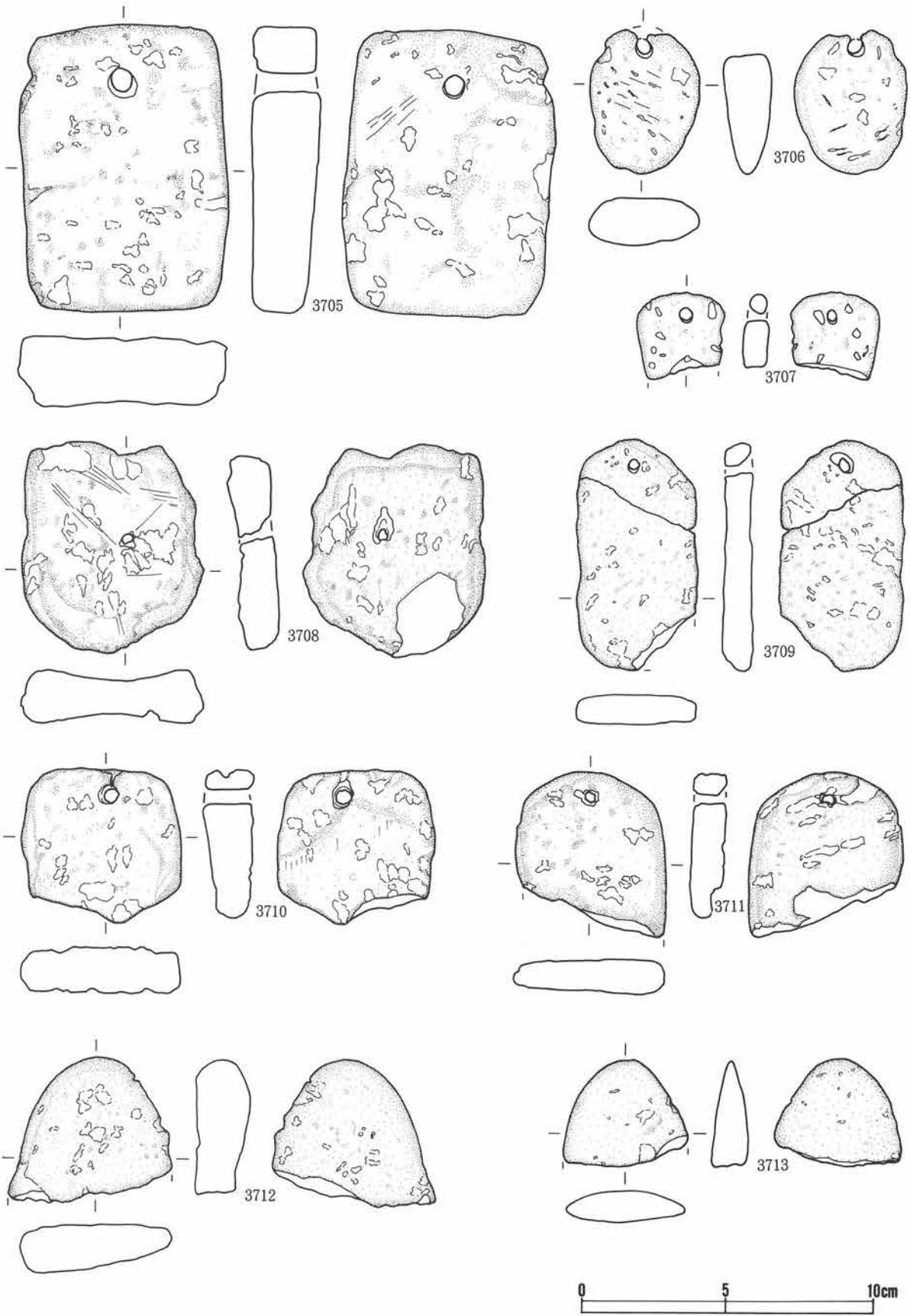
3689



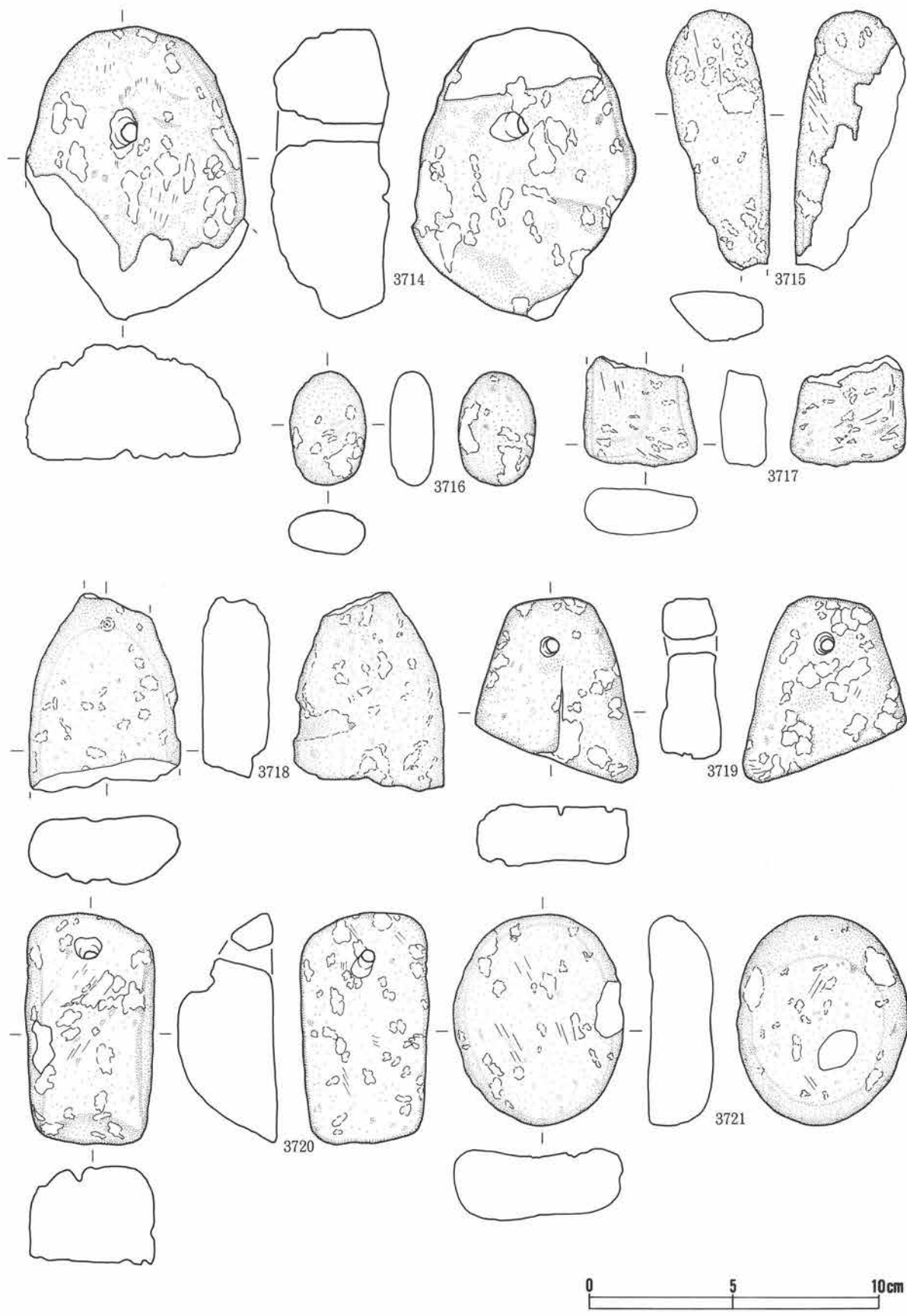
第393図 遺構外石製品 5 (東部・西部捨て場) 石棒
(東部捨て場) 円盤状石器



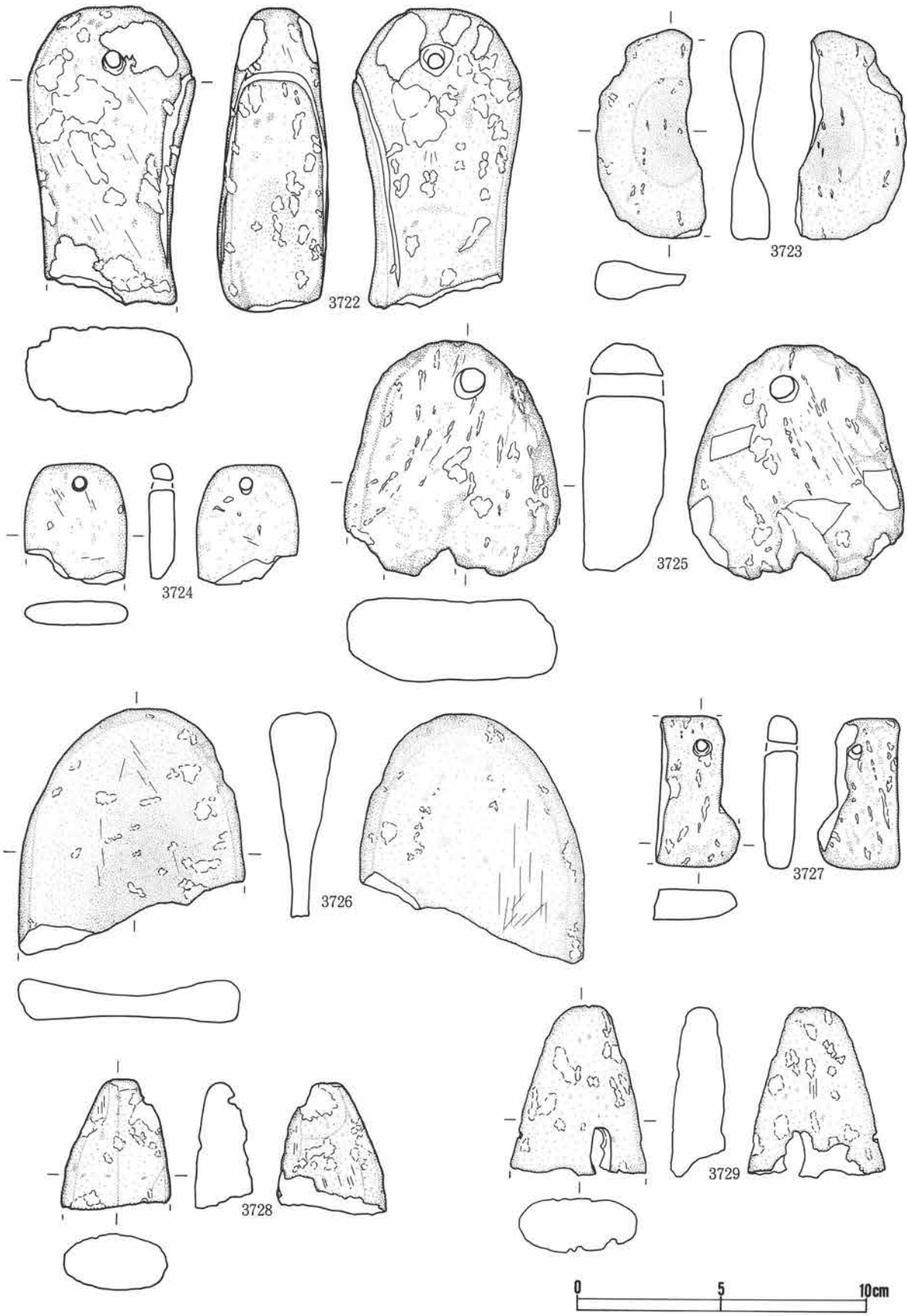
第394図 遺構外石製品 6 (西部捨て場・表採) 円盤状石器
 (西部捨て場・表採) 三角柱状石製品
 (東部捨て場) 有孔石製品



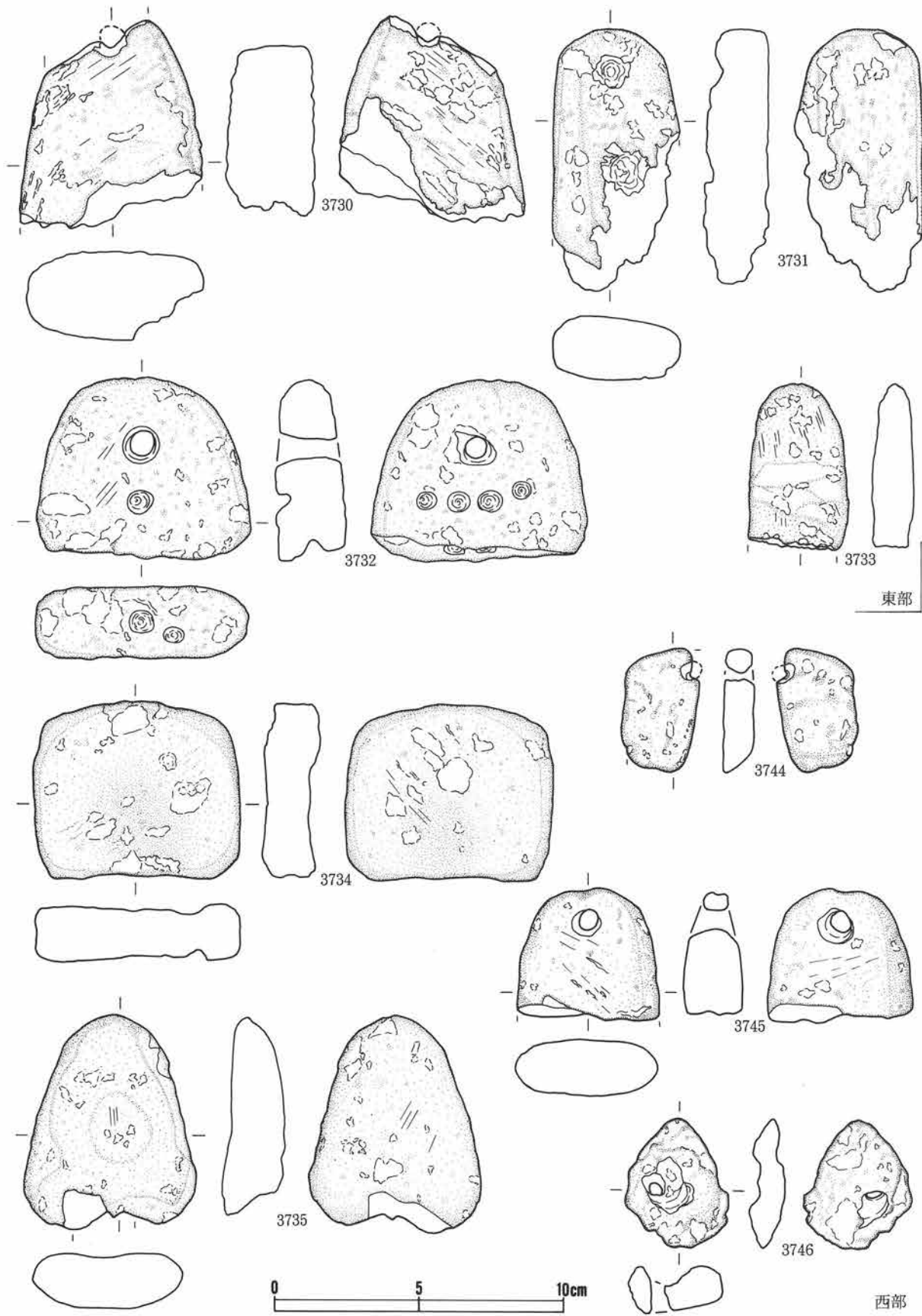
第395図 遺構外石製品7 (東部捨て場) 軽石製品



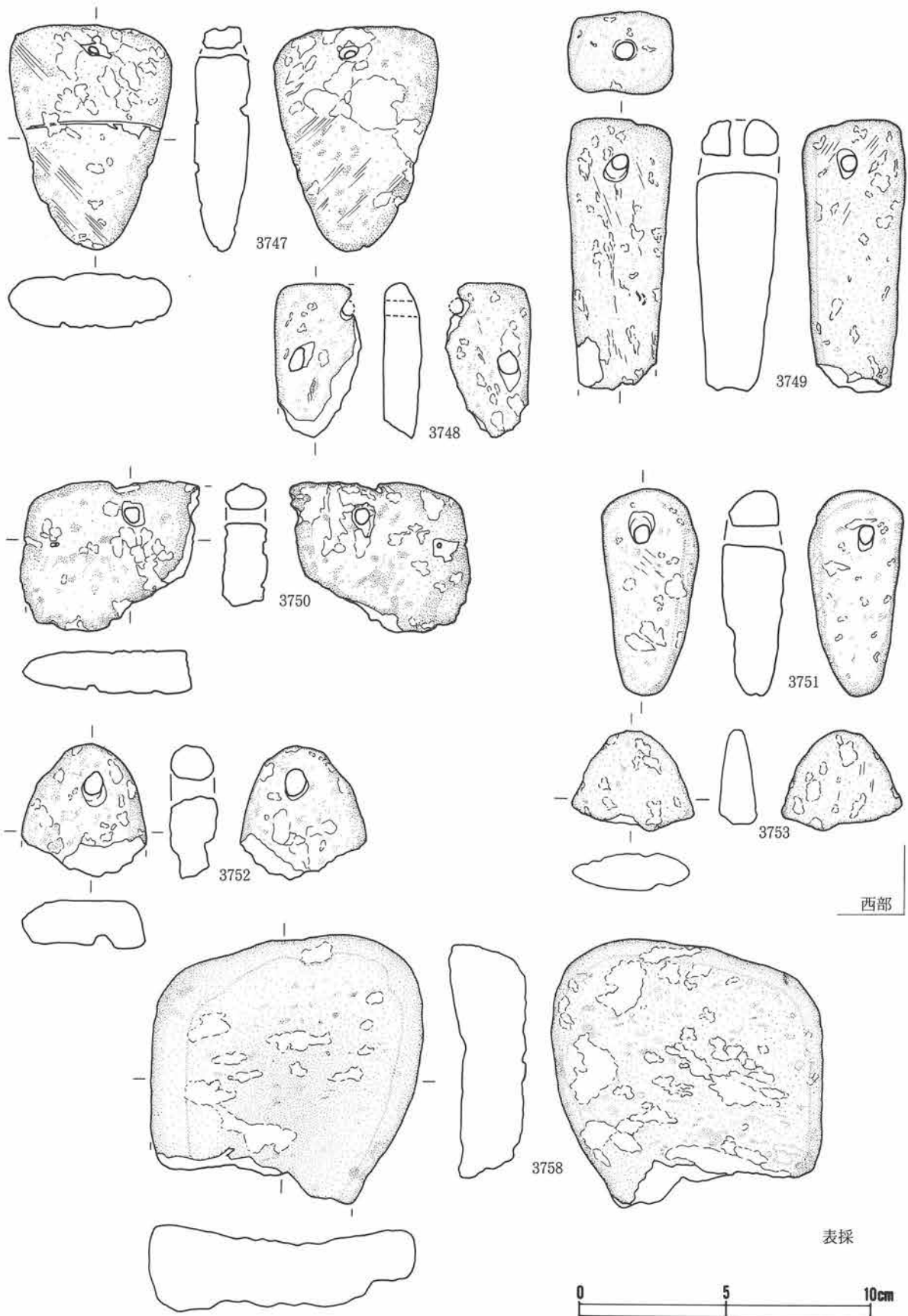
第396図 遺構外石製品 8 (東部捨て場) 軽石製品



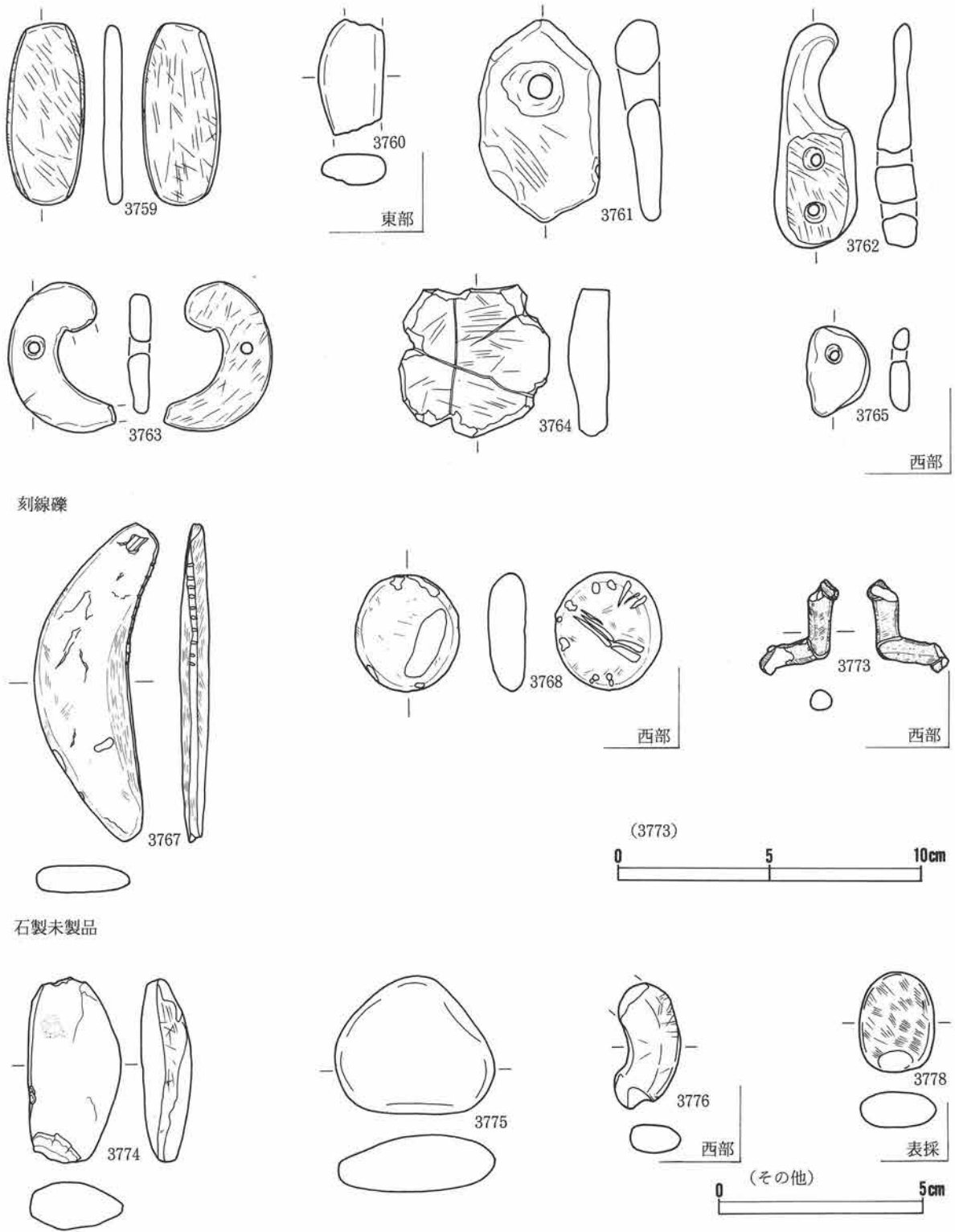
第397図 遺構外石製品9 (東部捨て場) 軽石製品



第398図 遺構外石製品10（東部・西部捨て場）軽石製品



第399図 遺構外石製品11 (西部捨て場・表採) 軽石製品



第400図 遺構外石製品12 (東部・西部捨て場) ペンダント
 (西部捨て場) 刻線礫
 (西部捨て場) ブリッジ状石製品
 (西部捨て場・表採) 石製未製品

遺物名	東部捨て場					西部捨て場					表採	遺構内	出土地不明	合計(点)
	上	変	中	下	不明	上1	上2	中1	中2	不明				
土器(I)						2		1			1			4
土器(II-1)			1											1
土器(II-2)			16											16
土器(III)						1								1
土器(III-1)	33	9	110	35		22	50	6		2	1	168		436
土器(III-2)	38	9	50	11		10	21	4				34		177
土器(III-3)	15	10	27	14		19	21	8		1		42		157
土器(III-4)	25	14	55	25		65	41	35				34	2	296
土器(III-5)	9	2	50	41		133	26	45				96		401
土器(III-6)	83	30	291	109		224	154	65			5	132		1093
土器(IV-1)	17		3	3		61	9	28		1	6	118		246
土器(IV-2)	8		7	2		32	4	12			3	93		161
土器(IV-3)	1											1		2
土器(IV)	5	4	11	6		63	10	16			2	86		203
土器(V-1)				1								4		5
土器(V-2)												2		2
ミニチュア土器	73	25	211	63	24	131	75	44			9	18		673
土偶(後期)	21	9	59	15	3	99	37	13		4	8	18		286
土偶(晩期)	3		4	2		8	2	4			1	3		27
動物形土製品			3			1		1						5
耳飾り	4	2	5	5		27	4	1			4	8		60
飾り玉			1											1
平玉	3	1	7	3		3						1		18
角玉	1		2	1		1	3	1						9
丸玉		1	5	5		2	4	2						19
子玉						1					1			2
管玉			3	2		3		1			1			10
勾玉				1		1					1			3
うす玉	1													1
粘土玉			1	1										2
特殊玉						1								1
ペンダント状玉	1		2			2		1						6
ペンダント(形土製品)							2							2
鐔形土製品	15	7	21	7		13	6			1	7			77
分銅形土製品	1		3			2	5	1				1		13
土鈴								1						1
キノコ形土製品	2	1	6	2		4	3				1			19
スタンプ形土製品		1				2								3
内面溝状土製品	6		2											8
スプーン形土製品						4	1	3				2		10
銅形土製品			2			2	3							7
土鏝	2		1		1	2	2	2					2	12
円盤状土製品	61	16	59	37		214	80	61	1	9	35	39		612
三角形土製品	53	4	40	27	1	35	32	12		1	2	16		223
手作り土製品		1												1
長楕円形土製品				1										1
土板状土製品			1			1								2
冠状土製品												1		1
角柱状土製品							1							1
三角柱状土製品	1													1
棒状土製品											1			1
くり形土製品						1								1
くるみ形土製品	1						1							2
貝形土製品				1										1
皿状土製品	1		2			1								4
石斧型土製品			1											1
板状土製品												1		1
針状土製品											1			1
円柱土製品			1											1
人面付き土製品			1			1					1			3
不明					3	2				3			3	11
粘土塊	18	3	20	8	2	76	15	14			3	20		179

遺物名	東部捨て場					西部捨て場					表採	遺構内	出土地不明	合計(点)
	上	変	中	下	不明	上1	上2	中1	中2	不明				
石鏃	178	33	260	53		223	162	51		3	112	69	4	1148
石槍・尖頭器	9	1	11	2		10	13			1	2	4		53
石鏃	45	4	56	15		63	49	20		1	25	20	2	300
石匙	18	15	53	20		74	24	17		3	12	12		248
異形石器	1		6			2	2	1			1			13
楔形石器	12	2	24	4		17	10	8			10	3	1	91
鋸齒状石器	3	1	2			2	3	2				1		14
削器	112	32	252	30	5	181	107	62		1	47	94	2	925
鏟器	5	2	7	3		19	9	3			4	2		54
円形撥器	13	2	27	8		31	15	8		1	6	4		115
挟入石器	4		4	1		26	6	2			7	6		56
石核	14	5	26	1		85	49	36			15	16		247
石斧	101	29	215	54		143	75	50	1		36	51		755
石鏃状石器			1			3		1			1	1		7
石鏃	49	11	80	30		104	64	22			19	17		396
石皿	13	10	31	13		32	12	7			3	14		135
敲石	26	10	51	16	2	69	15	18			16	21		244
砥石	7		12	2	1	9	5	1		1	1	2		41
磨石	15	2	21	6		62	14	7			6	13		146
凹石	10	2	25	8		37	10	4		2	12	7		117
台石	4		1	1		3	2					4		15
半円状扁平打製石器			2				1							3
礫器						1	2				2		1	6
大形石器												1		1
原石				1	1	131	109	48		15	53	22	6	386
岩偶	1		1			1	1							4
三角柱状石製品						3								3
石剣・石刀	12	9	40	7		36	16	15			9	11		155
石鏃			1				3							4
円盤状石器	6	3	8	1		25	2	4			9	3	2	63
三角形状石製品						2					1			3
有孔石製品	1		3	1							1			6
脛石製品	14	13	51	6		21	9	3			2	12		131
石製ペンダント(飾り)	1		1			4	1					1		8
刻線礫			1			4	2					2		9
ブリッチ状石製品							1							1
石製木製品	4	2	7	2	1	21	6	4		1	4	10	1	63
水晶	3	3	7	4		20	15	2		2	7	11		74
琥珀	5	1	5	1										12
鏡鉄鉱						2					1			3
黒曜石	1	1	1			3								6
珪化木	2	2	4			5	4	1						18
メノウ						1								1

※1 土器の点数は、東部・西部捨て場第一次登録段階、遺構内は第三次登録段階

※2 捨て場の出土地域は、第IV章参照

出土地毎遺物点数

第Ⅵ章 遺物の出土分布と接合関係について（第401～420図）

遺物の出土分布の傾向について、種別毎に出土重量あるいは出土点数をグリッド単位で図示した。併せて一部の遺物を対象として接合関係図を作成した。

対象とした遺物は、土器、ミニチュア土器、土偶、鐸形土製品、耳飾り、釧形土製品、内面渦状土製品（イモ貝形土製品）、円盤状土製品、三角形状土製品、石鏃、石匙、石錘、搔器・削器、フレイク・チップ、磨製石斧、礫石器類、石棒、石剣、石刀、軽石製品である。

詳細な分析は割愛するが、作成した図から読み取れる傾向や特記事項について、概要をまとめ、併せて若干の考察を行った。

先に、作成した図に関わる内容を説明する。

- ① 捨て場の斜面区域区分については、第Ⅲ章の7及び第Ⅳ章の12で上述したとおりである。東部捨て場は「斜面上域」・「斜面変換点」・「斜面中域」・「斜面下域」の4地点に、西部捨て場は「斜面上域1」・「斜面上域2」・「斜面中域」・「斜面中域2」の4地点に区分した。遺物出土地の空間占地を簡略して示すことを目的としたもので、第116図の区分図を参照戴きたい。
- ② グリッドについては、一辺4×4m、各グリッドの名称は南西を基準として命名する。
- ③ 遺物の接合関係図について、土器、土偶、耳飾り、磨製石斧、敲石、凹石、石皿、環状石器、石棒、石剣、石刀の各遺物において、異なるグリッドから出土した部位同士が接合したものを平面的に示した。よって、同じグリッドから出土したもの同士が接合した場合は割愛している。
- ④ 第401図上段は遺構外出土土器のみの出土量、第402図の後期・晩期毎の出土土器分布図は遺構内外を合わせた出土量で資料を作成している。

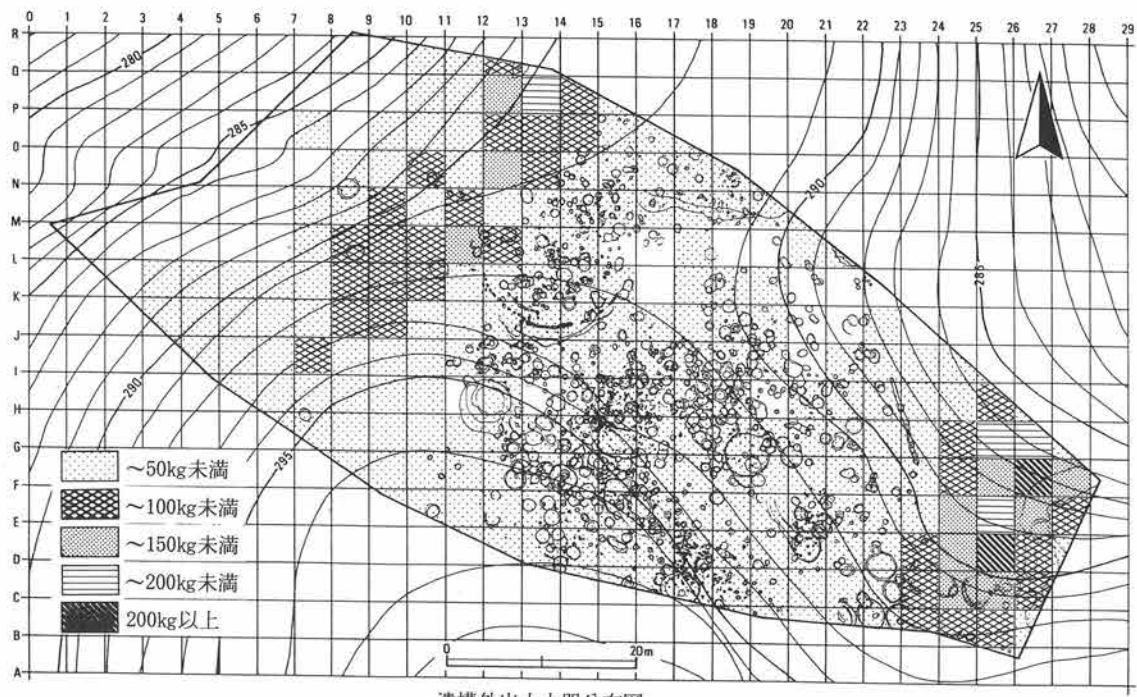
1 土器

（1）土器の分布状況について

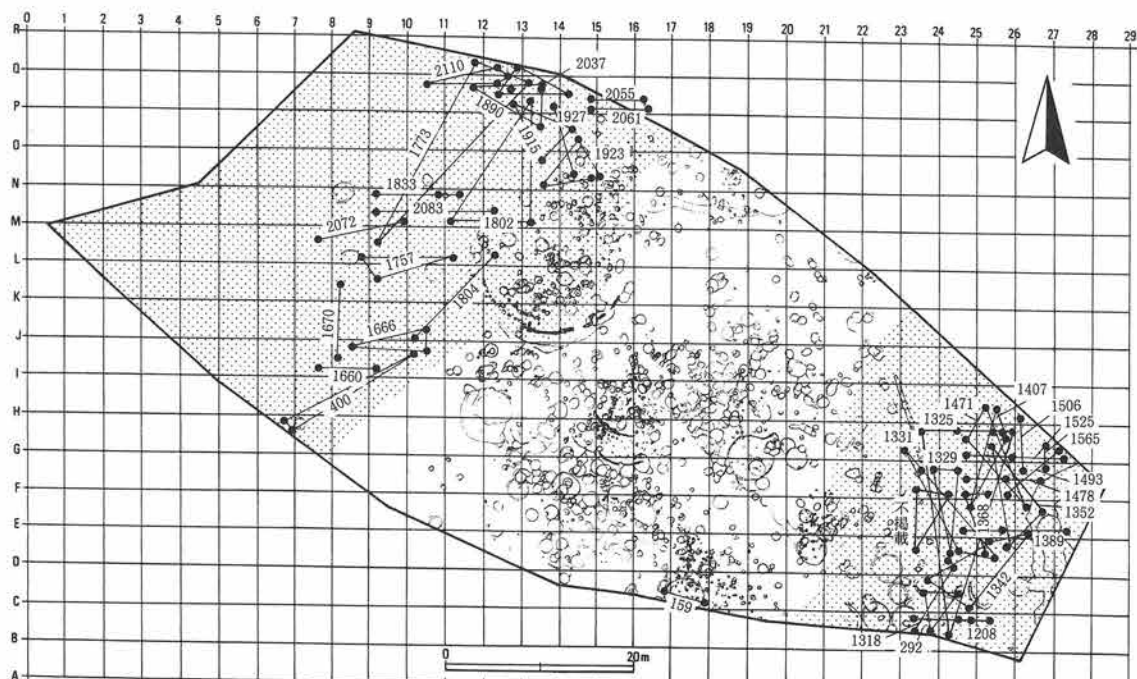
① **全体の概要** 土器の出土地点の傾向を探るため、第401図上段にはグリッド毎に遺構外出土土器の出土重量を示した。出土重量は、0～50kg未満、50kg以上～100kg未満、100kg以上～150kg未満、150kg以上～200kg未満、200kg以上の5段階に大別し、スクリーントーンでそれぞれ図示した。なお目安として当センターで使用しているコンテナ1箱（T40：42×32×30cm）には、9号のビニール袋で約10袋前後、重量に換算して25～35kgの土器が入ることから、100kgの土器であればコンテナ3～4箱分となる。

第401図上段の図を見ると100kg以上の土器が出土したグリッドは、C24・C25・D24・D25・E24・E25・E26・F25・F26・F27・G25・G26・L11・N12・P12・P13の16ヵ所である。特出して出土量が多かったのは、東部捨て場斜面中域のD25・F26・E25グリッドで、次いで東部捨て場斜面下域のG25・G26グリッド及び西部捨て場斜面上域2のP13グリッドである。D25グリッドは228kg、F26グリッドは257kg、E25グリッドは183kg、G25グリッドは155kg、G26グリッドは192kg、P13グリッドは177kgの出土量である。これらのグリッドは全て主体となるのは後期の土器である。

土器の接合関係について、第401図下段には土器の動きをみるため、異なるグリッドから出土した同士が接合した状況を示す接合関係図を作成した。東部捨て場同士や西部捨て場同士で接合関係を示すものがほと



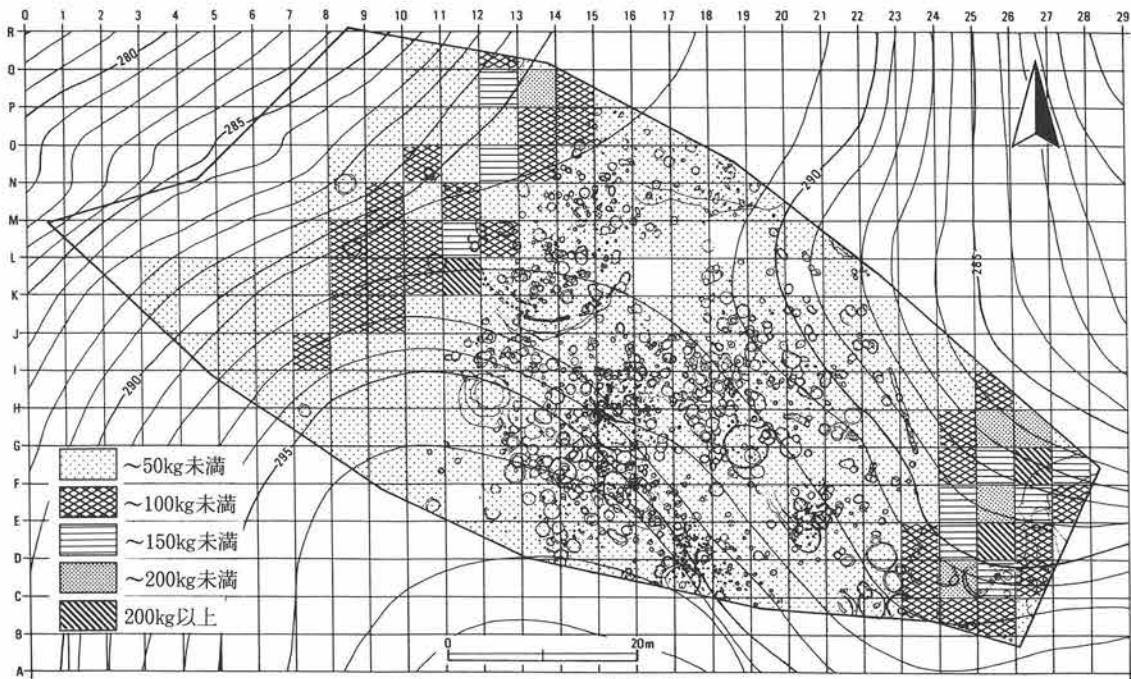
遺構外出土土器分布図



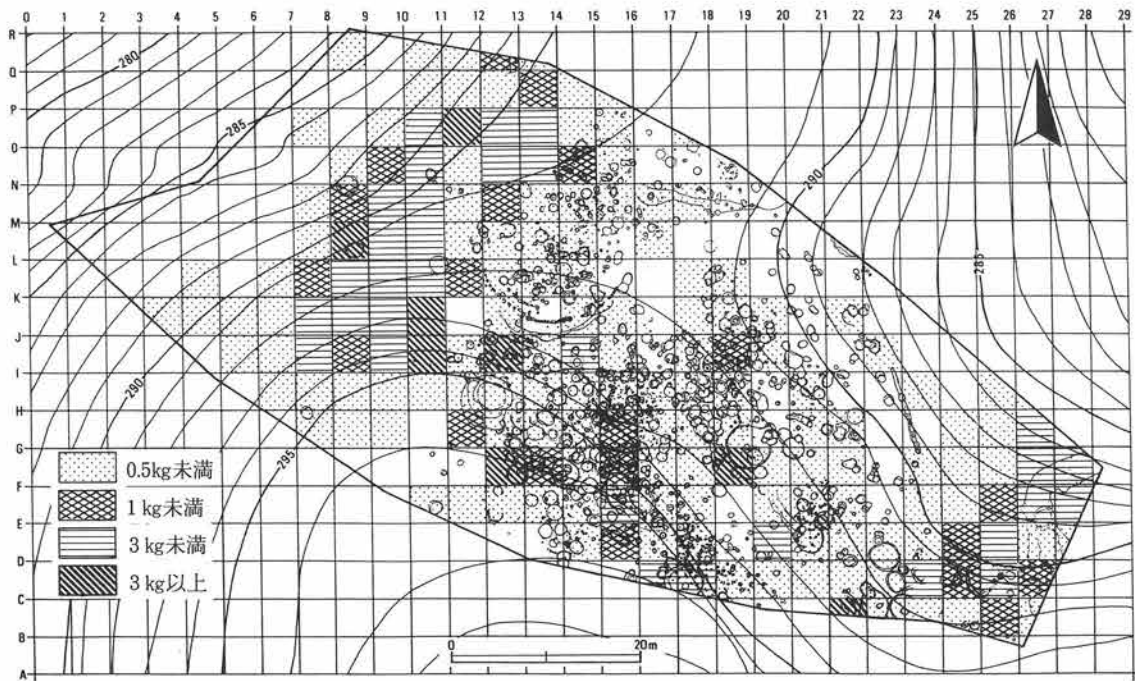
土器接合関係図 (遺構内外)

※トーンは捨て場の範囲

第401図 土器出土分布図 1



後期土器出土分布図（遺構内外）



晚期土器出土分布図（遺構内外）

第402図 土器出土分布図 2

んどであり、斜面の傾斜に対して上下方向をとるグリッド同士での接合関係が多い。

状況資料から筆者が推定した要因は、下記のa～dである。

a 一個体の遺物を別々の場所に廃棄した行為の可能性（一次廃棄）。

b 本来遺物を廃棄した中心は斜面の上方地域であったものが、自然現象により、土砂流入と共に斜面中位～下方に流され、現在の出土位置となった可能性。

c 縄文人により、土器を包含する土自体が動かされている可能性。第IV章の住居跡の記載で若干触れた縄文人による造成工事的な行為や遺物包含層中に遺構を構築した際の排土中の土器が動かされたなどの要因が考えられる。

d aに多少関連するが、最初にある場所に一次廃棄した後に、二次廃棄を行うなどの行為。

筆者の所見（見解）としては、本遺跡においては上記したa～cの要因は全て存在すると思っている。dの要因については、明確には立証できないが、後述する土偶、磨製石斧、石剣・石刀などの出土状況を加味すると可能性が全くないとは言い切れない。

② **東部捨て場における土器** 調査区東側斜面地は、ほぼ全域にわたって捨て場として利用された空間であることは、土器の出土量からも窺い知れる。

東部捨て場で最も出土量の多かったD25～E25グリッドは、東側斜面の中腹付近に位置し、斜面傾斜変換点の下方付近に相当する。斜面区域区分では斜面中域とした範囲内にあり、当初は竪穴住居跡と間違っって精査を行った経緯のある地点で、約6 m程の凹地状の地形を呈する。十和田b火山灰の分布するII層面から無遺物層までの層厚は250cm以上で、本遺跡中で最も厚く遺物包含層が堆積する。ただし、土層は上位からII層（十和田b火山灰混入層）→III層（後～晩期遺物包含層）→II層→III層→IV（中礫火山灰混入層）→V層（無遺物層）の順で堆積するなど互層が顕著に把握できる部分である。下位の十和田b火山灰の堆積様相は、地形に沿って線状を示すことからプライマリーに近い堆積と判断される。上位の堆積は、II層とIII層がセットで流出してきた最堆積層と捉えられる。上記のことから、当時の人々がこの付近に集中的に土器を棄てたのではなく、自然地形的要因により斜面上方から土砂（主に黒土）と共に流出してきた土器が溜まり、出土量が多かったと判断される。なお、同付近からは後期前葉～末葉土器が全般に多く、また土偶、鐔形土製品、搔器・削器、フレイク・チップ、磨製石斧なども多く出土している。

上記に次いで出土量が多かったのがF27・G25・G26グリッドで、東部捨て場斜面下域に相当する地点である。後期前葉及び後期後～末葉の土器が主体であり、特に土偶の出土点数が多かった地点である。ただし、土偶の出土状況としては後期中実土偶と晩期中空土偶が、ほぼ同一の層（レベル差がない）から出土するなど、層位的には混在が多いと思われる地点であり、精査結果からは特異性を感じれなかった。

東部捨て場について簡単にまとめると、斜面上域の北側部分（H22～H24・I23～24グリッド付近）からの出土量が比較的少なかった以外は、ほぼ全域に渡って出土量が多かった。

また土器の動きとして、第401図下段に図示した土器の接合関係図を見るとおり、斜面上域と斜面中域及び斜面中域と斜面下域同士で接合した土器が頻繁に見られる。ただし、東部捨て場における土器の行為としては、上述したa・dの要因を証明できる出土状況になく、bとcの要因が主なものと考えている。

bの要因については、斜面中域が土器に限らず土製品や石器類についても特出して出土量が多いことから、本来の廃棄地は斜面上域であった可能性は充分考えられると思う。

cの要因については、斜面上域の南部周辺には遺物包含層中に構築されていた晩期の住居跡が多かったことから、その際に生じた排土は普通に考えれば斜面の下方に捨てるのが自然であると推定する。第401図下

段に接合関係を示した1318と1325は何れも円筒下層式土器であり、cの要因で矛盾はないと考える。

一方、仮にaの要因が東部捨て場に存在するなら、壊れて廃棄したのか、あるいは意図的に壊して廃棄したのかと言った問題が生じよう。結果としては、東部捨て場出土の土器について意図的に別の地点に廃棄した可能性やわざと破壊した行為などは認知できなかった。

③ 西部捨て場における土器 調査区西側斜面地は、捨て場として利用された空間に占拠が存在しそうであることが、土器の出土量からも窺い知れる。

西部捨て場で最も出土量の多かったのが、上記したP13・P12・N12の各グリッドで斜面上域2に相当する地点である。この付近は、第401図上段の図などに記した等高線（現地表面の段階で作成）の流れを見るとおり、標高290～291mの間が不自然に広く、遺物の出土も土器だけでなく土製品・石器類全般に多かった。

西部捨て場において、全般に出土量が少なかったのが斜面中域1、皆無に等しい状態であったのが斜面中域2である。第118図の土層断面図⑧を見るとおり、遺物包含層の堆積が薄い地域であり、斜面上方からの土砂流入がこの地域にまで及ぶことが少なかったと捉えられる。

西部捨て場について簡単にまとめると、本来遺物を廃棄した中心地は、標高290mより上位に位置する斜面上域1や斜面上域2に相当する範囲と思われる。斜面上域2の出土量から推定して、調査区外のQ～R12～13グリッドには、相当量の土器が包含されていることは確実であり、更にその北側についてもその可能性が高いと思われる。

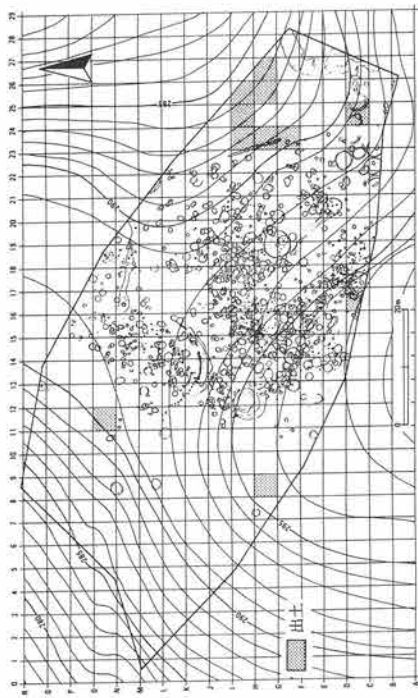
土器の動きについて、第401図下段の接合関係図を見ると、大半は斜面上下方向同士のグリッドで接合している。ただし、400・1660・1666・1804などについては、等高線の流れから考えて斜面の上・下方向同士ではないことから、地滑り現象（土砂流入など）などの自然的要因によるとは考え難い。400は、G6土坑の埋土から出土した土器と、同土坑から約15m離れたI15グリッド出土土器が接合したものである。上述したcの要因が考えられよう。

（2）土器の時期毎分布傾向

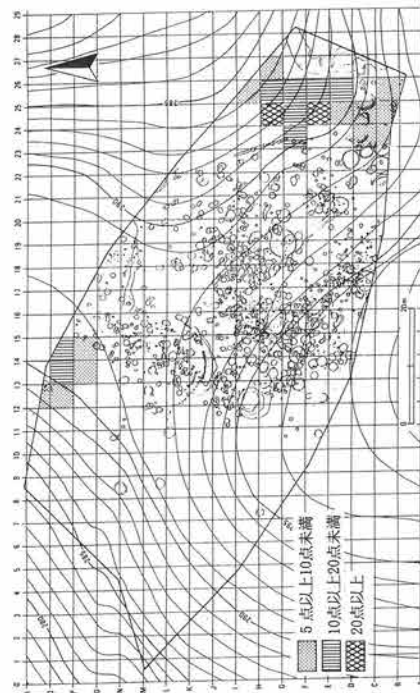
本稿で行った土器分類毎に、時期別の土器出土分布図（第403～405図）を作成した。資料としては、第二次登録段階（第三次登録段階が掲載した土器）の遺構外土器数（文様が明確なもの）を採用して、その点数を図示した。完全な分析資料とは言えないが、傾向を窺うと言う目的であれば、資料としてたえられると判断する。なお、出土数が微量であった早期～前期初頭の土器は割愛し、前期末葉の円筒下層d式についても出土したグリッドの明示のみとした。

① 前期土器 前期の円筒下層d式土器については、5箱分程の出土量である。第403図上段左の図を見るとおり、出土地の主体は東部捨て場の斜面上域と斜面中域で、わずかに西部捨て場の斜面上域1からの出土となる。上記の周辺は、IV層（中礫火山灰混入層）の堆積が比較的良好な地点である。

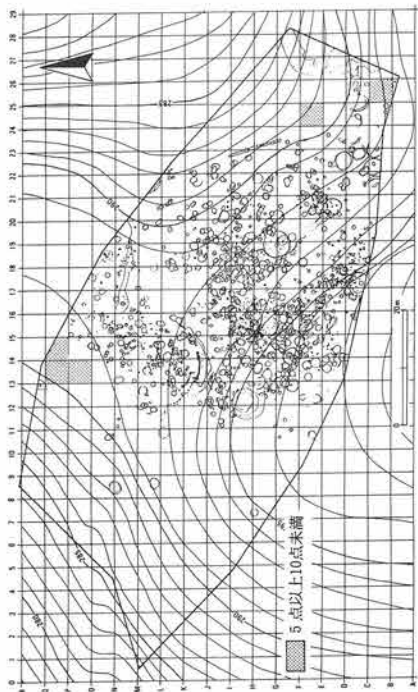
後～晩期の出土量が比較的少なかったF23・G23・H23・H24グリッドからの出土が多いことから、後～晩期の土器とは出土占拠が若干相違する傾向が窺え、あるいは廃棄地の旧地形（斜面角度など）が前期の時代と後期の時代では若干違ふのかもしれない。また、本遺跡からは円筒式土器に伴い出土すると考えられている半円状偏平打製石器（3643～3648など）と思われる礫石器が数点出土している。ただし、層位的に伴出関係にあったのは、後～晩期の土器である。



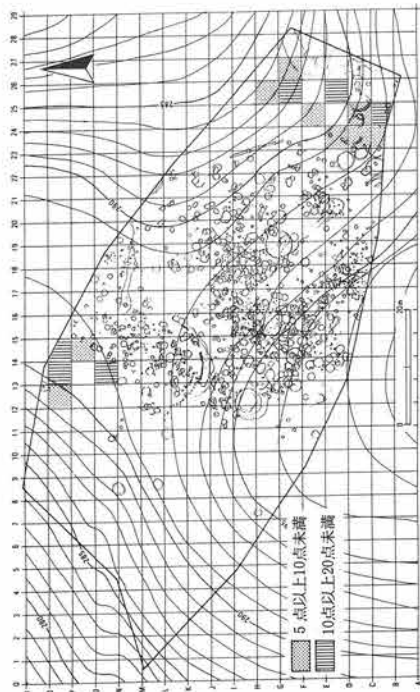
第II群2類土器(円筒下層d式)



第III群1類土器(十腰内I)

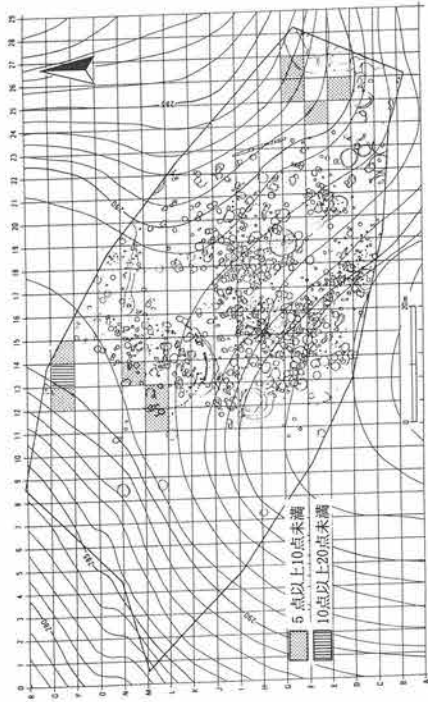


第III群2類-1土器(十腰内II)

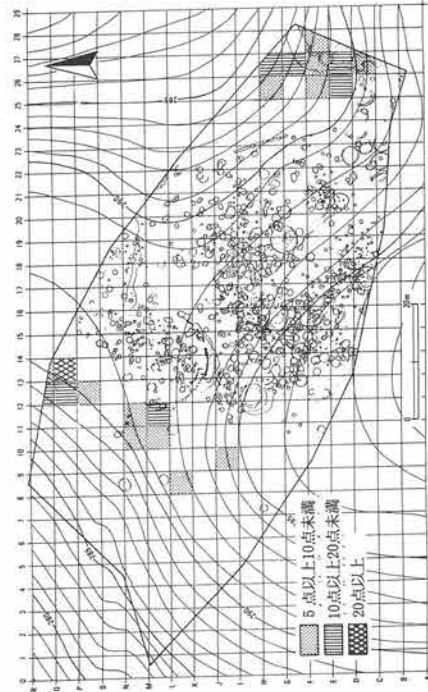


第III群2類-2土器(十腰内II~III)

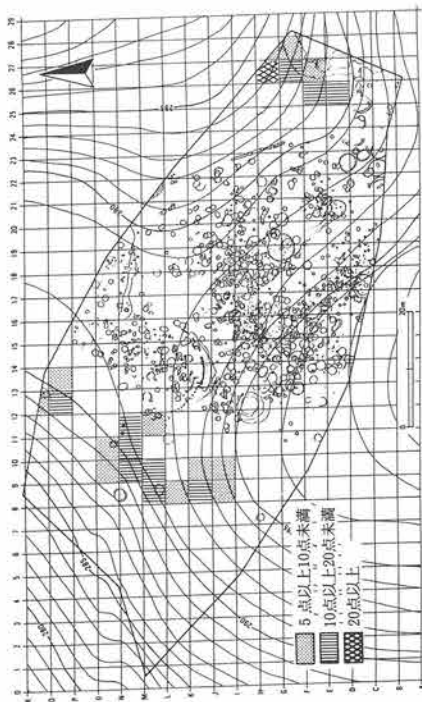
第403図 土器出土分布図3



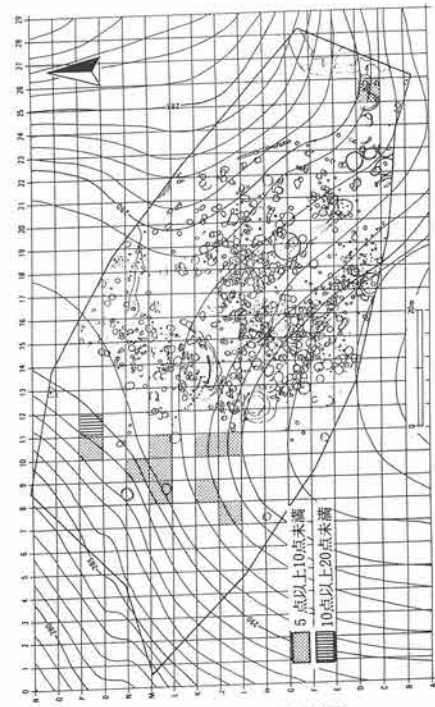
第Ⅲ群3類土器（十腰内Ⅲ）



第Ⅲ群4類土器（十腰内Ⅳ）

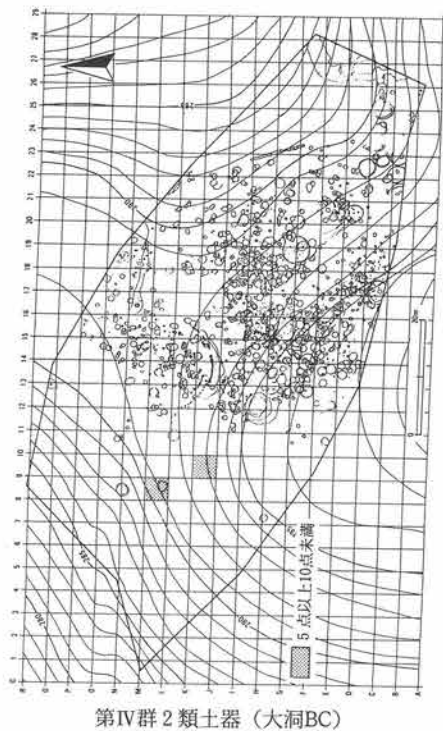


第Ⅲ群5類土器（十腰内Ⅴ）



第Ⅳ群1類土器（大洞B）

第404图 土器出土分布图4



第405図 土器出土分布図5

② 後期土器 遺構内外を含めた後期土器の出土分布図が、第402図の上段の図である。基本的には第401図上段の遺構外土器出土分布図と同様の傾向が読み取れる。時期別の出土点数をみると、十腰内I式期と十腰内IV・V式期の出土点数が圧倒的に多く、十腰内II～III式期の出土点数が少ないことがわかる。

分布については、斜面区域区分での出土量の多少が、必ずしも本来の廃棄地とは捉えられない。ただし、大別して東部捨て場内、西部捨て場内として見れば、時期別の廃棄量の傾向は窺えるように思う。

十腰内I式期においては、圧倒的に東部捨て場からの出土が多く、特に斜面中域に多い。西部捨て場においては斜面上域2の狭い範囲に分布が集中する傾向である。

十腰内II～III式期については、土器の時期同定の問題もあり、とりあえず第403図下段と第404図上段左の3つの図を作成した。全般的な傾向としては、十腰内I式期と同様の分布地が主体である。

十腰内IV式期においては、出土量的には西部捨て場が多いが、東部捨て場と西部捨て場の両者に比較的均等に廃棄した様相である。

十腰内V式期においては、西部捨て場が廃棄の主体となる。特に斜面上域1の南部に廃棄地が広がる様相である。

③ 晩期土器

後期土器の出土量と比較すると、概算で1/4以下(約100箱分)の出土量である。第402図下段の図は遺構内外合わせた出土重量であり、第404図右下の図と第405図は遺構外のみ出土点数である。

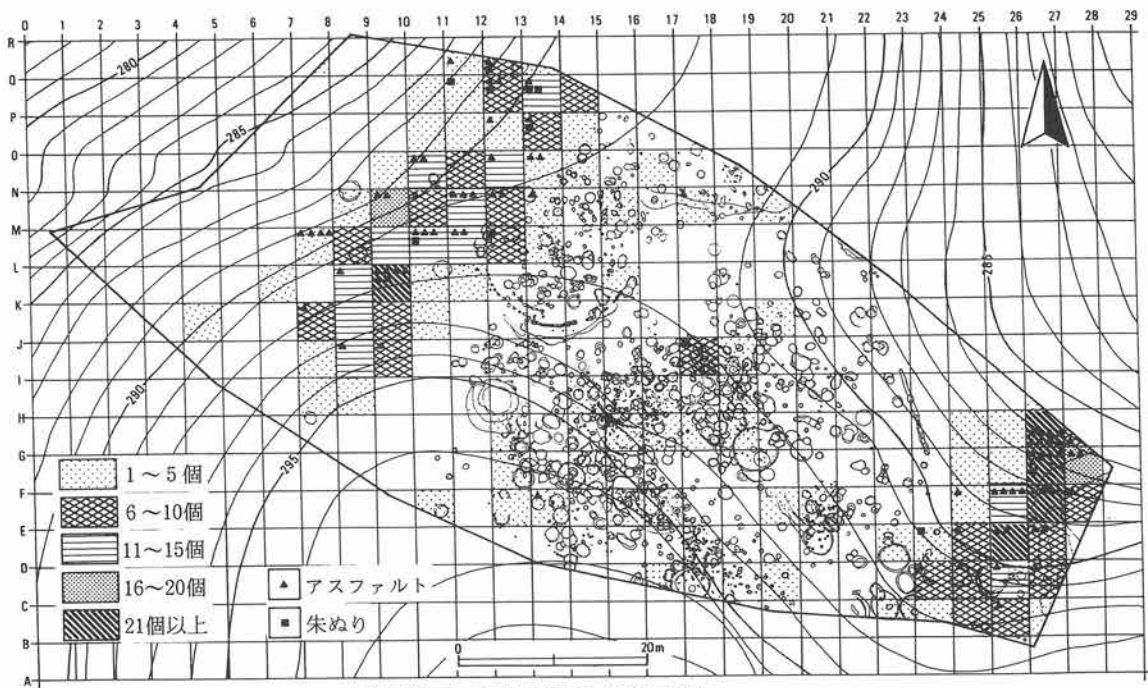
後期の土器に比べると、住居跡などの遺構からの出土量が多いためか、出土分布は後期より広範囲である。捨て場への廃棄については、十腰内V式期と同様に西部捨て場の斜面上域1が主体となる。

(3) 注口土器の分布状況について

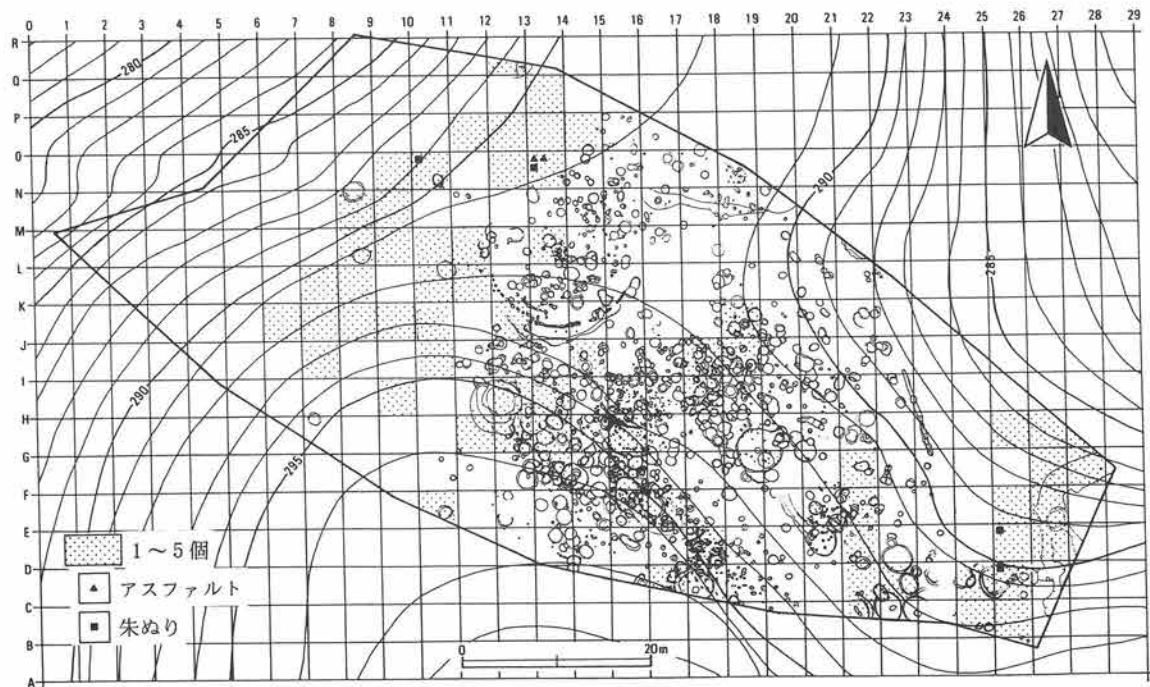
本遺跡から出土している注口土器は、全て後～晩期に属するものである。時期的に出土数が多いのは後期後葉～末葉で、後期中葉以前は極端に少ない。

本遺跡からは、胴部と接合しなかった注口部のみの(大部分は不掲載とした)出土も相当数あることから、それらも点数に加えて作成したのが第406図である。また、それら注口部にはアスファルトの付着が多く、また朱の塗布が確認されるものが見られる。

① 後期の注口土器 上記したとおり後期後～末葉のものが多いことから、第406図上段の図は十腰内IV・V式期土器の分布と同様の分布傾向を示す。

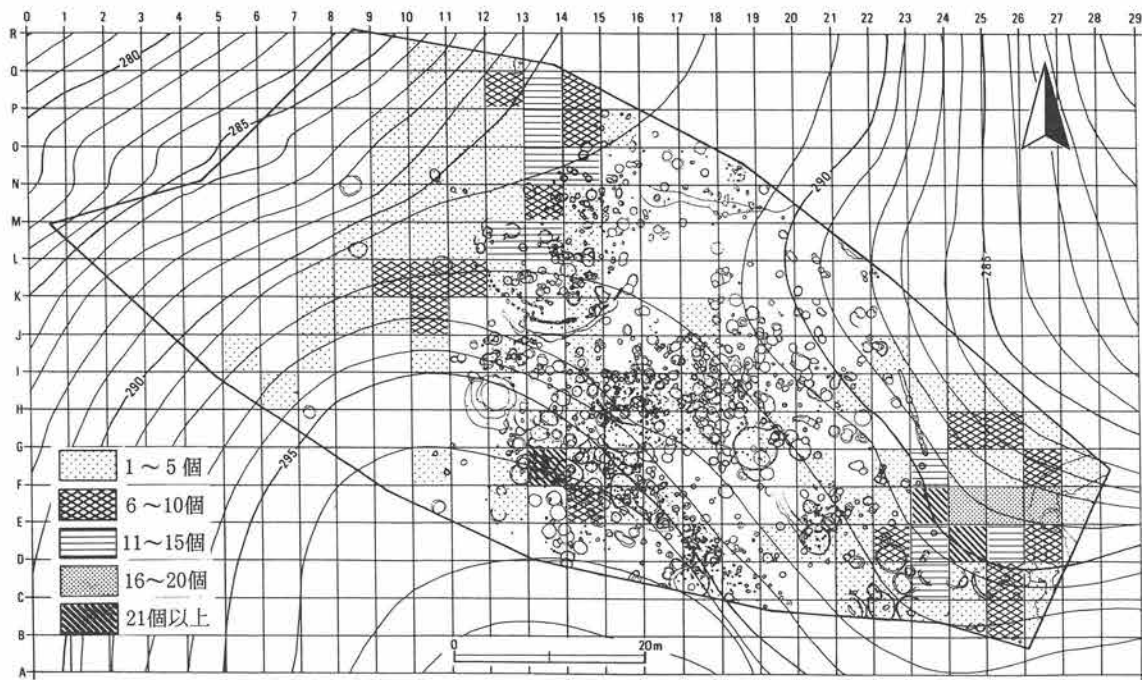


後期注口土器出土分布図 (遺構内外)



晚期注口土器出土分布図 (遺構内外)

第406図 土器出土分布図 6



朱塗り土器出土分布図（遺構内外）

第407図 土器出土分布図7

② 晩期の注口土器 第402図の晩期土器の分布とほぼ同様のようになれる。

（4）朱塗り土器の分布状況について

赤色の顔料を塗布する土器について、時期は後～晩期である。総数は後期の土器が多いが、全体の出土量の割合から考えれば、晩期の土器の割合の方が高いように思う。

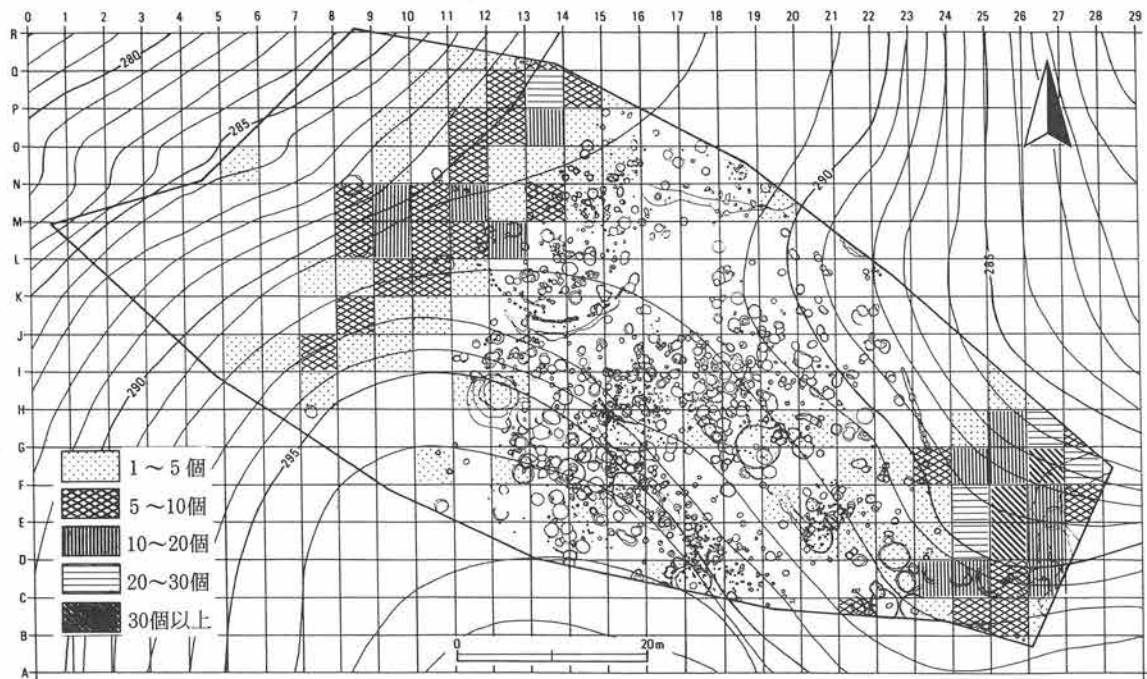
他の土器と同様に東西の捨て場からの出土が主体である。捨て場以外の出土地で目を引くのは、調査区南側の一段高い面に相当する部分で、F13グリッドを中心に周辺のグリッドから相当数の出土がある。この周辺は、遺物包含層の分布がほとんど見られない地点で、表採及びこの付近から検出された土坑の埋土上位層などから出土している。ただし完形品の土器はほとんどなく、小破片のみである。

出土分布に関連した内容ではないが、朱が塗布されている器種としては、深鉢や鉢はほとんどなく、注口土器、壺、台付浅鉢などに多い。また、晩期の土器で内・外面の両面に朱が塗られる壺が数点見られる。

赤色の顔料が塗布されている行為自体が特殊性を予見させるのであるが、出土分布からは特殊性は窺えない。

2 土製品

本遺跡で出土している土製品の時期的な大略は、全て後～晩期に属すると判断される。それらの分布地の



ミニチュア出土分布図（遺構内外）

第408図 土製品出土分布図1

傾向から読み取れる属性についてまとめてみたい。また、それら土製品の中には、従来の考古学資料などから、土器型式と比定関係がある程度可能なものと比定関係が不明なものがある。先に行った土器の時的出土占地との比較検討を行い、土製品の所属時期の推定を併せて試みる。

（1）ミニチュア土器

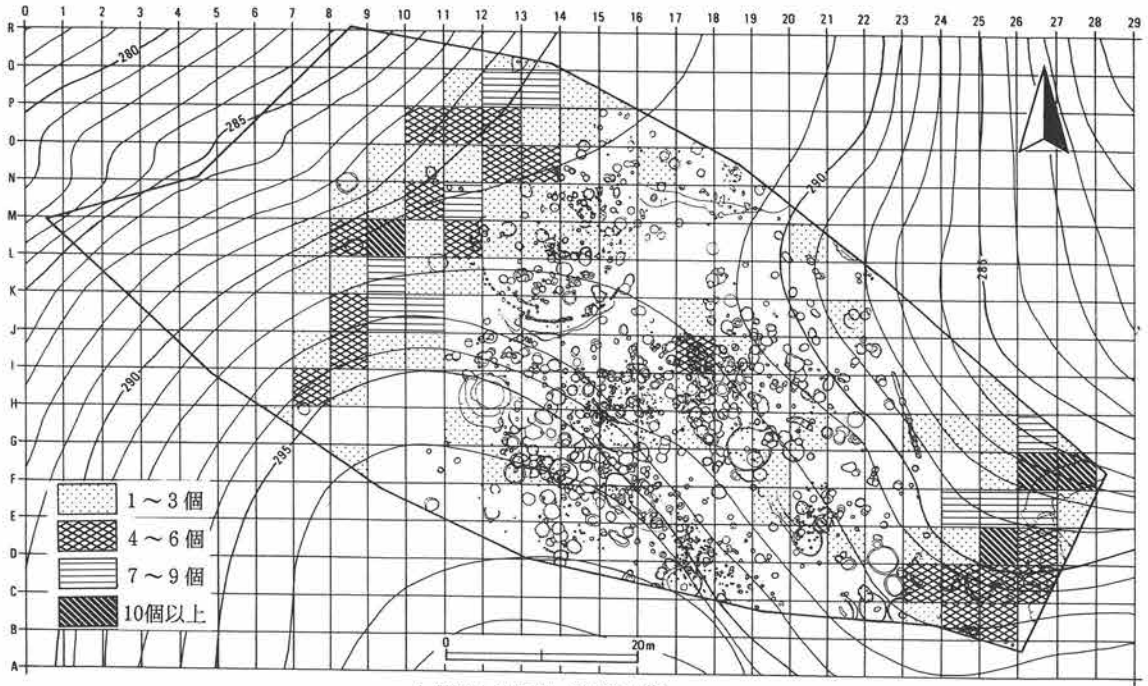
第401図上段の図と第408図を比較すると、ほとんど同様の分布傾向を示す。東部捨て場斜面中域からの出土数が最も多く、次いで西部捨て場斜面上域1である。普通サイズの土器と比べて完形品の割合が高いように思う。全般に後期に所属するものが多く、器種としては鉢と壺が多い。十腰内IV～V式と思われるものの中には、口縁部の突起や瘤の配置といった細部に至るまで、普通サイズの土器を模倣したと捉えられるほど精巧なものもある。

（2）土偶の分布状況について

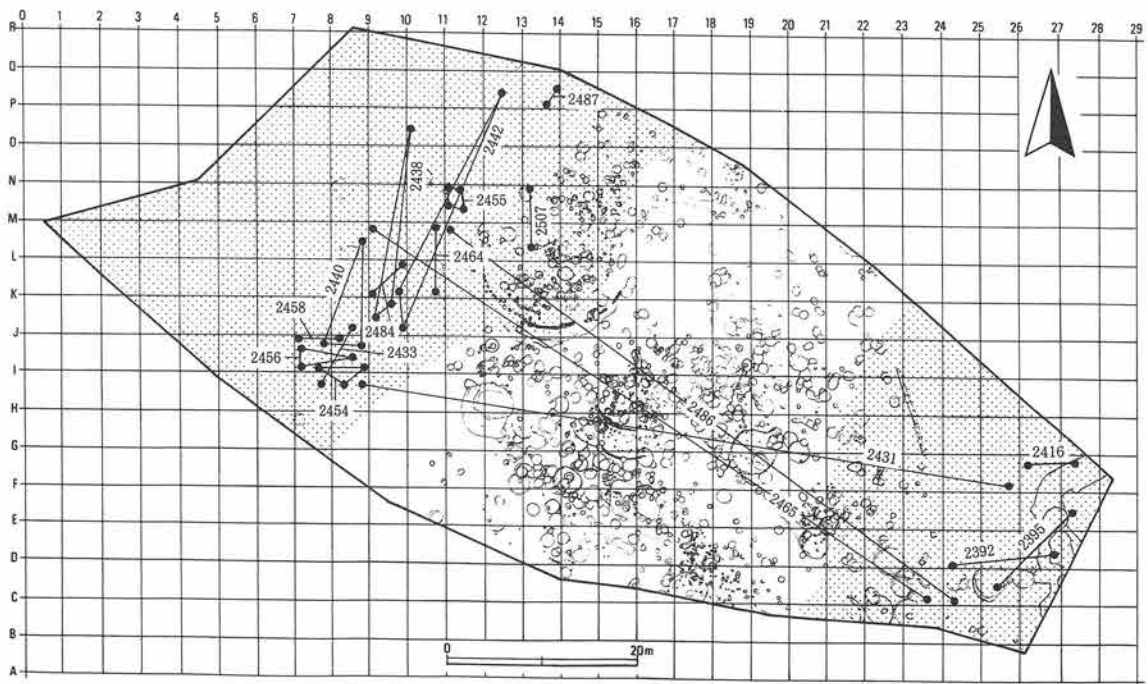
第409図上段の図を見ると、第402図上段の遺構外土器や第408図のミニチュア土器の出土分布と同様の傾向を示す。

総点数311点中、晩期の土偶は28点（推定を含めて）で、圧倒的に後期の土偶が多い。

後期の土偶の出土地は、東部捨て場と西部捨て場からの出土が大半を占め、両者においては西部捨て場が若干多いものの、ほぼ同等の出土割合と捉えられる。



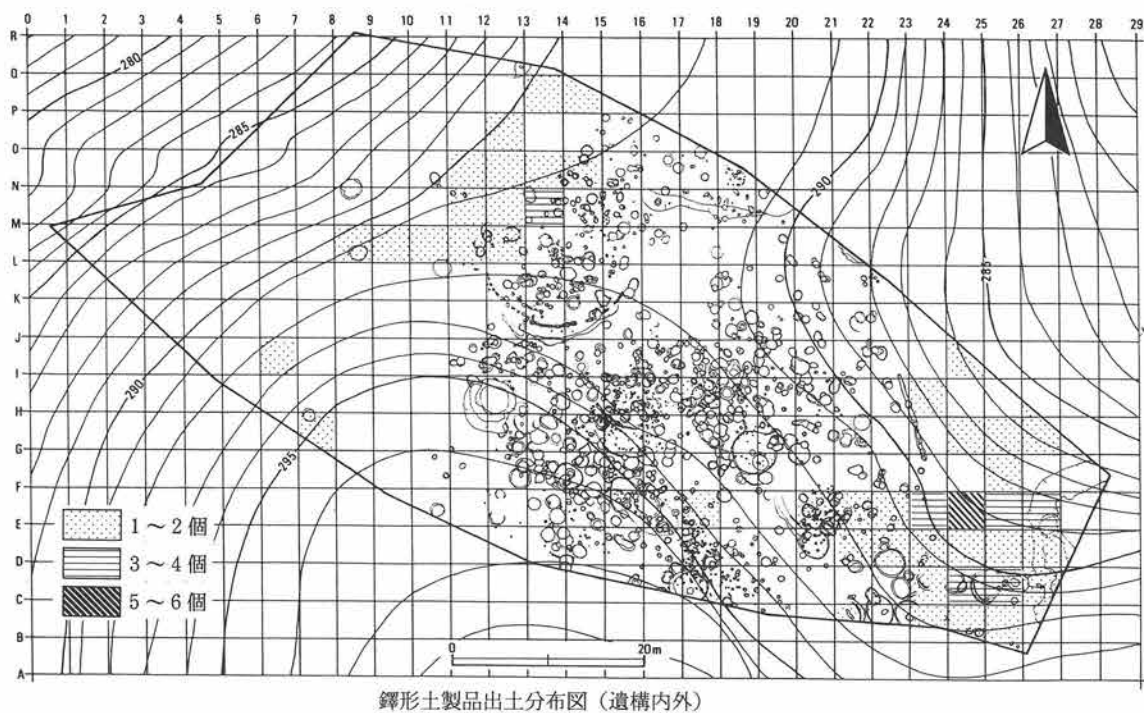
土偶出土分布図（遺構内外）



土偶接合関係図

※トーンは捨て場の範囲

第409図 土製品出土分布図 2



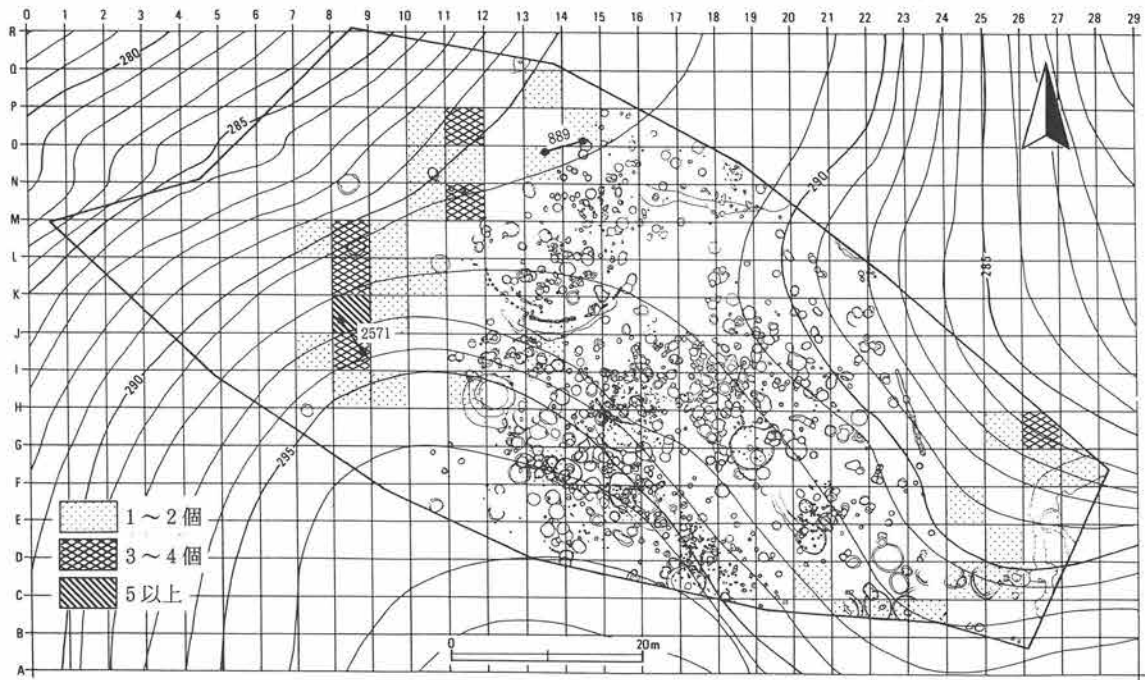
第410図 土製品出土分布図3

晩期の土偶の出土地は、遺構内3点、東部捨て場8点、西部捨て場14点、表採1点である。晩期の土偶は西部捨て場がわずかに多い。

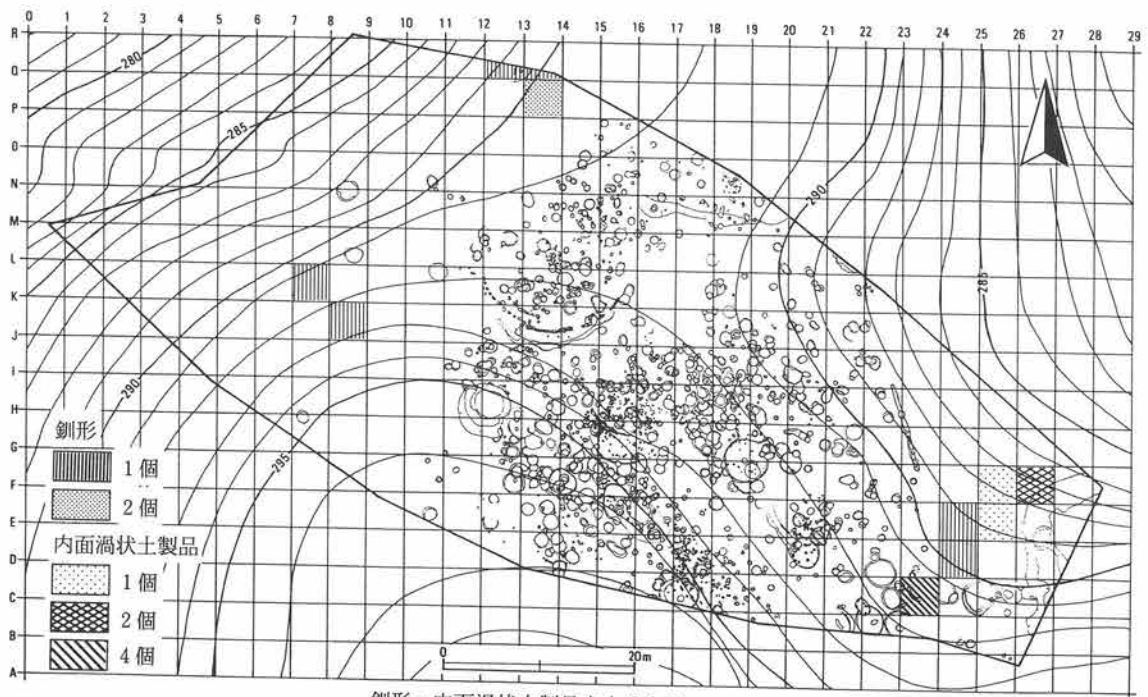
本遺跡で出土した土偶は、時期を問わず全て欠損品であり、同じグリッドから出土した部位同士が接合したものが圧倒的に多い。第409図下段には異なるグリッドから出土した部位同士の接合関係を示した。特記事項としては、2431、2465、2486の3点が東西の捨て場同士で接合した点が挙げられ、3点とも約70mの距離をもって接合した。要因（原因）は不明であるが、上述したaの要因つまり最初から別々の廃棄地に捨てられた可能性が高い（dの要因とは捉え難いと思っている）。なお、3点とも完形品にはなっていないことから、発見されていない部品（部位）は調査区外に存在すると推定される。

捨てられたものなのか置かれたものなのかについて、本来検討すべき内容であると考えられるが、本遺跡の出土状況からは窺い知れなかった。

その他に西部捨て場同士ではあるが、約10～20mの距離をもって接合したものが複数見られる。西部捨て場同士で約20mの距離をもって接合した2442・2438は、3つのグリッドから出土した部位が接合関係を示した。斜面上下方向とは異なるグリッド同士であるため、自然的要因による土砂流入としては捉えられない。同様の様相が土器においても見られることから、そこには東部捨て場で上述したcの要因である遺構構築などに伴い縄文人が土を動かした行為が考えられよう。



耳飾り出土分布・接合関係図（遺構内外）



銅形・内面渦状土製品出土分布図

第411図 土製品出土分布図4

(3) 鐸形土製品の分布状況について

出土地の主体は東部捨て場である。本製品は今までの発掘調査成果から後期初頭～前葉の十腰内Ⅰ式期に伴う出土例が多い。本遺跡においても、第403図右上に示した十腰内Ⅰ式が最も多く出土したE24グリッドからの出土数が圧倒的に多い。土器との比定関係が従来の指摘通り後期の前半期で間違いないとすれば、土器と一緒に廃棄した可能性が高いと言える。

(4) 耳飾りの分布状況について

出土地の主体は西部捨て場である。出土分布は、大洞B式の出土地と類似する傾向が窺える。個々の製品を見ても晩期と思われるものは多く、該期に多く製作された可能性はあろう。ただし、後期中葉～後葉の土偶に見られる細かい刺突文を施文するものなども存在することから、タイプにより所属時期が異なる可能性が高い。本来はタイプ分けを行った後に、土器型式との比定を行えばより本来の所属時期の推定資料となり得る可能性が高いと言える。

(5) 釧形土製品の分布状況について

他の土製品と比べても、その出土点数は極端に少ない。西部捨て場が出土地の主体で、大略は十腰内Ⅳ～大洞BC式の出土分布と傾向が類似する。本製品は今までの発掘調査成果から晩期に伴う出土例が多いが、本遺跡においても大洞B式の主要出土地である西部捨て場のJ8・K7グリッドなどから出土しており、晩期前半期が所属時期である可能性が高い。

(6) 内面渦状土製品（イモ貝形土製品）の分布状況について

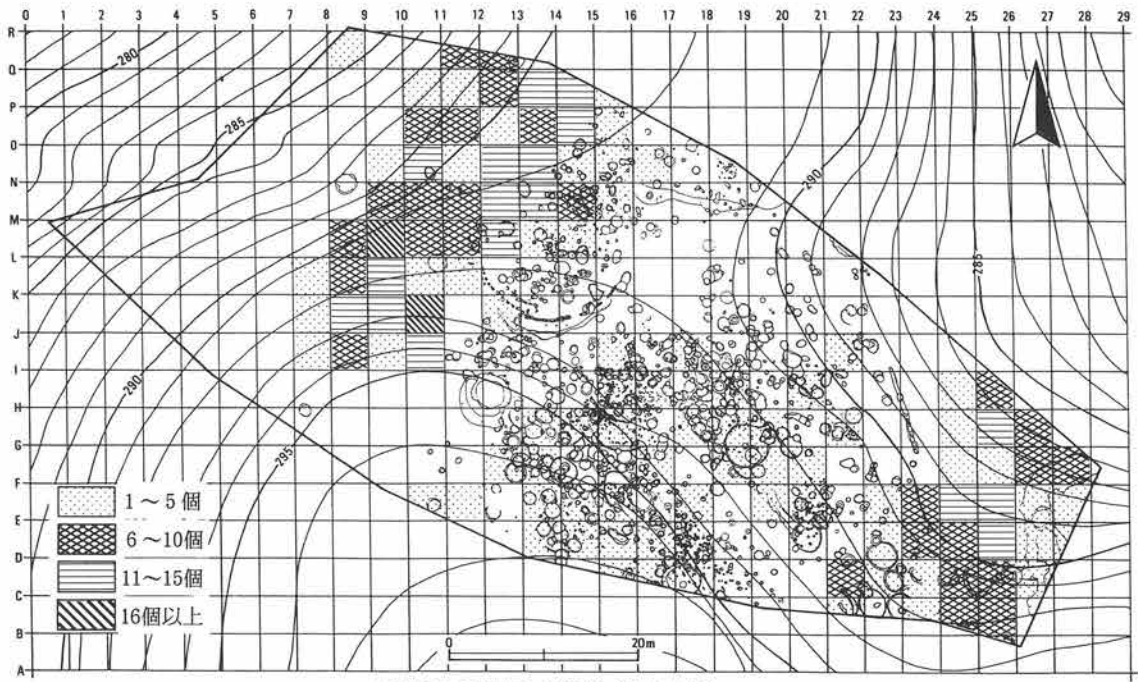
特筆すべき点としては、全て東部捨て場からの出土である。本製品は晩期前半期の可能性が高いと言われている土製品であるが、晩期に属すると思われる釧形土製品や晩期土偶は西部捨て場が主体であり、出土地に相違が見られる。本遺跡の出土状況からは、伴出土器については明確には言及できない。ただし、層位的問題を度外視すれば8点中4点が出土した東部捨て場のC23グリッドは、大洞B式の主要出土地の一つであり、興味ある結果と言えよう。

(7) 円盤状土製品の分布状況について

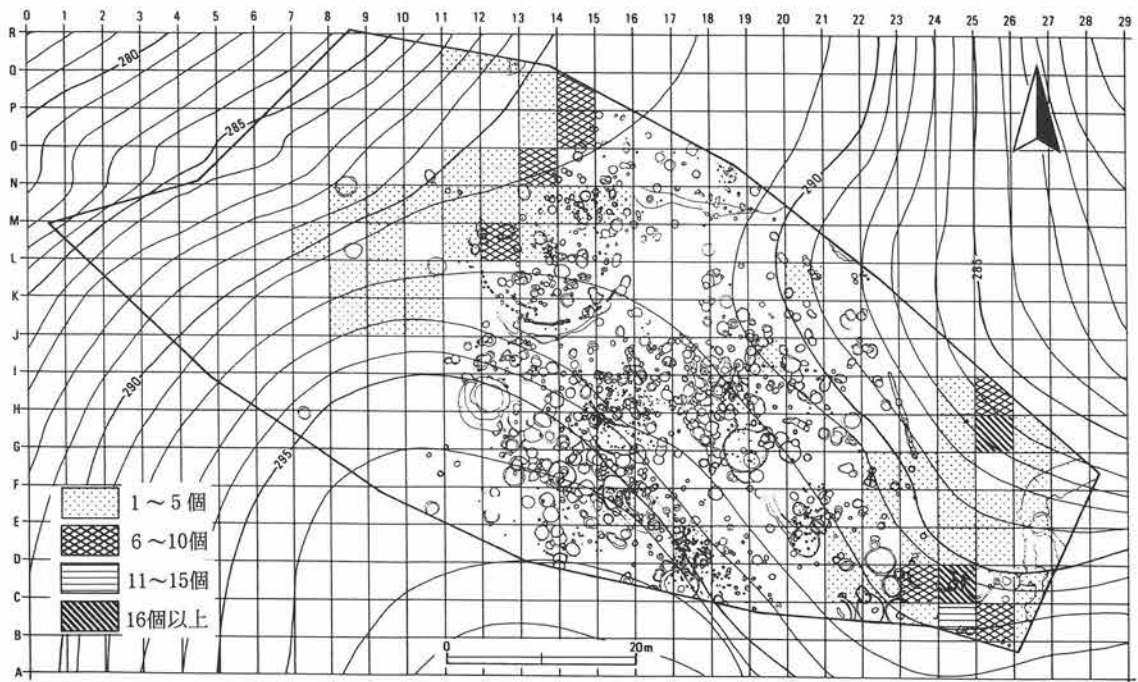
西部捨て場からの出土数が、東部捨て場より若干多い。本遺跡からは、後期に属するものが多い様相である（地文のみで明確な時期判断が困難なものが多いが）。ただし、第412図は第402図下段の晩期土器出土分布図と同様の傾向が窺える。

(8) 三角形土製品の分布状況について

西部捨て場からの出土数が、東部捨て場より若干多い。他遺跡の出土例を見ると、後期前半期に多い土製品のようなものである。本遺跡から出土している中で、文様から土器型式との比定が可能なものは、ほとんどが十腰内Ⅰ式期であり、それより新しい時期と思われるものはない。ただし出土分布地は、必ずしも十腰内Ⅰ式期の多いグリッドではない。



円盤状土製品出土分布図 (遺構内外)



三角形土製品出土分布図

第412図 土製品出土分布図 5

3 石器

土器や土製品に比べて、所属時期の不明なものが多い。本遺跡の土器出土量から考えて、石器についても大部分は後～晩期に製作された可能性が高いと思われる。出土分布については、他の遺物同様に捨て場からの出土が主体を占める。

(1) 石鏃

他の遺物同様に東西の捨て場からの出土が大半を占め、若干ではあるが東部捨て場からの出土数が多い。最も多く出土したのは、東部捨て場斜面下域のG25グリッドである。

(2) 石匙

東部捨て場が出土地の主体である。最も多く出土したのは、石鏃同様に東部捨て場斜面下域のG25グリッドからである。

(3) 石錐

東部捨て場斜面下域のF26グリッドと西部捨て場L11グリッドからの出土が多い。両グリッドは、第402図上段の図を見るとおり、後期土器の出土量が多かった地点である。

(4) 搔器・削器

東部捨て場が出土地の主体である。土器の総出土量も多かったD25・E24・E25グリッドからの出土数が圧倒的に多い。

(5) フレーク・チップ

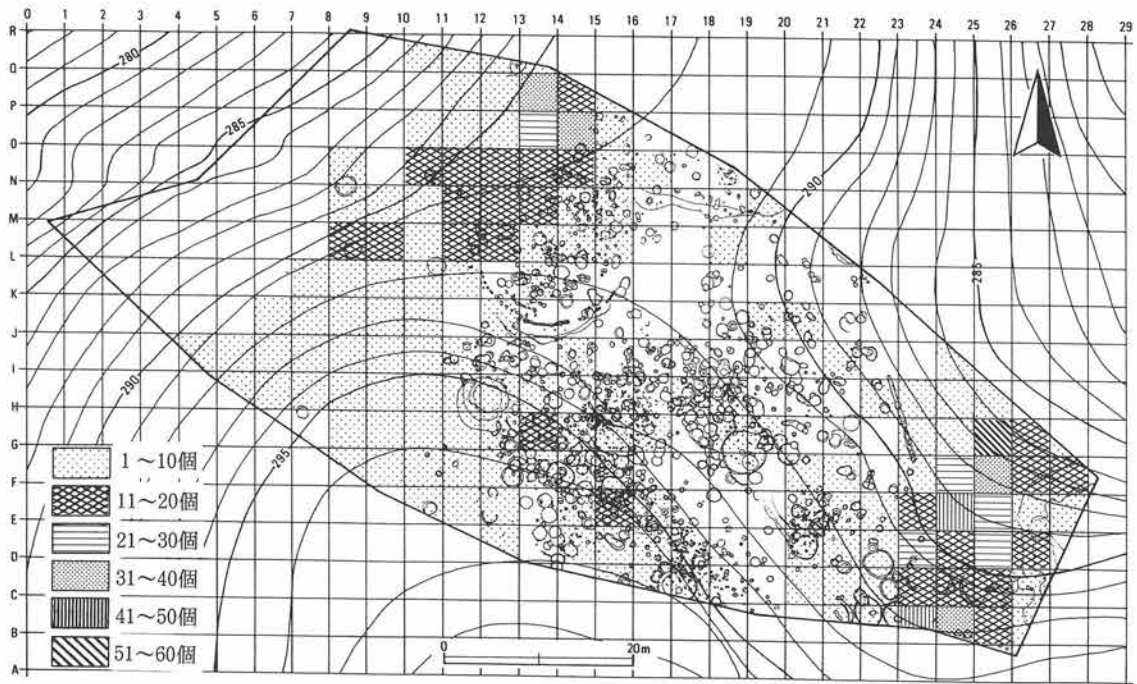
東部捨て場が出土地の主体である。フレーク・チップの出土分布を示した第415図と比較的似通った分布を示すのは、第403図右上の十腰内I式の出土分布である。

(6) 磨製石斧

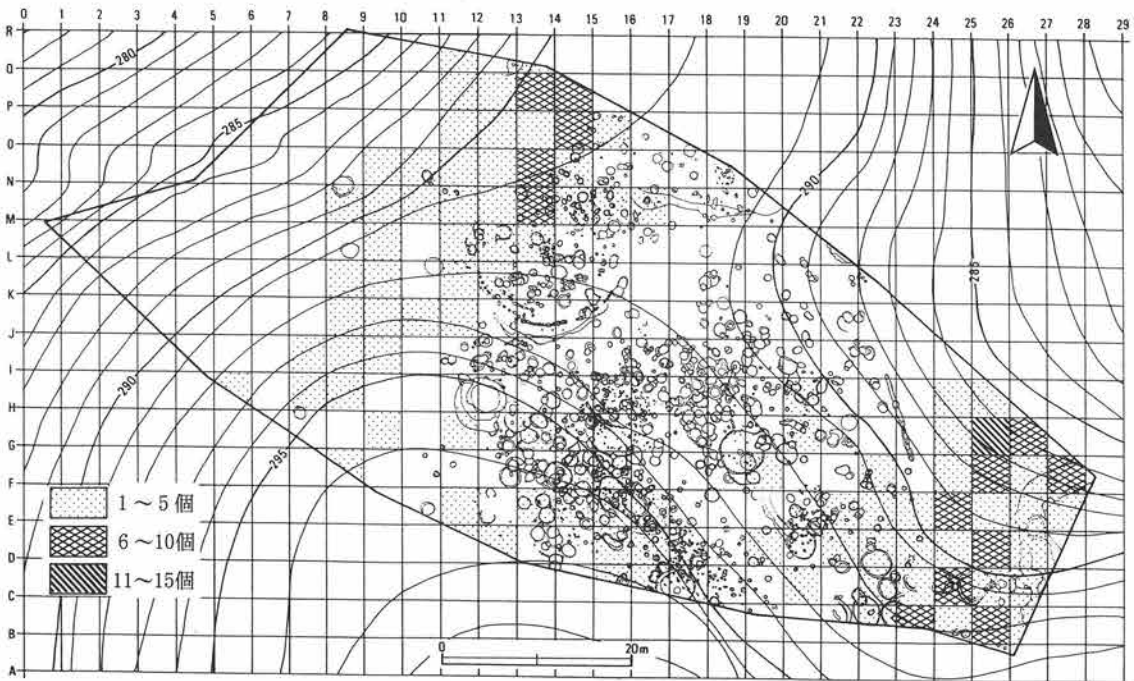
東部捨て場が出土地の主体で、特に斜面中域から多く出土した。西部捨て場においては、石錐が多く出土した斜面上域1のL11グリッドに多く、次いで斜面上域2のP12～13グリッドとなる。特記事項としては、3431は東西の捨て場同士約70mの距離を持って接合した(第417図下段の接合関係図参照)。土偶2点や石刀・石剣2点とほぼ同じ距離である。

磨製石斧は全般的に未製品が多いが、3431自体は刃のあり方から見て完成品である。実測図を見るとおり、接合部位を合わせても胴～基部がなく、欠損品である。使用中に壊れたか意図的に壊したかと言う問題が生じるが、後者的な行為を推定するなら胴部中位付近に見られる剥離痕は非常に怪しく見れる。ただし、筆者の観察力でははっきりしなかった。あくまで推測の域を越えるものではないが、意図的に破壊した後には別々に廃棄された可能性は考えられると思う。3443、3458についても同様の行為が見える。

996について、約28m離れたD19土坑2号とG26グリッド出土が接合したものである。刃のあり方や全体の研磨の具合から未製品と判断される。意図的に切断した様相ではないことから、製作途中で壊れた可能性

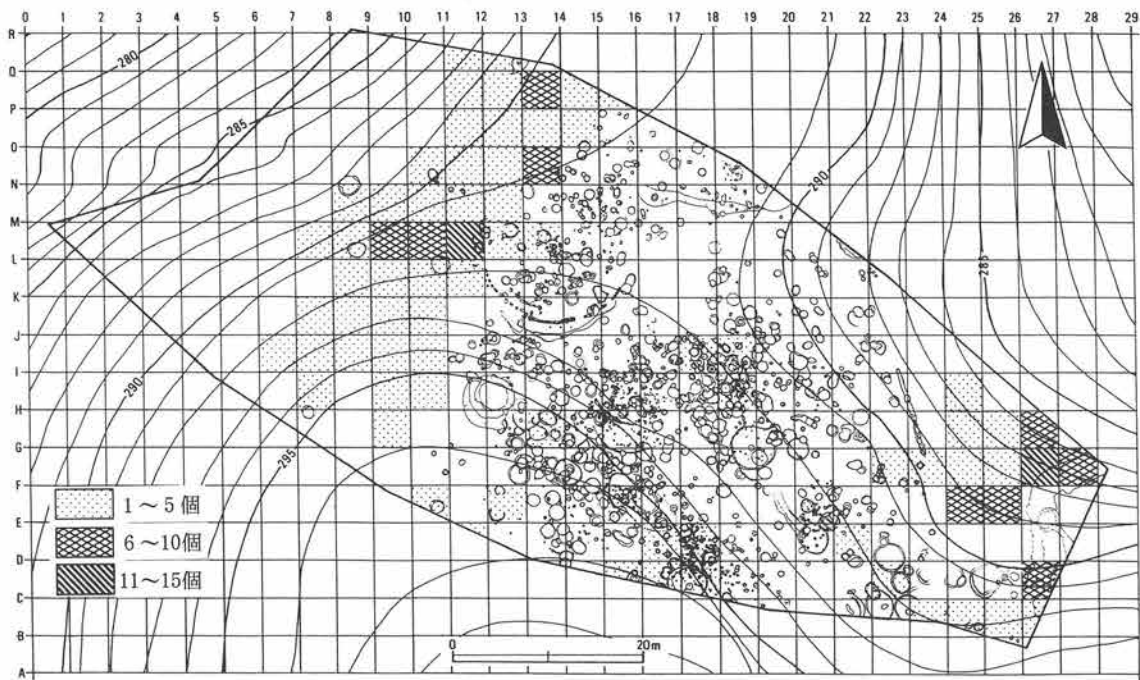


石鏃出土分布図（遺構内外）

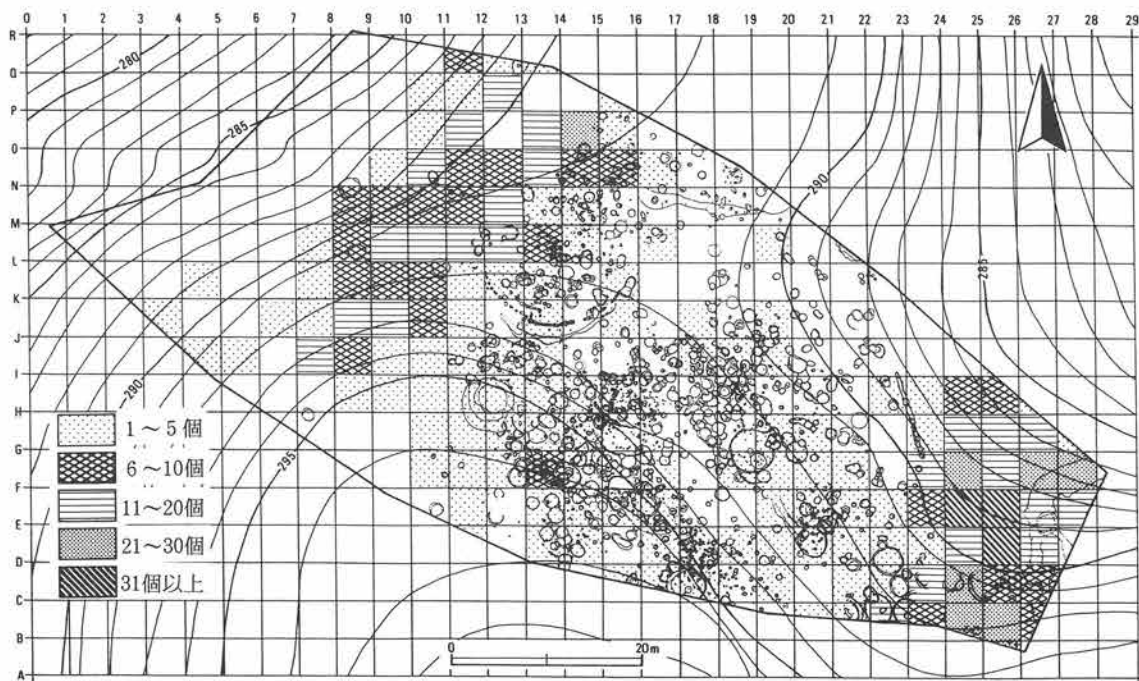


石匙出土分布図（遺構内外）

第413図 石器出土分布図1

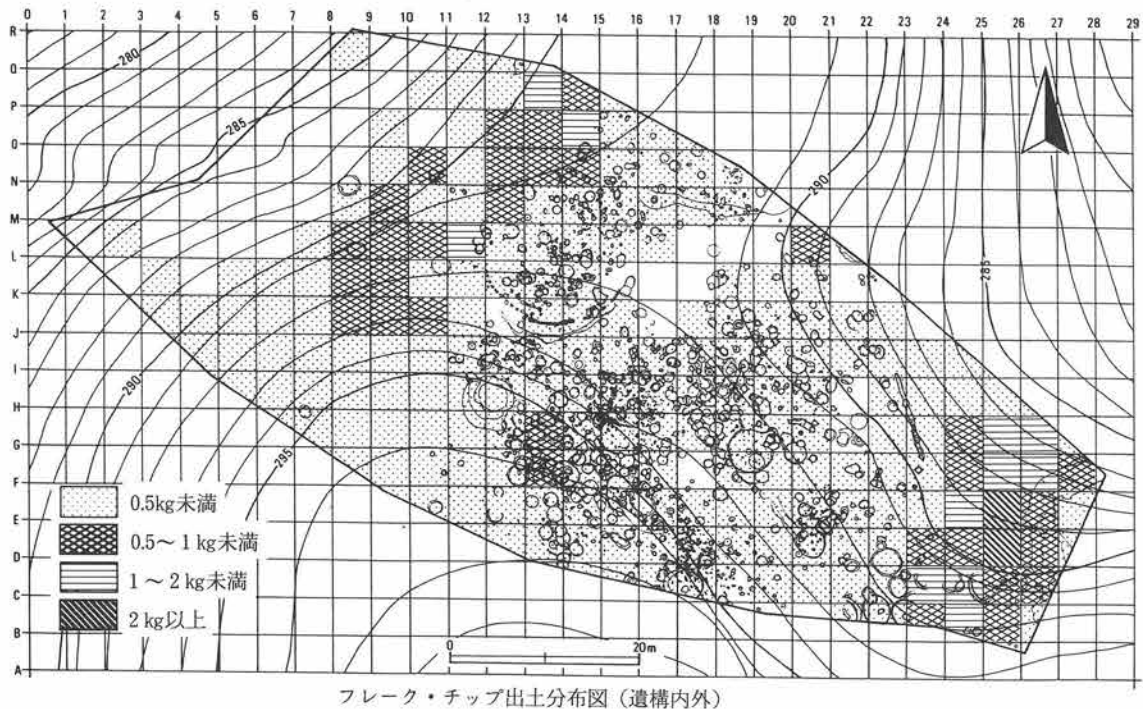


石錐出土分布図（遺構内外）



搔器・削器出土分布図（遺構内外）

第414図 石器出土分布図 2



第415図 石器出土分布図3

が考えられる。出土の状況から推定すると、本来土坑に一括廃棄されたものが、その後の行為、例えば縄文人による造成工事などにより土坑上部が破壊を受け、遺物が包含された状態の排土が他の場所に捨てられたことなどが考えられる。

(7) 礫石器類

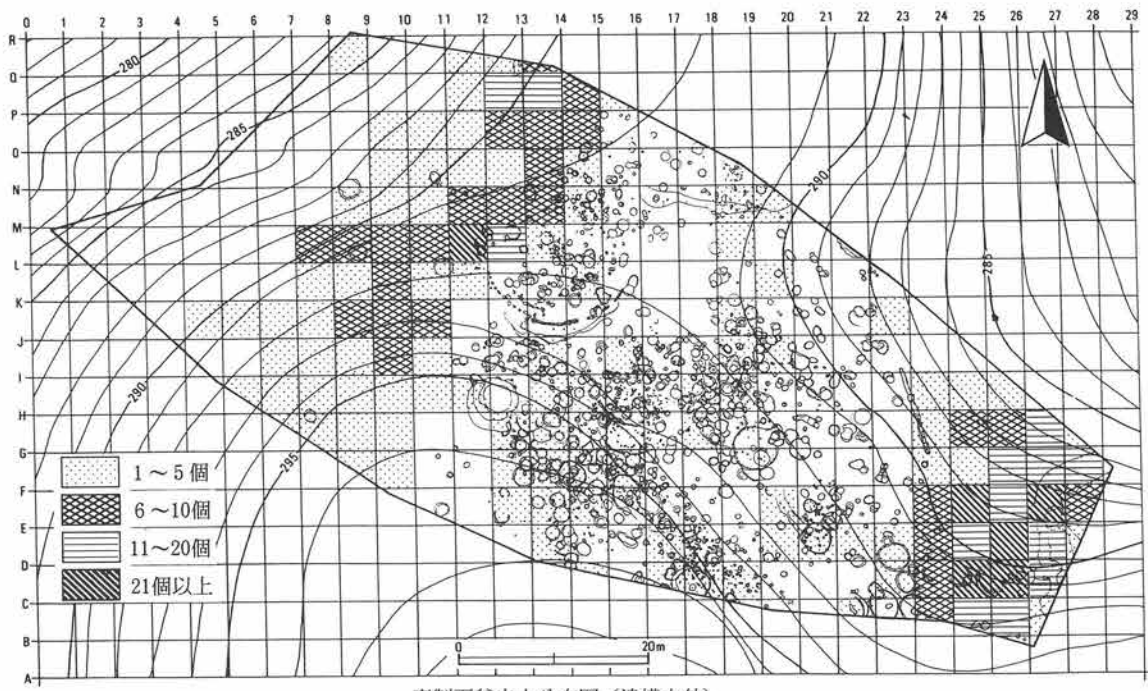
敲石、凹石、石皿、環状石器において、異なるグリッド出土同士が接合したものを図示した。全般に隣接するグリッド同士での接合関係を示す。

4 石製品

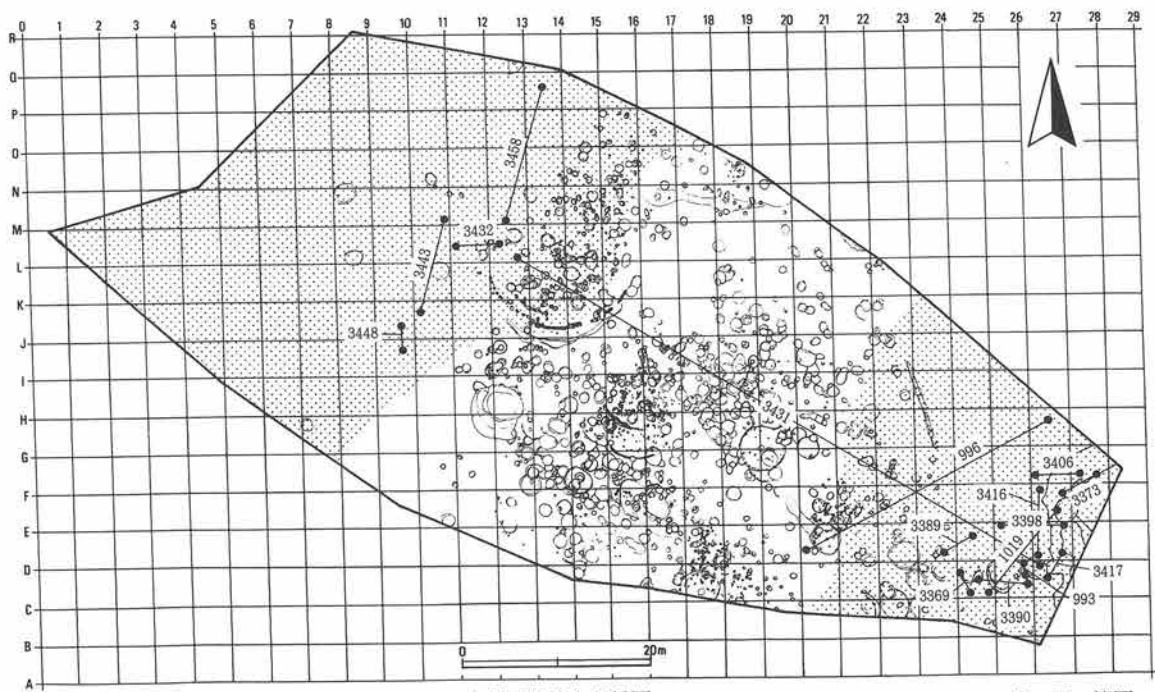
(1) 石棒・石剣・石刀

第420図上段の図は、石棒・石剣・石刀の3者を合わせて作成した。石棒は4点(掲載は3点)と出土数が極端に少ない製品のひとつで、東部捨て場斜面中域から1点、西部捨て場斜面上域2から3点出土している。石剣・石刀は、東部捨て場斜面中域と西部捨て場斜面上域1からの出土が主体である。石剣・石刀は完形品がなく、全て欠損品である。

第420図上段の図を見るとおり、3671の石刀は約60m、3681の石剣は約78m離れて接合した。両者とも接合部位同士を合わせても欠損品であり、部品が調査区外に存在する。3671は身部同士で接合したが、その欠



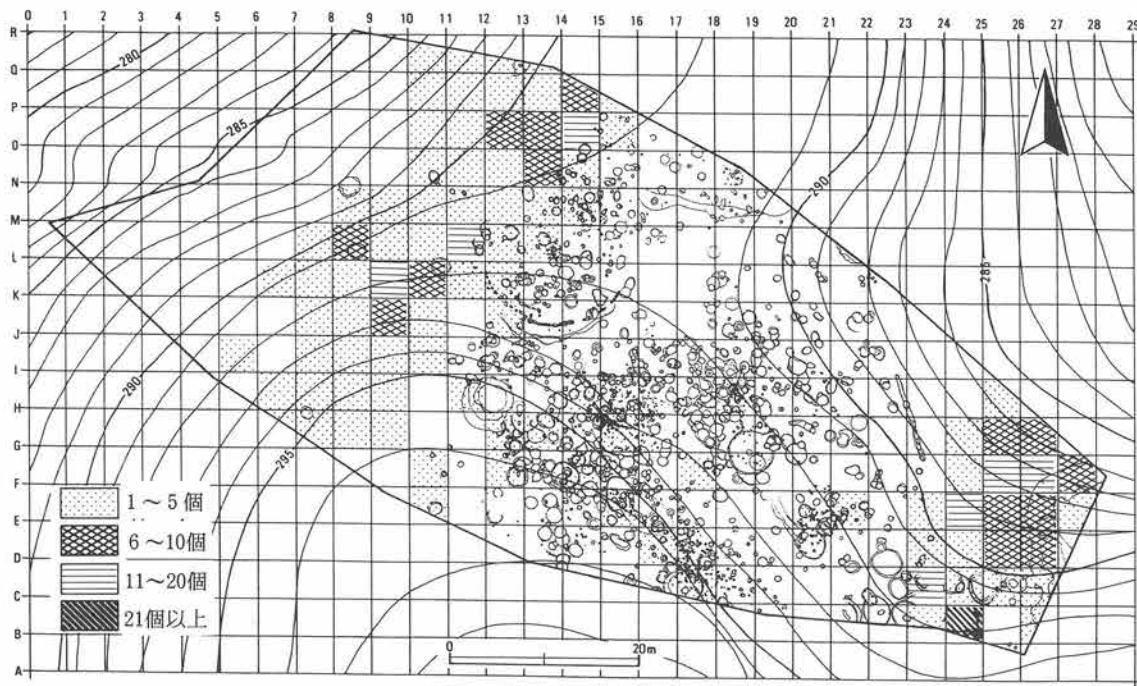
磨製石斧出土分布図（遺構内外）



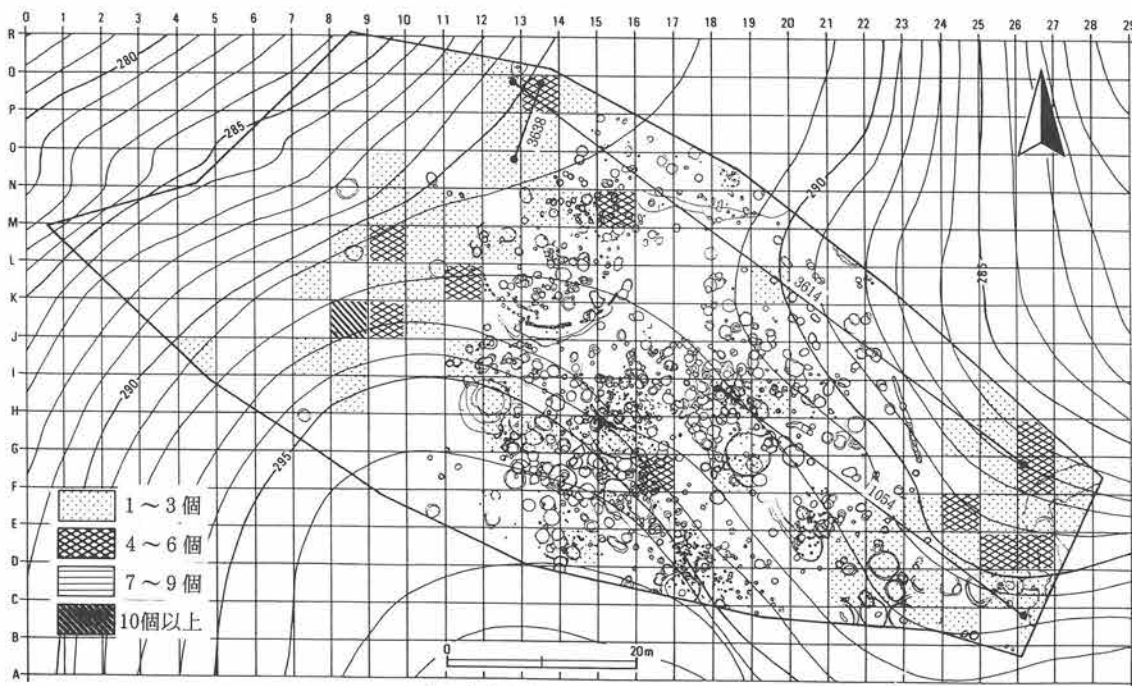
磨製石斧接合関係図

※トーンは捨て場の範囲

第416図 石器出土分布図 4

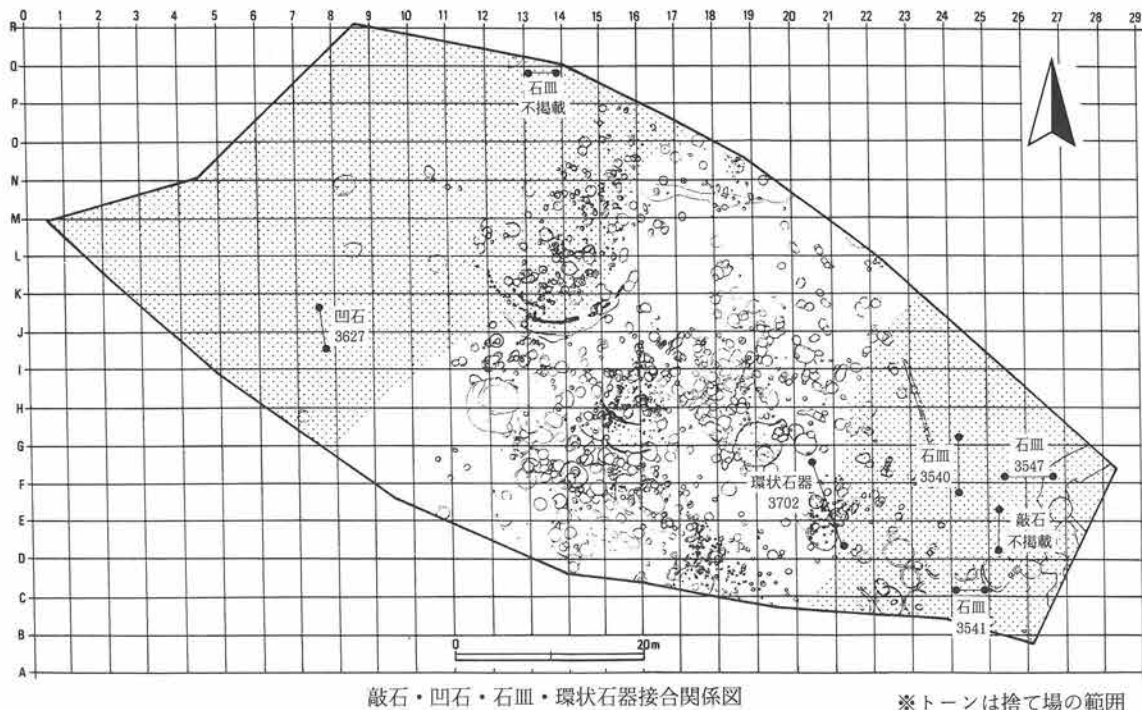


石錘出土分布図（遺構内外）



磨石出土分布・接合関係図

第417図 石器出分布図 5



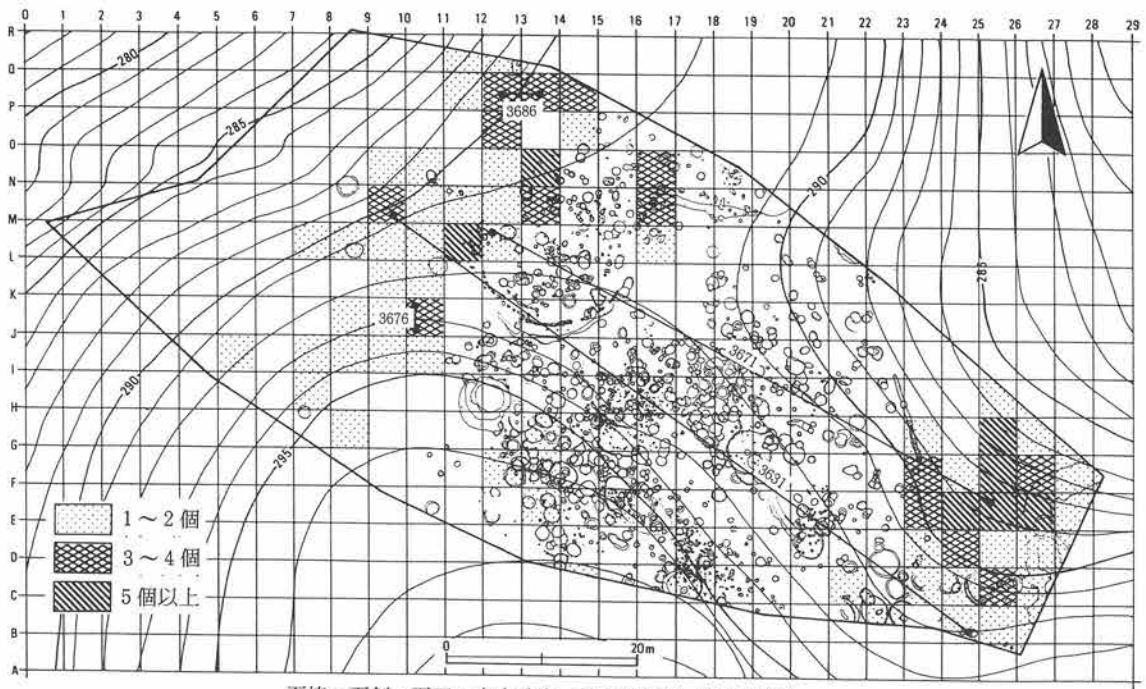
第418図 礫石器接合関係図

損部の状況としては意図的に折られている可能性がある。磨製石斧と同様に意図的な破壊行為の後に、別々の地点に廃棄した可能性が考えられる。3681は、その欠損部自体は不自然な状態ではないが、3671と同様に別々の地点に廃棄した可能性が考えられる。

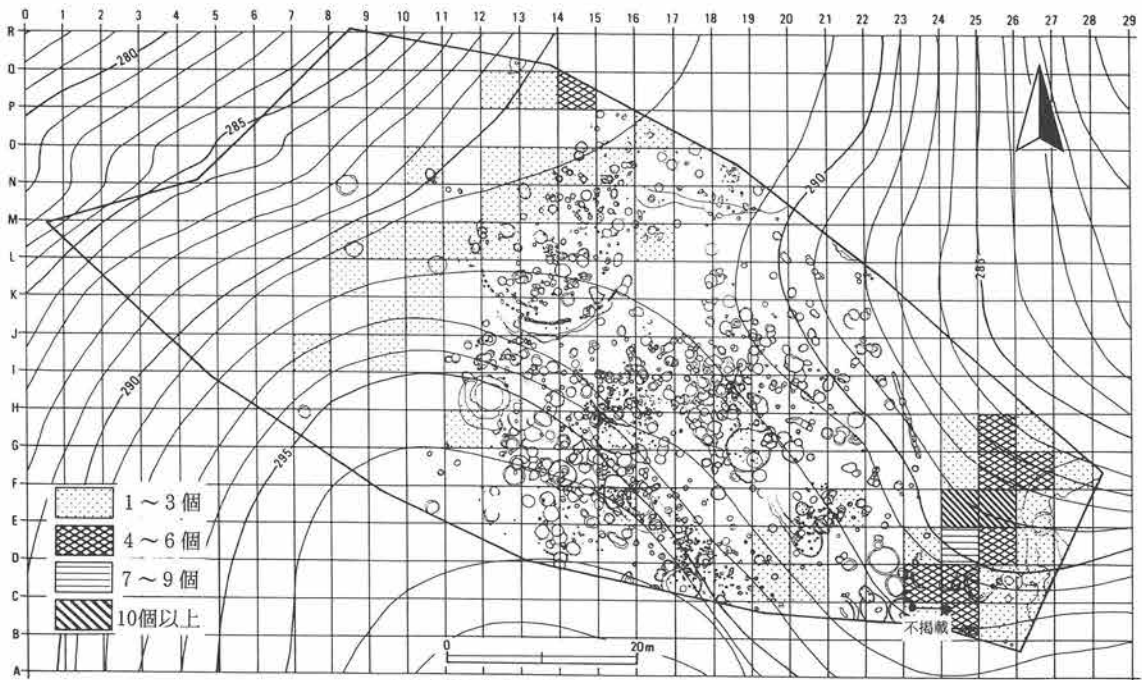
簡単にまとめると、意図的に破壊した後に別々に廃棄したものと、使用中（なにかに使用中に壊れた）に壊れ別々に廃棄したものの2つの行為の存在した可能性が考えられる。

(2) 軽石製品

出土地的には、圧倒的に東部捨て場の斜面中域に多い。所属時期や軽石の産地については不明である。ただし、原産地（火山活動地）と供給地（軽石が降った場所）と産出地（拾える場所）は必ずしも一致しない類いの母岩と考えられる。全体的には沿岸部の遺跡からの報告例が多いように思うが、軽米町内の遺跡からは比較的出土するようである。産出地については、今後検討してみたい内容であるが、佐藤次郎氏の御助言によれば、軽米町周辺では採取できるとのことである。



石棒・石剣・石刀・出土分布・接合関係図（遺構内外）



軽石製品出土分布図（遺構内外）

第419図 石製品出土分布図

第七章 縄文時代後～晩期土器の器形について

本遺跡で出土した縄文時代後～晩期の土器は、時期の大略を掴む目的で、施文される文様や特徴などから十腰内式・大洞諸型式に対比させて時期的な位置付けを行った。第Ⅲ群1～5類、第Ⅳ群1～2類に分類したのがそれである。また、特徴的文様を持たない粗製土器や無文土器については、第Ⅲ群6類及び第Ⅳ群5・6類に区分した。本遺跡における後～晩期土器の器種構成比は、深鉢35%、鉢19%、浅鉢9%、皿3%、壺20%、注口土器9%、香炉形土器3%、その他2%である。上記の数値は、第2次登録段階（掲載土器は第3次登録段階）での割合であり、絶対的な数字とは言えないが、本遺跡の土器群の器種構成の傾向は窺えると思っている。器形や文様・特徴の諸要素の中には、複数型式に跨がって継続する伝統性や、他地域から来る強い要素（十腰内式とは呼ばないような土器、異系統土器？）と本地域の属性も合わさり、本来その区分（型式区分）は非常に難しい作業であると判断された。分類上の問題と検討も兼ねて、本遺跡から出土した完形土器をモデルとし、それぞれの器種の中で器形分類図を作成した。第Ⅴ章において、それらモデルとした土器の文様帯の図示を行った。本章では、それらを基に型式学的区分を行い、本稿で行った土器分類の補足を試みる。各土器は、器形の類似性を最優先とし、文様の特徴については文様の類似性より文様帯・無文帯・地文帯の類似性を優先する。なお、完形資料が希少な浅鉢と皿及び特殊な土器と思われる香炉形土器、筒形土器、双口土器、異形土器は除外した。

各器種やタイプの細分基準については第Ⅴ章を参照戴きたい。

1 深鉢

底部～口縁部までの器形で深鉢A～Hの8種類に設定・区分した。

(1) 深鉢A

深鉢Aにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の4種である。

深鉢A-I-1-a (1269、1586、1605、1649、2042、2047)

深鉢A-I-2-a (1216、1606、1920、2022)

深鉢A-II-1-a (2057、2106)

深鉢A-III-1-a (1219、1301、1383、1910、1955)

その他 (206、589、1204、1207、1226、1307、1342、1401、1411、1545、)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好と言える。深鉢A-Iの割合が、深鉢A-IIや深鉢A-IIIより高いことから、器高に最大長を持つタイプが多いと言える。

〈精製・粗製〉 粗製と精製では、粗製の方が圧倒的に多い。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は、平縁・波状の両者が見られ、底部は平坦のみである。

〈文様帯・特徴など〉 主体を占める粗製深鉢は、口縁部文様帯が無文で、胴部に地文を施文するものを基調とする。それら粗製深鉢は、口唇部に縄文を施文するものや、頸部に押圧縄文を施文するもの、全面に櫛引文を施文するもの、胴部に網目状撚糸文を施文するものなどバリエーションが豊富である。

精製深鉢としては、1216と1920を深鉢Aとして採用したが、傾向的に地文以外の文様を施文する土器は希少と言える。また、その他の精製土器としては、底部が欠損する1204、1342、1411を含めた。

1920は、底部～胴部下半が無文で、胴部下半やや上付近に横位に一条の沈線が引かれ、胴部に幅広の磨消縄文帯による曲線的なモチーフが描かれ、口縁部文様帯には地文の上に刺突文が施文される土器で、十腰内Ⅱ式に相当すると思われる土器である。他の深鉢Aの器形と比較して、頸部～口縁部にかけての外反の具合が強いようである。全体の器形は2022の粗製のものに類似する。

文様帯について、本遺跡の資料からはその傾向を窺い知るのが難しいが、Ⅱ帯が主要文様帯のようにとれる。精製の非完形品までを含めると、磨消縄文手法により底部～胴部下半が無文である場合が多く、その部位付近まで文様を施文する土器はない。

その他の特徴としては、深鉢A全般的に羽状縄文を施文する土器が見当たらないことが挙げられる。また、底面に網代・木葉・縄文などの痕跡が確認されるものが見立つ。

〈分類との対比〉 本稿で行った分類との対比として、深鉢Aの中で土器型式との比定が可能なのは1216・1920などの深鉢A-I-2-aとしたもので、十腰内Ⅱ式期に相当する可能性が高い。ただし、1920の精製深鉢の方が、1606や2022の粗製深鉢より全体のプロポーションが若干スマートであり、外反も若干弱いなどのことから、時期的に比定関係が成立するのか疑問である。また、頸部～口縁部にかけての外反については、大きくは2種類が見られる。①頸部～口縁部下半にかけて一度内湾した後に外反するタイプと、②頸部から直に外反するタイプである。両者の中間的なものもある。底部の残存がなくその他とした精製土器と比較すると、①が②より古い時期に多いように思われる。

羽状縄文を施文する土器がほとんどないことについて、羽状縄文は本遺跡の資料で見ると後期中葉～末葉にかけて頻繁に見られる。精製の深鉢に完形個体が少ないため強くは言えないが、深鉢Aとしたものが羽状縄文が隆盛する前段階に多く作られた可能性は高いと思われる。

〈総括〉 本遺跡に十腰内Ⅱ式の資料が少ないことから明言はできないが、十腰内Ⅰ～Ⅱ式期に多く製作された深鉢と思われる。

(2) 深鉢B

深鉢Bにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の5種である。B-Ⅲ-2-aとして採用した土器群は、深鉢Aと深鉢Bの折衷的な器形と言えるが、今回は深鉢Bに含めることとする。

深鉢B-I-1-a (278, 1314, 1406, 1487, 1911)

深鉢B-I-2-a (1319, 1524, 1679, 2159)

深鉢B-II-1-a (1902)

深鉢B-Ⅲ-1-a (1585, 1990)

深鉢B-Ⅲ-2-a (217, 1386, 1402, 1485, 1519)

その他 (173, 207, 213, 313, 1201, 1202, 1260, 1278, 1316, 1382, 1392, 1466, 1473, 1478, 1498, 1646, 1840, 1924, 1963, 2062)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好と言える。深鉢B-Iの割合が、深鉢B-Ⅲより高く、また深鉢B-IIは希少と言える。このことから、器高に最大長を持つタイプが多く、口径と器高がほぼ同じ長さのタイプがほとんど存在しない可能性が高い。

〈精製・粗製〉 粗製と精製では、精製の割合が圧倒的に高い。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は平縁・波状の両者が見られるが、波状口縁のものが若干多いようである。底面は深鉢Aと同様に平坦を基調とし、線状の擦過痕が残るものが比較的に見られる。

〈文様帯・特徴など〉 文様帯としては、Ⅱ a 帯を主要ステージとする傾向が窺え、胴部下半は無文が多い。口縁部文様帯については、Ⅰ 帯が無文のものや口縁端が縄文帯で構成されるものなどがある。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは、以下の 2 つのグループである。

① 1406、1473、2159

② 1386、1924

〈分類との対比〉 十腰内Ⅰ式期に多い傾向が窺える。十腰内Ⅰ式の新古で言えば、全般的に新しい段階に多いように思われる。文様モチーフで見れば、①とした土器群が②の土器群よりやや新しい時期と推定される。

〈総括〉 十腰内Ⅰ式全般に見られる器形と思われる。精製土器で比較すれば、深鉢 A の隆盛する時期より、若干古い時期に流行する器形と思われる。

(3) 深鉢 C

深鉢 C において、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の 6 種である。

深鉢 C - I - 1 - a (604)

深鉢 C - I - 1 - d (1231、1407)

深鉢 C - II - 1 - a (1589)

深鉢 C - III - 1 - a (1288、1587、1595)

深鉢 C - III - 2 - a (1285、1310)

深鉢 C - III - 3 - a (588)

その他 (652、1281、1409、1424、1483、1517、1544、1565、1598、1960、2058)

〈出土数の傾向〉 深鉢 A・B と比較して、資料数はやや少ない。

〈精製・粗製〉 精製、粗製の割合は、完形土器で比較すれば、ほぼ均等である。欠損品を含めれば、精製が多い。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁が多く、大きめの突起が付く傾向が窺える。底部は平坦を基調に、比較的長めのスマートな台が付くタイプも見られる。

〈文様帯・特徴など〉 文様はⅡ 帯、Ⅱ a 帯が主体である。磨消縄文が用いられる場合が多い。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは、以下の土器群である。

① 1285、1407、1409、1424

〈分類との対比〉 精製土器で比較すれば、十腰内Ⅱ式と十腰内Ⅲ式を主体とする。

〈総括〉 資料が少なく、文様帯の傾向を窺える様相ではない。時期的には、十腰内Ⅱ式に出現する器形と思われる。

(4) 深鉢 D

深鉢 D において、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の 9 種である。

深鉢 D - I - 2 - b (2137)

深鉢 D - II - 1 - d (1341)

深鉢 D - III - 1 - a (1312、1812、1997、2128)

深鉢 D - III - 1 - b (1362、1503、2111、2130)

深鉢D-Ⅲ-1-d (2139)

深鉢D-Ⅲ-2-a (1437)

深鉢D-Ⅲ-2-b (367、1818、2157、2164)

深鉢D-Ⅲ-3-a (555)

深鉢D-Ⅲ-3-b (1631)

その他 (294、358、1429、1445、1509、1562、1614、1632、1790、1849、1891、1982、2004、2028、2029、2036)

〈出土数の傾向〉 本遺跡に見られる深鉢の中で、最も豊富な資料数である。深鉢D-Ⅲが主体で、深鉢D-Iは希少であることから、口径に最大長を持つものが多いと言える。

〈精製・粗製〉 精製のみで、粗製は見られない。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は、平縁、波状、山形状が見られ、波状・山形状を呈するものは5単位が多い。底部は平坦、上げ底状、台付きの3種類が見られた。口径に最大長を持つものが多いことを考えると、全般に底部径が小さいことは、直立させるにはバランスが悪いように思われる。

〈文様帯・特徴など〉 文様は、入組み帯状文によりモチーフされ、帯状文はほとんどが羽状縄文により構成される。口縁部文様帯と胴部文様帯が、頸部の帯状文によりそれぞれ独立する様相を感じる。また、Ⅱa帯が無文(磨消縄文)で、Ⅰ帯に地文を施文するものも目立つ。2137は、Ⅱb帯とⅡ帯にそれぞれ5単位で瘤が付く。2004は、5単位の波状口縁で、Ⅱ帯の文様モチーフも5単位で描かれる。1818は、充填縄文による入組み文が描かれ、口唇部の突起は5単位で、頸部に付く瘤は4単位である。2157は、口唇部の突起、頸部の貼瘤、胴部の貼瘤が5単位で、入組み状文は充填縄文手法による。1997は、口唇部に円形突起と斜行突起が交互に各4単位で付き、頸部の瘤は4単位、Ⅱ帯の文様モチーフも4単位で充填縄文手法による。1631は、波状口縁・頸部の貼瘤・胴部の貼瘤・文様モチーフ全てが5単位である。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは、以下の土器群である。

① 1362、1818、2111、2164

② 1997、2137、2139、2157

③ 1631、2004

〈分類との対比〉 十腰内Ⅳ式を主体に十腰内Ⅴ式が見られる。文様モチーフで見れば、①の土器群は十腰内Ⅳ～Ⅴ式、②の土器群は十腰内Ⅳ式、③の土器群は十腰内Ⅳ式の古様相に相当すると思われる。精製土器がほとんどである状況を考慮すると、器形や文様モチーフについては、本来細部まで吟味する必要があったかと思う。

〈総括〉 十腰内Ⅳ式～十腰内Ⅴ式に隆盛し、それ以降は若干器形の変容により深鉢Eとしたものが主体となるのであろうか。晩期の大洞B式に衰退をみることは、言えると思う。十腰内Ⅲ式の精製深鉢の資料が希少なことから、この器形の深鉢の出現期ははっきりしない。関東の曾谷式段階では見られる器形であり、十腰内式との併行関係をどこに置くかが問題となるのかもしれない。

(5) 深鉢E

深鉢Eにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の7種である。

深鉢E-I-2-a (1776)

深鉢E-II-1-b (304、1347、1440、1787)

深鉢E-II-3-b (1855)

深鉢E-III-1-a (1558)

深鉢E-III-1-b (1264、1266、1347、1833、1856、2091、2092)

深鉢E-III-1-d (1721)

深鉢E-III-3-b (1772)

その他 (351、520、1420、1423、1506、1570、1634、1660、1770、1781、1828、1859、2077)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好と言える。深鉢E-IIIが主体である。

〈精製・粗製〉 精製・粗製の割合としては、精製が多い。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は傾向としては平縁が多い。底部は上げ底状が、平坦より若干多いようである。

〈文様帯・特徴など〉 帯状文上に付加される貼瘤が顕著となる。深鉢Dと比較して、帯状文の幅が狭く、直線的なモチーフが多いようである。2077は、II b帯とI帯に突き起こし状の刺突文（※起こした凸で捉えれば瘤であるが、本稿では凹で捉え図示している）が2列で連続施文され、縦長の貼瘤が5単位で付加され、口唇部は小波状気味に刻み加えられている。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは①の土器群である。頸部に貼瘤が帯状に配置される点で類似するのが②の土器群である。

① 304、1558、1855、2091

② 1266、1440、1770、1721、1787

〈分類との対比〉 十腰内V式期に多い器形であることは言えると思う。

〈総括〉 全般に文様帯の類似性は感じられないが、頸部に帯状文あるいは貼瘤帯を持つことでは類似性がある。十腰内V式に隆盛することはある程度言えると思う。深鉢Dと存立して後期後半期に多い器形なのであろう。1772などは安行式の影響が窺える土器であり、深鉢Eは関東系の土器との関連（祖系？）が考えられるのかもしれない。

（6）深鉢F

深鉢Fにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

深鉢F-III-1-a (1999、2143)

深鉢F-III-1-b (1581、1687、1795、2142)

〈出土数の傾向〉 本遺跡の資料では、全てF-IIIであることから、器高より口径に最大長を持つものがほとんどである。

〈精製・粗製〉 精製・粗製の割合としては、均等と言える。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部はほとんどが平縁で、突起が付くものもある。底部は平坦と上げ底状が主体で、台の付くものは見られなかった。

〈文様帯・特徴など〉 文様は、II帯に広く展開する。口縁部文様帯が無文であるものも目立つ。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは①の土器群である。口縁部文様帯が無文と言うことでは②の土器群が類似する。

① 1581、1687

② 1999、2142、2143

〈分類との対比〉 後期後葉～末葉に多い器形と思われる。①の土器群の文様モチーフは、十腰内Ⅳ式と思われる。②の土器群は明確ではないが、若干①の土器群より新しい時期ではないかと推定される。

〈総括〉 精製土器で比較すれば、時期的には深鉢Dや深鉢Eと存立するようである。

(7) 深鉢G

深鉢Gにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の4種である。

深鉢G-Ⅱ-1-a (1446、2149)

深鉢G-Ⅲ-1-a (1271、1294、1872、1898、1985、1989、1991、2000、2038、2094、2129、2148、2156、2166)

深鉢G-Ⅲ-1-b (1223、1311、1332、2032、2103)

深鉢G-Ⅲ-1-d (2140)

その他 (1568、1597、2014)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好である。深鉢G-Ⅲが主体であることから、口径に最大長を持つタイプが多い。

〈精製・粗製〉 粗製土器が大半を占める。確認された精製土器の完形品は、2148と2156の2点のみである。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は、ほとんどが平縁である。底部は、平坦を主体に上げ底状が見られる。

〈文様帯・特徴など〉 文様は、2点の精製土器を見れば器面全体に展開する。粗製のものは、胴部下半～底部にかけてわずかに無文帯が見られる。地文は2種の原体により羽状縄文を構成するものが多い。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは①の土器群である。

① 2148、2156

〈分類との対比〉 粗製が主体を占めることから、詳細は探り得ないが、精製の2点は十腰内Ⅴ式に相当する。

〈総括〉 後期後半期に製作された深鉢である可能性が高い。時期の下限や上限は不明である。

(8) 深鉢H

深鉢Hにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の11種である。

深鉢H-I-1-a (171、193、1350、1738、1806、1975)

深鉢H-I-1-b (157)

深鉢H-I-1-d (364)

深鉢H-I-2-a (1493、1695、1762)

深鉢H-II-1-a (2074)

深鉢H-II-1-d (238)

深鉢H-Ⅲ-1-a (415、1268、1661、1806、1975、2094)

深鉢H-Ⅲ-1-b (554、1665、1667、1674、1737、1742)

深鉢H-Ⅲ-1-d (115、239、253、1743、1778)

深鉢H-Ⅲ-2-a (1729)

深鉢H-Ⅲ-2-b (1620、1715)

その他 (65、130、134、145、250、251、252、311、394、426、737、1339、1355、1452、1666、2099)

〈出土数の傾向〉 資料数的に見れば完形品が多く得られ、良好と言える。深鉢H-Ⅲが主体で、次いで深鉢H-Iとなる。

〈精製・粗製〉 精製と粗製の割合としては、若干粗製が多い。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は平縁が主体で、若干量小波状が見られる。底部は平坦、上げ底状、台付が見られる。

〈文様帯・特徴など〉 文様はⅡa帯が主体で、Ⅱ帯は地文のみのもので多い傾向である。115は、突き起こし状の刺突文が連続施文され、文様の施文単位は不明であるが、文様モチーフの起点に貼瘤が付加される。239は、文様の施文は5単位で割り付けられる。煤の付着状況として、内外面ともほぼ全面に煤の付着が確認されるが、内面の胴部下半付近のみ付着が見られない。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 737、1268、1452、1661、1666、1729、2074

② 115、1743

〈分類との対比〉 本遺跡の資料で見れば、後期末葉～晩期前葉にかけて隆盛した器形である。239の土器は後期最終末～晩期最初頭とも言える土器であり、115は同時期もしくは若干古いと思われる南東北的な特徴の土器である。

〈総括〉 本遺跡の資料で見れば、後期末葉～晩期前葉にかけて隆盛した深鉢と捉えられる。

2 鉢

底部～口縁部までの器形の違いで10種類に区分した後、口縁部の形態（1～4）と底部の形態（a～d）を加味して区分した。深鉢に比べ、絶対数が少なく、また出土点数の極端に少ない器形の鉢も多いことから、分類後の所見として分析対象資料には不向きであったように思う。

（1）鉢A

鉢Aにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

鉢A-1-d (1247)

鉢A-2-a (2030、2035)

鉢A-2-d (1397)

その他(1884)

〈出土数の傾向〉 資料数は希少であるが、個々の土器の残存率は良好と言える。

〈精製・粗製〉 粗製は見られない。

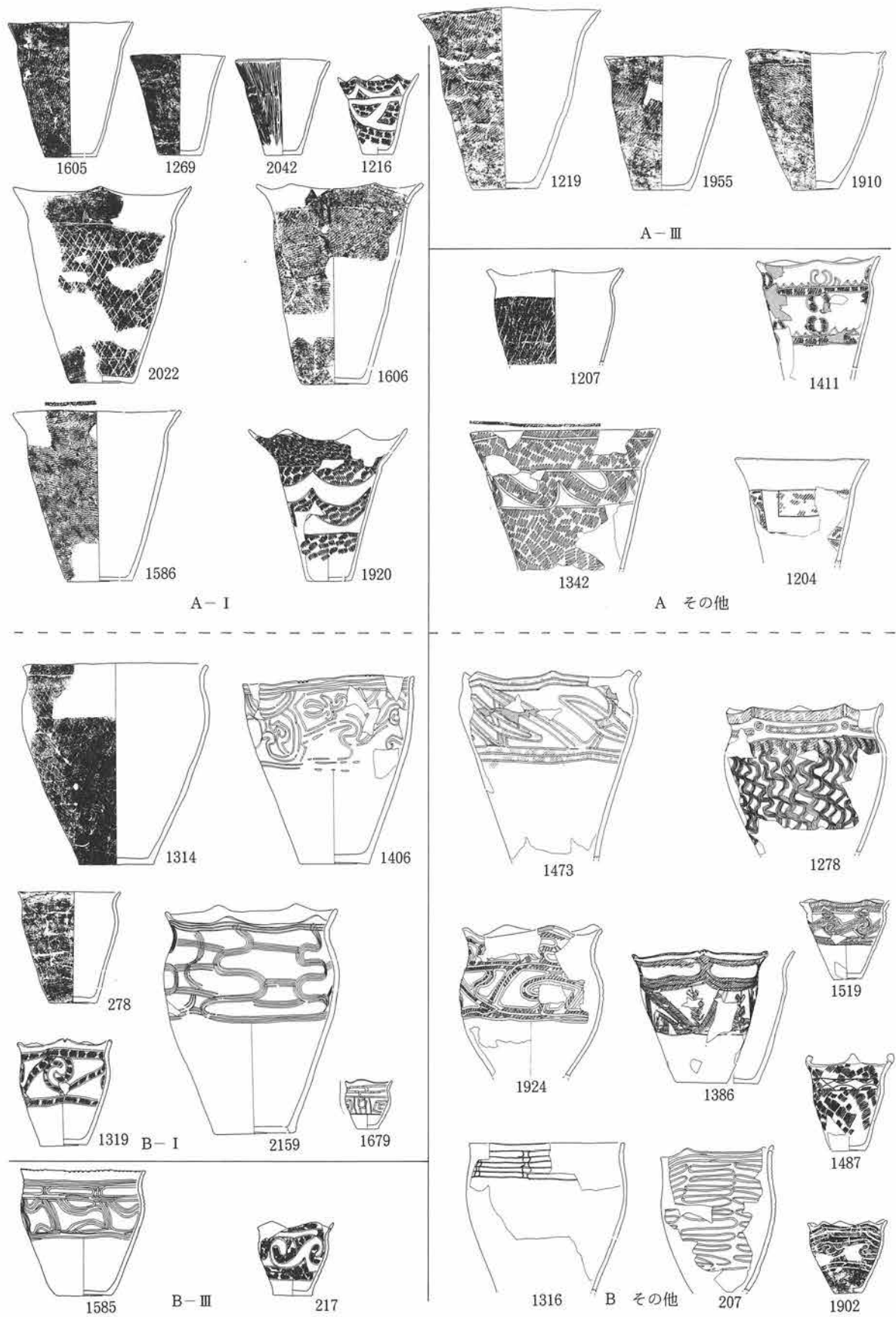
〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は全て波状で、4単位である。底部は平坦と台付が見られる。

〈文様帯・特徴など〉 文様は、Ⅰ帯が無文、Ⅱa帯が主要文様帯、底部付近が無文といった構成で、比較的明確に区分される傾向が窺える。1397と2035は多条沈線によりモチーフが描かれる。1884と2030は、地文は何れも無節で、磨消縄文が施される。波状口縁の単位や文様の施文単位は、何れも4単位である。

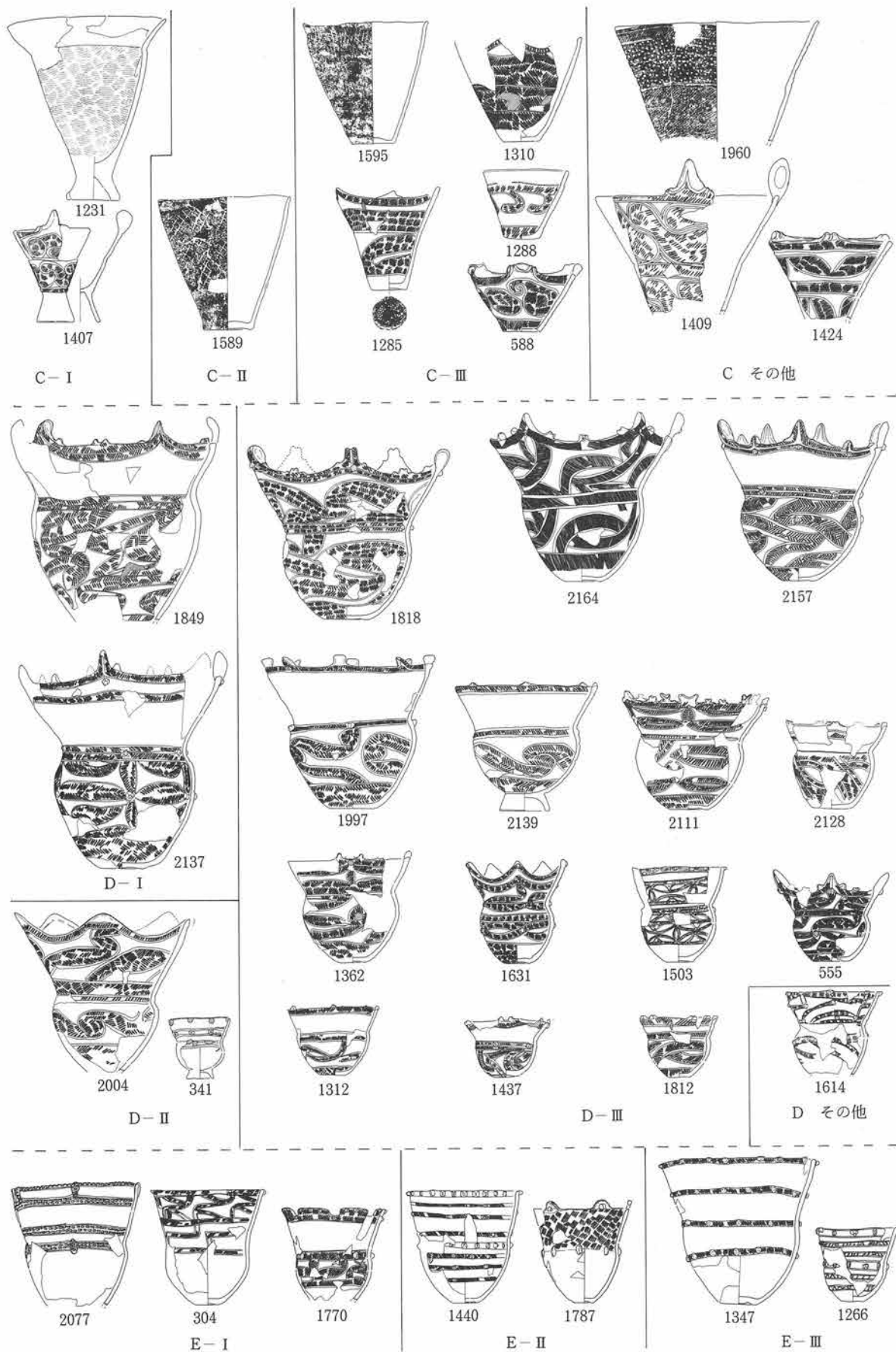
〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1397、2030、2035

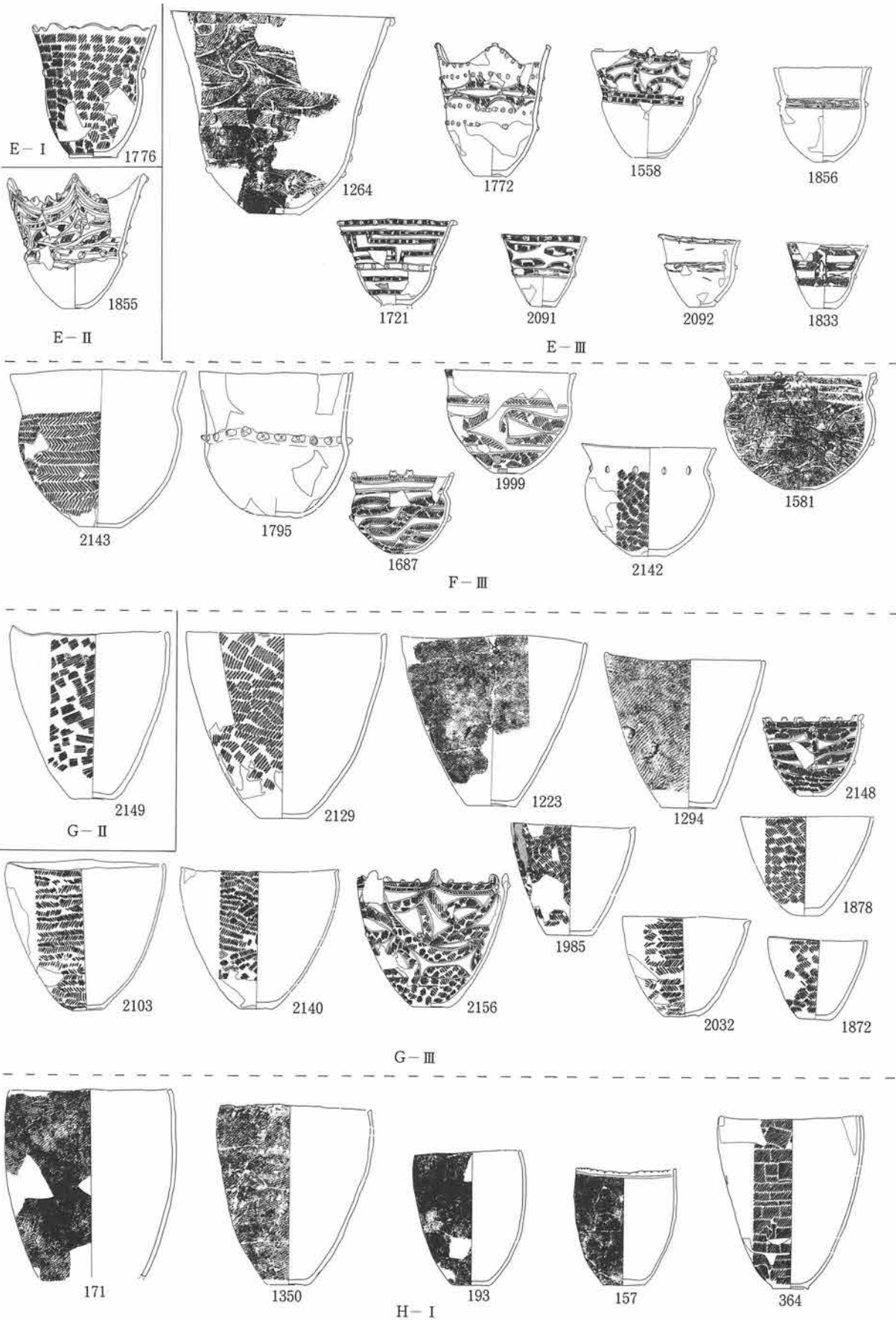
〈分類との対比〉 十腰内Ⅰ式に見られる器形と言える。



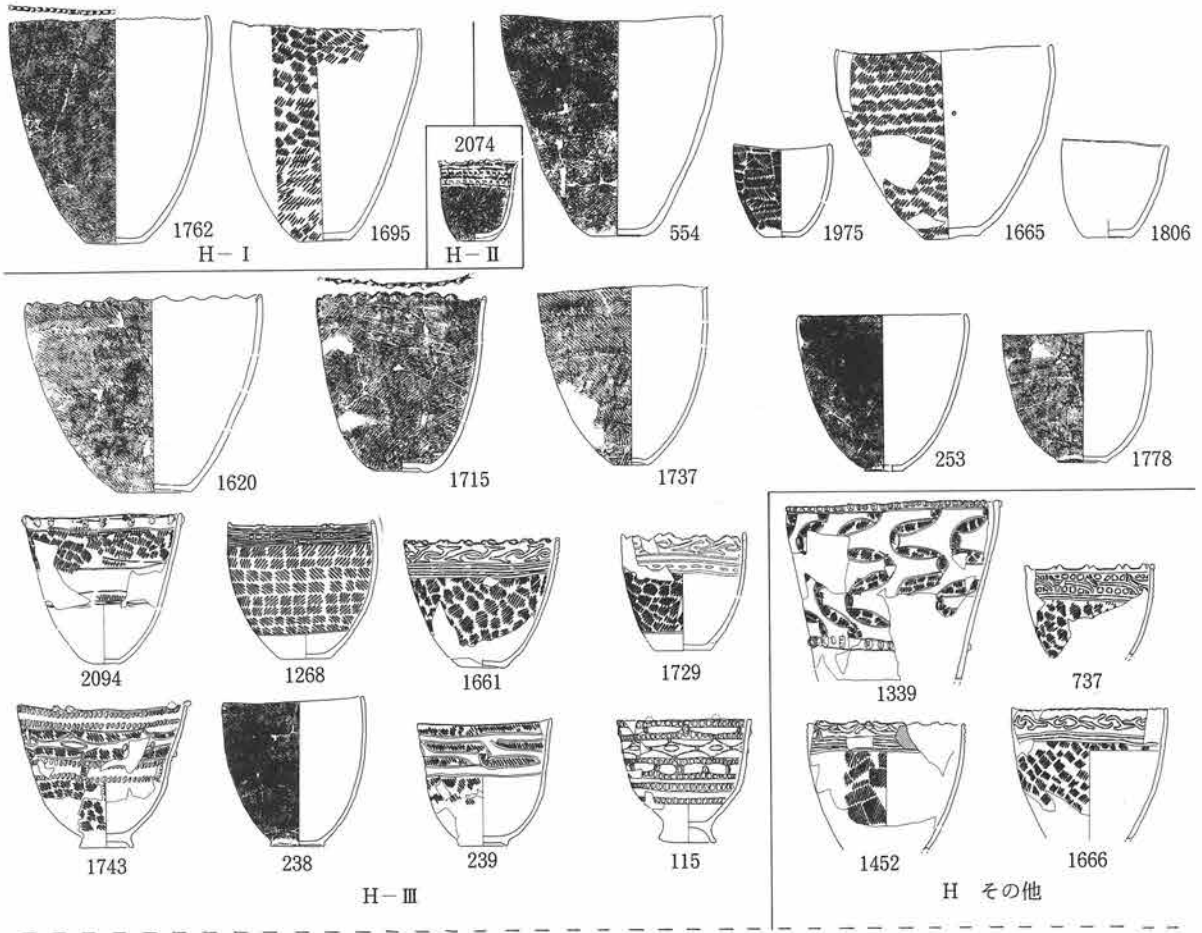
第420図 土器器形分類図 1



第421図 土器器形分類図2



第422图 土器器形分類图 3



第423図 土器器形分類図4

<総括> 後期前葉期に見られる鉢であることは言えると思う。鉢Bとの類似点が多い。

(2) 鉢B

鉢Bにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

鉢B-1-a (1334、1969)

鉢B-1-d (342、1326)

その他 (1468)

<出土数の傾向> 資料数は希少であるが、個々の土器の残存率は良好と言える。

<精製・粗製> 精製の鉢が主体と言える。

<口縁部・底部の形態> 342の口縁部の突出を突起として捉えれば、口縁部は全て平縁である。底部は平坦と台付で構成される。

<文様帯・特徴など> 文様帯は鉢Aと同様の傾向を示すが、鉢B同士では若干の相違がある。地文を施文する土器は1969のみである。

<分類との対比> 十腰内I式に見られる器形と言える。

<総括> 後期前葉期に位置付けられるタイプと言えるが、鉢Aとの比較から、鉢Bの方が若干古い時期に位置付けられる可能性がある。文様帯としては、1969と鉢Aの2035に類似性が感じられる。

(3) 鉢C

鉢Cにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

鉢C-1-a (2068)

<出土数の傾向> 2068の1点のみである。

<精製・粗製> 精製土器である。

<口縁部・底部の形態> 口縁部は、平縁で貼付けによる突起を持つ。底部は平坦である。

<文様帯・特徴など> II帯に広く、沈線によるS字状・渦巻き状のモチーフが描かれる。口縁は2単位の波状縁で、頂部下の渦巻き状文は2単位で施文されるが、入組み状文の文様単位に規則性はない。

<文様帯の類似する土器群> 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

鉢Aの1247と文様帯が類似する。

<分類との対比> 十腰内I式の古い段階の土器であろう。

<総括> 文様帯の類似性で捉えれば、鉢Aと同種に属して差し支えない鉢である。本稿で行った器形設定に、不備があったと思う。

(4) 鉢D

鉢Dにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

鉢D-1-a (1306、1404、1434、1464、1616、1959、2051)

鉢D-1-b (2130)

鉢D-1-d (1754)

その他 (1488、1501)

<出土数の傾向> 資料数は普通である。

〈精製・粗製〉 粗製が多い。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は全て平縁である。底部は平坦が多い。

〈文様帯・特徴など〉 口縁部と胴部を分離する行為が感じ取れる。鉢Dとして設定した中でも、頸部～口縁部の外反の具合に相違がある。

〈分類との対比〉 後期前葉～晩期までが混在している。

〈総括〉 器形分類の設定を大きく捉え過ぎたことは否めない。1501、1754を除けば、後期前葉～中葉と思われ、該期に多い器形であろう。1754は、鉢Eの1908と同種と捉えられる。

(5) 鉢E

鉢Eにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の4種である。

鉢E-1-a (1315、1539、1655、1908、2045)

鉢E-1-b (1930)

鉢E-2-a (1470、1529、1918、1921)

鉢E-2-d (1436)

〈出土数の傾向〉 資料数は、良好と言えよう。

〈精製・粗製〉 精製が主体である。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は、平縁と波状がある。底部は1930が上げ底状で、他は平坦と台付である。

〈文様帯・特徴など〉 傾向が窺い知れる資料とは言えない。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1918、1921

〈分類との対比〉 十腰内Ⅲ～Ⅳ式と思われる1436の位置付けが問題となるが、それ以外は後期前葉～中葉と思われる。

〈総括〉 器形分類の設定を大きく捉え過ぎたことは否めない。1918と1921については、本来深鉢Aに含めるべきものであり、1342や1204と文様帯が類似する。

(6) 鉢F

鉢Fにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

鉢F-1-a (2005)

鉢F-1-d (1936)

その他(1)

〈出土数の傾向〉 非常に希少である。

〈精製・粗製〉 2005は精製、1936は半精製と言える。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は平縁である。底部は平坦と台付である。

〈文様帯・特徴など〉 2005はⅡ帯に磨消縄文による幅広のモチーフが4単位で描かれ、口縁端と頸部に複数段の刻目帯を施文する。

〈分類との対比〉 十腰内Ⅲ式に多い器形と思われる。

〈総括〉 2005は、深鉢Fの1999と文様帯が類似する。

(7) 鉢G

鉢Gにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の4種である。

鉢G-1-a (1542、1979、1981、2081、2120)

鉢G-1-b (2154)

鉢G-1-c (683)

鉢G-1-d (605、1578、1842、2082)

その他 (360、2131)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好と言える。

〈精製・粗製〉 精製を主体とする。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は平縁である。底部は平坦と台付を主体とする。

〈文様帯・特徴など〉 II帯を主要文様帯とする傾向は窺える。文様のモチーフとしては、1979、2120、2131、2154などは入組み帯状文（2種の原体による羽状縄文）による襷掛け状のモチーフが描かれる。2154は、口唇部の突起が2個一対で7単位で付加される。1578は、II帯に貼瘤が7単位で付加される。ただし、貼瘤同士の間隔は、まちまちである。2154は、口唇部の突起は2個一対で7単位？、I帯の瘤は7単位？、II帯の文様施文単位は4単位である。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 2120、2154

〈分類との対比〉 十腰内IV式及び十腰内V式に多い器形と思われる。

〈総括〉 バリエーションに富んだ構成となったが、時期的には大差ない時期でまとまるようである。1979は、深鉢Fの1581、1687と文様帯が類似する。2082は鉢Hに類似する器形とも取れる。

(8) 鉢H

鉢Hにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

鉢H-1-a (1242、1499)

鉢H-1-d (246、1798)

その他 (416、1505)

〈出土数の傾向〉 資料数は希少と言える。

〈精製・粗製〉 精製を主体とする。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁を主体とする。平坦と台付がある。

〈文様帯・特徴など〉 II帯を主要文様帯とする。II a帯は入組み状文と無文がある。1798は、口唇部に6単位で突起が付加される。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1499、1798

〈分類との対比〉 十腰内V式に多い器形と思われる。

〈総括〉 資料数は少ないが、後期末葉に見られる鉢と判断される。

(9) 鉢I

鉢Iにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の6種である。

鉢 I-1-a (235、242、326、541、1427、1448、1575、1759、1760、1794、1874、1978、2101、2172)

鉢 I-1-b (450、1359、1751、1834、2093、2144)

鉢 I-1-c (1888)

鉢 I-1-d (1239、1560、1672、1700、1707、1730、1771)

鉢 I-2-a (1212、1456)

鉢 I-2-d (1699)

その他 (143、176、195、197、300、301、1692、1713)

<出土数の傾向> 鉢類の中では最も出土数が多い。

<精製・粗製> 精製が主体である。無文の精製土器も見られる。

<口縁部・底部の形態> 平縁が主体である。底部は平坦を主体として、台付、上げ底状となる。丸底状は1888の1点のみである。

<文様帯・特徴など> 文様帯の主要ステージはⅡa帯で、羊歯状文が見られる。Ⅱ帯に文様帯を持つものは見当たらない。

<文様帯の類似する土器群> 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 450、1456、1760、1874、2101、2172

② 1707、1888

<分類との対比> 大洞BC式に多く見られる。

<総括> 晩期前葉に見られる鉢と判断される。

(10) 鉢J

鉢Jにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

鉢J-1-a (2078)

鉢J-1-d (156、1267)

その他 (93、174、306、365、565、1654)

<出土数の傾向> 底部が欠損するものが多く、完形品は希少である。

<精製・粗製> 精製が主体である。

<口縁部・底部の形態> 平縁あるいは、小波状(分類上は平縁とした)を呈する。底部は平坦と台付で構成される。

<文様帯・特徴など> Ⅱa帯を主要文様帯とすることでは鉢Iと類似する。Ⅱ帯にも文様(入組み三叉文)を施文する土器があることでは相違する。

<文様帯の類似する土器群> 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

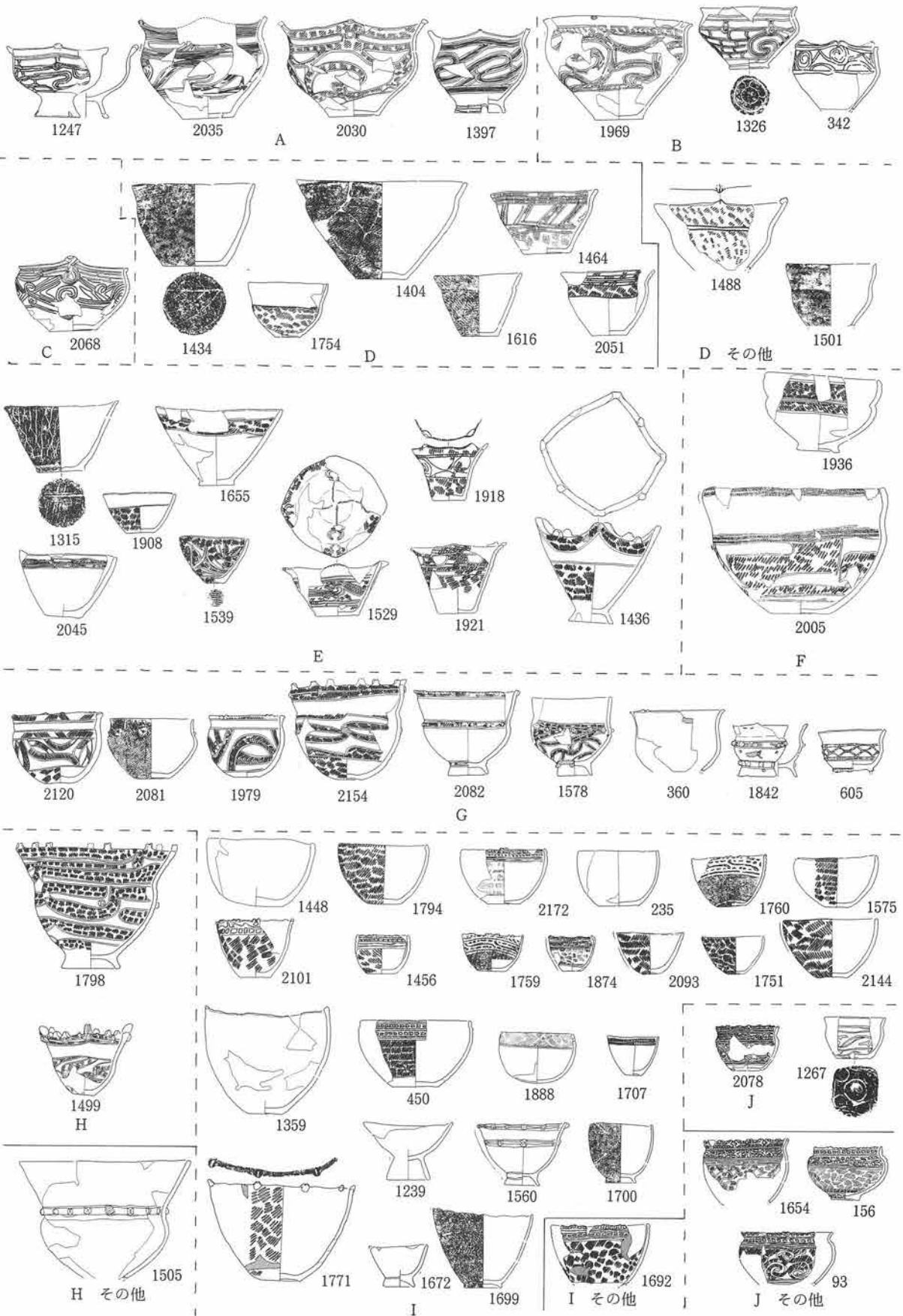
① 93、1654、2078

<分類との対比> 大洞BC式に多く見られる。

<総括> 晩期前葉に見られる鉢と判断される。

3 壺

底部～口縁部までの器形の違いで20種類に区分した後、口径と器高の割合(Ⅰ～Ⅲ)と口縁部の形態(Ⅰ



第424図 土器器形分類図 5

～4)と底部の形態(a～d)を加味して区分した。器種別に見れば、最も完形率が良好なのは壺類と思われる、特に小形の壺は出土時から完全な状態であるものが多々見られた。

(1) 壺A

壺Aにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

壺A-I-2-a (2168)

その他(1390、2006、2018、2026、2037) ※底部欠損の中で3点はA-I-2。

〈出土数の傾向〉 完形品は1点のみである。残り4点は底部を欠損する資料であるが、A-Iを主体とすると捉えられる。2018は、本遺跡においては土器全体で見ても、大形に属する規模である。

〈精製・粗製〉 確認された資料は、精製のみである。

〈口縁部・底部の形態〉 波状を呈する、広口の壺形土器である。波状の単位は4単位と5単位が見られる。底部が残存するのは2168のみで、平坦である。

〈文様帯・特徴など〉 口縁部は隆帯と沈線による方形・楕円形区画文が見られ、接点に円形の刺突文を持つ。II帯を主要文様帯とし、胴部中位に区画帯を持ち、胴部下半は無文あるいは地文である。2168は、4単位の波状口縁で、頸部の方形区画文が4単位となる。2006は、口頸部のクランク状文が4単位で、胴部の文様は磨消縄文による「V字」及び「逆V字」がモチーフされ、文様の起点に竹管文を施文する。1390は、他の4つとは明らかに違う特徴を持つ。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯には類似性が窺える。

① 2006、2018、2026、2168

〈分類との対比〉 2018、2026、2168は十腰内I式の新しい段階に位置付けられると思われる。2006は、頸部～口縁部の長さが上記した3つと比べ短く、胴部中位付近も横幅が広い。文様モチーフから、十腰内I式の中でも若干古い段階に位置付けられると思われる。1390は、十腰内I式の最も古い段階あるいは前段階に相当する土器と思われる。

〈総括〉 壺Aとして一括した5点は十腰内I式期であるが、3段階に時期細分される可能性がある。

(2) 壺B

壺Bにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、1種である。壺Aと比較して口径が小さい。

壺B-I-2-a (1408、2024)

その他(1327、1361、1396、1481、2033) ※底部欠損の2点はB-I。

〈出土数の傾向〉 完形品は2024の1点のみである。出現率としては、壺Aと同じ割合と思われる。

〈精製・粗製〉 確認された資料は、精製のみである。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁は波状を主体とするが、平縁もある。底部は、平坦とやや上げ底状の2種が確認された。

〈文様帯・特徴など〉 何れもII帯を主要文様帯とし、胴部中位に区画帯を持ち、胴部下半は無文である。頸部に円形の凹が見られる。1361は、折り返し口縁で、頸部の方形区画文が4単位、胴部の渦巻き状文が4単位で施文される。2024は、3単位の小波状縁で、頸部の方形区画が3単位である。2033は、頸部の方形区画が4単位、胴部の文様が4単位で割り付けられる。1396は、II帯が横位の帯状文により分裂する。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1361、2033、2024

<分類との対比>

広義的には十腰内 I 式の範疇で捉えられる。新古に細分するなら、以下の順になるのではないかと筆者は捉えている。

2024・2033（十腰内 I 式古い？）→1361・1396・1481（十腰内 I 式新）→1408（十腰内 I～II 式）→1327（十腰内 II 式？）

<総括> 十腰内 I 式～II 式にかけて、継続的に見られる。

（3）壺 C

壺 C において、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の 2 種である。

壺 C-I-1-a（1389、1471、1869）

壺 C-I-2-a（2008）

その他（1398、1410、1419）

<出土数の傾向> 数的には多くない。

<精製・粗製> 精製と地文のみ・無文の粗製がある。

<口縁部・底部の形態> 平縁が主体である。波状は2008のみである。底部は平坦である。

<文様帯・特徴など> II 帯が主要文様帯である。胴部中位より下半は無文を呈する。1389と1471は磨消縄文手法による入組み状文で、内面はナデ調整が施される。文様が複雑である2008は、口縁部に隆帯による縦位の入組み文と沈線文、頸部に隆帯による区画文 3 単位、胴部に沈線と多条沈線による「X 字状文」・「S 字状」文を 3 単位で施文する。

<文様帯の類似する土器群> 文様帯の類似性が窺えるのは①の土器群である。②の土器群は無文で粗面（ミガキなどが施されていない）のままの土器である。

① 1389、1471、2008

② 1398、1410

<分類との対比> 2008が若干古い以外は、全般に十腰内 I 式の新段階に相当すると思われる。1869は無文の精製壺であるが、他の無文は粗製であり、時期差で捉えられよう。

<総括> 壺 C の中で①としたものは、壺 B の①とした土器群と文様帯が類似する。文様モチーフから見ても、ほぼ同時期的に比定できると思う。

（4）壺 D

壺 D において、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の 2 種である。

壺 D-I-1-a（1232、1237、1352、1482、1922、1968、2039）

壺 D-I-1-c（1931）

その他（1380）

<出土数の傾向> 完形品が多い。全て壺 D-I に相当することから、器高に最大長を持つ。

<精製・粗製> 精製、粗製の両者が見られ、粗製がやや多い。

<口縁部・底部の形態> 口縁部は平縁で、口唇部の形態が「丸み」のものが主体を占める。1352と1380は口唇部に縄文を施文する。底部は1931の無文土器を除き全て平坦である。底面には網代、笹？などの圧痕が

見られる。

〈文様帯・特徴など〉 第V章で説明した分類設定の基準により、選ばれたものであるが、全体の形状にはバラツキが目立つ。1968は、頸部～口縁部が細長く、Ⅱ帯は4単位で文様が割り付けられる。1232は、胴部中位の幅が広い形状である。文様を持つ1232、1482、1968は、文様帯は何れもⅡ帯で、胴部中位が無文あるいは地文のみを施文する。1232は、口縁部と胴部の文様を合わせると、X字状に見える。1237は頸部に、1922は頸部と口縁部に原体押圧文を施文する。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1232、1482、1968

〈分類との対比〉 全般に十腰内Ⅰ式に相当すると思われるが、無文のものについては、明確には時期同定ができない。

〈総括〉 形状は様々であるが、時期的にはある程度のまとまりが感じられる。

(5) 壺E

壺Eにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

壺E-I-1-a (1222、1248、1300、1469、1647、1701)

壺E-I-1-b (1403)

壺E-I-2-a (1956)

その他 (1211、1504)

〈出土数の傾向〉 完形品が多い。全て壺E-Iに相当することから、器高に最大長を持つ特徴がある。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 1956としたもの以外は、平縁である。1647は原体押圧文を、1403と1647は口唇部に縄文を施文する。底部は、1403が若干上げ底状を呈する以外は全て平坦である。

〈文様帯・特徴など〉 全体的にスマートで、徳利の形に近似したものが多い。1956は稚拙な沈線による特殊な文様を施文する。1300、1647、1469は直線的な磨消縄文帯が横位に巡る。1248は、頸部の円形文が3単位で施文され、口唇部は平坦やや歪気味である。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1248、1403

② 1300、1469、1647

〈分類との対比〉 1248は十腰内Ⅰ式の新しい段階、1211、1300、1403、1469、1647は十腰内Ⅱ式に相当すると思われる。

〈総括〉 1403の時期的な位置付けが問題となるが、十腰内Ⅰ式～Ⅱにかけて隆盛する壺と思われる。

(6) 壺F

壺Fにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

壺F-I-1-a (1213、1214、1744、1973)

壺F-I-1-b (1453)

壺F-I-1-c (1951)

〈出土数の傾向〉 資料数は少ないが、残存率は良好なものが多い。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 全て平縁である。底部は、平坦を主体に上げ底状、丸底状が見られる。台付はない。

〈文様帯・特徴など〉 1213と1214は、Ⅱ帯全面に幅広の帯状文による鍵状のモチーフが3単位で描かれる。無文部分は、磨消縄文手法による。1453は、口唇部に叉状貼瘤状の突起が2個一対で3単位で付加され、Ⅱ帯に磨消縄文手法による入組み状文を施文し、3単位で叉状貼瘤が付加される。1213・1214とは胴部下半が無文である点が相違する。また、胴部下半はミガキが粗雑である。1744、1951、1973は無文の精製壺である。主要文様帯はⅡ帯のようである。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1213、1214

〈分類との対比〉 1213、1214は十腰内Ⅱ～Ⅲ式、1453は十腰内Ⅳ～Ⅴ式、その他は明確ではないが、後期後半期と推定される。

〈総括〉 後期中葉～後葉に見られる器形と判断される。壺Eよりは、新しい時期に相当し、また壺Gとはほぼ同時期に見られる器形と思われる。

(7) 壺G

壺Gにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

壺G-I-1-c (1233、1894、2116)

その他 (1263、2122)

〈出土数の傾向〉 資料は希少と言える。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 全て平縁で、底部は全て丸底状である。

〈文様帯・特徴など〉 主要文様帯はⅡ帯と受けとれる。頸～口縁部にかけては、磨消縄文帯を持つものが見られる。1233は、Ⅱ帯に弧線状入組み文を施文する。2116は、Ⅱ帯に帯状文による変形鍵状のモチーフが描かれ、帯状文内は羽状縄文を構成する。1894は、Ⅱ帯に横位に平行する磨消縄文帯を持つ。

〈文様帯の類似する土器群〉 Ⅱ帯が主要文様帯である点では共通するが、類似性は捉えられない。

〈分類との対比〉 十腰内Ⅲ～Ⅳ式に相当する。2116は両者の過渡期的な土器と思われる。

〈総括〉 後期中葉～後葉にかけて見られる器形と判断される。

(8) 壺H

壺Hにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

壺H-I-1-a (1337、1428、1716、1725、1749、1831、1835、1993)

壺H-I-1-b (1430、2174)

壺H-Ⅲ-1-a (628)

その他 (1447、1827、1887)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好と言える。壺H-Iが主体である。

〈精製・粗製〉 無文の精製が2点見られる以外は、全て粗製である。

〈口縁部・底部の形態〉 全て平縁である。底部は、平坦と上げ底状の2種がある。2174は4足であったと

思われるが、明瞭ではない。

〈文様帯・特徴など〉 全面地文を施文するのが1337、1430、1725、頸～口縁部を無文とするのが1716、1749、1831である。1447は口縁部に平行沈線、口縁部下半に磨消縄文を伴う。1887は壺Gなどと文様帯が類似する。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1337、1430、1725

② 1716、1749、1831

〈分類との対比〉 628、1887は十腰内Ⅲ式に相当する。2174は、晩期初頭と思われる。その他は明確ではない。

〈総括〉 時期を判断できる文様を施文するものが希少と言える。諸特徴から判断すれば、後期中葉～晩期初頭まで時期幅が広い可能性が窺える。

(9) 壺 I

壺 I において、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の4種である。

壺 I - I - 1 - a (1265)

壺 I - I - 1 - b (1892、1939)

壺 I - I - 1 - c (1369)

壺 I - I - 1 - d (1689、1714、1854、2115)

〈出土数の傾向〉 資料数は少ないが、残存率は良好なものが多い。壺 I - I のみであることから、全て器高に最大長を持つ。

〈精製・粗製〉 全て精製である。1265、1892、1714は無文の精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 全て平縁である。底部は、平坦、上げ底状、丸底状、台付の4種があり、台付が主体である。

〈文様帯・特徴など〉 1369、1689、1854、1939、2115はⅡ帯を主要文様帯とし、Ⅱb帯あるいはそれに準ずる文様帯を持つ。Ⅱ帯には入組み帯状文が施文される。また、1265、1369、1854は、器体側面の突起に、縦方向に孔が穿たれているもので、釣り下げ形土器（釣り手土器）と推定される。孔は4単位と5単位がある。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1369、1689、1854、1939、2115

〈分類との対比〉 1369、1689、1854は十腰内Ⅳ式に、1265、1939、2115は十腰内Ⅴ式に比定されると思われる。無文の精製壺である1714、1892は、後期後～末葉と思われる。

〈総括〉 後期後～末葉に見られる壺と思われる。壺 J や壺 M と時期的には並行関係と思われる。

(10) 壺 J

壺 J において、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

壺 J - I - 1 - b (1602)

壺 J - I - 1 - d (1252、1572)

〈出土数の傾向〉 資料数は希少である。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁で、上げ底状と台付が見られる。

〈文様帯・特徴など〉 頸～口縁部を無文とし、Ⅱb帯を持ち、主要文様帯はⅡ帯にある点で類似する。1252は、Ⅱb帯に隆起線文、Ⅱ帯に叉状貼瘤が4単位で付加される。1602は、欠損がほとんどない完形品で、Ⅱ帯の文様は3単位で施文され、正立はしない。

〈文様帯の類似する土器群〉 壺Jとした3点は、文様帯に類似性が窺える。

① 1252、1572、1602

〈分類との対比〉 1252は十腰内Ⅳ式、1572は十腰内Ⅴ式、1602は十腰内Ⅳ式に相当すると思われる。

〈総括〉 壺Jに見られる頸部に段を持つ壺は、後期後半期に見られる器形と判断される。個体数は多くない。

(11) 壺K

壺Kにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

壺K-I-1-c (223)

〈出土数の傾向〉 確認されたのは1点のみである。

〈精製・粗製〉 精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁を呈し、2個一対で4単位に突起が付加される。底部は丸底気味で、底面には円形気味の凹が見られる。

〈文様帯・特徴など〉 口唇部には2個一対の貼瘤が4単位、Ⅱ帯に入組み帯状文による襷掛け状のモチーフが描かれる。Ⅱb帯には横位沈線が引かれ、4単位で瘤が充填される。

〈文様帯の類似する土器群〉 Ⅱb帯に貼瘤が付加されることでは、壺J・壺Lと類似性が強い。

〈分類との対比〉 十腰内Ⅳ式の新しい段階に相当すると思われる。

〈総括〉 後期後半期の希少な壺と言える。

(12) 壺L

壺Lにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

壺L-I-1-a (1349、2160)

壺L-I-1-b (1774)

壺L-I-1-d (531、2079)

その他 (400、1690、1844)

〈出土数の傾向〉 資料数は壺類の中では良好と言える。全て壺L-Iに比定されるものである。

〈精製・粗製〉 精製を主体にする。1774は無文の精製である。1349は、唯一の粗製である。

〈口縁部・底部の形態〉 全て平縁である。底部は、平坦、上げ底状、台付が見られる。壺Kに見られた丸底状を呈するものは確認されていない。

〈文様帯・特徴など〉 主要文様帯はⅡ帯をステージとする。頸～口縁部は、基本的に無文を呈するものが多い。異なるのが、1690と2160である。531は、I18土坑4号から一括出土したものの一つで、頸部に貼瘤を持ち、Ⅱ帯に入組み帯状文による襷掛け状の文様モチーフが描かれ、文様の起点に4単位で貼瘤を配置する。胴部下半に焼成後に穿たれたと思われる孔があり単孔壺と捉えていたが、I18土坑4号の精査を行った

中川によれば、作業時に誤って、ボーリング棒で空けられた孔である可能性がある。2079は、Ⅱ帯に入組み帯状文による変形連節木葉文を施文する。1690は釣り下げ形壺で、釣り手が2単位で付き、Ⅱ帯に入組み帯状文を4単位で施文する。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 531、2079、2160

〈分類との対比〉 2160は十腰内Ⅲ～Ⅳ式、531、2079は十腰内Ⅳ式、1690は十腰内Ⅴ式に相当すると思われる。

〈総括〉 十腰内式との比定関係で捉えれば、後期中葉～末葉にかけて製作された壺と思われる。

(13) 壺M

壺Mにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

壺M-I-1-b (1764)

壺M-I-1-d (530、1510)

〈出土数の傾向〉 資料数は、希少である。全て、壺M-1である。

〈精製・粗製〉 精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 何れも平縁である。底部は上げ底状と台付がある。

〈文様帯・特徴など〉 何れもⅡb帯を持つ。1764は、Ⅱ帯に縦位の楕円文が4単位で施文される。1510は、先鋭貼瘤が2単位で付加され、瘤には孔が穿たれている。Ⅱ帯の文様は浮き彫り状を呈する。530は、I 18土坑4号出土で、壺Lに分類した531と共伴関係にある。Ⅱb帯には瘤が付加される。頸～口縁部の無文帯はミガキが施されているが、胴部は粗面のままである。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯に類似性があるものはない。1510は、胴部に貼瘤帯が巡ることでは壺Jの1572と類似する。

〈分類との対比〉 530は十腰内Ⅳ式、1510は十腰内Ⅴ式に相当すると思われる。1764は、その文様モチーフが特殊であり、位置付けが難しい。十腰内Ⅴ式と推定しておく。

〈総括〉 後期後半期に位置付けられる壺と判断される。

(14) 壺N

壺Nにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

壺N-I-1-b (1782)

その他 (2、1628)

〈出土数の傾向〉 資料数は非常に希少である。胴部上半に最大長を持つ。

〈精製・粗製〉 1782は半粗製、1628は粗製である。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁である。1782は上げ底状である。

〈文様帯・特徴など〉 1782はⅠ帯に帯状文が巡り先鋭貼瘤が付加される。Ⅱa帯は無文で、Ⅱb帯に縦長の貼瘤を付加し、Ⅱ帯は羽状縄文を施文する。1628は頸～口縁部が無文、Ⅱ帯に羽状縄文を施文する。

〈文様帯の類似する土器群〉 資料数が希少で、文様帯の類似性が窺える土器群ではないが、Ⅱ帯に羽状縄文、Ⅱa帯を無文とすることでは類似する。

〈分類との対比〉 1782は貼瘤の様相から十腰内Ⅴ式期と思われる。

<総括> 資料は希少である。壺Nと同様に、II帯を無文帯とするものが多い壺H・I・Qなどとの時期的な位置付けについて検討を要しよう。

(15) 壺O

壺Oにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

壺O-I-1-a (532)

その他 (236)

<出土数の傾向> 資料数は非常に希少である。

<精製・粗製> 236、532は半粗製の壺である。

<口縁部・底部の形態> 平縁で、底部は平坦である。

<文様帯・特徴など> 口縁部に2cm程の無文帯を持ち、横位沈線によりIIb帯が区分され、胴部はLRを施文する。

<文様帯の類似する土器群> 文様帯の類似性が窺える資料ではない。

<分類との対比> B21住居跡3号出土の236は、他の土器との共伴関係から大洞B1式に相当する可能性がある。I18土坑4号出土の532は、他の土器との共伴関係から十腰内IV式、あるいは十腰内V式に相当すると思われる。

<総括> 壺Oの2点は、時期を判別する特徴的な文様の施文がないものの、何れも遺構内出土であることから、共伴遺物からある程度の時期推定が可能である。本遺跡の資料においては後期後葉～晩期初頭に出現する壺形土器のようである。

(16) 壺P

壺Pにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

壺P-I-1-a (194)

その他 (96)

<出土数の傾向> 資料は非常に希少である。194の他には、口縁部が欠損する96が類似する資料と思われる。

<精製・粗製> 194は精製の壺である。96も精製の壺である。

<口縁部・底部の形態> 平縁で、底部は平坦である。

<文様帯・特徴など> 194は、I帯に帯状文、IIa帯が無文、IIb帯に短沈線、II帯に地文により構成される。

<文様帯の類似する土器群> 壺Rとは類似性が強いと思われる。

<分類との対比> 194が出土したD19住居跡出土土器との共伴関係から、大洞B～BC式に比定される土器と思われる。

<総括> 晩期初頭～前葉に比定される壺形土器と思われる。

(17) 壺Q

壺Qにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

壺Q-I-1-a (267)

壺Q-I-1-b (763)

その他 (150)

〈出土数の傾向〉 資料数は希少である。267、763はQ-Iに相当することから、器高に最大長を持つ特徴が窺える。

〈精製・粗製〉 267と763は粗製で、150は外面が丹念に磨かれた無文の精製土器である。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁で、底部は平坦と上げ底状が見られる。

〈文様帯・特徴など〉 II a帯を無文とし、II帯は地文を施文する。大きさ的には3点とも相異がある。

〈文様帯の類似する土器群〉 口・頸部と胴部を区分することでは類似性が窺える。

〈分類との対比〉 150が出土したE15住居跡出土土器との共伴関係から、大洞B～BC式に比定される土器と思われる。

〈総括〉 晩期初頭～前葉に比定される壺形土器と思われる。

(18) 壺R

壺Rにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器はなく、分類基準の設定ミス感も否めない。

その他 (286、357)

〈出土数の傾向〉 資料数は希少である。壺Rとしたものは完形品がなく、壺Qとの類似性から平坦と仮定して概念図を作成した。

〈精製・粗製〉 半精製のと言える。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁である。底部は不明である。

〈文様帯・特徴など〉 286は、II a帯に丹念なミガキが施され、胴部に7つ孔が穿たれている。

〈文様帯の類似する土器群〉 資料数が希少であるため、類似性については言及ができない。他の器形の壺と比較すれば、壺Pと類似する。

〈分類との対比〉 晩期と推定されるが、明確ではない。

〈総括〉 壺Pと同種に捉えるべき壺であったかもしれない。

(19) 壺S

壺Sにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

壺S-I-1-a (1296、1663)

壺S-I-1-d (1659)

〈出土数の傾向〉 資料数は希少である。胴部中位に最大長を持つ。

〈精製・粗製〉 3点共に無文の精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 3点ともに平縁である。底部は、1296と1663は平坦である。1659は4つ足が付く。

〈文様帯・特徴など〉 1659は口縁部に沈線が巡る。1296と1663は、頸～口縁部にかけて外反する。1659は、ほぼ直立気味に立ち上がった後に外反する。

〈文様帯の類似する土器群〉 無文の精製壺と言う点では類似性が強い。

〈分類との対比〉 明確には不明であるが、調整の具合などから晩期に属する壺と思われる。

〈総括〉 壺Sの器形の壺は、無文である場合が多いことは言えると思う。無文の壺が見られるのは壺H、壺I、壺S、壺Tである。参考までに、全体の形状までを加味すれば、注口土器の中にも壺Sの器形は存在

しないようである。部分的に見れば胴部中位の張りが大きいことは、算盤形を呈する注口土器に類似すると思われる。

(20) 壺T

壺Tにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

壺T-I-1-a (1297)

その他 (1709)

〈出土数の傾向〉 資料は希少である。

〈精製・粗製〉 2点ともに無文の精製土器である。

〈口縁部・底部の形態〉 2点ともに平縁である。1297の底部は平坦である。

〈文様帯・特徴など〉 2点とも丹念なミガキが施される。1709は、I帯に帯状文が巡る。

〈文様帯の類似する土器群〉 無文の精製壺と言う点では類似性が強い。

〈分類との対比〉 明確には不明であるが、調整の具合などから晩期に属する壺と思われる。

〈総括〉 壺Tは、器形分類上壺Sと分けて捉えたが、同種として扱って差し支えないものであろう。

4 注口土器

底部～口縁部までの器形の違いで7種類に区分した後、口径と器高の割合（I～III）と口縁部の形態（1～4）と底部の形態（a～d）を加味して区分した。注口部は、先が上方向を向くものだけである。

(1) 注口土器A

注口土器Aにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

注口土器A-III-1-a (1322、1866、1876)

注口土器A-III-1-b (1345)

注口土器A-III-1-d (348)

その他 (1257)

〈出土数の傾向〉 資料数は普通である。ほとんどが注口土器A-IIIで、口径に最大長を持つことを特徴とする。

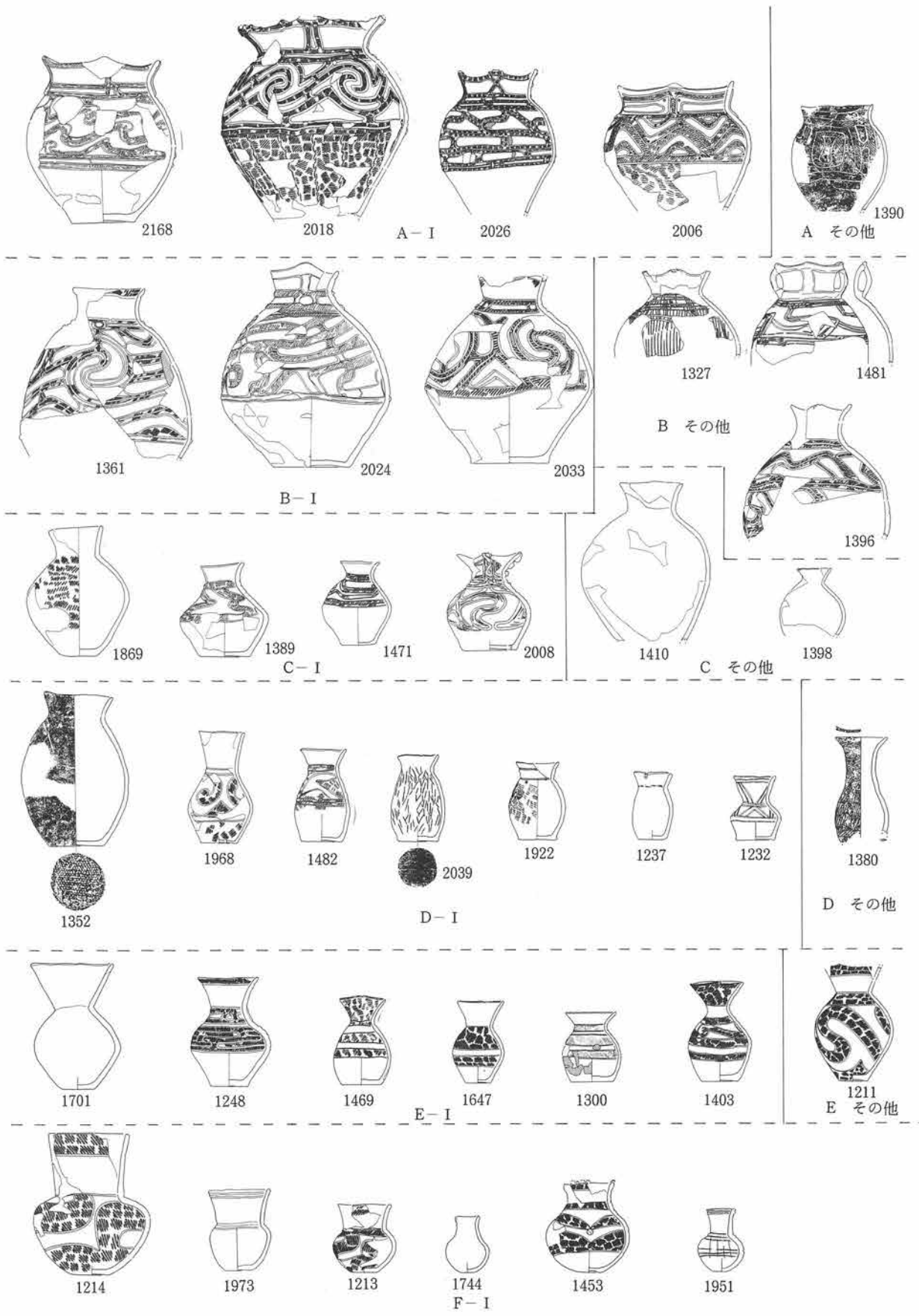
〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁部は平縁を主体とし、突起が付加されるものもある。平縁で、底部は平坦、上げ底状、台付きである。

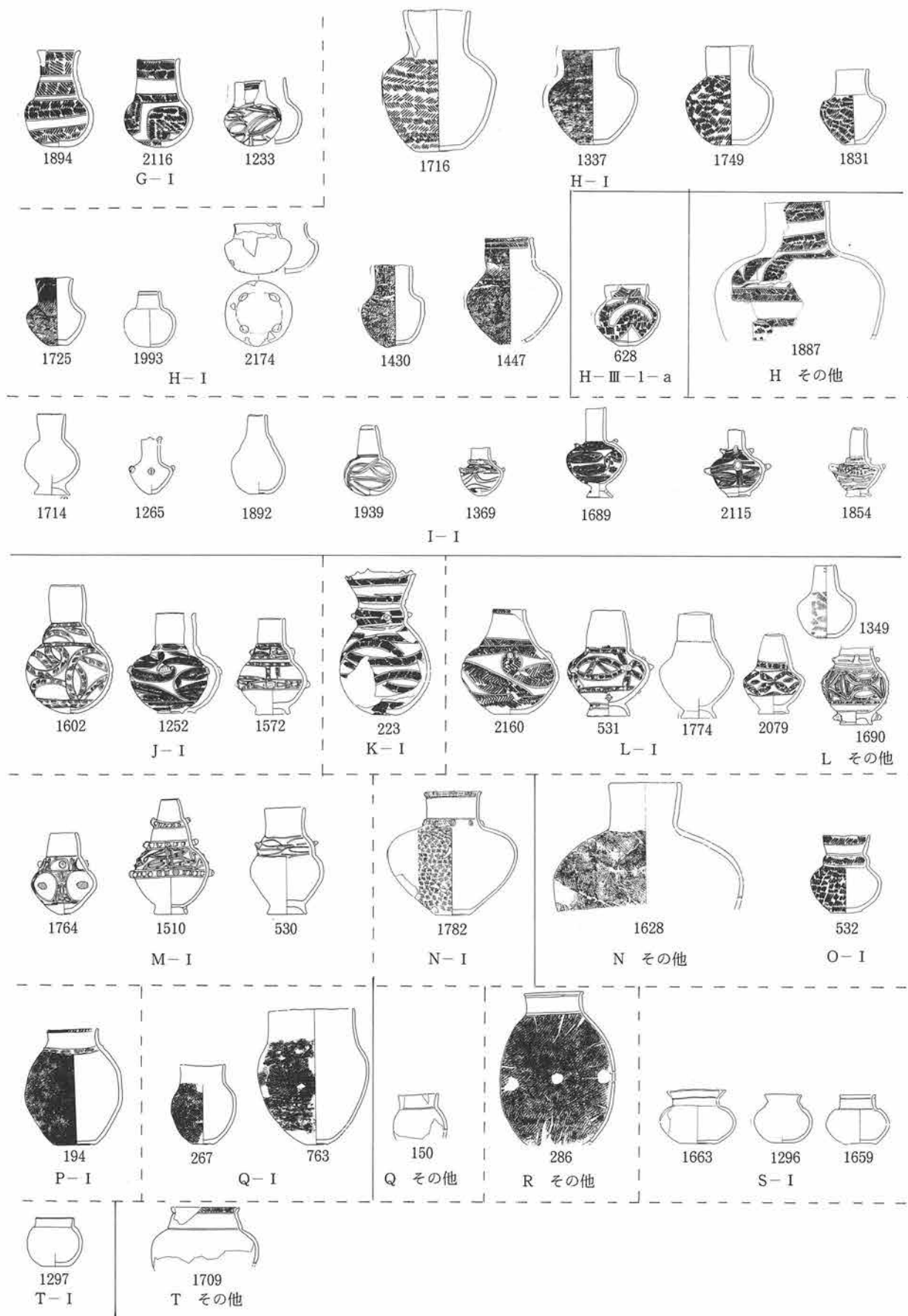
〈文様帯・特徴など〉 1322、1345、1866、1876は、頸部の括れが強く、口頸部が短い。対して348は頸部の括れが弱く、口頸部が幾分長い。1322、1345は、口縁端と頸部に刻目帯を持つ。1876は頸部にのみ刻目帯を持つ。主要文様帯はII帯で、幅広目の入組み状文によるモチーフが描かれる。文様の施文単位が把握できる1866は、3単位である。1866を除き全て羽状縄文で、1257と1322は異方向縄文である。II a帯あるいはII b帯に無文帯を持つ。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1322、1876



第425図 土器器形分類図6



第426図 土器器形分類図7

② 348、1345、1866

〈分類との対比〉 十腰内Ⅲ式に比定される土器群と思われる。

〈総括〉 時期的には後期中葉に位置付けられると思われる。広口の壺形土器に注口が付けられるもので、壺Fの器形に類似する。

(2) 注口土器B

注口土器Bにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

注口土器B-I-1-a (1338)

注口土器B-I-1-b (1705、1724、1775)

注口土器B-I-2-c (1944)

その他 (1367、2072)

〈出土数の傾向〉 資料数は普通である。注口土器B-Iが主体である。

〈精製・粗製〉 無文の精製が主体となる。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁で、底部は平坦、上げ底状、丸底状がある。

〈文様帯・特徴など〉 1944は、Ⅱ帯に入組み状文を施文する。1705は、Ⅱ帯に特殊な文様が施文され、胴部下半は無文となる。1724と1775は、無文で、頸部に段を持つ。

〈文様帯の類似する土器群〉 注口土器Bの中では、文様帯の類似性は窺えない。他の注口土器と比較すれば、1705の文様帯は注口土器Dの1688・1858と類似性がある。1944は、注口土器Aの②の土器群と類似性が窺える。

〈分類との対比〉 施文文様から時期が推定できるのは1944で、十腰内Ⅳ式と思われる。その他は、詳細な時期は不明であるが、概ね後期後半に位置付けられると思われる。

〈総括〉 時期的には、後期後葉～末葉の範疇で捉えられると思われる。文様帯は、注口土器Bや注口土器Dと類似性がある。器形は、壺Hに分類したものに類似する。

(3) 注口土器C

注口土器Cにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の2種である。

注口土器C-I-1-b (1676、1745)

注口土器C-I-1-d (2090)

その他 (497)

〈出土数の傾向〉 資料数は希少である。注口土器C-Iが主体である。

〈精製・粗製〉 無文の精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁で、底部は上げ底状と台付がある。

〈文様帯・特徴など〉 497は、Ⅱb帯に微隆線が巡り、縦長貼瘤が付加される。

〈分類との対比〉 497は、縦長貼瘤が付加されることから、後期後～末葉に比定されると思われる。

〈総括〉 497以外は、時期を判別する特徴が弱い。無文の精製壺が多い傾向は、壺Iとの類似性が窺える。

(4) 注口土器D

注口土器Dにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

注口土器D-I-1-a (1688、1858)

注口土器D-I-1-b (1610、1796、1811、1929、2124)

注口土器D-I-1-d (1497、2080)

その他 (1895)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好と言える。注口土器D-Iが主体である。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁で突起が付くものが多い。底部は上げ底状を主体に平坦が見られる。

〈文様帯・特徴など〉 II帯を主要文様帯とする。口縁端に帯状文が巡り、II a帯を無文として、II b帯に帯状文及び貼瘤を付加するものが多い。2080は、II b帯に4単位で瘤が付加され、II帯には3単位で付加されるが注口部を含めると4単位を構成する。II帯の瘤は、文様の起点に付けられていると思われる。1929は、欠損部が全くない完形品で、口唇部に叉状貼瘤が6単位で付加され、II帯には叉状貼瘤が4単位で付加される。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯 (II帯) が胴部下半まで広範囲に展開するものと、胴部中位付近までのものに大別した。

① 1497、1610、1796、1811、1895、1929、2124

② 1688、1858

〈分類との対比〉 文様モチーフや瘤の様相などで大きくは、十腰内IV式と十腰内V式に大別されると思われる。また両者の過渡期的な位置付けの土器もある。十腰内IV式に比定されると思われる土器群が、1610、1688、1796、1811、1895である。十腰内V式に比定されると思われる土器群が、1497、1929、2080、2124である。1858は両者の過渡期的な土器と思われる。

〈総括〉 文様帯の類似性で、①と②の土器群に大別したが、十腰内IV式とV式が両者に混在している。

(5) 注口土器E

注口土器Eにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の3種である。

注口土器E-I-1-a (1641、1755)

注口土器E-I-1-b (1302、1442、1555、1735、1779、1836、2089)

注口土器E-I-1-d (1786)

その他 (395、1460、1642、1703、1789) ※底部欠損の1789はE-I。

〈出土数の傾向〉 資料数は良好と言える。全て注口土器E-Iが主体である。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 注口土器Eとしたもので口縁部が残存するものは全て平縁で、口唇部の形状は平坦に面取りを行ったと思われる角状を主体とする。底部は、上げ底状を主体に平坦と台付がある。

〈文様帯・特徴など〉 主要文様帯はII帯となり、胴部中位付近より下は無文となる。II b帯の有無は様々であるが、1302、1836に見られる上下に先鋭貼瘤帯によって区画され区画内に入組み状文を施文するのが一般的と思われる。器体全面が無文のものについても、頸部に段が作られていることから、II b帯を意識しているものと思われる。II a帯は、無文あるいは先鋭貼瘤帯が複数巡る。I帯は先鋭貼瘤帯を持つものもあるが、基本的に無文である。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは、①の土器群である。他に無文の壺とした②に

についても類似性が強い。

① 1302、1555、1836

② 1641、1755、1779、1786、2089

〈分類との対比〉 先に第V章で行った分類では十腰内V式に比定させた。全て捨て場出土であることから、他の種類の土器との共伴関係は掴めない。同グリッド・ほぼ同一層から出土したのが、L9グリッドⅢ層下位出土の1779、1786、1789である。その他にも同グリッドであったり、隣接するグリッド同士での出土が多く、出土状況としては比較的まとまりが感じとれる。

〈総括〉 後期末葉に製作された壺であることは、ある程度言えると思う。全体の形状は、Ⅱb帯を持つことでは壺J・壺M・壺Oと類似する器形であるが、上記の壺類との相異点として口頸部が外傾気味に立ち上がるものが多い。

(6) 注口土器F

注口土器Fにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

注口土器F-I-1-d (1262)

その他 (221、314、1286、1965、1974、2053)

〈出土数の傾向〉 資料数は良好であるが、個々の残存率が悪く、全体の形状を把握できるものがない。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 口縁が残存する1262は平縁である。底部は台付が主体で、上げ底状、丸底状のものが見られる。

〈文様帯・特徴など〉 主要文様帯はⅡ帯で、胴部中位より下半は無文となる。文様モチーフは加曾利B式の特徴を具備している。全般に胎土が良く光沢が強い。文様の施文単位は、1286は注口部を含めると4単位である。1262は、櫛目状沈線による8の字のモチーフが描かれ、口縁部及び胴部中位に刻目帯を持ち、台が付く。時期は加曾利B1式併行期と推定される。2053は、沈線による菱形状のモチーフが描かれるが、X字で捉えれば8単位で文様の起点に円形刺突文が見られる。円形刺突文は、文様を割り付けする際の目安的な役割ではないかと推定される。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 221、1262、1286、1965、1974、2053

〈分類との対比〉 十腰内Ⅲ式を主体に、十腰内Ⅱ式と思われるものが含まれる。

〈総括〉 時期的には、全て後期中葉相当の位置付けになると思われる。他地域との関連性を強く感じる土器群が多く、果たして十腰内式と言うべきものか疑問もある。

(7) 注口土器G

注口土器Gにおいて、全体の器形が分かり得る状態の土器は、以下の1種である。

注口土器G-I-1-c (240、1282)

その他 (237、553、1432、1644、1803、1907、2107)

〈出土数の傾向〉 資料数は比較的良好と言えるが、個々の残存率が悪く、全体の形状を把握できるものは希少である。

〈精製・粗製〉 全て精製である。

〈口縁部・底部の形態〉 平縁である。底部は丸底状を主体に台付がある。

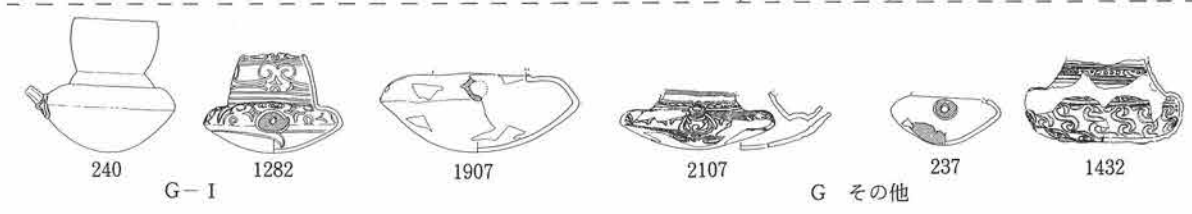
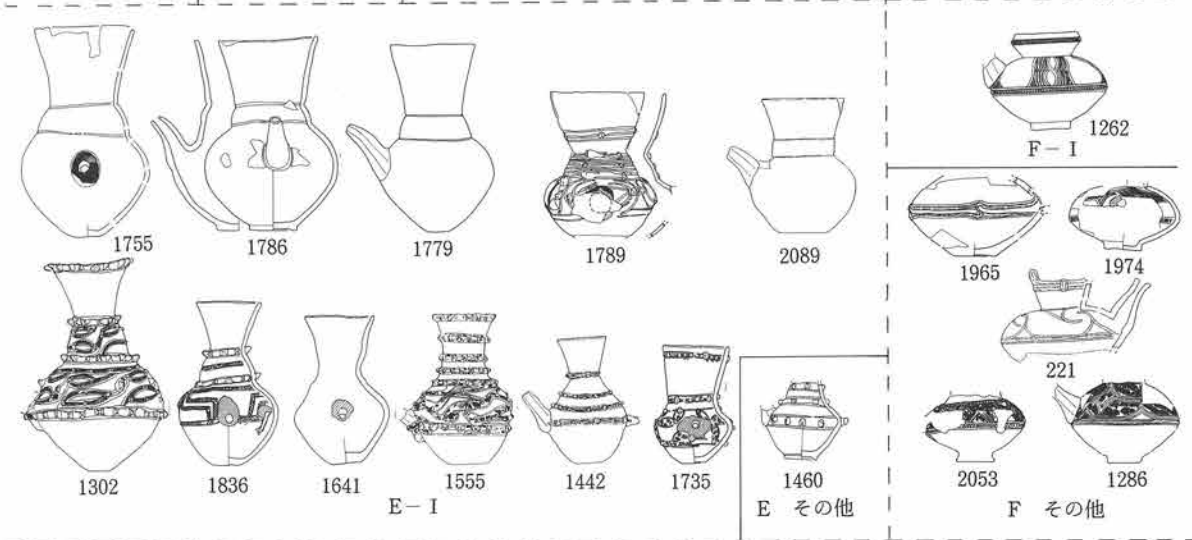
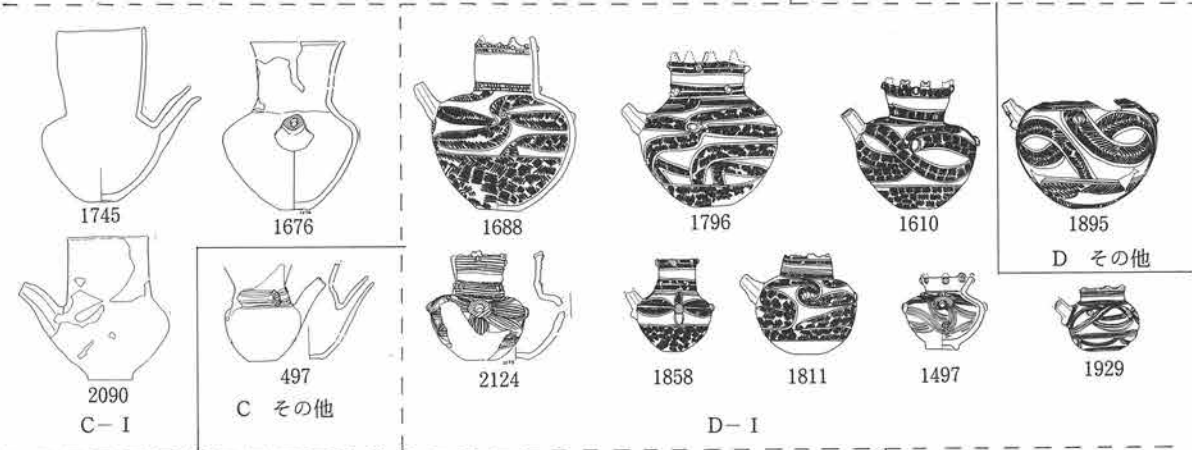
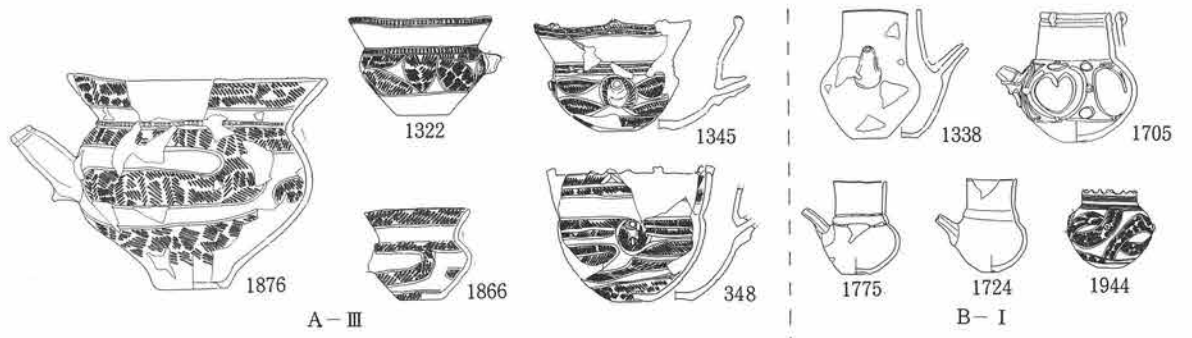
〈文様帯・特徴など〉 II帯を主要文様帯とする。口縁が残存するものが少ないため、II a帯及びII c帯についての傾向は窺い知れない。1282は、口唇部に付加されるB突起が、2個一対のものを2箇所、1個のものを1箇所に見られる。II a帯には4単位で文様がモチーフされる。1432は、器形的に胴部中位が直立気味を呈する器形で、他とは相異なるが文様帯の類似性を優先して注口土器Gに含めた。

〈文様帯の類似する土器群〉 文様帯の類似性が窺えるのは以下の土器群である。

① 1282、1432、2107

〈分類との対比〉 大洞B～BC式に比定される。

〈総括〉 晩期前葉期に隆盛する注口土器と思われる。240の無文の精製注口土器は、頸部に段を持つことでは注口土器Eに見られた無文の精製注口土器である1779、1786、2089との類似性も考えられるが、胴部中位に最大長を持ち、丸底状を呈する点で相異なる。注口土器Gの祖系は、注口土器Eに求められると推定される。



第427図 土器器形分類図8

5 まとめ

本章では、本遺跡の主体となる後～晩期の土器について、器形と文様帯に視点を置いて該期の土器について若干の分析を行った。後期の土器は、器形的に型式を越えて存続するものと、短期間で消滅する器形があると思われた。ただし、文様帯については、若干の器形変化の後も系統的に受け継がれ、存続する時間幅が文様より幾分長いのではないかと思われた。文様の諸モチーフの中で、最も変化が著しいと思われるのが後期初頭～前葉期の文様で、同型式内においてもメルクマールが掴みづらい印象を持つ。また、後期中葉期においては関東の加曾利B式の、後期後～末葉においては東北地方北部以外の地域（安行式、新地式など）との関係を匂わす資料が相当数散見されることから、型式学的検討を行うためには改めて本地域以外の土器に対する見識の必要性を感じた。

本章で行った器形と文様帯を重視した区分は、概ねの時期的な流行を探る目的であれば、ある程度の傾向は掴めると思われた。ただし、時期細分あるいは型式細分を念頭においた場合、改めて個々の文様に主眼を置いた詳細な分析と層位的上下・共伴関係の追求が重要であろう。問題を棚上げした感が残るが、本章のまとめとして、各時期毎に器形分類の見解を示して終わりとする。

- (1) 後期初頭～前葉に見られる器形 深鉢A、深鉢B、鉢A、鉢B、鉢C、壺A、壺B、壺C、壺D、壺E
- (2) 後期前～中葉に見られる器形 鉢D、鉢E
- (3) 後期中葉に見られる器形 深鉢C、鉢F、注口土器A、注口土器F
- (4) 後期中～後葉に見られる器形 壺F、壺G
- (5) 後期中～末葉に見られる器形 壺L
- (6) 後期中葉～晩期初頭に見られる器形 壺H
- (7) 後期後～末葉に見られる器形 深鉢D、深鉢E、深鉢F、深鉢G、鉢G、鉢H、壺I、壺J、壺K、壺M、壺N、壺O、注口土器B、注口土器C、注口土器D
- (8) 後期末葉に見られる器形 注口土器E
- (9) 後期末葉～晩期初頭に見られる器形 深鉢H
- (10) 晩期初頭～前葉に見られる器形 鉢I、鉢J、壺P、壺Q、壺R、壺S、壺T、注口土器G

第Ⅷ章 まとめと考察

本章では、本遺跡の主体である縄文時代後期及び晩期の遺構、遺物について、まとめと若干の考察を行う。

1 遺構

本遺跡から検出された遺構は、全て縄文時代後期及び晩期と推定される。各遺構の空間占地を明らかとし、集落の構造や性格付けについて考察してみたい。

(1) 住居跡

住居跡と住居跡状の区分については、第Ⅳ章で記述したとおり柱穴や炉の有無で行った。柱穴や炉の無い堅穴を住居と認知できるのかどうかと言った問題があると思う。元々なかったのか、あるいは精査の方法（見つけられなかった）や残存状態（註1）などに起因する可能性も否定はできない。本稿では両者を合わせて居住施設（住居）と仮定して稿を進めることとする。

<時期> 本遺跡で検出されている住居跡は、その所属時期を特定するには状況証拠が弱いと判断される資料であるが、大略は縄文時代後期末葉～晩期前葉と推定されるものが大半を占める。後期前半期の住居跡は、推定されるものを含めて5棟で、殆どが削平を受け完全な形で捉えられるものはない。

住居跡の所属時期については、下記に示したa～fの6つの諸要素を推定材料とした。複数の要素を持つ住居跡も当然のことながら存在する。

a 床面出土土器を伴う住居跡 F18住居跡1号、D19住居跡、B21住居跡状3号の3棟である。床面出土土器を伴う住居跡について、何れも住居廃絶間際まで使用されていた家財道具ではなく、廃絶された後（住居としては使用されなくなった後）に土器が投棄された様相を示す。よって使用されていた時期を推定できる材料ではなく、廃絶後（直後？）の時期推定となろう。例えば、大洞B1式（古）に相当する床面出土土器が得られたB21住居跡状3号の場合は、大洞B1式（古）より古い時期に住居として機能し、その後大洞B1式（古）土器を使う人々が、廃棄場所（捨て場）として土器などを投棄したと捉えられる。ただし、遺構の検出面や状況などから判断して、廃棄された土器と大差ない時期の住居跡と思われる。

b 西部捨て場中に構築されている住居跡 Q12住居跡、K11住居跡の2棟である。Q12住居跡は、掲載した出土土器は後期中葉（十腰内Ⅲ式期）に相当するが、遺物包含層の上位付近から構築されていた可能性が高いことなどから、晩期初頭前後の時期と判断した。

c 東部捨て場中に構築されている住居跡 C22住居跡状1号、C22住居跡状2号、C23住居跡状1号、C23住居跡状2号、B21住居跡状1号、B21住居跡状2号、B21住居跡状3号、B22住居跡1号、B22住居跡2号の9棟である。検出面的に遺物包含層の最上位～上位で検出された住居跡と、中位～下位で検出された住居跡に分かれる。前者が晩期初頭前後の時期、後者は後期前葉前後の時期と推定される。

d 調査区南側に見られる人工的に作り出したと思われる平坦面上（縄文時代晩期の大規模造成？）に立地する住居跡 J12住居跡状、G12住居跡、G14住居跡、E15住居跡状1号・2号の5棟である。この空間からの検出住居は、全般に晩期の土器の出土が圧倒的に多い。人工的に作り出したと思われる平坦面については、(11)の縄文時代の造成工事についての項で説明する。

e 一括性が窺える埋土（覆土）出土土器を伴う住居跡 F12住居跡が挙げられる。同住居跡は、人為堆

積層と判断される埋土で、埋土上位から床面直上まで出土した土器のほとんどが後期末葉の十腰内V式相当である。比較的短時間で埋め戻されたと判断されることから、出土土器に限りなく近い時期に使用された住居跡と推定される。床面出土土器を持つB21住居跡状3号についても同種と判断される。

f 十和田b火山灰が床面直上に堆積していた住居跡 K11住居跡の床面直上からは、十和田b火山灰の堆積が確認された。同住居跡は直径約16mの大形の住居跡で、黒色土中を床面とするため、床面の同定が困難であった。結果的には所々（住居全面ではない）に散在した十和田b火山灰が、床面検出のキーとなった。

十和田b火山灰は、弥生時代後半頃に降下したと捉えられている火山灰であることから、同住居跡は弥生時代後半より古いことはわかる。弥生土器は、同住居跡の床面～埋土では出土しなかったが、同住居跡に伴う可能性のある柱穴から数片出土した。ただし、弥生土器を出土した柱穴は、同住居跡に伴うものか非常に微妙な位置関係にあり、またその柱穴の検出面や覆土からは十和田b火山灰が検出されなかった。更に、本遺跡から出土した弥生土器の総量（10片弱）などを考慮すると、弥生時代の住居跡が存在したとは捉え難い。出土土器の中で主体を占めるのは、大洞BC式であることなどから判断して、晩期前葉前後の時期にとりあえず位置付けておくこととする。

g その他 その他として、埋設土器炉を持つF18住居跡は、炉内に埋設されていた土器が文様のない粗製土器であるため、明確な時期判断材料とはなりえなかった。また、遺構同士の重複関係から概ねの時期を推定した住居跡もあるが、それについての詳細は第四章の記載を参照いただきたい。

上記の諸要素から時期を推定し、集成したのが第401～405図である。図の左側に記した時期は、それより古いかあるいは廃絶された直後の時期と捉えて戴きたい。

<規模> 最初に、本稿では住居の開口部における最大長（長軸）の寸法を採用している。本来、どの位の規模の住居跡を大形と定義し、普通規模の住居跡はどのくらいかと言う定義は非常に難しく、安易な基準で結論を出せる問題ではない。

本遺跡で検出された住居跡は、全般的に残存状態が悪いため、床面積などの分析資料には向かない。規模についても厳密には同様であるが、壁の残存部分などから推定される住居跡の大きさで比較検討した結果、8m以上で一線が引けるように思われる。理由として、今回の調査で検出されている住居跡は、6m以上8m以下の規模に該当するものが見当たらず、8m以上の住居跡と6m以下の住居跡によって構成されるからである。

a 大形の住居跡について

8mを越える住居跡としては、推定を含めてK11住居跡、G15住居跡、E19住居跡、C16住居跡2号の4棟である。何れの住居跡にも共通する属性として、平面形は円形もしくは楕円形で、柱穴が多数検出されるなど複数回の立て替えが行われたことが推測される。

また、時期的には後期末葉～晩期前葉に構築されていると推定され、後期前半と思われる住居跡は含まれない。なお、K11住居跡に破壊され一端のみの検出であるJ12住居跡状についても、8m以上の住居跡であった可能性が高い。

b 大形以外（小形と中形）の住居跡について

上記した8mを越える4棟以外は、全て6m以下の住居跡である。大略としては①3m以下、②3～4m、③4～6mの3つのグループに分けられる。①と②は柱穴が未検出のものが多く、地床炉を持つものと持た

ないものの両者がある（割合的には半々）。③は普通小形とは言わない規模である。1例のみで、残存状態が悪いため、傾向を窺い知れる資料と判断できない。

＜炉の形態＞ 検出された炉の形態は、石囲炉、地床炉、土器埋設炉の3種である。3種とも概ね住居中央付近に位置する。なお今回の調査では、後期前半期の住居跡からは炉が検出されていない。

a 石囲炉 石囲炉を伴うのは、K11住居跡1棟である。他に単独の炉跡として登録した4基についても、本来は石囲炉を伴う住居跡であった可能性が高い。石囲炉の形状は、円形気味に石を配列する。石囲炉内に見られる焼土は全般に発達が悪い。

b 地床炉 地床炉を伴う住居跡は9棟である。楕円形気味に広がるものが多い。焼土の発達全般が悪い。焼土の規模については、その住居の規模にも関係すると思うが、24～120cmまでのものが検出されている。詳しくは第4表を参照戴きたい。

c 土器埋設炉 土器埋設炉を伴う住居跡はF18住居跡1棟である。構築の状況は第四章を参照戴きたい。

＜柱穴＞ 柱穴が検出された住居跡と未検出の住居跡がある。傾向としては、晩期初頭に位置付けた小形の住居跡には柱穴がないものが多い。柱穴配列については、本遺跡の資料は全般に良好とは言い難い。唯一主柱が推測できるのがK11住居跡（大形の住居）で、4本の柱により正方形に配列される。同住居跡は、柱穴同士の切り合いも確認されることから、柱の建て替えが数回行われていることがわかる。

＜壁溝・壁柱穴・石列＞ 壁溝を検出した住居跡は3棟であるが、何れも残存状態が悪く不明瞭である。壁際の一端に小形の柱穴が巡る住居は、8棟検出している。石列が1/4周ほど巡る住居跡は1棟である。

住居跡の規模との関係からみると、3m以下の小形の住居跡には上記の3施設ともに見られない。

また、壁溝・壁柱穴・石列とも全周するものはなく、山側（本遺跡では斜面上方は主に南側になる）にのみ見られ、谷側（斜面下方は主に北側になる）からは検出されていない。遺構の残存状態の問題もあるが、石列のあり方から、山側にのみ構築した可能性は考えられると思う。ただし、壁溝・壁柱穴については、谷側は元々の掘り込み自体が浅く、そのことに起因して検出できなかったかあるいはすでに消失していた可能性も考えられよう。

＜出入口施設＞ 出入口と推定される施設が確認されたのは、K11住居跡、G15住居跡、F18住居跡1号、C16住居跡2号の4棟である。K11住居跡とG15住居跡に見られるタイプは、楕円形基調の土坑状の掘り込みの中に2個一対の柱穴状の掘り込みを伴う。C16住居跡2号は、柱穴状の小土坑2つと楕円形土坑がセットで構成されると考えられるタイプである。F18住居跡1号は、竪穴に張り出し部を持ち、その中に楕円形の掘り込みが2個（両側に並ぶ）見られるタイプである。出入口施設の方向については、規則性はない。3の総括で後述するが、地形的制約（斜面下方）かあるいは風向きなどの気候環境に関係する可能性が考えられる。

＜分布状況＞ 先に、竪穴住居跡を居住施設（居住空間）として捉え、稿を進めることをお断りしておく。

後期初頭～前葉期と推定した住居は5棟で、全て東部捨て場中の狭い空間に分布が確認される。

その他25棟は全て後期末葉～晩期前葉期と推定されるが、2つの配列が想定される。

① 北西－南東方向に2列の並列気味な居住空間を構成して分布する。

② 大形住居（K11住居跡）や後述する広場と思われる空間を考慮した場合、大形住居から見て南東側に馬蹄形の配列となる様相。

南側の列は上述してきた人工的に作り出したと思われる平坦面（大規模なテラス）上に立地する。時期同定の根拠の弱さを棚上げして稿を進めると、大望としては東側に位置する住居跡群が若干古く、西側に位置する住居跡群が若干新しい様相で捉えられる。また、建て替えが数回行われているK11住居跡、C16住居跡2号、G15住居跡などの大形の住居跡は、その堅穴のスペースが南側かあるいは南西側へ変遷して行く傾向で捉えられる。

上記のことから、居住空間は、大きくは東から西へ移動する様相である。そして比較的規模の大きな住居を建て替える場合は、谷側から山側へ向かって変遷を繰り返す。本遺跡の地形は、南側には山が、東西には斜面地があることで平坦的な空間には制約がある。居住空間を西側や山側（南）へ移動することで、希少な平坦的な空間を居住とは別の空間として再活用する行為が感じ取れる。後述する掘立柱建物跡の空間占地と、住居の空間占地が重なることにも何らかの関係があると思われる。

また、風向きや日照条件といった気候環境は、日々の生活に際して、重要な要素となる。高地に所在する本遺跡は、特にも冬の風や雪と住居跡の占地は密接な関係があると思われる。

追記として、後期中葉～後葉期と推定される住居跡は、今回の調査では検出されていない。また、土器等の総出土量の割合から考えて、後期の住居の絶対数は非常に少ない。調査区外に存在するのか、あるいは晩期の遺構（主に住居跡や掘立柱建物跡などが該当する）構築時に破壊されたか課題を提供するものである。

＜総括と他遺跡の事例との比較＞ 本遺跡で検出された住居跡についてまとめると、時期は後期末葉～晩期前葉期を主体とする。該期の住居跡は、地床炉が大半を占め、石囲炉は単独で炉跡としたもの4基を含めても5棟と少ない。大形住居跡の定義付けの問題を考える目的で、該期の住居跡の事例を求めて見たが、岩手県内の資料だけでは分析対象となる事例が希少と言える。よって、青森県の代表的な事例を含めて比較検討を試みる。合わせて、本遺跡で主体を占める後期末葉期と晩期初頭～前葉期の住居について、大きく2分してまとめてみたい。

後期末葉期の住居跡について、土器型式で十腰内IV～V式期に比定される時期であるが、十腰内IV式と十腰内V式の捉え方（同定法）によってもその位置付けは変わると思われるので、ここでは後葉（概ね窟が盛行する時期以降）まで時期幅を広げて模索する。晩期の住居跡については、大洞B式～BC式期に比定される住居跡を模索した。厳密に言えば大洞B1式前後の時期（大洞B1式古段階の時期）については、後期・晩期何れに含めるか見解が難しい部分である。今回は晩期の上限を広げて捉えることとする。

①後期後葉～末葉期の住居跡 該期の住居跡を検出した遺跡は、「是川中居遺跡」（青森県八戸市）、「丹後谷地遺跡」（青森県八戸市）、「馬場瀬（1）遺跡」（青森県南郷村）、「大日向Ⅱ遺跡1次調査・2～5次調査」（岩手県軽米町）、「馬場野Ⅱ遺跡」（岩手県軽米町）、「君成田Ⅳ遺跡」（岩手県軽米町）、「小井田Ⅳ遺跡」（岩手県一戸町）などが挙げられよう。

「是川中居遺跡」（1998年）で検出された5号住居跡は、十腰内V式期に捉えられる住居跡である。平面形はほぼ円形、規模は約6mである。住居中央付近に地床炉を伴う。主柱は4本を基本とし、壁際に小形の柱穴が巡る。

「馬場瀬（1）遺跡」で検出された住居跡は、平面形は円形で、住居中央に地床炉を持ち、柱穴が未検出のものが多いようである。時期は十腰内Ⅳ式期（本稿では一部十腰内Ⅴ式に比定させた時期）に相当する。

「馬場野Ⅱ遺跡」は、現在の東北縦貫道路の軽米インターの付近に相当する。該期住居跡が多数検出されたが、床面出土土器を伴うLⅣ-05住居址、LⅣ-06住居址、LⅣ-08住居址を取り上げる。この3棟に共通する属性としては、平面形は円形で、住居中央付近に地床炉を持ち、壁際に小形の柱穴が巡る。また出入り口に関連したと思われる2個一対の長楕円形の土坑を伴う。規模は、LⅣ-06住居址が4.2m程、LⅣ-05住居址とLⅣ-08住居址が5.0m程で、若干相違がある。時期は、何れも十腰内Ⅳ～Ⅴ式に比定されると思われる。

「大日向Ⅱ遺跡」は、上記した「馬場野Ⅱ遺跡」から見て東へ500m強に位置する遺跡である。調査報告書は、1次調査・2～5次調査・6～8次調査毎に発刊されている。その中で該期の住居跡資料が豊富なものが、1次調査分と2～5次調査分である。検出された住居跡は、平面形は円形で、住居中央付近に炉を持ち、壁際に小形の柱穴を伴うことでは「馬場野Ⅱ遺跡」と共通する属性を示す。炉の形態としては、地床炉を主体とするが、石囲炉を持つものも存在する。石囲炉は1次調査で検出したHⅠ-6住居跡やIⅡ-3住居跡などに見られる。また、IⅡ-3住居跡には「馬場野Ⅱ遺跡」に見られるものと類似する出入り口施設を伴う。

後期後葉～末葉の住居跡の全般的な傾向をまとめると、規模的には3～6mで平均的な大きさとしては3.5～4mに相当するタイプが多いようである。晩期との相違点としては、10mを越える特出して大形の住居跡の事例は見当たらなかった（筆者が探せなかっただけかもしれないが）。炉の位置としては、住居ほぼ中央である場合が多い。炉の形態は地床炉を主体とするが、一部石囲炉も散見される。石囲炉は円形気味に石を配列されるタイプが多いようであるが、「君成田Ⅳ遺跡」などに見られるような「C字状」に石を配列する（一端部分に石が配置されない）ものもある。柱穴配列は不明瞭であるものが多く、柱穴数も少ないものが多いように思われた。傾向として、壁際に小形の柱穴が巡るタイプが多いように思われる。残存状態や検出の問題もあると思われるが、上屋構造が不明である以上、柱穴配列の傾向を探るのは、非常に困難と思われた。全資料を扱うより、明確に柱穴を検出できた良好な住居例のみをピックアップするなどの操作が必要なのかもしれない。出入り口施設について、2個一対の長楕円形の土坑を伴う住居跡は相当数見られる。出入り口施設自体は、「田面木平遺跡」（後期前葉期）、「川口Ⅱ遺跡」（後期中葉期）、「神明町遺跡」（後期中葉）、「丹後谷地遺跡」（後期中葉～末葉期）などでも検出されていることから、後期後半期に限った属性ではない。参考までに、本遺跡で出入り口施設を伴う住居跡としては、K11住居跡（晩期前葉期）、G15住居跡（後期末葉～晩期初頭期）、F18住居跡1号（晩期初頭～前葉期）、C16住居跡2号（晩期前葉期）の4棟で、時期幅を広く捉えたG15住居跡（後期末葉～晩期初頭）以外は晩期初頭以降に属し、また規模的に大きめの住居跡に見られる。ただし、上記した後期の遺跡例をみると、3.5m程の住居跡にも出入り口施設は伴う。本遺跡に見られる出入り口施設のタイプは、2個一対の長楕円形の土坑が並ぶタイプではない。タイプの違いは、本遺跡例が晩期であることから、時期による流行の違いや構造上の問題などが考えられると思う。構造上の問題については柱配置や炉の偏在する方向などと関連する可能性があるため、上述したとおり柱穴配列が比較的明瞭な住居跡を取り上げて検討する必要があると思うが、ここでは割愛する。このタイプの出入り口施設の出現期及び存続時期については、今回は検討しなかった。出入り口施設を伴う住居跡資料の増加に期待する。

②晩期初頭～前葉の住居跡 晩期初頭～前葉期の住居跡について、土器型式で大洞B式～大洞BC式に比

定される住居跡を模索してみた。該期の住居跡の事例としては、「曲田Ⅰ遺跡」（岩手県安代町）、「道地Ⅲ遺跡」（岩手県九戸村）、「十腰内（Ⅰ）遺跡」（青森県弘前市1999年）、「大森勝山遺跡」（青森県弘前市）、「源常平遺跡」（青森県浪岡町）、「駒板遺跡」（岩手県軽米町）などで検出されている。岩手県北部の事例で言うと、該期土器を出土した遺跡は相当数散見できるものの、住居跡を検出した遺跡となると希少と言える。

幾つかの事例を取り上げ、住居跡の平面形、規模、炉の形態などをまとめてみたい。

「曲田Ⅰ遺跡」 該期の住居跡は、推定を含めて57棟（住居総数は69棟で、晩期以外には中期や後期が含まれる）が検出されている。晩期前葉期が検出された調査事例（遺跡）としては、最大級の検出数と思われる。平面形は、概ね円形を呈し、規模は推定であるものが多いが、大形（7～13m）・中形（4～6m）・小形（1.9～3.5m）に大別される。中形が多いようである。

炉は住居中央に位置するタイプが多く、地床炉、石囲炉、石囲埋甕炉、土器片囲炉、埋甕炉があり、地床炉が主体のようである。柱穴は全般に検出されているものが多い。

規模13mの大形の住居跡であるGⅢ-016住居跡は、住居中央に石囲炉を持ち、支柱は4本で壁際に小柱穴が巡る。床の凹凸が激しく、床面の比高が1mほどあるなど傾斜が著しい。時期は立て替えが多く、明確ではないようであるが、上限（古い方）は大洞B式期と推定している。本遺跡で検出されたK11住居跡に類似する資料と言える。集落のほぼ中央に位置することから、居住者全体に関わる施設ではないかと推定されている。

「道地Ⅲ遺跡」からは、晩期の住居跡は7棟（他に中期2棟）検出されており、大洞B式期が5棟、大洞C2式期が2棟である。また、3棟検出されている住居址状遺構の中で、FⅡ-1住居址状遺構についても該期の住居跡の可能性はある。よって、6棟が当該期と思われる。

該期の住居跡と思われる6棟は、平面形は全て円形を呈し、規模は3m程が2棟（1棟は住居址状遺構）、4m±40cmが3棟、6m前後が2棟である。規模から見て、大形住居跡と認知できるものは検出されていない。炉は住居中央部に位置し、石囲炉4、地床炉1、炉を伴わないものが1である。石囲炉は、円形に石を配置され、同遺跡から検出された中期住居跡などと比較すると、顕著にその配列の違いがわかる。柱穴は全般に検出されてはいるが、その柱配置には規則性は感じられない。大洞B式期の住居跡は、出土土器などから見て本遺跡で主体を占める住居跡と同時期に同定できよう。ただし、相違点としては石囲炉を伴う住居跡が多い点が挙げられる。

「十腰内（Ⅰ）遺跡」（1999年）からは、2棟の住居跡が検出されている。大洞B式期1棟、大洞B C式期1棟である。平面形は2棟共に円形である。規模は、第1号住居跡（大洞B式期）は約1.5m、第3号住居跡（大洞B C式期）は約1.3mである（2号住居跡と命名された遺構は掲載されていない）。第3号住居跡については、規模や支柱穴・壁柱穴の配列のあり方などは、本遺跡で検出されたK11住居跡と類似するタイプと言える。報告書をみる限り、集落の一端を調査したに過ぎず、大形住居の性格付けを示唆する資料とは言えない。

晩期初頭～前葉期の住居跡の全般的な傾向をまとめると、規模的には10mを越えるタイプと3m前後の小形のタイプが存立する場合が多いようであり、該期の集落における大形の住居跡の存在理由が問題となろう。ただし、本遺跡に見られた大形住居跡は、その位置関係から推定して、集落の拠点的な性格の住居跡である可能性が高いと思われる。

大形の住居跡について、「十腰内（Ⅰ）遺跡」、「曲田Ⅰ遺跡」、「大森勝山遺跡」、「源常平遺跡」で見つかった住居跡は、その形状、炉の位置、柱穴のあり方など類似する部分が多い。炉の形態は、「十腰内（Ⅰ）」

遺跡」、「曲田Ⅰ遺跡」、「大森勝山遺跡」及び本遺跡が石囲炉で、「源常平遺跡」が地床炉である。若干の時期差なども考慮しなければならないと思うが、該期の大形の住居跡は、基本的に石囲炉を持つようである。

小形の住居跡については、円形を主体とし、基本的に中央に炉が位置する。柱穴については、全般に配列が不明か未検出が多い。本遺跡の住居跡を見ると、堅穴の床面から柱穴が未検出な場合が多い。黒色土中を床面とするため、検出できなかった可能性もある。上屋構造が不明であるため明確にはわからないが、屋外柱穴の存在も考慮する必要があるだろう。炉の形態は、石囲炉、地床炉の両者を主体に、石囲埋設土器炉などが見られる。石囲炉に使用されている個々の炉石は、中期の炉石などと比較して、選ばれたと思われぬ形の不規則な石が使用される場合が多い。炉の形態について、他遺跡の類例から若干時期差によって石囲炉、地床炉のどちらが多いかの傾向が窺えるように思われた。推測の域を越えるものではないが、土器型式で言えば大洞B1式期は地床炉主体、大洞B/C式期は石囲炉主体と思われる。大洞B2式期は両者が存立するようであるが、若干地床炉の方が優勢のように筆者は捉えている。

上述したとおり、大形の住居跡は石囲炉が多い傾向に窺えるが、小形の住居跡の炉においては“まちまち”であるように思われた。また大形住居跡の性格付けについては、個々の事例同士での比較からだけではわからないように思われた。遺跡保存の理念に反するかもしれないが、集落の全貌がある程度明らかとなった事例は「曲田Ⅰ遺跡」などの少数に留まることから、比較検討する資料の増加を待つことになると思われる。

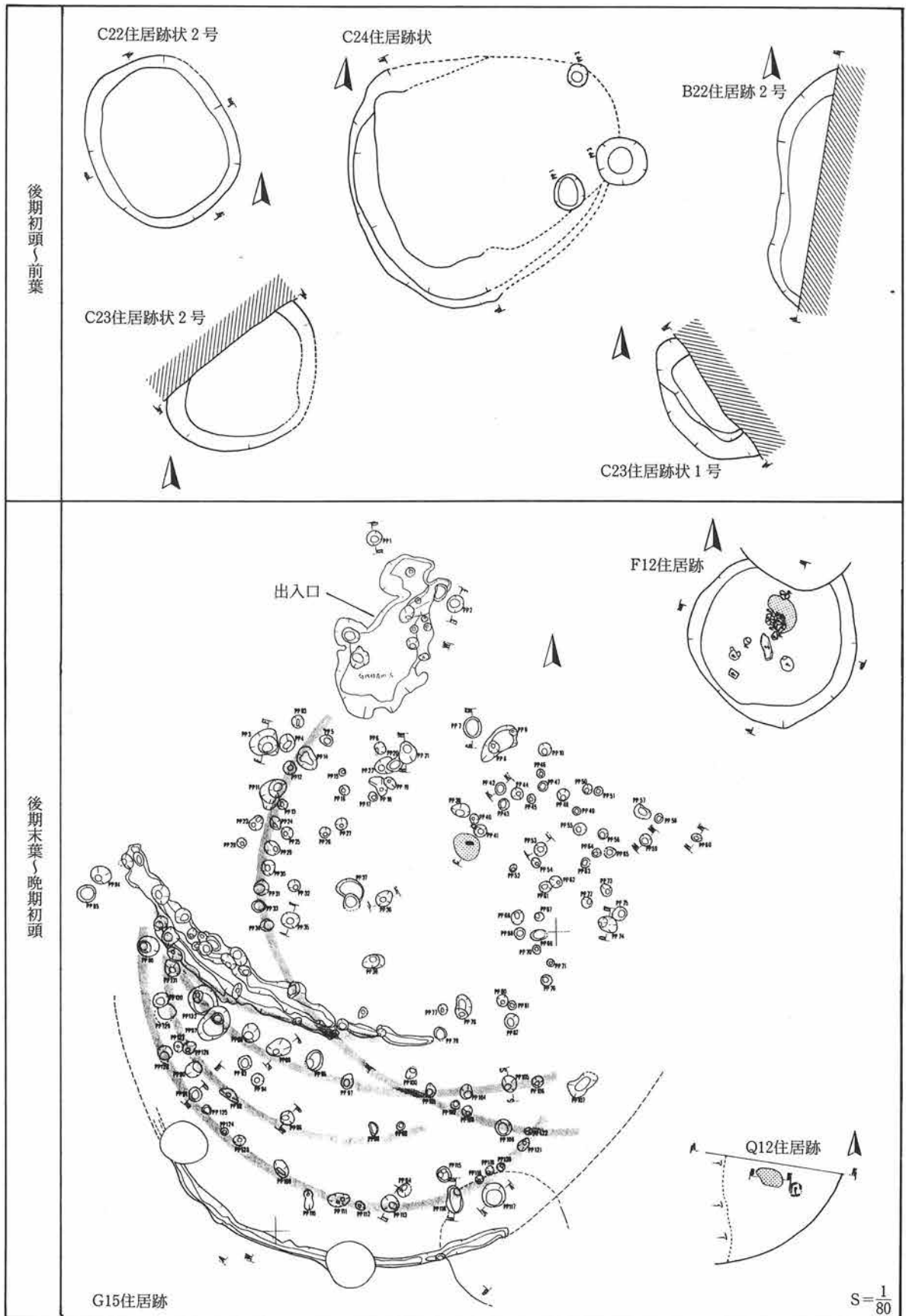
今回取り上げた遺跡は、土器型式的には大洞B式～大洞B/C式に比定され、本遺跡と同時期に捉えられる。

地域的には、主要河川を指標とすれば、馬淵川流域遺跡と岩木川流域遺跡に分かれる。若干の地域差を考慮する必要はあるが、極端な地域差（色）は存在しないように思われた。若干古い資料ではあるが、高橋與右エ門氏が「川向Ⅲ遺跡」の調査報告書の中で「岩手県における縄文時代晩期住居址の検出遺跡」として集成している。昭和56年段階での資料でまとめたものであるが、それによると岩手県内で晩期の住居跡が検出された遺跡数は17例である。その中で、本稿で取り上げた晩期初頭～前葉に相当する遺跡数は6遺跡ある。それから約20年を経過した現在の遺跡数がどの位あるものか今回は検索できなかった。比較的最近の事例としては、北上～秋田間の高速道路関連で調査された「本内Ⅱ遺跡」（岩手県湯田町）や「虫内Ⅰ遺跡」（秋田県山内村）などから該期の住居跡が検出されている。該期における北上川流域の遺跡や沿岸部の遺跡との比較を今後の課題としたい。

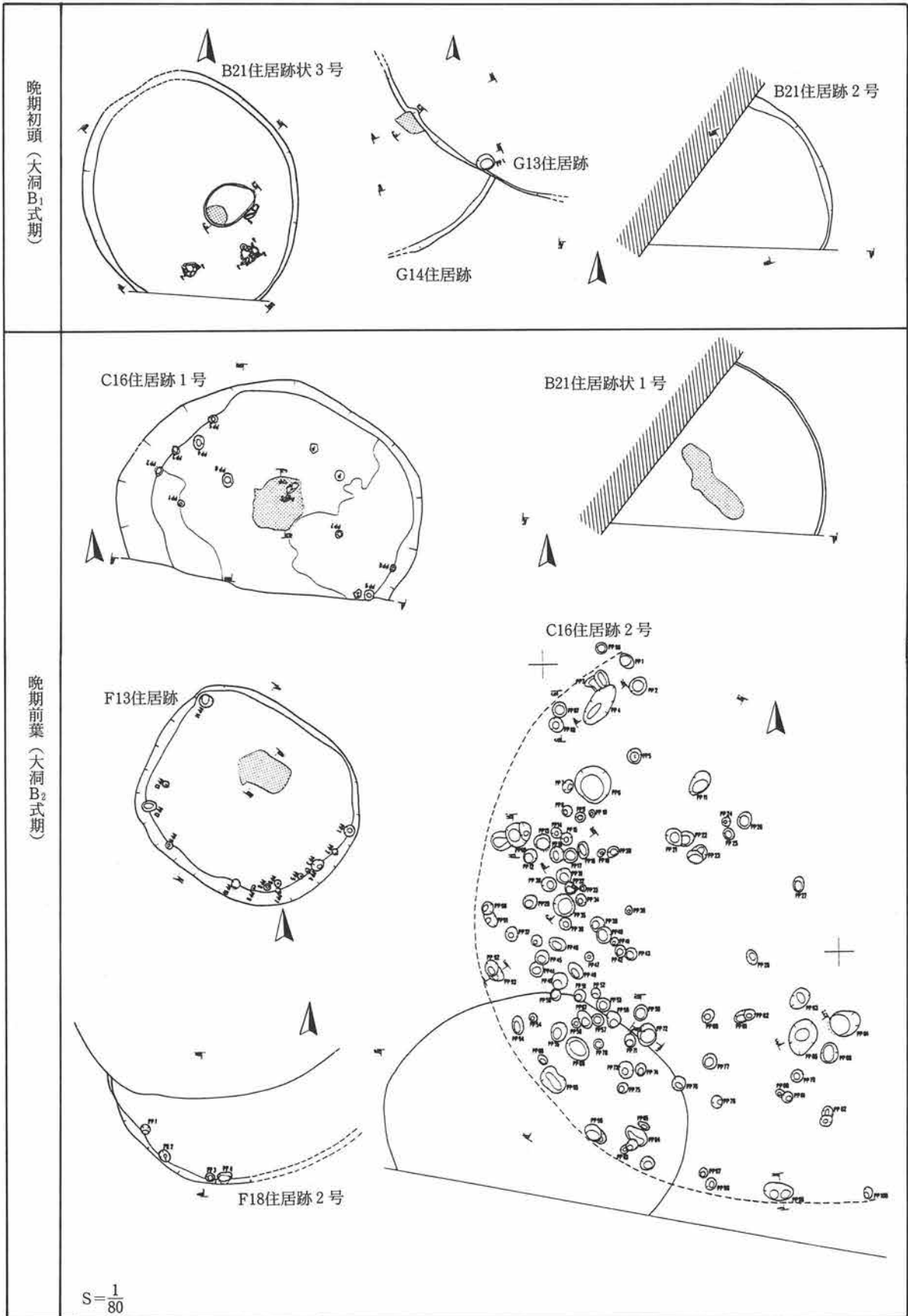
最後に、本稿では主に住居の形、規模、柱、炉の位置などについて検討した。基本的に炉や柱穴が存在しない堅穴を住居跡と認知できるのか疑問点が残った。また、本遺跡においては全般に地床炉と捉えた焼土は発達が悪く、常時使用した炉とは考え難く、定住用の住居ではない可能性を推定する（註2）。また、本遺跡の大形の住居については、幾つかの疑問点が残った。一つには堅穴が存在したのかどうか。もう一つは、上屋構造の存在である。8mを越える大形の住居跡の上屋構造を支えるためには、ある程度しっかりした柱を必要とするはずである。黒色土中のため全般に検出が不明瞭である本遺跡の資料からは、柱穴の場所や規模からのアプローチでは当時の堅穴住居の構造を解明するのに限界があるように思われた。考古学資料を基に、「御所野遺跡」などで取り入れているように建築学などとのタイアップから堅穴住居跡の構造復元を行う必要性を感じた。

（2）掘立柱建物跡・柱穴状土坑

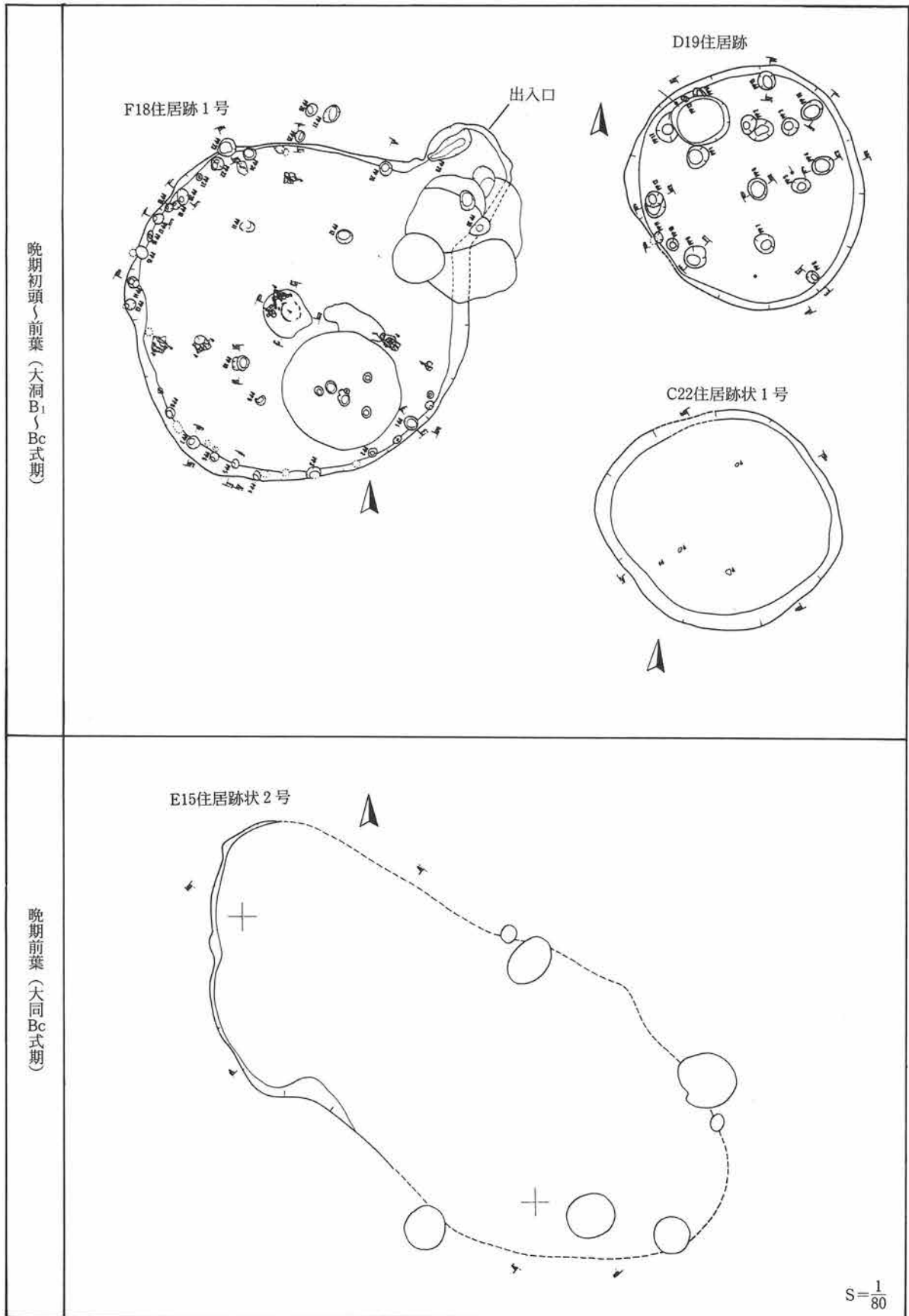
本遺跡で掘立柱建物跡としたものは、柱穴間隔や平面形から判断したもので、検出数は15棟である。住居跡に付随する柱穴と比較して、掘立柱建物跡に採用した柱穴は、開口部径・底部径ともに大きく、柱穴深度



第428図 長倉 I 遺跡住居跡集成図 1

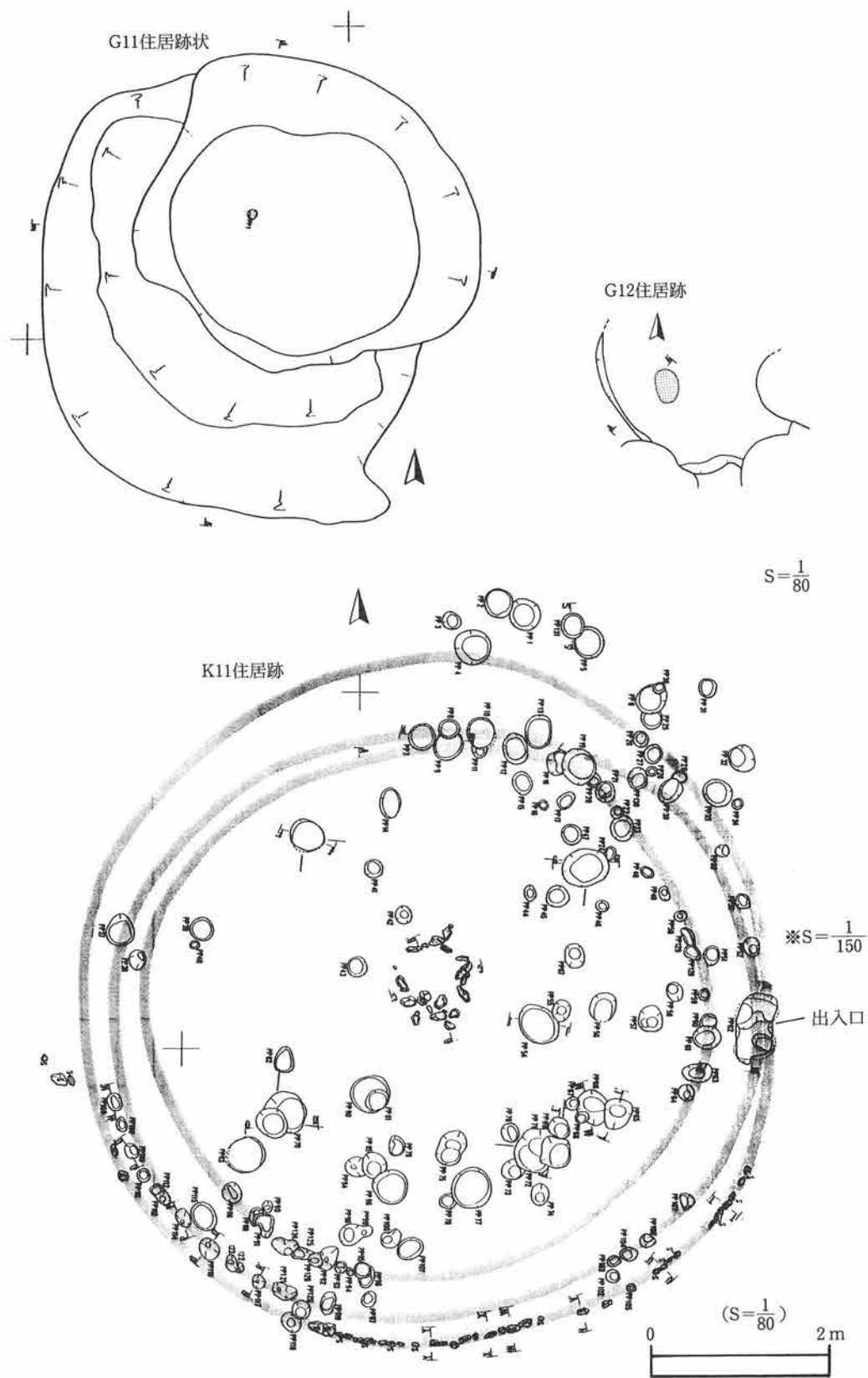


第429図 長倉 I 遺跡住居跡集成図 2

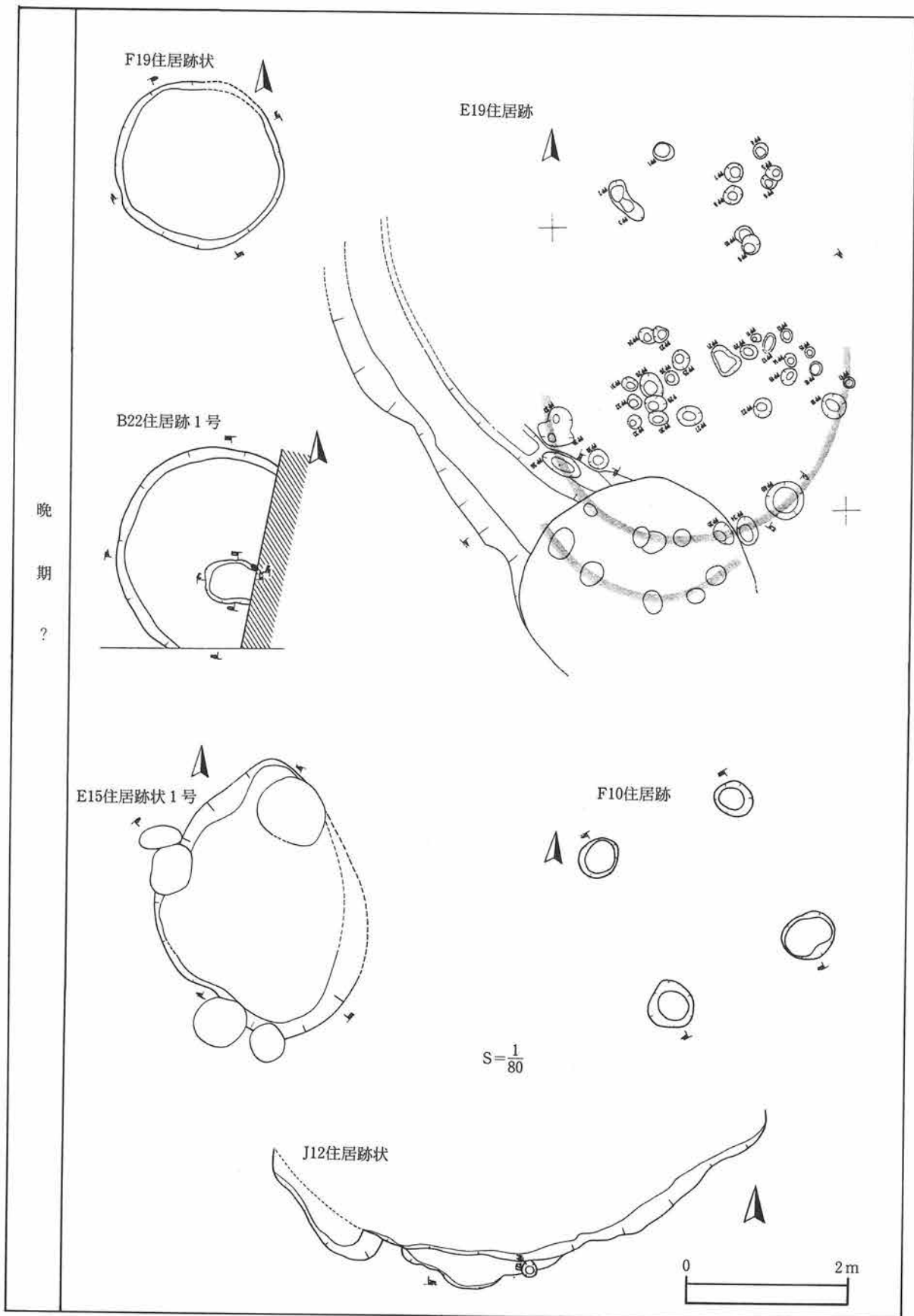


第430図 長倉I遺跡住居跡集成図3

晚期前葉（大洞Bc式期）



第431図 長倉 I 遺跡住居跡集成図 4



第432図 長倉 I 遺跡住居跡集成図 5

も特出して深い。柱材の残存は検出されなかったことから、当時柱が据えられていたことを断言はできない。ただし、アタリのあり方から見て、柱が据えられていた可能性は極めて高いと捉えている。ここでは柱が据えられていたと仮定して稿を進める。

4本柱（14棟）により構成されるものと6本柱（1棟）により構成されるものがある。野外調査時には把握できずに室内整理時に図面上で検討、合成したものも含めている。4本柱や6本柱の組み合わせ以外で構成される掘立柱建物跡について、具体的には5本や環状に配するものなどであるが、その存在については可能性はあると思われるが解明できなかった。

石井寛氏は論文の中で、「掘立柱建物跡とするのは、平地式ないしは高床式の建物を指すが、現実にはそれらの判断は非常に難しく、本来堅穴であったものも相当数含まれている可能性がある。」（石井寛1995年）と述べている。調査所見として、筆者もその記述を今もって痛感している。例えば、K11大形住居跡精査中に検出された4本柱（K12掘立柱建物跡2号としたM12柱穴状土坑1号・M14柱穴状土坑1号・L12柱穴状土坑1号・L14柱穴状土坑1号の4基）は、同住居跡に伴うもの（主柱）か単独の掘立柱建物跡なのか明確には立証できなかった（遺構・図面上は両者二重に登録した）。本稿を執筆している現段階での見解としては、K11住居跡の主柱の可能性が高かったと考えている。

なお、焼土や浅い掘り込み（堅穴）を伴うなどの、居住施設であった可能性を示唆する資料は、今回の調査では検出されていない。

＜柱穴の規模＞ 平均すると開口部径で80～100cmが多い。柱穴の深度（深さ）については、検出面の問題もあるが、最大のもので200cm、平均的には80～120cmが多い。

＜柱穴間隔＞ 今回の調査からは、2.6～6.5mの柱穴間隔のものが検出されている。縄文尺（35cm）の存在などについても、検討を行いたい事象ではあるが、今回は割愛する。

＜柱痕跡から推測する柱の規模について＞ 当時の柱材の規模は、柱痕跡と思われる土層（アタリ）から推測を試みる。

15棟検出された中で、アタリが確認できる柱穴数は20基である。アタリの太さは、最小のもので約40cm、最大のもので約80cm、平均すると約60cmである。柱穴の底面には、柱の重圧によって土（更新世の火山灰層）が変色したと推定される部分や堅くしまっている部分が見られる。

また、個々のアタリを観察すると、柱が抜き取られた後に据え方部分の土が入り込んだと思われるものや、柱が抜き取られた後にその部分を埋め戻したと思われるものなど、その在り方は様々である。

＜付属施設の土坑について＞ 本遺跡で検出された柱穴状土坑には、一方向の開口部付近に浅い楕円形気味の掘り込みを伴う場合が顕著に見られた。推測される事象としては、柱材を抜き取るかあるいは柱材を据える時の痕跡と考えられる。柱穴状土坑との新旧関係は、その土層断面からは判断の難しい場合が多く、一様ではないが、浅い掘り込みの方が新しいと判断した場合が多かった。断言できるものではないが、柱は抜き取られた場合が多いと推定される。柱を抜き取る場合について、その方向は一様ではないが、傾向としては北東側に多い様相である。遺跡の地形的特徴から言って、掘立柱建物跡の検出が多かった調査区中央部は全般的に北東方向の標高が低い場合が多い。よって標高的に、低い方向に抜き取ったことが推定される。

＜その他の柱穴状土坑＞ 柱穴状土坑同士の位置関係などから、掘立柱建物跡とは認定できかねる柱穴状土坑は、約400基ある。何れも住居跡や建物跡に関連すると思われる。

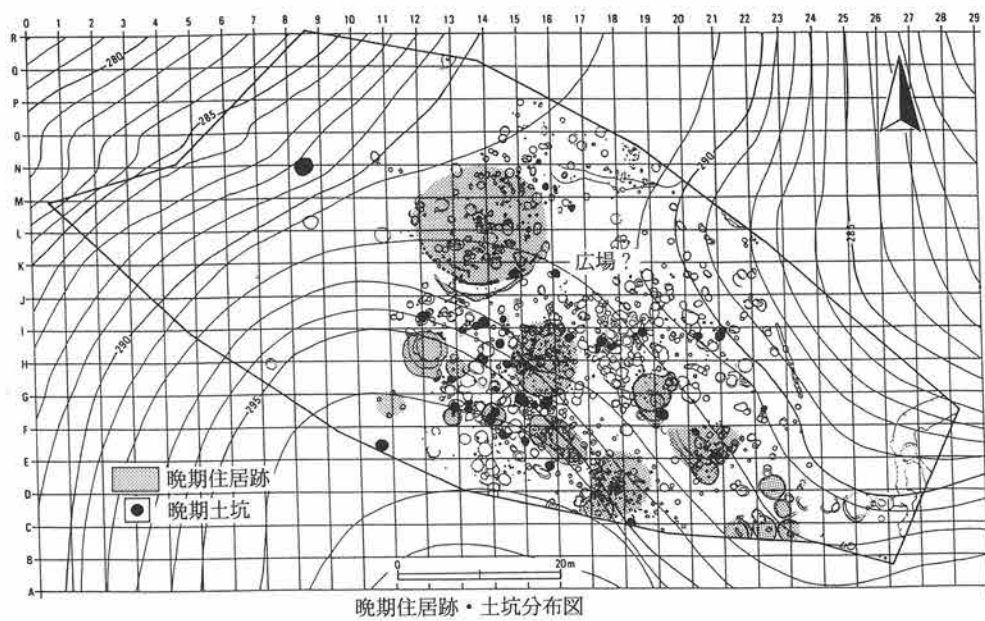
＜時期＞ 掘立柱建物跡の所属時期を断定できる出土状態を示した遺物はない。遺構との重複関係としては、後期と推定される土坑群より新しいことは確実である。晩期初頭～前葉（大洞B式～BC式期）の住居跡との関係は、住居跡より新しいことを確認できる場合が多い。ただし、調査区の中央付近に位置する大形住居（K11住居跡）との新旧関係については、重複するK12掘立柱建物跡1号より新しいことがわかる（柱穴の切り合い関係から）。同じく重複関係にあるK12掘立柱建物跡2号と大形住居跡との新旧関係についても、大形住居跡が新しいと思われるが、上述したとおり同掘立柱建物跡は大形住居跡の主柱の可能性が高い。

掘立柱建物跡については、厳密には時期を特定できない。住居跡などとの重複関係や大洞BC式以降の土器の出土が皆無（大洞C1式が数点と弥生土器と思われる破片が微量出土したのみである）である状況を考慮すると、縄文時代晩期前葉の大洞BC式期に盛んに構築されたと推定される。

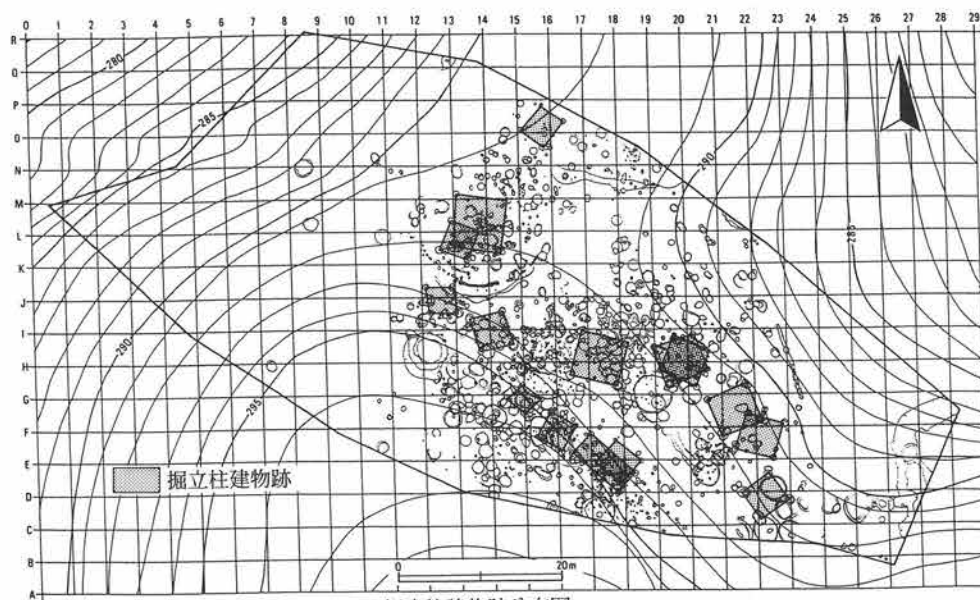
＜分布状況＞ 第433図に示した掘立柱建物跡の分布図を見ると、空間占地は環状に点在するなどのなにかしらの規則性を持って分布するようには捉えられない。中央広場的な空間（晩期の遺構が存在しない空間で、K16・K17・L16・L17グリッドを中心とする付近）と思われるK11住居跡（大形住居跡）の東側付近を除き、アトラダムに分布する状況である。細部を考慮して分布を考えれば、「a」調査区中央部に、広場の外（北側）を時計回りで弧状（南東から北へ）に分布するように見える流れと、「b」反時計回りで広場を背にして（広場を北側に見て）半円状（南東から西へ）に分布するように見える流れの2つの分布状況に見えなくもない。調査区東側には東部捨て場のある斜面地が所在する関係で、調査区外北側に「a」の分布の流れが続いた場合、馬蹄形に分布する可能性はあると思うが、環状気味に分布する可能性は考え難い。調査区外北側に延びる可能性を橋渡しする位置にあるのが、K12掘立柱建物跡2号とN15掘立柱建物跡である。K12掘立柱建物跡2号については、復唱となるが大形住居跡の主柱の可能性が高いと判断される。N15掘立柱建物跡については、他の掘立柱建物跡と比較して柱穴の規模、特に深さが極端に浅い。N11掘立柱建物跡は、野外調査時ではなく室内作業時に図面上から掘立柱建物跡と認定したものである。この2つの掘立柱建物跡を除外し、大形住居と広場を構成要素に加えた場合、以下のことが推測ができると思う。

① 始点を最も東側に位置するC21掘立柱建物跡に求め、終点をD16掘立柱建物跡2号にして馬蹄形の分布が考えられる。上述した分布で捉えると、大形住居は馬蹄形の先端に、広場は馬蹄形の北に位置する関係となる。大形住居の出入り口は、住居の東側に構築されていることから、ほぼ馬蹄形の先端と広場の中心付近に位置することとなる。第433図の上段の晩期住居跡分布図を見るとおり、空間占地が重なる傾向が明らかに窺え、偶発的とは思われない分布を示す。住居跡の分布で上述したとおり、住居跡は大きく捉えて東から西に空間占地を変えて行く。掘立柱建物跡を構築するスペースを確保するために、空間が変遷して行くと言う構図が推定される。

② 掘立柱建物跡の時期の細分が不可能なことからあくまで推測の域を越えないが、晩期住居跡の空間の変遷を考慮すると、東側に所在する掘立柱建物跡と西側・南側に所在する掘立柱建物跡では、多少の時期差が存在する可能性が考えられる。掘立柱建物跡を構築するスペースを確保するために、居住空間が変遷して行くと言う構図が推定されなくもない。掘立柱建物跡の用途や性格及び上屋構造の存在自体が不明であるため、住居跡との関係をどう捉えたらよいか非常に難しい問題である。仮説として、掘立柱建物跡が居住施設以



晚期住居跡・土坑分布図



掘立柱建物跡分布図

第433図 晚期住居跡・晚期土坑・掘立柱建物跡分布図

外の用途の遺構であるならば、晩期初頭～前葉期まで居住空間として住居跡が所在していた空間が、突如他の要素の空間（高床の倉庫、祭司場 etc・・・）に変わった（変えた？）のであろうか。あるいは、掘立柱建物跡が居住施設と仮定するならば、住居施設が竪穴から掘立柱建物に変化したなどの事象も考えられるであろうか。ただし、上述したとおり掘立柱建物跡が生活の場であった可能性を示唆する付属施設（例えば掘立柱建物跡に伴う焼土遺構など）は、一切検出されていない。

③ 本遺跡の住居としたものが、住居施設ではなく、掘立柱建物跡と同様の性格の遺構であるのなら、空間占地が同じであっても不思議ではない。

3つの仮説を上述してきたが、結局結論は導けない。追記として、同じ空間内で軸線を変えて建て替えられている掘立柱建物跡が数カ所見られることと、南側のテラス上の掘立柱建物跡の中に6本で構成されるものがあること、そしてテラス上に立地する掘立柱建物跡が若干小形であることも、性格や用途及び集落構造を考える上で考慮すべき要素と取れる。

<他遺跡の事例について> 掘立柱建物跡を検出した遺跡は見られるが、構築時期の特定が難しい遺構であるため、本遺跡と同時期（晩期前葉期と推定）となると模索が難しい。住居跡の項で列記した遺跡の中では、「大日向Ⅱ遺跡2～5次調査」21棟（後期後葉）、「曲田Ⅰ遺跡」3棟、「十腰内（1）遺跡」1棟を検出している。また、後期初頭の「寺久保遺跡」からは、5本で構成されるものも見つかっている。

他の遺構との重複関係から時期の下限や上限がわかる資料や単一に近い時期の遺跡資料などの増加に期待することとなると思う。

（3）炉跡

4基検出される。何れも東部捨て場内の遺物包含層中に構築されている。

状況から判断して、検出面・構築面共に黒色土中であるため検出できなかった竪穴住居跡の可能性が高いと思われる。野外調査時は、壁を検出できなかった竪穴住居跡と想定して、石囲炉周辺で柱穴の検出を試みたが、検出されなかったため単独の炉跡とした経緯がある。本遺跡で検出された住居跡・住居跡状を見ると、竪穴内から柱穴が検出されなかったものが相当数散見されることから、竪穴住居跡であった可能性は充分考えられる。

時期について、大略的に捉えれば全て晩期と推定される。炉石を円形気味に配置することからも、晩期に多い形態であり、矛盾はないと思われる。

竪穴住居跡であった可能性を前提に稿を進めれば、本遺跡で検出された住居跡は、石囲炉を持たないため（石囲炉を持つのはK11住居跡1棟のみで、大洞BC式期と推定される大形の住居である）、若干の時期差が存在する可能性が考えられる。炉跡4基の検出面は、全般に遺物包含層上位であるため、時期は晩期の中でも新しい時期の可能性として捉えられる。また炉跡を検出した付近から検出された地床炉を持つ住居跡は、晩期初頭と推定されることから、根拠の弱さを棚上げして言うなら晩期前葉期の竪穴住居跡であった可能性が考えられる。

（4）焼土

東部捨て場で検出された中で、現地性と判断される6基を焼土遺構として認知した。屋外炉的な性格であ

る遺構の可能性と捨て場に伴うなんらかの性格を有する遺構である可能性を示唆する資料である。

第IV章で上述したとおり、東西の捨て場中からは、投げ込みによる焼土が多数検出された。今回の調査では、遺物の取り上げに重点を置いたこともあいまって軽視した経緯があり、検討するに十分な精査記録もない。当センターにおいて、近年の調査事例の中で縄文時代の大規模な捨て場が検出された藤沢町「相の沢遺跡」や一関市「清水遺跡」などの状況を見ると、やはり捨て場内に比較的大規模な焼土が散見されるようである。本遺跡の場合も本来これらの焼土は、捨て場の形成になんらかの関係があった可能性も考えられる。焼土遺構を軽視したのは、本遺跡の調査における反省点として踏まえたい。

(5) 土坑

今回の調査からは、452基を検出した。

＜検出状況・残存状態＞ 上部が削平を受けているものが多い。

＜平面形＞ 円形、楕円形に大別され、円形が多い。

＜断面形＞ 断面形は、フラスコ、ビーカー、皿状を呈する土坑に分かれる。ビーカー状を呈する土坑類が主体である。皿状を呈する土坑についても、上部が破壊を受けている状況などから判断して、本来ビーカー状であった可能性があるだろう。

＜規模＞ 最大で開口部径255cm、底部径220cm、深さ187cmである。最小のものは開口部径20cmほどである。平均的には、開口部径100cm、底部径95cm、深さ60～80cmの大きさのものが多い。柱穴状土坑などの重複が激しく、著しく破壊を受けている土坑が多い。

＜埋土の様相＞ 検出されている土坑は、ほとんどが人為堆積と判断され、自然堆積と思われるものは少数である。

＜用途（性格）＞ 明確ではないものがほとんどであるが、墓壇、貯蔵穴、ゴミ捨て穴、土取り穴（粘土採掘穴？）の各用途が推定されよう。

ゴミ捨て穴と思われる土坑は幾つか見られる。遺物の出土状況から判断して、一括投棄された可能性がある土坑もある。列記するとC17土坑（晩期初頭）、E26土坑（後期末葉）、F12土坑1号（晩期初頭～前葉）、L14土坑2号（後期初頭～前葉）、I17土坑8号（後期後葉）、I18土坑4号（後期末葉）、L16土坑1号（晩期前葉）、I12柱穴状土坑11号（晩期）などが挙げられる。特にI18土坑4号からは、完形の壺が3個体出土しており、あるいは捨てられたものではなく、供えられたものかもしれない（出土状況からは判断できなかったが、墓壇の可能性も考えられよう）。

その他については、推測の域を越えないが、断面形がフラスコを呈するものが貯蔵穴、平面形が楕円形を呈するものが墓壇と推定して置く。

＜時期＞ 全般に遺物の出土が少なく、また使用時期の同定ができ得る遺物出土状況を示す土坑が少ない。他の遺構との重複関係から時期を推定すると、晩期と推定される住居跡・掘立柱建物跡・柱穴状土坑などに截られている土坑が多いことから、晩期よりは古い時期に構築されている土坑が多いことは明確である。状況（遺跡から出土した土器の量など）から推定して、大部分の土坑は後期に構築したと推定される。後期と推定される土坑は、ほとんどが人為堆積であるため、上記した晩期の遺構構築の際に大規模な造成工事（埋め戻しを行い整地）を行っていると考えられる。つまりは後期において、土坑域としていた空間を住居域や掘立柱建物域あるいは広場？とするため、土坑群を埋め戻したと捉えられる。

なお、晩期と推定される土坑は41基で、後期に比べ極端に少ないが、遺物を伴う場合が多い。これらは、

遺物の投棄後に自然埋没したと思われるものが多い。

＜分布状況＞ 全般的傾向としては、調査区中央平坦部から東西の斜面部にかけて住居跡等と共に検出される場合が多い。ただし、細部まで考慮すると、東側斜面部の下方に1基、西側斜面部に5基それぞれ単独で検出される土坑がある。西側にある2基を除き、何れも開口部径・底部径共に大きく、検出面からかなり深いと言う特徴がある。

また、一部分ではあるが、平坦部の中にも土坑が検出されないエリア（広場？）がある。

全般に時期の同定が困難な場合が多いことから、推定の域は越えないが、とりあえず後期と晩期に時期区分を行った上で空間分布を述べることにする。

後期の土坑は、基本的にランダムに分布するが、J15・J16・J17・K15・K16・K17・L15・L16・L17グリッド付近からの検出数が極端に少ない。上記したグリッドの東側に土坑群は密集する傾向が窺える。安易な判断かもしれないが、土坑構築が忌避されている空白域は、広場的空間ではなかったかと推定される。

晩期の土坑は、K16グリッド付近を中心地と仮定して捉えた場合、大形住居跡の北東側～東側には作られていない。この空間は、後期の土坑構築が行われていない空間と一部共有する。推定される事象としては、後期同様広場的空間を構成するため、土坑を作らなかったことなどが考えられる。晩期の土坑の空間分布（土坑域）は、占地が広範囲的な様相であることから、晩期の集落構造を考える上で重要な要素を提供すると思われる。

（6）柱穴列

南東～北西方向に延びる遺構で、性格・用途及び時期についても不明である。第IV章で上記したとおり、遺物包含層中に構築されていることから晩期前葉期かあるいはそれ以降の遺構であることはわかる。埋土の様相としては現代の遺構とは捉えられなかった。

用途について、溝の底面から6基の柱穴が検出されていることから推定して、溝内に柱が据えられていた可能性は考えられる。両側共に途切れることも興味深い事象である。斜面を切るような位置に所在することから、平坦部と斜面部を区画する施設であろうか。また、風を回避するような施設であるならば、風が頻繁に吹く方向に相当する西側や南西側に作るのが自然であろう。

（7）集石・立石

集石はE19住居跡のだめ押し作業時に検出されたことから晩期以前と捉えている。遺構の性格などは不明である。密集する角礫と混在して後期の土器片が出土している状況から推定して、意図的に石を集めた遺構ではなく、なにかしらの事象で生じた礫が不必要となったため、一カ所にまとめて投棄したものではないかと推定する。

立石は調査区北側において、全長8m程の範囲に、長さ1m、幅60cm、厚さ20～40cmの偏平な粘板岩が7個検出された。これらの石の下位からは、土坑は見つかっていない。配列的には半環状気味に捉えられるが、環状的に調査区外に延びる可能性は充分考えられる。本遺構の調査区外北側付近の等高線の分布を見る限り、平坦地が広がった後に高地になる様相であるため、あるいは大規模な配列をなす配石遺構である可能性も考えられよう。時期は後～晩期の可能性が高いことは言えると思うが、詳細な時期は不明である。

（8）溝状遺構

堅穴状に掘り込まれた平面形が溝状の遺構である。性格・用途は不明である。時期は晩期と推定される。第IV章で上述したとおり、フレーク・チップ類が散在していた状況から考えて、石器工房などに関わる施設ではないかと推定している。ただし、状況証拠が弱く、推測の域は越えない。

(9) 捨て場

東西の斜面部が捨て場として形成されている。遺物の出土量は、東西合わせて500箱分以上となる。野外調査時においては、全般的に特殊性を示唆する遺物廃棄の様相は認められず、土器類、土製品、石器類は混在した状態で出土している。土器などの出土状態や接合具合を見ると、一括廃棄されたと判断されるものが多く、完形品やほぼ完形品の状態にまで復元されたものが多い。時期的な廃棄の傾向について、東西の捨て場を比較した場合、後期前半期は東部捨て場が主体を占めるが、十腰内V式期あたりから西部捨て場が主体となる。土器出土状況を層位的に見た場合、時期的なまとまりの関係について概略すれば、東部捨て場より西部捨て場の方が、全般に他時期との混在が少ない様相ではある。斜面の傾斜角度は、西部捨て場（約15度前後）の方が東部捨て場（約25度前後）より幾分穏やかであることに起因して、本来の廃棄単位の破壊が少ないのかもしれない。遺物の接合状況について、整理作業をおこなった結果から、基本的に近隣グリッド出土同士で接合するケースが多い。ただし第VI章で上述したとおり、土偶や磨製石斧、石刀・石剣の中に東西の捨て場同士で接合したものが数例あり、距離にして70m以上となる。それらの遺物の出土地を見ると、西部捨て場側はL12・M9・M11グリッド、東部捨て場側はB24・C23・C24・C26・E25グリッドで、それぞれ若干の違いはあるものの、近接した出土地と言える。これらの遺物は、以下の2つの要因が考えられる。

- ① 別々に廃棄された可能性。
- ② 一次廃棄場が存在し、二次廃棄場が東西の斜面地である可能性。

②の要因であるならば、土器などその他の遺物の中にも同様の状況（70m離れて接合）を示すものがあると思われることから、①の要因が有力であると推定しておく。ただし、上記の3種の遺物のみ一次廃棄された後に、二次廃棄された可能性が理論上は考えられることから、あるいは3種の遺物に特別な意味（性格）がある可能性も考えられる。

その他として、遺物包含層中には現地性ではない焼土や灰・獣骨などが散見された。焼土の項で上記したとおり、捨て場の形成になんらかの関係があるのかもしれない。また、出土した獣骨の中で注目すべき点として、イノシシの未成熟個体が多いと言う結果がある。縄文人は一般に子供の獣（イノシシなど）は食べないと言う分析結果を示した事例があることから、そこには特別な意味が隠されているように思う。

(10) 広場について

土坑の項でも触れたJ15・J16・J17・K15・K16・K17・L15・L16・L17グリッド付近の空間が、本遺跡の広場的空間である可能性が考えられる。広場（遺構）は、非常に抽象的な内容であるため、その認知は難しいと言える。安易に結論付けられる内容ではないが、遺構の空間占地から集落構造を考えた時、広場の存在を想像することができる。

広場と想定されるのは、大形住居の東側に位置する空間で、土坑が構築されていないかあるいは希薄なエリアであり、住居跡や掘立柱建物跡などの構築も見られない。立石遺構は、この広場と思われる空間の北側に位置する。周辺の土坑の密集度を考えたときに、この空間のみ遺構構築が行われていない事実は、特別な場であった可能性が限りなく高いと推定されよう。また、調査所見として、この付近は本遺跡の中でも風当

たりが特に強く、風を遮るような施設を設けない限り、居住空間には向かないと考えられる。

(11) 縄文時代の造成工事について

本遺跡からは縄文人による人工的に作り出したと思われる平坦面や土坑域の整地化など、大規模な土木工事が行われていることを示唆する内容が幾つか見られる。それら土の移動行為について、調査所見から列記し、まとめてみる。

造成工事として捉えられる内容としては、下記の3つの事象が考えられる。

a 人工的に作り出したと思われる平坦面

調査区南側（山側）の斜面地部分において、テラス状に作り出したと想定される平坦面（以後テラスと呼称して記述する）で、住居跡群や掘立柱建物跡群が立地する。

現況地形での標高が295～296m付近に見られた全長約30m、幅4～6m程の空間で、旧地形（自然地形）は山側（南側）から平坦地にかけてスロープ状の斜面であったと想定される。地形的に見てこの付近からは、南部浮石粒層の堆積が確認されるべき地点であるが、表土を除去した段階で八戸火山灰層が直に確認された（住居跡は八戸火山灰層中を掘り込み構築されている）。自然地形的に見て不自然であり、またこのテラスから検出された土坑の状況は、ほとんどが南部浮石粒と八戸火山灰層がブロック的に入る人為堆積層（埋め戻されている）で、全般に上部が破壊されている様相である。

上記のことから推定すると、南部浮石粒層付近までを削平して平坦化した空間を作り出したと思われ、その際に、土坑は削平を受けたと捉えられる。このテラス造成にかかわり、削平時に生じた排土を利用して、斜面部に所在した土坑類や調査区中央部の平坦地に所在した土坑類は埋め戻されたと推定される。地形の様相は写真図版24や174から、土坑類の埋土が人為堆積であることは各土坑の断面写真から、それぞれ読み取れると思うので参照戴きたい。

このテラスの造成された時期については、晩期と推定される。理由として、この空間からの検出住居は、全般に晩期の土器の出土が圧倒的に多い。

b 土坑類の整地化

本遺跡で検出された土坑類は、全般に人為堆積と判断される場合が多く、特にI18グリッド付近を中心に所在する土坑群はその傾向が顕著である。上述したaに関係する内容であるが、土坑を埋め戻した後に住居跡及び掘立柱建物跡が構築されている（註3）。なお、本遺跡で検出された土坑を埋め戻すためには、平均すると1基あたり約0.785㎡の土量が必要となるため、計算上膨大な土量を必要とする。参考までに野外調査時に使用した一輪車1台には、0.08～0.1㎡前後の土量が入ることから、土坑1基を埋めるのに一輪車8台前後の土量が必要となる。

c 平坦地の拡張

本遺跡の立地する地形は、南北側が高く（南側が山の頂部で、北側は先端部付近から高位となる）、東西が斜面地となる南北方向に長い瘦せ尾根的である。平坦面的空間には限りがあり、遺構構築に際して地形的に制約を受ける。抽象的な内容となるが、東西の斜面地に形成されている捨て場は、単なるゴミ捨て場としてではなく、平地の拡張を促進することを念頭において、ある程度の計画性のもとに行われている可能性が

考えられる。

第Ⅵ章で上述した遺物の分布状況から、東西の斜面地に形成された捨て場への土器の廃棄量は、若干ではあるが時期による違いを確認できる。十腰内Ⅰ～Ⅲ式の時期は、東部捨て場を廃棄地の主体とし、十腰内Ⅳ式の時期は東西捨て場にほぼ均等廃棄、十腰内Ⅴ式～大洞BC式の時期においては西部捨て場が主体となる。

上記のことから、時期的に東部捨て場が西部捨て場に先行して、埋め立ての目的地となり、廃棄地の主体であったと言う捉え方もできる。住居跡や掘立柱建物跡などの遺構構築時期についても、東部捨て場に所在する遺構が、西部捨て場に立地する大形住居など（註4）より古期であることから、当初東側から集落（遺構構築）が形成されていったという解釈が成り立つと思う。

<註>

（註1） 炉については、石囲炉であれば炉石の抜き取り行為が行われた可能性は念頭に入れて、精査時にはその痕跡を探したつもりである。地床炉であれば、発達の良い焼土が多かったとは言え、確認できなかったとは思えない。屋外炉の存在については、明確ではないが現地性の焼土遺構にその存在の可能性が示唆される。柱穴について、炉が検出されている堅穴でありながら、柱穴の存在が明らかでないものは、本遺跡に限らず該期の住居、特に2～3mの小形に見られるように思う。屋外に柱穴の存在があったのか、あるいは発掘調査ではなかなか検出できない周堤部分にあったのであろうか。本遺跡は全般に黒色土中での精査であったことから検出が難しい調査であったことは事実である。調査員の力量（主担当の中川の調査途中でのケガによる入院などにより、頻繁に調査員の変更があった）やその数の問題も勿論あるものの、作業に従事した作業員はかつて馬場野Ⅱ遺跡や大日向Ⅱ遺跡など同町で行われた代表的な発掘調査に参加してきた精鋭ぞろいである。見落としが頻繁にあったとは思われない。筆者の見解として、B21住居跡状3号などは炉石の存在した可能性を匂わすものの、堅穴内には炉も柱穴も実際になかったのではないかと推定する。炉や柱穴の検出できなかった堅穴は、本来別枠で捉え、居住以外の施設・用途を考えるべきなのかもしれない。

（註2） 具体的には、定住するための住居ではなく、季節的な住居ではないだろうか。

（註3） 住居跡と掘立柱建物跡が空間的に重なる場合は、掘立柱建物跡が新しい場合が多い。よって、遺構毎の構築順の傾向としては、古い方から土坑→住居→掘立柱建物となる。但し、住居跡の時期推定となる土器の時間尺を、本書では示しえたとはいえない。特に、後期終末から晩期初頭の土器は、検討課題を残したと思っている。

（註4） K11住居跡とした約16mの大形の住居跡は、プランの西半分程が遺物包含層中の範囲に構築されている。

<参考文献>

石井寛（1995年）「縄文時代掘立柱建物址に関する諸論議」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第6集』帝京大学山梨文化財研究所

その他参照した遺跡報告書は、後記する。

2 遺物

3年間の調査で出土した遺物の総量は、大コンテナに換算すると約600箱分である。

土器類はコンテナに換算すると約550箱分、土製品は2,320点、石器・石製品は5,330点（フレーク・チップなどは除く）出土している。台帳に登録した遺物総数は11,104点（第一次登録段階の点数）である（掲載遺物はセレクトを行った第三次登録段階となる）。そのほとんどが東西の斜面地に形成された捨て場からの出土である。上述してきたとおり主体となる時期は、縄文時代後期初頭から晩期前葉である。その他の時期としては、縄文時代早期及び弥生時代の土器が微量と縄文時代前期末葉の土器が大コンテナ5箱分ほど出土している。

遺物の種類毎に若干のまとめを行う。

（1）各群土器の概要

第V章で示した分類に従って各群の土器について概略する。

①第Ⅰ群土器（早期）

貝殻腹縁文を施文する土器で、破片が数点出土している。器種は全て深鉢で、吹切沢式、寺の沢式などに相当するものが出土している。第449図の集成図を参照戴きたい。

②第Ⅱ群土器（前期） 長七谷地3群に相当する土器が数点と円筒下層d1～2式に相当する土器が5箱分程出土している。第449図の集成図を参照戴きたい。

円筒下層式に先行する土器群で、いわゆる長七谷地3群に相当する土器群は、小片が数点出土した。本遺跡で出土している円筒下層d式と比較すると、胎土中の植物繊維の混入量が多く、特徴の一つと言えよう。他の遺跡の出土例を見ると、中坩火山灰より古い時期に相当すると捉えられる土器である。今回の調査では後～晩期の遺物包含層（Ⅲ層）やⅢ層とⅣ層の漸移層部分から出土している。

円筒下層d1～d2式に相当する土器群は、主に東部捨て場のⅢ層下位～Ⅳ層上位で出土している。器種は深鉢と鉢の2種類があり、深鉢はさらに大形のもの和小形のものに大別される（小形は希少）。口縁部に押圧縄文、胴部に第1種結束による羽状縄文施文を基調とする。最近の当センターの調査事例としては、「大日向Ⅱ遺跡」（軽米町）から円筒下層a～d式期の住居群が、「大鳥Ⅰ遺跡」（軽米町）と「横間Ⅱ遺跡」（安代町）から円筒下層式期の捨て場が検出されている。また、本遺跡から北約1.5kmに位置する「畑内遺跡」（青森県南郷村）からは、円筒下層期の大規模な集落跡が検出されている。

③第Ⅲ群土器（後期）

本遺跡で主体を成す後期の土器は、そのほとんどが捨て場（遺物包含層）からの出土で、遺構内出土は小片が主体であり割格的には少い。捨て場出土土器は、継続的変遷が迎えられる資料と判断されるが、一部共伴関係を掴める出土状況を示した以外は、層位的上下関係を掴める資料は存在しないと判断される。本遺跡出土土器にある程度の時間尺を設定するため、他遺跡の資料や構築された土器編年を参照して分類を行った。岩手県北部地方において、該期の土器が出土した遺跡は相当数あり、資料の増加は著しいが、1遺跡から後期全般を網羅する指標となるような資料、例えば該期の貝塚調査事例（報告書が刊行されているのは「根井貝塚」くらいで極小のようである）や層位的に良好と判断できる事例はほとんど見当たらない。よって、指標的な資料の主体は、青森県の該期の遺跡に求めることとした。最近の十腰内式土器編年についての研究動向（註1）を踏まえ、本遺跡出土土器群に見られる特徴をまとめてみたい。土器の時期的な変遷の大望として、

第V章でおこなった分類毎に集成したのが、第450～479図である。集成図と観察表の時期区分のくい違いがあるものについては、観察表を優先する。比較資料として、馬淵川流域における該期の代表的な遺跡の土器資料を掲載した。中葉期については、良好な資料が少ないことから、北上川流域の遺跡資料も加えた。

第Ⅲ群1類

本遺跡で主体を占める後期土器の中で後～末葉に次いで出土量が多いのが、第Ⅲ群1類とした初頭～前葉の土器群である。本遺跡出土の当該期土器の器種構成は、深鉢、鉢、壺を主体に注口土器、片口鉢、切断蓋付き壺が少数見られる。

第V章で行った分類では、第Ⅲ群1類-1が十腰内I式の古い部分と思われる土器群、第Ⅲ群1類-2が十腰内I式の新しい部分と思われる土器群、第Ⅲ群1類-3が十腰内I式とII式の漸移的な部分に位置付けられると思われる土器群とし、3つに大別を行った。上記の分類にあたっては、鈴木克彦氏が行った上尾駱2遺跡出土土器による「十腰内I式の細分案」(註2)を参照して、第Ⅲ群1類-1と第Ⅲ群1類-2に区分し、十腰内II式により近似する特徴のものを第Ⅲ群1類-3として区分を試みた。おおよそ鈴木編年案1～3段階(十腰内1a式)が第Ⅲ群1類-1、4～5段階(十腰内1b式)が第Ⅲ群1類-2に比定する(註3)。比較資料として当該期の資料が豊富な「駒板遺跡(軽米町)」、「田面木平遺跡(八戸市)」、「赤坂A遺跡(鹿角市)」の出土土器を第434～437図に掲載した。概ね第Ⅲ群1類-1が「駒板遺跡」出土土器、第Ⅲ群1類-2が「田面木平遺跡」出土土器、第Ⅲ群1類-3が「赤坂A遺跡」出土土器との類似を意識し、比較資料とした。ただし、「赤坂A遺跡」出土土器については、本遺跡から50km以上離れた距離に位置し、大湯式との折衷圏と思われる位置に所在することから、単純に比較資料とするのは安易であるかもしれない。

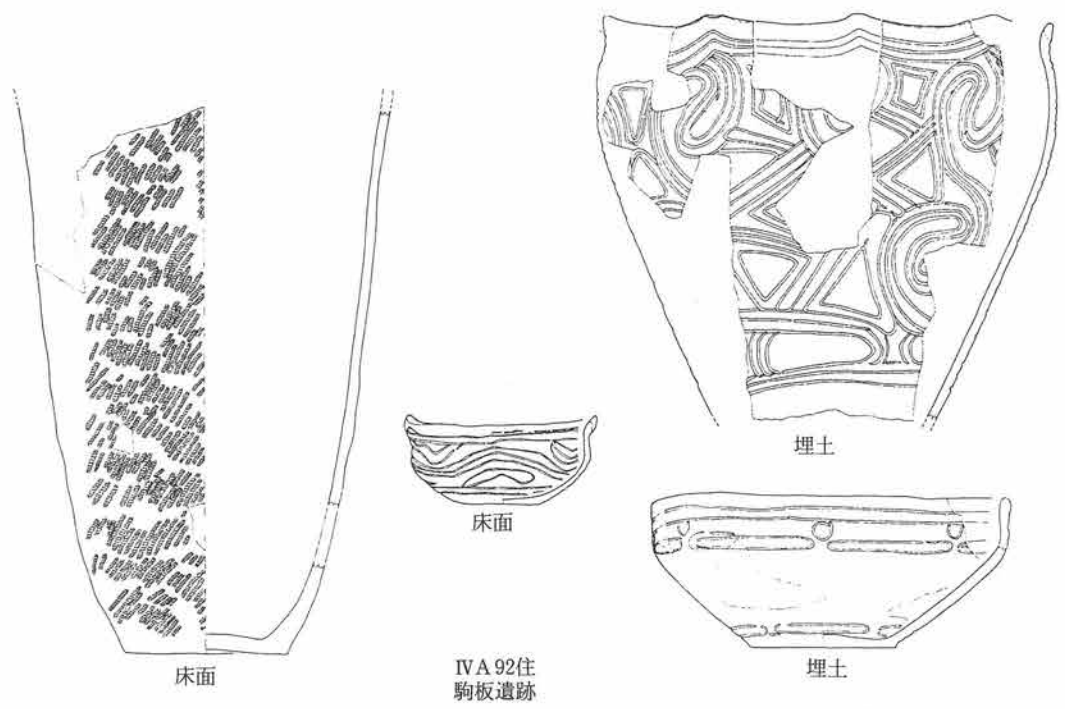
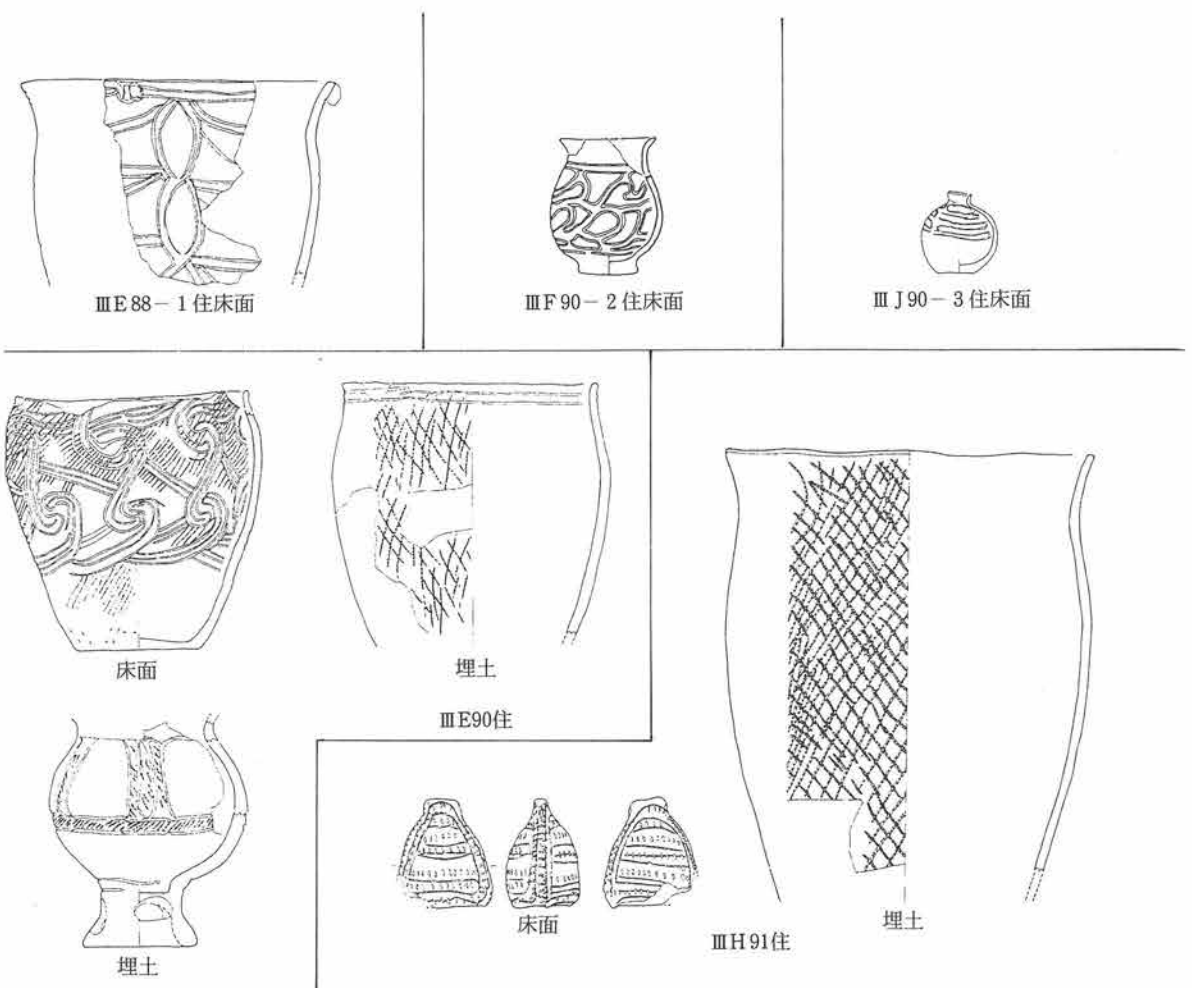
十腰内I式の古い部分として位置付けを行った第Ⅲ群1類-1については、十腰内I式の最も古い部分と古い部分の土器群の2時期を併せて一括した分類結果となったと筆者は判断している。何処で線を引くか基準が曖昧であった(判断できなかった)ことに起因する。当初、本遺跡出土の後期初頭～前葉土器には、十腰内I式に先行する所謂「蛭沢遺跡」第Ⅲ群土器相当(蛭沢式)が存在しないと捉えていた。第450～451図に掲載した第Ⅲ群1類-1土器群の集成図を作成後、鈴木氏が十腰内I式以前の型式を設定し得る纏まった資料として提示した「馬立I遺跡」(二戸市)第Ⅳ群1～3類土器との比較を行った所見として、本遺跡の土器群の中にも十腰内I式に先行する土器群が存在することに気が付いた(「馬立I遺跡」出土土器が十腰内I式に先行する土器群と捉えた場合)。例えば、626、1202、2012(集成図には掲載していない)などの土器で、三角形の沈線区画文及びモチーフが「コ」の字を向き合わせにしたようなものなどの文様が描かれる。これらの土器は、「馬立I遺跡」出土土器に近い様相であり、近年当センターで発掘調査を行った「上村遺跡」(二戸市)、「秋浦I遺跡」、「秋浦II遺跡」(岩手町)からも同様な土器群が出土している。

また、1248などに代表されるように報告書作成の最後まで難渋した土器が多く、集成図上と観察表の時期が食い違っている土器が多々ある。筆者の現段階の見解としては、観察表を優先して載きたい。

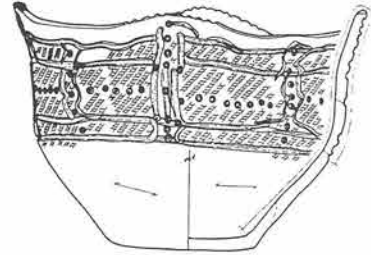
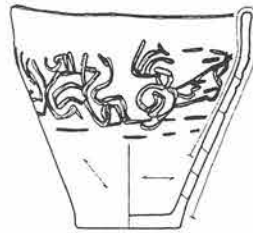
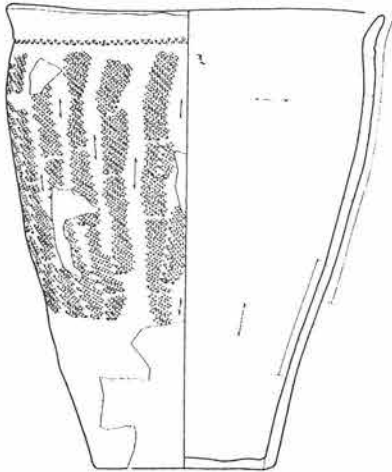
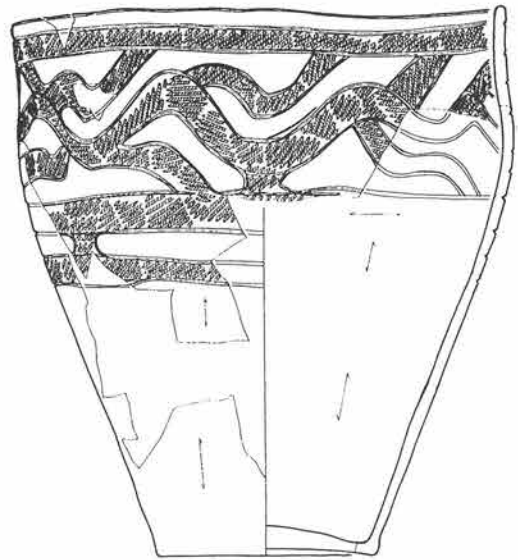
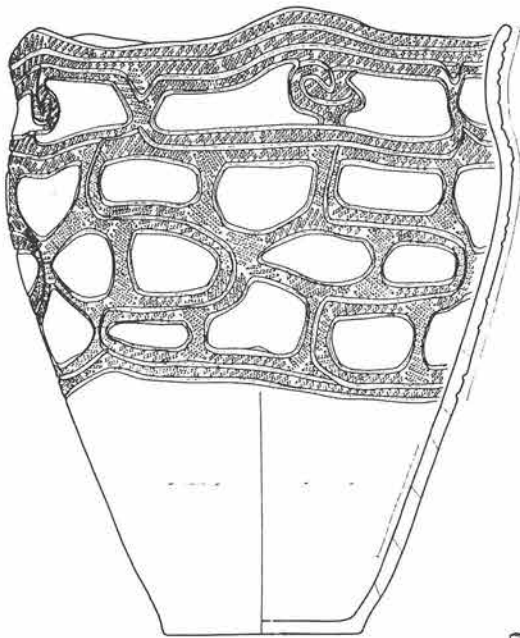
第Ⅲ群2類

十腰内II式に相当すると思われる土器群を第Ⅲ群2類-1に、十腰内II式と十腰内III式のどちらに含まれるのか判断ができればものを第Ⅲ群2類-2とした。全般に関東の加曾利B式の影響が窺える土器群と言える。基本的には曲線的な磨消縄文を主要なモチーフとする。比較資料とした第438図上段の「川口II遺跡」(岩手町)出土土器は、第Ⅲ群2類-2～第Ⅲ群3類との比較を意識して掲載している。第Ⅲ群2類-2土器群は、全般に第Ⅲ群2類-1土器群より後出的な要素を持っていると判断した。

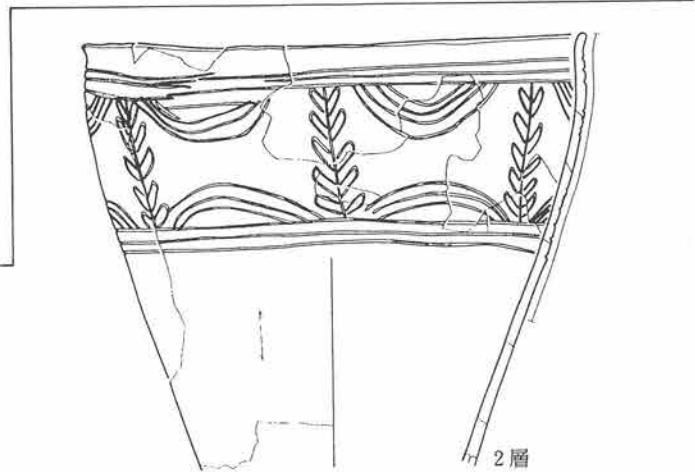
本遺跡の後期土器の中では、最も少ない出土量で、この現象は本遺跡に限ったことではなく、馬淵川流域



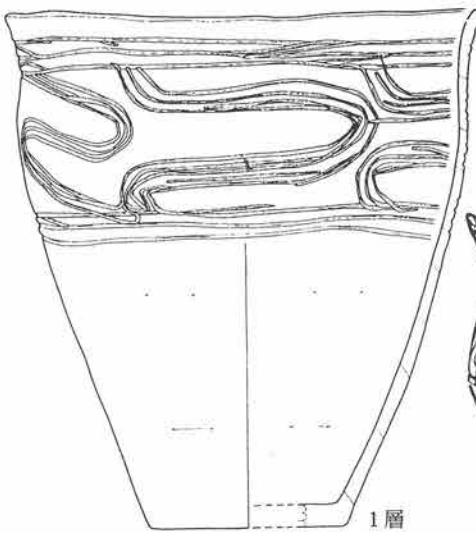
第434图 駒板遺跡出土土器



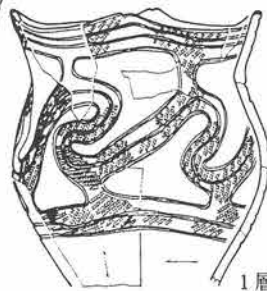
4号竖穴住居跡 (床面)



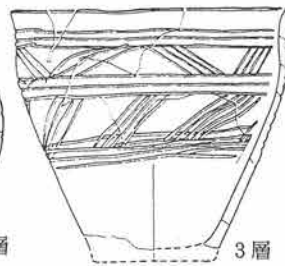
2層



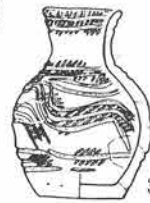
1層



1層



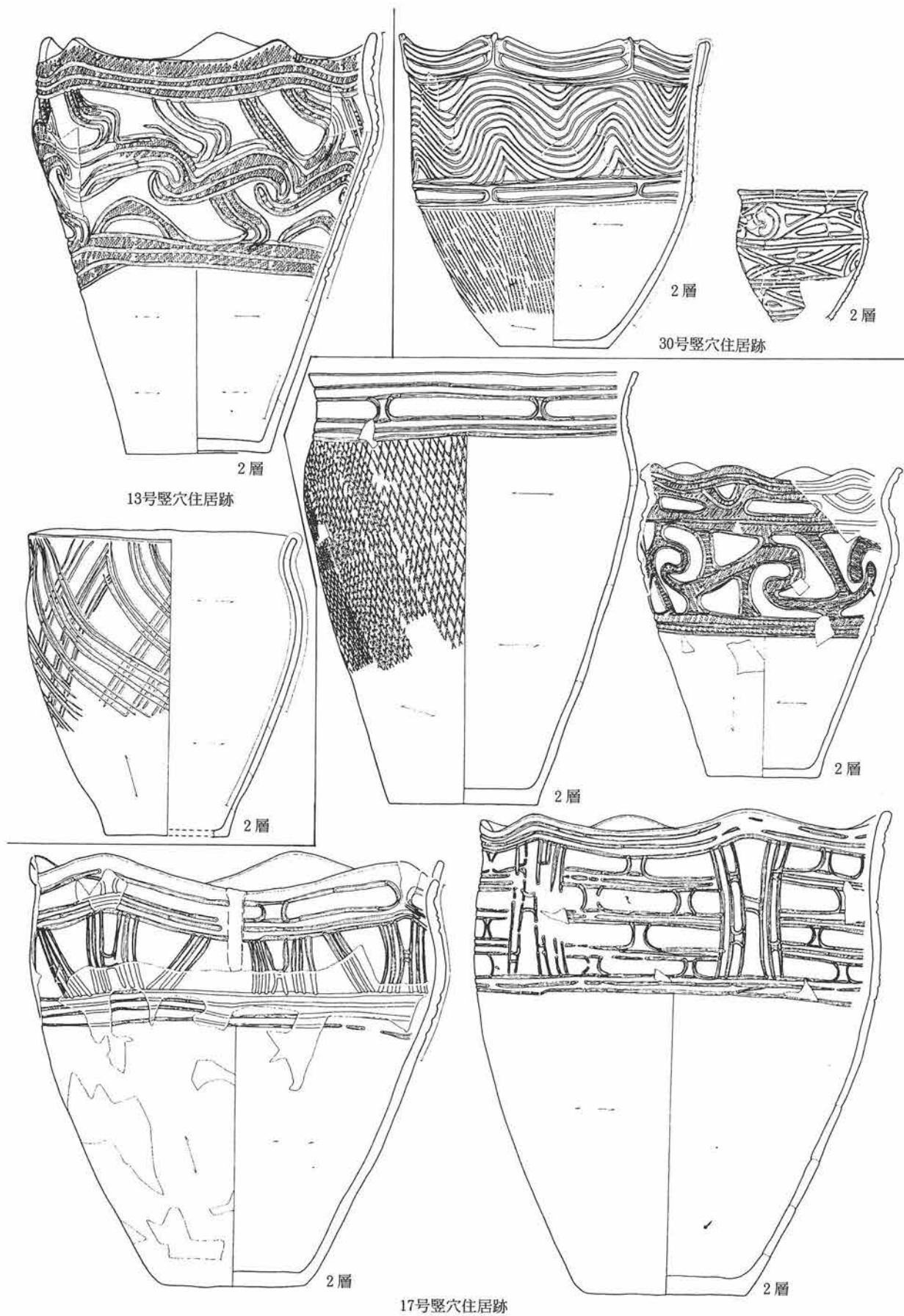
3層



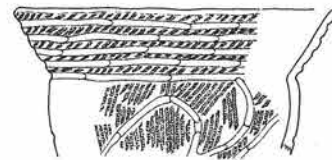
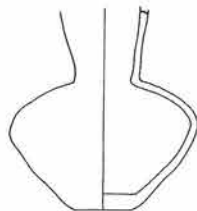
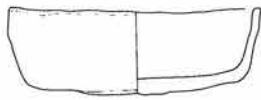
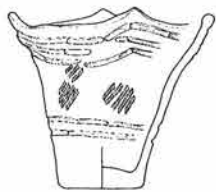
3層

10号竖穴住居跡

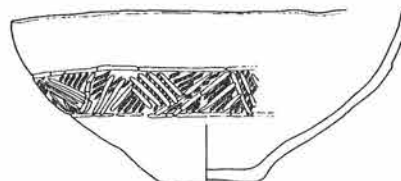
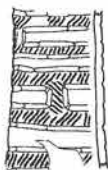
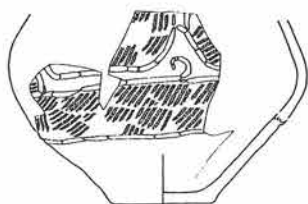
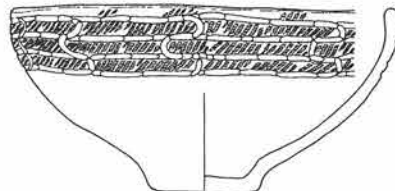
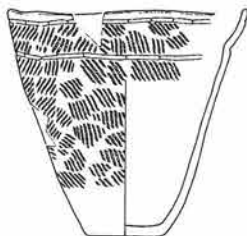
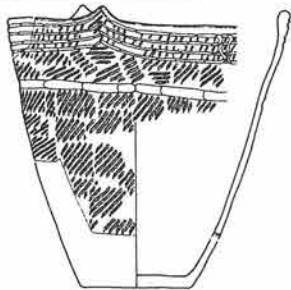
第435图 田面木平遺跡出土土器 1



第436图 田面木平遺跡出土土器 2



S113 竖穴住居跡

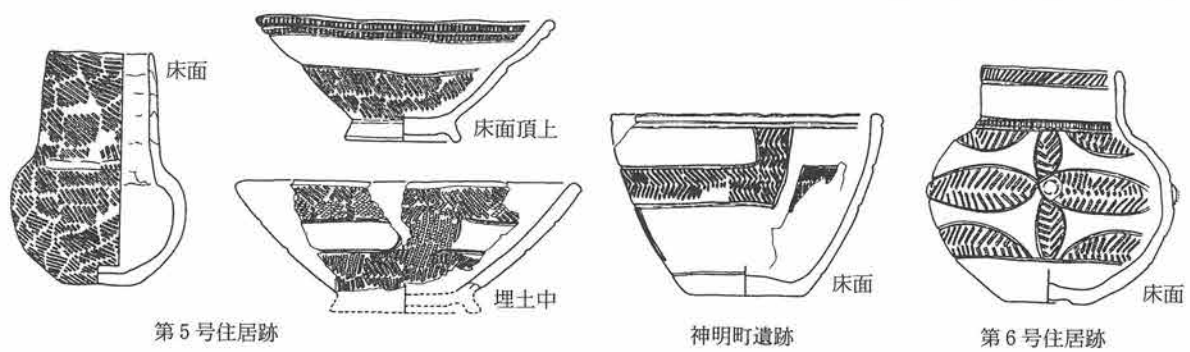
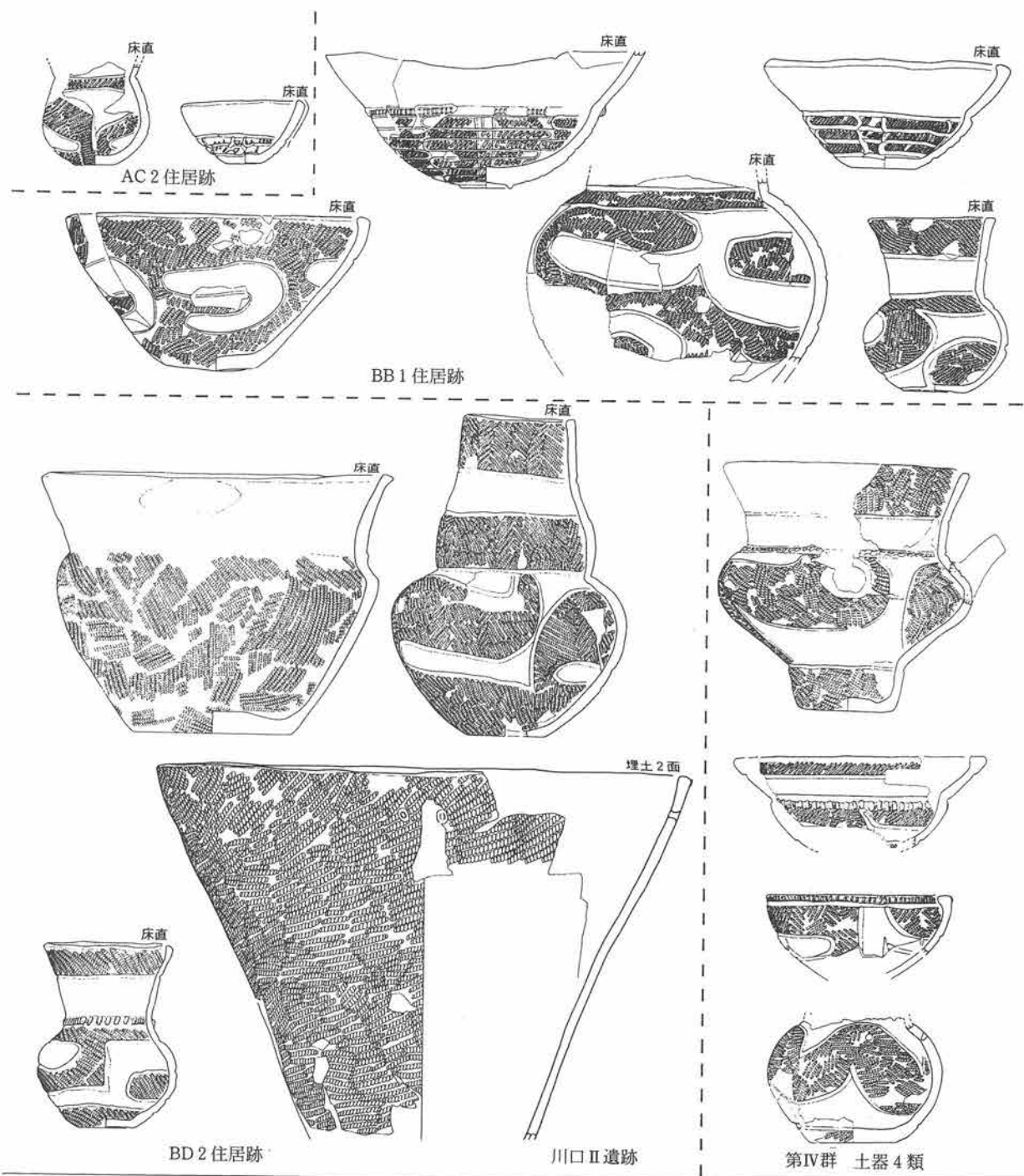


S114 竖穴住居跡

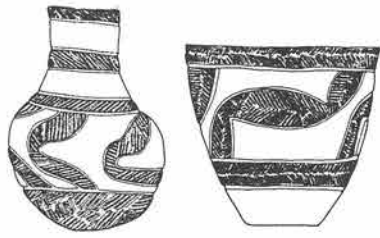
赤坂A遺跡

S117 竖穴住居跡

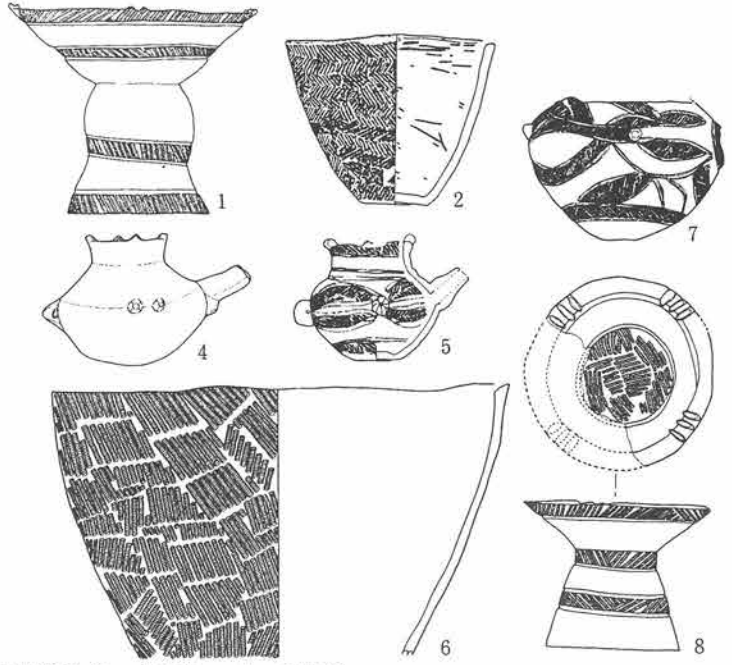
第437图 赤坂A遺跡出土土器



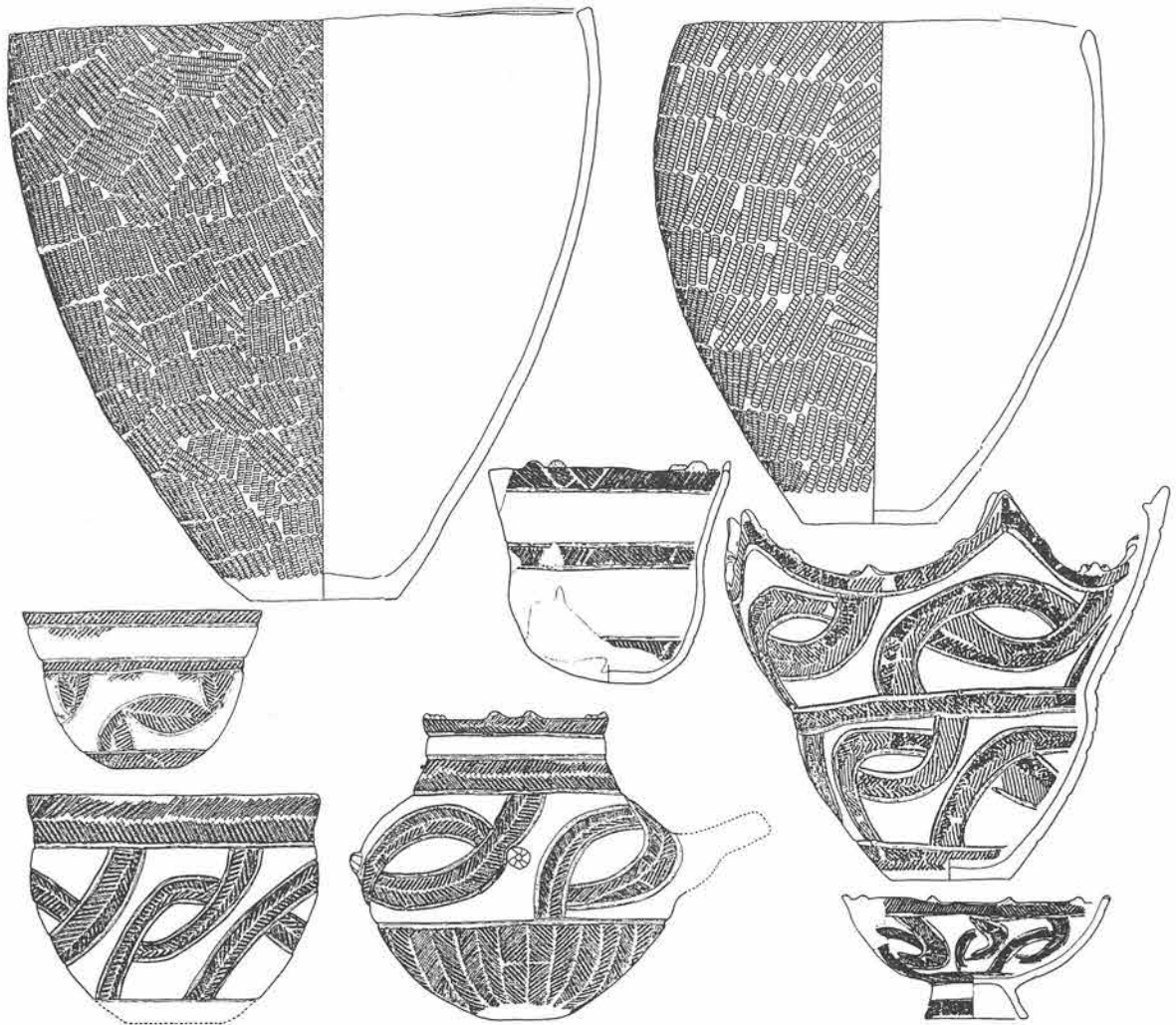
第438図 川口II・神明町遺跡出土土器



第1号遺構床面

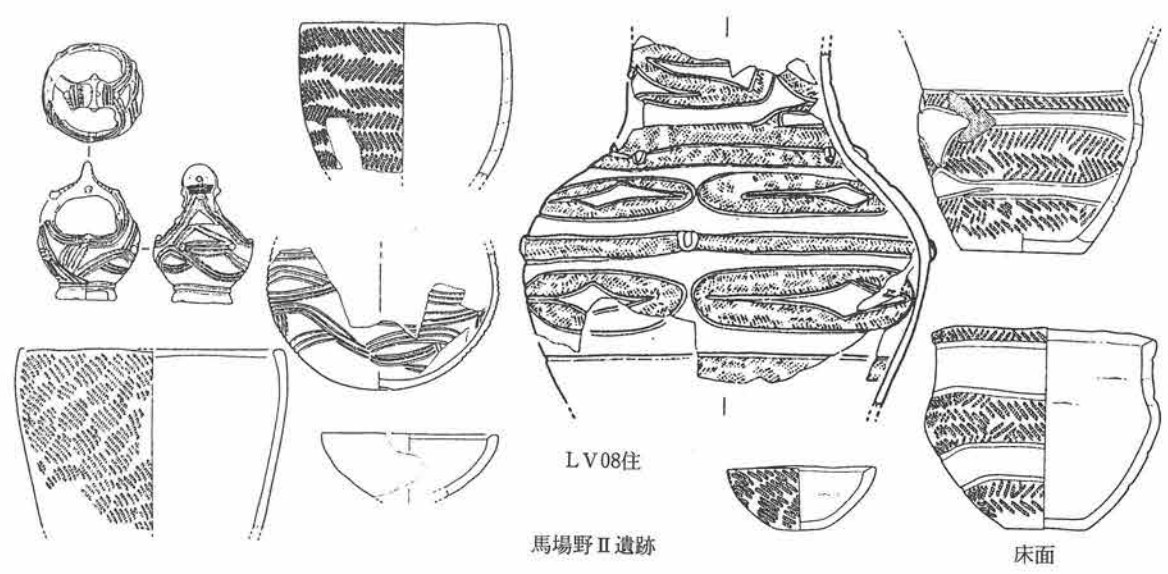
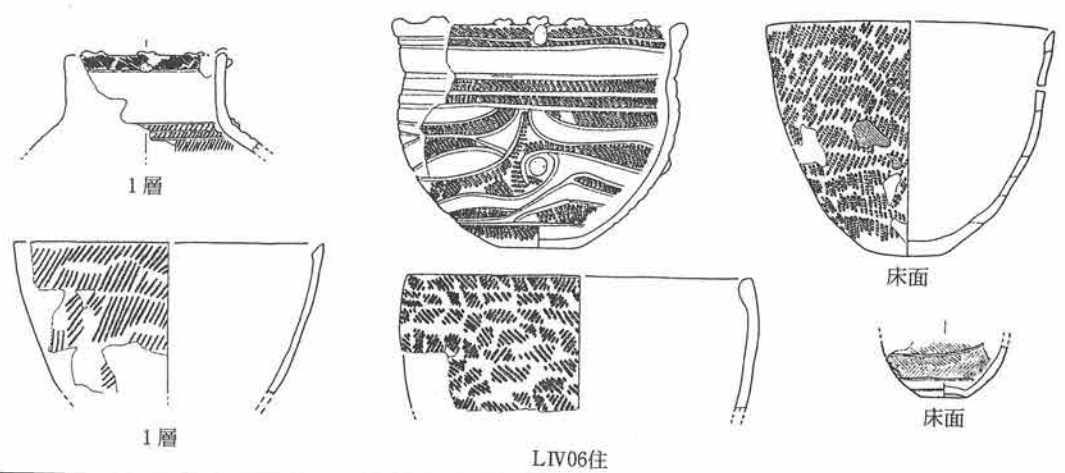
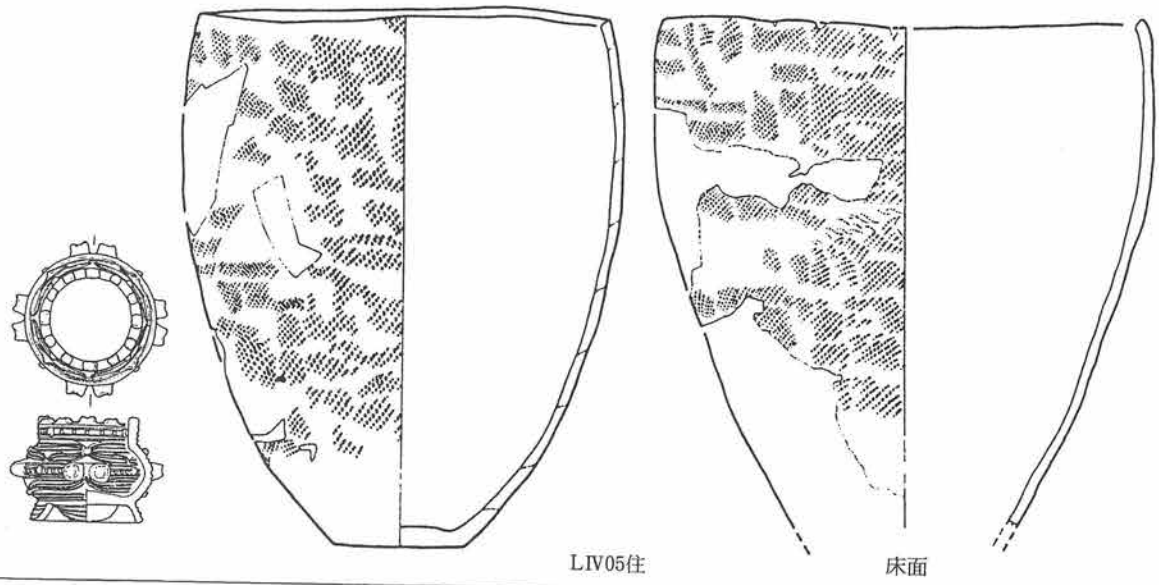


第3号遺構 (1-5床面 6-8埋土)

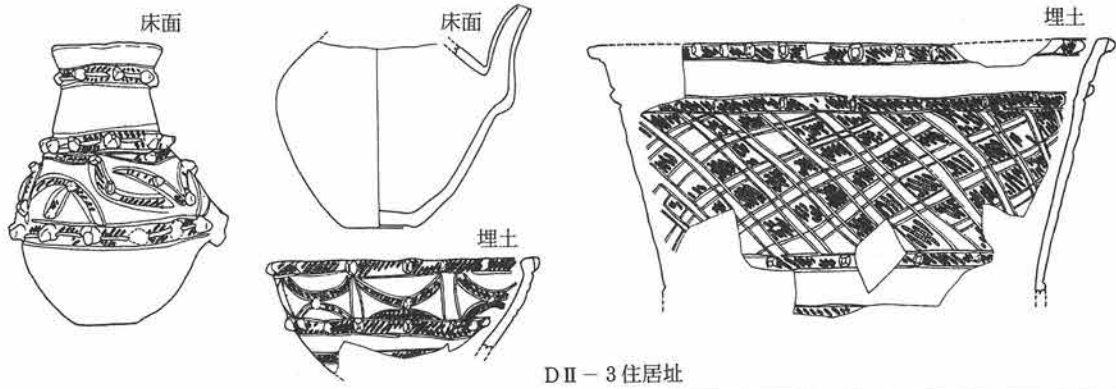


第Ⅲ群土器

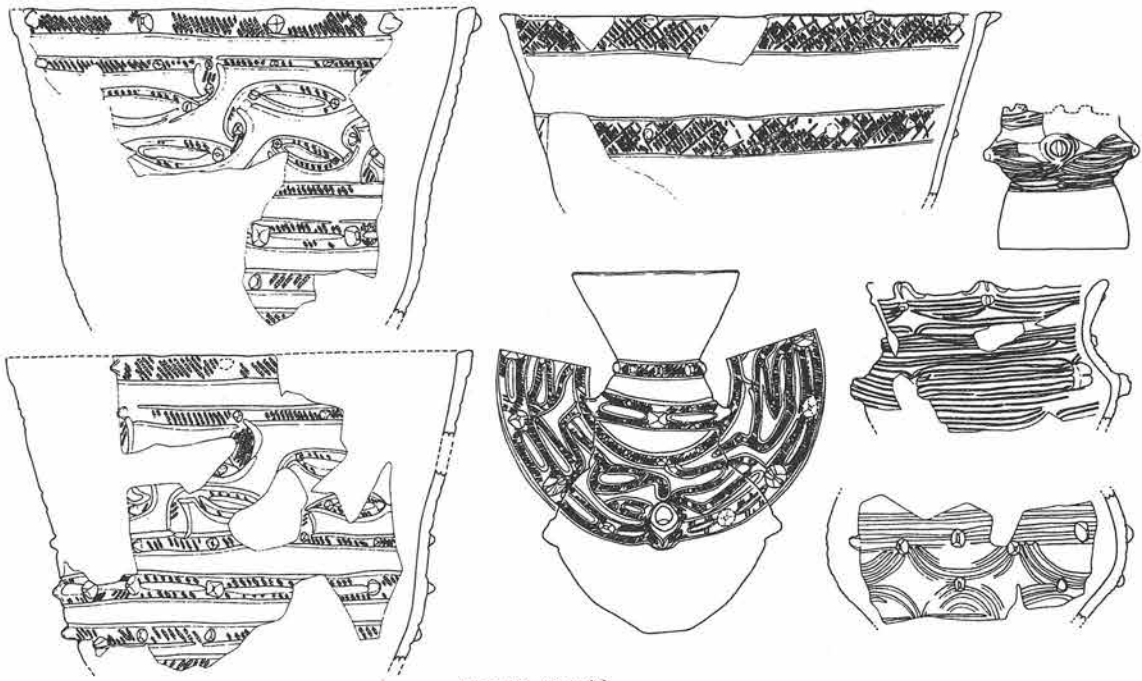
第439図 馬場瀬(1)遺跡出土土器



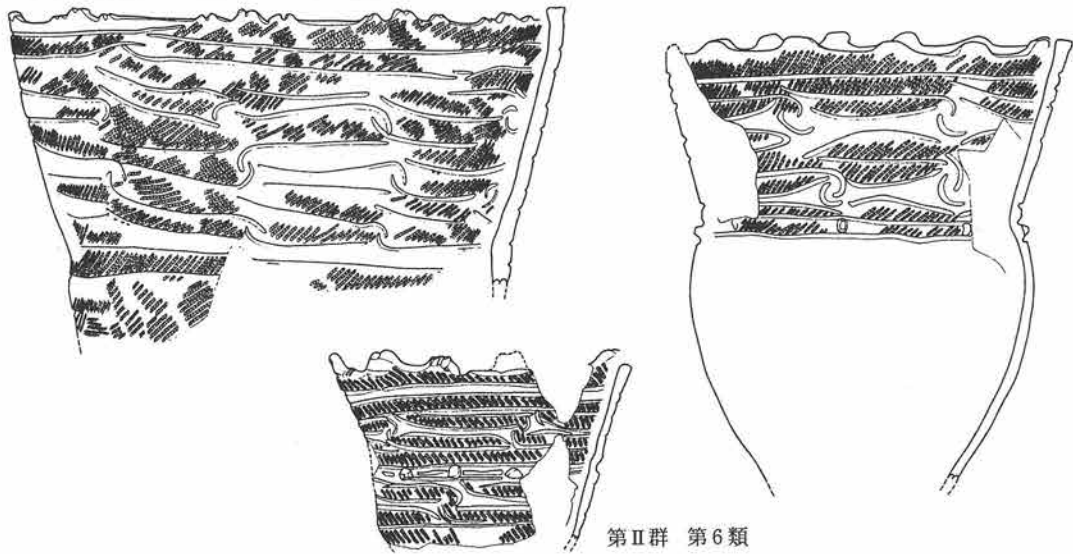
第440図 馬場野II遺跡出土土器



DII-3 住居址



第II群 第5類



第II群 第6類

第441圖 小井田IV遺跡出土土器

全体的に言える傾向と捉えられる。

第Ⅲ群 3類

後期中葉の土器群で、加曾利B₂～B₃式の影響が窺える土器群であり、十腰内式に比定させれば十腰内Ⅲ式に相当すると思われる。比較資料として「神明町遺跡」（青森県金木町）出土土器を第438図下段に掲載した。本稿においては、第Ⅲ群 3類土器の大きな特徴として、①「1種の原体による羽状縄文」、②「口縁部上方や頸部に見られる刻目帯」、③「光沢が強く感じる研磨手法が施される」の3点に着眼した。

①について、羽状縄文を施文する土器の中で、1種類の縄文原体を異方向に転がして施文するいわゆる異方向縄文の割合は、約15%である。参考までに十腰内Ⅳ式では約6%、十腰内Ⅴ式では約18%であった。2種類の原体を施文するものよりかなり低い割合を示した。メルクマールとして捉えるのは不適切ではないだろうか。ただし、十腰内Ⅳ式との区分については、ある程度の目安になると思われる。

②について、加曾利B 3式に顕著に見られる特徴で、複数段のものも見られる。十腰内Ⅲ式とⅣ式の過渡期的と思われる1345が、十腰内Ⅲ式に位置付けできるのであれば、十腰内Ⅳ式には通常見られない特徴と判断できないでもないが、結論を安易に出すべきではない事象であろう。最近の資料としては、「市部内遺跡」（葛巻町）から該期資料（十腰内Ⅲ～Ⅳ式）が出土している。

③について、加曾利B式の特徴と類似する。研磨手法の違いだけとは思われない光沢であり、精錬されたと思われる粘土を使用して製作されているのではないかと捉えている。この特徴は本遺跡の資料で言及するならば、十腰内Ⅱ～Ⅲ式の特徴として捉えられると思われる。ただし、精錬された粘土説については最近の研究では否定的な見方もあるようであり、研磨の手法の違いと取る説が有力のようである。

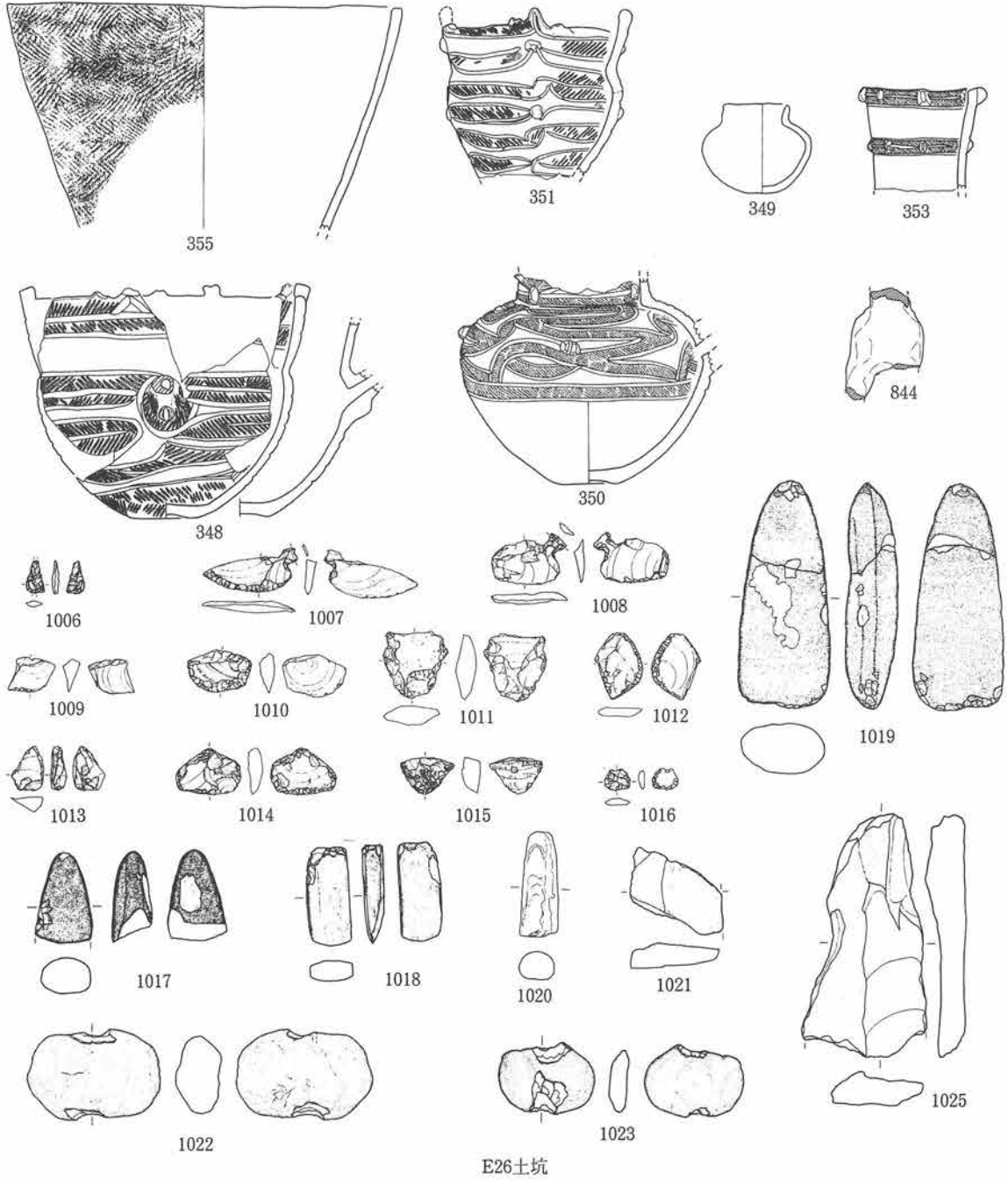
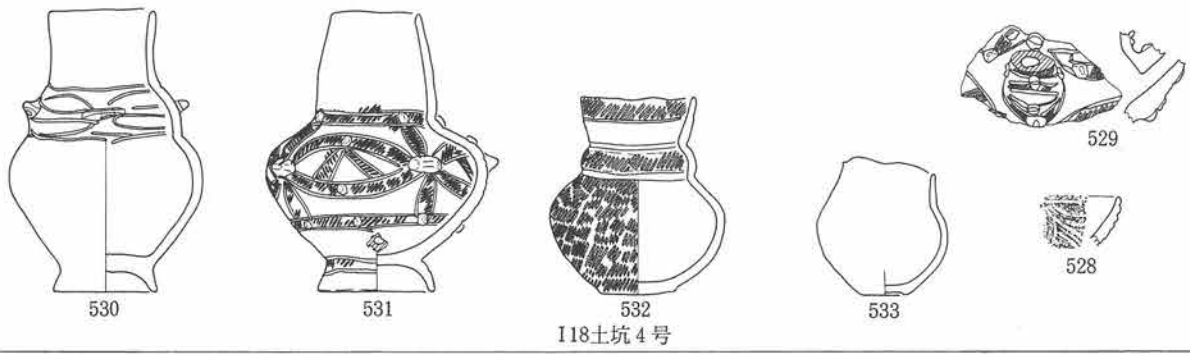
①～③の要素について、②・③はある程度の指標となるのではないだろうか。問題はむしろ十腰内Ⅳ式とする土器の下限（Ⅳ式の最も古い段階）を、何処（何の要素）で引くかではなかったと思う。本稿で後期中葉に位置付けた第Ⅲ群 2・3類とした土器群については、関東の加曾利B式のみならず北海道のホッケマ式（註4）との並行関係などから検討してみるのも一考であったと思う。

第Ⅲ群 4類と第Ⅲ群 5類 後期後～末葉の土器群で、十腰内Ⅳ・Ⅴ式に相当する土器群である。本稿においては、4類土器と5類土器の区分を貼り瘤先端のとり具合（先鋭貼瘤と標記した）に求め、先端の丸いものや叉状貼瘤を第Ⅲ群 4類に、先鋭貼瘤を付加するものを第Ⅲ群 5類とした。また、東北地方南部や関東地方からの搬入品あるいは、上記地域が祖系と思われる土器も、該期には相当数散見された。本遺跡出土土器の分類にあたって、施文される文様や磨消縄文帯の幅の違いなどの微細な要素で、第Ⅲ群-4類（十腰内Ⅳ式相当の土器群）と第Ⅲ群-5類（十腰内Ⅴ式相当の土器群）の区分を行うのは、非常に困難を極めた。

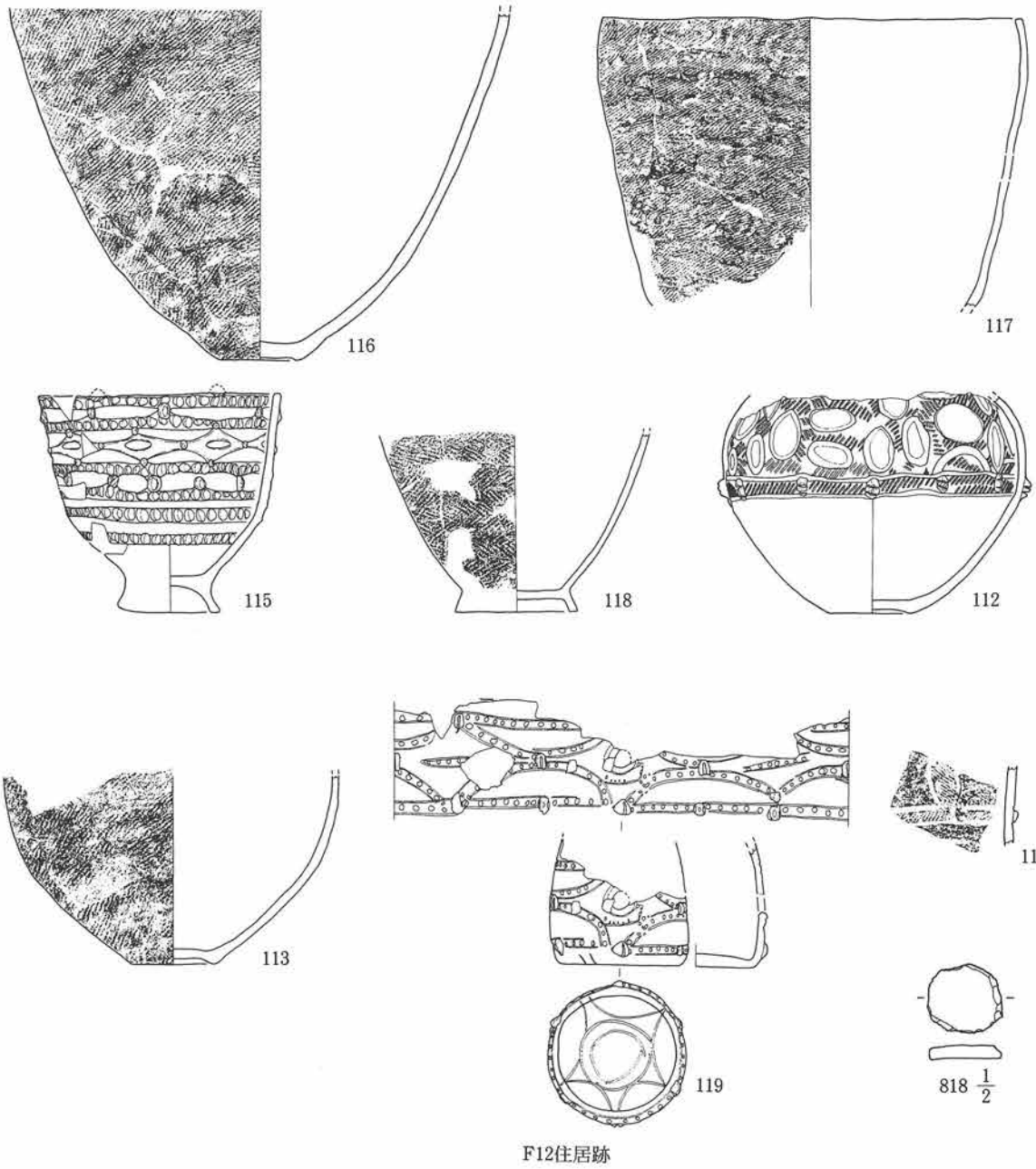
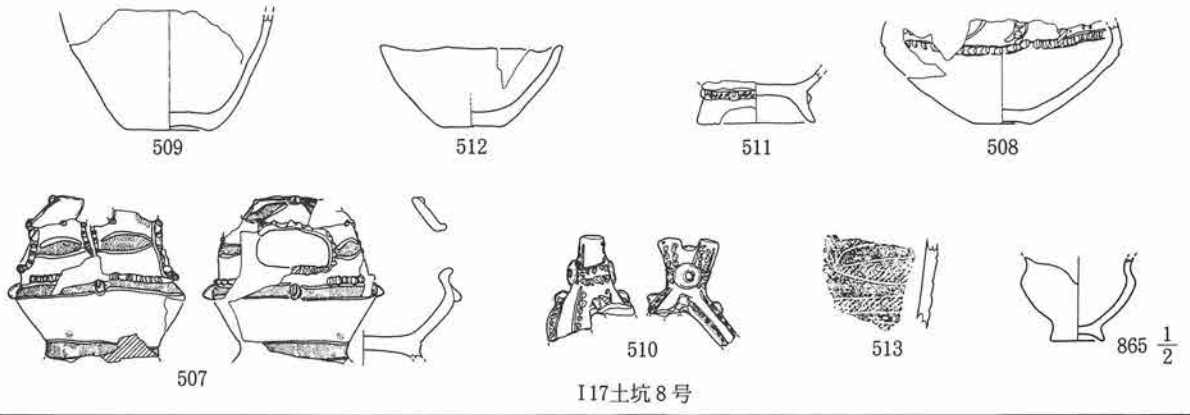
十腰内Ⅳ式相当として扱った土器群は、観察所見として大きくは3時期に細分される可能性を感じたが、その最も古いと思われる十腰内Ⅲ式との過渡期の土器（十腰内Ⅳ式古段階）が、2004などに求められるのではないだろうか。また、本来は西ノ浜式（註5）などとの関係を踏まえ、比較検討を行う必要があったと思われる（東北地方南部との比較検討を行わなかったのは反省点としたい）。

十腰内Ⅳ～Ⅴ式に相当する土器の一括性が窺える出土状況を示した資料としては、I 18土坑4号、E 26土坑、I 17土坑8号、F 12住居跡出土土器が挙げられる。十腰内Ⅳ式の最も新しい段階と十腰内Ⅴ式相当との区分は、混在した可能性が多分にあり、I 18土坑4号出土土器、E 26土坑出土土器がその最たるものである。

両者のどちらに区分されるのか位置付けが難しい土器群の資料は、「馬場瀬（1）遺跡」（第439図の土器群）に豊富である。当該期を扱った論文においても、「馬場瀬（1）遺跡」出土の土器については、岡田氏は十腰内Ⅳ式に、鈴木氏は十腰内Ⅴ式に位置付けているなど見解の分かれる土器も介在する。本遺跡出土



第442图 I 18土坑4号·E26土坑出土遗物



第443图 I 17土坑 8号·F12住居跡出土遺物

の中にも「馬場瀬（1）遺跡」に見られる土器群と類似する資料が散見される。I 18土坑4号の資料は、3個の完形品が一括して出土したもので、530～532は同一時期の可能性を示唆させる。また、十腰内V式の範疇で捉えている第443図に掲載したF 12住居跡埋土一括土器の中には、112、115、119などのように文様モチーフの在り方から異系統土器である可能性が高いものが含まれる。

最近の十腰内V式研究の動向に筆者が疎いため、型式判断に妥当性があるかわからないが、本遺跡の土器を観察した所見として、「蛭沢遺跡」12号住居跡・13号住居跡出土土器や「根井貝塚」出土土器などが、十腰内IV式と十腰内V式の漸移的な時期に相当するのではないだろうか。そして、第440図に掲載した「馬場野II遺跡」L IV05住居、L IV06住居、L V08住居床面出土土器の段階は、十腰内V式の一括資料として捉えられるのではないかと考えている。なお、「小井田IV遺跡」第II群第6類は晩期初頭であろう。

本稿において該期の土器分類は、区分材料を見い出せず難航した。今回は鈴木編年を採用して分類した（註6）が、第III群1類と同様に筆者星の力不足を露呈する結果となった。本遺跡には該期の完形資料が豊富で、型式学的には良好な資料であるが、本報告書では示し得なかった。

第III群6類 詳細な時期の位置付けが困難な地文のみを施文する粗製土器を一括した。主に粗製の深鉢や鉢が該当する。文様のある土器との比較や器形、胎土などの特徴から時期推定を試みた。6類-1が初頭～前葉、6類-2が前～中葉、6類-3が中～後葉、6類-4が後～末葉と位置付けした。

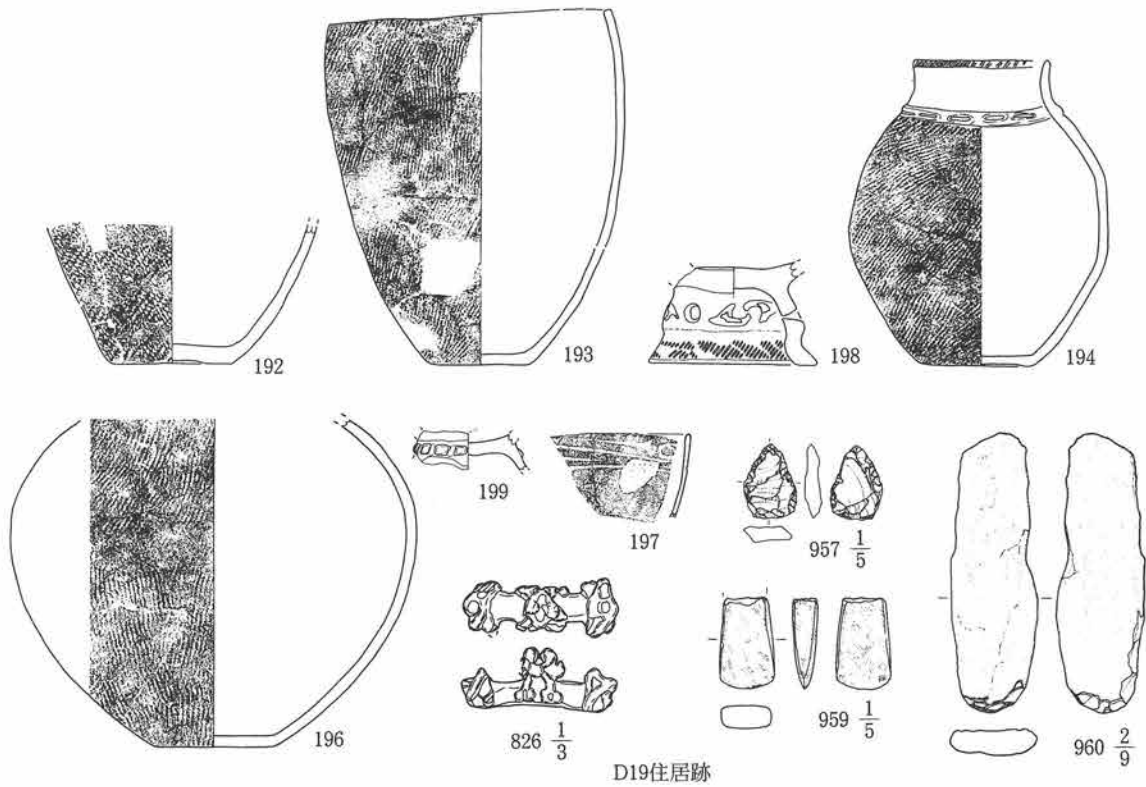
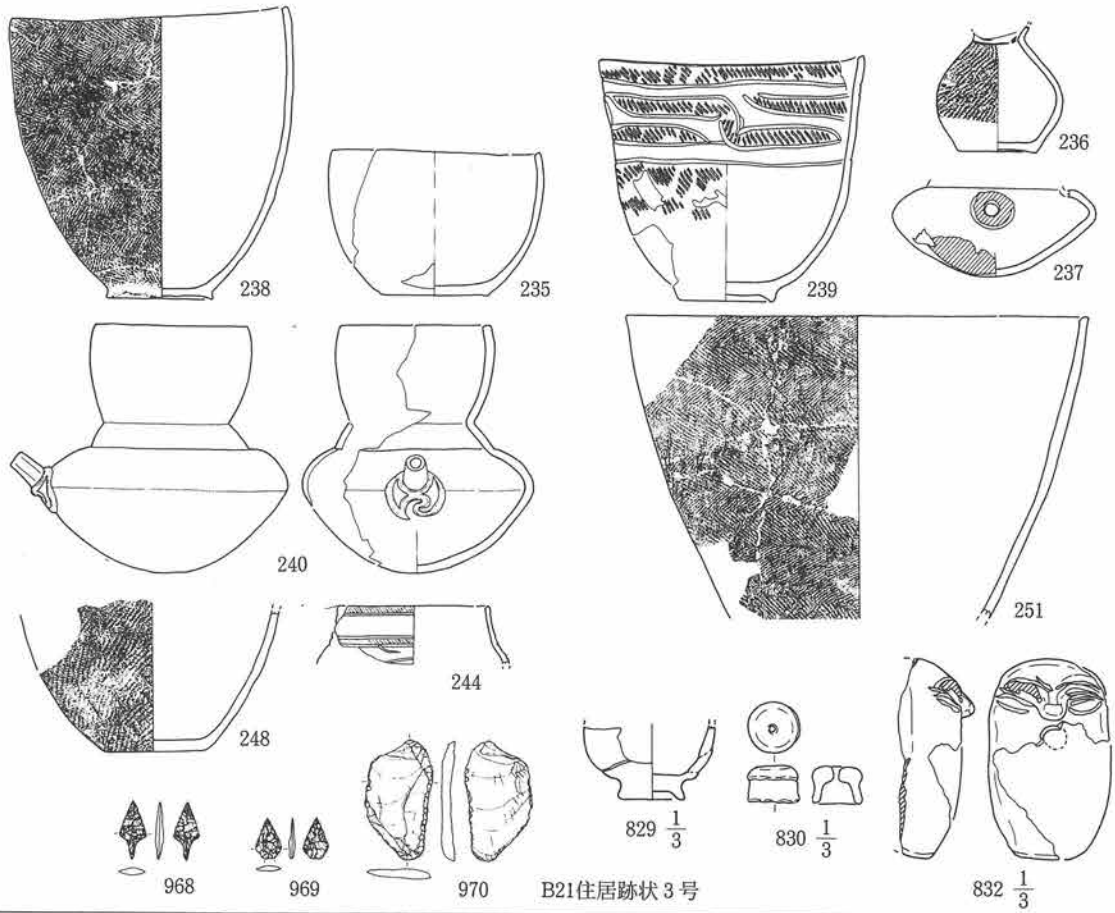
④第IV群土器（晩期）

晩期の土器は、全体的に遺構内出土を主体とし、大洞B～BC式までを網羅する資料と判断される。それらの中で、便宜的に後期（第III群土器）と晩期（第IV群土器）に振り分け、区分した後期最終末～晩期最初頭と言える土器群については、1つの群を設けるべきであったと反省している。岩手県北部において、該期の資料は希少で、また東北地方北部を扱った該期の研究も少ないように思われ、東北地方に限れば該期の研究は南高北低の感があるように思う。仙台湾周辺地域を扱った該期の研究としては、後藤勝彦氏の宮戸編年（1960年後藤）や高柳圭一氏（1988年高柳）の金剛寺貝塚の検討、及び『田柄貝塚発掘調査報告書』や『中沢目貝塚』が代表的なものとして挙げられる。高柳編年を参照して該期土器の編年を整理すると（註7）、「西ノ浜式」（高柳壟付土器第I段階）→「宮戸Ⅲa式」（高柳壟付土器第II段階）→「宮戸Ⅲb式」（高柳壟付土器第III段階）→高柳壟付土器第IV段階（宮戸IV式併行）→「大洞B1（古）式」（宮戸IV式併行）→「大洞B1（新）式」→「大洞B2式」の順を示す。本遺跡で行った分類を比定させれば、第IV群1類-1としたものは、「大洞B1（古）式」及び「大洞B1（新）式」に相当すると思う。そして、高柳壟付土器第Ⅲ・Ⅳ段階に相当する土器群は、第III群5類中に含めたものに比定すると思われる。よって、第III群5類を高柳編年に比定させて捉えれば、新古の2細分（高柳壟付土器第Ⅲ・Ⅳ段階）ができる可能性がある（627）。

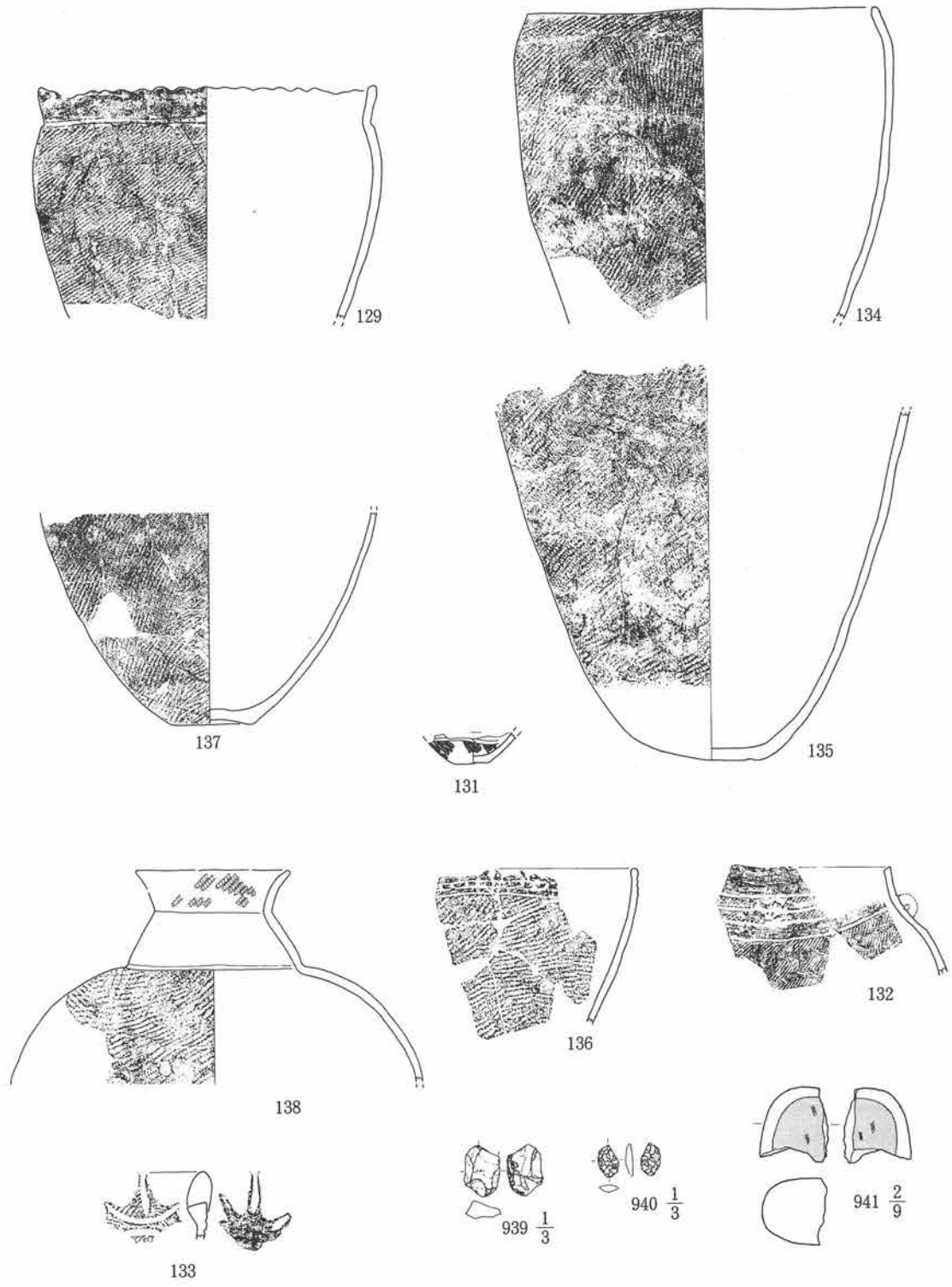
第IV群1類-1 大洞B1式と捉えた晩期初頭の土器群であるが、時期的な位置付けは検討を要するものも含めた。大洞B1式（古）の資料は、B21住居跡状3号から一括出土している。B21住居跡状3号（集成図第444図）から出土した239は、「山井遺跡」下層②（26層）出土に類似する資料であり、「山井遺跡」の報告書を参照すると、大洞B1式に比定される。今回は、宮戸編年や田柄貝塚など仙台湾周辺の資料との比較検討を密に行っていないが、高柳編年と言えば「大洞B1（古）式」（宮戸IV式併行）に比定されると思われる。

地文について、本遺跡の資料をみると、大洞B1式はRL主体（遺構外は全てRL）、大洞B2式はLR主体と言う興味深い結果となった。

第IV群1類-2と第IV群2類 土器の総量は後期に譲るが、検出された住居跡や掘立柱建物跡などが盛んに構築されたのが、当該期土器（大洞B2～BC式）の時期と捉えている。



第444图 B21住居跡3号・D19住居跡出土遺物



F18住居跡1号

第445图 F 18住居跡 1号出土遺物

後期の土器との相違点として、晩期の土器は遺構内出土が主体となる。野外調査時において、該期土器の一括気味と判断した資料としては、第445図に掲載したF18住居跡1号出土の土器が挙げられる。文様の施文が確認できる土器で検証すると、133の破片は十腰内V式、132は大洞B1式、136は大洞BC1式に比定されと思われることから、若干の混在は存在する。ただし、F18住居跡1号出土土器は全体的にみれば短い時間幅と判断され、詳細な時期区分ができない129、134、135、137の粗製深鉢と138の壺については、晩期前半期に属する可能性が高いと思われる。その他としては、西部捨て場中にまとまりを感じる地点が局所的に存在する。

第IV群3類と第IV群4類 晩期中葉の土器は皆無に等しい出土点数である。大洞C1式は、第V章で上述したとおり、数点の出土である。大洞C2式については、その存在を認知できなかった。野外調査時から認知したわけではなかったが、大洞BC式が多数出土している状況から考えて、若干量は確認されると想定して分類項目を設定した経緯がある。大洞BC式に後続する該期の土器が皆無である状況を考えると、晩期中葉に集落の移動あるいは衰退（消滅）が起こったと言った事象も考えられる。

第IV群5類 詳細な時期の位置付けが困難な地文のみを施文する土器を一括する。主に粗製の深鉢・鉢が該当する。

第IV群6類 詳細な位置付けが困難な無文土器を一括する。主に無文の精製注口土器が該当する。

⑤第V群土器（弥生）

弥生土器は、弥生時代初頭の砂沢式と弥生時代中頃の天王山式が、両者合わせて数点出土した。何れも小片であり、また該期の遺構は検出されていない。

（2）長倉I遺跡出土の縄文時代後期土器の特徴について

過去の十腰内式土器を扱った論文で述べられた諸要素などについて、その幾つかの点に着眼して本遺跡出土の後期土器のまとめとする。

①口縁部・口唇部形態

〈折り返し口縁が見られる土器群〉 折り返し口縁が見られる土器は、1247、1260、1278、1361、1392、1524、1566、1911、1984、2024である。後期初頭～前葉に限定されると捉えられる。

〈口縁部が肥厚する土器群について〉 口唇部が肥厚する土器は、第Ⅲ群3類～5類に見られる。出土数の割合からは、第Ⅲ群4類及び5類（十腰内Ⅳ・Ⅴ式相当）に多いことから、後期後葉以降に多い傾向が窺える。

②底部形態

〈底部の形態〉 平坦（平底）、上げ底、台付き、丸底の4形態に大別される。全時期に亘って平坦を基本とする。上げ底や丸底状を呈するものは、後期後半から多くなる傾向が窺える。

〈土器底面に何らかの圧痕跡がある土器群〉 長倉I遺跡において、土器の底面に見られる圧痕の種類は網代痕・木葉痕・笹などが確認された。ほとんどが第Ⅲ群1類と第Ⅲ群2類（十腰内Ⅰ・Ⅱ式相当）及び第Ⅲ群6類に見られる。第Ⅲ群3類（十腰内Ⅲ式相当）以降の土器群は、底面にミガキなどが施され、底面に圧痕は、ほとんど見られない。後期前半の段階の土器群と同該期の粗製土器に多い傾向が窺える。

③文様・特徴

〈口唇部に縄文を施文する土器〉 後期初頭～中葉期の深鉢、特に粗製の深鉢に多い傾向が窺える。

〈後期初頭～前葉の土器に見られる沈線による特殊文様について〉 十腰内Ⅰ式期の土器に伴う特殊（珍）

文様について、沈線によりモチーフされる土器群の中で、その文様に特殊性を感じる土器類がある（集成図第501～502図）。

特殊性を感じる文様とは、球根状や幾何学的な文様を施文するもので、植物や人間など写実的な描写と捉えられる。本遺跡で出土した後期前葉土器には、主に沈線による幾何学的な文様が数多く散見される。類似する文様を持つ土器については、「近野Ⅲ遺跡」（青森県青森市）の報告書中（成田滋彦1976年）で詳細な分類が行われている。

土器の時期については、広義的には十腰内Ⅰ式と言う1型式にのみ見られるようであり、「近野Ⅲ遺跡」についても同様である。本遺跡で行った該期の土器分類の信憑性にも関わるが、第Ⅲ群1類の集成図においては、第Ⅲ群1類-1と第Ⅲ群1類-2の両者に見られる。筆者の現段階の見解としては、新古で言及するなら十腰内Ⅰ式の新しい段階に多いように捉えている。

〈磨消縄文と充填縄文について〉 後期と思われる土器の中で、磨消縄文の出現率は約26%（第Ⅲ群6類を含む）であった。時期毎の出現率は、第Ⅲ群1類38%、2類46%、3類67%、4類55%、5類23%である。

後期と思われる土器の中で、充填縄文の出現率は約6%である。そのほとんどが第Ⅲ群4・5類とした十腰内Ⅳ・Ⅴ式に比定する土器群であった。参考までに第Ⅲ群1類中での出現率は約2%、第Ⅲ群2類中での出現率は約0%、第Ⅲ群3類中での出現率は約3%、第Ⅲ群4類中での出現率は約25%、第Ⅲ群5類中での出現率は約12%であった。

磨り消し縄文と充填縄文の割合について、後期全般を通じては前者が圧倒的に多い。ただし、充填縄文については、筆者の判別できなかったものが存在する可能性があるため、実際の数値はもう少し高いと思われる。

〈羽状縄文を施文する土器群について〉 本遺跡から出土している縄文時代後期中～末葉の土器群は、精製、粗製に関わらず羽状縄文が多々見られる。本遺跡で見られるものは、非結束による羽状縄文である。

羽状縄文を構成する原体については、1種類の原体による異方向縄文と2種の原体により構成されるものが見られる。岡田氏の指摘した（岡田康博1986年）羽状縄文を構成するのが1種の原体（異方向縄文）か2種の原体かの違いで、中葉と後葉の境を区分するひとつのメルクマールとなり得るのかどうかは、非常に興味のある属性である。下記には、第Ⅲ章3で上記した第二次登録した段階での土器2664点の中で、羽状縄文を施文する土器を分析対象とし、本稿で行った分類毎に検索を行った。

後期土器（粗製含む）と思われる中で、羽状縄文を施文する土器の割合は、約11%である。

後期土器と思われる中で、時期別の出現率は、第Ⅲ群1類（十腰内Ⅰ式）0%、第Ⅲ群2類（Ⅱ式）11%、第Ⅲ群3類（Ⅲ式）29%、第Ⅳ群4類（Ⅳ式）40%、第Ⅲ群5類（Ⅴ式）9%、時期不明（後期と思われる粗製）11%である。

羽状縄文を施文する土器において、異方向縄文の割合は、第Ⅲ群2類36%、第Ⅲ群3類15%、第Ⅲ群4類6%、第Ⅲ群5類18%である。結果としては、期待したような数字は示さなかった。

次に0段多条の原体を施文する土器について、後期土器全体での出現率は約5%であった。0段多条の原体を施文する時期については、十腰内Ⅳ式が主体で、次いで十腰内Ⅲ式である。

上記をまとめると、十腰内Ⅱ式期から羽状縄文が出現し、十腰内Ⅲ～Ⅳ式期にかけて盛行し、十腰内Ⅴ式期には衰退気味となる（ただし、後続する晩期においても消滅はしないようである）。異方向縄文の割合については、十腰内Ⅱ式期に幾分高く、十腰内Ⅳ式期に低いと言う結果となった。

また追記として、抽象的な内容ではあるが、原体の観察を行った所見として本遺跡の当該期土器（特に十

腰内Ⅲ～Ⅴ式)の中には、節の方向だけではLRなのかRLなのか判別の困難なものが多々見られた。あるいはその事象についても、本遺跡出土当該期土器の特徴の一つと言えるかもしれない。時間の関係で他遺跡資料との比較検討は行っていないが、軽米町だけでも当該期土器が出土した遺跡が多いことから、何れかの機会に比較検討を行ってみたいと考えている。

〈先鋭貼瘤を付加する土器群の位置付けについて〉 後期後～末葉の土器群に顕著な貼り瘤について、観察結果から若干所見を述べると、長倉Ⅰ遺跡出土の該期土器は、先鋭貼瘤が付くほど新しい段階に位置付けられる傾向を感じ、本稿のⅢ群5類土器に含める一つの要素として捉えた。先鋭貼瘤については、第Ⅴ章で説明した通り、貼り瘤の先端がとがるものに対して呼称した。

先鋭貼瘤が確認された110点中(第三次登録段階)、第Ⅲ群5類(十腰内Ⅴ式相当)が98点、第Ⅲ群4類(十腰内Ⅳ式相当)と思われるものが12点である。観察結果から、積極的に言えば十腰内Ⅳ式期の新しい段階から先鋭貼瘤が見られる可能性が示唆される。ただし、先鋭貼瘤の有無によるⅣ式とⅤ式の区分については、本稿で行った分類に恣意的要素が介入した可能性があるため、今後検討を要しよう。

〈帯状文内にX字状・格子状・網目状の沈線を施文する土器群〉 帯状文内にX字状・格子状・網目状の沈線を施文する土器群は、本遺跡出土土器において本稿Ⅲ群5類土器群(十腰内Ⅴ式に相当すると思われる時期)土器にのみに見られた手法である(集成図第503図)。同様の施文法が「小井田Ⅳ遺跡」DⅡ-3住居址及び同遺跡第Ⅱ群第5類土器の中に比較的豊富に見られる。土器の時期的な位置付けとしては、「小井田Ⅳ遺跡」出土土器も同時期に比定できると思われることから、該期に流行する手法と判断される。時期的流行か地域色のなものかについては、類例の模索を密に行っていないため厳密ではないが、前者ではないかと思われる。

〈後期後葉～末葉に見られる微隆線を施文する土器について〉 福島県を中心とする新地式に類似する土器で、2150、1890、1992の注口土器に代表される。貼瘤は全般に微粒気味なものが多い。主に注口土器に見られる施文手法で、本遺跡で出土しているものには朱の塗布が確認される場合が多い。搬入品の可能性で捉えているが、詳細は不明である。模造品説について、所見的な内容となるが、精巧な作りのものであり、粘土自体も在地産とは違うのではないかと思われることから、在地で製作した可能性については否定的に捉えている。北海道千歳市「キウス4遺跡」出土の中にも、非常に類似した注口土器があることを阿部明義氏、末光正卓氏にご教示戴いた。両氏は、在地産ではなく東北地方からの搬入品として捉えているようである。新地式と言われる土器の交易が、想像以上に広範囲である可能性も考えられよう。時期については、併行関係としては十腰内Ⅳ式の新しい段階から十腰内Ⅴ式の範疇で捉えられると思われるが、今後検討を要する。

④その他特殊な土器について

今回の調査では、香炉形土器、釣り下げ形土器、単孔土器、人面付き土器、双口土器、異形土器などの特殊性を感じる土器が相当数得られた。一部集成したが、詳細な検討は時間の都合上行っていない。

香炉形土器は、本遺跡では十腰内Ⅳ式期に出現し、十腰内Ⅴ式期に隆盛する様相であるが、晩期の大洞式に比定されるものの出土はない。香炉形土器については、松浦宥一郎氏の「岩手県軽米町内出土の香炉形土器二例」(1990年松浦 考古学雑誌第76巻第4号)が詳しい。それによると、軽米町内で発掘された晩期の遺跡からは、大洞式に比定される香炉形土器は出土していない。

釣り下げ形土器は、本遺跡の資料では縄文時代後期後葉～末葉期に見られる。器種は、壺、香炉形土器、注口土器に見られる。孔については、2～4単位まで散見される。

単孔土器は、器体側面に孔が穿たれる土器で、後期中葉の十腰内Ⅲ式に比定されるものが主体である。土

器の形式で言えば、十腰内Ⅱ式～十腰内Ⅴ式に見られる。14点（内1点は小破片のため不掲載とした）出土した。出土地点別に見ると、F12住居跡埋土中（8層）から1点、C26沢跡埋土中から1点、東部捨て場から4点、西部捨て場から9点である。また、残存部の関係で穿孔部は確認できなかったが、筒形土器とした5点（内1点は不掲載）と2110の棗状の壺形土器に単孔土器であった可能性が示唆される。存続時期について、晩期に見られないことから、今までの事例と同様の結果を示す。十腰内式で言えば4型式で14点であり、1型式を約2百年と捉えれば、単純に考えて66年に1個の割合となり（調査地外にも存在する可能性があり、割合的にはもう少し高い数値を示す可能性が考えられるが）、特殊性の高い土器と言えると思う。

単孔土器については、熊谷常正氏の行った「単孔土器考」（熊谷1989年）が詳しい。その中で熊谷氏の行った分類の基準は、土器の器種でⅠ～Ⅵ群に区分し、穿孔される部分でa類とb類に区分している。以下のような内容である。

Ⅰ群 香炉形土器に穿孔するもの。胴部は球形を呈する。

Ⅱ群 壺形土器に穿孔するもの。

Ⅲ群 長胴の壺に穿孔するもの。頸部が一旦膨らみ、口縁部が大きく広がる器形が特徴的である。

Ⅳ群 筒形土器に穿孔するもの。単孔土器に特徴的な土器である。下膨れ・胴部中央が萎む例も含めた。

Ⅴ群 棗形の土器に穿孔するもの。球形を呈するものから、筒形に近いものまでを含めた。口縁は内湾し、平縁である。上げ底もあるが、底部は 極端に小さく、座りの悪いものが多い。

Ⅵ群 その他の形式に穿孔されるもの。

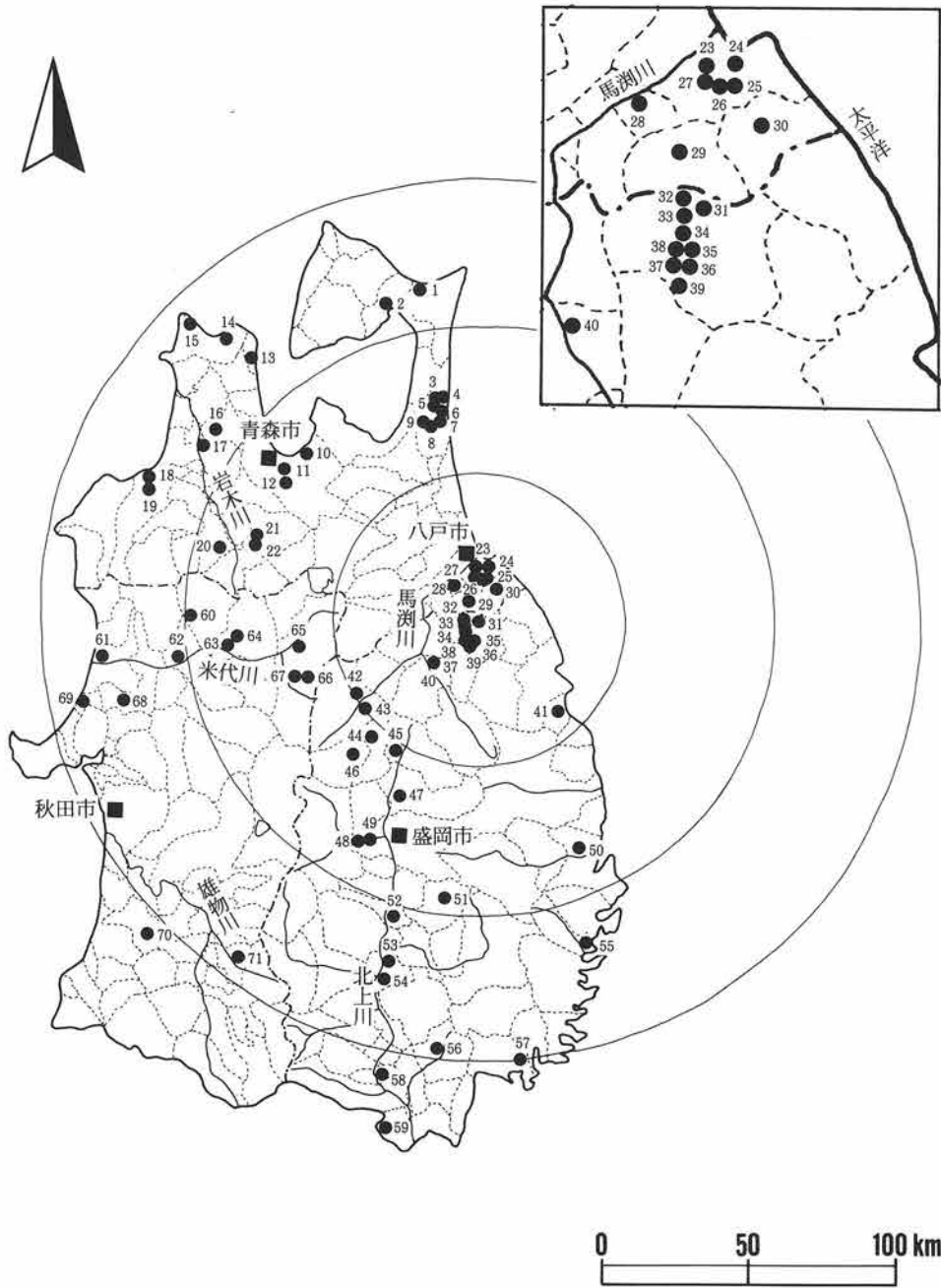
aタイプ 胴部の最下位もしくは底部に近い部分に施されるもの

bタイプ 胴部中央付近にも見られるもの

本遺跡から出土しているものは、孔が胴部の最下位もしくは底部に近い部分に施されるa類のみである。土器の器種としてはⅠ群は出土していない。筆者の調べられる範囲（註8）で単孔土器が出土した岩手県内の遺跡を第447図に示した。単孔土器について、特殊性の強い資料であるが、時間と紙面の都合もあり個々の資料の詳細な観察などは行っていない。今後稿を改めて、資料の再観察を行い、紹介を行いたいと考えている。

人面付き土器について、人面模倣文様の土器・土製品として第497図に集成を行った。土器については、十腰内Ⅴ式期の注口土器と香炉形土器に見られた。人面付き土器関連の最近の研究成果としては、渡辺誠氏（現名古屋大学教授）の精力的な研究が挙げられる。

双口土器、異形土器については、集成図を作成していない。双口土器は十腰内Ⅲ式期に、双胴土器などの異形土器は十腰内Ⅴ式期に見られた。



第446図 北東北3県に見る縄文時代後期の主な遺跡

縄文後期の主な遺跡

No.	遺跡名	市町村名	備 考	No.	遺跡名	市町村名	備 考
1	水木沢	東通村	後期末葉主体	37	吠屋敷Ⅱ	軽米町	
2	大湊近川	むつ市		38	吠屋敷Ⅲ	軽米町	
3	大石平①	六ヶ所村	後期初頭～前葉	39	駒板	軽米町	後期初頭～晩期
4	大石平②	六ヶ所村	後期初頭～前葉	40	小井田Ⅳ	一戸町	後期末葉
5	上尾鞍①	六ヶ所村		41	根井貝塚	野田村	後期末葉・晩期
6	上尾鞍②	六ヶ所村		42	上の山Ⅶ	安代町	
7	沖附②	六ヶ所村	後期初頭～前葉	43	赤坂田Ⅰ	安代町	後期末葉
8	沖附①	六ヶ所村	後期初頭～前葉	44	上斗内Ⅲ	西根町	後期中～後葉
9	弥栄平	六ヶ所村	後期前・末葉	45	川口Ⅱ	西根町	後期中葉
10	蛭沢	青森市		46	長者屋敷	松尾村	
11	近野	青森市	後期初頭主体	47	間洞Ⅱ	玉山村	後期前葉
12	小牧野	青森市	後期前葉	48	葎内	盛岡市	
13	尻高(4)	平舘村	後期後葉	49	下猿田Ⅰ	盛岡市	後期中葉
14	山崎	今別町	後期初頭	50	近内中村	宮古市	
15	中の平	三厩町		51	立石	大迫町	
16	神明町	金木町	後期中葉	52	安堵屋敷	石鳥谷町	晩期
17	堀内	五所川原市		53	八天	北上市	
18	餅ノ沢	鱒ヶ沢町		54	樺山	北上市	
19	大曲Ⅰ	鱒ヶ沢町		55	崎山弁天	大槌町	
20	上牡丹	大鰐		56	熊の平	大東町	後期～晩期
21	石郷	平賀町		57	門前貝塚	陸前高田市	
22	堀谷	平賀町		58	新山権現社	平泉町	
23	丹後谷地	八戸市	後期初頭～後葉	59	貝鳥貝塚	花泉町	
24	韭窪	八戸市	後期初頭	60	大岱Ⅲ	田代町	
25	風張	八戸市	後期前～後葉	61	真壁地	能代市	後期初頭～前葉
26	是川	八戸市		62	伊勢堂岱	鷹巣町	
27	田面木平①	八戸市	後期初頭～前葉主体	63	萩ノ台Ⅱ	大館市	
28	西張	福地村		64	塚の下	大館市	後期前葉
29	馬場瀬	南郷村	後期後葉主体	65	大湯環状列石	鹿角市	
30	野場	階上町		66	案内Ⅰ	鹿角市	
31	長倉Ⅰ	軽米町	後期初頭～晩期前葉	67	赤坂A	鹿角市	後期中葉主体
32	大日向Ⅱ	軽米町		68	館平舘Ⅰ	山本町	
33	馬場野Ⅱ	軽米町		69	萱刈沢	八竜町	後期前葉
34	君成田Ⅳ	軽米町	後期前葉・後～末葉	70	鹿の爪	大内町	
35	吠屋敷Ⅰa	軽米町		71	八木	横手市	後期初頭～後葉
36	吠屋敷Ⅰb	軽米町					

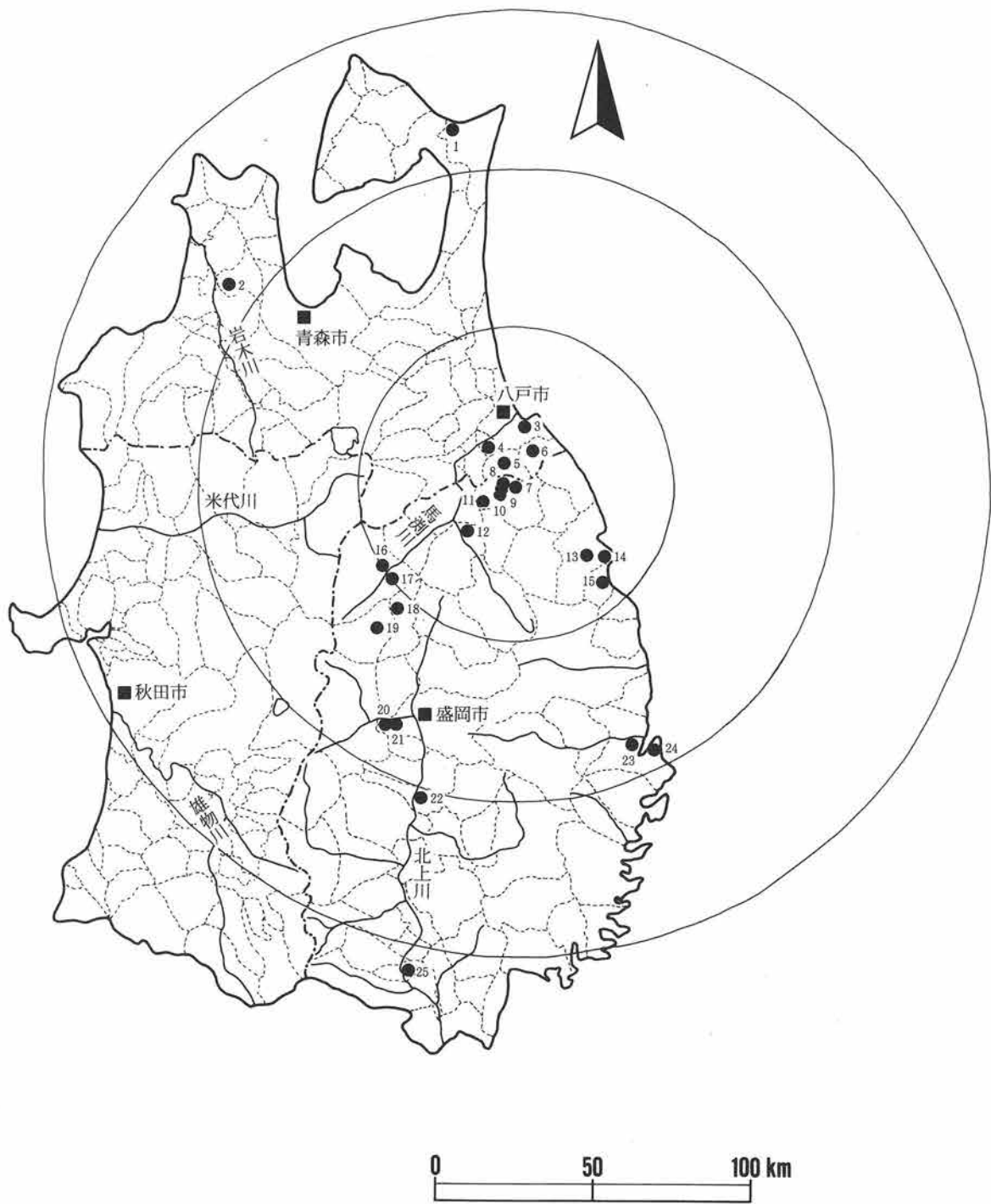
単孔土器出土遺跡

No.	遺跡名	市町村名
1	水木沢	東通村
2	神明町	金木町
3	風張Ⅰ	八戸市
4	西張	福地村
5	馬場瀬	南郷村
6	野場	階上町
7	長倉Ⅰ	軽米町
8	大日向Ⅱ	軽米町
9	馬場野Ⅱ	軽米町
10	君成田Ⅳ	軽米町
11	江刺家Ⅳ	九戸村
12	小井田Ⅳ	一戸町
13	館石	久慈市
14	三崎	久慈市
15	根井貝塚	野田村
16	上の山Ⅶ	安代町
17	赤坂田Ⅰ	安代町
18	上斗内Ⅲ	西根町
19	長者屋敷	松尾村
20	葎内	盛岡市
21	下猿田Ⅰ	盛岡市
22	安堵屋敷	石鳥谷町
23	重茂舘	宮古市
24	磯鶏	宮古市
25	新山権現社	平泉町

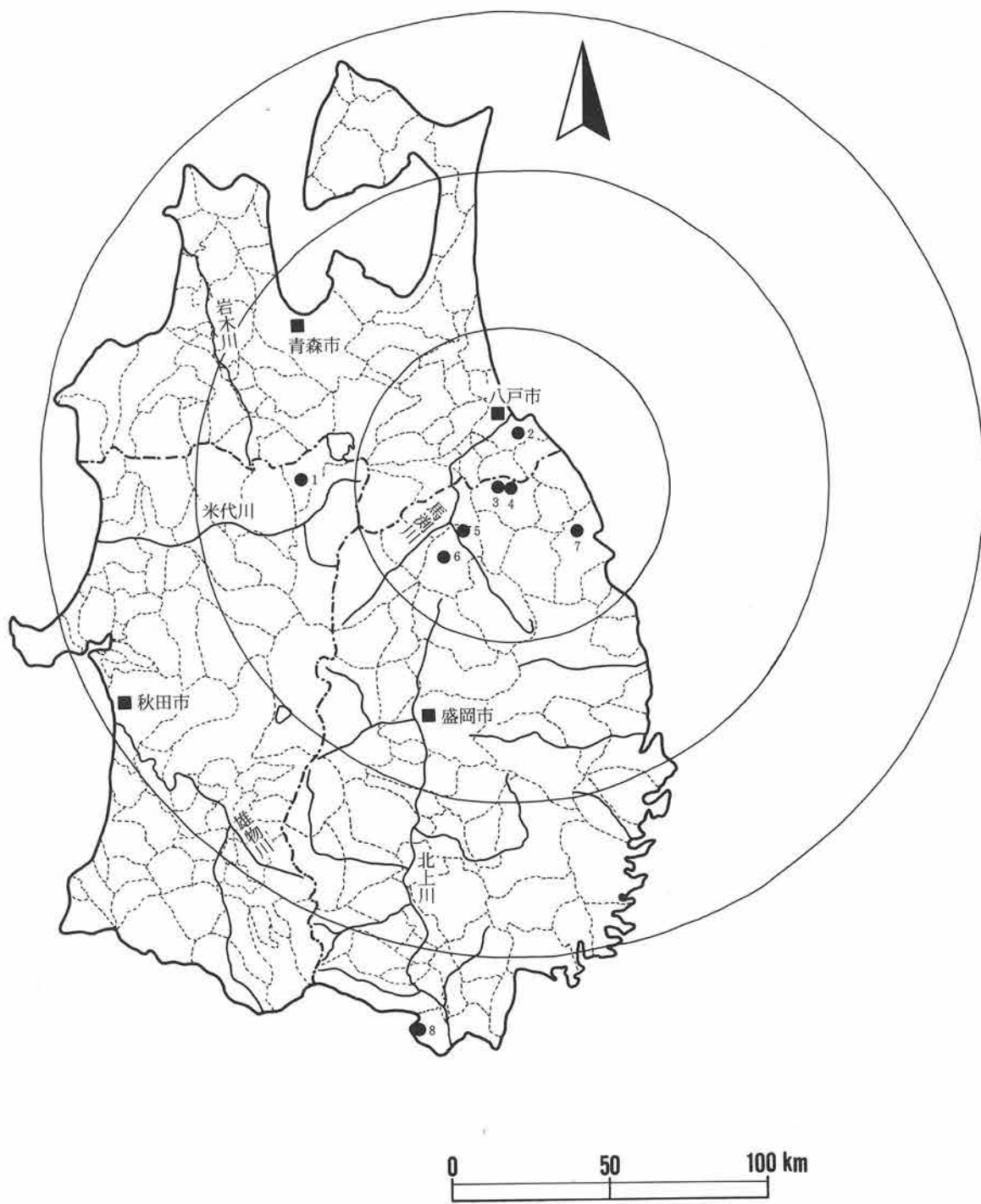
いも貝形土製品出土遺跡

No.	遺跡名	市町村名
1	中小坂	小坂町
2	是川	八戸市
3	大日向Ⅱ	軽米町
4	長倉Ⅰ	軽米町
5	蔦前	一戸町
6	山井	一戸町
7	大芦	久慈市
8	貝鳥貝塚	花泉町

第3表 縄文後期主要・単孔土器出土・いも貝形土製品出土遺跡



第447図 単孔土器出土の主な遺跡



第448図 いも貝土製品出土遺跡

<註>

(註1) 最近の十腰内式土器編年についての研究動向としては、主に竪穴住居跡床面一括資料などを基に型式学的編年(一部層位的)を試みた金子昭彦氏や鈴木克彦氏の精力的な研究が評価されると思う。金子昭彦氏は、『岩手考古学会』、『縄文時代』、『岩手県埋蔵文化財センター紀要』に、十腰内式を扱った一連の研究論文を発表されている。筆者は、十腰内I式を扱った「十腰内I式(新)に併行する東北地方中部の土器(3)」『縄文時代』中での、「間洞遺跡」(同じ組織で調査した遺跡でありながら、筆者星はその存在すら眼中になかった。不徳の致すところである。)出土資料に着眼した慧眼は高く評価されるべきだと考える。鈴木克彦氏は、「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究」で、十腰内1~5式に亘る編年の指標を示している。本稿においては、従来の十腰内式編年と言うよりも、基本的には鈴木氏の編年案を参照して細分を行った。ただ、何れの型式についても、非常に緻密であり、筆者が参照できているものか自信がないのも事実である。筆者の感じた所見としては、比較的広域的な資料を網羅する整備に着手しているのが金子編年で、地域色を重視した資料を扱って組み立てを行っているのが鈴木編年のように受け止めている。細部については、両者の見解が分かれる部分もあり、今後議論の余地が介在すると思われるが、東北地方北部の後期土器編年の大望は、2人の研究者によって整備されつつあると筆者は捉えている。

(註2) 『縄文時代』に掲載された「東北地方北部における十腰内様式の編年学研究・4」(1998年)にある十腰内I式の細分案。

(註3) 十腰内I式は、これまで後期初頭~後期前葉期の土器を総括して、広義的に扱われてきた経緯があり、従来から指摘されてきたとおり複数型式を保有する可能性が高い。本遺跡の土器分類は、平成9年度整理の段階で中川が手掛けていたものを、平成10年度整理の担当となった星が引き継ぎ、分類作業を進めた経緯がある。引き継ぎの段階で、十腰内式に比定させる分類を行うことでは意見の歩調を合わせていたが、数ある十腰内I群の編年研究成果の中で、どの(誰の)編年案を用いるのか基準が曖昧であった。途中から観察者が変わったことから、若干見解が相違する部分が生じる可能性があることを考えて、全て再観察を行い、一部修正を行った。中川が分類した段階では、成田滋彦氏の「入江・十腰内様式」を参照して区分を行っていた経緯がある。本遺跡の該期資料は、「入江・十腰内様式」に比定させれば、そのほとんどが十腰内IA及び十腰内IB式に相当するものと捉えられる(若干数前十腰内式相当がある)。沈線を主体とした十腰内IA式に対して、沈線・磨消縄文を主体とする十腰内IB式と言う区分は、傾向的に捉えれば概ね支持できると思う。ただし、整理担当を引き継いだ星は、十腰内II~V式に相当する土器群については鈴木氏の「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究」シリーズを参照した経緯がある。同一の研究者の編年に比定させた位置付けを行った方が、混乱や混在が少ないと判断し、途中からは鈴木氏が『縄文時代研究』NO9に発表した「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・4」を基本ベースにして、十腰内I群を捉えた。

問題点は、勿論、本遺跡の資料が層位的上下関係が弱いことに加えて、参考とする編年案の途中変更を行ったことと星が該期資料に明るくないことにある。鈴木氏は十腰内式を語る場合にアラビア数字(十腰内1~5式)を用いているが、本稿でローマ数字(十腰内I~V式)を使用した最大の理由は、上記に関連して星の読解能力や理解力不足から、鈴木編年に比定したつもりの土器分類が、論功と食い違いが多かった場合を懸念したものである。十腰内I式は、十腰内式土器編年の中で最も細分(分類)が難しいと思われる。当該期の編年研究は、主に葛西励氏、成田滋彦氏、本間宏氏などが取り組んで来た研究史がある。最近の研究動向としては金子昭彦氏と鈴木克彦氏の研究がある。本遺跡の該期資料は、層位的な上下関係を持たないこと、そして当初の観察所見として十腰内I式に先行する土器群(前十腰内相当)が存在しないように思われたことから、詳細な“吟味”が弱いまま分類した経緯がある。復唱となるが、該期土器の分類に際しては、複数回にわたって入れ替えを行ったため、最終的にはかなり錯綜したものを提示する形となってしまった。筆者の不勉強によるところであり、不都合がある場合は訂正願えれば幸いである。

(註4) 『忍路土場遺跡調査報告書』を参照すると、手稲式~ホッケマ式~堂林式までの変遷図(第III~XI期)が掲載されて

いる。後期中～後葉の土器を、9時期に分けられることには疑問があるが、岩手県北部に十腰内Ⅱ・Ⅲ式の区分にあたって良好と判断できる資料がない以上、北海道の該期土器との対比も考慮するべきであろう。

(註5) 西ノ浜式とするものは、十腰内Ⅳ式中相～新相に併行すると星は捉えて記述している。

(註6) 十腰内Ⅰ式期と同様にⅤ式期についても鈴木克彦氏の論文を筆者が理解できたかどうか必ずしも自信がないことを述べておく。

(註7) 後藤勝彦氏の宮戸編年は、変更前のもので捉え引用する。

(註8) 本稿執筆後に「矢神遺跡」(二戸市)からも単孔土器の可能性のある土器が出土していることを知る。十腰内編年に比定させれば十腰内Ⅰ式期と判断される土器で、焼成後に穿たれていることから、本遺跡出土とは穿孔の順が相違する。また、宮古市の2遺跡は、調査で出土したものではない。

<参考引用文献>

- 成田滋彦(1989年)「入江・十腰内式土器様式」『縄文大観4』小学館
- 金子昭彦(1994年)「十腰内Ⅲ式とⅣ式の境界」『岩手考古学』6
- 金子昭彦(1996年)「十腰内Ⅰ式の3細分についての考え方」『岩手考古学』8
- 金子昭彦(1998年)「十腰内Ⅰ式土器の文様」『岩手考古学』10
- 金子昭彦(1999年)「十腰内Ⅰ式後半期型式の細分の展望」『岩手考古学』11
- 金子昭彦(1998年)「十腰内Ⅰ式(新)に併行する東北地方中部の土器(3)」『縄文時代』文化研究会
- 鈴木克彦(1996年)「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究—十腰内2式土器の研究—」『考古学雑誌第81巻第4号』日本考古学会
- 鈴木克彦(1997年)「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究3—十腰内5式以降、後期終末型式研究—」『北奥古代文化第26号』北奥古代文化研究会
- 鈴木克彦(1998年)「東北地方北部における十腰内様式の編年学研究・2(上)」『考古学雑誌』83-2日本考古学会
- 鈴木克彦(1998年)「東北地方北部における十腰内様式の編年学研究・4」『縄文時代』文化研究会
- 後藤勝彦(1960年)「宮城県名取市高館金剛寺貝塚出土縄文式土器研究—陸前地方後期縄文式文化の編年的研究」『宮城県の地理と歴史2』
- 須藤隆(1992年)「東北地方における晩期縄文土器の成立過程」『東北文化論のための先史学歴史学論集』加藤稔先生還暦記念
- 高柳圭一(1988年)「宮城県金剛寺貝塚の再検討」『村上徹君追悼論文集』
- 高柳圭一(1988年)「仙台湾周辺の縄文時代後期後葉から晩期初頭にかけての編年動向」『古代』85号
- 高田和徳・中村明央・林謙作(1995年)『山井遺跡発掘調査報告書』一戸町教育委員会
- 岡田康博(1986年)「十腰内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ群土器の再検討」『弘前大学考古学研究』3
- 熊谷常正(1989年)「単孔土器考」国学院大学考古学資料館紀要乙益重隆先生古稀記念号
- 渡辺誠(1998年)「人面装飾付注口土器と関連する土器群について」『七社宮』福島県浪江町教育委員会刊
- 吉本洋子・渡辺誠(1999年)「人面・土偶装飾付深鉢形土器の基礎的研究(追補)」『日本考古学』第8号 日本考古学協会
- 今井富士雄・磯崎正彦(1963年)『十腰内遺跡発掘調査報告書』十腰内遺跡調査団
- 葛西励(1979年)「十腰内Ⅰ式土器の編年的細分」『北奥古代文化第11号』北奥古代文化研究会
- 関根達人(1993年)「西ノ浜式」とその周辺 歴史第81
- 松浦有一郎(1991年)「岩手県軽米町出土の香炉形土器二例」『考古学雑誌第76巻4号』日本考古学会
- 小畑 巖ほか(1993年)『萱刈沢Ⅰ遺跡・萱刈沢Ⅱ遺跡』秋田県文化財調査報告書第231集 秋田県文化財センター

渡辺一雄・松本友之・渡辺誠・馬目順一（1966年）『寺脇貝塚』磐城市教育委員会

鈴木 啓・日下部善巳・辻秀人・藤原妃敏・馬場秀之他（1988年）『三貫地貝塚』福島県立博物館調査報告書第17集 福島県立博物館

北林八洲晴・工藤大（1981年）『馬場瀬遺跡』青森県文化財報告書第70集 青森県教育委員会

手塚 均ほか（1986年）『田柄貝塚Ⅰ』宮城県文化財調査報告書第111集 宮城県教育委員会

遠藤正夫・一条秀雄他（1986年）『大石平Ⅲ遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第103集 青森県教育委員会

遠藤正夫・白鳥文雄・石戸谷悟（1987年）『館野遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第119集 青森県教育委員会

大湯卓二ほか（1976年）『水木沢遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第34集 青森県教育委員会

成田滋彦・杉山 武他（1976年）『近野Ⅲ・三内丸山Ⅱ遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第33集 青森県教育委員会

杉山武ほか（1979年）『神明町遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第58集青森県教育委員会

小笠原善範・藤田亮一ほか（1986年）『丹後谷地遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集八戸市教育委員会

藤田亮一（1989年）『風張（1）遺跡Ⅰ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第40集八戸市教育委員会

小笠原善範・木村淳（1989年）『風張（1）遺跡Ⅱ』八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集八戸市教育委員会

小笠原善範（1998年）『是川中居遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第82集 八戸市教育委員会

熊谷常正・小田野哲憲・高橋信雄（1987年）『根井貝塚発掘調査報告書』岩手県立博物館調査研究報告書第3集 岩手県立博物館

三浦謙一・光井文行（1980年）『長倉NO14遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第10集

国生 尚（1981年）『長倉遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第25集

近藤宗光・佐々木清文（1983年）『赤坂田Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第58集

村上達夫・遠藤勝博・高橋義介（1983年）『君成田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第62集

佐々木嘉直（1983年）『吹屋敷Ⅰb遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第63集

栃沢満郎・小平忠孝（1983年）『小井田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第69集

大原一則・高橋与右衛門（1983年）『上斗内Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第71集

国生尚・畠山靖彦（1983年）『安堵屋敷遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第74集

高橋与右衛門・玉川英喜（1984年）『川口Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第84集

鈴木恵治他（1985年）『駒板遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第98集

工藤利幸・中川重紀・田村壮一（1986年）『馬場野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第99集

田鎖壽夫・岩渕久（1986年）『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書第1次』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第100集

田鎖壽夫他（1987年）『馬立Ⅰ・太田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第123集

金子昭彦（1993年）『新山権現社遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第188集

浜田 宏（1995年）『水吉Ⅵ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第219集

斎藤邦雄（1995年）『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書第2～5次』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第225集

木戸口俊子（1998年）『間洞遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第260集

木戸口俊子（1998年）『大鳥Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第270集

(3) 土製品

土製品として登録した遺物の総点数は2324点である。内訳は、ミニチュア土器673点、土偶313点、動物形土製品5点、鐸形土製品77点、土製装身具134点（耳飾り60点、飾り玉72点、ペンダント2点）、分銅形土製品13点、土鈴1点、釧形7点、キノコ形土製品19点、スプーン形土製品10点、スタンプ形土製品3点、土錘12点、内面渦状土製品（イモ貝形土製品）8点、土器片再利用土製品835点（円盤状土製品612点、三角形土製品223点）、その他34点である。各土製品の所属時期について、本遺跡の出土状況からは、同定ができない（土器型式との共伴関係や上下関係の比定ができない）。よって、他遺跡の事例から推定を試みるが、時間の関係で全製品の検討は行っていないことをお断りしておく。追記としては、本遺跡から出土している土器は、99%が後期初頭～晩期前葉（土器形式で言えば、十腰内Ⅰ式の古段階～大洞BC式）であることから、大略的に捉えれば該期の土製品である可能性は限りなく高いことは言えると思う。

土偶は、313点（343片出土し、接合した部位30点は除いた点数が313点である）として登録した。全て破損品で完形個体はない。中空が27点でその他は全て中実である。アスファルトが付着する土偶は30点、朱が塗布されている土偶が12点確認された。アスファルトは、頸部、腕部、胴部、脚部などの結合部に見られ、傾向としては頭部と頸部の接する部分に多い。またアスファルトが付着するものには、頭部がソケット状にはめ込むタイプも見られる。朱については頭部や腹部に多く見られるが、完形品ではないことからその傾向は窺い知れない。岩手県内で出土した土偶については、『国立歴史民俗博物館研究報告第37集』に掲載する「岩手県の土偶」（稲野裕介、金子昭彦、熊谷常正、中村良幸1992年）が詳細である。それによると、岩手県において土偶が100点以上出土した遺跡は6遺跡で、盛岡市「葦内遺跡」（257点）、大迫町「立石遺跡」（297点）、盛岡市（旧都南村）「手代森遺跡」（201点）、石鳥谷町「安堵屋敷」（140点）、大迫町「小田遺跡」（130点）、北上市「九年橋遺跡」（667点）とある。筆者の知り得る範囲において、追加される遺跡として平泉町「新山権現社遺跡」（239点）、軽米町「大日向Ⅱ遺跡2～5次調査」（372点）がある。第486～494図は、本遺跡出土の土偶を時期毎に集成したものである。晩期の土偶は、土器と同じ文様を施文するものが多いため、比較的時期の同定が可能と思われた。対して後期の土偶は、文様を持たないものが多く、文様の施文のあるものでも土器と共通する文様でないものもあり、比定が困難であった。また本遺跡の出土状況からは、伴出土器が必ずしも土偶の編年に結び付く資料とは判断できない。よって、時期区分は「新山権現社遺跡」及び「大日向Ⅱ遺跡2～5次調査」で行った編年を参照として試みたが、中葉～後葉期については混在した可能性があることを追記する。

動物形土製品関係について、最新の研究成果としては、『東北民俗学研究』の誌上で、福田友之氏と日下和寿氏が青森県と岩手県をそれぞれ集成したものが詳しい。鐸形土製品について、分類は『大石平Ⅲ遺跡発掘調査報告書』を参照とした。同製品が出土している事例を見ると、時的な位置付けとして、後期初頭～前葉の十腰内Ⅰ式期に見られるようである。キノコ形土製品についても同時期と捉えられると思う。

釧形土製品と内面渦状土製品（イモ貝形土製品）については、晩期初頭～前葉と推定される。

「その他」とした土製品については、人面付き土製品3点、手作り（人為的作用が加えられているもの）1点、長楕円形1点、土版2点、腕飾1点（826）、角状1点、三角状1点、棒状1点、くり形1点、くるみ形2点、貝形1点、皿状4点、不明器種（見当がつかないもの）4点の12種にとりあえず区部したが、基本的には不明である。D19住居跡出土の腕飾と考えられる826については、児玉大成氏が『北方の考古学』の中で「玉象嵌土製品」と呼び集成を行った製品と類似する。

(4) 石器

遺構内外合わせて5133点の石器が出土した。内訳は石鏃1148点、石槍・尖頭器53点、石錐300点、石匙248点、異形石器13点、ピエス・エスキュー91点、鋸歯状石器14点、削器925点、搔器54点、円形搔器115点、石斧755点、石鋏状7点、石皿135点、敲石244点、砥石41点、磨石146点、凹石117点、台石15点、石錘396点、挟入石器56点、礫器10点、刻線礫9点、コア247点である。この点数は調査した面積を考えた場合、かなり多い数字と言える。

剥片石器は、石鏃や削器を主体とする。石鏃、石錐、石匙などの定形石器は、様々な形態が見られたことから形態分類を行った。石鏃は、有茎平基2、有茎平基1、有茎尖基1、有茎凹基の順に多い。石錐は、摘み付き1、棒状、刺突状の順に多い。石匙は、横長1、縦長1、太い柄付きの順に多い。上記した出土点数の多かった形態が、本遺跡の主体となる後～晩期に多い形態であろうと推定される。また、剥片石器の中には、両極打法によって剥離されたと捉えられる**楔形石器**が含まれる。石材はチャートを主体とするが、石材鑑定の結果、折爪岳山塊から原石を採取した可能性が高いことがわかった。

礫石器について、主体を占めるのは磨製石斧である。磨製石斧は完形品は少なく、欠損品や製作途上と思われる未製品が多く、本遺跡で製作行為を行った可能性は高い。上記の内容を裏付けする資料として、捨て場からは磨製石斧製作時に生じたと推定される礫細片や剥片が出土している。未製品や細片の中には製作途中で壊れたと思われるものが含まれ、剥片はペッキングの状態において製作中に生じたと捉えられる。また、敲石などへの転用品と思われるものも相当数散見される。基部にソケットへの装着痕と思われる跡が確認されたものもある。

3407の大形の磨製石斧について、全長28.9cm、幅8cm、厚さ5.1cm、重量1856.2gのものである。当センターで調査した遺跡から出土した中では最大と思われる一品である。当初は呪術具とも考えたが、刃部は再加工されていることから見て、永年使用されたものと思われる。

3461について、**擦り切り技法**を行う前段階（分離する前）の原石であれば、石斧数個分と思われる。ただし、他の磨製石斧と比べて異質な石材であるため、分離後に製品用として加工されるものかについては多少の疑問が残る。

また、磨製石斧の加工には、**敲石**とした断面形がサッカーボール状を呈するものをはじめ、礫石器の中に加工に用いた石器が介在することが推定される。

(5) 石製品

本遺跡からは239点の石製品が出土した。内訳は石剣・石刀155点、石棒4点、環状石製品6点、ペンダント8点、岩偶4点、軽石製品131点、石製未製品63点である。

石製品の中で主体を占めるのが、石剣・石刀である。石剣・石刀は完形品での出土がなく、全て欠損品で、石材は粘板岩を主体とする。なお、製品での出土はないが、東部捨て場からは、琥珀の碎片が少量出土している。

<参考文献>

- 稲野裕介、金子昭彦、熊谷常正、中村良幸（1992年）「岩手県の土偶」『国立歴史民俗博物館研究報告第37集』
福田友之氏（1998年）「青森県域出土の先史動・植物意匠遺物」『東北民俗学研究』東北学院大学民俗学OB会
日下和寿氏（1998年）「岩手県内における動植物形土製品の集成」『東北民俗学研究』東北学院大学民俗学OB会

3 総括

最後に3年間の調査成果をもとに、本遺跡の性格付けについて検証して総括とする。

(1) 本遺跡の変遷についての概略

縄文時代早期中葉～前期初頭においては、数片の土器が出土したのみであり、周辺地域に生活の場が存在した可能性を推測するにとどまる。前期末葉の円筒下層d式期においては、小規模な捨て場が検出された。今回の調査では該期の住居や土坑などは検出されていないが、捨て場の規模や円筒下層式土器の総量などから推定して、小規模な集落が調査を行っていない範囲に存在する(註1)可能性がある。縄文時代中期の遺構・遺物が皆無なことから、短期間(円筒下層d1～2式)の人間活動の後、次の後期初頭までは断絶をみる。

本遺跡において、人間活動を再び始めるのが後期初頭で、初頭～末葉まで断絶することなく集落は推移したと捉えられる。後期で確認された遺構は、前葉と推定される住居跡、後期後半期の住居跡、後期全般の土坑、捨て場である。後期の遺構は、後続する晩期の遺構に破壊を受けている場合が多く、全般に残存状態が悪い上に詳細な時期同定ができない。捨て場から出土した土器の量から判断して、後期前葉と後期末葉に本遺跡が隆盛したことは窺える。後期中葉～後葉は、当該期の土器や土偶は出土しているものの、住居跡の検出がなかった。上記したように晩期の遺構構築時に破壊を受けているのか、あるいは居住地が別の場所に存在するのであろうか。

晩期は、土器の出土量などは後期に劣るものの、後期末葉からの流れを継承して前葉まで隆盛が見られる。

住居跡や掘立柱建物跡が増加し、土坑類が極端に少なくなる。後期とは場の利用状況が変移した可能性が窺える。晩期中葉以降について、大洞BC式土器は相当量の出土が得られているのに対して、大洞C1式以降の土器が皆無となる状況(忽然と姿を消す)について、短絡過ぎるかもしれないが集落の移動を行ったことを推定させる。集落の移動については、資源の枯渇や気候変動、社会の変容などの要因が考えられよう。

(2) 地形や気候に見た遺跡の立地環境

等高線の分布や地形の在り方などから推測して、長倉I遺跡の分布範囲は1万～1万5千㎡と推定され、今回調査を行った範囲は遺跡全体の1/3～1/5と推定される。遺跡は、南北方向に延びる痩せ尾根上に立地し、東西にある斜面部分に捨て場が形成されている。この地形を南北方向で見ると、南側に高い面があり、調査地中央部から調査地外北側にかけて平坦面を構成した後、台地の先端部に相当する北端は再び高い面となる。上述した地形を南北方向で切り断面的に見れば、馬の背状を呈する。住居群・掘立柱建物群・土坑群は、馬の背の凹部分に相当する範囲に占地する。今回の調査地は遺跡のほぼ中央部と思われる。

住居跡の項でも上述したとおり人工的な造成が一部確認されたが、あるいはこの台地全てが多少の造成が行われている可能性も考えられる。それらの鍵を握るのが、台地の北端部分(北側調査地外)の高い面にあると推定される。

また、風向きや日照条件といった気候環境は、日々の生活に際して、重要な要素と思われ、高地に所在する本遺跡は特にも冬の風や雪とは密接な関係があると思われる。

風向きについて野外調査時(註2)には、西や南西からの風が多かったと記憶している。風向きと密接な関係があると思われる住居跡の出入り口施設を取り上げて考察してみる。

住居跡に見られる出入り口施設は、北側1棟（G15住居跡）、東側1棟（K11住居跡）、北東側1棟（F18住居跡）、北西側1棟（C16住居跡2号）に作られている。出入り口施設の方向に規則性は存在しないようであるが、風を真正面から受ける方向は回避していると思われる（註3）。遺跡の中心を大形住居跡（K11住居跡）付近と仮定すると、南側が高位（山側）であるため、南側に所在する住居は、若干は風を遮れるような地形条件となる。また、壁溝、壁柱穴、石列が山側（南側）からのみ検出されたことについて、地形的な要因も考えられないわけではないが、出入り口同様に風向きに関係する可能性があるだろう。

日照条件について、上記したように東西が斜面地で、南側が山となるため、日の出時は日光のあたりが良好である。午前10時～午後2時位にかけては南側の山の木に遮られ、木陰や木漏れ日が随時発生する。季節的な生活環境を考えた場合、夏は直射日光を幾分避けれることから良好かもしれないが、秋から冬にかけては良好とは思われない。ただし、当時の環境が現在と同様南側の山に木が分布していたと仮定しての推測である。次に、日の出や日の入りの方向と遺跡の関係を考えてみた場合、思いつく事象として、大形住居跡の出入り口がほぼ日の出方向を向くことと、日の沈む方向が遺跡の西側に眺められる名久井岳の方向とほぼ一致する（秋においては）ことが挙げられる。ただし、夏至や冬至と言った特別な日時に確認したわけではないことを追記しておく。

（3）軽米町内の遺跡との立地の比較

本遺跡に見られる集落構成要因の中で、ある程度の所属時期を推定できるのは、住居群、掘立柱建物跡群、土坑群、捨て場などである。1の遺構のまとめで上述したとおり、それらの事象も後期と晩期に大別される。上記した以外で、集落を構成する要因として立石と広場であった可能性が考えられる空間がある。

本遺跡の標高は285～296mで、長倉小学校などが立地する現在の長倉集落とは約50mの比高がある。河川との関係として、本遺跡と最も近い位置関係にある雪谷川とは、水吉橋付近（「水吉遺跡」や「畑内遺跡」の近隣付近に位置する橋で、河床は標高80m前後）で比較すると約210mの比高がある。軽米町における該期の遺跡と比較してみると、「大日向Ⅱ遺跡」が165～170m、「吠屋敷Ⅱ遺跡」が190～200m、「馬場野Ⅱ遺跡」が205～211m、「君成田Ⅳ遺跡」が198～217m、「駒板遺跡」が280～320mである。軽米町内の当該期遺跡と比較して、「駒板遺跡」を除けば通常の集落より高地に本遺跡が所在することがわかる。遺物や遺構の時期が本遺跡に非常に近い状況を示すのが上記した「駒板遺跡」で、本遺跡との立地条件についても高地であるという点では共通性が窺える。

軽米町の縄文時代の遺跡の立地については、『大日向Ⅱ遺跡2～5次調査発掘調査報告書』中で斎藤邦雄氏がまとめたものが詳しい。それによると、後期前葉の大規模な集落跡は「駒板遺跡」や「君成田Ⅳ遺跡」に見られるように高位に位置し、後期後葉の段階で遺跡の分散化とともに拠点集落的な遺跡が見られ、晩期の段階において遺跡の分散化とともに集落の小規模化の傾向が認められると述べている。上記の内容は、概ね本遺跡にも当てはまる内容と判断できよう（註4）。

（4）遺跡の性格付け

本遺跡のあり方として、後期前葉については検出住居は少ないものの、相当量の土器が出土している状況や軽米町の該期の遺跡が高地に所在する事例が見られることから判断して、高地で営まれた集落として捉えておきたい。ただし、四季に渡って定住した集落とは捉え難く、季節的に生活を営む場ではないかと推定される。後期中葉～晩期前葉について、遺跡の性格が前段階から変容し、精神的な活動を行った特殊な場を兼

ねた集落、例えば祭祀に関連する遺跡ではなかったかと考えている。通例的に祭祀的な遺構としては配石遺構が代表的であるが、本遺跡からは立石遺構としたものを検出している。ただし、北側調査区外に延びるため、その全貌は不明である。

祭祀的な場とした場合、それに関係する遺物の有無が問題となろう。用途不明品、例えば特殊な土器、土製品、石製品にとりあえずそれを求めてみた。上記に該当する可能性がある遺物は、朱が塗布された注口土器、単孔土器、異形土器、香炉形土器、人面付き土器、土偶、動物形土製品、ミニチュア土器、鐸形土製品、分銅形土製品、土鈴、キノコ形土製品、スプーン形土製品、スタンプ形土製品、内面渦状土製品（イモ貝形土製品）、円盤状土製品、三角形土製品、粘土塊、石剣・石刀、石棒、環状石製品、岩偶、石製未製品などである。ただし、上記した遺物全てを、祭祀に関連する遺物として性格付けすることは危険であり、それらの出土状態などを再吟味することを今後の課題としたい。

本遺跡の性格付けについてまとめると、後期前葉を集落遺跡に、それ以降の時期を祭祀場を兼ねた遺跡ではないかと推定する。後期前葉を集落とした理由は、(3)で述べた「駒板遺跡」との類似性にある。同じ後期前葉の隆盛が確認されるだけでなく、出土遺物的にみても鐸形土製品やキノコ形土製品など類似点が多く、祭祀の場としての性格付けは難しいと判断したためである。ただし、それでも集落内（居住地）で祭祀が行われた可能性は、捨て切れないと思う。

後期中葉～晩期前葉期を祭祀場を兼ねた集落と推測する材料としては、本章で述べてきた様々な事象をトータル的に考えれば、日々居住したのみの集落と捉えるのは、むしろ不自然ではないかの判断にある。抽象的な結論であり、勿論、遺物の細部やその出土状態などの検討は今後課題を残すが、調査に携わった者として、あえて言及しておきたいと思う。おそらく、将来的に北側調査区外の部分が調査される機会があれば、祭祀場であることが解明できる手掛かりを得られると確信している。

最後に祭祀場として性格付けた諸要素をまとめて終わりとする。

- ① 住居跡と掘立柱建物跡の空間占地の重複
- ② 長期間に亘って継続的に営まれていた遺跡ではあるが、地床炉に伴う焼土の発達具合の悪さなどから、毎時生活した施設（定住用）であることには否定的にとれる（註5）
- ③ 大形住居、立石、広場の存在
- ④ 人面付土器、単孔土器、土偶、石剣に代表される用途不明遺物の多さ
- ⑤ 土偶、石剣・石刀、磨製石斧に見られた別地点への廃棄
- ⑥ 西部捨て場出土の中に見られたイノシシの未熟個体と思われる獣骨（縄文人は子供の獣は食べないと言われる？）の存在
- ⑦ 地形や気候から見た立地環境

<註>

（註1）1980年に行われた「長倉遺跡」の報告書を参照すると、若干量ではあるが円筒土器が出土している。また、本遺跡から北約1.5kmには該期の大規模な集落跡が検出された「畑内遺跡」が、西約3kmには円筒下層期全般にかけての捨て場が検出された「大鳥I遺跡」がある。円筒下層式期に伴う捨て場が検出された遺跡からは、土器を中心に膨大な遺物が出土量するのが常である。本遺跡の出土量はおおよそコンテナ5箱強である現状を考えると、円筒下層期の捨て場にしては遺物量が少ないように思われる。調査地外に集落の本体があるのか、あるいは晩期の遺構造成時に破壊を受けているのであろうか。本遺跡の乗

る瘦せ尾根が、馬背状（馬の鞍状）を呈する地形であることについて、調査の主担当である中川は「晩期の大造成工事で中央を削平して平坦化したのではないか」との仮説を立てている。将来的に調査地北側が発掘調査されることがあれば、高い面が自然地形なのかあるいは人工的に盛土されたものであるのかが、解明される可能性はある。

（註2）筆者が野外調査に携わった時期は、9月中旬～11月初旬である。雪が積もるのはもう少し後であるにしても、11月初旬で十分に寒い環境の地であり、長倉小学校などがある現在の集落とも約50mの比高がある場所である。冬季において、雪深いこの高地の遺跡に、人が生活できるのか疑問である。

（註3）出入り口施設を始め、壁溝、壁柱穴は、地形的な要因（制約）による可能性も勿論ある。具体的には、出入り口施設は斜面上方相当以外の場所に、壁溝、壁柱穴は斜面上方側にのみ構築された可能性である。通例的に捉えれば、上記したような地形的な制約が、気候環境的要因より優先して捉えられべきかもしれないが、筆者はこの遺跡が高地に立地するという気候環境は無視できないとの判断に立脚して考察した。

（註4）「晩期集落の小規模化の傾向」という点について、本遺跡を小規模集落と捉えるべきかどうかの判断は、同時期存在の住居数が明確にわからないため難しい。

（註5）②については、季節的に営まれる集落である可能性も否定はできない。

第IX章 長倉 I 遺跡出土動物遺存体

佐々木 務

今回の長倉 I 遺跡の調査で確認されている動物遺存体は、哺乳綱がイノシシ・シカ・ノウサギ・種不明、鳥綱がキジ?・種不明、硬骨魚綱がコイ科、軟骨魚綱がサメ類などである。確認されている動物遺存体の中でイノシシ・シカが量的には主体となっており、さらにこの2者のうちイノシシが多い。臼歯片を取り上げたまとまり毎に一括して数えると、イノシシは79点、シカは43点出土している。その他のものはいずれも2~3点程度でごく少ない。量的に主体を占めるイノシシ・シカは共通して、臼歯の出土が圧倒的に多い。他の部位は指の骨などが少数見られる程度である。表中で「臼歯片」としているものは臼歯であるが部位の特定はできない破片が複数出土しているものである。

長倉 I 遺跡で出土した骨類は変色など熱を受けた痕跡のある破片も多いが、そうした痕跡のない破片も同様に多い。熱を受けた骨類が腐食せずに残存することは多いが、今回はそうではないものも多く、貝塚で貝殻が多いため残存しているのと同様、骨類の量が多いことによって熱を受けていないものも残存したと思われる。

主体を占めているイノシシは前述のとおりほとんどが臼歯だが、これらには熱を受けた痕跡が認められるものがほとんど無い。また、歯根部が確認されないものがほとんどである。このことはシカについても共通する。歯根部が確認されないことについては、未萌出の段階でまだ歯根部が形成されていない、あるいは歯冠部のエナメル質だけが残存し歯根部は腐食したといったことが可能性として考えられる。萌出前のものだと咬合面の摩耗が無いはずだが、今回出土したイノシシの臼歯の状況を見ると、咬合面が摩耗しているものとしていないものの両方が認められる。また、歯根部の外れそうになった左下顎M3や萌出前の左上顎M3が確認されている。こうしたことから、歯冠部だけが残った場合が多いと考えられる。ただ、確認されたM3の多くが摩耗のないものであることや、歯以外の部位で骨端部が癒合していない部位も出土していることから、今回長倉 I 遺跡で出土しているイノシシのかなりの割合が未成熟な個体であると考えて差し支えないと思われる。

シカの臼歯についてはばらばらになったものが多く必ずしも十分には確認できなかったが、咬合面の摩耗が確認されたものはほとんど無く、基本的に未成熟な個体が多くを占めていると推定される。

種不明で小型のは乳類としたものは、ノウサギ程度の大きさか、それよりやや小型のは乳類であるが、比較標本の不足のため同定できなかったものである。多くが熱を受けているが、シカ・イノシシで見られたような未成熟な個体は無い。

コイ科は椎骨の出土で、熱を受けて白く変色している。椎体の径が3~4mmで比較的大型のコイ科魚類の椎骨と考えられる。種までの同定はできないが比較的大きな個体のもと考えられる。サメ類については歯が2点出土している。種名の特定まではできなかったが、2点とも平面形がほぼ正三角形で鉅歯縁をもつ。

イノシシ・シカで未成熟個体が多く歯が主体を占めることが長倉 I 遺跡の特徴と言える。歯自体が残りのよい部位だが、他の部位がこの包含層内に初めからあったのかどうか検証することができないとなぜ臼歯が多く出土しているのか説明できない。今後の課題になる。

<参考文献>

- 杉山壽榮男（1922年）『原始文様集』
- 今井富士雄・磯崎正彦（1963年）『十腰内遺跡発掘調査報告書』十腰内遺跡調査団
- 葛西励（1979年）「十腰内I式土器の編年的細分」『北奥古代文化第11号』北奥古代文化研究会
- 安孫子昭二（1980年）「コブ付き土器様式から亀ヶ岡土器様式への変遷過程」『考古風土記第5号』
- 大塚達朗（1983年）「縄文時代後期加曾利B式土器の研究（I）—最近の成果の検討と新たな分析—」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要第2号』東京大学文学部考古学研究室
- 会田容弘（1997年）「東北地方縄文時代後期後葉から晩期の土器装飾文様に見られる2種のキザミ」『古代第104号』早稲田大学考古学会
- 日下和寿（1998年）「岩手県内の動植物形土製品の集成」『東北民族学研究』東北学院大学民族学OB会
- 稲野裕介（1998年）「「イモガイ形土製品」の名称はなぜ不適切か」『岩手考古学会第10号』岩手考古学会
- 鈴木克彦（1997年）「注口土器の研究」『青森県埋蔵文化財センター研究紀要平成8年度第2号』
- 熊谷常正（1989年）「単孔土器考」国学院大学考古学資料館紀要乙益重隆先生古稀記念号
- 稲野裕介（1982年）「亀ヶ岡文化における内面渦状土（石）製品とその分布」史学第五二巻2号
- 宮 宏明（1987年）「スタンプ状土製品に関する若干の問題」『北海道考古学第24巻名取武光先生追悼特集』北海道考古学会
- 児玉大成（1998年）「玉象嵌土製品について」『北方の考古学』野村嵩先生還暦記念論集刊行会
- 鈴木克彦（1996年）「亀ヶ岡式土器分布論序説—圏内における土器分布と地域差—」『青森県埋蔵文化財センター研究紀要平成7年度第1号』
- 小田野哲憲ほか（1986年）『蒔前遺跡』一戸町文化財調査報告書第17集一戸町教育委員会
- 工藤大（1997年）「馬淵川流域の遺跡」『馬淵川流域の遺跡調査報告書』青森県立郷土館
- 鈴木恵治他（1986年）『軽米町史上巻』軽米町史編纂委員会
- 国立歴史民族博物館（1992年）「土偶とその情報」『国立歴史民族博物館研究報告第37集』
- 谷口康浩（1990年）「土偶のこわれ方」『季刊考古学第30号』雄山閣出版
- 植木 弘（1990年）「土偶の大きさ」『季刊考古学第30号』雄山閣出版
- 鈴木克彦（1980年）「土偶の研究序説」『青森県立郷土館調査研究年報第6号』青森県立郷土館
- 相馬生奈子（1989年）「岩手県雨滝遺跡出土の土偶—集落における土偶保有構造の分析のために—」『明治大学考古学博物館館報NO.4』明治大学考古学博物館
- 高柳圭一（1987年）「東北地方に於ける縄文時代後期後半の土偶—所謂瘤付土器に伴う土偶と遮光器土偶の出現について—」『溯航』早稲田大学大学院文研考古談話会編
- 工藤伸一・鈴木克彦（1998年）「キノコ形土製品について」『青森県埋蔵文化財調査センター建久紀要3号』
- 山本正敏（1991年）「蛇紋岩製磨製石斧の製作と流通」『季刊考古学第35号』雄山閣出版
- 平口哲夫（1991年）「木製品を作り出した石器」『季刊考古学第35号』雄山閣出版
- 岡村道雄（1976年）「ピース・エスキューについて」『東北考古学の諸問題』東北考古学会
- 岡村道雄（1979年）「縄文時代石器の基礎的研究法とその具体例」『東北歴史資料館研究紀要第5巻』東北歴史資料館
- 北越考古学研究会（1997年）『北越考古学第8号「新潟県北部地域における縄文時代後・晩期の研究—新潟市中野遺跡の共同資料調査—」』
- 荒川隆史（1997年）「大型竪穴住居の建設—新潟県中頸城郡中郷村和泉A遺跡の調査を中心に—」『考古学ジャーナル1月号NO412』

武藤康弘（1995年）「民族史からみた縄文時代の堅穴住居」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第6集—「縄文時代中・後期の住居をめぐる諸問題」—』帝京大学山梨文化財研究所

加藤三千雄・南久和・山田治（1986年）『真脇遺跡発掘調査報告書』能都町教育委員会真脇遺跡発掘調査団

西野秀和・岡本恭一（1989年）『米泉遺跡発掘調査報告書』石川県立埋蔵文化財センター

仲田茂司（1994年）『西方前遺跡の縄文土器』三春考古学研究会 福島県田村郡三春町

杉山武ほか（1978年）『源常平遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第39集青森県教育委員会

上野隆博・児玉大成ほか（1996年）『小牧野遺跡発掘調査報告書』青森市埋蔵文化財調査報告書第30集 青森市教育委員会

石塚和則（1986年）『将監塚遺跡発掘調査報告書』財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集

阿部博志・佐藤則之・柳田和明・須田良平・古川一明（1990年）『摺萩遺跡』宮城県文化財調査報告書第132集 宮城県教育委員会

寺崎裕助（1996年）『清水上遺跡Ⅱ堀之内インタチェンジ関連発掘調査報告書』新潟県教育委員会 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団 新潟県埋蔵文化財調査報告書第72集

桐生正一・桜井芳彦・高橋裕子・菊地利和・高橋義介（1986年）『湯沢遺跡発掘調査報告書』滝沢村文化財調査報告書第2集 滝沢村教育委員会・岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

佐藤嘉広（1996年）『発掘された地震痕跡—岩手県編—』埋文関係救護連絡会議埋蔵文化財研究会

太田陽子・島崎邦彦（1995年）『古地震を探る』古今書院

久馬一剛・永塚鎮男（1987年）『土壌学と考古学』博友社

寒川旭（1994年）「地震考古学の誕生」『発掘を科学する』岩波新書

寒川旭（1989年）「地震の痕跡を遺跡で探す」『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』第3回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編

＜岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター関連＞

三浦謙一（1978年）『湯沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第2集

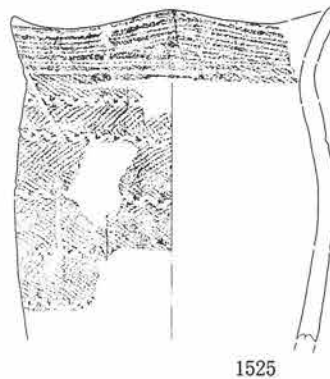
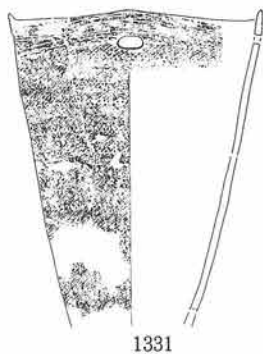
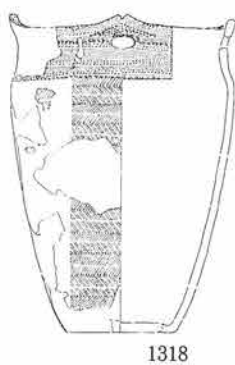
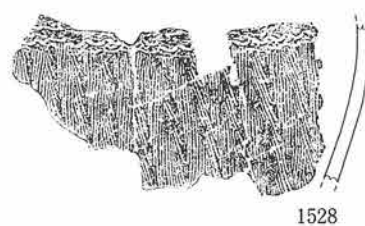
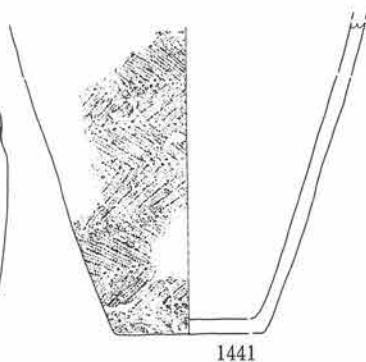
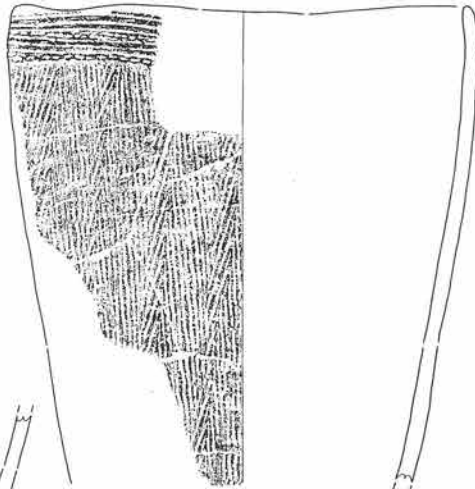
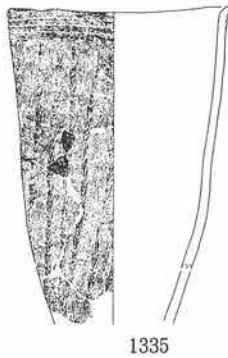
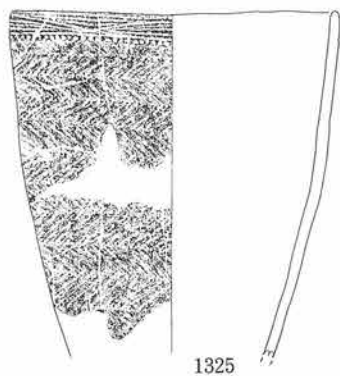
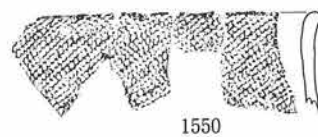
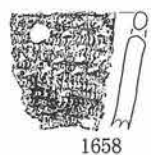
高橋与右衛門（1980年）『川向Ⅲ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第26集

村上達夫（1983年）『吠屋敷Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第47集

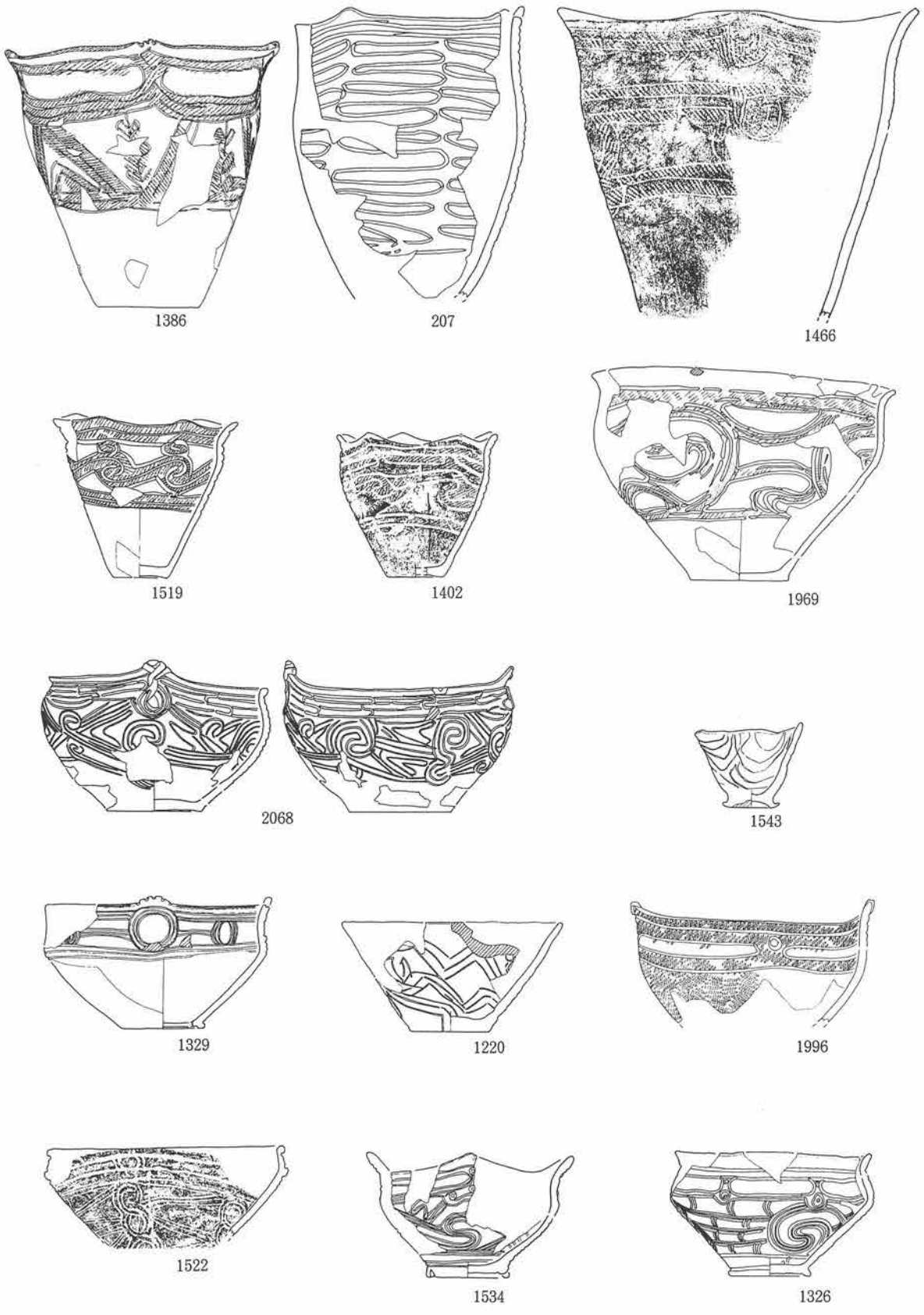
金子昭彦（1996年）『寺久保遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第239集

中川重紀（1996年）『和当地Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第259集

高木 晃（1999年）『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書第6～8次』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第271集



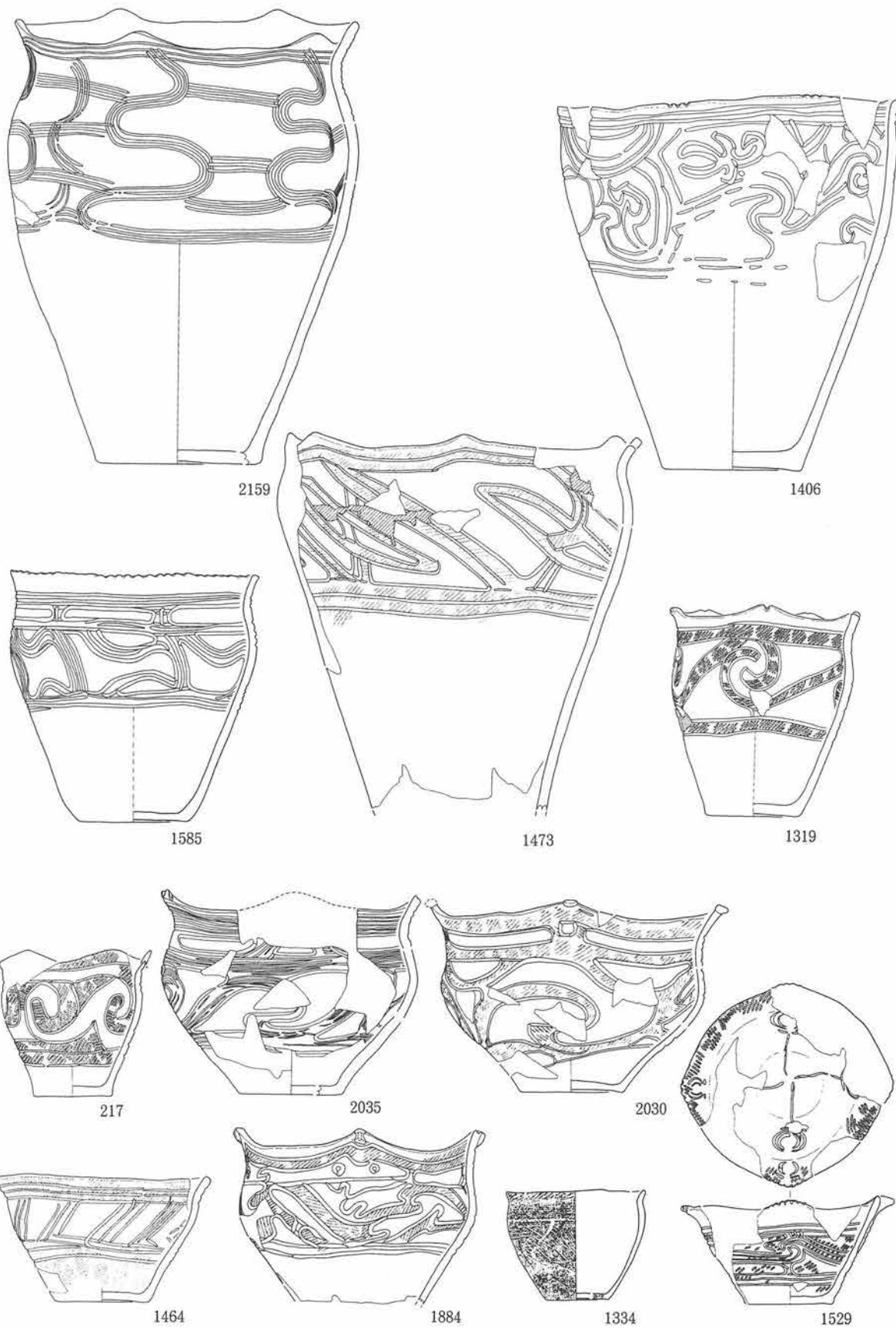
第449图 第I・II群土器集成图



第450图 第三群1類-1 土器集成图



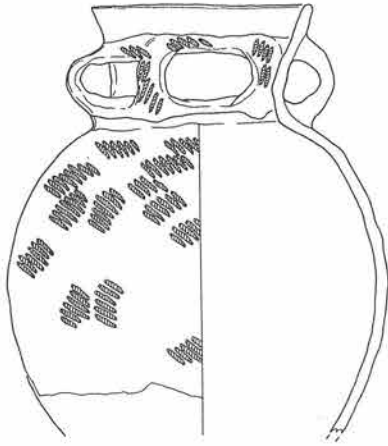
第451图 第三群1类-1·2土器集成图



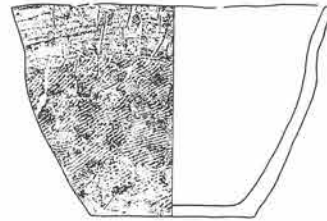
第452图 第三群1類-2 土器集成图



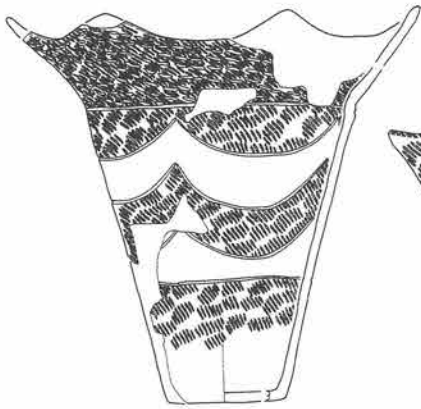
第453图 第三群1類-2・3土器集成图



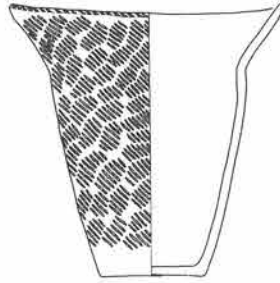
2056



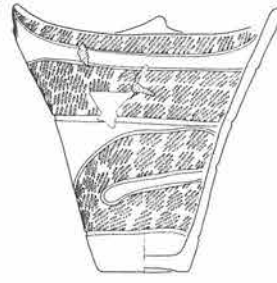
1434



1920



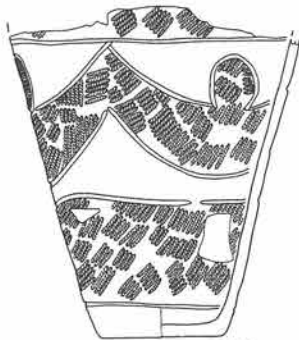
1649



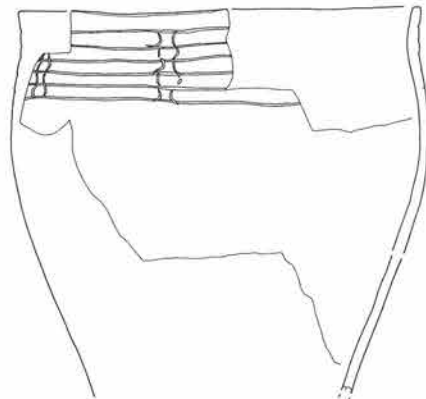
1285



1216



2058



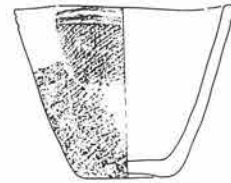
1316



2170



1921

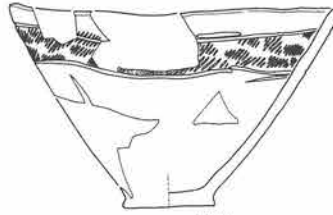


1311

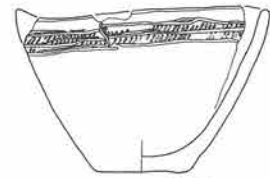
第454図 第三群1類・第三群2類-1土器集成図



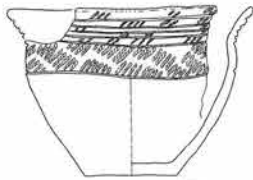
1635



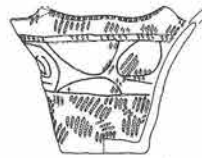
1655



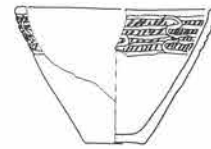
2045



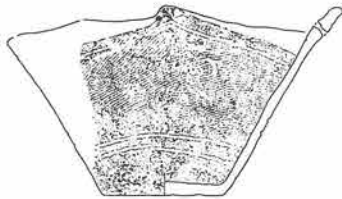
2051



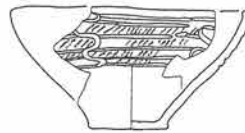
1918



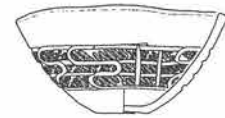
2127



1554



1950



1261



1403



1469



1647



1300



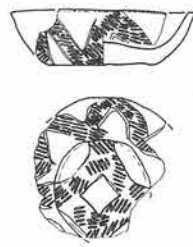
1211



1591



1450



1841



2034



2001

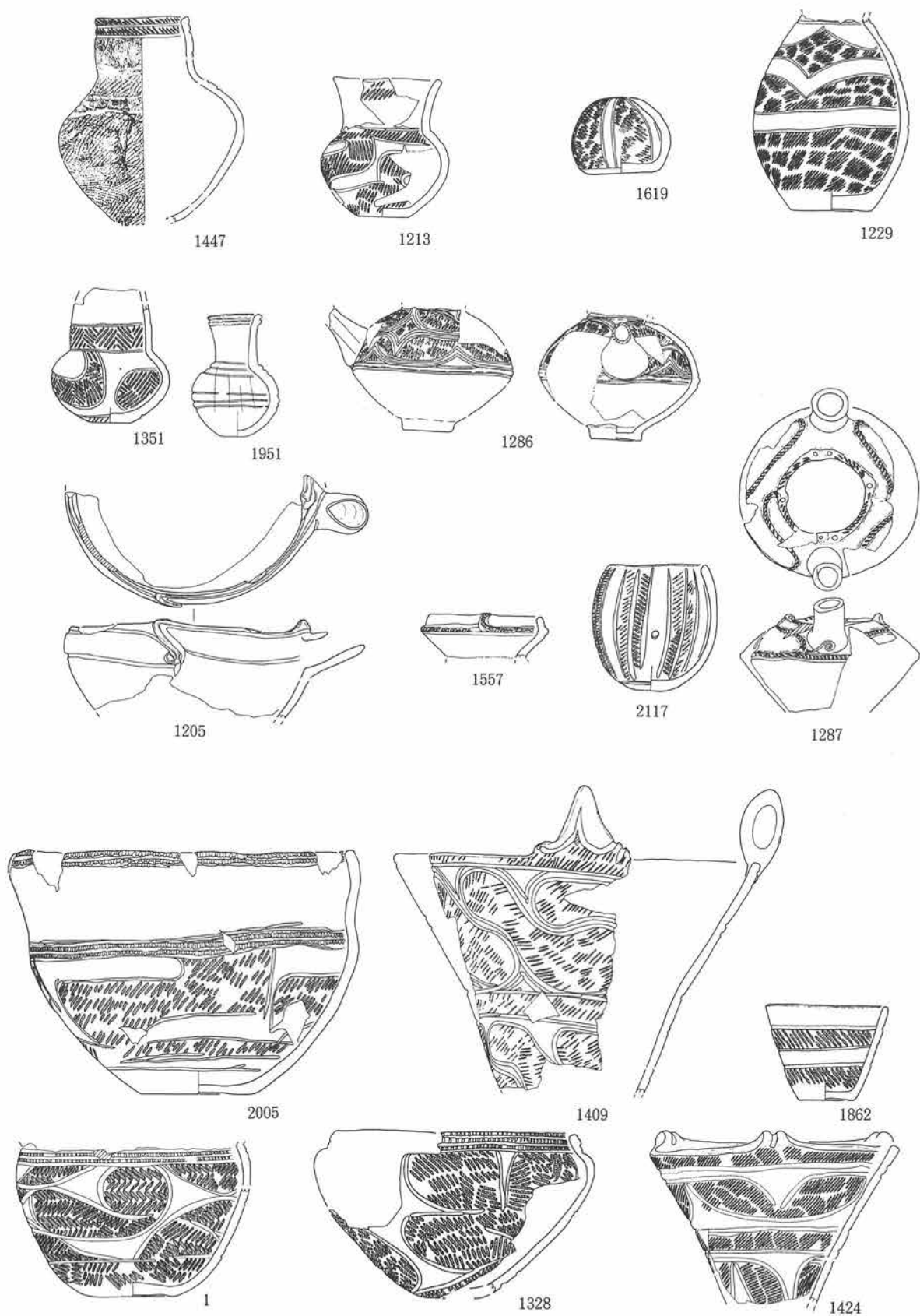


1431

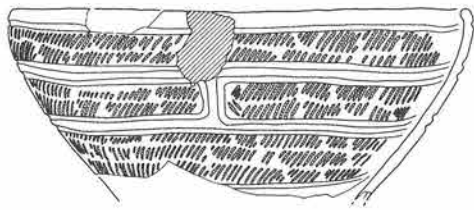
第455图 第三群2類-1 土器集成图



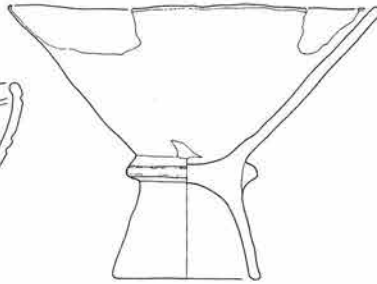
第456图 第三群2類-2土器集成图



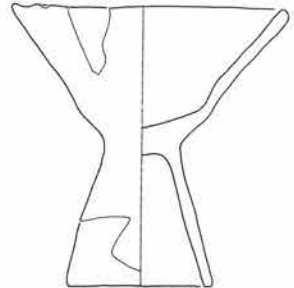
第457图 第Ⅲ群2類-2・第Ⅲ群3類土器集成図



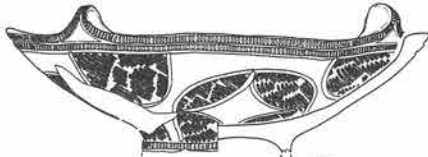
1584



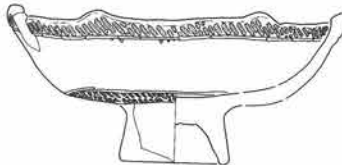
1305



1730



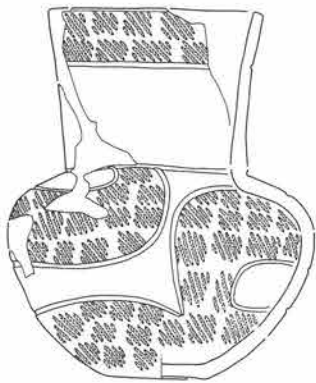
222



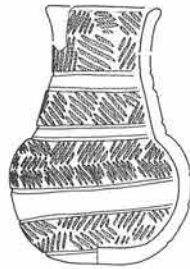
1340



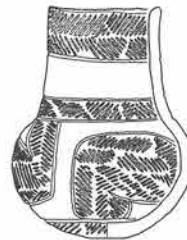
633



1214



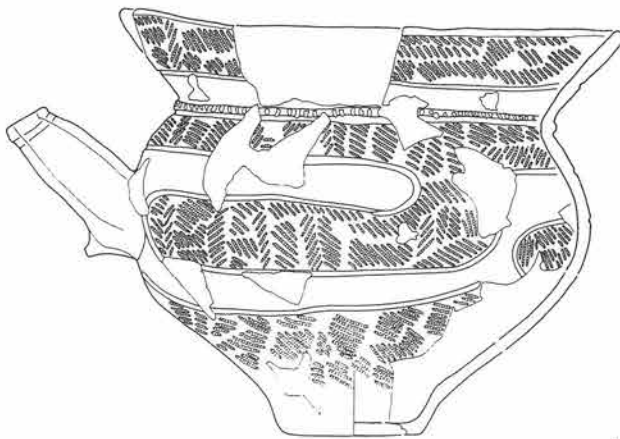
1894



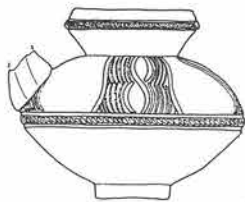
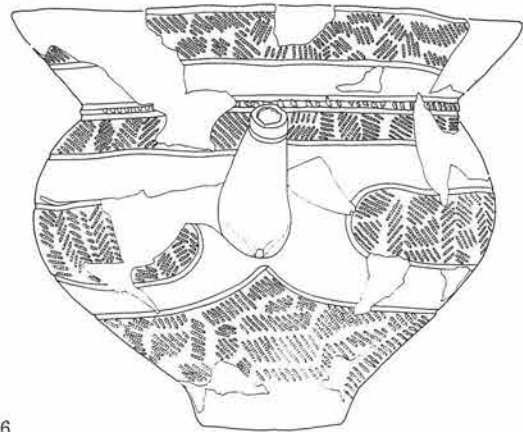
2116



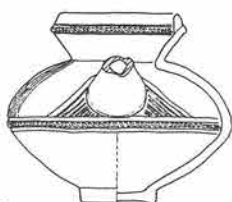
2055



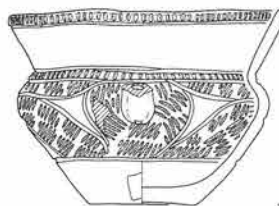
1876



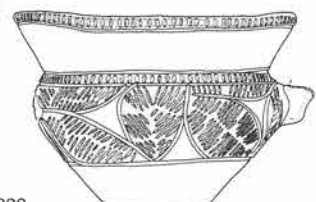
1262



※加曾利B₁新併行



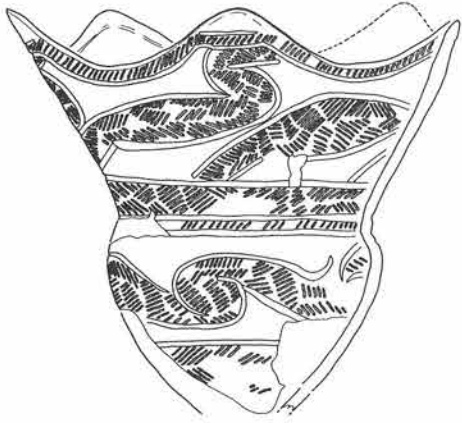
1322



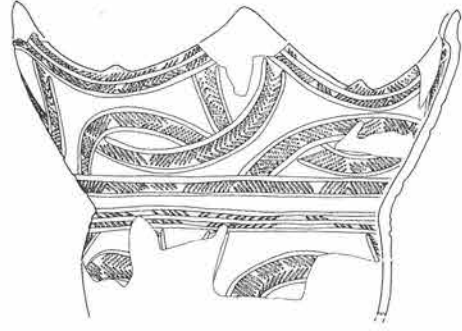
第458图 第三群3类土器集成图



第459图 第Ⅲ群3類土器集成图



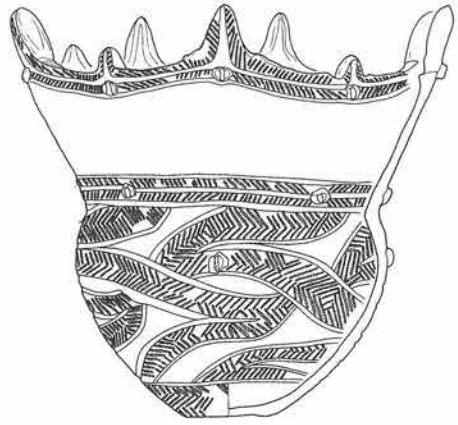
2004



1445



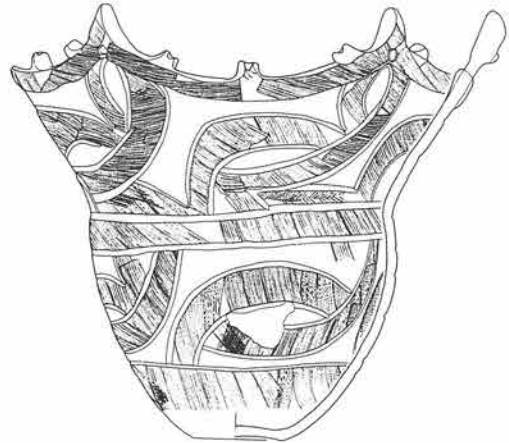
1818



2157

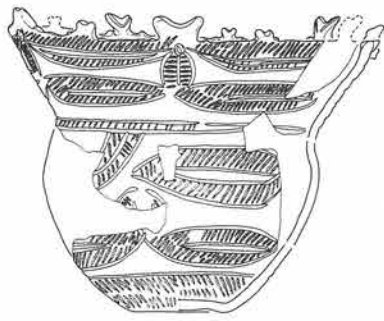


1997



2164

第460图 第Ⅲ群4類土器集成图



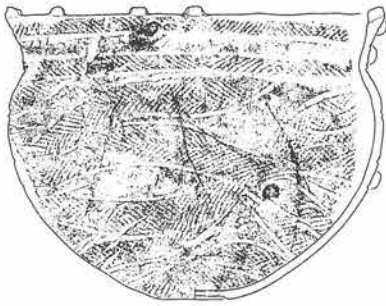
2111



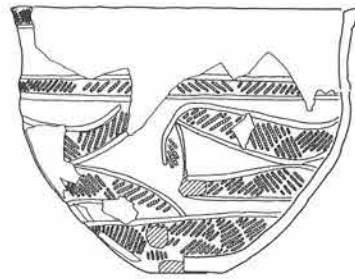
1631



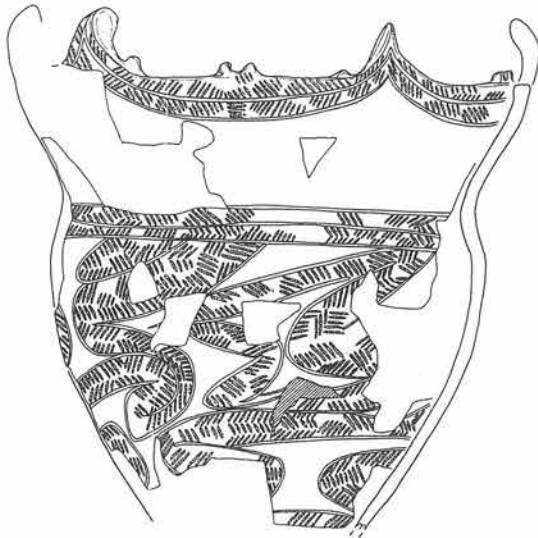
2137



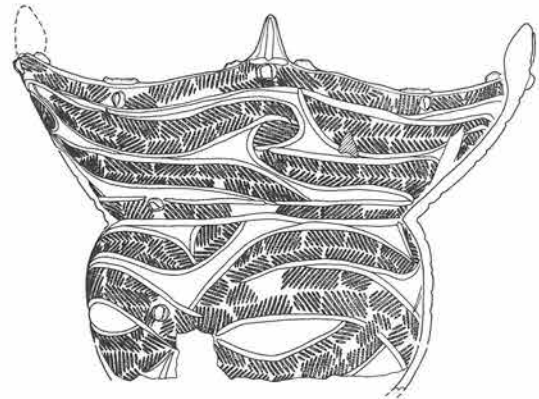
1581



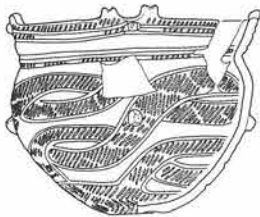
1999



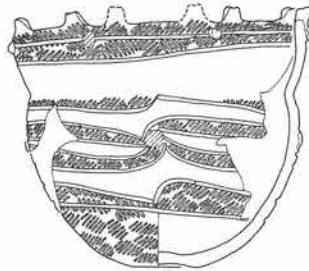
1849



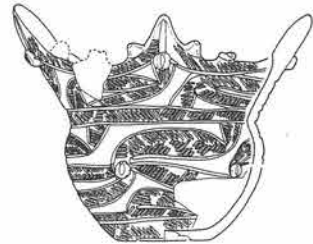
1891



1687



2154

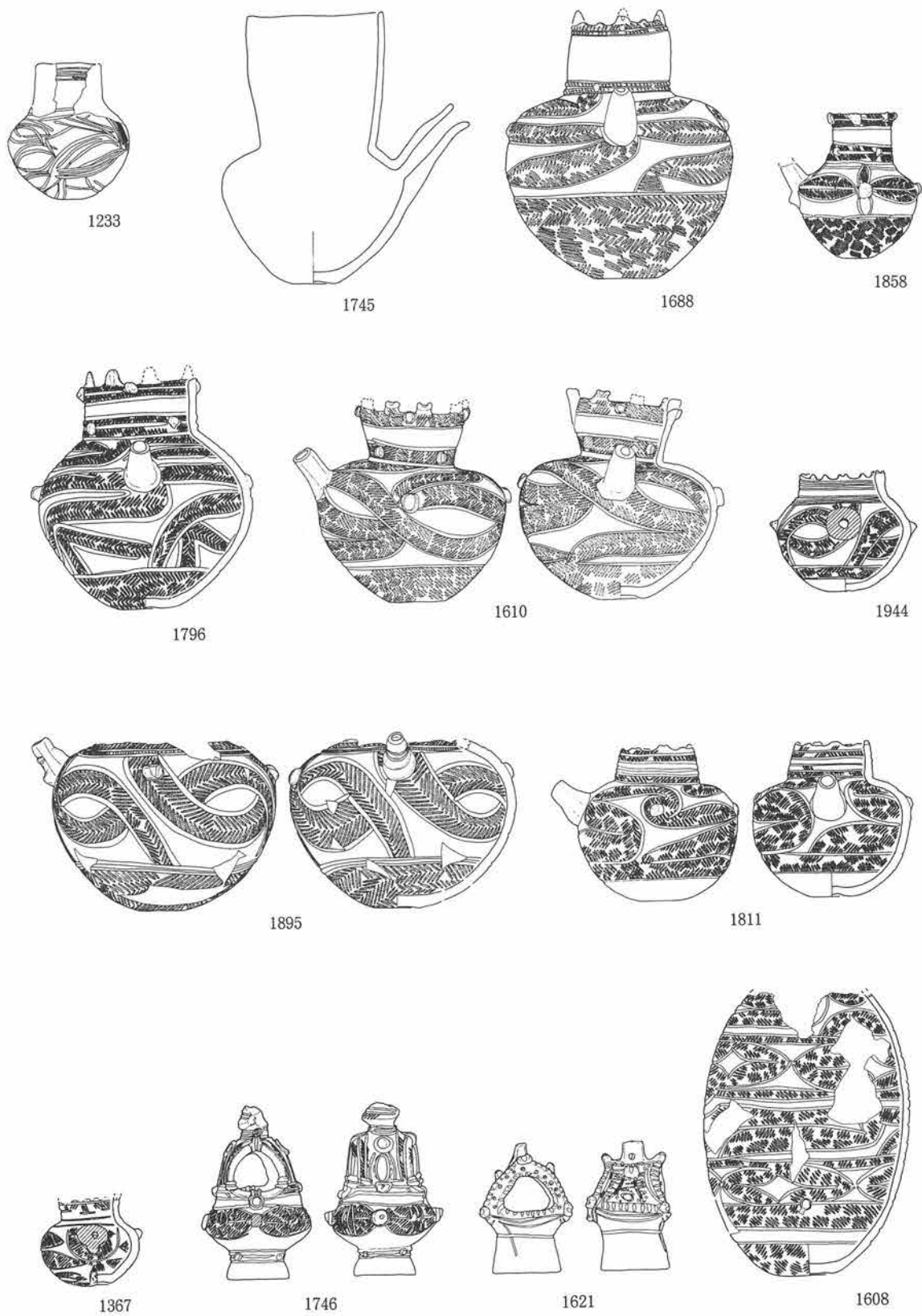


555

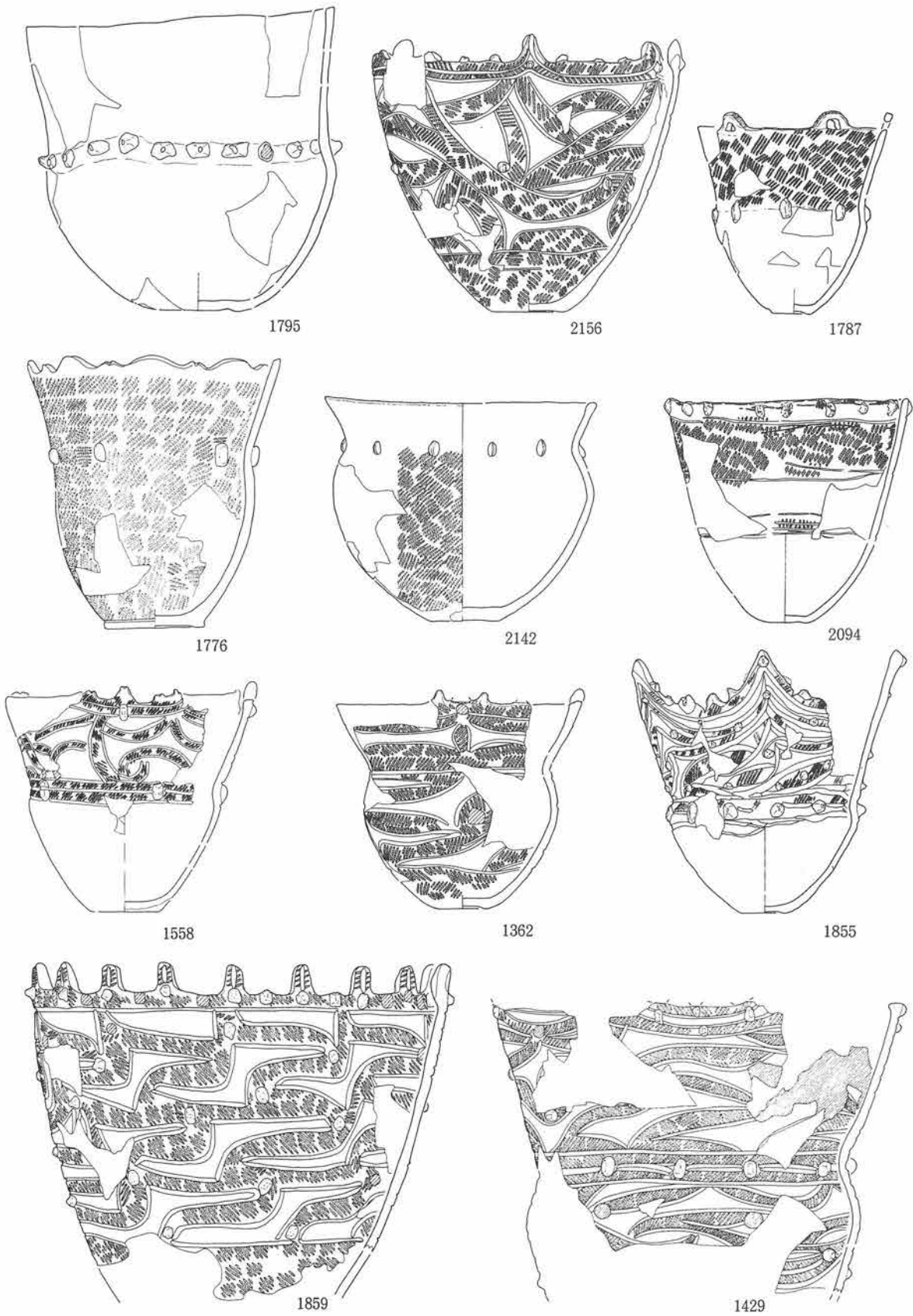
第461图 第三群4类土器集成图



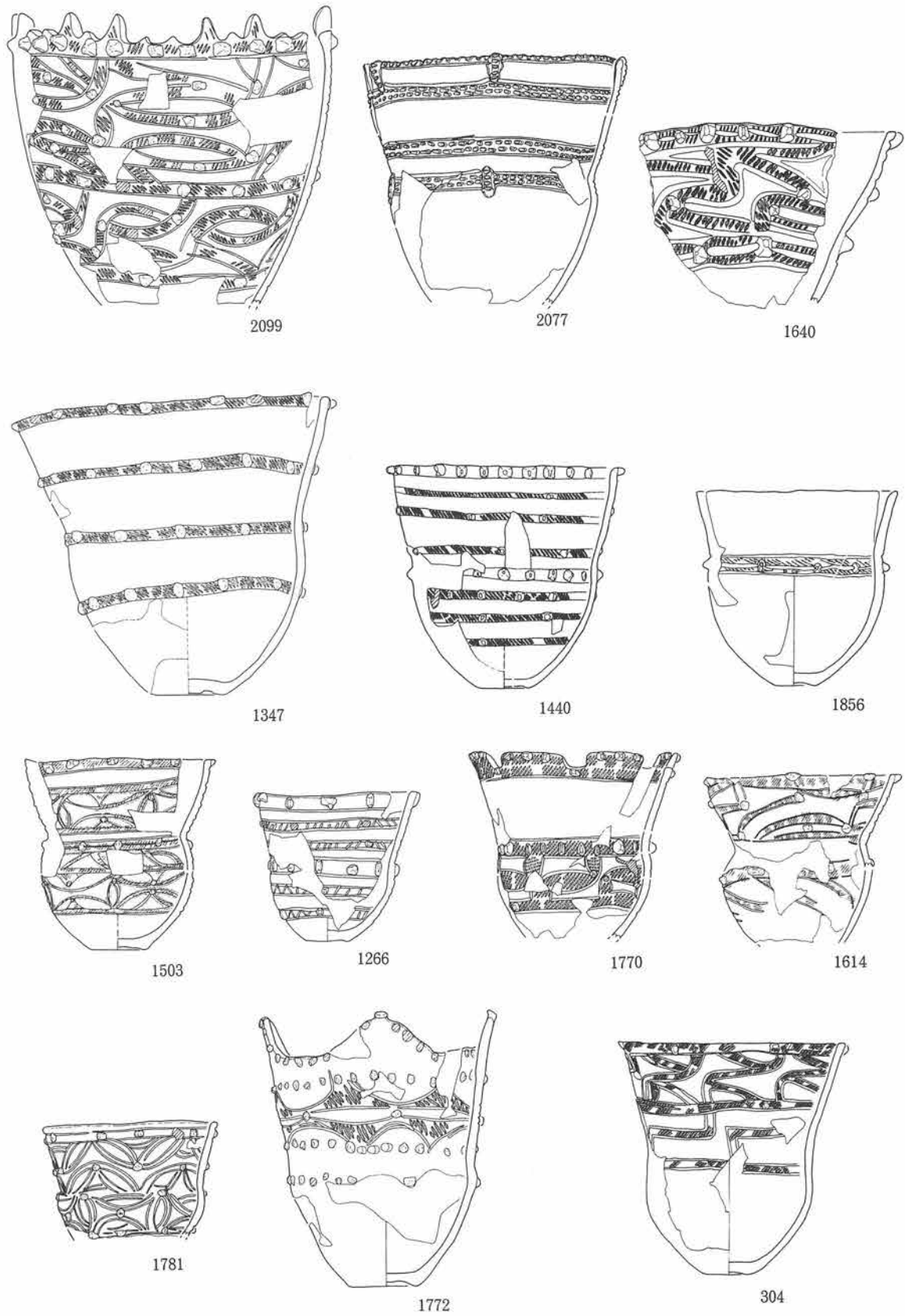
第462图 第三群4类土器集成图



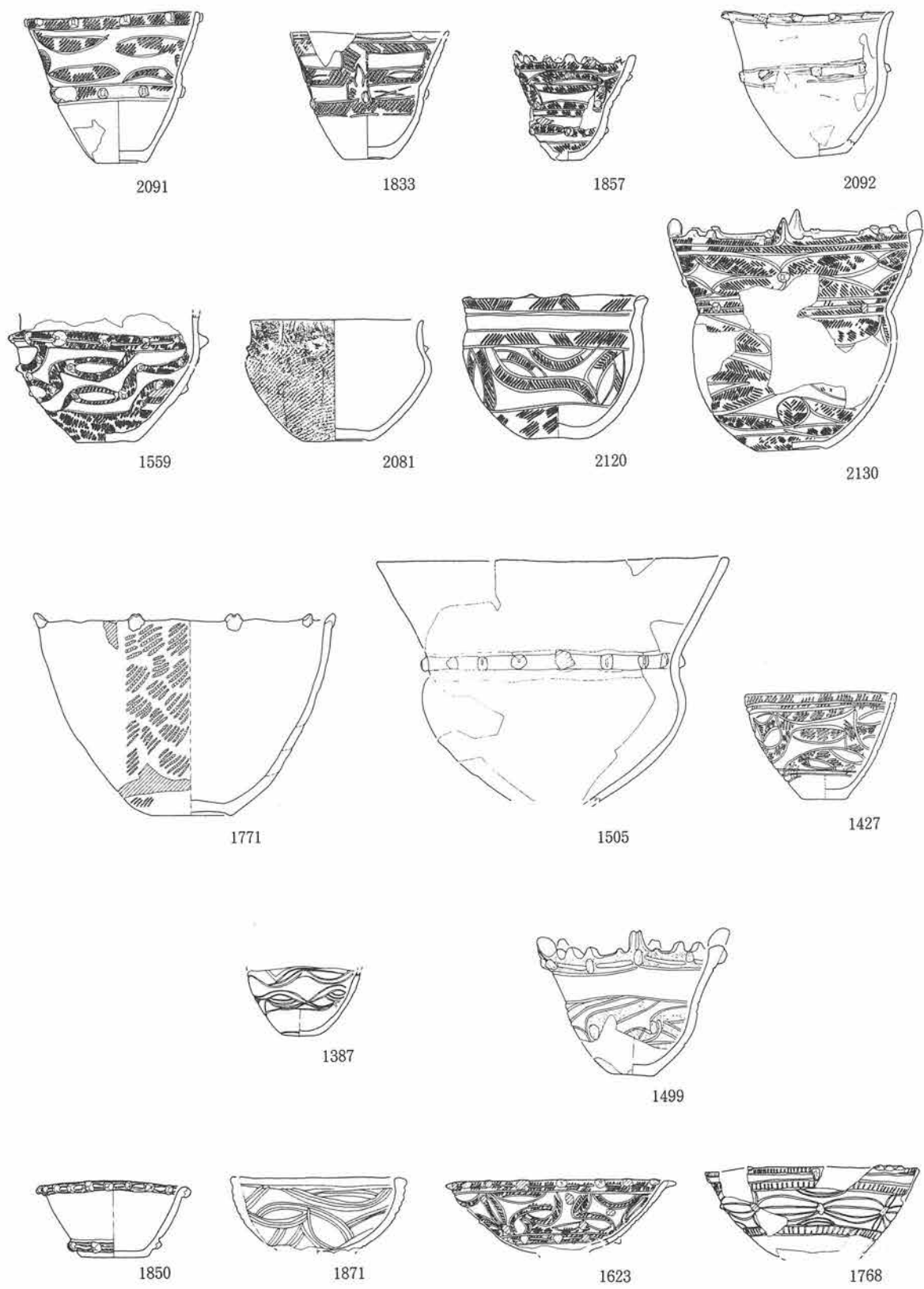
第463图 第三群4类土器集成图



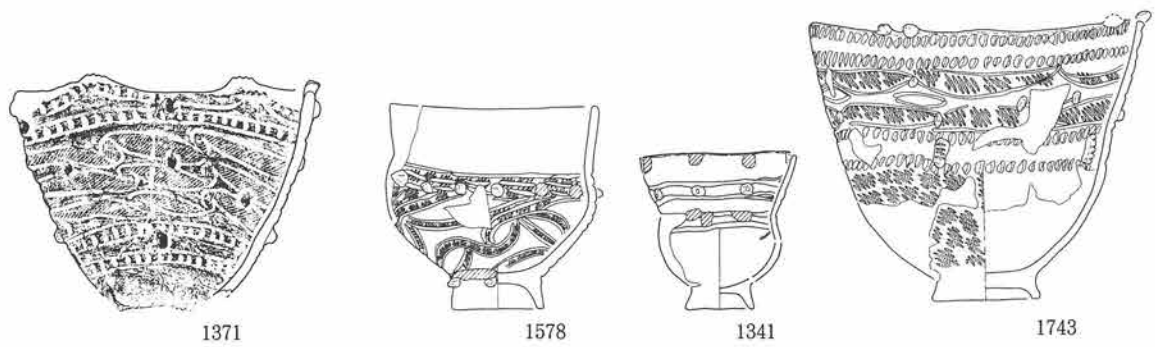
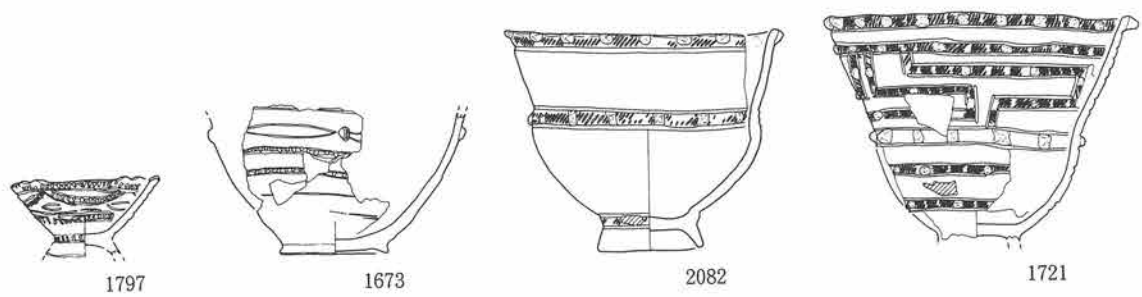
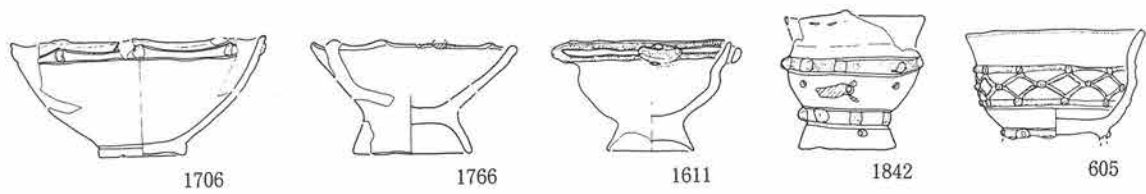
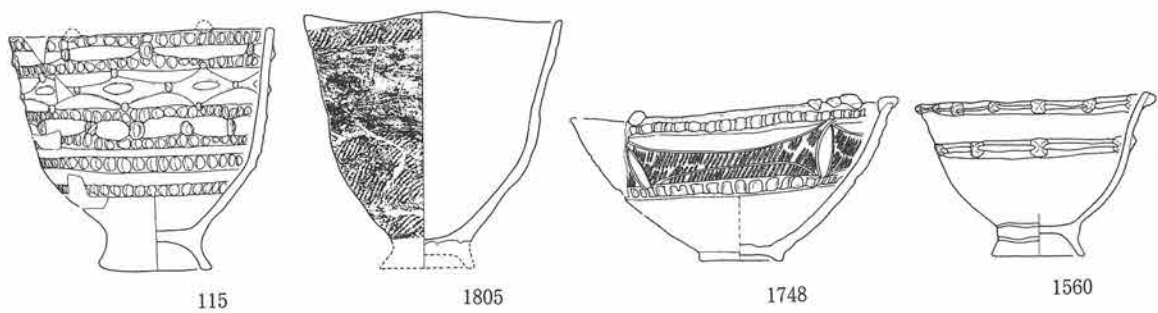
第464图 第Ⅲ群5類土器集成图



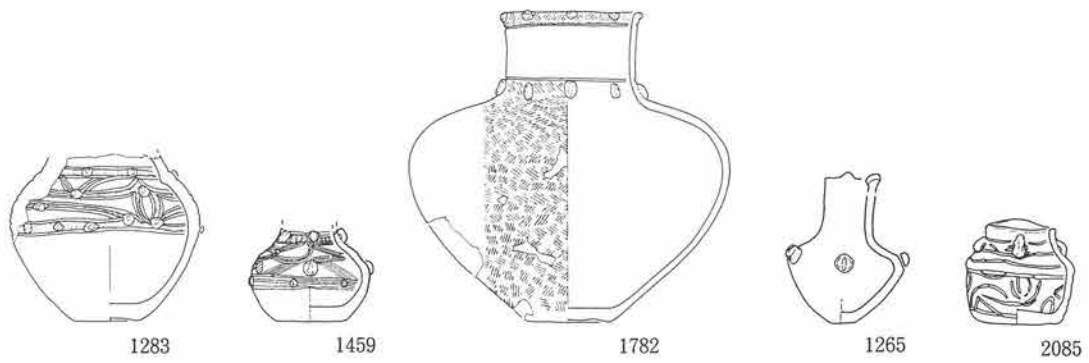
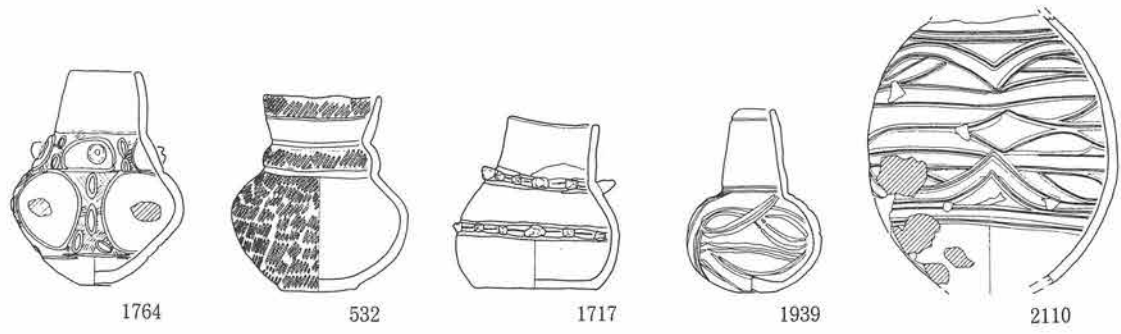
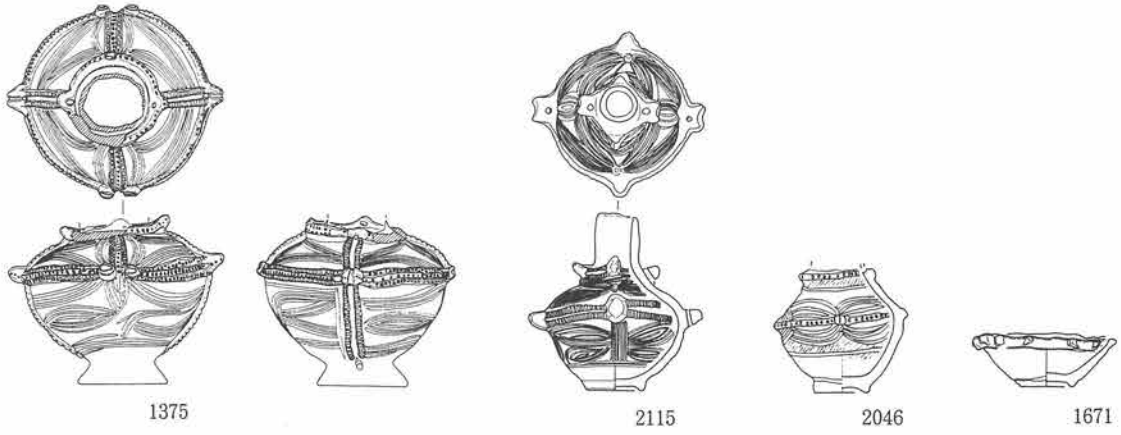
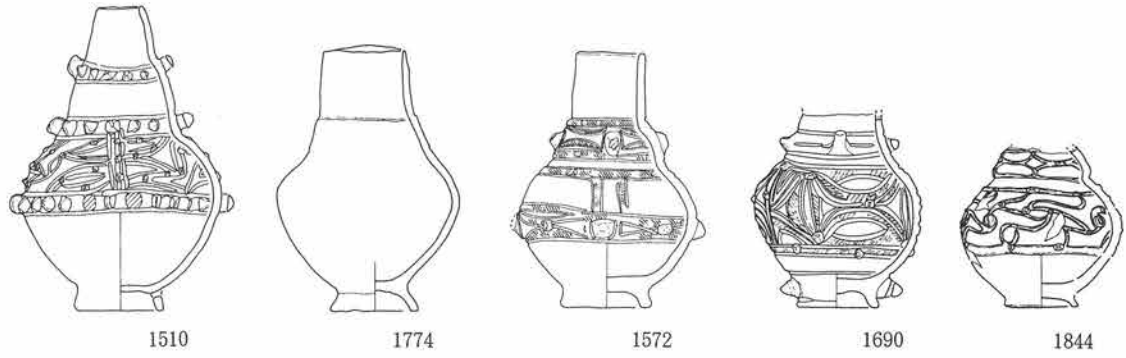
第465图 第Ⅲ群5類土器集成图



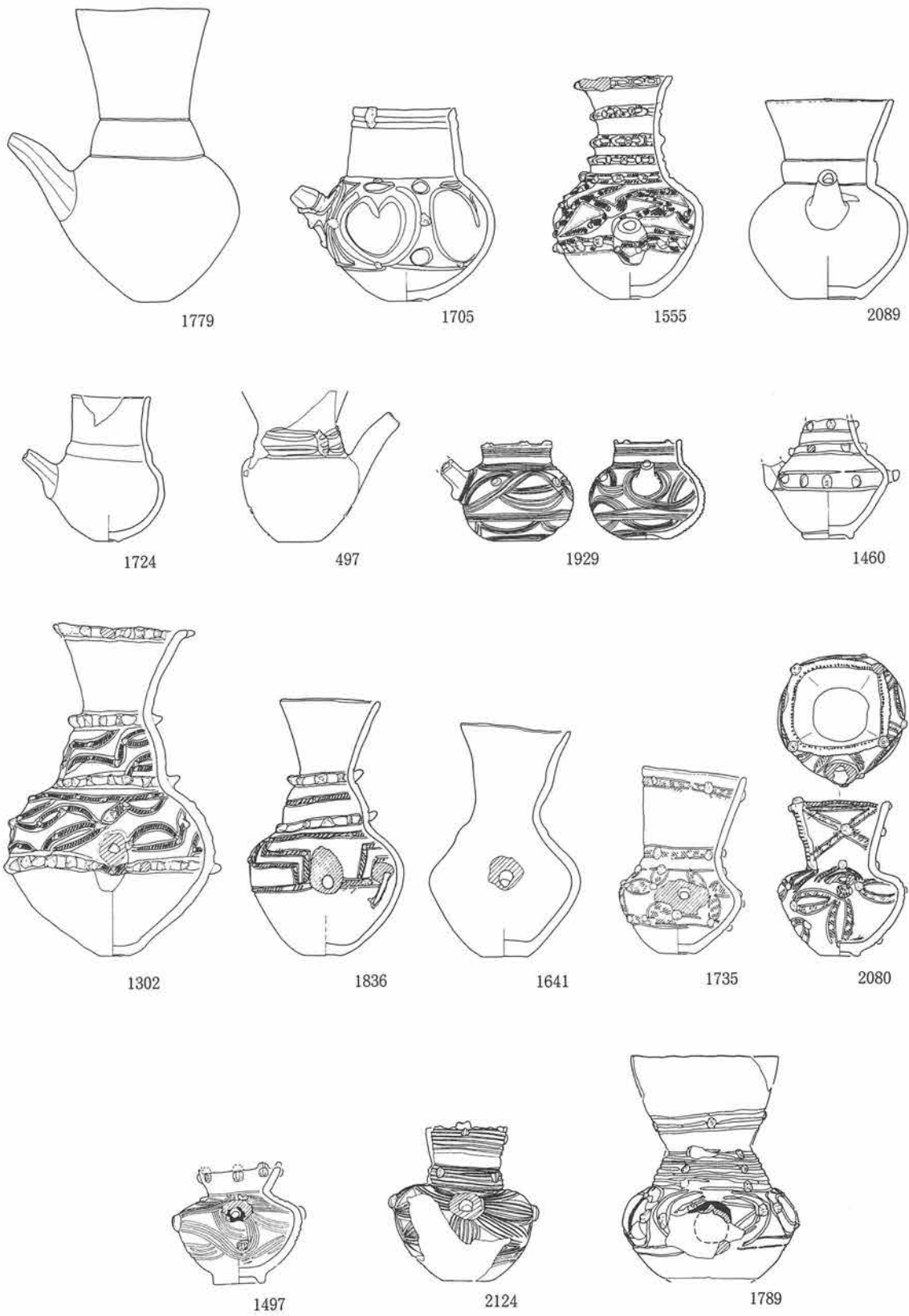
第466图 第三群5類土器集成图



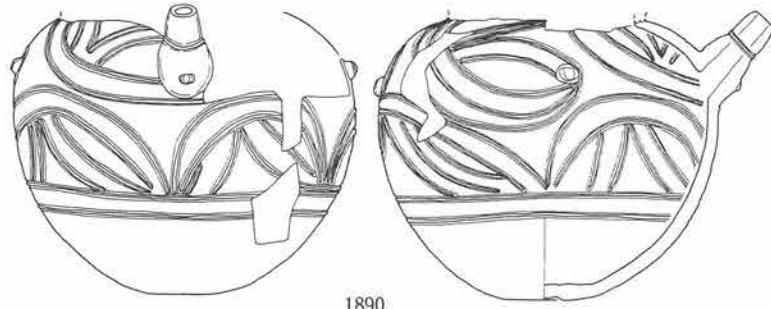
第467图 第三群5类土器集成图



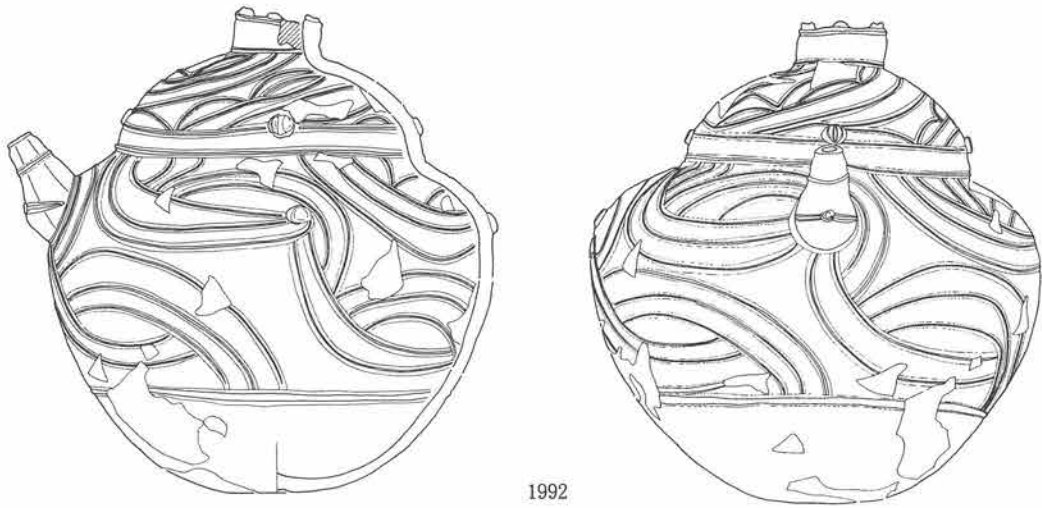
第468图 第三群5类土器集成图



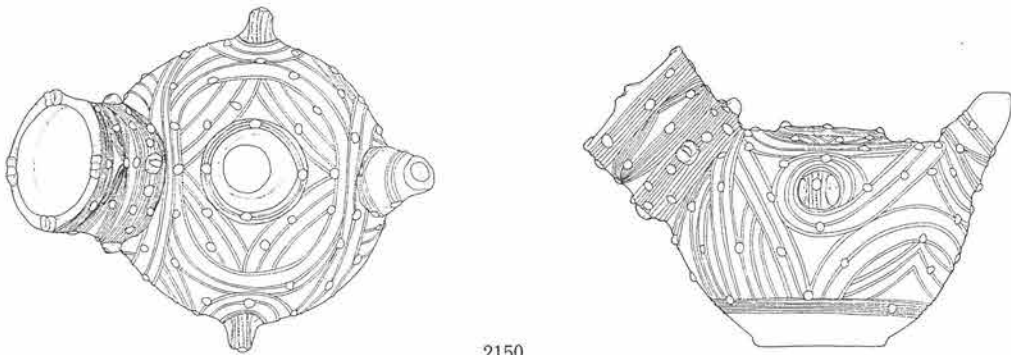
第469图 第三群5类土器集成图



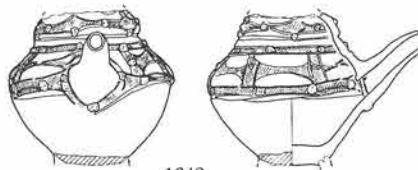
1890



1992

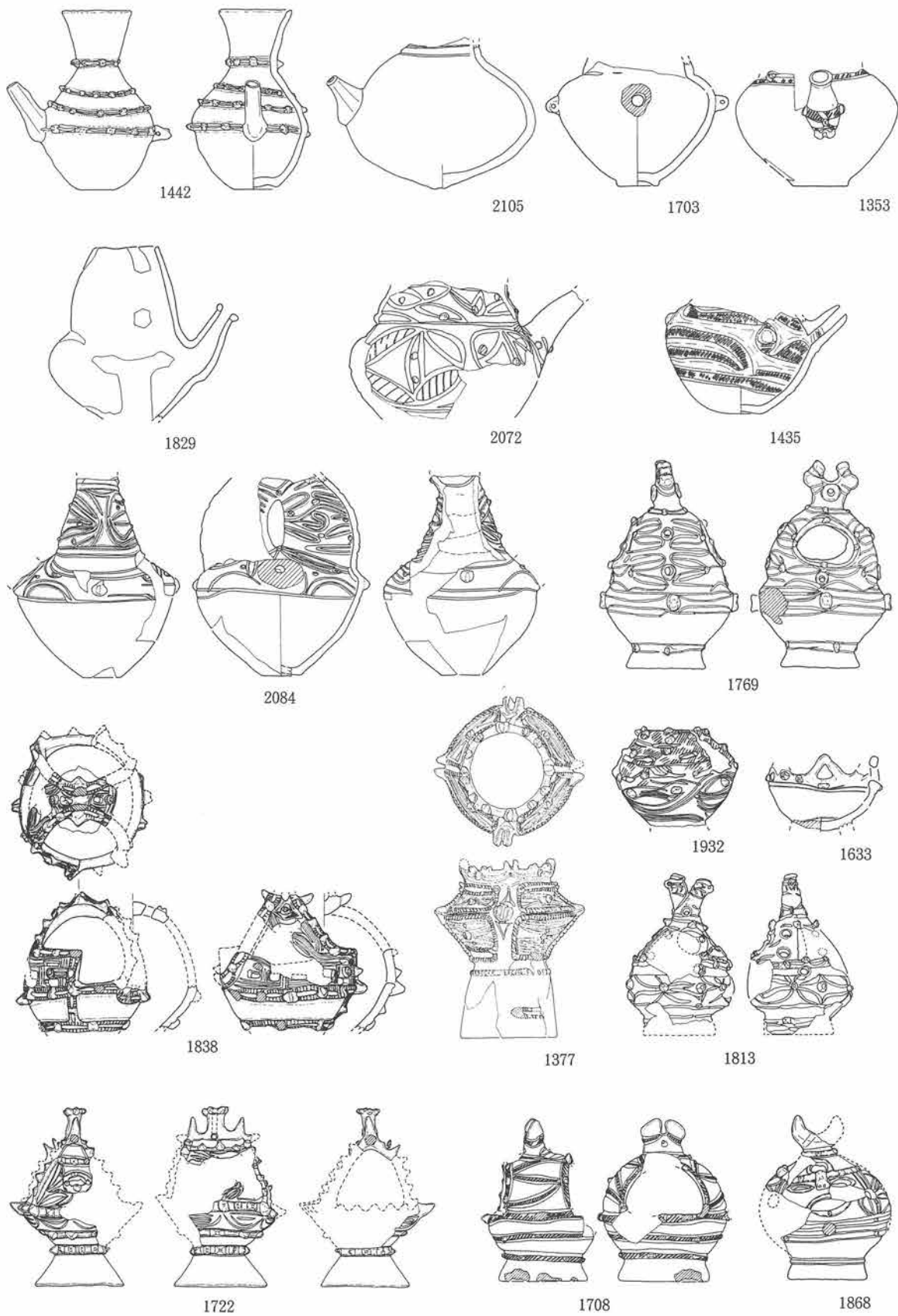


2150



1642

第470图 第Ⅲ群5類土器集成图



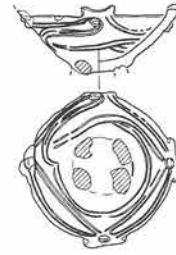
第471图 第三群5类土器集成图



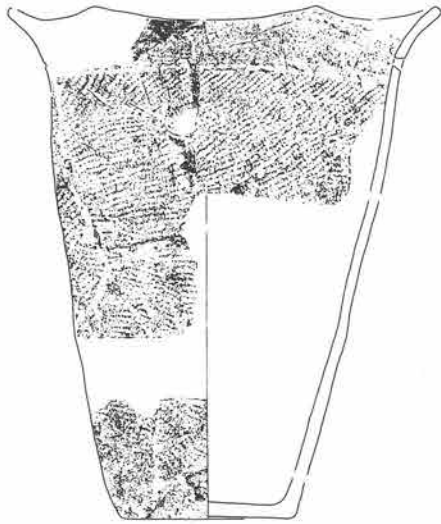
531



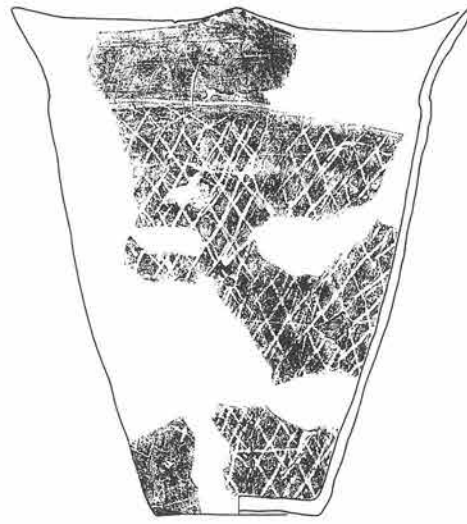
1739



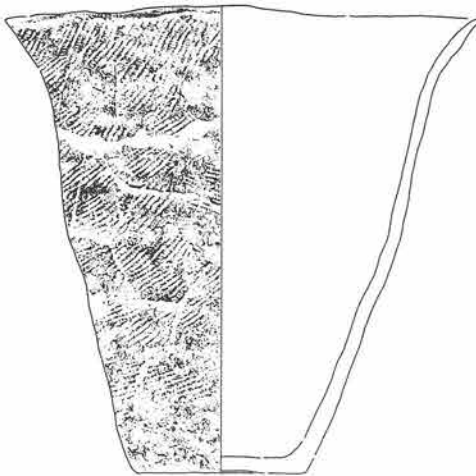
1358



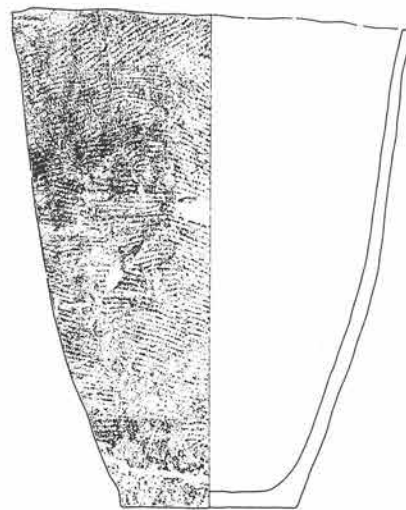
1606



2022

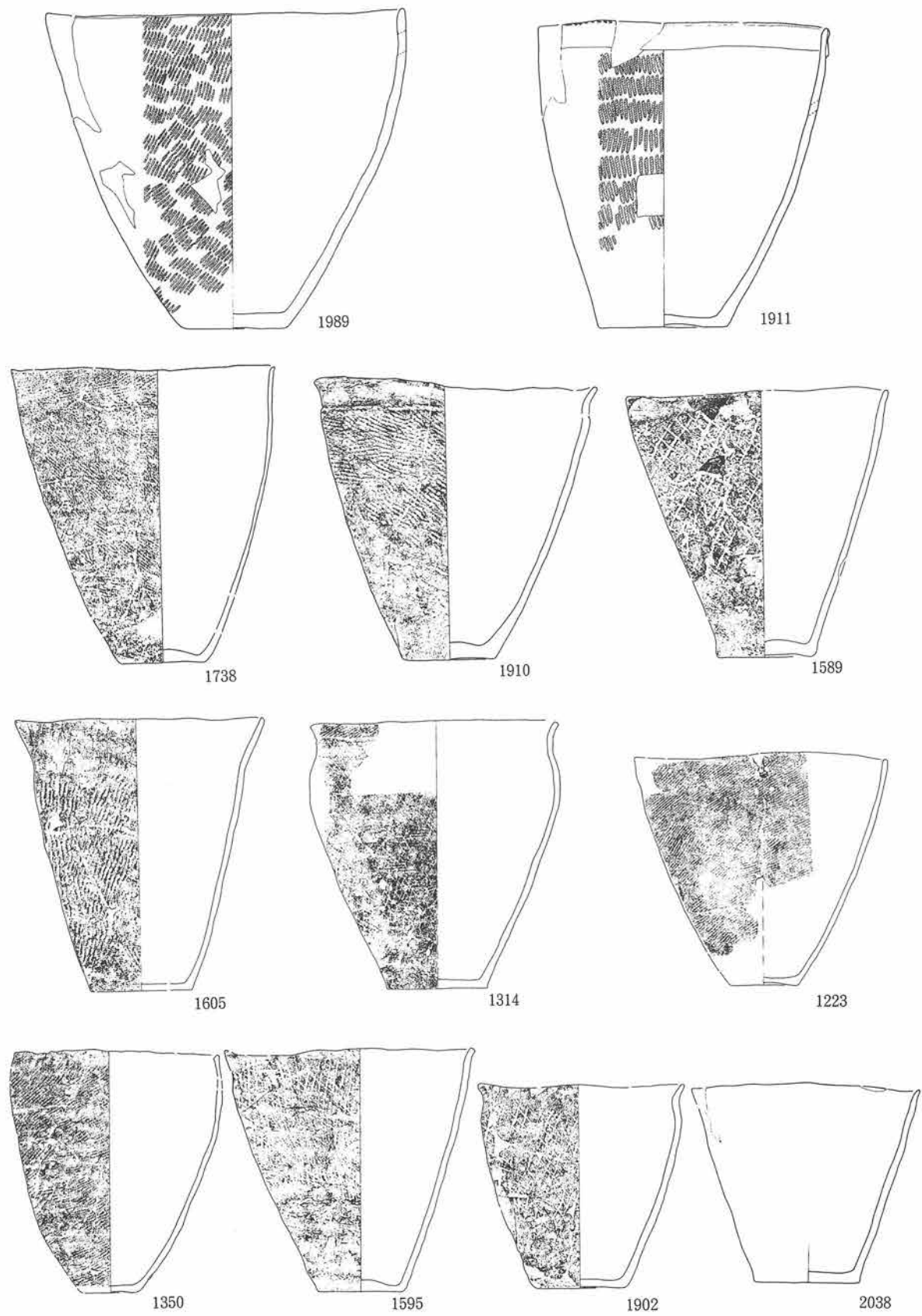


1219

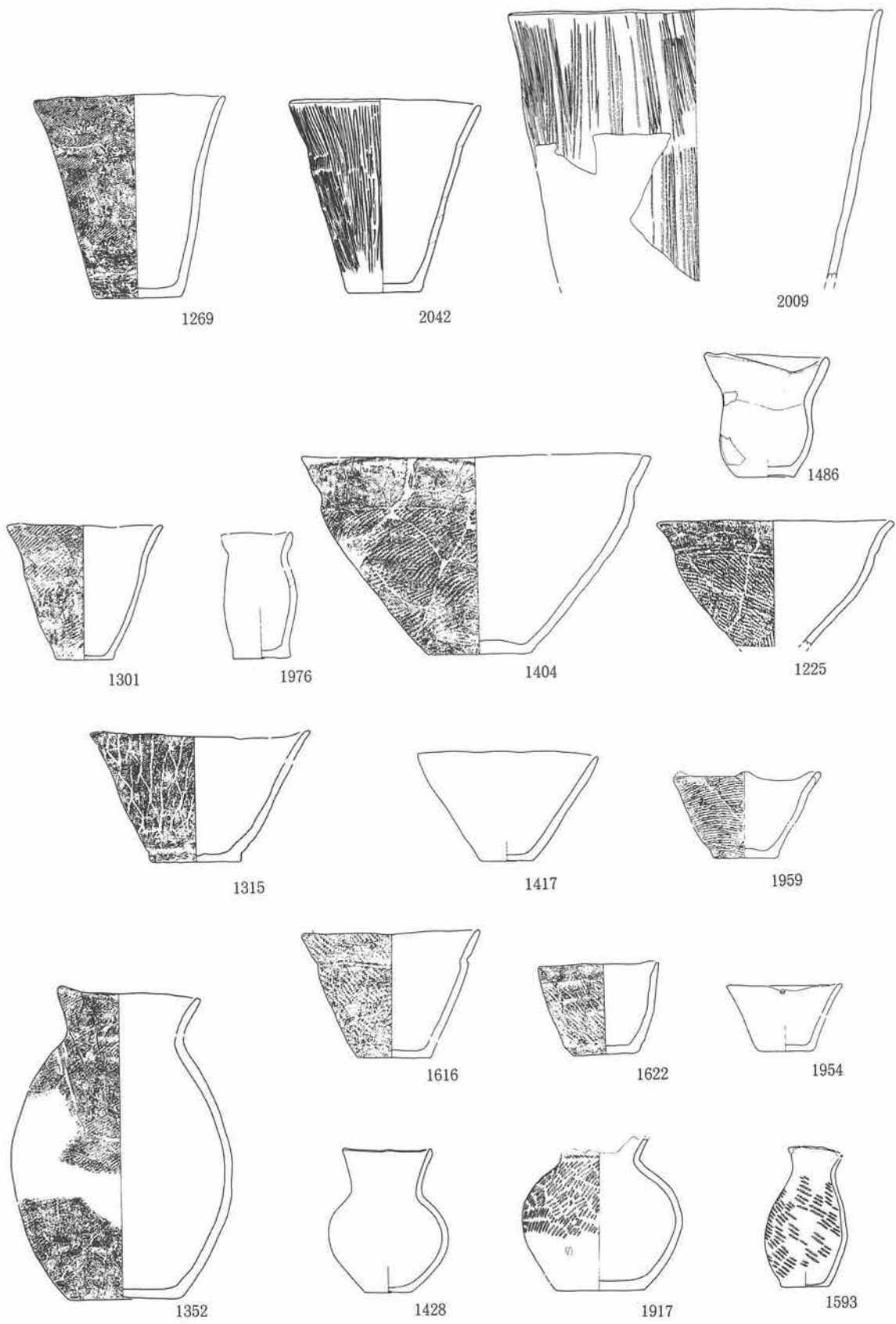


1549

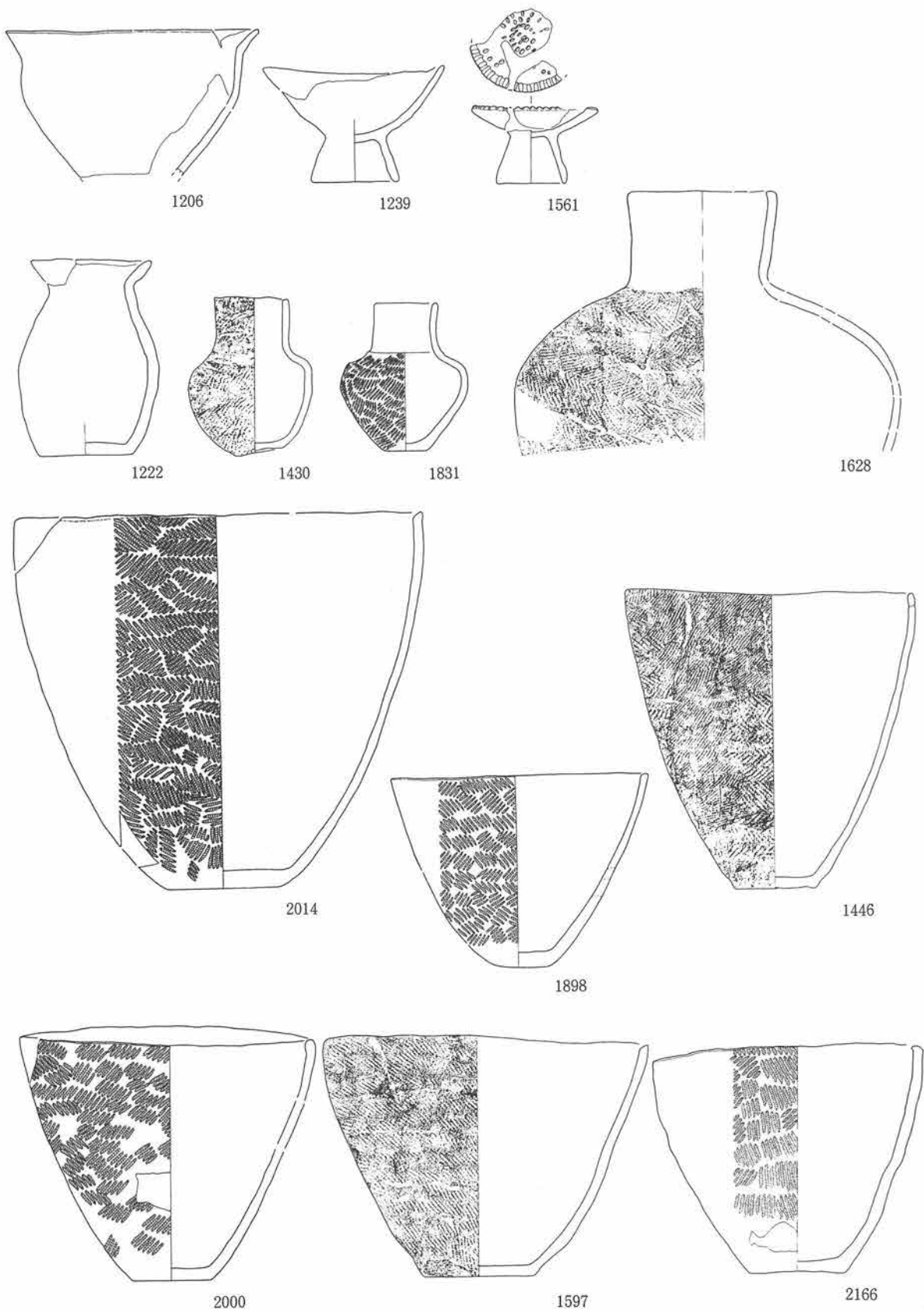
第472図 第Ⅲ群5類・第Ⅲ群6類-1土器集成図



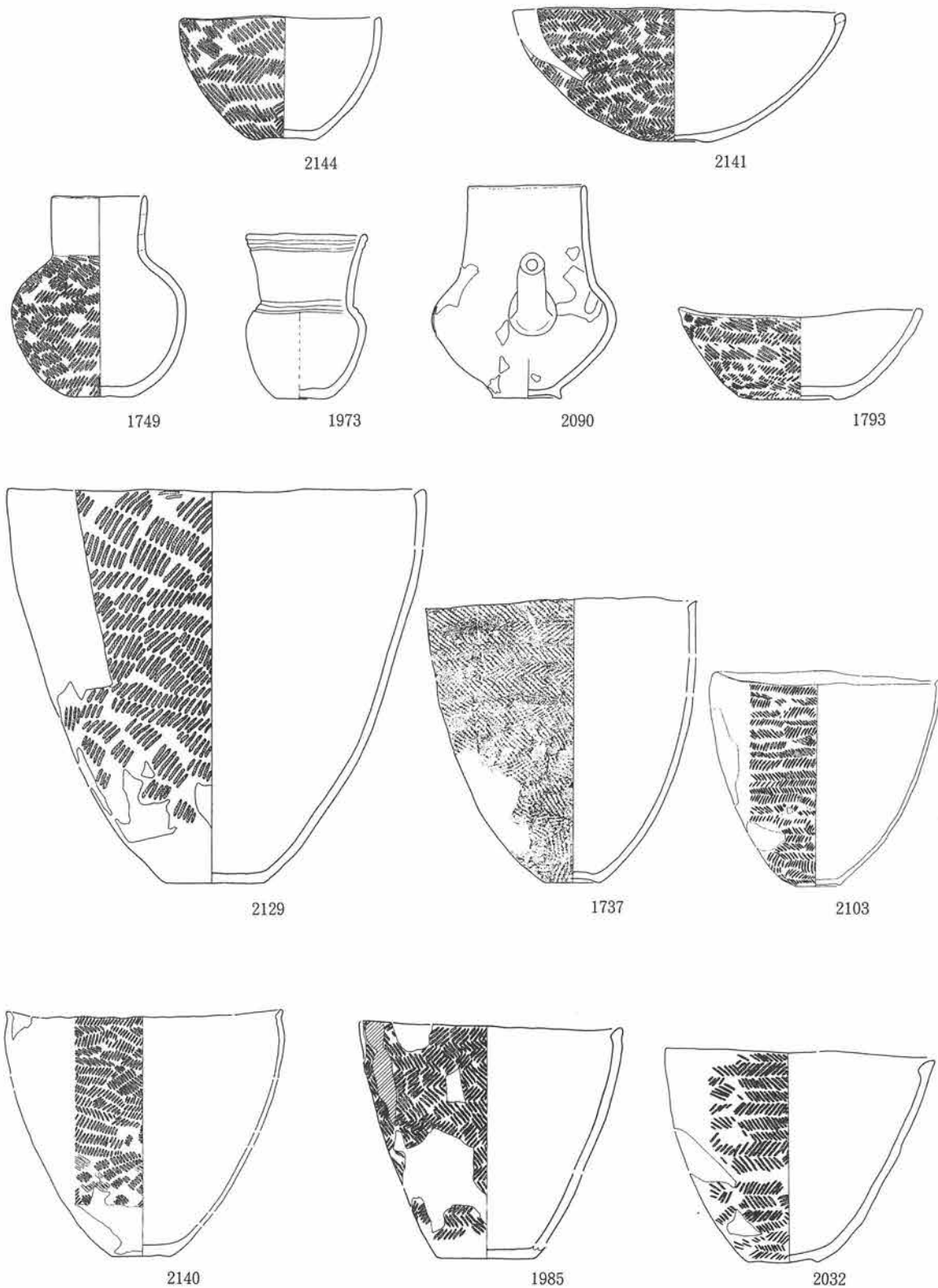
第473图 第三群6类-1 土器集成图



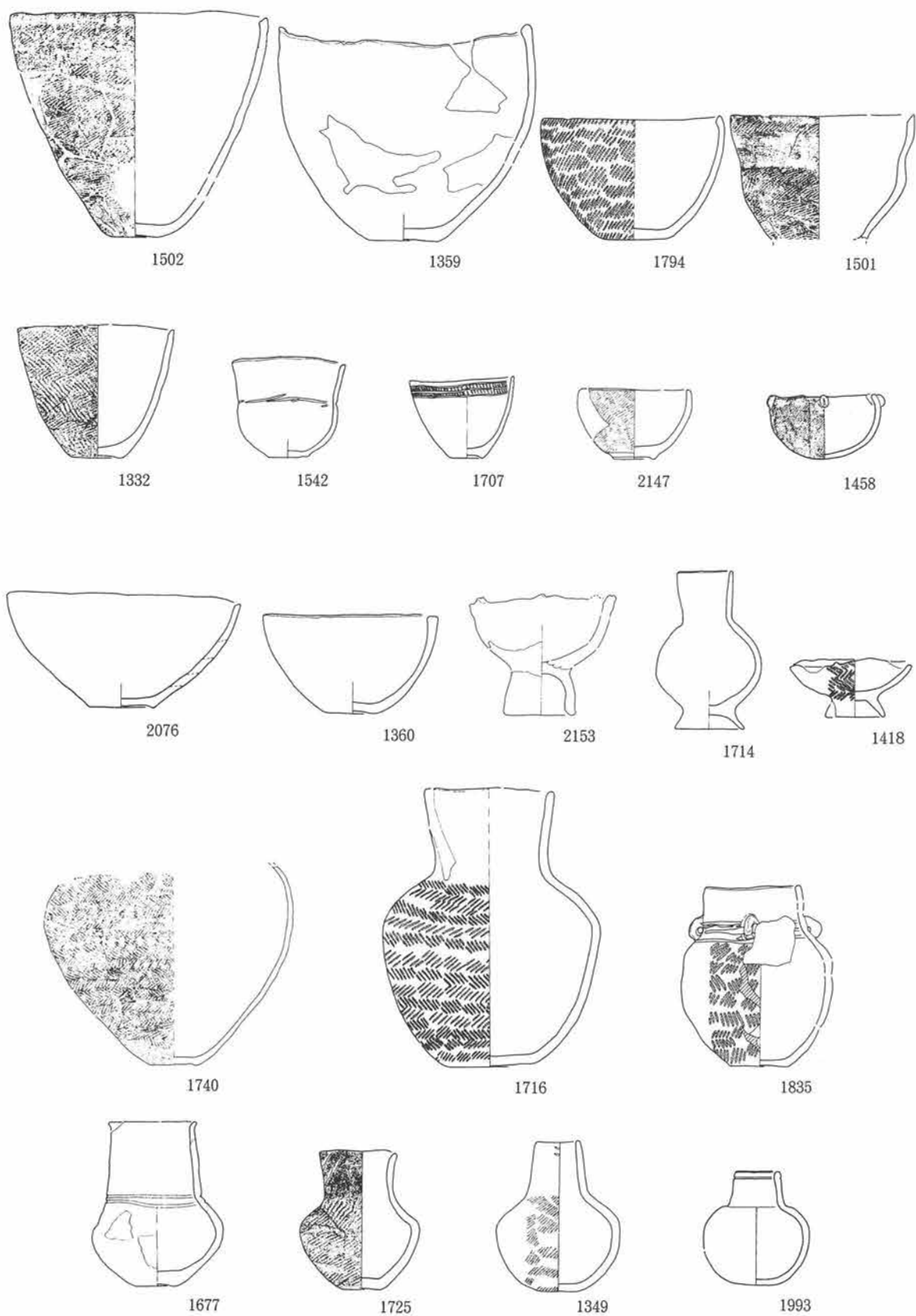
第474图 第三群6类-1 土器集成图



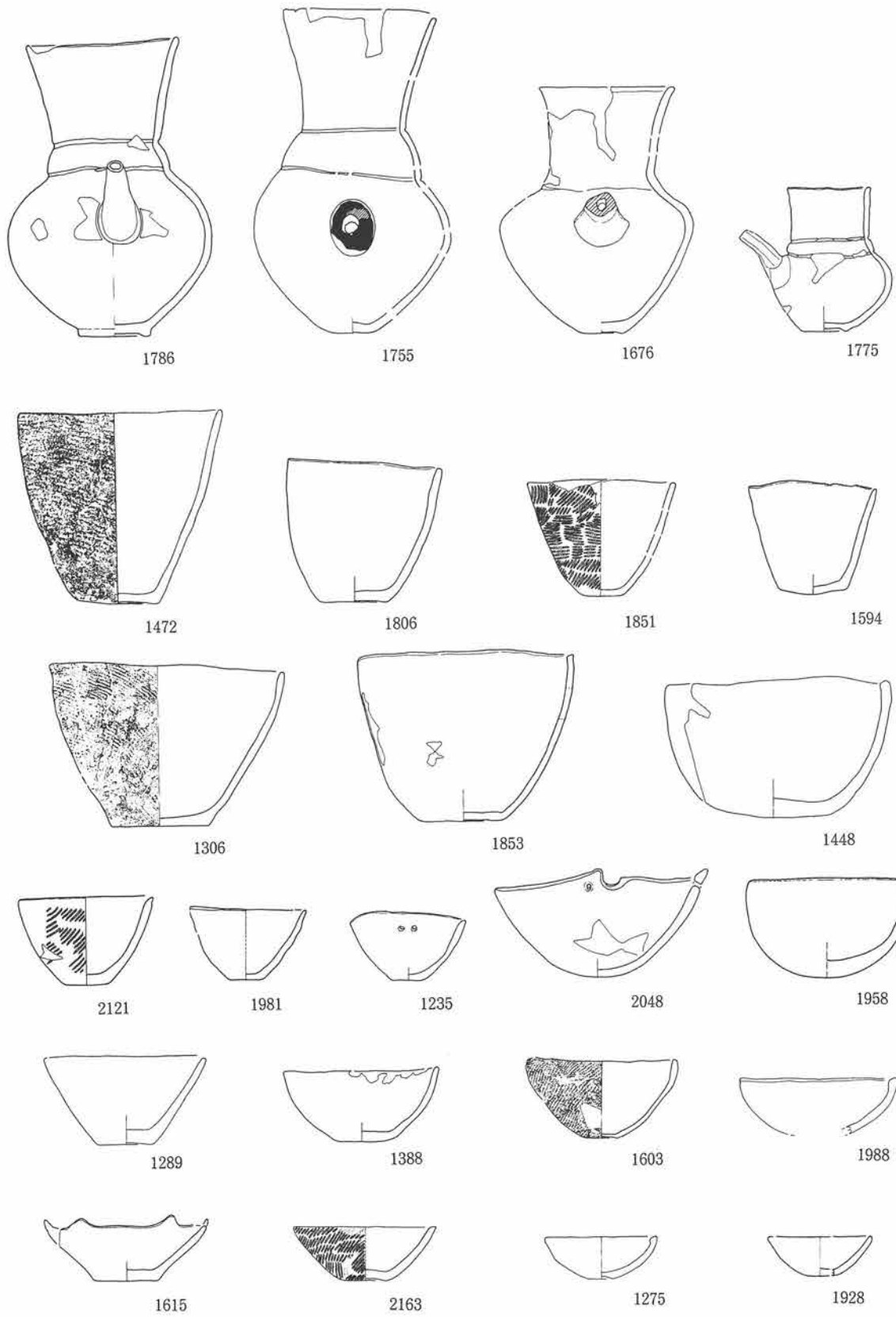
第475图 第三群6類-2・3土器集成图



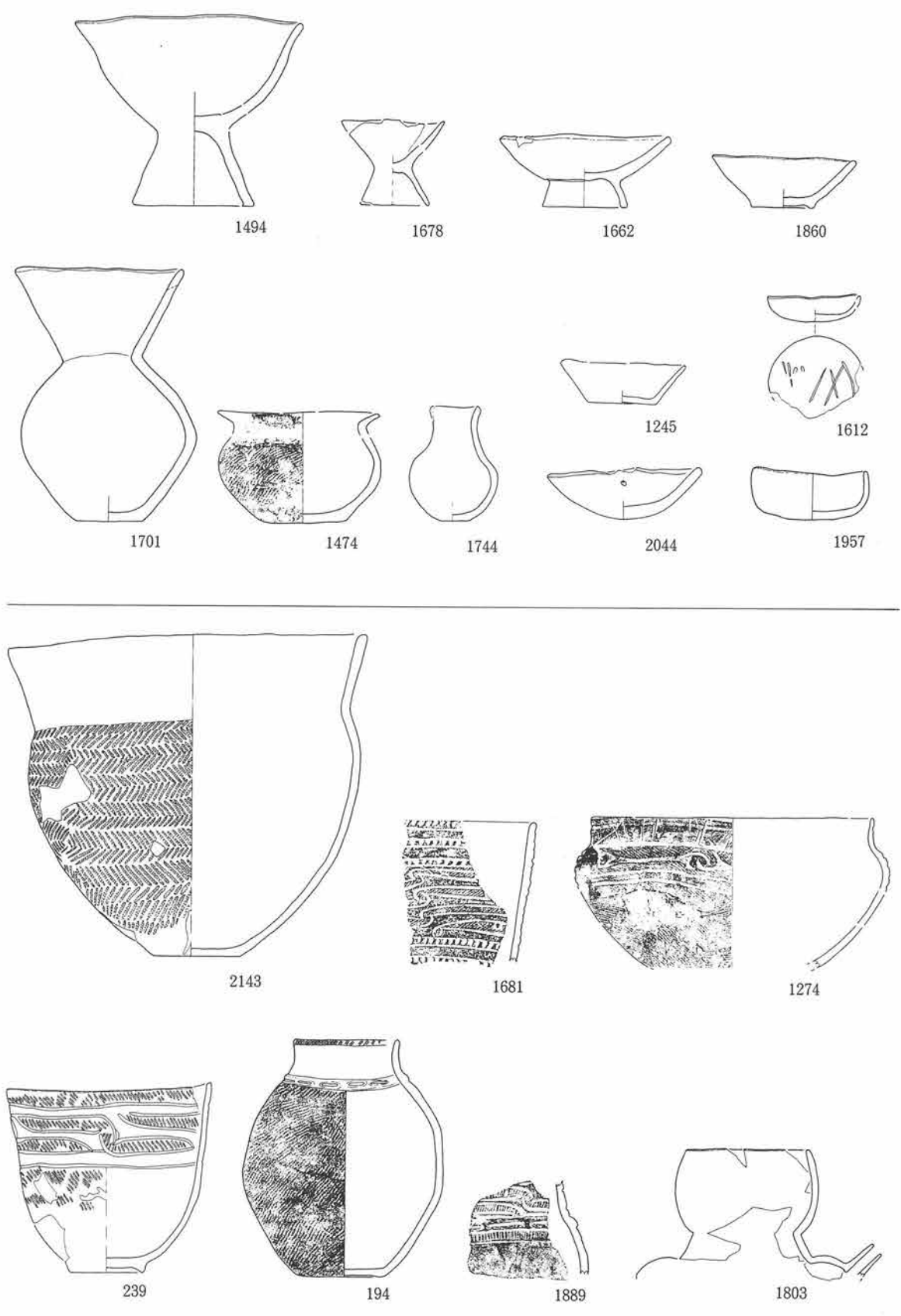
第476图 第三群6類-3・4土器集成图



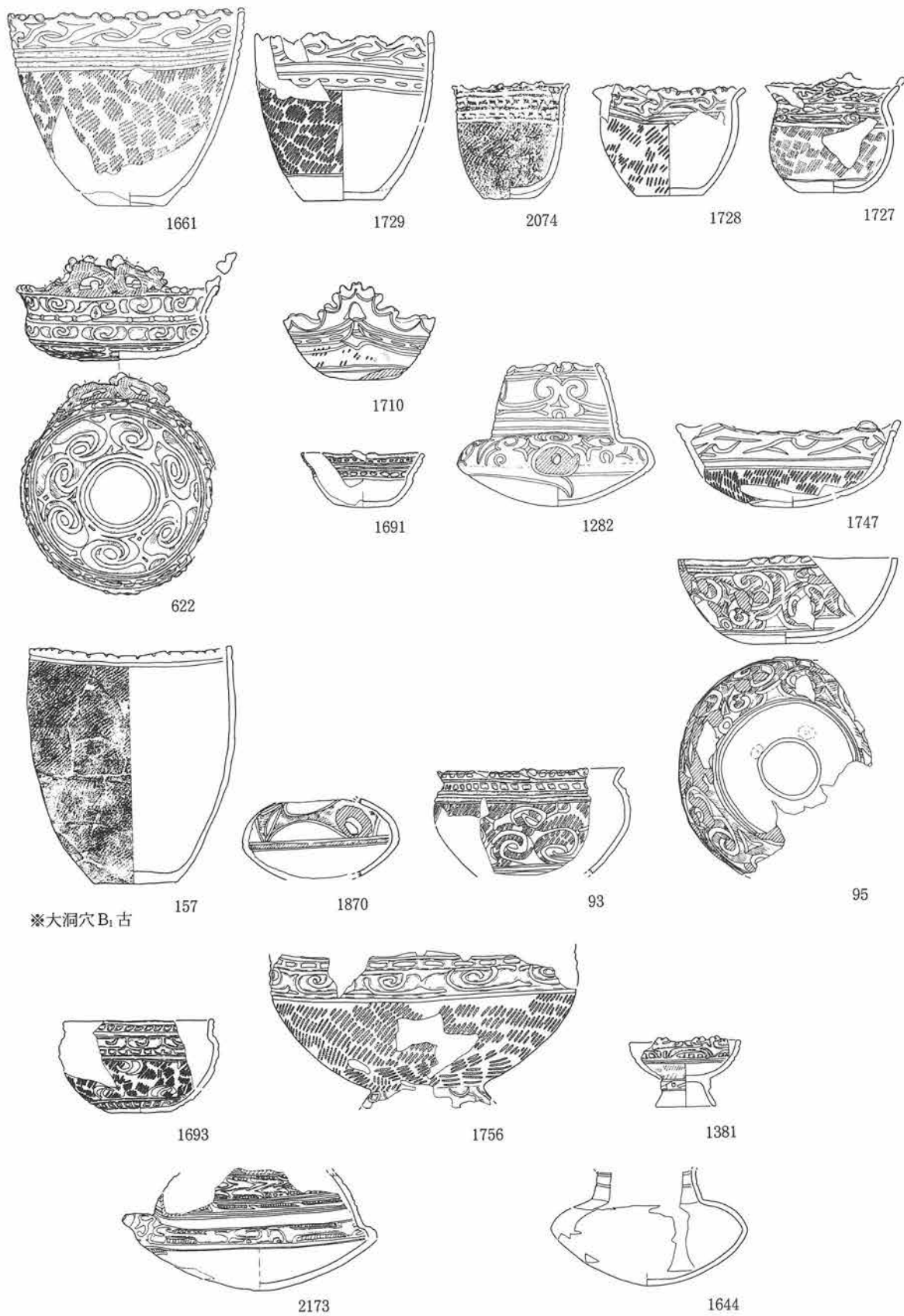
第477图 第三群6类-4 土器集成图



第478图 第三群6类-4 土器集成图

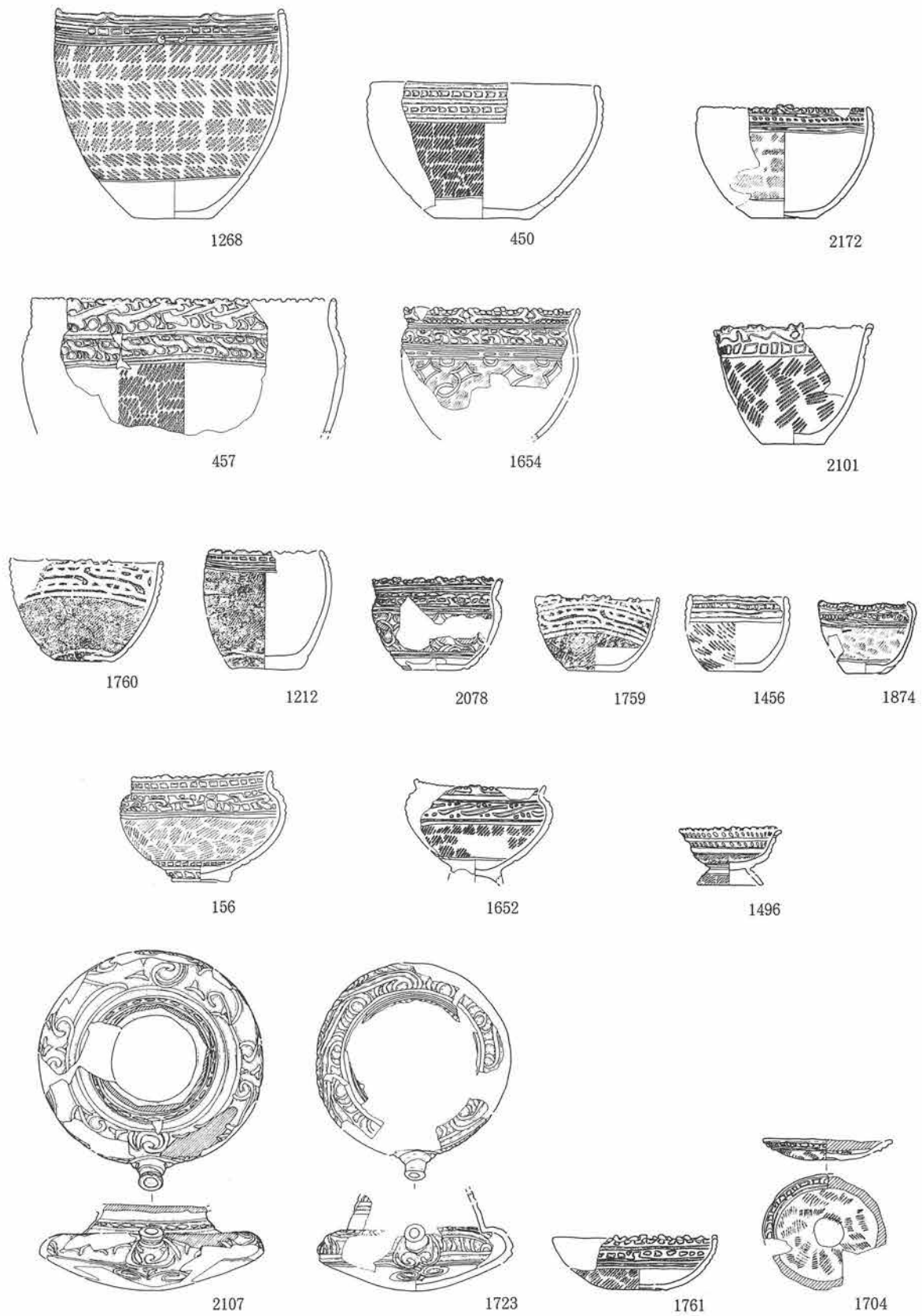


第479図 第三群6類・第四群1類-1土器集成図

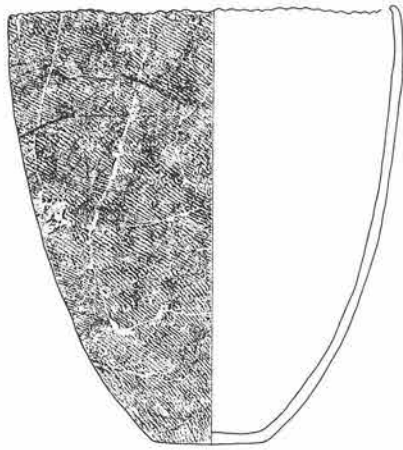


※大洞穴B₁古

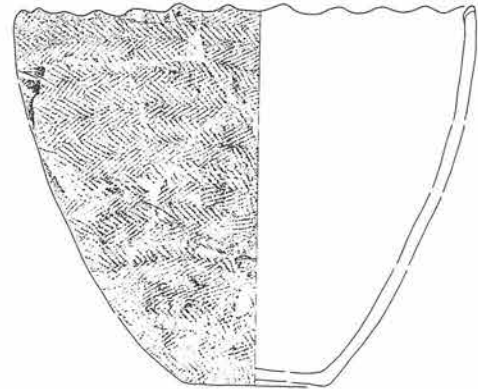
第480图 第IV群1類-2・第IV群2類土器集成图



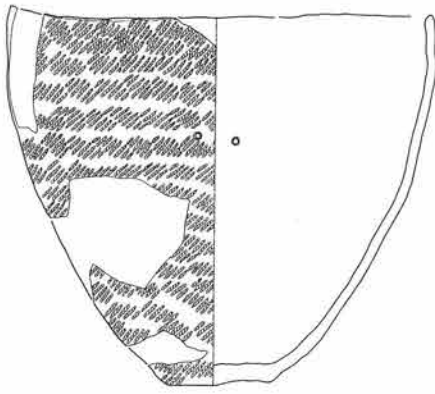
第481图 第IV群2類-2土器集成图



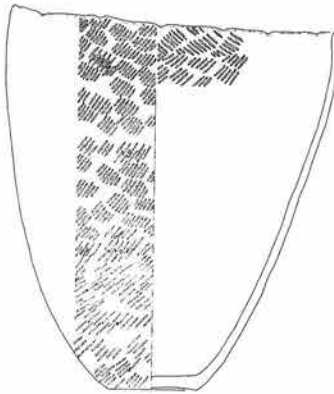
1762



1620



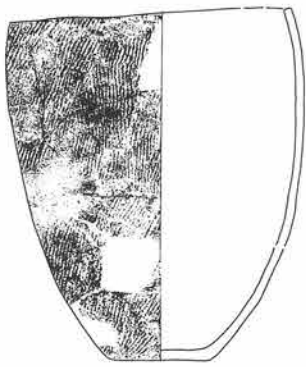
1665



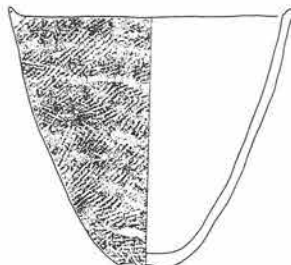
1695



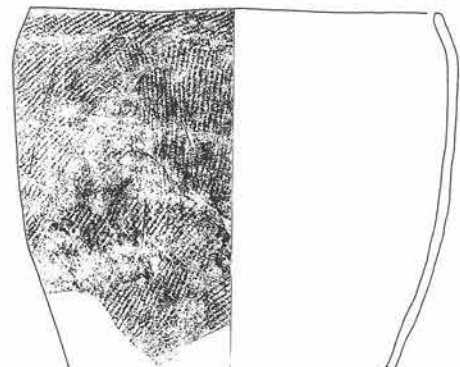
1715



193



1742



134



1575

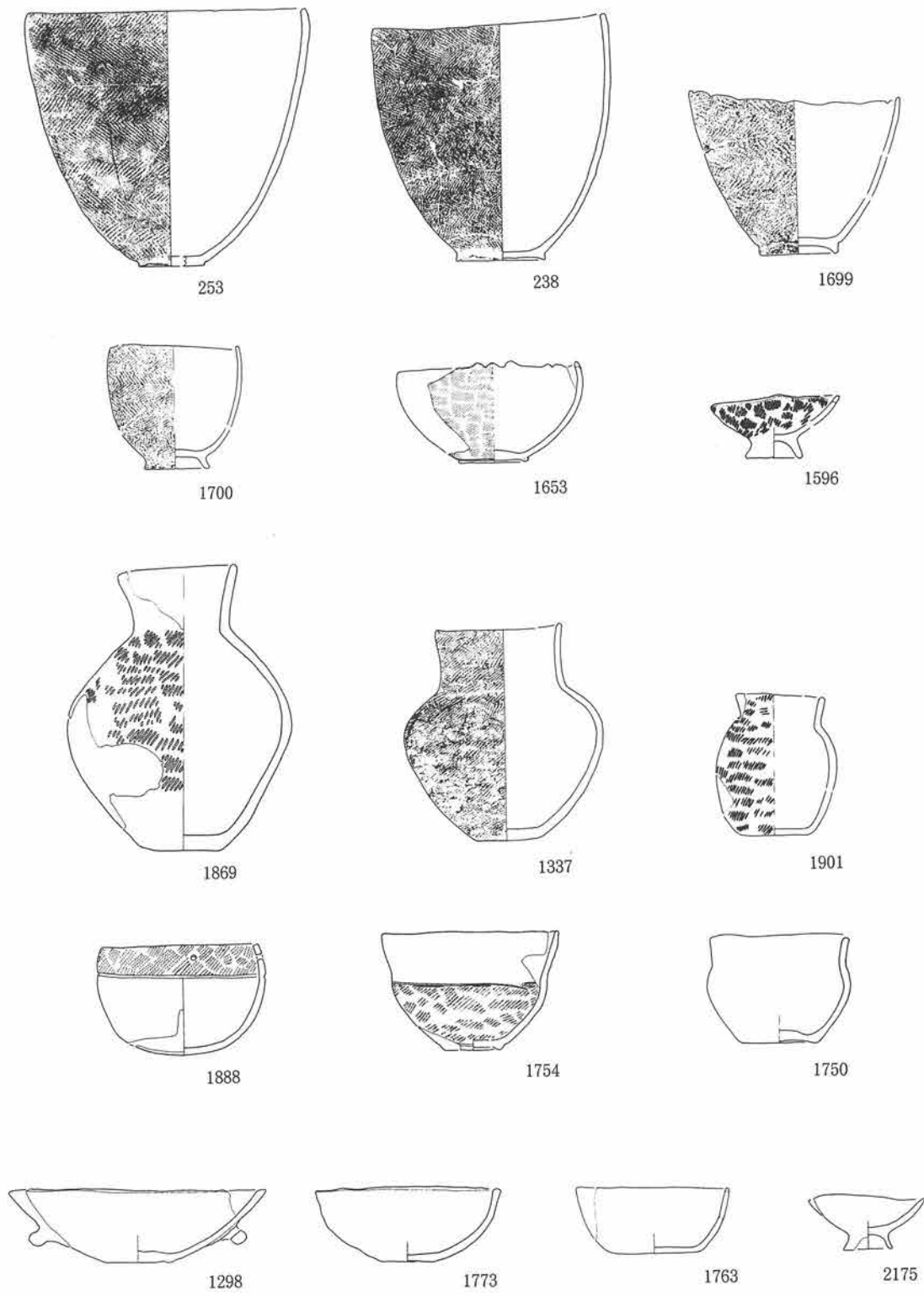


1751

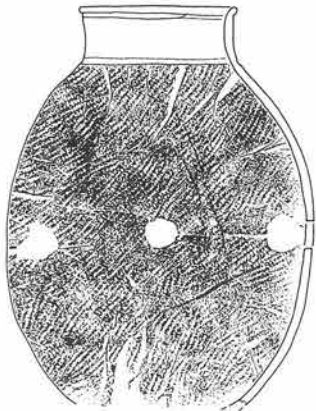


2052

第482図 第IV群5類土器集成図



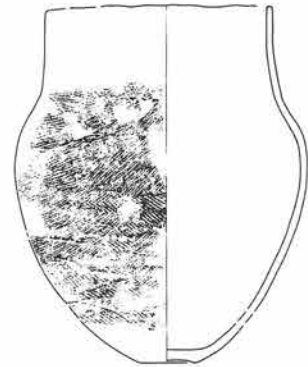
第483図 第IV群5類・第IV群6類土器集成図



286



2176



763



1663



1297



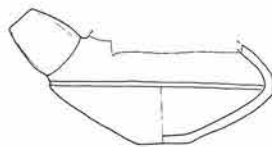
1741



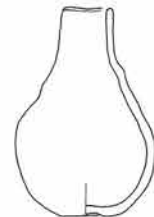
1296



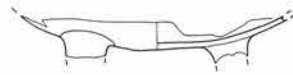
240



1933



1892

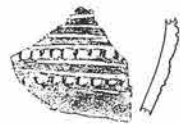


1508

第484図 第IV群5類・第IV群6類土器集成図



1624



502



503



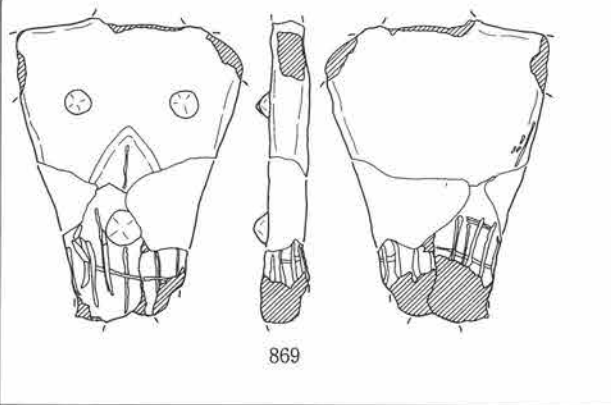
473



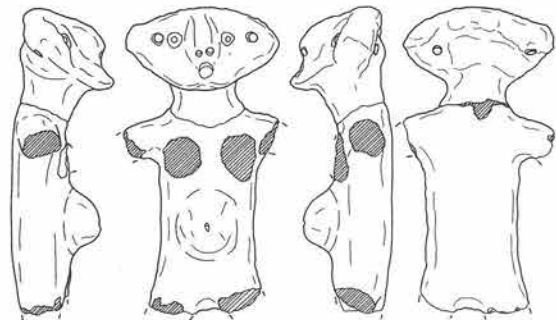
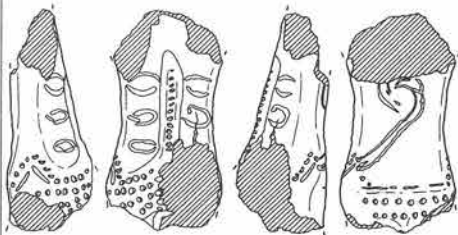
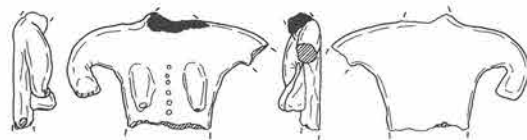
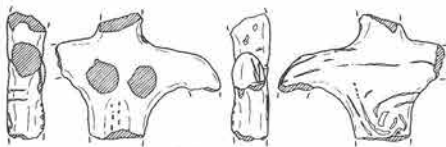
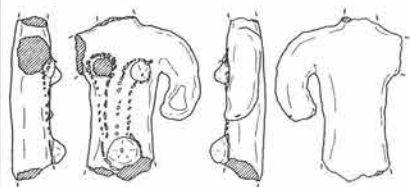
9

第485图 第V群土器集成图

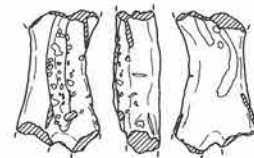
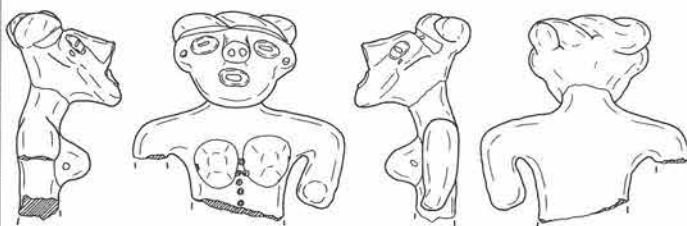
後
期
初
頭



後
期
前
葉
、
中
葉



後
期
中
葉



第486図 土偶集成図1



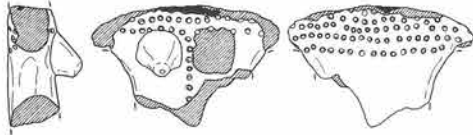
2464



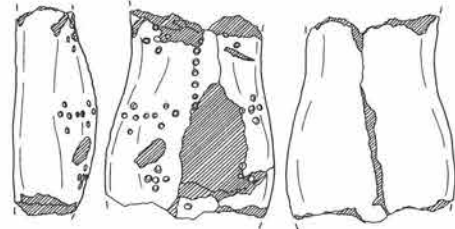
2510



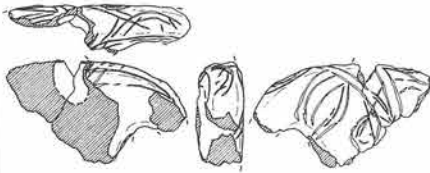
2401



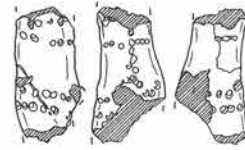
2413



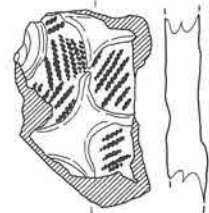
2465



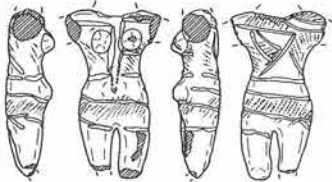
2400



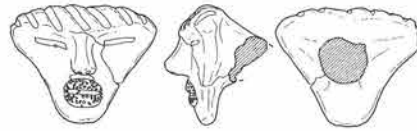
2457



841



2332



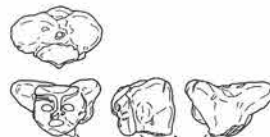
2396



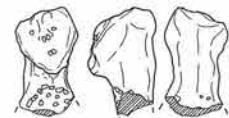
2319



2320



2322



2478



2504



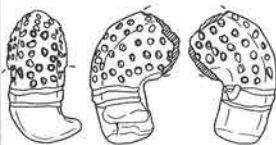
2316



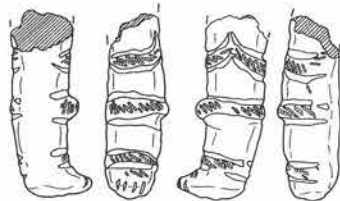
2550



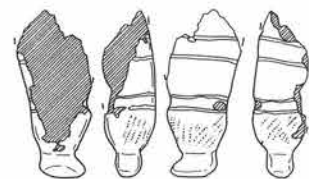
2338



2546



2349



2342

第487図 土偶集成図2

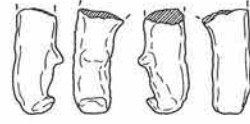
後期中葉



2351



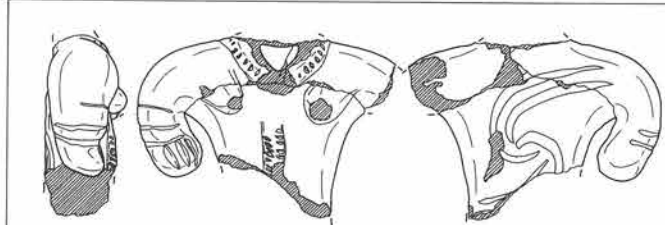
2339



2340

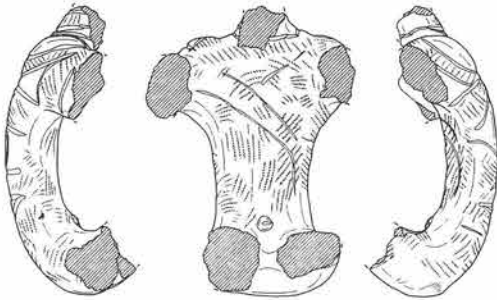


2364

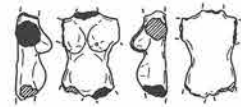


2454

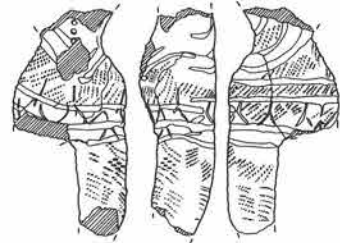
後期中葉、後葉



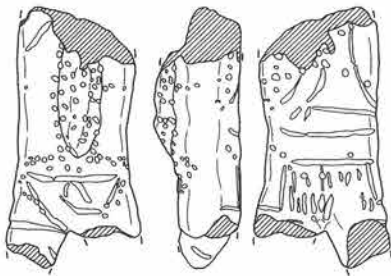
2402



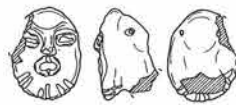
2326



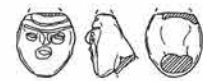
2511



871



2495

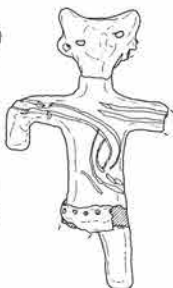


2494

後期後葉

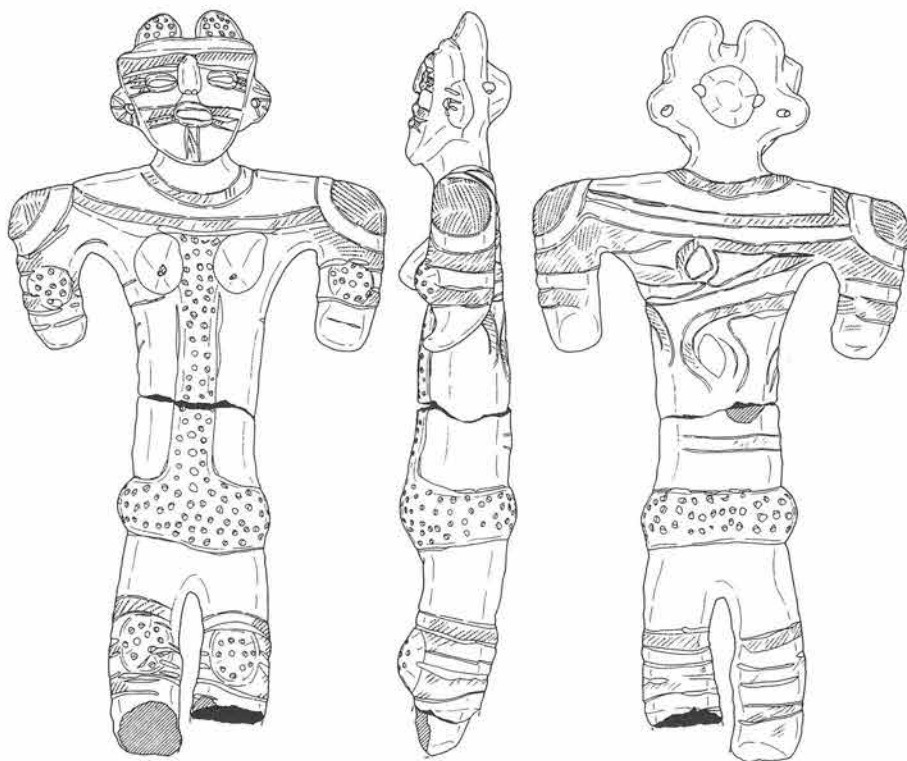


2392

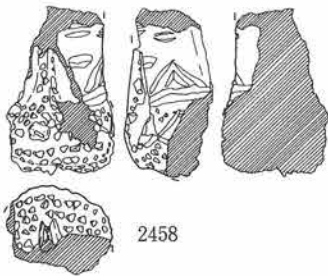


2334

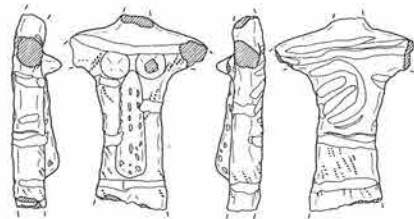
第488図 土偶集成図3



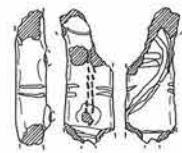
2416



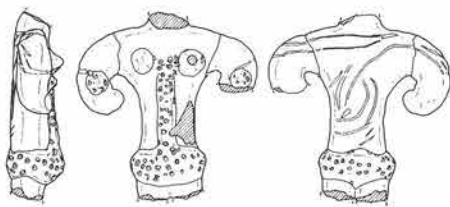
2458



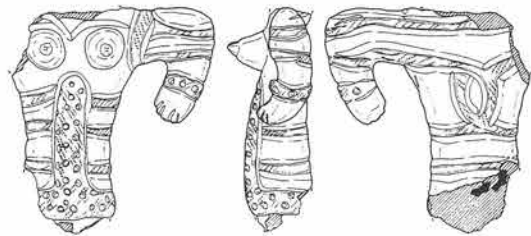
2399



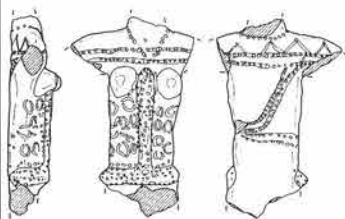
2331



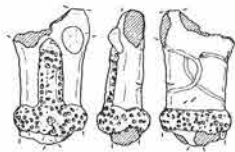
2438



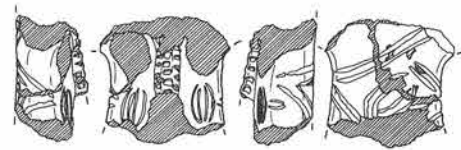
2441



2432



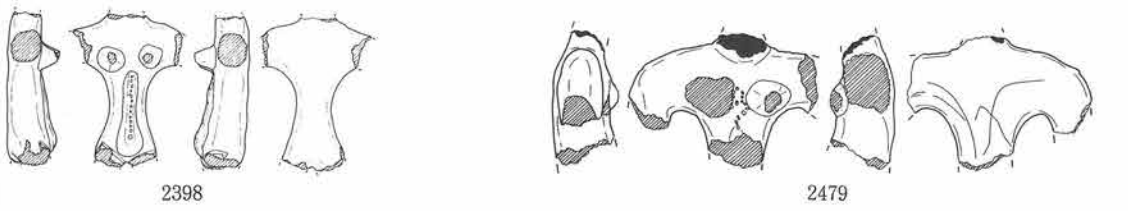
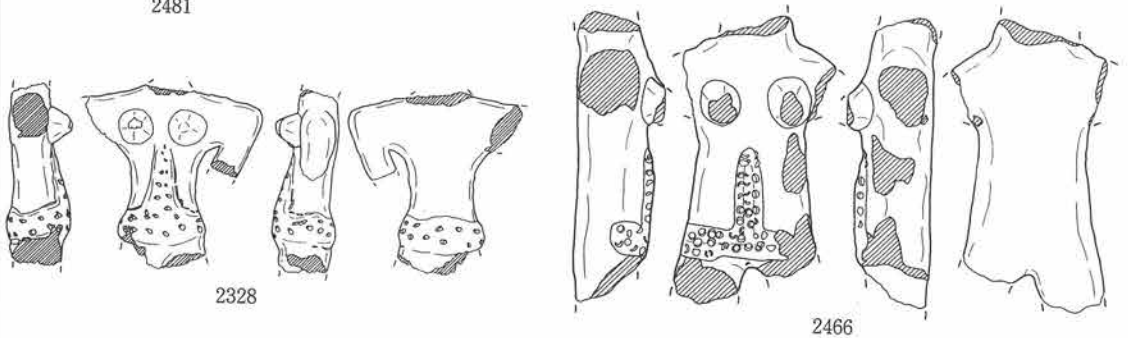
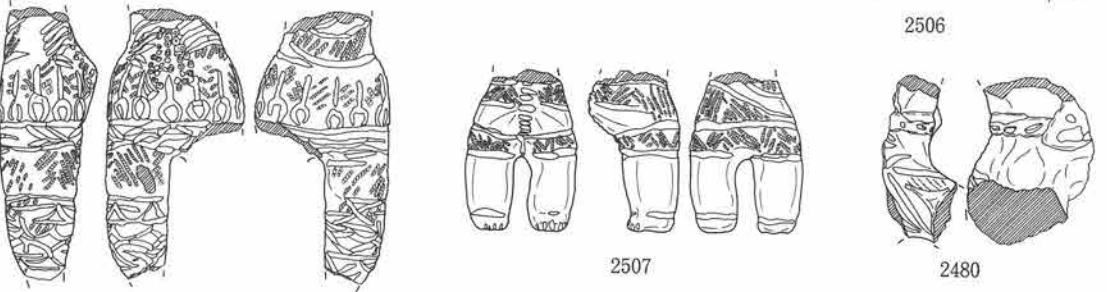
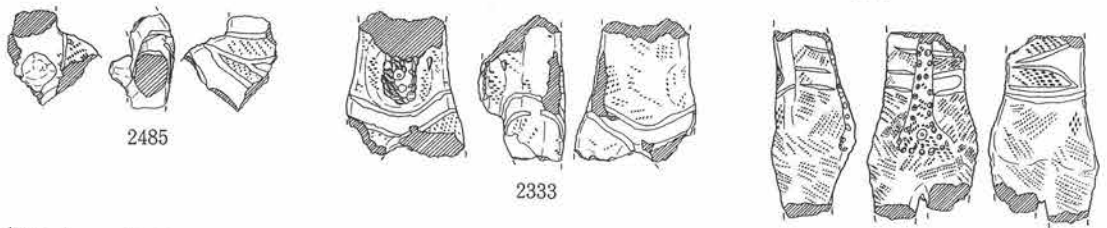
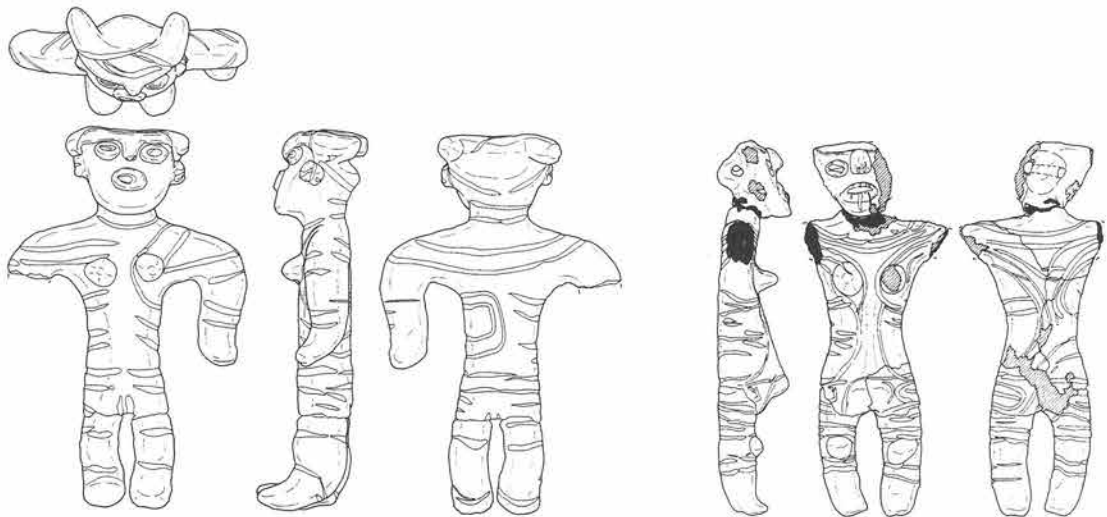
2412



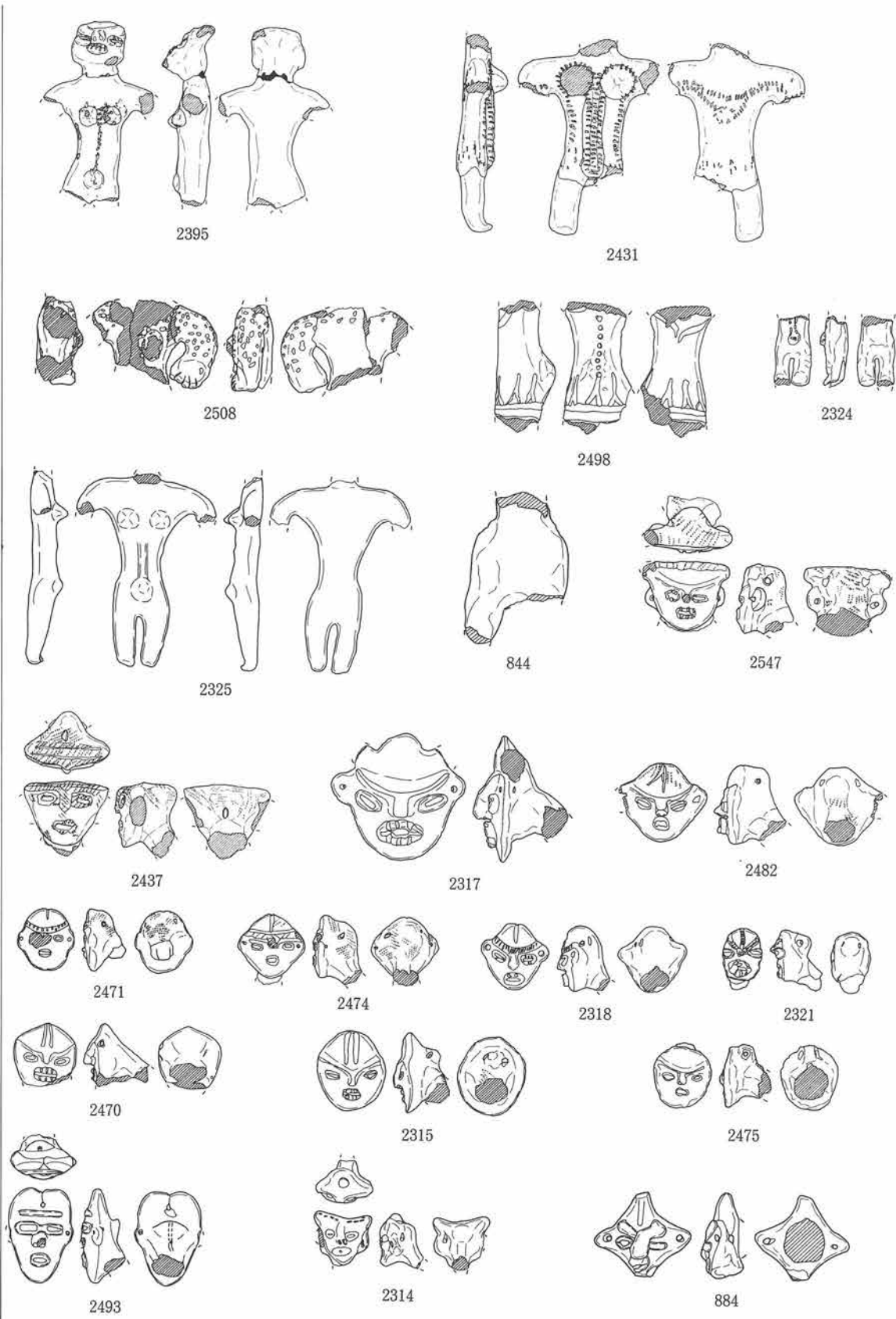
2484

第489圖 土偶集成圖4

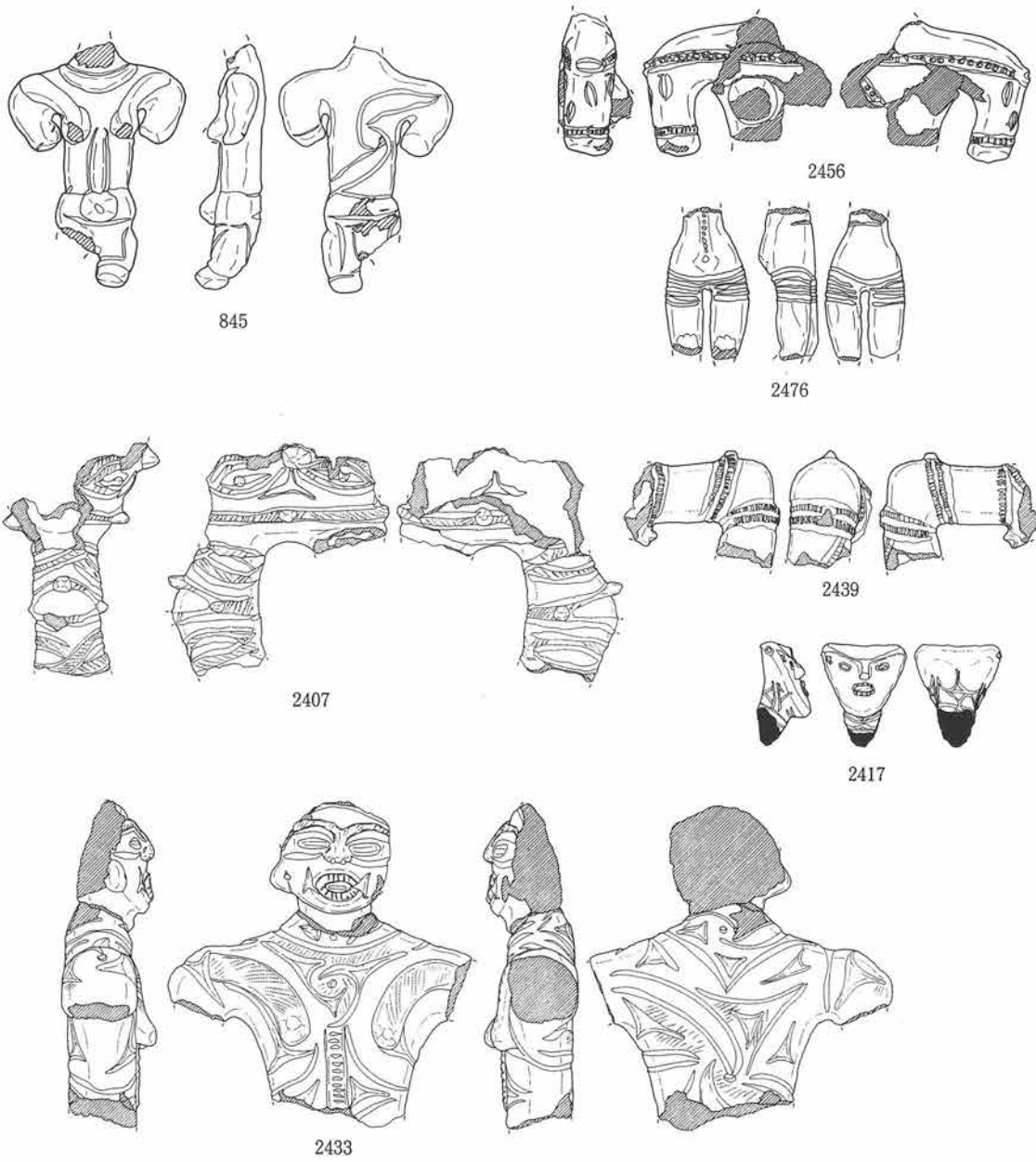
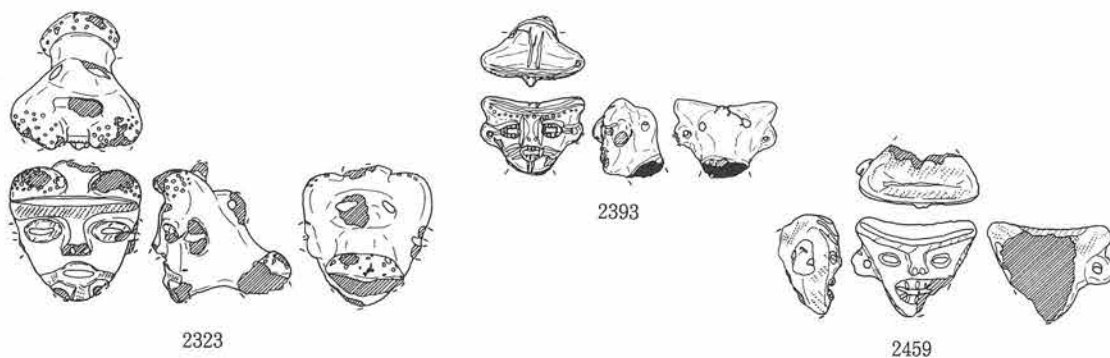
後
期
後
葉



第490図 土偶集成図 5

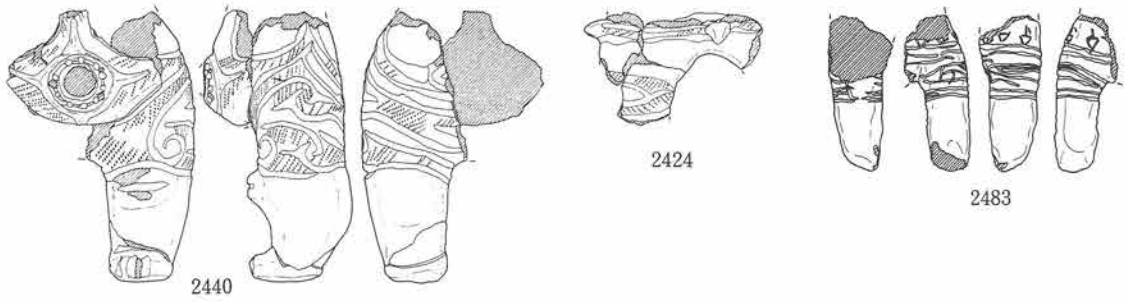


第491圖 土偶集成圖6



第492図 土偶集成図 7

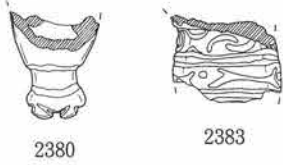
後期後葉、末葉



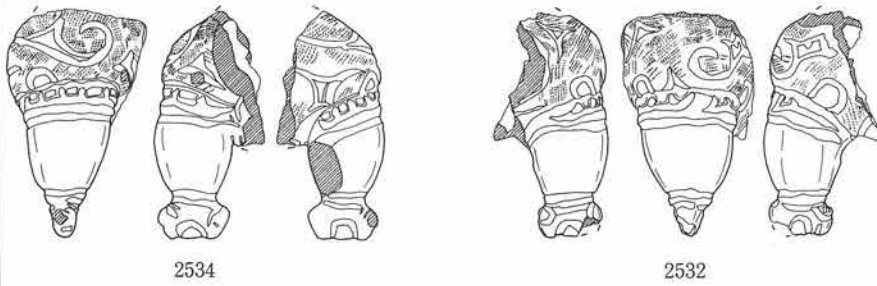
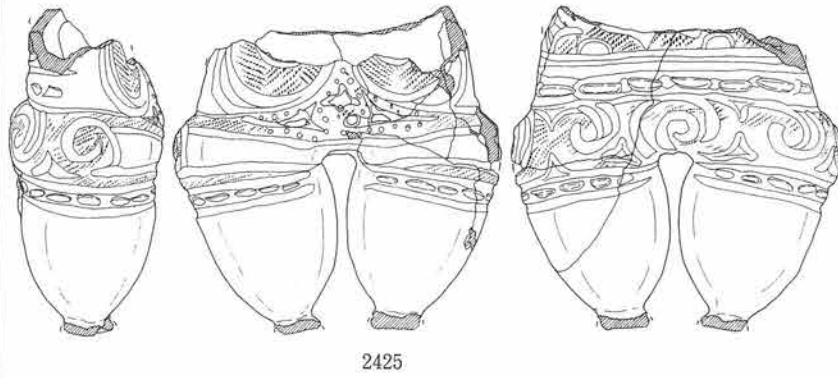
後期末葉、晩期



晩期初頭



晩期前葉



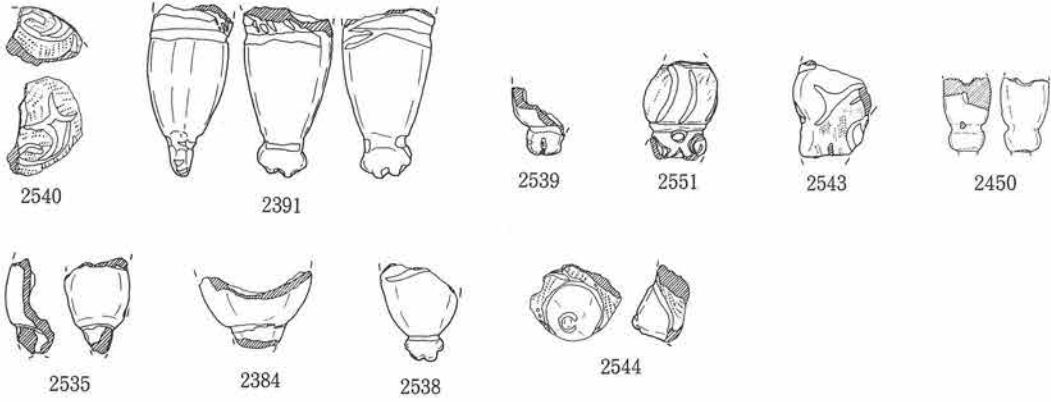
第493図 土偶集成図 8

晩期中葉



2453

晩期



2540

2391

2539

2551

2543

2450

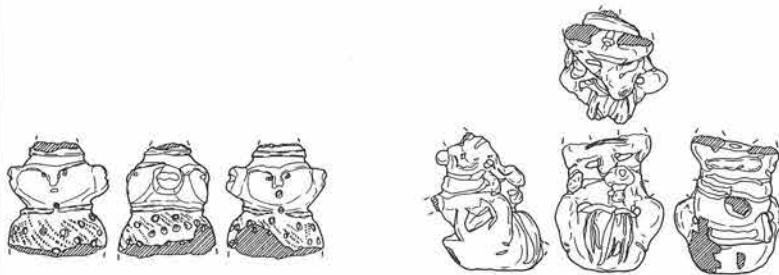
2535

2384

2538

2544

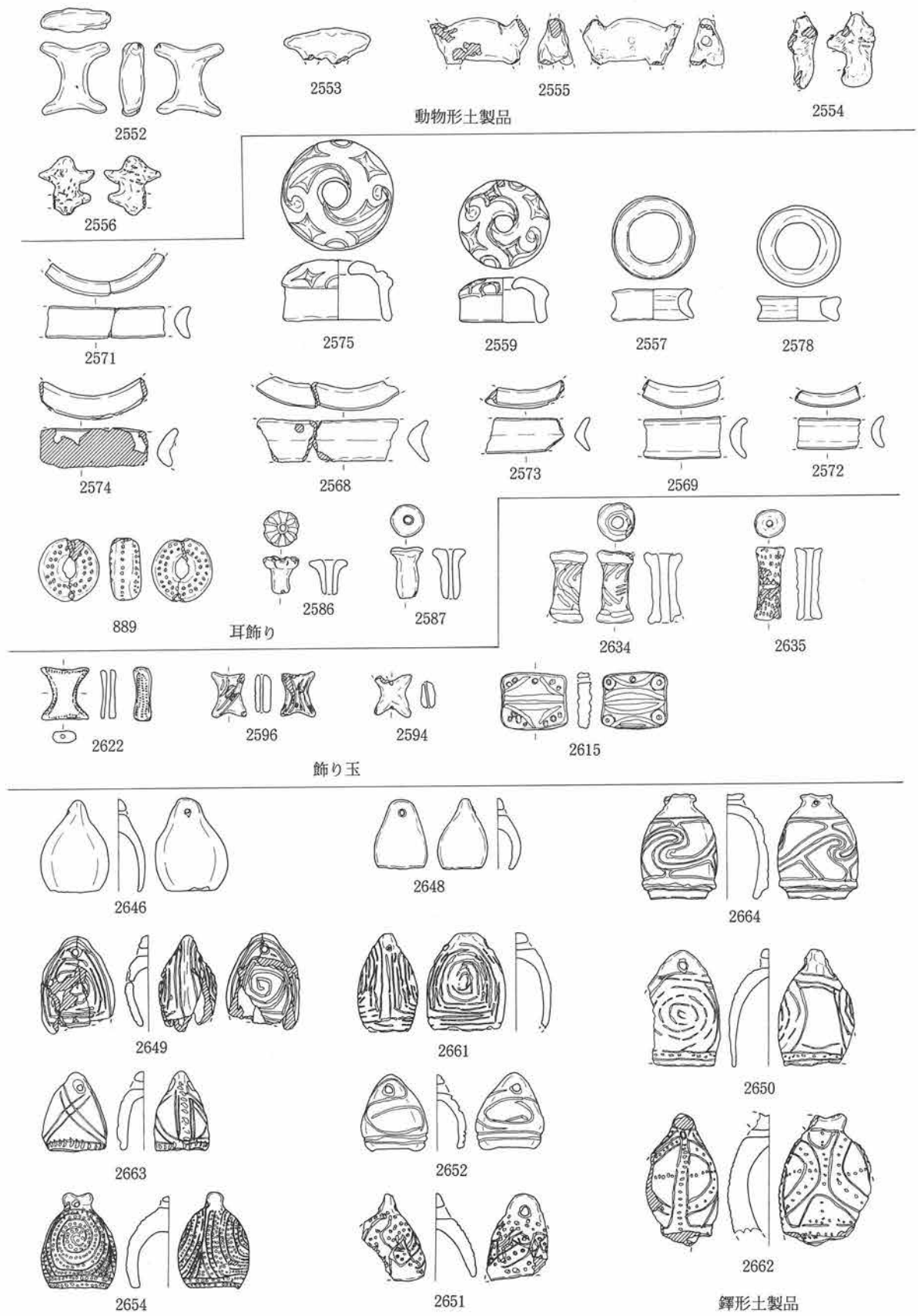
その他



2503

2473

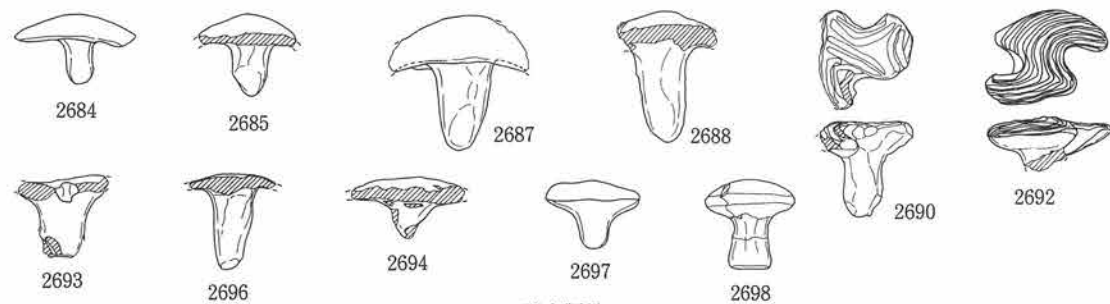
第494図 土偶集成図9



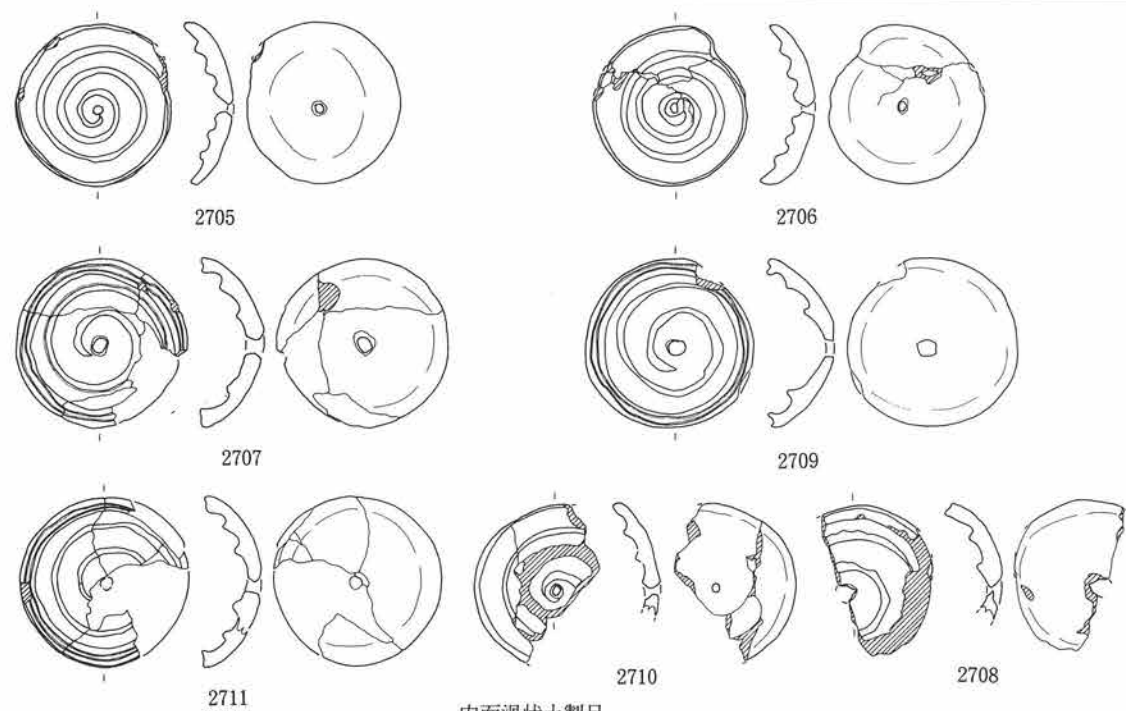
第495図 動物形・耳飾り・飾り玉・鐸形土製品



分銅形土製品

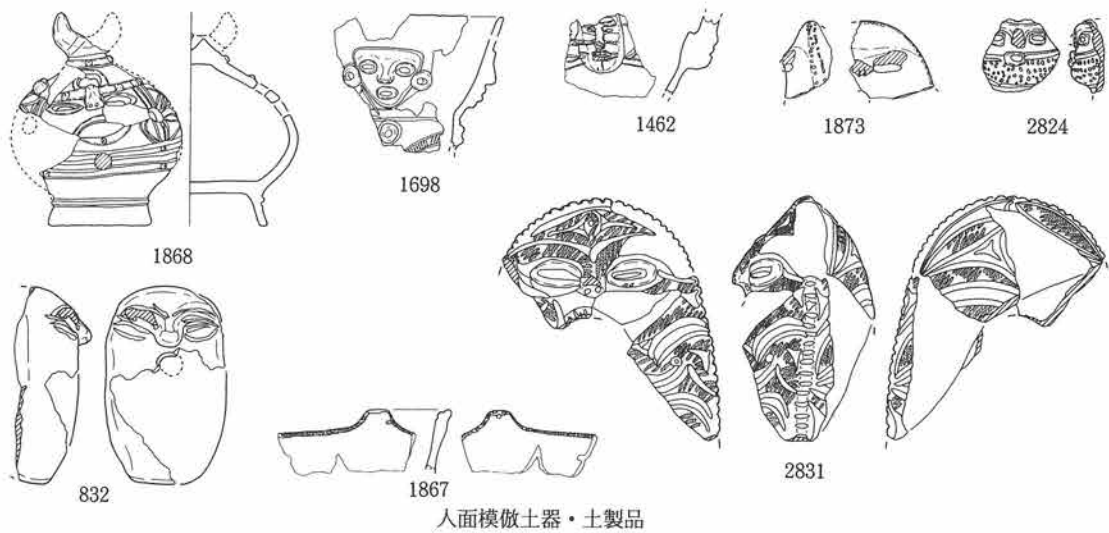
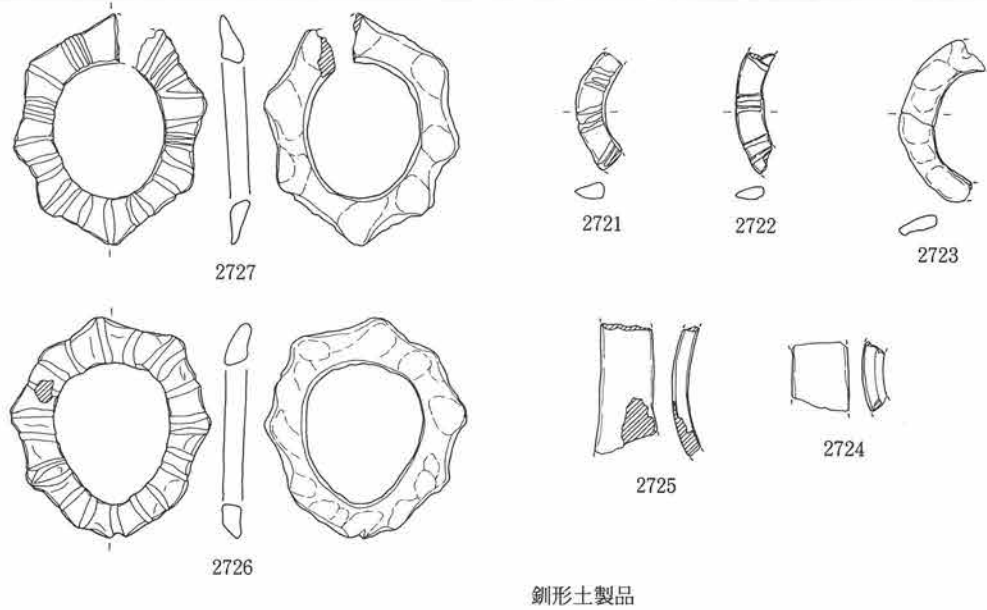
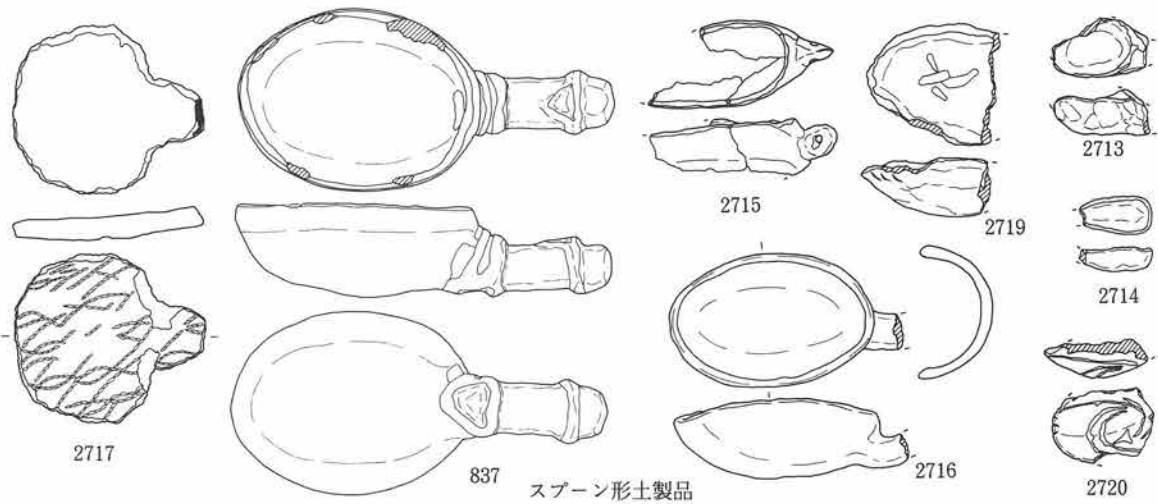


キノコ形土製品



内面渦状土製品

第496図 分銅形・キノコ形・内面渦状土製品



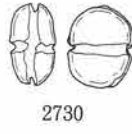
第497図 スプーン形・釧形・人面模倣土製品



腕飾



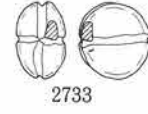
2728



2730



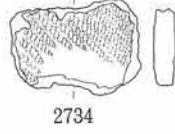
2729



2733



2731



2734



2737

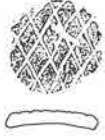


2736

土錘



2738



2747



2754



2755



2743



2749



2765

円盤状土製品



2793



2791



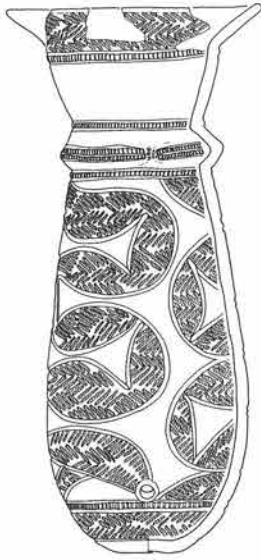
2798



2802

三角形状土製品

第498図 腕飾り・土錘・円盤状・三角形状土製品



2123



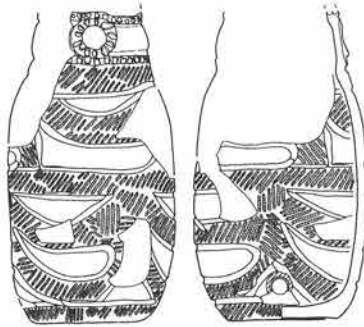
2152



1608



1739



1477



1864



809



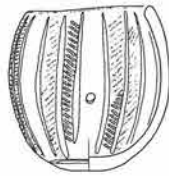
119



1680



1450



2117

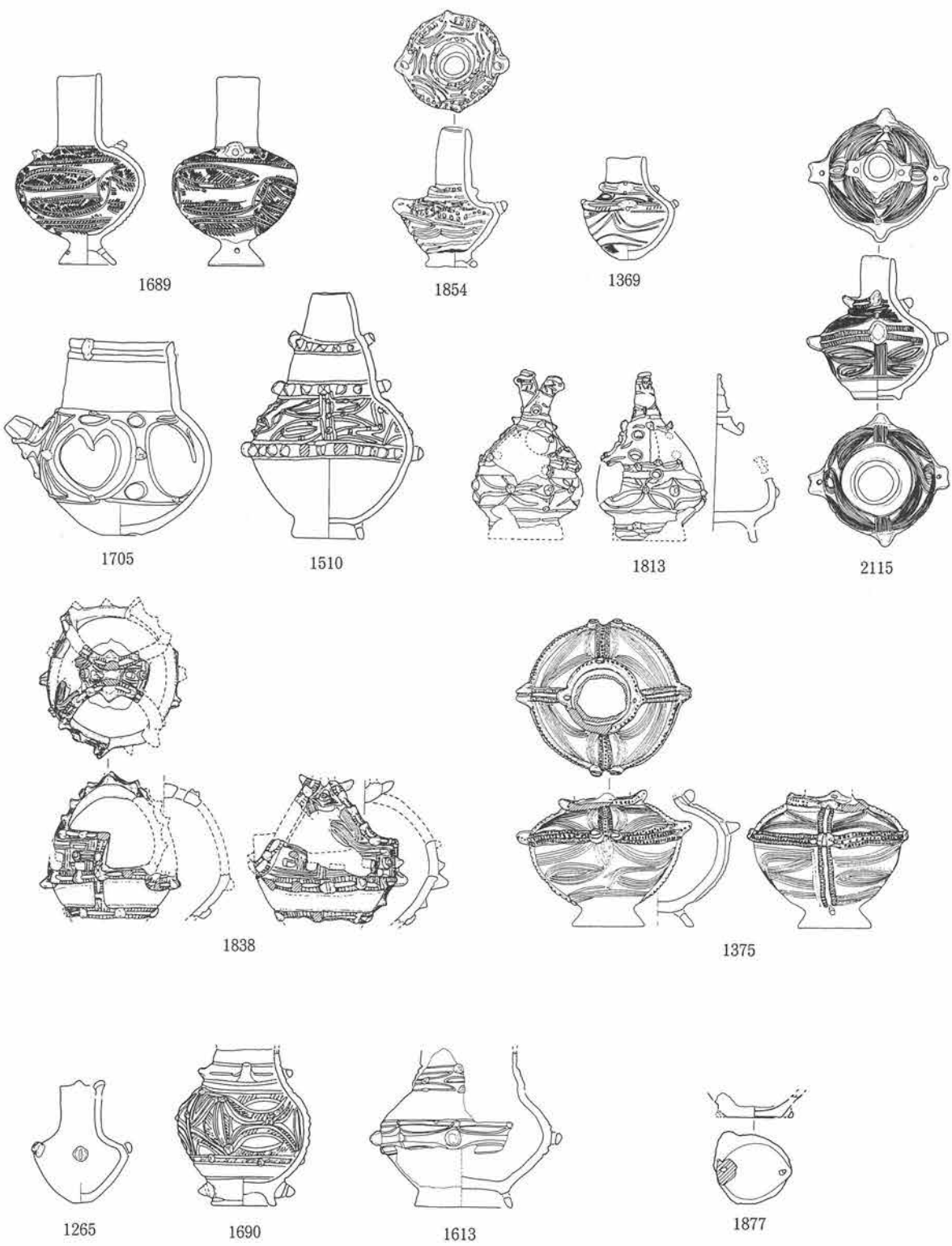


1273

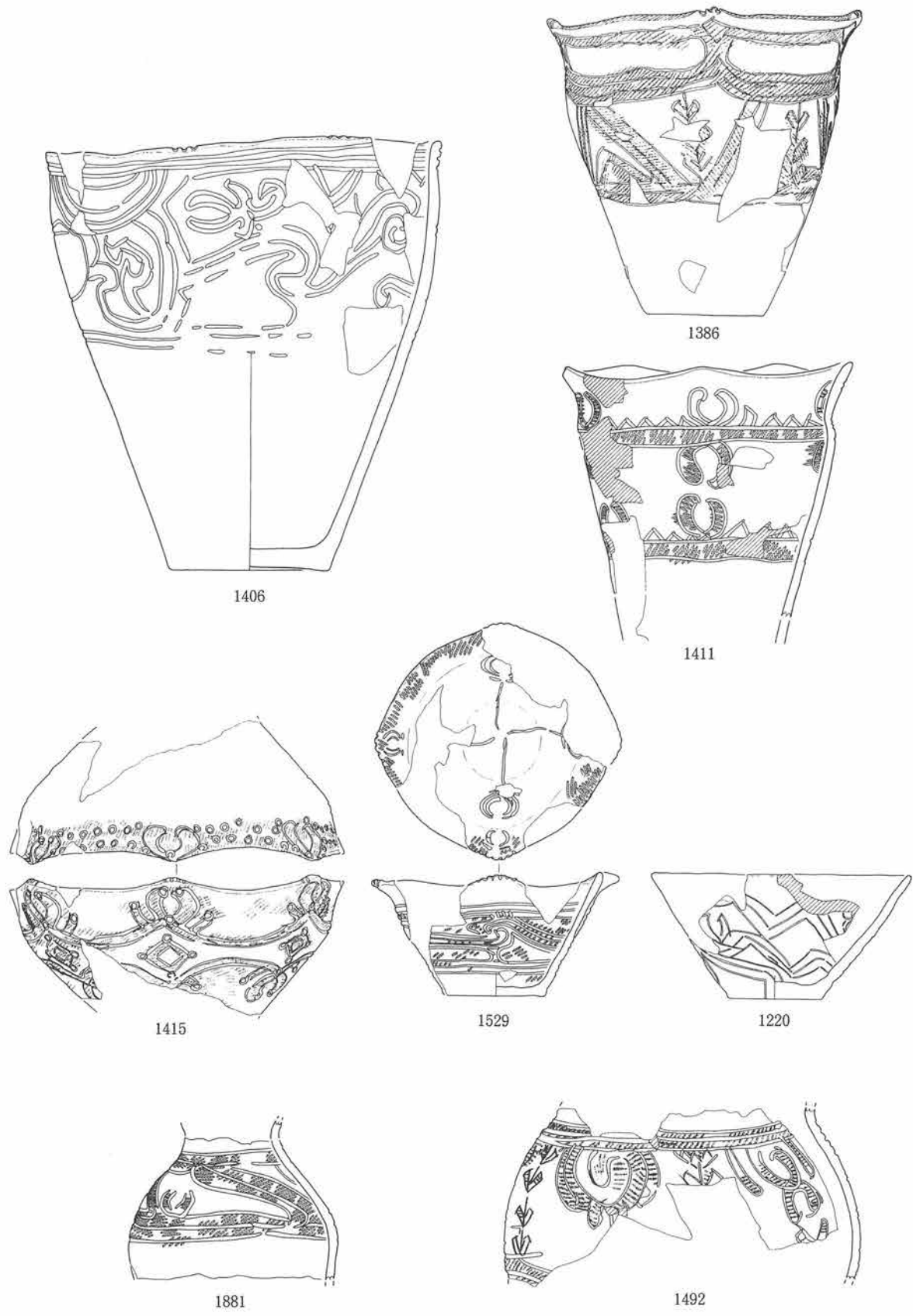


1949

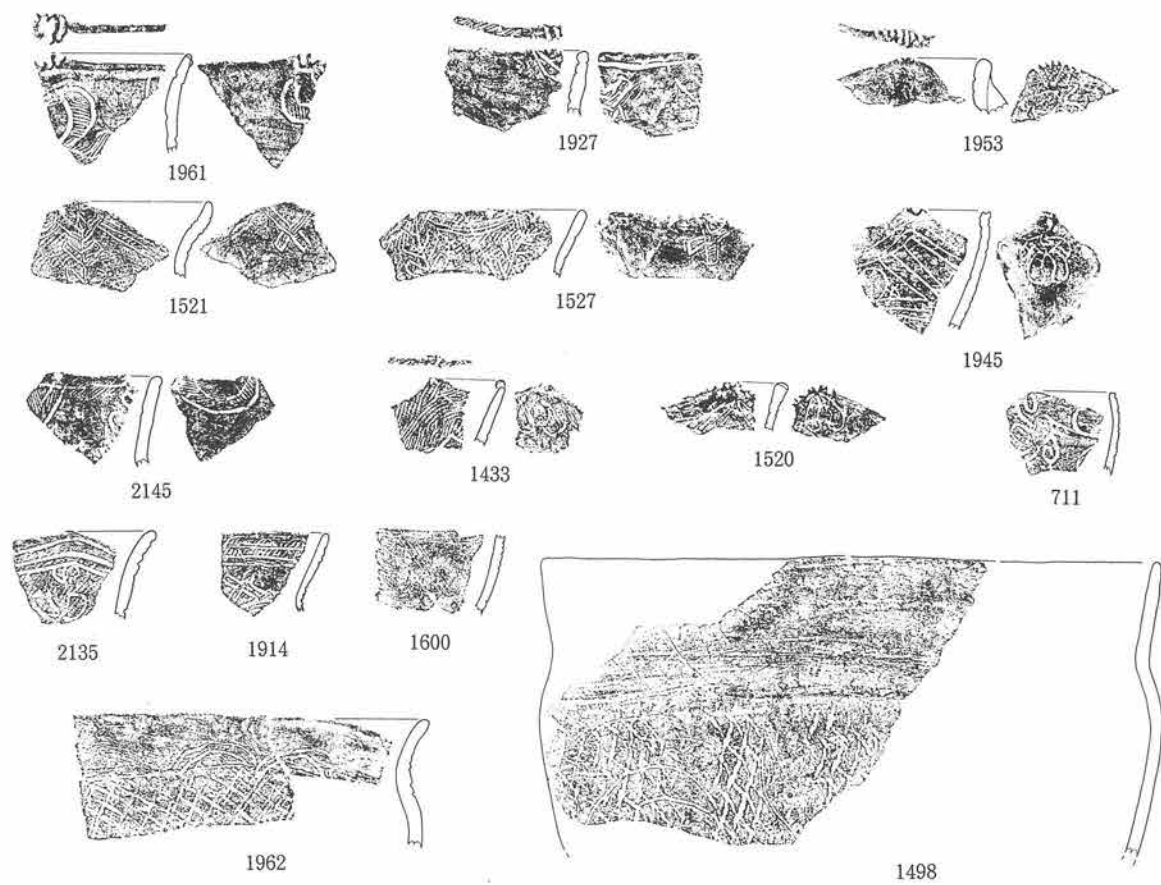
第499图 单孔土器集成图



第500図 釣り下げ形土器集成図



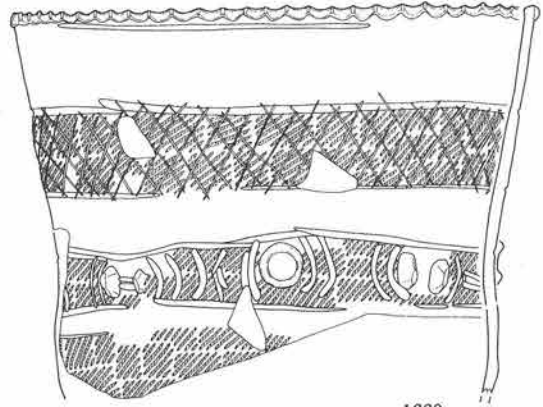
第501图 特殊文様土器集成图 1



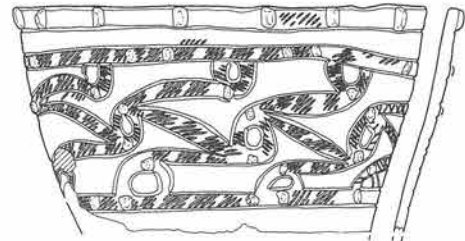
第502図 特殊文様土器集成図2



1828



1660



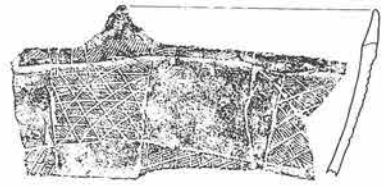
1845



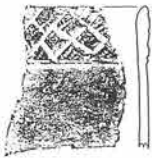
1847



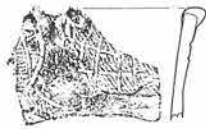
1618



1625



1846



1630



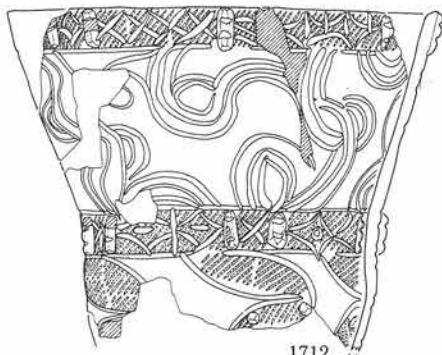
1645



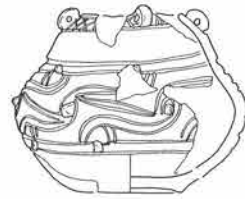
2088



615



1712



1684

第503図 X字状・格子状・網目状の沈線を施文する土器

遺構名	図版	写真	平面形態	開口部径 (cm)	底部径	炉の形態	炉の規模	炉の位置	柱穴	その他の施設	主軸	時期	出土遺物	備考
Q12住居跡	15	5	円形?			地床炉	40×25	中央?	なし		不明	後期末～晩期初	1	
K11住居跡	16・17	6～10	円形	1400～1600		石囲炉	210×170	中央	131	石列・出入口	北西-南東?	晩期前葉	2～58・810～814・907～921	大型住居、2回以上の建て替え
J12住居跡状	16	11	不明	不明	不明	未検出	不明	不明	1		不明	晩期?	59～64	
G11住居跡状	18	12	円～楕円形	600×530	306×284	なし			1		不明	晩期前葉	65～83・815・922～931	山側は崩れている
G12住居跡	19	13	円形?	300?	不明	地床炉	40×25	中央南	なし		不明	晩期前葉	84～87	北側は不明
G13住居跡	19	14	円形?	400?	不明	なし			1		不明	晩期初頭	88～91	
G14住居跡	19	14	円形?	300?	不明	地床炉	不明	中央?	なし		不明	晩期初頭	92	
G15住居跡	20・21	15・16	円形?	900		地床炉	40×40	中央やや西	132	壁溝2条、出入口	北東-南西	後期末～晩期初	93～108・816・817・932～934	6回以上の建て替え
F10住居跡状	22	17	不明	不明	不明	なし			4		不明	晩期?	109～110・935	後期後半の土器片あり、堅穴は未検出
F12住居跡	22	18	円形	238×(248)	193×(197)	地床炉	24×24	中央	なし		南-北	後期末～晩期初	112～119・818・936	床面土器あり
F13住居跡	22	19	楕円形	301×260	280×240	地床炉	70×40	中央やや東	14		南東-北西	晩期前葉	120～127・819・820・937・938	土偶・円盤状土製品出土
F18住居跡1号	23	20	楕円状	605×477	576×453	土器埋設炉	22(75)	中央	29	出入口	北東-南西	晩期初～前葉	128～138 939～941	北東側に張出あり
F18住居跡2号	23	21	円形?	不明					4		不明	晩期前葉	139～142・942	
F19住居跡状	23	22	円形	232×234	216×210	なし			なし		不明	晩期?		
E15住居跡状1号	24	23	不整形?	不明	不明	なし			なし		南-北	晩期?	821・822・943～949	本来円形の可能性あり
E15住居跡状2号	24	24	長楕円形?	(846)×(312)	不明	なし			なし		南東-北西	晩期前葉	143～155	
E19住居跡	25	25	円形?	不明	不明	なし			39	壁溝	南東-北西	晩期?	156・823	2回以上の建て替え、円盤状土製品出土
C16住居跡1号	26	26	円形	420	361	地床炉	75×65	中央	9		不明	晩期前葉	157～175・824・825・950～952	一部貼り床
C16住居跡2号	27	27	円形?	(800)	不明	なし			100	出入口	南西-北東	晩期前葉	176～191 453～956	数回の建て替え
D19住居跡	28	28	円形	342×312	322×298	なし			17	土坑	南東-北西	晩期初～前葉	192～199・926・957～960	
C22住居跡状1号	28	29	円形	310×284	272×270	なし			なし		不明	晩期初～前葉	200～203・961	床面は若干傾斜があり、かたい。
C22住居跡状2号	28	30	楕円形	237×198	205×159	なし			なし		南東-北西	後期初～前葉	204・205	
C23住居跡状1号	29	31	楕円形?	220?	145	なし			なし		南西-北東	後期初～前葉	206～210・962	
C23住居跡状2号	29	32	円形?	250	191	なし			なし		北東-南西	後期初～前葉	211～220・963	
C24住居跡状	29	33	楕円形?	(400?)×359	262	なし			3?		南西-北東	後期初～前葉	221～233・827・828 964～967	
E21住居跡状1号	30	34	円形?	300?		地床炉?	120×25	中央	未検出		不明	晩期前葉	234	南側調査区外
E21住居跡状2号	30	34	円形?	300?		なし			未検出		不明	晩期初～前葉		南側調査区外
E21住居跡状3号	30	35	円形	320	272	地床炉?	70×50	中央やや東	未検出		南-北	晩期初頭	235～254・829～832・968～970	南側調査区外、石囲炉であった可能性あり
E22住居跡1号	31	36	円形?	300		地床炉?	(85)×60	中央	未検出		東-西	晩期?	255～266 971～980	南側調査区外
E22住居跡2号	31	37	楕円形?	310		なし			なし		南-北	後期初頭?		

第4表 住居跡・住居跡状

棟番号	遺構名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口幅径(㎝)	底幅径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真版
1	B18土坑	黒褐色土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	(45)	(27)	55.6				50	111
2	B18柱穴状土坑1号	黒褐色土主体	円	ビーカー	45×42	26×26	24.4				50	111
3	B18柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p混入	円	ビーカー	25×25	10×10	24.4				50	111
4	B24土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物微量混入	円	皿	108×96	90×80	34.0	278			49	46
5	B25土坑	黒色土主体、礫土粒・炭化物微量混入	円	皿	54×46	33×28	18.0				49	46
6	B25柱穴状土坑	黒色土主体、Nb-p微量混入	円	ビーカー	43×38	32×24	56.0				49	111
7	C13土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	108×120	108×105	64.9				51・52	46
8	C13土坑2号	黒褐色土、暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	皿	143×180	(140)×130	43.6				51・52	46
9	C15柱穴状土坑	黒褐色土主体、Nb-p微量混入	だ円	ビーカー	56×53	26×26	39.1				49	111
10	C15土坑1号	黒褐色土主体、下位に暗褐色土、Nb-p多量混入	だ円	皿	(110+)×(80+)	26×26	30.0	279~282・991			49	46
11	C15土坑2号	黒褐色土主体、下位に暗褐色土、Nb-p多量混入	だ円? 不整形	網底状	91	48	17.1				49	46
12	C16土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p混入	だ円? 不整形	ビーカー	148	125	92.6				49	46
13	C16土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p多量混入	円	皿	(180+)×125	98	54.3	836			49	47
14	C16土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p混入	円?	プラスチック?	65	68	26.0				49	47
15	C16土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p炭化物混入	円?	網底状	112	92	46.1				49	47
16	C16土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p多量混入	だ円	皿	(130+)×(120+)	110×(110+)	26.4	289~285		斜面下方は崩れている	49	47
17	C16柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p微量混入	だ円	皿	27×26	25×13	14.0				49	46
18	C16柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	41×28	30×22	9.0				49	46
19	C16柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	30×20	18×18	21.7				49	47
20	C17土坑	黒褐色土主体、Nb-p多量混入	だ円?	皿	(115)×100	90×80	34.2	286~289		南側は欄干区外	50	47
21	C18柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p微量・TO-IIブロック・礫土微量・炭化物微量混入	だ円	皿	57×43	43×35	42.9	674			50	111
22	C18柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	56×55	30×29	24.2				50	112
23	C18柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・下位にTO-II混入	だ円	ビーカー	55×41	36×24	46.1				50	112
24	C18柱穴状土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	24×24	10×10	17.6				50	112
25	C18柱穴状土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p微量・TO-IIブロック・礫土微量・炭化物微量混入	だ円	ビーカー	48×40	33×28	46.2				50	112
26	C18柱穴状土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p微量・TO-IIブロック混入	だ円	ビーカー	58×42	32×30	66.8				50	113
27	C18柱穴状土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p微量・TO-IIブロック・礫土微量・炭化物微量混入	だ円	皿	57	45	33.9				50	111
28	C18柱穴状土坑8号	黒色土、黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	23×23	11×11	27.2				50	113
29	C18柱穴状土坑9号		円	ビーカー	25×24	15×11	24.5				50	113
30	C18柱穴状土坑10号		円	皿	29×26	16×16	61.3				50	113
31	C18柱穴状土坑11号		円	皿	30×29	20×15	24.6				50	113
32	C18柱穴状土坑12号		円	皿	26×26	12×12	12.0				50	114
33	C18柱穴状土坑13号		円	皿	36×35	9×9	51.5	675			50	113
34	C18柱穴状土坑14号		円	ビーカー	46×42	30×30	46.2				50	114
35	C18柱穴状土坑15号		円	皿	17×15	8×3	6.0				50	50
36	C18柱穴状土坑16号	黒褐色土主体、Nb-p多量混入	円	ビーカー	19×16	9×6	15.0				50	50
37	C18柱穴状土坑17号		円?	皿	34×24	19×17	32.0				50	50
38	C18柱穴状土坑18号		円	皿	20×16	10×8	66.0				50	50
39	C19柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	45×45	40×40	42.3				50	114
40	C19柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	43×37	31×28	40.5				50	114
41	C19柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・土器混入	だ円	ビーカー	75×63	64×54	25.9	1120			50	114
42	C20柱穴状土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	52×44	50×49	42.0				54	115
43	C21柱穴状土坑1号		円	皿	56×(38)	35×(26)	20.0				50	50
44	C21柱穴状土坑2号		だ円	ビーカー	169×136	102×96	94.9	1121		C21建物跡内柱穴	54	52・115
45	C21柱穴状土坑3号		だ円?	ビーカー	145×(185)	117	42.4			C21建物跡内柱穴	115	115
46	C21柱穴状土坑4号		だ円?	ビーカー	119	104	42.0				115	115
47	C22柱穴状土坑		だ円	ビーカー	118×105	98×72	91.4	1122・1123		C21建物跡内柱穴	51	47
48	C24土坑	黒色土、黒褐色土主体、上位にTO-a・TO-b・Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	網底	138×105	116×73	59.0	290~292			51	48
49	C25土坑	黒褐色土主体、TO-b少量・Nb-p混入	だ円	網底	165×108	107×83	105.0	293・294・992・993			51	48
50	D11土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	皿	107	100	30.3			斜面下方は不明	53	48
51	D13土坑1号		円	プラスチック	149×142	169×161	76.0				51・52	48
52	D13土坑2号		円	皿	70×(90+)	43	15.9	295		北側に小土坑あり	51・52	48
53	D13土坑3号	黒褐色土、暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	プラスチック	中・135×127	134×132	49.4	837・838			51・52	48
54	D13土坑4号	褐色土、黒褐色土主体、Nb-p微量混入、人為堆積	だ円	プラスチック	135	168	61.8	994			51・52	48
55	D13土坑5号	黒褐色土主体、下位に褐色土、Nb-p多量混入、人為堆積	だ円	プラスチック	152×122	162×145	77.7	839・895			51・52	48
56	D13土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p多量混入	だ円	皿	(79)×50	37×(33)	26.6				51	48
57	D13土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p多量混入	だ円	ビーカー	102×72	87	33.5				51・52	48
58	D13土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p多量混入	円	ビーカー	67	54	25.1				51・52	48
59	D13柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	ビーカー	31×31	27×21	41.7			後期? 住居の壁柱穴	51・52	48
60	D13柱穴状土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	25×22	18×18	69.9				51	116
61	D13柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	22×19	12×12	16.0			後期? 住居の壁柱穴	51	116

第5表 土坑・柱穴(1)

埋土探査	遺構名	遺構番号	断面形態	開口部径 (cm)	底径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真版
62	D13柱穴土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	20×19	16×9	24.7			後期? 柱穴の壁柱穴	51	116
63	D13柱穴土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	25×25	19×15	22.1			後期? 柱穴の壁柱穴	51	116
64	D13柱穴土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	21×19	11×7	20.2			後期? 柱穴の壁柱穴	51・52	116
65	D13柱穴土坑7号	褐色土主体、Nb-p少量混入	円	19×18	13×12	16.6			後期? 柱穴の壁柱穴	51・52	116
66	D13柱穴土坑8号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	24	16	10.1			後期? 柱穴の壁柱穴	51・52	116
67	D14土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、自然堆積	だ円	155×120	88×86	59.5	294・287			51・52	
68	D14土坑2号	にぶい黄褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	縦底	96×75	59×42	29.8	298			51・52	
69	D14柱穴土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	45×43	39×38	23.8	676~680・682			51・52	116
70	D14柱穴土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	20×20	15×13	23.9	681			51・52	116
71	D14柱穴土坑3号	黒褐色土主体	円	25×23	18×15	14.3				51・52	116
72	D14柱穴土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	21×20	10×8	16.6				51・52	116
73	D14柱穴土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	30×23	30×23	36.7	1124			51・52	116
74	D15土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	(140+)×(113)	(120+)×66	53.6	299			53・54	50
75	D15土坑2号	黒褐色土主体、暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	114×113	108×90	45.3	300~302	晩期		53・54	50
76	D15土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	(110-)×98(136)	64	40.0	303			53・54	50
77	D15土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	70×46	62×38	14.8				53・54	50
78	D15土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	70	63	55.6	682・683			53	116
79	D15柱穴土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	37×33	37×33	35.6	304		土器 鉢形、コあり	53	
80	D16土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	59	45	18.5				53	
81	D16土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物混入、人為堆積	だ円	75×75	45×40	53.4				53・54	50
82	D16土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物混入、人為堆積	だ円	77×69	58×56	37.9				53・54	50
83	D16土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	75	56	42.6				53	51
84	D16柱穴土坑1号	黒褐色土主体、暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	88×(80)	55×53	1.382	685		D16建物跡1内柱穴	53	118
85	D16柱穴土坑2号	黒褐色土主体	だ円	113×(100)	74×67	1.109	803		D16建物跡2内柱穴	53	118
86	D16柱穴土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	79×79	68×65	106.0				53	51
87	D16柱穴土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	135×46	31	88.0				53	117
88	D16柱穴土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	135×46	23	88.0				53	117
89	D16柱穴土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	53×49	31×20	35.8				53	117
90	D16柱穴土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	61×45	46×36	24.1				53・54	117
91	D16柱穴土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物混入、人為堆積	円	50×50	44×42	25.0	584			53・54	117
92	D16柱穴土坑9号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	49	42	21.5				53・54	117
93	D16柱穴土坑10号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	135×80	60	98.2			D16建物跡1内柱穴	53	117
94	D17土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	135×82	102.2					53	117
95	D17柱穴土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物混入、人為堆積	円	122×115	135×133	80.4	305~310・840			56	51・118
96	D17柱穴土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	69×60	48×43	75.9	1125		D16建物跡1内柱穴	56	51・118
97	D17柱穴土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	中部77×中部68	54×46	89.1	686・687		D16建物跡2内柱穴	56	51
98	D17柱穴土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	29×29	14×14	32.8				56	51
99	D17柱穴土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	82	48×(35+)	49.5				56	118
100	D17柱穴土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	36×31	8×6	92.1			柱状	56	
101	D17柱穴土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	40×36	24×24	73.0				56	51・118
102	D17柱穴土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	35	12	50.2				56	51
103	D17柱穴土坑9号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	22×19	11×9	23.6				56	51・118
104	D17柱穴土坑10号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	(21)×(18)	(12)×(10)	17.0				56	51・118
105	D17柱穴土坑11号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	45	37	79.5				56	51
106	D17柱穴土坑12号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物混入、人為堆積	円	73×72	68×68	23.9(225)表土			D16建物跡1柱穴	56	51
107	D17柱穴土坑13号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	31×29	15×14	26.9				56	51
108	D17柱穴土坑14号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、自然堆積	円	33×32	26×24	56.3				56	51
109	D17柱穴土坑15号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	円	42×39	36×25	54.9				56	51
110	D17柱穴土坑16号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	円	46×45	27×25	21.4			一部覆土あり	56	
111	D18土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	34×28	13×11	41.7				56	51
112	D18柱穴土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	110×107	96×90	19.0	1126		D16建物跡1内柱穴	56・57	119
113	D18柱穴土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	79×76	69×68	64.9				56	119
114	D18柱穴土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	円	45×45	21×19	38.5				56	51
115	D18柱穴土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	円	55×55	43×43	25.2				56	56
116	D18柱穴土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	だ円	50×47	33×32	37.6				56	119
117	D18柱穴土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	46×40	30×20	51.1				56	119
118	D18柱穴土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	53×41	10×7	19.2				56	119
119	D18柱穴土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	だ円	59×43	47×30	41.7				56・57	119
120	D18柱穴土坑9号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	だ円	40×30	27×19	16.0				56	119
121	D18柱穴土坑10号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	75×71	45×45	44.9				56	119
122	D19土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	60×49	37×27	14.8			D16建物跡2内柱穴	56	119
123	D19土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物混入	だ円	97×82	90×80	22.7	311		土器あり(漆鉢)	55	52
			だ円	71×66	65×60	34.2	986			54・55	52

第6表 土坑・柱穴(2)

調査番号	遺構名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口部径 (cm)	底部径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真版
124	D19土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	51×49	40×39	5.8				54-55	
125	D19柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	42×41	34×29	40.5					56-57	120
126	D19柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	56×52	47×43	19.6					56-57	120
127	D20土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、土器混入	円	ビーカー	75×69	64×58	20.9				54-55	120
128	D20柱穴状土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入、人為堆積	円	(皿)	54×53	44×44	19.8				54-55	120
129	D21土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	網底	53×47	41×39	26.0				54-55	51
130	D21土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	65×(60+)	55	27.4				54-55	52
131	D21柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	36×36	22×18	55.7				54-55	52
132	D21柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	107×80	70×65	78.2				54-55	52
133	D22柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物少量混入、アタリ有	円	ビーカー	113×109	70×67	97.3			C21建物跡内柱穴	55	120
134	D22柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物少量混入、人為堆積	円	ビーカー	100×(80+)	80	68.2				55	52
135	D23土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	79×65	61×54	46.0				55	52
136	D23土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	69×66	47×46	25.0				55	53
137	E10土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	157×132	121×121	計測要	31.4 ~ 31.6・987 ~ 999			58	53
138	E11土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	106×90	96×91	15.0				58	53
139	E11柱穴状土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	39×35	22×10	18.6				59	53
140	E12土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	7.5×(7)	85×83	90×84	45.8	317 ~ 319			59	53
141	E13土坑1号	黄褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	162×150	148×144	41.1	320			57-58	53
142	E13土坑2号	黄褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ	160×158	182×180	76.8	321 ~ 325			57-58	54
143	E13土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー(皿)	(直径50?)		22.9	326			57	
144	E13土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	網底?	(145)×(78)		56.6				57	53
145	E13土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物少量混入、人為堆積	円	ビーカー	(187)×(144)		55.1				57	53
146	E13土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	54	45×(42)	46.5				57-58	54
147	E13土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	67×55	55×44	17.2				57-58	54
148	E13土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	90	60	52.8				57	53
149	E13土坑9号	黒褐色土、暗褐色土、Nb-p少量混入、土器少量混入、人為堆積	円	ビーカー	137×98	109×90	85.0	327・328	晩明		57-58	54
150	E13土坑10号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	49×45	20×18	1.02.03				57-58	54
151	E13柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	38×34	24×21	24.3				57	57
152	E13柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	28×25	11×11	43.0				57	57
153	E13柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	40×30	25×20	29.0				57	57
154	E13柱穴状土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ	74×65	48×31	46.0				57	57
155	E14土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	111×106	108×98	57.1				57	121
156	E14土坑2号	上位に黒褐色土、下位に黄褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円?	フラスコ	84×(57+)	76×(61+)	40.8			斜面下方は削れており不明	57-58	54
157	E14土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ	88×80	95×90	71.5				57	54
158	E14土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ	172×165	170×169	59.8	329			57-58	54
159	E14土坑5号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入、人為堆積	円	フラスコ	72×(62+)	-72×(62+)	76.4				57-58	54
160	E14土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	90×(80+)	125×116	91.5	330~331・1000			57-58	54
161	E14土坑7号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	(105)×80	67×55	30.0	332			57-58	54
162	E14土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	54×53	46×45	17.6				57	57
163	E14柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	20×18	14×14	1.5				57	121
164	E14柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	15×15	5×5	16.8				59	121
165	E14柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	15×15	5×5	41.0				57	121
166	E14柱穴状土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	39×30	24×23	13.8				57	121
167	E14柱穴状土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	37×33	28×25	8.4				57	121
168	E14柱穴状土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ	80	70×56	43.8				57	121
169	E15土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	ビーカー	(50)	37.3					59	55
170	E15土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	109×94	98×(80)	37.3				59	55
171	E15土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	72×54	60×41	11.2				59	56
172	E15土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	73×54	50×44	58.4				59	56
173	E15柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	58×53	49×48	26.0	1128	晩明		59	122
174	E15柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	10×14	6×6	32.1	693・694		E.15建物跡内柱穴	59	121・122
175	E15柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	25×25	16×13	10.8				59	122
176	E15柱穴状土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	30×25	19×18	9.2				59	121
177	E15柱穴状土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	11×11	5×5	20.2				59	121
178	E15柱穴状土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	70×55	66×60	74.8	695			59	121・122
179	E15柱穴状土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	ビーカー	(117)×100	(104)×(80)	48.9				59+60	122
180	E15柱穴状土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、アタリ有	円	ビーカー	54×46	44×36	29.9				59+60	122
181	E15柱穴状土坑9号	暗褐色土、褐色土、Nb-p少量混入、アタリ有	円	ビーカー	74×53	23×16	84.7	698~700・1129			59	123
182	E15柱穴状土坑10号	暗褐色土、褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	33×30	46×45	95.9?				59	123
183	E15柱穴状土坑11号	暗褐色土、褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	44×44	23×23	55.9				59	123
184	E15柱穴状土坑12号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	69×55	63×50	58.5				59+60	55
185	E15柱穴状土坑13号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	38×33	(27)×23	32.0				59+60	55
186	E15柱穴状土坑14号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、炭化物微量混入	円	ビーカー							59+60	55

第7表 土坑・柱穴 (3)

種別番号	遺構名	土質様相	断面形態	開口部径 (cm)	底部径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真版
187	E15柱穴土坑15号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物微量混入、人為堆積	円	34×34	22×18	83.4				59-60	123
188	E15柱穴土坑16号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	41×36	30×26	27.7				59-60	55
189	E15柱穴土坑17号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物微量混入	円	57×28	55×28	43.7			切り合い関係は不明	59	55
190	E15柱穴土坑18号	暗褐色土、にぶい、黄褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入	円	57×27	55×27	43.7			切り合い関係は不明	59-60	55
191	E15柱穴土坑19号	暗褐色土、にぶい、黄褐色土、褐色土、Nb-p混入	円	22×22	13×13	10.7			E15建物跡内柱穴	59	56
192	E15柱穴土坑20号	にぶい、黄褐色土、褐色土、Nb-p混入	円	95×85	55×50	1.133	696・697		柱穴の底の部分と思われる	59-60	122
193	E16土坑1号		円	59×58	47×47	15.8				59	56
194	E16土坑2号		円	58×57	60×53	38.0	333・334			59	56
195	E16土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	(45)×(42)	(38)×(30)	(8.0)				59-60	56
196	E16柱穴土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物微量混入	円	62×59	62×57	36.2	1130			59-60	123
197	E16柱穴土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物微量・ベンガラ混入	円	74×65	45×40	82.0	701・702・1131			59-60	124
198	E16柱穴土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物微量・焼土微量・炭化物混入	円	76×64	47×43	85.0				59-60	124
199	E16柱穴土坑4号		円	74×73	68×66	86.6	703・704・1134		D16建物跡1内柱穴	59	124
200	E16柱穴土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物多量混入、人為堆積	円	29×26	22×22	30.9				59-60	126
201	E16柱穴土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物多量混入、人為堆積	円	59×56	54×46	56.9			D16建物跡1内柱穴	59	126
202	E16柱穴土坑7号	黒褐色土主体、黄褐色土・Nb-p少量混入	円	80×61	47×31	64.1				59-60	124
203	E16柱穴土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	61	12×7	40.5				59-60	124
204	E16柱穴土坑9号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	23×22	20×16	36.0				59	125
205	E16柱穴土坑10号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	18×18	15×15	32.1				59	125
206	E16柱穴土坑11号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	22×18	17×12	12.3				59	125
207	E16柱穴土坑12号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	17×14	11×8	12.5				59	125
208	E16柱穴土坑13号	黒褐色土主体、Nb-p少量・焼土微量・炭化物少量混入	円	45×38	18×16	38.2			焼土に切られている?	59-60	56・125
209	E16柱穴土坑14号	暗褐色土主体、Nb-p少量・焼土微量混入	円	62×59	62×57	36.2				59	125
210	E16柱穴土坑15号	暗褐色土主体、褐色土、暗褐色土、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	21×21	14×14	22.1				59-60	126
211	E16柱穴土坑16号	黒褐色土主体、褐色土、暗褐色土、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	47×46	30×28	55.9	705		E15建物跡内柱穴	59-60	126
212	E16柱穴土坑17号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	56×50	44×36	26.1				59	124
213	E16柱穴土坑18号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	24×23	14×13	21.3				59-60	124
214	E16柱穴土坑19号	褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	114中70×64中67	49×39	88.1				59	126
215	E17土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	99×86	84×75	48.1				59-60	126
216	E17柱穴土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	100×89	89×85	50.8			D16建物跡1柱穴	61	56
217	E17柱穴土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	58×57	52×43	18.6			D16建物跡2柱穴	61	61
218	E17柱穴土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	24×22	13×11	8.2				61	61
219	E18土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	(60+)		21.8				61	57
220	E18土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	77×75	68×68	25.2				61	57
221	E18柱穴土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	73×58	63×47	12.4				61	126
222	E19土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	155×153	139×130	36.7				61-62	57
223	E19土坑2号	黒褐色土主体、暗褐色土、褐色土、Nb-p少量混入	円	113×90	97×77	64.0				61-62	57
224	E20土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	205×98	184×54	82.0	335・336・841	終期		61-62	57
225	E20土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	(255)×(180)	(220)×(160)	96.0	337~340・1001	終期		61-62	57
226	E20土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	86	80	31.2				61-62	57
227	E20土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	119	110	24.6				61-62	58
228	E20土坑5号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	79	76	70.1				61-62	58
229	E20土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	(95)×(71)	(94)×(71)	23.2				61-62	58
230	E20土坑7号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	92×80	70×60	48.0	341			61-62	58
231	E20土坑8号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	94×76	82×61	49.0				61-62	58
232	E20土坑9号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	114×91	84×62	186.5	706		E20建物跡内柱穴	61	61
233	E21土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	111×101	98×78	43.2	1004			61	61
234	E21土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	69×69	62×62	41.1				61-62	58
235	E21土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	140×82(82)	76×70	167.0	707・708		E21建物跡内柱穴	61	126-127
236	E21土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	44×43	32×31	59.8				61	127
237	E21柱穴土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	59×58	50×47	66.2	709			61-62	127
238	E21柱穴土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	47	32	71.6	710			61-62	127
239	E21柱穴土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	88(88)×73	(124)×85	83.0			E21柱穴の一部と思われる	61	127
240	E21柱穴土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	77×69	76×47	99.7				61	56
241	E21柱穴土坑5号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	65×61	56×51	43.0	842			61	56
242	E21柱穴土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	59×48	40×39	25.0	843・1005			69	59
243	E22土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	84×83	72×70	135.6	711~714			69	59
244	E22土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	49×47	38×35	15.0	342~347		E21建物跡内柱穴	69	127
245	E22柱穴土坑		円								
246	E23土坑		円								

第8表 土坑・柱穴(4)

植栽番号	遺構名	土質・土質	平面形態	断面形態	開口部径 (cm)	底部径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真掲載
247	E26土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	288×249	294×193	187.0	349・361・844・1006~1025	晩明		63	59
248	F12土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	フラスコ	135×中心109	125×124	87.1	362~386・845~847・1026~1028	晩明		63・64	59
249	F12土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	だ円	ビーカー	128×72	136×61	49.6	367			63・64	59
250	F12土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	フラスコ	99×98	100×81	56.7	368・1029			63・64	61
251	F12土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	フラスコ	114×112	120×119	75.5	369	晩明		63・64	61
252	F12土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	フラスコ	89×80	97×95	59.3	370・371	晩明		63・64	61
253	F12土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円?	フラスコ	100	92	32.9				63・64	61
254	F12土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円?	フラスコ	121	95	59.4				63・64	61
255	F12土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	155中心127×155	112×110	112.8	372・1030			63・64	61
256	F12柱穴状土坑1号	上位に黒褐色土、下位に暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	47×46	44×34	89.7				63	60・61
257	F12柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	61×58	50×47	38.5	715・895			63	127
258	F12柱穴状土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	77×68	52×51	87.7	379~381・1035			63・64	61
259	F13土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー?	144×134	111×108	63.7	376・1033			63・65	60
260	F13土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	98×97	88×81	40.7				63・65	60
261	F13土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	(180)×(150)	(120)×(120)	44.2	377			57・63・65	60
262	F13土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円?	ビーカー?	(51)×35	(39)×23	22.3				63	
263	F13土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円?	ビーカー	48	48	24.4	1034			63	
264	F13土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	だ円	フラスコ	135×108	135×126	30.5	848	晩明		63・65	62
265	F13土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	110×108	116×107	12.2				63・65	62
266	F13土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円?	フラスコ?	(57)	(65)	44.5				63・65	62
267	F13土坑9号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	(96)×(90)	(83)×(60)	43.7				63・65	62
268	F13土坑10号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	だ円	ビーカー	113	97×57	57.5				63・65	62
269	F13土坑11号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	だ円	ビーカー	162×134	136	51.7				63	62
270	F13柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	だ円	ビーカー	59×44	44×34	36.5				63・64	128
271	F13柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	50	36×32	9.9				63・64	128
272	F14土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量・炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	128×112	116×108	89.5	378	晩明		63・66	62
273	F14土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	161	15	63.8				63・66	62
274	F14土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	(190+)	(30+)	61.5				65	62
275	F14土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	フラスコ?	134	122	35.1				65	62
276	F14土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー?	(60+)		41.7				65	62
277	F14土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円?	皿	50	40	19.5			刃面崩れている	65・66	63
278	F14土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	106×91	97×86	46.3	382			65・66	63
279	F14土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	115×116	115×114	46.2	383・384・1036			65・66	63
280	F14土坑9号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	皿	68	59	12.8	386・1037		北側は崩れている	65・66	63
281	F14土坑10号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	皿	(50)		6.3				65	
282	F14土坑11号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	(110)		60.2				65	
283	F14土坑12号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円?	ビーカー	108	88	39.6				65	
284	F14柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	16×16	10×10	40.7	716		F14建物跡内柱穴	65	128
285	F14柱穴状土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	44×36	33×31	59.7	717			65	128
286	F14柱穴状土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	28×19	18×12	21.9				65	63
287	F14柱穴状土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	27×19	20×14	14.8				65	63
288	F14柱穴状土坑5号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	22×18	22×17	17.0				65	129
289	F14柱穴状土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	66(62)×60(64)	47(52)×47(41)	02.1	718・719	晩明	F14建物跡内柱穴	65・66	62・129
290	F15土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	167	150	53.5	386・387			65・67	63
291	F15土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	皿	74	95×93	68.9				65	63
292	F15土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ?	(190)×183	(190)×177	41.0				65・67	63
293	F15土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー?	(105)×(71)	(90)×(67)	28.8				65・67	63
294	F15土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	長だ円	フラスコ?	77×(60+)	(81)	25.7				65・67	63
295	F15土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	フラスコ	(86+)×(65+)	(95+)×(95)	47.1	388			65・67	63
296	F15土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ	39×31	25×25	4.5			住居に伴う廃土か	65	
297	F15土坑8号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ	34×34	23×22	6.0				65	
298	F15柱穴状土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	54×50	28×28	70.6	896			65・66	63
299	F15柱穴状土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー?	91×70	57×45	116.0	720		E15建物跡内柱穴	63・66	63
300	F15柱穴状土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー?	77×65	75×60	75.9	721			63・66	129
301	F15柱穴状土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー?	57×47	49×42	31.4				63・66	129
302	F15柱穴状土坑5号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	20×15	20×15	46.8				65	
303	F15柱穴状土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	32×32	18×18	33.5				65	63
304	F15柱穴状土坑7号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	74×45	38×66	41.5				65・66	129

第9表 土坑・柱穴 (5)

地層番号	遺構名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口部径(㎜)	底部径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真図版
306	F 15柱状土坑 8号		円	ビーカー	28×28	99.2					59	
307	F 15柱状土坑 9号		円	ビーカー	38×37	28×28	99.2				59	
308	F 15柱状土坑 10号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	61×61	56×55	16.6			F 14建物跡内柱穴	65	
309	F 16土坑 1号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ?	76×55	47×45	34.5				65・66	128
310	F 16土坑 2号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ?	80×78	83×80	43.9				67	
311	F 16土坑 3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	82×82	54×52	42.2				59・67	64
312	F 16土坑 4号	黒褐色土、暗褐色土、Nb-p少量、粘土混入、人為堆積	円	皿	103×(102)	103×(103)	19.3				67・68	63・64
313	F 17土坑 1号	暗褐色土、にぶい黄褐色土、Nb-p少量、粘土混入、人為堆積	だ円	フラスコ	106	116	40.6	389・390・849			67・68	63・64
314	F 17土坑 2号	黒褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量、人為堆積	だ円	ビーカー	112×107	90×86	14.9	391・392			67	64
315	F 17土坑 3号	暗褐色土、にぶい黄褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	皿	(123)×102	85×79	25.1				67・68	
316	F 17土坑 4号	暗褐色土、にぶい黄褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	ビーカー	(60)		28.4				67・68	64・65
317	F 17土坑 5号	暗褐色土、褐色土、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	(100+)×70	51	33.6				67・68	64・65
318	F 17土坑 6号	黒褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量、人為堆積	だ円?	ビーカー	85×69	62×50	46.2			切り合い、関係不明おそらく2か3を切る	67・68	64・65
319	F 17柱状土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量、炭化物混入	円	ビーカー	139	130	32.3				67	130
320	F 18土坑 1号	黒褐色土主体、Nb-p少量、炭化物混入	だ円	ビーカー	49×46	36×32	20.4			東側は別の土坑かも	68	65
321	F 18土坑 2号	黒褐色土主体、Nb-p少量、炭化物混入	だ円	ビーカー	125	59	30.6				68	65
322	F 18土坑 3号	暗褐色土主体、Nb-p少量、炭化物混入	円	フラスコ?	168×166	162×159	17.4	393・850			68	65
323	F 18土坑 4号	暗褐色土主体、Nb-p少量、炭化物混入	円?	皿	141×127	141×127	29.8	394・851・1038	晩期		68	65
324	F 18土坑 5号		円?	皿	96	74	15.0				68	
325	F 19柱状土坑		円	ビーカー	90×(96)	69×21	12.1			根の腐乱もしくは?	68	
326	F 20柱状土坑		だ円	ビーカー	41×39	25×21	25.4	722			68	130
327	F 21土坑 1号		だ円	ビーカー	92×83	64×50	163.4	723		E 20建物跡内柱穴	68	130
328	F 21土坑 2号		だ円	皿(ビーカー)	81×70	79×62	43.7	395・396			69	66
329	F 21土坑 3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	皿	161×118	146×105	32.7			伊跡かも	69	
330	F 21柱状土坑 1号		だ円	ビーカー	93×82	70×62	126.3			E 21建物跡内柱穴	69	130
331	F 21柱状土坑 2号	黒褐色土、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	50×47	27×27	89.0				69	
332	F 21柱状土坑 3号	黒褐色土、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	45×45	35×25	100.1	724			69	131
333	F 21柱状土坑 4号	黒褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	87×81	66×57	126.0			E 20建物跡内柱穴	69	131
334	F 21柱状土坑 5号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	48×42	40×38	47.3	1132・1133			69	
335	F 22土坑		だ円	ビーカー	58×56	45×39	46.0				69	
336	F 22柱状土坑		だ円	ビーカー	107×101	81×71	108.1	725・887・888			69	66
337	F 23土坑		円	ビーカー	79×77	57×56	53.0	397・399・1039			69	66
338	G 6土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、自然堆積	円	フラスコ	139×124	132×130	計測要	400			69	66
339	G 11土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	ビーカー	(160)×150	115	59.3				69	67
340	G 12土坑 1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	111×95	89×81	74.6	401~405	晩期	東側の出っ張りは柱穴か	70	67
341	G 12土坑 2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	ビーカー	(100+)×(80+)	(90+)	37.5	406~409	晩期	東側と北側は不明	70・71	67
342	G 12土坑 3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円?	ビーカー	187	171	67.9			北側は不明	70・71	67
343	G 12土坑 4号	褐色土主体	円?	ビーカー	80	9	25.5				70・71	68
344	G 12土坑 5号	黒褐色土、暗褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	皿	55	45	29.4				70・71	68
345	G 12土坑 6号	暗褐色土、暗褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ	74×70	147×145	89.3	415			70・71	68
346	G 12柱状土坑 1号	黒褐色土、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	50	30	52.8	726・727			70	60・61
347	G 12柱状土坑 2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、自然堆積	だ円	ビーカー	30×30	21×20	54.7				70	61
348	G 13土坑 1号	黒褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	211×162	194×80	91.3	1041		不明南北底層は東西底層	70	61
349	G 13土坑 2号	黒褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ	98×92	75×75	90.8				70・71	68
350	G 13土坑 3号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ	131×127	131×127	90.9				70・71	60
351	G 13土坑 4号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	ビーカー	159	146	27.4				70・71	68
352	G 13土坑 5号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	61×51	45×27	31.4	416~420・1042			70・71	69
353	G 13土坑 6号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	148×120	149×112	86.0	421~423			70・71	60
354	G 13柱状土坑 1号		円	ビーカー	19	9	45.0				70	
355	G 13柱状土坑 2号		円	ビーカー	29×18	9×9	15.0				70	
356	G 13柱状土坑 3号		だ円	ビーカー	32×27	23×22	96.1				70	68・31
357	G 13柱状土坑 4号		だ円	ビーカー	28×27	18×17	8.8				70	
358	G 13柱状土坑 5号		だ円	ビーカー	41	36	11.4				70	
359	G 13柱状土坑 6号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	48(61)×40	44×40	73.8				70	132
360	G 14土坑 1号	黒褐色土、暗褐色土、Nb-p少量混入、炭化物・骨片混入	円	ビーカー	150×141	90×92	88.8	852			72	69
361	G 14土坑 2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	不整円	ビーカー	102×92	95×85	26.8	424			72	69
362	G 14土坑 3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	円?	皿	104	(100)	21.1				72	69
363	G 14土坑 4号	暗褐色土、にぶい黄褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円?	ビーカー	95	87	55.7		晩期		72	70

第10表 土坑・柱穴 (6)

組織番号	遺構名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口部径 (cm)	底面径	深	出土遺物	時期	備考	図版	写真図版
364	G14柱穴土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	25×18	16×14	25.1				72	132
365	G14柱穴土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p炭化物混入	だ円	ビーカー	25×16	15×13	10.3				72	132
366	G14柱穴土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	66×50	29×29	65.5				72	132
367	G14柱穴土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	72×53	36×36	32.5				72	132
368	G14柱穴土坑5号	暗褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	54	47	18.3				72	69
369	G14柱穴土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	42×41	34×32	9.8				72	133
370	G14柱穴土坑7号	黒褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	30×17	20×15	19.2				72	133
371	G14柱穴土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	65×58	58×47	26.6			F14建物跡内柱穴	72	70・133
372	G15土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	100×72	100×72	35.1	425・426			72	70
373	G15土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	皿	78	68	25.9	1043			72・73	70
374	G15土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	皿	49×45	33×29	21.0				72・73	70
375	G15土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	皿	99×77	75×63	23.0				72・73	71
376	G15土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	皿	99×77	75×63	23.0				73	71
377	G16土坑1号	黒褐色土、Nb-p炭化物混入	だ円	ビーカー	69×56	55×48	11.4	427			73	71
378	G16土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p炭化物混入	だ円	ビーカー	79×(37)	75×(47)	10.0				73	71
379	G16土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p炭化物混入	だ円	フラスコ	(130)×95	(106)×97	61.1	428			67・68	63
380	G16柱穴土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	54×41	32×25	57.0				73	133
381	G16柱穴土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	108×104	112×112	140.5	728・729		G16建物跡内柱穴	73	133
382	G16柱穴土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	49×37	33×24	50.0				73	134
383	G16柱穴土坑4号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	69×65	53×55	34.8				73	134
384	G17土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	フラスコ	160×150	128×126	57.0	429・430・853			73・74	71
385	G17土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	フラスコ	(30~40)		27.3				73・74	71
386	G17土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円?	ビーカー	108×(75)	101×(68)	78.0	431			73・74	71
387	G17土坑4号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円?	ビーカー	(100+)		69.7	432・433			73・74	71
388	G17土坑5号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円?	ビーカー	95	101×(85)	116.0				73	71
389	G17土坑6号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円?	ビーカー	157×130	144×108	25.5				73・74	72
390	G17土坑7号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	120×77	130×67	41.6				73・74	72
391	G17土坑8号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー							73	72
392	G17土坑9号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円?	ビーカー	98×93	88×88	34.0				73	72
393	G17土坑10号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円?	ビーカー	115	23.1	23.1				73・74	72
394	G17土坑11号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円?	ビーカー	159×153	150×145	32.8	434・854		一部射孔しているが明土坑があった可能性あり	73・74	72
395	G17土坑12号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円?	フラスコ	(90)		43.5				73・74	72
396	G17土坑13号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	117×62	50	31.0	435			73	73
397	G17土坑14号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	135×133	128×119	35.0	436			73	73
398	G17土坑15号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	(121)×99	(102)×80	42.0	437・855			73	73
399	G17土坑16号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	116×115	86×85	23.9	438			73・74	72
400	G17柱穴土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	63×43	9×4	55.1	730・731・1135		G16建物跡内柱穴	73	71
401	G17柱穴土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	38		39.1				73	73
402	G17柱穴土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	41×31	34×23	6.5				73	72
403	G18土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	48×25	20×12	23.5				75	73
404	G18土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	フラスコ	119	111×107	56.0	439~441・1044・1045			75	73
405	G18土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	フラスコ	72×62	48×47	11.0				75	73
406	G18柱穴土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	31×26	14×13	12.0			G18建物跡内柱穴	75	134
407	G18柱穴土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	42×28	18×16	17.3	733			75	134
408	G18柱穴土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	皿	114×71	100×52	36.5	442			75	74
409	G19土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	皿	152	142	24.4	443・856~858		F19柱跡NO1に切られている	75	74
410	G19土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	皿	(100+)×(60+)		11.2				75	74
411	G19土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円?	ビーカー	80	64	104.5	734			75	74
412	G19柱穴土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円?	フラスコ	77×66	54×54	149.5			G19建物跡内柱穴	75	74
413	G19柱穴土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	フラスコ	28×20	21×16	101.0				75	74
414	G19柱穴土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	フラスコ	37×32	18×18	59.8				75	135
415	G19柱穴土坑4号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	86	70×(70+)	94.0				75	74
416	G19柱穴土坑5号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	35×(30+)	(20+)×17	30.3				75	74
417	G19柱穴土坑6号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	20×20	18×18	32.0				75	135
418	G19柱穴土坑7号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	50×47	32×30	42.0				75	135
419	G19柱穴土坑8号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	88×80	68×66	124.0				75	135
420	G19柱穴土坑9号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	ビーカー	130×118	103×98	49.3			G18建物跡内柱穴	75	74
421	G20土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	だ円	フラスコ	63×58	55×50	13.8	444			76	75
422	G20土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	フラスコ	136×(124)	153×125	152.0	445・446			76	74・75
423	G20土坑3号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	フラスコ	139×(131)		42.0				76	74・75
424	G20土坑4号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量炭化物混入、アタリ有り	円	フラスコ							76	74・75

第11表 土坑・柱穴 (7)

種別番号	遺構名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口部径 (cm)	底部径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真版
425	G20柱穴土坑1号	にぶい黄褐色土主体、Nb-p混入	円?	ビーカー	83	80	88.2	735			76	75
426	G20柱穴土坑2号	にぶい黄褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	ビーカー	71×68	61×53	46.2	1136		G19建物跡内柱穴	76	75
427	G21土坑	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	フラスコ	176×160	204×178	71.1				76	
428	G21柱穴土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	だ円	ビーカー	46×45	47×41	23.9	736・899		E20建物跡内柱穴	76	
429	G21柱穴土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	ビーカー	39×39	32×31	24.6				76	
430	G21柱穴土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	ビーカー	127×94	85×63	23.9	737			76	135
431	H11土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p混入	円?	ビーカー	60	54	12.9	447・448・1046			77	75
432	H11土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	皿	(130+)×119	116×30	32.0				77	75
433	H11柱穴土坑	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	56×39	25	38.7				77	
434	H12土坑1号	黒褐色土、暗褐色土、Nb-p混入、人為堆積	円	フラスコ	110+×100+	78×73	63.1	449+450			77	76
435	H12柱穴土坑1号	黒褐色土、暗褐色土、Nb-p混入、人為堆積	円	フラスコ	90×82	128×120	71.8	1047			77	76
436	H12柱穴土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	28×25	14×14	13.9				77	76
437	H12柱穴土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	40×40	39×25	26.2				77	
438	H12柱穴土坑4号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	楕円	ビーカー	75×49	57×25	56.0			2コで1墓柱穴をいかず	77	136
439	H12柱穴土坑5号	黒褐色土、Nb-p混入	円	ビーカー?	69	36×32	87.1				77	76
440	H12柱穴土坑6号	黒褐色土、Nb-p混入	円	ビーカー	56	49	51.4				77	76
441	H13土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	皿	45×45	38×33	11.8			残土	78	76
442	H13土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	ビーカー	116×109	111×109	79.0	451・1048			78・79	76
443	H13土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	ビーカー	94×88	95×91	44.3	452			78・79	77
444	H13土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	フラスコ?	94×91	102×102	50.0	453			78・79・87	77
445	H13土坑5号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	フラスコ	190	166	49.3	454			78・79	77
446	H13柱穴土坑1号	暗褐色土、暗褐色土、Nb-p混入、アタリ有り	円	ビーカー	50×46	33×31	45.3				78	68
447	H13柱穴土坑2号	暗褐色土、褐色土、Nb-p混入、人為堆積	円	フラスコ	58×52	52×52	56.7				78	136
448	H13柱穴土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	フラスコ	42×47	35×37	93.3				78	136
449	H13柱穴土坑4号	暗褐色土、炭化物混入	円	ビーカー	67×60	55×56	101.2				78	136
450	H13柱穴土坑5号	暗褐色土、炭化物混入	円	フラスコ	90×71	84×73	155.5			H13建物跡内柱穴 柱長40×30	78	77
451	H14土坑1号	暗褐色土、Nb-p炭化物混入	だ円?	ビーカー	67	48	29.7				78	77
452	H14土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p混入、自然堆積	円	皿	65×(69)	55×(46)	21.0				78	77
453	H14土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円?	(皿)	(114)×(68)	(96)×(81)	14.4	455			78・79	
454	H14土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	皿	73×70	69	30.3	1049			78・79	
455	H14柱穴土坑1号	暗褐色土、TO混入、人為堆積	円	暗褐色土、TO混入、人為堆積	74×67	58×50	26.2				78	77
456	H14柱穴土坑2号	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量混入	円	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量混入	97.8	45×45	97.8	738			78	77
457	H14柱穴土坑3号	暗褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	暗褐色土	120.3	88×(45+)	74×67				78	77
458	H14柱穴土坑4号	暗褐色土、炭化物混入	円	暗褐色土	155×106	136×91	128.0				78	77
459	H14柱穴土坑5号	黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土、人為堆積	だ円	ビーカー	45×23	16×12	89.0	739・740			78	77
460	H14柱穴土坑6号	暗褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土、人為堆積	だ円	ビーカー	80×76	69×46	118.7				78	77
461	H14柱穴土坑7号	暗褐色土、Nb-p混入、人為堆積	だ円	ビーカー	73×67	60×60	26.3				78・79	136
462	H14柱穴土坑8号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	64×59	54×45	35.6	741・900			78・79	137
463	H14柱穴土坑9号	暗褐色土主体、Nb-p炭化物混入	円	ビーカー	145×117	120×96	51.6	742・1137			78・79	137
464	H14柱穴土坑10号	暗褐色土主体、Nb-p炭化物混入	円	ビーカー	60×46	34×31	80.8	743・744		H13建物跡内柱穴	78	
465	H14柱穴土坑11号	暗褐色土主体、にぶい黄褐色土、炭化物混入、人為堆積	円	ビーカー	62×57	42×39	42.0	456			78	77
466	H15土坑1号	暗褐色土主体、にぶい黄褐色土、炭化物混入、人為堆積	円?	皿	(110+)	(100)	25.2				80・81	
467	H15土坑2号	暗褐色土主体、にぶい黄褐色土、炭化物混入、人為堆積	円	皿	49×47	41×37	61.1				80	77
468	H15柱穴土坑1号	にぶい黄褐色土主体、褐色土、Nb-p混入、アタリ有り	円	ビーカー	45×43	31×29	29.9				80	137
469	H15柱穴土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p混入	円	ビーカー?	85×75	78×71	128.0				80・87	137
470	H15柱穴土坑3号	にぶい黄褐色土、炭化物混入	円	ビーカー	63×45	48×35	42.6	745			80	137
471	H15柱穴土坑4号	にぶい黄褐色土、炭化物混入	だ円?	ビーカー	72	70×62	90.0				80	137
472	H15柱穴土坑5号	暗褐色土、炭化物混入	だ円	ビーカー	55×45	33×30	102.8				80	137
473	H15柱穴土坑6号	褐色土主体、Nb-p混入	円	ビーカー	38×33	30×26	40.2	746			80	137
474	H15柱穴土坑7号	暗褐色土主体、炭化物混入	だ円	ビーカー?	(76)×(54)	(49)×(84)	92.0	747			72・73・80	71
475	H15柱穴土坑8号	にぶい黄褐色土、炭化物混入	だ円?	ビーカー	(50)	(61)×(66)	39.8	901			80	137
476	H15柱穴土坑9号	暗褐色土、炭化物混入	円?	ビーカー	(81)×(68)	(61)×(66)	103.5				80	137
477	H15柱穴土坑10号	暗褐色土、にぶい黄褐色土、褐色土、Nb-p、TO混入、人為堆積	だ円	ビーカー?	92×61	114×72	67.0				87	138
478	H15柱穴土坑11号	暗褐色土、褐色土、Nb-p、TO混入、人為堆積	だ円	ビーカー	(121)×67	(114)×69	161.0				87	138
479	H15柱穴土坑12号	暗褐色土、褐色土、Nb-p、TO混入、人為堆積	だ円	ビーカー	93×85	71×62	137.3	1142			87	138
480	H15柱穴土坑13号	暗褐色土、褐色土、Nb-p、TO混入、人為堆積	円?	ビーカー	64	54	79.3				87	138
481	H15柱穴土坑14号	にぶい黄褐色土、Nb-p混入、人為堆積	だ円	ビーカー	115×95	76×66	29.8	457			80・81	138
482	H15柱穴土坑15号	暗褐色土、下位暗褐色土、Nb-p、TO混入、人為堆積	だ円	ビーカー	70+	76×66	29.8				80・81	78
483	H16土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p混入	だ円	ビーカー	127×113	128×113	51.7	458+459			80・81	78
484	H16土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p混入	だ円	ビーカー?							80・81	78
485	H16土坑3号	暗褐色土主体、下位暗褐色土、Nb-p少量、炭化物混入	だ円	ビーカー?							80・81	78

第12表 土坑・柱穴 (8)

編號	遺構名	埋土層相	平面形態	断面形態	開口部径 (cm)	底面径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真図版
486	H16土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	円	ビーカー?	(80)×63	(80)×65	25.0				80-81	78
487	H16土坑5号	黒褐色土主体、黒褐色土、Nb-p混入	円	皿	71×65	54×52	6.4				80-81	78
488	H16土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物微量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	(120+)×73	(100+)×40	34.5				80-81	78
489	H16柱穴状土坑1号		円	ビーカー	114×99	102×102	94.9	748		G16建物跡内柱穴 柱径62×55	80	78
490	H16柱穴状土坑2号	にぶい黄褐色土主体、Nb-p炭化物微量混入	だ円	ビーカー	110×100	96×74	121.6	749		柱径42×50	80-81	78
491	H16柱穴状土坑3号	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p炭化物微量混入	だ円	ビーカー	90	66.3	66.3				80-81	78
492	H16柱穴状土坑4号	黒褐色土主体、にぶい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入	だ円	ビーカー	80×70	75×50	80.3	750-902			80-81	78
493	H16柱穴状土坑5号	褐色土、にぶい黄褐色土、明黄褐色土、Nb-p炭化物微量混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	85	70	93.3	751			80-81	78
494	H16柱穴状土坑6号	黒褐色土主体、Nb-p混入	円	ビーカー	55×56	48×46	31.0				80-81	78
495	H16柱穴状土坑7号	にぶい黄褐色土、暗褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入	だ円	ビーカー?	(105)×(71)	(66)×57	55.0				80-81	78
496	H16柱穴状土坑8号	黒褐色土主体、Nb-p混入	だ円	ビーカー?	(18)×(13)	(11)×9	33.0				80-81	78
497	H17土坑1号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入	だ円	フラスコ?	132×107	136×122	40.9	460-461	晩期		82	79
498	H17土坑2号	暗褐色土主体、暗褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入	だ円	フラスコ?	135×106	127×92	39.0	462-463-859	晩期		82	79
499	H17土坑3号	上位黒褐色土、中位にぶい黄褐色土、下位褐色土、Nb-p・Td・O混入、人為堆積	円?	ビーカー?	108×96	96×87	27.2				80-81-82 +83	78
500	H17土坑4号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円?	フラスコ?		80	43.8	464-1060			82-83	79
501	H17土坑5号	にぶい黄褐色土、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円?	フラスコ?		110	30.8				82-83	79
502	H17土坑6号		円	ビーカー?		80	31.9	465-860			82-83	79
503	H17土坑7号	暗褐色土、オリーブ褐色土、Td・Hブロック混入、人為堆積	円	ビーカー?	(90+)	29.5	29.5				82-83	79-80
504	H17土坑8号	黒褐色土、褐色土、Nb-p・Td・O混入、人為堆積	だ円	ビーカー	90×62	56×45	45.2				82-83	79
505	H17土坑9号	黄褐色土主体、人為堆積	だ円	ビーカー	(100)×105	(80)×(100)	38.0				82-83	79
506	H17土坑10号		円?	ビーカー?	(70)		26.5				82	79
507	H17土坑11号	暗褐色土主体、Nb-p混入	だ円	ビーカー	(113)	131×125	19.2				82-83	79
508	H17土坑12号	褐色土主体、Nb-p・Td・O混入	円	ビーカー?	155×148						82-83	80
509	H17土坑13号		だ円	ビーカー?	(12)×67	161.0					82	78
510	H17柱穴状土坑1号	暗褐色土主体、にぶい黄褐色土、Nb-p少量・Td・O・炭化物微量混入、人為堆積	だ円	フラスコ?	27.2	126	27.2				89-91	80
511	H17柱穴状土坑2号	黒褐色土主体、暗褐色土、にぶい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	70×55	44×41	53.7	762			82	79
512	H17柱穴状土坑2号	オリーブ褐色土、暗褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	46×38	32×13	32.8				82	136
513	H17柱穴状土坑3号		円?	ビーカー	35	15	16.0				82	80
514	H17柱穴状土坑4号		円?	ビーカー	19×16	7×5	17.0				82	79
515	H17柱穴状土坑5号		円	ビーカー	110×107	109×97	99.9			G16建物跡内柱穴 柱径45×34	82	80
516	H18土坑1号	暗褐色土、Nb-p微量混入	だ円	ビーカー	73	63	24.2				82-83	73
517	H18土坑2号		だ円	ビーカー	96×72	87×65	2.1				73	73
518	H18土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	135	114	36.6	466-467-861			82-83	81
519	H18土坑4号	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p微量混入	円?	ビーカー	(105)×(95)	(91)	44.2				82-83	81
520	H18土坑5号	にぶい黄褐色土主体、褐色土、Nb-pブロック混入、人為堆積	円?	ビーカー	(70+)		14.2				82-83	81
521	H18土坑6号	黄褐色土、Nb-p微量混入	円?	皿	(70+)		20.7				82-83	81
522	H18土坑7号	褐色土、Nb-p混入	だ円	皿	95×77	84×66	10.0	468			82-83	81
523	H18土坑8号	にぶい黄褐色土、黒褐色土、Nb-p炭化物少量混入、人為堆積	だ円	フラスコ	188×129	173×109	61.8	469-1051			82-84	81
524	H18土坑9号		だ円	フラスコ	(47)×(38)	137×(46)	27.87	1052-1053			82	80
525	H18土坑10号		だ円	フラスコ	(100)×65	(75)×42	21.0				82-83	80
526	H18土坑11号		だ円	ビーカー	95×51	78×35	36.0	470-471			82	73
527	H18土坑12号		円?	ビーカー?	(126)×(91)	(106)×(55)	40.1	472-1054	晩期		82-83	80
528	H18柱穴状土坑1号	黒褐色土主体、にぶい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物少量混入	円	ビーカー	123×104	82×76	40.5	473		G16建物跡内柱穴	82-83	81
529	H18柱穴状土坑2号		だ円	ビーカー	86×98×76	37×35	149.3				82	81
530	H18柱穴状土坑2号	暗褐色土主体、褐色土、Nb-p少量・炭化物微量混入、アタリ有り	だ円	ビーカー	43×44	35×27	63.5				82	81
531	H18柱穴状土坑3号		だ円	皿	(90+)×70	49	26.3				82	81
532	H18柱穴状土坑4号	にぶい黄褐色土主体、オリーブ状に褐色土・黒褐色土	だ円	ビーカー	48×41	41×33	13.6				82	81
533	H18柱穴状土坑5号		だ円	ビーカー	25×28	15×14	22.1				82	81
534	H18柱穴状土坑5号		円	皿	32×28	15×14	13.5				82	81
535	H18柱穴状土坑6号	暗褐色土、Nb-p混入	だ円	ビーカー	42×36	31×28	77.3				82	81
536	H18柱穴状土坑8号	黒褐色土主体、黒褐色土、Nb-p炭化物混入	円	ビーカー	54×53	30×26	52.0	474			82	138
537	H19土坑1号	黄褐色土(Nb-p混入)・炭化物微量混入	だ円?	皿	90	76	50.6				84	82
538	H19土坑2号	黄褐色土(Nb-p混入)・炭化物微量混入	だ円?	皿	47	35	15.0				84	82
539	H19土坑3号	暗褐色土、Nb-p微量混入	だ円	ビーカー	77	66	14.8				84	82
540	H19土坑4号	暗褐色土、Nb-p微量混入	だ円	皿	63×62	69×51	14.2				84	82
541	H19土坑5号	黒褐色土、Nb-p微量混入	だ円	ビーカー	63×49	37×33	32.2				84	82
542	H19柱穴状土坑1号	黒褐色土、Nb-p微量混入	だ円	ビーカー	84×76	49×47	130.0	753		G18建物跡内柱穴	84	82
543	H19柱穴状土坑2号		だ円	ビーカー	86×72	55×54	140.0	754		G19建物跡内柱穴	84+91	82
544	H19柱穴状土坑3号	黄褐色土	だ円	ビーカー	30×30	30×30	27.6				84	138
545	H19柱穴状土坑4号	暗褐色土、炭化物微量混入	だ円	ビーカー	47×39	37×36	15.3				84	138
546	H20土坑1号	黒褐色土、炭化物微量混入	だ円	皿	92×92	81×87	15.3	475			84-85-83	138

第13表 土坑・柱穴 (9)

照準番号	遺構名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口径径 (cm)	底径径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真題
547	H20土坑2号	暗褐色土、褐色土ブロック混入、人為堆積	だ円	皿	111×(140+)	94	28.3	476~862	晩期		84-85	
548	H20土坑3号	黒褐色土、暗褐色土、上位に10-b-Nb-p黄褐色土ブロック・炭化物粒混入、人為堆積	だ円	ビーカー	123×120	113×112	32.7	477~479	晩期		84-85	
549	H20土坑4号	黒褐色土、褐色土、Nb-p少量混入	円?	ビーカー	100	80	36.9	480	晩期		84	
550	H20土坑5号	暗褐色土、黒褐色土、10-b-Nb-p炭化物粒混入	だ円	ビーカー	96×67	79×53	42.3	481			84-85	
551	H20土坑6号	褐色土、Nb-p少量混入	だ円	皿	(130)×87	66	18.4	482			84-85	
552	H20柱穴土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	17×17	12×12	15.8				84-85	
553	H20柱穴土坑2号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー?	22×18	17×11	12.0				84	
554	H20柱穴土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	20×20	5×5	12.9				84	
555	H20柱穴土坑4号	暗褐色土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	80×75	96×39	92.1	755		G18建物跡内柱穴	84	
556	H20柱穴土坑5号	暗褐色土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	28×28	22×22	11.1				84	
557	H20柱穴土坑6号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円?	ビーカー	28×26	24×12	19.0				84-91	
558	H20柱穴土坑7号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円?	ビーカー	26×24	15×15	14.6	756			84	
559	H20柱穴土坑8号	暗褐色土、Nb-p少量混入	不整形	ビーカー	57×48	46×42	17.1				84	
560	H22柱穴土坑	暗褐色土、Nb-p炭化物混入、人為堆積	だ円	皿	60×50	58×44	27.2	1055			79	
561	H22土坑1号	暗褐色土、Nb-p炭化物混入、人為堆積	円	線底? (ビーカー?)	140×125	114×109	94.0				83	
562	H22土坑2号	黒褐色土、Nb-p炭化物混入、人為堆積	だ円	ビーカー	110×80	93×72	34.1			溝を切っている	79	
563	H22土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	フラスコ?	86×81	85×78	36.1				83	
564	I10土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ?	87×86	75×75	30.1				85	
565	I10土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	皿	80×75	65×56	27.1				85-86	
566	I10柱穴土坑	暗褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	楕円形	ビーカー	33×28	23×17	53.9				85	
567	I11土坑1号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	楕円形?	ビーカー	80×78	64	60.0	483-1066+1057			85-86	
568	I11土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	130×148	138×135	63.6				84	
569	I11土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー?	89×88	85×75	69.8				84	
570	I11土坑4号	黒褐色土主体、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー?	155	114	92.9	484			85-86	
571	I11土坑5号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円?	ビーカー	(115)×60	50	58.4				85-86	
572	I11柱穴土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	楕円形	ビーカー	32×28	21×20	20.6				84	
573	I11柱穴土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	楕円形	ビーカー	36×25	21×15	72.0				84	
574	I11柱穴土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	30×27	21×19	61.7				84	
575	I11柱穴土坑4号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	27×27	20×20	75.4				84	
576	I11柱穴土坑5号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	94×77	59×59	166.4	757~759		I11建物跡内柱穴	85	
577	I11柱穴土坑6号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	62	41	65.1				85	
578	I11柱穴土坑7号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	皿	43×44	43×36	15.0				84	
579	I11柱穴土坑8号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	69×65	63×62	30.8	760			85	
580	I11柱穴土坑9号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	47×40	31×25	15.1	761			85-86	
581	I11柱穴土坑10号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	楕円形	ビーカー	65×59	54×52	35.5				85-86	
582	I12土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円?	ビーカー	85	67	35.3				84	
583	I12土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	(60)×50	35	41.6				85-86	
584	I12土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円?	ビーカー	121	102	29.9				85	
585	I12柱穴土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	56×45	56×26	86.7				85-86	
586	I12柱穴土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	118×103	110×80	154.9			I13建物跡内柱穴 柱径30×35	85	139
587	I12柱穴土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	58×41	32×22	39.8				85	140
588	I12柱穴土坑4号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	60×37	40×21	27.1				85	140
589	I12柱穴土坑5号	黒褐色土	円	ビーカー	23×20	10×8	38.7				85	85
590	I12柱穴土坑6号	黒褐色土	円	ビーカー	33	26	22.2				85-86	
591	I12柱穴土坑7号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	45	31	48.0				85-86	
592	I12柱穴土坑8号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	69×64	58×53	58.0				85-86	
593	I12柱穴土坑9号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	115×106	96×88	110.4				85-86	140
594	I12柱穴土坑10号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	94×91	68×64	68.4				85	
595	I12柱穴土坑11号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	68×62	52×44	88.3	762-1138		柱径14×20 I11建物跡内柱穴 柱径15×15	85-86	
596	I12柱穴土坑12号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	25×24	11×9	39.6	763			85-86	
597	I12柱穴土坑13号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	35×34	14×14	19.8				85	
598	I12柱穴土坑14号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	26×22	17×16	26.2				85	
599	I12柱穴土坑15号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	33×33	12×12	30.2				85	
600	I13土坑	暗褐色土、Nb-p少量混入	楕円	皿	148×128	126×110	485				85	140
601	I13柱穴土坑1号	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	43×40	40×34	36.3				87-88	
602	I13柱穴土坑2号	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	114×87	74×71	134.0	764			87	140
603	I13柱穴土坑3号	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	皿	148×129	144×112	19.0				87	140
604	I14土坑1号	暗褐色土主体、黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ	92中84×85中74	144×142	69.9	486~489			77	140
605	I14土坑2号	暗褐色土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	78×71	63×59	15.2				87-88	
606	I14土坑3号	暗褐色土、Nb-p少量混入	楕円	ビーカー	122×95	68×28	45.6				87-88	
607	I14柱穴土坑1号	褐色土主体、Nb-p少量混入	円	ビーカー	47×45	40×39	64.3				87	140
608	I14柱穴土坑2号	褐色土主体、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	39×35	32×23	27.4				87	141

第14表 土坑・柱穴 (10)

掲載番号	道標名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口部径 (cm)	底 部 径	深 さ	出土遺物	時期	備 考	図版	写真図版
609	I15土坑1号	暗褐色土TD・暗褐色土・Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	(100)×(90)		31.7				87-88	86
610	I15土坑2号	黒褐色土主体、Nb-p混入、人為堆積	方形?	皿	45	35	14.1				87-88	86
611	I15土坑3号	黒褐色土主体、Nb-p少量・TD・下位白色砂土混入	だ円	フラスコ	(80)×66		37.2				87-88	86
612	I15土坑4号	黒褐色土、Nb-p混入	だ円	フラスコ	116×105		20.9	490			87-88	86
613	I15土坑5号	暗褐色土、Nb-p少量・TD・小フラスコ・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	38×39		88.9	765			87-88	86
614	I15土坑6号	暗褐色土主体、Nb-p少量・TD・小フラスコ混入、柱眼一部残存、人為堆積	円	ビーカー	72×(60)中場		90.0	766			87-88	86
615	I15土坑7号	暗褐色土主体、Nb-p少量・TD・小フラスコ・炭化物粒混入	円	ビーカー	46(35)×(40)		51.8				87-88	86
616	I15土坑8号	褐色土、TD・小フラスコ混入、人為堆積	だ円	ビーカー	50×(30+)		52.5				87	86
617	I15土坑9号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	67×(60+)		53.3	767・768			87	138
618	I15土坑10号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	101×70		94.3				87-88	86
619	I15土坑11号	暗褐色土、黒褐色土、Nb-p混入	だ円	ビーカー	67×63		58.3				87-88	141
620	I15土坑12号	暗褐色土主体、Nb-p少量・TD・小フラスコ混入	だ円	ビーカー	51×50		52.5				87-88	141
621	I15土坑13号	暗褐色土と暗褐色土の混合土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	37×14		29.2				87-88	86
622	I15土坑14号	暗褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	円?	皿	41	41	22.6	491			89	86
623	I15土坑15号	におい黄褐色土	円?	ビーカー	72	58	19.9				89-90	87
624	I15土坑16号	黒褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・TD・非多量・炭化物粒微量混入	不整形だ円	皿	110×80		26.4				89	87
625	I15土坑17号	におい黄褐色土主体、黒褐色土、小量炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	74×47		14.0	495			89-90	87
626	I15土坑18号	黒褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・TD・小フラスコ・人為堆積	だ円	フラスコ	38×35		54.2	492~494			89-90	88
627	I15土坑19号	褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・TD・非多量・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	(90+)×41		44.2	769			89	87
628	I15土坑20号	褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	45		50.0	1139			89	87
629	I15土坑21号	黒褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・TD・小フラスコ混入	だ円	ビーカー	46×32		42.6				89	87
630	I15土坑22号	褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・TD・非多量混入	だ円	ビーカー	40×30		35.5				89	86
631	I15土坑23号	褐色土と黄褐色土の混合土、Nb-p少量混入	円?	ビーカー	54×37		33.3				89	86
632	I15土坑24号	黒褐色土主体暗褐色土、Nb-p混入	だ円	ビーカー	38×14	(32+)×(35+)	22.0			土坑付属の柱穴かも	89	86
633	I15土坑25号	におい黄褐色土主体暗褐色土、アタリ有	だ円	ビーカー	190×93		98.3				89-90	87
634	I15土坑26号	におい黄褐色土主体暗褐色土、人為堆積	だ円	ビーカー	(109)×(74)		103.0	770			89-90	87
635	I15土坑27号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	45×43		77.8				89	78
636	I15土坑28号	褐色土、TD・非多量混入	だ円	皿	55×42		15.5				89	86
637	I15土坑29号	黒褐色土主体におい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、アタリ有	円	ビーカー	26×28		10.9				89	87
638	I15土坑30号	暗褐色土主体におい黄褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	60×60		55.5	771			89-90	88
639	I15土坑31号	暗褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量混入	円	フラスコ	60×45		37.1	486			89-90	88
640	I15土坑32号	黒褐色土・暗褐色土におい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	184×(66)		42.8	488~500			89-90	88
641	I15土坑33号	におい褐色土、人為堆積	円	ビーカー	30		41.8				91-92	80
642	I15土坑34号	黒褐色土と黄褐色土の混合土、Nb-p少量混入、人為堆積	円?	ビーカー?		144	41.9	497・501~506・1058・863・864			89-91・92	80
643	I15土坑35号	におい黄褐色土主体褐色土、TD・0混入	円?	フラスコ?	(94)×92		59.0				89-90	88
644	I15土坑36号	におい黄褐色土主体褐色土、TD・小フラスコ混入、人為堆積	だ円	ビーカー	67		61	1059			89-90	88
645	I15土坑37号	黒褐色土主体におい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー?	71		49	507~513・865			89-90	80-89
646	I15土坑38号	暗褐色土、におい黄褐色土、黒褐色土、Nb-p少量・TD・0・炭化物粒微量混入、人為堆積	円	フラスコ?		110	46.3	515~519・1060			89-91	80
647	I15土坑39号	暗褐色土、におい黄褐色土、黒褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、人為堆積	円	皿	(165)×(117)		39.0				89	89
648	I15土坑40号	におい黄褐色土と暗褐色土の混合土、黒土粒微量・炭化物粒多量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	105×86		33.7	514			89-91	89
649	I15土坑41号	褐色土主体	だ円	ビーカー	(63)×68		46.0				89	88
650	I15土坑42号	褐色土主体	だ円	ビーカー	(58)×64		67.0				89-90	89
651	I15土坑43号	褐色土主体	不整形	皿	(211)×(164)		25.0				89-91	88
652	I15土坑44号	黒褐色土主体におい黄褐色土、Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	72×(66)		43×39	903			89-90	88
653	I15土坑45号	褐色土主体	だ円	ビーカー	106×72		71.1				89-90	88-89
654	I15土坑46号	暗褐色土と褐色土の混合土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	37		32				89	88
655	I15土坑47号	暗褐色土と褐色土の混合土、Nb-p少量・TD・小フラスコ混入、人為堆積	円	ビーカー	74×56		52×38				89-90	89
656	I15土坑48号	におい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	円	フラスコ	48		40	772			89-90	88
657	I15土坑49号	黒褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	59×96		53.3				89-90	141
658	I15土坑50号	黒褐色土、炭土粒多量・炭化物粒多量混入	円	ビーカー	38×35		26×23				89-90	89
659	I15土坑51号	黒褐色土、黄褐色土・小フラスコ・Nb-p少量・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	119×115		20.6	520~522・866			91-92	89
660	I15土坑52号	暗褐色土と暗褐色土の混合土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	112×108		46.5	523~526			91-92	89
661	I15土坑53号	暗褐色土と暗褐色土の混合土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	皿	79		14.4				91-92	89
662	I15土坑54号	暗褐色土と暗褐色土の混合土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、人為堆積	円	ビーカー	138×108		127×85				91-92	90
663	I15土坑55号	暗褐色土主体におい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物粒多量混入、人為堆積	円	皿	81×80		78	528~533			91-92	90
664	I15土坑56号	暗褐色土主体におい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物粒多量混入、人為堆積	円	皿	63×55		39.2	534			91-92	90
665	I15土坑57号	暗褐色土主体におい黄褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、人為堆積	円	皿	(148)×119		27.0	535~1061			91-92	91
666	I15土坑58号	暗褐色土と暗褐色土の混合土、炭化物粒微量混入、アタリ有	円	ビーカー	(64)×(55)		38.0				91	90-91
667	I15土坑59号	暗褐色土、黄褐色土・小フラスコ・Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	ビーカー		37	34.3	536~537・1062			91-92	80

第15表 土坑・柱穴 (11)

調査番号	遺構名	埋土層相	平面形態	断面形態	開口部径 (cm)	底 部 径	深 さ	出土遺物	時 期	備 考	図版	写真版
670	J18土坑10号		だ円?	ビーカー?	123		36.9				91	
671	J18土坑11号		だ円?	皿	48×32		27.0				91	
672	J18土坑12号	黒褐色土褐色土・Nb-p混入、人為堆積	だ円	ビーカー	76		37.6				91・92	80
673	J18土坑13号	黒褐色土暗褐色土・Nb-p少量・Td-pロック混入、人為堆積	だ円	フラスコ?	128×106		60.2				91・92	89
674	J18土坑13号	黒褐色土と暗褐色土の混合土・Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円?	ビーカー	42		21.3				91	90
675	J18土坑13号	褐色土と明黄褐色土の混合土・Nb-p微量混入	円	ビーカー	50×49		20.9				91	90
676	J18土坑13号		円	ビーカー	17×17		13.5				91	81
677	J18土坑14号		円	ビーカー	24×20		21.7				91	90
678	J18土坑14号	にぶい黄褐色土主体黒褐色土・Nb-p少量・Td-p炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	55×46		19.3				91	91
679	J19土坑1号	黒褐色土・Td-p少量・Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	212×188		34.6	538~540・877・1063・1064			91・92・93	91
680	J19土坑2号	暗褐色土・Nb-p少量混入	円	皿	80		23.2	1066~1070		あるいは1.3か1.1の土坑かも	91・92	91
681	J19土坑3号	褐色土・Nb-p?混入、人為堆積?	だ円	皿	107×90		23.2	541			91	91
682	J19土坑4号	暗褐色土・Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	皿	137		29.3				91・92	91
683	J19土坑5号	暗褐色土とにぶい黄褐色土の混合土、Nb-p少量混入、人為堆積	腰丸方形	ビーカー	73×(50+)		21.0				91・92・96	89
684	J19土坑1号	黒褐色土と暗褐色土の混合土・Nb-p少量・Td-pロック混入、人為堆積?	だ円	ビーカー	57×45		41.0				91・92	91
685	J19土坑2号	黒褐色土暗褐色土・Nb-p微量混入	だ円	ビーカー	48×31		28.7				91・92	141
686	J19土坑3号	暗褐色土黒褐色土・Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	19×18		20.0				91・92	142
687	J19土坑4号	暗褐色土・Td-p・Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	51×45		18.5				91・92	142
688	J20土坑1号	にぶい黄褐色土と暗褐色土の混合土・Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	皿	88×57		17.3				93	91
689	J20土坑2号	黒褐色土と暗褐色土の混合土・Nb-p微量混入	だ円	皿	111×86		13.0				93	91
690	J20土坑1号	にぶい黄褐色土暗褐色土・Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	44×34		30.1	773			93	91
691	J20土坑2号	暗褐色土・Nb-p微量・Td-p混入	だ円	ビーカー	30×18		17.9				93	142
692	J20土坑3号	黒褐色土・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	35×35		29.7				93	142
693	J20土坑4号	にぶい黄褐色土と黒褐色土の混合土・Nb-p微量混入	だ円	ビーカー	48×48		14.6				93	93
694	J20土坑5号	暗褐色土・Nb-p微量混入	だ円	皿	54×46		11.9				93	93
695	J21土坑1号	暗褐色土・褐色土・Nb-p少量混入	だ円	ビーカー	100×105		42.5				93	93・92
696	J21土坑2号	黒褐色土主体に下位に褐色土・Td-p・焼土粒・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	皿	(105)×77		21.2				93	92
697	J21土坑3号	暗褐色土主体・小粒・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	115×88		54.4				93	92
698	J21土坑4号	暗褐色土主体ににぶい黄褐色土・Nb-p・Td-p・焼土粒・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	ビーカー	130×103		38.7	888・1065		底面は南側が下がっている	93	92
699	J21土坑5号	褐色土とにぶい黄褐色土の混合土・Nb-p微量混入	だ円	皿	160×(130+)		28.6				93	92
700	J21土坑6号	黒褐色土・焼土粒・炭化物粒微量混入	だ円	皿	57×46		27.5				93	92
701	J21土坑7号		長だ円	ビーカー	(104)×44		38.0				93	93
702	J21土坑8号	にぶい黄褐色土・焼土粒微量混入	円	ビーカー	25		19.0				93	92
703	J22土坑1号	暗褐色土・Td-p混入	円	ビーカー?	95		43.0				90	92
704	J22土坑2号	にぶい黄褐色土・褐色土・Td-p・炭化物粒微量混入、人為堆積	円?	ビーカー	58		33.1				93	92
705	J11柱穴状土坑		円	ビーカー	81×79		83.8	774×775・1140		111建物跡内柱穴 111建物跡内柱穴	85	143
706	J13土坑	黒褐色土主体褐色土・Td-p微量・Nb-p少量・Td-pロック混入、人為堆積	円	ビーカー	95×84		39.9				85	143
707	J13土坑		円	ビーカー	150×148		60.0(45.0)				94	92
708	J14土坑1号	暗褐色土主体褐色土・Td-p微量・Nb-p少量・Td-pロック混入、人為堆積	円	ビーカー	70		25.3				94	92
709	J14土坑2号	暗褐色土・Nb-p混入	円	皿	79×75		46.0				94	92
710	J14土坑3号	黒褐色土褐色土・Nb-p少量混入	円	皿	123		18.4				94	92
711	J14土坑4号	黒褐色土・Nb-p炭化物粒混入、人為堆積	だ円	ビーカー	(128)×119		40.0				94	92
712	J15土坑1号	黒褐色土・Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	フラスコ	133×95		22.6				94	93
713	J15土坑2号	暗褐色土褐色土ににぶい黄褐色土・Nb-p少量・Td-p混入、人為堆積	だ円	フラスコ	109×101		65.4	546・870	晩期		94	93
714	J15土坑3号	暗褐色土主体に褐色土・Nb-p少量・Td-p少量・Td-pロック混入、人為堆積	だ円	ビーカー	88×(60+)		44.1				94	93
715	J16柱穴状土坑	上位に暗褐色土下位に褐色土・Nb-p少量・炭化物粒微量混入	円	ビーカー?	55×(55)		23.0	1141			94	143
716	J16柱穴状土坑	にぶい黄褐色土・Nb-p少量混入、人為堆積	円	フラスコ?	49×42		53.4				89・90・95	88
717	J17土坑1号	上位に暗褐色土下位ににぶい黄褐色土・Nb-p少量・Td-p混入、人為堆積	だ円	フラスコ?	102×98		48.3	547・1071			95	93
718	J17土坑2号	暗褐色土主体褐色土・Nb-p少量・Td-p少量・Td-pロック混入、人為堆積	だ円	ビーカー	105×94		36.0				95	93
719	J17土坑3号	暗褐色土・Nb-p混入、人為堆積	だ円	皿	155×132		13.5				95	94
720	J18土坑1号	暗褐色土主体ににぶい黄褐色土・Nb-p少量・Td-p混入、人為堆積	だ円	フラスコ	134×131		90.3	548・669・1072			95	94
721	J18土坑2号	暗褐色土褐色土・Nb-p少量・Td-p少量・Td-pロック混入、人為堆積	だ円	皿	78×73		26.0				95・96	94
722	J18土坑3号	暗褐色土・Td-p混入、人為堆積	円?	皿	74		21.0				95・96	94
723	J18土坑4号	暗褐色土・Nb-p少量・Td-p混入、人為堆積	だ円?	皿	161×157		25.1				95・96	94
724	J18土坑5号	暗褐色土	だ円?	皿	(90+)×63		18.2				95・96	94
725	J18土坑6号	暗褐色土	だ円	ビーカー	110×110		42.8				95・96	95
726	J18柱穴状土坑1号	暗褐色土褐色土・Nb-p少量・Td-p少量・Td-pロック混入、人為堆積	だ円	ビーカー	84×75		76.2	776			95	95
727	J18柱穴状土坑2号	暗褐色土褐色土・炭化物粒微量混入、アタリ有	だ円	ビーカー	70×64		62.6	777			95	94
728	J18柱穴状土坑3号	黒褐色土・Nb-p微量混入	円	ビーカー	32×29		15×14				95	94
729	J18柱穴状土坑4号		円	ビーカー	97×(80+)		55.0(47.7)				95・96	94

第16表 土坑・柱穴 (12)

調査番号	遺構名	埋土様相	平面形態	断面形態	開口内径 (cm)	底 部 径	深 さ	出土遺物	時 期	備 考	図版	写真図版
730	J18柱穴状土坑5号	褐色土、Nb-p微量混入	円	皿	38×34	28×25	7.1				95	143
731	J18柱穴状土坑6号	暗褐色土、Nb-p微量混入	円	ビーカー	51×47	39×36	7.2				95	143
732	J19土坑1号	上位に暗褐色土下に褐色土、Nb-p微量・TO-0?混入、人為堆積?	だ円	ビーカー	105×85	81×38	30.0	550・1073			96	95
733	J19土坑2号	褐色土と暗褐色土の混合土、Nb-p微量混入	だ円?	皿	110	94	15.8				96	95
734	J19土坑3号	暗褐色土、炭化物粒微量混入、人為堆積?	円	皿	94×90	77×72	19.0				96	95
735	J19土坑4号	暗褐色土、炭化物粒微量混入	円	皿	105×97	81×76	23.0	551			96	95
736	J19柱穴状土坑1号	暗褐色土、Nb-p微量混入	円	ビーカー	56×61	61×60	50.7				96	144
737	J19柱穴状土坑2号	暗褐色土、Nb-p微量混入	円	皿	27×27	21×20	7.2				96	144
738	J19柱穴状土坑3号	暗褐色土、Nb-p微量混入	円	皿	32×32	25×22	9.4				96	144
739	J20土坑1号	暗褐色土、Nb-p微量混入	円	鍋底	110×98	91×75	32.0				96	95
740	J20土坑2号	暗褐色土、炭化物粒微量混入	だ円	皿	119×68	104×63	14.0				96	95
741	J20土坑3号	暗褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量混入	だ円	皿	(106)×71	(106)×71	22.0				96	95
742	J21土坑1号	上位に暗褐色土下に灰黄褐色土、炭化物粒微量混入	円?	ビーカー	115×97	75×75	17.0	1074		斜面下方は崩れている	97	96
743	J21土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・炭化物粒多量・岩鱗片多量混入	だ円	ビーカー	104×129	100×76	55.0	582・871			97	96
744	J21土坑3号	暗褐色土、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・炭化物粒混入	だ円	ビーカー	69	37	44.7				97	96
745	J21柱穴状土坑1号	暗褐色土、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・炭化物粒混入	円	ビーカー	69	37	40.8				97	96
746	J21柱穴状土坑2号	暗褐色土、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・炭化物粒混入	円	ビーカー	70×68	34×26	45.2				97	92
747	K10土坑	暗褐色土、Nb-p・炭土粒多量・炭化物粒混入、人為堆積?	円	フラスコ	189×186	212×204	63.6	553~567・872・873 ・1075~1081			97	96
748	K12土坑1号	暗褐色土、Nb-p微量・炭土粒・炭化物粒混入	円?	ビーカー	78×(36+)	62×(25+)	50.4	1082			98	97
749	K12土坑2号	暗褐色土、Nb-p微量・炭土粒・炭化物粒混入	円	皿	94×(68+)	80×(60+)	23.1				98	97
750	K12土坑3号	暗褐色土、Nb-p少量混入	方形	皿	112×(56+)	112×(56+)	31.1	569・570・1083			98	97
751	K12土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円?	皿	92×(46+)	71×(21+)	43.0	588			98	97
752	K12柱穴状土坑1号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	74×64	49×47	113.1	778~781・1143		K12建物跡2内柱穴 K12建物跡1内柱穴	98	97
753	K12柱穴状土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p微量・炭土粒・炭化物粒混入	だ円	皿	(77)×55	(55)×35	22.0				98	97
754	K12柱穴状土坑3号	暗褐色土、Nb-p微量混入、人為堆積	だ円	皿	85×85	55×54	79.2	782			98	144
755	K13土坑1号	暗褐色土、TO-0・Nb-p微量混入、人為堆積?	だ円	皿	170×145	168×135	26.6				98	97
756	K13土坑2号	暗褐色土、Nb-p微量混入	だ円	鍋底	(55+)×82	(48+)×34	28.9	571・572			98	97
757	K13土坑3号	暗褐色土、Nb-p微量混入	だ円	皿	61×56	51×46	14.7	573~875			98	96
758	K13土坑4号	暗褐色土、Nb-p微量混入	だ円	皿	71×44	55×37	24.8				98	96
759	K13柱穴状土坑	暗褐色土、Nb-p微量混入	だ円	皿	71×44	79×76	57.8	1144		K12建物跡1内柱穴	98	97
760	K14土坑1号	暗褐色土、褐色土ブロック・Nb-p少量混入、人為堆積	長方形	皿	102	74	29.0	576			99	96
761	K14土坑2号	暗褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・炭土粒・炭化物粒混入、人為堆積	円	ビーカー	(143)×(128)	118×109	66.5	577			99	96
762	K14柱穴状土坑	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭土粒・炭化物粒混入、人為堆積	円	ビーカー	(70)×(70)	51×42	156.1	783		K12建物跡2内柱穴	94	98
763	K15土坑1号	暗褐色土、Nb-p少量・TO-0混入、人為堆積	円	フラスコ	(130)×108	(129)×101	62.8	578・579・1084			99	96
764	K15土坑2号	暗褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・TO-0混入、人為堆積	だ円	皿	(121)×112	(103)×94	49.8	580			98	99
765	K17土坑1号	暗褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	フラスコ?	(148)×(138)	137×135	45.3	581			98	99
766	K17土坑2号	暗褐色土主体、Nb-p少量・TO-0・小ブロック少量・TO-0?・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	鍋底	77×70	69×65	33.6				98	99
767	K17土坑3号	暗褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	だ円	皿	69×65	49×35	20.8				98	99
768	K17土坑4号	暗褐色土、Nb-p少量混入	円	フラスコ?	172	170	34.7				98	99
769	K17土坑5号	暗褐色土主体暗褐色土、Nb-p少量・TO-0・炭化物粒微量混入、人為堆積	だ円	皿	(65)×70	55	25.0				98	99
770	K17土坑6号	上位にオリーブ褐色土下に暗褐色土、TO-0?・TO-0?混入、人為堆積	円	フラスコ	63×60	105×89	40.9	582・583			98	99
771	K17柱穴状土坑	上位に黄褐色土主体暗褐色土、Nb-p微量・TO-0?・炭化物粒微量混入、アタリ?有	円	ビーカー	(80)×54	(50)×39	41.0	784			98	99
772	K18土坑	褐色土	円?	ビーカー	50	42	17.4				98	99
773	K18柱穴状土坑	暗褐色土	だ円	皿	70	33	38.9	874		底部岩	100	145
774	K19土坑1号	暗褐色土、TO-0?微量・炭土粒・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	28×27	21×20	20.3				100	99
775	K19土坑2号	暗褐色土、TO-0?微量・炭土粒・炭化物粒微量混入	円	皿	85×80	72×65	17.0				100	99
776	K20土坑1号	暗褐色土、褐色土ブロック・炭化物粒微量混入	円	皿	120×99	97×77	19.0				100	99
777	K20土坑2号	暗褐色土、褐色土ブロック・炭化物粒微量混入	円	皿	95×75	85×66	11.0				100	99
778	K20柱穴状土坑1号	暗褐色土	だ円	ビーカー	70	33	38.9				100	145
779	K20柱穴状土坑2号	暗褐色土、炭土粒微量・炭化物粒混入	円	ビーカー	66×64	50×60	31.9				100	145
780	K21柱穴状土坑1号	暗褐色土、炭土粒微量・炭化物粒多量混入	円	フラスコ	72×72	58×60	59.0				100	145
781	K21柱穴状土坑2号	暗褐色土、炭土粒微量・炭化物粒多量混入	円	フラスコ	34×30	31×11	27.4				100	145
782	K21柱穴状土坑3号	暗褐色土、炭土粒微量・炭化物粒多量混入	円	フラスコ	36×30	15×14	22.9				100	145
783	K21柱穴状土坑4号	暗褐色土、炭土粒微量・炭化物粒多量混入	だ円	皿	30×20	18×10	11.2				100	145
784	K21柱穴状土坑5号	暗褐色土、炭土粒微量・炭化物粒多量混入	円	ビーカー	54×51	41×37	21.0	785			100	145
785	K21柱穴状土坑6号	暗褐色土、炭土粒微量・炭化物粒多量混入	円	ビーカー	67×64	53×49	41.6				100	146
786	L8土坑	暗褐色土、Nb-p少量・炭土粒・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	45×44	34×32	13.6				100	146
787	L11土坑1号	暗褐色土、Nb-p少量・炭土粒・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	203×168	188×152	94.3				100	99
788	L11土坑2号	暗褐色土、Nb-p少量・炭土粒・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	117×99	98×75	53.4	584~588・1085~1087			101	100
789	L11土坑3号	暗褐色土、Nb-p少量・炭土粒・炭化物粒微量混入、人為堆積	円	皿	115×113	96×91	42.6	589~593			101	100
790	L11土坑4号	暗褐色土主体、Nb-p少量・炭土粒・炭化物粒微量混入	円	皿	150	120	23.6	594~600・876・1088 ・1089			101	100

第17表 土坑・柱穴 (13)

縄文番号	遺構名	埋土総相	平面形態	断面形態	開口直径 (cm)	底 部 径	深 さ	出土建物	時期	備 考	図版	写真図版
791	L12土坑1号	黒褐色土、Nb-p微量、土器片混入	円	ビーカー	164	128	43.3	60~603・877~879 ・1099~1092			101	100
792	L12土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量、土器片混入、人為堆積	円	ビーカー	131×131	131×131	69.5	604~608・880・1063 ~1066		K12建物跡1内柱穴	101	101
793	L12柱穴状土坑	黒褐色土、Nb-p多量混入	円	皿(ビーカー)	91×88	76×73	39.0	786~788・904・905			101	146
794	L13土坑1号	黒褐色土、Nb-p多量混入、人為堆積	円	ビーカー	73×73	73×73	64.9	600~881			102	101
795	L13土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	ビーカー	41×(36+)	41×(36+)	29.5				102	101
796	L13土坑3号	黒褐色土、Nb-p多量混入	だ円	皿	75×60	57×44	26.3				102	101
797	L13土坑4号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー?	48×42	30×27	23.0			黒褐色土が燕を受けて焼け ている(伊)	102	101
798	L13土坑5号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	皿	66×65	58×46	21.3	1097・1098			102	101
799	L13土坑6号	黒褐色土、Nb-p混入	だ円	皿	65×64	38×35	9.5			黒褐色土が燕を受けて焼け ている(伊)	102	
800	L14土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入、人為堆積	円	ビーカー	132	106	44.0	610			98・102	98
801	L14土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	皿	95×91	95×91	37.0	611・612			102	102
802	L14土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量、土器片混入	(円)	皿	(96)×91	81×(78)	13.2				102	98
803	L14土坑4号	黒褐色土、Nb-p少量、土器片混入	だ円	皿	86	76	3.6	882		円盤状土製品	102	102
804	L14柱穴状土坑	上位に黒褐色土下位に黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭化物混入	円	ビーカー	102×76	70×64	147.0	789~790		K12建物跡2内柱穴	105	
805	L15土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	ビーカー	93×86	60×58	40.0	613~621			102・103	102
806	L15土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	フラスコ	122×122	148×140	89.1				102・103	102
807	L15柱穴状土坑1号	上位に黒褐色土下位に黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒少量・T0-Cu・Nb-p・炭化物混入、人為堆積	だ円	ビーカー	83×55	59×35	33.4				102	146
808	L15柱穴状土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	皿	40×40	33×33	15.1				102	146
809	L16土坑1号	黒褐色土、Nb-p多量混入	円	皿	100×86	69×59	50.0	622・623・1069	晩期		102・103	103
810	L16土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	97×89	80×63	41.7	624・1100			102・103	103
811	L16柱穴状土坑	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	(50+)×50	24×17	54.7				102	102
812	L17土坑	黒褐色土、褐色土ブロック・Nb-p多量、炭化物粒微量混入	円	フラスコ	131×123	142×141	31.9				103	103
813	L18土坑	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	フラスコ	71×66	56×52	26.0				103	103
814	L19土坑1号	黒褐色土、褐色土ブロック、炭土粒・炭化物粒・土器片混入	円	皿	99×88	82×79	23.0	625・626・1101			103	104
815	L19土坑2号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭化物粒微量混入	だ円	皿	148×82	119×82	22.0				103	104
816	L20土坑1号	黒褐色土と暗褐色土の混合土、Nb-p微量混入、人為堆積	だ円	皿	79×77	78×60	18.0				103	104
817	L20土坑2号	黒褐色土と褐色土の混合土、Nb-p微量混入、人為堆積	だ円	皿	62	44	62.0	883			103	103
818	L20土坑3号	黒褐色土、T0-a・T0-b・小角混入	不整形	ビーカー	320	260	50.1				104	104
819	M7土坑	黒色土、Nb-p微量、炭化物粒微量混入、人為堆積	円	皿	234×192	216×208	77.3(1125)	627	晩期		104	106
820	M10柱穴状土坑1号	黒褐色土、Nb-p炭化物粒微量混入	円	ビーカー	65×50	41×25					104	104
821	M10柱穴状土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量、T0-p微量混入	円	ビーカー	62×59	53×52	20.1				104	147
822	M12土坑	黒褐色土、褐色土ブロック・Nb-p少量、炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	172×112	174×115	101.6	628~637・1102~ 1109		水道部分でとけ込んだと 思われる	104	106
823	M12柱穴状土坑	黒褐色土、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	円	ビーカー	80×64	70×69	85.8	791~793・1145			104	105
824	M13土坑	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入、人為堆積?	円	フラスコ	90×87	94×91	61.0				105	105
825	M14土坑1号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入、人為堆積?	だ円	ビーカー	118×83	89×52	36.0	638~643・884・1110 ・1111			105	105
826	M14土坑2号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	だ円	ビーカー	124×75	86×42	53.9	644~648・1112			105	106
827	M14土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	皿	123×118	107×99	15.9	649・650・885・1113 1114			105	106
828	M14土坑4号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	だ円	ビーカー	(76)×(46)	(47)×(31)		886・1115	晩期		105	106
829	M15土坑1号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	円	ビーカー	90×88	78×74	23.0				105	107
830	M15土坑2号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	だ円	ビーカー	74×44	69×37	21.5				105	107
831	M15柱穴状土坑1号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	円	ビーカー	20×20	14×14	16.2				105	107
832	M15柱穴状土坑2号	黒褐色土、T0-Cu・Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	円	ビーカー	43×17	45×20	49.1			西側に斜位になっている	105	107
833	M15柱穴状土坑3号	暗褐色土、褐色土・Nb-p混入	円	ビーカー	70×23	14×12	20.9				105	107
834	M16土坑	暗褐色土、Nb-p・T0-p混入	円	皿	82×79	78×65	24.1				105	107
835	M16柱穴状土坑	黒褐色土、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入、アタリ有	円	ビーカー	88×69	44×31	53.4	794			105	107
836	M17柱穴状土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	46×44	39×36	10.3				105	147
837	M17柱穴状土坑2号	暗褐色土、T0-p混入	円	ビーカー	42×41	30×20	8.7				106	106
838	M17柱穴状土坑3号	黒褐色土、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	円	ビーカー	56×52	49×44	20.1				106	147
839	M17柱穴状土坑4号	褐色土、Nb-p・炭土粒・炭化物粒・土器片混入	円	ビーカー	61×61	55×32	30.4				106	106
840	M17柱穴状土坑5号	黒褐色土、Nb-p少量混入	円	ビーカー	33×22	33×23	16.0				106	147
841	M18土坑	上位に暗褐色土下位に黒褐色土、Nb-p少量混入、人為堆積	円	皿	111×107	100×100	51.0	651		M18柱穴NO1大形の長方 形状の石が入っている土坑	106	107
842	M18柱穴状土坑1号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	ビーカー	42×36	23×17	19.7				106	106
843	M18柱穴状土坑2号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	ビーカー	35×30	26×22	3.4				106	106
844	M18柱穴状土坑3号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	ビーカー	57×34	26×14	34.7				106	106
845	M18柱穴状土坑4号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	ビーカー	43×41	29×20	14.0				106	106
846	M18柱穴状土坑5号	黒褐色土、Nb-p少量、炭化物粒微量混入	円	皿	45×42	32×27	24.8	795~797			106	148
847	M19柱穴状土坑	黒褐色土、T0-p少量混入	円	ビーカー	41×32	31×24	17.4				103	103

第18表 土坑・柱穴 (14)

掲載番号	遺構名	理工概相	平面形態	断面形態	開口前後 (cm)	底断径	深さ	出土遺物	時期	備考	図版	写真図版
848	N10土坑	黒色土主体・TO・O微量・Nb・p多量混入	だ円	皿	141×111	117×94	40.8				106	107
849	N10土坑	黒色土・Nb-p微量混入	だ円	皿	49×43	38×34	36.1				104	148
850	N14土坑1号	黒褐色土・Nb-p微量・焼土粒・炭化物粒混入	円	皿	96×92	86×84	35.4				106・107	108
851	N14土坑2号	黒褐色土・Nb-p少量・焼土粒・炭化物粒多量・土器混入・人為堆積	円	ビーカー	110×107	91×81	80.6	652-658			108・109	108
852	N14土坑3号	黒褐色土・Nb-p少量・焼土粒・炭化物粒混入・人為堆積	円	ビーカー	65×60	49×46	53.5	798			106・107	148
853	N14土坑4号	黒褐色土・Nb-p少量混入・人為堆積	円?	ビーカー	30	37.0	799				106・107	148
854	N14土坑5号	黒褐色土・Nb-p多量混入・焼土粒・炭化物粒少量混入・人為堆積	だ円	ビーカー	77×(61)	55×44	51.0	800			106・107	148
855	N14土坑6号	黒褐色土・焼土粒・炭化物粒混入	円	ビーカー	29×29	22×22	26.8				106・107	108
856	N15土坑1号	黒褐色土主体・Nb-p少量・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	74×(66)		38.4	659・660・1116 1118			106・107	108
857	N15土坑2号	黒褐色土・Nb-p多量・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	70×43	66×34	46.0	661			106・107	108
858	N15土坑3号	黒褐色土・Nb-p焼土粒・焼土ブロック・炭化物粒微量混入	だ円	ビーカー	63×62	55×54	29.5				106・107	149
859	N16土坑1号	黒褐色土・Nb-p焼土粒微量・炭化物粒少量・骨片混入	円	プラスチック?	73×68	73×71	82.0	801~804・1146 1148			106・107	149
860	N16土坑2号	黒褐色土・焼土粒微量混入	円	ビーカー	(94)×84	12×12	32.5			N15建物跡内柱穴	106・107	108
861	N16土坑3号	黒褐色土・Nb-p少量混入	円	ビーカー	39×37	31×23	18.5				106・107	108・149
862	N16土坑4号	黒褐色土・Nb-p少量混入・焼土粒微量・炭化物粒少量混入	円	ビーカー	37×33	27×23	29.5				106・107	149
863	N16土坑5号	黒褐色土・Nb-p少量混入・焼土粒微量・炭化物粒少量混入	円	ビーカー	38×37	30×24	37.5	805			106・107	149
864	N16土坑1号	黒褐色土主体・Nb-p多量・焼土粒・炭化物粒・TO・Hブロック多量混入・人為堆積	円	プラスチック	106×105	128×126	96.6	662-666-887			107・108	109
865	N16土坑2号	黒褐色土主体・Nb-p多量・焼土粒・炭化物粒微量・人為堆積	円	ビーカー	100×99	89×87	31.8				107	109
866	N16土坑3号	黒褐色土主体・Nb-p多量・焼土粒・炭化物粒微量・人為堆積	円	木	100×98	135×134	65.3	667~671-888			107・108	109
867	N16土坑4号	黒褐色土主体に多い黄褐色土・人為堆積	円	ビーカー	59×59	51×46	17.4			立石状石の下の土坑	107	148
868	N16土坑5号	黒褐色土	円	木	50(34)×44(33)	45(26)×30(28)	32.5				107	149
869	N17土坑	褐色土・Nb-p混入	円	皿	89×87	77×72	10.8				107	109
870	N17土坑	褐色土・Nb-p混入	円	皿	20×20	10×7	13.0				107	109
871	N18土坑1号	黒褐色土・Nb-p少量・焼土粒多量・炭化物粒多量混入	円	ビーカー	44×42	39×28	28.7				106	
872	O14土坑1号	黒褐色土・Nb-p少量・焼土粒・炭化物粒多量混入	だ円	ビーカー	133×(120)	120×(95)	42.4	672-673-888・1119			108・109	108
873	O14土坑2号	黒褐色土・Nb-p少量・炭化物粒微量混入・人為堆積	円	ビーカー	57×57	50×50	22.5				108・109	110
874	O14土坑3号	黒褐色土・焼土粒・炭化物粒・骨片・土製品混入・人為堆積	円	ビーカー	89×82	78×66	58.0	890-891			108・109	110
875	O14土坑4号	黒褐色土・Nb-p少量・焼土粒・炭化物粒微量混入・人為堆積	円	ビーカー	22×19	12×12	36.0				108	110
876	O14土坑5号	黒褐色土主体・Nb-p多量混入	円	ビーカー	30×28	24×23	25.2				106	
877	O14土坑6号	黒褐色土主体・Nb-p微量混入	円	ビーカー	21×21	15×15	14.1				106	150
878	O14土坑7号	黒褐色土・Nb-p微量混入	円	皿	96×51	46×43	20.8				106	150
879	O14土坑8号	黒褐色土・Nb-p微量・焼土粒・炭化物粒混入	円	皿	76×71	63×59	25.6			N15建物跡内柱穴	106	110
880	O15土坑1号	黒褐色土・Nb-p少量・フレーク混入	円	ビーカー	30×28	20×19	18.6				108	
881	O15土坑2号	黒褐色土・Nb-p微量混入	円	ビーカー	22×20	16×15	10.1				108	
882	O15土坑3号	黒褐色土・Nb-p少量混入・人為堆積	だ円	ビーカー	48×46	33×31	23.2				108・109	150
883	O15土坑4号	黒褐色土・Nb-p少量・焼土粒・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	56×48	29×29	7.9			N15建物跡内柱穴	106	150
884	O15土坑5号	黒褐色土・Nb-p少量・焼土粒・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	117×63	59×51	50.3	806-807			108・109	149
885	O15土坑6号	黒褐色土・Nb-p多量・焼土粒・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	72×72	34×33	37.9				108・109	149
886	O15土坑7号	黒褐色土・Nb-p多量・焼土粒・炭化物粒微量混入	円	ビーカー	21×21	62×59	43.4	808			106	150
887	O16土坑1号	に多い黄褐色土主体・Nb-p多量・土器少量混入・人為堆積	円	ビーカー	4×4	4×4	28.7				107	
888	O16土坑2号	に多い黄褐色土主体・Nb-p多量・土器少量混入・人為堆積	円	ビーカー	23×22	11×10	11.5				108	
889	O17土坑	に多い黄褐色土主体・Nb-p多量・土器少量混入・人為堆積	円	プラスチック	124×117	132×129	42.4				107・108	110

第19表 土坑・柱穴 (15)

機番	出土地点	層	部位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1	Q12住居跡	埋土中	鉢Pb	脚部	脚部	平縁、角状	入組み状文、斜目帯、磨消細文、非結束羽状細文	L・R・L(0段多条)	ナデ、ミガキ	若干上げ底状	Ⅲ-3	内面炭化物付着
2	K11住居跡	床面直上	蓋N	脚部	脚部	平縁、内削ぎ、脚厚	LR		ナデ		Ⅳ-1	
3	K11住居跡	埋土中	鉢	口縁部	口縁部	平縁、内削ぎ、脚厚	LR		ナデ		Ⅳ-3	
4	K11住居跡	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	波状口縁、丸み	無文		ナデ		Ⅲ-1-1	外面漆付着
5	K11住居跡	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	平縁、丸み	単軸綫条体(R無節)		ナデ		Ⅲ-6-1	
6	K11住居跡	埋土中	深鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	網目状燃り糸文		ナデ		Ⅲ-2-1	外面漆付着
7	K11住居跡	埋土中	鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	斜目帯、非結束羽状細文	L・R・L	ミガキ		Ⅲ-3	加磨利B2式並行
8	K11住居跡P1	埋土中	注口土器	注口部	注口部	平縁、丸み	刺突文		ナデ		Ⅲ-6?	天王山式(物生中閉)、ミニチュア?
9	K11住居跡P1	埋土中	鉢	口縁部	口縁部	平縁、丸み、折り返し口縁	刺突文	不明	ナデ、ケズリ		Ⅲ-6	
10	K11住居跡P1	埋土中	鉢	口縁部	口縁部	平縁、丸み、折り返し口縁	網目状燃り糸文	単軸綫条体(L無節?)	ナデ		Ⅲ-6-1?	内外面漆付着
11	K11住居跡P2	埋土中	深鉢	脚部	脚部	大波状口縁、角状、細文	口唇部渦巻き文	LR	ケズリ		Ⅲ-6	内外面アスファルト付着
12	K11住居跡P2	埋土中	浅鉢?	突起	突起	平縁、丸み	平行花縁	LR	ケズリ		Ⅲ-2-1?	
13	K11住居跡P2	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	大波状口縁、角状、細文	平行花縁	LR	ナデ		Ⅲ-3?	
14	K11住居跡P3	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	平縁、角状	C字状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-3	
15	K11住居跡P7	埋土中	蓋?	把手	把手	平縁、角状	人組み状文、磨消細文	LR	ナデ		Ⅲ-4?	内面漆付着
16	K11住居跡P7	埋土中	蓋?	脚部	脚部	平縁、角状	S字状磨消文	LR	ナデ		Ⅲ-1	
17	K11住居跡P7	埋土中	深鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	刺突文	R無節?	ナデ		Ⅲ-1	
18	K11住居跡P7	埋土中	蓋?	脚部	脚部	平縁、丸み	刺突文	LR	ナデ		Ⅲ-1?	
19	K11住居跡P8	埋土中	鉢?	脚部	脚部	平縁、丸み	人組み状文	LR	ナデ		Ⅲ-6	
20	K11住居跡P8	埋土中	鉢?	脚部	脚部	平縁、角状	人組み状文	LR	ナデ		Ⅲ-6	
21	K11住居跡P9	埋土中	注口土器?	口縁部	口縁部	平縁、角状	注縁文、ミガキ、ケズリ	無文	ナデ		Ⅲ-6-1?	
22	K11住居跡P9	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	平縁、角状	注縁文、網目状燃り糸文	単軸綫条体(R無節)	ナデ、ケズリ		Ⅲ-6	
23	K11住居跡P9	埋土中	鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	弧線状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	外面漆付着
24	K11住居跡P10	埋土中	鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	貼瘤	LR	ケズリ		Ⅲ-4	
25	K11住居跡P10	埋土中	深鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	網目状燃り糸文	単軸綫条体(L無節)	ケズリ		Ⅲ-6-1	
26	K11住居跡P12	埋土中	鉢?	突起	突起	平縁、角状	刺突文	LR	ケズリ		Ⅲ-3?	
27	K11住居跡P12	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	波状口縁	刺突文	LR	ナデ		Ⅲ-2-2	加磨利B2式並行
28	K11住居跡P13	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	波状口縁	凹文(磨消)	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	
29	K11住居跡P13	埋土中	深鉢	口唇部	口唇部	平縁、丸み	弧線状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	
30	K11住居跡P13	埋土中	深鉢	口唇部	口唇部	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ		Ⅲ-3?	加磨利B2式並行
31	K11住居跡P13	埋土中	蓋	脚部	脚部	平縁、丸み	注縁文、ミガキ	LR	ナデ、ケズリ		Ⅲ-1-1	
32	K11住居跡P14	埋土中	深鉢	脚部	脚部	平縁、角状、折り返し口縁	注縁文	LR	ケズリ		Ⅲ-6?	
33	K11住居跡P19	埋土中	鉢	口縁部	口縁部	平縁、角状	注縁文	無文	ケズリ		Ⅲ-1	
34	K11住居跡P19	埋土中	鉢	口縁部	口縁部	波状口縁、丸み	注縁文	無文	ナデ		Ⅲ-1	
35	K11住居跡P19	埋土中	深鉢	口唇部	口唇部	波状口縁、丸み	帯状文、磨消細文	LR	ナデ		Ⅲ-1-2	内面漆付着
36	K11住居跡P19	埋土中	深鉢?	口縁部	口縁部	波状口縁	貼付隆帯	LR	ナデ		Ⅲ-1	
37	K11住居跡P25	埋土中	蓋	脚部	脚部	平縁、丸み	注縁文	LR	ナデ		Ⅲ-6	外面漆付着
38	K11住居跡P31	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	平縁、丸み	平行注縁、ケズリ	LR	ケズリ		Ⅲ-1?	内外面生漆付着
39	K11住居跡P33	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	平縁、内削ぎ	燃り糸文	単軸綫条体(L無節?)	ミガキ		Ⅲ-6-1	内面漆付着
40	K11住居跡P38	埋土中	鉢	口唇部	口唇部	平縁、丸み	ケズリ	LR	ナデ		Ⅲ-1	ミニチュア?
41	K11住居跡P43	埋土中	深鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	クラック状文	LR	ナデ		Ⅲ-1-2	外面漆付着
42	K11住居跡P43	埋土中	右付き鉢	台部	台部	平縁、丸み	クラック状文	LR	ナデ		Ⅲ-6	
43	K11住居跡P70	埋土中	浅鉢	口縁部	口縁部	平縁、角状	平行注縁	無文	ミガキ		Ⅲ-1-1?	外面漆付着
44	K11住居跡P76	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	波状口縁、角状	クラック状文(條帯)、弧線状文	LR(0段多条)	ナデ		Ⅲ-1-1	外面漆付着
45	K11住居跡P61	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部	平縁、丸み、突起	注縁文、磨消細文	LR(0段多条)	ナデ		Ⅲ-6	内面アスファルト付着
46	K11住居跡P62	埋土中	浅鉢	口唇部	口唇部	平縁、丸み	非磨消文	LR	ナデ		Ⅳ-2	外面漆付着
47	K11住居跡P62	埋土中	浅鉢	脚部下→底部	脚部下→底部	平縁、丸み	注縁文	LR?	ミガキ		Ⅳ-1	外面漆付着
48	K11住居跡P62	埋土中	蓋	脚部	脚部	平縁、先縁	注縁文、磨消細文	LR?	ナデ、ケズリ		Ⅳ-1	外面漆付着
49	K11住居跡P71	埋土中	蓋	脚部	脚部	平縁、丸み	注縁文、磨消細文	LR	ナデ		Ⅲ-1-2	内面漆付着
50	K11住居跡P72	埋土中	深鉢	脚部	脚部	平縁、丸み、折り返し口縁	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-1	内外面漆付着
51	K11住居跡P77	埋土中	深鉢	口唇部	口唇部	平縁、丸み	曲線文、磨消細文	LR	ケズリ		Ⅲ-2-2?	加磨利B2式並行
52	K11住居跡P77	埋土中	蓋?	脚部	脚部	平縁、丸み	注縁文、ミガキ	LR	ケズリ		Ⅲ-6-1	
53	K11住居跡P81	埋土中	蓋	口唇部	口唇部	平縁、丸み	渦巻き状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	内外面漆付着
54	K11住居跡P81	埋土中	蓋	脚部	脚部	小波状口縁、丸み、花縁	注縁文、磨消細文	LR	ナデ		Ⅲ-2-1	
55	K11住居跡P81	埋土中	深鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	注縁文、S字状注縁	LR	ケズリ		Ⅲ-6-4	時期検討要する
56	K11住居跡P81	埋土中	鉢?	脚部	脚部	平縁、花縁	注縁文	LR	ナデ		Ⅲ-1-1	
57	K11住居跡P84	埋土中	鉢	口縁部	口縁部	平縁、丸み	弧線状文	無文	ミガキ、ケズリ		Ⅲ-2-2	厚土土器の可能存在
58	K11住居跡P86	埋土中	筒形土器	脚部	脚部	平縁、丸み	注縁文、先縁細文	LR?	ケズリ、輪郭のみ		Ⅳ-5	外面漆付着
59	J12住居跡状	埋土中	深鉢	口唇部	口唇部	平縁、角状	注縁文	LR	ケズリ		Ⅳ-6	
60	J12住居跡状	埋土中	注口土器?	脚部	脚部	平縁、丸み	刺突文	無文	ナデ		Ⅲ-3?	
61	J12住居跡状	埋土中	深鉢?	脚部	脚部	平縁、丸み	注縁文	無文	ナデ		Ⅲ-6	
62	J12住居跡状	埋土中	鉢	脚部	脚部	平縁、丸み	網目状燃り糸文	単軸綫条体(L無節)	ミガキ		Ⅲ-6	

第20表 遺構内土器(1)

編號	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
63	J12住居跡状	埋土中	深鉢	胴部		貼附・帯状文	L・R			Ⅲ-4	内面灰化物付着
64	J12住居跡状	埋土中	注口土器?	胴部						Ⅳ-1-2	
65	G11住居跡状	埋土中	深鉢H	口～胴部中位	平縁、角状	非結束羽状縄文	L・R・L	ケズリ		Ⅳ-5?	
66	G11住居跡状	埋土中	注口土器?	口～頸部	平縁、丸み	横切平行沈線、ミガキ		ミガキ		Ⅳ-1-1	
67	G11住居跡状	埋土中	鉢?	口縁部	平縁、丸み、B突起	ミガキ	無文	ナデ		Ⅳ-6	
68	G11住居跡状	埋土中	蓋	口～胴部	平縁、丸み	ミガキ	L・R	ナデ		Ⅳ-6?	
69	G11住居跡状(裏側)	埋土中	鉢	口～胴部	平縁、内削ぎ	把手、ミガキ、ケズリ	L・R	ナデ		Ⅲ-6?	時期検討要する
70	G11住居跡状Q2	埋土中	台付き鉢	台部		ミガキ		ナデ		Ⅲ-6	
71	G11住居跡状Q2	埋土中(2)	蓋	胴部上半	山形状口縁	入組み状文	無文	ナデ、ケズリ		Ⅲ-5	高柳瀬付土器第I段階
72	G11住居跡状	埋土中	深鉢	胴部			L・R、L	ケズリ、ナデ		Ⅳ-5?	
73	G11住居跡状	埋土中	注口土器	注口部		渦巻文、ミガキ	無文	ナデ		Ⅳ-2	
74	G11住居跡状	埋土中	注口土器	注口部		辛餅状文、渦巻文、ミガキ	無文	ナデ		Ⅳ-2	
75	G11住居跡状	埋土中	注口土器	注口部	平縁、刻み目、B突起	辛餅状文	無文	ナデ		Ⅳ-2	
76	G11住居跡状	埋土中	鉢	口～胴部	平縁、刻み目、B突起	辛餅状文	R・L	ナデ		Ⅳ-2	
77	G11住居跡状	埋土中	鉢	口縁部	平縁、B突起	辛餅状文		ナデ		Ⅳ-2-1	
78	G11住居跡状	埋土中	蓋	口～頸部	平縁、丸み	辛餅状文、丸沈線		ミガキ		Ⅳ-2	
79	G11住居跡状	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、刻み目、B突起	入組み状文、ミガキ	L・R	ケズリ、ナデ		Ⅳ-1-2	
80	G11住居跡状	埋土中	鉢	口～胴部	刻み目、B突起	辛餅状文	L・R	ナデ		Ⅳ-2	
81	G11住居跡状Q2	埋土中	鉢	口縁部	波状口縁、丸み	三文文、ミガキ	無文	ナデ、ミガキ		Ⅳ-1	
82	G11住居跡状Q3	埋土中(1)	鉢?	胴部	波状口縁?	交互刺突文、沈線		ナデ		V-2	
83	G11住居跡状	埋土中	蓋	胴部		貼附・渦線				Ⅲ-5	
84	G12住居跡	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	辛餅状文	L・R	ミガキ		Ⅳ-2	内面灰化物付着
85	G12住居跡	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	辛餅状文	無文	ミガキ		Ⅳ-2	
86	G12住居跡	埋土中	注口土器?	胴部		辛餅状文		ミガキ		Ⅳ-2	
87	G12住居跡	埋土中	深鉢	胴部		非結束文		ミガキ		Ⅲ-2-2	
88	G13住居跡	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、文状突起		L・R	ミガキ		Ⅳ-5?	
89	G13住居跡	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、文状突起		L・R	ミガキ		Ⅳ-1-1?	
90	G13住居跡	埋土中	注口土器?	口縁部	波状口縁、丸み	三文文、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅳ-1	
91	G14住居跡	埋土中	蓋?	胴部		文状貼附、入組み状文、非結束羽状縄文	L・R・L	ケズリ		Ⅲ-4	
92	G14住居跡	埋土中	蓋?	胴部		丸縁状入組み文	無文	ナデ		Ⅲ-4	
93	G15住居跡	埋土上位	鉢J2	口～胴部	小波状口縁、刻み目、B突起	辛餅状文、唐草文様風意匠	L・R	ミガキ		Ⅳ-2-1	
94	G15住居跡	埋土上位	深鉢	胴～底部			L・R	ナデ		Ⅳ-5	内外面線付着
95	G15住居跡南側	埋土上位	浅鉢	口～底部	平縁、角状、B突起	X字状文	L・R	ミガキ、ナデ		Ⅳ-2-1	外面剥落部分有、底面に足の可能性のある備かな凸有(ミガキを施され明瞭ではない)
96	G15住居跡北側	埋土上位	蓋Pa	胴～底部		辛餅状文	無文	ケズリ		Ⅳ-2	
97	G15住居跡	埋土上位	注口土器?	胴部		唐草文様	無文	ミガキ		Ⅳ-1	
98	G15住居跡	埋土上位	鉢	口縁部		沈線	L・R	ミガキ		Ⅲ-4	
99	G15住居跡	埋土中	鉢	口～胴部上半	平縁、内削ぎ、肥厚	沈線、ミガキ	L・R	ナデ		Ⅳ-1	
100	G15住居跡	埋土中	蓋	胴部		先鋭貼附、帯状文、ミガキ	R・L			Ⅲ-5	
101	G15住居跡壁溝1号	埋土上位	鉢	胴部		孤線状文	R・L			Ⅲ-3?	
102	G15住居跡壁溝2号	埋土中	深鉢	口縁部	大突起、内削ぎ気味	貼附・非結束羽状縄文	L・R・L	ナデ		Ⅲ-5	
103	G15住居跡入口施設	埋土中	浅鉢?	口～胴部	平縁、内削ぎ	縦長貼附(刻み目)、帯状文	L・R	ケズリ		Ⅲ-5	
104	G15住居跡P3	埋土上位	深鉢	胴部		帯状文、ナデ	L・R	ミガキ		Ⅲ-1-3	外面黒色顔料塗布
105	G15住居跡P37	埋土中	鉢	胴部		沈線	L・R	ミガキ		Ⅳ-6	
106	G15住居跡P95	埋土中	深鉢	胴部		沈線	L・R			Ⅲ-6	
107	G15住居跡P P117	埋土上位	鉢	胴部		沈線	L・R			Ⅲ-6-3?	
108	G15住居跡P P118	埋土上位	鉢	胴部		沈線	L・R			Ⅲ-6	
109	F10住居跡状P P1	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁、口唇部に細文	非結束羽状縄文(東方向)沈線文	L・R	ナデ、ケズリ		Ⅲ-2-1	内外面線付着
110	F10住居跡状P P1	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文、クランク状文	L・R	ミガキ		Ⅲ-2-2	
111	F10住居跡状P P4	埋土中	蓋	胴～胴部上半		辛餅状文、唐草文様風の意匠	L・R			Ⅳ-2	外面朱塗布
112	F12住居跡	埋土中(1)	蓋	胴～底部		縦長貼附(刻み目)、入組み帯状文、ミガキ	L・R	ナデ		Ⅲ-5	異系統土器?
113	F12住居跡	埋土中	蓋	胴部上半～底部			L・R	ナデ		Ⅲ-6-4	
114	F12住居跡	埋土中	鉢	胴部上半			L・R	ナデ		Ⅲ-5	
115	F12住居跡	埋土中(5)	台付き深鉢H III Id	1/2完形	平縁、内削ぎ	先鋭貼附、帯状文、唐清縄文、ミガキ	L・R			Ⅲ-5	文様の単位は不明、帯は文様の起点に付く、南東上赤?
116	F12住居跡	埋土中	深鉢	胴～底部		先鋭貼附、文状貼附、指頭肛痕(あるいは突き出し状)、ミガキ	L・R	ナデ		Ⅲ-6-4	帯は同一個体の可能性有
117	F12住居跡	埋土中	深鉢	口～胴部	平縁、角状		L・R	ナデ		Ⅲ-6-4	内外面線付着J16と同個体の可能性有
118	F12住居跡	埋土中	台付き深鉢	胴部中位～底部		非結束羽状縄文	L・R・L	ナデ		Ⅲ-6-4	内外面線付着

第21表 遺構内土器(2)

照準番号	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
119	F12住居跡	埋土中(8)	単孔土器	口～胴部中位	平縁、丸み、B突起	縦長又状配帯、配帯、丸縁状入組み文、沈線、刺突	無文	ナデ、ミガキ	平坦、沈線文	Ⅲ-5	底面の文様は巴文と菱形文の組み合わせによるモチーフ、簡潔な
120	F13住居跡	埋土中	深鉢	口～胴部下	平縁、丸み、B突起	平縁状文、沈線、ミガキ	LR	ナデ、ミガキ		Ⅲ-2-2	
121	F13住居跡	埋土中	注口土器	注口部	平縁、丸み、刻み目	注口付け根部分に三叉文、ミガキ	無文		丸底状？、ミガキ	Ⅳ-1-2	
122	F13住居跡	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、刻み目	入組み三叉文、沈線、ミガキ	LR	ナデ		Ⅳ-1-2	外面縁付着
123	F13住居跡	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、刻み目	縦長状帯、短沈線、帯状文、ミガキ	LR			Ⅳ-5	
124	F13住居跡	埋土中	壺	口縁部	平縁、内削ぎ	先鋭状帯、帯状文	LR			Ⅲ-5?	
125	F13住居跡	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	入組み三叉文(配り込み状)	LR	ナデ		Ⅲ-5	
126	F13住居跡	埋土中	注口土器	口～胴部上半	平縁、角状		無文			Ⅳ-1-1	ミニチュア？
127	F13住居跡	埋土中	鉢	胴～底部	平縁、角状		無文			Ⅳ-6?	
128	F18住居跡1号	床面	深鉢	口～胴部	小波状口縁、刻み目	沈線	LR	ナデ	平坦	Ⅳ-5	内外面縁付着
129	F18住居跡1号	床面	深鉢	口～胴部	平縁、丸み、B突起	平縁状文	LR	ナデ		Ⅳ-5	内外面縁付着
130	F18住居跡1号	埋土中	深鉢H1	口～胴部	平縁、丸み、B突起	平縁	LR	ナデ		Ⅳ-2-2	内外面縁付着
131	F18住居跡1号	埋土中	鉢	胴～底部	小波状口縁、内削ぎ	貼帯、沈線	LR(0段多条)		平坦	Ⅳ-6?	
132	F18住居跡1号	埋土中	壺	口～胴部上半	平縁、丸み	貼帯、沈線、ミガキ	LR	輪縁丸縁		Ⅳ-1?	時期検討する、刺突文は、横気味から削り起こしする
133	F18住居跡1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、大小の先鋭又	入組み状文	LR	ナデ		Ⅲ-5	内外面縁付着
134	F18住居跡1号	床面	深鉢H2	口～胴部	平縁、丸み		LR	ナデ	丸底状	Ⅳ-5	内外面縁付着
135	F18住居跡1号	炉内埋設土器	深鉢	胴～底部	平縁、丸み		LR	ナデ		Ⅳ-5	外面縁成を強く受けた痕跡が窺える、内外面縁付着
136	F18住居跡1号炉内	埋土中	深鉢	口～胴部	平縁、丸み、B突起	平縁状文	LR			Ⅳ-2	外面縁付着
137	F18住居跡1号	埋土中	深鉢	胴部～底部	平縁、丸み	頸部ミガキ、沈線	LR	ナデ	上げ底状	Ⅳ-5	内外面縁付着
138	F18住居跡1号	埋土中	壺	口～胴部	平縁、丸み		LR	ナデ		Ⅳ-6	内外面縁付着
139	F18住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、刻み目	無文	無文	ナデ		Ⅳ-1	内外面縁部部分有
140	F18住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	貼帯、沈線	無文			Ⅳ-6?	
141	F18住居跡2号	埋土中	台付き鉢?	台部?	平縁、丸み		LR	ミガキ	台?	Ⅳ-6?	
142	F18住居跡2号	埋土中	壺	口縁部	平縁、丸み	非結束羽状帯文(異方向)	LR	ミガキ		Ⅳ-5	内外面縁付着
143	E15住居跡2号	埋土中	鉢I1	口～胴部	平縁、B突起	平縁状文、沈線	LR	ミガキ		Ⅳ-2-2	内外面縁付着
144	E15住居跡2号	埋土中	深鉢	口～胴部	平縁、丸み		LR	ナデ	上げ底状	Ⅳ-5	補修孔有
145	E15住居跡2号	埋土中	深鉢H1	口～胴部	平縁、丸み	沈線、半筒状文、ミガキ	LR	ナデ		Ⅳ-2	146と同一個体?
146	E15住居跡2号	埋土中	深鉢?	口縁部	刺突文、刻み目	刺突文、半筒状文、沈線	LR	ナデ		Ⅳ-2?	146と同一個体?
147	E15住居跡2号	埋土中	深鉢?	口縁部	小波状口縁、丸み	突起(貼帯状)、五角き入組み状文?、沈線	LR	ナデ		Ⅳ-2?	146と同一個体?
148	E15住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	平縁状文、沈線、ミガキ	LR	ナデ		Ⅳ-2	146と同一個体?
149	E15住居跡2号	灰面直上	壺	胴部	平縁、丸み	平縁状文、沈線、ミガキ	無文	ナデ、ケズリ		Ⅳ-2	底部縁部部分有、内面黒色処理?
150	E15住居跡2号	埋土中	壺Q1	1/2成形	平縁、丸み	平縁状文、沈線、ミガキ	無文	ミガキ、ナデ		Ⅳ-2?	
151	E15住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	平縁状文、ミガキ	LR	ミガキ		Ⅳ-2	
152	E15住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、刻み目	入組み三叉文、沈線、ミガキ	無文	ナデ		Ⅳ-1-1	
153	E15住居跡2号	埋土中	浅鉢?	口縁部	平縁、丸み、B突起	平縁状文、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅳ-2-2	
154	E15住居跡2号	埋土中	鉢	胴部	平縁、角状	平縁状文、沈線、ミガキ	LR	ナデ		Ⅳ-2-2	外面縁付着
155	E15住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、刻み目	平縁状文、沈線、ミガキ	LR	ナデ、ミガキ	台	Ⅳ-2-1	外面縁付着
156	E19住居跡	埋土上位	台付き鉢J1d	成形	平縁、丸み	平縁状文、沈線、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅳ-2-2	外面縁付着
157	C16住居跡1号	埋土中	深鉢H1b	ほぼ成形	平縁、丸み、刻み目	沈線	LR	ナデ	上げ底状	Ⅳ-1?	内外面縁付着
158	C16住居跡1号東側	埋土中	注口土器	口縁部	平縁、丸み	平縁状文、X字状文(三叉文)、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅳ-1-2	
159	C16住居跡1号西側・C17土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	波状口縁、刻み目	三叉文?	LR	ナデ		Ⅳ-1-2	
160	C16住居跡1号	埋土中(4)	注口土器	口縁部	平縁、丸み	入組み三叉文、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅳ-1-2	
161	C16住居跡1号東側	埋土中	壺	胴部	平縁、丸み	平縁状文	無文	ナデ		Ⅳ-2-2	外面全面朱塗布
162	C16住居跡1号北西側	埋土中	鉢	口～胴部下	平縁、丸み	沈線、半筒状文	無文	ナデ		Ⅳ-2	ミニチュア?
163	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢	胴部下～底部	平縁、丸み		LR		平坦	Ⅳ-5	
164	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢	胴部下～底部	平縁、丸み、刻み目		LR		上げ底状	Ⅳ-1	
165	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、突起、刻み目	沈線	LR	ナデ		Ⅳ-5	内外面縁付着
166	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み、刻み目		LR	ナデ		Ⅳ-5	内外面縁付着
167	C16住居跡1号東側	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	平縁状文(配り込み)	LR	ナデ		Ⅳ-2-2	外面縁付着
168	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、刻み目	三叉文	LR	ナデ		Ⅳ-1-2	内面黒色処理?
169	C16住居跡1号東側	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、刻み目	入組み三叉文、短沈線、ミガキ	LR	ナデ		Ⅳ-1-2	
170	C16住居跡1号東側	埋土中	鉢	胴部	平縁、角状	短沈線、三叉文	LR	ナデ		Ⅳ-1-2	外面縁付着
171	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢H1a	口～胴部	平縁、丸み、刻み目	平縁状文	LR	ナデ、ミガキ?		Ⅳ-5	外面縁付着
172	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み、折り返し口縁	平縁状文	LR	ナデ		Ⅳ-2-2	
173	C16住居跡1号西側	埋土中	深鉢B1	口縁部	平縁、丸み	円文、楕円文、溝壺き状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	
174	C16住居跡1号	埋土中	鉢J1	口～胴部上半	平縁、B突起、刻み目	沈線、半筒状文	LR	ナデ		Ⅳ-2-2	内外面微量朱塗布

第22表 遺構内土器 (3)

掲載番号	出土地点	層	器種名	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
175	C16住居跡1号東側	埋土中	深鉢	口唇部上半	平縁、丸み	L・R	ナデ		IV-5	内外面煤付着
176	C16住居跡2号	埋土中	鉢I1	平縁、角状、B突起	羊歯状文	L・R	ミガキ		IV-2-2	
177	C16住居跡2号	埋土中	鉢	平縁、角状	玉抱き三叉文、ミガキ	無文	ナデ		IV-1-2	
178	C16住居跡2号	埋土中	注口土器	口縁部	三叉文、ミガキ	無文			IV-1-2	
179	C16住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状、刻み目	無文	ミガキ		IV-1	
180	C16住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状、刻み目	L・R			IV-6	外面煤付着
181	C16住居跡2号	埋土中	深鉢	口縁部	山形口縁、肥厚	L・R	ナデ		III-5	
182	C16住居跡2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内割き	L・R			III-3?	
183	C16住居跡2号P1	埋土中	蓋?	口縁部?	波状口縁?	無文			III-5	
184	C16住居跡2号P1	埋土中	鉢?	口縁部?	波状口縁?	無文			III-1-1	土製品? 刺突文は付着起し状に突いたもので胴中央部を巡る、大淵B1?、内面黒色処理?
185	C16住居跡2号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁?	L・R・L	ナデ		IV-1-1	
186	C16住居跡2号P1	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内割き	L・R	ナデ		III-6	
187	C16住居跡2号P18	埋土中	浅鉢	口縁部	平縁、丸み	無文	ナデ		IV-2	
188	C16住居跡2号P2	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状、細文	R・L	ミガキ		III-6	
189	C16住居跡2号P27	埋土中	鉢	胴部	平縁、角状、細文	L・無筋			III-1-2	
190	C16住居跡2号P65	埋土中	注口土器?	胴部	平縁、角状、刻み目	L・無筋	ミガキ?		III-1-2	
191	C16住居跡2号P89	埋土中	鉢	胴部	平縁、角状、刻み目	L・R	ミガキ		IV-2-2	
192	D19住居跡	床面	深鉢	胴部下半~底部	平縁、丸み	L・R	ナデ	上げ底状	III-1-1?	
193	D19住居跡	埋土中	深鉢H11a	ほぼ完形	平縁、丸み	L・R	ナデ	平坦	IV-5	内面朱塗布
194	D19住居跡	埋土中	蓋P11a	1/2完形	平縁、丸み	L・R	ナデ	平坦	IV-5	内外面煤付着
195	D19住居跡	埋土中	鉢I1	口縁部	平縁、内割き	L・R	ナデ	平坦	IV-2	
196	D19住居跡	床面	蓋	胴部上半~底部	平縁、丸み	L・R	ナデ	平坦	IV-5	内面黒色処理?、内面黒色
197	D19住居跡	埋土中	鉢I1	口縁部	平縁、丸み	L・R	ナデ、ミガキ	台	IV-1	内面黒色処理?
198	D19住居跡P12	埋土中	台付き浅鉢?	胴部	平縁、丸み	L・R	ナデ	台	IV-2	
199	D19住居跡	埋土中	台付き浅鉢?	胴部上半	平縁、丸み	L・R	ナデ	台	IV-1	
200	C22住居跡1号	床面下位	注口土器	胴部	平縁、丸み	L・R	ナデ	台	IV-2	
201	C22住居跡1号	床面下位	鉢	胴部	平縁、丸み	L・R	ナデ	台	IV-1-2	
202	C22住居跡1号	床面下位	深鉢	口縁部	小波状口縁、角状、刻み目	L・R	ナデ		IV-1-2	内面スワレット付着
203	C22住居跡1号	床面下位	鉢	口縁部	平縁、角状、B突起	無文			III-1-1	外面朱?
204	C22住居跡2号	床面下位	深鉢	口縁部	平縁、角状、B突起	R・L			IV-1-2	内外面煤付着
205	C22住居跡2号	床面下位	蓋?	口縁部	平縁、丸み	無文			III-1-1	
206	C23住居跡1号	埋土中	深鉢A1	口縁部	平縁、丸み	無文			III-1-1	外面朱塗布
207	C23住居跡1号	埋土中	深鉢B2	口縁部	波状口縁	無文			III-6-1	内面煤付着、十腰内I.A.式の可能 特有
208	C23住居跡1号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁?、丸み	無文			III-1-1	外面朱塗布
209	C23住居跡1号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み、突起	無文			III-1-1	
210	C23住居跡1号	埋土中	深鉢	胴部下半~底部	突起	無文			III-6-1	
211	C23住居跡2号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	L・R	ミガキ	平坦	III-2-2	加曾利B?式並行
212	C23住居跡2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	L・無筋、単軸絡条体(L・無筋)			III-1-3	外面煤付着
213	C23住居跡2号	埋土中	深鉢B2	口縁部	波状口縁、丸み、折り返し口縁	R・L、単軸絡条体(R・無筋?)			III-1-1	内外面煤付着
214	C23住居跡2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、突起	L・R			III-1-1	外面煤付着
215	C23住居跡2号	埋土中	浅鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	無文			III-1-1	沈線による特殊文様、外面煤付着
216	C23住居跡2号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、角状	R・L			III-6-1	
217	C23住居跡2号	埋土中	深鉢BⅢ2a	口縁部	小波状口縁、先鋭	L・R			III-1-2	内面煤付着
218	C23住居跡2号	埋土中	鉢?	底部	平縁、丸み	L・R			III-6-1	
219	C23住居跡2号	埋土中	台付き鉢	台部	平縁、丸み	L・R			III-6-1	
220	C23住居跡2号	埋土中	蓋	頸~胴部上半	平縁、角状、突起	L・R			III-1-3	胎土中に急激母?を含む
221	C24住居跡1号	埋土中(1)	注口土器P1	口縁部下半	突起上に刻み目(4単位)、肥厚	無文	ミガキ、輪掘痕	台	III-2-1	
222	C24住居跡1号	埋土中(1)	台付き浅鉢	口縁部	平縁、丸み	R・L(0段多糸)		台	III-3	加曾利B?式並行
223	C24住居跡1号・D25・D26	埋土中	蓋K11c	ほぼ完形	平縁、内割き、2個一対の突起(4単位)	L・R		丸底状、中央凹、細文	III-4	十腰内IV式新~十腰内V式
224	C24住居跡1号	埋土中(1)	蓋	頸~底部	平縁、丸み	L・R		平坦、ケズリ	III-3	
225	C24住居跡1号	埋土中(1)	台付き蓋?	胴~底部	平縁、丸み	L・R		台	III-3	胴部切断?
226	C24住居跡1号	埋土中(1)	深鉢	口縁部	平縁、角状	L・R			III-1-2	
227	C24住居跡1号	埋土中(1)	深鉢	突起	耳状突起	L・R			III-2-1?	加曾利B?式並行
228	C24住居跡1号	埋土中(1)	深鉢	口縁部	平縁、丸み	L・R			III-1-2	

第23表 遺構内土器(4)

種別番号	出土地点	層位	器種名	保存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
229	C24住居跡状	埋土中(1)	台付き蓋?	口唇部	突起	入組み帯状文、非結束羽状細文	L・R・L	台	台	III-4	十腰内V式古段階の可能性有
230	C24住居跡状	埋土中(1)	深鉢	口唇部	波状口縁、丸み	隆帯、沈線	L・R		台	III-1-1	東北地方南版(欄取式)
231	C24住居跡状	埋土中(1)	鉢	口唇部	平縁、角状	平縁、内削ぎ	R・L		平縁	III-6-2	外面線付着
232	C24住居跡状	埋土中	深鉢	口唇部	平縁、角状	原体押圧文	R・L		平縁	III-6-1?	外面線付着
233	C24住居跡状	埋土中	蓋	胴部	平縁、角状	磨消細文	L無節		平縁	III-2-1	
234	B21住居跡状1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、角状	沈線、凹文	L・R	ミガキ	平縁	IV-1	
235	B21住居跡状3号	床面	鉢II a	口唇部	平縁、内削ぎ		L・R	ナデ	平縁	IV-6	
236	B21住居跡状3号	床面	蓋O a	胴部	平縁、角状		L・R	ナデ	平縁	IV-6?	
237	B21住居跡状3号	床面	台付き蓋G b	口唇部	平縁、角状	ミガキ	無文	ナデ	丸底状、ミガキ	IV-6	網?、内面アスファルト?付着
238	B21住居跡状3号	床面	台付き深鉢H II	口唇部	平縁、角状	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	台	IV-5	内外面線付着
239	B21住居跡状3号	床面	台付き深鉢H III	口唇部	平縁、丸み	入組み帯状文(5単位)、ミガキ、沈線	R・L	ナデ	台	IV-1-1	十腰内V式?、後期最終未、内外面線付着(内面底部付近のみ付着なし)、田柄V字
240	B21住居跡状3号	床面直上	注口土器G I I	口唇部	平縁、丸み	注口付帯に三叉文、ミガキ	無文		丸底状、ミガキ	IV-6	
241	B21住居跡状3号	埋土中	注口土器?	口唇部	平縁、角状		無文		平縁	IV-6	237と同一個体?、後期最終未
242	B21住居跡状3号	埋土中	鉢II a	口唇部	平縁、丸み		無文	ナデ	平縁	IV-6	
243	B21住居跡状3号	埋土中	鉢	口唇部	平縁、角状	入組み魚眼状文	L・R		平縁	IV-1-1	十腰内V式?
244	B21住居跡状3号Q3	埋土中(1)	鉢	口唇部	平縁、角状	三叉文、ミガキ	R・L	ナデ、ミガキ	平縁	IV-1-1	内面黒色処理?
245	B21住居跡状3号	埋土中	鉢	胴部下半~底部	小波状口縁、丸み		無文	ナデ	若干丸底状	IV-6	
246	B21住居跡状3号	埋土中	台付き鉢H I d	口唇部	平縁、角状	入組み状文、三叉文(彫り込み)、ミガキ	L・R	ナデ	台	IV-5	十腰内V式?、内面線付着
247	B21住居跡状3号	埋土中	蓋	胴部中位~底部	平縁、角状		L・R	ナデ	平縁	IV-1	
248	B21住居跡状3号	埋土中	鉢	口唇部	小波状口縁、丸み	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	平縁	IV-5	網?、外面線付着
249	B21住居跡状3号	埋土中	深鉢	口唇部	平縁、角状		L・R	ナデ	平縁	IV-5	内外面線付着
250	B21住居跡状3号	埋土中	深鉢H III	口唇部	小波状口縁、丸み	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	平縁	IV-5	内外面線付着
251	B21住居跡状3号	埋土中(1*2)	深鉢H I	口唇部	平縁、角状	非結束羽状細文	L・R・L		平縁	IV-5	内外面線付着
252	B21住居跡状3号	埋土中	深鉢H I	口唇部	平縁、角状	非結束羽状細文	L・R・L		平縁	IV-5	内外面線付着
253	B21住居跡状3号	埋土中	台付き深鉢H III	口唇部	平縁、角状	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ、ミガキ	台	IV-5	
254	B21住居跡状3号	埋土中	鉢	口唇部	平縁、丸み、小突起	縦長匙柄、丸線状文	無文	ナデ	台	III-5	内外面アスファルト?付着
255	B21住居跡状3号	埋土中	深鉢? B2	口唇部	波状口縁、角状	入組み状文、S字状沈線、ミガキ	L・R		平縁	III-2-1	
256	B21住居跡状3号	埋土中	深鉢?	口唇部	平縁、丸み		無文		平縁	III-6	補修孔(穿孔途中?)、後期中葉?
257	B22住居跡1号	埋土中	鉢?	口唇部	波状口縁、刻み目、B突起	羊歯状文	L・R		平縁	IV-2-2	
258	B22住居跡1号	埋土中	鉢	口唇部	刻み目、B突起	羊歯状文	L・R		平縁	IV-2-2	
259	B22住居跡1号	埋土中	鉢?	口唇部	平縁、角状	沈線	L・R		平縁	III-1	
260	B22住居跡1号	埋土中	深鉢	口唇部	平縁、角状	入組み状文	無文		平縁	III-1-1	
261	B22住居跡1号	埋土中	深鉢	口唇部	小波状口縁、丸み	沈線、磨消細文	L・R		平縁	III-1-2	
262	B22住居跡1号	埋土中	深鉢	胴部	小波状口縁、丸み	沈線	L・R	ナデ	平縁	III-1-2	詳細な時期検討要
263	B22住居跡1号	埋土中	鉢	口唇部	小波状口縁、丸み	沈線、S字状沈線、入組み帯状文?	L・R		平縁	III-1-2	
264	B22住居跡1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	羊歯状文	R・L		平縁	IV-2	
265	B22住居跡1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	沈線、入組み状文	L無節	ナデ	平縁	III-1-1	
266	B22住居跡1号	埋土中	蓋?	胴部上半~底部	平縁、丸み	隆帯、沈線	L・R	ナデ	平縁、木炭痕?	III-1-1	
267	B22住居跡1号	炉内	蓋Q I I a	口唇部	平縁、丸み	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	平縁	III-6-4?	
268	D23炉跡	埋土中	鉢	口唇部	平縁、丸み	平縁?、刻み目	L・R?		平縁	IV-2-2	
269	D23炉跡	埋土中	鉢	口唇部	平縁、丸み	沈線	R・L	ナデ	平縁	IV-6	口唇部内面に微位沈線、内外面線付着
270	D23炉跡	埋土中	鉢	口唇部	平縁、角状	沈線(強め)、擦り赤文	粗線系体(L無節)	ナデ	平縁	III-6	
271	D23炉跡	埋土中	鉢	胴部上半	波状口縁、突起	先施地輪、入組み状文、ミガキ	L無節		平縁	III-5?	外面線付着
272	C23跡土1号	埋土中	深鉢?	口唇部	平縁、丸み	クラク状文(隆帯)	R・L	ナデ	平縁	III-1-1	
273	C23跡土1号	埋土中	深鉢	口唇部	波状口縁、突起	平縁、角状	無文	ナデ	平縁	III-2-1	
274	C23跡土1号	埋土中	深鉢	突起部	大型突起	平縁、角状	R・L	ナデ	平縁	III-2-1	
275	C23跡土1号	埋土中	深鉢	突起部	耳状突起	朝陽文、磨消細文	L・R	ナデ、ミガキ	平縁	III-3	
276	C23跡土1号	埋土中	蓋	胴部	平縁、丸み	曲線文、磨消細文	L・R	ナデ、ミガキ	平縁	III-3	内面赤色顔料?
277	C23跡土	埋土中	蓋	胴部	平縁、丸み	入組み状文(磨消細文)、非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	平縁	III-3?	
278	C15土坑1号	埋土中	深鉢B I I a	口唇部	平縁、丸み	網目状擦り赤文	L・R・L	ナデ、ケズリ	平縁	III-6-1	外面線付着
279	C15土坑1号	埋土中	鉢?	口唇部	平縁、角状	粗線系体(L無節)	R・L	ナデ	平縁	III-4	外面線付着
280	C15土坑1号	埋土中	鉢	口唇部	平縁、角状	粗線系体(L無節)	L・R	ナデ	平縁	III-1-2	
281	C15土坑1号	埋土中	台付き鉢	口唇部	平縁、角状	粗線系体(L無節)	L・R	ナデ	平縁	III-1-2	
282	C15土坑1号	埋土中	鉢	口唇部	平縁、角状	粗線系体(L無節)	R・L	ナデ	平縁	III-5	
283	C16土坑5号	埋土中	蓋	口唇部	波状口縁、丸み	三叉文	L・R	ケズリ	平縁	IV-1	

第24表 遺構内土器 (5)

編號	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
284	C16土坑5号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、内削ぎ	花縁文		ナデ		Ⅲ-1-1?	
285	C16土坑5号	埋土中	蓋	ほぼ完形(底部欠損)	平縁、丸み	三叉文 ミガキ、孔(1)	LR	ミガキ		Ⅳ-1	内外面朱塗布
286	C17土坑	埋土中	蓋R1							Ⅳ-6	
287	C17土坑	埋土中	深鉢	胴部		刺突文	LR	ナデ、ケズリ		Ⅳ-5	外面煤付着
288	C17土坑	埋土中	蓋	胴部	小波状口縁、角状	花縁文	LR	ナデ		Ⅳ-1-1?	時期検討要する、内外面煤付着
289	C17土坑	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、肥厚	花縁文	LR	ケズリ		Ⅲ-1-1	
290	C24土坑	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み		LR	ケズリ		Ⅲ-3	内外面煤微層付着
291	C24土坑	埋土中	蓋?	口縁部	平縁、丸み		LR	ナデ		Ⅲ-6	
292	C24土坑(B24・C24)	埋土中(Ⅲ下)	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み、突起	刺突文	単軸絡条体(R無節)	ケズリ		Ⅲ-6	
293	C25土坑	埋土中(十和田a)	鉢(突起)	口縁部	平縁、丸み		LR	ケズリ		Ⅲ-3	内面煤付着
294	C25土坑	埋土中	深鉢D1	口縁部	平縁、丸み	又状貼纏入組み状文、刺突文、赤環縷文、ミガキ	LR	ケズリ		Ⅲ-4	刺突文は突き起こし状に施文する
295	D13土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	花縁文、刺突文	LR	ミガキ、ナデ		Ⅲ-2	
296	D14土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	B突起	三叉文	LR	ミガキ		Ⅳ-1-2	
297	D14土坑1号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	刺突文				Ⅲ-5?	
298	D14土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	魚眼状文、羊歯状文	LR	ケズリ		Ⅳ-2-1	
299	D15土坑1号	埋土中	蓋?	胴部	小突起、刻み目	三叉文	LR	ミガキ		Ⅳ-5	
300	D15土坑2号	埋土中	鉢1	口縁部	小波状口縁	羊歯状文	LR	ナデ、ケズリ		Ⅳ-1-2	外面黒色顔料塗布
301	D15土坑2号	埋土中	鉢?	口縁部	平縁、丸み	三叉文、魚眼状文	LR	ナデ		Ⅳ-2-1	
302	D15土坑3号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	又状貼纏入組み状文、赤環縷文	単軸絡条体第1種(R無節)	ナデ		Ⅳ-1-2	
303	D16土坑1号	埋土中	深鉢E11b	口縁部	平縁、丸み		LR	ケズリ		Ⅲ-6-1	十層内Ⅳ式新設際?、外面黒色顔料塗布
305	D17土坑	埋土中	蓋	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR			Ⅳ-1-2	
306	D17土坑	埋土中	鉢J1	口縁部	平縁、角状、突起	三叉文	LR			Ⅳ-1-2	
307	D17土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状		RL	ナデ		Ⅲ-6	胎土に粗糠混入、外面煤付着
308	D17土坑	埋土中	注口土器?	胴部		渦巻文		ナデ		Ⅳ-1-2	
309	D17土坑	埋土中	注口土器	胴部		渦巻文		ケズリ、ミガキ		Ⅳ-1-2	
310	D17土坑	埋土中	蓋	胴部		方形区画文	LR	ケズリ		Ⅲ-1-3	
311	D19土坑1号	埋土中	深鉢H1	口縁部	平縁、角状	帯状文	LR	ケズリ		Ⅳ-5	胎土に粗糠混入
312	D23土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	弧線状文	LR無節	ナデ		Ⅲ-1-2	
313	D23土坑1号	埋土中	注口土器F	口縁部	平縁、角状	無文	無文	ナデ		Ⅲ-1-3	外面煤付着
314	E10土坑	埋土中	深鉢B1	胴部	平縁、角状	方形区画文	R無節	ナデ		Ⅳ-1-2	
315	E10土坑	埋土中	深鉢	胴部				ナデ		Ⅳ-1-1	胎土に粗糠混入、内面煤付着
316	E10土坑	埋土中	注口土器	胴部				ナデ		Ⅳ-1-2	
317	E12土坑	埋土中	鉢?	胴部				ナデ		Ⅳ-6?	土層の足部?
318	E12土坑	埋土中	深鉢	胴部		花縁文		ミガキ		Ⅲ-1-1	外面煤付着
319	E12土坑	埋土中	鉢	口縁部	波状口縁	花縁文	R無節	ケズリ		Ⅲ-1-1	外面朱塗布
320	E13土坑1号	埋土中	蓋	底部		入組み状文		ケズリ		Ⅲ-1-2	
321	E13土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		Ⅲ-6	丸底状
322	E13土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	花縁文、ミガキ	LR	ナデ		Ⅳ-1	
323	E13土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み状文	LR	ナデ		Ⅳ-1-1?	
324	E13土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		Ⅳ-1-1?	外面煤付着
325	E13土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み状文	LR	ナデ		Ⅳ-6	
326	E13土坑3号	埋土中	鉢11a	口縁部	B突起	羊歯状文	R無節	ミガキ		Ⅳ-2-1	外面煤付着
327	E13土坑9号	埋土中	注口土器	注口部		三叉文		ナデ		Ⅲ-6	
328	E13土坑9号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、刻み目	羊歯状文	LR	ミガキ		Ⅳ-2-2	
329	E14土坑4号	埋土中	香形土器	口縁部	平縁、角状	先鋭貼纏、弧線状縷文、透かし、(三角形状、小穴)	LR	ナデ		Ⅲ-5	
330	E14土坑6号	床面下位	蓋	口縁部	平縁、丸み	刺突文	LR	ケズリ		Ⅳ-6?	ミニチュア
331	E14土坑6号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、B突起、刻み目	刺突文	LR	ケズリ		Ⅳ-2-1	内面煤付着
332	E14土坑8号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	羊歯状文	LR	ナデ		Ⅲ-3	
333	E14土坑8号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	2条の弧線文	LR(0段条)	ナデ		Ⅲ-1	
334	E16土坑2号	埋土中	注口土器?	胴部		渦巻文		ナデ		Ⅳ-1-1	
335	E19土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	花縁文	無文	ナデ		Ⅳ-1-2	外面煤付着
336	E19土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、刻み目	雲形文	LR	ミガキ		Ⅲ-1-1	
337	E20土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状、肥厚する	花縁文、磨消縷文	LR	ミガキ		Ⅳ-1-1	
338	E20土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	B突起	花縁文	無文	ケズリ		Ⅲ-1-1	
339	E20土坑1号	埋土中	蓋	胴部		円文	無文	ケズリ		Ⅳ-1-2	
340	E20土坑1号	埋土中	蓋	胴部	突起、角状	羊歯状文	LR	ミガキ		Ⅳ-1-2	
341	E20土坑8号	埋土中	鉢B1d	ほぼ完形(底部欠損)	平縁、丸み、突起3単位	花縁文、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅲ-1-3	内面煤付着
342	E23土坑	埋土中	残鉢?	口縁部	平縁、丸み	刺突文、花縁文	無文	ナデ、ケズリ		Ⅲ-1	時期検討要する
343	E23土坑	埋土中(Ⅲ下)	鉢	胴部		刺突文(指頭状縷)、ミガキ	LR	ナデ、ケズリ		Ⅲ-4	刺突文は突き起こし状に施文する

第25表 遺構内土器(6)

編號	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
345	E23土坑	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、刻み目	羊歯状文	無文	ナデ		IV-2-1	
346	E23土坑	埋土中	深鉢	胴部	波状口縁、角状	弧状沈線文	無文			IV-1-1	
347	E23土坑	埋土下位	鉢?	口縁部	波状口縁、突起	入組み状文、刺突文(指部圧痕)、ミガキ	無文	ケズリ		IV-4?	刺突文は突き起し状に施文する
348	E26土坑	埋土中	注口土器A III d	ほぼ完形	平縁、丸み、突起	入組み状文、非結束羽状細文、赤縄細文、ミガキ	L R・R L	ケズリ	上げ底状	III-4	
349	E26土坑	埋土中	蓋	完形	平縁、丸み	貼附、入組み状文、ミガキ	無文		丸底状	III-6-4	ミニチュア?
350	E26土坑	埋土中	注口土器Nb	ほぼ完形	突起、貼附	貼附、入組み状文、磨消細文	L R		上げ底状	III-5	十腰内VI式?
351	E26土坑	埋土中	深鉢E1	ほぼ完形(底部欠損)			L R・R L	ミガキ、ケズリ		III-5	内面微重付着、十腰内V~十腰内VI式
352	E26土坑	埋土中	鉢	底部	平縁、角状	貼附、短沈線、ミガキ	無文		丸底状	III-6-4	
353	E26土坑	埋土中	蓋	口~胴部	平縁、内削ぎ	無文	L R	ミガキ		III-5	十腰内V式新段階
354	E26土坑	埋土中	蓋	口~胴部	平縁、内削ぎ	無文	ナデ			III-6	時期検討要する
355	E26土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、肥厚	非結束羽状細文	L R・R L	ケズリ		III-6-4	時期検討要する、外面微重付着
356	E26土坑(E26)	埋土下位(皿下)	深鉢	口縁部	平縁、丸み	無文	L R			III-6	内面微重付着
357	E26土坑	埋土中	蓋R1	口~胴部上半	波状口縁、突起・小突起(4 or 5単位)	沈線文、ケズリ	L R	ナデ、ケズリ		III-6-4	碗脚の可能性有
358	E26土坑(E27~F26)	埋土下位(皿中)	深鉢D2	口~胴部上半			無文	ケズリ、ナデ		III-5	外面黒色顔料塗布
359	E26土坑	埋土中	深鉢	胴部下半~底部	平縁、丸み、B突起	L R	L R		平坦	III-6-4	外面微重付着
360	E26土坑	埋土中	鉢G1	1/2完形		磨消細文	無文	ミガキ、ナデ		IV-6	外面微重付着
361	E26土坑	埋土下位	鉢?	胴部	平縁、角状	叉状貼附、ミガキ	R 無文			III-1-3	蓋の可能性有
362	F12土坑1号	埋土中	浅鉢	ほぼ完形	平縁、角状	沈線文	無文	ミガキ、ナデ	台	IV-1?	
363	F12土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	沈線文	L R			III-3	外面黒色顔料
364	F12土坑1号	埋土中	台付き深鉢H1 G	ほぼ完形	平縁、角状	無文	L R	ナデ	台	IV-5	外面微重付着(口縁部付近)
365	F12土坑1号	埋土中	台付き鉢? J2	ほぼ完形	波状口縁	三叉文、短沈線、X字状文、ミガキ	L R	ミガキ		IV-1-2	内外面黒色顔料塗布
366	F12土坑1号	埋土中	蓋	口~胴部上半	平縁、丸み	貼附、入組み状文、赤縄細文、ケズリ	無文	ケズリ		IV-6	ミニチュア?
367	F12土坑3号	埋土中	深鉢D III 2 b	口縁部	波状口縁(山形状)、角状、突起	貼附、入組み状文、赤縄細文、ケズリ	R L	ミガキ、ケズリ		III-5	
368	F12土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	非結束羽状細文	L R・R L			III-6-3	外面微重付着
369	F12土坑5号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	L R	ミガキ		IV-1-1	
370	F12土坑6号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、B突起	三叉文	無文			IV-1-2	
371	F12土坑6号	埋土中	蓋	胴部	平縁、角状	羊歯状文、内面に指捺の痕跡	無文			IV-2-2	外面朱塗布
372	F12土坑8号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、角状	沈線、ミガキ	R L	ナデ		IV-5?	
373	F12土坑1号	埋土中	蓋	胴部	平縁、角状	羊歯状文、渦巻文	L R	ナデ		IV-2-1	
374	F12土坑1号	埋土中	注口土器	口縁部	小波状口縁	羊歯状文、ミガキ	無文			IV-6	
375	F12土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附	R L	ケズリ		IV-2	
376	F12土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	無文	不明			IV-2	
377	F12土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附	R L	ケズリ		III-5	
378	F12土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	羊歯状文、意匠	R L			III-6	外面微重付着
379	F14土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文、意匠	L R	ミガキ		IV-2-2	内外面微重付着
380	F14土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文	L R	ミガキ		IV-2-1	外面朱塗布
381	F14土坑2号	埋土中	蓋	胴部	平縁、突起	羊歯状文	L R	ナデ		IV-1	
382	F14土坑7号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	羊歯状文	L R			IV-1	
383	F14土坑8号	埋土中	蓋?	胴部上半	平縁、丸み、B突起	羊歯状文	無文			IV-2-2	内面微重付着
384	F14土坑8号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、先鋭貼附	渦巻文	無文	ナデ		IV-1-2	注口土器の可能性有
385	F14土坑9号	埋土中	鉢	胴~底部	平縁、丸み、先鋭貼附	渦巻文	L R	ナデ		IV-5?	
386	F15土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	弧状沈線	無文	ケズリ	平坦	III-6	
387	F15土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	平行沈線	無文	ケズリ		IV-1-1	
388	F15土坑6号	埋土中(皿)	鉢	口縁部	突起	沈線	R L	ナデ		III-1-1	外面微重付着
389	F16土坑4号	埋土中	蓋	口縁部	2箇一對の貼附	羊歯状文	L R	ナデ		IV-2-2	内外面微重付着
390	F16土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部		沈線	R L?	ナデ		III-6-4	
391	F17土坑1号	埋土中	台付き鉢	口縁部		帯状文	L R?			III-1-2	外面微重付着
392	F17土坑1号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、内削ぎ、突起	三叉文、孔4ヶ所有り	L R	ミガキ	台	IV-1-2	
393	F18土坑2号	埋土中	注口土器?	口縁部	平縁	複数列の刻目帯、赤縄細文	無文	ナデ		III-3	
394	F18土坑3号	埋土中	深鉢H	口~胴部中位	波状口縁、刻み目	S字状隆帯、刻目帯	無文	ナデ		III-3	
395	F21土坑2号	埋土中	注口土器? E1	口~胴部	波状口縁、丸み、貼附	羊歯状文、非結束羽状細文	L R・R L	ナデ		IV-1-2	外面微重付着
396	F21土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文	L R	ミガキ		IV-2-1	
397	F23土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み状文	L R	ミガキ		IV-1-2	
398	F23土坑	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、角状	弧線状文	無文	ナデ		III-1-1	外面朱塗布
399	F23土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	弧線状文	無文	ナデ		III-1-1	外面微重付着
400	G6土坑	埋土中	蓋L1	口~胴部上半	平縁、角状	先鋭貼附、短沈線、ミガキ	R L	ナデ、ケズリ		III-5	十腰内V式新段階
401	G11土坑	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	無文	L R	ミガキ		III-1-2	外面微重付着
402	G11土坑	埋土中	深鉢	口~胴部上半	小波状口縁、丸み	非結束羽状細文	L R・R L			III-6-1	内外面微重付着
403	G11土坑	埋土中	皿脚土器?	口~胴部		凹文、入組み三叉文	L R	ナデ、ミガキ		IV-1-1?	
404	G11土坑	埋土中	鉢?	口縁部	特異な突起	羊歯状文	L R	ミガキ		IV-2-2	

第26表 遺構内土器(7)

種別番号	出土地点	層位	器種名	保存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
405	G11土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	刺突文	ナデ	ナデ		Ⅲ-6-4	外面煤付着
406	G12土坑1号	埋土中	注口土器	胴部上半	平縁、丸み、B突起	羊歯状文、X字文、ミガキ	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-2	405と同一個体
407	G12土坑1号	埋土中	蓋	胴部	平縁、丸み	匙溝、土器片縁辺が研磨されている	ナデ			Ⅲ-4	三角状土製品?
408	G12土坑1号	埋土中	鉢	胴部上半	平縁、丸み	三角文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-5	
409	G12土坑1号	埋土中	注口土器	口～胴部中位	平縁、内開き	羊歯状文、ミガキ	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-2	408と同一個体
410	G12土坑3号	埋土中	浅鉢	口縁部	平縁、内開き	沈線	ミガキ	ミガキ		Ⅳ-5?	
411	G12土坑3号	埋土中	蓋	胴部	平縁、丸み	入組み状文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-1	
412	G12土坑3号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	入組み三叉文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-1	
413	G12土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み三叉文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-1-1	
414	G12土坑3号	埋土中	深鉢ⅢⅠa	口縁部	平縁、丸み	入組み三叉文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-5	細文施文後に表面を磨いている、内外面煤燻量付着
415	G12土坑6号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	ナデ	ナデ		Ⅳ-1-2	内外面煤燻量付着
416	G13土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、刻み目	羊歯状文	ナデ	ナデ		Ⅳ-2	
417	G13土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	羊歯状文	ナデ	ナデ		Ⅳ-2-2	内外面黒色顔料塗布
418	G13土坑4号	埋土中	浅鉢	口～胴部	平縁、丸み	羊歯状文	ミガキ	ミガキ		Ⅳ-2-2	内外面未塗布
419	G13土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文	ミガキ	ミガキ		Ⅳ-2-2	刺突文は突き起こし状に施文する
420	G13土坑4号	埋土中	鉢	胴部	平縁、角状	刺突文	ナデ	ナデ		Ⅲ-5	内外面未塗布
421	G13土坑6号	埋土中	蓋	口縁部	小波状口縁、刻み目	沈線	ナデ	ナデ		Ⅲ-1-2	
422	G13土坑6号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、突起	羊歯状文	ミガキ	ミガキ		Ⅳ-2	
423	G13土坑6号	埋土中	鉢	口縁部	波状口縁、角状	羊歯状文	ナデ	ナデ		Ⅳ-2-2	
424	G14土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、突起	羊歯状文	ナデ	ナデ		Ⅲ-1-3	
425	G15土坑1号	埋土中	深鉢ⅢⅠ	口～胴部中位	平縁、角状	無文	ケズリ、ナデ	ケズリ、ナデ		Ⅲ-6	外面煤付着
426	G15土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	無文	ナデ	ナデ		Ⅲ-1	
427	G16土坑1号	埋土中	蓋	口～胴部	平縁、角状	先鋭吐籠、帯状文	ナデ	ナデ		Ⅲ-5	
428	G16土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	先鋭吐籠、帯状文	ナデ	ナデ		Ⅲ-1-2	
429	G17土坑1号	埋土中	深鉢	口～胴部上半	平縁、角状	曲線帯状文	ナデ	ナデ		Ⅲ-6-4	外面煤付着
430	G17土坑1号	埋土中	深鉢	口～胴部上半	平縁、角状	補修孔	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-6?	
431	G17土坑3号	埋土中	蓋	口～胴部上半	平縁、丸み	ミガキ	ナデ	ナデ		Ⅳ-1-1	
432	G17土坑4号	埋土中	蓋?	口縁部	平縁、内開き、突起	ミガキ	ナデ	ナデ		Ⅳ-1-1	
433	G17土坑4号	埋土中	蓋	頸部?	突起	帯状文	ケズリ	ケズリ		Ⅲ-5	外面煤燻量付着
434	G17土坑12号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	先鋭吐籠	ナデ	ナデ		Ⅲ-9?	
435	G17土坑13号	埋土中	蓋	口～胴部	突起	貼籠、入組み状文、ミガキ	ケズリ	ケズリ		Ⅲ-1-1	外面煤燻量付着
436	G17土坑14号	埋土中	蓋?	口～胴部	突起	貼籠、入組み状文、ミガキ	ケズリ	ケズリ		Ⅲ-3?	
437	G17土坑15号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、内開き	方形施文	ナデ	ナデ		Ⅲ-1	
438	G17土坑16号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	羊歯状文	ナデ	ナデ		Ⅳ-2	
439	G18土坑3号	埋土中	注口土器	胴部	平縁、丸み	無文	ケズリ	ケズリ		Ⅲ-6	
440	G18土坑3号	埋土中	蓋	胴部	平縁、丸み	区画文	ケズリ	ケズリ		Ⅲ-3	
441	G18土坑3号	埋土中	蓋	胴部	波状口縁、丸み	帯状文、非結葉羽状細文	ナデ	ナデ		Ⅲ-4	
442	G19土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み、折り返し口縁	帯状文(3条平行花線)	ケズリ	ケズリ		Ⅲ-2-1	外面煤燻量付着
443	G19土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み、折り返し口縁	帯状文	無文	ケズリ		Ⅲ-1-2?	
444	G20土坑2号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	帯状文	ナデ	ナデ		Ⅳ-6	
445	G20土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内開き、文状突起	帯状文、非結葉羽状細文	ミガキ	ミガキ		Ⅲ-6-3	
446	G20土坑3号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	入組み帯状文	ナデ	ナデ		Ⅲ-1-2	
447	H11土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文	ミガキ	ミガキ		Ⅳ-2	
448	H11土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	円文、三叉文	ナデ	ナデ		Ⅳ-1-2	
449	H12土坑1号	埋土中	鉢	口～底部	小波状口縁、刻み目	円文、三叉文	ナデ、ケズリ	ナデ、ケズリ		Ⅳ-5	意図的な打ち火、胎土に石英・雲母混入、外面煤燻量付着
450	H12土坑1号	埋土中	鉢ⅢⅠb	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文、ナデ	ミガキ	ミガキ		Ⅳ-2-2	
451	H12土坑2号	埋土中	注口土器	口縁部	平縁、丸み	X字状文、ミガキ	ミガキ	ミガキ		Ⅳ-2-1	時期検討要する
452	H12土坑3号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	先鋭吐籠、入組み状文	無文	無文		Ⅲ-5	
453	H12土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、刻み目	羊歯状文、入組み状文	無文	無文		Ⅲ-2-1	
454	H12土坑5号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文、入組み状文	無文	無文		Ⅳ-2	内面煤付着
455	H12土坑5号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文	ナデ	ナデ		Ⅳ-1	内外面炭化物?付着
456	H12土坑1号	埋土中	浅鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み三叉文	ナデ	ナデ		Ⅳ-1-1	
457	H12土坑1号	埋土中	鉢	口～胴部中位	突起、刻み目	入組み三叉文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-2-2	外面煤付着
458	H16土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	連縁B突起	貼籠、入組み状文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-1-1	時期検討要する
459	H16土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	刺突文	ナデ	ナデ		Ⅲ-6-4	
460	H17土坑1号	埋土中	深鉢	口～胴部	平縁、内開き、肥厚	非結葉羽状細文	ケズリ、ナデ	ケズリ		Ⅲ-6-3	内面煤付着
461	H17土坑1号	埋土中	注口土器	胴～底部	平縁、丸み	非結葉羽状細文	ケズリ	ケズリ		Ⅳ-6?	時期検討要する、外面注口部付近アスファルト付着
462	H17土坑2号	埋土中	蓋?	胴部	横長比輪(輪上に刻み目)、入組み状文	横長比輪(輪上に刻み目)、入組み状文	ケズリ	ケズリ		Ⅲ-5?	十腰内Ⅳ～Ⅴ式、時期検討要する
463	H17土坑2号	埋土中	注口土器	注口部	平縁、丸み	貼籠、ミガキ	無文	無文		Ⅲ-5?	十腰内Ⅳ～Ⅴ式、時期検討要する、外面未塗布
464	H17土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	頸状沈線	ナデ	ナデ		Ⅲ-1-1	
465	H17土坑6号	埋土中	蓋?	口縁部	平縁、丸み	入組み状文、羽状細文、内面に指紋の痕跡	ナデ	ナデ		Ⅲ-3	

第27表 遺構内土器 (8)

編號	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
466	H18土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状、若干肥厚	刺突、凹文	L R			Ⅲ-1-3	加曾利B2式並行、内外面黒色顔料塗布
467	H18土坑3号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、角状	充墳陶文	R L			Ⅲ-2-2	胎土に相隣多重入
468	H18土坑7号	埋土中	蓋	胴~底部	平縁、内削ぎ	弧線状文			平坦	Ⅲ-6	
469	H18土坑8号	埋土中	高形土器	胴部	平縁、丸み	入組み状文、羽状線文				Ⅲ-4?	
470	H18土坑11号	埋土中	注口土器?	胴部	平縁、内削ぎ	貼附、刺突文、衝隆起線文				Ⅲ-5	
471	H18土坑11号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	平行丸線		ケズリ		Ⅲ-1-1	新地式、外面失塗布
472	H18土坑12号	埋土中	浅鉢?	胴部	平縁、丸み	羊歯状文				Ⅲ-1-1	
473	H18土坑13号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、角状	貼附、変形工字文?				Ⅲ-2	器状の可能性有
474	H18土坑1号	埋土中	深鉢	口~胴部中位	平縁、角状	羽状線文	L R			Ⅲ-6-2?	外面線付着
475	H20土坑2号	埋土中	深鉢	胴部下半	平縁、内削ぎ、突起	非結束羽状線文	L R、R L			Ⅲ-5	
476	H20土坑2号	埋土中	香炉形土器?	口縁部	小波状口縁、角状	貼附、衝隆起線	R L		台?	Ⅲ-5	
477	H20土坑3号	埋土中	鉢?	胴部	小波状口縁、B突起、刻み目	入組み文				Ⅲ-4?	
478	H20土坑3号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	貼附、帯状文	L R			Ⅲ-5	
479	H20土坑4号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	貼附、帯状文	L R			Ⅲ-4?	内面線付着
480	H20土坑4号	埋土中	深鉢	胴部下半~底部	平縁、丸み	貼附、入組み状文	L R		上げ底状	Ⅲ-4	
481	H20土坑5号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	細引及状花線(4条)	L R			Ⅲ-6	
482	H20土坑6号	埋土中	鉢	胴部	小波状口縁、角状	帯状文		ケズリ		Ⅲ-1-2	
483	H11土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	細引状文		ナデ、ケズリ		Ⅲ-1-1	
484	H11土坑4号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-1-2	外面線付着
485	H13土坑	埋土中	注口土器	胴部	平縁、丸み	羊歯状文、短丸線		ミガキ		Ⅲ-1-2	
486	H14土坑1号	埋土中	深鉢	胴部	小波状口縁、B突起、刻み目	ミガキ			台	Ⅲ-2	時期検討要する
487	H14土坑1号	埋土中	鉢	口~胴部中位	平縁、丸み	羊歯状文	L R			Ⅲ-2-2	
488	H14土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文	L R			Ⅲ-2-2	
489	H14土坑1号	埋土中	浅鉢	口縁部	平縁、丸み	羊歯状文				Ⅲ-5	
490	H15土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	条線状線、帯状文	L R			Ⅲ-5	
491	H16土坑1号	埋土中	香炉形土器	口縁部	平縁、内削ぎ	条線状線、帯状文				Ⅲ-5	
492	H16土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	弧線状文、透かし				Ⅲ-5	
493	H16土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	透かし文				Ⅲ-6-1	
494	H16土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	帯状文				Ⅲ-1-1	外面線付着
495	H16土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	帯状文				Ⅲ-1-1	内外面線付着
496	H17土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	貼附、壘上十字状花線	R 無筋			Ⅲ-5	内外面線付着
497	H17土坑2号	埋土中	注口土器C	口縁部	波状口縁、丸み	貼附、壘上十字状花線	R L			Ⅲ-6-1	内外面線付着
498	H17土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附、壘上十字状花線				Ⅲ-5	内外面線付着
499	H17土坑2号	埋土中	注口土器?	口縁部	平縁、丸み	貼附、壘上十字状花線				Ⅲ-5	内外面線付着
500	H17土坑2号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	内外面線付着
501	H17土坑4号	埋土中	注口土器	口縁部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	内外面線付着
502	H17土坑4号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	内外面線付着
503	H17土坑4号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	内外面線付着
504	H17土坑4号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	内外面線付着
505	H17土坑4号	埋土中	注口土器?	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	内外面線付着
506	H17土坑4号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	内外面線付着
507	H17土坑8号	埋土中	香炉形土器	口~胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-1-3?	
508	H17土坑8号	埋土中	蓋?	胴~底部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	
509	H17土坑8号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	
510	H17土坑8号	埋土中	香炉形土器	胴部中位~底部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	
511	H17土坑8号	埋土中	香炉形土器	口縁部(突起部)	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	
512	H17土坑8号	埋土中	台付き鉢	台部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	
513	H17土坑8号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	
514	H17土坑1号	埋土中	鉢?	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-5	
515	H17土坑9号	埋土中	注口土器	注口部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-4	
516	H17土坑9号	埋土中	台付き鉢?	台部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-6	
517	H17土坑9号	埋土中	注口土器	注口部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-6	
518	H17土坑9号	埋土中	深鉢?	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-6	
519	H17土坑9号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文				Ⅲ-6	
520	H18土坑1号	埋土中	深鉢E1	口~胴部	平縁、丸み、内削ぎ、又状突起	貼附、帯状文	L R	ケズリ		Ⅲ-1-2	外面黒色顔料塗布
521	H18土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附、帯状文	L R	ケズリ		Ⅲ-5	外面線付着
522	H18土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附、帯状文	L R	ケズリ		Ⅲ-5	外面線付着
523	H18土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附、帯状文	L R	ケズリ		Ⅲ-6-1	外面線付着
524	H18土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附、帯状文	L R	ケズリ		Ⅲ-5	胎土に相隣多重入

第28表 遺構内土器 (9)

編號番号	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
525	I18土坑2号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	入組み状文	LR	ケズリ	台	III-1-3	
526	I18土坑2号	埋土中	台付き浅鉢?	胴部	平縁、丸み	入組み帯状文	LR	ナデ	外面縁付着	III-6-4	
527	I18土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み帯状文	LR	ナデ	台	III-5	
528	I18土坑4号	埋土中	深鉢?	口縁部	平縁、丸み	文様彫刻、入組み状文	不明	ナデ		III-5	
529	I18土坑4号	埋土中	注口土器	胴部	平縁、丸み、内削ぎ	凸帯彫刻(4単位)、連馬弧線文、ミガキ	LR	ナデ	台	IV-1-1	十腰内V式?
530	I18土坑4号	埋土中	蓋L11d	完形	平縁、丸み	彫刻、入組み状文、脚部下半に孔有り	LR	ナデ	台	III-4+5	孔は作業中に誤って開けられたものの可能性がある。
531	I18土坑4号	埋土中	蓋O11a	完形	平縁、丸み	口縁部に2cmほどの無文帯	LR	ナデ、ケズリ	平皿	III-4+5	
532	I18土坑4号	埋土中	蓋	足縁完形	小波状口縁、丸み	爪状の短波線	LR	ナデ	若仕上げ底状	III-4+5	
534	I18土坑5号	埋土中	深鉢	底部	波状口縁、丸み	帯状文	LR	ナデ	丸底状、縄文	III-6	ミニチュア?
535	I18土坑6号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	彫刻、入組み帯状文、磨消縄文	LR	ナデ		III-2-1	胎土に石英混入
536	I18土坑9号	埋土中	注口土器	注口部	平縁、丸み	彫刻、帯状文	LR	ケズリ		III-6	
537	I18土坑9号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、帯状文	LR	ケズリ		III-5	
538	I19土坑1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、帯状文	LR	ナデ	平皿	III-1-1	
539	I19土坑1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、帯状文	LR	ナデ		III-5	
540	I19土坑1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、帯状文	LR	ナデ		III-5	
541	I19土坑3号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、帯状文	LR	ナデ		III-5	
542	J13土坑	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	網目状磨り糸文	無文	ナデ	平皿	IV-6	
543	J14土坑1号	埋土中	異形土器	胴~底部	平縁、丸み	網目状磨り糸文	無文	ナデ		III-6-1	楕円形状を呈する特殊土器、時期検討要する
544	J14土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、小突起	半備状文	LR	ナデ		IV-2	
545	J14土坑4号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み帯状文	LR	ナデ		III-5	
546	J15土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁	半備状文、刺突文	無文	ナデ		IV-2	
547	J17土坑1号	埋土中	蓋	胴部	平縁、丸み	入組み状文	無文	ナデ		III-1-1	
548	J17土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	半備状文	LR	ナデ		IV-2	
549	J18土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	凹形波線、竹管文	LR	ミガキ		III-1-1	
550	J19土坑1号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	入組み状文	LR	ナデ		III-4	
551	J19土坑4号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-5	
552	J21土坑3号	埋土中(III中)	鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-1-1	
553	K10土坑	埋土中	注口土器G2	口~胴部上半	小波状口縁、丸み	非結束羽状縄文	無文	ナデ		IV-1-1	外面縁付着
554	K10土坑	埋土中	深鉢H11b	ほぼ完形	山形状口縁、突起、又状肋	又状突起、入組み状文、非結束羽状縄文、充塙縄文	LR・RL	ナデ	ナデ	III-6-4	内外面縁付着、十腰内V式新段階
555	K10土坑	埋土中	深鉢D113a	口~底部	平縁、丸み	入組み状文	無文	ナデ		III-4	
556	K10土坑	埋土中	注口土器	注口部	平縁、丸み	入組み状文	LR	ナデ		III-6	
557	K10土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-1-2	外面縁付着
558	K10土坑	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-5	
559	K10土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	先鋭状端に先鋭状瘤、入組み状文	LR	ナデ		III-5	
560	K10土坑	埋土中	蓋	口~胴部	平縁、丸み	先鋭状端、短波線、帯状文	LR	ナデ		IV-1-1	
561	K10土坑	埋土中	深鉢	口~胴部上半	平縁、内削ぎ、肥厚	非結束羽状縄文	LR・RL	ナデ		III-6-4	外面縁付着
562	K10土坑	埋土中	鉢	口~胴部上半	平縁、丸み	非結束羽状縄文	LR	ナデ		III-6-4	胎土に粗糲混入
563	K10土坑	埋土中	蓋	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文、非結束羽状縄文	LR・RL	ナデ		III-1-3	
564	K10土坑	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	入組み状文、非結束羽状縄文	LR・RL	ナデ		III-5	
565	K10土坑	埋土中	台付き鉢? J11	口~胴部下半	小波状口縁、刻目	三叉文	LR	ミガキ		IV-1-2	
566	K10土坑	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文、復数段の刻目帯、非結束羽状縄文、ミガキ	LR	ナデ		III-5	
567	K10土坑	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-3+4	十腰内III~IV式時期検討要する、外面縁置付着
568	K12土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	単軸線条体(L無筋)	ナデ		III-6-1	
569	K12土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、刺突文	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-2-1	外面縁置付着
570	K12土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-1-1	
571	K13土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文、刻目帯	LR	ナデ		III-4	外面縁置付着
572	K13土坑3号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	張り付け隆線、丸線文	無文	ナデ		III-1-1	
573	K13土坑4号	埋土中	深鉢	底部	耳状突起	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-6-4	
574	K13土坑4号	埋土中	深鉢	突起部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-3	
575	K13土坑4号	埋土中	鉢?	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	無文	ナデ		III-1-1	
576	K14土坑1号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		IV-1	
577	K14土坑2号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	無文	ナデ		III-1-1	
578	K15土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-5	胎土に石英混入、外面縁付着
579	K15土坑1号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	無文	ナデ		III-1-1	外面黒色顔料塗布
580	K15土坑2号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	無文	ナデ		III-1-2	
581	K17土坑1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	無文	ナデ		III-1-1	
582	K17土坑6号	埋土中	深鉢	口~胴部中位	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-6-4	外面縁付着
583	K17土坑6号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		IV-5	
584	L11土坑1号	埋土中	注口土器?	胴部	平縁、丸み	先鋭状端、入組み帯状文	LR	ナデ		III-5	
585	L11土坑1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	R無筋	ナデ		III-6-4	外面縁置付着
586	L11土坑1号	埋土中	蓋	口~胴部	平縁、丸み	彫刻、入組み状文	LR	ナデ		III-5?	

第29表 遺構内土器 (10)

風船番号	出土地点	層位	器種名	保存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
587	L11土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	貼附、入組み帯状文	LR	ミガキ	平垣、木章痕	Ⅲ-5	加曾利B2式並行
588	L11土坑1号	埋土中	深鉢CⅢ3a	口縁部 ほぼ完形	山形状口縁(4単位)、口唇部 丸み、突起頂部に沈線	丸縁、丸み	LR			Ⅲ-2-2	
589	L11土坑2号	埋土中	深鉢A11	口縁部	波状口縁、花縁文	弧線状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-3	胎土に石英混入
590	L11土坑2号	埋土中	鉢	胴部	平縁、角状	右形花縁文	LR			Ⅲ-3	
591	L11土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、花縁文	弧線状文	無文			Ⅲ-1-1?	
592	L11土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	右形花縁文	無文			Ⅲ-1-3	
593	L11土坑2号	埋土中	台付き鉢	胴部		沈線文	無文			Ⅲ-1-1	胎土に金蓋付混入
594	L11土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	丸縁、丸み	LR	台		Ⅲ-6	内外面漆喰付着
595	L11土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状	帯状文	無文			Ⅲ-1-1	
596	L11土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-2-2	
597	L11土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-6-1	
598	L11土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	帯状文	無文			Ⅲ-6-1	
599	L11土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-6-1	
600	L12土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-2-1	面漆喰付着
601	L12土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-2-1	面漆喰付着
602	L12土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-6-1	時期検討要する
603	L12土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	突起	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-1-2	胎土に石英混入、外面漆喰付着
604	L12土坑2号	埋土中	深鉢CⅢ1a	口縁部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ、ケズリ	平垣、漆喰痕	Ⅲ-6-1	内面口縁部裏側付近及び外面胴部 中位付近に漆喰付着多い、内外面漆 付着
605	L12土坑2号	埋土中	台付き鉢G1d	口縁部	平縁、角状	貼附、條線起線によるダイヤ形状文、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅲ-5	
606	L12土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	丸縁文	無文			Ⅲ-1-1	胎土に粗糠混入
607	L12土坑2号	埋土中	深鉢	胴部	降線によるクラック状文	降線	無文			Ⅲ-1-1	
608	L12土坑2号	埋土中	帯	胴部	入組み帯状文	入組み帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-5	外面漆喰付着
609	L13土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	網目状漆喰の糸文	無文	ナデ		Ⅲ-6-1	原形不明、外面漆喰付着
610	L14土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	帯状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	
611	L14土坑1号	埋土中	帯	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-1-1?	外面漆喰付着
612	L14土坑2号	埋土中	帯	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR			Ⅲ-5	内面漆喰付着
613	L15土坑2号	埋土中	帯	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR			Ⅲ-5	胎土に粗糠混入、外面漆喰付着
614	L15土坑2号	埋土中	帯	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR			Ⅲ-6-4	器形特殊
615	L15土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-5	時期検討要する、外面漆喰付着
616	L15土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-5	胎土に石英混入
617	L15土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-6-1	胎土に粗糠混入
618	L15土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-1-3	胎土に石英混入、外面漆喰付着
619	L15土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-1-3	胎土に石英混入、外面漆喰付着
620	L15土坑2号	埋土中	帯	口縁部	平縁、内割ぎ	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-5	注口土器の可能性有
621	L15土坑4号	埋土中	深鉢	胴部	小波状口縁	先刺起部、帯状文	LR			Ⅲ-5	胎土に粗糠混入、外面黒色顔料塗布
622	L16土坑1号	埋土中	浅鉢	ほぼ完形	小波状口縁、B突起、眼縁 状の突起(1単位)	滴巻き文、短花縁	LR	ナデ、ミガキ	平垣、滴巻き文	Ⅲ-1-2	内外面漆喰付着
623	L16土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁	滴巻き文、短花縁	無文	ケズリ		Ⅲ-6	胎土に粗糠混入、外面漆喰布、624 と同一器体、ミグキア?
624	L16土坑2号	灰面直上	鉢	口縁部	小波状口縁	滴巻き文、短花縁	無文	ケズリ		Ⅲ-6	胎土に粗糠混入、外面漆喰布、内面 酸化鉄付着、623と同一器体
625	L19土坑1号	埋土中	帯	胴部	山形状口縁	頭縁状文、把手(2単位)	無文	ケズリ		Ⅲ-1-1?	ミグキア?
626	L19土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁、角状	頭縁状文	無文			Ⅲ-1-1	
627	M7土坑	埋土中	深鉢	胴部	山形状口縁、角状	入組み三叉文、短花縁、刻み目	無文?			Ⅲ-5	後期弥生期の土器と推定され、宮 戸Ⅱb~Ⅳ式に類似
628	M12土坑	埋土中	臺付皿Ⅲ1a	口縁部	小波状口縁、内割ぎ	入組み状文、磨消縄文	LR	ナデ	平垣	Ⅲ-3	
629	M12土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	刻み目	無文	ナデ		Ⅲ-6	
630	M12土坑	埋土中	帯	口縁部	平縁、角状	ボタノ状張り付文、朝日帯	無文	ナデ		Ⅲ-3	時期検討要する、内面漆喰付着
631	M12土坑	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	朝日帯	無文	ナデ		Ⅲ-3?	
632	M12土坑	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	朝日帯	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	
633	M12土坑	埋土中	台付き皿	完形	波状口縁、刻目帯	朝日帯、磨消縄文、内面に縄文	LR	ナデ、ケズリ	台	Ⅲ-3	
634	M12土坑	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	2本の脈状押付文	LR	ナデ		Ⅲ-6-1	内面漆喰付着
635	M12土坑	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	入組み三叉文	LR	ナデ	台	Ⅲ-1-1	外面漆喰付着
636	M12土坑	埋土中	台付き鉢	胴部		入組み三叉文	LR	ナデ		Ⅲ-1-1	
637	M12土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	曲線文	LR	ナデ		Ⅲ-2-2	内面漆喰付着
638	M14土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁、突起	入組み帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-2-2	
639	M14土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁、突起	山形状口縁文、刺状文	LR	ナデ		Ⅲ-3	十層Ⅱb~Ⅳ式時期検討要する
640	M14土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁、突起	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-3	
641	M14土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁、突起	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-6	
642	M14土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-2-1	胎土に石英混入
643	M14土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		Ⅲ-1-2	

第30表 遺構内土器 (11)

編號	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
644	M14土坑2号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	弧線状文	無文	ナデ		III-1-2	
645	M14土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁、丸み	沈線文	LR(0段多条)	ナデ		III-1-3	胎土に粗織混入
646	M14土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、突起	帯状文	無文	ナデ		III-6-2	
647	M14土坑2号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み、刻み目	人組み状文、磨消縄文	LR	ナデ、ミガキ	平坦	III-5	外面黒色顔料塗布
648	M14土坑3号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	沈線文	無文			III-1	胎土に粗織混入
649	M14土坑3号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	沈線文	無文			III-1-1	胎土に粗織混入
650	M14土坑3号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	沈線文	無文			III-1-1	胎土に粗織混入
651	M14土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、内削ぎ、肥厚	帯状文	LR	ミガキ		III-4	内外面煤質付着
652	N14土坑2号	埋土中	深鉢C3	口縁部	波状口縁、突起、肥厚	帯状文	LR	ナデ、ケズリ		III-5	内外面煤質付着
653	N14土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、縄文	刺交列	LR	ナデ		III-2-2	加曾利B?式並行
654	N14土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文、磨消縄文	LR	ナデ、ケズリ	平坦	III-1-2	外面煤質付着
655	N14土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-3	十層内III~IV式、時期検討要する
656	N14土坑2号	埋土中	深鉢	胴部	波状口縁、丸み、刻み目	帯状文	LR	ナデ		III-2-1	
657	N14土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	弧線状帯状文	LR	ナデ		III-5	
658	N14土坑2号	埋土中	深鉢	胴部	波状口縁	網目状磨り系文	LR	ナデ		III-6-1	
659	N15土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁	帯状文	LR	ナデ		III-1-1	
660	N15土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、刻み目、縄文	帯状文	LR	ナデ		III-3	
661	N15土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	山形口縁、丸み	弧線状文	LR	ナデ		III-1-1	外面煤質付着
662	N15土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	方形状画文	LR	ナデ		III-2-1	外面煤質付着
663	N16土坑1号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	人組み帯状文	無文	ナデ		III-1-2	胎土に粗織混入
664	N16土坑1号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、角状	人組み帯状文	無文	ナデ		III-1-1	外面煤質付着
665	N16土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、縄文	人組み帯状文	無文	ナデ		III-1-1	胎土に粗織混入、外面煤質付着
666	N16土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	人組み帯状文	R無節	ナデ		III-1-3	
667	N16土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み状文	無文	ナデ		III-1-1	胎土に粗織混入
668	N16土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	入組み状文、磨消縄文	R無節	ナデ		III-1-1	胎土に粗織混入
669	N16土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	平縁、丸み	無文	ナデ		III-1-2	面煤質付着
670	N16土坑3号	埋土中	蓋?	胴部	平縁、丸み	区画文	無文	ケズリ		III-1-1	
671	N16土坑3号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	刺交列、曲線文	LR	ナデ		III-1-2	面煤質付着
672	O14土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	帯状文、刺交文	LR	ナデ		III-6	加曾利B?式並行、外面煤質付着
673	O14土坑1号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-2-2	
674	C18柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-1	
675	C18柱穴状土坑16号	埋土中	深鉢	胴部	平縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-2-2	外面煤質付着
676	D14柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		III-6	
677	D14柱穴状土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	玉角三叉文	LR	ナデ		IV-1-2	
678	D14柱穴状土坑1号	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み、刻み目	入組み状文	LR	ナデ、ミガキ	台	IV-1	
679	D14柱穴状土坑1号	埋土中	台付き鉢	胴部	平縁、丸み、刻み目	手磨状文	LR	ナデ、ミガキ		IV-1	
680	D14柱穴状土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	手磨状文	LR	ナデ、ミガキ		IV-2	内外面煤質付着
681	D14柱穴状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	手磨状文	LR	ナデ、ミガキ		IV-2	外面煤質付着
682	D15柱穴状土坑	埋土中	鉢	胴部	平縁、丸み	沈線文	LR	ナデ		IV-5	胎土に粗織混入
683	D15柱穴状土坑	埋土中	鉢G1c	口縁部	平縁、丸み	手磨状文	LR	ナデ		IV-2-2	外面煤質付着
684	D16柱穴状土坑7号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	手磨状文	R無節	ナデ		III-6	内外面煤質付着
685	D16柱穴状土坑9号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	沈線文	LR	ナデ		III-1-3	
686	D17柱穴状土坑2号	埋土中	深鉢?	胴部	平縁、丸み	貼附、入組み状文	LR	ナデ、ケズリ		III-4	内外面煤質付着
687	D17柱穴状土坑2号	埋土中	深鉢?	胴部	平縁、丸み	貼附、入組み状文	LR	ケズリ		III-1-3	磨消土製品の可能性有
688	D21柱穴状土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	弧線状文	LR	ナデ		III-1-1	外面煤質付着
689	D21柱穴状土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-2-1	外面煤質付着
690	D22柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-1	ニニチュア?
691	D22柱穴状土坑1号	埋土中	蓋	胴部	小波状口縁、丸み	帯状文	R無節	ナデ		III-1	内外面煤質付着
692	E18柱穴状土坑1号	埋土中(III)	鉢?	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		IV-1	内外面煤質付着
693	E18柱穴状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		IV-1	内外面煤質付着
694	E18柱穴状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		IV-1	内外面煤質付着
695	E18柱穴状土坑7号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	手磨状文	LR	ナデ		IV-2	外面煤質付着
696	E18柱穴状土坑20号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		IV-1-2	697と同一個体
697	E18柱穴状土坑20号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		IV-1-2	698と同一個体
698	E18柱穴状土坑10号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、刻み目	三叉文	LR	ナデ		IV-1	
699	E18柱穴状土坑10号	埋土中(III)	鉢	口縁部	平縁、丸み	三叉文	LR	ナデ		IV-1	
700	E18柱穴状土坑2号	埋土中(III中)	深鉢	口縁部	平縁、丸み	沈線文、磨消縄文	無文	ナデ		III-6	胎土に石炭混入、台付き深鉢の可能性有
701	E18柱穴状土坑2号	埋土中(III中)	深鉢	口縁部	平縁、丸み	沈線文、磨消縄文	R無節	ナデ		III-2-2	
702	E16柱穴状土坑2号	埋土中(III中)	蓋	胴部	入組み状文、磨消縄文	入組み状文、磨消縄文	LR			III-4	
703	E16柱穴状土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、角状	波状口縁	LR			III-1-3	円盤状土製品の可能性有
704	E16柱穴状土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、角状	波状口縁	無文	ナデ		III-1-1	
705	E16柱穴状土坑10号	埋土中	注口土器	胴部	平縁、丸み	玉角三叉文	無文	ナデ		IV-1	

第31表 遺構内土器 (12)

調査番号	出土地点	層位	器種名	残存部位	口縁形状	口縁部	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
766	I 15柱六状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	口縁部	羊歯状文	L R	ナデ		IV-2	内外面煤行着
767	E 21柱六状土坑1号	埋土中(Ⅲ中)	深鉢	口縁部	小波状口縁、口唇部に溝巻き文、貫通孔	口縁部	U字状文、弧線状文	無文			IV-1-1	外面朱塗布
768	E 21柱六状土坑1号	埋土中(Ⅲ中)	深鉢	胴部		胴部	クラシック状文	R無節	ケズリ		Ⅲ-1-3	外面煤微量付着
769	E 21柱六状土坑3号	埋土中	鉢	口縁部		口縁部	三叉文	L R	ナデ		IV-1	内面煤行着
770	E 21柱六状土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、刻み目	口縁部	弧線状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-2	外面煤行着
771	E 22柱六状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁	口縁部	U字状文、弧線状文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	外面朱塗布
772	E 22柱六状土坑	埋土中	鉢	口縁部		口縁部	入組み状文	L R	ナデ		Ⅲ-4	胎土に石炭層入
773	E 22柱六状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	口縁部	刺突文	無文	ナデ		Ⅲ-1-2	胎土に粗織混入
774	E 22柱六状土坑	埋土中	台付鉢	右部		右部	刺突文	L R	ミガキ、ナデ		Ⅲ-6-3	刺突文は突き起こし状に施文する
775	F 12柱六状土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状、刻み目	口縁部	刺突文	R無節			Ⅲ-6	外面煤行着
776	F 14柱六状土坑3号	埋土中(Ⅲ)	深鉢	口縁部	察起、刻み目	口縁部	三叉文、短枕線	L R	ミガキ		IV-1	内面黒色顔料塗布、内面煤行着
777	F 14柱六状土坑7号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、角状、刻み目	口縁部	羊歯状文	無文			IV-1-2	外面煤行着
778	F 14柱六状土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	羊歯状文	L R	ナデ		Ⅲ-6	
779	F 15柱六状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	口縁部	羊歯状文	無文			Ⅲ-1-1	胎土に石炭層入
780	F 15柱六状土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	口縁部	羊歯状文	L R	ナデ		Ⅲ-1-1	外面煤微量付着
781	F 19柱六状土坑	埋土中	蓋	口縁部	小突起	口縁部	山形状口縁	無文	ナデ		Ⅲ-1-2	
782	G 12柱六状土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	羊歯状文	無文	ナデ		Ⅲ-6-4	内面黒色顔料、外面煤行着
783	G 16柱六状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	羊歯状文	無文	ナデ		Ⅲ-6	丸底と思われる
784	G 17柱六状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	羊歯状文	L R	ナデ		Ⅲ-1-1	内面煤微量付着
785	G 18柱六状土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	察起、刻み目	口縁部	羊歯状文	無文	ナデ		Ⅲ-4	外面煤微量付着
786	G 19柱六状土坑1号	埋土中	蓋	口縁部	小波状口縁、丸み、刻み目	口縁部	非結束羽状縄文	L R・L R	ナデ		IV-1	内面生塗布
787	G 20柱六状土坑1号	埋土中(Ⅲ上)	鉢	胴部		胴部	羊歯状文	L R	ミガキ		IV-2	内外面煤行着、三角形土製品の可能性
788	G 21柱六状土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	口縁部	羊歯状文	L R	ナデ		IV-1	外面煤微量付着
789	H 14柱六状土坑3号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	入組み状文	R L?	ナデ、ミガキ		IV-2-2	
790	H 14柱六状土坑5号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、丸み	口縁部	先鋭起端、ミガキ	L R			Ⅲ-4	
791	H 14柱六状土坑5号	埋土中	蓋	口縁部		口縁部	隆帯上短枕線	無文			Ⅲ-5	
792	H 14柱六状土坑8号	埋土中	鉢	口縁部		口縁部	貼附入組み状文	L R			Ⅲ-5	
793	H 14柱六状土坑9号	埋土中	深鉢	口縁部		口縁部	曲線文	L R			Ⅲ-3	
794	H 14柱六状土坑10号	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、刻み目	口縁部	三叉文	L R	ナデ		Ⅲ-3	
795	H 15柱六状土坑4号	埋土中(Ⅱ下)	蓋	口縁部	平縁、角状	口縁部	把手	L R			IV-1	H13編立柱建物跡対応柱穴
796	H 15柱六状土坑7号	埋土中	深鉢	口縁部		口縁部	刺突文、花線	L R			Ⅲ-5	H13編立柱建物跡対応柱穴
797	H 15柱六状土坑9号	埋土中	深鉢	口縁部		口縁部	丸線状文	無文			Ⅲ-4	胎土に粗織混入
798	H 16柱六状土坑1号	埋土中(Ⅲ中)	皿	口縁部	平縁、丸み	口縁部	丸線状文	無文			Ⅲ-1-1	刺突文は突き起こし状に施文する
799	H 16柱六状土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、突起	口縁部	丸線状文	無文			Ⅲ-6-1	胎土に粗織混入
800	H 16柱六状土坑4号	埋土中	鉢	口縁部	山形状口縁	口縁部	入組み状文	R L			Ⅲ-6-1	胎土に粗織混入
801	H 16柱六状土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み、肥厚	口縁部	先鋭起端、入組み状文	L R			Ⅲ-4	外面煤行着
802	H 17柱六状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁	口縁部	非結束羽状縄文	L R・L R			Ⅲ-4	外面朱塗布
803	H 17柱六状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	山形状口縁	口縁部	非結束羽状縄文、花線文	L R・L R			Ⅲ-4	胎土に粗織混入
804	H 19柱六状土坑2号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、内削ぎ	口縁部	非結束羽状縄文、花線文	L R・L R	ケズリ		Ⅲ-6-3	外面煤微量付着
805	H 20柱六状土坑4号	埋土中	蓋	口縁部	平縁、丸み	口縁部	隆帯上短枕線	L R			Ⅲ-5	外面煤微量付着
806	H 20柱六状土坑7号	埋土中	蓋	口縁部	波状口縁、刺突文	口縁部	刺突文	L R	ナデ		Ⅲ-6	外面煤微量付着
807	I 11柱六状土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	内面に花線文	L R	ナデ		IV-1	
808	I 11柱六状土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	頸部に原押文	L R	ナデ		Ⅲ-6-1?	外面煤微量付着
809	I 11柱六状土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	網目状縹糸文	L R	ナデ		Ⅲ-6-1	外面煤微量付着
810	I 11柱六状土坑8号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	羊歯状文	L R	ナデ		Ⅲ-6-1	外面煤微量付着
811	I 11柱六状土坑9号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	入組み三叉文	L R	ナデ		Ⅲ-2	内外面煤行着
812	I 12柱六状土坑10号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	口縁部	S字状文	無文			Ⅲ-1-2	胎土に石炭層入
813	I 12柱六状土坑11号	埋土中	蓋G 11b	口縁部	平縁、丸み	口縁部	口～頸部無文、非結束羽状縄文	L R・L R			IV-6	外面は口～頸部中位、内外面煤行着
814	I 13柱六状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	口縁部	羊歯状文	R L	ナデ、ミガキ		IV-2	胎土に粗織混入
815	I 15柱六状土坑1号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部	羊歯状文	L R			Ⅲ-6	

第32表 遺構内土器 (13)

組織番号	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	埋文	内面調整	底部形態	分類	備考
766	I15柱穴状土坑2号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み、B突起	羊歯状文	LR	ナデ		IV-2	内外面線付着
767	I15柱穴状土坑6号	埋土中	深鉢	突起部	山形状口縁	胡帯	LR			III-3	外面線付着
768	I15柱穴状土坑6号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	貼敷、帯状文	LR			III-5	胎土に粗織混入
769	I16柱穴状土坑1号	埋土中	蓋?	胴部		弧線状文	無文	ナデ		III-5	胎土に粗織混入
770	I16柱穴状土坑9号	埋土中	深鉢	胴部		丸線状文	無文	ナデ		III-1-1	外面線付着
771	I16柱穴状土坑19号	埋土中	深鉢	胴部		曲線文	無文	ナデ		III-1-1	胎土に粗織混入
772	I17柱穴状土坑6号	埋土中	鉢?	突起	平縁、内割ぎ、肥厚	耳状突起	無文	ナデ		III-3	
773	I20柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内割ぎ、肥厚	非線形羽状線文	LR・RL	ナデ		III-6	
774	J11柱穴状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、刺突文	花線文	LR	ナデ		III-1	
775	J11柱穴状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	入組み状文	R無節	ナデ		III-1-2	外面線線量付着
776	J18柱穴状土坑1号	埋土中	注口土器?	胴部		玉連三叉文	無文	ナデ		IV-1	
777	J18柱穴状土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	平直花線	LR	ナデ		III-1-1?	外面線付着
778	K12柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、内割ぎ、肥厚	入組み状文	LR	ナデ		III-1-2	外面線線量付着
779	K12柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	花線文	LR	ナデ		III-5	外面線付着
780	K12柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、内割ぎ	平直花線	LR	ナデ		III-4	
781	K12柱穴状土坑3号	埋土中	蓋	胴部		平縁、丸み	無文	ナデ		III-3	胎土に金雲母混入
782	K17柱穴状土坑	埋土中	蓋	口縁部	平縁、丸み	半線状文	LR	ナデ、ケズリ		IV-6	
783	K17柱穴状土坑	埋土中	鉢	口縁部	平縁、丸み	網目状線り糸文	LR	ナデ		IV-2	外面線線量付着、ミニチュア?
784	K21柱穴状土坑4号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	網目状線り糸文	LR	ナデ		III-6-1	
785	L12柱穴状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	帯状文	LR	ナデ		III-3?	内外面線付着
786	L12柱穴状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-1-3	外面線線量付着
787	L12柱穴状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-6-1	外面線線量付着
788	L12柱穴状土坑	埋土中	鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	帯状文	LR	ナデ		III-1	外面線線量付着
789	L14柱穴状土坑	埋土中	深鉢	胴部	小波状口縁、B突起	三叉文	無文	ナデ		IV-1-2	内外面線付着
790	M12柱穴状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	弧線状文	無文	ナデ		III-1-1	
791	M12柱穴状土坑	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	弧線状文	LR、RL	ナデ		III-6	胎土に石炭混入、外面線付着
792	M12柱穴状土坑	埋土中	鉢	胴部		ミガキ	RL(0段多象)			III-3	外面線付着
793	M12柱穴状土坑	埋土中	台付き鉢	台部		ミガキ	無文			III-6	ミニチュア?
794	M16柱穴状土坑	埋土中	鉢	胴~底部			無文			III-6	ミニチュア?
795	M18柱穴状土坑5号	埋土中	鉢	胴~胴部上半	平縁、丸み	頸部に原体押圧文	無文			IV-6	内面線線量付着
796	M18柱穴状土坑5号	埋土中	蓋?	胴部		先端貼着、入組み帯状文	LR			III-6-1	胎土に粗織混入
797	M18柱穴状土坑5号	埋土中	蓋?	胴部		貼敷、帯状文	RL			III-5	内面線線量付着
798	N14柱穴状土坑1号	埋土中	蓋?	胴部		入組み状文	LR	ケズリ		III-5	
799	N14柱穴状土坑2号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	弧線状文	LR			III-2-1	
800	N14柱穴状土坑3号	埋土中	鉢	口縁部	平縁、内割ぎ	平直花線文	無文			III-1-1	
801	N15柱穴状土坑1号	埋土中	蓋	口~頸部			無文	ナデ		III-2-1	
802	N15柱穴状土坑1号	埋土中	四足皿	底部			無文			III-6?	胎土に粗織混入
803	N15柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	胴部		貼敷、入組み状文	LR			III-4	
804	N15柱穴状土坑1号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、丸み	入組み状文、内面に花線文	LR	ナデ		III-1-2	
805	O15柱穴状土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	小波状口縁	入組み状文	R無節	ナデ		III-1-2	
806	O15柱穴状土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	網目状線り糸文	R無節	ナデ		III-6	外面線付着
807	O15柱穴状土坑5号	埋土中	深鉢	口縁部	平縁、角状	網目状線り糸文	R無節	ナデ、ミガキ		III-1-2	
808	O15柱穴状土坑7号	埋土中	深鉢	胴部		網目状線り糸文	単軸絡全体			III-6-1	
809	C2期穴跡	III(再推測)	母耳蓋	胴部中位~底部		花線文、非線形羽状線文、胴部中央に孔有	LR、RL	ナデ		III-5	単孔は碗成前に穿たれている

第33表 遺構内土器 (14)

編年番号	出土地点	断面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1201	GE	上	B21	Ⅲ中	深鉢B1	口～胴部中位	平縁、角状	S字状文、網目状襷り糸文	相輪條条体第5類(L・L・R)	ミガキ		Ⅲ-2-1	加曾利B1式、内面襷り付着
1202	GE	上	B21	Ⅲ、Ⅳ	深鉢B1	口～胴部	小波状口縁、角状、突起(5単位)	円文(帯帯)、方形区画文、磨消細文	L・R	ミガキ、ナデ		Ⅲ-1-1	盤状式?、内外面襷り付着
1203	GE	上	B23	Ⅲ上・F(3a・3c)	切斷蓋付き壺	ほぼ完形		方形区画文	L無筋	ケズリ	平坦	Ⅲ-1-1	外面剝落部分多い、内外面糸塗布、胴部中位内面黒い
1204	GE	上	B23	Ⅲ中	深鉢A1	口～胴部中位	平縁、丸み	方形区画文、磨消細文	L・R	ミガキ、ナデ		Ⅲ-1-3	加曾利B1式、外面襷り付着
1205	GE	上	B23・24	Ⅲ中	注口土器鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	花線文、隆帯文(渦巻き?)	無文	ミガキ		Ⅲ-2-2	
1206	GE	上	B23	Ⅲ下	鉢	口～胴部下半	平縁、丸み		無文	ナデ		Ⅲ-6-2	台付き鉢の可能性有
1207	GE	上	B23	Ⅲ下	深鉢A2	口～胴部中位	波状口縁(5単位)、頂部に凹有、丸み	網目状文襷り糸文	相輪條条体第5類(L無筋)	ナデ		Ⅲ-2-1	器形から後期中葉とした、内外面襷り付着
1208	GE	上	B23・B24・B25	Ⅲ下	深鉢	I/2完形	平縁、丸み	多条花線文(帯引状)	ナデ			Ⅲ-6	内外面襷り付着
1209	GE	上	B23	Ⅲ	台付き鉢?	胴部?	円形刺突					Ⅲ-6	
1210	GE	上	B23	Ⅲ	深鉢	口～胴部上半	平縁、丸み	襷り糸文	相輪條条体第1類(L無筋)	ナデ		Ⅲ-6	内外面襷り付着
1211	GE	上	B24	Ⅲ上(3b)	蓋E a	ほぼ完形(口縁部欠損)	平縁、丸み	曲線状文(波線状若しくはS字状文?)、磨消細文	L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	直立気味に出土、外面糸塗布?
1212	GE	上	B24・B25	I、Ⅲ	鉢I 2 a	ほぼ完形	平縁、B突起	羊歯状文	L・R	ミガキ	平坦	Ⅳ-2-2	内外面襷り付着
1213	GE	上	B24・B25	I、Ⅲ	蓋F 11 a	ほぼ完形	平縁、丸み	クラクラ状文(3単位)、磨消細文	L・R	ミガキ、ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	内面調整は口縁部ミガキ、胴部ナデ、底部内面アスファルト付着
1214	GE	上	B24	Ⅲ上(3a)	蓋F 11 a	I/2完形	平縁、角状	帯状文(縦状文、3単位)、ミガキ(光沢強)	R・L	ミガキ、ナデ	平坦	Ⅲ-3	
1215	GE	上	B24	Ⅲ上	台付き鉢	胴部	波状口縁、丸み	花線、磨消細文	L・R		台?	Ⅲ-2-2	内面漆?付着
1216	GE	上	B24	Ⅲ中(3c)	深鉢A 12 a	ほぼ完形	波状口縁、丸み、細文	入組み状文(山形状、帯状)、磨消細文	R・L	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	内面漆?付着
1217	GE	上	B24	Ⅲ中	深鉢	口唇部	平縁、角状、大形円形突起	口唇部に隆帯による楕円文	無文	ミガキ、ナデ		Ⅲ-2-1	加曾利B1式新併行期?
1218	GE	上	B24	Ⅲ中	深鉢	口唇部	波状口縁、丸み	頭線状入組み文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	
1219	GE	上	B24	Ⅲ下	深鉢A Ⅲ1 a	ほぼ完形	平縁、丸み	別条異帯(L・R・ケズリ)	無文	ナデ、ケズリ	平坦、擦過痕	Ⅲ-6-1	内外面襷り付着
1220	GE	上	B24・C23・C24	Ⅲ中	浅鉢	I/2完形	平縁、丸み	波状入組み文(袋師学文様)	無文	ナデ?	平坦	Ⅲ-1-1	文様による特殊文様、内面襷り付着
1221	GE	上	B24	Ⅲ中(3b)	鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	刺突文	無文	ナデ	若干上げ底状、擦過痕	Ⅲ-2-2	
1222	GE	上	B24	Ⅲ下	蓋E 11 a	ほぼ完形	平縁、丸み		無文			Ⅲ-6-2	十層内皿式?、底部外面襷り?、底部内面ケズリ?付着
1223	GE	上	B24	Ⅲ下	深鉢G Ⅲ1 b	口～胴部下半	平縁、角状		L・R(0段多条?)	ナデ	若干上げ底状	Ⅲ-6	補修孔が対になって上下にあり
1224	GE	上	B24	Ⅲ下	深鉢	底部	平縁、角状、細文	ナデ、頸部原形押圧文	L・R	ケズリ	平坦、木葉痕	Ⅲ-6-1	台付き浅鉢の可能性有、器形から後期中葉、外面襷り付着
1225	GE	上	B24	Ⅲ上(3a)	鉢	口～胴部下半	平縁、角状		L・R	ナデ		Ⅲ-6-1	外面加熱?
1226	GE	上	B24・C23・C24	Ⅲ下	深鉢A 11	口～胴部下半	平縁、角状	網目状襷り糸文	相輪條条体第5類(L無筋)	ナデ、ケズリ		Ⅲ-6-1	
1227	GE	上	B24	Ⅲ	壺(注口土器?)	底部	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1・2	底部に穿孔有
1228	GE	上	B24	Ⅲ	台付き鉢	台部	ほぼ完形	沈線文、孔有	L・R?	ナデ	台	Ⅲ-6-1?	
1229	GE	上	B24	Ⅲ上(3a)	壺	ほぼ完形(口～頸部欠損)	平縁、丸み	入組み帯状文、磨消細文	L・R		平坦、帯?	Ⅲ-2-2	徳利形器、頸部の欠け口は磨滅(口縁磨きによる再加工?)が激しく、次掲後に穿たれたような痕跡(4単位?)が窺える
1230	GE	上	B24・C23	Ⅲ	壺	口唇部	平縁、丸み	平行沈線、帯状文(幅広)	L・R	ミガキ	台	Ⅲ-2-2	内面調整は口縁部ミガキ、胴部ナデ、外面は剝落が多く條の付着も多いことから強く隆成を受けたとが窺える、内外面襷り付着
1231	GE	上	B24	Ⅲ上(3a)	台付き深鉢C 11 d	ほぼ完形	平縁、丸み		L無筋	ミガキ、ナデ	台	Ⅲ-2-2	
1232	GE	上	B25	I(1a)	蓋D 11 a	完形	平縁、丸み	平行沈線文、山形文、口縁部と胴部の文様を合わせるX字状に見える	無文		平坦、帯?	Ⅲ-1-2	
1233	GE	上	B25	Ⅲ上(3a)	蓋G 11 c	ほぼ完形	平縁、丸み	弧線状入組み文	無文	ナデ	丸底	Ⅲ-4	
1234	GE	上	B25	Ⅲ上・中	深鉢	口唇部	波状口縁、丸み、刻み目	種引文(3条)、入組み区画文	無文	ミガキ、ナデ		Ⅲ-1-2	
1235	GE	上	B25	Ⅲ上	鉢	完形	平縁、内削ぎ	一ヶ所に2個、対の孔有	無文	ナデ	若干上げ底状	Ⅲ-6	蓋の可能性有
1236	GE	上	B25	I	台付き浅鉢	台部	平縁、丸み	ミガキ	無文		台	Ⅳ-6	
1237	GE	上	B25	Ⅲ上(3a)	蓋D 11 a	完形	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ、ケズリ	平坦	Ⅲ-1	
1238	GE	上	B25	Ⅲ中	浅鉢	口唇部	平縁、丸み	連続S字状文	L・R	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-2-1	表裏とも剝落が激しい
1239	GE	上	B25	Ⅲ	台付き鉢 11 d	ほぼ完形	平縁、光鋭	花線、山形状沈線文	無文	ミガキ?	台	Ⅲ-6-2	外面剝落部分多い
1240	GE	上	B25	Ⅲ	片口鉢	口～胴部上半	若干波打つ、口唇部に帯		L・R	ミガキ	台	Ⅲ-4	
1241	GE	上	B25	Ⅲ	台付き鉢?	台部	平縁、丸み		無文	ナデ	台	Ⅲ-6	
1242	GE	上	B25	Ⅲ上(3)	鉢H 1 a	完形	平縁、丸み	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	平坦	Ⅲ-6	十層内皿式?、内外面襷り付着

第34表 遺構外土器 (1)

観音番号	出土地点	断面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1243	GE 上	上	B26	I	浅鉢	口唇部	裝飾突起、刻み目	半圓状文、平行沈線、短沈線	L・R	ミガキ		IV-2	
1244	GE 上	上	C21	III中	深鉢	底部					平垣、撥過痕	III-6	
1245	GE 上	上	C21	III	皿	1/2完形				ナデ	平垣、雫?	III-6	
1246	GE 上	上	C22	III上	注口土器	胴~底部		雲形文、浮き彫り	L・R	ミガキ	丸底状、雲形文、ミガキ	IV-3	
1247	GE 上	上	C22	III下	台付き鉢A1d	1/2完形	平縁、突起、折り返し口縁	弧線状文(S字状・楕円)		ナデ	台	III-1-2	台部に刻み(3単位)
1248	GE 上	上	C22	III下	壺E11a	ほぼ完形	平縁、丸み	方形区画文(クランク状・円形3単位、弧線状文)	L・R	ミガキ、ナデ?	平垣	III-1-1?	神附(2)式 or 鬚状式の可能性有
1249	GE 上	上	C23	III中	鉢?	ほぼ完形	小波状口縁			ナデ	平垣	III-6	
1250	GE 上	上	C23	III中、下		底部			L・R		平垣、木葉痕、沈線	III-6-1	
1251	GE 上	上	C23	III中	深鉢	口~胴部上半	平縁、丸み	竹管文、菱形文	L・R	ナデ		III-2-1	加曽利B2式並行、内面灰化物付着
1252	GE 上	上	C23	III	台付き壺J11d	ほぼ完形	平縁、内割き	又状貼瘤(頸部・胴部とも4単位で施文)、IIb帯に微隆起線、II帯に入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	L・R・L	ナデ	台	III-4	
1253	GE 上	上	C23・C24	III下	壺	胴~底部	平縁、丸み	円形文、菱形文、刺突	L・R(胴体細い)	ナデ	平垣、網代痕	III-1-2	
1254	GE 上	上	C23	III下	深鉢	口~胴部下半	平縁、丸み	液状文	L無節	ミガキ、ナデ		III-6	内外面煤付着
1255	GE 上	上	C23	III	鉢	ほぼ完形	平縁、丸み			ナデ	平垣	III-1-1?	文様は細目の沈線により施文、ミニチュア?
1256	GE 上	上	C23	III	壺	胴~底部	平縁、丸み	入組み帯状文(3単位)	L・R	ナデ、ケズリ	平垣、木葉痕	III-2-1	加曽利B2式並行
1257	GE 上	上	C23	III	注口土器Aa	頸~底部	平縁、角状	曲線状文(幅広)、磨消細文、刺突列、突起(縦長)、非結束羽状細文(異方向)	R・L	ナデ、ケズリ	平垣	III-3	
1258	GE 上	上	C23	III	壺	口~胴部中心	平縁、角状	ミガキ	L・R	ナデ、ミガキ		IV-1	大洞B.C式?
1259	GE 上	上	C23	III	不明	口唇部	平縁、丸み、貼瘤	入組み状文(浮き彫り状)、三角形状の透かし		ミガキ		IV-1-1	他地域輸入品?
1260	GE 上	上	C23	III	深鉢B2	口唇部	小波状口縁、角状、折り返し口縁	渦巻き状文、三角形状、磨消細文	L無節	ミガキ、ナデ		III-1-1	外面煤微量付着
1261	GE 上	上	C24	III中	浅鉢	ほぼ完形	平縁、角状	S字状文、ミガキ	R・L(0段多条?)	ミガキ	平垣	III-2-1	碗形
1262	GE 上	上	C24	III中	注口土器F11d	ほぼ完形	平縁、丸み	刺突列、弧状平行沈線		ミガキ、ナデ?	台	III-2-1	加曽利B1新付行、傑出品?(在地産とは思われまい(様相を示す))
1263	GE 上	上	C24	III中	壺G1	口~胴部中心	平縁、細文		L・R	ナデ		III-6-1	
1264	GE 上	上	C24	III上・下	深鉢EIIIb	口~底部	平縁、内割き	縦長貼瘤、入組み帯状文、先頭細文?、浮き彫り	L・R	ナデ	上げ底状	III-5	外面底部付近に黒色顔料?、内外面煤微量付着
1265	GE 上	上	C25	III上(3a・3m)	壺I11a	口~胴部下半	平縁、又状突起	胴部中心に又状突起(5単位?)、突起線に穿孔有			平垣	III-5	釣り下げ形土器?
1266	GE 上	上	C25	III上	深鉢EIIIb	ほぼ完形	平縁、丸み	先鋭貼瘤、沈線文、ミガキ		ミガキ	上げ底状	III-5	
1267	GE 上	上	C25	III上	四足鉢?J11d	1/2完形	平縁、丸み	三叉文		ミガキ	足(4個)、円形文	IV-1	底部中心は凹み
1268	GE 上	上	C25	III	深鉢HIIIa	完形	平縁、丸み、B突起(7単位)	半圓状文(突起下に施文)、平行沈線、ミガキ	L・R、R・L	ミガキ	平垣	IV-2-2	L・RとR・Lを交互に施文、補修孔有、内外面煤付着
1269	GE 上	上	C23~D25(3m)ベルト	III中(3c)・III下(3m)	深鉢A11a	ほぼ完形	平縁、丸み		L・R		平垣、網代痕、ミガキ	III-6-1	内面煤付着
1270	GE 上	上	C25	III	台付き鉢	台部	平縁、角状	平行沈線		ケズリ	台	III-6-2	
1271	GE 上	上	C25・C25	III	深鉢GIIIa	ほぼ完形	平縁、角状		R・L	ナデ	平垣	III-6	内外面煤付着
1272	GE 上	上	C26	III上	香炉形土器	突起	貼瘤、貫通孔		L・R		平垣	III-5	
1273	GE 上	上	C26	III上	彫孔土器	ほぼ完形	平縁、丸み	楕円文、磨消細文	L・R	ナデ	平垣	III-3	
1274	GE 上	上	C26	I	鉢	口~胴部	平縁、角状	三叉入組み文、平行沈線、ミガキ	R・L	ミガキ		IV-1-1	広口鉢、内外面煤付着
1275	GE 上	上	C26	III	浅鉢	ほぼ完形	平縁、角状			ミガキ	上げ底状	IV-6	
1276	GE 上	上	D21	III下	鉢	口~胴部上半	平縁、丸み、細文	円形刺突、磨消細文	L・R	ケズリ	平垣、撥過痕	III-1-2	
1277	GE 上	上	D22	III下	深鉢	底部	小波状口縁(5単位)、丸み、折り返し口縁	縦長粘土貼付(5単位)、長條円文、円文・縦長連続S字状文(沈線)、磨消細文	L無節	ナデ、ミガキ	平垣	III-1-1	内外面煤微量付着
1278	GE 上	上	D23	III中	深鉢B2	口~胴部下半	平縁、丸み		L無節	ナデ	平垣	III-1-1	外面煤微量付着、鬚状式相当
1279	GE 上	上	D22	III	深鉢	口唇部	液状口縁、丸み	又状貼瘤	L無節?	ナデ	台	III-5	
1280	GE 上	上	E21	III上	香炉形土器	ほぼ完形	平縁、丸み		L・R	ミガキ?	台	III-2	煤は内面底部付近のみ付着、内外面煤微量付着
1281	GE 上	上	E20	III上	台付き深鉢Cd	胴部上半~底部	平縁、丸み、B突起	曲線文、磨消細文			台	III-2-2	
1282	GE 上	上	E21	III中	注口土器G11c	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、丸み	IIa帯に描かれるモチーフは4単位、三又文、B突起、ミガキ		ナデ	丸底、ミガキ、沈線	IV-1-2	大洞B2式
1283	GE 上	上	E21	III中	壺	ほぼ完形(口縁部欠損)	平縁、丸み	先鋭貼瘤、入組み帯状文、磨消細文	L無節		上げ底状	III-5	

第35表 遺構外土器(2)

埋蔵番号	出土地点	剖面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1284	GE	上	H20	Ⅲ	壺	口～頸部	平縁、内削ぎ、大小の突起突起(各4単位)、微縁線(8単位)	又状凸縁、非結束羽状縄文、磨消縄文(ミガキ)	LR+RL	ナデ		Ⅲ-4	口唇部の又状突起は大小交互に付加され、突起間に貼り付け微縁線を付加する
1285	GE	変	C24	Ⅲ下	深鉢CⅢ2a	ほぼ完形	波状口縁(3単位、頂部凹状)、丸み	帯状文(波溝状)、磨消縄文	LR	ナデ	平坦、網代縁	Ⅲ-2-1	内外面線付着
1286	GE	変	C24	Ⅲ下	注口土器Fd	ほぼ完形		弧線状入組み文、菱形文、平行花線、磨消縄文	LR	ミガキ	台	Ⅲ-2-2	加曾利B3式並行文様は注口部を含める
1287	GE	変	C24	Ⅲ下	双口土器	口～胴部	平縁、縄文、刺突を伴う突起		RL	ナデ		Ⅲ-2-2	文様は浮き彫り状
1288	GE	変	C24	Ⅲ下	深鉢CⅢ1a	完形	平縁、丸み	帯状文による曲線文(S字状)、磨消縄文	LR	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	内面漆?、外面一部アスファルト付着
1289	GE	変	C24	Ⅲ下	浅鉢	ほぼ完形	平縁、角状	ミガキ	無文	ミガキ	平坦	Ⅲ-6	縦形
1290	GE	変	C24	Ⅲ下	深鉢	胴部下半～底部	平縁、丸み	花線	異筋(LR)	ナデ	平坦	Ⅲ-6	R無筋の条の太さの違うものを擦り合わせ
1291	GE	変	C24	Ⅲ下	浅鉢	口～胴部	平縁、角状	平行花線、S字状文	無文	ミガキ		Ⅲ-2-1	外面微縁線付着
1292	GE	変	C24	Ⅲ下、Ⅳ	深鉢	口唇部	波状口縁、丸み、刻み目	磨消縄文	LR	ミガキ、ナデ		Ⅲ-1-2	外面微縁線付着
1293	GE	変	C24	Ⅲ下	深鉢	底部			平坦、網代縁			Ⅲ-6-1	
1294	GE	変	C24	Ⅲ下	深鉢GⅢ1a	ほぼ完形	平縁、角状、肥厚	LR(0段多条)		ミガキ		Ⅲ-6-4?	内外面微縁線付着
1295	GE	変	C24	Ⅲ下	深鉢	口～胴部下半	平縁、角状		LR	ナデ、ミガキ	平坦、ミガキ	Ⅲ-6-4?	補修孔有、上面縁は楕円形(筆を模倣?)
1296	GE	変	C25	Ⅲ中・下	壺SⅡ1a	完形	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-6	器形から晚期とした
1297	GE	変	C25	Ⅲ下	壺TⅡ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	ミガキ、頸部に花線	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-6	矢が帯の中に入っていた可能性有、六洞B式?、内外面未塗布
1298	GE	変	C25	Ⅲ下	浅鉢	口～底部	平縁、丸み	把手状突起	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6	皿?
1299	GE	変	C26	Ⅲ下	浅鉢	1/2完形	平縁、又状凸縁	把手状突起	LR+RL	ナデ	平坦	Ⅲ-4	又状凸縁が2cm間隔で付く、内面黒色処理?
1300	GE	変	D23	Ⅲ下	壺EⅡ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	非結束羽状縄文	L無筋	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-2-1	微利形意、外面微縁線多量
1301	GE	変	D23	Ⅲ下	深鉢AⅢ1a	1/2完形	平縁、丸み	磨消縄文	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	
1302	GE	変	C25	Ⅲ中	注口土器EⅡ1b	ほぼ完形	平縁、角状	先鋭凸縁、入組み帯状文、充填縄文	LR	ミガキ、ナデ?	平坦	Ⅲ-5	注口部アスファルト?付着
1303	GE	変	C25	Ⅲ	台付き皿	1/2完形	平縁、丸み	花線	LR(0段多条?)	ナデ	台	Ⅲ-2-2	器形から後期中葉とした
1304	GE	変	D23	Ⅲ下	台付き鉢?	台部					台、網代縁、爪状の細突	Ⅲ-6-2?	
1305	GE	変	D23・D24	Ⅲ下	台付き浅鉢	ほぼ完形	平縁、角状	ミガキ、台部に帯を巡る	無文	ミガキ、ケズリ	台	Ⅲ-3	
1306	GE	変	D23	Ⅲ下	浅鉢DⅡ1a	ほぼ完形	平縁、角状		LR	ナデ	平坦	Ⅲ-6	後期未塗?
1307	GE	変	D24・E25	Ⅲ上・中	深鉢AⅠ	口～胴部	平縁、丸み	磨消縄文	LR	ナデ	平坦	Ⅲ-6	外面線付着
1308	GE	変	D24	Ⅲ上	浅鉢	口～胴部	平縁、角状	縦長凸縁、帯状文、磨消縄文、浮き彫り状	LR	ナデ		Ⅲ-5	台付き微縁の可能性がある
1309	GE	変	D24	Ⅲ上	深鉢	底部						Ⅲ-6-1	
1310	GE	変	D24・D25	Ⅲ上	深鉢CⅢ2a	口唇部	波状口縁、内削ぎ、肥厚	刻み目列、非結束羽状縄文、磨消縄文	LR+RL(0段多条)	ナデ	平坦	Ⅲ-3	
1311	GE	変	D25	Ⅲ下	深鉢GⅢ1b	1/2完形	平縁、角状	平行花線	LR	ナデ	若干上げ底状	Ⅲ-2-1	
1312	GE	変	D25	Ⅲ下	深鉢DⅢ1a	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、瘤状小突起(5単位?)	平行花線、花線間凹形刺突、内面に貼着・刺突文	LR	ナデ	平坦	Ⅲ-4	内面の比瘤上及びその周辺に凹形刺突
1313	GE	変	E23	Ⅲ上	鉢	口唇部	小波状口縁、頂部刻み目、丸み		LR			Ⅲ-1	
1314	GE	変	E23	Ⅲ中	深鉢BⅡ1a	口～底部	平縁、角状	網目状磨り糸文	無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	内外面微縁線付着
1315	GE	変	E23	Ⅲ上(3a～3b)	鉢EⅡ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	網目状磨り糸文	無筋	ナデ	平坦、僅?	Ⅲ-6-1	縁は内面胴部下半付近にのみ付着、内外面線付着
1316	GE	変	E23	Ⅲ中	深鉢BⅡ1	口～胴部	平縁、角状	平行花線、S字状文(括弧状文)、ミガキ	無筋	ナデ		Ⅲ-2-1	外面微縁線付着
1317	GE	変	E23	Ⅲ中	浅鉢	胴～底部	平縁、角状	渦巻糸状文	無文	ナデ	平坦、花線文	Ⅲ-1-1	馬立1式?
1318	GE	中	B23・D24	Ⅲ下、V	深鉢	1/2完形	波状口縁(頂部又状)、角状、刺突	結縷帯、種LR・R	無文	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-2-2	胎土に繊維混入、外面微縁線付着
1319	GE	中	D24・D25・E24	Ⅲ中・下	深鉢BⅡ2a	ほぼ完形	波状口縁(5単位)、丸み、刻み目	渦巻糸状文(平行花線による、5単位)磨消縄文?	LR	ナデ	平坦、僅?	Ⅲ-1-2	縁は内面底部付近及び外面胴部中位付近に付着、内外面線付着
1320	GE	中	D24・E24	Ⅲ上・下	壺	口～頸部	平縁、内削ぎ	先鋭凸縁、弧線状文(菱形)、充填縄文?、ミガキ、浮き彫り	LR	ナデ		Ⅲ-5	注口土器?
1321	GE	中	D24	Ⅲ下	壺	頸～底部	平縁、角状	縦ミガキ	無文	ナデ	平坦、木蓋痕	Ⅲ-6-2	徳利形意、十腰内Ⅱ式併行?
1322	GE	中	D24	Ⅲ中	注口土器AⅢ1a	ほぼ完形	平縁、角状	口唇部上頸部に刻み目、弧線状文(水の葉状)、非結束羽状縄文(見方向)、ミガキ	LR	ミガキ	平坦	Ⅲ-3	
1323	GE	中	D24	Ⅲ下	鉢	胴～底部		入組み状文(帯掛状)、ミガキ	LR	ナデ	平坦	Ⅲ-4	内外面線付着、十腰内Ⅳ式古段縁の可能性有
1324	GE	中	D24	Ⅲ下	鉢	胴～底部		弧線状文(浅めの花線)、ミガキ	無文	ミガキ	丸底状	Ⅲ-5	注口土器?、内面黒色処理?
1325	GE	中	G23・G24・G25・B24	Ⅲ下、Ⅳ	深鉢	口唇部	平縁、丸み	口唇部隆起体伸圧文、頸部刺突文、胴部羽状縄文	LR+RL付加条	ナデ		Ⅲ-2-1	胎土に繊維混入、外面線付着

第36表 遺構外土器 (3)

編番号	出土地点	断面	出土地点	層位	器 名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地 文	内面調整	底部形態	分 類	備 考
1326	GE	中	D24・D25	Ⅲ下	台付き鉢B1d	1/2完形	口唇部中位	渦巻き状文、平行沈線、括弧状文、刺突文	無文	ミガキ	台、曲線文、円文	Ⅲ-1-1	
1327	GE	中	D24・E25	Ⅲ下・中	壺B2	口唇部中位	口唇部中位	沈線文	無文	ミガキ、ナデ	台	Ⅲ-2-1	全体的に白い
1328	GE	中	D24	Ⅲ下	鉢	口唇部下半	口唇部下半	刺突列、クラック状文、磨消細文	R L	ミガキ、ナデ	台	Ⅲ-3	加曾利B3並行
1329	GE	中	D24・F24・F23	Ⅲ下	浅鉢	ほぼ完形(底部欠損)	ほぼ完形(底部欠損)	円形文(隣帯)、円文	無文	ナデ	台	Ⅲ-1-1	
1330	GE	中	D24	Ⅲ下	深鉢	口唇部	口唇部	帯状文(懸垂文、クラック状文)	L 無節	ナデ		Ⅲ-1-2	
1331	GE	中	D24・E25・G23・F23	Ⅲ下、Ⅳ	深鉢	ほぼ完形(底部欠損)	ほぼ完形(底部欠損)	帯状文(漆部)、口唇部原形押入文、頸部刺突文	L R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-2-1・2	胎土に繊維混入、液頂部下に落ち、脚部は結帯(1種) L、R を施文、外面微量付着
1332	GE	中	D24	Ⅲ	深鉢GⅢ1b	ほぼ完形	ほぼ完形	非結束羽状細文	L R・R L	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6-4	十腕内IV式?、内外面黒色顔料付着
1333	GE	中	D24	Ⅲ	鉢	脚~底部	脚~底部	口唇部頭部原形押入文、燃り糸文	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	内面黒色処理?
1334	GE	中	D25	I	鉢B1a	1/2完形	口唇部	口唇部頭部原形押入文、燃り糸文	L 無節、単軸絡条体(L)	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	
1335	GE	中	D24・E23・24	Ⅳ	深鉢	ほぼ完形(底部欠損)	ほぼ完形(底部欠損)	口唇部原形押入文、脚部木目状燃り糸文	単軸絡条体第1A組L	ナデ	台	Ⅲ-2-1	胎土に繊維混入、内外面保存着
1336	GE	中	D25	I	香炉形土器	ほぼ完形	角状	貼輪、口縁部に穿孔有(4単位?)、脚部に貫通孔有(4単位)	無文	ナデ	台	Ⅲ-4	線は内面上部に付着
1337	GE	中	D25	I	荷田I1a	完形	平縁、丸み	平縁、丸み	L R	ナデ	平坦	Ⅳ-5	大柄B式?
1338	GE	中	D25	Ⅲ上(3a)	注口土器B11a	ほぼ完形	ほぼ完形	ミガキ	無文	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-6-4	十腕内IV式?
1339	GE	中	D25・E25	I	深鉢H1	口唇部	平縁、角状	先鋭記輪、赤填細文	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	
1340	GE	中	D25・E24	I、Ⅲ中	台付き皿	ほぼ完形	ほぼ完形	波状口縁(6単位?)、内削ぎ、肥厚	R L(0段多象)	ミガキ、ナデ	台	Ⅲ-3	
1341	GE	中	D25	Ⅲ上	台付き深鉢DⅢ1d	ほぼ完形	平縁、角状	貼輪、ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1342	GE	上	C25・C24・D25・E25	Ⅲ下	深鉢A1	口唇部中位	口唇部中位	帯状文(連節鍵状文)、磨消細文	L R	ナデ	台	Ⅲ-3	
1343	GE	中	D25	Ⅲ上	深鉢	底部							
1344	GE	中	D25	Ⅲ中	深鉢	口唇部	平縁、大小の叉状突起	叉状貼輪、平行沈線文、入組み帯状文	L R	ミガキ	平坦、網代織	Ⅲ-6-1	白磁状土製品?
1345	GE	中	D25	Ⅲ上	注口土器AⅢ1b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、肥厚、又状貼輪(突起)(6単位?)	平縁、丸み	L R・R L(0段多象)	ミガキ	上げ底状	Ⅲ-5	口唇部の突起は小9単位・小2個一対で9単位(18個)と推定される、内外面保存着
1346	GE	中	D25	Ⅲ上	台付き浅鉢?	ほぼ完形	平縁、角状	先鋭記輪、帯状文(厚き彫り状)、丸貼輪文、ミガキ	R L	ケズリ、ナデ	台	Ⅲ-3	加曾利B2式?
1347	GE	中	D25	Ⅲ中	深鉢EⅢ1b	ほぼ完形	平縁、角状	先鋭記輪、帯状文(厚き彫り状)、丸貼輪文、ミガキ	R L	ケズリ、ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	線は先鋭の他に線長状も有、外面微量付着
1348	GE	中	D25	Ⅲ上	深鉢	底部					平坦、網代織	Ⅲ-6-1	白磁状土製品?
1349	GE	中	D25	Ⅲ下	壺L11a	完形	平縁、丸み	ミガキ	L R?(L無節?)	ナデ	丸底状	Ⅲ-6-4	十腕内IV式?
1350	GE	中	D25	Ⅲ中・下	深鉢H11a	ほぼ完形	ほぼ完形	クラック状文、非結束羽状細文(縦方向)、磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-6-4	線は内面脚部下付近にのみ付着
1351	GE	中	D25	Ⅲ下	壺	ほぼ完形	ほぼ完形		L R(0段多象)	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	
1352	GE	中	D25・C25・E26	Ⅲ中・下	壺D11a	1/2完形	平縁、角状、細文	平縁、角状、細文	L R	ナデ	平坦、網代織	Ⅲ-6-1	十腕内I式?
1353	GE	中	D25	Ⅲ下	注口土器	脚~底部	脚~底部	先鋭記輪、沈線、注口付け根に人面状の文様、ミガキ	L R	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	
1354	GE	中	D25	Ⅲ上	深鉢	口唇部	波状口縁、丸み		無文	ナデ		Ⅲ-1-1	
1355	GE	中	D25	Ⅲ下	深鉢H1	口唇部中位	口唇部中位	非結束羽状細文	L R・R L	ナデ	平坦	Ⅲ-6-3?	線は外面口縁部付近のみ付着
1356	GE	中	D25	Ⅲ下	注口土器	脚~底部	脚~底部	クラック状文、磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	
1357	GE	中	D25	Ⅲ中(3b)	鉢	脚~底部	脚~底部	曲線帯状文(幅広)、磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	破損した部分を整形(再調整)して口縁を作り出した可能性有
1358	GE	中	D25	Ⅲ上(3a)	四足皿?	ほぼ完形	平縁、丸み、腫長突起	叉状貼輪	無文	ミガキ	足(4個?)	Ⅲ-5	足はすべて欠損しているが痕跡から4単位
1359	GE	中	D25	Ⅲ下	鉢I1b	1/2完形	平縁、内削ぎ、肥厚	平縁、丸み、腫長突起	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6-4?	外面諸部分有内面保存着
1360	GE	中	D25	Ⅲ下	浅鉢	完形	平縁、角状	ミガキ	無文	ミガキ	上げ底状	Ⅲ-6-4?	碗?
1361	GE	中	D25	Ⅲ下	壺B11	口唇部中位	口唇部中位	頸部隆帯による方形区画文(4単位)、渦巻き状文(4単位)、磨消細文	L R	ナデ、ケズリ		Ⅲ-1-2	
1362	GE	中	D25・F25	Ⅲ下	深鉢DⅢ1b	1/2完形	平縁、内削ぎ、肥厚、先鋭貼輪突起	入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	L R・R L	ナデ、ミガキ	上げ底状	Ⅲ-5	内面微量付着
1363	GE	中	D25	Ⅲ下	香炉形土器	台部	台部	叉状貼輪(4単位)、ナデ	L R		台	Ⅲ-5	内面灰?付着
1364	GE	中	D25	Ⅲ下	鉢	底部	底部	沈線			平坦、穿孔有	Ⅲ-2-2	加曾利B2式並行、底部は外面から焼成後に穴が穿たれている、1365と同一個体
1365	GE	中	D25	Ⅲ下	鉢	底部	底部	沈線	L R		平坦、穿孔有	Ⅲ-2-2	加曾利B2式並行、底部は外面から焼成後に穴が穿たれている、1364と同一個体
1366	GE	中	D25・D25	Ⅲ	注口土器	脚部	脚部	叉状貼輪、平行沈線、刺突	無文			Ⅲ-5	刺突は沈線間に施される

第37表 遺構外土器 (4)

編 号	出土地点	系 列	層 位	器 種 名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地 文	内面調整	底 部 形 態	分 類	備 考
1367	GE	中	D25	注口土器B1b	ほぼ完形	平縁、貼福(11単位?)	口唇部に貼福(11単位?)、胴部に貼福(3単位)、赤線文	L R	ナデ	上げ底状	III-4	
1368	GE	中	F24・E25・D25	深鉢	口~胴部	平縁、丸み	口縁部原体押圧文、胴部縹紗文	L R	ナデ	丸底状	III-2-1	胎土に繊維混入、外面煤付着
1369	GE	中	D25	壺 I11c	完形	平縁、丸み	隆帯、突起	L R	ナデ	丸底状	III-4	釣り下げ形窓、ミニチュア?
1370	GE	中	D25	壺	完形	平縁、丸み	ナデ	無文	ナデ	平坦	III-6	ミニチュア?
1371	GE	中	D25	台付き鉢?	口~胴部	平縁、小突起(5単位?)、丸み	縦長先鋭貼福、刺突文(刻み目状)、磨消細文、波き彫り状	L R	ナデ、ミガキ	台?	III-5	十層内V式新段階あるいは十層内VI式
1372	GE	中	D26・D27	壺?	胴部上半~底部	平縁、丸み	又状貼福(4単位?)、入組み帯状文、磨消細文	R L	ケズリ、ナデ	平坦	III-4	外面剥落部分有、内面黒色処理?
1373	GE	中	D26	壺	胴~底部	平縁、角状	非結束羽状細文(風方向)、磨消細文(無文帯)	R L	ナデ	平坦	III-2-2	襷形形窓
1374	GE	中	D26	壺	口~頸部	平縁、角状	刻目帯、非結束羽状細文(無文帯)	R L	ナデ	平坦	III-3	加曾利B2並行
1375	GE	中	D26	台付き壺	ほぼ完形(口縁部欠損)	平縁、角状	又状貼福、隆帯(刻み目、円形刺突文)、入組み帯状文(2~3条平行花線)、ミガキ	無文	ナデ	台	III-5	頸部の瘤に孔が穿たれており、また台部に孔が2ヶ所有ることから釣り下げ形窓と推定
1376	GE	中	D26	深鉢?	胴~底部	平縁、丸み	入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	L R・R L	ナデ	若干上げ底状	III-4	内外面煤付着
1377	GE	中	D26	香形土器	ほぼ完形	平縁、丸み	又状貼福、刻み目、隆帯、透かし(三角形)、小穴	L R・R L	ナデ	台	III-5	台部内面調整はナデ(比較的荒い)、台部2ヶ所孔有
1378	GE	中	D26	鉢	底部	平縁、丸み	入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	L R	ケズリ、ナデ	丸底	III-6-4?	深鉢?、内外面煤付着
1379	GE	中	D26	鉢	胴~底部	平縁、丸み	入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	L R・R L	ミガキ	平坦	III-4	内外面煤付着
1380	GE	中	D26	壺D1	口~胴部	平縁、丸み	入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	L R	ミガキ、ナデ		III-6-1?	襷形形窓、器形から十層内I式新段階の可能性有
1381	GE	中	D27	台付き皿	1/2完形	平縁、丸み	羊歯状文、三叉状	L R	ミガキ	台	III-2-1	高坏、大淵口式新段階の可能性有
1382	GE	中	E24	深鉢B1	口~胴部下半	平縁、丸み	羊歯状文、三叉状	L R	ミガキ	台	III-6-1	特殊な縹帯文、補修孔有、内面煤付着
1383	GE	中	E24・E25	深鉢A III1a	口~胴部下半	平縁、丸み	口縁部に無文帯(幅約2cm)	L R	ナデ	平坦	IV-5	内面黒色処理?
1384	GE	中	E24	深鉢	底部	平縁、丸み	口縁部に無文帯(幅約2cm)	L R	ナデ	平坦、網代縹	III-6-1	
1385	GE	中	E24	壺?	胴~底部	波状口縁、丸み	帯状文(幅広)、磨消細文(ミガキ)	L R	ナデ	平坦、網代縹	III-3	内面底部に黒い物質付着
1386	GE	中	E24	深鉢B III2a	1/2完形	波状口縁、丸み	区画文、帯状文(花弁状意匠)、赤線文	L R	ナデ、ミガキ	平坦	III-1-1	光線による特殊な縹帯、内外面煤付着、黒色処理?
1387	GE	中	E24	鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	入組み帯状細文(磨消細文)	無文	ナデ	丸底状	III-5	直立ししない(蓋?)、内面煤微量付着
1388	GE	中	E24	浅鉢	完形	平縁、丸み	磨消細文	無文	ナデ、ミガキ	平坦	III-6	内面剥落部分多い
1389	GE	中	E24・E25・E27	壺C11a	ほぼ完形	平縁、丸み	磨消細文	L R	ナデ	平坦	III-1-3	F27~E25土層断面6層出土
1390	GE	中	E24	壺A2	1/2完形	小波状口縁、丸み	方形区画文、磨消細文	L R	ナデ		III-1-1	
1391	GE	中	E24	深鉢	口唇部	波状口縁(7単位?)、角状	方形区画文、磨消細文	L R	ナデ		III-2-1	十層内I式新段階?、内外面煤微量付着
1392	GE	中	E24	深鉢B1	口~胴部下半	平縁、丸み	平縁、丸み、折り返し口縁風	L R	ナデ		III-6	外面煤微量付着
1393	GE	中	E24・E25	深鉢	口~胴部上半	平縁、丸み	波き帯状文、口縁部に無文帯(幅約5.5cm)、磨消細文	L R	ナデ、ミガキ		III-2-1?	
1394	GE	中	E24	壺?	口~頸部	突起(4単位?)、丸み	楕円文、高巻き状文、ミガキ	無文	ナデ、ミガキ		III-2-1	十層内II式?、口縁部の欠損部分にアスファルト付着
1395	GE	中	E24	壺B2	胴部	小波状口縁、丸み	入組み帯状文(クラック状)、磨消細文	L R	ナデ		III-1-2	
1396	GE	中	E24・F23・F24	壺B2	口~胴部中心	小波状口縁、丸み	入組み帯状文(クラック状)、磨消細文	L R	ミガキ、ケズリ		III-1-2	
1397	GE	中	E24・E25	台付き鉢A2d	ほぼ完形	波状口縁(4単位)、丸み	多条花線文(4単位)	無文	ナデ	台	III-1-2	台部は3ヶ所に口状の孔が穿たれている
1398	GE	中	E24	壺C1	口~胴部中心	平縁、丸み	短花線	無文	ナデ		III-6-1	
1399	GE	中	E24	深鉢	口唇部	波状口縁、丸み	波状口縁、山形突起、細文	L R	ナデ		III-2-1	
1400	GE	中	E24	高鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	ナデ	L R	ナデ、ミガキ	平坦、網代縹	III-6-1	
1401	GE	中	E24	深鉢A	口~胴部中心	波状口縁(6単位?)、丸み	磨消細文	L R	ナデ、ミガキ		III-1-3	煤は内面口縁部付近にのみ付着
1402	GE	中	E24・E25	深鉢B III2a	ほぼ完形	波状口縁(4単位)、丸み	磨消細文	L R	ナデ	平坦	III-1-1	
1403	GE	中	E24	壺E11b	完形	平縁、丸み	平縁、丸み、突起(1単位)	L R	ナデ	若干上げ底状	III-2-1	
1404	GE	中	E24	鉢D1a	1/2完形	平縁、丸み	頸部に原体押圧文	L R(0段多)	ナデ	平坦	III-6-1	大湯式、襷形形窓
1405	GE	中	E24	深鉢	底部	平縁、角状	頸部に原体押圧文	L R	ナデ	平坦	III-6-1	
1406	GE	中	E24	深鉢B11a	1/2完形	平縁、角状	ミガキ	無文	ナデ、ミガキ	平坦、木葉縹	III-6-1	沈線による特殊な縹帯、内面煤微量付着
1407	GE	中	E24・F25・H25	台付き深鉢C11d	1/2完形	平縁、大形突起、丸み	曲線文	R L	ナデ、ミガキ	台	III-1-2	加曾利B2式並行、煤の付着は内面少量、外面微量
1408	GE	中	E24・F24	壺B12a	1/2完形	小波状口縁、頂部刻み目、丸み	平縁、丸み、大形突起	無文	ナデ、ミガキ	平坦	III-1-3	
1409	GE	中	E24・E25	深鉢C1	口~胴部	平縁、丸み、大形突起	曲線文(クラック状)、磨消細文	L R	ナデ、ミガキ		III-2-2	

第38表 遺構外土器 (5)

編號	出土地点	剖面	出土地点	器種名	残存部位	口唇形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1410	GE	中	E24・E25	蓋CI	口～胴部下半	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ		III-6-1	
1411	GE	中	E24	深鉢A2	ほぼ完形(底部欠損)	波状口縁(5単位)、丸み	鏡状文(5単位、線根状?)、山形状文	LR	ナデ		III-1-2	沈線による特殊文様、内外面縁付着
1412	GE	中	E24	鉢?	突起	波状口縁、角状、細文	襷敷の刻目帯	LR	ナデ、ミガキ		III-3	加賀利B2式並行
1413	GE	中	E24	深鉢	口縁部	小波状口縁、角状、突起(頂部短弁縁)	平行沈線、刺突文(押し引き状)	LR	ナデ、ミガキ		III-1-3	時期検討要する
1414	GE	中	E25	蓋?	口縁部	波状口縁、頂部刻目	幾何学状文、鏡状文、菱形、凹形刺突、磨消細文、内面に鏡状文、凹形刺突	L鏡	ナデ		III-1-2	沈線による特殊文様、文様は人体を表現している可能性有
1415	GE	中	E24	浅鉢	底部	平縁、丸み	無文	無文		平坦、凹形の透かし	III-6	甌形土器?
1416	GE	中	E25	鉢?	底部	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ	平坦	III-6-1	蓋?、鏡は口縁部内面付近のみ付着
1417	GE	中	E25	鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	非結束羽状細文	LR・RL	ナデ	平坦	III-6-4	十腰内V～V式
1418	GE	中	E25	台付き皿	ほぼ完形	平縁、突起	非結束羽状細文	LR・RL	ケズリ、ナデ	台	III-6-4	
1419	GE	中	E25・F25	蓋CI	口～胴部中心	平縁、丸み	山形状口縁、突起交互に付加、角状	LR	ナデ		III-6-1	
1420	GE	中	E25	深鉢E3	口～胴部上半	平縁、丸み	先鋭貼着、充頭細文	LR・RL	ナデ		III-5	
1421	GE	中	E25	蓋	口縁部	平縁、丸み	弧脚状入組み文	無文	ナデ		III-1-1	
1422	GE	中	E25	鉢	1/2完形	平縁、丸み	沈線、ミガキ	LR	ミガキ		III-2-2	胎土はやや光沢有
1423	GE	中	E25・F26	深鉢E3	口縁部	山形状口縁(7単位)、先鋭貼着	先鋭貼着、充頭細文	LR	ナデ		III-5	
1424	GE	中	E25・F24・F25	深鉢C1	口～胴部下半	平縁、又状突起(3単位)、丸み	通直文、磨消細文	LR	ナデ、ミガキ		III-3	台付き鉢の可能性有
1425	GE	中	E25	蓋	胴～底部	磨消細文(ミガキ)	磨消細文(ミガキ)	LR		平坦	III-6-1	十腰内I式?
1426	GE	中	E25	蓋	ほぼ完形	平縁、丸み	先鋭貼着、鏡縁帯と沈線によるミガキ	無文	ナデ	平坦	III-5	
1427	GE	中	E25	鉢I1a	完形	平縁、丸み	入組み状文(鏡縁帯)、磨消細文	LR	ナデ	平坦	III-5	外面刺突部分有
1428	GE	中	E25	蓋H11a	完形	平縁、丸み	ナデ	無文	ナデ	平坦	III-6-1	
1429	GE	中	E25・E26	深鉢D	口～胴部	平縁?、角状、大形突起?	貼着入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	LR・RL	ナデ		III-5	外面刺突部分有、内面縁付着
1430	GE	中	E25	蓋H11b	完形	平縁、内削ぎ		LR	ナデ	上付底状	III-6-2?	
1431	GE	中	E25	筒形土器	口～胴部中心	平縁、丸み	平行沈線、S字状文、楕円文、磨消細文	LR	ナデ		III-2-1	器形から穿孔土器の可能性有
1432	GE	中	E25	注口土器? G d	胴～底部	平縁、丸み	半圓状文、入組み三叉文?、ミガキ	無文	ナデ	縁(4個)、沈線、三叉文	IV-2	
1433	GE	中	E25	鉢	口縁部	波状口縁?、頂部刻目	沈線、内面に波き線根状文・細文	LR	ナデ、ミガキ		III-1	内面に沈線による特殊文様
1434	GE	中	E25	鉢D1a	胴～底部	平縁、丸み	頸部に原体押文?、ミガキ	LR	ナデ	平坦、木蓋痕	III-1	後期前～中葉、内外面縁付着
1435	GE	中	E25	注口土器	胴～底部	平縁、丸み	又状貼着、入組み帯状文、磨消細文	LR	ナデ	上付底状	III-5	幅は3単位(注口部を含めて4単位)で付加され、磨消細文帯との合取により玉抱き状を写す(文様の起点部分)、内面黒色処理?
1436	GE	中	E26	台付き鉢E2d	ほぼ完形	波状口縁・小突起(4単位)、内削ぎ	非結束羽状細文、磨消細文	LR・RL	ナデ	台	III-3・4	上面観は方形形状、内外面縁付着
1437	GE	中	E26	深鉢D112a	ほぼ完形	波状口縁、丸み、又状突起	又状貼着、入組み帯状文(連節鏡状文)	LR・RL	ナデ、ミガキ	平坦	III-4	内外面縁付着
1438	GE	中	E26	浅鉢	口縁部	平縁、丸み	縁長先鋭貼着、充頭細文、ミガキ	RL	ナデ		III-3	
1439	GE	中	E26	蓋	口縁部	平縁、角状	先鋭貼着、磨消細文	RL	ナデ		III-5	
1440	GE	中	E26・F26	深鉢E11b	1/2完形	平縁、角状	先鋭貼着、磨消細文	RL	ナデ	上付底状	III-5	
1441	GE	中	E24・E26・H25	深鉢	胴～底部	平縁、丸み	羽状細文	結束第1種LR・RL付加条	ナデ	平坦	II-2-1	胎土に繊維混入、内外面縁付着
1442	GE	中	E26	注口土器E11b	完形	平縁、丸み	先鋭貼着、短沈線、把手、ミガキ、浮き彫り状	無文	ナデ	上付底状	III-5	
1443	GE	中	E26	鉢	底部					上付底状、網代痕	III-6-2?	
1444	GE	中	F27・E26	蓋	胴～底部	山形状口縁(5単位?)、内削ぎ、肥厚	楕円文、J字状文、磨消細文	LR	ナデ	上付底状	III-2-2	
1445	GE	中	F26・E26	深鉢D3	口～胴部	平縁、丸み	入組み帯状文(帯状)、非結束羽状細文、磨消細文、浮彫り状	LR・RL	ナデ	上付底状	III-4	十腰内IV式古段縁、内外面縁付着
1446	GE	中	E26	深鉢C111a	1/2完形	平縁、内削ぎ	非結束羽状細文(ミガキ)	LR・RL	ナデ、ミガキ	平坦	III-6-3?	上面観は楕円形、内外面縁付着
1447	GE	中	F27・E26	蓋H11	口～胴部下半	平縁、丸み	平行沈線、磨消細文(ミガキ)	LR・RL	ナデ		III-2-2	加賀利B2式並行
1448	GE	中	E26	鉢I1a	ほぼ完形	平縁、丸み	ナデ	無文	ナデ、ミガキ	平坦	III-6	F27～E26土層断面6a・3e層出土
1449	GE	中	E26	鉢	口縁部	平縁、丸み、肥厚	貼着、磨消細文	RL	ナデ		III-5	
1450	GE	中	E26	穿孔土器	ほぼ完形	平縁、丸み	非結束羽状細文、縁位の磨消細文	LR・RL	ナデ	上付底状	III-2-1	器形は器状を呈する
1451	GE	中	F27～E26	深鉢H1	口縁部	平縁、丸み	入組み状文(幾何学的)、磨消細文	LR	ナデ		III-2-2	加賀利B2式並行
1452	GE	中	E27	深鉢H1	口～胴部中心	平縁、B突起?	三叉文、ミガキ	LR	ナデ、ミガキ		III-1-2	
1453	GE	中	E27	蓋F11b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、個一対の又状貼着(3単位)	又状貼着(3単位?)、磨消細文	RL	ナデ	上付底状	III-4	注口土器? 胴部下半の無文帯はミガキが悪い、十腰内IV式と十腰内V式の境として捉えられる?

第39表 遺構外土器(6)

編號	出土地点	新面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1454	GE	中	F27~E26	Ⅲ(3b)	深鉢	口唇部	山形状口縁、S字状沈線文	斜交列、磨消細文 又状沈線、入組み状文(帯掛状)、磨消細文	L R L R、R L	ナデ ナデ、ミガキ		Ⅲ-2-2 Ⅲ-4	加曾利B2式並行 内外面線付着、内面黒色処理?、十層内IV式 古段降
1455	GE	中	E27	Ⅲ中	鉢I2a	1/2完形	小波状口縁、刻み目、丸み	平線状文、ミガキ	R L	ナデ	平坦	Ⅳ-2-2	加曾利B2式並行、内面内黒処理?、外面ア スファルト付着
1457	GE	中	E27	Ⅲ中	台付き鉢	胴部下半~底 部	平線、内削ぎ	刻目帯、羽状沈線、磨消細文	R L?	ナデ	台	Ⅲ-2-2	加曾利B2式並行、内面内黒処理?、外面ア スファルト付着
1458	GE	中	E27	Ⅲ下	鉢	完形	平線、内削ぎ	口縁部端に縦長沈線(6単位) 先鋭起端、又状沈線(4単位)入り組み状、 磨消細文	L R	ケズリ、ナデ	丸底、細文 平坦	Ⅲ-6-4 Ⅲ-5	胴部に付く貼附(4単位)の側面に孔が穿た れている
1459	GE	中	E27	Ⅲ下(3)	壺	胴~底部	平線、丸み	先鋭起端、花線、ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1460	GE	中	E27	Ⅱ~Ⅲ(3f)	注口土器E d	ほぼ完形	注口土器E d	先鋭起端、入組み帯状文、磨消細文	R L	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-5	
1461	GE	中	E27	Ⅲ下	深鉢	胴~底部	平線、丸み	注口部付け根に人面、沈線	R L	ナデ	平坦	Ⅲ-5	
1462	GE	中	E27	Ⅲ下	注口土器	注口部付け根	小波状口縁、丸み	磨消細文	無文	ナデ		Ⅲ-6-1?	
1463	GE	中	F23	Ⅲ中	深鉢	口~胴部下半	平線、丸み	磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	
1464	GE	中	F23	I	鉢D1a	ほぼ完形	平線、丸み	斜行沈線文(平行沈線)、磨消細文、内面口 縁部付近に細文	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-1-2	内面に黒色顔料の痕跡と思われる斑点、内 外面黒、外面黒色顔料付着
1465	GE	中	F23	Ⅲ中	深鉢	底部	小波状口縁、角状	磨消細文	R L	ナデ	平坦、粗?	Ⅲ-6-1	
1466	GE	中	F24	Ⅲ中・下	深鉢B2	口~胴部	平線、丸み	磨消細文(ミガキ)	R L	ナデ	平坦	Ⅲ-1-1	
1467	GE	中	F24	Ⅲ中	浅鉢?	胴部上半~底 部	平線、丸み	磨消細文	L R(0段多条 ?)	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	底部にミガキ痕有
1468	GE	中	F24	Ⅲ中	鉢B1	口~胴部	平線、丸み	磨消細文(ミガキ)	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	内外面線付着
1469	GE	中	F24	Ⅲ中	壺E11a	完形	平線、角状、細文(原形押圧 文)	磨消細文(ミガキ)	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	徳利形意、加曾利B1式並行(新山権現社1 式に類似)
1470	GE	中	F24	Ⅲ中	鉢E2a	ほぼ完形	液状口縁(4単位)、突起上 に刻み目、丸み	原形押圧文	L無筋	ナデ	平坦、粗?	Ⅲ-1-3	
1471	GE	中	F24	Ⅲ中	壺G11a	ほぼ完形	平線、丸み	平行沈線、曲線文、磨消細文	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-1-3	
1472	GE	中	F24	Ⅲ下	深鉢	ほぼ完形	平線、丸み	磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-6	外面線付着、内面黒色処理?
1473	GE	中	F24・F25	Ⅲ下、Ⅳ	深鉢B2	口~胴部	小波状口縁(6単位?)、丸 み	磨消細文	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-1-2	
1474	GE	中	F24	Ⅲ下	壺	ほぼ完形	平線、丸み、片口状?	口~頸部無文帯	L R	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-6	広口片口壺
1475	GE	中	F24	Ⅲ下	鉢	口唇部	波状口縁、頂部刻み目	平行沈線、内面に凹形刺突文	L R	ナデ		Ⅲ-1-2?	
1476	GE	中	F24	Ⅲ下	深鉢	口唇部	波状口縁、角状、沈線	刺突文	L R	ナデ		Ⅲ-2-1	
1477	GE	中	F25	Ⅲ上	単孔土器	1/2完形	平線、丸み	ボタケ状の貼付隆帯・横位隆帯(隆帯上刻 目列)、入組み帯状文(幅広い)、磨消細文	L R	ナデ	平坦、網代張	Ⅲ-3	
1478	GE	中	F24・F25・ F26	Ⅲ下	深鉢B1	口~胴部	平線、丸み	網目状燃り糸文、沈線文	単輪線条体(L 無筋)	ナデ		Ⅲ-6-1	施文順番は沈線が網目状燃り糸文より新し い
1479	GE	中	F24	Ⅳ	深鉢	口唇部	小波状口縁、刻み目	磨消細文	R無筋?	ナデ		Ⅲ-1-2	外面線付着
1480	GE	中	F24	Ⅲ下	鉢	底部	液状口縁(4単位)	磨消細文	無筋	ナデ	平坦、撥過銀	Ⅲ-3?	
1481	GE	中	F24・F25	Ⅲ下	壺B2	口~胴部中位	液状口縁(4単位)	口縁部隆帯(把手(L単位)、入組み状文(ク ランク・弧状)、磨消細文	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-1-2	
1482	GE	中	F25	Ⅲ中	壺D11a	完形	平線、丸み	磨消細文	L無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-1-3	表面は脆い
1483	GE	中	F25	Ⅲ中	台付き深鉢C d	1/2完形	平線、丸み	磨消細文	L R	ナデ	台	Ⅲ-2-2	外面線付着
1484	GE	中	F25	Ⅲ中	深鉢	底部	平線、丸み	磨消細文	L R	ナデ	平坦、網代張	Ⅲ-6-1	線は内面底部付近に付着、網代張は1本線 えし本溝り、本溝りに別々の糸が絡めに入る
1485	GE	中	F25	Ⅲ中	深鉢BⅢ2a	ほぼ完形	液状口縁(3単位)、角状、網 文	口~頸部に無文帯(幅約3cm)	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2?	上面腹は三角形、後部前~中腹?
1486	GE	中	F25	Ⅲ中	片口鉢	1/2完形	平線、角状	ミガキ	無文	ナデ、ミガキ、ケ ズリ	上げ底状	Ⅲ-6-1	器形から十層内I、II式?、内面黒色処理?
1487	GE	中	F25	Ⅲ中・下	深鉢B12a	ほぼ完形	波状口縁(4単位?)、丸み	頸部に平行沈線	L R	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-2-2	突起頂部は丸い、内外面線付着(内面底部付 近に多量に付着)
1488	GE	中	F25	Ⅲ中	鉢D1	口~胴部上半	平線、丸み、網(内側に張り 出す)	頸部に2条の原形押圧文	L無筋	ナデ、ミガキ		Ⅲ-1-3?	瘤の内面には十字に原形押圧文
1489	GE	中	F25	Ⅲ中・下	台付き深鉢	1/2完形	平線、角状、細文	磨消細文(ミガキ)	L R	ナデ	台	Ⅲ-6-1	コップ状台付き鉢、内外面線付着
1490	GE	中	F25	Ⅲ中	台付き鉢	胴部中位~底 部	平線、丸み	磨消細文	R L	ナデ	台	Ⅲ-2-2	一部L R?
1491	GE	中	F25	Ⅲ中	深鉢	胴~底部	平線、丸み	平行沈線による幾何学文様	L R	ナデ	平坦、粗?	Ⅲ-1-1	内外面線付着
1492	GE	中	F25	Ⅲ中・下	壺	胴部上半	平線、丸み	木状文、渦巻き状文、磨消細文	L無筋	ナデ		Ⅲ-1-1	沈線による何れ文様
1493	GE	中	F25・G27	Ⅲ中・下	深鉢H12a	口~底部	若干波状?、丸み	磨り糸文	単輪線条体(L 無筋)	ナデ	平坦、網代張?	Ⅲ-6-1	
1494	GE	中	F25	Ⅲ下	台付き浅鉢	ほぼ完形	平線、丸み	磨消細文	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	

第40表 遺構外土器(7)

種別番号	出土地点	斜面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1485	GE	中	F25	皿下	深鉢	底部	口唇部	平縁、斜み目、B突起？			平坦、網代裏	III-6-1	網代裏は2本起える本溝り2本溝りに別の条が斜めに入る
1486	GE	中	F26	II~III(2b)	台付き浅鉢	ほぼ完形	平縁、斜み目、B突起？	平縁状文、ミガキ	LR	ミガキ		IV-2-2	口縁部に孔有(約2mm)
1487	GE	中	F26	皿上	注口土器D11d	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、文状突起	三文・文状彫、弧線状入組み文	無文	ナデ	台	III-5	注口部にアスファルト付着
1488	GE	中	F25	皿下	深鉢B1	口~胴部上半	平縁、丸み	網目状捺り糸文、曲線文、磨消細文	単軸条体(L無彫)	ナデ		III-1	地文施文後に推定沈線による特殊文様がセラーフされる、外面残付着
1489	GE	中	F26	皿上・中	鉢H1a	ほぼ完形	平縁、内割ぎ、肥厚、大小の文状突起(5単位)	網目状捺り糸文、曲線文、磨消細文	R無彫	ナデ、ミガキ	平坦	III-5	一部であるが溝が玉粒状、内外面残付着
1500	GE	中	F26	皿上	台付き皿	台部		縦長先鋭鋸歯、玉抱き状	無文		台	III-6	穿孔が台部側面に各1個(施成後?)、底部に1個有(施成前)
1501	GE	中	F26	I	鉢D1	口~胴部下半	平縁、内割ぎ	磨消細文	LR	ナデ、ミガキ		III-6-4	外面削い(加熱のため)、輪縁を砥明瞭、内外面残付着
1502	GE	中	F26・F27	II、III	鉢	ほぼ完形	平縁、内割ぎ、肥厚	先鋭鋸歯、入組み帯状文、充墳細文、浮き彫り状	LR	ナデ	平坦	III-6-4	外面削い(加熱のため)、輪縁を砥明瞭、内外面残付着
1503	GE	中	F26	皿上	深鉢D11b	I/2完形	平縁、丸み	先鋭鋸歯、入組み帯状文、磨消細文、浮き彫り状	LR	ナデ、ミガキ	上げ底状	III-5	内面残付着
1504	GE	中	F26	皿中	鉢E a	ほぼ完形(口縁部欠損)		無文	無文	ミガキ、ナデ	平坦	III-6	
1505	GE	中	F26	皿上	鉢H1	口~胴部下半	平縁、角状	頸部に先鋭鋸歯、ミガキ	無文	ナデ		III-5	
1506	GE	中	F26・H26	皿中	深鉢E1	口~胴部	平縁、角状	先鋭鋸歯、入組み帯状文、充墳細文、浮き彫り状	L無彫	ナデ		III-5	
1507	GE	中	F26	皿中	台付き浅鉢	口~底部(台部欠損)	平縁、丸み	非結束羽状細文	LR、RL	ナデ、ミガキ	台	III-6-3	
1508	GE	中	F26	皿中	四足皿	底~脚部(脚部先端は欠損)		無文	無文		足(4個)	IV-6	胎土から喚明？
1509	GE	中	F26	皿中	深鉢D2	口~胴部上半	波状口縁、内割ぎ、肥厚、大形文状突起、貼飾	先鋭鋸歯、入組み帯状文、非結束羽状細文、(裏方向)、磨消細文(ミガキ)	LR	ナデ		III-5	大型文状突起・縦長小突起・小型文状突起により構成される
1510	GE	中	F26	皿上(3)	台付き蓋M11d	完形	平縁、丸み	先鋭鋸歯、ミガキ、浮き彫り状	無文	ナデ	台	III-5	釣り下げ形蓋(側面の貼飾と台部に孔2単位)
1511	GE	中	F26	皿中・下	深鉢	口~脚部	平縁、丸み、肥厚	非結束羽状細文	LR、RL	ナデ		III-6-3?	上面縁は楕円形(籠を模倣)、補修孔有
1512	GE	中	F26	皿中	深鉢	口縁部	平縁、角状	クラクラ状文、非結束羽状細文(裏方向)、ミガキ	LR	ナデ		III-2-1	加厚利B1式並行、外面残付着
1513	GE	中	F26	皿中	鉢	突起	大形突起、丸み	沈線文、刺突列	LR			III-2-2	細文の筋は細かい、加厚利B2式並行
1514	GE	中	F26・G26	皿中・下	注口土器	脚部		無文	無文			III-6	輪縁を砥明瞭、内面黒色処理？
1515	GE	中	F27	皿中	意	口~胴部下半	平縁、丸み	渦巻き文、平行沈線	RL			IV-1	胴部中に段をもつ器形、糸は外面は全面、内面は口~頸部に施される
1516	GE	中	F27~F28	皿(3)	台付き鉢？	台部	波状口縁、大形突起	刺突列(半截竹管)、楕円文、渦巻き状文、ミガキ	LR(0段多条?)	ナデ、ミガキ	台、穿孔	III-6	内外面残付着
1517	GE	中	F26・G26	皿中	台付き深鉢？C2	口~胴部中位	波状口縁、丸み	非結束羽状細文	LR、RL	ナデ	平坦	III-2-2	内面黒色処理？
1518	GE	中	F26	皿	意	脚~底部	波状口縁(6単位?)、やや丸み	曲線脚状文(S字状、渦巻き状)、磨消細文	L無彫	ナデ、ミガキ	平坦	III-6-3?	内面黒色顔料塗布、十腰内1新の可能性あり
1519	GE	中	G24	皿下	深鉢B面2a	ほぼ完形	波状口縁、丸み、波頂部に刻み目	無文	無文			III-1-1	内面に沈線による特殊文様
1520	GE	中	G24	皿上	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	沈線による木状文様が描かれる、内面に沈線文(文字状)	LR	ナデ		III-1	1527と同一個体
1521	GE	中	G24	皿下	片口鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	沈線による木状文様が描かれる、内面に渦巻き状文(縦位連続)、円文(舌弧状)、沈線文(3条平行沈線)	無文	ナデ、ミガキ		III-1-1	胎土に織維混入
1522	GE	中	G23	皿下	浅鉢	口縁部	平縁、丸み	渦巻き状文(縦位連続)、円文(舌弧状)、沈線文(3条平行沈線)	無文	ナデ、ミガキ		III-1-1	胎土に織維混入
1523	GE	中	G22	I	深鉢	口縁部	平縁、丸み	口縁部(約2cmの無文帯(ナデ))	単軸条体第1A類L	ナデ、ミガキ		II-2-1	胎土に織維混入
1524	GE	中	F26	皿	深鉢I2a	ほぼ完形	平縁、丸み、折り返し口縁状	口縁部に約2cmの無文帯(ナデ)	LR	ナデ、ミガキ	平坦	IV-5	煤は内面底部付近にのみ付着
1525	GE	中	G24・G25・G27	皿中・下、IV	深鉢	口~胴部	小波状口縁(4単位)、丸み	口縁部(約2cmの無文帯(ナデ))	結束第2種LR、RL	ナデ、ミガキ		II-2-2	胎土に織維混入、外面残付着
1526	GE	中	G23	皿下	深鉢	口~胴部	平縁、丸み	口縁部(約2cmの無文帯(ナデ))	結束第2種LR、RL	ナデ、ミガキ		II-2-1	胎土に織維混入、外面残付着
1527	GE	中	G24	皿下	片口鉢	口縁部(注ぎ口)	平縁、丸み	沈線による木状文様が描かれる、内面に沈線文(文字状)	LR	ナデ		III-1	沈線による特殊文様、1521と同一個体
1528	GE	中	G25・24・H24	IV	深鉢	脚部	波状口縁(4単位)、丸み、波頂部に刻み目	沈線による木状文様が描かれる、内面に沈線文(文字状)	単軸条体第1A類L	ナデ		II-2-1	胎土に織維混入、時期検討要する、内面残付着
1529	GE	中	G24	皿下	鉢E2a	ほぼ完形	波状口縁(4単位)、丸み、波頂部に刻み目	平行沈線、多条沈線(2or3条)による入組み状文(渦巻き、S字状?)、磨消細文	LR(L無彫?)	ミガキ	平坦	III-1-2	上面縁は方形、口縁部内面にL無彫、胴部内面に特殊文様(球粒状・種状文様4単位)
1530	GE	中	G24	IV	深鉢	口~胴部	平縁、丸み	口縁部(約2cmの無文帯(ナデ))、頸部刺突文、	結束第2種LR、RL	ナデ、ミガキ		II-2-1	胎土に織維混入、原体の種類検討、外面残付着

第41表 遺構外土器 (8)

複製番号	出土地点	斜面	出土地点	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1531	G24	中	Ⅲ下	浅鉢	1/2完形	波状口縁(4単位)、丸み	多条沈線(2条)による入組み状文(溝巻き、鉄状、磨消細文、内面に細文)	L無節	ミガキ	平坦	Ⅲ-1-2	
1532	G24	中	Ⅲ下~Ⅳ	蓋	口~胴部上半	平縁		無文	ナデ、輪指痕		Ⅲ-6?	器形から見ると晩期?、内面黒色処理?
1533	G24・25	中	Ⅲ下	深鉢	口~胴部上半	波状口縁、丸み、波頂部刺突列	ナデ、ミガキ	無文	ナデ		Ⅲ-6-1	後期中葉?
1534	G24	中	Ⅲ下	台付き浅鉢	1/2完形	波状口縁、丸み	曲線文、刺突文	無文	ナデ、ミガキ	台、沈線	Ⅲ-1-1	台部に3単位で切れ込み有、十腰内1新の可能性あり
1535	G24	中	Ⅲ	深鉢	口縁部	平縁、角状	円文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	胎土に織維混入
1536	G24	中	Ⅳ	深鉢	口~胴部	平縁、丸み	口縁部原形押文、頭部刺突文、浅押圧、胴部羽状細文	結束第1種L・R、RL付加条	ナデ		Ⅲ-2-1	胎土に織維混入
1537	G24	中	Ⅲ	注口土器	口~胴部	波状口縁(3単位?)、丸み	胴部中央隆帯	無文	ナデ		Ⅲ-1-2	
1538	G24	中	Ⅳ	深鉢	口~胴部	小波状口縁、丸み	口縁部原形押文、頭部刺突文、胴部末日状隆り糸文	無文	ナデ		Ⅲ-2-1	胎土に織維混入、内外面保付着
1539	G25	中	Ⅲ上	鉢E1a	完形	平縁、丸み	磨消細文	R・L	ナデ	平坦、細文	Ⅲ-1-3	後期中葉?、外面剥落部分有
1540	G24	中	Ⅳ	深鉢	口~胴部	平縁、丸み	口縁部原形押文、胴部羽状細文	結束第1種L・R、RL付加条	ナデ		Ⅲ-2-1	胎土に織維混入
1541	G25	中	Ⅲ上	深鉢	口縁部	波状口縁、内削ぎ、肥厚、大小の叉状突起	叉状貼瘤、入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文、浮き彫り状	L・R・L	ナデ、ミガキ		Ⅲ-4	補修孔有
1542	G25	中	Ⅲ上	鉢G1a	完形	平縁、丸み	頸部に沈線	無文	ナデ、ミガキ、ケケスリ	平坦	Ⅲ-6-4	内面磨擦は口縁部がチテ、頭~胴部下半が丹念なミガキ、底部付近が荒めのケズリ、胴部下半内面タール?付着
1543	G25	中	Ⅲ上	鉢	完形	平縁、丸み	燃り糸文?	無文	ナデ		Ⅲ-1-1?	
1544	G25	中	Ⅲ上	台付き深鉢C	胴部	平縁、丸み	半円刺突、クランク状文、磨消細文?	無文	ナデ	台	Ⅲ-2-2	内外面保付着
1545	G25	中	Ⅲ上	深鉢A2	口~胴部	波状口縁、角状、細文	口縁部に3~4cmの無文帯(ミガキ)、内面に細文	L・R	ナデ、ミガキ	台	Ⅲ-2-1	波頂部の内面は、一層に細文を施文、外面に黒い付着物(煮こぼれ?)
1546	G25	中	Ⅲ上	鉢	口縁部	平縁、丸み	円形刺突列、クランク状文、磨消細文	L・R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-2-2	突起の形状は耳状を呈し、その両端には叉状突起を付加し、口唇部に沈線
1547	G25	中	Ⅲ上	深鉢	口~底部	平縁、角状、細文	燃り糸文?	単線条体(L無節)	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-6-1	部分的に種類不明の原形が見られる、外面保付着
1548	G25	中	Ⅲ上	蓋	口~底部	平縁、丸み	ミガキ(口~頸部は縁位)	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1?	
1549	G25	中	Ⅲ	深鉢	1/2完形	平縁、角状、複合口縁?		無文	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	煤は外面口~胴部上半に付着
1550	G26	中	Ⅲ下	深鉢	口縁部	平縁、丸み		L・R(0段多条)	ナデ		Ⅲ-1	胎土に織維混入、外面保付着、早稲田第6級、深鉢田式、長七谷地3群などの併行期
1551	G24	中	I~Ⅲ	蓋	胴部	平縁、丸み	沈線文(7条1単位)、磨消細文	R・L	ケズリ		Ⅲ-2-1	十腰内1新段階の可能性有
1552	G24	中	I、Ⅲ下	深鉢	口~胴部	平縁、丸み	口縁部原形押文、頭部刺突文、胴部縁形	単線条体第1A類L?	ナデ、ミガキ		Ⅲ-2-1	胎土に織維混入、内外面保付着
1553	G24	中	Ⅲ中	浅鉢	胴部下半~底部	小波状口縁、突起(1単位?)、角状	穿孔有(側面から底部に抜ける)	無文	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-1-1	孔は両側から穿たれている、内外面朱塗布
1554	G24	中	Ⅲ上	浅鉢	1/2完形	平縁、角状	平行沈線、穿孔有	L無節	ナデ	平坦、網代	Ⅲ-2-1	突起の形状は段状を呈し、内面に平行沈線によるV字状文様が描かれる、外面保付着
1555	G26	下	Ⅲ下	注口土器E11b	ほぼ完形	平縁、角状	先鋭貼瘤、短沈線、磨消細文、浮き彫り状	L・R	ナデ、ミガキ	上げ底状	Ⅲ-5	
1556	G26	下	Ⅲ下	台付き鉢	口~底部(台部欠損)	平縁、叉状貼瘤小突起(9単位)		L・R	ナデ	台、細文	Ⅲ-4	台部に見られる細文は、接合面を強化するための凹凸を付けたと思われる
1557	G26	下	Ⅲ下	注口土器?	ほぼ完形	平縁、角状	隆帯上に押圧刺突、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅲ-2-2	加普利B2~B3式並行
1558	G26	下	Ⅲ中・下	深鉢D1a	ほぼ完形	平縁?、大小の叉状突起	先鋭貼瘤、縦長貼瘤、入組み帯状文、玉抱き状、磨消細文?	L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	内外面保付着
1559	G26	下	Ⅲ下	鉢	胴~底部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、入組み帯状文、短沈線、磨消細文、浮き彫り状	L・R	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-5	
1560	G26	下	Ⅲ下	台付き鉢I1d	ほぼ完形	平縁、角状	先鋭貼瘤、短沈線、浮き彫り状	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1561	G26	下	F26・F27	台付き皿	1/2完形	平縁、刺目帯	ミガキ、内面に凹形刺突	無文	ナデ	台	Ⅲ-6-2	
1562	G26	下	F26	深鉢D3	口~胴部	山形状口縁(大小の三角形)	先鋭貼瘤、入組み帯状文、充満細文、ミガキ、浮き彫り状	L・R(0段多条)	ナデ		Ⅲ-5	刻目から十腰内皿式?
1563	G26	下	F26	蓋	口~胴部上半	平縁、丸み	沈線、非結束羽状細文(視方向)、磨消細文(ミガキ)	L・R	ナデ		Ⅲ-3	
1564	G26	下	F26	鉢?	底部		刺突文、溝巻き状文、クランク状文、磨消細文	L・R	ナデ、ミガキ	平坦、網代	Ⅲ-6-1?	
1565	G26	下	F26・G26	台付き深鉢?C	胴部	小波状口縁、刻目、折り返し口縁	細文	L・R	ナデ、ミガキ	平坦、網代	Ⅲ-2-2	加普利B2式並行
1566	G26	下	F26	切斷蓋付き壺	口縁部	平縁、丸み	切斷	無文			Ⅲ-1-1	外面朱塗布
1567	G26	下	F26・G26	深鉢	胴部	平縁、内削ぎ、肥厚、先鋭突起	叉状貼瘤、縦長貼瘤、入組み帯状文、磨消細文	L・R			Ⅲ-5	外面保付着、内面黒い物質付着、十腰内IV式新段階の可能性有
1568	G26	下	F26・G26	深鉢G1	口~胴部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、入組み帯状文	L・R・L	ナデ		Ⅲ-5	内外面保付着

第42表 遺構外土器(9)

遺構番号	出土地点	剖面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1569	G E	下	F25・G26	Ⅲ下	壺	胴部中位～底部	波状口縁、肥厚、小又状突起	波濤文、磨消細文？	L R	ナデ、ケズリ	平坦、網代痕	Ⅲ-3	
1570	G E	下	F26	Ⅲ下	深鉢E3	口縁部	波状口縁、肥厚、小又状突起	又状突起、入組み帯状文、ミガキ、浮き彫り状	L R	ナデ		Ⅲ-5	口縁部は大又状突起をもち、間に小形の又状突起突起か？同一対で付加される、内面残存者
1571	G E	下	F27	Ⅲ中	壺	口～胴部上半	平縁、丸み	先鋭出籠、刺突列、弧線状入組み文	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1572	G E	下	F27	Ⅲ下	台付き壺J11d	完形	平縁、丸み	先鋭出籠、磨消細文、浮き彫り状	R L	ナデ	台	Ⅲ-5	
1573	G E	下	F27	Ⅲ下	壺	口～胴部上半	平縁、角状	先鋭出籠、入組み帯状文(浮き彫り状)、磨消細文	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	注口土器の可能性有
1574	G E	下	F27	Ⅲ中	台付き壺	胴部	平縁、丸み	先鋭出籠、入組み帯状文(浮き彫り状)、磨消細文	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	縦？、内面黒色処理？
1575	G E	下	F27	Ⅲ上(3)	鉢I11a	ほぼ完形	平縁、丸み	内面に丸線・細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	
1576	G E	下	F27	Ⅲ中	注口土器	口～胴部	平縁、丸み	又状突起、入組み帯状文(網掛状)、非結束羽起	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	
1577	G E	下	F27	Ⅲ下	台付き壺	胴～上部	平縁、丸み	平平行丸線、曲線文、磨消細文	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	
1578	G E	下	F27	Ⅲ下	台付き壺G1d	1/2完形	平縁、丸み	平平行丸線、方形区画文、磨消細文	L R	ナデ、ミガキ	台	Ⅲ-5	Ⅱ帯の文様単位は不明、台部の7単位の貼附は間隔が均一ではない
1579	G E	下	F27	Ⅲ中	台付き鉢？	台部	平縁、角状、刻み目	括弧状文(6単位)、弧線状文(平行丸線、6単位)、ミガキ	無文	ナデ	台、穿孔	Ⅲ-6	胴部との接線部アスファルト付着
1580	G E	下	F27	Ⅲ下	台付き皿	台部	平縁、角状、細文	内面に丸線・細文	L R	ナデ、ミガキ	台	Ⅲ-6-2	十腰内口式？
1581	G E	下	G25・H25	I	深鉢F111b	1/2完形	平縁、内側き、肥厚、吐瘤突起	内面に丸線・細文	L R	ナデ、ミガキ	上げ底状	Ⅲ-4	内面黒色処理？
1582	G E	下	G25	Ⅲ中・下	鉢	口～頸部	平縁、角状、細文	又状突起、入組み帯状文(網掛状)、非結束羽起	L無節	ナデ	ナデ	Ⅲ-1	頸部の上面観は楕円形、外面残存者
1583	G E	下	G24	Ⅲ下	鉢	胴～底部	波状口縁、(再加工？)	平平行丸線、曲線文、磨消細文	L無節	ナデ、ミガキ	平坦、ナデ	Ⅲ-1	内外面残存者
1584	G E	下	H25・G25	Ⅲ上	浅鉢	口～胴部	平縁、丸み、やや肥厚	平平行丸線、方形区画文、磨消細文	L R	ミガキ	台	Ⅲ-3	内面調整は丹念にミガキが施されている(光沢が感じられる)、内面黒色処理？
1585	G E	下	G25	Ⅲ中	深鉢B111a	完形	平縁、角状、刻み目	括弧状文(6単位)、弧線状文(平行丸線、6単位)、ミガキ	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-1-2	内外面残存者
1586	G E	下	G25	Ⅲ中・下	深鉢A111a	口～底部	平縁、角状、細文	内面に丸線・細文	L R	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-6-1	内面調整は口縁部横ミガキ、胴部縦ミガキ後縁ナデ
1587	G E	下	G25・H25	Ⅲ中・下	深鉢C111a	1/2完形	平縁、丸み	丸線による幾何学文様	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-6	内面残存者付着、十腰内口式？
1588	G E	下	G25	Ⅲ中・下	深鉢	口縁部	波状口縁、D形突起(帯み状)	丸線文(太め)、楕円文？、刺突列、磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	突起は上面観が円形で、縁辺に刺突列が施される
1589	G E	下	G25	Ⅲ中・下	深鉢C111a	ほぼ完形	平縁、丸み	網目状線り糸文	単軸絡条体(L無節)	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	外面剥落部分多い、内外面残存者
1590	G E	下	G25	Ⅲ中	台付き深鉢	胴部下半～台部	平縁、丸み	半円刺突列(2条)、ミガキ	L R	ナデ	台	Ⅲ-2-2	節の細かい、細文を施文
1591	G E	下	G25	Ⅱ～Ⅲ(3r)	壺	ほぼ完形(口縁部欠損)	平縁、丸み	平行丸線(4条)、入組み帯状文、ミガキ	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	原体の施文方向は縦回転
1592	G E	下	G25	Ⅲ中	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	入組み帯状文	L無節	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-1-2	口縁部一部欠損
1593	G E	下	G25	Ⅲ下	壺	ほぼ完形	平縁、丸み	磨消細文(口～頸部無文)	L無節	ナデ、ケズリ	若干丸底状	Ⅲ-6-1	コップ状
1594	G E	下	G25	Ⅲ下	深鉢	完形	平縁、丸み	網目状線り糸文	無文	ナデ	平坦、窪？	Ⅲ-6-1	縁は内面調整下半付近にのみ付着、外面剥落部分多い
1595	G E	下	G25	Ⅲ下	深鉢C111a	ほぼ完形	平縁、丸み、複合口縁	網目状線り糸文	単軸絡条体(L無節)	ナデ	台	Ⅲ-5	ミニチュア？
1596	G E	下	G25	I	台付き皿	1/2完形	小波状口縁、丸み	平行丸線、丸線による花状？文様が描かれる	L R	ナデ	台	Ⅲ-6-3？	上面観は楕円形、内外面残存者
1597	G E	下	G25	Ⅲ下	深鉢G11a	ほぼ完形	平縁、角状、肥厚	平行丸線、丸線による花状？文様が描かれる	R L	ナデ	平坦、窪？	Ⅲ-6-3？	上面観は楕円形、内外面残存者
1598	G E	下	G25	Ⅲ下	深鉢C1	口～胴部	平縁、角状	網目状線り糸文	単軸絡条体(L無節)	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1？	内外面残存者
1599	G E	下	G25	Ⅲ下	壺	頸～胴部	平縁	渦巻文、磨消細文	L R(0段多条)	ナデ		Ⅲ-2-2	丸線による特殊文様
1600	G E	下	G25	Ⅲ下	深鉢	口縁部	平縁	渦巻文、丸線による花状？文様が描かれる	無文	ナデ、ミガキ		Ⅲ-1	丸線による特殊文様
1601	G E	下	G25	Ⅲ下	壺	頸～胴部上半	平縁、丸み	入組み帯状文？磨消細文(ミガキ)	L R	ナデ、輪痕	上げ底状	Ⅲ-2-2	胴部中位で切断されていると思われる、外面赤色顔料？
1602	G E	下	G26	Ⅱ下	壺J111b	完形	平縁、丸み	入組み帯状文(網掛状、3単位を基礎)入充填細文	R L(0段多条)		上げ底状	Ⅲ-4	底面が安定しないため、正立しない
1603	G E	下	G25	Ⅲ	浅鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	口縁部に無文帯(約1cm)	L R	ナデ	若干上げ底状	Ⅲ-6	
1604	G E	下	G26	I	注口土器？	口縁部	平縁、B突起	入組み三又文(唐草文様風意匠)、短丸線、ミガキ	無文	ナデ		Ⅲ-1-2	
1605	G E	下	G25・H25	Ⅲ	深鉢A111a	ほぼ完形	平縁、角状	口縁部に無文帯(約4cm×ミガキ)	R L	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	内外面とも剥落部分多い、口縁部に補修孔2ヶ所(1つは貫通していない)、内外面残存者
1606	G E	下	G25	Ⅲ下	深鉢A12a	口～底部	波状口縁、細文、角状	頸部底面押印文	L R(0段多条)	ナデ	平坦、木炭痕	Ⅲ-6-1	補修孔有
1607	G E	下	G26	Ⅲ上	香炉形土器	ほぼ完形	平縁、丸み	頸部、ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1608	G E	下	G26	Ⅲ中・下	単孔土器	ほぼ完形(口縁部欠損)	平縁、丸み	入組み帯状文、非結束羽状細文、ミガキ	L R・R L？	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	底部内面付近特に磨かれていた、羽状細文はL R一種類による異方向細文の可能性有

第43表 遺構外土器 (10)

編號	出土地点	斜面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1609	GE	下	G26	Ⅲ上	片口壺	口～頸部	波状口縁、細文	平行波状、入組み帯状文、磨消細文(ミガキ)	L R	ナデ		Ⅲ-2-1	鳥の嘴状口で徳利形と想われる
1610	GE	下	G26	Ⅱ～Ⅲ(2b)	注口土器D11b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、又状突起	又状貼瘤、入組み帯状文、非結束羽状細文(縦方向)、磨消細文、浮き彫り状口縁部に4個の筒状突起、突起には縦方向に孔有、沈縁	L R	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	
1611	GE	下	G26	Ⅲ上	台付き鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	口縁部に4個の筒状突起、突起には縦方向に孔有、沈縁	L 無節	ナデ	台	Ⅲ-5	
1612	GE	下	G26	Ⅲ上	皿	1/2完形	平縁、丸み	先鋭貼瘤、胴部中央には縁と孔が開いた縁と孔の無い縁が交互に付加、台部に孔(2ヶ所)、ミガキ	無文	ナデ	丸底状、沈縁	Ⅲ-6	底部に見られる沈縁は規則性が無く、ひっかき痕状である、ミニチュア?
1613	GE	下	G26	Ⅲ上	台付き壺	頸～台部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、入組み帯状文、磨消細文	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	釣り下げ形蓋
1614	GE	下	G26+G27	Ⅲ中	深鉢D1	口～胴部下半	平縁、角状	先鋭貼瘤、入組み帯状文、磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	
1615	GE	下	G26	Ⅲ上	浅鉢	ほぼ完形	波状口縁(3単位?)、丸み	先鋭貼瘤、入組み帯状文、磨消細文	無文	ナデ、ケズリ	平坦	Ⅲ-6	内外面微量量付着
1616	GE	下	G26	Ⅲ上	鉢D1a	ほぼ完形	平縁、角状、細文	頸部に原体押圧文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	
1617	GE	下	G26	Ⅲ中	深鉢	口縁部	波状口縁、大の又状突起	貼瘤、入組み帯状文、磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	節の細かい細文を施す、内面黒色処理?
1618	GE	下	G26	Ⅲ中	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、小突起(頂部平縁)	貼瘤、入組み帯状文、X字状沈縁、磨消細文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	内外面微量量付着
1619	GE	下	G26	Ⅲ中	壺	完形	平縁、丸み	縦立沈縁、沈縁間磨消細文帯(5単位)	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	磨消細文、外表面黒色顔料塗布
1620	GE	下	G26	Ⅲ中	深鉢H皿2b	口～底部	平縁、角状、先鋭貼瘤状突起	縦立沈縁、非結束羽状細文	L R、L	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	内面黒色処理
1621	GE	下	G26	Ⅲ下	香炉形土器	完形	菱形状	又状貼瘤、透かし(風状)、刺突列、円形刺突文、沈縁文	無文	ナデ	台	Ⅲ-4	台部内面調整は粗雑なナデを主体とするが一部指(指紋?)により整形されている
1622	GE	下	G26	Ⅲ下	鉢	ほぼ完形	平縁、丸み、複合口縁	摺り糸文	単軸絡条体(L 無節)	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1?	
1623	GE	下	G26	Ⅲ下	浅鉢	口～胴部下半	平縁、丸み	又状貼瘤、先鋭貼瘤、入組み帯状文(連続円)、充填細文	L R(0段多条)	ナデ	平坦	Ⅲ-5	台付き浅鉢?
1624	GE	下	G26	Ⅲ中	浅鉢?	胴部	平縁、内削ぎ、山形状突起(三角形状)	網目状沈縁(千鳥格子状文線)、磨消細文	無文	ナデ		V-1	沈縁はやや鋭い、高環?
1625	GE	下	G26	Ⅲ下	深鉢	口縁部	平縁、丸み	網目状沈縁(千鳥格子状文線)、磨消細文	L R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-5	内面の色調は部分的に黒色(黒色処理?)を呈する
1626	GE	下	G26	Ⅲ	鉢	底部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、磨消細文(ミガキ)、浮き彫り状	L R	ナデ	平坦、網代裏	Ⅲ-6-1?	底面付近に黒色の物質付着
1627	GE	下	G26	Ⅲ下	深鉢	口～胴部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、磨消細文(縦方向)	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	外表面微量量付着
1628	GE	下	G26	Ⅲ下	壺N1	口～胴部中部	平縁、丸み	口～頸部無文、非結束羽状細文(縦方向)	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	
1629	GE	下	G26	Ⅲ	壺	頸部(口唇部)	平縁、丸み	先鋭貼瘤、平行沈縁(浮き彫り状)、ミガキ	無文	輪量裏		Ⅲ-6-2?	
1630	GE	下	G26	Ⅲ下	深鉢	口縁部	山形状口縁(頂部が又状)	網目状沈縁、磨消細文	R L	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	時期検討要する
1631	GE	下	G26	Ⅱ～Ⅲ(2b)	深鉢D皿3b	ほぼ完形	山形状口縁(5単位)、丸み、肥厚	又状貼瘤(5単位)、入組み帯状文(ミガキ)状も単位、非結束羽状細文、磨消細文、浮き彫り状	L R、R L	ナデ、ミガキ		Ⅲ-4	内外面微量量付着
1632	GE	下	G26	Ⅲ	深鉢D b	頸～底部	橋状突起	平行沈縁、磨消細文	L R	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	形態から後期後葉?、内外面微量量付着
1633	GE	下	G27	Ⅲ上	香炉形土器	口～胴部(台部欠損)	橋状突起	先鋭貼瘤、平行沈縁、透かし(口唇部)	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	時期検討要する、内面微量量付着
1634	GE	下	G26	Ⅲ	深鉢E a	胴～底部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、磨消細文	R L	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-5	頸は文様の接点に付く、胴部上半の欠損部分は磨かれ再加工し口縁化されている可能性有、頸部外表面微量量付着
1635	GE	下	G26	Ⅲ	鉢	1/2完形	平縁、丸み	S字状文、ミガキ	L R	ナデ	平坦、木蓋裏	Ⅲ-2-1	底面の痕跡は種の可能性有
1636	GE	下	G26	Ⅲ	台付き浅鉢	台部	平縁、丸み	多象花線文(椅子状、5条1単位)	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	台部に2ヶ所の孔
1637	GE	下	G26	Ⅲ	深鉢	口～胴部上半	平縁、丸み	沈縁文、S字状文	L R	ナデ		Ⅲ-1-1	補修孔有、内外面微量量付着
1638	GE	下	G26	Ⅲ	深鉢	口縁部	波状口縁、耳状突起	沈縁文、S字状文	L R	ナデ		Ⅲ-2-1	
1639	GE	下	G27	Ⅲ上	壺	胴部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、弧線状文(微隆線)、ミガキ、浮き彫り状	無文	ナデ、ミガキ		Ⅲ-5	内外面微量量付着
1640	GE	下	G27	Ⅲ	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	先鋭貼瘤、入組み帯状文、ミガキ、充填細文、浮き彫り状	L R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-5	内外面微量量付着
1641	GE	下	G27	Ⅲ	注口土器E11a	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、丸み		無文		平坦	Ⅲ-5	十腰IV式?
1642	GE	下	G27	Ⅲ下	注口土器E d	頸～底部	平縁、丸み	先鋭貼瘤、透納弧線状文、ミガキ	L 無節	ナデ	台	Ⅲ-5	十腰IV式新段階、台部欠損
1643	GE	下	G27	Ⅲ上	深鉢	口縁部	平縁、丸み、貼瘤	弧線状沈縁、磨消細文	L R	ナデ		Ⅲ-4	時期検討要する
1644	GE	下	G27	Ⅲ上	注口土器G c	頸～底部	平縁、丸み	沈縁、ミガキ	無文	ミガキ、ナデ、ケズリ	丸底状、ミガキ	Ⅲ-2-1	内面調整は頸部に内金ミガキ、胴部は荒いケズリ、底部は比較的丁寧なナデが施される
1645	GE	下	G26	Ⅲ	深鉢	口縁部	平縁、丸み、山形状突起	網目状沈縁	R L	ナデ		Ⅲ-5	細文施後ナデ
1646	GE	下	H24+H25	Ⅲ下	深鉢B1	1/2完形	平縁、丸み	単軸絡条体(L 無節)	L R	ナデ		Ⅲ-6	細文施後ナデ
1647	GE	下	H25	Ⅲ	壺E11a	完形	平縁、丸み、細文	帯状文(磨消帯)	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	徳利形意、内面黒い物質付着、外表面微量量付着

第44表 遺構外土器 (11)

編號	出土地点	出土地点	断面	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1648	G E	下	下	深鉢 深鉢A 11a	底部 ほぼ完形	平縁、角状、縄文	底部に2cm弱の無文帯	R L	ナデ、ミガキ	平垣、木葉痕	Ⅲ-6-1	内面黒色面付着
1649	G E	下	下	蓋	口唇部	文状突起	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、縹代痕	Ⅲ-2-1	内面調整は全体に円急に整形されている、 外面黒色面付着
1650	G E	下	下	深鉢	口唇部	文状突起	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、縹代痕	Ⅲ-2-1	突起は内側に張り出す
1651	G E	下	下	深鉢	口唇部	文状突起	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、縹代痕	Ⅲ-2-1	突起は内側に張り出す
1652	G W	上1	G7	台付き浅鉢	1/2完形	平縁、B突起	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅳ-2-2	内外面黒付着
1653	G W	上1	H6	台付き浅鉢	1/2完形	平縁、3箇所の小突起、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅳ-5	内外面黒付着
1654	G W	上1	G8	鉢J1	口唇部	平縁、B突起、刻み目	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅳ-2-2	口唇部内面黒付着
1655	G W	上1	H6・I6	鉢E1a	1/2完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、縹代痕	Ⅲ-2-1	外面黒色顔料?
1656	G W	上1	I7	香形土器	口唇部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、縹代痕	Ⅲ-5	外面黒色顔料?
1657	G W	上1	F8	香形土器	突起部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、縹代痕	Ⅲ-4	外面黒色顔料?
1658	G W	上1	H6	深鉢	口唇部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、縹代痕	Ⅲ-1	胎土に石英混入、補修孔有、外面黒付着、吹 切灰式
1659	G W	上1	I7	蓋S 11d	ほぼ完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	足(4個)	Ⅳ-6	外面黒色顔料?
1660	G W	上1	I7・I9	深鉢E1	口唇部	平縁、内削ぎ	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	足は2個欠損	Ⅲ-5	外面黒色顔料?
1661	G W	上1	I7	深鉢H 11a	ほぼ完形	平縁、B突起	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣	Ⅳ-1-2	外面黒色顔料?
1662	G W	上1	I7	台付き皿	ほぼ完形	平縁、角状	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	大胴B C式?、内外面剥落部分多い
1663	G W	上1	I7・J7	蓋(注口土器?) S I Ia	ほぼ完形	平縁、角状	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、ミガキ	Ⅲ-6	大胴B C式?、内外面剥落部分多い
1664	G W	上1	I7	台付き浅鉢	胴部下半~台 部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅳ-1-2	内外面外塗布
1665	G W	上1	I8・I9	深鉢H 11b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅳ-5	補修孔有、上面腹は楕円形、外面黒付着
1666	G W	上1	I8・I10・ I10	深鉢H1	口唇部中位	平縁、刻み目	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅳ-1-2	外面黒色面付着
1667	G W	上1	I8	深鉢H 11b	ほぼ完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6	時期検討要する、内面黒色処理?
1668	G W	上1	I8	注口土器	胴~底部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6	時期検討要する、内面黒色処理?
1669	G W	上1	I8	蓋	口唇部上半	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	時期検討要する、内面黒色処理?
1670	G W	上1	I8・K8	浅鉢	口唇部	平縁、角状、三角形小突起	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	時期検討要する、内面黒色処理?
1671	G W	上1	I8	台付き皿	完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	内外面剥落多い
1672	G W	上1	I8	台付き鉢I1d	ほぼ完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅲ-6-4	内外面剥落多い
1673	G W	上1	I8	台付き鉢	胴~底部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	内外面剥落多い
1674	G W	上1	I8・I9	深鉢H 11b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6	内外面剥落多い、ミニチュア?
1675	G W	上1	I8	蓋	完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	内外面剥落多い、ミニチュア?
1676	G W	上1	I8	注口土器C 11b	ほぼ完形(注 口部欠損)	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6-4	内外面剥落多い、ミニチュア?
1677	G W	上1	I8	蓋	ほぼ完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6-4	内外面剥落多い、ミニチュア?
1678	G W	上1	I9	台付き浅鉢	1/2完形	平縁、丸み?	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	内外面剥落多い、ミニチュア?
1679	G W	上1	I8	深鉢B 12a	ほぼ完形	波状口縁(3単位?)、丸み	波状口縁によるS字状文・方形区画文 状文、ミガキ	無文	ナデ	平垣	Ⅲ-1-1	内外面剥落多い、ミニチュア?
1680	G W	上1	I8	磨孔土器	底部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、篋?	Ⅲ-3	内外面剥落多い
1681	G W	上1	I9	深鉢	口唇部上半	平縁、角状	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	R L	ナデ	平垣、篋?	Ⅲ-1-1?	高脚Ⅲ段脚 or 田柄Ⅲ段Ⅵ群土器に類似、 後脚終末部?
1682	G W	上1	I9	深鉢	口唇部	平縁、内削ぎ	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	R L・R L	ナデ	平垣、篋?	Ⅲ-4	十腰内V式古段脚?、内外面剥落?、 口唇部及び一部分の磨消細文に通常の節より 細かい節の原体を施文する
1683	G W	上1	I9	蓋	口唇部上半	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	内外面剥落
1684	G W	上1	I9	深鉢	口唇部	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	内外面剥落
1685	G W	上1	I9・I10・ J9	注口土器	ほぼ完形(口 唇部・注口部 欠損)	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、ミガキ	Ⅲ-5	内外面剥落
1686	G W	上1	I9	注口土器	ほぼ完形	平縁、丸み	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	無文	ナデ	平垣、ミガキ	Ⅲ-5	内外面剥落
1687	G W	上1	I9	深鉢F 11b	ほぼ完形	平縁、角状、2個一対の文状 突起(4単位)	文状片断(4単位)、入組み状文(磨消細文、 丸み)、磨消細文	R L	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	内面調整は口唇部がナデ、胴部がミガキを 施す
1688	G W	上1	I9	注口土器D 11a	完形	平縁、内削ぎ 小突起(4単位)	平縁・角状・縄文、 刺突列(右側部位から半円状に見える)、 クラック状文、磨消細文(ミガキ)	R L・R L	ナデ	平垣	Ⅲ-4	口唇部の大型突起(文状片断突起)間に付く 小突起は2個一対で付加

第45表 遺構外土器 (12)

発掘番号	出土地点	斜面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1689	GW	上1	19	Ⅲ上	台付き壺I11d	完形	平線、丸み	取っ手状入組み帯状文、非結束羽状文、磨消細文	L・R・L		台	Ⅲ-4	台部に2ヶ所の孔有、おり下げ形態
1690	GW	上1	19	Ⅲ	台付き壺I1d	ほぼ完形	平線、丸み	先鋭貼輪、貼輪入組み帯状文(4単位)入、充填細文?、浮き彫り状	L無筋		台	Ⅲ-5	台部付近に白色に着色?した部分有、おり下げ形態で孔が穿たれている突起は2単位である。
1691	GW	上1	J7・J8	I	浅鉢	ほぼ完形	平線、丸み、B突起?	羊歯状文、短沈線、ミガキ	無文	ミガキ	若干丸底状、ミガキ	Ⅳ-2-1	短沈線施文後にミガキを施しており窪み状になっている
1692	GW	上1	I12	Ⅲ	鉢I1	1/2完形(底部欠損)	平線、B突起	羊歯状文	L・R	ナデ、ミガキ		Ⅳ-2	
1693	GW	上1	J7・J8	I、Ⅲ上	浅鉢	口~底部	平線、丸み	羊歯状文、ミガキ	L・R	ナデ、ミガキ	若干上付底状、ミガキ	Ⅳ-2-2	内外面筋部部分有
1694	GW	上1	J7	I、Ⅲ上	皿	1/2完形	平線、丸み	ミガキ	無文	ミガキ	丸底状?、ミガキ	Ⅳ-6	内外面筋部部分有
1695	GW	上1	I10	I、Ⅲ上	深鉢H12a	ほぼ完形	小波状口縁、丸み	非結束羽状細文	L・R・L		平坦	Ⅳ-5	上面観は筒形、羽状細文は口縁部に局所的に見られる大帯はL・R側回転を施文する、外面線微量付着
1696	GW	上1	J7・J8-K7	I	注口土器	口~胴部下半	平線、丸み、B突起	羊歯状文	L・R	ナデ、ミガキ		Ⅳ-2	
1697	GW	上1	J7	Ⅲ上	注口土器	胴部	平線、丸み	ミガキ	無文	ミガキ		Ⅲ-4	器形から後期とした
1698	GW	上1	J8	I	人面装飾付き壺	口縁部	平線、丸み	粘土細彫り付けによる人面文様、入組み帯状文上	L・R	ナデ		Ⅲ-6-3?	十腰内IV式?、外面朱塗布
1699	GW	上1	J8	I、Ⅲ上・中	台付き鉢I2d	1/2完形	小波状口縁、丸み、刻み目	非結束羽状細文	L・R・L	ミガキ	台	Ⅳ-5	
1700	GW	上1	J8	I、Ⅲ上・中	台付き鉢I1d	ほぼ完形	平線、角状	非結束羽状細文	L・R・L(0段多糸)	ミガキ	台	Ⅳ-5	
1701	GW	上1	I9	Ⅲ	壺E11a	ほぼ完形	平線、丸み	ナデ	無文	ナデ	平坦、細代痕	Ⅲ-6	内面黒色処理?
1702	GW	上1	J8	Ⅲ上	透かし入り壺?	口縁部	平線、角状	頸部に貼輪(網上)に刺突、胴部上半に透かし(6単位)、ミガキ	L・R	ミガキ、ナデ		Ⅲ-5	内面調整は上部との接合部分が荒いナデ、その他の部分は丁寧なミガキが施されている
1703	GW	上1	J8	Ⅲ上	注口土器E1d	1/2完形(口~頸部、注口部欠損)	口~胴部上半	胴部中に横長貼輪(側面に刺突)、ミガキ	無文	ケズリ、ナデ	台(小型)	Ⅲ-5	横長貼輪の側面の刺突は貫通していない(途中で中止?)
1704	GW	上1	J9	I	皿	ほぼ完形	平線、丸み	端部に羊歯状文	L無筋		上げ底状	Ⅳ-2-2	
1705	GW	上1	J8	Ⅲ上	注口土器B11b	完形	平線、内割き、肥厚	把手貼輪、横長貼輪、浮き彫り状の條線により円形文・ハート形文を施文する、ミガキ	無文	ナデ	上げ底状、ミガキ	Ⅲ-5	おり下げ形注口土器、特殊性を示唆する文様
1706	GW	上1	J8	Ⅲ	台付き浅鉢I1d	1/2完形	小波状口縁、角状	縦位の貼輪、沈線間最狭部による刺突	無文	ミガキ	台	Ⅲ-5	
1707	GW	上1	J8	Ⅲ下	鉢I1d	ほぼ完形	平線、丸み	羊歯状文、沈線間最狭部による刺突	無文		上げ底状	Ⅲ-6-4?	時期検討要する、刺突後に軽くナデている、ミニチュア?
1708	GW	上1	J8	Ⅲ	香炉形土器	ほぼ完形	平線、角状	先鋭貼輪、窪み状飾り、孔有、ミガキ、浮き彫り状	L・R	ナデ	台	Ⅲ-5	
1709	GW	上1	J9	I	壺T1	口~胴部上半	平線、角状	先鋭貼輪、窪み状飾り、孔有、ミガキ、浮き彫り状	L	ミガキ		Ⅳ-6	大洞B式?
1710	GW	上1	J9	I	浅鉢	完形	緩やかな波状口縁、大型突起(1単位)、B突起(6単位)	短沈線、三叉文、口縁部に波状隆帯(浮き彫り状)、磨消細文、ミガキ	L・R	ミガキ	若干丸底状、ミガキ	Ⅳ-1-2	突起部内面に隆帯と筋で表現した文様有
1711	GW	上1	J9	I	壺	口~胴部上半	平線、丸み	羊歯状文、ミガキ	L・R	ナデ、ミガキ		Ⅳ-2	
1712	GW	上1	J9	I、Ⅲ上	深鉢	口~胴部中位	平線、内割き	先鋭貼輪、縦長貼輪(刻み目)、弧線状入組み文、X字状沈線、菱形状文、磨消細文	L・R	ナデ		Ⅲ-5	内面黒色処理?
1713	GW	上1	J9	Ⅲ上	鉢I1	口~胴部上半	平線、角状	非結束羽状細文	L・R・L	ミガキ、ナデ	台、ミガキ	Ⅲ-6-3?	
1714	GW	上1	J9	Ⅲ上	台付き壺I11d	完形	平線、丸み	磨消細文(局所所に僅かに細文が観察できる)	L・R?	ナデ		Ⅲ-6-4	花瓶の形態を呈する意
1715	GW	上1	J9・J10	Ⅲ上	深鉢H12b	ほぼ完形	小波状口縁、丸み、刻み目	口~頸部に6cm程度の無文帯、非結束羽状細文	L・R	ナデ、ミガキ?	平坦	Ⅳ-5	内外面線付着
1716	GW	上1	J9	Ⅲ上	壺H11a	ほぼ完形	平線、丸み	先鋭貼輪、短沈線、ミガキ	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-5	
1717	GW	上1	J9	Ⅲ上	壺	ほぼ完形	平線、丸み	入組み帯状文、非結束羽状細文(異方向)、磨消細文	L・R	ケズリ		Ⅲ-4	
1718	GW	上1	J9	Ⅲ上	深鉢	胴~底部	平線、角状	非結束羽状細文	L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-6	晩期?、内外面線微量付着
1719	GW	上1	J9・J10	Ⅲ上・中	深鉢	ほぼ完形(底部欠損)	平線、角状	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ		Ⅳ-1	
1720	GW	上1	J9	Ⅲ上	浅鉢	突起部	飾り部分、取っ手状	沈線、三叉文?	L・R		台	Ⅲ-5	内面線付着
1721	GW	上1	J9	Ⅲ上	台付き深鉢I11d	ほぼ完形	平線、角状	先鋭貼輪、帯状文(方形区画、浮き彫り状)、非結束羽状文、ミガキ	L・R	ナデ	台	Ⅲ-5	
1722	GW	上1	J9	Ⅲ上	香炉形土器	1/2完形	平線、丸み	先鋭貼輪、透かし(三叉・円形)、浮き彫り状沈線	無文		台	Ⅲ-5	
1723	GW	上1	J10	I	注口土器	ほぼ完形(口縁部欠損)	平線、丸み	羊歯状文、沈線、ミガキ	無文	ナデ	丸底状、ミガキ	Ⅳ-2-2	外面は光沢が強く注口部付近に筋部が多数見られる

第46表 遺構外土器 (13)

通称番号	出地点	師匠	出土地点	属	器種名	保存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1724	GW	上1	J10	皿上	注口子器B11b	ほぼ完形	平縁、角状、複合口縁	沈線? ナデ	無文	ナデ	上げ底状	皿-5	頸部に段がある
1725	GW	上1	J10	皿上	蓋H11a	完形	平縁、丸み	口縁部3-5cmほどの無文帯	L R	ナデ	平皿	皿-6-4	外面に貼られる赤色顔料は赤若しくは赤漆と思われる
1726	GW	上1	J10	I	浅鉢	ほぼ完形	平縁、突起、丸み	入組み三又文、平行沈線、ミガキ	L R	ミガキ	平皿、ミガキ	皿-1-2	
1727	GW	上1	J10	皿上	鉢	ほぼ完形	平縁、小山形状突起(2単位?)、刻み目	入組み三又文、短沈線、ミガキ	L R	ミガキ、ナデ	平皿、ミガキ	皿-1-2	
1728	GW	上1	J10	皿上	鉢	1/2完形	平縁、刻み目、B突起	入組み三又文、沈線、ミガキ	L R	ミガキ、ナデ	平皿、ミガキ	皿-1-2	内面微塵量付着
1729	GW	上1	J9	皿上	深鉢H112a	1/2完形	波状口縁、B突起	三又文、短沈線、赤黒顔料、ナデ、ケズリ	L R	ナデ、ミガキ	平皿	皿-1-2	底部内面に段をもつ、外面黒色顔料?
1730	GW	上1	J9	皿上	台付き鉢I1d	ほぼ完形	平縁、丸み	ナデ	無文	ナデ	台	皿-3	編文施文後軽くナデている、外面微塵量付着
1731	GW	上1	J10	皿上	深鉢	口~胴部下半	平縁、丸み、脚厚	ナデ	L R	ナデ	台	皿-6-2	台部と胴部を別々に制作していることが分かる資料
1732	GW	上1	K7	I下	台付き鉢	台部		又状沈線(5単位)、刺突列	L 無節	ミガキ、ナデ	上げ底状	皿-4	編文施文後にナデ若しくはミガキを施す、刺突は右側から先端が平坦気味の工具で残る編文
1733	GW	上1	K9・K8	I、皿上	蓋	1/2完形		三又透かし、円形透かし、ミガキ	無文	ミガキ	台	皿-1-2	
1734	GW	上1	K7	皿	台付き鉢	台部		先鋭貼着、入組み掛状文、赤黒顔料	L R	ミガキ	上げ底状	皿-5	
1735	GW	上1	K8	I	注口子器E11b	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、丸み		L R	ナデ	上げ底状	皿-6-4	
1736	GW	上1	K8	皿上	蓋	ほぼ完形(頸部欠損)			L R	ナデ	上げ底状	皿-6	
1737	GW	上1	K8	皿上・下	深鉢H11b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ		R L	ナデ、ミガキ、ケズリ	上げ底状	皿-6-4	口縁部の作りは後期主要?、補修孔有、内外面微塵量付着(外面は胴部中心位より下に付着)
1738	GW	上1	J10	皿	深鉢H11a	ほぼ完形(口縁部大部分欠損)	平縁、角状、編文		L R	ナデ	平皿、編文、ミガキ	皿-6-1	上面段は楕円形、外面微塵量付着
1739	GW	上1	K8	皿中(3D1)	単孔土器	ほぼ完形	平縁、丸み	先鋭貼着、花線、ミガキ	無文	無文	平皿	皿-5	
1740	GW	上1	K8	皿上(3A)	蓋	脚~底部		非結東羽状編文	L R・R L	ナデ	上げ底状	皿-6-4	
1741	GW	上1	K8	皿上	蓋	完形	平縁、内削ぎ	ミガキ	無文	ナデ	平皿	皿-6-4	時期検討要する
1742	GW	上1	K8・K9	皿中(3D1)	深鉢H11b	ほぼ完形	平縁、丸み	又状貼着、起線、透かし、磨消編文	L R	ナデ	上げ底状	皿-5	晩期?、高形が特異(精塩土器?)
1743	GW	上1	K8	皿下	台付き深鉢H11d	1/2完形	平縁、丸み、2個一対の又状突起(4単位?)	縦長貼着、刺突文、磨消編文	R L	ナデ	台	皿-5	刺突文は指頭圧痕若しくは棒状工具で去脚から突き起こし状に施文する、内外面微塵量付着
1744	GW	上1	K9	皿上	蓋F11a	ほぼ完形	平縁、丸み	入組み三又文、花線、ミガキ	無文	ナデ	平皿	皿-6	外面粗面の粗製源
1745	GW	上1	K8	皿上・中	注口子器C11b	完形	平縁、内削ぎ	刺突列、磨消編文	無文	ナデ	上げ底状	皿-4	時期検討要する
1746	GW	上1	K8	皿	香炉形土器	完形		又状貼着、起線、透かし、磨消編文	L R	ナデ	台	皿-4	編文施文後に軽くナデている、縁は内面胴部中心位の張り出しより上に付着
1747	GW	上1	K8・L8	皿上	皿	1/2完形	波状口縁、刻み目、突起		L R	ミガキ	丸底状	皿-1-2	刺突は指頭圧痕の可能性がある
1748	GW	上1	K8	皿	台付き浅鉢	1/2完形	平縁、内削ぎ、3個一対の又状突起(4単位)	刺突列、磨消編文	L R	ナデ	台、ミガキ	皿-5	
1749	GW	上1	K9	皿上	蓋H11a	完形	平縁、丸み(一部内削ぎ)	口~頸部に4cmほど無文帯、非結東羽状編文	L R・R L	ナデ	平皿	皿-6-3	
1750	GW	上1	K9	皿上	鉢	完形	平縁、角状	ミガキ、ケズリ	無文	ミガキ、ケズリ	上げ底状、ミガキ	皿-6	
1751	GW	上1	K9	皿上	鉢I11b	ほぼ完形	平縁、丸み		L R	ナデ	上げ底状	皿-5	時期検討要する
1752	GW	上1	K9	皿上	蓋	脚~底部		貼着(頂部に十字状文)、玉雫状文	L R	ナデ	平皿	皿-5	十脚内V式、注口土器?
1753	GW	上1	K9	皿上	鉢	口縁部	平縁、丸み	先鋭貼着、連弧文(縦位・横位)、菱形状、磨消編文	L 無節	ナデ	台	皿-5	安行式?
1754	GW	上1	K9	皿上	鉢D11d	ほぼ完形	平縁、丸み	丸縁	L R	ナデ	台	皿-6	編文施文後ナデている
1755	GW	上1	K9	皿上	注口子器E11a	1/2完形	平縁、角状	ミガキ	無文	ナデ	平皿	皿-6-4	注口部アスファルト付着
1756	GW	上1	K10	I	台付き浅鉢	1/2完形	平縁、角状	半筒状文、短沈線、台部透かし	L R	ナデ	台	皿-2-1	縁は外面胴部上半付近多量・内面胴部上半付近に少量付着、内面に魚眼状の條帯
1757	GW	上1	K9・L8・L11	皿上	香炉形土器	台部		先鋭貼着、又状貼着(4単位)、弧線状文(縦位起線)、三又状透かし	無文	ナデ	台	皿-5	
1758	GW	上1	K10	皿上	鉢	底部		辛曲状文	L R	ナデ、ミガキ	平皿、網代縁	皿-6-2?	
1759	GW	中1	L7・L8	I、皿上	鉢I11a	口~底部	平縁、B突起	辛曲状文	L R	ミガキ	平皿	皿-2-2	
1760	GW	上1	L8	皿上	鉢I11a	口~底部	平縁、B突起	半筒状文、底部付近に磨消編文帯	L R	ナデ、ミガキ	平皿	皿-2-2	外面微塵量付着
1761	GW	上1	L8	皿上	皿	口~底部	平縁、B突起	辛曲状文	L R	ナデ、ミガキ	平皿	皿-2-2	縁は外面口~胴部中心に付着
1762	GW	上1	L7・L8	I、皿上	深鉢H12a	ほぼ完形	小波状口縁、刻み目		L 無節	ナデ	平皿	皿-5	
1763	GW	上1	L8	皿上	浅鉢	1/2完形	平縁、角状	ミガキ	無文	ミガキ	平皿、ミガキ	皿-6	磨消編文による円形文同士繋ぐ縦長の楕円文は4単位を取る
1764	GW	上1	L8	皿上	蓋M11b	完形	平縁、丸み	貼着(刺突有、4単位?)、楕円文、磨消編文、ミガキ	L R	ミガキ	若し上げ底状、ミガキ	皿-5	

第47表 遺構外土器 (14)

観測番号	出土地点	断面	出土地点	層	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1765	GW	上1	L8	Ⅲ上	台付き蓋	台付き蓋	台部	口唇部形態				台、貫通孔2ヶ所	Ⅲ-6	釣り下げ形土器?
1766	GW	上1	L8	Ⅲ上	台付き浅鉢	台付き浅鉢	ほぼ完形	平縁、丸み、先鋭貼附状突起(9単位)	ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1767	GW	上1	L8	Ⅲ上	台付き蓋	台付き蓋	ほぼ完形(口部~胴部下半)	平縁、内削ぎ、3個一対の小突起	先鋭貼附、短沈線、ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	胎土に石英混入
1768	GW	上1	L8	Ⅲ上	浅鉢	浅鉢	完形	平縁、内削ぎ、3個一対の小突起	先鋭貼附、刻み目	無文		台	Ⅲ-5	又類は花びら状であり、中央の接点には柄が付く、台付き浅鉢?
1769	GW	上1	L8	Ⅲ中(3D1)	香炉形土器	香炉形土器	完形	平縁、内削ぎ、3個一対の小突起	先鋭貼附、刻み目	無文		台	Ⅲ-5	
1770	GW	上1	L8	Ⅲ上	深鉢E1	深鉢E1	口部~胴部下半	平縁(7単位で凹)、丸み	先鋭貼附(4単位)、又類貼附(4単位)、円形透かし、ミガキ	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	内外面線付着
1771	GW	上1	L8	Ⅲ中(3D1)	鉢I1d	鉢I1d	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、又状突起(7単位)	貼附、入組み帯状文、ミガキ	L R	ナデ、輪積痕	上げ底状	Ⅲ-5	又状突起は外縁風味に付加、外面線付着
1772	GW	上1	L8	Ⅲ中(3D2)	深鉢EⅢ3b	深鉢EⅢ3b	ほぼ完形	山形口縁(4単位)、角状	先鋭貼附、菱形状文(6単位?)、断溝文、外面の調整は荒い	R L	ナデ、ミガキ	上げ底状	Ⅲ-5	縄文施文後にミガキ?、突起頂部は4ヶ所中2ヶ所に貼附体が付加する、内面線付着、全体的に赤色を帯びる、真朱系土器?
1773	GW	上1	L9・P13・Q11	Ⅲ上	浅鉢	浅鉢	完形	平縁、角状	ミガキ	無文	ミガキ	平坦、ミガキ	Ⅳ-6	約20m離れて接合
1774	GW	上1	L9	Ⅲ上	台付き壺L11d	台付き壺L11d	完形	平縁、丸み	ミガキ	無文		台	Ⅲ-5	台部は焼成後ケズリを施し調整していると思われる
1775	GW	上1	L9	Ⅲ上・下	注口土器B11b	注口土器B11b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ	無文	無文		上げ底状	Ⅲ-6-4	
1776	GW	上1	L8	Ⅲ上	深鉢E12a	深鉢E12a	ほぼ完形	波状口縁、丸み、刻み目	縦長貼附	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	口唇部は小さい波頂部に刻み目(8単位)、内外面線付着
1777	GW	上1	L8	Ⅲ上	鉢	鉢	底部	平縁、角状	刺突、ミガキ	無文		平坦、ミガキ	Ⅲ-5	
1778	GW	上1	L9・10	Ⅲ上	台付き深鉢HⅢ1d	台付き深鉢HⅢ1d	ほぼ完形	平縁、角状	非結束羽状細文	L R・R L		台	Ⅲ-6	晩期?、外面線付着
1779	GW	上1	L9	Ⅲ上	注口土器E11b	注口土器E11b	完形	平縁、内削ぎ、又状突起(4単位?)	刺突列(右側から刺突されている)	無文	ミガキ	上げ底状	Ⅲ-5	底面が小さく直立しない
1780	GW	上1	L9	Ⅲ上	鉢	鉢	口部~胴部中位	平縁、内削ぎ		無文		上げ底状	Ⅲ-5	ミニチュア?
1781	GW	上1	L9	Ⅲ上	深鉢E1	深鉢E1	口部~胴部	平縁、丸み	先鋭貼附、平行沈線による弧線状入組み文(滑き彫り状)、ミガキ	無文	ナデ、ミガキ	台	Ⅲ-5	十腰内V式新段階
1782	GW	上1	L9	Ⅲ上	壺N11b	壺N11b	1/2完形	平縁、角状	先鋭貼附、縦長の貼附、非結束羽状細文	L R・R L		上げ底状	Ⅲ-5	十腰内W式新段階?
1783	GW	上1	L9	Ⅲ上	深鉢	深鉢	胴部	波状口縁、刻み目	幾何形文	無文		台	Ⅰ-2	
1784	GW	上1	L9	Ⅲ上	鉢?	鉢?	口縁部	波状口縁、刻み目	沈線文	無文		台	Ⅲ-3	
1785	GW	上1	L9	Ⅲ上	香炉形土器	香炉形土器	突起部	平縁、角状	貼附、刺突列、貫通孔	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	外面朱塗布
1786	GW	上1	L9	Ⅲ上	注口土器E11d	注口土器E11d	ほぼ完形	平縁、角状、線状突起(頂部に刻み目)	頭部縦長貼附、胴部ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-6-4	
1787	GW	上1	L9	Ⅲ上	深鉢EⅢ1b	深鉢EⅢ1b	1/2完形	平縁、丸み	三叉文	L R		上げ底状	Ⅲ-5	外面線・内面線多量付着
1788	GW	上1	L9・M9	Ⅲ上	鉢	鉢	口部~胴部	平縁、刻み目	貼附、平行沈線、橋田文、ハート形文	R L	ミガキ	台	Ⅳ-1	内面黒色処理?
1789	GW	上1	L9・M9	Ⅲ上	注口土器E11	注口土器E11	口部~胴部下半	平縁、丸み	貼附、平行沈線、橋田文、ハート形文	無文		台	Ⅲ-5	特殊柱を示唆する文様、注口部アスファルト付着
1790	GW	上1	L9	Ⅲ上	深鉢D2	深鉢D2	口部~胴部中位	波状口縁(5単位)、内削ぎ、肥厚、大小の又状突起	貼附、入組み帯状文、磨消細文、ミガキ	L R	ナデ	台	Ⅲ-4	大形突起部には小形の又状貼附と先の丸い突起が付く、内外面線付着
1791	GW	上1	L9	Ⅲ上	壺?	壺?	胴部	平縁、丸み	貼附(2個一対)、磨消細文	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	時期換付疑する
1792	GW	上1	L9	Ⅲ上	注口土器	注口土器	ほぼ完形(口部~胴部突出)	平縁、丸み	沈線、ミガキ	無文		台	Ⅲ-6-4	
1793	GW	上1	L9	Ⅲ上	皿	皿	ほぼ完形	平縁、角状	非結束羽状細文	L R・R L	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6-3	
1794	GW	上1	L10	Ⅲ上	鉢I1a	鉢I1a	完形	平縁、内削ぎ、肥厚	先鋭貼附、縦長の貼附、非結束羽状細文	L R		平坦	Ⅲ-6-4	後期未定?
1795	GW	上1	L9	Ⅲ上	深鉢FⅢ1b	深鉢FⅢ1b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ	先鋭貼附、荒いナデ	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	外面線多量付着
1796	GW	上1	L10	Ⅲ上	注口土器D11b	注口土器D11b	完形(口縁突起一部欠損)	平縁、内削ぎ、又状貼附突起	又状貼附(4単位)、貼附(4単位)、入組み帯状文、非結束羽状細文、丸環細文、ミガキ	L R・R L(0段多条)	ナデ?	若干上げ底状	Ⅲ-4	外面未定?
1797	GW	上1	L10	Ⅲ上	台付き鉢	台付き鉢	ほぼ完形(台部欠損)	平縁、B突起?(4単位)	刻み目、橋田文、ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	十腰内V式新段階?
1798	GW	上1	L10	Ⅲ上	台付き鉢H1d	台付き鉢H1d	ほぼ完形	平縁、角状、2個一対の又状貼附(6単位?)	又状貼附、入組み帯状文、磨消細文	R L	ナデ	台	Ⅲ-5	内外面線多量付着、後期最終未定
1799	GW	上1	L10	Ⅲ上	台付き浅鉢	台付き浅鉢	口部~台部	平縁、丸み	ミガキ	無文	ミガキ	台	Ⅳ-1	碗形
1800	GW	上1	L11	Ⅰ	浅鉢	浅鉢	ほぼ完形	平縁、内削ぎ	先鋭貼附、沈線(細目)、透かし(十字状+円孔状)	無文	ミガキ	平坦、ミガキ	Ⅲ-1	内面黒色処理?・炭化物?付着
1801	GW	上1	L10	Ⅲ上	香炉形土器?	香炉形土器?	口部~胴部	平縁、内削ぎ	先鋭貼附、沈線(細目)、透かし(十字状+円孔状)	無文	ナデ?	平坦、ミガキ	Ⅲ-5	胴部中に透かしをもつことから器種は明確ではない
1802	GW	上1	L10・M10	Ⅲ上	鉢	鉢	口部~胴部中位	平縁、内削ぎ	口縁部縦長貼附、先鋭貼附(10単位?)	L R	ミガキ	台	Ⅲ-5	首の無い、碗形ともとれる、碗形状?
1803	GW	上1	L10	Ⅲ上	注口土器G1	注口土器G1	口部~胴部	平縁、角状	ミガキ(沈線)	無文	ミガキ、ケズリ	台	Ⅳ-1-1	
1804	GW	上1	L12・J10	Ⅲ上	深鉢	深鉢	1/2完形	平縁、丸み、肥厚	非結束羽状細文	L R・R L	ナデ	台	Ⅲ-6-4?	

第48表 遺構外土器 (15)

編號	出土地点	斜面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口縁部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1805	GW	上1	L10	Ⅲ上	台付き深鉢	ほぼ完形(台部欠損)	平縁、丸み	磨消細文(ミガキ)	L・R	ナデ	台	Ⅲ-5	外面調整部分有
1806	GW	上1	L11	Ⅲ上	深鉢HⅢ1a	完形	平縁、角状	ナデ、ケズリ	無文	ナデ	平垣	Ⅲ-6	縁の付着は内面口～胴部中位付近に多量・外面微量
1807	GW	上1	L10	Ⅲ上	台付き浅鉢	台部	平縁、角状	三又、円形透かし、ミガキ	L・R	ナデ	台	Ⅲ-1	
1808	GW	上1	L11	Ⅲ上	注口土器	脚～底部	平縁、丸み	文様貼附(玉抱き状)、非結束羽状細文、磨消細文?	L・R・R・L(0段)	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	
1809	GW	上1	L11	Ⅲ上	深鉢	1/2完形	平縁、丸み、先端貼附状突起	平行沈線、斜行文、磨消細文	L・R	ナデ	平垣	Ⅲ-4	
1810	GW	上1	L11	Ⅲ上	台付き浅鉢	口～底部(台部欠損)	平縁、内削ぎ、文様貼附状突起	入組み状文(ノ字状)、非結束羽状細文、磨消細文	L・R・R・L	ナデ、ミガキ	台	Ⅲ-3	
1811	GW	上1	L11	Ⅲ上	注口土器DⅡ1b	完形	平縁、丸み	文様貼附(3単位で玉抱き状)、平行沈線、入組み帯状文、非結束羽状細文、充満細文、ミガキ	L・R・R・L	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	文様貼附状突起は大小各4単位で付加される
1812	GW	上1	L11	Ⅲ上	深鉢DⅢ1a	1/2完形	平縁、内削ぎ、文様突起(2個一対3単位)	入組み帯状文(帯掛状)、磨消細文	R・L	ナデ、ミガキ	平垣	Ⅲ-4	十腰内V式段階の可能性有、内外面縁付着
1813	GW	上1	L11	Ⅲ上	香炉形土器	ほぼ完形	突起、刻み目	先鋭貼附、円形・長方形透かし、刻み目	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	口縁部形態は約り手状
1814	GW	上1	L11	Ⅲ上	香炉形土器	口縁部	突起、刻み目	貼附、波線透かし、三又・三日月状透かし、貫通孔	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1815	GW	上1	L11・L12	Ⅲ	台付き深鉢	台部	平縁、丸み	平行沈線、沈線間刻目帯、台部に円形透かし	無文	ナデ	台	Ⅲ-3	
1816	GW	上1	L12	Ⅲ中～下(3Z)	壺	ほぼ完形(口～頸部欠損)	平縁、丸み	入組み帯状文(帯掛状)、磨消細文	L無節	ナデ	平垣	Ⅲ-1	
1817	GW	上1	L12	Ⅲ上	深鉢	脚部	平縁、丸み	磨り糸文を斜回転の後に、縦回転で施文する	単軸線全体第1A類(無節)	ナデ	平垣	Ⅲ-1	胎土に纖維の混入は認められない、時期検討要する
1818	GW	上1	L11	Ⅲ上	深鉢DⅡ2b	ほぼ完形	波状口縁、内削ぎ、大小の文様突起(5単位)	貼附(4単位)、入組み帯状文、非結束羽状細文、充満細文	L・R・R・L(0段)	ナデ	上げ底状	Ⅲ-4	胎土に纖維の混入は認められない、時期検討要する
1819	GW	上1	L12	Ⅲ上	深鉢	口縁部	山形状口縁、丸み	帯状文(4条1単位)、S字状文、磨消細文	R・L	ナデ	台	Ⅲ-2-1	内外面縁付着
1820	GW	上1	L12	Ⅲ上	深鉢?	突起部	平縁、丸み、文様突起(4単位?)	沈線、円形透かし、ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-3	
1821	GW	上1	L12	Ⅲ上	台付き浅鉢	1/2完形(台部欠損)	平縁、丸み、文様突起(4単位?)	帯状文(4条1単位)、S字状文、磨消細文	R・L	ナデ	台	Ⅲ-3	
1822	GW	上1	L12	Ⅲ上	深鉢	口縁部	山形状口縁、角状	刺突文、磨消細文	L・R	ナデ	台	Ⅲ-2-1	
1823	GW	上1	L12	Ⅲ上	深鉢?	口縁部	山形状口縁、内削ぎ	文様貼附、非結束羽状細文	L・R・R・L(0段)	ナデ	平垣	Ⅲ-2-1	
1824	GW	上1	L13	Ⅰ～Ⅱ	深鉢	口縁部	突起、波沈線	刺突文、沈線文	R・L	ナデ	平垣	Ⅲ-6-1	内面は漆?が染み込んでいるようにもとれる
1825	GW	上1	L13	Ⅲ上・下	壺	脚～底部	平縁、丸み	波状口縁、丸み	R無節	ナデ、ミガキ	平垣	Ⅲ-3	
1826	GW	上1	L12	Ⅲ中	深鉢?	口縁部	波状口縁、角状、内削ぎ	波状口縁、丸み	L・R	ナデ	平垣	Ⅲ-6	
1827	GW	上1	L12	Ⅲ	壺H1	口～胴部中位	平縁、丸み	貼附、先鋭貼附、入組み帯状文(磨消細文)、文様内削ぎ(磨消細文)	L・R・R・L	ナデ	平垣	Ⅲ-5	口唇部・口縁部端・頸部にランダムに貼附、羽状細文は口唇部のみ施文、外面縁付着
1828	GW	上1	M9・M11	Ⅰ、Ⅲ上	深鉢E1	口～胴部中位	平縁、内削ぎ	注口部先端に括れ	無文	ナデ	平垣	Ⅲ-5	器形から後期末葉とした
1829	GW	上1	M9・M10	Ⅲ上・中	注口土器	ほぼ完形(底部欠損)	平縁、内削ぎ		無文	ナデ	平垣	Ⅲ-4	後期中葉以降と思われる時期検討要する
1830	GW	上1	L14	Ⅲ上	深鉢	口縁部	突起	刺突列、沈線文	L・R	ナデ	平垣	Ⅲ-2-2	
1831	GW	上1	M10	Ⅲ上	壺HⅡ1a	完形	平縁、丸み	口～頸部4cm程度文帯(磨消細文)	L・R	ナデ	平垣	Ⅲ-6-2	
1832	GW	上1	M10	Ⅲ上	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、文様突起(3個一対)	貼附、平行沈線	無文	ナデ	平垣	Ⅲ-4	
1833	GW	上1	M10	Ⅲ上	深鉢EⅢ1b	1/2完形	平縁、丸み	縦長貼附細文、方形区画文、磨消細文	L・R	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	外面微量・内面口縁部付近縁付着
1834	GW	上1	M10	Ⅲ上	鉢Ⅱ1b	ほぼ完形	平縁、角状	縦長貼附、入組み帯状文(クラック状)、充満細文	R・L(0段多條)	ナデ	若干上げ底状	Ⅲ-5	外面縁付着、内面黒色処理?
1835	GW	上1	M10	Ⅲ上	壺HⅡ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	縦位耳状把手(4単位、穿孔有)、非結束羽状細文	L・R・R・L	ナデ	平垣	Ⅲ-5	内面黒色処理?、風曝遺跡に類例有
1836	GW	上1	M10	Ⅲ上	注口土器EⅡ1b	ほぼ完形	平縁、角状	先鋭貼附、入組み帯状文(クラック状)、充満細文、濁き彫り状	L・R(0段多條)	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	注口部付近に三日月形の透かし?
1837	GW	上1	M10	Ⅲ上	香炉形土器	突起部	突起	先鋭貼附、入組み帯状文、刻み目、貫通孔	無文	ナデ?	平垣	Ⅲ-5	口縁部形態は約り手状?
1838	GW	上1	M10	Ⅲ上	香炉形土器	ほぼ完形(口部欠損)	突起	先鋭貼附、沈線、透かし(入組み状、長方形状)、刻み目	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6	内面黒色処理
1839	GW	上1	M10	Ⅲ上	壺	ほぼ完形(口～頸部欠損)	平縁、丸み		L・R	ナデ	台?	Ⅲ-4	細文施文後に沈線による文様が描かれる

第49表 遺構外土器 (16)

継ぎ目	出土地点	出土地点	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1841	GW	M10・M11	皿	口～底部	平縁、内削ぎ	入組み帯状文、磨消細文	L R	ナデ、ミガキ	上げ底状、帯状文	Ⅲ-2-1	全体に赤い色調の土器である
1842	GW	上1 M10	台付き鉢G1 d	1/2完形	平縁、丸み、小突起(3 or 4単位)	先鋭趾瘤、胴部下半に円形透かし(直径5～6mmで8単位で推定)、唇部に1ヶ所穿孔	L R	ミガキ、ナデ	台	Ⅲ-5	台部に切れ込み2ヶ所
1843	GW	上1 M10	深鉢	1/2完形(底部欠損)	小波状口縁、丸み		L R	ナデ、ケズリ		Ⅳ-1	縁は外面口縁部付近にのみ付着
1844	GW	上1 M10	台付き壺L d	ほぼ完形(口縁部欠損)	平縁、内削ぎ	先鋭趾瘤、又状趾瘤(4単位?)、隆縁による入組み状文(隆縁)	無文	ナデ、ケズリ	台	Ⅲ-5	
1845	GW	上1 M10	深鉢	口～胴部中位	平縁、内削ぎ	縦長趾瘤、先鋭趾瘤、入組み状帯状文、網目状沈線、充満細文、ミガキ半、浮き彫り状網目状沈線	L R	ナデ、ケズリ	外面縁付着	Ⅲ-5	
1846	GW	上1 M10	深鉢	口～胴部上半	平縁、先鋭	貼瘤、網目状沈線	L R	ナデ、ミガキ	外面縁付着	Ⅲ-5	
1847	GW	上1 M10	深鉢	口～胴部上半	平縁、内削ぎ	貼瘤、磨消細文	L R	ナデ		Ⅲ-5	
1848	GW	上1 M10	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ	入組み帯状文(変形蓮節木葉文)、非結束羽状細文、充満細文、ミガキ	L R	ナデ	内面黒色処理?、大洞B1式?	Ⅲ-5	
1849	GW	上1 M10	深鉢D2	口～底部	平縁、内削ぎ、肥厚、大形突起、2個一対の隆起突起	先鋭趾瘤、短沈線、隆縁、ミガキ、ナデ	L R・R L	ナデ	内面黒色処理?	Ⅲ-4	
1850	GW	上1 M11	深鉢	完形	平縁、角状	先鋭趾瘤、短沈線、隆縁、ミガキ、ナデ	無文	ミガキ	平坦	Ⅲ-5	形態は壺形土器の口～頸部に類似
1851	GW	上1 M11	深鉢	ほぼ完形	小波状口縁、丸み		L R	ナデ	平坦	Ⅲ-6	底面は丸いが上面縁は若干楕円形気味(寛を標榜?)
1852	GW	上1 M11	壺	頸～胴部		先鋭趾瘤、円形趾瘤(刺突有)、弧縁状文(隆縁)、ミガキ	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-5	内面光沢が強い、特殊性を示唆する文様
1853	GW	上1 M11	鉢 I 1 a	ほぼ完形	平縁、内削ぎ		無文	ナデ	平坦	Ⅲ-6?	外面はケズリによる荒い調整と指でぞってと思われる風跡がある
1854	GW	上1 M11	台付き壺 I 1 d	完形	平縁、丸み	刺突列、瘤状突起(4単位)	無文	ナデ	台	Ⅲ-4	台部はアスファルトによって補修されている、約り下げ形意
1855	GW	上1 M11	深鉢 E Ⅱ 3 b	1/2完形	山形状口縁、先鋭瘤状小突起	先鋭趾瘤、入組み帯状文	L R	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	内面縁付着
1856	GW	上1 M11	深鉢 E Ⅲ 1 b	1/2完形	平縁、先鋭突起	先鋭趾瘤、頸部に帯状文(帯内短沈線)	R L	ミガキ	若干上げ底状ケズリ痕	Ⅲ-5	外面一部縁付着、内面黒色処理?
1857	GW	上1 M11	深鉢	ほぼ完形		又状趾瘤、入組み帯状文、磨消細文	L R、R L	ナデ、ミガキ?	平坦	Ⅲ-5	縁は文様の接点に付けられる、R L 主体にL R が局所的に施文される
1858	GW	上1 M11	注口土器 D Ⅱ 1 a	完形	平縁、角状	先鋭趾瘤(Ⅱ b 帯は4単位、脚部は3単位)、通柱円弧縁状文、ミガキ	R L	ミガキ	平坦	Ⅲ-4?	脚部の貼瘤は8単位であるが、注口部を加えると4単位
1859	GW	上1 M11	深鉢 E Ⅲ 1	口～胴部	平縁、内削ぎ、大形又状突起	先鋭趾瘤、入組み帯状文、充満細文、ミガキ	R L	ナデ	平坦	Ⅲ-5	内外面縁量付着
1860	GW	上1 M12	台付き皿	完形	平縁、角状		無文	ナデ	台	Ⅲ-6	
1861	GW	上1 M11	台付き浅鉢?	台部	平縁、角状	孔2ヶ所	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	
1862	GW	上1 M13	深鉢	ほぼ完形	平縁、角状	磨消細文	R L	ミガキ、ナデ	台	Ⅲ-3	
1863	GW	上1 M13	深鉢	口唇部	液状口縁、丸み、細文	S字状文、刺突文	R L	ミガキ	平坦	Ⅲ-1-2	
1864	GW	上1 M13	串孔土器	胴部下半～底部		入組み状文(変形鍵状文)、ミガキ	R L	ケズリ	上げ底状	Ⅲ-3	朱は外面全体及び底面に塗布されている
1865	GW	上1 M15	深鉢	口唇部	小波状口縁、丸み	花縁文、刺突列	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-5	時期検討要する、弥生?
1866	GW	上1 M13	注口土器 A Ⅲ 1 a	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、角状	入組み状文(鍵状文)3単位	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-3	内面調整は口縁部ミガキ、脚部ナデ?
1867	GW	上1 M13	深鉢	口唇部	平縁、角状、突起、細文、刺突	口縁部端内面に人面?(3個の刺突文で補成)	R L	ナデ		Ⅲ-1?	時期検討要する、一戸町熊野遺跡に類例有
1868	GW	上1 M12	人面付き香炉形土器	ほぼ完形	約り手状	先鋭趾瘤、入組み帯状文(隆縁)、円形・楕円形透かし(人面を標榜)	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	
1869	GW	上1 N13	蓋 C Ⅱ 1 a	ほぼ完形	平縁、丸み	口～頸部無文	L R	輪郭線	平坦	Ⅳ-5	
1870	GW	上1 N13	注口土器	胴部	平縁、丸み	通柱円弧縁状文、磨消細文	L R	輪郭線	平坦	Ⅳ-1?	晩期初期、朝日遺跡からの影響を感じると土器(輸入品?)である、内外面に赤黒色線粒?
1871	GW	上1 N13	浅鉢	1/2完形	平縁、角状、肥厚	沈線、入組み状文(隆縁)、ミガキ	無文	ミガキ	平坦	Ⅲ-5	台付き浅鉢?、底部欠損部分にアスファルト付着
1872	GW	上1 M13・P13	深鉢 G Ⅲ 1 a	ほぼ完形	平縁、角状	非結束羽状細文	L R・R L(0段多條)	ナデ	平坦	Ⅲ-6	外面割漆激しい(加熱のため)、内面縁付着
1873	GW	上1 N12	人面付き土器	?		人面と思われる目(短沈線)・鼻(刻み目)、刺突文	ナデ	ナデ	平坦	Ⅳ-1	中空土製品?、時期検討要する
1874	GW	上1 N13	鉢 I 1 a	ほぼ完形	平縁、小突起(7単位)	半磨状文、沈線文	L R	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅳ-2-2	
1875	GW	上1 N11・O11	浅鉢	口唇部	突起、刻み目、丸み	入組み三叉文、短沈線、玉抱三叉文、ミガキ	L R	ミガキ	平坦	Ⅳ-1-2	内面黒色
1876	GW	上1 N13	注口土器 A Ⅲ 1 a	ほぼ完形	平縁、丸み	入組み状文(鍵状文)、頸部に刻み目、注口部彫文に飾、非結束羽状細文、磨消細文	L R・R L	ミガキ	平坦、ミガキ	Ⅲ-3	明確ではないがR Lによる異方向細文の可能性(実測図はL R・R Lで図化している)
1877	GW	上1 N15	鉢	底部				ナデ	平坦	Ⅲ-6	約り下げ形土器?、底面の凹面に穿孔有

第50表 遺構外土器 (17)

植体番号	出土地点	断面	出土地点	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1878	GW	上1	N14	片口鉢	注口部		人組み帯状文	L無節	ナデ		Ⅲ-1-2	
1879	GW	上1	N14	浅鉢	口唇部	平縁、丸み	沈線文、刺突文	L R	ナデ		Ⅲ-2-1	外面漆微量付着
1880	GW	上1	N13	深鉢	底部					平坦、木葉痕	Ⅲ-6-1	
1881	GW	上1	N15	壺	頸～胴部中位		曲線帯状文、球根状文、充填縄文?、ミガキ	R L	ナデ		Ⅲ-1-2	沈線による特殊文様
1882	GW	上1	N15	深鉢	口唇部	小波状口縁、先鋭気味	曲線文	L R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-1-2	外面漆付着
1883	GW	上1	N13	浅鉢	突起部	フリッジ状突起、B突起	沈線、ミガキ	L無節	ミガキ		Ⅲ-1-2	突起部が内側に張り出す
1884	GW	上1	N14	鉢A2	口唇部	波状口縁(4単位)、丸み、頂部刺突	円文、人組み帯状文、磨消縄文	L無節	ナデ		Ⅲ-1-2	上面縁は方形、台付き浅鉢?
1885	GW	上1	N15+O15	壺	口～胴部上半	平縁、丸み	面体押圧文2条	L無節	ナデ		Ⅲ-6-1	
1886	GW	上1	O11+P11	注口土器	1/2完形(口～胴部欠損)		交叉縄線、人組み帯状文(幾本葉文)、非結束羽状縄文、充填縄文、ミガキ	L R・R L	ナデ	上り底状	Ⅲ-4	
1887	GW	上1	O13+P12+P13	壺H1	口～胴部中位	平縁、角状	帯状文(フランク状)、非結束羽状縄文、充填縄文、ミガキ	L R・R L	ミガキ		Ⅲ-3	沈線で軽く割り付けをした後に縄文を施文しその後沈線、ミガキを施す
1888	GW	上1	O10	鉢I1c	ほぼ完形	平縁、角状	横立花線、口縁部に孔(4単位)、ミガキ	L R	ミガキ	丸底状	Ⅲ-6	柄形、孔は縄文施文後に直径3mmで穿たれている
1889	GW	上1	P14~P16	壺	胴部		貼輪、短沈線、別み目、ミガキ	無文	ナデ	上り底状	Ⅲ-1-1	後期最終末、外面黒色顔料塗布、田柄Ⅷ群
1890	GW	上1	O13+P11+P12+P13(3H)	注口土器	ほぼ完形(口～頸部欠損)		交叉縄線(3単位)、人組み帯状文(微縁起による帯掛状)、ミガキ	無文	ナデ	上り底状	Ⅲ-5	新地式、全面漆塗布
1891	GW	上1	P12+P13	深鉢D2	口～胴部	波状口縁(5単位)、内削ぎ、肥厚	交叉縄線、曲線帯状文(人組み、玉抱き状)、非結束羽状縄文、充填縄文、ミガキ	L R・R L(0段多条?)	ミガキ		Ⅲ-4	西ノ浜?相当、大形突起間に縦位の貼輪、内面黒色処理?
1892	GW		西部捨て場	壺I11b	完形	平縁、丸み	磨消縄文	L無節	ナデ	上り底状	Ⅲ-6-4	十層内V式
1893	GW		西部捨て場	台付き浅鉢	口唇部		磨消縄文	L R・R L(0段多条)	ナデ	丸底状	Ⅲ-1-2	外面漆塗布
1894	GW		西部捨て場	壺G11c	ほぼ完形	平縁、丸み	平行帯状文、非結束羽状縄文、磨消縄文	L R・R L(0段多条)	ナデ	丸底状	Ⅲ-3	
1895	GW	上1	P13+Q13	注口土器D1b	ほぼ完形(口～頸部欠損)		交叉縄線(3単位)、刺目帯、人組み帯状文(磨掛状)、非結束羽状縄文、充填縄文、ミガキ	L R・R L(0段多条)	ナデ、ケナシ	上り底状	Ⅲ-4	交叉貼輪は胴部中位注口部併せ4単位、2151と同一個体?
1896	GW		西部捨て場	台付き浅鉢?	胴部	波状口縁、丸み	磨消縄文	L無節	ナデ	平坦、ケナシ	Ⅲ-1-2	外面漆塗布
1897	GW	上2	M11	浅鉢	口～底部		網目状燃り糸文	L R・R L(無節)	ナデ、ミガキ		Ⅲ-1-3	
1898	GW	上2	N11	深鉢CⅢ1a	1/2完形	平縁、内削ぎ	非結束羽状縄文	L R・R L	ナデ	平坦	Ⅲ-6-3	内外面漆付着
1899	GW	上2	N11+N12	注口土器	頸～胴部		先鋭気味、刺突文、ミガキ、浮き彫り状	無文	ナデ		Ⅲ-5	刺突文は微縁部部分に先端が平たい工具で施文している
1900	GW	上2	N11	注口土器	口～胴部下半	平縁	交叉貼輪、平行花線、花線間刺突、ミガキ	無文	ナデ		Ⅲ-5	注口部の向きが上を向く方を天(上方)とした
1901	GW	上2	N12	壺	ほぼ完形	平縁、丸み	網目状燃り糸文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-5	内外面漆付着
1902	GW	上2	N11	深鉢BⅢ1a	1/2完形	平縁、丸み	網目状燃り糸文	単輪条体(L無節)	ナデ	平坦、甚?	Ⅲ-6-1	内外面漆付着
1903	GW	上2	N12	台付き鉢?	台部		切り込み状の穴(4単位)、花線			台、花線文	Ⅲ-1-1	突起内面に掘り込みによる複数の三叉文(5個)
1904	GW	上2	N12	鉢	口唇部	裝飾突起(円形透かし、穿孔)	ミガキ	R L	ミガキ		Ⅲ-1	突起内面に掘り込みによる複数の三叉文(5個)
1905	GW	上2	N12+N13	鉢	口～胴部中位	平縁、丸み、肥厚	人組み帯状文(三角形状区画)、磨消縄文(ミガキ)	L R	ミガキ		Ⅲ-2-2	内面縁部は光沢が感じられるほど丹念に磨かれていて、内面黒色処理?
1906	GW	上2	N12	深鉢	口唇部	波状口縁、角状、花線	平行花線(4条1単位)、磨消縄文	L R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-2-1	
1907	GW	上2	N12	注口土器Gc	ほぼ完形(口縁部、注口部欠損)		ミガキ	無文	ナデ	丸底状、ミガキ	Ⅲ-2	
1908	GW	上2	N13	鉢E1a	ほぼ完形	平縁、角状	口縁部2cm程度無文帯、沈線	L R	ミガキ、ナデ	平坦、ミガキ	Ⅲ-2-2	外面漆塗布
1909	GW	上2	N13	壺	ほぼ完形(口～頸部欠損)		非結束人組み帯状文(幾何学文様)、胴部下半に横位磨消	無文	ナデ	平坦、ミガキ	Ⅲ-1-1	外面漆塗布
1910	GW	上2	N12	深鉢AⅢ1a	1/2完形	平縁、丸み	頸部に原体押圧文	L無節	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	内外面漆微量付着
1911	GW	上2	N13	深鉢BⅢ1a	ほぼ完形	平縁、角状、縄文、折り返し	頸部に原体押圧文	R L	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	内外面漆微量付着
1912	GW	上2	N13	深鉢	口～胴部上半	小波状口縁、丸み、突起(原体押圧文)	頸部に原体押圧文	L R	ナデ		Ⅲ-2-1	外面漆微量付着
1913	GW	上2	N13	鉢	突起部		長楕円形状の磨消	無文	ナデ		Ⅲ-2-2	
1914	GW	上2	N13	深鉢	口唇部	平縁、縄文	平行花線、幾何学文様、磨消縄文	L無節	ナデ		Ⅲ-1	内外面漆微量付着
1915	GW	上2	N13+O13+O14+P12	深鉢	口～胴部下半	平縁、丸み	磨消文(5~7条)	無文	ナデ		Ⅲ-6-1	内外面漆微量付着
1916	GW	上2	N13	壺	ほぼ完形(口縁部欠損?)		沈線、Y字状文	L無節		平坦、ミガキ	Ⅲ-1-1	口縁部、いて再加工

第51表 遺構外土器 (18)

編號	出土地点	新面	出土地点	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底面形態	分類	備考
1917	GW	上2	N13	壺	ほぼ完形(口縁部欠損)	液状口縁(5単位?)、丸み、細文	頸部に原体押文	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	
1918	GW	上2	N13	鉢E2a	ほぼ完形	液状口縁(5単位?)、丸み、細文	平行沈線、内面頂部に沈線	L R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	
1919	GW	上2	N14	壺	ほぼ完形	平縁、丸み	頸部に原体押文	L 無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-1-3	
1920	GW	上2	N13	深鉢A12a	1/2完形	液状口縁、丸み	刺突文、磨消細文	R L	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	
1921	GW	上2	N14・P13	鉢E2a	ほぼ完形	液状口縁(単位不明)、丸み	平行沈線、柵印文	L R	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-2-1	内外面微量付着
1922	GW	上2	O14	鉢D11a	ほぼ完形	平縁、丸み	2条の原体押文	L 無筋	ナデ	平坦	Ⅲ-1-3	徳利形登
1923	GW	上2	N14・N14 柱穴2号・ M13・O14	壺	1/2完形(口~ 頸部欠損)	1/2完形(口~ 頸部欠損)	弧線状文(多条沈線、脚部中に隆帯)	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-1-2	底面黒色
1924	GW	上2	N14	深鉢B2	1/2完形(口~ 頸部欠損)	液状口縁(4 or 5 単位)	曲線帯状文、磨消細文?	L R	ナデ	平坦、網代紙、 ナデ	Ⅲ-1-2	外面微量付着
1925	GW	上2	O12	壺	ほぼ完形(口~ 頸部欠損)		ミガキ	無文		平坦、網代紙、 ナデ	Ⅲ-6-1?	胎土の様相から後期中~未葉?
1926	GW	上2	O12	深鉢	底部					平坦、網代紙、 孔有	Ⅲ-6-1	側縁にアスファルト付着、補修に伴うもの?
1927	GW	上2	O13	深鉢	口縁部	平縁?、角状、細文、刻み目	沈線文、内面に幾何学文様・細文	L R		平坦	Ⅲ-1	内面に沈線による特殊文様
1928	GW	上2	O13	深鉢	1/2完形	平縁、丸み	ナデ	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-5	ミニチュア?、内面黒い物質付着
1929	GW	上2	O12	注口土器D11b	完形	平縁、丸み、又状貼附状突起 (6 単位)	又状貼附(4 単位)、入組み状文(網掛状)、 ミガキ	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6	入組み状文(網掛文)を構成する沈線は3条 1 単位
1930	GW	上2	O13	鉢E1b	ほぼ完形	平縁、丸み	平縁、丸み	無文	ナデ	若干上げ底状	Ⅲ-6	胎土に粗雑混入、外面微量付着
1931	GW	上2	O12	帯D11c	ほぼ完形	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ	丸底状	Ⅳ-6	
1932	GW	上2	O13	香炉形土器	ほぼ完形(台 部欠損)	ほぼ完形(台 部欠損)	先鋭貼附、入組み状文(網掛状)、透かし (楕圓形状)、ミガキ	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	入組み状文は3条の平行沈線により浅めに 描かれる
1933	GW	上2	O13・O14	注口土器	ほぼ完形(口 部欠損)	ほぼ完形(口 部欠損)	沈線、ミガキ	無文	ナデ	平坦	Ⅳ-6	
1934	GW	上2	O13	浅鉢	口~脚部	平縁、角状	隆帯、刻み目、ミガキ	無文	ミガキ		Ⅲ-2-2	内外面とも丁寧にミガキが施されている
1935	GW	上2	O13	浅鉢	口縁部	液状口縁(段状)、丸み	平行沈線、S 字状文	L R	ナデ		Ⅲ-2-1	内外面微量付着
1936	GW	上2	O13・P13	台付き鉢F1d	1/2完形	平縁、丸み	入組み状文(連綿中弧線状文、連続逆S 字 状文)、ミガキ	R L	ナデ、ミガキ	台	Ⅲ-2-2	加曹利B2 式並行、外面底面付近割落多い
1937	GW	上2	O13	注口土器	脚~底部			無文	ナデ	若干丸底状	Ⅳ-1-1	注口部付近から切断した可能性有、安行3c 式?
1938	GW	上2	O13	台付き皿	台部	平縁、丸み	底面に細文	R L (0 段多条)		台	Ⅲ-6-2?	細文の筋は細かい
1939	GW	上2	O13	鉢I11b	完形	ほぼ完形(口 部欠損)	入組み帯状文(網掛状)、沈線文	無文		上げ底状	Ⅲ-5	
1940	GW	上2	O13	壺	ほぼ完形(口 部欠損)			L R		平坦	Ⅲ-1	徳利形登
1941	GW	上2	O13	深鉢	口縁部	平縁、角状	くり抜き部分有	L R	ナデ		Ⅲ-1-2	
1942	GW	上2	O13	壺	ほぼ完形	平縁、丸み	平行沈線、斜行沈線(微形状)、内面に刺突 文	L R		平坦、管?	Ⅲ-1	徳利形登、上面彫は三角形状を呈する
1943	GW	上2	O13	台付き皿	ほぼ完形	平縁、丸み		無文		台	Ⅲ-3	加曹利B2 式並行
1944	GW	上2	O13	注口土器B12c	ほぼ完形(注 口部欠損)	平縁、先鋭貼附状突起(3 単 位)、帯状突起(4 単位)	先鋭貼附、入組み帯状文(網掛状)、非結束 羽状細文、磨消細文	L R・R L		丸底状	Ⅲ-4	注口部アスファルト付着、口唇部に付く細 状突起の頂部には十字状の刻み目を施す る、脚部に付く帯の断面形は山形状を呈す る(優先は北がらぬ)
1945	GW	上2	O13	鉢	口縁部	液状口縁、丸み、刻み目(頂 部)	沈線文(3 条1 単位)、内面に人形状文様				Ⅲ-1	内面に沈線による特殊文様
1946	GW	上2	O13	壺	ほぼ完形(口 部欠損)		沈線、磨消細文	R L		平坦	Ⅲ-2-1	
1947	GW	上2	O13	深鉢	底部	平縁、丸み	櫛引文(4~7 条)		ナデ、ケズリ?	平坦、網代紙	Ⅲ-6-1	内外面微量付着
1948	GW	上2	O13・O14	深鉢	口~脚部下半	平縁、丸み					Ⅲ-6-1	櫛引文の施文方法は櫛状の工具?を4~7 本束ねたものと思われる
1949	GW	上2	O13	単孔土器	脚~底部		沈線、方区画文(クラック状)、磨消細文	L R	ナデ、指紋、輪 痕	平坦、管?	Ⅲ-2-1	穿孔部は焼成後に穿たれ、周辺にはアスフ ァルトが付着する
1950	GW	上2	O13	浅鉢	口~底部	平縁、丸み	平行沈線、S 字状文	L 無筋	ミガキ、ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	加曹利B1 式並行、内面黒色処理?
1951	GW	上2	O13	壺F11c	完形	平縁、角状	沈線、ナデ、ミガキ	無文		丸底状?	Ⅲ-2-2	底面付近割落多い
1952	GW	上2	O13	鉢	底部			不明		平坦、木葉 痕	Ⅲ-6-1?	外面微量付着
1953	GW	上2	O13	鉢	口縁部	液状口縁、刻み目(頂部)	頂部内面に人形状文(人を模倣?) ミガキ	無文		平坦	Ⅲ-1	内面に沈線による特殊文様
1954	GW	上2	O14	鉢	ほぼ完形	平縁、丸み		無文	ミガキ	平坦	Ⅲ-6-1?	ミニチュア?、口縁部付近の孔は焼成前に 穿たれている
1955	GW	上2	O14	深鉢A11a	口~底部	平縁、角状	口縁部3.5cm程・底部5cm程無文 帯	付加条(L R R)	ミガキ、ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	内面口~脚部中位付近保存
1956	GW	上2	O14	壺E12a	ほぼ完形(口 縁部欠損)	液状口縁、丸み	方区画文、球根状文?(花弁状)	無文	ケズリ	平坦	Ⅲ-1-3	沈線による特殊文様

第52表 陶器外土器 (19)

編號	出土地点	発見	出土地点	層位	器種名	底形部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1957	GW	上2 O14	皿上	皿上	皿	ほぼ完形	平縁、丸み	ナデ、ミガキ	無文	ナデ	丸底状	皿-6	小型深皿状、内外面漆喰量付着
1958	GW	上2 O14	皿上(3K)	皿上	浅鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	ミガキ	L無文	ナデ	丸底状	皿-6	内面割落多い
1959	GW	上2 O14	皿上(3K)	皿上	鉢D1a	ほぼ完形	平縁、角状、又状突起(3単位)		L無文	ナデ	平垣	皿-6-1	
1960	GW	上2 O14・P14	皿上	皿上	深鉢C1	口~胴部中位	平縁、丸み	平行沈線、刺突文	LR	ナデ		皿-2-2	刺突文は竹管によるものと思われる、内面漆喰量付着
1961	GW	上2 O14	皿上	皿上	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み、刻み目	球根状文様(沈線)、内面に球根状文様	L無文	ナデ		皿-1	内面に沈線による特殊文様
1962	GW	上2 O14	皿上	皿上	深鉢	口縁部	平縁、丸み	半円状文、網目状縁の糸文	単輪帯条体(R無文)	ナデ、ケズリ		皿-1	沈線による特殊文様、内外面漆付着
1963	GW	上2 P14・P15・O14・O15	皿上	皿上	深鉢B2	口~胴部中位	小波状口縁、角状	網引状沈線(3~5条)による弧線状文(楕円形又は三角形などの幾何学文様が展開する)、充填細文?	L無文	ミガキ		皿-1-1	網引状の沈線を構成する以外の沈線は丸くやや大きい工具で施文される、外面漆喰量付着
1964	GW	上2 O14	皿上	皿上	壺	ほぼ完形(口~頸部欠損)		底縁付近2cm程無文帯	LR	ケズリ	平垣	皿-6-1?	
1965	GW	上2 O14・P14	皿上	皿上	注口土器Fb	胴~底部		S字状文(帯帯)、ミガキ	無文	ナデ	若干上げ底状、ミガキ	皿-3	
1966	GW	上2 O14	皿上	皿上	深鉢	口~胴部上半	平縁、丸み	幾何学文様(沈線)、磨消細文	LR?	ナデ、ケズリ		皿-1	沈線による特殊文様、内外面漆付着
1967	GW	上2 O15	皿上	皿上	鉢	口縁部	平縁、角状	多条沈線文	無文	ミガキ		皿-2-1	
1968	GW	上2 P12・P13・Q12	皿上・中	皿上	壺D11a	ほぼ完形	平縁、丸み	渦巻き状文(4単位?)、ミガキ	LR	ナデ	平垣	皿-1-3	
1969	GW	上2 P12・P13・Q12	皿上	皿上	鉢B1a	ほぼ完形	平縁、丸み	平行沈線、入組み帯状文(渦巻き状、弧状)	L無文	ナデ	平垣	皿-1-1	
1970	GW	上2 P12・P13	皿上	皿上	深鉢	口縁部	平縁、内削ぎ、肥厚、又状突起(3個一対)	貼瘤、方形区画文、非結束羽状細文	LR・RL	ナデ		皿-3	胎土に石英混入、文様から加南利B2式並行と判断されるが又状貼瘤が付くことから十腰内V式に比定する可能性有、内面漆喰量付着
1971	GW	上2 P13	皿上(3I)	皿上	注口土器	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、角状	頸部に棘状突起、3列の列目帯、入組み帯状文(菱形線状文)、磨消細文	LR(0段多条)		平垣	皿-3	胎土に粗織混入、壺Dタイプに類似
1972	GW	上2 P13	皿上	皿上	壺	ほぼ完形(口縁部欠損)		平行沈線、微線、ミガキ	無文	ナデ	平垣	皿-5	ミニチュア?
1973	GW	上2 P13	皿上(3K)	皿上	壺F11a	完形	平縁、角状	平行沈線、ミガキ	無文	ナデ	平垣	皿-6-3	内面黒い物質付着、精製壺
1974	GW	上2 P12・P13	皿上	皿上	注口土器Fd	胴~底部		多条沈線、刻目帯、ミガキ	無文	ナデ	台	皿-3	後期中葉~後葉、内外面漆付着
1975	GW	上2 P13	皿上	皿上	深鉢H11a	1/2完形	平縁、丸み	非結束羽状細文	LR・RL	ナデ	平垣	皿-6-1	ミニチュア?
1976	GW	上2 P13	皿上	皿上	深鉢	ほぼ完形(口縁部欠損)	平縁、丸み	ナデ、ケズリ	無文		平垣	皿-6-1	
1977	GW	上2 P13	皿上	皿上	深鉢I1b	口~底部	平縁、丸み		LR		上げ底状	皿-6	内外面漆付着
1978	GW	上2 P13	皿上	皿上	鉢I1a	1/2完形	平縁、角状	非結束羽状細文	LR・RL		平垣	皿-6	後期中葉~後葉
1979	GW	上2 P13	皿上(3H)	皿上	鉢G1a	1/2完形	平縁、内削ぎ、2個一対の貼瘤状小突起	先鋭貼瘤、入組み帯状文(帯掛状)、非結束羽状細文、充填細文	LR・RL	ミガキ	平垣	皿-4	文様からは十腰内V式と思われるが先鋭貼瘤が付加されることから十腰内V式の可能性有
1980	GW	上2 P13	皿上	皿上	鉢	胴部中位~底部		先鋭貼瘤、入組み帯状文(帯掛状)、充填細文、ミガキ	LR・RL	ナデ	上げ底状	皿-4	内面漆付着、文様からは十腰内V式と思われるが先鋭貼瘤が付加されることから十腰内V式の可能性有
1981	GW	上2 P13	皿上	皿上	鉢G1a	1/2完形	平縁、丸み		無文	ナデ	平垣	皿-6	ミニチュア?
1982	GW	上2 P13	皿上	皿上	台付き深鉢Dd	ほぼ完形(口縁部欠損)		入組み帯状文(クランク状、木蓋状)、非結束羽状細文、磨消細文	LR・RL	ナデ	台	皿-4	
1983	GW	上2 P13	皿上・中	皿上	深鉢	ほぼ完形	小波状口縁?、丸み	網引文(縁位)	無文	ナデ	平垣	皿-6-1	内外面漆付着
1984	GW	上2 P13	皿上	皿上	鉢	口~底部	平縁、丸み、折り返し口縁	ナデ	無文	ナデ	平垣	皿-6-1	内外面漆付着
1985	GW	上2 P13	皿上	皿上	深鉢G11a	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、肥厚	非結束羽状細文	LR・RL(0段多条)	ナデ	平垣	皿-6-4	内外面漆付着
1986	GW	上2 P13	皿上	皿上	浅鉢	1/2完形	平縁、内削ぎ		RL	ナデ	平垣	皿-6	
1987	GW	上2 P13・P14	皿上(3A)	皿上	台付き浅鉢	ほぼ完形(台部欠損)	平縁、丸み	又状貼瘤(5単位?)	RL(0段多条)	ナデ	台	皿-4	
1988	GW	上2 P13	皿上	皿上	浅鉢	口~胴部下半		ミガキ	無文	ナデ	平垣	皿-6	環状
1989	GW	上2 P12	皿上	皿上	深鉢G11a	ほぼ完形	平縁、丸み		LR(0段多条)	ナデ	平垣	皿-6-1	内外面漆付着
1990	GW	上2 P12・P13	皿上	皿上	深鉢B11a	1/2完形	平縁、角状		RL	ナデ	平垣	皿-6	外面は剥落部分多い、内外面漆付着
1991	GW	上2 P13	皿上	皿上	深鉢G11a	1/2完形	平縁、角状		LR	ナデ	平垣	皿-6	底面剥落有
1992	GW	上2 P13	皿上	皿上	注口土器	ほぼ完形	平縁、丸み、又状貼瘤状突起(4単位)	又状貼瘤(4単位)、入組み状文(微線線)、ミガキ	無文	ナデ	上げ底状	皿-5	胎土に海骨子?混入、外面朱塗布、新地式
1993	GW	上2 P13	皿上(3F)	皿上	壺H11a	1/2完形	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ	平垣	皿-6-4?	
1994	GW	上2 P13	皿上	皿上	台付き浅鉢	ほぼ完形	平縁、角状、先鋭貼瘤状突起(5単位)	平行沈線、ナデ	LR	ナデ	台	皿-5	胎土に粗織1~3mmの粗織を多量に含む

第53表 遺構外土器 (20)

観測番号	出土地点	新面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
1995	GW	上2	P13・P14・Q14	Ⅲ上(3J16・3J15)	鉢	口縁部	平縁、角状	入組み帯状文、ミガキ	L・R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-2-2	
1996	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口～胴部	平縁、丸み、突起(2単位)	円文、クランク状文、磨消細文	L・R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-1-1	十層内I新の可能性あり
1997	GW	上2	P12・P13	Ⅲ上	深鉢DⅢ1a	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、円形・斜行突起(各4単位)	円文、斜線(頸部に4単位)、入組み帯状文(本縁に帯状文、4単位)、非結束羽状細文、充て紙文、ミガキ	L・R・L	ミガキ	平坦	Ⅲ-4	内外面煤付着
1998	GW	上2	P13	Ⅲ上	浅鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	入組み帯細文(4単位)、非結束羽状細文、磨消細文	L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-6-3?	内外面刺落有
1999	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢FⅢ1a	1/2完形	平縁、内削ぎ	入組み帯状文(変形細文)、磨消細文	L・R・L	ミガキ	平坦	Ⅲ-4	入組み帯文は8単位で施文される、十層内IV式古段階?
2000	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢GⅢ1a	ほぼ完形	平縁、角状	非結束羽状細文(口～胴部上半付近のみ)	L・R・L	ナデ	平坦	Ⅲ-6-3?	内外面煤付着
2001	GW	上2	P13	Ⅲ上	筒形土器	口～胴部下半	平縁、丸み	菱形文・X字状文・星形文(各4単位)、磨消細文?(ナデ)	L・R			Ⅲ-2-1	外面全体に染漆布、単孔土器の可能性有
2002	GW	上2	P13	Ⅲ上	香炉形土器	台部		貼着、透かし(楕円形状)、平行沈線、ミガキ			台	Ⅲ-5	
2003	GW	上2	P13	Ⅲ上	壺	口～胴部中心		入組み帯状文(変形細文)、磨消細文	L・R	ケズリ		Ⅲ-3	外面黒色顔料?
2004	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢DⅡ2	ほぼ完形(底部欠損)	山形状口縁(5単位)、内削ぎ、肥厚	入組み帯状文(IIa帯変形木葉状文・II帯S字状5単位)、非結束羽状細文、充て紙細文、ミガキ	L・R・L(0段多条)			Ⅲ-4	十層内IV式古段階
2005	GW	上2	P13・P14	Ⅲ上	鉢F1a	ほぼ完形	平縁、角状	平行沈線間に複数段の刻目帯、入組み状方形区画文(4単位?)、円形刺突文、弧線状文、横位條漆、磨消細文	L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-3	複数段の刻目帯は口縁部と胴部に配られる
2006	GW	上2	P13	Ⅲ上	壺A12	口～胴部下半	小波状口縁、丸み	方形区画文(4単位?)、円形刺突文、弧線状文、横位條漆、磨消細文	L無節	ナデ		Ⅲ-1-1	帯状文上に施文される刺突文は文様の接点に付く、外面煤量付着
2007	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口～胴部下半	平縁、丸み	然り糸文	単軸線条体(L無節)		平坦	Ⅲ-6-1	胎土に礫混入、外面煤付着
2008	GW	上2	P13	Ⅲ上	壺C12a	1/2完形	波状口縁	縦位貼付條漆(3単位)、多条孔線文(X字状・S字状3単位)、脚部に孔	無文			Ⅲ-1-2	
2009	GW	上2	P13・P14	Ⅲ上(3J13)	深鉢	口～胴部	平縁、丸み	横引文(縦位)	無文	ナデ、ケズリ、輪		Ⅲ-6-1	内外面煤付着
2010	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口縁部	山形状口縁、丸み	非結束羽状細文(奥方向)、磨消細文	L・R			Ⅲ-3	加増利B3式並行、外面煤付着
2011	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口縁部	山形状口縁、内削ぎ、乳頭状突起	磨消細文	L・R	ナデ		Ⅲ-3	外面煤付着
2012	GW	上2	P13	Ⅲ上	壺	胴上半	平縁、丸み	磨消細文	L・R(0段多条)	ナデ、ミガキ		Ⅲ-1-1	外面煤微量付着、馬立式段階?
2013	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口～胴部上半	平縁、丸み	磨消細文	L・R(0段多条)	ナデ	上げ底状、ミガキ	Ⅲ-6	外面煤付着
2014	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢GⅢ1	1/2完形	平縁、内削ぎ	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	平坦	Ⅲ-6-3?	胎土に礫混入、外面煤付着
2015	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口縁部	波状口縁、丸み	磨消細文	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	内面煤微量付着
2016	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	胴部		原体押正文、ル、ア状?	無文	ナデ		Ⅲ-6?	内面煤付着
2017	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	底部			L無節(節有り)			Ⅲ-1-1	
2018	GW	上2	P13	Ⅲ上	壺A12	ほぼ完形	波状口縁、丸み、隆帯	滴巻き状文、曲線文、隆帯、縦線文(原体押正文)、磨消細文	L・R	ナデ	平坦?	Ⅲ-1-2?	
2019	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢?	口縁部	山形状口縁、角状	ミガキ	無文	ナデ、ミガキ		Ⅲ-3	胎土に石混入、加増利B2式並行
2020	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口～胴部	波状口縁(5単位)、角状	多条孔線文(X字状、楕円状、三角状、円形状)	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	内外面煤微量付着
2021	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口縁部	波状口縁(5単位)、頂部斜位の刻目、丸み	円文、沈線文、磨消細文	L無節			Ⅲ-1-2	
2022	GW	上2	P13・P14	Ⅲ上(3K・3J16)	深鉢A12a	口～底部	波状口縁、角状	網目状襷り糸文	L無節	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	外面刺落有、内外面煤付着
2023	GW	上2	P12・P13・Q12	Ⅲ上+中	壺	ほぼ完形	波状口縁(6単位)、角状、縄文	口縁部方形区画文(隆・穴網)、頸部刺突文(6単位)、胴部上半環線状文(花網・磨消、胴部下半無文)	L無節	ナデ	平坦	Ⅲ-1-1	
2024	GW	上2	P13	Ⅲ上	壺B12a	ほぼ完形	小波状口縁(3単位)、丸み、折り返し口縁	隆帯、帯状文(曲線文)、磨消細文	L無節	ミガキ、ナデ	平坦	Ⅲ-1-1	内面調整は口縁部ミガキ、胴部ナデ、外面一部煤?微量付着
2025	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口～胴部	平縁、丸み	入組み帯状文、磨消細文、浮き彫り状	L・R	ミガキ		Ⅲ-3	
2026	GW	上2	P13・Q12	Ⅲ上+中	壺A12	ほぼ完形(底部欠損)	波状口縁、丸み、大形突起(5単位)、折り返し口縁	文字状條漆文、方形区画文(隆帯)、弧線状帯状文(クランク状、三角形状、方形)、横位條漆、磨消細文	L・R	ナデ、ミガキ		Ⅲ-1-2?	朱は無文帯に散布される、内面黒色処理?
2027	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢	口～胴部	波状口縁、丸み	複数段の刻目帯、非結束羽状細文、磨消細文	L・R・L(0段多条?)	ミガキ		Ⅲ-2-2?	外面煤微量付着
2028	GW	上2	P13・Q13	Ⅲ上	深鉢D1	口～胴部中心	平縁、内削ぎ、大小の先鋭突起(各5単位)	入組み帯状文、磨消細文(ミガキ)	L・R	ナデ		Ⅲ-4	一部分L・Rにみえる節有(判別困難)、内外面煤付着
2029	GW	上2	P13	Ⅲ上	深鉢D1	口～胴部	平縁、内削ぎ(肥厚、又先鋭起(13個))	貼着、入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文	L・R・L	ナデ、ミガキ		Ⅲ-4	外面煤付着

第54表 遺構外土器 (21)

編號	出土地点	剖面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
2030	GW	上2	P13	Ⅲ上・下	鉢A2a	ほぼ完形	波状口縁(4単位)、角状	帯状文(幅口文・田文・渦巻き状文4単位、磨消細文?)	L無筋	ナデ	平坦、ミガキ	Ⅲ-1-2	液面線は2ヶ所が刻み目、2ヶ所がボタン状の貼り付けをもつ
2031	GW	上2	P13	Ⅲ上・下	壺	1/2完形	平縁、丸み、先端貼附状突起	貼附、ミガキ	無文		上付底状	Ⅲ-5	環状
2032	GW	上2	P12・P13	Ⅲ上・下	深鉢GⅢ1b	ほぼ完形	平縁、丸み、内削き、肥厚	非結束羽状細文	L・R・L	ナデ	上付底状	Ⅲ-6-4	
2033	GW	上2	P13・Q12	Ⅲ上・下	壺BⅠa	ほぼ完形(口唇部欠損)		方形区画文(條帯、4単位)、渦巻き状文(4単位)、磨消細文	L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-1-1	黒色顔料は漆と思われる
2034	GW	上2	P13	Ⅲ上(3F)・下	筒形土器?	脚~底部	平縁、丸み、突起(2単位、斜位の刻み目)	方形区画文、ミガキ	無文	ナデ、ケズリ?	平坦	Ⅲ-2-1	単孔土器の可能性有、加曾利B1式並行?
2035	GW	上2	P12・P13・Q12	Ⅲ上(3H)・下	鉢A2a	1/2完形	波状口縁、肥厚、大小の突起(各4単位)	入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文、ミガキ	L・R・L	ナデ	平坦	Ⅲ-1-2	
2036	GW	上2	P12・P13・Q12	Ⅲ上・中	深鉢DⅠ	1/2完形(底部欠損)	小波状口縁(5単位)、角状、細文	方形区画文(波状線による4単位)、渦巻き状文	L・R	ナデ	Ⅲ-1-1	Ⅲ-4	口唇部の突起は扁平山形状突起と太形十字状線入り突起が交互に付く、内外面縁付着
2037	GW	上2	P12・P13・P14・Q12	Ⅲ下	壺A2	口~胴部中位	小波状口縁、丸み	ナデ、ケズリ、ミガキ?	L・R	ナデ	Ⅲ-6-1	Ⅲ-1-1	上面縁は楕円形、内面口~胴部上半付近縁付着
2038	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢GⅢ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	網目状線入り糸文	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	内面黒い、物質が付着
2039	GW	上2	P14	Ⅲ上	壺DⅠ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	網目状線入り糸文	単軸絡条体(L無筋)	ナデ	平坦、帯?	Ⅲ-1-2	
2040	GW	上2	P14	Ⅲ上	壺	ほぼ完形(口唇部欠損)		ミガキ	R・L		平坦、網代縁	Ⅲ-2-2	
2041	GW	上2	P14	Ⅲ上	壺	ほぼ完形	小突起(3単位)、丸み	沈線、ミガキ?	無文	ナデ	平坦	Ⅲ-2-2	
2042	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢AⅠ1a	完形	平縁、丸み	網目文(縦位)	無文	ナデ、ケズリ?	平坦	Ⅲ-6-1	
2043	GW	上2	P14	Ⅲ上	台付浅鉢Ⅲ	ほぼ完形	平縁、角状	方形区画文(5単位)	無文	ナデ	台	Ⅲ-1-3	高杯?、内面黒色顔料
2044	GW	上2	P14	Ⅲ上	Ⅲ	完形	突起?(1単位)、丸み	ミガキ	無文	ナデ、ミガキ	丸底状、ミガキ	Ⅲ-6	浅い丸底の杯?、突起?の下付近に穿孔有、蓋の可能性有
2045	GW	上2	P14	Ⅲ上	鉢EⅠa	口~底部	平縁、丸み	平行沈線、S字状文、磨消細文	L・R	ナデ	平坦、ミガキ	Ⅲ-2-1	網文彫文後に全面ミガキ(光沢強い)
2046	GW	上2	P14	Ⅲ上	台付き壺	ほぼ完形(口唇部欠損)		文様貼附(5単位)、横位條帯(條帯上刺突列)	L・R		台	Ⅲ-5	
2047	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢AⅠ1a	ほぼ完形	平縁、角状、細文	磨消細文	L・R	ナデ、ミガキ?	平坦	Ⅲ-6-1	補修孔有、外面縁付着
2048	GW	上2	P14・O14	Ⅲ上	浅鉢(杯状)	1/2完形	平縁、丸み、段状突起	ミガキ、穿孔有	無文	ナデ	丸底状、ミガキ	Ⅲ-6	口唇部の突起は段状で平気味に挟まれている
2049	GW	上2	P14	Ⅲ上	台付きⅢ	口~胴部	平縁、又採附状突起、沈線、刻目帯	入組み状文(連結木葉状文)、非結束羽状細文、磨消細文、内面に細文	L・R・L	ナデ	台	Ⅲ-3	
2050	GW	上2	O14・P14	Ⅲ上	深鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	口縁部・脚部下半無文帯	L・R	ナデ	平坦、ミガキ、帯?	Ⅲ-6-1	内外面縁付着
2051	GW	上2	P14	Ⅲ上	鉢DⅠa	1/2完形	平縁、丸み	平行沈線、ミガキ	L・R	ナデ	平坦、木葉縁	Ⅲ-6-1	外面縁僅量付着
2052	GW	上2	P14	Ⅲ上	浅鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	平行沈線、ミガキ	L・R	ナデ	若干上げ底状	Ⅲ-5	形態から晩期初頭と思われる
2053	GW	上2	P14	Ⅲ上	注口土器F d	1/2完形		平行沈線、菱形状沈線(X字で重れば8単位)、円形刺突、ミガキ	L・R	ナデ	台	Ⅲ-3	外面は光沢を感じるほど丹念に磨かれていて、加曾利B2~B3併行
2054	GW	上2	P14	Ⅲ上	台付き鉢?	台部		入組み帯状文、磨消細文	L・R	ナデ、ケズリ	台	Ⅲ-6	底部の穿孔は焼成前に穿たれている
2055	GW	上2	P14	Ⅲ上(3J16)	壺	ほぼ完形(底部欠損)	平縁、丸み	頸部に帯状突起(6単位)	R・L	ナデ	平坦	Ⅲ-1	粘土に粗磨混入
2057	GW	上2	O14・P13・I4	Ⅲ上	深鉢AⅠ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	ケズリ、脚部下半に6cm幅無文帯	R・L	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	上面縁は楕円形、内外面縁付着
2058	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢C a	脚~底部		磨消細文?	L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	加曾利B1式並行、内面縁付着
2059	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢	口縁部	小波状口縁、角状	網目状線入り糸文	r	ナデ	台	Ⅲ-6-1	
2060	GW	上2	P14	Ⅲ上	台付き鉢	脚部		帯状文(クラック状)、磨消細文?	無文	ナデ	台	Ⅲ-6	
2061	GW	上2	P14・P16	Ⅲ上	深鉢	口~胴部	平縁、丸み、耳状突起(3単位)		L・R	ナデ	平坦	Ⅲ-2-1	内外面縁付着
2062	GW	上2	P14・P15	Ⅲ上	深鉢BⅠ	口~胴部中位	平縁、角状	磨り糸文	輻射絡条体(L無筋)	ナデ	平坦	Ⅲ-6-1	
2063	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢	底部		ミガキ	無文		平坦、網代縁	Ⅲ-6-1	
2064	GW	上2	P15	Ⅲ上	壺	脚~底部			無文		平坦	Ⅲ-6	
2065	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢	口縁部	波状口縁、突起		L・R	ナデ	台、平行沈線	Ⅲ-6-4?	内面縁付着
2066	GW	上2	P14	Ⅲ上	台付き鉢	脚部			無文		台	Ⅲ-6-1	外面縁付着
2067	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢	底部			無文		平坦、網代縁、指紋	Ⅲ-6-1	外面縁付着
2068	GW	上2	P14	Ⅲ上・下	鉢CⅠa	ほぼ完形	平縁、丸み、突起(2単位)	突起部貼付文、S字状文、渦巻き状文(沈線、文様単位規則性なし)	無文	ナデ、ミガキ	平坦	Ⅲ-1-1	外面一部剥落
2069	GW	上2	P15	Ⅲ上	深鉢	口縁部	山形状口縁、突起、沈線	磨消細文	L・R		平坦	Ⅲ-3	内面黒色顔料塗布
2070	GW	上2	P14	Ⅲ上	深鉢	口縁部	平縁、角状	刺突列、磨消細文	L・R		平坦	Ⅲ-3	加曾利B2式並行、内外面縁付着

第55表 遺構外土器 (22)

機軸番号	出土地点	斜面	出土地点	器種名	残存部位	口唇形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
2071	GW	中1 J3	Ⅰ	深鉢	口唇部	平縁、丸み、貝殻縁線文	貝殻縁線文	無文	ナデ		Ⅰ-2	胎土に薬液埋入、時期検討要する
2072	GW	中1 L7・M9	Ⅲ上	注口土器B	ほぼ完形(口部欠損)	平縁、丸み、B突起	先鋭貼附、入組み状文(変形連節木葉文)	無文	ナデ、ケズリ	上げ底状	Ⅲ-5	時期検討要する
2073	GW	中1 M8	Ⅲ上(8C)	注口土器	ほぼ完形(口部欠損)	平縁、丸み、B突起	ミガキ	無文	ナデ、ケズリ	上げ底状	Ⅲ-6-4	内面黒色処理?
2074	GW	中1 L7	Ⅲ上	深鉢HⅢ1a	ほぼ完形	平縁、B突起	辛焼状文	L R	ミガキ	平垣、ミガキ	Ⅳ-2-2	外面麻付着
2075	GW	中1 M8	Ⅲ上	鉢	口唇部	平縁、丸み、B突起	入組み状文(X文字意匠)、短沈線、三叉文、ミガキ	L R	ミガキ		Ⅳ-1-2	
2076	GW	中1 M9	Ⅲ上	台付き浅鉢	完形	平縁、角状	ナデ	無文	ミガキ	台	Ⅲ-6-4	碗形、台状を呈する
2077	GW	中1 M9	Ⅰ、Ⅲ上	深鉢EⅠ1	ほぼ完形(底部欠損)	平縁、内削ぎ、初まり列	平行沈線間に列点状刺突(突き起こし状)、縦長帯状貼附(帯の上に刻み目、5単位)	無文	ナデ	台	Ⅲ-5	胎土は赤色を帯びる、器形から十腰内V式と判断した、変形式?
2078	GW	中1 M8	Ⅲ上	鉢JⅠ1a	1/2完形	平縁、丸み、B突起	辛焼状文、ミガキ	L R	ナデ、ミガキ	平垣、ミガキ	Ⅳ-2-2	
2079	GW	中1 M9	Ⅲ上	台付き深鉢LⅠ1d	完形	平縁、丸み	貼附、帯状文(変形連節木葉文)、磨消細文	L R	ナデ	台	Ⅲ-4	釉は文様の接点に付く
2080	GW	中1 M9	Ⅲ上	注口土器DⅠ1d	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、角状	貼附、刻み目、入組み帯状文、磨消細文	L 無節	ナデ	台	Ⅲ-5	上面腹は方形、口唇部両側縁に小形の刺突文を配する
2081	GW	中1 M9	Ⅲ上	鉢GⅠ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	頸部に先鋭貼附	L R	ナデ	平垣	Ⅲ-5	口縁部は無文、貼附は小さい
2082	GW	中1 M9	Ⅲ上	台付き鉢GⅠ1d	1/2完形	平縁、角状	先鋭貼附(約2.5cm間隔)、3条の横位帯状文	L R	ナデ	台	Ⅲ-5	底部内面付近剥落多い
2083	GW	中1 M9・M12	Ⅰ、Ⅲ上	深鉢	ほぼ完形(底部欠損)	平縁、内削ぎ、肥厚	非結束羽状細文	L R・R L	ケズリ、ミガキ?		Ⅲ-6	胎土に粗織埋入、外面麻付着
2084	GW	中1 M9	Ⅲ上	双脚注口土器	ほぼ完形(上部欠損)	双脚形	先鋭貼附、磨消による入組み帯状文(磨消状、磨消文?)	無文	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	双脚部と脚部の接点(接着部分)にアスファルトが付着する事から補修している可能性
2085	GW	中1 N9	Ⅲ上	壺	完形	平縁、角状	把手状貼附(縦に孔有)、入組み状文(連結帯状文)、ミガキ	無文		平垣、ミガキ	Ⅲ-5	
2086	GW	中1 N9	Ⅲ上	深鉢	口唇部	平縁、内削ぎ、3個一対の瘤状小突起	磨消細文、帯状文、帯状文上に刺突列	無文			Ⅲ-5	内外面麻付着、刺突文は人間の指の大きさ以上に比較して小さめであるが指頭圧痕の可能性がある
2087	GW	中1 N10	Ⅲ上	浅鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	平行沈線、刺突文、ミガキ	無文	ミガキ	上げ底状	Ⅳ-6	
2088	GW	中1 N9	Ⅲ上	深鉢	口唇部	平縁、内削ぎ	貼附、網目状沈線、磨消細文	L R	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6	
2089	GW	中1 N10・O10	Ⅲ上	注口土器EⅠ1b	ほぼ完形	平縁、角状	ミガキ	無文		上げ底状	Ⅲ-5	
2090	GW	中1 N10・O10	Ⅲ上	注口土器CⅠ1d	ほぼ完形	平縁、丸み	ミガキ	無文	ナデ	台	Ⅲ-6-3?	胎土が赤色を帯びる
2091	GW	中1 N10	Ⅲ上	深鉢EⅢ1b	ほぼ完形	平縁、丸み	先鋭貼附、入組み帯状文、磨消細文	L R	ナデ	上げ底状	Ⅲ-5	内外面麻付着
2092	GW	中1 N10	Ⅲ上	深鉢BⅢ1b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ	先鋭貼附、沈線、ミガキ	L R	ミガキ	上げ底状	Ⅲ-5	内外面麻付着
2093	GW	中1 N10	Ⅲ上	鉢Ⅰ1b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ	非結束羽状細文	L R・R L	ナデ、ミガキ	上げ底状	Ⅲ-6	内外面麻付着
2094	GW	中1 N10	Ⅲ上・中	深鉢HⅢ1a	ほぼ完形	平縁、丸み	口縁部端部に先鋭貼附、沈線	L R	ミガキ、ナデ	平垣	Ⅲ-5	内外面麻付着、細文施文後に沈線、ミガキを施している、文様は粗織木葉組、内面調整は口縁部付近ミガキ、底部付近ナデ
2095	GW	中1 N10	Ⅲ上	深鉢	口唇部	平縁、丸み	刺突列	無文	ナデ		Ⅲ-1-1	刺突文は先端二股の工具(竹管?)
2096	GW	中1 N10	Ⅲ上	深鉢	ほぼ完形(底部欠損)	平縁、内削ぎ、小突起(8単位?)	刺突列	L R	ナデ		Ⅳ-5?	内外面麻付着
2097	GW	中1 N10	Ⅲ上~下	香炉形土器	脚部	突起	文様貼附、平行沈線、刺突列、貫通孔	無文	ナデ、ケズリ		Ⅲ-5	
2098	GW	中1 N10	Ⅲ上	深鉢	口唇部	突起	帯状文上に先鋭貼附、縦位の連弧文、磨消細文、深き彫り状	L R	ナデ、ケズリ		Ⅲ-5	胎土に石英?混入
2099	GW	中1 N10	Ⅲ上	深鉢HⅠ	口唇部下半	平縁、内削ぎ、肥厚、又状突起	先鋭貼附、入組み帯状文(磨消状)、赤黒細文	L R	ナデ		Ⅲ-5	
2100	GW	中1 O10	Ⅲ上	台付き鉢	台部	平縁、角状、B突起	透かし(円形、台形様)、ミガキ	L R	ミガキ	台	Ⅳ-1	B突起は3cm間隔で付加、外面麻付着
2101	GW	中1 N10・O10・O11	Ⅲ上	鉢Ⅰ1a	1/2完形	平縁、角状、B突起	辛焼状文	L R	ミガキ	平垣、ケズリ	Ⅳ-2-1	
2102	GW	中1 O10	Ⅲ上	深鉢	口唇部	平縁、内削ぎ、平口状突起	三叉文、磨消細文	R L	ナデ		Ⅳ-1-1	内外面麻付着、柄り込みによる三叉文、入組み状文は3長の柄り返しにより備後、福田丘陵に類例有
2103	GW	中1 O11・N10	Ⅲ上	深鉢GⅢ1b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、肥厚	非結束羽状細文	L R・R L	ナデ	上げ底状	Ⅲ-6-4	上面腹は楕円形、縁は内外面とも口唇部中位付近に付着
2104	GW	中1 O11・O12	Ⅰ、Ⅲ上	皿	口唇部	裝飾突起、B突起	入組み三叉文、沈線	L R	ナデ		Ⅳ-1-2	台付き皿?、口縁部内面に磨消による入組み文
2105	GW	中1 O10	Ⅲ上	注口土器	ほぼ完形(口部欠損)	平縁、丸み	ミガキ	無文		小形上げ底状	Ⅲ-5	十腰内V式?
2106	GW	上2 O13	Ⅲ上	深鉢AⅡ1a	口唇部	平縁、丸み	口縁部3cm程、底部0.5cm無縁文帯	R L	ナデ	平垣	Ⅲ-6	内外面麻付着
2107	GW	中1 O11	Ⅲ上	注口土器Gc	ほぼ完形(口唇部欠損)	平縁、丸み	三叉文、磨消文、列点沈線(短沈線)	無文	ナデ、ミガキ	丸底状、ミガキ	Ⅳ-1-2	

第56表 遺構外土器 (23)

編號	出土地点	剖面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口唇部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
2108	GW	中1	O11	皿上	浅鉢	突起部	裝飾突起	隆帯、沈線、ミガキ、動物意匠(土偶の顔?)、内面に沈線・三又文				IV-1-2	
2109	GW	中1	O11	皿上	鉢	口~胴部中位	平縁、丸み、刻み目、B突起	平縁状文、内面に沈線(2条)	LR	ミガキ		IV-2-1	単孔土器?、外面失塗布
2110	GW	中1	P10・P11・P12・Q12	I、皿上	壺	胴部		入組み弧線状文(微盛帯)、ミガキ	無文	ナデ		III-5	
2111	GW	中1	P11	皿上	深鉢D III b	1/2完形	平縁、内削ぎ、肥厚、大小の突起突起(5単位)	又状貼瘤、入組み帯状文、充墳縄文、ミガキ	LR(0段多条)、RL	ナデ、ミガキ	上げ底状	III-4	内面黒色処理?、口~胴部中位まではLRを軸とし胴部下半~底部にかけてRLを施文する
2112	GW	中1	Q11・P12	I	浅鉢	口~胴部	平縁、丸み	入組み状文(帯掛状)、ミガキ	LR	ナデ	上げ底状	III-6-2	内外面黒付着
2113	GW	中1	P12	皿上(3Z)	壺	ほぼ完形(口縁部欠損)			無文	ナデ	上げ底状	III-4	胎土に雲母混入
2114	GW	中1	P12	I	深鉢?	口縁部	液状口縁突起(突起頂部に凹形の凹)	貼瘤、凹形文、非結束羽状縄文、磨消縄文	LR・RL	ナデ		III-3	
2115	GW	中1	P12	皿上	台付き蓋 I 11 d	完形	平縁、丸み	又状貼瘤(4単位)、刻み目、弧線状入組み文(微盛帯)	無文		台	III-5	
2116	GW	中1	P12	皿上(3Z)	蓋G 11 c	完形	平縁、内削ぎ	入組み帯状文(変形線状文)、非結束羽状縄文、磨消縄文	LR・RL		丸底状	III-3	胎土に粒径1~3mmの粗礫を多量に含む、十層内IV式占股帯の可能性有
2117	GW	中1	P12	皿上	単孔土器	完形	平縁、丸み	帯状文(縦位)、磨消縄文	LR、L無節	ナデ	平坦	III-2-2	縄文はLRが2ヶ所、他はLである、穿孔部は焼成後に穿たれている
2118	GW	中1	P12	皿上(3L)	深鉢	1/2完形	平縁、丸み	非結束羽状縄文、ミガキ	RL	ナデ	平坦	III-6	外面黒付着
2119	GW	中1	P12	皿上	台付き浅鉢	ほぼ完形(台欠損)	小液状口縁、2層一対の突起突起(5単位)	LR・RL(0段多条)		ナデ	台	III-2-2	
2120	GW	中1	P12	皿上	鉢G 1 a	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、帯状小突起	入組み状文(帯掛状)、非結束羽状縄文、磨消縄文	LR・RL	ナデ、ミガキ	平坦	III-5	十層内IV式の可能性有
2121	GW	中1	P12	皿上	鉢	1/2完形	平縁、内削ぎ	入組み状文(帯掛状)、磨消縄文	LR	ナデ、ミガキ	平坦	III-6	
2122	GW	中1	P12	皿上(3I)	蓋G b	ほぼ完形(口縁部欠損)			RL		上げ底状	III-4	
2123	GW	中1	P12	皿上(3J)	単孔土器	ほぼ完形	平縁、丸み	刻目帯、入組み帯状文(連節本葉文)、非結束羽状縄文、磨消縄文	LR・RL	ナデ	上げ底状	III-3	頸部の上面縁は方形
2124	GW	中1	P12	皿上	注口土器D 11 b	ほぼ完形(注口部欠損)	平縁、又状貼瘤突起	又状貼瘤、弧線状入組み文(微盛帯)	無文		上げ底状	III-5	注口部アスファルト付着、新地式
2125	GW	中1	P12	皿上	台付き皿	ほぼ完形(台部欠損)	平縁、又状貼瘤突起	入組み帯状文(帯掛状)、内面に縄文	LR?		台	III-4	
2126	GW	中1	P12	皿上(3Z)	香炉形土器	ほぼ完形(台部欠損)	平縁、内削ぎ、大小の又状貼瘤突起	又状貼瘤、三又透かし、弧線状文(微盛帯)、凹形透かし(注口部?)、穿孔有	無文		台	III-5	形態は注口土器に類似する
2127	GW	中1	P12・Q12	皿上(3H)	鉢	1/2完形	平縁、角状	平行沈線、S字状文、磨消縄文	LR	ナデ	平坦	III-2-1	
2128	GW	中1	P12	皿上	深鉢D III a	1/2完形	平縁、2個一対の突起突起(4単位)	入組み状文(帯掛状)、充墳縄文	LR	ナデ	平坦	III-4	胎土に金雲母混入、内面黒付着
2129	GW	中1	P12	皿上	深鉢G III a	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、肥厚	又状貼瘤、入組み帯状文、非結束羽状縄文、磨消縄文	LR	ナデ	平坦、ミガキ	III-6-4?	
2130	GW	中1	P12	皿上(3Z)	深鉢D III b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、大小の突起突起(4単位)	又状貼瘤、入組み帯状文(帯掛状)、非結束羽状縄文、充墳縄文、ミガキ	LR・RL	ナデ、ミガキ	上げ底状	III-5	
2131	GW	中1	P12	皿上	鉢G 1	口~胴部中位	平縁、内削ぎ、又状突起	又状貼瘤、入組み帯状文(帯掛状)、非結束羽状縄文、充墳縄文、ミガキ	LR・RL	ナデ、ミガキ		III-4	口唇部の又状突起は3個一対(大1、小2)と2個一対(小2)が交互に付く
2132	GW	中1	P12	皿上	台付き鉢	台部			無文	ナデ、ミガキ?	高台	III-6-2?	時期は十層内III~IV式と思われる、高台付き鉢
2133	GW	中1	P12	皿上	注口土器	胴部		又状貼瘤、入組み状文(帯掛状)、5条平行沈線	無文	ナデ		III-5	精的な工具により入組み状文が施される、新地式?
2134	GW	中1	P12	皿上	台付き鉢?	台部					台、孔有	III-6	台部の穿孔は径2cm程
2135	GW	中1	P12	皿上	深鉢	口縁部	液状口縁、丸み	球帯状文様(沈線)、磨消縄文	LR	ナデ		III-1	沈線による特殊文様
2136	GW	中1	P12	皿上	深鉢	口縁部	液状口縁(5単位)、内削ぎ、肥厚、又状貼瘤突起、微盛帯突起	又状貼瘤、入組み帯状文、非結束羽状縄文、磨消縄文、浮き彫り状	LR・RL	ナデ		III-4	内外面黒付着
2137	GW	中1	P12・Q12	皿上	深鉢D 12 b	ほぼ完形	液状口縁、大形又状突起(5単位?)、小形又状突起	又状貼瘤(5単位)、入組み帯状文(5単位)、非結束羽状縄文、充墳縄文、ミガキ	LR・RL	ナデ	若干上げ底状	III-4	内外面黒微塵付着
2138	GW	中1	P12	皿上	深鉢	胴~底部	平縁、丸み、肥厚、帯状突起	入組み帯状文、非結束羽状縄文、磨消縄文	LR・RL	ナデ	平坦	III-4	内外面黒付着
2139	GW	中1	P12・Q12	皿上~下(3G・3H・3Z)	台付き深鉢D III d	ほぼ完形	平縁、丸み、肥厚、帯状突起(17単位)	入組み帯状文、非結束羽状縄文(異方向)、充墳縄文、ミガキ	RL(0段多条?)	ミガキ	台	III-5?	内外面黒付着(鉢の付着は外面には観られない)、内面黒色処理?
2140	GW	中1	P12	皿上・下	深鉢G III d	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、肥厚	非結束羽状縄文	LR・RL	ミガキ	平坦	III-6-4?	炭化物は胴部下半~底部内面に付着、後蓋以降と推定される
2141	GW	中1	P12	皿上・下	浅鉢	ほぼ完形	平縁、角状、肥厚	非結束羽状縄文	LR・RL	ナデ	上げ底状	III-6-3	
2142	GW	中1	Q11	皿上	深鉢F III b	ほぼ完形	平縁、丸み	頸部に縦長貼瘤	LR	ナデ	平坦	III-5	
2143	GW	中1	Q11	皿上	深鉢F III a	ほぼ完形	平縁、角状	口縁部に6.5cm幅無文帯、非結束羽状縄文	LR・RL	ナデ	平坦	IV-1-1	内外面黒付着
2144	GW	中1	Q11	皿上	鉢 I 1 b	ほぼ完形	平縁、角状	羽状縄文意匠	LR・RL	ナデ、ミガキ	若干上げ底状	III-6-3?	楕形

第57表 遺構外土器 (24)

掲載番号	出土地点	斜面	出土地点	層位	器種名	残存部位	口縁部形態	文様特徴	地文	内面調整	底部形態	分類	備考
2145	GW	中1	Q11	皿上	深鉢	口縁部	小波状口縁、丸み	幾何学文様、磨消細文	L無節		皿	皿-1-1	内外面に沈線による特殊文様
2146	GW	中1	Q12	皿上(3Z)	台付き浅鉢	1/2完形	平縁、丸み	ミガキ	無文	ミガキ?	台	皿-6	内面黒色処理?
2147	GW	中1	Q12	皿上	鉢	口~底部	平縁、丸み	L無節	L無節	ミガキ	台	皿-6-4	幾何学内面黒化?付着
2148	GW	中1	Q12	皿上(3C)	深鉢G III a	ほぼ完形	平縁、丸み?、肥厚、2個一対の又状突起(5単位)	貼附、入組み帯状文、非結束羽状細文(異方向、規則性が弱い)、ミガキ	L・R・L	ナデ	平皿	皿-5	内外面煤付着、貼附は文様の起点に玉包さ状に配する、内外面煤付着
2149	GW	中1	Q12	皿上	深鉢G III a	ほぼ完形	平縁、丸み	先鋭貼附、丸線状入組み文(縦線)	L R	ナデ	平皿	皿-6	胎土に粗粒砂入、糊塗孔有、一括出土
2150	GW	中1	Q12	皿上(3H5)	注口土器	完形	平縁、角状、又状突起(4単位)	無文	無文	ナデ	平皿、沈線	皿-5	外面全体朱塗布・胴部の中央部分がトーナツ状(環状)を呈し、貼附は整線の上に付加、新地式
2151	GW	中1	Q12	皿上	注口土器?	口~頸部	平縁、丸み、突起?、刻み目	刻み目、ミガキ	L・R・L	ナデ	上げ底状	皿-4	1895と同一個体?
2152	GW	中1	Q12	皿上	単孔土器	完形	平縁、内削ぎ	刻み目、斜行文、平行沈線(3条1単位)、非結束羽状細文、磨消細文?	L・R・L	ナデ	上げ底状	皿-3	
2153	GW	中1	Q12	皿上	台付き浅鉢	1/2完形	平縁、内削ぎ、又状突起、沈線	ナデ	無文		台	皿-6-4	
2154	GW	中1	Q12	皿上	鉢G I b	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、肥厚、2個一対の又状突起(7単位)	又状貼附、入組み帯状文(縦線状、4単位?)、磨消細文	L R、R L		上げ底状	皿-4	
2155	GW	中1	Q12	皿上	壺	口~頸部	平縁、内削ぎ	非結束羽状細文、ミガキ	L R、R L	ナデ、ケズリ	平皿	皿-5	口縁部に付く又状突起は大形突起間に3個一対の小形突起(真ん中がより小形)を配する、内面黒色処理?、底部外面付着黒色
2156	GW	中1	P12・Q12	皿上(3H)	深鉢G III a	ほぼ完形	平縁、内削ぎ、肥厚、大小の又状突起(6単位)	先鋭貼附、入組み帯状文、ミガキ	L R、R L	ナデ	平皿	皿-5	
2157	GW	中1	Q12	皿上	深鉢D III 2 b	ほぼ完形	小波状口縁、内削ぎ、肥厚、大小の突起(5単位)	又状貼附(5単位)、入組み帯状文(縦線状)、非結束羽状細文、充填細文、ミガキ	L R、R L(0段多条?)	ミガキ	若干上げ底状	皿-4	口縁部の突起は頂部に十字状の刻み目が入る
2158	GW	中1	Q12	皿上	深鉢	口~胴部中位	平縁、丸み	3条平行沈線(S字状文)、ミガキ・ケズリ	L R	ナデ	平皿	皿-6	
2159	GW	中1	Q12	皿中	深鉢B I 2 a	ほぼ完形	波状口縁(6単位)、丸み	又状貼附、入組み帯状文、非結束羽状細文、磨消細文(ミガキ)	L R、R L(0段多条)	ナデ	平皿	皿-1-2	
2160	GW	中1	Q13	皿上	深鉢 I 1 a	ほぼ完形	平縁、角状	平行沈線、非結束羽状細文、磨消細文(ミガキ)	L R、R L(0段多条)	ナデ	平皿	皿-4	
2161	GW	中1	Q13	皿上	台付き皿	ほぼ完形	平縁、丸み、突起(4単位)	入組み帯状文、充填細文?、ミガキ	L R、R L	ミガキ	台	皿-4	口縁部の突起は頂部に十字状の刻み目が入る
2162	GW	中1	Q13	皿上	鉢	胴~底部	平縁、丸み	無文	L R	ナデ	平皿	皿-4	L RとL R Lが不明即気味に施文されている部分がある、外面剥落有、内面黒色処理?
2163	GW	中1	Q13	皿上(3H6)	浅鉢	1/2完形	液状口縁、内削ぎ、肥厚、先鋭突起、又状突起	刻目帯、クラック状文、充填細文?	L R	ナデ	上げ底状	皿-6	内面にオレンジ色に染色した部分(付着?)有
2164	GW	中1	Q13	皿上	深鉢D III 2 b	1/2完形	液状口縁、内削ぎ、肥厚、先鋭突起、又状突起	無文	無文	ナデ	上げ底状	皿-4+5	外面剥落部分有
2165	GW	中1	Q13	皿上	鉢	胴~底部	平縁、角状	刻目帯、クラック状文、充填細文?	L R、R L(0段多条)	ナデ	平皿	皿-3	L RとR Lが不明即気味に施文される
2166	GW	中1	Q13	皿上(3F)・皿下	深鉢G III a	ほぼ完形	平縁、角状	複数の刻目帯、入組み帯状文(菱形木葉状文)、非結束羽状細文、磨消細文?	R L(0段多条)	ナデ、ミガキ	平皿	皿-6-3?	外面煤付着、後胴中~葉葉と推定される
2167	GW	中1	Q13	皿上	鉢	口~胴部中位	平縁、内削ぎ、肥厚	刻目帯、クラック状文、充填細文?	L R、R L	ミガキ	平皿	皿-3	
2168	GW	中1	Q13	皿上	壺A I 2 a	1/2完形	波状口縁(4単位)、丸み	刻目帯、クラック状文、充填細文?	L無節	ナデ	平皿	皿-1-2?	内外面煤付着、外面の一部にアスファルト?
2169	GW	中1	Q13	皿上	鉢	胴部中位~底部	平縁、B突起、刻み目	非結束羽状細文	L R、R L	ナデ	平皿	皿-6-3?	後胴中~葉葉と思われる
2170	GW	中1	Q14	皿上(3K)	深鉢	ほぼ完形	平縁、丸み	磨消細文、S字状文、円文、磨消細文(ミガキ)	R L	ナデ	平皿	皿-2-1	内外面煤付着
2171	GC	外	E13第7トレンチ	I	鉢?	胴部	平縁、丸み	磨消細文(丸、九折り状)	R L	ナデ	平皿	皿-2-1	器厚は薄手である
2172	GC	外	E13第7トレンチ	皿上	鉢 I 1 a	1/2完形	平縁、角状	平縁状文	L R	ナデ、ミガキ	平皿、剥落	皿-2-2	
2173	GC	外	F15	皿	注口土器	胴~底部	平縁、B突起、刻み目	羊歯状文、ミガキ	L R	ナデ、ミガキ	平皿、剥落	皿-2-2	
2174	GC	外	H16	皿上	広口四足壺H I 1 b	ほぼ完形	平縁、丸み	無文	無文	ナデ、ミガキ	丸底、沈線、ミガキ	皿-2-1	
2175	GC	外	I10	I	台付き皿	1/2完形	平縁、丸み	頸部に4cmほどの無文帯、非結束羽状細文、ミガキ	無文	ナデ	足(4個)	皿-1	
2176	GC	外	I10	I	壺	口~胴部中位	平縁、角状	頸部に4cmほどの無文帯、非結束羽状細文、ミガキ	L R、R L	ナデ	台	皿-6	時期検討要する、ミニチュア?
2177	GC	外	I10	I	鉢	口~胴部	平縁、丸み	入組み又状文、沈線、ミガキ	L R	ナデ、ミガキ	平皿	皿-1-2	内面調整で指跡と思われる部分有、内面黒色処理?
2178	GC	外	N18	皿上	鉢?	突起部	平縁、丸み	沈線による横位山形状文様	無文	ナデ、ミガキ	平皿	皿-1-2	皿/内2式並行、台部の可能性有
2179	GC	外	F16	I	深鉢	胴部	平縁、丸み	貝殻磨緑文、貝殻条線文	無文	ナデ、ミガキ	平皿	I-2	

第58表 遺構外土器 (25)

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	文様特徴	口径(cm)	底径	器高	厚さ	時期	備考
814	N	内	K11住居跡 P P 93	埋土中	壺	無文		2.0	3.0	0.5	晩期?	
829	N	内	B21住居跡状 3号 Q 3	埋土中	台付き鉢	無文		2.6	2.9	0.5	晩期	
854	N	内	G17土坑12号	埋土中	台付き鉢	無文		2.0	(3.0)	0.4	晩期?	
856	N	内	G19土坑2号	埋土中	鉢	無文	4.6	2.6	3.0	0.3	後期	
863	N	内	I17土坑4号	埋土中	鉢	無文	6.1	2.2	3.6	0.4	後期	
864	N	内	I17土坑4号	埋土中	鉢	無文	5.6	2.6	2.1	0.3	晩期?	
865	N	内	I17土坑8号 Q 1	埋土中	台付き鉢	無文		2.1	3.4	0.3	晩期?	
896	N	内	F15柱穴状土坑1号	埋土中	壺	無文	1.8	1.0	3.2	0.4	晩期?	
897	N	内	F22柱穴状土坑	埋土中	鉢	無文	(2.3)	(1.5)	2.3	0.4	晩期?	
2180	GE	下	G26	Ⅲ上	鉢	無文	(3.6)	7.0	2.15	0.4	後期	
2181	GE	上	C23~D25	Ⅲ	鉢	無節	5.4	2.0	4.2	0.5~1.0	後期	
2182	GE	上	C26	Ⅲ	鉢	L R	6.0	1.8	4.2	0.2~0.4	後期	補修孔
2183	GE	中	D25	Ⅲ下	鉢	無文	4.3	0.9	2.1	0.2~0.5	後期	
2184	GE	上	D21	V	鉢	L R	3.6	1.4	3.3	0.3~0.4	後期	
2185	GE	中	E24	Ⅲ	台付き鉢	無文	2.7	1.4	2.1	0.2	後期	
2186	GE	中	E24	Ⅲ中~下	鉢	羊歯状文、沈線	6.1	3.8	2.4	0.4	晩期	
2187	GE	中	E25	Ⅲ	鉢	沈線文、貼瘤、沈線	6.8	1.7	4.0	0.4	後期後葉	
2188	GE	中	E24	Ⅲ上	鉢	無文	4.4	2.0	3.2	0.5	後期	
2189	GE	中	F27	Ⅲ上	鉢(4足)	無文	(5.0)	(2.6)	(2.8)	0.4	後期	
2190	GE	下	G25	Ⅲ下	台付き鉢	ヘラケズリ	3.2	2.4	2.9	0.4	後期	
2191	GE	下	H25	Ⅲ上	鉢	沈線文	4.8	2.2	2.2	0.5	晩期	
2192	GE	下	H26	Ⅲ下	台付き鉢	無文	2.1	0.8	3.4	0.3	後期	
2193	GE	上	B25	Ⅲ上~中	鉢	無文	(4.3)		(4.2)	(0.4)	後期	
2194	GE	上	C23	I	鉢	羊歯状文、L R			(2.6)	0.5	晩期前葉	
2195	GE	変	C24	Ⅲ下	台付き鉢	無文	(3.2)	(2.1)	(2.2)	(0.5)	後期	
2196	GE	変	C24	Ⅲ下	台付き鉢	L R	(7.2)	3.5	4.9	0.4	後期	
2197	GE	変	C24	Ⅲ下	台付き鉢	無文	(4.7)	(2.7)	(3.6)	0.4	後期	
2198	GE	変	C24	Ⅲ下	台付き鉢	無文	(3.3)	2.4	3.9	0.3	後期	
2199	GE	中	D24	Ⅲ中	鉢	無文	(3.6)	2.3	2.8	0.4	後期	
2200	GE	中	D25	Ⅲ下	鉢	無文	3.3	1.7	3.8	0.3	後期	
2201	GE	中	D25	Ⅲ上	鉢	沈線文	4.8		2.2	0.4~0.5	後期後葉	
2202	GE	中	E24	Ⅲ中	鉢	沈線文、R L	(6.6)	3.0	4.4	0.6	後期中葉	
2203	GE	中	E25	Ⅲ上	鉢	無文	(5.2)		4.5	0.4	後期	
2204	GE	中	E25	Ⅲ	台付き鉢	無文	(4.0)	(1.9)	(2.7)	(0.4)	後期	
2205	GE	中	E25	Ⅲ中	鉢	無文	(5.0)	2.4	2.9	0.5	後期	
2206	GE	中	F25	Ⅲ	鉢	無文	5.5	1.7	4.2	0.3	後期	
2207	GE	中	F27	I	台付き鉢	貼瘤、無文	(5.5)	3.9	3.8	0.4	後期末葉	
2208	GE	下	G26	Ⅲ中	台付き鉢	無文	2.8	2.0	3.2	0.2	後期	
2209	GE	中	G25	Ⅲ上	鉢	無文	4.4		1.4	0.7	後期?	
2210	GE	下	G27	Ⅲ	鉢	沈線文	3.6	2.6	2.7	0.4	後期	
2211	GE	中	F26	Ⅲ中	浅鉢	無文	2.8	2.2	1.6	0.3	後期	
2212	GE	中	D24	Ⅲ中	浅鉢	無文	1.7		1.6	0.7	後期	
2213	GE	下	G27	Ⅲ上	鉢	沈線文、B突起、L R			(3.8)	0.3	晩期初頭	
2214	GE	上	B25~D25	Ⅲ	壺	無文	4.3	2.5	6.7	0.3~0.35	後期	
2215	GE	下	G28	Ⅲ	浅鉢	入組帯状文、磨消縄文、刺突帯、R L	8.8	2.1	4.9	0.6	後期後葉	口唇部形態は丸みの部分と内削ぎ気味の部分とに分れる
2216	GE	変	D24	Ⅲ上	鉢	沈線文			(5.0)	0.5~0.6	後期前葉	
2217	GE	中	G24	Ⅲ	浅鉢	円形刺突文(菱形文)、沈線文、L R	(6.7)	3.3	3.6	0.3	後期中葉	
2218	GE	中	D25土層観察断面	Ⅲ	壺	L R	3.0	3.3	6.9	0.4	後期	補修孔
2219	GE	上	C23~D25	Ⅲ	壺	L R	3.2	2.1	4.6	0.3~0.4	後期	
2220	GE	中	E24	Ⅲ上	壺	無文	3.8	2.0	6.5	0.4~0.65	晩期	
2221	GE	中	E25	Ⅲ	壺	ヘラケズリ?	3.8	3.4	5.4	0.4	後期	
2222	GE	変	C24	Ⅲ	壺	無文	1.9		4.1	0.3	後期	
2223	GE	下	G26	Ⅲ上	壺	ヘラケズリ?	1.6	1.1	2.8	0.7	後期	
2224	GE	下	G27	Ⅲ	壺	ヘラミガキ	3.1	1.7	3.9	0.3	晩期	
2225	GE	中	F26	Ⅲ中	壺	無文	1.2	1.4	3.1	0.5	後期	
2226	GE	中	F27~E26土層観察断面	Ⅲ(3)	壺	R L	3.8		(5.5)	0.8	後期	
2227	GE	中	G25	Ⅲ上	壺	沈線文	(3.7)	(1.4)	(2.8)	0.4	後期後葉	
2228	GE	下	G26	Ⅲ下	壺	無文	(3.5)	2.0	6.6	0.5	晩期?	
2229	GE	中	F26・G25	Ⅲ中	壺	縦位平行沈線(5単位)、無文	(3.7)	2.0	6.9	0.5	後期中葉	
2230	GE	下	F26	Ⅲ下	壺	沈線文、沈線	2.8	1.8	5.3	0.5	後期末葉	
2231	GE	中	D24	Ⅲ中	壺	無文		0.9	(0.3)	0.3~0.5	後期	
2232	GE	中	E25	Ⅲ	壺	沈線文、沈線		4.5	6.2	0.6	晩期初頭	
2233	GE	上	C26	Ⅲ	壺	L R		1.5	(3.2)	0.3~0.5	後期	
2234	GE	上	B26	Ⅲ	壺	沈線文、L R			(2.9)	0.2~0.4	後期前葉	朱塗布、切断?
2235	GE	中	D26	Ⅲ下	壺	沈線文、R L		1.6	3.5	0.3~0.5	後期中葉	
2236	GE	中	D25	Ⅲ上	壺	羊歯状文	(2.6)		(2.6)	0.3	晩期前葉	
2237	GE	変	D24	Ⅲ上	壺(注口付)	無文	(2.3)	1.4	2.8	0.4	後期	
2238	GE	中	D26	Ⅲ	注口土器	沈線文、沈線、L R	2.8	2.4	6.3	0.4	後期末葉	
2239	GE	中	D26	Ⅲ下	注口土器	刺突文、沈線文、沈線	1.9	1.8	6.3	0.4	後期末葉	
2240	GE	中	E26	Ⅲ中	壺(注口)	R L		1.3	(5.6)	0.5	後期	
2241	GE	中	E26	Ⅲ下	注口土器	沈線文、沈線	3.8		5.3	0.5	後期後葉	
2242	GE	中	F25	Ⅲ中	注口土器	無文	(2.4)	2.3	4.9	0.5	後期中葉?	
2243	GE	中	E25	Ⅲ下	浅皿	無文	(5.3)		1.4	0.4	後期?	四ツ足
2244	GE	変	C24	IV上	皿	沈線文	(3.6)		(2.1)	(0.4)	後期末葉?	
2245	GE	中	D25	Ⅲ	カップ型土製品	無文	2.1	1.5?	3.0	0.4	後期	
2246	GW	上1	I 8	I	鉢	無文	3.6	2.0	2.1	0.4	晩期?	
2247	GW	上1	I 8	Ⅲ上	鉢	無文	4.9		3.1	0.5	後期	
2248	GW	上1	J10	I下	鉢	無文	5.4		3.3	0.4	後期	
2249	GW	上1	K 9	Ⅲ上	鉢	L R、磨り消し	5.7	1.3	3.2	0.4	後期	
2250	GW	上1	K 9	Ⅲ上	鉢	ヘラケズリ	6.7	3.9	2.6	0.4	後期	
2251	GW	中1	L 9・M9	Ⅲ上	鉢	ヘラミガキ	6.7	2.8	3.6	0.4	晩期?	
2252	GW	上1	L 9	Ⅲ上	鉢	無文	3.8	1.8	2.8	0.5	後期	
2253	GW	中1	L 9・M9	Ⅲ上	鉢	L R	6.7	2.3	4.8	0.4	後期	
2254	GW	上1	L10	Ⅲ上	鉢	ヘラケズリ	4.7	2.3	4.8	0.4	後期	
2255	GW	上1	M10	Ⅲ上	鉢	無文	4.2	1.5	2.2	0.3	後期?	孔有
2256	GW	上1	L 8~M 8土層観察断面	Ⅲ(再堆積層)	鉢	ヘラケズリ	4.1	1.5	1.8	0.4	後期	
2257	GW	上1	L10	Ⅲ上	鉢	ヘラケズリ、手づくね	4.0		1.8	0.5	後期	

第59表 土製品 (1) ミニチュア土器

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	文様特徴	口径(cm)	底径	器高	厚さ	時期	備考
2258	GW	上1	L 8~M 8 土層観察断面	Ⅲ(再堆積層)	鉢	ヘラケズリ	4.4	1.4	1.9	0.3	後期	
2259	GW	上1	M10	Ⅲ	鉢	沈線文		1.9	(1.8)	0.4	後期後葉?	
2260	GW	上2	N11	Ⅲ上	鉢	無文	4.6		1.9	0.5	後期	
2261	GW	上1	M11	Ⅲ上	台付き鉢	無文	3.7	2.3	3.2	0.3	後期	
2262	GW	上1	L10	Ⅲ上	台付き鉢	無文	6.8	4.2	3.8	0.5	後期	
2263	GW	上1	L 9	Ⅲ上	台付き鉢	ミガキ?	5.7	(4.1)	5.6	0.5	後期後葉?	
2264	GW	上1	K 9	Ⅲ上	台付き鉢	沈線文、刺突文、貼瘤		3.7	(6.5)	0.4~0.6	後期末葉	
2265	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	無文	2.0	0.8	1.6	0.2	後期	
2266	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	沈線文、貼瘤、磨消縄文、RL	6.3	1.5	6.1	0.4	後期後葉	
2267	GW	上2	P13	Ⅱ	鉢	沈線文	(4.9)	1.4	(3.7)	0.6	後期後葉	
2268	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	無文	3.6	1.4	3.5	0.4	後期	
2269	GW	上1	L 9	Ⅲ上	台付き鉢	沈線文			3.2	0.9	後期中葉?	
2270	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	無文	3.3	0.8	1.9	0.2	後期	
2271	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	L R	3.9	1.3	1.7	0.3	後期	
2272	GW	上2	P14	Ⅲ上	鉢	無文	3.5	1.9	3.4	0.3	後期	
2273	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	沈線文、磨消縄文、L R	5.1	1.4	2.5	0.5	後期中葉	
2274	GW	中1	M 9	Ⅲ上、中	台付き鉢	無文	4.4	2.9	2.3	0.3	晩期	
2275	GW	上1	K 7	I	鉢	無文	3.4	1.5	2.8	0.4	後期後葉?	
2276	GW	上2	P14	Ⅲ上	台付き鉢	網目状沈線文	5.8	2.3	7.2	0.4	後期前~中葉	
2277	GW	中1	P12	Ⅲ上	台付き鉢	沈線文	7.0	2.4	5.9	0.4	後期中葉	
2278	GW	上1	I 7・J 7	I、Ⅲ上	鉢	入組三叉文、ミガキ、沈線、L R	(7.9)	3.1	4.6	0.4	晩期初頭	大洞B式
2279	GW	中1	M 9	Ⅲ上	鉢	刺突文		1.1	(2.5)	0.2	後期後葉	
2280	GW	上2	P13	Ⅲ上	鉢	頸部に沈線と刻み、無文	9.0	2.5	5.7	0.5	後期中葉	
2281	GW	中1	P12	Ⅲ上	鉢	L R	(6.1)	3.0	7.0	0.5	後期	
2282	GW	上2	O13	Ⅱ	鉢	ミガキ、無文	8.8	3.0	5.5	0.8	後期	
2283	GW	上1	K 8	I	鉢	沈線文、磨消縄文、沈線、L R		1.8	(2.6)	0.4	後期中葉	
2284	GW	上2	P14	Ⅲ上	鉢	L R	7.7	4.54	5.15	0.4	後期	
2285	GW	上2	Q13	Ⅲ上(3B)	鉢	無文	(9.5)	2.4	7.1	0.5	後期末葉	
2286	GW	上1	L10	Ⅲ上、下	鉢			3.2	0.8	0.3	晩期?	底面に沈線文
2287	GW	上1	M11	Ⅲ	鉢	弧線状文、刺突文、無文				0.4	後期中葉	
2288	GW	上2	Q13	Ⅲ上	浅鉢	無文	7.0		2.9	0.6	後期	底部形態は若干丸底状
2289	GW	上1	K 8	Ⅲ上	浅鉢	刺突文	(3.8)	(1.5)	1.3	0.1~0.4	晩期?	
2290	GW	中1	O11	Ⅲ上	台付き浅鉢	無文	4.0	2.3	1.8	0.3	晩期?	
2291	GW	上1	I 7	I	壺	L R	3.6	2.5	3.8	0.5	晩期?	
2292	GW	中1	M 8	Ⅲ上	壺	L R	2.9	3.4	6.5	0.4	晩期	
2293	GW	上1	J 8	Ⅲ上	壺	無文	2.3	2.0	4.3	0.4	後期	
2294	GW	上1	L11	Ⅲ上	壺	ヘラミガキ	3.0	2.2	4.8	0.4	晩期?	
2295	GW	上1	N14	Ⅲ上	壺	無文	1.0	0.8	2.4	0.3	後期	
2296	GW	中1	O11	Ⅲ上	壺	無文	2.8	2.0	4.0	0.3	晩期?	
2297	GW	上2	Q13	Ⅲ上	壺	沈線文		1.3	(4.9)	0.5	後期	
2298	GW	上2	P13	Ⅲ上	壺	沈線文、磨消縄文、L R	3.0	1.6	6.6	0.5	後期中葉	
2299	GW	中1	Q11	Ⅲ上	壺	無文	2.8	2.4	5.3	0.5	晩期	
2300	GW	上2	O13	Ⅲ上	壺	沈線、ミガキ、無文	2.9	2.2	8.5	0.7	後期末葉	
2301	GW	上2	P13	Ⅲ上(3H)	壺	沈線、入組状文、ミガキ、RL(0段多袋)	4.1	2.0	7.8	0.6	後期後葉	
2302	GW	上2	Q14	Ⅲ上	壺	沈線文	1.8	1.8	3.2	0.5	後期前葉	
2303	GW	上1	J 9	Ⅲ上	壺	沈線文、貼瘤		1.7	(3.0)	0.3	後期後葉	
2304	GW	上2	O12	Ⅲ上	壺	無文			2.9	0.7	晩期?	
2305	GW	上1	H 7	I	注口土器	沈線文	2.4	1.8	6.0	0.4	後期前葉	
2306	GW	上1	I 7	I	注口土器	羊歯状文、無文			5.6	0.5	晩期前葉	
2307	GW	上2	P13	Ⅲ上	注口土器	無文	2.6		4.1	0.5	晩期?	
2308	GW	上1	P15	I	注口土器	沈線文	(2.5)	1.8	1.7	0.6	後期	朱塗布
2309	GW	上2	N12	Ⅲ上	注口土器	無文		3.2	6.5	0.4	晩期	
2310	GW	上1	J 8	Ⅲ上	台付き皿	無文	2.9	2.2	2.4		後期中葉?	朱塗布
2311	GW	上1	L 9	Ⅲ上	注口土器	貼瘤、沈線	3.9	1.7	6.6	0.4	後期末葉	
2312	GW	上1	K 9	Ⅲ上	蓋	沈線文、沈線	5.6		2.7	0.7	後期前葉	
2313	GC	外	E14	Ⅲ上	台付き鉢	ミガキ、無文	3.8	2.7	3.7	0.4	後期後葉?	

第60表 土製品(2) ミニチュア土器

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	文様	長さ(m)	幅(cm)	厚さ(cm)	時期	備考
815	N	内	G11住居跡状Q1	埋土上位(7)	土偶	肩部右	R・L・R	(5.8)	(6.8)	(3.3)	後期末～晩期	
819	N	内	F13住居跡	埋土中	土偶	肩部左		(5.4)	(7.8)	(3.0)	後期	
827	N	内	C24住居跡状	埋土中(1)	土偶	腕部左		(3.5)	(1.4)	(1.3)	後期	
840	N	内	D17土坑	埋土中	土偶	腹～下腹部右	沈線文	(2.0)	(1.5)	(0.8)	後期中葉?	
841	N	内	E19土坑2号	埋土中	土偶	下腹～足部右の一部		(4.3)	(3.2)	(1.6)	晩期中葉	中空土偶
844	N	内	E26土坑Q2	埋土下位	土偶	胸～下腹部、足部左、腕部、乳部、へそ部	沈線文	(5.3)	(3.4)	(1.5)	後期後葉	
845	N	内	F12土坑1号	埋土中(6)	土偶	腹～下腹部		(7.1)	(5.0)	(1.8)	後期後～末葉	
853	N	内	G17土坑1号	埋土中	土偶	腹～下腹部		(3.8)	(2.2)	(1.3)	後期中葉	朱塗布
860	N	内	H17土坑6号	埋土中	土偶	足部右		(3.0)	(1.6)	(1.5)	後期中～後葉	
866	N	内	I18土坑1号	埋土中	土偶	腕部左		(2.8)	(1.5)	(1.3)	後期	
869	N	内	J17土坑4号	埋土中	土偶	胸～下腹部、乳部、へそ部	沈線文	(8.1)	(6.0)	(1.4)	後期初頭	板状土偶
871	N	内	J21土坑3号	埋土中	土偶	腹～下腹部、足部右の一部	刺突文、沈線文	(6.9)	(3.6)	(3.3)	後期中～後葉	
883	N	内	L20土坑2号	埋土中	土偶	足部左	沈線文、L R	(2.8)	(2.0)	(2.2)	後期後葉	
884	N	内	M14土坑1号	埋土中	土偶	頭部		(2.9)	(3.3)	(1.5)	後期中葉	耳貫通孔有
887	N	内	N16土坑1号	埋土中	土偶	腹～下腹部	沈線文、R L	(4.3)	(3.1)	(1.5)	後期後葉?	
888	N	内	N16土坑3号	埋土中	土偶	腰部	刺突文	(4.2)	(5.3)	(2.3)	晩期	アスファルト付着、中空土偶
900	N	内	H14柱状土坑8号	埋土中	土偶	腰部	沈線文、L R	(3.5)	(5.9)	(1.1)	晩期前葉	中空土偶、大洞B～C式
1319	G E	中	E24	Ⅲ	土偶	頭部		(3.2)	(2.4)	(2.6)	後期中葉	後頭部貫通孔有
2314	G E	中	F27～E26	I?	土偶	頭部		(2.7)	(2.9)	(2.2)	後期後葉	頭頂部・耳・鼻・口孔有、田柄I式
2315	G E	中	E25	Ⅲ下(6)	土偶	頭部	沈線文、L R	(4.0)	(3.5)	(2.8)	後期後葉	後頭部貫通孔有、田柄II式
2316	G E	中	D25	Ⅲ中	土偶	頭部		(2.5)	(2.4)	(2.0)	後期中葉	
2317	G E	上	C25	Ⅲ中～下	土偶	頭部		(6.5)	(6.9)	(4.9)	後期後葉	頭頂部・耳・鼻・口孔有
2318	G E	中	E24	Ⅲ上	土偶	頭部	沈線文	(3.4)	(3.4)	(2.6)	後期後葉	後頭部・耳貫通孔有、鼻孔有
2320	G E	下	F27	Ⅲ下	土偶	頭～肩部右		(4.6)	(3.3)	(2.7)	後期中葉	後頭部貫通孔有
2321	G E	中	E25	Ⅲ上	土偶	頭部		(3.1)	(2.0)	(2.7)	後期後葉	後頭部貫通孔有、鼻孔有
2322	G E	中	F26	Ⅲ上	土偶	頭部		(2.3)	(3.6)	(2.5)	後期中葉	頭頂部孔有
2323	G E	下	G26	Ⅲ下	土偶	頭部	刺突文、L R	(5.7)	(5.1)	(5.5)	後期後葉	後頭部貫通孔有、鼻孔有、朱塗布
2324	G E	上	C23	I	土偶	腹～足部(足先欠損)、へそ部	刺突文	(3.5)	(1.9)	(1.4)	後期後葉	
2325	G E	上	C26	Ⅲ	土偶	肩部、胸～足部、乳部、へそ部		(9.9)	(7.1)	(1.9)	後期後葉	
2326	G E	上	D23	I	土偶	胸～下腹部、乳部		(3.5)	(2.3)	(1.4)	後期中～後葉	アスファルト付着
2327	G E	中	D26	Ⅲ最下位	土偶	腹～足部(足先欠損)	刺突文	(5.7)	(3.9)	(1.8)	後期前～中葉	
2328	G E	上	C26	Ⅲ上(3)	土偶	肩部、胸～下腹部、腕部左の一部、乳部	刺突文	(7.4)	(7.0)	(2.6)	後期後葉	アスファルト付着
2329	G E	中	D26	I	土偶	完形	無文	2.5	3.0	1.3	後期	頭部の無い土偶?
2330	G E	中	E24	Ⅲ上	土偶	肩部、胸～腹部、腕部右、乳部	刺突文	(4.6)	(7.0)	(1.6)	後期前葉	アスファルト付着
2331	G E	中	E24	Ⅲ中(3b)	土偶	胸～下腹部、へそ部	沈線文	(5.4)	(2.0)	(1.4)	後期後葉	
2332	G E	下	F26	Ⅲ下	土偶	肩部、胸～足部(足先欠損)、乳部	刺突文、沈線文、L R	(6.7)	(3.8)	(1.9)	後期中葉	へそ孔有
2333	G E	中	D25～G26土層観察断面	Ⅲ(3c)	土偶	下腹部	刺突文、沈線文、L R	(5.7)	(4.8)	(3.5)	後期後葉	
2334	G E	中	D25	Ⅲ中(3b)	土偶	肩部、胸～足部(足先欠損)、腕部左、乳部	刺突文、沈線文	(11.8)	(7.4)	(3.1)	後期後葉	
2335	G E	上	C24	I	土偶	腕部左	刺突文	(3.4)	(2.3)	(1.7)	後期中葉	
2336	G E	中	E25	Ⅲ中	土偶	肩部右、腕部右(足先欠損)	沈線文、L R	(4.0)	(3.1)	(1.6)	後期後葉	
2337	G E	下	F27	Ⅲ中	土偶	肩部左、腕部左		(4.5)	(2.5)	(1.5)	後期	
2338	G E	上	C23～D25	Ⅲ	土偶	肩部左、腕部左	刺突文	(4.0)	(3.0)	(2.0)	後期中葉	
2339	G E	上	B24	Ⅲ中(3b)	土偶	足部右	沈線文、R L	(4.3)	(1.5)	(1.9)	後期中葉	朱塗布
2340	G E	中	D25	Ⅲ中	土偶	足部右		(4.2)	(1.9)	(2.0)	後期後葉	
2341	G E	上	C24	Ⅲ上	土偶	足部左	刺突文、沈線文	(6.5)	(3.7)	(2.4)	後期前葉	
2342	G E	上	B25	Ⅲ下	土偶	足部左	沈線文、L R	(6.7)	(2.1)	(3.0)	後期中葉	
2343	G E	変	C25	Ⅲ中	土偶	腕部左	沈線文	(3.5)	(2.1)	(2.2)	後期中～後葉	
2344	G E	上	C23	Ⅲ下	土偶	足部左	沈線文、L R	(2.1)	(2.8)	(3.0)	後期	
2345	G E	変	D24	Ⅲ上	土偶	足部右		(2.0)	(1.9)	(1.9)	後期中葉	
2346	G E	中	D25	Ⅲ中(3b)	土偶	腕部		(4.3)	(2.4)	(2.1)	後期中葉?	
2347	G E	中	D27	Ⅲ上	土偶	足部左	刺突文、沈線文	(3.3)	(1.5)	(1.0)	後期末葉	
2348	G E	中	E24	Ⅲ下	土偶	足部右	刺突文	(2.1)	(2.1)	(2.4)	後期前葉	アスファルト付着
2349	G E	下	G26	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文、R L	(7.5)	(2.5)	(3.4)	後期後葉	
2350	G E	下	G26	I下	土偶	足部右		(3.9)	(2.5)	(3.3)	後期前～中葉	
2351	G E	下	F26	Ⅲ下	土偶	下腹部右、足部右	沈線文、L R	(16.1)	(5.0)	(5.6)	後期中葉	孔有
2352	G E	下	G26	Ⅲ上	土偶	足部右	沈線文	(2.9)	(1.3)	(2.1)	後期後葉	
2353	G E	中	G25	Ⅱ(2)	土偶	足部左	沈線文	(3.4)	(1.5)	(1.9)	後期中～後葉	
2354	G E	下	G26	Ⅲ	土偶	足部左(足先欠損)	刺突文、沈線文	(5.2)	(2.2)	(2.6)	後期後葉	アスファルト付着
2355	G E	上	B25	I	土偶	肩部右	刺突文	(4.0)	(3.9)	(1.5)	後期中葉	
2356	G E	上	C26	Ⅲ上	土偶	胸～下腹部		(4.5)	(1.6)	(1.4)	後期中葉?	首が無い土偶?
2357	G E	上	B23	Ⅲ中	土偶	腕部左		(3.3)	(1.6)	(1.7)	後期後葉	
2358	G E	中	D25～G26土層観察断面	Ⅲ(3i)	土偶	胸～下腹部		(4.2)	(1.7)	(1.0)	後期	
2359	G E	上	D21	Ⅲ上	土偶	腕部、足部?		(2.6)	(1.4)	(1.3)	後期後葉	
2360	G E	中	F26	Ⅲ中	土偶	胸～下腹部、足部左の一部、乳部右	刺突文、沈線文	(6.0)	(3.1)	(1.8)	後期中葉	新山I式
2361	G E	下	G26	Ⅲ上	土偶	腹～下腹部	沈線文	(3.4)	(2.5)	(1.5)	後期前葉?	アスファルト付着
2362	G E	中	F27～E26土層観察断面	Ⅲ(再堆積層)	土偶	肩部、胸～腹部		(2.0)	(3.1)	(1.3)	後期	
2363	G E	中	C23～D25土層観察断面	Ⅲ上	土偶	下腹部	沈線文、L R	(4.4)	(4.0)	(2.5)	後期後～末葉	
2364	G E	中	D25	Ⅲ下	土偶	下腹～足部左	沈線文	(6.3)	(3.9)	(2.0)	後期後葉?	
2365	G E	中	F26	Ⅲ中	土偶	肩部右、腕部右	沈線文、L R	(5.0)	(4.2)	(2.0)	後期後葉	頸部ソケット状(凹部)
2366	G E	中	D25	Ⅲ最下位	土偶	肩部左	沈線文	(3.3)	(3.6)	(2.3)	後期後葉?	
2367	G E	中	E25土層観察断面	Ⅲ(再堆積層)	土偶	肩部左		(3.7)	(3.7)	(1.9)	後期	
2368	G E	中	F27	Ⅲ上	土偶	肩部右		(2.1)	(5.0)	(1.7)	後期	アスファルト付着
2369	G E	中	F26	Ⅲ中	土偶	肩部右	沈線文、L R	(3.3)	(3.7)	(2.0)	後期中葉	
2370	G E	東部捨て場		I	土偶	肩部右、腕部右	刺突文、沈線文	(4.2)	(3.4)	(1.5)	後期中葉	
2371	G E	中	E25	Ⅲ上	土偶	腕部左	沈線文、L R	(4.7)	(2.9)	(1.7)	後期後葉	
2372	G E	中	D26	Ⅲ下	土偶	肩部左、腕部左	沈線文	(5.4)	(2.8)	(1.8)	後期後葉	朱塗布、田柄I式?
2373	G E	中	F27	I	土偶	足部左		(3.8)	(1.6)	(1.5)	後期	
2374	G E	変	B25～D25	Ⅲ上	土偶	腕部右		(5.6)	(1.9)	(1.5)	後期	
2375	G E	中	G23	Ⅲ上	土偶	足部左	刺突文	(2.3)	(1.4)	(1.3)	後期中葉	
2376	G E	変	D24	Ⅲ上	土偶	腕部右	刺突文	(2.6)	(1.8)	(1.9)	後期後葉	
2377	G E	変	D23	Ⅲ上	土偶	腕部左	沈線文	(2.3)	(1.6)	(1.0)	後期後葉?	

第61表 土製品 (3) 土偶

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	文様	長さ(m)	幅(cm)	厚さ(cm)	時期	備考
2378	GE	中	D25	Ⅲ上	土偶	腕部左	刺突文	(3.5)	(2.3)	(1.4)	後期	
2379	GE	中	E26	Ⅲ上	土偶	足部右	刺突文	(2.5)	(5.1)	(3.5)	後期前～中葉	アスファルト付着
2380	GE	中	E27	Ⅲ上	土偶	腕部左	沈線文	(4.5)	(3.5)	(3.0)	晩期初頭	中空土偶
2381	GE	中	F27～E26土層観察断面	Ⅲ(再堆積層)	土偶	足部左		(1.3)	(3.0)	(3.5)	後期前～中葉	
2382	GE	上	C23	Ⅲ下	土偶	肩部右		(2.2)	(2.3)	(1.7)	後期	
2383	GE	上	B25	I	土偶		沈線文	(3.6)	(4.2)	(4.2)	晩期初頭	中空土偶
2384	GE	上	C24	Ⅲ上	土偶	足部右		(3.0)	(4.5)	(4.0)	晩期	中空土偶
2385	GE	中	E26	Ⅲ下	土偶	足部左		(3.7)	(2.4)	(2.0)	後期前～中葉	
2386	GE	中	F27～E26土層観察断面	Ⅲ(再堆積層)	土偶	足部右		(3.1)	(2.2)	(2.0)	後期前～中葉	
2387	GE	中	D25	Ⅲ上	土偶	足部左	刺突文	(3.0)	(2.1)	(1.0)	後期後葉?	
2388	GE	変	C26	Ⅲ中	土偶	胸部右	沈線文	(4.8)	(5.9)	(2.3)	後期	朱塗布
2389	GE	中	E25土層観察断面	Ⅲ(再堆積層)	土偶	肩部左	沈線文、R L	(4.9)	(5.1)	(3.4)	後期中～後葉	
2390	GE	下	G27	I～Ⅲ	土偶	腕部左	沈線文	(6.1)	(2.2)	(1.7)	晩期	中空土偶
2391	GE	中	F27	Ⅲ上	土偶	腕部右	沈線文	(6.5)	(3.6)	(3.3)	晩期	中空土偶
2392	GE	中	E27	Ⅲ上	土偶	頭～足部右、肩部、腕部左、肩部	刺突文、沈線文	(11.4)	(6.5)	(2.8)	後期後葉	後頭部・耳貫通孔有
2393	GE	中	F27	I(1)	土偶	頭部	刺突文、沈線文	(3.2)	(4.1)	(2.8)	後期後葉	アスファルト付着、朱塗布
2394	GE	上	B24	I	土偶	肩部右、胸部右、乳部右		(3.4)	(3.8)	(1.7)	後期中葉	
2395	GE	変	D24	Ⅲ上	土偶	頭～下腹部、肩部、乳部、へそ部	刺突文	(9.3)	(5.7)	(2.6)	後期後葉	アスファルト付着、田柄1式
2396	GE	上	D23	Ⅲ上(3a)	土偶	頭部		(4.7)	(5.9)	(4.1)	後期中葉	
2397	GE	中	E24	Ⅲ下	土偶	肩部左、胸～下腹部、腕部左、乳部左、へそ部	刺突文	(6.6)	(5.1)	(2.2)	後期前葉	乳部孔有
2398	GE	中	E26	I	土偶	肩部、胸～下腹部、乳部	刺突文	(6.1)	(4.4)	(2.2)	後期後葉	へそ孔有
2399	GE	中	E24	Ⅲ中～下	土偶	肩部、胸～下腹部、乳部右	沈線文、L R	(7.8)	(5.6)	(2.0)	後期後葉	
2400	GE	上	C23	Ⅲ下～Ⅳ	土偶	肩部左、胸部左	沈線文	(4.2)	(7.2)	(1.9)	後期中葉?	頸部ソケット状(凹部)、背中にアスファルト付着
2401	GE	中	G25	Ⅲ上	土偶	肩部右、胸～腹部、乳部	沈線文	(2.7)	(3.6)	(1.4)	後期中葉?	首が無い土偶
2402	GE	中	F26	Ⅲ上(3)	土偶	肩部、胸～下腹部、へそ部	沈線文、R L・L R	(11.5)	(8.3)	(5.1)	後期中～後葉	腕組みをする土偶?
2403	GE	中	F26	I	土偶	肩部、胸～腹部	沈線文	(5.1)	(6.7)	(1.6)	後期前葉	
2404	GE	上	B24	Ⅲ	土偶	腕部左	刺突文	(4.2)	(2.1)	(1.7)	後期中葉	
2405	GE	上	C26	Ⅲ上	土偶	腕部左		(3.0)	(2.2)	(1.7)	後期中葉	
2406	GE	上	B24	I	土偶	肩部左	刺突文	(2.7)	(2.4)	(1.5)	後期後葉	
2407	GE	中	F26	Ⅲ中	土偶	腹～腰右～足部右	沈線文、R L	(10.2)	(9.7)	(6.8)	後期末葉	中空土偶
2408	GE	変	C25	Ⅲ中	土偶	へそ部	刺突文	(2.4)	(1.4)	(1.1)	後期中～後葉	
2409	GE	中	E26	Ⅲ下	土偶	乳部		(2.3)	(2.2)	(2.4)	後期後葉	孔有
2410	GE	中	D25	Ⅲ上	土偶	腹部右	沈線文	(2.5)	(3.8)	(1.5)	後期後葉	田柄Ⅱ式
2411	GE	中	F27	Ⅲ上	土偶	足部(左右?)	L R	(5.6)	(3.6)	(1.8)	晩期	中空土偶
2412	GE	中	E25	Ⅲ	土偶	胸左～下腹部、乳部左	刺突文、沈線文	(5.5)	(3.0)	(2.1)	後期後葉	
2413	GE	中	D25	Ⅲ下	土偶	胸部、乳部右	刺突文	(4.9)	(7.5)	(3.1)	後期中葉	乳部孔有、アスファルト付着、新山Ⅱ式
2414	GE		東部捨て場	I	土偶	腹部	刺突文	(2.6)	(2.4)	(1.0)	後期中葉?	貼り付け部、朱塗布
2415	GE	下	F26	Ⅲ下	土偶	足部右	R L	(4.0)	(2.0)	(1.9)	後期後葉	
2416	GE	下	F27	Ⅲ下	土偶	ほぼ完形(足先欠損)	刺突文、沈線文、L R	(29.8)	14.8	(4.7)	後期後葉	後頭部・耳貫通孔有、鼻・乳部孔有、アスファルト付着
2417	GE	上	B25～B26	I	土偶	頭部	沈線文	(4.5)	(3.8)	(2.4)	後期末葉	頭部側面貫通孔有、アスファルト付着、頭部ソケット状(凸部)
2418	GE	下	H25	Ⅲ下～Ⅳ上	土偶	腹～足部右、足部左の一部、へそ	沈線文	(4.6)	(3.8)	(1.8)	後期前葉?	へそ孔有
2419	GE	中	D25	Ⅲ上	土偶	腹～下腹部	刺突文、沈線文	(5.1)	(3.4)	(0.5)	後期後葉	田柄1式?
2420	GE	下	G26	Ⅲ中～下	土偶	肩部左?	刺突文、沈線文	(3.1)	(3.6)	(2.0)	後期後葉	
2421	GE	中	D25	Ⅲ中	土偶	足部右	沈線文	(2.0)	(1.5)	(2.6)	後期後葉	
2422	GE	中	F27～E26土層観察断面	Ⅱ(2b)	土偶	足部右		(3.6)	(1.5)	(1.4)	後期	
2423	GE	下	G26	Ⅲ中～下	土偶	腕部右		(3.0)	(1.5)	(1.2)	後期後葉	
2424	GE	中	D25・E26	Ⅱ中～下	土偶	腰～足部右の一部	沈線文、L R	(4.6)	(7.1)	(5.8)	後期末葉	中空土偶
2425	GE	中	E24	Ⅲ中	土偶	腹～足部(足先欠損)	刺突文、沈線文、L R	(12.9)	(13.1)	(6.1)	晩期前葉	
2426	GE	上	C23	Ⅲ中(3b)	土偶	肩部、胸～足部、腕部	刺突文、沈線文	(14.6)	(10.2)	(3.9)	晩期前葉	中空土偶、下腹部前後に2ヶ所貫通孔有
2427	GW	上1	G6	I	土偶	足部左	刺突文	(2.9)	(1.7)	(1.7)	後期後葉	2406・2447・2449・2512刺突文が類似
2428	GW	上1	L9	Ⅲ上	土偶	足部右	沈線文	(3.4)	(1.9)	(1.4)	後期後葉	
2429	GW	上1	H8	I	土偶	足部(左右?)	沈線文	(2.6)	(1.5)	(1.6)	後期後葉	
2430	GW	上1	J8	I	土偶	足部左(足先欠損)	沈線文	(3.2)	(1.7)	(1.9)	後期後～末葉	
2431	GW	上1	H8	I	土偶	肩部、胸～足部右、乳部左		(10.2)	(7.1)	(2.5)	後期後葉	
2432	GW	上1	J9	Ⅲ上	土偶	肩部、胸～下腹部、乳部	刺突文	(7.9)	(5.0)	(2.0)	後期後葉	
2433	GW	上1	H7	I	土偶	頭～腹部、肩部、乳部	L R	(13.9)	(13.1)	(4.0)	後期末葉	鼻・耳・口・胸部・背2ヶ所孔有、アスファルト付着
2434	GW	中1	P11	I	土偶	肩右～胸部右	沈線文	(3.7)	(2.9)	(1.4)	後期後葉	
2435	GW	上2	O11	Ⅲ上	土偶	足部(左右?)		(4.3)	(2.5)	(2.2)	後期末葉?	
2436	GW	上1	M10	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文	(3.0)	(1.2)	(1.4)	後期後葉	
2437	GW	上1	J9	Ⅲ上	土偶	頭部	L R	(3.8)	(4.4)	(3.1)	後期後葉	後頭部貫通孔有、朱塗布、田柄1式
2438	GW	上1	J9	Ⅲ上	土偶	肩部、胸～下腹部、腕部右、乳部	刺突文、沈線文	(7.6)	(7.3)	(2.3)	後期後葉	
2439	GW	上1	L11	Ⅲ上	土偶	肩部左		(5.0)	(6.8)	(3.7)	後期末葉	中空土偶
2440	GW	上1	I7	Ⅲ上	土偶	下腹～足部左	刺突文、沈線文、L R	(10.9)	(7.5)	(5.9)	後期末葉	
2441	GW	上1	K9	Ⅲ上	土偶	肩左～胸部左、胸～下腹部	刺突文、沈線文、L R	(9.0)	(8.2)	(3.3)	後期後葉	アスファルト付着
2442	GW	上1	J9	Ⅲ上	土偶	頭～足部、肩部、腕部左、乳部		15.5	(9.6)	4.4	後期後葉	アスファルト付着
2443	GW	上2	O12	Ⅲ上	土偶	腕部右		(2.9)	(1.5)	(1.4)	後期	
2444	GW	上2	O12土層観察断面	I	土偶	肩部右、腕部右	沈線文	(5.1)	(3.5)	(2.1)	後期中葉	
2445	GW	上1	M11	Ⅲ上	土偶	頭～足部、肩部、乳部右	沈線文	15.0	(5.8)	(3.0)	後期後葉	後頭部貫通孔有、アスファルト付着

第62表 土製品 (4) 土偶

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	文様	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	時期	備考
2446	GW	上2	O13	Ⅱ	土偶	肩部左、胸～下腹部、乳部	刺突文	(4.3)	(3.8)	(1.7)	後期中葉	
2447	GW	上2	P15	Ⅲ上	土偶	腕部左	刺突文	(3.2)	(1.6)	(1.8)	後期後葉	
2448	GW	上2	O14	Ⅲ上	土偶	腕部左	刺突文	(1.7)	(2.1)	(1.3)	後期中葉?	
2449	GW	上1	J10	Ⅲ上	土偶	肩部右	刺突文	(2.0)	(1.9)	(1.7)	後期後葉	
2450	GW	上1	L9	Ⅲ中	土偶	腕部左	沈線文	(3.0)	(1.8)	(1.4)	晩期	乳有
2451	GW	上1	L9	Ⅲ上	土偶	頭部飾り		(2.8)	(5.0)	(1.7)	後期前葉	
2452	GW	上1	H7	I	土偶	足部右	R L	(6.1)	(3.0)	(2.1)	後期末葉～晩期	
2453	GW	上1	J10	Ⅲ上	土偶	頭部、肩部左、腹部～腰部、腕部左	沈線文、L R	(18.0)	(12.6)	(6.1)	晩期中葉	耳・口孔有、頭頂部開いている、中空土偶
2454	GW	上1	H8	Ⅲ上	土偶	肩部、胸部、腕部右、乳部	沈線文	(7.3)	(10.2)	(3.3)	後期中～後葉	頸部ソケット状(凹部)
2455	GW	上1	H7	I	土偶	背	沈線文、R L	(3.3)	(4.0)	(1.4)	後期後葉?	
2456	GW	上1	I7(第11トレンチ)	Ⅲ	土偶	肩部右、腕部右、腕部右、乳部右		(6.0)	(8.0)	(3.1)	後期後～未葉	
2457	GW	上1	I8	I	土偶	足部	刺突文	(5.4)	(2.8)	(2.6)	後期中葉?	
2458	GW	上1	I7(第11トレンチ)	Ⅲ	土偶	腹左～下腹部左、へそ部	刺突文、沈線文	(6.7)	(4.3)	(3.5)	後期後葉	朱塗布
2459	GW	上1	J8	Ⅲ上	土偶	頭部	L R	(3.9)	(5.0)	(2.5)	後期後葉	耳貫通孔有、鼻・口孔有、田柄I式
2460	GW	上1	I9	I	土偶	頭部		(4.5)	(5.5)	(5.0)	後期後葉	頭部飾り
2461	GW	上1	I8	Ⅲ上	土偶	足部右	沈線文	(5.15)	(2.5)	(2.7)	後期後～未葉	
2462	GW	上1	J8	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文	(4.9)	(2.4)	(2.9)	後期後～未葉	
2463	GW	上1	J8	I	土偶	足部右		(2.8)	(3.5)	(4.5)	後期	
2464	GW	上1	L10～M10	Ⅲ	土偶	肩部右、胸～足部、腕部右	刺突文、沈線文	(5.7)	(4.2)	(1.7)	後期中葉	頸部ソケット状(凹部)
2465	GW	上1	L9	I	土偶	腹～下腹部	刺突文	(8.4)	(6.7)	(3.3)	後期中葉?	
2466	GW	上1	I10	Ⅲ上	土偶	胸～下腹部、乳部	刺突文	(7.7)	(4.1)	(2.3)	後期後葉	下腹部に2ヶ所孔有、頭部ソケット状(凹部)
2467	GW	上2	N12	I	土偶	足部左		(2.7)	(1.3)	(1.2)	後期	
2468	GW	中1	L7	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文、L R	(3.6)	(1.6)	(1.8)	後期後葉	
2469	GW	上1	K9	Ⅲ上	土偶	足部(左?)		(2.3)	(3.2)	(4.9)	後期	アスファルト付着
2470	GW	中1	O11	Ⅲ上	土偶	頭部	沈線文	(3.2)	(3.1)	(3.4)	後期後葉	後頭部貫通孔有、鼻孔有
2471	GW	中1	O11	Ⅲ上	土偶	頭部	刺突文、沈線文、L R	(3.1)	(2.9)	(2.2)	後期後葉	後頭部貫通孔有、耳孔有
2472	GW	上1	M11	Ⅲ上	土偶			(2.8)	(2.4)	(0.9)	後期	
2473	GW	上2	N11	Ⅲ上	土偶	頭部(一部欠損)		(5.5)	(4.3)	(4.5)	後期?	頭頂部孔と口孔は中部貫通
2474	GW	上1	L8	Ⅲ上	土偶		沈線文、L R	(3.5)	(3.4)	(2.6)	後期後葉	後頭部・耳貫通孔有
2475	GW	上1	M11	Ⅲ上	土偶	頭部		(3.3)	(2.9)	(2.6)	後期後葉	後頭部貫通孔有
2476	GW	上1	M10	Ⅲ上	土偶	腹～足部(足先欠損)	刺突文、沈線文	(6.6)	(3.5)	(2.6)	後期後～未葉	赤色顔料?
2477	GW	中1	N10	Ⅲ上	土偶	足部左	刺突文	(4.0)	(1.6)	(2.1)	後期後葉?	アスファルト付着
2478	GW	上1	N13	Ⅲ上	土偶	頭部	沈線文、R L	(4.0)	(4.5)	(3.7)	後期中葉	眼・鼻・口孔有
2479	GW	上1	L11	Ⅲ上	土偶	肩部右、胸～腹部、乳部左	刺突文	(5.4)	(7.4)	(2.6)	後期後葉	アスファルト付着
2480	GW	上1	L9	I	土偶	下腹部、へそ部	沈線文、L R	(6.7)	(5.0)	(3.0)	後期後葉	腕組みする土偶?、へそ孔有
2481	GW	上2	P13	Ⅲ上	土偶	下腹～足部右(足先欠損)	刺突文、沈線文、L R	(10.8)	(5.4)	(4.0)	後期後葉?	
2482	GW	上2	P13	Ⅲ上	土偶	頭部	沈線文、R L	(4.0)	(4.5)	(3.7)	後期後葉	乳有
2483	GW	上2	P12	Ⅲ上	土偶	下腹左～足部左(足先欠損)	沈線文	(6.3)	(2.6)	(2.5)	後期末葉	朱塗布
2484	GW	上1	K9	Ⅲ上	土偶	胸～腹部	沈線文	(5.1)	(5.2)	(2.9)	後期後葉	
2485	GW	上1	K9	I	土偶	胸左～肩部左、乳部左	沈線文、R L	(3.8)	(3.7)	(2.6)	後期後葉	赤色顔料?
2486	GW	上1	L11	Ⅲ上	土偶	頭～下腹部、肩部右、へそ部		(12.2)	(6.1)	(4.0)	後期中葉	耳貫通孔有、鼻・へそ孔有、頸部ソケット状(凹部)
2487	GW	上2	P13	Ⅲ上	土偶	頭～胸部、肩部、腕部左、乳部	刺突文	(8.4)	(8.4)	(4.6)	後期中葉	耳・鼻・乳(横)孔有、新山II式
2488	GW	中1	M9	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文、R L	(2.1)	(1.8)	(2.4)	後期中葉	
2489	GW	上1	L11	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文、L R	(3.0)	(1.7)	(2.4)	後期中葉?	
2490	GW	上1	K10	I	土偶	頭部	沈線文、L R	(4.2)	(4.9)	(4.0)	晩期前葉	遮光器土偶
2491	GW	上2	P12	I	土偶	足部左		(3.2)	(2.3)	(3.1)	後期	
2492	GW	上2	P14	Ⅲ上	土偶	足部左		(2.9)	(3.2)	(4.1)	後期前～中葉	
2493	GW	上1	L8	Ⅲ上	土偶	頭部	刺突文、沈線文	(4.8)	(3.8)	(2.3)	後期後葉	頭部・後頭部・耳貫通孔有、アスファルト付着
2494	GW	上2	P13	Ⅲ上	土偶	頭部	刺突文、沈線文	(2.6)	(2.3)	(2.0)	後期中～後葉	口孔有
2495	GW	上2	Q13	Ⅲ上	土偶	頭部	刺突文、沈線文	(3.7)	(2.8)	(2.6)	後期中～後葉	後頭部貫通孔有
2496	GW	上2	N11	Ⅲ上	土偶	肩部左	無文	(3.3)	(3.5)	(1.5)	後期	
2497	GW	上1	K9～M9土層観察断面・M9	Ⅲ上	土偶			(4.3)	(2.4)	(1.8)	後期後葉	
2498	GW	上1	L11土層観察断面	I～Ⅲ上	土偶	腹～下腹部	刺突文、沈線文	(6.7)	(3.4)	(3.1)	後期後葉	アスファルト付着
2499	GW	上1	M11土層観察断面	Ⅲ上	土偶	足部左	刺突文	(3.1)	(1.7)	(2.7)	後期中葉	足になっているが両部?
2500	GW	上2	N12	Ⅲ上	土偶	腹～足部右(足先欠損)、へそ部	沈線文	(4.0)	(2.3)	(1.7)	後期後葉	
2501	GW	中1	O12	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文	(3.6)	(1.7)	(2.0)	後期中葉?	
2502	GW	上1	N13	Ⅲ上	土偶	頭部		(3.0)	(2.3)	(2.5)	後期前葉	
2503	GW	上2	P12	Ⅲ上	土偶	頭～胸部、肩部	刺突文、R L	(4.6)	(4.0)	(3.9)	後期後葉	目・鼻・口孔有
2504	GW	上2	P12	Ⅲ上	土偶	頭部		(3.1)	(3.4)	(1.7)	後期中葉	のど貫通孔有、両面土偶
2505	GW	上2	N12	I	土偶	下腹部		(3.1)	(4.4)	(1.9)	後期後葉?	後頭部・耳貫通孔有
2506	GW	上1	L12	I	土偶	腹～下腹部	刺突文、沈線文、L R	(7.6)	(4.4)	(3.4)	後期後葉	赤色顔料?、K11住居跡上部出土
2507	GW	上1	M13	Ⅲ上	土偶	下腹～足部、へそ部	沈線文、R L	(6.4)	(4.4)	(3.6)	後期後葉	
2508	GW	上1	M13	Ⅲ上	土偶	肩部、腕部左、腕部左	刺突文	(4.4)	(6.4)	(2.3)	後期後葉	遺物一括
2509	GW	中1	O11	Ⅲ上	土偶	胸部右	沈線文	(4.0)	(3.5)	(2.5)	後期後葉?	アスファルト付着
2510	GW	上2	P15	Ⅲ上	土偶	下腹～足部	刺突文、沈線文、L R	(4.1)	(3.0)	(1.9)	後期中葉?	
2511	GW	上2	P13	Ⅲ上	土偶	腹～足部左(足先欠損)	刺突文、沈線文、L R	(9.0)	(4.5)	(3.0)	後期中～後葉	
2512	GW	上1	M13	Ⅲ上	土偶	腕部左	刺突文、沈線文	(2.7)	(1.5)	(1.6)	後期後葉	
2513	GW	上2	O12	Ⅲ下	土偶	肩部左、腕部左	刺突文、沈線文	(4.4)	(2.4)	(1.2)	後期後葉	
2514	GW	上2	P13	Ⅲ上	土偶	腹～足部左		(4.5)	(2.8)	(1.5)	後期前葉	アスファルト付着
2515	GW	上2	P13	Ⅲ上	土偶	肩部左、腕部左		(3.4)	(1.7)	(1.5)	後期中～後葉	
2516	GW	上1	L9・K9～M9土層観察断面	I	土偶	足部左	沈線文	(3.5)	(2.2)	(2.2)	後期中葉	

第63表 土製品 (5) 土偶

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	文様	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	時期	備考
2517	GW	上1	L 9	I	土偶	足部右		(2.0)	(1.6)	(1.7)	後期	
2518	GW	上1	L 11	Ⅲ上	土偶	足部左		(3.2)	(2.1)	(2.3)	後期前～中葉	アスファルト付着
2519	GW	上1	K 9	Ⅲ上	土偶	足部右	刺突文、沈線文、L R	(6.1)	(2.2)	(3.0)	後期後葉	
2520	GW	上1	N 13	Ⅲ上	土偶	足部左	沈線文	(4.2)	(2.4)	(3.1)	後期中葉	
2521	GW	上1	N 15～N 13土層観察断面	Ⅲ上	土偶	足部左		(2.9)	(1.9)	(2.3)	後期中葉	
2522	GW	上1	M 10	Ⅲ上	土偶	足部右	沈線文	(4.2)	(1.7)	(2.0)	後期中～後葉	
2523	GW	上2	P 13	Ⅲ下	土偶		沈線文、無筋 R	(4.3)	(4.8)	(5.3)	後期前葉	足裏に特殊文様(十腰内I式に伴う)
2524	GW	上2	O 14	Ⅲ下	土偶	足部左(足先欠損)	刺突文	(3.1)	(2.6)	(2.3)	後期前葉	
2525	GW	上2	P 12	Ⅲ上	土偶	腕部左(腕先欠損)		(3.7)	(1.5)	(1.1)	後期後葉	
2526	GW	上1	M 12	Ⅲ上	土偶	肩部右	刺突文	(1.3)	(2.8)	(1.5)	後期中葉	
2527	GW	上1	M 14	Ⅲ上	土偶	肩部右		(1.7)	(4.0)	(2.0)	後期	頸部ソケット状(凹部)
2528	GW	上1	J 9	Ⅲ上	土偶	足部右	沈線文、R L	(5.0)	(3.9)	(2.9)	後期後～末葉	
2529	GW	上1	I 9	I	土偶	胸部右	L R	(2.0)	(5.2)	(2.0)	晚期	中空土偶、割れ口の上の方が処理されているように見える
2530	GW	上1	K 8	I	土偶	胸部右、乳部右	沈線文、L R	(4.6)	(3.8)	(4.3)	後期後葉	乳部孔有
2531	GW	上1	J 10	Ⅲ上	土偶	腕部左		(4.1)	(3.7)	(1.8)	後期末葉	アスファルト付着
2532	GW	中1	O 10	Ⅲ上	土偶	肩左～腕部左	L R	(8.9)	(5.2)	(4.5)	晚期前葉	中空土偶
2533	GW	上1	L 10	Ⅲ上	土偶		沈線文	(4.4)	(8.7)	(4.0)	晚期?	土器の一部の可能性有、中空土偶?
2534	GW	中1	O 10	Ⅲ上	土偶	肩右～腕部右	沈線文、L R	(9.1)	(4.4)	(5.5)	晚期前葉	中空土偶
2535	GW	中1	O 10	Ⅲ上	土偶	足部(左右?)	沈線文	(3.8)	(2.6)	(1.9)	晚期	中空土偶
2536	GW	上1	K 9～M 9土層観察断面・K 9	Ⅲ上～中	土偶	足部右	沈線文、L R	(6.0)	(4.2)	(2.6)	後期後～末葉	中空土偶
2537	GW	上1	N 13	Ⅲ上	土偶	腕部 or 足部		(3.5)	(1.5)	(1.0)	晚期	中空土器
2538	GW	上1	K 10	I	土偶	足部(左右?)	沈線文	(3.75)	(3.1)	(2.0)	晚期	中空土偶
2539	GW	中1	O 11	Ⅲ	土偶	腕部右	沈線文	(2.7)	(2.0)	(2.0)	晚期	中空土偶
2540	GW	上1	J 10	Ⅲ	土偶	肩部左	L R	(2.4)	(3.0)	(2.8)	晚期	中空土偶
2541	GW	上1	J 8	Ⅱ～Ⅲ上	土偶	下腹部	沈線文、L R	(3.2)	(5.8)	(5.0)	晚期	中空土偶、アスファルト付着
2542	GW	中1	N 9	Ⅲ	土偶	足部左	沈線文、L R	(2.9)	(2.8)	(1.9)	後期後葉	
2543	GW	上2	N 12	Ⅲ上	土偶	腕部右?	L R	(3.9)	(3.2)	(1.4)	晚期	中空土偶
2544	GW	上2	Q 12	Ⅲ上	土偶	乳部(左右?)	沈線文、L R	(3.0)	(3.6)	(2.3)	晚期	中空土偶
2545	G C	外	I 17	I	土偶	胸～下腹部右	刺突文、沈線文	(8.8)	(4.8)	(3.5)	後期前葉	
2546	G C	外	F 19	Ⅲ上	土偶	肩部右、腕部右(手先欠損)	刺突文、沈線文	(5.3)	(3.5)	(2.9)	後期中葉	
2547	G C	外	L 15	I	土偶	頭部	L R	(3.6)	(4.5)	(2.9)	後期後葉	後頭部・耳貫通孔有、アスファルト付着
2548	G C	外	L 14	I～Ⅱ	土偶	腕部左	L R	(6.0)	(3.4)	(1.8)	後期後～末葉	
2549	G C	外	E 19	I	土偶	肩部、胸部、乳部		(1.5)	(3.6)	(1.1)	後期後～末葉	田柄Ⅱ式
2550	G C	外	F 13	I	土偶	足部右	L R	(2.6)	(2.2)	(1.7)	後期中葉	
2551	G C	外	G 20	I	土偶	腕部(左右?)	沈線文、L R	(4.0)	(2.9)	(1.9)	晚期	貫通孔有、F 18住居跡1号上部出土、中空土偶

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	備考
826	N	内	D 19住居跡	埋土中(3)	腕輪		2.5	6.2		
832	N	内	B 21住居跡状 3号	埋土中	人面付き土製品		7.9		0.5	口を意図したと思われる円形の孔有、外面は丁寧なミガキ、内面は荒いケズリ
870	N	内	J 15土坑 2号	埋土中	板状土製品		(4.4)	(2.4)	(0.8)	沈線
891	N	内	O 14土坑 3号	埋土中	針状土製品		(5.5)	0.8	0.6	やや湾曲気味の形状
2552	G E	中	D 25～G 26土層観察断面	Ⅲ(31)	動物形土製品	完形	3.8	3.6	1.2	首無し土偶の可能性有
2553	G E	中	D 25	Ⅲ下	動物形土製品		(1.9)	4.5	(1.5)	熊?、足部は4本とも欠損、胎土に雲母混入
2554	G E	中	G 24	Ⅲ上	動物形土製品		(3.8)	(2.4)	(1.5)	熊?、背面の縄文は毛を意図している?
2555	GW	上1	H 7	I 下	動物形土製品		2.4	1.8	5.5	熊 or 猪、後部にお尻を意図したと思われる孔有
2556	GW	上1	J 10	Ⅲ下	動物形土製品		3.1	2.85	(1.2)	ムササビ、刺突、脚部1ヶ所欠損
2644	GW	上1	K 9	Ⅲ上	ペンダント形土製品	完形	3.8	2.2		沈線、刺突
2645	GW	上1	M 11	Ⅲ上	ペンダント形土製品	つまみ部欠損	(2.2)	3.1		沈線、刺突
2705	G E	上	C 23	Ⅲ上	内面渦状土製品	完形	6.5	(6.2)		外面は荒いケズリ、内面の渦巻きは丁寧なナデ・右巻き
2706	G E	上	C 23	Ⅲ上	内面渦状土製品	完形	6.4	6.2	2.2	外面荒いケズリ、内面ナデ・右巻き
2707	G E	上	C 23	Ⅲ上	内面渦状土製品		6.8	6.8	2.6	外面荒いケズリ、内面ナデ・右巻き
2708	G E	上	E 25	Ⅲ上	内面渦状土製品		(6.0)	(4.4)	(2.2)	2/3欠損、内面丁寧なナデ・右巻き
2709	G E	中	F 26	Ⅲ上	内面渦状土製品	完形	6.7	6.7		外面荒いケズリ、内面ナデ・右巻き
2710	G E	上	C 23	Ⅲ下	内面渦状土製品		(6.4)	(5.0)	(1.9)	
2711	G E	中	F 26	Ⅲ上	内面渦状土製品		6.9	6.7	2.4	外面荒いミガキ、内面ナデ・右巻き
2712	G E	上	F 25	Ⅲ上～中	内面渦状土製品		(2.0)	(4.7)	(1.9)	4/5欠損
2815	G E	変	C 25	Ⅲ中	手作り土製品		3.9	4.3	(1.2)	所々指頭圧痕が確認される
2816	G E	中	E 24	Ⅲ中	板状土製品		(3.3)	(3.9)	(1.1)	網目状沈線、刻み目
2817	G E	上	D 22	Ⅲ	くるみ形土製品	完形	3.3	2.4		
2818	G E	下	G 27	Ⅲ	長打円形土製品		(2.8)	(2.2)	(0.9)	
2819	G E	上	C 23	Ⅲ中	三角柱状土製品		3.8	9.5	4.5	比較的丁寧なナデ、右冠状の形状
2820	G E	下	H 25	Ⅲ上	貝形土製品		7.3	5.3	2.2	
2821	G E	上	C 23	Ⅲ下	皿状土製品		(9.5)	(6.7)	2.4	
2822	G E	中	G 24	Ⅲ	皿状土製品		(3.2)	(4.8)	(2.4)	足付き
2823	G E	中	D 26	Ⅲ(再堆積層)	皿状土製品		5.0	5.1	(1.7)	足が4本付く
2824	G E	中	D 26	Ⅲ下	人面付き土製品		(3.0)	(3.1)		全面朱塗布
2825	G E	中	E 26	Ⅲ	右斧形土製品		(3.0)	(2.0)	(0.7)	
2826	G E	上	C 25	I	不明		(2.6)	(1.5)		不明
2827	GW	上2	O 14	Ⅲ上	角柱状土製品	完形	3.4	8.35	2.6	所々指頭圧痕が確認される
2828	GW	上1	J 12	Ⅲ	くろ形土製品	完形	3.6	3.2		細目の沈線、人面文様?、後期前葉?
2829	GW	上1	L 10	Ⅲ上	皿状土製品	完形	7.7	7.1	1.3	アスファルト付着
2830	GW	上2	N 12	Ⅲ	くるみ形土製品		3.0	3.3	1.5	L R
2831	GW	上1	L 8	Ⅲ上	人面付き土製品				0.7	中空土製品、朱塗布、晚期?
2832	GW	上1	L 9	Ⅲ	不明		(3.1)	(2.2)	(0.7)	不明
2833	GW	上1	M 13	Ⅲ最下位	不明		4.5	(2.9)	0.6	

第64表 土製品(6) 土偶・内面渦状土製品・動物形土製品・その他

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	分類	部位	長さ(㎜)	幅	厚さ	備考
857	N	内	G19土坑2号	埋土中	飾り玉	平玉		(1.5)	(2.7)	(1.9)	沈線、穿孔有
893	N	内	D16柱状土坑3号	埋土中(5)	飾り玉	勾玉		1.4	2.5	0.7	無文、貫通孔有
2388	G E	上	D23	Ⅲ上	飾り玉	平玉	完形	1.8	1.9	0.8	貫通孔有、おはじき形状
2589	G E	中	G24	Ⅲ	飾り玉	平玉		1.1	1.2	0.9	刺突文、貫通孔有
2590	G E	変	E23・G26	I	飾り玉	平玉		4.5	4.5	1.0	両面とも半分の範囲に黒色顔料塗布、竹管文、貫通孔有
2591	G E	中	D25土層観察断面	Ⅲ(2)	飾り玉	平玉	完形	2.9	3.0	1.5	貫通孔有
2592	G E	中	F24	I	飾り玉	平玉	完形	1.35	1.35	6.0	刺突文、貫通孔有
2593	G E	中	F26	Ⅲ上	飾り玉	平玉	完形	3.0	3.2	1.1	刺突文、貫通孔有
2594	G E	上	C23	Ⅲ～Ⅳ	飾り玉	角玉	完形	2.2	1.8	7.5	貫通孔有
2595	G E	中	E25	Ⅲ	飾り玉	角玉	完形	2.8	1.7	1.0	樽凹形状管玉状、貫通孔有
2596	G E	中	F25	Ⅲ中	飾り玉	角玉	完形	2.3	1.8	0.8	沈線文、貫通孔有
2597	G E	下	G25	Ⅲ下	飾り玉	管玉	完形	3.1	1.6	1.7	耳飾り?、貫通孔有
2598	G E	中	D24	Ⅲ中	飾り玉	管玉	完形	2.4	1.3	1.3	耳飾り?、貫通孔有
2599	G E	中	G24	Ⅲ	飾り玉	管玉		(2.7)	(1.1)	(1.0)	竹管文、貫通孔有
2600	G E	下	H25	Ⅲ	飾り玉	管玉		(2.0)	(1.0)	(1.1)	貫通孔有
2601	G E	中	F25	Ⅲ	飾り玉	管玉		(1.8)	(1.1)	(0.9)	貫通孔有
2602	G E	変	E23	Ⅲ上	飾り玉	丸玉		1.5	1.8	1.8	剥落有、貫通孔有
2603	G E	中	E25	Ⅲ	飾り玉	丸玉	完形	0.9	1.0	1.0	貫通孔有
2604	G E	中	E24	Ⅲ中	飾り玉	丸玉	完形	8.0	1.0		貫通孔有
2605	G E	中	E24	Ⅲ中	飾り玉	丸玉	完形	1.1	1.2		貫通孔有
2606	G E	中	F24	Ⅲ中	飾り玉	丸玉	完形	1.3	1.5		貫通孔有
2607	G E	下	H25	Ⅲ上	飾り玉	曲玉	完形	1.6	1.9	0.7	オカリナ形状、刺突文、貫通孔有
2608	G E	上	C25	Ⅲ上	飾り玉	うす玉	完形	0.9	1.8		耳飾り?、貫通孔有
2609	G E	上	C26	I	飾り玉	ペンダント?		2.9	1.6	1.3	貫通孔有
2610	G E	下	H24	Ⅲ下	飾り玉	丸玉	完形	1.4	1.2		貫通孔有
2611	G E	下	H24	Ⅲ下	飾り玉	丸玉	完形	1.0	1.3		貫通孔有
2612	G E	中	G24	Ⅲ下	飾り玉	丸玉	完形	1.3	1.3	0.8	貫通孔有
2613	G E	下	H24	Ⅲ下	飾り玉	丸玉	完形	1.2	1.4		貫通孔有
2614	G E	下	J24	I上	飾り玉	丸玉	完形	1.5	1.2		貫通孔有
2615	G E	中	D25	I	飾り玉	ペンダント	完形	2.9	3.5	0.7	沈線文、刺突文、ボタン貼付文、貫通孔有
2616	G E	中	F24	Ⅲ	飾り玉	ペンダント	完形	1.1	1.9	0.6	オカリナ形状、貫通孔有
2617	G E	中	E26	Ⅲ	飾り玉	粘土玉	完形	5.4	5.3	4.7	貫通孔有
2618	G E	中	D24	Ⅲ	飾り玉			(2.1)	(3.0)	(1.3)	貫通孔有
2619	G W	上	J9	Ⅲ上	飾り玉	平玉	完形	2.6	2.6	0.9	渦巻き状沈線文、刺突文、貫通孔有
2620	G W	上	N12	Ⅲ上	飾り玉	平玉	完形	2.2	2.2	0.9	貫通孔有
2621	G W	上	L11	Ⅲ上	飾り玉	角玉		2.5	1.7	0.9	剥落有、沈線文、刺突文、貫通孔有
2622	G W	上	O13	Ⅲ上	飾り玉	角玉	完形	2.7	2.4	0.9	刺突文、貫通孔有
2623	G W	上	P14	Ⅲ上	飾り玉	角玉	完形	2.5	2.0	0.9	隅丸長方形形状、刺突文、貫通孔有
2624	G W	上	O14	Ⅲ上	飾り玉	角玉	完形	2.0	2.2	0.7	貫通孔有
2625	G W	上	P14	Ⅲ上	飾り玉	平玉		3.9	2.2	1.0	貫通孔有
2626	G W	上	N14	Ⅲ上	飾り玉	平玉	完形	2.1	2.15	8.5	貫通孔有
2627	G W	上	M11	Ⅲ上	飾り玉	丸玉	完形	1.4	1.4		貫通孔有
2628	G W	上	O14	Ⅲ上	飾り玉	管玉		1.5	8.0		ペンダント?、貫通孔有
2629	G W	上	N11	Ⅲ上	飾り玉	丸玉	完形	0.8	0.9		貫通孔有
2630	G W	上	N11	Ⅲ上	飾り玉	丸玉	完形	8.5	0.9		貫通孔有
2631	G W	上	O14	Ⅲ上	飾り玉	丸玉	完形	1.1	1.3		貫通孔有
2632	G W	上	Q13	Ⅲ上	飾り玉	丸玉	完形	1.4	1.3		貫通孔有
2633	G W	中	P12	I	飾り玉	丸玉	完形	2.3	2.6		貫通孔有
2634	G W	上	M11	Ⅲ	飾り玉	管玉	完形	3.3	1.9	1.9	耳飾り?、貫通孔有
2635	G W	上	L12	Ⅲ	飾り玉	管玉	完形	3.7	1.6	1.4	耳飾り?、刺突文、貫通孔有
2636	G W	上	M10	Ⅲ上	飾り玉	勾玉	完形	1.3	2.7	0.8	貫通孔有
2637	G W	中	M9	Ⅲ上	飾り玉	ペンダント		(2.2)	(2.4)	(0.8)	ネックレス状、貫通孔有
2638	G W	上	I6	I	飾り玉	ペンダント	完形	2.4	4.3	1.1	ネックレス状、貫通孔有
2639	G W	上	O15	Ⅲ上	飾り玉	ペンダント	完形	3.5	3.4	0.8	ネックレス状、貫通孔有
2640	G W	上	M13	Ⅲ上	飾り玉	子玉		2.5	1.6		ソロバン形状、貫通孔有
2641	G W	上	H8	I	飾り玉	特殊玉	完形	2.1	2.4	2.2	赤色顔料塗布?、貫通孔有
2642	G C	外	E8	I	飾り玉	角玉		2.9	3.2	6.5	角が1つ欠損、貫通孔有
2643	G C	外	C17	Ⅲ	飾り玉	子玉	完形	1.7	1.3		ソロバン形状、刺突文、貫通孔有

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	分類	部位	縦(cm)	横	高さ	備考
821	N	内	E15住居跡状1号	床面	耳飾り	輪型	完形	2.1	2.1	0.5	貫通孔有、沈線
830	N	内	B21住居跡状3号	床面	耳飾り	耳栓	完形	2.0	2.0	1.5	貫通孔有、外面ミガキ、内面調整は粗雑
848	N	内	F13土坑6号	埋土中	耳飾り	輪型		(0.9)	(2.8)	(1.7)	断面は三角形形状を呈する
872	N	内	K10土坑	埋土中	耳飾り	耳栓	完形	1.4	1.5	1.6	片面に刺突文
889	N	内	O14土坑1号	埋土中	耳飾り	輪型		3.3	3.1	1.6	刺突文、側面に穿孔有
2537	G E	上	C20(第12トレンチ)	Ⅲ	耳飾り	輪型	完形	4.9	4.3	1.6	貫通孔有、内面ナデ・指頭、外面ミガキ
2538	G E	上	C25	Ⅲ	耳飾り	耳栓	完形	1.4	1.4	1.2	
2539	G E	変	C24	Ⅲ下	耳飾り	滑車	完形	4.6	4.6	2.3	三叉文
2560	G E	下	F27	Ⅲ	耳飾り	耳栓	完形	1.3	1.2	1.2	
2561	G E	変	C24	Ⅲ下	耳飾り	耳栓		2.4	2.3	1.6	一部欠損
2562	G E	中	G25	Ⅲ上～中	耳飾り	輪型		2.3	(1.4)	0.4	貫通孔有、沈線、1/2欠損
2563	G E	中	D25	Ⅲ	耳飾り	耳栓	完形	2.2	2.1	3.0	貫通孔有、沈線による花卉状文様、朱塗布
2564	G E	上	B22	Ⅲ	耳飾り	耳栓	完形	1.8	1.8	1.8	貫通孔有
2565	G E	下	G26	Ⅲ上	耳飾り	耳栓		(1.6)	(2.4)	(1.9)	貫通孔有、2/3欠損
2566	G E	中	E24	Ⅲ下	耳飾り	耳栓	完形	2.3	1.4	1.4	貫通孔有
2567	G E	中	F27	Ⅲ上	耳飾り	輪型		(3.4)	(1.5)	0.6	貫通孔有、沈線、3/4欠損
2568	G W	上	H8	Ⅲ上	耳飾り	輪型		(1.8)	(7.5)	(2.3)	
2569	G W	上	I8	I～Ⅲ	耳飾り	輪型		(1.5)	(4.1)	(2.2)	
2570	G W	上	J9	Ⅲ上	耳飾り	耳栓	完形	1.3	1.3	(1.9)	貫通孔有
2571	G W	上	I8	I	耳飾り	輪型		(2.2)	(6.1)	(1.7)	
2572	G W	上	J8	Ⅲ上～下	耳飾り	輪型		(1.0)	(3.4)	(1.7)	
2573	G W	上	K8	Ⅲ上	耳飾り	輪型		(1.5)	(4.1)	(1.9)	
2574	G W	上	K8	Ⅲ上	耳飾り	輪型		(2.1)	(5.5)	(2.1)	
2575	G W	中	N9	Ⅲ上	耳飾り	滑車	完形	5.8	5.8	3.2	三叉文、外面下重ミガキ(光沢有)、内面ミガキ・荒いケズリ
2576	G W	上	O11	Ⅲ上	耳飾り	輪型	完形	1.6	1.8	1.7	
2577	G W	中	O11	Ⅲ上	耳飾り	耳栓		(1.2)	(1.8)	(1.5)	ミニチュア土器の可能性有
2578	G W	上	L9	Ⅲ上	耳飾り	輪型	完形	4.3	4.3	1.3	貫通孔有
2579	G W	上	M11	Ⅲ上～中	耳飾り	耳栓	完形	2.4	1.7	1.7	
2580	G W	中	N10	Ⅲ上	耳飾り	耳栓	完形	2.3	2.2	1.6	刺突文
2581	G W	上	P13	Ⅲ上	耳飾り	耳栓	完形	1.3	1.4	1.5	
2582	G W	上	K9	Ⅲ上	耳飾り	耳栓		(2.9)	3.1	2.4	1/4欠損
2583	G W	上	M11	Ⅲ上	耳飾り	耳栓		(1.4)	(1.1)	(3.0)	赤色を帯びる
2584	G W	上	J9	Ⅲ上	耳飾り	耳栓		1.5	1.5	(1.2)	貫通孔有
2585	G W	上	M10	Ⅲ上	耳飾り	耳栓	完形	3.4	3.4	3.3	貫通孔有
2586	G C	外	H9	I	耳飾り	耳栓	完形	1.9	1.8	2.0	貫通孔有、刻み目
2587	G C	外	I13	Ⅲ	耳飾り	耳栓	完形	1.7	1.7	2.7	貫通孔有、外面荒い調整

第65表 土製品 (7) 飾り玉・耳飾り

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	最大長(cm)	最大幅	重量(g)	分類	備考
851	N	内	B21住居跡状 3号	埋土中	鐸形土製品	7.0	4.4	(26.9)	B	沈線文、刺突文
843	N	内	E22土坑 2号	埋土中	鐸形土製品	(2.3)	(3.0)	(7.8)	A	
847	N	内	F12土坑 2号	埋土中	鐸形土製品	5.9	(4.4)	(26.7)	B	渦巻き状沈線文、刺突文
859	N	内	H17土坑 2号	埋土中(3)	鐸形土製品	(2.1)	(2.8)	(5.2)	A	
876	N	内	L11土坑 4号	埋土中	鐸形土製品	(2.6)	(2.3)	(5.8)	A	L R
877	N	内	L12土坑 1号	埋土中	鐸形土製品	(2.1)	(2.4)	(5.2)		刺突文
2646	G E	変	C24	Ⅲ下	鐸形土製品	4.8	3.7	23.8	A	完形、無文
2647	G E	上	D21	Ⅲ上	鐸形土製品	3.4	2.9	10.3	A	完形、無文
2648	G E	中	D24	Ⅲ下	鐸形土製品	3.1	2.7	13.3	A	完形、無文
2649	G E	変	D26	Ⅲ下	鐸形土製品	(5.5)	(3.5)	(20.9)	A	渦巻き状沈線文
2650	G E	上	D22	Ⅲ上	鐸形土製品	6.0	(3.7)	(31.0)	A	渦巻き状沈線文、刺突文
2651	G E	下	G26	I 下	鐸形土製品	(4.5)	(3.1)	(16.2)	A	弧線状沈線文、刺突文
2652	G E	中	E25	Ⅲ	鐸形土製品	4.0	3.5	15.8	A	完形、弧線状沈線文
2653	G E	下	H26	Ⅲ下	鐸形土製品	4.0	3.2	15.9	A	完形、無文、内面調整は丁重なナデ
2654	G E	下	I 24	Ⅲ	鐸形土製品	4.5	3.7	29.1	A	完形、渦巻き状沈線文(沈線は細目で浅い)、刺突文
2655	G E	中	E24	Ⅲ	鐸形土製品	(4.3)	(3.5)	(10.4)	A	無文、揃み部欠損
2656	G E	中	E24	Ⅲ中	鐸形土製品	5.1	3.8	(15.1)	A	無文
2657	G E	中	E25	Ⅲ下	鐸形土製品	(4.5)	(2.3)	(14.2)	A	弧線状沈線文
2658	G E	下	G25	Ⅲ中～下	鐸形土製品	(3.8)	(4.2)	(18.6)	A	弧線状沈線文
2659	G E	上	C24	I	鐸形土製品	(2.1)	(3.0)	(10.1)	B	内面黒色処理?
2660	G E	上	B25	I	鐸形土製品	12.8	5.9	(93.4)	B	平行沈線(太めの沈線による)
2661	G E	変	C26	Ⅲ中	鐸形土製品	5.1	4.0	25.5	B	完形、渦巻き状沈線文
2662	G E	下	G26	Ⅲ上	鐸形土製品	(6.8)	(4.6)	(50.9)	B	弧線状沈線文、刺突文
2663	G E	変	C24	Ⅲ下	鐸形土製品	4.1	3.4	17.6	C	完形、沈線文、刻み列
2664	G E	上	E22	Ⅲ上	鐸形土製品	5.4	4.0	44.8	C	完形
2665	G E	中	E24	Ⅲ下	鐸形土製品	(3.1)	3.3	(10.5)		揃み部欠損
2666	G E	上	C23	Ⅲ	鐸形土製品	(2.0)	(2.2)	(3.5)		揃み部欠損、焼土ブロックから出土
2667	G E	中	E26	Ⅲ下	鐸形土製品	(4.4)	(4.1)	(15.4)		
2668	G W	上1	G 7	I	鐸形土製品	(2.9)	(3.5)	(12.7)	A	
2669	G W	上1	L 9	Ⅲ上	鐸形土製品	(2.9)	(3.2)	(6.9)	A	
2670	G W	上1	L10	Ⅲ上	鐸形土製品	2.3	2.8	10.4	C	完形
2671	G W	上1	N14	I	鐸形土製品	(3.4)	(2.6)	(7.8)		

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	縦(cm)	横	厚さ	備考
896	N	内	C16土坑 2号	埋土中	分銅形土製品	揃み部欠損	(2.7)	(2.95)	(2.8)	沈線文、晩期?
2672	G E	上	C24	Ⅲ	分銅形土製品	完形	3.7	3.6	3.6	R L
2673	G E	中	E24	Ⅲ上	分銅形土製品	揃み部欠損	(2.65)	(3.3)	(3.3)	無文
2674	G E	中	F23	Ⅲ	分銅形土製品		(2.2)	(3.3)	(3.2)	無文
2675	G W	上1	L10	Ⅲ上	分銅形土製品		4.7	4.2	(3.5)	一部欠損
2676	G W	中1	P12	Ⅲ上	分銅形土製品	完形	4.7	3.1	3.1	揃み部先端が二股に分かれる、L R
2677	G W	上2	P14	I	分銅形土製品	完形	6.0	4.1	4.1	R L(0段多条)、磨消細文、光沢の良さから推定して後期中葉?
2678	G W	上2	P13	Ⅲ上	分銅形土製品	揃み部欠損	(3.8)	(3.6)	(2.0)	L R、リング状の揃み
2679	G W	上1	M13	Ⅲ上	分銅形土製品	揃み部欠損	(3.8)	(2.9)	(1.7)	
2680	G W	上2	P14	Ⅲ上	分銅形土製品	完形	5.9	4.3	4.3	L R、リング状の揃み
2681	G W	上2	P13	Ⅲ上	分銅形土製品	揃み部欠損	(5.2)	(5.0)	3.0	揃み部にアスファルト付着
2682	G W	上2	P14	Ⅲ上	分銅形土製品	揃み部首欠損	5.2	3.8	3.6	

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	長さ(cm)	幅	厚さ	備考
2683	G W	中1	M 9	Ⅲ上	土鈴		5.7	5.2	0.3	揃み部分及び器体側面に穿孔有、外面調整は丁重なマガキ、内面調整は粗雑なケズリ、晩期?

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	縦(cm)	横	厚さ	備考
2684	G E	上	C26	Ⅲ上	キノコ形土製品	完形	2.8	4.8	16.3	傘部内面に指頭圧痕
2685	G E	中	D25土層観察断面	I(攪乱層)	キノコ形土製品	傘部所々欠損	3.3	(4.0)	(17.7)	傘部外面にケズリ痕、基部に指頭圧痕
2686	G E	中	E24	I	キノコ形土製品	完形	3.95	4.0	20.8	傘部外面がほぼ平坦、基部やや太め
2687	G E	中	E24	Ⅲ下	キノコ形土製品	傘部1/2欠損	5.4	(5.5)	(56.3)	傘部内面及び基部に指頭圧痕
2688	G E	中	E25	Ⅲ	キノコ形土製品	傘部所々欠損	5.3	4.0	(31.9)	
2689	G E	中	F25	I	キノコ形土製品	傘部・基部欠損	(1.9)	(2.7)	(8.3)	
2690	G E	中	F25	Ⅲ上	キノコ形土製品	完形	3.8	(3.7)	22.4	傘部上面観は不整形で沈線文を施文する
2691	G E	変	C25	Ⅲ中	キノコ形土製品	傘部1/3・基部欠損	(1.8)	(5.0)	(22.0)	
2692	G E	上	C24	Ⅲ上	キノコ形土製品	基部欠損	(2.3)	5.0	(20.0)	傘部上面観は不整形で沈線文を施文する
2693	G E	下	G26	Ⅲ下	キノコ形土製品	傘部欠損	(3.4)	(3.5)	(18.6)	傘部側面に括り
2694	G W	上1	K 7	I	キノコ形土製品	傘部・基部欠損	2.45	(4.5)	(15.8)	傘部内面に剥落多い
2695	G E	下	F27	I	キノコ形土製品	傘部欠損	(2.5)	(2.2)	(10.6)	
2696	G W	上1	K 9	Ⅲ上	キノコ形土製品	傘部欠損	3.9	(3.4)	(13.2)	
2697	G W	上2	P13	Ⅲ上	キノコ形土製品	完形	2.8	3.7	19.2	
2698	G W	上2	Q13	Ⅲ上	キノコ形土製品	傘部1/3欠損	4.1	3.6	(20.5)	
2699	G W	上1	K 9	Ⅲ上	キノコ形土製品	傘部一部・基部欠損	(2.3)	6.4	(41.4)	傘部内面に丁重なナデ
2700	G W	上2	O14・Q14～N14土層観察断面	Ⅲ上	キノコ形土製品	傘部・基部欠損	(3.0)	(3.4)	(14.6)	別土製品?
2701	G W	上1	M13	Ⅲ上	キノコ形土製品	完形	(2.1)	(2.9)	5.6	傘部上面観は不整形で沈線による渦巻き状文を施文する

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	縦(cm)	横	厚さ	備考
2702	G E	変	E23	Ⅲ	スタンプ形土製品	2.3	4.1	1.7	数条の沈線が渦巻き状に巡る、形状はキノコ形と推定される
2703	G W	上1	J 9	Ⅲ上	スタンプ形土製品	2.1	3.5	1.1	沈線による右巻きの渦巻き文(イモガイ形土製品の渦巻きに類似)
2704	G W	上1	M11	Ⅲ	スタンプ形土製品	1.7	1.8	2.3	沈線による花卉状文様、中央に円形の刺突

第66表 土製品 (8) 鐸形土製品・分銅形土製品・土鈴・キノコ形土製品・スタンプ形土製品

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	備考
837	N	N	D13土坑3号	埋土中	スプーン形土製品	14.9	3.7		完形、内外面とも丁寧なナデ、ミガキ、柄先は性器を意識していると思われる
846	N	N	F12土坑1号	埋土中	スプーン形土製品	(4.0)	(2.0)		
2713	GW	中1	M9	I	スプーン形土製品	(3.8)	(2.1)		外面指頭圧痕有
2714	GW	中1	P12	Ⅲ上	スプーン形土製品	(2.9)	(1.0)		
2715	GW	上1	L11	Ⅲ上	スプーン形土製品	(7.5)	(2.3)		握み部側面に穿孔有
2716	GW	上1	J8	Ⅲ上	スプーン形土製品	(9.3)	(3.2)		内面面とも丁寧なミガキ、柄は途中欠損
2717	GW	上1	L13	Ⅲ上	スプーン形土製品	6.8	7.5	0.9	筒状土製品、完形
2718	GW	上1	L8	Ⅲ上	スプーン形土製品	(10.9)	(3.3)		内外面とも荒い調整
2719	GW	中1	N10	Ⅲ上	スプーン形土製品	(5.2)	(2.3)		
2720	GW	上2	N11	I	スプーン形土製品	(4.1)	(1.5)		外面沈線による弧状のモチーフ

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	備考
2721	GE	中	D24	Ⅲ下	銅形土製品	(4.7)	(1.9)	0.7	3/4欠損、外面ミガキ、内面粗めのミガキ
2722	GE	中	E24	Ⅲ中～下	銅形土製品	(4.9)	(1.5)	0.5	4/5欠損、内面調整は粗雑な様相
2723	GW	上2	P13	Ⅲ上	銅形土製品	(6.5)	(3.5)	0.8	3/5欠損、所々に指頭圧痕有
2724	GW	上1	J8	Ⅲ上	銅形土製品	(2.8)	(2.3)	0.8	7/8欠損、内外面とも丁寧なミガキ(光沢有)
2725	GW	上1	K7	I	銅形土製品	(5.2)	(2.5)	0.7	4/5欠損、内外面とも丁寧なミガキ
2726	GW	上2	P13	Ⅲ上	銅形土製品	8.9	8.0	0.9	完形、内外面とも丁寧なミガキ、所々に指頭圧痕、穿孔途中の孔有
2727	GW	上2	P13・Q12・Q13	Ⅲ上	銅形土製品	9.3	7.7	0.8	ほぼ完形、内外面とも丁寧なミガキ、所々に指頭圧痕

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	長さ(cm)	幅	厚さ	分類	備考
2728	GE	上	C24	Ⅲ中	土錘	完形	3.5	2.7	2.0		沈線について、幅は3.5mm程、断面形は半円状
2729	GE	上	C24	Ⅲ中	土錘	完形	4.0	2.9	1.7		沈線について、幅は4.0mm程、断面形は半円状
2730	GE	中	E24	Ⅲ上	土錘	完形	3.3	2.5	1.7		沈線について、幅は3.0mm程、断面形は逆台形状
2731	GE		東部捨て場	I	土錘		(3.4)	(2.8)	1.7		1/4欠損
2732	GW	上1	K9	Ⅲ上	土錘	完形	6.4	6.3	3.7		中心部に14mm程の貫通孔有、器面の調整は丁寧なミガキが施されている
2733	GW	上2	O12	Ⅲ上	土錘		3.1	2.8	1.9		沈線について、幅は2.5mm程、断面形は半円状、剥落有
2734	GW	中1	M9	Ⅲ上	土錘	完形	3.8	5.2	0.9	土器片	L R、胎土の様相は晩期?
2735	GW	上2	N13	Ⅲ上	土錘	完形	2.1	2.7	0.7	土器片	剥落部分多い
2736	GW	中1	N9	Ⅲ上	土錘	完形	3.6	4.7	0.7	土器片	L無節、内面調整は丁寧なミガキ
2737	GW	上1	L9	Ⅲ上	土錘	完形	3.9	5.3	0.7	土器片	L R・R L非結束羽状細文、胎土の様相は後期後葉?

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	文様特徴	長さ(cm)	底辺	厚さ	重量(g)	時期	備考
834	N	内	D23甲跡1号	埋土中	三角形状土製品	完形	L R	2.5	2.7	0.6	3.4	後期	側縁打欠
835	N	内	D23甲跡1号	埋土中	三角形状土製品	完形	沈線	2.8	3.2	0.7	6.3	後期前葉?	側縁打欠、胎土に長石
842	N	内	E22土坑1号	埋土中	三角形状土製品	完形	R L	(2.3)	4.4	0.7	7.8	後期	側縁磨
861	N	内	H18土坑3号	埋土中	三角形状土製品	完形	無文	5.6	5.7	0.8	21.2	後期	側縁磨
867	N	内	I19土坑1号	埋土中	三角形状土製品	完形	沈線	2.3	3.0	0.5	3.6	後期前葉	側縁打欠
873	N	内	K10土坑	埋土中	三角形状土製品	完形	無文	3.7	4.3	0.7	11.9	後期	側縁磨
874	N	内	K20土坑2号	埋土中	三角形状土製品	完形	無文	3.2	3.3	0.6	7.2	後期	側縁磨
879	N	内	L12土坑1号	埋土中	三角形状土製品	完形	L R	3.2	3.8	0.6	7.0	後期	側縁磨
880	N	内	L12土坑2号	埋土中	三角形状土製品	完形	無文	2.7	3.5	0.7	6.3	後期	側縁打欠
886	N	内	M15土坑1号	埋土中	三角形状土製品	完形	無文	2.8	3.2	0.5	5.3	後期	側縁磨
890	N	内	O14土坑3号	埋土中	三角形状土製品	完形	振り糸文?	3.8	4.0	0.7	11.9	後期	側縁打欠
898	N	内	F22柱穴状土坑	埋土中	三角形状土製品	完形	無文	(3.8)	4.3	0.7	12.6	後期	側縁打欠
904	N	内	L12柱穴状土坑	埋土中	三角形状土製品	完形	沈線、L R	2.8	2.5	0.4	3.7	後期	側縁打欠
905	N	内	L12柱穴状土坑	埋土中	三角形状土製品	完形	R L	2.0	2.0	0.5	1.6	後期	側縁打欠
906	N	内	C26旧沢跡	Ⅲ	三角形状土製品	完形	沈線	3.3	4.0	0.5	7.0	後期前葉	側縁打欠
2791	GE	上	D23	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	沈線文	3.7	3.3	1.0	12.1	後期	非再利用品
2792	GE	中	F23	Ⅳ	三角形状土製品	完形	沈線文	3.8	4.5	0.6	14.2	後期前葉	側縁磨・打欠
2793	GE	要	C23～D25土層観察断面	Ⅲ	三角形状土製品	完形	沈線、L無節	4.6	5.0	0.5	15.3	後期前葉	側縁打欠
2794	GE	上	B25	Ⅲ	三角形状土製品	完形	無文?	2.5	2.6	0.8	5.2	後期	側縁打欠
2795	GE	中	E26	Ⅲ中	三角形状土製品	完形	沈線、L R	4.3	5.1	0.8	17.5	後期前葉	側縁打欠
2796	GE	上	D23	Ⅲ中	三角形状土製品	完形	沈線	3.4	3.4	0.5	8.3	後期初頭	おむすび型
2797	GE	中	E24	Ⅲ	三角形状土製品	完形	L R	3.6	3.5	0.7	10.3	後期	側縁磨
2798	GE	中	F24	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	沈線	4.1	4.2	0.5	8.6	後期初頭	側縁磨
2799	GE	中	G24	Ⅲ	三角形状土製品	完形	沈線、L無節	3.2	4.9	0.7	12.6	後期前葉	側縁打欠
2800	GE	中	G24	Ⅲ	三角形状土製品	完形	沈線、L R	3.6	3.3	0.5	5.9	後期前葉	側縁打欠
2801	GW	中1	Q11	I	三角形状土製品	完形	無文	4.0	3.4	0.4	7.4	後期?	側縁磨
2802	GW	上1	M10	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	無文	3.0	3.7	0.5	6.1	後期?	土器片磨、側縁磨
2803	GW	上2	N12	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	無文	3.4	3.6	0.6	8.3	後期	側縁打欠磨
2804	GW	中1	L7	I	三角形状土製品	完形	L R	2.7	2.6	0.5	3.8		側縁打欠
2805	GW	上2	N13	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	無節	3.0	2.9	0.8	6.0	後期	側縁磨
2806	GW	上1	J9	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	L R	3.8	3.6	0.5	8.1	後期	側縁磨
2807	GW	中1	L8・M8	Ⅲ	三角形状土製品	完形	振り糸文	3.7	4.5	0.5	8.8	後期	一次加工品
2808	GW	上1	J8	I～Ⅲ上	三角形状土製品	完形	L無節	3.4	3.9	0.8	12.4	後期	側縁打欠
2809	GW	上1	M12	Ⅲ上～中	三角形状土製品	完形	R L	3.7	4.7	0.5	9.9	後期	一片磨
2810	GW	上1	M11	I	三角形状土製品	完形	R L	3.1	3.0	0.6	6.1	後期	側縁磨
2811	GW	上2	N11	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	R L	2.9	3.4	0.4	4.1	後期	側縁磨
2812	GW	中1	Q12	Ⅲ上	三角形状土製品	完形	沈線、R L	5.5	5.0	0.5	19.8	後期	側縁磨
2813	GW	中1	Q11	Ⅲ上～下	三角形状土製品	完形	沈線文	4.2	3.5	0.8	12.3	後期前葉	側縁磨
2814	GW	中1	Q12	Ⅲ上～下	三角形状土製品	完形	L R	3.6	4.5	0.6	11.7	後期	側縁磨
2815	GW	上1	L11	Ⅲ	三角形状土製品	完形		4.0	4.3	0.4	8.6		

第67表 土製品 (9) スプーン形土製品・銅形土製品・土錘・三角形状土製品

規範番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	部位	文様特徴	長径(cm)	単径	厚さ	重量(g)	時期	備考
810	N	内	K11住居跡	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	2.8	2.4	0.5	3.9	晩期?	側縁磨
811	N	内	K11住居跡	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	2.7	2.3	0.5	4.6	晩期	側縁打欠
812	N	内	K11住居跡 P P 62・L15土坑1号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	4.5	3.9	0.8	15.6	晩期?	側縁打欠
813	N	内	K11住居跡 P P 73	埋土中	円盤状土製品	完形	沈線	4.1	3.7	0.8	13.1	後期初頭	側縁磨
816	N	内	G15住居跡	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	3.3	2.9	0.5	7.7	後期	側縁打欠
817	N	内	G15住居跡	埋土中	円盤状土製品	完形	無文	2.8	2.3	0.6	5.0	後期	側縁打欠
818	N	内	F12住居跡 Q 2	埋土中	円盤状土製品	完形	無文	3.3	2.8	0.5	6.2	後期?	側縁打欠
820	N	内	F13住居跡	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	3.2	2.8	0.6	6.6	晩期	煤付着、側縁打欠
822	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	4.0	3.4	0.5	9.7	晩期?	側縁磨
823	N	内	E19住居跡	床面?	円盤状土製品	完形	L R	3.7	3.3	0.5	9.3	晩期	側縁磨
824	N	内	C16住居跡1号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	2.0	1.9	0.6	2.5	後期	側縁打欠
825	N	内	C16住居跡1号	埋土中	円盤状土製品	完形	縷文?	3.2	2.7	0.4	6.0	後期	側縁打欠
828	N	内	C24住居跡状	埋土中	円盤状土製品	完形	撚り糸文	3.4	3.1	0.5	7.0	後期	側縁打欠
833	N	内	B24跡跡1号	埋土中	円盤状土製品	完形	撚り糸文	2.9	2.1	0.6	5.3	後期	側縁打欠
838	N	内	D13土坑3号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	4.3	3.7	0.8	15.0	後期	側縁打欠
839	N	内	D13土坑5号	埋土中	円盤状土製品	完形	R L	3.0	2.5	0.6	6.2	後期	側縁磨
849	N	内	F16土坑4号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	3.1	2.8	0.9	8.1	後期	側縁打欠
850	N	内	F18土坑2号	埋土中	円盤状土製品	完形	網目状撚り糸文	4.0	3.7	0.6	14.0	後期?	側縁打欠
851	N	内	F18土坑3号	埋土中	円盤状土製品	完形	R L	4.3	3.9	0.6	14.7	後期	側縁打欠
852	N	内	G14土坑1号	埋土中	円盤状土製品	完形	無文	3.0	2.6	0.9	8.2	後期	側縁磨
855	N	内	G17土坑15号	埋土中	円盤状土製品	完形	沈線、L無節	5.7	4.7	0.5	20.7	後期前葉	側縁打欠
858	N	内	G19土坑2号	埋土中	円盤状土製品	完形	R L	4.0	3.5	0.7	12.7	後期	煤付着、側縁打欠
862	N	内	H20土坑2号	埋土中	円盤状土製品	完形	沈線	3.4	2.2	0.5	4.3	後期前葉	側縁打欠
868	N	内	I21土坑4号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	3.6	3.1	0.7	9.4	後期?	側縁打欠
875	N	内	L11土坑3号	埋土中	円盤状土製品	完形	無文	3.5	3.2	0.5	8.7	後期?	側縁打欠
878	N	内	L12土坑1号	埋土中	円盤状土製品	完形	沈線、L R	3.7	3.3	0.6	9.0	後期前葉	側縁打欠
881	N	内	L13土坑1号	埋土中	円盤状土製品	完形	縷文	4.1	3.7	0.6	10.8	後期前葉?	網代痕、側縁打欠
882	N	内	L14土坑4号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	3.2	2.9	0.6	7.2	後期	煤付着、側縁磨
885	N	内	M14土坑3号	埋土中	円盤状土製品	完形	R L	4.0	3.5	0.7	12.0	後期?	煤付着、側縁打欠
892	N	内	D14柱穴状土坑1号	埋土中	円盤状土製品	完形	無文	4.6	3.7	0.9	17.6	晩期?	側縁打欠、底部再利用
894	N	内	D22柱穴状土坑1号	埋土中	円盤状土製品	完形	沈線、R L	4.7	3.4	0.6	12.8	後期中葉	側縁打欠
895	N	内	F12柱穴状土坑3号	埋土中	円盤状土製品	完形	沈線、L R	4.5	3.8	0.7	15.0	後期前葉	側縁打欠
899	N	内	G21柱穴状土坑1号	埋土中	円盤状土製品	完形	R L	4.3	4.0	0.6	14.7	後期?	側縁打欠
901	N	内	H15柱穴状土坑10号	埋土中	円盤状土製品	完形	L R	4.0	3.7	0.8	13.9	後期	側縁打欠
902	N	内	H16柱穴状土坑4号	埋土中	円盤状土製品	完形	R L	3.8	3.4	0.9	13.8	晩期	煤付着、側縁打欠
903	N	内	I17柱穴状土坑2号	埋土中	円盤状土製品	完形	沈線	3.3	2.9	0.5	5.3	晩期?	側縁打欠
2738	G E	上	B21	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	R L	5.2	4.5	1.2	32.6	前期未葉	縷混入、側縁打欠
2739	G E	上	B25	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	2.8	2.4	0.5	4.2	晩期?	側縁磨
2740	G E	上	B24	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	2.5	2.2	0.5	3.1	晩期?	側縁打欠
2741	G E	上	C23	Ⅲ中～下	円盤状土製品	完形	沈線	4.9	4.4	0.8	22.7	後期初頭	側縁磨
2742	G E	変	C25	Ⅲ下	円盤状土製品	完形	縷文	4.5	4.0	0.8	17.8	後期	側縁磨
2743	G E	変	E23	Ⅲ中～下	円盤状土製品	完形	沈線	4.4	4.1	0.7	15.4	後期初頭	側縁打欠
2744	G E	下	F26	Ⅲ下	円盤状土製品	完形(口縁部)	沈線	5.0	4.6	0.9	26.1	後期初頭	側縁打欠
2745	G E	中	D25	Ⅲ下	円盤状土製品	完形	撚り糸文	5.1	4.9	0.9	27.9	後期	煤付着、側縁磨
2746	G E	中	D25	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	沈線	5.2	4.8	0.6	19.3	後期初頭	側縁打欠
2747	G E	中	D24	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	網目状撚り糸文	4.0	3.6	0.5	10.1	後期前葉	煤付着、側縁磨
2748	G E	中	D25	Ⅲ下	円盤状土製品	完形	沈線、L R?	3.4	3.1	0.7	10.1	後期中葉	側縁磨
2749	G E	中	E24	Ⅲ下	円盤状土製品	完形	沈線	3.6	3.2	0.7	10.6	後期初頭	側縁磨、四角型
2750	G E	中	E25	Ⅲ(再堆積層)	円盤状土製品	完形	又状貼瘤、沈線、R L	3.4	3.0	0.7	6.5	後期後葉	
2751	G E	中	E25	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	沈線、R L	2.6	2.3	0.7	5.1	後期前葉	側縁打欠
2752	G E	中	D24	Ⅲ下	円盤状土製品	完形	L R	2.3	2.1	0.6	4.2	晩期?	側縁磨
2753	G E	中	E25	Ⅲ下	円盤状土製品	完形	網目状撚り糸文	3.6	3.3	0.6	10.0	後期前葉	煤付着、側縁磨
2754	G E	中	E25	Ⅲ(再堆積層)	円盤状土製品	完形	網目状撚り糸文	4.4	3.7	0.6	14.2	後期前葉	側縁打欠、煤付着
2755	G E	下	F27	Ⅲ(再堆積層)	円盤状土製品	完形	撚り糸文	4.1	3.7	0.7	14.8	後期	側縁磨
2756	G E	下	F27	Ⅲ	円盤状土製品	完形	網目状撚り糸文	4.4	3.9	0.8	18.0	後期	側縁打欠
2757	G E	下	H25	Ⅲ	円盤状土製品	完形	L R	5.3	4.8	0.8	27.3	晩期?	側縁打欠
2758	G E	下	G25	Ⅲ	円盤状土製品	完形	沈線	3.8	3.2	0.6	8.8	後期初頭	朱塗布、側縁打欠、四角型
2759	G E	中	G24	Ⅲ	円盤状土製品	完形	沈線	4.3	3.6	0.8	13.8	後期初頭	側縁打欠
2760	G W	上1	I10	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	R L	6.0	5.2	1.8	30.1	後期	側縁打欠
2761	G W	上1	I10	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	R L	4.5	4.2	0.9	20.0	後期	側縁磨
2762	G W	上1	I10	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	6.2	5.8	0.9	37.0	後期	煤付着、側縁打欠
2763	G W	上1	I10	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	3.7	3.2	0.7	11.6	後期	煤付着、側縁打欠
2764	G W	上1	I10	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	R L	3.7	3.4	0.6	10.5	後期	一次加工品
2765	G W	上1	J9	Ⅲ	円盤状土製品	完形	羊齒状文	3.3	3.3	0.6	7.0	晩期	側縁打欠
2766	G W	上1	J10	Ⅲ	円盤状土製品	完形	L R	3.1	3.1	0.7	9.3	後期?	側縁打欠
2767	G W	上1	J7	Ⅲ	円盤状土製品	完形	L R	3.4	3.3	0.6	8.3	晩期?	側縁磨
2768	G W	中1	M9	Ⅲ	円盤状土製品	完形	L R	2.5	2.2	0.6	3.8	後期	側縁磨
2769	G W	上1	M12	Ⅲ	円盤状土製品	完形	沈線、L無節	3.4	3.1	0.6	7.8	後期中葉	アスファルト付着、側縁打欠
2770	G W	上1	J8	Ⅲ	円盤状土製品	完形	非結束羽状縷文、L R・R L	4.5	3.9	0.8	16.6	後期	煤付着、側縁打欠
2771	G W	中1	O10	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	4.2	4.0	0.6	13.3	後期	煤付着、側縁磨
2772	G W	上1	M11	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	沈線	4.5	4.0	0.8	16.1	後期前葉	側縁磨
2773	G W	上1	L12	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	中央に孔有、L R	4.3	4.0	0.5	12.4	晩期?	中央に孔有、側縁磨
2774	G W	中1	N10	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	R L	3.1	3.1	0.8	8.2	後期	側縁磨
2775	G W	上1	M12	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	4.5	4.5	0.6	16.7	後期	側縁打欠
2776	G W	中1	P12	Ⅲ	円盤状土製品	完形	L R	2.9	2.6	0.6	5.3	後期	側縁磨
2777	G W	中1	O11	Ⅲ上～下	円盤状土製品	完形	L R	3.5	3.1	0.6	9.0	後期	側縁磨
2778	G W	上2	P13	Ⅲ上～中	円盤状土製品	完形	L R	2.4	2.1	0.8	3.5	後期	煤付着、側縁打欠
2779	G W	上2	P13	Ⅲ上～中	円盤状土製品	完形	L R	2.9	2.6	0.8	6.4	後期	側縁磨
2780	G W	上2	N12	Ⅲ	円盤状土製品	完形	縷文	2.8	2.7	0.6	5.1	後期	側縁磨
2781	G W	上2	P15	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	4.1	3.6	0.6	10.4	後期中葉?	側縁打欠
2782	G W	上1	L11・M11	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	沈線、縷文?	2.6	2.4	0.5	3.8	後期?	側縁打欠
2783	G W	上1	L10	Ⅲ上～下	円盤状土製品	完形	L R	3.7	3.1	0.8	11.5	後期?	側縁磨
2784	G W	上1	L10	Ⅲ上～下	円盤状土製品	完形	撚り糸文	4.2	3.7	0.8	15.1	後期	側縁磨
2785	G W	上2	N12	Ⅲ	円盤状土製品	完形	沈線	3.3	2.8	0.6	7.8	後期前葉	側縁打欠
2786	G W	上2	N12	Ⅲ	円盤状土製品	完形	L R	2.6	2.2	0.6	4.1	後期?	側縁打欠
2787	G W	上1	M12	Ⅲ上～中	円盤状土製品	完形	沈線	4.0	3.6	0.6	9.8	後期初頭	側縁磨
2788	G W	中1	P12	Ⅲ上	円盤状土製品	完形	L R	4.4	3.9	0.7	15.8	後期	側縁打欠
2789	G W	中1	P12	Ⅲ上～中	円盤状土製品	完形	L R	3.1	1.8	0.6	4.0	後期?	側縁磨、長方形型
2790	G C	上	E20	Ⅲ	円盤状土製品	完形	L R	3.4	3.1	0.4	7.3	晩期	側縁磨

第68表 土製品 (10) 円盤状土製品

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	アスファルト	分類	備考
907	N	内	K11住居跡	埋土中	石鏃	5.0	1.7	0.7	2.7	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		幅み付き2	十字形
915	N	内	K11住居跡 P P 10	埋土中	石鏃	2.5	1.8	0.5	1.8	チャート質粘板岩	中生界	軽米		無茎円基	
922	N	内	G11住居跡状 Q2	埋土中(4)	石鏃	3.0	1.6	0.6	2.3	チャート	中生界	軽米		無茎円基	
933	N	内	G15住居跡 P P 109	埋土中	石鏃	(2.0)	1.4	0.2	(0.5)	チャート	中生界	軽米		有茎平基2	
943	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	石鏃	(3.7)	1.5	0.5	(2.7)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎尖基1	
944	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	石鏃	2.2	1.5	0.3	1.0	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		無茎平基	
945	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	石鏃	2.0	1.6	0.3	0.8	チャート	中生界	軽米		有茎円基	
950	N	内	C16住居跡1号	埋土中	石鏃	(2.1)	1.5	0.4	(0.7)	粘板岩質チャート	中生界	軽米		無茎円基	
953	N	内	C16住居跡2号	埋土中	石鏃	3.2	1.3	0.5	1.6	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎尖基1	
956	N	内	C16住居跡2号 P P 17	埋土上位	石鏃	2.3	1.6	0.5	1.0	チャート	中生界	軽米		有茎円基	
964	N	内	C24住居跡状	埋土中	石鏃	2.4	1.3	0.5	1.1	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基2	
968	N	内	B21住居跡状3号	埋土中	石鏃	3.5	1.5	0.5	1.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎尖基1	
969	N	内	B21住居跡状3号	埋土中	石鏃	(2.4)	1.5	0.4	(1.1)	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		有茎尖基1	
981	N	内	B23跡	埋土中	石鏃	2.6	1.2	0.3	0.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米		尖茎平基	
982	N	内	B23跡	埋土中	石鏃	(1.9)	1.4	0.2	(0.5)	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基2	
997	N	内	E10土坑	埋土中	石鏃	2.0	1.2	0.3	0.4	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
1005	N	内	E22土坑2号	埋土中	石鏃	2.5	1.6	0.5	1.2	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎円基	
1006	N	内	E26土坑	埋土下位	石鏃	(2.2)	1.3	0.4	(1.0)	凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基3	身幅が細い二等辺三角形
1026	N	内	F12土坑1号	埋土上位	石鏃	(2.3)	1.6	0.2	(0.6)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基2	
1031	N	内	F13土坑1号	埋土下位	石鏃	(4.8)	1.3	0.5	(2.6)	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		有茎尖基2	棒状の二等辺三角形
1036	N	内	F14土坑8号	埋土中	石鏃	1.4	1.6	0.3	0.5	玻璃質流紋岩	中生界	軽米		無茎平基	
1042	N	内	G13土坑4号	埋土下位	石鏃	(3.2)	1.9	0.4	(1.6)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎尖基1	
1047	N	内	H12土坑2号	埋土中	石鏃	2.1	1.5	0.4	1.0	粘板岩	中生界	折爪岳山系		有茎平基1	
1056	N	内	I11土坑1号	埋土中	石鏃	3.6	(1.7)	0.7	(3.0)	チャート質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		尖茎尖基	
1065	N	内	I21土坑4号	埋土中	石鏃	1.6	1.4	0.2	0.3	玻璃質流紋岩	中生界	軽米		尖茎平基	
1077	N	内	K10土坑Q3	埋土中	石鏃	2.1	1.0	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米		有茎平基2	
1078	N	内	K10土坑	埋土中	石鏃	2.3	1.1	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米		有茎平基2	
1093	N	内	L12土坑2号	埋土中	石鏃	(3.5)	1.0	0.8	(2.6)	粘板岩質チャート	中生界	軽米		棒状	錐の可能性有
1102	N	内	M12土坑	埋土中	石鏃	1.6	1.4	0.3	0.5	チャート	中生界	軽米		有茎円基	
1103	N	内	M12土坑	埋土中	石鏃	2.8	1.2	0.3	0.7	粘板岩	中生界	軽米		有茎尖基1	
1104	N	内	M12土坑	埋土中	石鏃	(1.5)	1.1	0.4	(0.4)	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
1113	N	内	M14土坑3号	埋土中	石鏃	2.3	(1.4)	0.2	(0.5)	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基1	
1114	N	内	M14土坑4号	埋土中	石鏃	(1.8)	1.4	0.3	(0.6)	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
1115	N	内	M15土坑1号	埋土中	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.8	チャート	中生界	軽米		無茎平基	
1119	N	内	O14土坑1号	埋土中	石鏃	2.4	1.3	0.4	0.9	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基2	
1122	N	内	C22柱穴状土坑	埋土中	石鏃	(1.5)	1.2	0.3	(0.4)	チャート	中生界	軽米		有茎円基	
1123	N	内	C22柱穴状土坑	埋土中	石鏃	(1.8)	1.2	0.3	(0.5)	チャート	中生界	軽米		有茎平基2	
1131	N	内	E16柱穴状土坑2号	埋土中	石鏃	3.9	2.1	0.8	4.5	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		無茎円基	大形
2834	GE	下	G25(第4トレンチ)	Ⅲ	石鏃	2.5	1.5	0.3	0.9	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	基部付近	有茎平基1	
2835	GE	上	B23(第9トレンチ)	Ⅲ中	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.6	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基1	
2836	GE	上	B25	Ⅲ上	石鏃	2.3	1.6	0.3	0.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基1	
2837	GE	上	C24	Ⅲ	石鏃	3.0	2.0	0.7	2.5	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基1	返しが丸くなっている
2838	GE	中	F27	Ⅲ	石鏃	1.8	1.6	0.2	0.3	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2839	GE	中	F23	Ⅰ	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.5	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2840	GE	中	F24	Ⅲ下	石鏃	2.2	1.8	0.5	1.1	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基1	
2841	GE	下	G25(第4トレンチ)	Ⅲ	石鏃	1.3	1.3	0.3	0.4	チャート	中生界	軽米	基部付近	有茎平基1	
2842	GE	上	D23	Ⅲ	石鏃	1.8	1.2	0.4	0.6	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	小形
2843	GE	変	E23	Ⅰ	石鏃	1.7	1.3	0.2	0.3	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	小形
2844	GE	上	C21	Ⅰ	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.5	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2845	GE	中	E25	Ⅰ	石鏃	(1.9)	1.4	0.3	(0.4)	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2846	GE	中	G25	Ⅰ	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基1	
2847	GE	中	G25	Ⅲ	石鏃	1.8	1.3	0.3	0.4	玻璃質流紋岩	中生界	軽米		有茎平基1	
2848	GE	中	G24	Ⅲ	石鏃	2.3	1.6	0.3	0.7	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2849	GE	変	E23	Ⅲ	石鏃	2.2	1.2	0.2	0.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基1	
2850	GE	中	E25	Ⅲ	石鏃	(2.4)	(1.6)	0.5	(1.0)	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2851	GE	中	G25	Ⅲ上	石鏃	1.8	1.4	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2852	GE	中	G25	Ⅲ上	石鏃	2.0	1.4	0.3	0.5	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2853	GE	中	G25	Ⅲ上	石鏃	(2.0)	1.5	0.3	(0.6)	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基1	
2854	GE	中	D25	Ⅲ	石鏃	1.5	(1.2)	0.3	(0.3)	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2855	GE	中	E25	Ⅲ	石鏃	2.2	1.6	0.6	1.3	チャート	中生界	軽米		有茎平基1	
2856	GE	中	F24	Ⅲ中	石鏃	2.2	1.5	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米	基部	有茎平基1	
2857	GE	中	F26	Ⅲ上	石鏃	(2.2)	1.4	0.3	(0.6)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基2	
2858	GE	上	B24	Ⅰ	石鏃	3.1	1.6	0.3	1.1	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	身先端~基部の中央	有茎平基2	
2859	GE	上	B23	Ⅰ	石鏃	2.5	1.2	0.3	0.7	チャート	中生界	軽米		有茎平基2	

第69表 石器 (1) 石鏃

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	アスファルト	分類	備考
2860	GE	上	B 24	Ⅲ	石鏃	2.7	1.6	0.3	0.9	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2861	GE	上	D 21	Ⅲ	石鏃 (2.3)	1.5	0.3	(0.7)		チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2862	GE	中	D 26	I	石鏃	2.4	1.2	0.3	0.7	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2863	GE	上	C 24	Ⅲ	石鏃	2.9	1.6	0.4	1.0	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2864	GE	上	D 23	Ⅲ	石鏃	3.4	1.7	0.5	2.1	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2865	GE	中	E 24	Ⅲ上	石鏃	2.7	1.5	0.4	1.0	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2866	GE	中	F 27	I	石鏃	2.7	(1.5)	0.3	(0.7)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2867	GE	上	B 23	Ⅲ	石鏃	2.7	1.4	0.3	0.6	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2868	GE	上	B 23	Ⅲ上	石鏃	2.4	1.5	0.5	1.1	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2869	GE	中	E 25	Ⅲ(再堆積層)	石鏃 (2.8)	1.8	0.4	(1.2)		チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2870	GE	中	G 25	Ⅲ上	石鏃	2.2	1.3	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2871	GE	下	G 25	Ⅲ中	石鏃 (2.3)	1.6	0.4	(0.9)		粘板岩	中生界	折爪岳山系	身中央～基部	有茎平基 2	
2872	GE	変	C 25	Ⅲ中	石鏃	2.6	1.6	0.3	0.8	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2873	GE	下	G 25	Ⅲ中	石鏃	2.3	1.4	0.3	0.5	チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2874	GE	中	G 25	Ⅲ上	石鏃	3.4	1.7	0.3	1.6	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	返しが丸くなっている
2875	GE	中	D 25	Ⅲ中	石鏃 (2.9)	(2.1)	0.5	(2.5)		チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	未製品の可能性あり
2876	GE	上	C 23	Ⅱ～Ⅲ上	石鏃	2.7	1.3	0.3	0.8	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2877	GE	中	F 26	Ⅲ中	石鏃	2.5	1.4	0.3	0.7	粘板岩	中生界	折爪岳山系		有茎平基 2	
2878	GE	上	B 23(第9トレンチ)	Ⅲ	石鏃	2.8	1.2	0.3	0.7	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	基部付近	有茎平基 3	
2879	GE	中	F 24	Ⅲ中	石鏃	2.6	1.6	0.4	0.9	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2880	GE	中	F 25	Ⅲ下	石鏃 (3.6)	1.1	0.4	(1.3)		粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2881	GE	中	D 26	Ⅲ下	石鏃 (3.0)	1.1	0.4	(1.0)		チャート	中生界	軽米		有茎平基 3	
2882	GE	下	G 27	Ⅲ上	石鏃 (2.7)	1.4	0.4	(1.5)		チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2883	GE	中	F 27	Ⅲ上	石鏃 (2.1)	1.0	0.4	(0.7)		チャート	中生界	軽米		有茎平基 3	
2884	GE	変	C 25	Ⅲ下	石鏃	2.0	1.3	0.3	0.6	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2885	GE	上	D 22	I	石鏃 (2.7)	1.2	0.4	(1.1)		凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 1	
2886	GE	上	C 24	Ⅲ	石鏃 (3.2)	1.6	0.6	(2.3)		凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 1	
2887	GE	中	E 26	I	石鏃 (2.8)	1.3	0.5	(1.4)		チャート質粘板岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 1	
2888	GE	中	F 27	I	石鏃 (3.0)	1.3	0.3	(0.8)		凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2889	GE	中	E 27	I	石鏃 (2.9)	1.5	0.4	(1.4)		チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2890	GE	下	G 26	Ⅲ中	石鏃	2.7	1.2	0.4	1.0	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2891	GE	上	D 23	Ⅲ	石鏃	2.4	1.4	0.4	0.9	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2892	GE	上	B 25	Ⅲ	石鏃	2.5	1.2	0.4	1.0	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2893	GE	中	E 25	Ⅲ(再堆積層)	石鏃	2.3	1.2	0.3	0.7	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2894	GE	上	B 21	Ⅲ上	石鏃	2.5	1.1	0.3	0.7	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 1	
2895	GE	上	B 25	Ⅲ上	石鏃 (5.5)	1.1	0.5	(3.0)		凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	槍状
2896	GE	下	G 26	Ⅲ上	石鏃 (4.9)	1.7	0.6	(4.0)		粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2897	GE	上	B 21	Ⅲ上	石鏃	4.4	1.6	0.5	2.2	粘板岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 2	
2898	GE	上	D 21	I	石鏃	2.9	1.8	0.7	2.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		有茎平基	
2899	GE	中	F 26	Ⅲ	石鏃	1.9	1.0	0.3	0.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基	
2900	GE	中	G 25	Ⅲ上	石鏃	2.4	1.0	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米	基部	有茎平基	
2901	GE	中	E 24	Ⅲ上	石鏃 (2.1)	1.8	0.4	(1.0)		粘板岩	中生界	軽米	身部中央に見られる	有茎平基	
2902	GE	上	C 24	Ⅲ中	石鏃	2.8	1.3	0.3	0.8	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基	
2903	GE	中	F 23	Ⅲ上	石鏃	3.1	1.4	0.4	1.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基	
2904	GE	中	D 26	Ⅲ	石鏃	2.8	1.4	0.4	1.2	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		有茎平基	
2905	GE	上	C 24	Ⅲ	石鏃 (2.5)	1.2	0.4	(0.8)		チャート	中生界	軽米		有茎平基	
2906	GE	中	G 25	Ⅲ上	石鏃	3.1	2.3	0.4	2.1	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基	
2907	GE	中	E 25	Ⅲ(再堆積層)	石鏃 (1.9)	1.4	0.3	(0.7)		チャート質粘板岩	中生界	軽米		尖茎平基	
2908	GE	下	G 25(第4トレンチ)	Ⅲ上	石鏃 (2.3)	1.9	0.4	(1.3)		粘板岩質チャート	中生界	軽米		尖茎平基	
2909	GE	中	E 24	Ⅲ中	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.6	粘板岩	中生界	軽米		尖茎平基	
2910	GE	中	E 24	Ⅲ中	石鏃	2.5	2.0	0.4	1.2	チャート	中生界	軽米		尖茎平基	
2911	GE	中	F 26	Ⅲ上	石鏃	3.6	2.4	0.8	4.7	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米		尖茎平基	
2912	GE	中	E 24	Ⅲ上	石鏃	3.1	1.6	0.4	2.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米		無茎平基	
2913	GE	中	E 25	Ⅲ(再堆積層)	石鏃	2.9	2.4	1.2	6.2	チャート	中生界	軽米		無茎平基	円形撻器状
2914	GE	中	D 26	I	石鏃	3.3	2.4	0.7	7.0	チャート	中生界	軽米		無茎平基	
2915	GE	上	D 23	Ⅲ中	石鏃	3.2	1.9	0.7	3.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米		無茎平基	
2916	GE	中	E 25～F 25	Ⅲ中	石鏃	2.8	1.7	0.3	1.0	チャート	中生界	軽米		無茎平基	
2917	GE	中	F 23	Ⅲ上	石鏃	1.9	1.4	0.5	0.7	粘板岩質チャート	中生界	軽米		無茎平基	
2918	GE	変	C 25	Ⅲ下	石鏃	2.2	1.8	0.2	0.6	玻璃質流紋岩	中生界	軽米		無茎平基	
2919	GE	中	F 24	Ⅲ上	石鏃	3.0	0.7	0.4	0.8	粘板岩	中生界	軽米		棒状	

第70表 石器 (2) 石鏃

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	アスファルト	分類	備考
2920	GE	中	F 24	Ⅲ中～下	石鏝	4.5	1.1	0.7	3.6	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		棒状	
2921	GE	中	G 23	I	石鏝	3.2	1.1	0.7	4.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米		棒状	
2922	GE	変	C 25	Ⅲ下	石鏝	4.7	0.9	0.6	2.5	チャート	中生界	軽米		棒状	
2923	GE	中	D 25	Ⅲ(3g)	石鏝	(5.3)	1.3	0.5	(3.9)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		棒状	
2924	GE	上	B 26	I	石鏝	2.5	1.1	0.5	1.2	粘板岩	中生界	軽米		棒状	錐の可能性有
2925	GE	中	D 25	Ⅲ	石鏝	2.7	0.8	0.3	0.8	チャート	中生界	軽米		棒状	
2926	GE	上	C 24	Ⅲ	石鏝	2.8	0.8	0.4	0.9	粘板岩	中生界	軽米		棒状	
2927	GE	中	E 25	Ⅲ	石鏝	2.4	0.9	0.5	0.9	粘板岩質チャート	中生界	軽米		棒状	
2928	GE	変	D 24	Ⅲ上	石鏝	3.7	0.9	0.8	2.9	チャート	中生界	軽米		棒状	錐の可能性有
2929	GE	下	G 25	Ⅲ中	石鏝	4.1	1.0	0.5	1.6	チャート質粘板岩	中生界	軽米	基部	棒状	
2930	GE	上	D 21	I	石鏝	3.1	1.1	0.4	1.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米		棒状	
2931	GE	中	D 25	I～II	石鏝	1.9	1.3	0.5	1.1	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山系		棒状	
2932	GW	中1	P 11	Ⅲ上	石鏝	1.9	(1.3)	0.3	(0.5)	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2933	GW	上1	N 16	Ⅲ上	石鏝	2.0	1.2	0.2	0.3	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2934	GW	上2	O 13	Ⅲ上～中	石鏝	1.9	1.4	0.4	0.6	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2935	GW	上1	K 8	Ⅲ上	石鏝	2.7	1.7	0.4	0.9	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2936	GW	上2	N 13	Ⅲ上	石鏝	2.5	1.8	0.3	0.8	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2937	GW	上2	P 14	Ⅲ上	石鏝	2.0	1.1	0.3	0.5	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2938	GW	上2	O 14	Ⅲ上	石鏝	2.1	1.2	0.3	0.6	チャート質粘板岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 1	
2939	GE	上	B 23(第9トレンチ)	Ⅲ下	石鏝	2.1	1.2	0.3	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2940	GW	上1	K 8	Ⅲ上	石鏝	2.3	1.5	0.3	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2941	GW	上1	L 11	Ⅲ上	石鏝	2.4	1.4	0.4	0.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2942	GW	上2	O 13	Ⅲ上	石鏝	2.8	2.3	0.7	3.4	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
2943	GW	中1	O 11	Ⅲ上	石鏝	(2.5)	1.7	0.5	(1.5)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2944	GW	上2	P 13	Ⅲ上	石鏝	2.4	1.4	0.4	0.8	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2945	GW	上1	K 10	Ⅲ上～下	石鏝	(1.9)	1.5	0.4	(0.7)	チャート	中生界	軽米	基部～基部まばら	有茎平基 1	
2946	GW	上1	N 15	Ⅲ中～下	石鏝	2.6	1.7	0.3	0.8	粘板岩	中生界	軽米	茎～身先端	有茎平基 2	
2947	GW	中1	Q 11	Ⅲ上	石鏝	2.9	1.5	0.3	1.0	チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2948	GW	上2	M 10	Ⅲ上	石鏝	2.4	1.2	0.3	0.5	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2949	GW	上2	P 14	Ⅲ上	石鏝	2.7	1.2	0.3	0.8	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	身～基部	有茎平基 2	
2950	GW	上1	J 6	I	石鏝	2.5	1.2	0.3	0.7	チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2951	GW	上2	Q 13	Ⅲ上	石鏝	2.6	1.3	0.5	1.0	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2952	GW	上1	L 12	Ⅲ上	石鏝	2.8	1.6	0.4	1.2	チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2953	GW	上1	L 12	Ⅲ上	石鏝	2.8	1.7	0.6	2.3	凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2954	GW	上1	M 12	I	石鏝	3.5	1.6	0.6	1.9	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2955	GW	中1	O 11	Ⅲ上	石鏝	4.0	1.2	0.4	1.5	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基 3	
2956	GW	上1	J 8	I	石鏝	(3.8)	1.7	0.5	(3.0)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 4	石槍状
2957	GW	上1	L 11	Ⅲ上	石鏝	3.1	1.2	0.4	1.0	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2958	GW	上1	L 9	Ⅲ上	石鏝	(2.8)	1.4	0.4	(1.3)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 2	
2959	GW	中1	O 10	Ⅲ上	石鏝	3.6	1.1	0.4	1.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2960	GW	上1	M 12	Ⅲ上	石鏝	(3.3)	1.2	0.5	(1.1)	チャート	中生界	軽米		有茎平基 3	
2961	GW	中1	N 8	II	石鏝	(2.7)	0.9	0.5	(0.8)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2962	GW	中1	N 12	Ⅲ上	石鏝	(2.9)	1.0	0.3	(0.9)	チャート	中生界	軽米		有茎平基 3	
2963	GW	上1	M 13	Ⅲ上	石鏝	(2.8)	1.3	0.5	(1.1)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	身が長い
2964	GW	上1	L 11	Ⅲ上	石鏝	(2.9)	1.2	0.4	(1.0)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2965	GW	上2	P 14	Ⅲ上	石鏝	(2.7)	1.2	0.5	(1.1)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2966	GW	中1	N 10	Ⅲ上	石鏝	(3.3)	1.7	0.5	(2.1)	粘板岩	中生界	折爪岳山系		有茎平基 3	
2967	GW	中1	N 10	Ⅲ上	石鏝	(3.3)	1.5	0.5	(2.4)	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
2968	GW	上1	J 9	Ⅲ上	石鏝	4.3	2.2	0.8	7.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 4	大形、石槍状
2969	GW	上1	L 11	Ⅲ上	石鏝	3.9	2.7	0.4	3.5	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 4	礫片を加工、石槍状
2970	GW	上1	L 10	Ⅲ上	石鏝	3.6	2.4	0.5	3.3	粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 4	大形、石槍状
2971	GW	中1	M 9	I	石鏝	1.8	0.9	0.3	0.2	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 5	十字形
2972	GW	中1	N 10	Ⅲ上	石鏝	(3.0)	1.6	0.5	(1.4)	チャート	中生界	軽米		有茎平基 5	十字形
2973	GW	上1	K 10	Ⅲ上～下	石鏝	2.3	1.2	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米	茎先端	有茎平基 1	
2974	GW	上2	O 13	II	石鏝	2.4	1.2	0.3	0.5	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2975	GW	上1	L 8	Ⅲ上	石鏝	2.0	1.0	0.4	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 1	
2976	GW	中1	P 12	Ⅲ上～下	石鏝	2.7	1.3	0.3	0.9	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2977	GW	上2	M 10	Ⅲ上～中	石鏝	(2.8)	1.4	0.3	(0.9)	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		有茎平基 1	
2978	GW	上1	I 7	I	石鏝	(3.0)	1.6	0.4	(1.2)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
2979	GW	上1	J 9	I	石鏝	3.8	1.5	0.5	1.8	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	基部	有茎平基 2	
2980	GW	上1	I 7	I	石鏝	4.5	1.3	0.5	2.6	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		有茎平基 2	

第71表 石器 (3) 石鏝

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(m)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	アスファルト	分類	備考
2981	GW	上1	K 9	I	石鏃	(4.7)	1.2	0.6	(3.0)	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎尖基 2	
2982	GW	上1	N 14	Ⅲ上	石鏃	5.2	1.0	0.5	2.1	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎尖基 2	茎部が長い棒状
2983	GW	上2	O 14	Ⅲ中～下	石鏃	2.3	1.2	0.3	0.5	凝灰岩	中生界	軽米		有茎凹基	
2984	GW	上2	P 13	Ⅲ上	石鏃	(2.5)	1.2	0.4	(1.0)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎凹基	
2985	GW	中1	P 12	Ⅲ上	石鏃	2.8	1.4	0.3	0.7	チャート	中生界	軽米		有茎凹基	
2986	GW	上2	O 13	Ⅲ上	石鏃	2.6	1.5	0.3	0.8	チャート	中生界	軽米		有茎凹基	
2987	GW	上1	L 10	Ⅲ上	石鏃	2.3	1.1	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米		有茎凹基	
2988	GW	上2	O 14	Ⅲ上	石鏃	2.4	2.3	0.5	1.3	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎凹基	
2989	GW	上1	M 11	Ⅲ上	石鏃	2.0	1.4	0.4	2.1	チャート	中生界	軽米		尖茎平基	
2990	GW	上2	O 13	Ⅱ	石鏃	2.5	1.4	0.4	0.9	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎凹基	
2991	GW	上2	N 13	Ⅲ上	石鏃	(2.8)	1.4	0.5	(1.4)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		有茎凹基	
2992	GW	上1	L 9	Ⅲ上～下	石鏃	3.0	1.9	0.4	2.1	チャート	中生界	軽米		尖茎平基	
2993	GW	上1	I 9	Ⅲ上	石鏃	3.2	1.6	0.5	2.8	粘板岩質チャート	中生界	軽米		尖茎尖基	
2994	GW	中1	P 12	Ⅲ上	石鏃	2.6	1.5	0.4	1.3	粘板岩質チャート	中生界	軽米		尖茎尖基	
2995	GW	上1	M 11	Ⅲ上～中	石鏃	(1.6)	1.4	0.3	(0.5)	チャート	中生界	軽米		有茎平基 2	
2996	GW	上1	K 8	Ⅲ上	石鏃	(1.9)	1.3	0.2	(0.5)	チャート	中生界	軽米		無茎平基	
2997	GW	上1	H 8	I 上	石鏃	2.5	1.8	0.7	3.0	チャート	中生界	軽米		無茎凹基	
2998	GW	上2	O 12	Ⅲ上	石鏃	2.2	1.3	0.4	0.8	粘板岩	中生界	軽米		無茎凹基	
2999	GW	上1	J 9	I	石鏃	3.9	1.9	0.6	3.4	粘板岩	中生界	軽米		無茎凹基	
3000	GW	上2	N 11	Ⅲ上	石鏃	3.4	1.6	0.3	2.1	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		無茎凹基	
3001	GW	上2	O 14	Ⅲ上	石鏃	1.4	1.1	0.3	0.4	チャート	中生界	軽米		無茎凹基	
3002	GW	上2	N 12	Ⅲ上	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.6	チャート	中生界	軽米		無茎凹基	
3003	GW	上2	N 13	Ⅲ上	石鏃	2.0	1.6	0.3	0.5	チャート	中生界	軽米		無茎凹基	
3004	GW	中1	O 10	I	石鏃	(3.2)	1.4	0.4	(1.9)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		無茎凹基	
3005	GW	上1	N 14	Ⅲ上	石鏃	(4.0)	1.0	0.7	(2.5)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		棒状	
3006	GW	上2	N 12	I (盛土中)	石鏃	(5.3)	1.2	0.8	(5.8)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		棒状	
3007	GW	上2	N 13	Ⅲ上	石鏃	5.9	1.1	0.7	4.3	粘板岩	中生界	軽米		棒状	
3008	GW	上1	J 8	I	石鏃	4.5	1.7	0.7	5.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		棒状	
3009	GW		不明	I	石鏃	(3.9)	1.0	0.8	(3.0)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米		棒状	
3010	GC	外	G 13	I	石鏃	1.7	1.1	0.2	0.3	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
3011	GC	外	G 12	I	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.6	凝灰岩	中生界	軽米		有茎平基 1	
3012	GC	外	H 9	I	石鏃	2.5	1.5	0.3	0.9	チャート	中生界	軽米		有茎平基 1	
3013	GC	外	D 16	I	石鏃	2.4	1.2	0.3	0.6	チャート質赤褐色凝灰岩	中生界	軽米-九戸- 岩泉		有茎平基 2	
3014	GC	外	H 18	Ⅲ上	石鏃	3.6	1.5	0.5	2.0	水晶	中生界	軽米		有茎平基 2	水晶裂
3015	GC	外	H 13	I	石鏃	(3.0)	1.1	0.4	(1.0)	粘板岩質チャート	中生界	軽米		有茎平基 3	
3016	GC	外	G 9	I	石鏃	(2.4)	1.1	0.5	(1.4)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
3017	GC	外	H 12	Ⅲ上	石鏃	(1.9)	1.5	0.4	(1.3)	チャート	中生界	軽米		有茎平基 3	
3018	GC	外	G 10	I	石鏃	(1.8)	(0.8)	0.2	(0.3)	玻璃質流紋岩	中生界	軽米		有茎平基 3	
3019	GC	外	G 13	I 下	石鏃	4.2	1.2	0.5	2.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎尖基 2	
3020	GC	外	G 10	I	石鏃	1.7	1.1	0.3	0.4	チャート	中生界	軽米		有茎凹基	
3021	GC	外	C 17	I	石鏃	2.5	1.4	0.5	1.2	チャート	中生界	軽米		有茎凹基	
3022	GC	外	E 15	I	石鏃	3.1	1.7	0.5	1.8	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎凹基	
3023	GC	外	F 15	I	石鏃	3.6	1.5	0.5	1.5	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎凹基	
3024	GC	外	F 12	Ⅲ	石鏃	2.4	1.5	0.3	0.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米		有茎凹基	
3025	GC	外	G 12	Ⅲ	石鏃	2.8	1.5	0.3	1.0	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎凹基	
3026	GC	外	H 11	I	石鏃	(2.5)	1.5	0.3	(0.8)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		有茎凹基	
3027	GC	外	C 15	I	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.6	粘板岩	中生界	軽米		尖茎尖基	
3028	GC	外	F 18	Ⅲ	石鏃	(3.3)	1.8	0.8	(3.8)	チャート質粘板岩	中生界	軽米		無茎平基	
3029	GC	外	D 15	I	石鏃	2.9	1.2	0.3	1.1	チャート	中生界	軽米		棒状	
3030	GC	外	F 13	I	石鏃	1.9	1.4	0.3	0.5	粘板岩	中生界	軽米		無茎凹基	

第72表 石器 (4) 石鏃

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	分類	備考
957	N	内	D19住居跡	埋土中	尖頭器	4.45	3.10	1.0	15.8	チャート質粘板岩	中生界	軽米	木葉形状	
1059	N	内	I17土坑6号	埋土中	尖頭器	(2.5)	2.2	0.7	(3.4)	チャート質粘板岩	中生界	軽米	木葉形状	先端部のみ、基部欠損
1121	N	内	C21柱穴状土坑2号	埋土中	尖頭器	3.8	1.5	0.9	3.8	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	木葉形状	
1149	N	内	E19集石	Ⅲ上	尖頭器	(3.3)	1.9	0.7	(2.5)	チャート	中生界	軽米	木葉形状?	先端部欠損
3031	G E	上	E22	Ⅲ中	尖頭器	5.3	2.0	0.8	5.6	チャート	中生界	軽米	石鏃状	
3032	G E	下	G26	Ⅲ上	尖頭器	3.9	2.5	1.1	8.1	チャート	中生界	軽米	木葉形状	
3033	G E	中	F26	Ⅲ中	尖頭器	15.5	3.0	1.5	67.1	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	
3034	G E	下	G26	Ⅲ上	尖頭器	4.1	2.0	0.9	6.2	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	
3035	G E	中	F25	Ⅲ上	尖頭器	4.8	2.3	1.3	10.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米	木葉形状	基部側に付着物有、先端部欠損
3036	G E	中	E24	Ⅲ中～下	尖頭器	3.6	2.6	0.6	5.2	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	
3037	G E	中	D24	Ⅲ下	尖頭器	(2.6)	2.3	0.8	(3.0)	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	未製品
3038	G E	上	C26	Ⅲ上	尖頭器	3.2	2.1	1.4	6.9	チャート	中生界	軽米	木葉形状	大型の石鏃状
3039	G E	中	H24	I	尖頭器	(2.0)	1.9	0.6	(1.4)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状?	基部?欠損
3040	G E	上	D22	Ⅲ下	尖頭器	6.2	3.7	1.2	26.6	チャート質粘板岩	中生界	軽米	木葉形状	未製品
3041	G E	上	C26	Ⅲ上	尖頭器?	(4.1)	2.7	0.9	(10.9)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	先端部欠損
3042	G E	上	B24	Ⅲ中	尖頭器?	(2.9)	2.8	1.0	(6.6)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	先端部欠損
3043	G E	中	D26	I	尖頭器	(3.3)	2.0	0.8	(4.3)	チャート質粘板岩	中生界	軽米	木葉形状	先端部欠損
3044	G E	中	E25	Ⅲ	尖頭器	(2.1)	1.9	0.5	(1.7)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	先端部欠損
3045	G E	中	H24	Ⅲ上	尖頭器	4.2	3.0	0.9	10.0	チャート	中生界	軽米	三角形	未製品
3046	G E	上	B25～D25	Ⅲ中	尖頭器	3.1	2.4	0.9	6.2	チャート	中生界	軽米	三角形	未製品
3047	G E	上	B21	Ⅲ上	尖頭器	3.2	2.5	0.7	4.8	粘板岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形
3048	G E	中	F25	Ⅲ上	尖頭器	3.8	3.3	1.4	10.0	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	三角形	未製品?
3049	G E	上	C23	I	尖頭器	3.5	3.0	1.1	8.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形
3050	G E	上	B24	Ⅲ	尖頭器	3.9	3.2	0.8	8.1	チャート質粘板岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形
3051	G E	中	F25	Ⅲ下	尖頭器	4.8	3.6	1.0	9.1	チャート	中生界	軽米	三角形	
3052	G E	変	D24	Ⅲ上	尖頭器	(2.8)	1.8	1.0	(3.7)	玻璃質流紋岩	中生界	軽米	棒状	形態の詳細は不明、先端部欠損
3053	G E	中	E27	Ⅲ	尖頭器	(4.4)	2.4	1.1	(7.1)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	棒状	形態の詳細は不明、先端～身基部欠損
3054	G W	上2	N12	I	尖頭器	7.8	4.6	1.7	77.7	凝灰質砂岩	中生界	軽米一帯	木葉形状	未製品
3055	G W	上1	K8	Ⅲ中	尖頭器	(2.9)	2.4	0.4	(2.7)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	先端部欠損
3056	G W	上2	N13	Ⅲ上	尖頭器	3.7	2.3	1.0	7.8	チャート	中生界	軽米	木葉形状	大型の石鏃状
3057	G W	上2	O13	Ⅲ上	尖頭器	3.2	2.0	0.7	4.7	チャート	中生界	軽米	木葉形状	大型の石鏃状
3058	G W	上2	P15	Ⅲ上	尖頭器	4.6	2.3	0.9	9.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	
3059	G W		西部捨て場	Ⅲ	尖頭器	(2.4)	2.1	0.7	(2.4)	チャート質粘板岩	中生界	軽米	木葉形状	基部欠損
3060	G W	上1	I7	I	尖頭器	(2.3)	(2.4)	0.8	(5.0)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	木葉形状	先端・基部欠損
3061	G W	上1	L10	Ⅲ上	尖頭器	(2.5)	2.3	0.6	(3.2)	チャート質粘板岩	中生界	軽米	木葉形状	先端部欠損
3062	G W	上1	L11	Ⅲ上	尖頭器	(1.9)	2.0	0.6	(1.3)	玻璃質流紋岩	中生界	軽米	木葉形状	基部欠損
3063	G W	上2	O13	Ⅱ	尖頭器	(1.7)	1.7	0.7	(1.5)	チャート	中生界	軽米		小形石鏃の折れたもの?、基部欠損
3064	G W	上2	O14	Ⅲ上	尖頭器	4.0	2.6	0.7	5.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	三角形	小形石鏃の可能性有
3065	G W	上2	O14	Ⅲ上	尖頭器	3.2	1.8	0.8	4.1	チャート	中生界	軽米	三角形	小形石鏃の可能性有
3066	G W	上2	O14	Ⅲ上	尖頭器	3.0	2.3	0.8	4.2	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	三角形	石鏃の未製品?
3067	G W	上2	O14	Ⅲ上	尖頭器	3.7	3.5	0.9	11.9	粘板岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形、先端丸い
3068	G W	上2	N13	Ⅲ上	尖頭器	4.7	3.7	1.0	14.1	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形
3069	G W	上1	L13	Ⅲ上	尖頭器	5.3	3.6	1.6	24.3	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形
3070	G W	上2	N12	Ⅲ上	尖頭器	3.6	2.8	0.6	6.7	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形、片面に自然面有
3071	G W	上2	P13	Ⅲ上	尖頭器	(3.2)	1.9	0.8	(3.2)	玻璃質流紋岩	中生界	軽米	三角形	石鏃の未製品?
3072	G W	上1	L8～M8	Ⅲ	尖頭器	6.5	4.5	1.7	37.3	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形、大形剥片利用
3073	G W	上1	H9	Ⅲ	尖頭器?	3.8	3.2	0.9	6.6	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米	三角形	
3074	G W	上1	L11	Ⅲ上	尖頭器	3.5	3.1	0.8	6.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	三角形	斜軸形
3075	G W	上2	N13	Ⅲ上	尖頭器	4.1	2.0	0.9	3.5	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	三角形	
3076	G W	上1	N14	Ⅲ上	尖頭器	3.6	2.7	0.8	7.2	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	不定形	未製品
3077	G W	上1	J11	Ⅲ	尖頭器	3.9	2.2	1.2	8.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米	長楕円状	未製品?
3078	G C	外	G13	I	尖頭器	(6.0)	4.5	0.7	(19.5)	粘板岩	中生界	軽米	石鏃状	礫片を利用、大型の石鏃の可能性有、先端部欠損
3079	G C	外	D11	Ⅲ	尖頭器	4.7	3.0	0.9	7.9	チャート	中生界	軽米	三角形	斜軸形

第73表 石器(5) 尖頭器

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	踵部長さ(cm)	踵部幅	踵部厚さ	石質	時代	地域	分類	備考
929	N	内	G11住居跡状	埋土中(23)	石錐	4.6	1.8	0.9	3.1		0.3	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き1	
971	N	内	B22住居跡1号Q1	埋土	石錐	3.9	1.6	1.0	5.5		0.5	0.4	チャート	中生界	軽米	棒状	刺突状?
3080	GE	上	B23	Ⅲ上	石錐	4.1	1.7	0.4	1.4		0.3	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き1	
3081	GE	下	H24	Ⅲ下	石錐	4.1	1.5	0.5	1.4		0.3	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3082	GE	上	C22	Ⅲ	石錐	3.8	1.6	0.8	2.1		0.3	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3083	GE	中	G25	Ⅲ	石錐	3.2	1.5	0.5	1.2		0.3	0.2	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3084	GE	上	B25	Ⅲ	石錐	(3.0)	2.0	0.3	(0.8)		0.3	0.2	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	先端部
3085	GE	中	E24	Ⅲ	石錐	(3.7)	1.8	0.5	(1.2)		0.3	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き1	先端部
3086	GE	上	B25	Ⅲ上	石錐	4.2	1.6	0.3	1.0		0.3	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3087	GE	上	B24	Ⅲ	石錐	3.7	0.9	0.3	0.7		0.3	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き1	
3088	GE	中	F25	Ⅲ	石錐	4.4	2.0	0.6	2.6		0.3	0.2	粘板岩質チャート	中生界	軽米	摘み付き1	
3089	GE	下	H25	I	石錐	4.5	1.4	0.5	1.6		0.3	0.2	粘板岩質チャート	中生界	軽米	摘み付き1	
3090	GE	上	B23	Ⅲ	石錐	4.9	2.4	0.7	2.6		0.3	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3091	GE	中	E26	Ⅲ中	石錐	5.4	2.0	0.9	4.0		0.2	0.2	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3092	GE	中	D25	Ⅲ下	石錐	4.9	1.8	0.8	3.6		0.3	0.2	粘板岩質チャート	中生界	軽米	摘み付き1	
3093	GE	上	D21	Ⅲ上	石錐	4.4	2.2	0.8	3.5		0.4	0.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米一帯	摘み付き1	
3094	GE	中	F24	Ⅲ	石錐	3.8	1.7	0.8	4.5		0.6	0.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き2	
3095	GE	中	E24	Ⅲ下	石錐	(2.9)	2.0	0.7	(3.4)		1.1	0.3	チャート	中生界	軽米	摘み付き6	未製品の可能性有、踵部欠損
3096	GE	上	C24	Ⅲ	石錐	2.5	1.5	0.8	3.2		0.4	0.3	粘板岩質チャート	中生界	軽米	刺突状	
3097	GE	上	B25	Ⅲ上	石錐	2.3	1.3	0.6	1.9		0.3	0.3	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米	刺突状	
3098	GE	中	G25	I	石錐	2.6	1.6	0.7	2.5		0.4	0.2	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	刺突状	
3099	GE	上	B25	Ⅲ	石錐	3.4	1.4	0.5	1.8		0.4	0.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米	刺突状	
3100	GE	中	F25	Ⅲ下	石錐	5.1	1.5	0.9	5.9		0.5	0.3	珪質泥岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	刺突状	
3101	GE	中	G25	I	石錐	5.4	0.9	0.7	4.0		0.5	0.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米	棒状	
3102	GE	変	E23	Ⅲ中	石錐	5.0	0.8	0.6	3.0		0.5	0.4	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	棒状	先端テロテロ
3103	GE	上	第9トレンチ	Ⅲ	石錐	4.8	1.3	1.1	5.9		0.5	0.5	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米	棒状	先端部欠損
3104	GE	中	F27	Ⅲ上	石錐	1.8	0.5	0.2	0.2		0.3	0.1	粘板岩質チャート	中生界	軽米	棒状	小形
3105	GE	上	D23	Ⅲ上	石錐	2.6	0.7	0.4	0.6		0.4	0.2	粘板岩	中生界	軽米	棒状	
3106	GE	上	B25	Ⅲ	石錐	2.5	1.0	0.7	1.7		0.3	0.2	粘板岩質チャート	中生界	軽米	棒状	
3107	GE	中	F25	I	石錐	3.1	1.0	0.6	1.4		0.3	0.3	粘板岩質チャート	中生界	軽米	棒状	
3108	GE	上	C23	Ⅲ	石錐	3.0	0.9	0.7	1.9		0.4	0.3	チャート	中生界	軽米	棒状	
3109	GE	上	F22	I	石錐	3.8	1.1	1.1	3.5		0.2	0.2	チャート	中生界	軽米	棒状	
3110	GW	中1	N10	Ⅲ上	石錐	5.2	1.4	0.4	2.1		0.4	0.3	粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3111	GW	上2	N13	Ⅲ上	石錐	4.0	2.0	0.4	1.3		0.3	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き1	
3112	GW	上2	P13	Ⅲ上	石錐	4.3	1.5	0.5	2.7		0.4	0.3	チャート	中生界	軽米	摘み付き2	
3113	GW	上1	M13	Ⅲ上	石錐	1.4	0.7	0.2	0.2		0.2	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き3	
3114	GW	上1	M13	Ⅲ上	石錐	(2.2)	1.0	0.4	(0.7)		0.3	0.1	チャート	中生界	軽米	摘み付き3	先端部欠損
3115	GW	上2	O12	I	石錐	2.3	0.8	0.3	0.7		0.3	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き3	
3116	GW	上2	P14	Ⅲ上	石錐	2.2	1.1	0.4	0.8		0.2	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き3	先端テロテロ
3117	GW	上2	N13	Ⅲ上	石錐	(2.2)	1.3	0.5	(1.2)		0.4	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き4	先端部欠損
3118	GW	上1	J9	Ⅲ上	石錐	(2.7)	1.9	0.5	(2.2)		0.5	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	摘み付き4	先端部欠損
3119	GW	上2	O12	Ⅲ上	石錐	3.3	2.6	1.0	5.5		0.4	0.4	チャート	中生界	軽米	摘み付き6	
3120	GW	上1	I7	I	石錐	3.9	3.0	1.2	9.9		0.3	0.2	凝灰岩質チャート	中生界	軽米	摘み付き5	
3121	GW	上1	I8	I	石錐	(6.5)	2.1	1.4	(14.6)		0.5	0.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米	刺突状	尖頭部の基部?
3122	GW	上1	L11	Ⅲ上	石錐	(3.6)	1.8	0.8	(3.9)		0.6	0.4	粘板岩	中生界	軽米	刺突状	先端部欠損
3123	GW	中1	O11	Ⅲ上	石錐	(4.2)	1.0	0.7	(3.6)		0.5	0.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米	棒状	石錐?、基部欠損
3124	GW	上1	K9	Ⅲ上	石錐	1.7	0.6	0.3	0.3		0.4	0.2	チャート	中生界	軽米	棒状	
3125	GW	中1	O11	Ⅲ上	石錐	3.4	1.1	0.7	2.0		0.3	0.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米	棒状	
3126	GW	中1	O11	Ⅲ上	石錐	2.7	1.0	0.6	1.1		0.4	0.2	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	棒状	石錐?
3127	GW	上2	N14	Ⅲ上	石錐	3.3	0.8	0.7	1.9		0.4	0.2	チャート	中生界	軽米	棒状	
3128	GW		西部捨て場	I	石錐	4.6	0.8	0.8	3.6		0.5	0.2	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	棒状	先端部欠損
3129	GW	上1	K12	Ⅲ上	石錐	3.5	0.8	0.5	1.9		0.4	0.3	チャート	中生界	軽米	棒状	先端テロテロ
3130	GC	外	C16	Ⅲ	石錐	3.5	0.9	0.5	0.9		0.2	0.2	チャート	中生界	軽米	摘み付き1	
3131	GC	外	G9	I	石錐	2.6	1.8	0.7	2.6		0.4	0.2	チャート	中生界	軽米	刺突状	石錐平基台塞
3132	GC	外	G13	I	石錐	1.9	0.5	0.2	0.2		0.3	0.2	チャート	中生界	軽米	棒状	

第74表 石器(6) 石錐

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(m)	幅	厚さ	重量(g)	備み部分長さ	備み部分幅	備み部分厚さ	石質	時代	地域	分類	備考
951	N	内	C16住居跡1号	埋土下位	石匙	3.5	4.7	0.6	5.4	0.8	1.4	0.5	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	横長2	
991	N	内	C15土坑1号	埋土中	石匙	2.9	1.2	0.5	1.6	0.8	0.5	0.5	水晶	中生界	軽米	縦長3	小形、石英
1007	N	内	E26土坑	埋土中	石匙	3.1	6.5	0.7	9.3	1.3	1.1	0.4	粘板岩	中生界	軽米	横長2	
1008	N	内	E26土坑	埋土下位	石匙	3.4	4.6	0.7	10.4	1.1	1.3	0.6	粘板岩	中生界	軽米	横長2	
1060	N	内	I17土坑9号	埋土中	石匙	3.9	2.7	1.1	6.0	0.8	1.0	0.4	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	縦長	
3133	GE	下	G26	Ⅲ	石匙	8.7	2.7	1.3	27.7	1.2	1.9	1.0	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	縦長1	
3134	GE	中	F26	Ⅲ中	石匙	5.3	2.5	0.8	10.2	1.1	1.2	0.6	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3135	GE	下	F27	Ⅲ中	石匙	7.1	1.6	1.0	8.6	0.8	1.0	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長1	細身
3136	GE	中	D25	I	石匙	6.2	4.3	0.9	21.4	1.2	1.5	0.8	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	横長2	
3137	GE	中	E25	Ⅲ(再堆積層)	石匙	3.4	1.3	0.6	2.3	0.4	0.4	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長3	小形
3138	GE	中	D26	Ⅲ下	石匙	6.3	3.2	0.8	13.6	1.4	1.5	0.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長4	
3139	GE	中	F26	Ⅲ	石匙	6.6	3.3	1.0	22.1	1.6	1.4	0.8	粘板岩	中生界	軽米	縦長4	
3140	GE	下	G26	Ⅲ下	石匙	4.6	4.9	1.0	13.3	1.9	1.4	0.9	粘板岩	中生界	軽米	縦長5	
3141	GE	下	G26	Ⅲ下	石匙	6.5	3.4	1.1	26.1	1.3	1.4	1.1	チャート	中生界	軽米	縦長5	
3142	GE	上	B25	Ⅲ	石匙	6.5	3.5	0.5	12.8	2.0	1.8	0.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長6	備みが3段になっている
3143	GE	上	D21	I	石匙	(7.6)	3.9	1.8	(32.4)	1.3	1.2	0.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米一帯	縦長	
3144	GE	中	F26	Ⅲ上	石匙	3.9	4.8	0.8	13.0	1.2	1.5	0.8	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3145	GE	上	B25~D25	Ⅲ	石匙	3.9	5.0	0.9	11.0	1.4	1.2	0.7	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	縦長1	
3146	GE	変	C25	Ⅲ中~下	石匙	3.4	4.4	0.8	9.8	0.8	1.1	0.8	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	縦長1	柄にアスファルト付着
3147	GE	中	F26	Ⅲ中	石匙	3.6	4.8	0.6	7.8	1.0	0.8	0.3	チャート	中生界	軽米	縦長1	備み部アスファルト付着
3148	GE	上	C25	I	石匙	4.2	6.9	1.0	23.6	1.4	0.9	0.7	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3149	GE	中	E25~F25	Ⅲ中	石匙	4.2	5.9	1.2	20.7	1.1	1.5	0.8	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	横長2	
3150	GE	中	D24	Ⅲ下	石匙	3.9	6.0	1.0	18.9	1.2	1.0	0.5	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	横長2	
3151	GE	上	第9トレンチ	I	石匙	3.8	3.0	0.8	7.7	1.9	1.3	0.8	チャート	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	
3152	GE	変	C26	Ⅲ中	石匙	4.3	2.4	0.9	7.5	1.1	0.8	0.5	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	縦形三角形形状
3153	GE	下	H24	Ⅲ下	石匙	3.9	2.2	0.9	5.5	1.4	1.0	0.8	チャート質粘板岩	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	縦形三角形形状
3154	GE	上	B23	Ⅲ	石匙	3.1	2.2	1.2	8.9	1.3	1.5	0.9	チャート	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	
3155	GE	変	D24	Ⅲ上	石匙	5.4	4.3	1.2	18.1	2.1	1.4	0.9	粘板岩	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	
3156	GE	下	G25	Ⅲ下	石匙	3.6	2.2	0.8	5.8	1.5	1.0	0.6	粘板岩	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	
3157	GW	中1	P12	Ⅲ上	石匙	6.6	2.5	0.8	12.1	1.0	1.2	0.4	粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3158	GW	上1	L11	Ⅲ上	石匙	6.0	3.2	1.1	14.8	1.6	1.3	0.5	粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3159	GW	上1	L11	Ⅲ中	石匙	(9.6)	2.0	0.5	(10.6)	(1.5)	0.7	0.5	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	縦長1	
3160	GW	上1	H9	Ⅲ	石匙	7.8	2.3	0.7	10.8	1.2	1.1	0.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	縦長1	
3161	GW	中1	P12	Ⅲ上	石匙	(5.7)	2.7	0.7	(10.6)	(1.2)	1.1	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3162	GW	上1	L9	Ⅲ上	石匙	6.5	4.5	0.8	23.6	1.3	0.9	23.6	珪質泥岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	横長2	
3163	GW	上1	I10	Ⅲ上	石匙	5.0	4.0	0.7	14.6	0.9	1.0	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長2	
3164	GW	上1	L12	Ⅲ上	石匙	5.6	2.3	0.9	10.0	1.0	0.9	0.6	粘板岩質チャート	中生界	軽米	縦長3	
3165	GW	上1	L10	I	石匙	5.5	1.9	0.4	4.7	0.8	0.9	0.3	チャート	中生界	軽米	縦長3	
3166	GW	上1	L・M8	Ⅲ	石匙	6.7	2.2	1.0	13.3	1.0	1.1	0.4	粘板岩	中生界	軽米	縦長3	
3167	GW	上1	L10	Ⅲ上	石匙	7.3	3.4	1.0	24.0	1.0	1.2	0.5	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	縦長7	L形状
3168	GW	上1	K8	Ⅲ上	石匙	3.5	5.5	0.6	9.5	1.1	1.0	0.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	縦長1	
3169	GW	中1	Q11	Ⅲ上	石匙	2.6	5.0	0.7	6.8	1.0	0.7	0.4	チャート質粘板岩	中生界	軽米	横長2	
3170	GW	上2	P13	Ⅲ上	石匙	4.0	6.5	0.7	13.3	0.9	0.9	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3171	GW	上1	L11	Ⅲ上	石匙	2.7	5.8	0.7	6.4	0.8	0.7	0.4	チャート質凝灰岩	中生界	軽米	縦長1	
3172	GW	上1	K11	I	石匙	3.4	4.7	0.7	7.1	0.9	0.8	0.4	チャート	中生界	軽米	縦長1	
3173	GW	上1	L13~N13	Ⅲ上	石匙	3.2	4.8	0.4	8.0	1.1	0.8	0.3	粘板岩	中生界	軽米	横長2	縦長刻片の側縁に備みをつけて横長にしている
3174	GW	上1	L9	Ⅲ上~下	石匙	2.8	4.8	0.7	7.2	0.9	0.8	0.5	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	縦長1	
3175	GW	上2	N12	Ⅲ上	石匙	3.1	3.9	0.6	4.9	0.8	1.0	0.5	粘板岩質チャート	中生界	軽米	縦長1	
3176	GW	上1	L10	Ⅲ上	石匙	2.0	3.2	0.4	1.9	0.5	0.5	0.4	粘板岩質チャート	中生界	軽米	横長小形	
3177	GW	上2	N11	Ⅲ上	石匙	1.7	(1.8)	0.3	(1.1)	1.2	0.5	0.2	チャート質粘板岩	中生界	軽米	横長小形	
3178	GW	上1	M12	Ⅲ上	石匙	2.6	1.9	0.8	3.9	0.8	1.0	0.5	チャート	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	

第75表 石器(7) 石匙

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	柄の部分長さ	柄の部分幅	柄の部分厚さ	石質	時代	地域	分類	備考
3179	GW	上2	N13	Ⅲ上	石匙	3.8	3.1	0.9	8.6	2.0	1.3	0.9	粘板岩質チャート	中生界	軽米	横長小形 太い柄付き	
3180	GC	外	G9	I	石匙	3.9	5.6	0.8	15.6	1.4	1.8	0.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米	横長1	

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	形態	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
3181	GE	上	C26	Ⅲ	異形石器	完形	4脚状	1.6	1.0	0.4	0.4	チャート	中生界	軽米	
3182	GE	中	E24	Ⅲ上	異形石器	完形	石鏃状	2.3	1.9	0.5	1.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米	
3183	GE	中	D26	Ⅲ	異形石器	完形	十字形状	2.9	1.3	0.5	0.9	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	
3184	GE	中	E24	Ⅲ	異形石器	完形	人形状	3.6	1.8	0.8	3.9	粘板岩質チャート	中生界	軽米	
3185	GE	中	C26	I	異形石器	完形	石鏃状	3.5	1.6	0.5	3.2	流紋岩質極細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3186	GE	中	C26	I	異形石器	一先端部	4角形状	(2.8)	2.2	0.5	(2.4)	チャート	中生界	軽米	
3187	GE	中	F26	I	異形石器	一先端部	鏃状	(2.0)	1.9	0.5	(1.3)	チャート	中生界	軽米	
3188	GW	上2	P14	Ⅲ上	異形石器	完形	釣針状	1.7	1.5	0.3	0.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米	
3189	GW	上2	O13	Ⅲ上	異形石器	先端部	3本脚状	(1.7)	2.4	0.4	(1.2)	チャート	中生界	軽米	
3190	GW	中1	N9	Ⅲ上	異形石器	完形	石鏃状	2.0	1.3	0.3	0.8	粘板岩	中生界	軽米	
3191	GW	上1	I8	I	異形石器	完形	鏃状	4.0	1.5	0.7	2.8	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	
3192	GW	上1	J13・L13・R13	Ⅲ上	異形石器	完形	石匙状	6.5	3.6	0.9	8.2	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米	
3193	GC	外	D16	I	異形石器	完形	石鏃状	3.1	1.9	0.6	1.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米	

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	形態	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
927	N	内	G11住居跡状	埋土中(4)	楔形石器	縦長状	3.0	1.3	0.7	2.7	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	両極打法、楔状
928	N	内	G11住居跡状	埋土中(28)	楔形石器	縦長状	3.7	2.2	0.8	8.7	凝灰質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
1058	N	内	I17上坑4号	埋土中	楔形石器		2.5	1.9	0.8	5.1	凝灰質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3194	GE	中	F24	Ⅲ上	楔形石器		1.1	2.2	0.7	4.2				
3195	GE	中	F27	I	楔形石器		2.3	2.3	0.7	4.6	凝灰質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3196	GE	上	C24	Ⅲ上～中	楔形石器		2.8	2.4	0.8	7.0	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3197	GE	中	E25	Ⅲ中～下	楔形石器		2.7	2.4	1.0	6.9	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3198	GE	中	E25	Ⅲ下	楔形石器		3.5	2.1	1.0	8.1				
3199	GE	中	E25	Ⅲ上～中	楔形石器		3.0	1.8	1.0	6.1				
3200	GE	上	C24	Ⅲ中	楔形石器	縦長状	3.1	2.0	1.1	7.5	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	上下両端に剥離が認められる、片面は凹んでいる
3201	GE	中	E25	Ⅱ	楔形石器		2.3	2.4	0.8	4.9				
3202	GE	中	E25	Ⅲ上	楔形石器		2.7	1.8	0.8	4.1				
3203	GE	上	C26	Ⅲ上	楔形石器	方形状	2.5	2.1	0.7	4.1	凝灰質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	上下両端に剥離が認められる
3204	GE	中	F27	Ⅲ上	楔形石器		1.6	2.4	0.8	4.0	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3205	GW	上1	K10	I	楔形石器	縦長状	2.6	1.7	0.9	4.8	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	表裏面に表皮が残る
3206	GW	上2	N11	Ⅲ上	楔形石器	方形状	2.4	2.2	0.8	5.0	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	片面に表皮が残る
3207	GW	上2	O14	Ⅲ上	楔形石器	方形状	2.2	2.6	0.8	8.8	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	片面に表皮が残る
3208	GW	上2	P13	Ⅲ上	楔形石器	縦長状	2.9	2.0	1.0	8.1	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	片面に表皮が残る
3209	GC	外	E16	I	楔形石器	方形状	2.4	2.5	1.0	4.8	凝灰岩質チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	両極打法

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	分類	備考
3210	GE	委	E23	I	鋸歯状石器	完形	2.9	2.4	0.6	4.5	凝灰質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	縦長	剥片の一部に調整が加えられる
3211	GE	中	E26	Ⅲ(再堆積層)	鋸歯状石器	完形	2.8	3.7	1.0	9.7	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	横長	剥片の一部に調整が加えられる
3212	GE	上	B25	I	鋸歯状石器		1.8	1.7	0.8	1.8					
3213	GE	上	C23	Ⅲ	鋸歯状石器	完形	3.4	3.2	0.7	5.9	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	三角形状	剥片の一部に調整が加えられる
3214	GE	中	G24	I	鋸歯状石器	打点部・縁部	2.6	6.1	0.6	8.1	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	不定形	剥片の一部に調整が加えられる
3215	GE	上	C23	Ⅲ	鋸歯状石器	打面部	3.0	2.5	0.6	3.8	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	縦長	剥片の一部に調整が加えられる
3216	GW	中1	L7	Ⅲ上	鋸歯状石器	完形	2.2	3.1	0.8	4.7	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	横長	剥片の一部に調整が加えられる
3217	GW	中1	Q12	Ⅲ上	鋸歯状石器	完形	2.2	2.9	0.5	4.8	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	縦長	剥片の一部に調整が加えられる
3218	GW	上2	N12	I	鋸歯状石器	打面部	2.1	3.8	1.6	12.8	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	不明	角錐状の剥片の一部に加工される
3219	GW	上1	L14	Ⅲ上	鋸歯状石器	完形	3.6	4.4	2.0	5.6	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	横長	薄い剥片利用
3220	GW	上2	N12	Ⅲ上	鋸歯状石器	完形	1.7	1.9	0.6	2.4	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	横長	剥片の一部に調整が加えられる
3221	GW	上1	L14～M14	Ⅲ上	鋸歯状石器	完形	2.4	4.3	1.2	12.9	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	横長	比較的厚みのある剥片利用
3222	GW	上2	P13	Ⅲ上	鋸歯状石器	完形	4.5	2.2	0.9	7.5	凝灰質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	縦長	剥片の一部に調整が加えられる
3223	GC	外	H17	Ⅲ上	鋸歯状石器	完形	4.4	3.7	0.9	13.7	流紋岩質凝灰岩	中生界	軽米-大野	縦長	剥片の縁辺に調整が見られる

第76表 石器(8) 石匙・異形石器・楔形石器・鋸歯状石器

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	形態	長さ(m)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
913	N	内	K11住居跡 P P 4	埋土中	削器	完形	不定形	3.7	5.8	1.1	15.5	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
917	N	内	K11住居跡 P P 59	埋土中	削器	完形	三角形	3.6	2.8	0.7	4.7	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
921	N	内	K11住居跡 P P 97	埋土中	削器	完形	三角形状	2.9	3.5	1.4	12.4	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	大形剥片の欠片を利用、石錐状
923	N	内	G11住居跡状 Q 2	埋土中(4)	削器	完形	縦長	5.8	3.4	1.1	11.1	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	小形碗筒状
924	N	内	G11住居跡状 Q 2	埋土中(4)	削器	完形	縦長状?	2.9	2.7	1.1	6.7	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
925	N	内	G11住居跡状 Q 2	埋土中(4)	削器			4.3	3.2	1.1	14.6				
926	N	内	G11住居跡状 Q 2	埋土中(4)	削器			7.3	2.9	1.7	21.2				
935	N	内	F10住居跡状 P P 4	埋土中	削器	完形	不定形	3.1	3.0	1.0	8.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
939	N	内	F18住居跡1号南側ベルト	埋土中	削器			3.6	2.5	1.2	9.6				
940	N	内	F18住居跡1号Q4	埋土中	円形搔器			1.4	2.3	0.5	1.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
942	N	内	F18住居跡2号	埋土中	削器			5.6	5.5	1.3	25.5				
946	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	削器	先端側	縦長状?	2.0	1.8	0.6	2.1	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	小形剥片
947	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	削器			2.3	1.9	0.4	1.7	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	
954	N	内	C16住居跡2号	埋土中	削器	完形	不定形	3.3	3.4	1.4	14.2	チャート質粘板岩	中生界		コアの可能性有
955	N	内	C16住居跡2号	埋土中	削器			4.1	5.9	1.5	21.8				
958	N	内	D19住居跡	埋土中	削器						5.1				
963	N	内	C23住居跡状2号	埋土中	削器			8.1	9.5	2.0	95.9				多量のアスファルト付き
965	N	内	C24住居跡状	埋土中	削器			3.7	2.1	1.1	7.5	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
966	N	内	C24住居跡状	埋土中(10)	削器						3.2				
970	N	内	B21住居跡状3号	埋土中	削器	打点部	縦形	7.2	4.1	0.8	19.9	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
972	N	内	B22住居跡1号Q1	埋土中	削器	完形	縦形	5.9	3.9	1.3	33.2	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
973	N	内	B22住居跡1号Q3	埋土中	削器			2.8	1.7	0.7	3.0	チャート	中生界	折爪岳山塊	
974	N	内	B22住居跡1号	埋土中	削器	完形	三角形状	3.3	3.5	1.0	8.1	チャート	中生界	折爪岳山塊	
975	N	内	B22住居跡1号	炉内	円形搔器			1.5	2.7	0.5	2.1	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
976	N	内	B22住居跡1号Q4	埋土中	削器	完形	不定形	1.6	2.5	0.9	2.8	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	小形剥片に調整痕があるもの
977	N	内	B22住居跡1号Q1	埋土中	削器			2.9	2.6	0.8	5.3	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
978	N	内	B22住居跡1号Q3	埋土中	削器			1.8	2.2	0.6	2.6				
979	N	内	B22住居跡1号Q1	埋土中	削器						5.1				
980	N	内	B22住居跡1号Q4	埋土中	削器						4.5				
987	N	内	C23焼土	埋土中	削器						13.9				
995	N	内	D13土坑5号	埋土下位	削器			3.9	4.6	1.6	25.5				
1001	N	内	E20土坑1号	埋土中	削器	先端部	縦形	3.9	3.1	0.9	4.1	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
1002	N	内	E20土坑1号	埋土中	削器	打点部	不定形	2.0	2.1	0.8	12.0	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	石匙もしくは石槍の可能性有
1003	N	内	E20土坑3号	埋土中	削器	完形	縦形	9.0	3.3	1.0	42.5	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1004	N	内	E21土坑1号	埋土中	削器	完形	縦形	5.3	2.6	0.7	6.9	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1009	N	内	E26土坑	埋土中	削器	打点部・側縁	不定形	2.4	3.2	1.1	5.3	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	方形状
1010	N	内	E26土坑	埋土中	削器	完形	横長	2.9	4.2	1.0	10.7	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	
1011	N	内	E26土坑	埋土中	削器	完形	不定形	4.6	4.4	1.4	25.3	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1012	N	内	E26土坑	埋土中	削器	完形	横形	4.5	3.3	0.6	11.6	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	尖頭器状
1013	N	内	E26土坑Q2	埋土下位	削器			3.0	2.2	1.0	3.9				彫器?
1014	N	内	E26土坑Q4	埋土中	搔器	完形	横長	3.2	4.4	1.0	13.8	チャート質凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
1015	N	内	E26土坑	埋土中	搔器	打点部側	縦形	2.4	3.7	1.2	11.6	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
1016	N	内	E26土坑Q4	埋土中	円形搔器	完形	円形状	1.4	1.8	0.5	1.2	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
1027	N	内	F12土坑1号	埋土上位	削器	基部	三角形状?	2.3	1.8	0.5	1.6	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	石鎌の未製品と思われる
1028	N	内	F12土坑1号	埋土中	削器	完形	不定形	3.9	3.3	0.9	8.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1029	N	内	F12土坑4号ベルト	埋土中	削器			5.2	3.1	0.8	17.1				
1032	N	内	F13土坑1号	埋土中	削器	完形	横形	2.8	3.5	1.3	9.7	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1033	N	内	F13土坑2号	埋土中	削器	完形	縦長	4.0	2.6	1.1	11.7	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
1037	N	内	F14土坑9号	埋土中	削器						3.0				
1038	N	内	F18土坑3号	埋土上位	削器			2.3	4.1	1.0	3.6				
1039	N	内	F23土坑	埋土中	削器			2.8	2.1	1.3	5.1				
1043	N	内	G15土坑2号	埋土中	削器			3.7	1.5	0.4	2.7				
1046	N	内	H11土坑1号	埋土中	削器			2.2	1.6	0.5	1.7	チャート	中生界	折爪岳山塊	
1048	N	内	H13土坑2号	埋土下位	削器	完形	縦長	2.3	3.1	1.0	6.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1049	N	内	H14土坑4号	埋土中	削器			4.7	3.0	1.0	7.6				
1052	N	内	H18土坑9号	埋土中	削器			6.2	4.9	1.5	40.2	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1055	N	内	H22土坑1号	埋土中	削器	完形	方形状	4.5	4.3	1.0	22.2	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1057	N	内	I11土坑1号	埋土中	削器			3.3	3.1	0.9	7.7				
1063	N	内	I19土坑1号	埋土中	削器			2.6	2.8	0.7	4.3				
1066	N	内	I19土坑2号	埋土中	削器			1.9	2.4	0.9	3.9				
1067	N	内	I19土坑2号ベルト	埋土中	削器			4.0	2.5	1.1	11.4	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1068	N	内	I19土坑2号	埋土中	削器			2.9	1.5	0.9	9.0				
1071	N	内	J17土坑1号	埋土中	削器	完形	縦長	5.8	3.1	1.2	17.6	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
1073	N	内	J19土坑1号	埋土中	削器			2.0	3.2	0.5	2.8				
1075	N	内	K10土坑	埋土中	削器	完形	縦形	3.6	2.5	0.9	8.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	石錐状の小型品
1076	N	内	K10土坑	埋土中	削器			4.5	3.2	0.9	14.8				
1081	N	内	K10土坑	埋土中	削器						8.8				
1084	N	内	K15土坑1号	埋土中	削器			2.1	3.7	0.6	2.6	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	

第77表 石器 (9) 削器・搔器

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	形態	長さ(m)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
1090	N	内	L12土坑1号	埋土中	削器						1.8				
1094	N	内	L12土坑2号	埋土中	削器	打点部	縦形	4.5	2.2	0.6	6.0	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	縁辺の一部に調整刻離有
1095	N	内	L12土坑2号	埋土中	削器	完形	不定形	4.8	3.2	1.3	17.6	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	貝殻状剥片利用、一部挟れている
1097	N	内	L13土坑5号	埋土中	削器	完形	縦形	4.0	3.0	0.6	6.8	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1098	N	内	L13土坑5号	埋土中	削器	完形	方形状	3.2	3.1	1.1	12.3	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1099	N	内	L16土坑1号	埋土中	削器						4.6				
1100	N	内	L16土坑2号	埋土中	削器			1.5	2.3	0.6	1.5	凝灰岩質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1101	N	内	L19土坑1号	埋土中	削器	完形	縦長	5.2	2.0	0.6	6.0	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1105	N	内	M12土坑	埋土中	削器	打点部	方形状	3.4	2.7	0.4	4.3	緑色細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	
1110	N	内	M14土坑1号	埋土中	削器	完形	縦長	5.4	2.9	1.8	25.0	チャート	中生界	折爪岳山塊	刃部が一部テロチロしている
1116	N	内	N15土坑1号	埋土中	削器	完形	方形状	2.2	2.3	0.9	6.0	チャート	中生界	折爪岳山塊	
1117	N	内	N15土坑1号	埋土中	削器	完形	不定形	5.4	4.1	1.1	24.7	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	先端が若干干かれている、片側からの調整刻離
1118	N	内	N15土坑1号	埋土中	削器	打点部	縦形	4.1	3.3	0.9	12.4	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	縁辺の一部に調整刻離有、表皮一部残存
1126	N	内	D18柱穴状土坑1号	埋土中	削器			2.1	2.0	0.9	2.5				
1127	N	内	D21柱穴状土坑1号	埋土中	削器	完形	縦形	6.6	3.7	1.0	26.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1128	N	内	E13柱穴状土坑1号	埋土中	削器						1.3				
1132	N	内	F21柱穴状土坑5号	埋土中	削器			2.2	1.7	1.0	3.0				
1133	N	内	F21柱穴状土坑5号(F21立石と同じ)	埋土中	削器			1.7	2.2	0.8	2.3				
1134	N	内	E16柱穴状土坑4号	埋土中	削器	打点部・側縁部	縦形状	3.2	5.5	0.5	10.6	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	側縁に僅かに加工有
1136	N	内	G20柱穴状土坑2号	埋土中	削器			3.2	3.0	0.5	5.6				
1138	N	内	I12柱穴状土坑10号	埋土中	削器	打点部	縦形状	4.7	4.0	1.3	19.8	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1140	N	内	J11柱穴状土坑	埋土中	削器			3.5	2.4	0.6	4.7				
1141	N	内	J15柱穴状土坑	埋土中	削器	完形	不定形	3.8	2.3	0.6	6.1	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	一側縁に片側からの剥離が見られる
1143	N	内	K12柱穴状土坑1号	埋土中	削器	完形	横形	2.9	3.6	0.7	7.3	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	末端の縁辺に細かい剥離痕有
1145	N	内	M12柱穴状土坑	埋土中	削器	完形	縦形	4.7	3.6	1.3	22.7	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	石蓋状、先端尖る
1146	N	内	N15柱穴状土坑1号	埋土中	削器	完形	縦形	5.6	1.5	0.7	5.0	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	縁辺の一部に調整刻離有
1147	N	内	N15柱穴状土坑1号	埋土中	削器	完形	縦形	4.7	2.6	1.1	12.9	緑色細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	小形の打製石斧状である
1148	N	内	N15柱穴状土坑1号	埋土中	削器						3.0				
3224	GE	中	D25	Ⅲ(再堆積層)	削器	先端部	縦形	4.3	3.8	1.7	31.5	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3225	GE	上	B25	Ⅲ	削器	先端部	縦形	4.5	3.0	1.0	15.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3226	GE	中	F23	Ⅲ中	削器	完形	縦形	5.4	3.9	1.1	23.6	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3227	GE	上	C21	Ⅲ下	削器	完形	縦形	6.9	3.6	1.3	34.6	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3228	GE	上	B23	Ⅲ中	削器	完形	縦形	7.0	3.9	1.9	53.2	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3229	GE	中	D26	Ⅲ	削器	完形	縦形	7.6	4.0	1.0	27.8	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	先端尖る
3230	GE	中	F26	Ⅲ中	削器	完形	縦形	2.5	7.6	0.8	15.5	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3231	GE	上	B22	Ⅲ	削器	完形	縦形	6.5	4.5	1.1	32.2	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3232	GE	中	E24	Ⅲ下	削器	完形	縦形	7.4	3.2	0.9	21.2	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3233	GE	下	H24	Ⅲ中	削器	完形	横形	8.2	4.3	1.5	49.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3234	GE	下	E27	Ⅲ下	削器	完形	縦形	6.4	3.5	1.2	19.0	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3235	GE	下	G26	Ⅲ上	削器	完形	縦形	5.9	3.5	1.1	19.0	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3236	GE	中	G24	Ⅲ中	削器	完形	縦形	5.2	4.6	1.2	19.6	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3237	GE	中	D26	Ⅲ	削器	完形	縦形	3.9	3.1	0.6	7.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3238	GE	中	E25	IV(4e)	削器	完形	縦形	3.0	3.7	0.7	8.5	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	
3239	GE	中	F26	I	削器	完形	縦形	4.4	3.4	1.1	16.5	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	
3240	GE	上	B23	Ⅲ	削器	完形	横形	5.4	6.8	1.3	47.3	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3241	GE	上	B25	I	鉤型状削器	完形	縦形	3.0	2.6	0.9	5.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3242	GE	中	E25	Ⅲ上	削器	完形	横形	5.4	3.5	1.1	18.1	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3243	GE	上	D22	Ⅲ	鉤型状削器	完形	縦形	2.4	2.8	0.7	5.1	チャート	中生界	折爪岳山塊	先端部丸い、挟入石器の可能性有
3244	GE	上	E22	I	削器	完形	横形	5.2	6.7	0.8	28.4	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	一端尖る
3245	GE	変	E23	Ⅲ中	鉤型状削器	完形	縦形	3.2	2.4	0.7	4.5	チャート	中生界	折爪岳山塊	
3246	GE	上	C26	Ⅲ上	削器	完形	横形	5.1	6.4	1.5	27.9	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	一端尖る
3247	GE	下	H25~125	Ⅲ	削器	完形	縦形状	4.5	3.2	0.9	14.1	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	小形の打製石斧状である
3248	GE	中	D26	Ⅲ	削器	完形	横形	3.4	4.9	1.0	13.4	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3249	GE	下	G26	I	削器	完形	横形	2.8	4.3	0.5	5.5	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3250	GE	中	F25	Ⅲ上	削器	完形	横形	3.8	4.3	0.9	12.8	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	貝殻状
3251	GE	中	D25南北ベルト	Ⅲ	削器	完形	横形	2.6	4.3	0.8	9.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	両端尖る
3252	GE	中	E24	Ⅲ	削器	完形	横長	2.5	3.8	0.7	6.7	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3253	GE	変	D24	Ⅲ上	削器	完形	横長	3.2	3.9	1.0	9.1	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3254	GE	変	D24	I	削器	完形	横長	5.1	3.3	1.0	17.7	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	

第78表 石器(10) 削器・搔器

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	形態	長さ(m)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
3255	GE	中	F 23	I	削器	完形	方形状	3.4	3.3	1.4	15.7	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	一側縁に片側からの剥離が見られる
3256	GE	上	D 23	I	削器	完形	三角形状	4.5	4.8	1.0	22.0	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	
3257	GE	中	D 25	Ⅲ下	削器	完形	三角形状	3.9	3.5	0.9	12.8	粘板岩質チャート	中生界	折爪岳山塊	
3258	GE	中	D 26	Ⅲ	削器	完形	三角形状	3.5	3.4	1.2	10.9	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3259	GE	変	C 25	Ⅲ中	削器	完形	不定形	4.1	5.8	1.1	16.3	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	
3260	GE	上	B 25	I	削器	完形	不定形	4.9	3.2	1.7	24.9	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	
3261	GE	上	B 25	Ⅲ下	削器			5.4	9.0	1.0	54.9	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3262	GE	中	D 26	Ⅲ	削器			2.2	1.6	0.6	1.7	チャート	中生界	折爪岳山塊	
3263	GE	変	D 24	I	削器			1.9	1.6	0.4	0.9	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3264	GE	中	G 24	Ⅲ中	削器			4.6	4.4	1.1	18.7	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3265	GE	中	E 25	Ⅲ(3c)	削器			3.7	3.1	0.9	12.8	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3266	GE	中	H 24	I	削器			5.0	3.6	1.4	25.9	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3267	GE	変	C 25	Ⅲ下	削器			4.8	3.2	1.1	19.3				
3268	GE	中	D 24	Ⅲ下	削器						43.9				
3269	GE	中	D 25	Ⅲ	削器			3.4	5.1	0.8	12.2				
3270	GE	中	F 24	Ⅲ下	削器			3.2	4.5	1.1	18.6				
3271	GE	中	D 25	Ⅲ	削器			3.2	4.8	1.8	26.0				
3272	GE	変	D 24	Ⅲ上	削器			6.3	10.7	1.6	91.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3273	GW	上1	M 11	Ⅲ上	削器	完形	縦形	7.7	3.1	1.7	27.0	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3274	GW	上2	P 13	Ⅲ上~中	削器	完形	縦形	6.2	3.0	1.2	16.0	チャート	中生界	折爪岳山塊	
3275	GW	上1	J 8	I	削器	完形	縦形	5.2	2.5	0.5	5.5	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3276	GW	上1	L 9	Ⅲ上	削器	完形	縦形	4.5	1.7	0.6	4.3	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	細小形剥片
3277	GW	上1	J 7	I	削器	完形	縦形	5.2	3.7	1.1	22.3	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3278	GW	中1	N 9	Ⅲ上	削器	完形	縦形	3.8	2.3	0.8	6.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	先端部の刃部若干テロテロ
3279	GW	上2	P 14	I	鉤型状削器	完形	縦形	3.6	2.7	0.9	6.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	刃部の一部が挟まれて鳥の嘴状に似た鉤形を呈する
3280	GW	上1	L 12	Ⅲ上	削器	完形	縦形	5.3	2.6	1.0	7.3	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	縁辺の一部に調整刻線有
3281	GW	上1	J 10	I	削器	打点部・側縁	縦形	6.2	3.6	1.1	21.4	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	
3282	GW	上1	M 10	Ⅲ上	削器	完形	縦形	5.9	4.0	1.6	38.6	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	厚手の剥片、石筥状、先端尖る
3283	GW	上1	L 11	Ⅲ上	削器	完形	縦形	6.3	3.5	2.6	31.6	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	厚手の剥片、石筥状、先端尖る
3284	GW	上1	L 10	Ⅲ上	削器	完形	縦形	6.2	2.5	0.8	10.0	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	打点部側剥片剥離の際に欠損、石筥の未製品?
3285	GW	上2	P 13	Ⅲ上	削器	完形	縦形	4.5	4.0	1.6	25.9	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3286	GW	中1	M 9	Ⅲ上	削器	完形	縦形	4.2	4.1	0.9	13.9	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3287	GW	上1	L 10	Ⅲ上	削器	完形	縦形	5.8	2.9	1.4	16.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	急角度の刃部、搔器に近い
3288	GW	上2	O 12	Ⅲ上	削器	完形	縦形	11.5	4.5	1.8	76.6	チャート質凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	縁から剥がした表皮が残っている剥片利用
3289	GW	上1	J 10	I?	削器	完形	縦長	11.1	7.0	2.1	118.4	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	大形靴筥状
3290	GW	中1	P 10	Ⅲ中	削器	完形	縦長	3.7	2.9	1.1	11.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3291	GW	上1	H 10	Ⅲ上	削器	完形	縦長	5.2	4.3	0.8	20.2	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3292	GW	中1	M 9	Ⅲ上	削器	完形	縦長	4.7	3.0	1.0	13.5	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3293	GW	中1	O 11	Ⅲ上	削器	完形	縦長	5.0	4.1	0.9	18.8	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3294	GW	中1	N 10	Ⅲ上	削器	完形	縦長	5.1	3.1	0.7	9.4	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3295	GW	上1	I 7	I~Ⅲ上	削器	先端	縦長	5.5	3.2	1.4	15.1	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3296	GW	上1	L 10	Ⅲ上	削器	完形	縦長	8.3	4.5	1.5	49.6	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3297	GW	上2	N 11	Ⅲ上	削器	完形	縦長	8.8	4.4	1.0	49.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	大形靴筥状
3298	GW	上2	O 14	Ⅲ上	削器	完形	縦長	7.3	2.2	0.6	14.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	刃部がテロテロしている
3299	GW	上2	N 14	Ⅲ上	削器	完形	縦長	8.5	4.0	1.5	48.2	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3300	GW	上1	I 7	I~Ⅲ上	削器	完形	縦長状?	5.9	2.8	1.4	22.8	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	尖頭部の形態に近い
3301	GW	上1	L 12	Ⅲ上	削器	完形	横形	3.6	4.2	1.2	14.5	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊	長楕状剥片利用、刃部は丸ノミ状
3302	GW	上2	N 13	Ⅲ中	削器	先端側	縦長状?	4.0	2.2	1.0	9.9	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	尖頭部もしくは縁の可能性有
3303	GW	中1	N 10	Ⅲ上	削器	完形	横形	3.5	4.9	1.3	20.5	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	ノッチ状の刃部
3304	GW	上1	M 11ベルト	Ⅲ上	削器	完形	三角形	3.9	4.2	0.5	8.9	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3305	GW	上2	P 13	Ⅲ上	削器	完形	楕円状	4.5	4.6	1.6	30.1	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	
3306	GW	上1	L 11	Ⅲ上	削器	先端部	不定形	3.5	1.2	0.5	1.6	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	一見石筥状、錐状
3307	GW	上1	K 13	Ⅲ上	削器	打点部~右側	不定形	3.7	2.6	0.8	8.7	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	三日月状
3308	GW	中1	P 12	I	削器	完形	不定形	4.4	3.6	0.8	8.4	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	打点部側に刃部
3309	GW	上1	K 8	Ⅲ上	削器			5.1	2.4	0.8	11.1	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	
3310	GW	中1	M 8ベルト	Ⅲ上	削器	完形	三角形状	3.9	2.2	0.9	6.5	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	小形の打製石筥状
3311	GW	中1	N 10	Ⅲ上	削器			3.6	1.6	0.6	3.0	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	

第79表 石器 (11) 削器・搔器

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	形態	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考	
3312	GW	上1	N15	Ⅲ	削器						4.4					
3313	GC	外	H14	Ⅲ	削器	完形	縦形	7.0	3.3	0.9	17.6	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊	薄手の剥片、先端尖る	
3314	GC	外	G10	I	削器	完形	横形	3.0	4.1	1.1	10.2	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3315	GC	外	D17	Ⅲ	削器	完形	横長	3.6	4.8	1.1	14.3	チャート質凝灰質粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	腹面に主要刃部を構成する	
3316	GC	外	I17	I	削器	完形	不定形	2.5	1.5	0.6	1.6	チャート	中生界	折爪岳山塊		
3317	GC	外	G13	I	削器			2.7	1.5	0.5	2.2	凝灰質粘板岩	中生界	折爪岳山塊		
3318	GC	外	E19	I	削器	完形	方形状	3.7	3.4	1.0	10.7	凝灰質泥岩	中生界	折爪岳山塊		
3319	GC	外	I18	I	削器			2.3	2.3	0.3	1.5	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山塊		
3320	GE	上	B25	I	掻器	完形	横長	8.0	5.2	1.3	63.8	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3321	GE	上	B23	Ⅲ上	掻器	完形	縦形	7.5	2.2	1.3	11.9	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3322	GE	変	C24	Ⅲ~Ⅳ	掻器	完形	縦形	4.1	5.3	1.1	20.8	チャート質凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	刃部一部摩耗してテロテロ	
3323	GE	上	第9トレンチ	Ⅲ上	掻器	完形	縦形	5.8	3.1	1.7	24.8	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	刃部は先端部から側縁	
3324	GE	上	C22	Ⅲ下	掻器			9.4	3.6	1.5	52.0	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3325	GW	上1	M11	Ⅲ上	掻器	完形	横形	6.9	4.4	1.2	30.8	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3326	GW	上1	L13	I	掻器	打点部側	縦形	4.1	3.0	1.2	16.5	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	刃部一部欠け、厚手の破片	
3327	GW	上1	L12	Ⅲ上	掻器	打点部側	縦形	5.1	2.3	1.0	9.2	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	石匙の掴み部分?	
3328	GW	上2	O12	Ⅲ上	掻器	完形	縦形	3.9	2.0	0.9	7.9	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	石匙状	
3329	GW	上2	N13	Ⅲ上	掻器	完形	縦形	5.2	3.3	1.3	20.4	粘板岩質チャート	中生界	軽米-九戸-岩泉	石匙状	
3330	GW	中1	N10	Ⅲ上	掻器	完形	横長	4.3	5.6	1.0	18.0	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3331	GW	上1	L10	Ⅲ上	掻器	打点部側	縦長?	4.1	2.8	1.2	13.3	チャート質凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3332	GW	上2	P13	Ⅲ上	掻器	完形	横長	5.2	2.9	1.2	16.8	粘板岩質チャート	中生界	軽米-九戸-岩泉	貝殻状剥片を利用している	
3333	GW	上2	N11	Ⅲ上	掻器	完形	横長	4.3	5.8	1.2	27.7	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	貝殻状剥片を利用している	
3334	GW	上1	G7	I~Ⅶ	掻器	完形	縦長	4.0	4.3	1.1	18.0	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3335	GW	中1	M9	Ⅲ上	掻器	完形	横長	3.7	6.0	1.1	24.8	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)	石匙に近い	
3336	GC	外	H15	Ⅲ上	掻器	完形	縦形	8.0	4.2	1.3	66.0	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3337	GC	外	C19	Ⅲ上	掻器	完形	縦形	6.4	3.9	2.0	39.5	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3338	GE	中	H24	I	円形掻器	完形	円形状	2.8	2.2	1.0	6.2	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3339	GE	下	G26	I	円形掻器	完形	円形状	2.3	1.6	0.7	2.7	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3340	GE	下	H25	I	円形掻器	完形	円形状	1.9	1.5	0.7	1.9	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3341	GE	中	E27	I	円形掻器	完形	円形状	2.0	1.9	0.6	2.1	チャート	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3342	GE	中	F24	Ⅲ上	円形掻器	完形	円形状	2.1	2.4	0.8	3.8	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3343	GE	中	E24	Ⅲ上	円形掻器	完形	円形状	3.0	3.2	0.6	5.9	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3344	GE	中	F25	Ⅲ上	円形掻器			2.2	1.8	0.8	4.8	チャート中生界		軽米(折爪岳山塊)		
3345	GE	中	F23	Ⅲ下	円形掻器			3.6	2.5	0.9	6.8					
3346	GE	中	F27~E26	Ⅲ	円形掻器	完形	円形状	3.6	2.6	1.3	11.3	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		
3347	GE	上	C24	Ⅲ中	円形掻器	完形	円形状	3.4	3.6	1.0	12.8	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3348	GW	中1	Q12	Ⅲ上(再堆積層)	円形掻器	完形	円形状	2.6	3.5	0.9	8.8	赤褐色凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	円形掻器の未製品?	
3349	GW	上1	M13	Ⅲ上	円形掻器	完形	円形状	2.9	3.3	0.8	8.7	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3350	GW	上1	J9	I	円形掻器	完形	円形状	3.6	3.4	0.6	7.9	凝灰質泥岩	中生界	軽米-九戸-岩泉		
3351	GE	上	B25~D25	Ⅲ中	円形掻器	完形	円形状	3.1	3.7	1.1	13.0	チャート質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)		

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
1025	N	内	E26土坑	埋土中	石鏃状石器	16.7	8.6	2.7	375.2	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
3471	GE	中	D24	Ⅲ中	石鏃状石器	(15.3)	7.2	2.1	(354.8)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3472	GW	上1	J9	Ⅲ	石鏃状石器	(14.8)	10.4	2.1	(324.5)	安山岩	中生界	大野-種市-久慈	
3473	GW	中1	L7	Ⅲ上	石鏃状石器	11.2	6.0	2.4	236.7	砂質粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3474	GW	上1	L9	Ⅲ上	石鏃状石器	14.6	8.6	1.7	276.2	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3475	GW	上1	L8	I	石鏃状石器	(11.4)	5.3	1.3	(78.8)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3476	GC	外	I15	I下	石鏃状石器	13.7	9.1	0.9	165.4	粘板岩	中生界	折爪岳山系	

第80表 石器(12) 削器・掻器・円形掻器・石鏃

編號	出土地点	斜面	出土地点	器位	器種名	類別	欠損部位	製作工程	長さ(m)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	刃の角度	石質	時代	頭部形態	刃部形態	刃部断面	横断面	横断面形状	技法形態	備考	
908	N	内	K11住居跡入口(上段)	埋土中	磨製石斧	欠	刃部側	磨き	103	4.7	2.4	167.3	58.0°	粘板岩	中生界 2	2	c	い	I	う			
952	N	内	C16住居跡1号	埋土中(東側)	磨製石斧	欠	刃部側	磨り切り手法	3.3	2.5	1.1	12.4		粘板岩	中生界 2	2	c	い	I	い		ミニチュア	
959	N	内	D19住居跡	埋土中	磨製石斧	欠	基部側	磨き	5.5	3.2	1.5	46.9	59.0°	安山岩	中生界 2	2	c	い	I			ミニチュア	
986	N	内	D23跡跡1号	埋土中	磨製石斧	完		磨り切り手法	5.6	2.6	0.8	18.4	54.0°	凝灰質粘板岩	中生界 2	2	a	い	II			ミニチュア	
988	N	内	C22跡跡1号	埋土中	磨製石斧	欠	刃部側	ベッキンク整形、磨き	3.8	3.2	2.2	32.7		アルコウス砂岩	中生界 2	2	a	い	II				
992	N	内	C25土坑	埋土中	磨製石斧	欠	刃部側	磨き	(3.7)	(3.8)	(2.0)	(62.3)		凝灰質砂岩	中生界 1	1	c	い	II				
993	N	内	C25土坑	埋土中	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形、磨き	14.0	6.1	3.6	364.4	70.0°	安山岩	中生界 2	2	c	い	II				ミニチュア
994	N	内	D13土坑4号	埋土中	磨製石斧	欠	基部	磨り切り手法	(3.5)	(2.6)	(0.9)	(13.7)	45.0°	粘板岩	中生界 2	2	c	い	II				
996	N	内	D19土坑2号	埋土中	磨製石斧	欠	刃部側	ベッキンク整形	16.3	5.1	3.0	44.0		凝灰質砂岩	中生界 2	2	c	い	II				
1000	N	内	E14土坑5号	埋土中下位	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形、磨き	5.8	5.9	2.6	117.0	61.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	c	い	II				刃渡れ
1017	N	内	E26土坑	埋土中	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形	(6.3)	(3.9)	(2.8)	(84.3)		安山岩	中生界 1	1	c	い	II				ソケット装着痕?、ミニチュア
1018	N	内	E26土坑	埋土中	磨製石斧	完		磨り切り手法	15.6	6.2	1.4	54.4	65.0°	凝灰岩	中生界 2	2	c	い	I				
1019	N	内	F26土坑	埋土中	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形	6.5	2.9	3.6	35.0	75.0°	凝灰岩	中生界 2	2	b1	い	II				
1030	N	内	F12土坑6号	埋土中	磨製石斧	欠	刃部側	磨き	(4.1)	(3.4)	(2.4)	(36.3)		凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	I				刃部破打による潰れ
1035	N	内	F14土坑4号	埋土中	磨製石斧	欠	基部	磨き	7.5	4.6	2.6	132.9		凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	II				
1050	N	内	H17土坑4号	埋土中	磨製石斧	欠	基部	ベッキンク整形、磨き	6.5	5.0	2.9	143.30		流紋岩	中生界 2	2	a	い	II				
1061	N	内	H18土坑8号	埋土中	磨製石斧	欠	基部	ベッキンク整形、磨き	(11.9)	(5.7)	(3.0)	(268.1)		凝灰質砂岩	中生界 1	1	c	ろ	II				刃部再加工
1063	N	内	H18土坑9号	埋土中	打製石斧	未・完		初繰	9.6	3.2	1.7	111.5	69.0°	粘板岩	中生界 2	2	b2	ろ	II				石割片利用
1061	N	内	I18土坑1号	埋土中	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形	(7.5)	(5.9)	(2.9)	(196.0)		凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	II				刃部片面欠り、刃部再加工
1062	N	内	I18土坑2号	埋土中	磨製石斧	未・完		磨き	6.4	4.5	2.6	110.0	60.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	II				
1069	N	内	I19土坑2号	埋土中	磨製石斧	未・完		磨き	5.6	3.4	1.3	31.4	80.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	II				
1070	N	内	I19土坑2号	埋土中	磨製石斧	欠	基部	ベッキンク整形、磨き	10.8	6.3	3.4	286.4	54.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	II				磨り切り?製作痕上
1091	N	内	L12土坑1号	埋土中	磨製石斧	欠	刃部側	ベッキンク整形	(7.0)	(4.2)	(2.4)	(105.6)		凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	I				
1106	N	内	M12土坑	埋土中	磨製石斧	未・完		磨き	(8.9)	(3.8)	(3.1)	(159.9)		凝灰質砂岩	中生界 3	3	a	い	III				
1107	N	内	M12土坑	埋土中	磨製石斧	未・完		ベッキンク整形	12.9	6.5	4.4	532.7		凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	II				刃部破打による潰れ
1108	N	内	M12土坑	埋土中	磨製石斧	未・完		初繰、ベッキンク整形、磨き	7.7	3.4	2.8	89.1		凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	III				刃部破打による潰れ
1137	N	内	H14柱穴状土坑9号	埋土中	磨製石斧	欠	刃部側	磨き	(10.4)	(4.5)	(3.0)	(214.0)		凝灰質砂岩	中生界 1	1	c	い	I				刃部破打による潰れ
3359	GE	上	C26	皿上	磨製石斧	完		ベッキンク整形、磨き	(8.8)	(4.4)	(2.0)	(113.2)	53.5°	凝灰質砂岩	中生界 1	1	a	い	I				刃部表面剥離痕、刃部再加工?
3360	GE	中	E24	皿下	磨製石斧	完	刃部側	磨き	9.2	4.0	2.1	129.0	74.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	I				刃部に剥離、刃部再加工痕上
3361	GE	中	D25	皿	磨製石斧	完		磨き、磨り切り手法?	(5.8)	(2.9)	(1.2)	(29.4)	58.0°	凝灰質粘板岩	中生界 2	2	a	い	I				ミニチュア
3362	GE	中	F25	皿中	磨製石斧	未?		磨き	(8.2)	(4.5)	(2.5)	(146.8)	68.0°	安山岩	中生界 2	2	a	い	I				刃部に剥離、刃部再加工痕上
3363	GE	中	D26	皿下	磨製石斧	欠	刃部側	磨き	(11.9)	(4.9)	(2.4)	(189.7)	52.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	a	い	I				
3364	GE	中	D26	皿上	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形、磨き	(8.7)	(5.6)	(2.9)	(211.1)	51.0°	安山岩	中生界 2	2	a	い	I				
3365	GE	上	D23	皿上	磨製石斧	未・完		ベッキンク整形	10.8	5.2	3.2	223.2	83.5°	安山岩	中生界 1	1	a	い?	I				刃部再加工
3366	GE	中	E23	皿	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形	12.1	4.9	2.4	186.8	69.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	I				破打痕?
3367	GE	中	E26	皿上	磨製石斧	欠	基部側	磨き	(6.7)	(4.0)	(2.3)	(97.9)	54.0°	粘板岩	中生界 2	2	b1	い	I				ミニチュア、刃こぼれ
3368	GE	中	E25	皿中	磨製石斧	未・完		初繰	8.1	5.3	4.0	222.4	72.0°	凝灰質砂岩	中生界 3	3	b1	い	I				
3369	GE	中	E24	皿中	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形、磨き	12.1	4.7	3.6	82.2	75.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	I				
3370	GE	中	D27	皿下	磨製石斧	完		磨き	10.4	4.3	1.7	112.1	54.0°	安山岩	中生界 1	1	b1	い	I				
3371	GE	中	E26	皿上	磨製石斧	欠	基部側	磨き	8.9	5.7	2.7	198.9	60.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	I				
3372	GE	中	F26	皿上	磨製石斧	欠	基部側	磨き	(7.2)	(4.5)	(2.3)	(110.1)	36.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	I				
3373	GE	中	E26	皿中	磨製石斧	欠	基部側	磨き	(12.1)	(4.4)	(2.6)	(193.7)		安山岩	中生界 1	1	c	い	I				
3374	GE	中	G26	皿下	磨製石斧	欠?		磨き	8.1	4.2	2.5	150.7	63.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	I				刃部破打による潰れ
3375	GE	上	B24	皿下	磨製石斧	完		磨き	8.0	4.9	2.4	148.5	71.0°	粘板岩	中生界 2	2	b2	い	I				刃部破打による潰れ
3376	GE	上	C23	皿上	磨製石斧	完	刃部側	磨き	(8.4)	(4.4)	(2.4)	(136.0)		安山岩	中生界 2	2	b2	い	I				刃部平ら
3377	GE	下	G25	皿下	磨製石斧	完		磨き	(8.7)	(4.8)	(2.7)	(186.6)	36.5°	粘板岩	中生界 2	2	c	い	I				基部周辺は剥離
3378	GE	中	F25	皿中	磨製石斧	完		磨き	7.9	4.5	2.2	151.7	56.0°	安山岩	中生界 2	2	c	い	I				ソケット装着痕?
3379	GE	中	C24	皿下	磨製石斧	完		磨き	(7.9)	(4.7)	(2.5)	(156.7)	53.0°	安山岩	中生界 2	2	c	い	I				刃部に剥離、刃部再加工
3380	GE	中	E24	皿上	磨製石斧	完		磨き	7.9	4.7	2.3	151.5	60.0°	粘板岩	中生界 2	2	c	い	I				ミニチュア
3381	GE	中	E23	皿下	磨製石斧	欠	基部側	磨き、磨り切り手法?	(6.5)	(2.7)	(1.3)	(23.3)	31.5°	粘板岩	中生界 2	2	c	い	I				
3382	GE	中	G26	皿	磨製石斧	欠	基部側	磨き	(3.9)	(4.1)	(2.1)	(80.8)	59.0°	粘板岩	中生界 2	2	c	い	I				
3383	GE	中	G24	皿~IV	磨製石斧	欠	刃部側	磨り切り手法	(64.0)	(2.0)	(1.3)	(27.2)		粘板岩	中生界 2	2	c	い	I				
3384	GE	中	D26	皿下	磨製石斧	欠	刃部側	磨き	(12.6)	(5.8)	(3.1)	(295.7)		安山岩	中生界 1	1	a	い	I				
3385	GE	中	G27	皿下	磨製石斧	欠	基部側	ベッキンク整形	(11.2)	(4.5)	(2.6)	(166.3)	57.0°	凝灰質砂岩	中生界 1	1	a	い	II				
3386	GE	中	D25	皿下	磨製石斧	未・完	基部側	ベッキンク整形	(6.8)	(5.9)	(2.4)	(147.5)	65.0°	安山岩	中生界 2	2	a	い	II				
3387	GE	中	第4トレンチ	皿	磨製石斧	完		磨き	9.9	3.3	2.1	106.4	50.0°	粘板岩	中生界 1	1	b1	い	II				
3388	GE	上	C23	皿下	磨製石斧	欠		磨き	7.4	4.7	2.6	141.7	61.0°	凝灰質砂岩	中生界 2	2	b1	い	II				基部周辺に剥離、刃部再加工途中?

第81表 石器 (13) 磨製石斧

編號	出土地点	層位	出土地点	種別	欠損部位	製作工程	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	刃の角度	石質	年代	頭部形態	刃部形態	横断面	縦断面	備考
3389	G E 上	Ⅲ上	D 23	磨製石斧	欠・接	ベッキンク整形、磨き	15.1	3.3	3.4	374.4	76.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	刃部に磨き、接合部位有 ソケット繋ぎ有、ニニチュア
3390	G E 上	Ⅲ中	C 26	磨製石斧	欠	剥離	18.2	7.4	4.3	783.2	60.0°	緑色凝灰岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	ニニチュア
3391	G E 上	Ⅲ中	B 24	打製石斧	完	磨き	8.1	4.0	1.6	65.3	73.0°	粘板岩	中生界	1	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3392	G E 上	Ⅲ中	C 24	磨製石斧	欠	磨き	(7.7)	(4.4)	(2.5)	(142.4)	77.0°	安山岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3393	G E 上	Ⅲ中	B 24	磨製石斧	欠	磨き	(6.9)	(4.6)	(2.3)	(122.6)	65.0°	粘板岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3394	G E 上	Ⅲ中	C 25	磨製石斧	未・完	剥離、ベッキンク整形	10.9	4.7	3.5	218.0	79.5°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3395	G E 上	Ⅲ中	D 25	磨製石斧	未・完	剥離、ベッキンク整形、磨き	12.0	5.1	2.2	206.4	61.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	一部刃部は加工済みであるが基部未調整
3396	G E 上	Ⅲ中	B 25	磨製石斧	未・完	磨き	(7.3)	(3.3)	(2.4)	(79.5)	61.5°	粘板岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3397	G E 中	Ⅲ下	F 23	磨製石斧	未・完	磨き	8.6	4.6	2.3	136.6	68.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3398	G E 中	Ⅲ下	D 25	磨製石斧	未・完	剥離、ベッキンク整形	13.9	6.1	3.5	406.6	56.0°	安山岩	中生界	1	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3399	G E 中	Ⅲ中	E 24	磨製石斧	未・欠	剥離、ベッキンク整形	(7.1)	(4.7)	(2.7)	(127.1)	60.0°	粘板岩	中生界	3	b 1	Ⅱ	Ⅱ	片側の調整製作途中の折れ？
3400	G E 中	Ⅲ中	G 24	磨製石斧	欠	剥離、ベッキンク整形、磨き	7.8	4.1	2.7	121.8		凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅱ	Ⅱ	敲打具、薄れ折れ面再利用
3401	G E 中	Ⅲ上	B 25	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形	(6.4)	(3.7)	(4.7)	147.6		凝灰質硬砂岩	中生界	1	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3402	G E 中	Ⅲ上	D 25	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形	8.8	6.0	4.1	276.7		凝灰質硬砂岩	中生界	1	b 1	Ⅱ	Ⅱ	
3403	G E 上	Ⅲ上	B 24	磨製石斧	未・完	ベッキンク整形	13.4	6.7	3.8	494.6	65.5	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 2	Ⅱ	Ⅱ	刃部表面調整有
3404	G E 下	Ⅲ下	G 26	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形	(10.2)	(6.7)	(3.8)	(423.9)	67.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 2	Ⅱ	Ⅱ	製作途中の折れ？
3405	G E 中	Ⅲ中	D 23	磨製石斧	完	ベッキンク整形、磨き	7.3	3.0	2.3	119.1	71.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	c	Ⅱ	Ⅱ	基部に敲打具
3406	G E 中	Ⅲ中	F 26	磨製石斧	欠・接	ベッキンク整形、磨き	11.9	4.7	2.7	216.8	57.0°	閃緑岩	中生界	1	c	Ⅱ	Ⅱ	接合部位有
3407	G E 中	Ⅲ中	C 25	磨製石斧	欠	磨き	28.9	8.0	5.1	1886.2	64.0°	凝灰質粘板岩	中生界	1	c	Ⅱ	Ⅱ	刃部再加工
3408	G E 中	Ⅲ下	E 25	磨製石斧	欠	剥離	10.5	4.9	2.8	220.8		安山岩	中生界	2	c	Ⅱ	Ⅱ	
3409	G E 中	Ⅲ下	E 26	磨製石斧	未・完	ベッキンク整形	11.0	4.2	2.6	193.0	76.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	c	Ⅱ	Ⅱ	
3410	G E 中	Ⅲ下	D 26	磨製石斧	未・完	剥離	7.3	4.3	2.7	123.0	74.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	3	c	Ⅱ	Ⅱ	
3411	G E 上	Ⅲ中	C 24	磨製石斧	欠	磨き	(12.4)	(4.7)	(2.4)	(224.4)	68.0°	安山岩	中生界	3	c	Ⅱ	Ⅱ	刃部再加工？
3412	G E 中	Ⅲ中	F 26	磨製石斧	完	ベッキンク整形	7.9	4.4	2.7	152.9	54.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	c	Ⅱ	Ⅱ	刃部少々欠落
3413	G E 中	Ⅲ中	E 25	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形	(7.4)	(4.9)	(3.2)	(179.0)	67.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	c	Ⅱ	Ⅱ	
3414	G E 中	Ⅲ中	D 24	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形	(11.7)	(6.4)	(4.8)	(484.7)	74.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	c	Ⅱ	Ⅱ	
3415	G E 中	Ⅲ中	E 25	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形、磨き	(11.5)	(6.3)	(4.5)	(410.5)	63.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	a	Ⅲ	Ⅲ	
3416	G E 中	Ⅲ中	D 26	磨製石斧	未・欠・接	ベッキンク整形、磨き	14.1	6.0	4.0	463.4	57.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	1	a	Ⅲ	Ⅲ	刃部未加工 or 再加工
3417	G E 中	Ⅲ下	D 26	磨製石斧	未・欠・接	ベッキンク整形	16.6	7.3	5.3	703.5	63.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	3		Ⅲ	Ⅲ	
3418	G E 上	Ⅲ上	C 26	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形	10.7	6.5	5.1	449.4		凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅲ	Ⅲ	
3419	G E 下	Ⅲ上	G 25	磨製石斧	未・欠	ベッキンク整形	10.1	6.3	4.6	461.4	75.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅲ	Ⅲ	
3420	G E 上	Ⅲ下	B 24	磨製石斧	欠	磨き	8.0	4.5	2.9	157.8	54.0°	粘板岩	中生界	2	c	Ⅲ	Ⅲ	基部再加工？
3421	G E 中	Ⅲ下	D 26	磨製石斧	未	ベッキンク整形	(14.3)	(8.0)	(3.1)	(1040.3)		凝灰質硬砂岩	中生界			Ⅲ	Ⅲ	製作途中の折れ？
3422	G E 中	Ⅲ下	F 24	磨製石斧	未	捺り切り手取痕跡	(9.2)	(3.9)	(3.3)	(190.3)		凝灰質粘板岩	中生界			Ⅲ	Ⅲ	
3423	G E 中	Ⅲ下	D 26	磨製石斧	完	磨き	4.9	1.7	0.8	10.9	60.0°	凝灰質粘板岩	中生界	1	b 1	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3424	G E 中	Ⅲ上	F 25	磨製石斧	欠	捺り切り手法	3.3	1.5	0.8	6.2	63.0°	凝灰岩	中生界	1	b 1	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3425	G E 中	Ⅲ中	D 24	磨製石斧	欠	捺り切り手法	4.6	2.2	0.9	18.0	58.0°	粘板岩	中生界	2	c	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3426	G E 上	Ⅲ上	B 23	磨製石斧	欠	捺り切り手法	4.4	2.3	0.8	13.7	62.5°	凝灰岩	中生界	2	c	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3427	G W 上	Ⅲ上	L 11	磨製石斧	完	ベッキンク整形	8.3	3.9	1.9	90.3	70.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	a	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3428	G W 上	Ⅲ上	L 9	磨製石斧	欠	捺り切り手法	2.8	2.2	0.8	131.2	57.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	a	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3429	G W 上	Ⅲ上	L 9	磨製石斧	欠	捺り切り手法	8.5	4.1	2.3	131.2	57.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	a	Ⅰ	Ⅰ	刃部に削離、刃部再加工
3430	G W 中	Ⅲ上	P 12	磨製石斧	完	ベッキンク整形、磨き	2.8	2.2	0.8	95.8	62.0°	凝灰質粘板岩	中生界	2	a	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3431	G W 上	Ⅲ上	L 12	磨製石斧	欠	捺り切り手法	7.3	4.0	2.0	81.8	61.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	1	b 1	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3432	G W 上	Ⅲ上	L 11	磨製石斧	欠	磨き	8.6	4.7	2.5	113.8	64.0°	砂質粘板岩	中生界			Ⅰ	Ⅰ	捺り切り？
3433	G W 上	Ⅲ上	L 11	磨製石斧	欠・接	ベッキンク整形	12.0	4.6	2.3	205.5	55.0°	凝灰質硬砂岩	中生界			Ⅰ	Ⅰ	
3434	G W 上	Ⅲ上	K 10	磨製石斧	未・完	ベッキンク整形、磨き	8.8	4.1	1.5	96.1	64.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	b 1	Ⅰ	Ⅰ	え-1
3435	G W 上	Ⅲ上	M 11	磨製石斧	完	ベッキンク整形、磨き	8.4	4.4	2.5	143.2	60.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	c	Ⅰ	Ⅰ	え-1
3436	G W 上	Ⅲ上	O 13	磨製石斧	完	捺り切り手法	5.9	2.3	1.4	36.3	49.0°	粘板岩	中生界	2	c	Ⅰ	Ⅰ	ニニチュア
3437	G W 上	Ⅲ上	H 8	磨製石斧	完	磨き	8.2	4.0	2.5	140.9	32.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	c	Ⅰ	Ⅰ	
3437	G W 上	Ⅲ上	O 14	磨製石斧？	未・完	磨き	5.7	3.3	1.0	29.8	77.0°	粘板岩	中生界			Ⅰ	Ⅰ	模造品
3438	G W 中	Ⅲ上	P 12	磨製石斧	未・完	ベッキンク整形	11.0	6.4	3.0	387.3	71.5°	硬砂岩	中生界	2	c	Ⅰ	Ⅰ	え
3439	G W 上	Ⅲ上	K 9	磨製石斧	欠	磨き	10.7	4.8	2.2	155.8		粘板岩	中生界	1	c	Ⅰ	Ⅰ	え
3440	G W 上	Ⅲ上	G 7	磨製石斧	完	磨き	5.8	2.6	1.0	18.7	81.0°	粘板岩	中生界	3	a	Ⅱ	Ⅱ	ろ
3441	G W 上	Ⅲ上	N 13	磨製石斧	未・欠	剥離、ベッキンク整形	(12.1)	(9.3)	(3.2)	(563.7)		凝灰質硬砂岩	中生界	3	a	Ⅱ	Ⅱ	ろ
3442	G W 上	Ⅲ上	P 14	磨製石斧	欠	剥離、磨き	7.9	4.9	3.1	104.4	59.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	2	a	Ⅱ	Ⅱ	ろ
3443	G W 上	Ⅲ上	J 10	磨製石斧	欠・接	ベッキンク整形	14.3	5.5	3.0	330.7	65.0°	安山岩	中生界	1		Ⅱ	Ⅱ	え

第82表 石器 (14) 磨製石斧

取集番号	出土地点	出土地点	断面	断面	層位	器種名	種別	欠損部位	製作工程	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	刃の角度	石種	時代	埋蔵形態	刃部断面	横断面	技法形態	備考
3444	GW	G 6	上1	上1	I	打製石斧	欠	基部側	剥離、ベッキング整形	103	5.7	3.2	195.7	50.0°	凝灰質硬砂岩	中生界		い	II 凸		
3445	GW	E 2	N13	上	III上	磨製石斧	完		磨き	6.7	2.5	0.6	172.5	62.0°	粘板岩	中生界 2	b1	い	II	え-2	ミニチュア
3446	GW	E 1	L10	上	III上	磨製石斧	完		ベッキング整形、磨き	11.9	4.5	2.2	135.3	71.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 1	b1	ろ	II		
3447	GW	E 2	N12	上	III	磨製石斧	欠	基部側	ベッキング整形、磨き	5.6	4.2	2.5	188.3	60.0°	粘板岩	中生界 2	b1	い	II		
3448	GW	E 1	J 9	上?	III上?	磨製石斧	欠	基部側	磨き	13.2	5.2	2.8	134.1	67.0°	流紋岩	中生界	b1	い	II		
3449	GW	E 2	Q13	上	III上	磨製石斧	欠	左刃部側縁	ベッキング整形	13.4	5.6	3.4	317.7	75.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 1	b1	い	II	え	
3450	GW	中1	L・M 7	中	I	磨製石斧	欠	基部側・刃部の一部	ベッキング整形	(10.8)	(6.4)	(3.7)	(366.8)	76.0°	安山岩	中生界	b1	ろ	II	え	
3451	GW	上1	L11	上	III上	磨製石斧	未?・完		磨き	7.3	2.5	1.0	27.8	64.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 3	b1	い	II		ミニチュア
3452	GW	上1	M13	上	III上	磨製石斧	完		剥離、ベッキング整形	10.4	4.8	2.9	215.4	75.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 3	b1	ろ	II 凸		
3453	GW	上1	K 7	中	I 中	磨製石斧	未・欠	基部	ベッキング整形	10.3	5.0	3.0	228.4	57.0°	安山岩	中生界	b1	い	II		
3454	GW	E 1	M13	上	III上	磨製石斧	未・完	基部	剥離、ベッキング整形	10.4	5.1	3.0	198.7	75.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 3	b1	ろ	II 凸		
3455	GW	中1	J 4	中	I	磨製石斧	未?・完		剥離、ベッキング整形	8.3	3.8	2.1	103.8	64.0°	粘板岩	中生界 2	c	い	II		
3456	GW	上1	H 7	上	III上	磨製石斧	欠	基部	磨き	8.5	4.3	2.6	156.5	66.0°	粘板岩	中生界	b2	い	II		
3457	GW	E 1	M11	上	III上	磨製石斧	未・完	基部側	ベッキング整形	13.7	5.9	2.8	346.8	66.0°	安山岩	中生界 2	c	い	II	え	
3458	GW	上1	M12	上	III上	磨製石斧	未・欠・接	基部側	ベッキング整形	14.5	6.0	4.5	528.9		安山岩	中生界	c	い	II		
3459	GW	上1	L11	上	III上	磨製石斧	未・完		ベッキング整形	12.9	6.6	5.5	615.8	80.0°	安山岩	中生界 3	b1	い	III	え	
3460	GW	上2	O13	上	III上	磨製石斧	未・完		剥離、ベッキング整形	12.5	6.2	4.9	375.8	77.0°	凝灰質硬砂岩	中生界	b1	い	III		
3461	GW	上1	M13	上、下	III上、下	磨製石斧	原石	下部	剥離、ベッキング整形	(18.5)	(12.4)	(8.8)	(1894.5)		赤褐色凝灰岩	中生界					石斧数個分の石片を分離する前段階
3462	GW	上1	L12	上	III上	磨製石斧	完		擦り切り手法	2.7	1.5	0.5	3.6	50.5°	凝灰質粘板岩	中生界 2	a	い	I	い	ミニチュア
3463	GW	E 1	M11	上	III上	磨製石斧	完		擦り切り手法	3.5	1.5	0.6	4.3	50.0°	凝灰質粘板岩	中生界 2	a	い	I	い	ミニチュア
3464	GW	中1	L 8	中	III	磨製石斧	欠	基部	擦り切り手法	3.3	1.4	0.9	7.5	60.0°	粘板岩	中生界	a	い	I	い	ミニチュア
3465	GC	外	L18	外	I	打製石斧	完		剥離	8.6	6.3	2.6	126.7	66.0°	粘板岩	中生界 2	a	い	II 凸		石鱗状
3466	GC	外	I18	外	I 下	磨製石斧	未・欠		片削剥離	13.3	6.6	3.4	324.3	66.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 2	a	ろ	II		
3467	GC	外	G12	外	I	打製石斧	完		剥離、ベッキング整形	10.6	4.3	2.6	124.6	67.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 3	c	い	II 凸		
3468	GC	外	第8トレンチ	外	III	磨製石斧	完・再		ベッキング整形	13.4	5.2	3.0	317.0	76.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 1	c	い	II		片削自然面
3469	GC	外	F15	外	I 下	磨製石斧	未・完		ベッキング整形	13.2	5.3	2.8	304.0	58.0°	凝灰質硬砂岩	中生界 3	b1	ろ	I		
3470	GC	外	H10	外	I	磨製石斧	欠	基部	擦り切り手法	4.4	1.5	0.7	8.4	66.0°	凝灰岩	中生界	c	い	I		ミニチュア

第83表 石器 (15) 磨製石斧

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	挟りの幅(cm)	挟りの深さ(cm)	重量(g)	石質	時代	地域	備考
918	N	内	K11住居跡 P P 73	埋土中	挟入石器	6.6	2.8	1.0	2.9	0.4	20.8	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
920	N	内	K11住居跡 P P 93	埋土中	挟入石器						19.9	チャート質泥岩	中生界	折爪岳山系	剥片の先端部が丸く処理されているその割縁の一部が挟れている
967	N	内	C24住居跡状	埋土中	挟入石器						2.79	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	剥片の割縁に調整割縁
1034	N	内	F13土坑5号	埋土中	挟入石器	3.3	3.3	0.8	1.6	0.6	9.0	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	剥片の割縁に調整割縁
1125	N	内	D17柱穴状土坑1号	埋土中	挟入石器						6.2	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山系	剥片の割縁に調整割縁
3352	GE	上	C23	Ⅲ上	挟入石器	4.5	3.6	0.9	1.3	0.3	14.5	チャート質泥岩	中生界	折爪岳山系	剥片の割縁に調整割縁
3353	GW	上1	K10	Ⅲ上	挟入石器	6.3	2.7	1.3	1.7	0.4	17.2	チャート質泥岩	中生界	折爪岳山系	剥片の割縁に調整割縁
3354	GW	中1	Q11	I	挟入石器						269.6	粘板岩	中生界	折爪岳山系	大形剥片の一部が挟れている
3355	GW	上1	L8	Ⅲ上	挟入石器						14.2	粘板岩質チャート	中生界	折爪岳山系	剥片の割縁に調整割縁
3356	GW	上1	H5	I上	挟入石器						281.6	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3357	GW	上1	K8	I上	挟入石器						54.8	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3358	GW	上2	N12	I	挟入石器						49.2	粘板岩	中生界	折爪岳山系	

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質	時代	地域	分類	備考
932	N	内	G15住居跡	埋土中	石皿	全周	8.4	11.6	4.0	457.6	輝石安山岩	中生界白亜系	北上山地(海岸地方)	不明	
937	N	内	F13住居跡	埋土中	石皿	3方向	(6.9)	(7.1)	2.4	(127.1)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	不明	
983	N	内	B24炉跡1号	炉内使用	石皿	3方向	(11.1)	(13.8)	7.8	(1206.1)	安山岩(溶岩)	第四系	岩手火山?	楕円形状?	敲打痕有
984	N	内	B24炉跡1号	炉内使用	石皿	2方向	(11.1)	(10.7)	2.9	(523.6)	輝石安山岩	中生界白亜系	北上山地(海岸地方)	楕円形状?	片面が擦れている
1021	N	内	E26土坑	埋土	石皿	全周、表面	(6.0)	(6.3)	1.8	(51.8)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	不明	
1044	N	内	G18土坑3号	埋土	石皿	2方向	(7.7)	(11.7)	(2.7)	(207.8)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	楕円形状?	片面が擦れている
1045	N	内	G18土坑3号	埋土	石皿	全周	(8.6)	(4.7)	1.8	(81.8)	安山岩(溶岩)	第四系	岩手火山?	不明	片面が擦れている
1064	N	内	I19土坑1号	埋土	石皿	3方向	7.5	(10.2)	3.2	(365.9)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	不明	片面が擦れている
1074	N	内	J21土坑2号	埋土	石皿	3方向	(9.8)	(8.6)	3.2	(369.0)	安山岩(溶岩)	第四系	岩手火山?	楕円形状?	片面が擦れて中央部は窪んでいる
3539	GE	中	E24	Ⅲ中	石皿	2方向	(13.5)	(10.3)	3.6	(495.6)	輝石安山岩	中生界白亜系	北上山地(海岸地方)	長方形	裏面に大小の窪み、転用品
3540	GE	中	G24	Ⅲ下	石皿	3方向	(10.8)	(7.3)	3.6	(187.6)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	方形	縁が突っ高、接合部位有
3541	GE	上	C24	Ⅲ中	石皿	2方向	8.7	3.2	3.1	381.4	デイサイト	中新統	二戸(白鳥川上流)	楕円形状	縁が若干高い、接合部位有
3542	GE	上	B25~D23ベルト	Ⅲ	石皿	3方向、裏面	10.7	9.3	3.2	229.1	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	楕円形状?	若干凹凸有、縁が高い
3543	GE	下	G25	Ⅲ下	石皿	2方向	(20.3)	(14.2)	3.5	(691.0)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	楕円形状?	縁が丸く若干高い
3544	GE	上	C23	Ⅲ	石皿	2方向	(12.2)	(9.9)	3.1	(337.5)	デイサイト	中新統	二戸(白鳥川上流)	楕円形状	縁が丸く高い
3545	GE	中	F26	I	石皿	3方向	(22.8)	(20.8)	6.0	(4000.0)	輝石安山岩	中生界白亜系	北上山地(海岸地方)	方形	
3546	GE	下	G26	Ⅲ下	石皿	半分	25.7	23.3	5.1	3800.0	凝灰質硬砂岩	中生界	岩泉	方形	片面が擦れている
3547	GE	中	F25	Ⅲ中	石皿	3方向	16.0	10.1	4.0	408.7	デイサイト	中新統	二戸(白鳥川上流)	楕円形状	縁が丸く高い、接合部位有
3548	GE	上	B25	Ⅲ	石皿	全周、裏面	(7.3)	(6.1)	(1.3)	(36.7)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	不明	中央部が窪んでいる
3549	GE	中	G24	Ⅲ中	石皿	2方向	(17.5)	(12.5)	4.1	(987.6)	デイサイト	中新統	二戸(白鳥川上流)	楕円形状?	片面の縁が丸く高い、裏面は中央部が長く窪んでいる
3550	GE	下	F26	Ⅲ下	石皿	2方向	14.4	12.0	3.0	543.4	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	方形	中央部は窪んでいる、縁が丸く若干高い
3551	GE	中	E25	Ⅲ(再埋積層)	石皿	全周	12.3	9.7	5.5	778.3	斑レイ岩	中生界白亜系	一戸(石切所)	不明	
3552	GW	上2	N13	Ⅲ上	石皿	2方向	(14.9)	(9.6)	3.4	(530.2)	デイサイト	中新統	二戸(白鳥川上流)	楕円形状	縁が高くなっている
3553	GW	上1	J9	Ⅲ上	石皿	2方向	(11.4)	9.4	3.5	(410.3)	デイサイト	中新統	二戸(白鳥川上流)	円盤状	縁が厚い丸形、片面は砥石として使用されている
3554	GW	上2	O14	Ⅲ上	石皿	2方向	(9.9)	(7.2)	3.2	(234.9)	淡緑色凝灰岩	新第三系中新統	奥羽山地	楕円形状	縁が若干高くなっている、凹石としての転用品
3555	GW	上1	M11	Ⅲ上	石皿		(16.8)	(13.0)	6.1	(1394.5)	デイサイト	中新統	二戸(白鳥川上流)		
3556	GW	上1	J6	I	石皿	半分	(11.9)	(10.0)	(4.1)	(387.6)	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	足付き隅丸長方形	中央部が窪んでいる
3557	GC	外	F12	Ⅲ	石皿	完形	40.2	18.1	7.2	3000.0	砂岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	隅丸長方形	中央部若干窪んでいる

第84表 石器(16) 挟入石器・石皿

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	形態	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
1112	N	内	M14土坑2号	埋土中	凹石	半分	楕円形状	7.7	7.2	3.0	268.9	凝灰質硬砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	両面に深い円錐状の窪み
1130	N	内	E16柱穴状土坑1号	埋土中	凹石	完形	長楕円形状	11.4	5.4	4.3	445.7	凝灰質硬砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	端が潰れていることから敲石との複合石器可能性有
1135	N	内	G17柱穴状土坑1号	埋土中	台石	3方向	方形状?	(14.6)	(10.1)	3.8	(883.6)	デイサイト	中新統	二戸	両面中央にあげた状の窪み
1139	N	内	I16柱穴状土坑2号	埋土中	凹石	完形	楕円形状	17.7	6.7	3.3	354.9	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	両面に比較的浅いあはた状の窪み
1158	N	内	M15溝跡	Ⅲ	凹石	完形	方形状	(13.0)	(14.5)	5.4	(1140.9)	チャート質凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3618	GE	中	F25	Ⅲ下	凹石	完形	円形状	7.6	6.9	2.8	205.0	チャート	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3619	GE	下	F26	Ⅲ下	凹石	完形	球形状	7.5	5.8	4.4	258.0	安山岩	中生界	久慈-普代-田野畑	磨り石の転用品
3620	GE	中	H24	I	凹石	完形	方形状	10.4	6.8	5.6	400.6	アルコース砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3621	GE	下	F26	Ⅲ下	凹石	一部欠損	球形状	8.6	9.5	5.8	729.1	凝灰質硬砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	磨り石の転用品
3622	GE	上	C23	Ⅲ上	凹石	完形	方形状	10.1	7.5	2.2	238.4	アルコース砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3623	GE	中	D25	Ⅲ上	凹石	完形	楕円形状	7.3	5.7	3.8	223.0	安山岩	中生界	久慈-普代-田野畑	磨り石の転用品
3624	GE	下	F26	Ⅲ下	凹石	一部欠損	楕円形状	11.5	7.4	3.9	382.2	アルコース砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	側縁が磨れていることから棒状磨り石の転用品
3625	GE	上	B23	Ⅲ下	凹石	半分	板状	(9.9)	(9.8)	4.1	(494.0)	安山岩	中生界	久慈-普代-田野畑	
3626	GE	委	C25	Ⅲ下	凹石	完形	楕円形状	8.2	5.8	3.3	214.0	凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3627	GW	上1	I7	I中	凹石	裏面全部	板状	9.9	6.7	1.7	119.6	チャート質凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	接合部位有
3628	GW	中1	N10	Ⅲ上	凹石	半分	楕円形状	8.9	(5.2)	4.0	(267.4)	安山岩	中生界	久慈-普代-田野畑	磨り石の転用品
3629	GW	上1	I9	Ⅲ上	凹石	半分	方形状	(8.2)	(4.4)	3.2	(186.5)	凝灰質硬砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3630	GW	上1	I8	Ⅲ下	凹石	半分	板状	11.1	7.4	4.1	399.0	アルコース砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	石皿若しくは砥石の転用品
3631	GW	上2	N12	Ⅲ上	凹石	欠損品	方形状	12.3	10.6	5.8	1070.0	ある	中生界	軽米(折爪岳北部)	石皿の転用品
3632	GW	上1	H4	I	凹石	完形	楕円形状	8.9	6.7	4.8	383.2	アルコース砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3633	GW	上1	J7	I中	凹石	完形	楕円形状	5.9	5.3	2.9	109.3	凝灰岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3634	GW	上2	O12	Ⅲ上	凹石	完形	長楕円形	13.2	6.2	2.4	318.3	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3635	GW	上2	P13	Ⅲ上	凹石	10分の1	楕円形状	8.7	7.8	5.4	491.5	安山岩	中生界	久慈-普代-田野畑	磨り石の転用品
3636	GW	上2	N12	Ⅲ上	凹石	3分の1	楕円形状	7.8	(5.5)	4.2	(282.3)	凝灰質硬砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3637	GW	上1	M12	Ⅲ上	凹石	3分の1	楕円形状	11.8	6.4	4.6	511.4	凝灰質硬砂岩	中生界	軽米(折爪岳北部)	
3638	GC	外	E15	I下	凹石	完形	板状	19.8	13.4	2.9	794.6	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3639	GC	外	J13	Ⅱ	凹石	完形	楕円形状	22.5	12.6	7.1	2440.5	粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	縁の果石とするものに似ている
3640	GE	上	B24	Ⅲ	台石	1方向	直方体状	(26.3)	15.8	9.5	(6000.0)	硬砂岩	中生界	山形-岩泉	敲打痕跡が無数に見られる
3641	GE	下	G26	Ⅲ下	台石	完形	直方体状	(15.5)	(8.3)	(6.1)	(983.6)	硬砂岩	中生界	山形-岩泉	砥石の転用?
3642	GW	上1	M11	Ⅲ上	台石	3方向、裏面	方形状?	(14.0)	(15.5)	4.1	(1209.2)	デイサイト	中新統	二戸	

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	最大厚	最小厚	重量(g)	石質	時代	地域	分類	備考
909	N	内	K11住居跡	埋土中	砥石	(5.3)	(3.9)	(2.2)		(28.0)	安山岩(浴岩)	第四系	岩手火山?		
1142	N	内	H15柱穴状土坑14号	埋土中	砥石	(11.4)	(9.7)	5.6	4.0	(589.1)	凝灰質砂岩	中生界	普代-田野畑	楕円形	両面が大きく磨り減る、片面には細い溝が2条平行して磨られる
3592	GE	中	D25	Ⅲ下	砥石	(25.1)	(12.5)	5.1	3.6	(2440.0)	淡緑色凝灰岩	中生界	久慈-岩泉	長方形	片面が2条の溝と中央部が大きく凹む
3593	GE	上	B24	Ⅲ	砥石	(9.6)	(6.6)	2.7	1.5	(141.4)	デイサイト質凝灰岩	新第三系中新統	二戸	方形	3面にわたって断面U状の細い溝が12条見られる、縁辺が高いことから石皿の転用品
3594	GE	中	E26	Ⅲ下	砥石	(8.9)	(7.9)	(2.3)	(1.5)	(160.4)	デイサイト質凝灰岩	新第三系中新統	二戸	方形	両面が断面U状の溝が見られ片面は特に深い、石皿の転用品
3595	GE	上	B24	I	砥石					(866.5)	デイサイト	中新統	二戸	方形	
3596	GE	下	F27	Ⅲ下	砥石	(9.5)	(5.6)			(102.6)	デイサイト質凝灰岩	新第三系中新統	二戸	楕円形	小型の石皿の可能性有、片面は凹凸があり凹石としての利用も考えられる
3597	GW	上1	K9~M9	Ⅲ上	砥石	(9.2)	(12.5)	6.2	2.7	(594.9)	安山岩	中生界(白亜紀)	久慈-普代-田野畑	方形	片面凹凸として利用、大形の石器を研ぐために使用したものか?
3598	GW	中1	Q12	Ⅲ上	砥石	(10.7)	(7.3)	1.9	1.0	(150.9)	デイサイト質凝灰岩	新第三系中新統	二戸	方形	片面は石皿として使用された痕跡有、断面浅いU条溝2条磨られる

第85表 石器 (17) 凹石・砥石

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(m)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	分類	備考
912	N	内	K11住居跡伊	埋土中	敲石	(5.4)	(2.2)	(3.3)	(79.5)	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	全縁辺使用、1/2欠損
916	N	内	K11住居跡P P 54	埋土中	敲石				68.5	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	全縁辺使用、3/4欠損
931	N	内	G11住居跡状Q 2	埋土中(2)	敲石	5.9	5.9	3.2	202.6	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	全縁辺使用
938	N	内	F13住居跡	埋土中	敲石	5.0	5.1	1.7	63.0	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	先端部使用
960	N	内	D19住居跡	埋土中	敲石	17.0	5.3	1.6	240.0	チャート	中生界	折爪岳山塊	棒状	側縁使用
985	N	内	D23跡1号	埋土中	敲石	6.6	6.5	2.9	210.7	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	縁辺使用、1/2欠損
1072	N	内	J17土坑4号	埋土中	敲石	6.9	6.2	3.7	304.4	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	全縁辺使用
1083	N	内	K12土坑3号	埋土中	敲石	8.0	6.8	3.3	339.2	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	両先端部を使用
1085	N	内	L11土坑1号	埋土中	敲石	5.3	5.8	2.6	145.6	アルコース砂岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	先端部使用、1/2欠損
1086	N	内	L11土坑1号	埋土中	敲石	17.0	5.9	5.2	640.8	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	先端部使用、1/5欠損
1124	N	内	D14柱穴状土坑5号	埋土中	敲石	6.4	5.1	2.4	117.1	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	先端部を使用
1144	N	内	K13柱穴状土坑	埋土中	敲石	5.0	4.0	2.5	72.8	チャート	中生界	折爪岳山塊	楕円形状	両端使用
1152	N	内	M15溝跡	Ⅲ	敲石	5.6	6.1	3.3	175.3	花崗閃緑岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	両端使用
1153	N	内	M15溝跡	Ⅲ	敲石	10.2	6.2	2.6	222.9	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	側縁・側縁使用、1/2欠損
1154	N	内	M15溝跡	Ⅲ	敲石	6.4	6.0	4.6	273.3	デイサイト	中生界	久慈(夏井)	球形状	両端使用、磨り石転用品
1155	N	内	M15溝跡	Ⅲ	敲石				179.1	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	全縁辺使用
3588	G E	上	B25~D25ベルト	Ⅲ	敲石	8.5	7.2	3.1	335.1	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	両端使用
3569	G E	上	C26	Ⅲ上	敲石	6.2	6.2	5.8	404.6	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	球形状	全縁辺使用
3560	G E	上	C25	Ⅲ上	敲石	8.8	3.7	1.4	86.1	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3561	G E	上	D21	Ⅲ上	敲石	8.0	8.1	4.7	547.9	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	縁辺使用
3562	G E	中	D25	Ⅲ上	敲石	9.5	8.0	4.4	614.0	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	先端部使用、1/3欠損
3563	G E	上	E21	Ⅲ上	敲石	4.2	3.0	2.8	82.2	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3564	G E	中	E27	Ⅲ下	敲石	7.9	4.7	3.3	225.6	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3565	G E	中	E26	Ⅲ下	敲石	5.5	5.4	3.2	186.3	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	縁辺使用
3566	G E	中	E27	Ⅲ下	敲石	5.8	5.5	2.6	173.6	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	縁辺使用
3567	G E	中	F25	I	敲石	13.2	6.7	3.2	335.8	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	縁辺使用、1/4欠損
3568	G E	中	F25	Ⅲ上	敲石	10.0	7.5	4.5	535.5	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	両先端部使用
3569	G E	変	C23	Ⅲ下	敲石				233.2	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3570	G E	下	G26	Ⅲ上	敲石	9.0	6.8	4.1	407.7	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	両先端部使用、磨り石転用品
3571	G E	中	E24	Ⅲ中	敲石				330.6	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	球形状	両先端部使用
3572	G E	上	D22	Ⅲ上	敲石				85.4	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3573	G E	上	D23	Ⅲ中	敲石				546.5	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	球形状	縁辺使用
3574	G E	中	E24	Ⅲ下	敲石				397.0	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3575	G E	中	F24	Ⅲ下	敲石				301.7	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	球形状	縁辺使用、1/3欠損
3576	G E	中	E27	Ⅲ上	敲石				119.3	デイサイト	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3577	G E	中	F24	Ⅲ中	敲石				95.5	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	両先端部使用
3578	G E	下	F27~E26ベルト	Ⅲ	敲石				287.9	デイサイト	中生界	久慈(夏井)	球形状	先端部使用
3579	G W	上1	J6	I	敲石	5.3	2.5	2.3	47.8	デイサイト	中生界	久慈(夏井)	棒状	両端使用
3580	G W	中1	P12	I	敲石	5.2	2.4	2.2	46.3	泥岩・細粒砂岩互層	中生界	折爪岳山系		
3581	G W	上1	H8	I上	敲石	7.5	5.5	2.7	237.5	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	全縁辺使用
3582	G W	上2	N11	I~Ⅲ上	敲石	5.0	2.9	1.1	27.8	粘板岩	中生界	軽米-九戸-岩泉	楕円形状	縁辺部に敲打痕と擦痕有
3583	G W	上1	I9	I上	敲石	9.0	4.9	2.9	273.4	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	長楕円形状	先端部を使用
3584	G W	中1	Q12	Ⅲ上	敲石	6.0	6.2	5.4	347.6	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	球形状	全縁辺使用
3585	G W	中1	O11	Ⅲ上	敲石	9.0	7.2	4.0	530.4	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	両端使用
3586	G W	上1	H6	I	敲石	9.0	5.3	3.3	330.4	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	棒状	先端部を使用、1/3欠損
3587	G W	上1	I8	I	敲石	5.3	5.3	4.4	232.9	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	球形状	全縁辺使用
3588	G W	上2	P13	Ⅲ上	敲石	6.2	6.5	4.0	303.7	玄武岩質安山岩	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	全縁辺使用
3589	G W	上2	N13	Ⅲ上	敲石				88.7	デイサイト	中生界	久慈(夏井)	楕円形状	両先端部を使用
3590	G C	外	G20	Ⅲ	敲石	5.3	5.3	3.8	227.1	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	球形状	縁辺使用
3591	G C	外	H16	Ⅲ	敲石				497.8	粘板岩	中生界	久慈(夏井)	長楕円形状	両先端部を使用、磨り石転用品

第86表 石器 (18) 敲石

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	形態	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
941	N	内	F18住居跡1号P P17	埋土中	磨石	3/4欠損	楕円体	5.3)	(4.7)	4.7	(155.6)	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	表裏面が特に磨れる
961	N	内	C22住居跡1号	埋土中	磨石	完形	楕円体	8.7	7.1	5.0	441.6	安山岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれ、片面若干窪んでいる、凹石兼用
1040	N	内	G12土坑3号	埋土中	磨石	表面全域	球形?	6.4	5.2	4.9	223.0	花崗閃緑岩	中生界	久慈(夏井)	風化のため表面剥落
1041	N	内	G13土坑1号	埋土中	磨石	表面全域	楕円体?	8.2	5.5	4.0	259.1	花崗閃緑岩	中生界	久慈(夏井)	風化が激しいため計測不能
1054	N	内	H18土坑12号	埋土中	磨石	半分	楕円体	13.1	9.3	5.6	1035.6	安山岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている、接合部位有
1156	N	内	M15溝跡	埋土中	磨石	完形	楕円体	7.5	6.3	4.3	294.7	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている
1157	N	内	M15溝跡	埋土中	磨石	表皮1/3欠損	楕円体	7.8	4.9	3.1	120.3	花崗閃緑岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている、小型
1159	N	内	M15溝跡	埋土中	磨石	完形	直方体	9.7	6.9	5.5	506.5	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	4面磨かれている
3599	G E	上	C23	Ⅲ	磨石	1/3欠損	偏平半円状	13.7	7.5	2.5	380.2	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	縁辺部分が磨かれている、中期頃に見られる半円状打製石器に似ている
3600	G E	中	E27	Ⅲ下	磨石	1/9欠損	棒状三角形	(18.0)	(7.7)	7.6	(1162.7)	硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	石の側縁が磨かれている
3601	G E	中	D26	Ⅲ	磨石	完形	楕円体	11.7	9.9	3.7	690.2	安山岩	中生界	久慈(夏井)	両面磨きが見られる、石皿または台石に近い
3602	G E	中	G24	Ⅲ	磨石	完形	楕円体	7.2	6.1	4.1	238.8	安山岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている
3603	G E	上	D22	Ⅲ上	磨石	完形	楕円体	8.6	6.0	4.2	330.7	安山岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている
3604	G E	下	G26	Ⅲ	磨石	完形	楕円体	7.1	6.6	4.1	274.4	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれ、片面若干窪んでいる、凹石兼用
3605	G E	下	G26	Ⅲ下	磨石	完形	楕円体	8.5	7.2	3.9	339.6	安山岩	中生界	久慈(夏井)	表裏面が特に磨れている
3606	G W	上1	J9	I	磨石	完形	直方体	12.0	8.0	5.6	874.6	硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれ、両面一部若干窪んでいる、凹石兼用
3607	G W	上1	J8	Ⅲ	磨石	完形	楕円体	11.6	8.5	6.3	891.4	花崗閃緑岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている
3608	G W	上1	L13~Q13・N12	Ⅲ上	磨石	半分	楕円体?	11.9	9.2	6.8	1147.5	安山岩	中生界	久慈(夏井)	表裏面が特に磨れている、接合部位有
3609	G W	上1	M14	Ⅲ中	棒状磨り石	完形	棒状三角形	19.5	6.2	6.8	1234.4	硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	石の側縁が磨かれている
3610	G W	上1	J8	Ⅲ	磨石	完形	楕円体	11.4	8.5	6.0	861.9	花崗閃緑岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている
3611	G W	上2	P14	Ⅲ上	磨石	完形	棒状	7.9	1.9	1.3	31.1	硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	先端部に磨き有
3612	G W	上1	M14	Ⅲ中	棒状磨り石	完形	棒状三角形	23.1	9.1	5.5	1371.2	硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	石の側縁が磨かれる、反対側の側縁叩かれて欠けている
3613	G W	上1	K7	I中	磨石	完形	楕円体	11.2	7.3	5.3	727.3	花崗閃緑岩	中生界	久慈(夏井)	
3614	G W	中1	P12	Ⅲ上	磨石	半分	楕円体?	12.0	9.5	6.0	1071.8	安山岩	中生界	久慈(夏井)	表裏面が特に磨れている、接合部位有
3615	G C	外	F16	I	小型磨り石	完形	楕円体	5.6	4.4	3.7	124.1	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれている
3616	G C	外	F16	Ⅲ	磨石	完形	直方体	13.1	9.0	8.1	1422.1	凝灰質硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	全面磨かれ、両面窪んでいる、凹石兼用
3617	G C	外	H14	Ⅲ上	磨石	完形	楕円体	13.0	9.2	7.2	1239.7	硬砂岩	中生界	久慈(夏井)	

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
990	N	内	G11住居跡Q2	埋土中(2)	円盤状石器	3.1	3.4	0.6	8.2	流紋岩質細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
936	N	内	F12住居跡Q1	埋土上位	円盤状石器	3.3	3.0	0.6	7.8	流紋岩質細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
1080	N	内	K10土坑	埋土中	円盤状石器	4.2	4.2	0.8	19.5	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3688	G E	上	F21	Ⅲ	円盤状石器	7.5	6.5	2.9	230.4	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3689	G E	上	C26	I	円盤状石器	5.6	5.5	1.2	70.7	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3690	G E	中	E27	Ⅲ下	円盤状石器				422.2	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3691	G E	中	G24	I	円盤状石器				48.7	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3692	G W	上1	I10	Ⅲ上	円盤状石器	5.2	4.8	2.0	75.5	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3693	G W	上1	J10	Ⅲ中	円盤状石器	3.6	3.6	1.9	15.4	砂質粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3694	G W	上1	J13	I下	円盤状石器				64.6	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3695	G W	上1	M13	Ⅲ上	円盤状石器	4.5	4.3	0.8	16.8	流紋岩質細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
3696	G C	外	F13	I	円盤状石器	3.7	3.6	1.0	20.8	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3697	G W	上1	J9	I	三角形石製品	5.6	5.2	1.8	63.0	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3698	G W	上1	M13	Ⅲ上	三角形石製品	3.5	2.4	1.0	4.0	流紋岩質細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
3699	G C	外	M19	I下	三角形石製品	6.2	6.6	1.5	80.8	緑色凝灰岩	中生界	折爪岳山系	

第87表 石器(19) 磨石・円盤状石製品

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	分類	備考
911	N	内	K11住居跡	埋土中	石鍾				90.7	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
914	N	内	K11住居跡 P P 9	埋土中	石鍾				66.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
919	N	内	K11住居跡 P P 81	埋土中	石鍾	3.7	5.4	1.8	46.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
994	N	内	G15住居跡 Q 3	埋土中	石鍾	4.8	7.0	1.5	84.1	凝灰岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
999	N	内	C23焼土	埋土中	石鍾				118.3	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
998	N	内	E10土坑	埋土中(3)	石鍾	7.7	11.9	2.3	327.6	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
999	N	内	E10土坑	埋土中	石鍾				82.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1022	N	内	E26土坑	埋土中	石鍾	6.1	9.3	2.9	226.6	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1023	N	内	E26土坑	埋土中	石鍾	4.1	6.7	1.2	70.6	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1024	N	内	E26土坑	埋土中	石鍾				85.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1079	N	内	K10土坑	埋土中	石鍾				99.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1082	N	内	K12土坑1号	埋土中	石鍾	4.4	7.9	1.5	75.9	粘板岩	中生界	折爪岳山系	棒状	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1087	N	内	L11土坑1号	埋土中	石鍾				64.9	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1088	N	内	L11土坑4号	埋土中	石鍾	5.1	7.3	1.7	92.3	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1092	N	内	L12土坑1号	埋土中	石鍾	4.8	6.3	1.4	70.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
1096	N	内	L12土坑2号	埋土中	石鍾	6.9	8.7	2.1	195.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3477	G E	下	G25	Ⅲ	石鍾	5.3	8.1	1.3	97.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3478	G E	上	C23	Ⅲ下	石鍾	6.3	8.3	2.5	177.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3479	G E	上	C23	Ⅲ下	石鍾	11.8	5.8	2.1	224.9	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3480	G E	中	E24	Ⅲ	石鍾	5.3	7.3	1.2	66.6	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3481	G E	中	D25	Ⅲ上	石鍾	6.1	7.9	2.0	138.9	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3482	G E	中	E24	Ⅲ中	石鍾	4.0	7.3	1.5	78.9	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3483	G E	中	E26	Ⅲ下	石鍾	7.3	11.3	2.2	302.9	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3484	G E	中	F25	Ⅲ上	石鍾	4.0	7.0	1.4	49.3	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3485	G E	中	F25	Ⅲ下	石鍾	5.6	8.9	1.9	135.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3486	G E	中	F26	I	石鍾	2.6	3.3	0.6	7.3	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている、メノウ製
3487	G E	下	H25	Ⅲ下	石鍾	6.7	9.5	2.4	261.3	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3488	G E	中	F26	Ⅲ中	石鍾	6.6	8.9	2.4	240.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3489	G E	上	E23	Ⅲ	石鍾				113.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3490	G E	上	B24	Ⅲ	石鍾				69.8	凝灰岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3491	G E	上	C23	Ⅲ	石鍾				75.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3492	G E	上	D24	Ⅲ上	石鍾				75.2	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3493	G E	中	D26	Ⅲ	石鍾				78.8	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3494	G E	中	D26	I	石鍾				74.8	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3495	G E	中	D26	Ⅲ下	石鍾				174.8	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3496	G E	中	E24	Ⅲ下	石鍾				55.4	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3497	G E	中	G25	Ⅲ上	石鍾				49.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3498	G E	中	F25	Ⅲ上	石鍾				75.2	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3499	G E	中	F25	Ⅲ中	石鍾				82.5	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3500	G E	中	G25	Ⅲ上	石鍾				187.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3501	G E	下	G25	Ⅲ下	石鍾				207.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3502	G E	中	F27	Ⅲ上	石鍾	6.1	9.4	2.5	228.1	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3503	G E	中	F25	I	石鍾	6.0	8.2	1.4	101.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3504	G E	中	E25	Ⅲ下	石鍾				78.3	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3505	G E	中	F25	Ⅲ下	石鍾				115.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3506	G E	中	F25	Ⅲ下	石鍾				32.9	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3507	G E	上	C24	Ⅲ	石鍾	11.3	4.2	1.3	96.7	粘板岩	中生界	折爪岳山系	棒状	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3508	G E	上	C23	I	石鍾				73.8	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	棒状	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3509	G E	中	E24	Ⅲ下	石鍾				178.3	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	棒状	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3510	G E	下	F27	Ⅲ下	石鍾	6.9	7.3	2.2	157.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	円盤状	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3511	G W	上1	I 3	I	石鍾	4.9	6.2	1.4	68.1	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3512	G W	上1	J 7	Ⅲ	石鍾	4.3	8.6	1.3	76.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3513	G W	上1	L10	Ⅲ上	石鍾	5.1	6.8	0.9	49.8	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3514	G W	中1	Q12	Ⅲ上	石鍾	1.7	3.7	0.5	5.3	凝灰岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3515	G W	上2	O13	Ⅲ上	石鍾	4.1	5.4	1.1	36.2	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3516	G W	上2	O14	Ⅲ上	石鍾	4.3	7.8	1.7	88.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3517	G W	上2	N13	Ⅲ上~下	石鍾	3.6	5.7	1.3	36.6	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3518	G W	上1	J 8	Ⅲ中	石鍾				134.2	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3519	G W	上1	K 8	I	石鍾				87.7	粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3520	G W	上1	I 7	I	石鍾				115.8	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3521	G W	上1	K11	Ⅲ上	石鍾				27.8	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3522	G W	上1	L 8	Ⅲ上	石鍾				166.6	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3523	G W	上1	K 8ベルト・K 9	Ⅲ上	石鍾				366.6	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3524	G W	上1	K10	Ⅲ上	石鍾				120.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3525	G W	上1	L11	Ⅲ上	石鍾				80.1	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3526	G W	上2	N13	Ⅲ上	石鍾				61.8	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3527	G W	中1	P12	Ⅲ上	石鍾				71.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3528	G W	上1	L11~12	Ⅲ上	石鍾				8.8	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3529	G W	上2	P13	Ⅲ上	石鍾				63.5	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3530	G W	上2	P14	Ⅲ上	石鍾				80.1	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3531	G W	上1	K 7	I	石鍾	5.7	6.8	1.7	85.0	粘板岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部と下側2箇所を打ち欠いている
3532	G W	上1	L10	Ⅲ上	石鍾	5.3	7.2	1.8	84.6	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3533	G W	上1	M11	Ⅲ上	石鍾				70.7	粘板岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3534	G W	上1	I 9	I	石鍾	3.1	8.1	1.8	66.6	粘板岩	中生界	折爪岳山系	棒状	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3535	G W	上2	P15	Ⅲ上	石鍾	4.3	8.9	2.5	143.0	凝灰岩	中生界	折爪岳山系	棒状	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3536	G W	上1	N14	Ⅲ上	石鍾	6.9	7.3	2.6	191.0	チャート質粘板岩	中生界	折爪岳山系	方形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3537	G C	外	H14	Ⅲ	石鍾	7.0	10.0	2.1	246.7	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山塊	分銅型	短軸側の両端中央部を打ち欠いている
3538	G C	外	I10	I	石鍾	6.0	7.3	2.4	143.0	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	三角形	短軸側の両端中央部を打ち欠いている

第88表 石器 (20) 石鍾

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
1160	N	内	C 28旧沢跡	埋土中	ペンダント	4.1	3.7	0.6	14.6	硬砂岩	中生界	大野-種市-久慈(海浜礫)	
3759	GE	上	D 23	Ⅲ上	ペンダント	4.5	1.9	0.5	8.1	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3760	GE	中	D 26	Ⅲ	ペンダント	2.9	1.7	0.8	5.6	硬砂岩	中生界	大野-種市-久慈(海浜礫)	
3761	GW	上1	M 11	Ⅲ上	ペンダント	5.0	3.1	1.1	16.3	流紋岩質極細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3762	GW	上1	I 9	Ⅲ	ペンダント	5.5	2.1	1.0	11.9	流紋岩質極細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3763	GW	上1	L 8	Ⅲ上	ペンダント	3.7	2.7	0.6	5.6	流紋岩質極細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3764	GW	上1	K 9	Ⅲ上	ペンダント	3.7	3.8	1.0	19.3	流紋岩質極細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3765	GW	上2	P 14	Ⅲ	ペンダント	2.2	1.5	0.5	1.7	流紋岩質極細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3774	GW	上1	K 9	Ⅲ上	石製未製品	4.6	2.3	1.2	16.8	滑石		段丘堆積物	不明
3775	GW	上1	L 13~Q 13・O 12	Ⅲ上	石製未製品	3.4	4.0	1.4	26.9	チャート		段丘砂礫層~浜石	軽米
3776	GW	上1	K 8	Ⅲ	石製未製品	3.1	1.4	0.7	3.0	軽石		第四系(段丘堆積物)	軽米
3777	GW	中1	O 11	Ⅲ上	石製未製品				1.5	軽石		第四系(段丘堆積物)	軽米
3778	GC	外	第7トレンチ北側	I下	石製未製品	2.5	1.9	0.9	6.3	緑色凝灰岩		中生界起源(段丘砂礫層~旧浜石)	軽米

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
962	N	内	C 23住居跡状1号	埋土中	石刀	身~先端	(9.3)	4.3	1.7	(93.2)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
1020	N	内	E 26土坑	埋土中	石剣	身~先端	(7.3)	2.6	(2.0)	(64.7)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
1151	N	内	M 15溝跡	埋土中	石剣	柄と先端	(18.2)	3.2	2.5	(253.6)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3658	GE	中	F 25	Ⅲ中	石刀	身~先端	(7.5)	2.2	0.6	(15.6)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3659	GE	中	D 27	Ⅲ	石刀	身~先端	(16.6)	4.3	2.9	(310.3)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3660	GE	中	F 24	Ⅲ下	石刀	身~先端	(2.0)	3.8	1.4	(199.4)	砂質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3661	GE	中	E 25	Ⅲ(再堆積層)	石剣	柄と身~先端、片側	(24.2)	4.3	(2.3)	(464.3)	ホルンフェルス	中生界	軽米-大野	
3662	GE	中	F 25	Ⅲ下	石刀	身~先端	(15.2)	4.7	2.8	(282.0)	ホルンフェルス	中生界	軽米-大野	
3663	GE	変	C 24	Ⅲ下	石刀	柄と身~先端	(13.9)	4.3	1.3	(120.2)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3664	GE	下	G 25~H 25	Ⅲ	石刀	身~柄	(6.7)	2.9	9.0	(22.4)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3665	GE	変	C 25	Ⅲ中	石剣	身~柄	(8.5)	1.8	1.3	(27.7)	砂質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3666	GE	中	F 25	Ⅲ中	石刀	身~先端	(18.0)	3.6	1.7	(168.0)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3667	GE	下	H 25	Ⅲ	石剣	身~柄	(14.5)	2.0	1.4	(62.7)	砂質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	先端尖る
3668	GE	中	E 23	Ⅲ下	石刀	身~柄	(14.9)	2.2	0.7	(42.7)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3669	GE	変	E 23	I	石刀	身~先端	(6.8)	1.9	0.9	(18.5)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3670	GE	上	C 25	I	石刀	身~柄	(6.2)	2.8	1.2	(29.6)	石灰岩質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3671	GW	上1	L 12	Ⅲ上	石刀	柄と先端	(18.8)	2.2	1.1	(72.9)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	側縁に溝有、接合部位有
3672	GW	上2	L 13~Q 13ベルト・O 12	Ⅲ上	石剣	身~先端	(17.9)	5.0	1.8	(221.0)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3673	GW	上1	K 10	I	石剣	身~先端	(17.0)	3.5	2.6	(288.1)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3674	GW	上1	L 10	Ⅲ上	石剣	柄と先端	(22.0)	2.8	2.1	(243.2)	ホルンフェルス	中生界	軽米-大野	
3675	GW	上2	P 12	Ⅲ上	石剣	身~先端、片側	(14.7)	(4.8)	(3.5)	(425.7)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3676	GW	上1	J 10	Ⅲ	石剣	身~先端	(15.8)	2.4	1.3	(89.0)	凝灰岩質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	接合部位有
3677	GW	上1	L 9	Ⅲ上	石刀	柄と先端	(12.6)	2.3	0.9	(48.8)	砂質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3678	GW	上1	L 3	Ⅲ上	石剣	身~先端	(11.8)	2.9	2.3	(141.2)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	2条の沈線が巡る
3679	GW	上1	J 10	Ⅲ上	石刀	身~先端	(7.5)	4.5	(1.1)		砂質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	
3680	GW	上1	N 15	Ⅲ上	石剣	身~先端、片側	(8.2)	3.8	(1.8)	(72.2)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	柄部丸く仕上げられ1条の沈線が巡る
3681	GW	中1	M 9	I	石剣	柄と先端	(10.3)	4.1	1.6	(73.0)	珪化木	中生界	種市海岸	接合部位有
3682	GW	上1	I 5	I下	石刀	身~先端、片側	(7.1)	3.2	(1.0)		砂質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	沈線が巡る
3683	GW	中1	N 10	Ⅲ上	石刀	身~先端、片側	(4.6)	(3.0)		(13.6)	粘板岩	中生界	折爪岳山系	沈線が巡る
3684	GW	上2	N 13	I	石刀	身~先端、片側	(6.1)	3.6		(33.0)	砂質粘板岩	中生界	軽米(折爪岳山塊)	

第89表 石器(21) ペンダント・石製未製品・石刀・石剣

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	形態	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
3685	GE	中	F 27~E 26	Ⅲ	石棒	棒状	26.3	6.5	5.0	1542.7	安山岩	中生界	種市-久慈	
3686	GW	上2	P 13	Ⅲ上	石棒	棒状	(21.1)	11.7	9.2	2880.6	流紋岩	古第三系	久慈-浄土ヶ浜	接合部位有
3687	GW	上2	O 14	Ⅲ上	石棒	棒状	5.7	1.2	0.8	8.4	粘板岩	中生界	折爪岳山系	ミニチュア

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
3643	GE	下	F 27	Ⅲ中・下	礫器	13.3	7.0	4.4	526.2	硬砂岩	中生界		
3644	GE	中	F 25	I	礫器				328.4	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	
3645	GE	中	D 25	Ⅲ下	礫器				488.8	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	
3646	GW	上1	M 13	Ⅲ上	礫器	18.2	8.9	2.9	616.0	砂質粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3647	GW	上1	H 7	I 上	礫器	11.3	7.7	2.6	320.4	斑礫岩	中生界	大野-種市-久慈	
3648	GW	中1	N 10	Ⅲ上	礫器	(21.0)	9.3	4.6	(946.6)	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	
3649	GC	外	F 15	I	礫器	6.7	12.5	3.8	362.2	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	
3650	GC	外	I 15	I	礫器				412.1	硬砂岩	中生界	折爪岳山系	
3655	GW	上1	K 11	Ⅲ上	三角柱状石製品	11.1	6.1	6.3	688.2	アルコース砂岩	中生界	折爪岳山系	
3656	GW	上1	K 8	Ⅲ上	三角柱状石製品	10.9	3.7	5.8	371.8	細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
3657	GW	上1	K 10	Ⅲ上	三角柱状石製品	9.4	3.8	6.3	320.3	凝灰岩質硬砂岩	中生界	折爪岳山系	

掲載番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	石質	時代	地域	備考
910	N	内	K 11住居跡入口(土坑)	埋土中	未製品(コア)	(8.6)	8.3	3.2	362.0	硬砂岩	中生界	大野-種市-久慈 (南浜礫)	
1089	N	内	L 11土坑 4号	埋土中	刻線礫				32.6	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
1111	N	内	M 14土坑 1号	埋土中	刻線礫				280.4	安山岩	新第三系中新統	二戸	
1150	N	内	E 19集石	埋土中	大型石器	14.2	8.2	1.3	195.5	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3651	GE	中	E 26	Ⅲ	岩偶	6.4	4.4	3.6	131.4	砂岩	中生界	折爪岳山系	
3652	GE	上	第12トレンチ	Ⅲ	岩偶	2.3	2.9	2.0	13.1	軽石質凝灰岩	新第三系	二戸	
3653	GW	上1	L 9	Ⅲ上	岩偶?	3.7	3.4	1.6	18.3	軽石質細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3654	GW	上2	O 12	Ⅲ上	岩偶	7.6	5.6	1.4	88.1	赤褐色凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
3700	GE	中	E 24	Ⅲ下	有孔石製品	11.1	6.3	3.7	215.5	流紋岩質極細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3701	GE	下	G 26	I 下	有孔石製品	7.5	4.7	2.6	69.5	珪質細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
3702	GE	上	D 21	Ⅲ上	有孔石製品	7.2	6.3	1.3	73.6	粘板岩	中生界	折爪岳山系	接合部位有
3703	GE	中	E 24	Ⅲ上	有孔石製品	5.7	5.2	1.8	84.1	粘板岩	中生界	折爪岳山系	
3704	GE	中	E 24	Ⅲ中~下	有孔石製品				116.6	珪質細粒凝灰岩	中生界	折爪岳山系	
3766	GE	中	E 26	Ⅲ	刻線礫				44.9	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3767	GW	上2	O 15	Ⅲ上	刻線礫	10.5	4.1	9.5	41.6	緑色凝灰岩	中生界		
3768	GW	上1	I 9南北ベルト	Ⅲ上	刻線礫	3.9	3.4	1.2	11.1	軽石質細粒凝灰岩	新第三系	折爪岳山塊	
3769	GW	上2	N 14~Q 14	Ⅲ上	刻線礫				30.2	軽石質細粒凝灰岩	新第三系	二戸	
3770	GW	上1	I 7	I 中	刻線礫				11.9	安山岩	新第三系中新統	折爪岳山塊	
3771	GW	上1	I 8	Ⅲ上	刻線礫				55.7	粘板岩	中生界	二戸	
3772	GW	上1	G 6	I 上	刻線礫				381.5	粘板岩	中生界	折爪岳山塊	
3773	GW	上2	O 12	Ⅲ上	ブリッチ状石製品	3.5	(2.6)	0.6	3.8				

第90表 石器 (22) 石棒・礫器・三角状石製品・刻線礫・岩偶・有孔石製品

規程番号	出土地域	斜面	出土地点	層位	器種名	欠損部位	長さ(cm)	幅	厚さ	重量(g)	地域	備考
948	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	有孔軽石	完形	(1.7)	2.1	0.8	(0.7)	楕円形状	
949	N	内	E15住居跡状1号	埋土中	有孔軽石	完形	5.7	4.0	1.5	5.1	方形形状	2ヶ所に孔が開けられている、板状
990	N	内	C23焼土	埋土中	軽石	完形	5.6	3.7	2.2	11.7	楕円形状	
1109	N	内	M12土坑	埋土中	有孔軽石	右側縁?	(5.3)	(5.8)	2.0	(11.1)	方形形状?	板状
1120	N	内	C19柱状土坑3号	埋土中	有孔軽石	裏面と下側	(4.7)	(3.7)	1.4	(6.6)	楕円形状	使用中に孔の上部が欠けたようである、板状
1129	N	内	E15柱状土坑10号	埋土中	有孔軽石	頭部	(6.0)	4.2	2.7	(17.1)	楕円形状	板状製作上若しくは使用中に欠けたと思われる
3706	G E	上	第12トレンチ	Ⅲ	有孔軽石	完形	10.0	7.3	2.5	61.1	長方形形状	板状
3706	G E	中	F 26	Ⅲ中	有孔軽石	上部	(5.0)	3.8	1.7	(4.9)	楕円形状	使用中に孔の上部が欠けたようである
3707	G E	下	H 26	Ⅲ上	有孔軽石	下側	3.1	3.1	0.9	2.3	長方形形状	薄い板状
3708	G E	中	E 24	Ⅲ上	有孔軽石	完形	7.4	6.3	1.9	20.1	方形	中央部が窪んでいる、板状
3709	G E	中	E 25	Ⅲ	有孔軽石	完形	8.0	4.2	1.1	7.0	楕円形状	板状
3710	G E	中	F 26	Ⅲ中	有孔軽石	完形	5.4	5.5	1.8	14.8	方形形状	板状
3711	G E	中	F 25	Ⅲ上	有孔軽石	右下	(5.7)	5.3	1.2	(6.6)	楕円形状	板状
3712	G E	中	F 24	Ⅲ中	軽石	下半部	(5.1)	5.6	1.8	(11.3)	楕円形状	厚みがあり両面が擦り減っている
3713	G E	中	F 27	Ⅲ上	軽石	下半部	(3.7)	4.4	1.3	(2.8)	楕円形状	薄い板状
3714	G E	変	D 23	Ⅲ下	有孔軽石	完形	(10.3)	7.7	4.2	(75.0)	かまぼこ状	半円状
3715	G E	中	E 24	Ⅲ中	軽石	左側縁	(9.1)	(3.7)	1.8	(14.4)	楕円形状	全面を擦っている
3716	G E	変	C 23~D 25	Ⅲ(3c)	軽石	完形	4.0	2.7	1.6	4.8	楕円形状	未製品?
3717	G E	変	C 24	Ⅲ下	軽石	頭部	(3.9)	3.9	1.6	(6.3)	台形状	
3718	G E	上	第9トレンチ	Ⅲ	軽石	下半部	(7.0)	5.2	2.4	(21.6)	楕円形状	
3719	G E	中	E 24	Ⅲ中	有孔軽石	完形	6.5	5.6	2.1	15.8	台形状	厚みのある板状、沈線が一条見られる
3720	G E	中	E 25	Ⅲ下	有孔軽石	完形	8.2	4.5	3.5	20.9	かまぼこ状	半円状
3721	G E	下	H 25~I 25	Ⅲ	軽石	完形	7.4	5.9	2.3	33.3	楕円形状	皿状、片面中央部が窪んでいる
3722	G E	中	F 26	Ⅲ中	有孔軽石	下側	(10.5)	5.8	3.9	(63.9)	角柱状	厚みのある板状
3723	G E	中	F 25	Ⅲ中	軽石	右半分	7.3	3.8	1.4	8.4	楕円形状	板状、両面中央が強く窪んでいる
3724	G E	変	C 23~D 25	Ⅲ(3c)	有孔軽石	下側	(4.2)	3.6	0.9	(3.7)	楕円形状	板状
3725	G E	中	D 24	Ⅲ下	有孔軽石	完形	8.2	7.5	2.9	31.4	三角形形状	厚みのある板状、下側中央部に切り込みがあり、土偶のように見える
3726	G E	中	G 24	Ⅲ中	軽石	半分	(8.7)	7.9	2.3	(29.4)	楕円形状	板状、両面中央が窪んでいる
3727	G E	中	G 25	Ⅲ上	有孔軽石	左側縁と右側縁	5.3	2.9	1.1	5.3	方形形状	板状
3728	G E	中	D 25	Ⅲ(3c)	軽石	下半部	(4.6)	3.8	2.0	(7.6)	楕円形状	全面を擦っている
3729	G E	変	C 26	Ⅲ中	軽石	下半部	(5.9)	4.7	1.9	(9.8)	楕円形状	全面を擦っている
3730	G E	上	B 24	Ⅲ	有孔軽石	頭部・下半部	(7.3)	6.4	3.1	(29.2)	楕円形状	製作上若しくは使用中に欠けたと思われる
3731	G E	下	G 25	Ⅲ中	有孔軽石	下半部	(9.2)	4.5	2.2	(35.3)	楕円形状	孔が途中でまじか穿たれていない、片側に痕跡有
3732	G E	変	C 25	Ⅲ下	有孔軽石	完形	6.3	7.5	2.5	29.6	半円状	厚みのある板状
3733	G E	中	E 25	Ⅲ	軽石		(5.8)	3.4	1.4			
3734	G E	中	E 24	Ⅲ上	軽石	完形	6.2	7.2	2.0	32.5	方形形状	板状、両面中央が窪んでいる
3735	G E	中	E 25	Ⅲ下	軽石	下半部	7.5	5.9	2.2	24.9	三角形形状	裏面が擦り減って若干窪んでいる
3736	G E	変	C 24	Ⅲ下	有孔軽石	左側縁	4.3	(3.1)	0.7	(1.5)	楕円形状	薄い板状
3737	G E	変	C 24	Ⅲ下	有孔軽石	左側縁と右側縁	(6.1)	(3.7)	1.4	(8.6)	楕円形状	製作時に壊れたものと思われる
3738	G E	中	E 24	Ⅲ中	有孔軽石	完形	(3.5)	4.7	1.8	(6.1)	楕円形状	孔が途中でまじか穿たれていない、片側に痕跡有
3739	G E	変	D 24	Ⅲ上	軽石	下半部	(5.8)	6.0	2.1	(15.0)	台形状	厚みのある板状
3740	G E	上	B 23	Ⅲ	軽石	右下側縁	9.3	5.6	1.6	11.3	長方形形状	両面中央が窪んでいる
3741	G E	変	C 24	Ⅲ下	軽石	下半部	(3.5)	2.9	2.0	(3.6)	楕円形状	全面を擦っている
3742	G E	中	E 24	Ⅲ中	軽石	下半部	(4.2)	5.1	1.4	(11.4)	方形形状	両面が擦られている
3743	G E	中	D 25	Ⅲ	軽石		2.4	4.0	2.2	5.3		
3744	G W	中1	N 10	Ⅲ上	有孔軽石	右側縁?	4.3	2.8	1.1	4.4	方形形状	制作時に壊れたものと思われる、板状
3745	G W	上1	L 11	Ⅲ上	有孔軽石	下半分	(4.7)	5.0	2.1	(7.8)	楕円形状	厚みのある板状
3746	G W	上1	L 8	Ⅲ上	有孔軽石	完形	4.5	3.6	1.7	3.2	楕円形状	南部浮石に孔を開けたもの
3747	G W	中1	P 12	Ⅲ上	有孔軽石	完形	7.8	5.6	1.9	23.0	三角柱状	厚みのある板状、沈線が一条見られる
3748	G W	上1	J 9	Ⅲ上	有孔軽石	左半分	(5.4)	(3.0)	1.3	(3.9)	長方形形状	板状
3749	G W	上1	K 10	Ⅲ上	有孔軽石	完形	(9.5)	3.6	2.8	(25.9)	三角柱状	角柱状
3750	G W	上2	P 13	Ⅲ上	有孔軽石	左半分	(5.2)	(6.2)	1.6	(9.8)	長方形形状	板状
3751	G W	上1	I 7	Ⅲ中	有孔軽石	完形	7.2	3.3	2.2	13.6	三角柱状	角柱状
3752	G W	上1	N 14	Ⅲ中	有孔軽石	下半分	(4.6)	4.4	1.7	(5.1)	楕円形状	厚みのある板状
3753	G W	上1	J 9	Ⅲ上	軽石	下半部	(3.5)	4.2	1.3	(3.2)	楕円形状	薄い板状
3754	G W	上1	I 7	Ⅲ中	軽石	下半部	(8.0)	4.3	3.0	(22.8)	楕円形状	片側が擦り減っている
3755	G W	上1	J 10	I	軽石	左側縁~下半部	(6.1)	(6.9)	2.7	(28.2)	楕円形状	片面が窪んでいる
3756	G W	上2	Q 13	Ⅲ上	軽石	下側	(4.3)	4.7	1.2	(4.4)	楕円形状	両面が擦られ、断面形が凸上である
3757	G W	上2	P 13	Ⅲ上	軽石	頭部・右側~下側	(5.6)	(5.0)	1.6	(10.9)	楕円形状	両面が擦られ、断面形が凸上である
3758	G C	G C	E 20~F 20	Ⅲ	軽石	一側縁	9.4	9.4	3.0	72.2	方形形状	皿状、片面中央部が窪んでいる

第91表 石器 (23) 軽石製品

報 告 書 抄 録

ふりがな	ながくらいちいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	長倉 I 遺跡発掘調査報告書							
副書名	広域農道整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 336 集							
編著者名	星 雅之、中川 重紀							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001・9002							
発行年月日	西暦2000年3月10日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調査面積	調 査 原 因
		市町村	遺跡番号					
ながくらいちいせき 長倉 I 遺跡	いわてけんくのへぐん 岩手県九戸郡 かるまいちうおおあぎ 軽米町大字 ながくらあざいっばんぎ 長倉字一本木 10-1	03501	IF 63- 2309	40° 21' 28"	141° 29' 33"	19940701~ 19941110 19950411~ 19950831 19960416~ 19961108	1000㎡ 1004㎡ 1342㎡	広域農道整備に伴う緊急調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
長倉 I 遺跡	集落	縄文時代	住居跡・住居跡状 掘立柱建物跡 炉跡 焼土 土坑 柱穴状土坑 柱穴列 集石 立石 溝状遺構 古地震跡 捨て場 2カ所	30棟 15棟 4基 6基 452基 436基 1条 1基 1基 1基 1カ所	縄文時代早・前・後 晩期土器 550箱 (後期初頭~晩期前 葉主体) 弥生土器 土製品 2324点(土 偶、イモ貝、飾り玉 など) 石器・石製品 5330 点	・後~晩期の大規模な捨て場が2カ所 ・晩期大形住居跡 ・晩期掘立柱建物跡群		

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所長	佐藤基		
副所長	伊藤直司		
〔管理課〕			
課長	川浪清徳	嘱託	藤島恵子
主任査事	立花多加志	〃	新田トヨ
	日影睦夫	〃	佐々木光重
〔調査第一課〕		〔調査第二課〕	
課長	小田野哲憲	課長	高橋與右衛門
課長補佐	佐々木清文	課長補佐	中川重紀
主任文化財専門調査員	酒井宗孝	主任文化財専門調査員	高橋義介
〃	小山内透	文化財専門調査員	古館貞身
文化財専門調査員	中田迪	〃	阿部眞澄
〃	吉田充	〃	松尾芳幸
〃	鎌田勉	〃	小原眞一
〃	小笠原健一郎	〃	工藤徹
〃	鳥居達人	〃	前田稔
〃	濱田宏	〃	金子佐知子
〃	佐々木進悦	〃	岩淵計
〃	安藤由紀夫	〃	早坂悟
〃	木戸口俊子	〃	佐々木務
〃	小野寺正之	〃	晴山雅光
〃	阿部勝則	〃	星雅之
〃	千葉正彦	〃	佐々木琢
〃	羽柴直人	〃	杉沢昭太郎
〃	高木晃一	〃	溜浩二郎
〃	佐藤淳一	〃	北村忠昭
〃	菅原靖男	〃	金子昭彦
〃	半澤武彦	期限付職員	鈴木聡
〃	朝倉雄大	〃	平澤里香
〃	菊池貴広	〃	布谷義彦
〃	村上拓	〃	山口俊規
〃	本多準一郎	〃	熊谷佳恵
〃	中村直美	〃	吉田里和
〃	丸山浩治	〃	藤原賢徳
期限付専門職員	佐藤綾子	〃	吉川徹
〃	平めぐみ		
〃	北田勲		
〃	江藤敦		
〃	小林弘卓		
〃	小原広幸		

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第336集

長倉 I 遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業関連遺跡発掘調査

第 1 分冊

印刷 平成12年 3 月 3 日

発行 平成12年 3 月10日

発 行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL (019) 638-9001

FAX (019) 638-8563

印 刷 株式会社 熊谷印刷

〒020-0066 盛岡市上田一丁目 6-49

TEL (019) 653-4151

